QlikView での作業

QlikView®
September 2026
Copyright © 1993-2020 QlikTech International AB. All rights reserved.

© 2026 QlikTech International AB. All rights reserved. All company and/or product names may be trade names, trademarks and/or registered trademarks of the respective owners with which they are associated.

Contents

1 QlikView の概要 26
2 QlikView Desktop 27
2.1 QlikView Desktop のシステム要件 27
Qlik NPrinting 互換性 27
2.2 QlikView Desktop のインストール 28
QlikView インストール パッケージ 28
QlikView デスクトップのインストール プログラムの実行 28
シリアル化 29
QlikView のネットワーク配布 29
ライセンス認証ファイル エディタ 29
サイレント インストール 30
サイレント アンインストール 31
2.3 QlikView Personal Edition 31
2.4 対応している言語 32
インストール後のインターフェース言語の変更 33
AJAX とWebView の言語設定変更 33
2.5 QlikView Desktop のアップグレードと更新 33
要件 33
QlikView Desktop のアップグレード 33
QlikView Desktop の更新 34
3 QlikView の起動 35
3.1 コマンド ライン構文 35
スイッチ 35
3.2 スタート ページ 36
3.3 サーバーへ接続 37
接続の設定 38
接続用疑似 URL 38
3.4 バッチの実行 39
QlikView Server 39
QlikView Publisher 39
スケジュール プログラム 39
スケジュール サービス 39
ODBC 40
3.5 OLE DB とODBC 40
OLE DB 40
ODBC インターフェースが必要となる場合 40
ODBC データ ソースの作成 41
4 QlikView ファイル 42
4.1 QlikView プロジェクト ファイル 42
プロジェクト フォルダ内のファイル 42
4.2 ソース管理 43
4.3 内部ファイル 44
QlikView レイアウトでのファイル参照 44
QlikView ドキュメントの内部ファイル 44
QlikView プログラム ファイルの内部ファイル 44
サウンド 45

4.4 QlikView ドキュメントの取得 46
外部からの QlikView ドキュメントへのアクセス 46
内部マクロインタープリタからの QV ドキュメントへのアクセス 46
5 新規作成ウィザード 47
5.1 新規作成ウィザードの起動 47
5.2 ステップ 1 - データソースの選択 47
5.3 ステップ 2 - データのプレゼンテーション 47
5.4 ステップ 3 - ファイルの保存 47
5.5 ステップ 4 - チャートの種類の選択 48
5.6 ステップ 5 - チャートの自動入力 48
軸 48
数式 48
5.7 ステップ 6 - 選択を行うためにオブジェクトを追加 48
6 ユーザーインターフェースの操作 50
6.1 メニューコマンド 50
[ファイル] メニュー 50
[編集] メニュー 52
[表示] メニュー 53
[選択] メニュー 54
[レイアウト] メニュー 55
[設定] メニュー 57
[ブックマーク] メニュー 57
レポートメニュー 58
[ツール] メニュー 58
[ウィンドウ] メニュー 58
[ヘルプ] メニュー 59
6.2 ユーザープロパティ: 基本設定 60
ユーザープロパティ: (基本設定) 61
ユーザープロパティ: 保存 63
ユーザープロパティ: エディタ 64
ユーザープロパティ: 設計 66
ユーザープロパティ: オブジェクト 67
ユーザープロパティ: エクスポート 68
ユーザープロパティ: 印刷 70
ユーザー設定: メール 70
ユーザープロパティ: 場所 72
ユーザープロパティ: セキュリティ 73
ユーザープロパティ: ライセンス 73
6.3 ツールバーとステータスバー 74
ツールバー 74
標準ツールバー 74
ナビゲーションツールバー 75
デザインツールバー 76
シートツールバー 79
ブックマークツールバー 79
ユーザー設定 (ツールバー) 79
ステータスバー 81

6.4 [ロード スクリプトの編集] ダイアログ ... 81
[ロード スクリプトの編集] ダイアログの メニュー ... 82
[ロード スクリプトの編集] ダイアログのパネル ... 86
Set ステートメント ウィザード ... 89
検索/置換 (ロード スクリプト) ... 89
スクリプトへのコメント入力 ... 90
隠しスクリプト ... 90
テーブル ビューアー ... 91
データ リンク プロパティ ... 93
データ ソースへの接続 ... 94
Select ステートメントの作成 ... 95
ファイルを開く ... 97
インターネット ファイル/QlikView ドキュメントを開く ... 97
インライン データ ウィザード ... 98
アクセス制限 テーブル ウィザード ... 99
ファイル ウィザード ... 99
6.5 [変数一覧] ダイアログ ... 113
6.6 [数式の編集] ダイアログ ... 114
数式の記述 ... 114
数式 タブ オプション ... 114
数式の編集 メニュー オプション ... 116
配色 ウィザード ... 117
6.7 数式一覧 ... 118
6.8 サーバー オブジェクト パネル ... 120
パネルの設定 ... 120
共有 オブジェクト ... 120
オブジェクトの追加と共有 ... 120
6.9 エクスポートと印刷 ... 121
印刷: 基本設定 ... 121
印刷: レイアウト ... 122
印刷: ヘッダー/フッター ... 123
印刷 オプション: 日付と時刻 ... 124
シートの印刷 ... 124
印刷プレビュー ... 125
コピー モード ... 125
Excel 出力 ... 126
エクスポート/内容をエクスポート ... 126
6.10 カスタム エラー メッセージ ... 126
6.11 キーボード コマンド ショートカット ... 127
[ファイル] メニュー コマンドのショートカット ... 127
[編集] メニュー コマンドのショートカット ... 128
[表示] メニュー コマンドのショートカット ... 128
選択 メニュー コマンドのショートカット ... 128
[設定] メニュー コマンドのショートカット ... 129
[ブックマーク] メニュー コマンドのショートカット ... 129
[ツール] メニュー コマンドのショートカット ... 129
[オブジェクト] メニュー コマンドのショートカット (リスト ボックス、統計 ボックス、開かれているマル 129

チ ボックス)
スクリプト用 キーボード ショートカット 130
ファンクション キーのキーボード ショートカット 130
7 データのロードについて 132
7.1 データ構造の把握 132
データ ロードのステートメント 132
スクリプトの実行 132
項目 133
論理 テーブル 139
テーブル名 140
テーブル ラベル 141
論理 テーブル間の関連付け 141
合成キー 143
のデータ型 QlikView 144
7.2 データおよび項目のガイドライン 147
ロードされるデータ量のガイドライン 147
データ テーブルと項目の上限 147
ロード スクリプト セクションの推奨制限 148
数値や日付書式の変換 148
7.3 ファイル データのロード 151
テーブル ファイル 151
QlikView にロードする Excel ファイルの準備方法 151
7.4 データベースからのデータのロード 152
データベースのロジック 152
7.5 インライン テーブルからデータを読み込む 153
インライン ロードを使用する理由 153
基本構文の例 153
構文の概要 154
例 - その他のデータ囲み文字 156
例 - その他の区切り文字 157
例 - 列ヘッダーの省略 158
例 - 別のデータ型のロード 159
例 - 複数行 コンテンツ 160
例 - 変換付きのインライン ロード 161
例 - 変換のための演算子と節 165
例 - インライン テーブルで null 値を作成する 167
その他の例 167
7.6 循環参照の把握 167
循環参照の解決 169
疎結合テーブル 169
7.7 項目名の変更 171
7.8 テーブルの連結 172
自動連結 172
強制連結 173
連結の防止 173
7.9 事前にロードされているテーブルからのデータのロード 173
Resident と先行する LOAD の違い 174

先行するLOAD ... 174
7.10 パーシャル リロード ... 175
7.11 ドル記号展開 ... 175
変数を使用したドル記号展開 ... 176
パラメータを使用したドル記号展開 ... 177
数式を使用したドル記号展開 ... 177
7.12 スクリプトでの引用符の使用 ... 178
LOAD ステートメントの内側での使用 ... 178
SELECT ステートメントの場合 ... 179
LOAD ステートメントの外側での使用 ... 179
コンテキスト外の項目参照およびテーブル参照 ... 179
名前とリテラルの違い ... 179
数値と文字列リテラルの違い ... 180
文字列での引用符の使用 ... 180
7.13 データ内のワイルドカード ... 181
スター マーク ... 181
OtherSymbol ... 181
7.14 NULL 値の処理 ... 182
ODBC からの NULL 値の関連付け/選択 ... 183
テキスト ファイルからの NULL 値の作成 ... 183
数式における NULL 値の伝達 ... 184
7.15 QVD ファイル ... 185
QVD ファイルの使用目的 ... 185
QVD ファイルの作成 ... 186
QVD ファイルからのデータの読み取り ... 186
QVD 暗号化 ... 187
7.16 Direct Discovery ... 187
7.17 データ モデリングのベストプラクティス ... 187
QVD ファイルを使用した増分ロード ... 188
JoinおよびKeepを使用したテーブルの結合 ... 191
結合の代替としてのマッピング ... 195
クロス集計での作業 ... 196
汎用データベース ... 198
不連続データとIntervalmatch ... 199
単一の日付からの日付間隔の作成 ... 202
階層構造 ... 204
セマンティック リンク ... 205
項目値への情報のリンク ... 207
データ クレンジング ... 208
7.18 スクリプトからの VBScript 関数の呼び出し ... 210
パラメータの転送 ... 211
7.19 アプリケーション パフォーマンスの最適化 ... 211
はじめに ... 211
If (Condition(Text),....) ... 211
Sum (If (Condition, 'FieldName'...)) ... 212
If (Condition, Sum('FieldName')..) ... 212
If (Condition1, Sum('FieldName'), If (Condition2, Sum('FieldName')... 212

テキストのソート ... 213
動的なキャプションおよびテキストオブジェクト ... 213
マクロのトリガー("変更時") ... 214
7.20 データ保護問題 ... 214
データセキュリティと統合 ... 214
データを変更する権限 ... 214
データを表示する権限 ... 215
データ整合性 ... 215
8 ドキュメントとチャートの作成 ... 216
8.1 詳細 ... 216
8.2 ドキュメントプロパティ ... 216
ドキュメントプロパティ:基本設定 ... 216
ドキュメントプロパティ: を開く ... 220
ドキュメントプロパティ: シート ... 222
ドキュメントプロパティ: サーバー ... 223
ドキュメントプロパティ: 変数 ... 226
ドキュメントプロパティ: セキュリティ ... 228
ドキュメントプロパティ: [Trigger] (トリガー) ... 230
ドキュメントプロパティ: グループ (Groups) ... 231
ドキュメントプロパティ: テーブル ... 233
ドキュメントプロパティ: ソート ... 234
ドキュメントプロパティ:プレゼンテーション ... 235
ドキュメントプロパティ:数値 ... 236
ドキュメントプロパティ:暗号化 ... 237
ドキュメントプロパティ: エクステンション ... 237
レイアウト ... 238
キャプション ... 241
8.3 シート ... 243
作成 ... 243
ナビゲーション ... 243
シート: [オブジェクト] メニュー ... 244
シートプロパティ: 基本設定 ... 244
シートプロパティ: 項目 ... 246
シートプロパティ: オブジェクト ... 246
シートプロパティ: セキュリティ ... 247
シートプロパティ: [Trigger] (トリガー) ... 247
タブプロパティ ... 248
8.4 クイックチャートウィザード ... 248
クイックチャートウィザードの起動 ... 248
8.5 シートオブジェクト ... 254
リストボックス ... 255
統計ボックス ... 276
マルチボックス ... 284
テーブルボックス ... 299
チャート ... 310
制限 ... 328
オプション ... 329

数式リスト 331
追加 332
削除 332
コピー 332
エクスポート 332
貼り付け 333
インポート 333
上下移動 333
グループ 333
グループ解除 333
有効化 333
相対値表示 333
表示しない 333
条件付き表示 334
ラベル 334
定義 334
コメント 334
表示オプション 334
累積 337
合計モード 337
枠線の幅 338
数式を凡例として表示 338
すう勢線 338
数式の目盛線 346
軸の目盛線 347
枠線の使用 352
角を丸くする 353
レイヤー 353
テーマの作成 353
テーマの適用 353
表示 354
オプション 354
スクロール バー 354
制限 363
オプション 363
数式リスト 365
追加 366
削除 366
コピー 366
エクスポート 366
貼り付け 367
インポート 367
上下移動 367
グループ 367
グループ解除 367
有効化 367
相対値表示 367
表示しない 367

条件付き表示 368
ラベル 368
定義 368
コメント 368
表示オプション 368
累積 371
合計モード 371
枠線の幅 372
数式を凡例として表示 372
すう勢線 372
枠線の使用 379
角を丸くする 379
レイヤー 380
テーマの作成 380
テーマの適用 380
表示 380
オプション 380
スクロール バー 381
プロパティ 383
ノート 383
分離設定 383
分離解除 384
参照設定 384
参照解除 384
複製 384
順序 384
すべての選択をクリア 384
印刷 384
PDF として印刷 385
Excel 出力 385
エクスポート 385
クリップボードにコピー 385
リンク オブジェクト 385
最小化 385
最大化 385
元のサイズに戻す 386
ヘルプ 386
削除 386
制限 391
オプション 391
数式リスト 393
追加 394
削除 394
コピー 394
エクスポート 394
貼り付け 395
インポート 395
上下移動 395

グループ 395
グループ解除 395
有効化 395
相対値表示 395
表示しない 395
条件付き表示 396
ラベル 396
定義 396
コメント 396
表示オプション 396
累積 399
合計モード 399
枠線の幅 400
数式を凡例として表示 400
すう勢線 400
枠線の使用 409
角を丸くする 409
レイヤー 409
テーマの作成 410
テーマの適用 410
表示 410
オプション 410
スクロール バー 411
制限 421
オプション 421
枠線の使用 431
角を丸くする 432
レイヤー 432
テーマの作成 432
テーマの適用 432
表示 433
オプション 433
スクロール バー 433
制限 444
オプション 444
数式リスト 446
追加 447
削除 447
コピー 447
エクスポート 447
貼り付け 448
インポート 448
上下移動 448
グループ 448
グループ解除 448
有効化 448
相対値表示 448
表示しない 448

条件付き表示 449
ラベル 449
定義 449
コメント 449
表示オプション 449
累積 452
合計モード 452
枠線の幅 453
数式を凡例として表示 453
すう勢線 453
枠線の使用 462
角を丸くする 462
レイヤー 462
テーマの作成 463
テーマの適用 463
表示 463
オプション 463
スクロール バー 464
制限 474
オプション 474
数式リスト 476
追加 477
削除 477
コピー 477
エクスポート 477
貼り付け 478
インポート 478
上下移動 478
グループ 478
グループ解除 478
有効化 478
相対値表示 478
表示しない 478
条件付き表示 479
ラベル 479
定義 479
コメント 479
表示オプション 479
累積 482
合計モード 482
枠線の幅 483
数式を凡例として表示 483
すう勢線 483
枠線の使用 492
角を丸くする 492
レイヤー 492
テーマの作成 493
テーマの適用 493

表示 ... 493
オプション ... 493
スクロール バー ... 494
制限 ... 502
オプション ... 503
数式リスト ... 504
追加 ... 505
削除 ... 505
コピー ... 505
エクスポート ... 506
貼り付け ... 506
インポート ... 506
上下移動 ... 506
グループ ... 506
グループ解除 ... 506
有効化 ... 506
相対値表示 ... 507
表示しない ... 507
条件付き表示 ... 507
ラベル ... 507
定義 ... 507
コメント ... 507
表示オプション ... 507
累積 ... 510
合計モード ... 511
枠線の幅 ... 511
数式を凡例として表示 ... 511
すう勢線 ... 511
枠線の使用 ... 520
角を丸くする ... 521
レイヤー ... 521
テーマの作成 ... 521
テーマの適用 ... 521
表示 ... 521
オプション ... 522
スクロール バー ... 522
制限 ... 532
オプション ... 532
数式リスト ... 534
追加 ... 535
削除 ... 535
コピー ... 535
エクスポート ... 535
貼り付け ... 536
インポート ... 536
上下移動 ... 536
グループ ... 536
グループ解除 ... 536

有効化 536
相対値表示 536
表示しない 536
条件付き表示 537
ラベル 537
定義 537
コメント 537
表示オプション 537
累積 540
合計モード 540
枠線の幅 541
数式を凡例として表示 541
すう勢線 541
枠線の使用 549
角を丸くする 550
レイヤー 550
テーマの作成 550
テーマの適用 550
表示 551
オプション 551
スクロール バー 551
制限 561
オプション 562
数式リスト 563
追加 564
削除 564
コピー 564
エクスポート 565
貼り付け 565
インポート 565
上下移動 565
グループ 565
グループ解除 565
有効化 565
相対値表示 566
表示しない 566
条件付き表示 566
ラベル 566
定義 566
コメント 566
表示オプション 566
累積 569
合計モード 570
枠線の幅 570
数式を凡例として表示 570
すう勢線 570
枠線の使用 577
角を丸くする 578

レイヤー ... 578
テーマの作成 ... 578
テーマの適用 ... 578
表示 ... 578
オプション ... 579
スクロール バー ... 579
制限 ... 589
オプション ... 590
数式リスト ... 591
追加 ... 592
削除 ... 592
コピー ... 592
エクスポート ... 593
貼り付け ... 593
インポート ... 593
上下移動 ... 593
グループ ... 593
グループ解除 ... 593
有効化 ... 593
相対値表示 ... 594
表示しない ... 594
条件付き表示 ... 594
ラベル ... 594
定義 ... 594
コメント ... 594
表示オプション ... 594
累積 ... 597
合計モード ... 598
枠線の幅 ... 598
数式を凡例として表示 ... 598
すう勢線 ... 598
枠線の使用 ... 605
角を丸くする ... 606
レイヤー ... 606
テーマの作成 ... 606
テーマの適用 ... 606
表示 ... 606
オプション ... 607
スクロール バー ... 607
制限 ... 621
オプション ... 622
数式リスト ... 623
追加 ... 624
削除 ... 624
コピー ... 624
エクスポート ... 625
貼り付け ... 625
インポート ... 625

上下移動 ... 625
グループ ... 625
グループ解除 ... 625
有効化 ... 625
相対値表示 ... 626
表示しない ... 626
条件付き表示 ... 626
ラベル ... 626
定義 ... 626
コメント ... 626
表示オプション ... 626
累積 ... 629
合計モード ... 630
枠線の幅 ... 630
数式を凡例として表示 ... 630
すう勢線 ... 630
枠線の使用 ... 636
角を丸くする ... 637
レイヤー ... 637
テーマの作成 ... 637
テーマの適用 ... 637
表示 ... 637
オプション ... 638
スクロール バー ... 638
制限 ... 648
オプション ... 649
数式リスト ... 650
追加 ... 651
削除 ... 651
コピー ... 651
エクスポート ... 652
貼り付け ... 652
インポート ... 652
上下移動 ... 652
グループ ... 652
グループ解除 ... 652
有効化 ... 652
相対値表示 ... 653
表示しない ... 653
条件付き表示 ... 653
ラベル ... 653
定義 ... 653
コメント ... 653
表示オプション ... 653
累積 ... 656
合計モード ... 657
枠線の幅 ... 657
数式を凡例として表示 ... 657

すう勢線 657
枠線の使用 664
角を丸くする 664
レイヤー 664
テーマの作成 665
テーマの適用 665
表示 665
オプション 665
スクロール バー 666
制限 675
オプション 675
数式リスト 677
追加 678
削除 678
コピー 678
エクスポート 678
貼り付け 679
インポート 679
上下移動 679
グループ 679
グループ解除 679
有効化 679
相対値表示 679
表示しない 679
条件付き表示 680
ラベル 680
定義 680
コメント 680
表示オプション 680
累積 683
合計モード 683
枠線の幅 684
数式を凡例として表示 684
すう勢線 684
枠線の使用 693
角を丸くする 693
レイヤー 693
テーマの作成 694
テーマの適用 694
表示 694
オプション 694
スクロール バー 695
入力ボックス: 704
選択表示ボックス 716
ボタン 725
テキスト オブジェクト 741
線/矢印 オブジェクト 749
スライダー/カレンダ オブジェクト 756

カスタム オブジェクト ... 765
検索 オブジェクト ... 771
ブックマーク オブジェクト ... 779
コンテナ オブジェクト ... 787
ローカル オブジェクトとサーバー オブジェクト ... 795
アクション ... 795
ノートとコメント ... 796
8.6 レイアウト テーマ ... 796
QlikView のレイアウト テーマについて ... 796
レイアウトでのテーマの適用 ... 797
テーマ作成 ウィザード ... 798
8.7 タイム チャート ウィザード ... 801
タイム チャート ウィザードの起動 ... 801
8.8 統計 チャート ウィザード ... 805
統計 チャート ウィザードの起動 ... 805
Chi2-Test ... 805
2 標本 t 検定 ... 805
独立標本 t 検定 ... 806
8.9 箱ひげ図 ウィザードのスタート ページ ... 807
箱ひげ図 ウィザードによるデータの定義 ... 807
箱ひげ図 ウィザードのプレゼンテーション ... 807
8.10 レポート ... 807
レポート編集 ... 808
8.11 アラート ... 820
アラートの使用 ... 820
アラート ダイアログ ... 822
アラート ウィザード ... 824
8.12 マクロと自動化 ... 826
QlikView オートメーション インターフェース ... 826
オートメーションとマクロによる QlikView の制御 ... 827
内部 マクロ インタープリタ ... 828
QV サーバー上の QV ドキュメントでのマクロの使用 ... 831
9 発見と分析 ... 833
9.1 選択 ... 833
9.2 ルーチン分析 ... 833
9.3 予備分析 ... 833
9.4 データ内の検索 ... 833
9.5 分析接続 ... 833
9.6 ブックマークの選択 ... 834
9.7 項目値の選択 ... 834
9.8 配色 ... 834
9.9 選択 スタイル ... 835
論理状態の表現 ... 835
9.10 インジケータ ... 836
インジケータの配色 ... 836
9.11 項目内の複数選択 ... 837

9.12 選択の移動 ... 837
9.13 選択されている項目値のロック ... 838
9.14 現在の選択条件 ... 839
9.15 他のオブジェクトの選択 ... 839
統計ボックス ... 840
マルチボックス ... 840
テーブルボックス ... 840
棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、グリッドチャート、および散布図 ... 840
円グラフ ... 841
ブロックチャート ... 841
ゲージチャート ... 841
ストレートテーブル ... 841
ピボットテーブル ... 841
9.16 [Search] (検索) ... 842
検索を使用した選択 ... 842
テキスト検索ボックス ... 845
高度な検索 ... 845
9.17 [高度な検索] ダイアログ ... 846
項目 ... 847
関数 ... 847
変数 ... 847
9.18 リストボックスの AND モード ... 848
AND モードの前提条件 ... 848
AND モードの基準 ... 848
AND モードでのリストボックスの設定 ... 848
9.19 並列ステート ... 849
説明 ... 849
並列ステートの設定 ... 850
ステートをオブジェクトに割り当てる ... 850
並列ステートの比較 ... 850
並列ステート使用時の論理的な動作 ... 851
9.20 ブックマーク ... 852
ブックマークの種類 ... 852
[ブックマークの追加] ダイアログ ... 852
ブックマークの削除 ... 854
[ブックマーク] ダイアログ ... 854
ブックマークのエクスポート ... 856
ブックマークのインポート ... 857
並列ステートとブックマーク ... 857
10 スクリプト構文およびチャート関数 ... 858
10.1 Backus-Naur 形式とは ... 858
10.2 関数 ... 859
10.3 スクリプトのステートメントとキーワード ... 859
スクリプト制御ステートメント ... 860
スクリプトのプレフィックス ... 870
スクリプト正規ステートメント ... 903
スクリプト変数 ... 955

10.4 スクリプト式 972
10.5 チャートの数式 972
集計範囲の定義 972
特別な入力フィールドの集計関数 977
set 分析および set 数式 979
チャートの数式および集計構文 993
集計修飾子の例 994
計算式 1012
10.6 演算子 1013
ビット演算子 1014
論理演算子 1015
数値演算子 1015
関係演算子 1016
文字列演算子 1017
10.7 スクリプトの関数とチャートの数式 1018
分析接続 1018
集計関数 1018
10.8 サンプル データのロード 1159
10.9 chi2-testチャート関数 チャートの作成 1160
10.10 サンプル データのロード 1162
10.11 chi2-test 関数の値のロード 1162
10.12 結果 1162
10.13 サンプル データのロード 1163
10.14 Group Statistics テーブルの作成 1164
10.15 Two Independent Sample Student's T-test テーブルの作成 1165
10.16 サンプル データのロード 1166
10.17 z-testチャート関数 チャートの作成 1167
10.18 z-testwチャート関数 チャートの作成 1168
分析接続 1186
カラー関数 1189
条件分岐関数 1195
カウンタ関数 1201
日付および時刻関数 1212
ドキュメント関数 1324
指数関数と対数関数 1324
項目関数 1325
ファイル関数 1345
財務関数 1360
書式設定関数 1366
一般的な数値関数 1376
変換関数 1384
レコード間関数 1392
論理関数 1433
マッピング関数 1434
数学関数 1436
NULL 関数 1437
範囲関数 1440

関係関数 ... 1477
統計的分布関数 ... 1493
文字列関数 ... 1507
システム関数 ... 1524
テーブル関数 ... 1529
三角関数と双曲線関数 ... 1533
ウィンドウ関数 ... 1534
11 セキュリティ ... 1549
11.1 認証と承認 ... 1549
11.2 QlikView Publisher によるセキュリティ ... 1549
11.3 QlikView ロード スクリプトのセクション アクセスによるセキュリティ ... 1549
11.4 ロード スクリプトのセクション ... 1550
11.5 セクション アクセスのアクセス レベル ... 1550
11.6 セクション アクセスのシステム項目 ... 1550
11.7 混合環境 ... 1553
11.8 QlikView 機能の制限 ... 1554
11.9 動的データ削除 ... 1554
11.10 アクセス制限の継承 ... 1555
11.11 暗号化 ... 1555
12 AJAX/WebView ... 1556
12.1 QlikView ローカル クライアントの WebView モード ... 1556
12.2 チャートの画像をクリップボードにコピー ... 1556
12.3 タッチ機能 ... 1556
12.4 ファイル名における制限 ... 1556
12.5 キーボード ショートカット ... 1556
12.6 モバイル クライアントでの AJAX ... 1556
モバイル クライアントでのAJAXの準備 ... 1557
モバイル クライアントでの QlikView ドキュメントの操作 ... 1557
12.7 AccessPoint での優先言語の設定 ... 1561
12.8 NPrinting On-Demand ... 1561
QlikView での Qlik NPrinting レポートの作成 ... 1561
12.9 シート ... 1562
12.10 ツールバー ... 1564
12.11 リポジトリ ... 1565
12.12 リスト ボックス - AJAX/Webview ... 1566
リスト ボックス: オブジェクト メニュー ... 1566
リスト ボックスのプロパティ ... 1567
リスト ボックスのプロパティ: プレゼンテーション ... 1571
リスト ボックスのプロパティ: キャプション ... 1574
リストボックスのプロパティ: オプション ... 1575
12.13 統計 ボックス - AJAX/Webview ... 1576
統計量 ボックス: オブジェクトメニュー ... 1576
統計 ボックスのプロパティ ... 1577
統計 ボックスのプロパティ: プレゼンテーション ... 1578
統計量 ボックスのプロパティ: キャプション ... 1580

統計量ボックスのプロパティ: オプション ... 1581
12.14 マルチ ボックス - AJAX/Webview ... 1582
マルチボックス: オブジェクト メニュー ... 1582
マルチボックスのプロパティ ... 1583
マルチボックス プロパティ: プレゼンテーション ... 1587
マルチボックス プロパティ: キャプション ... 1589
キャプション ... 1589
マルチボックスのプロパティ: オプション ... 1590
12.15 テーブル ボックス - AJAX/Webview ... 1591
テーブルボックス: オブジェクトメニュー ... 1591
テーブル ボックス プロパティ: ... 1593
テーブル ボックスのプロパティ: プレゼンテーション ... 1595
テーブルボックスのプロパティ: キャプション ... 1597
キャプション ... 1597
テーブル ボックスのプロパティ: オプション ... 1598
12.16 入力ボックス - AJAX/Webview ... 1599
入力ボックス: オブジェクト メニュー ... 1599
入力ボックス プロパティ ... 1600
入力ボックス プロパティ: プレゼンテーション ... 1601
入力ボックス プロパティ: キャプション ... 1602
入力ボックス プロパティ: オプション ... 1604
12.17 選択表示ボックス - AJAX/Webview ... 1605
現在の選択肢ボックス: オブジェクト メニュー ... 1605
選択表示ボックス プロパティ ... 1606
現在の選択ボックスのプロパティ: プレゼンテーション ... 1607
現在の選択ボックスのプロパティ: キャプション ... 1608
現在の選択ボックスのプロパティ: オプション ... 1610
12.18 ボタン - AJAX/Webview ... 1611
ボタン: オブジェクト メニュー ... 1611
ボタン プロパティ ... 1611
ボタン プロパティ: プレゼンテーション ... 1617
ボタン プロパティ: キャプション ... 1618
ボタン プロパティ: オプション ... 1619
12.19 テキスト オブジェクト - AJAX/Webview ... 1620
テキスト オブジェクト: オブジェクト メニュー ... 1620
テキスト オブジェクト プロパティ ... 1621
テキスト オブジェクト プロパティ: プレゼンテーション ... 1626
テキスト オブジェクト プロパティ: キャプション ... 1628
テキスト オブジェクト プロパティ: オプション ... 1629
12.20 線/矢印 オブジェクト - AJAX/Webview ... 1630
線/矢印 : オブジェクト メニュー ... 1630
線/矢印 プロパティ ... 1631
線/矢印 プロパティ: プレゼンテーション ... 1636
線/矢印 プロパティ: キャプション ... 1638
線/矢印 プロパティ: オプション ... 1639
12.21 カレンダー オブジェクト - AJAX/Webview ... 1640
カレンダー: オブジェクト メニュー ... 1640

カレンダープロパティ 1641
カレンダープロパティ: プレゼンテーション 1643
カレンダープロパティ: キャプション 1644
カレンダープロパティ: オプション 1645
12.22 スライダー オブジェクト - AJAX/Webview 1646
スライダー: オブジェクト メニュー 1646
スライダープロパティ 1647
スライダープロパティ: プレゼンテーション 1649
スライダープロパティ: キャプション 1650
スライダープロパティ: オプション 1651
12.23 ブックマーク オブジェクト - AJAX/Webview 1652
ブックマーク: オブジェクト メニュー 1653
ブックマークプロパティ(Bookmark Properties) 1653
ブックマークプロパティ(Bookmark Properties): プレゼンテーション 1654
ブックマークプロパティ(Bookmark Properties): キャプション 1655
ブックマークプロパティ(Bookmark Properties): オプション 1656
12.24 検索 オブジェクト - AJAX/Webview 1657
検索 オブジェクト: オブジェクト メニュー 1657
検索 オブジェクトプロパティ 1658
検索 オブジェクトプロパティ: プレゼンテーション 1659
検索 オブジェクトプロパティ: キャプション 1660
検索 オブジェクトプロパティ: オプション 1661
12.25 コンテナ オブジェクト - AJAX/Webview 1662
コンテナ: オブジェクト メニュー 1662
コンテナ プロパティ 1663
コンテナ プロパティ: プレゼンテーション 1663
コンテナ プロパティ: キャプション 1665
コンテナ プロパティ: オプション 1666
12.26 棒グラフ - AJAX/Webview 1667
棒グラフ: [オブジェクト] メニュー 1667
棒グラフプロパティ 1669
棒グラフプロパティ: プレゼンテーション 1676
棒グラフプロパティ: キャプション 1680
棒グラフプロパティ: オプション 1682
12.27 折れ線グラフ - AJAX/Webview 1683
折れ線グラフ: [オブジェクト] メニュー 1683
折れ線グラフプロパティ 1684
線グラフプロパティ: プレゼンテーション 1691
線グラフプロパティ: キャプション 1695
線グラフプロパティ: オプション 1697
12.28 コンボ チャート - AJAX/Webview 1698
コンボ チャート: [オブジェクト] メニュー 1698
コンボ チャートプロパティ 1699
コンボ チャートプロパティ: プレゼンテーション 1706
コンボ チャートプロパティ: キャプション 1711
コンボ チャートプロパティ: オプション 1712
12.29 レーダー チャート - AJAX/Webview 1713

レーダーチャート: [オブジェクト] メニュー 1713
レーダー チャートプロパティ 1715
レーダー チャートプロパティ: プレゼンテーション 1721
レーダー チャートプロパティ: キャプション 1724
レーダー チャートプロパティ: オプション 1726
12.30 ゲージ チャート - AJAX/Webview 1727
ゲージ チャート: [オブジェクト] メニュー 1727
ゲージ チャートプロパティ 1728
ゲージ チャートプロパティ: プレゼンテーション 1735
ゲージ チャートプロパティ: オプション 1740
12.31 散布図 - AJAX/Webview 1741
散布図 : [オブジェクト] メニュー 1741
散布図 プロパティ 1743
散布図プロパティ: プレゼンテーション 1749
散布図プロパティ: キャプション 1753
散布図プロパティ: オプション 1754
12.32 グリッド チャート - AJAX/Webview 1755
グリッド チャート: [オブジェクト] メニュー 1755
グリッド チャートプロパティ 1757
グリッド チャートプロパティ 1757
グリッド チャートプロパティ: プレゼンテーション 1761
グリッド チャートプロパティ: キャプション 1765
グリッド チャートプロパティ: オプション 1767
12.33 円グラフ - AJAX/Webview 1768
円グラフ: [オブジェクト] メニュー 1768
円グラフプロパティ 1769
円グラフプロパティ: プレゼンテーション 1770
円グラフプロパティ: キャプション 1773
円グラフプロパティ: オプション 1775
12.34 ファネル チャート - AJAX/Webview 1776
ファネル チャート: [オブジェクト] メニュー 1776
ファネル チャートプロパティ 1777
ファネル チャートプロパティ: プレゼンテーション 1781
ファネル チャートプロパティ: キャプション 1784
ファネル チャートプロパティ: オプション 1786
12.35 メッコ チャート - AJAX/Webview 1787
メッコ チャート: [オブジェクト] メニュー 1787
メッコ チャートプロパティ 1788
メッコ チャートプロパティ: プレゼンテーション 1794
メッコ チャートプロパティ: キャプション 1798
メッコ チャートプロパティ: オプション 1799
12.36 ブロック チャート - AJAX/Webview 1800
ブロック チャート: [オブジェクト] メニュー 1800
ブロック チャートプロパティ 1802
ブロック チャートプロパティ: プレゼンテーション 1805
ブロック チャートプロパティ: キャプション 1808
ブロック チャートプロパティ: オプション 1809

12.37 ピボット テーブル - AJAX/Webview ... 1810
ピボットテーブル: オブジェクト メニュー ... 1810
ピボット テーブルのプロパティ ... 1812
ピボット テーブルのプロパティ: プレゼンテーション ... 1816
ピボット テーブルのプロパティ: キャプション ... 1819
ピボット テーブルのプロパティ: オプション ... 1820
12.38 ストレート テーブル - AJAX/Webview ... 1821
ストレート テーブル: オブジェクト メニュー ... 1821
ストレート テーブルのプロパティ ... 1823
ストレート テーブルのプロパティ: プレゼンテーション ... 1831
ストレート テーブルのプロパティ: キャプション ... 1833
ストレート テーブル プロパティ: オプション ... 1835
13 よくある質問 ... 1836
13.1 インストール ... 1836
13.2 QlikView ドキュメント ... 1836
13.3 スクリプトとデータのロード ... 1836
13.4 QlikView ロジック ... 1838
13.5 レイアウト ... 1839
13.6 他のユーザーとの QlikView ドキュメントの共有 ... 1840

1 QlikView の概要

QlikView は、大規模で複雑なデータセットを処理している場合でも、容易にその全体像を理解したり、関係性を見つけたり、洞察を得たりすることができます。さまざまなソースから情報を取得して統合し、その情報をネットワークを介してすばやく利用することができ、ユーザーが望む適切な情報を取得できます。QlikView の基となっている連想データモデル技術を使用して、対話型プレゼンテーションやあらゆる種類の情報の分析に対応する固有のインターフェースを作成できます。

QlikView 人間の脳に似た方法で情報を管理します。人間の脳と同様に、処理している情報の中に連想関係が次第に作成されていきます。質問事項を決定するのはデータベースではなくユーザー自身です。目的の項目をクリックするだけで、詳細な情報を入手できます。

従来のシステムでデータを取得することは、多くの場合、データベースの構造やクエリ言語の構文についての幅広い知識を必要とする複雑なタスクです。このため、事前に定義された検索ルーチンに頼らざるを得ないことがよくあります。QlikView は、この制限を大幅に取り除きました。マウスをクリックするだけで、画面に表示されているデータを自由に選択することができます。従来のほとんどの情報検索システムでは、トップダウン方式が要求されますが、QlikView では、データ構造内のデータの場所には関係なく任意のデータから検索を開始できます。

QlikView を使用することで、さまざまなデータベース (独自データベース/外部データベース、中央データベース/ローカル データベースなど) の統一的かつ一貫したデータの全体像を得ることができます。QlikView は、事実上すべてのデータベースに対応しています。

QlikView を使用して次のことを実行できます。

- 情報ウェアハウスとの柔軟なエンドユーザー インターフェースの作成
- データ リレーションのスナップショットの取得
- データに基づくプレゼンテーションの作成
- 動的なグラフィカル チャートおよびテーブルの作成
- 統計分析の実行
- データと説明やマルチメディアのリンク
- 独自のエキスパート システムの構築
- 複数のソースの情報をマージした新しいテーブルの作成
- 独自のビジネス インテリジェンス システムの構築

2 QlikView Desktop

このセクションでは QlikView Desktop のインストール方法について説明します。また、ここには QlikView Desktop のアップグレード、ライセンス認証ファイル (LEF) の管理とトラブルシューティングを行う方法、および QlikView Personal Edition に関する情報についても記載されています。

2.1 QlikView Desktop のシステム要件

このセクションでは、QlikView を正常にインストールし稼働させるために、対象システムが満たす必要がある要件を記載しています。

デスクトップ システムの必要条件

プラットフォーム *	• Microsoft Windows 11 x64 • Microsoft Windows Server 2016 • Microsoft Windows Server 2019 • Microsoft Windows Server 2022 • Microsoft Windows Server 2025
プロセッサ (CPU)	Multi-core x64 と互換性のあるプロセッサ
メモリ	最小 4 GB データ量によっては、さらに多くのメモリが必要になる場合があります。QlikView はインメモリ分析技術であり、QlikView 製品のメモリ要件は、分析されるデータ量に直接関係しています。
ディスク空き容量	インストールには計 900 MB が必要
セキュリティ	• Microsoft Active Directory (NTLM または Kerberos) • ローカル Windows ユーザー アカウント (NTLM) • サードパーティ製セキュリティ (QlikView ServerEnterprise Edition が必要)

* プラットフォームに標準製造元サポートがある場合。

Qlik NPrinting 互換性

QlikView と Qlik NPrinting の互換性の詳細については、≤ Qlik Community のリリース ノートを参照してください。

QlikView Desktop は、QlikView と Qlik NPrinting との接続に必要であり、各 Qlik NPrinting Engine コンピュータにインストールする必要があります。

サーバーまたはクラスター接続を使用している場合、QlikView Server および QlikView Desktop は同じバージョンである必要があります。

詳細については、Qlik NPrinting を QlikView に接続するを参照してください。

2.2 QlikView Desktop のインストール

QlikView を購入すると、ライセンス契約に関する情報が記載されたメールが届きます。また、シリアル番号とコントロール ナンバーに関する情報もあります。

QlikView インストール パッケージ

QlikView インストール パッケージには、次のような種類がありますので、いずれかを選択してください。QlikView Desktop、QlikView Server、QlikView WorkBench といったインストール パッケージは、64 ビット バージョンのみで使用できます。

QlikView Desktop インストール パッケージには次のコンポーネントが含まれています。

- QlikView アプリケーション
- QlikView プラグイン
- QlikView テーマ
- QlikView 例

インストールの際に **[カスタム]** を選択すると、インストールするコンポーネント数を減らすことができます。

≤ 製品のダウンロード から QlikView デスクトップ インストール ファイルをダウンロードします。詳細については、「インストール ファイルのダウンロード」を参照してください。

QlikView デスクトップのインストール プログラムの実行

次の手順を実行します。

1. *Setup.exe* ファイルをダブルクリックし、インストールを開始します。
2. インストール プログラムの開始時に、ドロップダウン リストから希望するインストール言語を選択し、[OK] をクリックします。
3. しばらく待って、インストールの準備が整ったらダイアログが表示されます。
4. **[ようこそ]** ダイアログが開いたら、記載されている情報を読み、**[次へ]** をクリックします。
5. ソフトウェアのライセンス使用許諾書が開きます。内容を読んで**[ライセンス使用許諾に同意します]** をクリックし(同意する場合) 、**[次へ]** をクリックします。
6. **[ユーザー情報]** ダイアログで、インストールの個人設定を指定します。**次へ** ボタンをクリックして進みます。
7. プログラム インストール用のデフォルト フォルダではない別のフォルダにインストールしたい場合は、**[インストール先フォルダ]** ダイアログで **[変更]** をクリックして、別フォルダを指定します。**[次へ]** をクリックします。
8. **[セットアップの種類]** ダイアログが表示されます。**[すべて]** を選択すると、前の手順で指定したフォルダに、QlikView プログラム、QlikView プラグイン、QlikView 機能の使用例がインストールされます。**[カスタム]** を選択した場合は、**[次へ]** をクリックすると、インストールする機能を指定できるダイアログが表示されます。機能を選択し、**次へ** をクリックします。
9. インストールを開始する準備ができました。**[インストール]** をクリックすると、インストールが開始されます。
10. 最後に表示されるダイアログで **終了** をクリックしてインストール処理を完了します。



既定では、QlikView は 30 日ごとにライセンス確認を実行します。

インストールのログ

Setup.exe を起動させると、ユーザーの temp フォルダにログ ファイルが書き込まれます。ログ ファイルの名前は Qlikviewx64.wil です。インストールをする度に新しいファイルが生成され、古いログ ファイルは上書きされます。

QlikView 設定ファイル

QlikView の設定はすべてレジストリではなくファイルに保存されます。Settings.ini ファイルは C:\Users\username\AppData\Roaming\QlikTech\QlikView にあります。

QlikView OCX の設定は同じファイルにあります。

シリアル化

QlikView Server から QlikView ライセンスを取得する場合、または QlikView が Personal Edition の場合は、登録の必要はありません。ただし、製品のライセンス番号を取得して **ユーザー プロパティ: ライセンス** ページで入力できます。登録された QlikView では、QlikView Server に長期間 (30 日間以上) 接続しなくてもオフラインで作業することが可能です。詳細については、QlikView ベンダーにお問い合わせください。

> *シリアル番号の登録の手順にはネットワークへのアクセスが必要ですが、任意で電話による対応も可能です。*

いったん QlikView のコピーをインストールし、オプションでシリアル化すると、プログラムの使用を開始できます。

QlikView のネットワーク配布

このタイプのインストールは、所有しているライセンス数が多く、すべてのユーザーが同じバージョンの QlikView を実行するようにしたい場合に便利です。この場合でも、各ユーザーは、個別のライセンス番号を持つ必要があります。

QlikView インストールを配布するには、実行可能なインストール ファイルが必要です。ライセンス キーとコントロール ナンバーが必要になるのは、クライアント コンピュータで QlikView の最初のセッションを開始してからです。

QlikView は Microsoft Windows インストーラーのテクニック(MSI パッケージ) を使用します。

MSI パッケージのインストール方法の詳細については、Windows インストーラに関する以下の Microsoft の資料を参照してください。
≤ msdn.microsoft.com

ライセンス認証 ファイル エディタ

[ヘルプ] メニューの **[ライセンス更新]** からライセンスの更新とライセンス認証 ファイルの確認ができます。これにはネットワーク アクセスは不要です。

[ライセンス認証 ファイル エディター] ダイアログで、ライセンス認証 ファイルを表示または編集できます。

現在のライセンス キー

QlikView ライセンスの **現在のライセンス キー**。通常は、元のプログラムのインストール時に入力します。またインストール後に、**ユーザー プロパティ: ライセンス** ページで入力したり編集することもできます。ライセンス キーを購入するしないで QlikView を起動することも可能です。この場合、QlikView Server (Named CAL) からライセンス

をリースするか、QlikView パーソナル エディションが必要です。

現在のライセンス認証ファイル

ライセンス キーをアクティブ化 (有効化) するために必要な、インストール済みライセンスに関連する情報を含むテキスト ファイル。

ライセンス認証サーバーに接続

上記の **現在のライセンス認証ファイル** テキスト編集ボックスが空の場合、このボタンをクリックして **ライセンス認証サーバー** に接続します。

ライセンス認証ファイルのトラブルシューティング

ライセンス認証ファイル (LEF ファイル) は、QlikView ライセンス キーの有効性を確認するために必要です。ライセンス キーの初期化中に、インターネットを介して Qlik LEF サーバーに接続します。指定されたライセンス情報がチェック アウトすると、LEF ファイルが自動的にコンピュータに転送されます。通常の環境では、LEF 手続きはバックグラウンドで実行されるため、その実行に気付くことはほとんどありません。ただし、LEF サーバーに接続できない場合やファイアウォールによって LEF ファイルの転送が妨げられた場合は、この手続きが失敗することがあります。このようなことが起こると、**[ライセンス認証 未完了]** ダイアログが表示され、発生した問題について知らせてくれます。

有効な LEF ファイルを取得する権利があるのに通常の手続きでは取得できない場合は、代わりに Qlik サポートから直接取得できます。テキスト ファイルを LEF エディタに直接コピーする場合は、テキストの末尾に空白が含まれないようにしてください。

サイレント インストール

サイレント インストールを起動すると、限定したダイアログ数で、もしくはダイアログなしで QlikView Desktop がインストールされます。つまり、サイレント インストール パッケージを作成する場合は、すべての機能やプロパティ、ユーザー選択を把握しておく必要があります。また、Windows Installer Service の標準プロパティが必要な場合もあります。

サイレント インストールは異なるインターフェース レベルで実行可能です。

インターフェース レベル

コマンド	[Type] (種類)
/qn	完全なサイレント インストール。
/qb	基本的なユーザー インターフェース。

QlikView Desktop で推奨されるサイレント インストールのコマンド ラインは次の通りです。

QlikViewDesktop_x64Setup.exe /s /v"/qn"

上記のコマンド ラインは、すべての機能を完全にサイレントにインストールします。

+ サインをインターフェース レベルのコマンドの最後に追加すると、インストールの最後にモーダル ダイアログが開き、インストールが正常に終了したかどうかが表示されます。

サイレント インストールが完了したら、システムを再起動するか、ログアウトして再度ログインし、ソフトウェアが正しく機能することを確認してください。

サイレント アンインストール

QlikView Desktop で推奨されるサイレント アンインストールのコマンド ラインは次の通りです。

QlikViewDesktop_x64Setup.exe /x /s /v"/qn"

上記のコマンド ラインは、すべての機能を完全にサイレントに削除します。

+ サインをインターフェース レベルのコマンドの最後に追加すると、インストールの最後にモーダル ダイアログが開き、インストールが正常に終了したかどうかが表示されます。

2.3 QlikView Personal Edition

Qlik は個人用の QlikView の無料バージョンを提供しています。QlikView Personal Edition は QlikView Desktop 製品そのもので、同じインストール パッケージを使用します。唯一の違いは、QlikView Personal Edition はライセンス キー無しに起動することです。

QlikView Personal Edition は、≤ 製品のダウンロード サイトにアクセスできるお客様に限定されます。アクセスできない場合はサポートにお問い合わせください。QlikView Personal Edition は ≤ 製品のダウンロード サイトからいつでも新しいバージョンにアップグレードでき、作成したドキュメントの作業を続けることができます。

QlikView Personal Edition には機能上の制限はありませんが、QlikView ドキュメントの取り扱いに関して注意すべき点がいくつかあります。QlikView Personal Edition では、すべてのドキュメントがそのファイルをファイルが作成されたコンピューターに結びつけるユーザー キーとともに保存されます。これは次のような意味となります。

- QlikView Personal Edition では、QlikView のそのコピーを使用して作成されたファイルのみを開くことができます。つまり、QlikView Personal Edition では、QlikView ドキュメントを別のコンピューターで使用したり、QlikView ドキュメントを別の未登録ユーザーと共有したり、別のユーザーの QlikView ドキュメントを開いたりすることはできません (Qlik が個人使用のために特別に用意したドキュメントは例外です)。ただし、QlikView Personal Edition で作成されたドキュメントは、ライセンスを持った QlikView Desktop で使用でき、QlikView Server で公開することもできます。
- ドキュメントの全体的なレイアウト (XML 形式のシート/オブジェクト/セキュリティ設定など。データは含まれません) を QlikView Personal Edition にインポートすることはできません。

コンピューターを変えた場合は、過去に QlikView Personal Edition で作成したドキュメントは開けなくなります。この場合、ファイルを復元させることができます。ファイルの復元とは、新しいユーザー キーを生成して古いドキュメントに適用し、その特定のファイルだけでなく続くファイルすべてに使用することを意味します。ファイルの復元後には、そのファイルを作成した元のコンピュータでは使用できなくなります。

QlikView はドキュメントで 4 回までユーザー キーの変更を認めます。その後は、”Key length has reached its maximum” というエラー メッセージが表示され、ドキュメントを開くことができなくなります。初めから作り直すしか方法はありません。

そのため、自分が作成したのではない QlikView ドキュメント(フォーラムで得たものや同僚が作成したものなど)を復元するべきではありません。残る復元施行数を 1 回使用することになります。

> *復元試行数を使い果たした場合、新しいバージョンをダウンロードしても同じバージョンを再度ダウンロードしてもその数はリセットされません。*

QlikView Personal Edition のユーザーは、Qlik からの電話または電子メールによるサポートを受ける資格はありませんが、≤ Qlik Community を通じて優れた QlikView サポートを受けることができます。メンバーはすべての内容にアクセスできますが、フォーラムへの質問の投稿、ファイルのダウンロードおよびトレーニングへの参加には登録を行う必要があります。

QlikView の機能について学ぶ最も効果的な方法のひとつとして QlikView チュートリアルがあります。数式の例や、一連のコード、デザインのアドバイスといった役立つヒントが提供されています。チュートリアルおよび対応するファイルは、チュートリアルからダウンロードできます。これらのドキュメントも QlikView Personal Edition に適応しています。

Qlik が提供する最も強力な最新の分析ソリューションに興味がある場合は、無料の Qlik Sense トライアルを強くお勧めします。≤ Qlik Sense の無料トライアルを開始するを参照してください。QlikView のお客様は、Qlik Sense を導入するための最も簡単でコスト効率の高い方法を提供する Analytics Modernization Program を利用できます。詳細については、≤ 最新化の加速を参照してください。

2.4 対応している言語

QlikView Desktop インストール ウイザードを実行する段階で、インストールの言語を選択する必要があります。

以下の対応言語の中からいずれかを指定してください。

- ブラジル ポルトガル語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- オランダ語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポーランド語
- ロシア語
- スペイン語
- スウェーデン語
- トルコ語

インストール後のインターフェース言語の変更

QlikView をインストールした後でも、インターフェースの言語はプログラム内で随時変更できます。

次の手順を実行します。

1. 画面上部のメニュー バーで、**[設定]** ドロップダウン ボックスをクリックします。
2. **[ユーザープロパティ...]** をクリックします。ダイアログ ボックスが開きます。
3. **[基本設定]** タブで **[インターフェース言語の変更...]** ボタンをクリックします。
   新しいダイアログ ボックスが開きます。
4. 希望の言語を選び、**[OK]** をクリックします。
5. 変更を反映させるため、QlikView を再起動します。

インターフェースの言語を変更すると、プログラムおよびオンライン ヘルプの表示言語が変わります。

言語は *Settings.ini* ファイルを変更して設定することもできます (このファイルは *C:\Users\username\AppData\Roaming\QlikTech\QlikView* にあります)。**InterfaceLanguage** を編集して、サポートされている言語に設定します。

QlikView Desktop インターフェース設定の詳細については、「*ユーザープロパティ: 基本設定 (page 60)*」を参照してください。

AJAX とWebView の言語設定変更

QlikView WebView は、**[ユーザープロパティ...]** で指定されている言語を使用します。AJAX では、AccessPoint および QlikView ドキュメントの両方に関し、英語が既定言語になっています。言語設定は QlikView AccessPoint 内で変更できます。参照 : *AccessPoint での優先言語の設定 (page 1561)* (詳細)。

2.5 QlikView Desktop のアップグレードと更新

QlikView Desktop をアップグレードまたは更新するには、以下のセクションにある手順に従ってください。

要件

Qlik NPrinting を使用している場合は、アップグレード先の QlikView のバージョンが、現在の Qlik NPrinting のバージョンと互換性があることを確認してください。Qlik NPrinting Engine のシステム要件 の Qlik NPrinting Engine Engine にある Qlik NPrinting システム要件を参照してください。Qlik NPrinting のアップグレードの詳細については、Qlik NPrinting のアップグレード を参照してください。

QlikView Desktop のアップグレード

QlikView Desktop をアップグレードするには、該当の新しいバージョンを≤製品のダウンロード からダウンロードし、インストール ウイザードの指示に従ってください。

詳細については、「インストールファイルのダウンロード」を参照してください。

アップグレード前のベストプラクティス

QlikView Desktop をアップグレードする場合、以下の基本原則を考慮する必要があります。

- QlikView Desktop をアップグレードする前に、有効なメンテナンス契約が結ばれていることをお確かめください。有効なメンテナンス契約がないままアップグレードを試みると、QlikView Desktop の機能が制限される結果となります。参照: アップグレードでのメンテナンス契約。
- QlikView Desktop のインストールでカスタム コネクターまたは拡張機能を使用している場合は、該当の機能が新バージョンでサポートされているかをアップグレードの前にご確認ください。サポート対象の機能は qlik.com のダウンロード セクションでチェックできます。

QlikView Desktop の更新

QlikView の **ヘルプ** メニューには、**[QlikView Update...]** オプションがあります。これを選択すると、インターネット上の QlikView アップデート サイトが開き、アップデート可能な QlikView が表示されます。アップデート情報は、お持ちの QlikView ライセンスとご利用の OS によって異なります。

3 QlikView の起動

スタート メニュー、**プログラム** から、もしくは QlikView ドキュメントをダブルクリックして QlikView を起動します。

次のセクションで説明するパラメーターを使用して、コマンド ラインから QlikView を起動することもできます。

3.1 コマンド ライン構文

QlikView のコマンド ライン呼び出しは、次の構文で記述できます。

*[path]***Qv.exe***[{ switch } documentfile]*

[path] は、ファイルのパスを現在のディレクトリへの絶対パスまたは相対パスで指定します。

documentfile::= [path] documentfilename
documentfilename は、ドキュメント ファイルの名前です。

スイッチ

スイッチを使用して、さまざまなオプションで QlikView を開始できます。

> *スイッチ /r、/rp、/l、/lp、/nodata は相互に排他的です。コマンドで使用できるのはそのうちの 1 つだけです。*

QlikView 開始スイッチ

Switch	説明
/r	ドキュメントを開き、リロードを実行して QlikView を閉じます。
/rp	ドキュメントを開き、部分的なリロードを実行して QlikView を閉じます。
/l	ドキュメントを開き、リロードを実行します。
/lp	ドキュメントを開き、部分的なリロードを実行します。
/nodata	項目とテーブル データを含まずにドキュメントを開きます。
/v	スクリプトの実行を開始する前に、変数に値を割り当てます。 構文は次のとおりです: /vVariableName=AssignedValue **/vMyVariable=12** */v を /nodata と一緒に使用することはできません。/v で定義された値は割り当てられません。*

Switch	説明
/NoSecurity	悪意のあるマクロやスクリプトに対抗するために QlikView ドキュメントに埋め込まれている QlikView セキュリティ対策を無効にします。害を及ぼす可能性があるコードを受け付けるかどうかをユーザーに確認する警告ダイアログは表示されません。  *このスイッチは、既知のドキュメントに対してのみ慎重に使用することをお勧めします。*

qv.exe /r*/vMyvar=123 abc.qvw*



バッチ モードでスクリプトを実行する際にエラー メッセージが表示されないようにするため、スクリプトのスクリプト変数 errormode は 0 に設定してください。

3.2 スタート ページ

スタート ページには、以下のテーブルに記載されている複数のセクションが含まれています。

- **例**: QlikView をさまざまな方法でどのように使用するかを学ぶためにチェックできます。
- **最近使用**: 最近開いたドキュメントとWeb ページのリストがあります。リストのいずれかをクリックするだけで、再度開くことができます。ドキュメントを右クリックすると、次の便利なコマンドを含むメニューにアクセスできます。
  - **データなしで「document」を開く**
    ドキュメントが開きますが、テーブルと項目のデータはスキップされます。すべてのシートとシート オブジェクトが配置されたレイアウトが表示されますが、中身は空です。この機能は、たとえば、破損したドキュメントを開く場合や、サイズの非常に大きいドキュメントのレイアウトを少し変更するだけのために、ドキュメントを開くのに長時間待たされるのを避ける場合に便利です (もちろん、ドキュメントにデータを追加するには、変更を行った後にスクリプトを再実行する必要があります)。これは、コマンド ライン スイッチ **nodata** で行うこともできます。
  - **"document" を開き、データをリロードする**
    ドキュメントを開き、直ちにリロードを実行します。
  - **フォルダ内のドキュメントを参照する**
    ドキュメントが含まれているフォルダをリスト表示で開きます。
  - **"document" をお気に入りに追加する**
    ドキュメントまたは Web ページをお気に入りリストに追加します。
  - **リストから "document" を削除する**
    最近使用したドキュメントのリストからドキュメントを削除します。実際のドキュメント ファイルは、現在ある場所に変更されずに残ります。
- **お気に入り**: お気に入りリストに以前に追加したドキュメントとWeb ページのリストがあります。最近使用したドキュメントのリストと異なり、お気に入りリストは項目を明示的に追加または削除しない限り、変更

されません。お気に入りリストのドキュメントまたはページをクリックするだけで、再度開くことができます。ドキュメントを右クリックすると、次の便利なコマンドを含むメニューにアクセスできます。

- **データを含まない "document" を開く**
  ドキュメントが開きますが、変数とテーブルと項目のデータはスキップされます。すべてのシートとシートオブジェクトが配置されたレイアウトが表示されますが、中身は空です。この機能は、たとえば、破損したドキュメントを開く場合や、サイズの非常に大きいドキュメントのレイアウトを少し変更するだけのために、ドキュメントを開くのに長時間待たされるのを避ける場合に便利です (もちろん、ドキュメントにデータを追加するには、変更を行った後にスクリプトを再実行する必要があります)。これは、コマンドラインスイッチ nodata で行うこともできます。
- **"document" を開き、データをリロードする**
  ドキュメントを開き、直ちにリロードを実行します。
- **フォルダ内のドキュメントを参照する**
  ドキュメントが含まれているフォルダをリスト表示で開きます。
- **お気に入りから "document" を削除する**
  お気に入りリストからドキュメントを削除します。実際のドキュメントファイルは、現在ある場所に変更されずに残ります。

- **追加学習**: QlikView についてさらに詳しく学ぶためのガイドや他のリソースが含まれています。チュートリアルやオンライントレーニング、QlikView Community などがあります。

新しいドキュメントを作成したい場合は、**新規ドキュメント** ボタンをクリックしてください。

QlikView は、最後に使用したタブを記憶するため、次回 QlikView を起動したときには、そのタブがスタートページに表示されます。プログラムを起動したときにスタートページが表示されない場合、**QlikView の起動時にスタートページを表示する** チェックボックスをオフにします。

スタートページは開いたままにすることができ、その場合、スタートページは **ウィンドウ** メニューに **スタートページ** として表示されます。スタートページを閉じた場合は、**ヘルプ** メニューから **スタートページの表示** を選択して、いつでも再度開くことができます。

3.3 サーバーへ接続

[サーバーへ接続] ダイアログは、QlikView Server 上の QlikView ドキュメントをリモートで開くために使用します。

QlikView Server のクライアントとしてドキュメントを開く場合は、ローカルドキュメントを開く場合に比べて、ドキュメントに対して実行できる操作が制限されます。クライアントは、ドキュメントが共有機能をサポートしているかどうかによって、シートオブジェクトを追加または削除できないことがあります。シートを追加または削除することはできません。さらに、大部分のプロパティダイアログとロードスクリプトにアクセスすること、マクロを変更すること、またはドキュメントを保存することができません。

[サーバー] に、QlikView Server を実行しているコンピュータの名前または コンピュータへの URL を入力します。次に **[接続]** をクリックして接続します。最近参照したサーバーをドロップダウンリストから取得できます。URL には、追加の接続データを挿入できます。

接続用疑似 URL (page 38)

接続すると、ダイアログの中央のパネルに QlikView Server 上の使用できるドキュメントフォルダが表示されます。フォルダをクリックすると、使用できるドキュメントがダイアログの一番下のパネル **名前** に表示されます。ドキュメントを開くには、ドキュメントをダブルクリックするか、ドキュメントを選択して **[開く]** ボタンをクリックします。

接続の設定

以下の設定により、使用する接続とサーバー認証の設定を構成できます。

接続リストをクリア

ボタンは **スタートページ** の **最近使用したサーバー** にあるリストを削除します。

認証

QlikView Server への認証方法を選択します。以下の 3 つの認証方法を使用できます。

- **NT の ID を使用**: 認証済みの NT の ID を使用します。これは、コンピュータが QlikView Server と同じ Windows NT ドメインに接続している場合にのみ機能します。
- **匿名**: 匿名ログインを使用します。QlikView Server が匿名ユーザーを許可するように設定されている場合にのみ接続できます。また、QlikView Server の匿名アカウントに対してファイルの許可を付与したドキュメントのみを参照できます。**[サーバー]** の接続用の疑似 URL には、サーバー名の前に @ を付けて入力する必要があります。
- **代替 ID**: QlikView Server のドメインに登録されている特定の NT ユーザー名を使用します。ユーザー名を **[ユーザーID]** 編集ボックスに入力します。**接続** ボタンを押すと、対応するユーザーのパスワードが求められます。**[サーバー]** の接続用の疑似 URL には、サーバー名の前に *ユーザー名*@ を付けて入力する必要があります。

階層を無視する

このチェックボックスをオンにすると、ダイアログの下部のパネルに、ツリービュー形式を使用せずにすべてのサブフォルダの内容を一度に表示します。

接続用疑似 URL

[サーバーから開く] ダイアログまたはリンクファイルのいずれかを経由して、デスクトップクライアントから QlikView Server に接続する場合は、疑似 URL をドキュメントアドレスとして使用します。

構文は次のとおりです。

qvp://[[username][@]]hostname[:port|;protocol]/docname

ここで

- *username* は Windows のユーザー ID ですパラメータはオプションです。
- *hostname* は、ホストコンピュータの名前です。パラメータは必須です。
- *documentname* は QlikView ドキュメントの名前 (qvf または qvw 拡張子は除く) です。パラメータはオプションです。
- *port* (4749 など) は、サーバーで使用される特定のポートを指定できます
- *protocol* (http など) は、トンネリングプロトコルを指定できますパラメータはオプションです。

username なしの@ は、匿名 ID を表します。

ユーザー ID を省略すると、ログインした Windows ID が使用されます。



QVP リンクは QlikView Desktop でのみ開くことができます。

3.4 バッチの実行

QlikView ドキュメントを定期的に (たとえば、毎晩) 更新する必要がある場合は、QlikView Server または QlikView Publisher で実行するのが最適です。

QlikView Server

QlikView Server は、QlikView の情報をホストし、インターネットやイントラネットを通して共有するプラットフォームを提供します。QlikView Server は、QlikView と強固に統合され、データ分析技術のシームレスなスイートをエンドユーザーに提供します。QlikView Server のサーバー コンポーネントはこの技術の中心として、複数のユーザー、クライアント、ドキュメント、そしてオブジェクトにセキュリティのかかった安全な環境で接続する、しっかり中央管理された QlikView ドキュメントのコミュニティを供給します。

QlikView Publisher

QlikView Publisher は、QlikView 製品ファミリのメンバーでコンテンツとアクセスを管理します。エンドユーザーに最新の情報を表示し、QlikView ドキュメントをパワフルな方法で管理できる QlikView Publisher は、QlikView スイートの付加機能です。

QlikView Publisher は、QlikView ドキュメントに保存されたデータを組織の内外のユーザーに配布します。データを削除することにより、各ユーザーにそのユーザーに関連した情報を表示できます。QlikView Publisher のサービスとユーザー インターフェースは、QlikView Server と QlikView マネージメント コンソール (QMC) に完全に統合されています。

QlikView Server または QlikView Publisher にアクセスがない場合は、スタンドアローン アプリケーションで QlikView ドキュメントを再度ロードできます。そのためには、コマンド ライン スイッチを使用します。

スケジュール プログラム

Windows には **タスク スケジューラ** サービスがあります。サービスは、[管理 ツール] からコントロールします。関連するサービスの **[状態]** が **[開始]** (再起動後に自動起動させるサービスの場合は、さらに **[スタートアップの種類]** が **[自動]**) に設定されていることを確認します。

通常、バッチ ジョブを送信する最も簡単な方法は、関連するコマンドを使用してバッチ ファイルを作成する方法です。たとえば、`MyBatch.cmd` というファイルに次のようなコマンドを含めることができます。

```
C:\qlikview\qv.exe /r C:\qlikview\example\file.qvw
```

スケジュール サービス

スケジュール サービスは、通常、システム アカウントで実行されるため、いくつかの制限があります。ネットワーク リソースにアクセスする必要がある場合は、サービスを再設定して別のアカウントで実行するようにしてください。QlikView ライセンスは、アカウント専用フォルダに格納されているため、使用するアカウントに対してライセンスが正しく登録されるようにする必要があります。それにはインタラクティブ ジョブを送信します。

タスクをスケジュールする詳細については使用しているオペレーティング システムのマニュアルを参照してください。

セクション アクセス

セクション アクセスを含む QlikView ファイルを再実行する場合は、バッチを実行するマシン上にインストールされているライセンス シリアル番号が、ユーザー名またはパスワードを入力しなくてもスクリプトの実行を許可されるかどうかを確認してください。以下の例を参照してください。

例

シリアル	User	パスワード	アクセス
作成者	-	-	管理
4600 9999 9999 9999	Joe	ppp789	管理
*	Joe	qqqq456	User
*	User	rrr123	User

ODBC

ODBC を使用する場合は、再実行を行うアカウントから DSN 定義を使用できるようにしてください。そのための最も簡単な方法は、ODBC コントロール パネルで DSN をシステム DSN として定義することです。

3.5 OLE DB とODBC

OLE DB

QlikView は、外部データ ソースに接続するための OLE DB インターフェースをサポートしています。ODBC ドライバの Microsoft OLE DB プロバイダを介して数多くの外部データベースにアクセスできます。

正しい OLE DB プロバイダはインストールされているか。

ファイル > ロード スクリプトの編集 > OLE DB 接続を選択すると、OLE DB プロバイダが正しくインストールされている場合、**データ リンク プロパティ**ダイアログが開かれます。接続できないことを示すエラー メッセージが表示される場合、インストールする必要があります。

ODBC インターフェースが必要となる場合

一般的なデータベースにアクセスする場合は、ODBC (Open DataBase Connectivity) インターフェースがインストールされている必要があります。また、データベースのデータを QlikView で読み取り可能なファイルにエクスポートする場合にも、ODBC インターフェースが必要です。

通常、オペレーティング システムには、いくつかの ODBC ドライバがインストールされています。また、ドライバを追加する場合は、ソフトウェア販売店から購入したり、インターネットで見つけたり、DBMS 製造元から配布を受けるなどして入手できます。無料で再配布されているドライバもあります。

ここでは、クライアント コンピュータ上にある ODBC インターフェースについて説明します。ODBC を使用してネットワーク サーバー上のマルチユーザー リレーショナル データベースにアクセスする場合、クライアントがサーバー上のデータベースにアクセスできるようにするには、DBMS ソフトウェアを追加することが必要になる場合があります。必要なソフトウェアの詳細については、DBMS 供給元に問い合わせてください。

QlikView は 32 ビット ODBC ドライバと 64 ビット ODBC ドライバで動作します。

正しい ODBC ドライバがインストールされていることの確認

64 ビットプラットフォームでは、32 ビットと64 ビットの両方のアプリケーションを使用できます。また、32 ビットと64 ビットの両方の ODBC ドライバを実行できます。

64 ビット バージョンの ODBC とQlikView を使用している場合は、**[管理ツール]** の **[コントロール パネル]** に **[ODBC データ ソース アドミニストレータ]** があります。

32 ビット バージョンの ODBC とQlikView を使用している場合は、実行可能ファイル odbcad32.exe を使用して 32 ビット用の ODBC アドミニストレータを起動する必要があります。このファイルは、SysWOW64 フォルダ (通常、c:\windows\SysWOW64) にあります。

Microsoft によれば、64 ビット バージョンのオペレーティング システムでは、system32 フォルダ (通常、c:\windows\system32) には 64 ビット ファイルのみが格納されています。32 ビット バージョンのファイルもある場合、ファイルは syswow64 フォルダにあります。詳細については、http://technet.microsoft.com を参照してください。

32 ビットのオペレーティング システムでは、すべてのファイルとドライバが 32 ビットであるため、設定は非常に単純です。

システムには、**ODBC データ ソース アドミニストレータ** がインストールされています。(64 ビット オペレーティング システム上で 32 ビットODBC を使用する場合は、`odbcad32.exe` を起動します)。

[ドライバ] タブに移動して、インストールされているドライバを確認します。

[ドライバ] ページで必要なドライバが見つからない場合は、ソフトウェア供給元に連絡して正しいドライバを入手してください。

ODBC データ ソースの作成

アクセスするデータベースの ODBC データ ソースを作成する必要があります。作成は、ODBC インストール時に行うことも、後で行うこともできます。

データ ソースの作成を開始する前に、データ ソースをユーザー データ ソースとシステム データ ソースのどちらにするかを決定する必要があります。ユーザー データ ソースは、正しいユーザー ID でログオンしないとアクセスできません。データ ソースを他のユーザーと共有する場合は、システム データ ソースを作成する必要があります。

1. **[ODBC データ ソース アドミニストレータ]** ダイアログを開きます。
2. ユーザー データ ソースを作成する場合は **ユーザー DSN** タブ、システム データ ソースを作成する場合は **システム DSN** タブに移動します。
3. **[追加]** ボタンをクリックします。**[データ ソースの新規作成]** ダイアログが表示され、インストールされている ODBC ドライバのリストが表示されます。
4. 正しい ODBC ドライバがリストされている場合は、それを選択して **[OK]** ボタンをクリックします。選択したデータベース ドライバに固有のダイアログが表示されます。データ ソースに名前を付け、必要なパラメータを設定します。準備ができたら、**[OK]** ボタンをクリックします。

4 QlikView ファイル

QlikView ドキュメントは、データの分析に必要な次のものがすべて含まれたファイルです。

- データそのもの
- QlikView ファイルをデータソースの新しいデータで更新するために必要なスクリプト
- シート、リストボックス、チャートなどのすべてを含むレイアウト情報
- ドキュメントアラート、ドキュメントブックマーク、およびドキュメントレポート
- アクセス制限情報
- マクロモジュール

このため、QlikView ファイルを使用すると情報を簡単に配布できます。分析は、元のデータの場所やネットワークの状態とは無関係に行うことができます。QlikView ドキュメントは、オリジナルのデータソースへのアクセス権の無いユーザーと情報を共有するための手段です。

4.1 QlikView プロジェクトファイル

QlikView ドキュメントを複数のファイルに保存し、バージョニングに使用することができます。それぞれのファイルが、ドキュメントやシート、オブジェクト、ロードスクリプトなどのプロパティを定義します。

ドキュメントが開かれ、オブジェクトや設定に変更が加えられるたびに、これらの変更は異なるファイルに保存され、ドキュメントの変更履歴を追跡しやすくします。これにより、ドキュメントのどの場所に誰が変更を加えたかを確認することもできます。

これらのプロジェクトファイルを作成するには、QVW または QVF ファイルと同じ場所に、QlikView ドキュメントと同じ名前に -prj を追加したフォルダを作成する必要があります。例えば、Finance.qvf ドキュメント用のプロジェクトフォルダは、Finance-prj となります。

prj フォルダー内のファイルは、対応する QVW ファイルが QlikView Desktop に保存されるときに更新されます。QlikView 管理コンソールからドキュメントを再ロードすると、ドキュメントは新しいデータで更新されますが、プロジェクトファイルには影響しません。

*QVW ファイルをコピーする場合は、QlikView Desktop で **[名前を付けて保存]** を使用してコピーを保存します。これにより、コピーに対応する prj ファイルが更新されます。prj フォルダーのファイルをフォルダー間でコピーしないでください。*

プロジェクトファイルに、ドキュメントファイルのデータが保存されることはありません。これは、ロードスクリプトを変更せずにドキュメントを再ロードしても、プロジェクトファイルには影響しないことを意味します。

プロジェクトフォルダ内のファイル

`QlikViewProject.xml` ファイルには、QlikView ドキュメントのすべてのオブジェクトが保存されます。

リストの異なるシートやオブジェクトの名前はオブジェクトIDから付けられています。プロジェクトファイルは次のとおりです。

- QlikViewProject.xml - プロジェクトに含まれるすべてのファイルのリストが含まれます。
- AllProperties.xml
- DocProperties.xml
- DocInternals.xml
- TopLayout.xml
- LoadScript.txt - ドキュメントのロードスクリプトが含まれます。
- Module.txt - ドキュメントのマクロコード(存在する場合)が含まれます。
- Module.txt - 各シートに1つのファイルが作成されます。さらにファイルには、シート上のすべてのシートオブジェクトへの参照が含まれます。
- 各シートオブジェクト用に独立したファイルが作成されます。
    - LB<id>.xml
    - SB<id>.xml
    - MB<id>.xml
    - TB<id>.xml
    - CH<id>.xml
    - IB<id>.xml
    - CS<id>.xml
    - BU<id>.xml
    - TX<id>.xml
    - LA<id>.xml
    - SL<id>.xml
    - SO<id>.xml
    - BM<id>.xml
    - CT<id>.xml
    - RP<id>.xml

DocProperties.xml や AllProperties.xml、DocInternals.xml、TopLayout.xml には、ドキュメントの異なる部分のプロパティ設定が含まれます。DocBinary.dat には、パスワードなどのユーザー機密データが含まれます。

4.2 ソース管理

*この機能は非推奨になりました。サポート終了前の最終バージョンのドキュメントを参照してください:*ソース管理

4.3 内部ファイル

QlikView レイアウトでのファイル参照

QlikView レイアウトでは、多くの場所で外部ファイルを情報または背景イメージとして参照できます。外部ファイルは、ローカル パスまたは URL で参照されます。

QlikView ドキュメントの内部ファイル

場合によっては、外部ファイルを QlikView ドキュメントに含めることが適していることもあります。

ロード スクリプトの **Load** ステートメントと **Select** ステートメントのプレフィックスである **info** に対して、**bundle** プレフィックスをその前に付けたり、置き換えて使用することができます。外部ファイルが読み取られ、QlikView ドキュメントに埋め込まれます。これにより、ファイルの内容を参照するための外部ファイルが不要になるため、QlikView ドキュメントはポータブル ドキュメントになります。

[INFO の表示] および info 関数では、埋め込みファイルが使用可能であれば自動的に使用します。埋め込みファイルの明示参照を示す構文は次のとおりです。

- qmem:*//fieldname/fieldvalue* |
- qmem:*//fieldname<index>*

ここで、*index* は、項目内の値の内部インデックスです。

```
'qmem://Country/Austria'
'qmem://MyField/34'
```

QlikView プログラム ファイルの内部ファイル

標準画像ファイルの小さなセットが QlikView プログラム自体に埋め込まれているため、特別な準備を行うことなく、すべてのドキュメントでこれを使用できます。

QlikView プログラム ファイルには画像ファイルと音声ファイルが一式埋め込まれており、使用することができます。これらは特別な準備を必要とせず、レイアウトから直接参照できます。参照の構文は次のとおりです。

- qmem://<builtin>/*filename*

ここで、*filename* は、以下にリストされたファイル名の 1 つです (拡張子を含む)。

```
'qmem://<builtin>/Arrow_N_G.png'
='qmem://<builtin>/Smiley'&if(sum(Result)<0,1,3)&'_Y.png'
```

矢印のイメージ

矢印には、8 種類の方向と 4 種類の色があり、表示できます。ファイル名は、単語 *Arrow* の後に方向が続く形式で示されます (*_N*、*_NE*、*_E*、*_SE*、*_S*、*_SW*、*_W*、または *_NW*)。その後に、緑色を表す *_G*、赤色を表す *_R*、そして黄色を表す *_Y* が続きます。ファイル名に色が指定されていない場合、灰色の矢印となります。

その他のイメージ

セットの中には、その他にも多くの画像が含まれています。これらは、通常複数の色で提供されます。以下に利用できる画像をリストにしました。

- Check.png
- Check_G.png
- Cross.png
- Cross_R.png
- Minus.png
- Minus_R.png
- Plus.png
- Plus_G.png
- Smiley1.png
- Smiley1_G.png
- Smiley1_Y.png
- Smiley2.png
- Smiley2_B.png
- Smiley2_Y.png
- Smiley3.png
- Smiley3_R.png
- Smiley3_Y.png
- Thumb1.png
- Thumb2.png
- Question.png
- Question_G.png
- Question_R.png
- Question_Y.png
- Exclamation.png
- Exclamation_G.png
- Exclamation_R.png
- Exclamation_Y.png

サウンド

複数のサウンドファイル (.wav) も、QlikView 内にバンドルリソースとして含まれています。ファイルは *qmem;//<bundled>/sounds*にあります。次のサウンドを使用できます。

- qv_bttn.wav
- qv_can.wav
- qv_clear.wav
- qv_load.wav
- qv_lock.wav
- qv_menu.wav
- qv_ok.wav
- qv_redo.wav

- qv_reex.wav
- qv_save.wav
- qv_scrpt.wav
- qv_ulock.wav
- qv_undo.wav



このリストは QlikView の今後のバージョンで変更される可能性があります。

4.4 QlikView ドキュメントの取得

外部からの QlikView ドキュメントへのアクセス

QlikView ドキュメントには、オートメーション インターフェースを使用して、QlikView プログラムの外部からアクセスすることができます。

既存のドキュメントにアクセスするための直接的な方法の 1 つは、GetObject を使用することです。



この例は、VBScript では機能しません。

```
Private Sub OpenAndReload_Click()
Set QvDoc = GetObject
("c:\windows\desktop\test.qvw")
QvDoc.Reload
End Sub
```

内部マクロ インタープリタからの QV ドキュメントへのアクセス

内部マクロ インタープリタを使用する場合は、Application クラスの ActiveDocument プロパティのみを参照として使用できます。すべての参照は、このプロパティから作成する必要があります。

```
Sub Clr
Set QVDoc = ActiveDocument
QvDoc.ClearAll(false)
End sub
Sub EndQV
ActiveDocument.Application.Quit()
End sub
```

5 新規作成ウィザード

新規作成ウィザードでは、次のステップに従ってデータのロードやチャートの作成を行い、QlikView ドキュメントを作成します。

5.1 新規作成ウィザードの起動

QlikView ドキュメントの新規作成を行うと、新規作成ウィザードが起動します。

QlikView ドキュメントの新規作成時にウィザードを表示するかどうかを、ウィザードの最初のページで設定できます。この設定は、**ユーザープロパティ**ダイアログ (**設定** メニューから開きます) でも行えます。

5.2 ステップ 1 - データソースの選択

ウィザードで取り扱えるファイルは Excel ファイルのみです。データファイルを**参照** します。ロードできるのは Excel ファイルの最初のシートのみのとなりますのでご注意ください。データが Excel 形式でない場合、**スクリプト エディタ** を使用してデータを選択する必要があります。

弊社からデータを借りて使用する必要がある場合は、**データを挿入** をクリックしてください。

次のステップをクリックして続行します。

5.3 ステップ 2 - データのプレゼンテーション

データを確認し、Excel シートの 1 行目を列見出しとするか、新規に入力するかを選択します。列のヘッダーは、**項目名** とも呼ばれます。

データソースで定義されているヘッダーを使用するには、**ファイルのデータを列見出しとして使用する** を選択します。新規に列のヘッダーを作成する場合、**列見出しを追加する** を選択します。各列には、A、B といった形式のヘッダーが付けられます。新しいヘッダーを入力するには、見出し (例えば、A) をクリックし、新しい見出しを入力します。ヘッダーをそのままにするには Enter をクリックします。

次のステップをクリックして続行します。

5.4 ステップ 3 - ファイルの保存

名前を付けて保存 ダイアログで、QlikView ファイルを保存するフォルダを参照し、ファイル名を入力します。

保存 ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

ファイル パスを変更するには、**名前をつけて保存** ボタンをクリックし、**名前をつけて保存** ダイアログを再度開きます。

次のステップをクリックして続行し、チャートを作成します。

5.5 ステップ 4 - チャートの種類の選択

作成するチャートに対応するアイコンをクリックし、チャートの種類を選択します。QlikView で最もよく使用されるチャートの種類から選択できます。ウィザード終了後、チャートの **チャートプロパティ** ダイアログから、QlikView の他の種類のチャートに変更できます。

次のステップ をクリックして続行します。



*このステップで、**戻る** ボタンは無効となります。*

5.6 ステップ 5 - チャートの自動入力

軸

ドロップダウン ボックスで軸を選択します。

軸は、チャート式の計算の対象となる値を定義します。軸は、通常、テーブル チャートでは左側、棒グラフなどでは x- 軸に表示されます。

数式

チャートの数式は、チャートの計算値を定義します。数式は、通常、テーブル チャートの右側、棒グラフなどでは y 軸に表示されます。

QlikView では、短くて単純な数式から長くて複雑な数式までさまざまな数式を作成できます。このステップでは、3 つのよく使用される数式から選択を行えます。

- **合計値の計算:**
  sum(Sales) といった項目の数値合計を表示する場合は、このオプションを選択します。次に、ドロップ ダウン リストで合計する項目を選択します。
- **平均値の計算:**
  avg(Score) といった項目の数値の平均を表示する場合は、このオプションを選択します。次に、ドロップ ダウン リストで計算する項目を選択します。
- **数値のカウント:**
  count(OrderID) といった項目で値の数を表示する場合は、このオプションを選択します。次に、ドロップ ダウン リストでカウントする値の項目を選択します。

チャートをもうひとつ作成したい場合は、**2 番目のチャートを作成** をクリックします。これによりステップ 4 に戻ります。

次のステップ をクリックして続行します。

5.7 ステップ 6 - 選択を行うためにオブジェクトを追加

選択を行うために使用したいオブジェクトの種類を選びます。

リスト ボックス:
リストボックスを作成したい項目を選択します。このウィザードでは最高 5 つの項目を選択できますが、ドキュメントの作成後はさらに項目を追加できます。

テーブル ボックス:
このオプションでは、自動的に利用可能な項目をすべて含めて、テーブルに配置します。

作成をクリックしてウィザードを閉じ、ドキュメントを作成します。

ウィザード終了後は、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでも軸と数式の追加や変更が可能になります。チャートプロパティを開くには、チャートを右クリックし、**プロパティ**を選択します。

6 ユーザー インターフェースの操作

このセクションでは、QlikView でのナビゲーションと操作について説明します。

6.1 メニュー コマンド

この章で説明するメニューは、画面の上部のメニュー バーにあります。ほとんどのコマンドをツールバーにボタンとして設定することもできます。

[ファイル] メニュー

ファイル メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- **新規作成**: 新しい QlikView ウィンドウを開き、新しい QlikView ファイルを作成できるようにします。
- **開く...**: 新しい QlikView ウィンドウを開き、QlikView ファイルまたはテーブル ファイルを開くことができます。テーブル ファイルを開く場合、自動的に**ファイル ウィザード**が開きます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+O。
- **サーバーで開く...**: QlikView Server に接続し、クライアント モードで開くドキュメントを参照できるダイアログを開きます。
  このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: Ctrl+Shift+O。

  > *QlikView Server のクライアントとしてドキュメントを開く場合は、ローカル ドキュメントを開く場合に比べて、ドキュメントに対して実行できる操作が制限されます。クライアントは、ドキュメントが共有機能をサポートしているかどうかによって、シート オブジェクトを追加したり削除できないことがあります。シートを追加または削除することはできません。さらに、すべてのプロパティダイアログへアクセスできるわけではありません。マクロの変更、スクリプトへのアクセス、データのリロード、またはドキュメントの保存は実行できません。*

- **ドキュメントの更新**: このコマンドは、QlikView Server で開いたドキュメントで、サーバー上にそのドキュメントの新しいバージョンがある場合にのみ使用できます。更新コマンドを呼び出すと、最新のデータにアクセスできますが、選択条件やレイアウトの状態などのユーザーのセッションは保持されます。
- **URL を開く...**: **URL を開く**ダイアログを開きます。このダイアログで、Web ページへの有効な URL を入力します。Web ページは、QlikView 内の別ウィンドウに開きます。この機能は、たとえば、QlikView Publisher AccessPoint や AJAX クライアントを介して QlikView Server のドキュメントを表示するページに使用できます。開いた Web ページは、標準の QlikView ドキュメント ウィンドウと同様に**ウィンドウ** メニューからアクセスできます。
- **FTP を開く...**: 新しい QlikView ウィンドウを開き、FTP サーバーから QlikView ファイルまたはテーブル ファイルを開くことができます。テーブル ファイルを開く場合、自動的に**ファイル ウィザード**が開きます。
- **閉じる**: アクティブな QlikView file を閉じます。
- **お気に入り**: このカスケードメニューは、ユーザー定義のお気に入りドキュメントのリストを制御します。このリストは、**最近使用したドキュメント**リスト(以下を参照) とは個別に管理されます。
- **保存**: 現在の設定を QlikView ファイルに保存します。データ、スクリプト、およびレイアウトが保存されます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+S。AJAX クライアントを使用している QlikView ドキュメントを共有したい場合、ファイル名にはハッシュ(#) 記号は使用できません。

- **名前を付けて保存...**: 現在の設定を新しい名前で新しい QlikView ファイルに保存します。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: F12。AJAX クライアントを使用している QlikView ドキュメントを共有したい場合、ファイル名にはハッシュ (#) 記号は使用できません。
- **リンクの保存...**: QlikView Server 上で開いているドキュメントへのリンクを、ローカル マシンにテキスト ファイルとして保存します。ファイルには拡張子 qvw が付きますが、データやレイアウトは含まれません。このようなリンク ドキュメントを開くと、サーバーへの再接続が試みられ、ドキュメントが QlikView Server 上で開かれます。このコマンドはローカル ドキュメントには使用できません。
- **添付ファイルとしてメール送信...**: ローカル ドキュメントで作業している場合にのみ使用できます。現在の QlikView ドキュメントのコピーを添付したメールを作成します。メールの受信者は、QlikView へのアクセス権およびドキュメントへのアクセス権 (セクション アクセス セキュリティが使用されている場合) を持っていれば、QlikView ドキュメントを開くことができます。このコマンドが機能するには、コンピュータに電子メール クライアントが設定されている必要があります。
- **ブックマークをリンクとしてメール送信...**: QlikView Server ドキュメントの作業中のみ使用できます。現在のサーバー ドキュメントへの URL リンクを含む電子メールを作成します。レイアウトの状態を含む一時的なサーバー ブックマークが作成され、URL にエンコードされます。メール受信者は、ドキュメントとそのデータへのアクセス権がある場合、URL リンクを使用してサーバー ドキュメントを開き、送信者と同じ内容を確認できます。このコマンドが機能するには、コンピュータに電子メール クライアントが設定されている必要があります。QlikView Server は、サーバー ブックマークを許可する設定になっている必要があります。
- **印刷...**: 標準の **印刷** ダイアログを開き、現在のシート オブジェクトを印刷できます。このコマンドはリスト ボックスには使用できません。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+P。
- **PDF として印刷...**: *Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: Ctrl+Shift+P.
- **選択可能値の印刷...**: 標準の **印刷** ダイアログを開き、現在のリスト ボックスの選択可能 (選択済みおよびオプション) な値を印刷できます。このコマンドはリスト ボックスにのみ使用できます。
- **PDF として可能な項目を印刷...**: リスト ボックスやマルチ ボックスを PDF として印刷する場合は、このコマンドを使用する必要があります。
- **シートの印刷...**: **印刷** ダイアログを開き、現在のシートの画像を印刷できます。
- **印刷プレビュー...**: 印刷可能なシート オブジェクトのプレビューを表示します。
- **ソース管理**

  > *この機能は非推奨になりました。サポート終了前の最終バージョンのドキュメントを参照してください:ファイル メニュー*

- **エクスポート**:
  - **コンテンツのエクスポート...**: この代替値は、エクスポート可能なシート オブジェクトがアクティブな場合にのみ使用できます。その場合、シート オブジェクトの **[オブジェクト]** メニューにあるエクスポート操作を実行します。
  - **シート画像のエクスポート...**: 現在のシートの画像をファイルに保存するためのダイアログを開きます。

    - **ドキュメント レイアウトのエクスポート**: ドキュメント レイアウトを XML ファイルとして保存するためのダイアログを開きます。保存される XML ファイルには、ドキュメントのデータは含まれません。
- **スクリプトの編集...**: **スクリプトの編集** ダイアログを開きます。ここでは、データベースを開いて接続するロード スクリプトを入力したり実行することができます。
- **リロード**: 現在のロード スクリプトを実行し、アクティブな QlikView ドキュメントにデータをリロードします。最後のリロード実行以降にデータベースの内容が変更された場合は、この操作を実行する必要があります。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+R。
- **部分 リロード**: **Drop table** など、すべてのスクリプト コマンドを含む現在のロード スクリプトを実行し、アクティブな QlikView ドキュメントにデータをリロードします。けれども、**Replace** や **Add** プレフィックスが付く load や select ステートメントを持つテーブルのみがリロードされます。このタイプの load ステートメントまたは select ステートメントの影響を受けないデータ テーブルは、パーシャル リロードの影響も受けません。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+R。
- **データの削減**: 次の 2 つのコマンドを含むメニューを開きます。
    - **可能値の保持**: すべての除外値を削除して QlikView データベースを縮小します。
    - **すべての値を削除**: QlikView データベースからすべての値を削除し、データベース構造とレイアウトを保持してテンプレートを作成します。
- **テーブル ビューアー...**: [テーブル ビューアー] ダイアログが開かれ、このダイアログで、テーブル、項目、関連付けを視覚的に表示してロードされたデータの構造を調べることができます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+T。
- **最近使用したドキュメント リスト**: 直近に使用した QlikView ドキュメントの一覧です。表示されるドキュメントの数は、**ユーザー プロパティ** ダイアログで設定できます。デフォルトは 8 です。リストの中からひとつ選択することは、**開く** コマンドを使用するのと同じです。
- **終了**: 開いているドキュメントを閉じ、QlikView を終了します。

[編集] メニュー

[編集] メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

編集 メニュー コマンド

コマンド	説明
レイアウト変更を元に戻す	シート オブジェクトの移動、サイズ変更、削除、およびシート オブジェクト プロパティの変更を含む最後に行ったレイアウト変更を元に戻します。シートの削除、シート プロパティの変更、ドキュメント プロパティの変更も元に戻すことができます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+Z。
レイアウト変更のやり直し	直前に元に戻したレイアウト操作をやり直します。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+Y。

コマンド	説明
切り取り	QlikView ドキュメントの他の場所に貼り付けるために、選択したシート オブジェクトを切り取って **クリップボード** にコピーします。アクティブなシート オブジェクトが 1 つだけの場合、そのオブジェクトのイメージ (他のプログラムにも貼り付けできる) も **クリップボード** に格納されます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+X。
コピー	QlikView ドキュメントの他の場所に貼り付けるために、選択したシート オブジェクトを **クリップボード** にコピーします。アクティブなシート オブジェクトが 1 つだけの場合、そのオブジェクトのイメージ (他のプログラムにも貼り付けできる) も **クリップボード** に格納されます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+C。
貼り付け	**Clipboard** から 1 つ以上のシート オブジェクトを QlikView ドキュメントに貼り付けます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+V。
書式のコピー/貼り付け	1 つのシート オブジェクトから別のシート オブジェクトに書式をコピーできます。
削除	選択したシート オブジェクトを削除します。削除を実行する前にこのコマンドの実行を確認するメッセージがユーザーに表示されます。
すべて選択	シート上にあるすべてのシート オブジェクトをアクティブにします。同様の結果を得るには、アクティブにするシート オブジェクトの周りを四角にクリック アンド ドラッグする、もしくは SHIFT キーを押しながらクリックする方法があります。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+A。
検索	検索可能なシート オブジェクト (リスト ボックスや開かれているマルチ ボックス) がアクティブな場合、[テキスト検索] ボックスが開きます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+F。
あいまい検索	検索可能なシート オブジェクトがアクティブな場合、テキスト検索 ボックスをあいまい検索 モードで開きます。
高度な検索	リスト ボックスまたは開かれているマルチ ボックスがアクティブな場合、**[高度な検索]** ダイアログを開きます。このダイアログで、詳細な検索式を入力できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+F。
コピー モード	論理 モードからコピー モードに切り替えます。コピー モードでは、クリックされた値は、QlikView の論理状態を変更せずに **クリップボード** にコピーされます。コピー モードを選択すると、**[クリップボード コピー リスト]** ダイアログが開きます。このダイアログでは、コピーされた項目が表示されます。コピー リストの書式もここで設定できます。

[表示] メニュー

表示 メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- **シート**: 選択すると、カスケード メニューでドキュメントにあるすべてのシートのリストが表示され、それらは左から右に表示されます。
- **ツールバー**: 選択すると、カスケード メニューが開き、ドキュメントと合わせて表示したいツールバーを有効にできます。次のツール バーはすべて別々に使用できます。**標準 ツール バー**、**ナビゲーション ツール バー**、**デザイン ツール バー**、**シート ツール バー**、**ブックマーク ツール バー**。リストの最後にある **[ユーザー設定 (ツールバー)...]** オプションでは、ユーザーの好みに合わせてツールバーを設定できます。
  標準、**ナビゲーション**、**デザイン** ツールバーには、それぞれに適切な名前で分かるメニュー コマンドがあらかじめ設定されています。**シート**と**ブックマーク** ツールバーは、ドロップダウン リストとして定義され、それぞれシートとブックマークのナビゲートに使用するオプションを提供します。ツールバーの内容と機能性は、**ユーザー設定** オプションによって色々な方法で設定できます。

  すべてのツールバーや同じくメニュー バーの一番左に、縦のドット マークが表示されます。ここをクリック アンド ドラッグすると、標準的な Windows 方式でバーをドッキングしたり切り離したりできます。

- **ステータスバー**: ステータス バーのオン/オフを切り替えます。
- **ズーム**: 異なる画面解像度により良くフィットするようにシート領域を 25% ずつズームできます。他の **[ズーム]** 倍率は **[シート プロパティ: 基本設定]** ページ内) を変更します。
- **サーバー オブジェクト**:**[サーバー オブジェクト]** パネルのオン/オフを切り替えます。
- **ウィンドウ サイズ変更**: このオプションでは、QlikView ドキュメントのウィンドウ サイズをいくつかの一般的な画面解像度のいずれかに設定できます。
- **ウィンドウ サイズにズームを変更**: アクティブなシートとシート上のすべての表示サイズを変更し、ウィンドウのサイズに収めます。
- **すべてのシートにズームを適用**: アクティブなシートを表示する **ズーム** 設定が、ドキュメント内のすべてのシートに適用されます。
- **デザイン グリッド**: デザイン グリッド、アクティブなオブジェクトのシート オブジェクト プレースホルダ、およびレイアウトでオブジェクトのサイズ設定や移動を行うための位置合わせ機能付きグリッドのオン/オフを切替えます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+G。
- **WebView モードのオン/オフ**:QlikView 内で Web ブラウザを使用してドキュメントを AJAX モードで表示する WebView モードのオンとオフを切り替えます。
- **現在の選択条件**: 項目名と項目値で選択をリストする **[選択表示 ウィンドウ]** ダイアログを開きます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+O。

[選択] メニュー

選択 メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- **戻る**: 前の論理状態に戻します。値の選択と **[選択]** メニューのすべてのコマンドに適用されます。QlikView には、最新の 100 の状態の履歴が保持されます。**元に戻す** コマンドごとに、履歴を 1 つ前に戻します。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: Shift+左矢印キー。
- **やり直し**:**[元に戻す]** 前の論理状態に戻します。**元に戻す** と **やり直し** コマンドを交互に繰り返すことによって、2 つの状態を切り替えます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: Shift+右矢印キー。

- **ロック**: 現在の値の選択をすべてロックします。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+L
- **アンロック**: 現在のロックされている値の選択をすべて解除します。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+U。
- **クリア**: QlikView ドキュメントの開始選択条件を適用します。これは、設定することが可能です。以下の **クリア選択状態の設定** を参照してください。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+D。
- **すべての選択をクリア**: ロックされている条件は除いて、現在の選択条件をすべてクリアします。
- **すべてをアンロックしてクリア**: 現在の値の選択をすべてクリアします。
- **クリア ステートの設定**:**クリア選択状態** として現在の選択条件を設定します。**[ブックマークに含める]** オプションが設定された変数は、**[クリア選択状態の設定]** を実行すると元の値に戻ります。
- **クリア ステートのリセット**:**クリア選択状態** を解除します。

[レイアウト] メニュー

レイアウト メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

レイアウト メニュー オプション

オプション	説明
シートの追加	新しいシート オブジェクトを表示できるタブ付きシートを追加します。 QlikView Server でドキュメントを操作している場合でも、新しいシートをレイアウトに追加できます。
シートを左へ	現在のシート(のタブ) を 1 つ左 (前) に移動します。
シートを右へ	現在のシート(のタブ) を 1 つ右 (後ろ) に移動します。
シートの削除	アクティブなシートとその上にあるものをすべて削除します。
リストボックスの追加	**[シートプロパティ]** ダイアログの **[項目]** ページを開きます。リストからひとつ、もしくは複数の項目名を選択できます。選択された項目は、アクティブなシートにデフォルト設定のリストボックスとして表示されます。リストボックスに特定のプロパティを設定するには、右クリックして表示されるメニューから(もしくはメイン メニューの **[オブジェクト]** から) **プロパティ** を選択します。このコマンドは、QlikView Server でドキュメントを操作している場合は、使用できません。
シートオブジェクトの追加	カスケード メニューが開かれ、さまざまなシート オブジェクトの作成を選択できます。オブジェクトが作成されると、対応する [プロパティ] ダイアログが表示され、新しいオブジェクトを設定できます。 QlikView Server でドキュメントを操作しているときでも、以下の場合には新しいシート オブジェクトをレイアウトに追加できます。 a) ラインセンが有効 b) サーバー ドキュメントがサーバー オブジェクトを許可するように設定されている c) QlikView Server がサーバー オブジェクトを許可するように設定されている

オプション	説明
シートオブジェクトの整列	アクティブなシート上にシートオブジェクトを自動的に配置します。
オフスクリーン オブジェクトを整列する	QlikView ウィンドウの表示領域より外側にあるすべてのシートオブジェクトを表示領域の内側に配置し直します。
配置/整列	シートオブジェクトの配置は、**左揃え**、**中央揃え** などいくつかある設定で決定できます。

項目の選択

[シートプロパティ: 項目] ページは、メイン メニューの **[レイアウト]** メニューから **[項目の選択]** を選択して開きます。ここで、現在のアクティブなシートに表示する項目を選択できます。

- **利用可能な項目**: この列にはデータソース項目の名前が表示されます。初めは、すべての項目 (システム項目以外) がこの列に表示されます。システム項目を表示するには、**[システム項目の表示]** チェックボックスをオンにします。
- **リスト ボックスで表示の項目**: この列には、現在のシートに表示するために **[項目]** リストから選択された項目名が表示されます。初めは、この列に表示される項目はありません。
- **追加 >**: 選択項目を **項目** 列から **リスト ボックス表示項目** 列に移動します。
- **すべて追加 >>**: すべての項目を **項目** 列から **リスト ボックス表示項目** 列に移動します。
- **< 削除**: 選択項目を **リスト ボックス表示項目** 列から **項目** 列に移動します。
- **テーブルの項目を表示**: ここで、**項目** リストにどの項目を表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **すべてのテーブル** を表示します。**すべてのテーブル (テーブル名表示)** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(この代替値は、表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの **Qualify** 項目とは関係ありません。) 一度に表示できるのは、1 つのテーブルの項目のみです。
- **システム項目の表示**: [システム項目] を **[項目]** にリスト表示します。
- **OK**: 変更が実施されます。
- **キャンセル**: 変更を破棄し、ダイアログ ボックスを閉じます。

使用する、もしくは削除する項目をクリックして選択し、**追加>** や **<削除** ボタンを使用して列を移動させます。2 つの列に表示される項目はすべて、QlikView のロジックに含まれ、右の列にあるものだけ現在のシートに表示されます。

選択した項目を表示する **リスト ボックス** は、シートのデフォルト設定です。リスト ボックスに表示を変更するには、右クリックして表示される [オブジェクト] メニューから **プロパティ** を選択します。

リストにない項目を選択することはできません。これには、新しいスクリプトを実行する必要があります。

[設定] メニュー

設定 メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- **ユーザープロパティ**: このダイアログには、ドキュメントを切り替えても、通常変更されない設定が含まれます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+ALT+U。
- **ドキュメントプロパティ**: このダイアログには、ドキュメント全体に関する設定が含まれます。このダイアログでは、ドキュメントのシート オブジェクトの一般的なプロパティもいくつか設定できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+ALT+D。
- **シートプロパティ**: このダイアログには、現在のシートに関する設定が含まれます。このダイアログでは、シートのシート オブジェクトの一般的なプロパティもいくつか設定できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: Ctrl+Alt+S。ページ下部のリンクを参照してください。
- **変数一覧**: このダイアログは、隠し変数以外のすべての変数を 1 つのリストに表示します。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+ALT+V。
- **数式一覧**: すべてのドキュメント式、シート式、およびシート オブジェクトの数式を 1 つのリストに表示して集中的に管理できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+ALT+E。

[ブックマーク] メニュー

[ブックマーク] メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

ブックマーク メニュー コマンド

コマンド	説明
ドキュメント ブックマーク	アクティブなドキュメントの最初の 10 つのドキュメント ブックマークをリストから取り出します。
ユーザー ブックマーク	アクティブなドキュメントの最初の 10 つのマイ ブックマークをリストから取り出します。
ブックマークの追加	このダイアログからブックマーク名を編集できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+B。
ブックマークの上書き	最初の 10 個のドキュメント ブックマークが、最初の 10 個のマイ ブックマークの上にリスト表示されます。選択したブックマークの選択状態を現在の状態に置き換えます。
ブックマークの削除	最初の 10 個のドキュメント ブックマークが、最初の 10 個のマイ ブックマークの上にリスト表示されます。選択したブックマークを削除します。
詳細	**[ブックマーク]** ダイアログが開き、ドキュメントで作成したすべてのブックマークを表示します。
インポート	保存したブックマーク (.qbm) ファイルを参照して選択すると、**[ブックマークのインポート]** ダイアログが開き、ブックマークをインポートできます。
エクスポート	このダイアログから、選択したブックマークを QlikView bookmark (.qbm) ファイルにエクスポートできます。

レポート メニュー

QlikView の画面上部にある**[レポート]** メニューには、**[レポートの編集]** コマンドがあります。**[レポートの編集]** ダイアログが開き、新しいレポートの作成や既存レポートの編集を行えます。このダイアログから、レポートの削除/選択、レポートのレイアウトのデザイン、ページやイメージの追加などを行うこともできます。[レポートの編集] には、使用可能なレポートがすべてリストされ、すばやく選択できます。レポートは、名前で検索するか、ドロップダウンから選択できます。

レポートには、ドキュメントに保存される **ドキュメント レポート**と、ユーザーのコンピュータに個別に保存される **マイ レポート** があります。

[ツール] メニュー

ツール メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- **モジュールの編集...**: **[モジュールの編集]** ダイアログが開かれ、マクロを作成できます。
- **QlikView AccessPoint を開く** QlikView AccessPoint を QlikView Desktop 内の HTML ウィンドウで開きます。このコマンドは、**ユーザー プロパティ: パス** ページで QlikView AccessPoint の URL が設定されている場合のみ使用できます。

  > *ドキュメントは、QlikView Desktop 内部の AccessPoint から QlikView プラグインで開けません。*

- **QlikView 管理コンソールを開く** QlikView マネージメント コンソール/QlikView Enterprise 管理コンソールを QlikView Desktop 内の HTML ウィンドウに開きます。このコマンドは、**ユーザー プロパティ: パス** ページで QlikView Management Console/QlikView Enterprise Management Console の URL が設定されている場合のみ使用できます。
- **Quick Chart Wizard...**: このウィザードでは、多数のさまざまな設定やオプションに煩わされずに、簡単にすばやくシンプルなチャートを作成できます。
- **タイム チャート ウィザード...**: このウィザードでは、特定の計算基準 (数式) を設定して、今年、去年、過去 1 年間など異なる期間で比較を行う、チャートを作成するための共通するタスクを提供します。
- **統計チャート ウィザード...**: このウィザードでは、QlikView で一般的な統計テストをデータに適用するためのガイダンスが提供されます。
- **ボックス プロット ウィザード**: このウィザードでは、統計データの表示によく使用されるコンボ チャートを作成します。
- **アラート...**: **[アラート]** ダイアログが開かれ、アラートを定義および編集できます。
- **アラート ウィザード...**: このウィザードでは、アラートを簡単に定義できます。
- **テーマ作成 ウィザード**: このウィザードを使用して、新しいテーマを作成したり、既存のテーマを編集したりできます。

[ウィンドウ] メニュー

[ウィンドウ] メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- **重ねて表示**: ウィンドウが重なるように配置します。
- **並べて表示**: ウィンドウを重ならないように並べて配置します。

- **アイコンを整列**: ウィンドウの下部にアイコンを配置します。
- **使用できるドキュメント**: 開いているQlikView ドキュメントの拡張されたリスト(10 を超える) を表示し、追加のドキュメント情報を提供します。ドキュメントを選択すると、それがアクティブなウィンドウとなります。

開いているドキュメント

[開いているドキュメント] ダイアログは、10 個を超えるドキュメントを同時に開いているときに、アクティブなドキュメントを切り替えるために使用できます。リストでドキュメントを選択し、**[選択]** をクリックすると、そのドキュメントをアクティブなウィンドウにできます。

このダイアログには、特定のQlikView ドキュメントで不具合が生じた場合にレポートが必要な豊富なサポート情報も含まれています。列は次のとおりです。

使用できるドキュメント項目

項目	説明
[Document] (ドキュメント)	QlikView ドキュメントの名前。ダイアログの下部にある **[ドキュメントのフルパスを表示]** チェックボックスがオンの場合、ドキュメント名は完全ファイル パスと共に表示されます。
接続	**Local** (ローカル コンピュータで開かれているドキュメント) または **Remote** (QlikView Server で開かれているドキュメント)。
クライアント ビルド番号	QlikView クライアントのビルド番号。
サーバー ビルド番号	リモート ドキュメントの QlikView Server のビルド番号。
クライアント NT 名	NT 認証に接続するときの、クライアント ユーザーの Windows NT 認証 ID。
ドキュメント バージョン情報	ドキュメントを最後に保存したQlikView のバージョンに関する完全な情報 (ローカル ドキュメントにのみ使用可能)。

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- **コンテンツ**: QlikView ヘルプを開きます。
- **ヘルプの使用**: QlikView ヘルプの使い方に関して役立つ情報を表示します。
- **スタート ページの表示**: QlikView を起動するたびにスタート ページを表示します。プログラムを起動したときにスタート ページを表示しない場合は、スタート ページの左下隅にある **[QlikView の起動時にスタート ページを表示]** チェック ボックスをオフにします。
- **ライセンス更新**: ダイアログを開き、ライセンス認証ファイルを表示または編集できます。
- **ドキュメント サポート情報**: このダイアログには、アクティブなドキュメントに関するサポート データのリストを表示します。
- **QlikView について**:**Qlikview について** ダイアログが開かれ、QlikView のバージョン、シリアル番号、所有者名が表示されます。

ライセンス認証 ファイル エディタ

ここでは、ライセンス認証 ファイルを表示 または編集 できます。

現在のライセンス キーは、QlikView ライセンスのシリアル番号 で、通常プログラムをインストールするときに入力します。**ユーザープロパティから後で入力 または編集 することもできます。ライセンス** ダイアログです。ライセンス キーなしに QlikView を起動することも可能です。この場合、QlikView サーバーからライセンスを付与されている (Named CAL) か、または パーソナル エディションの QlikView を使用しているかのどちらかになります。

現在のライセンス認証 ファイルは、ライセンス キーをアクティブ化 (有効化) するために必要な、インストール済みライセンスに関連する情報を含むテキスト ファイルです。ライセンス キーがあってもこのテキスト編集 ボックスが空の場合、コンピュータがインターネットに接続されていることを確認し、下にある **ライセンス認証 サーバーに接続** ボタンをクリックします。

ライセンス認証 ファイルのトラブルシューティング

ライセンス認証 ファイル (LEF ファイル) は、QlikView ライセンス キーの有効性を確認するために必要です。ライセンスの初期化中に、インターネットを介して Qlik LEF サーバーに接続し、指定されたライセンス情報が確認されると、LEF ファイルが自動的にコンピューターに転送されます。通常の環境では、LEF 手続きはバックグラウンドで実行されるため、その実行に気付くことはほとんどありません。ただし、LEF サーバーに接続できない場合やファイアウォールによって LEF ファイルの転送が妨げられた場合は、この手続きが失敗することがあります。このようなことが起こると、**[ライセンス認証 未完了]** ダイアログが表示され、発生した問題について知らせてくれます。

有効な LEF ファイルを取得する権利があるのに通常の手続きでは取得できない場合は、代わりに Qlik サポートから直接取得できます。テキスト ファイルを LEF エディタに直接コピーする場合は、テキストの末尾に空白が含まれないようにしてください。

QlikView 設定 ファイル

QlikView の設定はすべてレジストリではなくファイルに保存されます。ini ファイルは、*C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\QlikTech\QlikView* にあります。

QlikView OCX の設定も同じファイルにあります。

ドキュメント サポート情報

このダイアログには、アクティブなドキュメントに関するサポート データのリストを表示します。たとえば、ソース ドキュメントが縮小され、ユーザー ドキュメントとして発行されている場合は、タスク名と実行時間を見ることができます。特定の QlikView ドキュメントに関連するかも知れない不具合やバグをレポートするときには、この情報を参照する必要があります。QlikView ローカル ドキュメントにのみ関連している行と、リモート ドキュメントについてのみ言及している行がありますのでご注意下さい。

クリップボードにコピー ボタンで、ダイアログの内容をコピーし、テキスト ドキュメントに貼り付けて添付したり、都合が良ければ直接サポートの E メールに貼り付けたりできます。

6.2 ユーザープロパティ: 基本設定

ユーザープロパティはユーザーの作業方法に関する設定で、ドキュメント ファイルではなく、コンピュータに保存されます。

ユーザープロパティ: (基本設定)

- **システム項目の表示**: 選択すると、**[システム項目]** が項目名のリストの中にデフォルトで含まれます。
- **システム変数の表示**: 選択すると、**システム変数** が変数のリストの中にデフォルトで含まれます。
- **サウンドの使用**: QlikView に音声効果を組み込めます。
- **未使用のビットマップを削除する**: シートやシートオブジェクトで使用するビットマップは、使用しない設定になっていても、通常はドキュメント内で保持されています。チェックボックスをオンにすると、それらを自動的に削除します。
- **接続のユーザー資格情報を暗号化する**: connect ステートメントウィザードで、ユーザー ID とパスワードを暗号化して **connect** ステートメントをマスクする場合、このチェックボックスをオンにします。
- **QlikView を終了するまでログイン情報を保持する**: QlikView では、QlikView セッションの間開かれていたログインが必要な QlikView ドキュメントの UserID とパスワードをキャッシュすることができます。**[QlikView を終了するまでログイン情報を保持する]** をオフにすると、ドキュメントを再び開くたびにログインするよう求められます。
- **リロード後、進捗を開いたままにする**: このチェックボックスがオフの場合、スクリプトのリロード終了後に、**ロードスクリプトの進捗** ダイアログを自動的に閉じます。
- **水平スクロールバー**: このチェックボックスがオンの場合、アプリケーションウィンドウ内でその位置やサイズによって水平方向に全体が収まりきらないシートオブジェクトがあれば、水平スクロールバーがシートに表示されます。
- **垂直スクロールバー**: 上記と同じですが、垂直スクロールバーに行います。
- **ドキュメントに合わせてウィンドウサイズを変更する**: これにチェックを付けると、QlikView のウィンドウサイズはドキュメントのサイズによって決定され、ドキュメントが保存されたときの QlikView ウィンドウのサイズとなります。
- **照会先のない QVD バッファを削除しない**: この設定は、作成元のドキュメントに使用されなくなった場合に、自動生成された QVD ファイルをロードスクリプトの実行後に消去する通常の手順を無視します。この設定は、通常オフにしておきます。
- **各書き込み後にスクリプトログをフラッシュする**: 性能上の理由から、通常スクリプトログは個々のステートメントの後にディスクに書き込まれることはありません。このチェックボックスをオンにすると、スクリプトログの書き込みが行われます。これは、他のプログラムを使用してスクリプトの実行をログ経由で監視する場合に便利です。ただし、この設定を使用すると、スクリプトに大量のステートメントが含まれているような場合にスクリプトの実行時間が著しく増加します。
- **ダイアログからスクリプト実行後、スクリプトダイアログを再度開く** スクリプトが**ロードスクリプトの編集**ダイアログから実行され、このチェックボックスがオンであれば、ダイアログはスクリプト実行後にもう一度開かれます。
- **新規ドキュメント作成時に「新規作成ウィザード」を表示する**:**新規作成ウィザード**を開き、Excel の 1 シートを使用して新しいドキュメントを作成する方法を手順を追って説明します。
- **参照元のない QVD バッファを即時削除する**: このボタンを押すと、前述の**照会先のない QVD バッファを削除しない**を設定することによって保持された孤立した QVD バッファを手動で削除できます。
- **最近使用したファイル**: このグループを使用して、**ファイル** メニューと**スタートページ**にある最近使用した QlikView ファイルのリストを制御します。
    - **メニューに表示する数** では、**ファイル** メニューにリストされる最近使用したファイルの数を変更できます。デフォルトは 8 です。

- **スタートページに表示する数** では、**スタート ページ** メニューにリストされる最近使用したファイルの数を変更できます。デフォルトは 64 です。

  これらの変更は 再起動した後で有効になります。
- **メニューにフルパスを表示** チェックボックスをオンにすると、**ファイル** メニューの幅が必要に応じて広くなり、最近使用したファイルのリストにフルパスを表示します。
- **URL の削除** ボタンをクリックすると、最近使用したファイルのリストからすべての URL を削除します。

- **ログ ファイルのエンコード**: このグループでは、ログ ファイル用の文字セットを設定できます。初期設定は **ANSI** ですが、**Unicode** を選択することも可能です。
- **選択の外観**:
  - **スタイル**
    既定の選択スタイルを設定します。QlikView では、リスト ボックスやマルチ ボックスでデータを表示したり選択したりするためにいくつかの異なる方法をサポートしています。**QlikView Classic**、**コーナー タグ**、**LED**、および **LED チェック ボックス**スタイルはすべて、選択値、絞込値、および除外値を示すために色分けを使用しています。**チェックボックス** スタイルと**LED チェックボックス** スタイルは Windows の標準インターフェースに類似しており、各値にチェックボックスが付いています。このデフォルトは、**ドキュメントプロパティ: 基本設定ページにある対応する設定を変更することにより、そのドキュメントで上書きできます。基本設定]** ページにある対応する設定を変更することにより、そのドキュメントで上書きできます。QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロ トリガーは動作が制限されます。

  - **配色**
    既定の選択配色を設定します。色に基づいた選択スタイルを使用する場合、多数の異なる配色が使用可能です。色の配色 (選択されていれば緑、ロックされていれば青など) は変更できませんが、さまざまな色調と強度が利用できます。このデフォルトは、**ドキュメントプロパティ: 基本設定ページにある対応する設定を変更することにより、そのドキュメントで上書きできます。基本設定]** ページにある対応する設定を変更することにより、そのドキュメントで上書きできます。

- **表示言語の変更**: ボタンを押すと**表示言語の選択** ダイアログが開きます。このダイアログには、コンピュータで使用できる QlikView の表示言語がすべてリストされます (さまざまな表示言語がインストール時に .dll ファイルとして含まれます)。サポートされている言語の一覧については、「*対応している言語 (page 32)*」を参照してください。新しい言語を選択した後、変更を反映するには QlikView を再起動する必要があります。この変更は、プログラムのユーザー インターフェースとオンライン ヘルプ (使用するコンピュータに適切なヘルプ ファイルがある場合) の両方の言語に影響します。

  表示言語は、`settings.ini` このファイルは `C:\Users\username\AppData\Roaming\QlikTech\QlikView`.**InterfaceLanguage** を編集して、サポートされている言語に設定します。
- **ブックマーク ポップアップのタイムアウト時間 (秒)**: このチェック ボックスをオンにして、ブックマーク ポップアップ ウィンドウを設定した秒数が経過すると自動的に閉じるように遅延時間を入力します。

- **レイアウトで WebView モードを使用する**: QlikView 内で Web ブラウザを使用し AJAX ページとしてドキュメントを表示する **WebView** モードのオンとオフを切り替えます。
- **検索の設定**: このグループでの設定はデフォルトの検索モードのために行われます。

    - **検索対象に除外値を含める**
      テキスト検索には、連結値のみを検索する方法と、すべての値を検索する(検索に除外値が含まれる場合) 方法の 2 つの検索方法があります。このチェック ボックスをオンにすると、後者が有効になります。このデフォルト値はシート オブジェクト レベルで上書きできます。

    - **検索モードの指定**
      このドロップダウン ボックスでは、リスト ボックスやマルチ ボックスなどでのテキスト検索の既定の検索モードを設定できます。デフォルトは、直接入力を開始したときにだけ適用され、検索開始にはメニュー選択もキーボード ショートカットも使用しません。シート オブジェクトで異なる設定を選択し、この設定を上書きすることができます。

    - **前回使用したモード**
      最後に完了した検索の検索モードが使用されます。

    - **ワイルドカード検索**
      2 つのワイルドカードの間にカーソルが入った状態で表示されるため、ワイルドカード検索を容易に実行できます。

    - **標準検索**
      最初に表示される検索文字列には特に何も追加されていません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。

- **現在の選択条件の最大値**: ここでは、現在の選択条件ダイアログや印刷の選択スタンプに表示されるユニークな選択値の最大数を指定します。選択する値が多くなると、各々の項目について "x 項目 : y" と表示されます。
- **物理メモリの制限 (%)**: このコントロールは、アプリケーションによって使用される RAM の物理的な最小値と最大値を設定します。このようにして、アプリケーションが物理メモリにスワップするかどうかを制御できます。ただし、ここに設定したメモリ量でオペレーティング システムが処理できるという保証はありません。設定が高すぎると、コンピュータの他の処理のパフォーマンスに影響しますので、コンピュータが QlikView 専用であるのが好ましいとされます。
  Windows の仮想メモリマネージャに精通するまでは、これらの設定を変更しないでください。詳細については、Microsoft Windows のドキュメントの作業セットについて参照してください。
  設定は次の通りです。
    - **最小値**
      アプリケーション/プロセスに割り当てられるメモリの最小値をパーセンテージで設定します。
    - **最大値**
      アプリケーション/プロセスに割り当てられるメモリの最大値をパーセンテージで設定します。

ユーザープロパティ: 保存

このページには QlikView ドキュメントの保存方法の設定が含まれています。

- **保存形式の指定**: ここでは、新しいファイル用の既定の保存形式を設定します。現在のドキュメントにのみ影響する変更を行うには、代わりに **[保存形式]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) を選択します。
- **圧縮率**: このドロップダウン リストは、新規ドキュメントの保存圧縮モードを指定します。圧縮を使用すると、ファイルのサイズは一般的に 60 ~ 80% 小さくなります (実際の結果はドキュメントによって異なります)。圧縮使用時は、ドキュメント保存にかかる時間が多少長くなります。
  - **[標準]** 圧縮では、テーブル データ (QlikView 内で既に圧縮済み) 以外のドキュメントのすべての部分が圧縮されます。
  - **[高]** 圧縮 (デフォルト) では、テーブル データも圧縮されます。多少の容量が節約されますが、保存時間とロード時間はより長くなります。
  - **[なし]** を選択すると、すべてのデータを圧縮しないで保存します。
- **リロード前に自動保存する**: この代替値をオンにすると、スクリプトが実行される前にドキュメントを自動的に保存します。
- **自動バックアップ情報の保存**: ここでは、現在の QlikView ファイルのバックアップを作成するルールを指定できます。この自動保存機能は、システムコマンドはシステムがクラッシュした場合などにとても便利です。自動保存を一定の間隔 (**_ 分ごと**) で起きるようにやロード スクリプトを実行する度 (**リロード後**) に起きるように別々に設定できます。

  > *新規のドキュメントについては、ユーザーがドキュメントに名前を付けて保存した後でないと、**AutoRecover** ファイルは保存されません。*

- **バックアップの使用**: ここでは、自動保存機能によって作成された以前のコピーを保持するルールを指定できます。**バックアップの作成** チェックボックスをオンにすると、ドキュメントのバックアップ バージョンを何世代保持 (**最新の _ 世代**) するかを指定でき、またプログラムにも望ましい前のバージョンを選択して保持させる (**古い世代のファイルを追加保存する**) ことができます。

ユーザー プロパティ: エディタ

このダイアログでは、QlikView エディタで使用するテキストに自分の好みを設定することができます。これには、**[ロード スクリプトの編集]** ダイアログ、**[数式の編集]** ダイアログそしてマクロ編集用の **[モジュールの編集]** ダイアログのエディタが含まれます。ここではテキスト ボックスでさまざまな **テキストの種類** をアクティブにし、それぞれにフォント、フォント サイズ、テキストの色を設定できます。

ロード スクリプトと数式

- **標準のテキスト**: 以下のどのカテゴリにも属さないテキストです。
- **キーワード**: ロード スクリプトで使用するキーワード (load、select、directory、semantic など) です。
- **コメント**: ロード スクリプトまたはチャートに入力されるコメント。
- **エラー**: QlikView が検出するロード スクリプトもしくはチャート式内のエラーです。
- **ハイライト テキスト**: ロード スクリプトの中で、カーソルをかっこの近くに持っていくと、かっことその中のカンマが強調表示されます。これにより、不足しているかっこやカンマが簡単に見つけられます。
- **項目名**: ロードされ、チャートで使用される項目の名前です。
- **リテラル**: テキスト文字列としてそのままロードされるテキストです (通常は引用符で囲まれている)。
- **関数**: ロード スクリプトで使用する関数 (div、left、if、num など、およびチャート) です。
- **ファイル名**: この名前のファイルから項目が取得されます。

- **スクリプト マクロ**: スクリプトで使用される変数です。
- **集計関数**: 数式で使用する集計関数(sum、min、max) などです。
- **演算子**: ロードスクリプトと数式で使用する演算子 (like など) があります。
- **テーブル ラベル**: 特定のテーブルに割り当てられたラベルです。
- **Set 分析**: 数式で使用するSET 分析の識別子、修飾子、演算子。

モジュール

- **標準のテキスト**: 以下のどのカテゴリにも属さないテキストです。
- **キーワード**: Visual Basic Script で予約されたキーワードです。
- **ハイライト テキスト**: ロードスクリプトの中で、カーソルをかっこの近くに持っていくと、かっことその中のカンマが強調表示されます。これにより、不足しているかっこやカンマが簡単に見つけられます。

数式

- **標準のテキスト**: 以下のどのカテゴリにも属さないテキストです。
- **コメント**: チャートの数式に入力されるコメント。
- **エラー**: かっこの不足など、QlikView が検出する数式の中のエラーです。
- **ハイライト テキスト**: 数式の中で、カーソルをかっこの近くに持っていくと、かっことその中のカンマが強調表示されます。これにより、不足しているかっこやカンマが簡単に見つけられます。
- **項目名**: 使用する項目の名前です。
- **関数**: チャートの数式での QlikView の標準関数名です。
- **ファイル名**: この名前のファイルから項目が取得されます。
- **集計関数**: 数式で使用する集計関数(sum、min、max) などです。
- **演算子**: 数式で使用する演算子 (like など) があります。
- **Set 分析**: 数式で使用するSET 分析の識別子、修飾子、演算子。

ドキュメントの標準フォント
このグループで選択したフォントとフォントサイズがすべてのテキストタイプに適用されます。太字、斜体、下線などのプロパティはチェックボックスを使用して個別に設定できます。

テキストの色 ボタンをクリックすると、[色の設定] ダイアログが開き所定の色、もしくは色を作成してテキストの色を定義することができます。

値をリセットするには、**初期設定** ボタンをクリックします。

次の機能も同様にエディタで使用できます。

- **関数ポップアップ ヘルプ**: 関数の入力時に小さなポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。
- **カーソル位置を記憶する**: ロードスクリプトおよびマクロのエディタに、エディタを終了したときのカーソルの位置を記憶させるには、このチェック ボックスをオンにします。この機能を使用しない場合、カーソルはマクロ モジュールの先頭およびスクリプトの末尾にあります。
- **RTF としてコピー**: エディタのウィンドウから**クリップボード**に純粋なテキストとしてだけではなくRTF としてもコピーするには、このチェックボックスをオンにします。これによりRTF 対応のアプリケーションではテキストの書式設定を保持したままでインポートして貼り付けることが可能です。

ユーザー プロパティ: 設計

スクリプトとマクロのショートカット グループでは、スクリプト デバッグ ダイアログでの特定の操作についてキーボード ショートカットをカスタマイズできます。

スクリプト内で利用できるキーボード ショートカットのリストを生成するには、スクリプト内で CTRL+QS を入力します。

- **編集**: リストからコマンドを選択し、**[変更]** ボタンをクリックして、そのコマンドのキーボード ショートカットをカスタマイズします。

2 つの **キー設定** オプションがあります。

- **Visual Basic**: キーボード ショートカットを Visual Basic のデバッグ環境に対応したデフォルトに設定します。
- **Visual C++**: キーボード ショートカットを Visual C++ のデバッグ環境に対応したデフォルトに設定します。

その他のオプション:

- **新規 ドキュメントごとにログ ファイルを使用する**: スクリプトが実行されると、ログ ファイル (.log) が生成されます。ファイルには、始まりと完了時のタイム スタンプ、実行スクリプトの行数、スクリプトに生成された行の数、そしてスクリプト実行失敗時のエラー メッセージが含まれます。
- **ファイル ウィザードのサンプル サイズ**: 読み込まれるテーブルを分析するために、テーブル ファイル ウィザードに読み取られるレコードの数を指定します。
- **既定のスクリプト エンジン**:**VBScript** または **JScript** を選択します。
- **デザイン グリッド設定**:
  - **スナップの間隔 (mm)**
    デザイン グリッド表示の際のスナップ ポイント間の距離を設定します。
  - **線の間隔 (mm)**
    デザイン グリッド表示の際のグリッド線間の距離を設定します。
- 余白の標準単位 ここで **[印刷: レイアウト]** ページの既定の余白単位を cm とインチ (inch) のいずれかに設定できます。
- **既定のスタイル モード**: すべてのシート オブジェクトのオブジェクト スタイルに使用するモードを 1 つ選択します。選択したモードは、すべての新規のドキュメントでデフォルトとして使用されます。
- **既定のシート オブジェクト スタイル**: このドロップダウンで、シート オブジェクトのスタイルに使用するスタイルを 1 つ選択します。選択したスタイルは、ドキュメント内のすべてのシート オブジェクトに使用されます。
- **既定のテーマ**: ここでは、新規に作成するドキュメントの標準のテーマとして設定する QlikView のテーマを選択できます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。
  テーマのファイルがデフォルトの QlikView テーマ カタログ以外の場所にある場合に備えて、ドロップダウン リストの最下部に **参照** コマンドがあります。標準のテーマが指定されていない場合は、新規に作成されるドキュメントは標準のテーマなしで作成されます。
- **デザイン メニュー項目を常に表示**: このチェック ボックスをオンにすると、すべてのデザイン メニュー オプションがコンテキスト メニューで常に使用可能になります。

オフの場合、いくつかのデザイン メニュー オプションは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドがオンになったとき有効になります。

ユーザー プロパティ: オブジェクト

ここでは、シート オブジェクトのデフォルト設定が設定されます。

- **すべての確認 メッセージを有効にする**: QlikView が初めてコンピュータにインストールされたときは、多数の警告ダイアログが有効になっています。これらはそれぞれ、シートやシート オブジェクトを削除したり、メールを送信するなどの特定の操作を実行する前に確認を求めます。それぞれの警告ダイアログには、**[次回からこのメッセージを表示しない]** というチェック ボックスが付いています。チェック ボックスをオンにすると、それ以降その警告ダイアログは表示されなくなります。過去に無効にした警告ダイアログをすべてオンにするには、このグループの **有効にする** ボタンをクリックします。
- **テーブル初期設定**:
  - **選択 アイコンの表示**
    新規のテーブル ボックス、ピボット テーブル、およびストレート テーブルに、列選択インジケータ (ビーコン) をデフォルトで表示したい場合、このチェック ボックスをオンにします。
  - **ソート アイコンの表示**
    新規のテーブル ボックスとストレート テーブルに、最優先されるソート列を示すアイコンをデフォルトで表示したい場合、このチェック ボックスをオンにします。
  - **ドロップダウン リストの表示**
    新規のテーブル ボックス、ピボット テーブル、およびストレート テーブルの項目列に、ドロップダウン選択アイコンを表示したい場合、このチェック ボックスをオンにします。
- **その他の既定 ラベル**: チャートのいくつかの種類では、**最大** 値を設定してプロットするデータ点の数を制限できます。この制限によって外れたすべてのデータ点は、まとめて「その他」としてグループ化されます。「その他」の表示ラベルはここで編集できます。
- **合計の既定 ラベル**: ここでは、棒グラフ、ピボット テーブル、およびストレート テーブルにおける「合計」の標準ラベルを指定できます。「合計」の表示ラベルはここで編集できます。
- **キャプション アイコン初期設定**: このグループでは、選択したキャプション アイコンに対するデフォルトが設定できます。
  - **追加したリスト ボックスのキャプションに検索 アイコンを設定する**
    このチェック ボックスをオンにすると、すべての新規のリスト ボックスで、作成時に **[検索]** キャプション アイコンがオンになります。これは、より快適な操作性のために、特にドキュメントを QlikView AJAX クライアントに公開する場合にお勧めします。
  - **追加したテーブルとチャートのキャプションに印刷 とXL アイコンを含める**
    このチェック ボックスをオンにすると、すべての新規のテーブルおよびチャートで、作成時に **[印刷]** および **[Excel 出力]** キャプションアイコンがオンになります。これは、より快適な操作性のために、特にドキュメントを QlikView AJAX クライアントに公開する場合にお勧めします。
- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとしま

す。設定は、オブジェクトの **レイアウト** ページでも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。

- **チャートのマーカー最大表示数**: マーカー付きで表示できるデータ点の数の上限を指定できます。デフォルトは 100 です。この機能は、折れ線グラフとコンボ チャート上で、**線** と**マーカー**付きの数式がオンになっている場合にのみ有効です。
- **チャートの背景のクリックで選択をクリアする**: このチェック ボックスをオンにした場合、チャートのプロット エリアの背景をクリックすると、チャートの軸項目で選択したものはすべてクリアされます。
- **演算の進捗情報**: このグループでは、シート オブジェクトの計算完了に 1 秒以上かかる場合の、進捗情報を表示するレベルを決められます。
    - **オフ**
      進捗情報は表示されません。
    - **標準**
      プログレス バーが表示されます。
    - **詳細**
      プログレス バーと追加のテキスト情報が表示されます。

ユーザー プロパティ: エクスポート

クリップボードへのコピー グループには、シート オブジェクトをクリップボードにコピーする際のプロパティが含まれています。

[キャプションと枠線を含める] グループ内では、次の各シート オブジェクトの種類に対してユーザー設定を個別に入力できます。(リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、テーブル ボックス、入力 ボックス、選択表示 ボックスとチャート) について、これらのレイアウト構造をコピーに含めるかどうかを個別に設定できます。

テーブルのコピー書式 でテーブルをコピーするための内容を設定できます。QlikView のテーブルの [オブジェクト] メニューにある **クリップボードにコピー** コマンドから、出力に含める情報に関する選択を行えます。

- **テーブル全体**: このオプションを選択すると、その選択状態における書式付きのテーブルがクリップボードにコピーされます。この設定が望ましいのは、プレゼンテーション用にコピーする時などです。
- **データ エリアのみ**: このオプションを選択すると、生データのみがコピーされます。この設定が望ましいのは、ドキュメント間でデータをすばや く移動させたい時などです。
- **メニューにオプションを表示**: このオプションを選択すると、**クリップボードにコピー** コマンドから両方のオプションが常にドロップダウン リストとして使用できます。

コピーの標準設定を画像以外にする グループでは、**切り取り**と**コピー** コマンド (**編集** メニュー) が使用されたときに**クリップボード**に何を置くかを指定できます。通常はシート オブジェクトのぶっとマップ画像がクリップボードに入りますが、いくつかのシート オブジェクトには追加のオプションを使用できます。

- **テーブルのテーブル**: このチェック ボックスをオンにすると、テーブル (テーブル ボックス、ストレート テーブル、およびピボット テーブル) は画像ではなくテーブル形式でコピーされます。
- **チャートの値**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートは画像ではなく基底となるテーブル値でコピーされます。

- **リスト ボックスの絞込値**: このチェック ボックスをオンにすると、リスト ボックスは画像ではなく絞込値でコピーされます。
- **ボタンのテキスト**: このチェック ボックスをオンにすると、ボタンは画像ではなくテキストでコピーされます。
- **テキスト オブジェクトのテキスト**: このチェック ボックスをオンにすると、テキスト オブジェクトは画像ではなくテキストでコピーされます。
- **現在の選択条件 ボックスの選択**: このチェック ボックスをオンにすると、選択表示オブジェクトは画像ではなくテキストの選択スタンプでコピーされます。

クリップボードに出力する画像のズーム サイズ 設定では、シートの現在のズーム倍率とは関係なく、コピーする画像のサイズを決定します。サイズが大きくなりますが、画像を大きくすると画質も上がります。

エクスポート時の選択値出力設定 グループでは、ファイルにエクスポートする際に選択スタンプを含めるかどうかをタイプ別に設定できます。

- **HTML エクスポート時**: HTML ファイルへのエクスポート時に選択スタンプを含める場合、このチェック ボックスをオンにします。
- **BIFF エクスポート時**: BIFF (Excel) ファイルへのエクスポート時に選択スタンプを含める場合、このチェック ボックスをオンにします。

エクスポート設定 グループでは、デフォルトの出力形式を設定できます。

- **数値書式**: QlikView の数値データの数値書式は、ユーザーが定義した設定などによって、いつも他のプログラムと互換性があるとは限りません。ドロップダウンでは、エクスポートする数値データの **[数値書式]** に関して 3 つのオプションを提供します。
  - **書式すべてあり**: ドキュメントのシート オブジェクトに表示されるとおりの数字書式を保持したまま数値データをエクスポートします。
  - **桁区切りなし**: 数値データから桁区切りを削除します。
  - **書式なし**: データからすべての数字書式設定を削除し、未処理の数値データとしてエクスポートします。小数点記号は、システム設定 (**コントロール パネル**) で定義されたとおりになります。
- **エンコード**: 新規のドキュメントでエクスポートする際のデフォルトの文字セットを設定します。以下のオプションのいずれかを選択します。[ANSI]、[Unicode]、または [UTF-8]。
- **HTML エクスポートに地域設定を使用する**: このチェック ボックスをオンにすると、HTML 形式にエクスポートする際に、小数点記号に関してオペレーティング システムの地域設定が使用されます。このオプションをオフにすると、地域の設定に関係なく、小数点記号が使用されます。

Excel 出力設定 グループでは、**Excel 出力** メニュー コマンドで使用する書式設定のデフォルトを設定できます。

- **Excel のカラー パレットを置き換える**: オフの場合は、Excel パレットの標準色が QlikView で選択した色に取って代わります。元の色は、標準パレットの中の一番近い色によって置き換えられます。

ユーザープロパティ: 印刷

[チャートの印刷 カラー設定] グループでは、チャートからのすべての出力を上書きする設定を指定できます。3 つの設定から1 つ選択できます。

- **チャート設定を使用**: カラーもしくはモノクロに関するチャート固有の設定が常に使用されます。
- **カラーを強制**: ドキュメントで設定されている **色** の設定に関わりなく、ビットマップ チャートはすべてカラーで印刷されます。
- **モノクロでチャートを強制印刷**: ドキュメントで設定されている **色** の設定にかかわらず、ビットマップ チャートはすべてモノクロで印刷されます。

その他のオプション

- **新規オブジェクトの印刷初期設定**: このボタンにより、**[ページ設定]** ダイアログを開き、ページの余白や印刷の向きなどを設定できます。
- **印刷時にポストスクリプトをバイパス (低速)**: Microsoft グラフィックス ライブラリは、特定のプリンタのポストスクリプト ドライバと干渉し合うため、**[シートの印刷]** からの印刷が期待していたものよりも鮮明でない場合があります。このチェックボックスをオンにすると、これを避けることができます。ただし、その場合の印刷時間は大幅に長くなる場合がある (最大数分) ため注意してください。

ユーザー設定: メール

ここでは、QlikView からメールを送信するための設定を行えます。この機能を使用するには、SMTP サーバーへのアクセスが必要です。

送信者 グループでは、QlikView によって送信されるメールに送信者として表示される**名前** と**送信者アドレス**を指定します。

エンコードでは、現在の設定で問題がある場合に、電子メールの送信に使用する文字コードを変更することができます。

電子メールをエンコードするための **[MIME 形式で送信する]** チェックボックスも利用できます。

サーバー グループでは、QlikView から発信するメールで使用する SMTP サーバーを指定します。

> *QlikView は、SMTP サーバーを使用して、暗号化されていない通信に対応しています。*

- **アドレス**: SMTPサーバーに使用するアドレス(URLまたはIPアドレス) 。
- **ポート**: SMTP サーバーで使用するポート。
- **認証方式**: メールサービスで必要とされる認証方式に応じて、**NTLM** または**OAuth 2.0**を選択します。

Microsoft 365 OAuth 2.0 の設定

Microsoft Entra ID の前提条件、共有 OAuth2 の動作、テスト、添付ファイル、およびトラブルシューティングについては、*QlikView で OAuth 2.0 を使用してメールを送信する (page 71)* を参照してください。

1. QlikView で、**設定 > ユーザープロパティ> メール** を開きます。
2. **送信者アドレス**に Microsoft 365 メールボックスを入力します。

3. **認証方式**を**OAuth 2.0**に設定します。
4. 登録したアプリケーションのアプリケーション (クライアント) ID、ディレクトリ(テナント) ID、およびクライアントシークレットを入力します。
5. [OK] をクリックして設定を保存します。

QlikView で OAuth 2.0 を使用してメールを送信する

QlikView は、Microsoft 365 で OAuth 2.0 を使用して Microsoft Graph 経由で電子メールを送信できます。OAuth 2.0は追加のメール接続方式であり、既存のSMTP設定も引き続き利用可能です。

OAuth 2.0 が選択されている場合、QlikView は SMTP サーバーに直接接続しません。`login.microsoftonline.com`からアクセストークンを取得し、`graph.microsoft.com/v1.0/users/{sender}/sendMail`のMicrosoft Graph REST APIを介してメールを送信します。

前提条件

QlikView を構成する前に、Microsoft Entra ID にアプリケーションを登録します:

1. Azure portal にサインインし、**Microsoft Entra ID > アプリの登録 > 新規登録** に移動します。
2. アプリケーションを登録します。
3. **証明書とシークレット**で、クライアントシークレットを作成し、その値をコピーします。値は一度だけ表示されます。
4. **API のアクセス許可**で、Microsoft Graph の **Mail.Send** アプリケーションの許可を追加します。
5. アクセス許可に管理者の同意を付与します。
6. アプリケーション (クライアント) ID とディレクトリ(テナント) ID を記録します。

アプリケーションには、送信者として使用されるメールボックスに対する**Mail.Send** アクセス許可が必要です。

セキュリティ

QlikView は、テナントID、クライアントID、およびクライアントシークレットを保存する前に暗号化します。認証情報はプレーンテキストとして保存されません。

OAuth 2.0 メールのテスト

設定ページのテストメール コントロールを使用します:

- QlikView Desktop で、**ユーザー基本設定 > メール** ページの **テスト**をクリックします。
- QlikView 管理コンソールで、**テスト電子メールの送信先** にアドレスを入力し、**送信** をクリックします。

QlikView は OAuth 2.0 トークンを取得し、Microsoft Graph を通じてテストメールを送信します。ステップが失敗した場合は、エラーメッセージを確認してください。

添付ファイル

QlikView が添付ファイル付きの電子メールを送信する場合、Microsoft Graph リクエストに添付ファイルを Base64 でエンコードされたコンテンツとしてインラインで含めます。各添付ファイルは 3 MB に制限されています。サイズの大きいファイルの場合は、別の配信方法を使用してください。

トラブルシューティング

エラー	原因	解像度
`OAuth 2.0 Client ID, Tenant ID, and Client Secret are required.`	1 つ以上の OAuth フィールドが空です。	メール設定ページで3つのフィールドがすべて入力されていることを確認します。
`OAuth token request failed: AADSTS7000215`	クライアントシークレットが無効です。	Microsoft Entra ID で新しいクライアントシークレットを生成し、QlikView を更新します。
`OAuth token request failed: AADSTS700016`	アプリケーション (クライアント) ID が正しくないか、指定されたテナントにアプリケーションが存在しません。	アプリケーション (クライアント) ID とディレクトリ (テナント) ID を確認します。
`Graph sendMail failed: ErrorAccessDenied`	アプリケーションに `Mail.Send` アクセス許可がないか、管理者の同意が付与されていません。	Microsoft Entra ID で `Mail.Send` アプリケーションのアクセス許可を追加し、管理者の同意を付与します。
`Graph sendMail failed: ErrorItemNotFound`	送信者アドレスが、テナント内の有効なメールボックスに対応していません。	差出人アドレスが既存の Microsoft 365 メールボックスと一致していることを確認してください。
`Attachment too large`	添付ファイルが 3 MB のインライン制限を超えています。	ファイルサイズを小さくするか、別の配信方法を使用してください。

ユーザープロパティ: 場所

ここでは、QlikView での作業時に作成される一部のファイルのデフォルトのフォルダの場所を決定できます。また、QlikView Server および QlikView Publisher のドキュメント ファイル フォルダへのショートカットの設定にも使用されます。さらに、QlikView Server、QlikView Publisher、および QlikView AccessPoint のコントロール パネルの URL を指定できます。このページには、変更可能なリソースの場所のリストが含まれています。

ダイアログの上部のパネルには、変更可能なフォルダの場所のリストが含まれています。

- **リソース**: 次のリソースの場所を変更可能です。
  - **QVD バッファ**
    QVD ファイルのデフォルトの格納場所です。ロード スクリプトの **buffered** プレフィックスを付けた **load** および **select** ステートメントにて生成されます。
  - **テーマ**
    ユーザー定義のレイアウト テーマの既定の格納場所です。
  - **ユーザー ドキュメント**
    既定のルート フォルダの場所です。ユーザー ブックマーク、マイ レポート、およびユーザー アラートが格納されます。フォルダの内容を移動しないでこの場所を変更すると、既存のユーザー ブックマーク、マイ レポート、およびユーザー アラートが失われるため注意してください。
  - **サーバー ドキュメント**
    ここでは、QlikView Server ドキュメント フォルダの場所を適宜指定できます。
  - **Publisher ドキュメント**
    ここでは、QlikView Publisher ソース ドキュメント フォルダの場所を適宜指定できます。

- **QlikView Management Console (URL)**
  ここでは、QlikView Management Console (QMC)、または QlikView Enterprise Management Console (QEMC) の URL を適宜指定できます。
- **QlikView Server AccessPoint (URL)**
  ここでは、QlikView AccessPoint を示す URL を適宜指定できます。
- **QlikView SDK (URL)**
  ここでは、QlikView SDK を示す URL を適宜指定できます。
- **ライセンス リース サーバー (URL)**
  こでは、QlikView のライセンス リース サーバーを示す URL を適宜指定できます。
- **Publisher 認証テーブル (URL)**
  ここでは、QlikView Publisher で作成されたセクション アクセス認証テーブルを示す URL を適宜指定できます。*セクション アクセス管理* は、QlikView Management Console (QMC) で設定されています。詳細については、QMC のヘルプを参照してください。

- **場所**: 個々のフォルダーがある場所へのパス。
- **リセット**: このボタンは、選択したリソースの場所を QlikView のデフォルトにリセットします。リストに表示されたパスの前には <初期設定> というテキストが付きます。
- **編集**: リソース フォルダの変更時は、このボタンによって **フォルダの参照** ダイアログが開きます。選択したフォルダをどの場所にするかを参照できます。URL のリソース変更時、このボタンにより開くダイアログで URL を入力できます。

ユーザー プロパティ: セキュリティ

このページでは、悪意のあるマクロやスクリプトに対抗するために QlikView ドキュメントに埋め込まれている QlikView セキュリティ対策の設定を無効にできます。害を及ぼす可能性があるコードを受け付けるかどうかをユーザーに確認する警告ダイアログは表示されません。これらのオプションは、既知のドキュメントで作業する場合にのみ慎重に使用してください。

- **モジュール (CreateObject とファイル アクセスの許可)**: このボックスをオンにすると、**CreateObject** 呼び出しが組み込まれたマクロや外部ファイルにアクセスするマクロを探す QlikView のチェックがオフになります。
- **スクリプト (データベースへの書き込みとステートメントの実行の許可)**: このボックスをオンにすると、**select** ステートメントに **execute** コマンドと **mode is write** 修飾子が組み込まれたスクリプトを探す QlikView のチェックがオフになります。
- **起動 (ボタン、スクリプト、モジュールからアプリケーションとドキュメントを開始)**: このボックスをオンにすると、外部プログラムを QlikView スクリプト、モジュール、またはボタンから起動する際の QlikView のチェックがオフになります。
- **ファイル (ドキュメントを保存し、ファイルにデータをエクスポート)**: このボックスをオンにすると、疑わしいファイル拡張子が付いたファイルに保存またはエクスポートする際の QlikView のチェックがオフになります。
- **マクロからの起動の確認**: この代替値をオフにしない限り、ユーザーは、マクロから他のアプリケーションを起動することを許可するかどうか確認を求められます。

ユーザー プロパティ: ライセンス

QlikView ライセンス

このダイアログは、インストールされている QlikView の現在の登録情報を表示します。

- **変更**: このボタンをクリックすると、ライセンス用の新しいシリアル番号および新しいコントロール ナンバーを入力できます。変更は QlikView を再起動した後で有効になります。
- **ライセンス情報をクリア**: このボタンをクリックすると、次回アプリケーションを起動するときにライセンス番号が削除されます。
- **ライセンス使用許諾の表示**: このボタンをクリックすると、ライセンス使用許諾を表示します。

OEM 製品 ID

このオプションは OEM パートナー ライセンスで有効になります。

- **新規ドキュメントに OEM 製品 ID を使用する**: 新規ドキュメント作成時に OEM 製品 ID を使用するかどうかを確認するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **OEM 製品 ID**: 利用可能な OEM 製品 ID をリストします。
- **編集**: OEM 製品 ID のエイリアスを編集するにはこのボタンをクリックします。

6.3 ツールバーとステータス バー

ツールバー

QlikView には 5 種類の標準ツールバーとメニュー バーがあります。標準ツールバーには QlikView ドキュメントを使用する際に行うタスクのボタンが含まれています。一方、デザイン ツールバーにはドキュメントのレイアウトを作成したり変更する際に行うタスクのボタンが含まれています。ナビゲーション ツールバーには、ドキュメントの論理演算で最もよく使用されるコマンドが含まれています。シート ツールバーは、異なるシートを移動するための代替的な手段を提供します。一方、ブックマーク ツールバーは、ブックマークにアクセスするための代替的な手段を提供します。

各ツールバーは個別に有効化、無効化が可能です。すべてのツールバーはカスタマイズ可能で、使用可能な任意のコマンド ボタンを含めることができます。

各ツールバーは、左端の点線の上にカーソルを配置すると移動できます。マウスの左ボタンを押しながら、任意の位置までドラッグします。ツールバーは、QlikView アプリケーション ウィンドウの任意の側 (上下左右) にドッキングできます。

標準 ツールバー

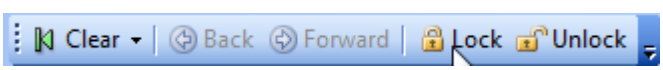


QlikView の標準ツールバーには、最も必要とされる機能のボタンが含まれています。標準ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**表示** メニューの **ツールバー** にある **標準 ツールバー** を選択します。上記の図と下記の説明は、標準ツールバーのデフォルトの内容です。

- **新規 ファイル**: 新しい QlikView ウィンドウを開き、新しい QlikView ファイルを作成できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+N。
- **ファイルを開く** 新しい QlikView ウィンドウを開き、QlikView ファイルもしくはテーブル ファイルを開きます。テーブル ファイルを開く場合、自動的にファイル ウィザードが開きます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+O。

- **更新**: このコマンドが有効に機能するのは、ドキュメントが QlikView Server で開かれた状態で、より新しいバージョンのドキュメントがサーバーに存在する場合のみです。更新コマンドを呼び出すと、最新のデータにアクセスできますが、選択条件やレイアウトの状態などのユーザーのセッションは保持されます。
- **保存**: アクティブなドキュメントをファイルとして保存します。デフォルトのファイル形式は、**[ユーザープロパティ]** で設定されます。
- **印刷**: [印刷] ボタンをクリックすると、印刷 : [基本設定] ページを開かずに、初期設定のプリンタの設定で選択されたシート オブジェクトが直ぐに印刷されます。印刷可能なオブジェクトが選択されていない場合は、ボタンは単色表示になっています。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+P。
- **PDF として印刷**: *Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
- **スクリプトの編集**:**[ロード スクリプトの編集]** ダイアログを開き、データベースを開いて QlikView にデータを取得するロード スクリプトを入力、実行できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+E。
- **リロード**: 現在の script を再起動し、前回の実行以降に変更されたソース データを含めるために、連想データベースを更新します。最後に行われたリロードの時間がタイムスタンプとしてステータス バーに表示されます。
- **レイアウト変更を元に戻す**: シート オブジェクトの移動、サイズ変更、削除、およびシート オブジェクト プロパティの変更を含む最後に行ったレイアウト変更を元に戻します。シートの削除、シート プロパティの変更、ドキュメント プロパティの変更も元に戻すことができます。QlikView には、最新のレイアウト変更の履歴が保持されます。**レイアウト変更を元に戻す** コマンドごとに、履歴を 1 つ前に戻します。**[リロード]** や **[データの削除]** など一部の操作は **Undo/Redo** バッファを空にします。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+Z。
- **レイアウト変更のやり直し**: 直前に元に戻したレイアウト操作をやり直します。**レイアウトの変更のやり直し** コマンドは、「やり直す」ための「元に戻す」アクションがある限り、リストにあるステップを 1 度に 1 つ前に進めます。**[リロード]** や **[データの削除]** など一部の操作は **Undo/Redo** バッファを空にします。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+Y。
- **検索**: アクティブなオブジェクトの **[検索]** ボックスを開きます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+F。
- **現在の選択条件**:**[現在の選択条件]** ダイアログが開き、アクティブな選択条件を確認できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+O。
- **Quick Chart Wizard**:**[クイック チャート ウィザード]** が開き、多数のさまざまな設定やオプションに煩わされずに、簡単にすばやくチャートを作成できます。
- **ブックマークの追加**:**[ブックマークの追加]** ダイアログを開き、ブックマーク名を編集できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+B。
- **メモの表示/非表示**: シート オブジェクトに添付された表示または非表示に関するユーザー作成のメモ。
- **ヘルプ トピックス**: QlikView ヘルプを開きます。
- **コンテキスト ヘルプ**: メニュー コマンドなど、選択したオブジェクトに関する特定のヘルプを表示します。このボタンをクリックしたら、ヘルプが必要なオブジェクトの上に疑問符 (?) を移動します。

ナビゲーション ツールバー



QlikView のナビゲーション ツールバーには、QlikView を使用してデータを分析する際に最も必要とされる機能のボタンが含まれています。ナビゲーション ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**[表示]** メニューの **[ツールバー]** にある **[ナビゲーション ツールバー]** を選択します。下記の説明は、**ナビゲーション ツールバー** のデフォルトの内容です。

- **クリア**: このボタンをクリックすると、QlikView ドキュメントの開始選択条件が適用されます。開始選択条件は設定できます。以下の **[クリア選択状態の設定]** を参照してください。ドロップダウン メニューには次の選択肢が提供されています。
  - **クリア**: QlikView ドキュメントを開始する際の選択条件。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+D。
  - **すべての選択をクリア**: ロックされていないすべての選択を解除します。
  - **すべてをアンロックしてクリア**: すべての選択のロックを解除し、クリアします。
  - **指定 ステートをクリア**: 指定 ステートの選択をクリアします。
  - **クリア ステートの設定**:**クリア選択状態** として現在の選択条件を設定します。
  - **クリア ステートのリセット**:**[クリア選択状態]** に設定されている選択条件を解除します。
- **戻る**: 前の論理 (選択) 状態に戻します。値の選択と、**編集** メニューの **コピー** と **コピー モード** 以外のすべてのコマンドに適用されます。QlikView には、最新の 100 の状態の履歴が保持されます。**元に戻す** コマンドごとに、履歴を 1 つ前に戻します。
- **やり直し**:**[元に戻す]** 前の論理状態に戻します。**元に戻す** と **やり直し** コマンドを交互に繰り返すことによって、2 つの状態を切り替えることができます。
- **ロック (選択値)**: ドキュメント全体の、現在の *値の選択* をすべてロックします。
- **アンロック (選択)**: ドキュメント全体で現在ロックされている *値の選択* をすべて解除します。

QlikView プラグインでは、ツール バーに追加の Qlik ボタンがあります。これをクリックすると AccessPoint に戻ります。

AccessPoint に戻るボタン



デザイン ツールバー



QlikView デザイン ツールバー (上記を参照) には、ドキュメントのレイアウトを作成したり変更する際に行うタスクのボタンが含まれています。このツールバーはデフォルトでは表示されません。デザイン ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**[表示]** メニューの **[ツールバー]** の下にある **[デザイン ツールバー]** を選択します。上記の図と下記の説明は、デザイン ツールバーのデフォルトの内容です。

デザイン ツールバーのボタンとオプション

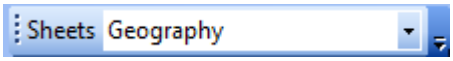
オプション	説明
シートの追加	ドキュメントに新しいシートを追加します。

オプション	説明
シートを左へ	アクティブなシートを1つ左に移動します。
シートを右へ	アクティブなシートを1つ右に移動します。
シートプロパティ	**シートプロパティ**ダイアログが開かれ、アクティブなシートを編集できます。
リストボックスの追加	データベース テーブルから選択した項目を表示するためのリスト ボックスを作成します。
統計ボックスの追加	統計ボックスを作成し、項目の絞込値に基づいて統計対象を計算します。
テーブル ボックスの追加	テーブル ボックスを作成します。レコードに基づいた情報の表示に適しています。
マルチ ボックスの追加	マルチ ボックスを作成します。さまざまな属性の表示に適しています。
チャートの追加	項目および計算軸を表示できるチャートを作成します。
入力ボックスの追加	QlikView 変数へのデータの表示や入力に適した入力ボックスを作成します。
選択表示ボックスの追加	選択表示ボックスを作成します。現在の選択をレイアウトに直接表示するのに適しています。
ボタンの追加	たとえばショートカットやエクスポートなど、QlikView で操作を実行するボタン オブジェクトを作成します。
テキスト オブジェクトの追加	テキスト情報や画像を表示するオブジェクトを作成します。
線/矢印の追加	線/矢印オブジェクトを作成します。線や矢印をレイアウトに描画するのに適しています。
スライダー/カレンダ オブジェクトの追加	新しいスライダー/カレンダ オブジェクトを作成します。
ブックマークの追加	新しいブックマーク オブジェクトを作成します。
検索オブジェクトを追加する	新しい検索オブジェクトを作成します。

オプション	説明
コンテナの追加	新しいコンテナ オブジェクトを作成します。
カスタム オブジェクトの追加	新しいカスタム オブジェクトを作成します。
タイム チャート ウィザード	**タイム チャート ウィザード**では、特定の計算基準 (数式) を設定し、今年、去年、過去一年間など異なる期間で比較を行うチャートを作成できます。
書式のコピー/貼り付け	このボタンを使用すると、1 つのシート オブジェクトから別の 1 つまたは複数のシート オブジェクトに書式をコピーできます。1 つのオブジェクトに書式をコピーするには、まずコピー元 オブジェクトをクリックし、次に [書式のコピー/貼り付け] ボタンを 1 回 クリックした後、コピー先 オブジェクトをクリックします。複数のオブジェクトに書式をコピーするには、まずコピー元 オブジェクトをクリックし、次に [書式のコピー/貼り付け] ボタンをダブル クリックした後、各 コピー先 オブジェクトをクリックします。ボタンをもう一度 クリックするか、ESC キーを押すとコピーを中止します。 種類が異なるシート オブジェクト間でフォーマットをコピーしたり、コピー先 オブジェクトのキャプションをクリックすると、枠線/キャプション プロパティだけがコピーされます。同じ種類のシート オブジェクト間でコピーする場合は、オブジェクト タイプ固有のプロパティもコピーされます。
デザイン グリッド	オブジェクトを揃えるためにデザイン グリッドを切り替えます。
左揃え	アクティブなシート オブジェクトを左枠線に揃えます。
左右中央揃え	アクティブなシート オブジェクトを水平軸の中央に揃えます。
右揃え	アクティブなシート オブジェクトを右枠線に揃えます。
下揃え	アクティブなシート オブジェクトを下枠線に揃えます。
上下中央揃え	アクティブなシート オブジェクトを垂直軸の中央に揃えます。
上揃え	アクティブなシート オブジェクトを上枠線に揃えます。
左右に整列	アクティブなシート オブジェクトを水平軸上に等間隔に整列します。
上下に整列	アクティブなシート オブジェクトを垂直軸上に等間隔に整列します。
左詰め	一番左のオブジェクトの左端を基準にして右方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。
上詰め	一番上のオブジェクトの上端を基準にして下方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。
ドキュメント プロパティ	**ドキュメント プロパティ**ダイアログを開きます。現在のドキュメントの設定を変更できます。
ユーザー プロパティ	**ユーザー プロパティ**ダイアログを開きます。ユーザーの作業方法に関する設定を変更できます。

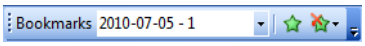
オプション	説明
モジュールの編集	[モジュールの編集] ダイアログを開きます。マクロやカスタム定義関数を VBScript や JScript で記述できます。
テーブル ビューアー	[テーブル ビューアー] ダイアログが開き、データのテーブル構造が表示されます。
WebView モード	AJAX ページとして QlikView ドキュメントを表示するため、QlikView 内のブラウザを使用する WebView モードの切り替えを行います。

シート ツールバー



シート ツールバーには、ドキュメント内のすべてのシートのドロップダウン リストが含まれており、シートを変更するための代替的な手段を提供します。アクティブなシートの名前が常にドロップダウン ボックスに表示されます。**シート** ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**表示** メニューの [ツールバー] の下にある**シート ツールバー**を選択します。

ブックマーク ツールバー



ブックマーク ツールバーには、ドキュメント内のすべてのブックマークのドロップダウン リストが含まれており、ブックマークを変更するための代替的な手段を提供します。ブックマークは、名前で検索するか、ドロップダウンから選択できます。ブックマークを選択すると、選択または変数が変更されるまで、そのブックマークの名前がドロップダウン ボックスに表示されます。

ブックマーク ツールバーのボタン

ブックマークの追加	現在の選択条件をブックマークとして保存します。
ブックマークの削除	ドロップダウン メニューで選択したブックマークを削除します。

ユーザー設定 (ツールバー)

[ユーザー設定] ダイアログで、ユーザーは自分の好みに合わせてツールバーを設定できます。(これは一般的にとても実用的な機能ですが、ドキュメント設計者がドキュメント ユーザーすべてに適用するための標準設定を強制したい場合もあります。

カスタマイズ可能なツールバーには 2 つの種類があります。ひとつは QlikView にすでに定義されているもので、もうひとつは必要に応じて完全にカスタマイズできるものです。

ユーザー設定 ダイアログは、以下に説明する **ツールバー**、**コマンド**、**オプション** の 3 ページで構成されています。

ツールバー

このページには、使用可能なすべてのツールバーとメニュー バーのリストが含まれています。リストのチェックボックスを使用してツールバーの表示を切り替えます。

- **新規**: 新しいツールバーを作成します。
- **名前変更**: 強調表示されたツールバーの名前を変更します。このコマンドは 5 つのデフォルトのツールバーでは使用できません。
- **削除**: 強調表示されたツールバーを削除します。このコマンドは 5 つのデフォルトのツールバーでは使用できません。
- **リセット**: 強調表示されたツールバーの設定を初期設定にリセットします。

コマンド

コマンドページの説明にあるように、ツールバーの内容の追加と削除はとても簡単で、**コマンド**パネルから追加したいツールバーにドラッグする、またはその反対を行うだけです。修正するツールバーは、初めに **ツールバー** ページで表示モードに設定されていなければなりません。**分類** パネルを使用し、QlikView メニューごとにリストするコマンドを制限することができます。

オプション

オプション ページには、カスタマイズ用の追加設定があります。

メニューとツールバー セクションでは、最も一般的なコマンドだけが含まれたショート メニューを使用できます。

- **常にすべてのメニューを表示する**: 最も一般的なコマンドだけが含まれたショート メニューを使用するには、このチェック ボックスをオフにします。
    - **少し時間が経過したら、すべてのメニューを表示する**: ショート メニューを使用するとき、このチェック ボックスをオンすると、メニュー上にポインタを置いてしばらくするとすべてのメニューが表示されます。
- **メニューとツールバー使用データをリセットする**: このコマンドは、アプリケーションで使用したコマンドの記録を消去し、メニューとツールバーに表示するコマンドを既定の状態に戻します。ユーザー設定は残ります。

[その他] グループには以下の表示オプションがあります。

- **大きいアイコン**: 必要であれば、この設定でツールバーのアイコンを 2 倍表示にし、可視性を向上できます。
- **ツールバーにスクリーン チップを表示する**: このオプションは、ボタン名の表示のオン/オフを切り替えます。
- **スクリーン チップにショートカット キーを表示する**: このオプションはポップアップに表示する情報に追加されます。
- **メニューの表示方法**: この設定は、メニュー (とカスケード メニュー) を開く方法に適用します。**[規定のシステム設定]** 設定の他に、ドロップダウン リストでいくつかのカスタム アニメーションを利用できます。

大規模な導入での QlikView ツールバーのカスタマイズ

ツールバーの対話型カスタマイズの有効化と無効化

QlikView のツールバーとメニューは、完全にカスタマイズ可能になっています。対話型カスタマイズは、Settings.ini にある 2 つの設定によってオン/オフを切り替えられます。

ini ファイルは次にあります。*C:\Users\username\AppData\Roaming\QlikTech\productname*.

AllowCustomizeToolbars

および

AllowCustomizeMenubar

この値を1に設定すると対話型カスタマイズが有効になり、0にすると無効になります。

> *これらの設定を変更する前に、アプリケーションが終了されていることを確認してください。*

多数のコンピュータへのツールバー設定の適用

コンピュータ間でツールバー設定を複製する:

1. 1台のコンピュータでツールバーをカスタマイズします
2. Settings.ini ファイルをコピーします。

> *機能性を100%保証するためには、複製元コンピュータと複製先コンピュータのQlikViewバージョンが同じである必要があります。*

ステータス バー

ステータス バーはシートの下にあります。**表示 - ステータスバー**を選択して表示/非表示を切り替えます。ここにはいくつかの興味深い情報が表示されます。

ステータス バーの左側にはいくつかの事項が表示されます。**[準備完了]** は QlikView が選択可能なときに表示されます。カーソルがグラフィカル チャートの上に移動すると座標が表示されます。

ステータス バーの左側にヘルプを表示することもできます。コマンドやボタンをマウス ボタンで押して放さずにいると、ヘルプが表示されます。マウス ボタンを放す前にマウス カーソルをコマンドやボタンの外に移動すると、コマンドは実行されません。

ステータス バーの中央には日付と時刻が表示されます。最後にデータのリロードを実行したときを表示します。

アクティブなオブジェクトが **[And モード]** であれば、**[AND]** インジケータが表示されます。

ステータス バーの右側には、アクティブ リスト ボックス中のユニークな連結値 (または選択値) の数とユニーク値の合計数が、先頭にDを付けて表示されます。

さらに右側には、アクティブ項目の頻度が先頭にFを付けて表示されます。この値は、その項目の連結値 (または選択値) のレコード数と合計レコード数を示します。

最後に、ステータス バーには選択インジケータが表示されます。現在のシートでは表示できない選択が行われると、緑色になります。

6.4 [ロード スクリプトの編集] ダイアログ

[ロード スクリプトの編集] ダイアログは、**[ファイル]** メニューから、もしくはツールバーの **ロード スクリプトの編集** アイコン  をクリックして開きます。

このダイアログでは、スクリプトを入力して実行し、製品ドキュメントをODBCデータ ソースやさまざまなタイプのデータ ファイルに接続し、要求した情報を取得できます。

スクリプトは、手作業で入力することも自動的に生成することもできます。複雑なスクリプト ステートメントの場合は、少なくともその一部を手作業で入力することが必要になります。

ロード スクリプトの編集ダイアログでは、オートコンプリートを採用しているため、入力すると、最後まで入力しなくても入力したい内容をプログラムが予測します。スクリプト構文で使われる単語も予測に含まれます。スクリプトはまた、構文のコンポーネント別に色分けされます。**ツール > エディタ設定** を選択して、カスタマイズできます。

ダイアログの上部には、スクリプトに関連するさまざまなコマンドのメニュー バーがあります。最も多く使用されるコマンドは、ツールバーにもあります。ツールバーには、ロード スクリプトのタブを選択できるドロップダウン リストもあります。

[ロード スクリプトの編集] ダイアログのメニュー

[ファイル] メニュー

ファイル メニュー オプション

オプション	説明
リロード	スクリプトを実行し、ダイアログを閉じ、**[シート プロパティ]** ダイアログの **[項目]** ページを開きます。このコマンドは、**ロード スクリプトの編集**ダイアログのツールバーでも使用できます。
デバッグ	デバッガでスクリプトの実行を開始します。デバッガは、スクリプト内のエラーの検索に使用します。スクリプトのすべてのステートメントを監視でき、スクリプトを実行しながら変数の値を確認できます。このコマンドは、**ロード スクリプトの編集**ダイアログのツールバーでも使用できます。
隠しロード スクリプトの編集	隠しスクリプトのスクリプト タブを開きます。ここで、スクリプトの非表示部分を定義できます。この部分は、リロードを実行するとき、一般的なスクリプトの前に実行されます。隠しスクリプトのタブは常に、開いているスクリプト タブの左側に表示されます。隠しスクリプトの作成またはアクセスには、パスワードが必須です。
隠しロード スクリプト用パスワードの変更	**隠しパスワード新規作成** ダイアログを開きます。ここでは、隠しスクリプトにアクセスするための新しいパスワードを設定できます。
隠しロード スクリプトの作成	**隠しロード スクリプト用 パスワード新規作成** ダイアログを開き、隠しロード スクリプト用のパスワードを設定します。すると、"Hidden Script" という名前の新しいタブがスクリプト画面に追加されます。ここで、スクリプトの非表示部分を定義できます。この部分は、リロードを実行するとき、一般的なスクリプトの前に実行されます。隠しスクリプトのタブは常に、開いているスクリプト タブの左側に表示されます。
隠しロード スクリプトの削除	**ロード スクリプトの編集** ダイアログ ボックスから、隠しロード スクリプトを削除します。

オプション	説明
上書き保存	アクティブなドキュメントをファイルに保存します。データ、スクリプト、およびレイアウトが保存されます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+S。このコマンドは、**ロード スクリプトの編集**ダイアログのツールバーでも使用できます。
名前を付けて保存	アクティブなドキュメントに新しい名前を付けて新しいドキュメント ファイルとして保存します。
外部スクリプト ファイルを開く	スクリプトを含むファイルを参照するダイアログが開き、スクリプト パネルに新しいタブを追加してファイルを開きます。スクリプト パネルでは、QlikView の色分けを使用してスクリプトを編集できます。
外部スクリプト ファイルの保存	外部スクリプト ファイルを保存します。
スクリプト ファイルにエクスポート	スクリプト全体をテキスト ファイルに保存します。テキスト ファイルは、表示される**[スクリプトの保存]**ダイアログで指定します。ファイルには、拡張子 .qvs が付きます。
アクティブな画面の印刷	任意のプリンタでアクティブなロード スクリプト タブを印刷できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+P。このコマンドは、**ロード スクリプトの編集**ダイアログのツールバーでも使用できます。
すべての画面を印刷	任意のプリンタですべてのロード スクリプトを印刷できます。このコマンドからは隠しスクリプトは印刷されません。
テーブル ビューアー	**[テーブル ビューアー]**ダイアログが開かれ、このダイアログで、テーブル、項目、関連付けを視覚的に表示してロードされたデータの構造を調べることができます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+T。

[編集] メニュー

編集 メニュー オプション

オプション	説明
元に戻す	最後の変更を元に戻します (複数の操作を元に戻せます)。CTRL+Z を押した場合と同じです。
やり直し	最後の **元に戻す** をやり直します。CTRL+Y を押した場合と同じです。
切り取り	選択されたテキストをクリップボードにエクスポートします。このコマンドは、[ロード スクリプトの編集] ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+X を押した場合と同じです。

オプション	説明
コピー	選択されたテキストをクリップボードにコピーします。このコマンドは、**ロード スクリプトの編集**ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+C を押した場合と同じです。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアログのカーソルの位置に貼り付けます。このコマンドは、**ロード スクリプトの編集**ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+V を押した場合と同じです。
削除	選択されたスクリプト テキストを削除します。DEL を押した場合と同じです。
スクリプト全体を削除	スクリプトをクリアします。つまり、最初に自動生成された **set** ステートメント以外のすべてのテキストを削除します。
すべて選択	スクリプトのテキスト全体を選択します。CTRL+A を押した場合と同じです。
検索/置換	ダイアログが開かれ、ロード スクリプト内の数字または文字を検索して置換することができます。このコマンドは、**ロード スクリプトの編集**ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+F を押した場合と同じです。
行指定	ダイアログが開かれ、ここからスクリプト内の指定した行番号に移動できます。CTRL+G を押した場合と同じです。
大文字に設定	選択されたスクリプト テキストを大文字にします。
小文字に設定	選択されたスクリプト テキストを小文字にします。
大文字小文字を反転	選択されたスクリプト テキストの大文字小文字を逆に変更します。
Capitalize	選択されたスクリプト テキストの先頭文字を大文字にします。
コメント	スクリプト内のテキスト行をコメントに変換します。
コメント解除	テキスト行を元のスクリプト テキストに変換します。
インデント設定	ロード スクリプトでハイライトされた行にインデントを設定します。
インデント解除	ロード スクリプトでハイライトされた行のインデントを解除します。

[挿入] メニュー

挿入 メニュー オプション

オプション	説明
Set ステートメント	**[Set ステートメント ウィザード]** を開き、新しい Set ステートメントの入力や事前定義されたステートメントの選択ができます。
環境変数	オペレーティング システムのデフォルト設定に基づき、スクリプト内にデータ型変換変数を入力します。

オプション	説明
スクリプト ファイル	スクリプトまたはスクリプトの一部が含まれたファイルを参照するダイアログが開き、そのファイルの内容をロード スクリプトのカーソルの位置に挿入します。
Include ステートメント	**スクリプト ファイルの挿入** ダイアログを開きます。ここでは、qvs (既に保存されている QlikView スクリプト ファイル)、txt、または sql 形式のスクリプト ファイルを参照できます。
ドメイン SID	スクリプトで使用する NT ドメイン セキュリティ ID を取得します。NTDOMAINSID は、NT のセキュリティを管理する予約項目の 1 つとしてセクション アクセスで使用されます。
テスト スクリプト	テスト スクリプトを自動生成し、挿入します。
Load ステートメント	**ファイル ロード** もしくは **インライン ロード** で、LOAD ステートメントを挿入します。**[インライン ロード]** を選択すると**[インライン データ ウィザード]** ダイアログが開かれ、スプレッドシート スタイルのコントロールから load inline ステートメントを作成できます。
セクション アクセス	Publisher 認証テーブル、またはインライン ロードで、section access ステートメントを挿入します。 **[Publisher 認証]** を選択すると、**[ファイル ウィザード]** ダイアログが開きます。 **[インライン ロード]** を選択すると、**[アクセス制御 テーブル ウィザード]** ダイアログを開きます。
Connect ステートメント	ロード スクリプトに connect ステートメントを挿入します。
Disconnect ステートメント	ロード スクリプトに disconnect ステートメントを挿入します。

タブ メニュー

タブ メニューは、スクリプトの構造を整理するのに役立ちます。

タブ メニュー オプション

オプション	説明
タブの追加	新しいスクリプト タブを追加します。スクリプトは、左から右の順にタブごとに実行されます。現在のスクリプト タブが隠しスクリプトの一部の場合は、新しいタブが隠しスクリプト内にも作成されます。
カーソル位置にタブを挿入	アクティブなタブの後に新しいタブを挿入します。カーソルの後に置かれているアクティブなタブ上のテキストはすべて、新しいタブに移動します。
名前の変更	アクティブなタブの名前を変更するダイアログを開きます。
上へ	アクティブなタブを 1 つ左に移動します。隠しスクリプト タブの左には、タブを移動できません。
下へ	アクティブなタブを 1 つ右に移動します。
前のタブと結合する	アクティブなタブ上のすべてのテキストが前のタブの末尾に移動し、アクティブなタブは削除されます。
削除	アクティブなタブを削除します。最後に残るスクリプト タブは、削除できません。

[ツール] メニュー

ツール メニュー オプション

オプション	説明
ODBC アドミニストレータ64 ビット	64 ビットODBC ドライバ用 [ODBC データ ソース アドミニストレータ] ダイアログを開きます。
ODBC アドミニストレータ32 ビット	32 ビットODBC ドライバ用 [ODBC データ ソース アドミニストレータ] ダイアログを開きます。
エディタ設定	**[ユーザープロパティ]** ダイアログが開かれ、ロード スクリプトに表示されるさまざまなテキスト タイプのフォントと色を設定できます。
構文チェック	ロード スクリプトの構文を確認し、初めのエラーで停止します。

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] は、QlikView の オンライン ヘルプ ファイルを開きます。

[ロード スクリプトの編集] ダイアログのパネル

ロード スクリプトの編集 ダイアログには、上にスクリプト パネルと下にツール パネルの 2 つのパネルがあります。

スクリプト パネル

スクリプト パネルには、実際のスクリプトが含まれます。スクリプトの各行に番号が付けられます。スクリプトは、タブで分けられたページに分割でき、左のタブから右のタブへ順に実行されます。

隠しスクリプトが使用されている場合は、一番左に別のタブで表示されます (パスワードが設定されている場合)。

スクリプトは、構文のコンポーネント別に色分けされます。**ツール** メニューから **エディタ設定** を選択すると、色分けをカスタマイズできます。

ツール パネル

ツール パネルには、スクリプトを生成するための機能を含む 4 つのタブ ページがあります。

データ ページ

データ ページには、QlikView にデータを取得する基本的なコマンドが含まれます。

データベース グループのコマンドは、データ ソースへの接続とデータ ソースから項目を選択するために使用します。市販の DBMS を使用する場合は、QlikView とデータベースとのインターフェースに ODBC または OLE DB を使用できる場合があります。ODBC/OLE DB インターフェースからデータを取得する前に、DBMS をサポートする ODBC ドライバか OLEDB ドライバをコンピュータにインストールする必要があります。適切な ODBC/OLE DB ドライバをインストールしたら、データベースを ODBC データ ソースとして設定する必要があります。

データ ページ コマンド

コマンド	説明
OLE DB	OLE DB を使用してデータ ソースへの接続を確立します。

コマンド	説明
ODBC	ODBC を使用してデータ ソースへの接続を確立します。
QVSAdminDataProvider.dll	このカスタム コネクタを使用して QlikView Server に接続し、DMS や共有オブジェクトから情報をロードすることができます。
カスタム	カスタム データ ソースもドロップダウン ボックスに表示され、選択できます。QlikView は、オープン ソースのプラグイン インターフェースを提供し、従来のファイル、ODBC、または OLE DB インターフェースではカバーしないさまざまな種類のデータ ソースに対するプログラム カスタム インターフェースを実現できます。典型的な例は、Web サービスから使用できるデータです。プラグインは、Qlik のオープン ソースとして (要求したときに) 提供されるテンプレート コードの仕様に従ってプログラムを作成し、dll としてコンパイルする必要があります。次に dll を QV.EXE ファイルの隣に置き、カスタム ソースを使用できるようにします。
32 Bit 互換モード	通常、QlikView は 64 ビット プロバイダを使用します。32 ビット ドライバのデータ ソースを使用する場合に、このチェック ボックスをオンにして強制的に ODBC/OLEDB connect ステートメントを 32 ビット プロバイダで実行します。
接続	データ ソースを選択できる **[データ リンク プロパティ]** ダイアログを開く、または ODBC データソースを選択できる **[データ ソースへの接続]** ダイアログを開きます。
選択	**[Select ステートメントの作成]** ダイアログを開きます。

ファイル データ グループでは、他のデータ ソースからのデータ取得が行えます。

ファイルからのデータ オプション

オプション	説明
相対パス	このチェック ボックスをオンにすると、絶対パスでなく相対パスがロード スクリプトで使用されます。通常、相対パスは、ドキュメントを異なるコンピュータ間で移動させる場合に必要です。この設定は、[ユーザー プロパティ] ダイアログでも使用できます。そこで変更すると、**ロード スクリプトの編集** および **隠しロード スクリプトの編集** ダイアログで変更されます。
FTP の使用	**テーブル ファイル**、**QlikView ファイル**、または **ファイルの Include** をクリックしたときに FTP サーバーからファイルを選択するにはこのチェック ボックスをオンにします。
テーブル ファイル	テーブル ファイルをリスト表示する **[ファイルを開く]** ダイアログを開きます。1 つまたは複数のファイルを選択し、[OK] を押すと、1 つまたは複数の load ステートメントが生成されます。実行すると、スクリプトによって、対応するファイルからデータがロードされます。**FTP の使用** オプションをオン (上記を参照) にした場合は、リストからサーバーを選択します (または使用するサーバーを入力し、[接続] をクリックします)。サーバーを選択したら、テキスト ファイルを選択します。
QlikView ファイル	**QlikView ドキュメントを開く** ダイアログを開きます。ファイルを選択すると、**binary** ステートメントがロード スクリプトの 1 行目に生成されます。このステートメントは QlikView ファイルからデータがロードしますが、レイアウト設定は使用されません。

オプション	説明
Web ページ	**[ファイル ウィザード]** ダイアログが開かれ、データベース テーブルのソースとして URL を入力できます。
項目値	**[ファイル ウィザード]** が開かれ、既にロードされた項目の内容をロードできます。

[変数] ページ
変数 ページには、QlikView 変数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールがあります。

変数オプション

オプション	説明
貼り付け	選択された関数をロード スクリプトに貼り付けます。
システム変数の表示	このチェック ボックスをオンにすると、システム変数が **変数** ドロップダウンのリストに表示されます。

QlikView は、オープン ソースのプラグイン インターフェースを提供し、従来のファイル、ODBC、または OLEDB インターフェースではカバーしないさまざまな種類のデータ ソースに対するプログラム カスタム インターフェースを実現できます。典型的な例は、Web サービスから使用できるデータです。プラグインは、Qlik のオープン ソースとして (要求したときに) 提供されるテンプレート コードの仕様に従ってプログラムを作成し、dll としてコンパイルする必要があります。次に dll を QV.EXE ファイルの隣に置き、カスタム ソースを使用できるようにします。選択できるようにドロップダウン ボックスに表示されます。

[関数] ページ
[関数] ページには、データの QlikView の標準の関数をナビゲートしたり、貼り付けるためのツールが含まれています。

関数ページ オプション

オプション	説明
関数の種類	下にある **関数** リストで対応する関数を表示するには、ドロップダウン リストで関数の種類を選択します。
関数	このドロップダウン リストには、QlikView の標準スクリプト関数が含まれています。
貼り付け	**関数** リストで関数を選択し、スクリプトのカーソルのある位置に貼り付けます。

[変数] ページ
変数 ページには、QlikView 変数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールがあります。

変数ページ オプション

オプション	説明
貼り付け	選択された変数をロード スクリプトに貼り付けます。
システム変数の表示	このチェック ボックスをオンにすると、システム変数が **変数** ドロップダウンのリストに表示されます。

[設定] ページ
[設定] ページには、QlikView スクリプトのセキュリティ設定が含まれます。

設定ページ オプション

オプション	説明
スクリプト権限の追加	**データベースを R/W モードで開く** このチェックボックスをオンにすると、select ステートメントで **mode is write** 修飾子が使用できるようになります。 **外部プログラムを実行する** このオプションをオンにすると、スクリプト内で execute ステートメントを使用できます。
設定	**データベース接続の認証情報を暗号化する** このチェックボックスをオンにすると、**connect** ステートメントの USERID とPASSWORD がスクリプト内で暗号化されます。

Set ステートメント ウィザード

現在の Set ステートメント

変数名
新しい変数名の入力、または、下で選択した組込み変数の編集を行います。**貼り付け** をクリックするとここに組込み変数が挿入されます。

変数値
上で新しい変数名を入力した場合、ここで値を定義します。下で組込み変数値を選択した場合、ここで編集することができます。

組込み Set ステートメント

変数グループ
使用する変数の種類を選択します。

変数
使用する変数を選択します。

組込み値
変数の組込み値を選択します。

貼り付け
このボタンをクリックすると、組込み値が**現在の Set ステートメント**に貼り付けられ、編集することができます。

検索/置換 (ロード スクリプト)

[検索/置換] ダイアログは、ロード スクリプト内で特定のテキスト文字列を検索し、検索結果の複数箇所の変更や一括の変更を行う場合に使用します。**ロード スクリプトの編集** ダイアログの **編集** メニューから開けます。

検索/置換項目

項目	説明
検索	検索対象のテキスト文字列。
置換	検索対象文字列を置換するテキスト。
次を検索	検索文字列の次の検索結果に選択を移動します。
Replace	選択されている部分の中で置換を行います。
すべて置換	検索文字列が出現するすべての箇所で置換を行います。
大文字/小文字の区別	このチェック ボックスをオンにすると、テキスト検索は大文字と小文字を区別します。
単語の検索	このチェック ボックスをオンにすると、単語単位 (スペース、またはアルファベット以外の文字による区切り) の検索文字列が出現する箇所だけが検索されます。
すべてのタブの検索	このチェック ボックスをオンにすると、すべてのスクリプト タブで検索および置換処理が行われます。
上へ	このラジオ ボタンをオンにすると、ロード スクリプトが上方向に検索されます。
下へ	このラジオ ボタンをオンにすると、ロード スクリプトが下方向に検索されます。

スクリプトへのコメント入力

スクリプト コードにコメントや備考を挿入したり、コメント マークを使用してスクリプト コードの一部を無効にすることができます。// (2 本のスラッシュ) の右側に続く行のテキストはすべてコメントと見なされ、スクリプトを実行しても実行されません。コードのセクションを /* と*/ で囲むこともできます。

Rem ステートメントを使用して、スクリプトにコメントを挿入することもできます。

```
	Rem This is a comment ;		/* This is a comment		that spans two lines */		// This is a comment as well
```

隠しスクリプト

隠しスクリプトは、スクリプトの特別な部分であり、**リロード** を実行するとき、通常のスクリプトの前に実行されます。隠しスクリプトは、パスワードで保護されています。

ロード スクリプトの編集 ダイアログの **ファイル** メニューから **隠しロード スクリプトの編集** を選択すると、パスワードを入力するように求められます。パスワードは、隠しスクリプトにアクセスする前に入力する必要があります。ドキュメント内の隠しスクリプトに初めてアクセスする場合 (つまり隠しスクリプトの作成時) は、新しいパスワードの確認を求められます。この隠しスクリプト タブは、その他のすべてのスクリプト タブの左に表示され、ドキュメントを閉じるまでその場所に存在します。

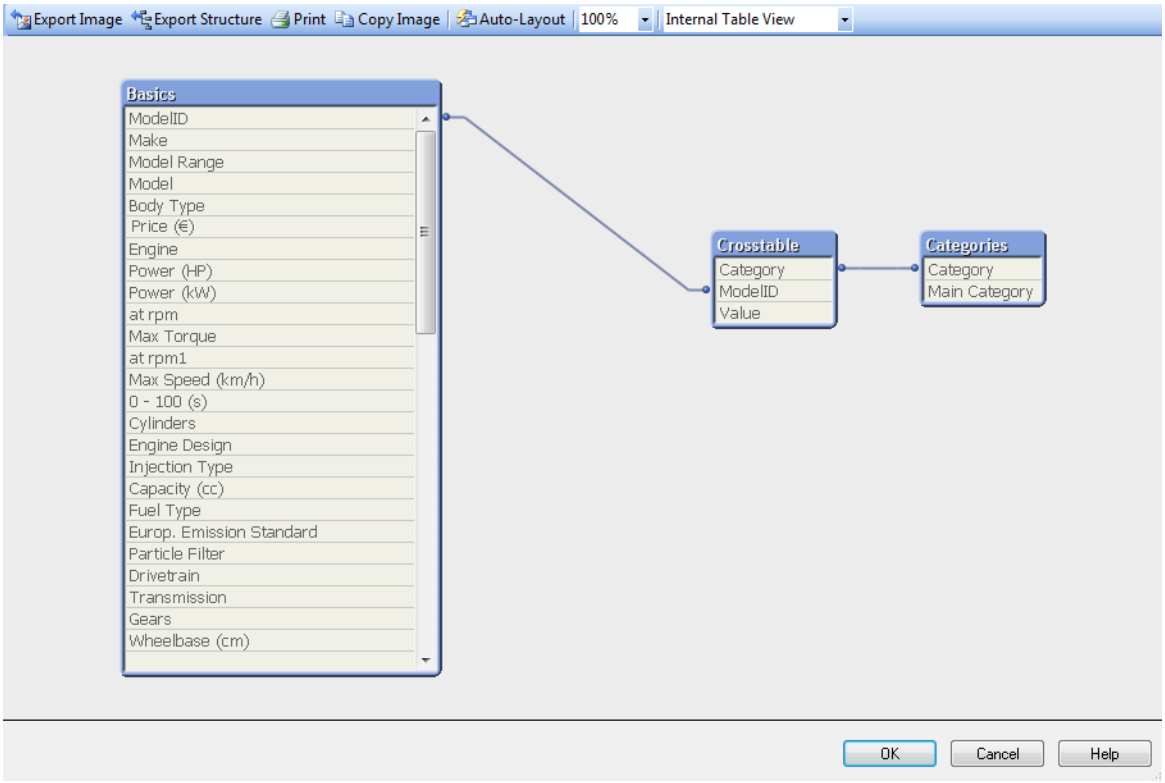
*隠しスクリプトを使用する場合、**binary** コマンドは通常のスクリプトでは使用できません。*

隠しスクリプトの実行中に**[ロード スクリプトの進捗]**ダイアログが更新されるようにするには、**[隠しロード スクリプトの進捗を表示]**(**[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** ページ内)をオンにします。**Trace** ステートメント以外のエントリが、スクリプト ログ ファイルに含まれることはありません。

隠しスクリプトに **section access** が含まれる場合、そのセクションは、通常のスクリプト内では許可されていません。また、隠しスクリプトが含まれた QlikView ファイルに対する**バイナリ ロード**で始まるスクリプト内でも許可されません。

テーブル ビューアー

[テーブル ビューアー] ダイアログは、**[ファイル]** メニューから**[テーブル ビューアー]** を選択するか、CTRL+T キーを押すと開きます。

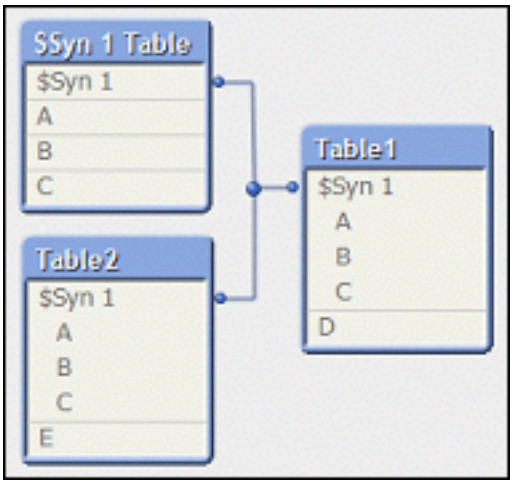


このダイアログは、現在の QlikView ドキュメントのデータ テーブル構造を表示するために使用します。テーブルはボックスとして表示され、ボックス内には、テーブルに含まれる項目のリストが表示されます。ボックス間のコネクタ線は関連を表します。3 つ以上の線が交わる場合は、小さな点の形式で接続ポイントが置かれます。

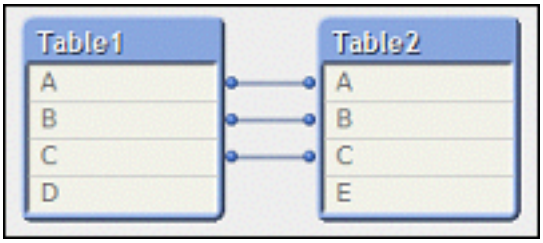
テーブル、コネクタ ポイント、およびコネクタが折れ曲がるすべての点を、マウスのドラッグ アンド ドロップで移動できます (以下を参照)。レイアウトをこのように再配置した場合、**[キャンセル]** でダイアログを終了しない限り、変更内容はドキュメントと共に保存されます。

ビューには、2 つ種類があります。それぞれのレイアウトは個別に保存されます。2 つのビューは次のとおりです。

- **内部テーブル ビュー** がデフォルトのビューです。QlikView が保存するデータテーブルを表示します。複数の項目を共有するテーブルでは、複合合成キーが作成されます。合成テーブルは、テーブルのリンクに使用されます。このビューは、QlikView ロジックの理解に最適です。また、テーブルの各ペアがテーブル間に最大で 1 つのコネクタを持つ場合に明確なレイアウトを示すこともできます。



- **[ソース テーブル ビュー]** は、QlikView が読み取るデータテーブルを表示します。ここには合成項目や合成テーブルはありません。複合キーは、テーブル間の複数のコネクタで表されます。



カーソルをテーブル内の項目のいずれかの上に置くと、この項目の内容に関する情報のツール ヒントがポップアップで表示されます。

- **情報密度**は、テーブルのレコード総数に対する、この項目内で値を持つ (NULL でない) レコードの数の割合です。
- **サブセット割合**は、この項目のユニーク値の合計数 (他のテーブルも) に対する、このテーブル内で検出されたこの項目のユニーク値の数の割合です。
- **テーブルのコメント** がツール ヒントに表示されます。
- **項目のコメント**がツール ヒントに表示されます。
- スクリプトまたは **ドキュメントプロパティで追加される [タグ]。テーブル** (システム タグなど) ページで追加され、ツール チップに表示されます。

テーブル レイアウトでは、次の操作を実行できます。

- **テーブル キャプションをクリックする**: テーブル、そのテーブルに論理的に直接関連付けられているすべてのテーブル、およびそれらのテーブル間の接続を強調表示します。
- **テーブル キャプションをポイントしてドラッグする**: レイアウト内でテーブルを移動します。
- **テーブル キャプションをポイントする**: テーブルに関するポップアップ情報を表示します。
- **テーブル内の項目をクリックする**: テーブル、項目、その項目を含むすべてのテーブル、およびそれらのテーブル間の接続を強調表示します。

- **テーブル内の項目をポイントする**: 項目に関するポップアップ情報を表示します。
- **テーブルを右クリックする:プレビュー**をクリックすると、ロードしたデータのサンプル レコードを表示するダイアログが開きます。
- **コネクタ ポイントまたはコネクタが折れ曲がる点をポイントしてドラッグする**: レイアウト内でコネクタ ポイントを移動します。
- **コネクタ ポイントまたはコネクタが折れ曲がる点を右クリックする**: コネクタ ポイントを自動配置に戻します。
- **レイアウトの背景をクリックする**: テーブル、項目、およびコネクタのすべての強調表示を取り消します。

ダイアログのツールバーとボタンでは、次のコマンドを使用できます。

- **画像のエクスポート**: ファイル ブラウザ ダイアログが開かれ、現在のテーブル ビューをビットマップまたは png 画像としてディスク上のファイルに保存できます。
- **構造のエクスポート**: このボタンを押すと、ドキュメントのテーブル構造を一連のテキスト ファイルにエクスポートできます。
  これらのテキスト ファイルはそれぞれ、1 つはテーブル用 (*filename*.Tables.tab)、1 つは項目用 (*filename*.Fields.tab)、1 つはマッピング用 (*filename*.Mappings.tab) に分かれていますが、QlikView ロジックを活用して詳細な分析を行うために QlikView に簡単に読み取ることができます。エクスポートするターゲット フォルダを選択できるダイアログが表示されます。デフォルトでは、ファイルは QlikView ドキュメントと同じフォルダに保存されます。
- **画像の印刷**: 現在のテーブル ビューを印刷できる [印刷] ダイアログを開きます。CTRL+P を押した場合と同じです。
- **画像のコピー**: 現在のテーブル ビューを画像としてクリップボードにコピーします。CTRL+C を押した場合と同じです。
- **自動レイアウト調整**: 現在のビュー内でテーブルを再配置します。
- **ズーム**: このドロップダウン ボックスで現在のビューのズーム倍率を設定できます。
- **表示**:**内部テーブル ビュー**か**ソース テーブル ビュー**を選択します (上記参照)。

データ リンク プロパティ

このダイアログは、OLE DB データ ソースへの接続 (通常は ODBC 経由) の作成に使用します。このダイアログは、**[スクリプトの編集]** ダイアログの **[ツール]** パネルの **データ** ページで **[接続...]** ボタンをクリックすると開きます。

最初のページは、OLE DB プロバイダの名前をリストします。ODBC データ接続を作成するには、[*OLE DB Provider for ODBC Drivers*] を選択し、[次へ>>] をクリックして **[接続]** ページに移動します。

[接続] ページの **[1. データ ソースを指定します]** で、設定済みデータ ソースの中からデータ ソースを選択します。問題になる可能性がある ODBC データ ソースが 2 種類あります。

定義済みのデータ ソース

データ ソース名を使用する ラジオ ボタンを選択すると、定義済みの ODBC データ ソースにアクセスできます。ドロップダウン リストには、定義されているすべてのデータ ソースが含まれます。使用するデータ ソースを選択します。

必要に応じて、データ ソースの **ユーザー名** と **パスワード** を指定できます。**接続のテスト** ボタンを押して、接続をテストすることもできます。

最後に **[OK]** ボタンをクリックします。connect ステートメントの準備ができました。

汎用的なデータ ソース

汎用的なデータ ソースは、データベース ファイルなどで使用されます。汎用的なデータ ソースを使用する場合または新しいソースを作成する場合は、**接続文字列を使用する** ラジオ ボタンを選択して **ビルド** をクリックします。これにより、**[データ ソースの選択]** ダイアログが開きます。

データ ソースには、次の 2 つのタイプがあります。ファイル データ ソースとコンピュータ データ ソースの 2 種類を使用できます。コンピュータ データ ソースは、ローカル マシンおよびユーザー専用で、ファイル データ ソースは、ファイル専用です。2 つのうちどちらでも使用できます。それぞれが **データ ソースの選択** ダイアログで個別のページを持ちます。

汎用的なデータ ソースは、データベース ファイルなどで使用されます。汎用的なデータ ソースを使用する場合または新しいソースを作成する場合は、**[接続文字列を使用する]** ラジオ ボタンを選択して **[ビルド]** をクリックします。これにより、**[データ ソースの選択]** ダイアログが開きます。

データ ソースには、次の 2 つのタイプがあります。ファイル データ ソースとコンピュータ データ ソースの 2 種類を使用できます。コンピュータ データ ソースは、ローカル マシンおよびユーザー専用で、ファイル データ ソースは、ファイル専用です。2 つのうちのいずれかを使用します。それぞれが **データ ソースの選択** ダイアログで個別のページを持ちます。

データ ソースをダブル クリックし、開いたダイアログで適切なデータベース ファイルを参照します。

> *MS Access データ ソースの場合は、途中で表示されるダイアログで **[データベース]** ボタンをクリックする必要があります。*

RETURN キーを押すと、**[データ リンク プロパティ]** ダイアログの 2 番目のページに戻ります。

必要に応じて、データ ソースの**ユーザー名** と**パスワード**を指定します。**接続のテスト** ボタンを押して、接続をテストすることもできます。

最後に **[OK]** ボタンをクリックします。**connect** ステートメントの準備ができました。

データ ソースへの接続

このダイアログは、ODBC データ ソースへの接続の作成に使用します。このダイアログは、データベースの ODBC オプションを選択している場合に、**[スクリプトの編集]** ダイアログの **[ツール パネル]** の **[データ]** ページで **[接続]** ボタンをクリックすると開きます。

このページでは、データ ソースを選択します。初期設定では、システム DSN のみが表示されます。すべての DSN を表示するには、**ユーザー DSN の表示** チェックボックスをオンにします。

必要に応じて、データ ソースの **ユーザー名** と **パスワード** を指定できます。**接続のテスト** ボタンを押して、接続をテストすることもできます。

最後に **[OK]** ボタンをクリックします。**CONNECT** ステートメントの準備ができました。

Select ステートメントの作成

[Select ステートメントの作成] ダイアログは、**[ロード スクリプトの編集]** ダイアログのツール パネルにある **[データ]** ページで **[選択]** ボタンをクリックすると開きます。事前に選択したデータ ソースよりロードするためのテーブルと項目を定義するために使用します。

ダイアログは 3 つのグループで構成されます。ひとつ目のグループには、データ ソースに関する情報が表示されます。

データ ソース	現在の ODBC/OLE DB データ ソースの名前です。
データベース	ロップダウン リストの使用できるデータベースから選択できます。
所有者	データベースの所有者の名前がここに表示されます。ドロップダウン リストの使用できる所有者から選択できます。
Connect	このボタンをクリックすると、**[データ ソースへ接続]** ダイアログが開きます。
ドライバ	このボタンをクリックすると、**ODBC ドライバ情報** もしくは **OLEDB ドライバ情報** ダイアログが開きます。このダイアログでは、現在使用中のドライバのサポート機能に関する情報を確認できます。
サポート	データベースに関するサポート情報を表示するダイアログが開きます。Qlik サポートに問い合わせを行うときや、QlikView ドキュメントに関する不具合や問題を報告するときは、この情報を使用してください。

2 つ目のグループは、テーブルと項目の選択に使用されます。

データベースのテーブル	このリストには、使用できるデータベース テーブルが表示されます。選択するには、テーブル名をクリックします。リストに表示されるテーブルの種類は、右のチェック ボックスから制御できます (以下の説明を参照)。
項目	このリストには、選択したテーブルで使用できるすべての項目が表示されます。**select** ステートメントに含める項目をリストから 1 つまたは複数選択します。**"*"** を使用すると、すべての項目名を一度に選択できます。項目を選択すると、3 つ目のグループの **ロード スクリプト** ページ (以下の説明を参照) に反映されます。ドロップダウン コントロールで選択すると、データベースの **[オリジナル順]** またはアルファベットの **[テキスト順]** で項目をソートできます。
キー項目のアイコンを表示	このチェックボックスをオンにすると、ソースのデータベースでキー項目として定義されている項目は **項目** リストにキー アイコンとともに表示されます。
テーブル	**[データベースのテーブル]** リストに通常のデータベース テーブルを表示する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

ビュー	**[データベースのテーブル]** リストにデータベース ビューを表示する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。
シノニム	**[データベースのテーブル]** リストにデータベース テーブルのシノニムを表示する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。
システム テーブル	**[データベースのテーブル]** リストにデータベース システム テーブルを表示する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。
別名	**データベースのテーブル** リストにデータベースのテーブルの別名を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

3 つ目のグループには、生成された **select** ステートメントと選択したテーブルと項目に関する情報が表示されます。グループには次のページがあります。

スクリプト

スクリプト タブには、生成される **select** ステートメントのスクリプトの内容が表示されます。

右の 3 つのラジオ ボタンは、スクリプト内の **select** ステートメントの書式設定を制御します。

列	スクリプト内の 1 行に 1 項目名を表示する **select** ステートメントを生成するには、このオプションを選択します。
行	スクリプト内に全体が 1 行に表示される **select** ステートメントを生成するには、このオプションを生成します。
構造化	スクリプト内に構造的な **select** ステートメントを生成するには、このオプションを生成します。
先行する Load	このオプションを選択すると、**select** ステートメントを入力として使用し、**load** ステートメントが先行する **select** ステートメントが生成されます。**select** ステートメント内で * が使用されている場合でも、すべての項目が **load** ステートメントにリストされます。
追加	生成した **select** ステートメントを保存するにはこのボタンをクリックします。ダイアログを閉じることなく **select** ステートメントが生成されます。古いステートメントは、仕切りを隔てた上のプレビュー パネルに表示されます。この手順は、何度も繰り返せます。

テーブル

テーブル ページには、選択したデータベース テーブルに関する詳細な情報が表示されます。

詳細 - テーブル、列 および **プレビュー** ページを拡大ビューにサイズ変更できるダイアログで開きます。

列

列 ページには、現在のテーブルの選択された列 (項目) に関する詳細情報を表示します。

プレビュー

プレビュー ページには、現在の **select** ステートメントで生成される先頭の数行のプレビューが表示されます。

BLOB

BLOB タブでは、BLOB と呼ばれる大きなバイナリオブジェクトを QlikView ドキュメントにバンドルできます。通常、データベース管理システムでひとつのエンティティとして持つ画像やテキスト ファイルといったものです。**i** アイコンが BLOB を含む項目に表示されます。データベースの BLOB は、サイズ (KB) と種類といった情報と共に **BLOB ビューアー** にリストされます。BLOB が画像の場合、リストの横にプレビュー表示されます。QlikView では jpg、png、bmp、pdf、rtf の BLOB をサポートします。

[バンドル...] ボタンで、**バンドル** ダイアログを開きます。

BLOB データ用キー項目	リストでサイズ変更する BLOB を選択します。
画像を縮小する	BLOB のサイズ変更を行うためのオプションを有効にします。画像のピクセルサイズ変更用の **幅** と **高さ** を適用します。

縦横比の設定はありません。

> *ODBC を使用しているときのみ BLOB をバンドルできます。*

テーブルと項目を選択して、**[OK]** ボタンをクリックすると、生成された **select** ステートメントが QlikView のカーソル位置に挿入されます。**[キャンセル]** ボタンをクリックすると、変更内容は取り消されます。

通常、ODBC ドライバは、このダイアログで生成されるよりも複雑な **select** ステートメントを解釈できます。より複雑な **select** ステートメントを生成する方法には、Microsoft Query などのクエリツールがあります。これは、**select** ステートメントをグラフィカルに作成します。他の方法でより複雑なクエリを作成した場合、**select** ステートメントをコピー (CTRL+C) して QlikView ロード スクリプトに貼り付け (CTRL+V) ます。(MS Query では、**[SQL]** ボタンをクリックします。)

ファイルを開く

このダイアログは、次の内にある **[テーブル ファイル]** ボタンで開きます。**ロード スクリプトの編集** ダイアログが開きます。

[ファイルを開く] ダイアログで、ロードするテーブル ファイルを指定します。複数のファイルを選択する場合は、Ctrl または Shift キーを押しながらファイルをクリックしてください。**開く** ボタンをクリックすると、選択したファイルが **ファイル ウィザード** で読み取られます。

インターネット ファイル/QlikView ドキュメントを開く

このダイアログは、**QlikView ドキュメント** または **テーブル ファイル** ボタンのいずれかを **ロード スクリプトの編集** ダイアログのツール パネルにある **データ** ページで **FTP の使用** チェックボックスがオンの時にクリックすると表示されます。いずれのボタンを押したかによって、**QlikView ドキュメントを開く** または **インターネット ファイルを開く** ダイアログが開かれますが、機能は同じです。このダイアログを使用して QlikView ドキュメントを開くこともできます。これは、**[ファイル]** メニューから **[FTP から開く]** を選択して行います。

ドロップダウン リスト ボックスから、開くファイルが含まれたサーバーを選択します。サーバーがリストにない場合 (またはリストがない場合) は、サーバー名を入力し、**接続** をクリックします。

ダイアログを開く

項目	説明
FTP サーバー アドレス	FTP サーバーに初めて接続するとき、ここにアドレスを入力する必要があります。
ユーザー名	**匿名でのログイン** チェック ボックスがオフの場合は、ここにユーザー名を入力します。
パスワード	**匿名でのログイン** チェック ボックスがオフの場合は、ここにパスワードを入力します。
Connect	このボタンをクリックして選択したサーバーに接続します。この手順を回避するには、リストから直接サーバーを選択します。
FTP パッシブ モード	ファイアウォールを通して接続するには、FTP パッシブ モードを使用する必要の可能性があります。
匿名でのログイン	ユーザー名とパスワードを指定せずにログインできます。
ファイル名	サーバー接続時に、選択したファイルの名前がここに表示されます。
ファイルの種類	表示したいファイルの種類をここに指定します。
開く	このボタンをクリックすると、**[ロード スクリプトの編集]** ダイアログのロード スクリプトに **load** ステートメントが生成されます。

インライン データ ウィザード

インライン データ ウィザードダイアログは、**挿入** メニューの **Load ステートメント> インライン ロード** から開きます。これを使用して、スクリプトに **load inline** ステートメントを作成します。

ダイアログにはスプレッドシートに似たものが含まれており、多くの点でスプレッドシートと同じように機能します。ただし、このスプレッドシートでの計算式は、Microsoft Excel などでの計算式のようには評価されないため注意してください。

インライン テーブルで、各列は QlikView にロードされる項目を表します。各行はテーブルのレコードです。データ セルを選択するには、それをクリックします。値を入力、もしくはクリップボードからコピします。Enter キーまたは矢印キーを押すと値が確定し、別のセルに移動します。

最上行 (ラベル) は、項目ラベル用です。ラベル用のセルをダブルクリックし、編集します。ラベル行に値を入力しない場合、項目名は F1、F2 などが使用されます。

[編集] メニュー

編集 メニューには基本の編集コマンドがあります。

編集 メニュー コマンド

コマンド	説明
列の挿入	1 つまたは複数の列が選択されている場合、新しい空白の列を挿入します。
列の削除	選択されている列を削除します。
行の挿入	1 つまたは複数の行が選択されている場合、新しい空白の行を挿入します。
行の削除	選択されている行を削除します。

[ツール] メニュー

ツール メニューには、**ドキュメントのデータ** が含まれます。ここから **ドキュメント データ インポート ウィザード** を開き、ドキュメントに存在項目から項目値を貼り付けることができます。ダイアログでは、選択した項目に項目値がいくつ存在するかを確認できます。また、すべての値、選択値、または除外値をインライン ウィザードに挿入するように選択することもできます。

OK ボタンをクリックするとダイアログが閉じ、ダイアログのテーブル グリッドの内容を反映した **Load inline** ステートメントが生成されます。

アクセス制限 テーブル ウィザード

アクセス制限 テーブル ウィザード ダイアログは、**挿入** メニューの **セクション アクセス > インライン ロード** から開きます。これを使用して、QlikView ドキュメントのアクセス制御用 **Load Inline** ステートメントを作成します。

ダイアログには、次のコマンドが含まれます。

セキュリティ項目

項目	[Details] (詳細)
使用項目	リストには QlikView の **[セクション アクセス]** 内のすべてのセキュリティ項目が含まれます。含める項目のチェック ボックスをオンにします。
基本ユーザーアクセステーブル	このボタンを押すと、[ACCESS]、[USERID]、および [PASSWORD] がオンになり、その他の項目はオフになります。
Basic NT Security	このボタンを押すと、[ACCESS]、[PASSWORD]、[NTNAME]、および [NTDOMAINSID] がオンになり、その他の項目はオフになります。

[OK] ボタンでダイアログを閉じると、**[インライン データ ウィザード]** が表示され、選択した項目が列のラベルになっています。このダイアログで **[OK]** ボタンをクリックすると、**Load Inline** ステートメントが **Section** ステートメントに続いて作成され、次に **Section Application** ステートメントが作成されます。

ファイル ウィザード

[ファイル ウィザード] は、**[ロード スクリプトの編集]** ダイアログ ボックスの **[ツール パネル]** の [データ] ページで **[テーブル ファイル]** ボタンを使用してファイルまたは HTML テーブルを開くと自動的に表示されます。このウィザードは [ファイル] メニューから QlikView 以外のドキュメント ファイルを開いたときにも表示されます。

QlikView が認識できるファイルの種類は、区切り記号付きテキスト ファイル (csv ファイルなど)、固定レコード長のファイル、差分ファイル、Excel ファイル、HTML ファイル、および XML ファイルです。これらの種類のファイルを **テーブル ファイル** と呼びます。

ファイルは、ローカル ネットワークまたはインターネットから直接ダウンロードできます。

ローカル ネットワークに格納されているファイルをロードするには、**[ロード スクリプトの編集]** ダイアログの **[テーブル ファイル]** ボタンを使用します。ファイルに、.csv、.txt、.tab、.skv、.fix、.dif、.htm、.html、.shtml、.xhtml、.php、または .asp などのテーブル ファイル拡張子が付いている場合、そのファイルは **[ローカル ファイルを開く]** ダイアログに表示されます。別の拡張子が付いている場合でもファイルを開くことは可能です。その場合は、**[ファイルを開く]** で [ファイルの種類] を **[すべてのファイル (*.*)]** に設定します。ただし、内容は QlikView で解釈できる必要があります。QlikView が内容を解釈できるかどうかは、ファイルにどの拡張子が付いているかとは別の問題です。

ファイルを直接インターネットからロードするには、FTP 参照ダイアログの **ファイル名** テキスト ボックスに URL (Web ブラウザからコピーしたもの) を貼り付けて、**開く**をクリックします。

ファイルを既に選択していると、ファイル ウィザードが開きます。**[ソース]**、**[種類]**、**[変換]**、**[オプション]** そして **[スクリプト]** の 5 ページから構成されます。**[ソース]** ページでは変更はめったに必要ないため、ウィザードは **[種類]** ページから始まります。**<<前に戻る** および **次へ>>** ボタンにより、ページを移動します。

種類 および **オプション** ページには、ファイルのプレビューがあり、QlikView がファイルをどのように解釈しているかを確認できます。**ロード スクリプト** ページでは、[ロード スクリプトの編集] ダイアログでのロード スクリプトの表示方法を設定します。

終了 ボタンによりウィザードが閉じ、ロード スクリプトに load ステートメントが生成されます。

ローカル ネットワークに格納されているファイルをロードするには、**[ロード スクリプトの編集]** ダイアログの **[テーブル ファイル]** ボタンを使用します。ファイルに、.csv、.txt、.tab、.skv、.fix、.dif、.htm、.html、.shtml、.xhtml、.php、または .asp などのテーブル ファイル拡張子が付いていれば、そのファイルは **ファイルを開く**ダイアログに表示されます。別の拡張子が付いている場合でもファイルを開くことは可能です。その場合は、**ファイルを開く**で **ファイルの種類** を **すべてのファイル (*.*)** に設定します。ただし、内容は QlikView で解釈できる必要があります。QlikView が内容を解釈できるかどうかは、ファイルにどの拡張子が付いているかとは別の問題です。

ファイルを直接インターネットからロードするには、FTP 参照ダイアログの **[ファイル名]** テキスト ボックスに URL (Web ブラウザからコピーしたもの) を貼り付けて、**[開く]** をクリックします。

ファイルを既に選択していると、ファイル ウィザードが開きます。**[ソース]**、**[種類]**、**[変換]**、**[オプション]** そして **[スクリプト]** の 5 ページから構成されます。**[ソース]** ページでは変更はめったに必要ないため、ウィザードは **[種類]** ページから始まります。**<<前に戻る** および **次へ>>** ボタンにより、ページを移動します。

[種類] および **[オプション]** ページには、ファイルのプレビューがあり、QlikView がファイルをどのように解釈しているかを確認できます。**ロード スクリプト** ページでは、**ロード スクリプトの編集** ダイアログでのロード スクリプトの表示方法を設定します。

終了 ボタンによりウィザードが閉じ、ロード スクリプトに **load** ステートメントが生成されます。

ファイル ウイザード: ソース

このページには、テーブルのソースに関するすべての設定が含まれています。ソースは通常、**[ファイルを開く]** ダイアログからファイルが選択されると直ちに定義されます。ただし、インターネットのページからテーブルを直接取得した場合など、ソース定義に変更が必要な場合は、ここでそれを行います。**種類** ページで **< 前に戻る** ボタンを押すと、**ソース** ページが表示されます。

ソース設定

構成	説明
ローカル ファイル	ローカル ファイルへのパスを入力する、もしくは **参照** ボタンをクリックしてエクスプローラで検索します。
インターネット ファイル	インターネット ファイルへのパスを入力します。
項目から	テーブルと項目を選択するための **[ドキュメント データ ソース]** ダイアログを開きます。

ドキュメントのデータ ソース

このダイアログは、アクティブなドキュメントのテーブル データをリスト表示します。データ ソースとしてロードされている項目の使用を可能にします。

ドキュメントのデータ ソース プロパティ

Property	説明
項目値	選択された値です。 • **テーブル**: ドロップダウン メニューでアクティブなドキュメントにロードされたテーブルを表示します。 • **項目**: 選択テーブルの項目。 • **値**: 選択項目の値。
ファイルのパス	選択したテーブルと項目の名前。
値の種類	選択した項目の種類。 • **テキスト**: 値がテキストの場合、ここに表示されます。 • **情報**: 項目値に連結された情報がある場合、ここに表示されます。 • **Blob**: 項目値に連結されたBLOBがある場合、ここに表示されます。

ファイル ウイザード: タイプ

このページには、ファイルの種類とテーブルの種類に関する設定が含まれます。設定はファイルの種類によって異なります。

テーブル ファイルを開く際に、プログラムはファイルの内容を解釈しようとします。パラメータの初期値はここで設定されますが、ユーザーは手動で変更することもできます。

ファイルの種類

次のファイルの種類をここで設定できます。区切り、固定長レコード、DIF、Excel (xls)、Excel (xlsx)、HTML、QVD、XML、KML、またはQVX。

プレビュー パネル

選択した設定の結果がプレビュー パネル (ダイアログのページの下部) に表示されます。設定を変更すると、プレビュー パネルの内容もそれに応じて変更されます。プレビュー パネルで直接変更することもできます。まず、項目名の右にある [×] ボタンをクリックして項目を省略できます。クロス記号「×」が感嘆符「!」に変わると、その項目は **load** ステートメントに含まれなくなります。この変更を取り消すには、もう一度感嘆符をクリックします。項目の名前を変更する場合は、項目名をクリックして、そのボックスに新しい名前を入力し、Enter キーを押して承認します。**as** 句が **load** ステートメントに自動的に作成されます。最後に、固定長レコード ファイル (および一部の HTML テーブル) では、プレビュー パネルで直接クリックして、列幅を設定できます。

ファイル ウイザード: 種類 - 区切り記号

区切り設定

構成	説明
区切り記号	使用する区切り記号の種類を指定します。事前に定義されたもの以外の区切り文字を使用するには、**カスタム**を選択して目的の区切り文字を検索します。**[カスタム]** を選択すると[区切り文字の選択] ダイアログが開き、コンピュータで利用可能な区切り文字から選択することが可能です。
ヘッダー サイズ	ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます (区切りファイル、固定長レコード ファイル、および Excel ファイルのみ)。ヘッダーは省略される場合があります。
文字セット	テーブル ファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウン メニューにない場合、**カスタム** を選択できます。これによって **コードページの選択** ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。
引用符	使用する引用符スキームを設定します。**標準**、**なし**、または **MSQ** から選択します。
コメント	ファイルによっては、レコードの間にコメントを使用しているものがあります。多くの場合、コメント行は、特殊文字や、// などの文字で始まります。ここでは、QlikView がコメントであることを認識するためのコメントの開始を示す文字を指定できます。
ラベル	テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。ここでは、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを**明示的**に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。
EOF を無視	場合によっては、ファイルの終わりをマークするのに特殊文字が使用されることもあります。この文字がテキスト ファイルの途中で見られた場合 (例: 引用符で囲まれているなど) は、このオプションを有効にして無視することができます。

ファイル ウイザード: 種類 - 固定長レコード

固定長レコード設定

構成	説明
ヘッダー サイズ	ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます (区切りファイル、固定長レコード ファイル、および Excel ファイルのみ)。
レコードサイズ	レコードのサイズに、特定の行数またはバイト数を指定します (固定長レコード ファイルのみ)。
文字セット	テーブル ファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウン メニューに無い場合、**カスタム** を選択します。これによって**コードページの選択**ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。
EOF を無視	場合によっては、ファイルの終わりをマークするのに特殊文字が使用されることもあります。この文字がテキスト ファイルの途中で見られた場合 (例: 引用符で囲まれているなど) は、このオプションを有効にして無視することができます。

構成	説明
タブ サイズ	タブの長さにスペースを組込みます。
先頭行	ラベルを組み込みます。テーブルの 1 行目に項目名が保存されている場合に使用します。
固定位置を解析	固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブルの列幅を解析して設定します。解析後、プレビュー パネルで列区切り位置の追加や削除を行うことができます。
固定位置を解除	すべての列区切り位置をクリアします (固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブル)。

ファイル ウイザード: 種類 - DIF

DIF 設定

構成	説明
ラベル	テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。
文字セット	テーブル ファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウン メニューに無い場合、**カスタム** を選択します。これによって **コードページの選択** ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。

ファイル ウイザード: 種類 - Excel XLS

Excel XLS 設定

構成	説明
テーブル	**テーブル** グループでは、HTML ファイルや Excel ファイルなど、複数のテーブルが含まれているファイルから読み取る際に特定のテーブルを選択できます。Excel では、ブックのすべてのシートとワークシートのすべての名前付き領域 (名前が付いた複数のセルなど) が、テーブル候補として識別されます。Excel シート名には、&、>、または < を使用できない点に留意してください。 シート上の名前付き領域を定義する場合、選択した **[範囲]** は **[ワークブック]** でなくてはならず、**[参照先]** 項目は元の値 (デフォルトで割り当てられた値) を維持する必要があります。これに従わなければ、名前付き領域がテーブルとして表示されない可能性があります。
ヘッダー サイズ	ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます (区切りファイル、固定長レコード ファイル、および Excel ファイルのみ)。
ラベル	テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。

ファイル ウイザード: 種類 - Excel XLSX

Excel XLSX 設定

構成	説明
テーブル	**テーブル** グループでは、HTML ファイルや Excel ファイルなど、複数のテーブルが含まれているファイルから読み取る際に特定のテーブルを選択できます。Excel では、ブックのすべてのシートとワークシートのすべての名前付き領域 (名前が付いた複数のセルなど) が、テーブル候補として識別されます。Excel シート名には、&、>、または < を使用できない点に留意してください。 シート上の名前付き領域を定義する場合、選択した **[範囲]** は **[ワークブック]** でなくてはならず、**[参照先]** 項目は元の値 (デフォルトで割り当てられた値) を維持する必要があります。これに従わなければ、名前付き領域がテーブルとして表示されない可能性があります。
ヘッダー サイズ	ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます (区切りファイル、固定長レコード ファイル、および Excel ファイルのみ)。
ラベル	テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。

ファイル ウイザード: タイプ: HTML

HTML 設定

構成	説明
テーブル	**テーブル** グループでは、HTML ファイルや Excel ファイルなど、複数のテーブルが含まれているファイルから読み取る際に特定のテーブルを選択できます。Excel では、ブックのすべてのシートとワークシートのすべての名前付き領域 (名前が付いた複数のセルなど) が、テーブル候補として識別されます。
ラベル	テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。
文字セット	テーブル ファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウン メニューに無い場合、**カスタム** を選択します。これによって **コードページの選択** ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。
固定位置を解析	固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブルの列幅を解析して設定します。解析後、プレビュー パネルで列区切り位置の追加や削除を行うことができます。
固定位置を解除	すべての列区切り位置をクリアします (固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブル)。

ファイル ウイザード: 種類 - QVD

このファイルの種類に変更できる設定はありません。

ファイル ウイザード: 種類 - XML

XML 設定

構成	説明
テーブル	見つかったテーブルがこのリストに表示されます。各テーブルは、XML 構造のどこにあるかを示すパスとして表示されます。テーブルを選択すると、その項目が右側の **[項目]** パネルに表示されます。**終了** ボタンをクリックすると、チェックしたテーブルそれぞれに対して **Load** ステートメントが生成されます。
XML	このシートには、解釈された XML 構造が表示されます。
項目	このシートには、選択したテーブルの項目と生成されたキーが表示されます。

ファイル ウイザード: 種類 - KML

KML 形式で保存されているマップ ファイルをロードし、マップ ビジュアライゼーションで使用できます。

このファイルの種類に変更できる設定はありません。

ファイル ウイザード: 種類 - QVX

QVX 形式のファイルには、データ テーブルや実際のデータに関する情報がメタデータとして含まれます。QlikView 独自のフォーマットで QlikView 内部での変換の必要性がほとんど無いように最適化された QVD 形式と比べると、QVX 形式は公開用で、従来のデータベース フォーマットからデータを出力する場合にはある程度変換が必要となります。QVX ファイルは、**load** ステートメントを使用してロード スクリプトで読み込みます。

このファイルの種類に変更できる設定はありません。

ファイル ウイザード: 変換

ファイル ウィザード: 変換ダイアログでは、テーブルに対してフィルターしたり、詳細な変換を行うことができます。HTML には一般的に使用される標準的なデータの格納方法がないため、これは HTML ファイルで特に重要になります。そのため、比較的構造化された他のデータ形式と同じように簡単に QlikView に HTML テーブルを読み取らせることは不可能です。

ファイル ウィザード: 変換 ダイアログを開くには、**変換オプションを有効にする**ボタンをクリックして変換手順を有効にする必要があります。メモリを節約するため、初期設定では手順を無効にしてあります。

ファイル ウィザード: 変換ダイアログは、テーブルを QlikView に適したものに変換するための多様なフィルターを提供します。ダイアログには、以下に記載する 6 ページがあります。**ファイル ウィザード: 変換** ダイアログの左下にあるボタンはすべてのページで使用されます。

ユニバーサル ボタンの変換

ボタン	説明
元に戻す	最後に追加した変更を元に戻します。
やり直し	最後に行った元に戻すをやり直します。
リセット	テーブルを元の状態にリセットします。

不要なデータ

[不要なデータ] ページでは、不要なデータが含まれた行や列をテーブルから削除できます。HTML ファイルでは、単に読みやすくするためという理由で余分な行や列があることが珍しくありません。これらは、QlikView にデータをロードする前に削除する必要があります。

列や行は両方とも明示的に削除でき、その場合インデックスがスクリプトに格納されます。また、行は条件付き基準を使用して削除できます。

不要ボタン

ボタン	説明
選択分を削除	強調表示された行や列を削除します。
条件付き削除	**[行の選択条件の指定]** ダイアログが開かれ、行の削除に関する条件付き基準を設定できます。

塗りつぶし

[塗りつぶし] ページを使用して、セル値を置換できます。ほとんどの場合、特定の記述に一致するセルは同じ列の別の値で置換されます。よくある事例は、空のセルが続き、その直前の空ではないセルに関連性のある値が含まれている場合です。

塗りつぶしボタン

ボタン	説明
セルの置換え	**[セルの置換え]** ダイアログを開き、条件や方法を指定できます。

列

[列] ページを使用して、ある列の内容を新しい列にコピーします。新しい列には、コピー元の列のすべてのセルまたは選択したセルが含まれます。この機能は、列に別の種類の値が含まれている場合に便利です。また、HTML リンクが含まれた列を複製するためにも使用できます。これにより、ある列にはリンクのテキストが含まれ、別の列にはその URL が含まれるようになります。

列ボタン

ボタン	説明
新規作成	**[新規列用セルの指定]** ダイアログを開きます。ここでは新しい列の作成方法を指定できます。
ラベル	列のラベルを設定します。

コンテキスト

HTML テーブルでは、表示されるよりも多くの情報を格納できます。たとえば、セルの内容がクリック可能な場合、ブラウザのジャンプ先のアドレスも格納されます。**ファイル ウィザード: 変換** ページは、セルのテキストを表示しますが、セルに属している追加情報も表示できます。また、この情報を QlikView に読み取ることも可能です。

追加情報は常にタグで囲まれています。タグには名前があり、属性を持っている場合があり、値が含まれていることがあります。セルのコンテキストは次のように見えます。

<A href=www.myurl.com/mypage.html name=”MyName”>

My link text

</A>

表示されるセルのテキストは *My link text* です。コンテキストには、開始タグと終了タグが含まれています。タグはハイパーテキスト リンクを指定しています。開始タグは *href* と*name* という2 つの属性を持っています。

コンテキストページを使用して、主要文字列ではなく、タグの属性を読み取ることができます。その他の操作も可能です。ウィザードでセルを右クリックし、**コンテキストの表示** を選択すると、セルのコンテキストを表示できます。

コンテキスト ボタン

ボタン	説明
セルの展開	**[コンテキスト セルの展開]** ダイアログを開きます。ここでは、1 つのセルの内容を複数のセルに展開することを定義できます。このボタンを有効にするには、列と行の両方を選択する必要があります。ただし、列のすべてのセルが展開されます。
セルの置換	**[コンテキストの置換]** ダイアログを開きます。ここでは、セルの内容を置換することを定義できます。このボタンを有効にするには、列と行の両方を選択する必要があります。ただし、列のすべてのセルが置き換えられます。

改ページ

[改ページ] タブでは、改行されたテーブルを直すことができます。*改行されたとは*、テーブルの次の部分が続く際に、下に続くのではなくテーブルの最初の部分の横に続くことです。上記の例では、右半分が移動して左半分の下に配置されます。

折り返し解除 ボタン

ボタン	説明
改ページ	テーブルを改ページします。まず、2 つの部分の境界線をカーソルで設定する必要があります。テーブルは垂直にも水平にも分割可能です。
条件付き改ページ	テーブルを垂直に分割する場合の条件を定義します。**[行の選択条件の指定]** ダイアログを開きます。

回転

Web デザイナはテーブルを回転させて見栄えをよくします。回転機能の主な目的は、テーブルを"正常な状態"に戻せるようにすること、項目を列、最初の行の項目名などで取得できるようにすることです。

回転ボタン

ボタン	説明
Left	テーブルを反時計回りに回転します。
Right	テーブルを時計回りに回転します。
行列の入れ替え	テーブルの行列を入れ替えます。つまり、対角線軸にテーブルを逆にした形で、右上のセルが左下のセルになり、逆も同様になります。ただし、左上と右下のセルはその場所にとどまります。

セルの置換え

セルの塗りつぶし項目

項目	説明
指定	**[指定]** グループでは、どのような場合にセルを置き換えるかを指定できます。
データ置換対象列番号	条件を適用する列番号を設定します。
セルの条件	セル条件を設定できる **[セルの条件]** ダイアログを表示します。
置換え元データ	セルをどのように置き換えるかについての方針を設定します。**[上]**、**[左隣]**、**[右隣]**、または **[下]** の値のうち 1 つを使用します。

セルの条件

[セルの条件] ダイアログは **[セルの置換え]** ダイアログから開きます。セルの内容に関する論理条件を指定できます。

- **セルの値**: ドロップダウン メニューにはいくつか論理オプションがあります。文字列を比較するには、比較するための文字列を隣の項目に入力します。セルの内容の長さを比較するには、右端に比較する名さ (数値) を入力します。
- **Not**: 論理条件 NOT を使用して条件を反転させる場合、このオプションをオンにします。
- **大文字/小文字の区別**: 値の比較を大文字と小文字を区別して行う場合は、このオプションをオンにします。

新規列用セルの指定

[新規列用セルの指定] ダイアログは、既存の列から新しい列を自動的に生成するための条件を指定するのに使用します。**[列]** ページ (**[ファイル ウィザード: 変換]** ダイアログ内) からアクセスします。

- **セルと列**:
  - **ソース列**: セル値のコピー元になる列番号を設定します。
  - **セル選択条件の指定**: **[行の選択条件の指定]** ダイアログが開かれ、行の条件を設定できます。
  - **データ置換対象列番号**: コピー先の列番号を指定します。
- **詳細オプション**:
  - **NULL 値を前の値で置き換える**: 空のセルをセル内の直前の値で置き換えます。
  - **ソース行の削除**: その内容をコピーした後、コピー元の行を削除します。

行の選択条件の指定

[行の選択条件の指定] ダイアログは、**[ファイル ウィザード: 変換]** ダイアログの **[不要なデータ]** ページ (**[条件付き削除]** ボタン)、**[列]** ページ (**[新規作成]** ボタン)、または **[改ページ]** ページ (**[条件付き改ページ]** ボタン) から開けます。ここでは、1 つもしくは複数の行を選択し、論理条件を定義できます。内容によって、定義された行の削除、新しい列へのコピー、または、テーブルを複数に分割します。

条件 グループでは、列が特定の値や他の列と等しくなる条件、レコード範囲、またはすべてのレコードを指定できます。複数の条件を組み合わせて適用できます。条件を定義したら、**追加** ボタンを押して変換条件に含めます。

- **値の比較**: セルをセル条件と照合し true か false かを評価します。
- **列の比較**: セルを別の列の対応するセルと照合します。
- **範囲**: x 個の行を選択し、次の y 個の行をスキップします。この開始位置と終了位置はインデックスを使用して指定できます。
- **すべての行**: すべての行を選択する場合に、この条件を使用します。
- **列**: 条件を適用する列番号を設定します。
- **開始**:**[範囲]** モードでのみ表示されます。行の削除や別の条件の適用を開始する行番号を設定します。
- **終了**:**[範囲]** モードでのみ表示されます。行の削除や別の条件の適用を終了する行番号を設定します。
- **選択**:**[範囲]** モードでのみ表示されます。ここでは、行を周期的に選択するか、スキップを周期的に行うかを設定できます。たとえば、2 行を選択し、次の 1 行をスキップすることを周期的に行います。すべての行を使用する場合は、**選択行数** を 1 に設定し、**スキップ行数** を 0 に設定します。
- **オプション**: このサブグループでは、選択したものに修飾子を指定できます。
    - **大文字/小文字の区別**: 大文字と小文字の区別を付けて比較する場合、このチェックボックスをオンにします。
    - **Not**: 選択条件を反転する場合、このチェックボックスをオンにします。
- **条件 (AND)**: このグループでは、変換に指定された条件や変換に含まれる条件が表示されます。条件は論理 AND 演算子で結合されます。
    - **追加**: リストに現在の条件を追加します。
    - **削除**: 選択された条件をリストから削除します。

ファイル ウイザード: オプション

ファイル パラメータ

ファイル パラメータ設定

構成	説明
ラベル	テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを明示的 に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。

条件節

句の設定

構成	説明
Where 条件	**[Where 条件式]** ダイアログが開かれ、**load** ステートメントの **where** 句を作成できます。
クリア	クロス テーブルの **where** 条件の変換を取り消します。

接頭辞

プレフィックス設定

構成	説明
Crosstable	**[Crosstable]** ダイアログが開かれ、クロス テーブルを 3 列 (またはそれ以上) テーブルに変換するためのパラメータを設定できます。
階層構造	**[階層構造]** ダイアログが開かれ、階層テーブル (パラメータはロード スクリプトに丸括弧で表示されます) のためのパラメータを設定できます。
クリア	クロス テーブルまたは階層構造テーブルの変換を取り消します。

クロス テーブル変換と**where** 句の両方が使用されている場合は、**where** 句が先に評価されます。したがって、クロス テーブルから変換後に **where** 句を適用することはできません。ただし、既に変換済みのテーブルに **where** 句を適用する必要がある場合は、一時的なテーブルを持つ構造が問題を解決します。

```
TempTable: Crosstable (…) Load … from …;
RealTable: Load … resident TempTable where …;
Drop Table TempTable;
```

コンテキスト セルの展開

このダイアログで、1 つのセルの内容を複数のセルに展開できます。場合によっては、1 つの列内の複数の行が <TD> と</TD> タグによって HTML テーブルの 1 つのセルに格納されてることがあります。このようなセルは列に展開できます。列内の異なる行どうしの区切り記号として使用されているタグをマークします。通常、これは
 記号です。

- **セルの挿入**: 挿入するセルの数です。通常、これは 1 に設定されていますが、行を追加する必要がある場合は、このコントロールを大きな数に設定できます。
- **行の条件**: 展開する行の条件です。

コンテキストの置換

[コンテキストの置換] ダイアログで、セルの値をセル内の隠し情報と交換できます。
セルは、その他の複数のタグを含むこともできます。それぞれに 1 つ、場合によっては複数の属性が付きます。適切なタグと属性を選択してから **[OK]** ボタンを押すと、セルの内容がその属性の値に置き換えられます。

- ***タグ***: セル内のタグのリストです。
- **属性**: 選択されたタグの属性です。
- **属性**: 属性の値です。

クロステーブル ウィザード

クロステーブル ウィザードは、ダイアログ形式で **Crosstable** ステートメントを作成します。このダイアログは、**[ファイル ウィザード]** の **[オプション]** ページで **[クロステーブル]** ボタンをクリックすると開きます。

クロステーブル ウィザードには次のオプションがあります。

- **修飾子の項目**: 変換後に項目に先行する行見出しとする項目の数。
- **属性の項目**: 変換後に列見出しとなる項目 (属性値) すべてを含む新しい項目の名前。
- **データの項目**: 列見出しとなる項目のデータを含む新しい項目の名前。

Where 句

- 簡易設定: どの **[項目]** を where 句に含めるのか、どの**[演算子/関数]** を使用するのかを決定します。また、既存の項目値を基準にした **定数** を入力することもできます。各行の左端にあるドロップダウン リストで **AND** または **OR** を選択すると2行目や3行目がアクティブになります。
- 詳細設定: 自分で句を最初から入力する場合は **[詳細設定]** をオンにします。
- 空のテンプレート: このオプションは、スクリプトに **Where (1=1)** を挿入します。そこでさらに編集できます。

階層 パラメータ

ソース パラメータ

- **ID 項目 (*NodeID*)**: ノードID を含む項目の名前。
- **親 ID 項目 (*ParentID*)**: 親ノードのノードID を含む項目の名前。
- **名前項目 (*NodeName*)**: ノード名が含まれる項目の名前。

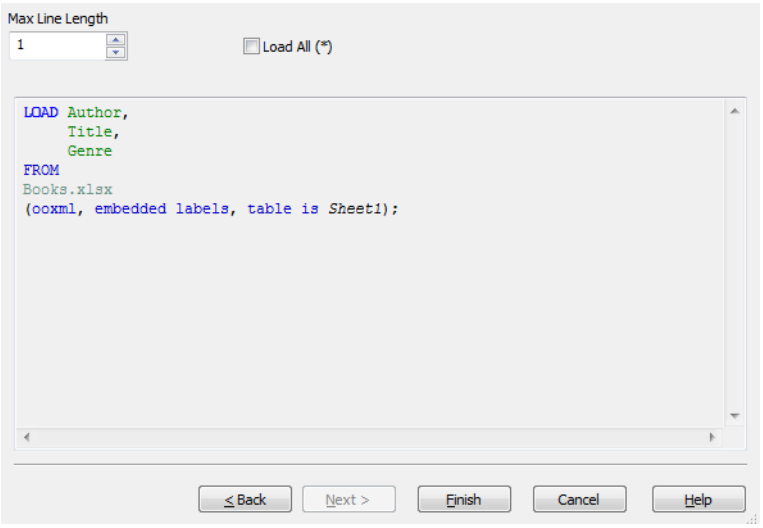
階層 パラメータ

- **親の名前 (*ParentName*)**: 新しい **[ParentName]** 項目の名前。このパラメータはオプションです。
- **パス名 (*PathName*)**: 新しい **Path** 項目の名前で、ルートからノードへのパスを含みます。このパラメータはオプションです。
- **階層名 (*Depth*)**: 新しい **Depth** 項目に名前を付けるための文字列で、ノードの階層レベルを含みます。このパラメータはオプションです。
- **パス ソース (*PathSource*)**: ノード パスの構築に使用するノード名が含まれた項目の名前。このパラメータはオプションです。省略すると**NodeName** が使用されます。
- **パス区切り記号 (*PathDelimiter*)**: 新しい **Path** 項目の区切り記号として使用する文字列 (例: \)。このパラメータはオプションです。省略すると" / " が使用されます。

従属 パラメータ

- **先祖 ID (*AncestorID*)**: 新しい **ancestor id** 項目の名前で、先祖ノードの ID を含みます。
- **先祖の名前 (*AncestorName*)**: 新しい **ancestor** 項目の名前で、先祖ノードの名前を含みます。
- **階層差分名 (*DepthDiff*)**: 新しい **DepthDiff** 項目の名前で、先祖ノードとの関係を示す階層におけるノードのレベルを含みます。このパラメータはオプションです。

ファイル ウイザード: スクリプト



ロード スクリプト ページでは、**ロード スクリプトの編集** ダイアログでのロード スクリプトの表示方法を設定します。ここでは、スクリプトの解釈を簡単にするために **行の最大表示文字数** も設定できます。

すべてロード(*) テーブルのすべての項目をロードします。

完了 ボタンで **load** ステートメントを生成し、ウィザードを閉じます。

デバッガ

デバッガでロード スクリプトを実行すると、スクリプト エラーの識別がより簡単になります。デバッガでは、すべてのスクリプト ステートメントをモニターし、スクリプト実行中に、変数値を確認できます。

[スクリプトの編集] ウィンドウの上部メニューにある **[デバッグ]** ボタンをクリックして、デバッガーを起動します。

デバッガの上部にあるパネルにスクリプトが表示されます。スクリプト実行の進捗は黄色いカーソルで示されます。**ブレイクポイント** は、行番号をクリックすると挿入、もう一度にクリックすると削除できます。**[クリア]** ボタンをクリックするとすべてのブレイクポイントを削除できます。ブレイクポイントに行き当たると、指示があるまでスクリプトの実行を止めます。

現在実行中のステートメントは、中央のパネルに表示されます。

左下のパネルには、エラーおよびステータス コードが表示されます。これは、基本的にはデバッガ以外でスクリプトが実行される時に **[ロード スクリプトの進捗]** ダイアログで表示される情報と同じです。

右下のウィンドウには、すべてのスクリプト変数とそれぞれの値を表示します。変更された変数は赤で示されます。

デバッガー オプション

オプション	説明
ブレイクポイント	右側のスクリプト ウィンドウで設定されているブレイクポイントは クリアできます。ブレイクポイントは赤い円として表示されます。 • **クリア**: すべてのブレイクポイントをクリアします。
デバッグ	このグループには、デバッガでのスクリプトの実行方法を決める設定が含まれます。 • **実行**: これは通常のスクリプト実行です。スクリプトはブレイクポイントに行き当たるまで、または最後まで実行されます。 • **アニメーション**: スクリプトは上記と同じように実行しますが、各ステートメントの後で一時休止します。この方法では、もう少し詳しくスクリプト実行をモニターできます。 • **ステップ**: 一度にひとつのスクリプト ステートメントを実行します。
ロードレコード数の制限	下のボックスに数値を入力します。入力した数値は、各 **load** と**select** ステートメントで許可される最大レコード数です。これは、生データを使用してスクリプトをテストする場合、実行時間を制限するとても有効な手段です。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
ここで中止	**デバッガ** を閉じます。それまでにロードされたデータは保持されます。
キャンセル	スクリプト実行を中止し、ロードされたすべてのデータを廃棄します。
バッファ	**$ (include)** 経由で参照される外部スクリプト ファイルを示すタブを開きます。 • **開く** スクリプト ファイルを開くためのダイアログを表示します。ファイルの内容は別のタブの下に表示され、デバッグに使用できます。 • **閉じる**: 現在のデバッガのスクリプト タブを閉じます。メイン タブを閉じることはできません。

6.5 [変数一覧] ダイアログ

変数一覧 ダイアログは、隠し変数以外のすべての変数とその値を 1 つのリストに表示します。QlikView 式のドル記号展開機能と組み合わせて、変数一覧を未完成式のリポジトリとして使用することもできます。

- **変数**: この 4 列のリストでは、隠し変数以外のすべての変数の名前とそれぞれの値を確認できます。**[+]** 列にあるチェック ボックスを選択して、ブックマークに変数を含めます。
- **定義**: 上記のリストで変数を強調表示し、その定義を表示します。テキストは自由に編集できます。変更内容は、上記リストの **値** 列に直ちに反映されます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
- **コメント**: 変数の作成者が変数の目的と機能を記載するコメント項目です。
- **追加**:**[変数の新規作成]** ダイアログを開きます。ここで、新しい変数を定義できます。
- **削除**: 変数を削除するには、リスト内で変数を強調表示してこのボタンをクリックします。
- **検索**: 名前別に利用できる変数を検索します。

6.6 [数式の編集] ダイアログ

この [数式の編集] ダイアログは、**チャートプロパティ: [数式]** ページの数式リストの下にある **[追加]** ボタンを選択するか、既存の数式を右クリックして **[数式の追加]** または **[数式の編集]** を選択すると開きます。

主にチャートの数式で使われますが、数式が必要なところであれば、他の数式の構築や編集にも同じダイアログが使用されます。プログラムを通じて、テキストの編集ボックスの隣りにある 3 つのドットシンボルのボタンをクリックすると、一様にアクセスできます。

ダイアログの主要部分は **数式** 編集領域で、大きな数式に対応するためにサイズを変更できます。その下には 4 つのタブ **項目**、**関数**、**変数**、**画像** があります。

数式の記述

数式全部を選択した数式の編集領域に入力することもできますが、ほとんどの場合、以下に説明するタブを使用して数式を構築すると便利です。数式は = で始める必要があります。

数式 OK のラベルは、プログラムによって数式の構文が正しい (有効である) と判断されると表示されます。そうでない場合は、ラベルに **[Bad fieldname] (適切な項目名ではありません)**、**[Error in expression] (構文エラー)**、**[Garbage after expression] (不要なデータがあります)** といったエラーメッセージが表示されます。数式が有効でない限り、**[OK]** ボタンをクリックしてダイアログを閉じるのにはあまり意味がありません。

数式タブ オプション

[数式の編集] ダイアログ タブには、数式を構築するための次のオプションが含まれています。

項目

[項目] タブには、項目データを基準に分析用の集計関数を作成するために使用するコントロールがあります。

項目 オプション

オプション	説明
集計	最初のドロップダウンには、利用できる分析用の集計関数のリストが含まれています。(例 : **最初の文字列** や **最後の文字列** 関数は、ピボットテーブルにテキストを表示するために使用できます。)
テーブル	このドロップダウン リストでは、下の **[項目]** リストに表示される項目をひとつの特定の内部テーブルに制限できます。
項目	このドロップダウンには、使用可能な項目名のリストが含まれています。 MEASURE 項目は、基本的な集計関数 (Sum (合計値)、Avg (平均値)、Count (値の個数)、Min (最小値)、Max (最大値)) に対してのみ使用できます。
システム項目の表示	このボックスをオンにすると、システム項目がダイアログの **項目** リストに表示されます。

オプション	説明
ユニークなレコード数	デフォルトで、統計関数は出現数に基づいて計算されます。**[Distinct]** チェックボックスをオンにすると、数式は重複値を無視して計算されます。
貼り付け	このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

関数

[関数] タブには、数式に一般的な QlikView 関数を入力するために使用するコントロールが含まれています。

関数オプション

オプション	説明
関数の種類	このドロップダウン リストでは、下の **[関数]** のリストに一度に表示される関数をひとつの種類に制限できます。
関数	このドロップダウンには、有効な QlikView 関数のすべてのリストが含まれています (限定された専用のスクリプト関数以外)。 [関数] タブの下部にあるパネルに、選択した関数の引数の構文が表示されます。
貼り付け	このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

変数

[変数] タブには、数式に QlikView 変数を入力するために使用するコントロールが含まれています。

変数オプション

オプション	説明
変数	ドロップダウンには、ドキュメントで現在定義されている変数すべてのリストが含まれます。
システム変数の表示	このボックスをオンにすると、システム変数が **変数** リストに表示されます。
貼り付け	このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

[変数] タブに、**変数** リストで選択した変数の現在の値を表示するパネルがあります。

画像

[画像] タブには、QlikView で使用できる内部ファイルにアクセスするために使用するコントロールが含まれます。他の連結された画像ファイルにアクセスすることも可能です。この機能はレイアウトの特定の部分に制限されます。**[画像]** タブの右側に、現在選択されている画像が表示されるパネルがあります。

画像オプション

オプション	説明
画像フォルダ	このドロップダウンには、使用可能な画像フォルダのリストが含まれています。
画像	このドロップダウンには、選択したフォルダにある画像のリストが含まれています。
詳細設定...	このボタンをクリックすると、**[画像セレクター]** ダイアログで画像グループから直接選択できます。
貼り付け	このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

数式の編集メニュー オプション

また、**数式の編集** ダイアログには次のメニュー コマンドとボタンが含まれます。

[ファイル] メニュー

ファイル メニュー オプション

オプション	説明
数式ファイルにエクスポート	**[数式ファイルにエクスポート]** コマンドを使用して **数式** 編集ボックスの内容をテーブル ファイルとして保存することができます。ファイルは拡張子 **.qve** で保存されます。
ファイルの挿入	先に作成された数式ファイルは、**[ファイルの挿入]** コマンドを使用してスクリプトに挿入することができます。
配色ウィザード	**[配色ウィザード]** を使用して配色の数式を作成できます。
印刷	数式を印刷するための Windows 標準の **印刷** ダイアログを開きます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+P。

[編集] メニュー

編集メニュー オプション

オプション	説明
元に戻す	直前の変更を元に戻します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+Z。
やり直し	最後の **元に戻す** をやり直します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+Y。
切り取り	強調表示されたテキストをクリップボードにエクスポートします。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: Ctrl+X。
コピー	強調表示されたテキストをクリップボードにコピーします。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+C。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアログのカーソルの位置に貼り付けます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+V。

オプション	説明
クリア	数式全体をクリアします。
すべて選択	数式全体を選択します。
検索/置換	ダイアログが開かれ、数式内の数字または文字を検索して置換することができます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+F。

[設定] メニュー

設定 メニュー オプション

オプション	説明
ユーザー プロパティ	**ユーザー プロパティ: エディタ**を開きます。

配色ウィザード

[数式の編集] ダイアログの **[ファイル]** メニューから開くことができる**配色ウィザード**を使用すると、配色の数式、つまり特定の計算基準から動的に色を計算する数式を作成できます。
たとえば、100 前後の値を持つ計算されたインデックスが表示されるピボット テーブルがあるとします。インデックスの値は、高いほどよいと判断できます。ある特定のディメンション値の指標が 100 を大幅に超えた場合は、このピボット テーブルの行を緑にし、インデックスの値が 100 よりもはるかに低い場合は、赤などの色を使用するようにします。また、100 を示す黄色を使用して、色が段階的に変化する動的な色にすることもできます。つまり、ダイナミックな色が必要なのです。
このような段階的に変化する色の計算は、QlikView の Colormix 関数を使用して実行できますが、Colormix 関数内で適切な数式を作成するのは面倒な作業です。このような場合に、[配色ウィザード] が役に立ちます。第一に、カラー関数は (したがって **配色ウィザード** も)、QlikView がカラー関数を期待する箇所、つまり**背景色** の数式や **テキストの色** の数式でのみ使用され、チャート式内では使用されないことを理解しておくことが大切です。
[数式の編集] ダイアログの **[ファイル]** メニューから**配色ウィザード**を開くと、最初に動的な色を作成するために必要なものを示したページが表示されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、[次回からこの画面を表示しない] チェック ボックスをオンにします。
次へ ボタンをクリックして進みます。

ステップ 1 - 色で表示したい値を生成する数式

QlikView によって表示される色を制御する数式を入力します。典型的な数式の例を次に示します。

- `Sum(Sales) / Sum(total Sales)`
- `Sum(Sales) / Sum(Quota)`
- `Avg(Age)`

これは、通常、選択するレコードの数に違いがあっても、重要度の変わらない値です。計算基準には、平均、パーセンテージ、インデックスなどを使用するとよいでしょう。
次へ ボタンをクリックして進みます。

ステップ2 - 上限値と下限値の設定

このページでは、数式の上限値と下限値および対応する色を定義する必要があります。この場合の上限値 (下限値) は絞込値の最大値 (最小値) ではなく、その値に達すると、指定した色が表示される境界値です。典型的な数式の例を次に示します。

数式プロパティの例

数式	上限値	下限値
Sum(Sales) / Sum(total Sales)	Sum(total Sales)	0
Sum(Sales) / Sum(Quota)	2 (=200%)	0
Avg(Age)	Max(total Age)	Min(total Age)

しかし、他の制限は設定できます。
チャート内でカラー ウィザードを使用する場合は、次の2つの数式を使用することをお勧めします。

- `RangeMax (top(total <ValueExpression>,1,NoOfRows(total)))`
- `RangeMin (top(total <ValueExpression>,1,NoOfRows(total)))`

これらの数式は、チャート内の *<ValueExpression>* の行の最大値と最小値を計算します。

- **自動正規化**: このチェック ボックスをオンにすると、適切な上限値と下限値が QlikView によって自動的に設定されます。この場合、上限値と下限値の数式は手動で入力できません。
- **上限値**:**[自動調節]** オプションがオフの場合は、ここに上限値の数式を入力します。
- **中間値**: ここには、3番目の色にリンクされる中間レベルの数式を入力できます。
- **下限値**: **[自動正規化]** オプションがオフの場合は、ここに下限値の数式を入力する必要があります。
- **反転**: このボタンは上限値と下限値の色を逆にします。

次へ ボタンをクリックして進みます。

ステップ3 - 仕上げ

このページで、配色の数式を完成させます。

- **強化色**: このチェック ボックスをオンにすると、値の数式にヒステリシス変換が適用されます。これにより、中間色の領域の表示感度が高まり、上限と下限の色に近い色になります。
- **飽和値**: ここでは、数式が上限値または下限値を超えた場合の動作を制御できます。**上限値 (下限値) の色を使用** をオンにすると、上限値または下限値に指定した色が使用されます。**標準色を使用** をオンにすると、**色** ページで定義した標準色に戻します。

6.7 数式一覧

このダイアログは、すべてのドキュメント式、シート式、およびシート オブジェクトの数式を1つのリストに表示します。このリストから、1つの数式を編集したり、複数の数式に対して [検索/置換] を実行することもできます。リストから1つまたは複数の数式を選択します。選択した行は黒で表示されます。最後の数式よりも下の部分をクリックすると、選択が解除されます。

ダイアログの左上では、次のチェック ボックスを複数オンにできます。

- チャートの数式
- チャートの属性
- [色の数式]
- [条件付き表示]
- [その他の数式]

数式コマンド

コマンド	説明
[列]	**列** ダイアログを開きます。ここでは、**数式一覧** ダイアログにどの列を表示するかをカスタマイズできます。**[数式]** 列をオフにすることはできません。
検索/置換	**検索/置換** ダイアログが開きます。このダイアログで、数式の現在のリスト内で特定のテキストを検索して別のテキストに置換します。数式に複数箇所の変更や一括の変更を行うこともできます。
エクスポート	このボタンを使用して、以下の (一覧) テーブルをテキスト ファイルにエクスポートします。
適用	ダイアログを開いたまま、リストに対して加えた変更をドキュメント、シート、およびシート オブジェクトのプロパティに適用します。このコマンドを使用すると、**[キャンセル]** を使用してダイアログを閉じても、それまでに行った変更内容は元に戻りません。
編集	リストで 1 つの数式を選択してからこのボタンを使用すると、選択した数式の **数式の編集** ダイアログが開きます。

列 ダイアログ (以下を参照) の設定に基づいて、次の列がダイアログ下側の数式リストに含まれます。

数式列

列	説明
シート ID	数式が出現するシートの ID。ドキュメント式の場合は空です。
[シート名]	数式が出現するシートの名前 (タブ タイトル)。ドキュメント式の場合は空です。
オブジェクト ID	数式が出現するシート オブジェクトの ID。ドキュメントとシートの数式の場合は空です。
オブジェクト名	数式が出現するオブジェクトの名前。
場所	数式の型を簡潔に説明した"フレンドリな名前"で、プロパティ内の数式の場所を示します。
ラベル	オブジェクトの数式のラベル。

列	説明
フルパス	プロパティ構造内での数式の正確な場所を示します。表記は、QlikView Automation Interface のオブジェクトプロパティ階層に対応します。QlikView Automation Interface については、「QlikView API ガイド」を参照してください。
数式	数式の定義。

このダイアログから行われた変更は、通常の**元に戻す**コマンドで元に戻すことができます。

6.8 サーバー オブジェクト パネル

サーバー オブジェクト パネル では、エンド ユーザーは自分のサーバー シート オブジェクトの管理や、他のユーザーの共有オブジェクトへのアクセスが簡単にできます。

パネルの設定

[サーバー オブジェクト パネル] は、**[表示]** メニューの **[サーバー オブジェクト]** コマンドを使用するか、F2 キーを押して、表示/非表示を切り替えることができます。パネルは、QlikView アプリケーション ウィンドウの任意の側面 (上下左右の側面) に移動し、ドッキングできます。また、QlikView のウィンドウの隣に移動可能な浮動ウィンドウとして開いておくこともできます。

サーバー オブジェクト パネルは、ローカル ドキュメント (サーバー ベースでない) の操作中も開いたままにできますが、機能は働きません。

サーバー オブジェクト パネルには 2 つの領域があります。**[マイ オブジェクト]** 領域には、アクティブなサーバー ドキュメントのユーザー自身の個人用サーバー オブジェクトがリストされます。**[共有オブジェクト]** 領域には、現在のサーバー ドキュメントにリンクされているすべての共有シート オブジェクト (ユーザー自身の共有オブジェクトも含む) がリストされます。

QlikView アプリケーション ウィンドウでオブジェクトを非表示にするには、オブジェクトを右クリックして **削除** を選択します。レイアウトにオブジェクトを再度表示するには、**サーバー オブジェクト** パネルからオブジェクトをドラッグします。

オブジェクトにカーソルを合わせると、オブジェクト名、オブジェクトの種類、所有者、最終更新日などの情報がポップアップに表示されます。

共有オブジェクト

ここには、共有オブジェクトが表示されます。共有オブジェクトは、**[種類]**、**[所有者]**、**[日付]** に基づいて異なる方法でグループ化できます。**共有オブジェクト** の隣の矢印をクリックすると、グループ化を変更できます。リストは、展開して各オブジェクトについてさらに多くの情報を表示することも、折りたたんで場所を節約することもできます。オブジェクトの隣の矢印をクリックすると展開し、もう一度クリックすると折りたたまれます。

レイアウトに表示されているオブジェクトは、**[マイ オブジェクト]** 領域と**[共有 オブジェクト]** 領域でチェック マークが付けられます。

他のユーザーの共有オブジェクトを使用するには、そのオブジェクトをアプリケーション ウィンドウにドラッグします。

オブジェクトの追加と共有

新しいサーバー シート オブジェクトを作成すると、自動的に **[マイ オブジェクト]** リストに追加されます。

自分のサーバー オブジェクトを他のユーザーと共有するには、**マイ オブジェクト**領域からオブジェクトを右クリックし、**共有する** または **ファイルの共有** を選択します。これにより、**[共有]** ダイアログを開きます。

共有

共有 ダイアログではオブジェクトの共有方法を設定できます。オブジェクトを共有するには、**ファイルの共有** のドロップダウン メニューからオプションを 1 つ選択します。

- **共有しない**: オブジェクトはどのユーザーとも共有されません。
- **全員と共有する**: オブジェクトはすべてのユーザーに共有されます。
- **ユーザー名で共有する**オブジェクトは下にリストされるユーザーに共有されます。

オブジェクトは、**[共有オブジェクト]** 領域に表示されますが、**[マイ オブジェクト]** 領域にも引き続き表示され、共有状態であることを示す小さい手のマークが付けられます。

いったん共有したオブジェクトの共有を解除するには、**マイ オブジェクト**領域からオブジェクトを右クリックし、**共有しない** または **ファイルの共有** を選択して **共有** ダイアログを開き、**ファイルの共有** ドロップダウンで **共有しない** を選択します。オブジェクトが **[共有オブジェクト]** リストから消え、他のユーザーは使用できなくなります。ただし、他のユーザーのアクティブなセッションには表示されたままになります。

6.9 エクスポートと印刷

印刷: 基本設定

[基本設定] タブでは、プリンタと用紙に関する設定を指定できます。他の印刷設定は、他のタブで指定できます。

[プリンタ] グループでは、ドロップダウン リストに使用できるプリンタがリストされます。プリンタの **[プロパティ]** ボタンをクリックしてプロパティにアクセスします。

[用紙] グループでは、使用する用紙の **サイズ** と **給紙装置** を選択します。

この [プロパティ] ページの他のオプションでは、**[印刷の向き]** の変更や、**[印刷範囲]**、**[印刷部数]**、**[部単位で印刷]** の指定を行えます。

[サイズ] グループには、3 つの異なる縮尺のオプションがあります。

- _ % にスケール: このチェックボックスをオンにし、印刷の縮尺を増加または減少させるパーセント数を入力します。
- ページ全体を表示: このチェックボックスをオンにし、用紙サイズに印刷の縮尺を合わせます。**[印刷の向き]** を変更すると良い結果が得られる場合があります。
- _ x _ ページで表示: このチェックボックスをオンにし、指定したページ数に印刷の縮尺を合わせます。

> *[印刷]* ダイアログを *[ファイル: シートの印刷]* コマンドで開くと、*[サイズ]* グループは無効になっていますが、代わりに *[シートのオプション]* グループで *[選択したシート]* または *[すべてのシート]* を指定できます。また、*[背景を表示]* (壁紙) の印刷も設定できます。

次のボタンも使用できます。

一般印刷ボタン

ボタン	説明
設定の保存	このボタンをクリックすると、このダイアログで作業しながらヘッダーとフッターの設定を保存できます。
印刷プレビュー	このボタンは、現在の印刷可能なオブジェクトの詳細印刷プレビューを表示するウィンドウを開きます。
印刷	このボタンをクリックすると、印刷を行い、このダイアログを閉じます。

印刷: レイアウト

[レイアウト] タブで、**[選択スタンプを印刷]** と**[余白]** の設定を行うことができます。他の印刷設定は、他のタブで指定できます。

- **選択スタンプを印刷**:**[選択スタンプを印刷]** グループでは、印刷に現在の選択 (現在のオブジェクトに影響する現在の選択など) を含めるオプションがあります。印刷には、テキスト"選択の状態"が、項目と項目値のリストの次に表示されます。次のオプションは、どのページに **[現在の選択条件]** を含めるかを指定します。**[最初のページ]**、**[すべてのページ - ページの上部]**、**[すべてのページ - ページの下部]**、および **[最後のページ]** です。
- **見出しのテキスト**: 印刷されるシートオブジェクトの前に印刷するテキストを編集ボックスで指定します。このテキストは計算式にすることもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、長い数式をより簡単に編集できる**数式の編集**ダイアログが開きます。編集ボックスの隣の**フォント**ボタンを使用すると、テキストごとのフォントを選択できます。AJAX クライアントの使用中は、これはサポートされません。
- **末尾のテキスト**: 印刷されるシートオブジェクトの後ろに印刷するテキストを編集ボックスで指定します。このテキストは計算式にすることもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、長い数式をより簡単に編集できる**数式の編集**ダイアログが開きます。編集ボックスの隣の**フォント**ボタンを使用すると、テキストごとのフォントを選択できます。AJAX クライアントの使用中は、これはサポートされません。
- **余白**:**[余白]** グループでは、印刷されるオブジェクトの周りの余白を定義できます。変更は、**[印刷]** ダイアログの右にあるプレビュー パネルで確認できます。mm、cm、または " で指定できます。既定の単位は、**[ユーザープロパティ: デザイン]** ページで設定します。
  - **上**: 用紙の上端と印刷されるオブジェクトの上の枠線との間の距離を指定します。
  - **ヘッダー**: **[ヘッダー]** の値は、用紙の上端とヘッダー テキストの間の距離です。ヘッダー テキストが表示されるためには、この値を**[上]** より小さくする必要があります。
  - **左**: 用紙の左端と印刷されるオブジェクトの左の枠線との間の距離を指定します。
  - **右**: 用紙の右端と印刷されるオブジェクトの右の枠線との間の距離を指定します。
  - **下**: 用紙の下端と印刷されるオブジェクトの下の枠線との間の距離を指定します。
  - **フッター**: **[フッター]** の値は、用紙の下端とフッター テキストの間の距離です。フッター テキストが表示されるためには、この値を**[下]** より小さくする必要があります。

次のボタンも使用できます。

- **設定の保存**: このボタンをクリックすると、このダイアログで作業しながらレイアウトの設定を保存できます。
- **印刷プレビュー**: このボタンは、現在の印刷可能なオブジェクトの詳細印刷プレビューを表示するウィンドウを開きます。
- **印刷**: このボタンをクリックすると、印刷を行い、このダイアログを閉じます。

印刷: ヘッダー/フッター

[ヘッダー/フッター] タブでは、**[ヘッダー]** と**[フッター]** の設定を指定できます。他の印刷設定は、他のタブで指定できます。

以下のボタンを使用して、特定のシステム情報の制御コードを任意のテキストパネルに挿入します。制御コードは直接入力もできます。

ヘッダー/フッター ボタン/コード

ボタン	説明
ページ番号	このボタンをクリックするか、コード&[Page] を入力すると、ページ番号が入力されます。
ページ	このボタンをクリックするか、コード&[Pages] を入力すると、ページ総数が入力されます。このオプションを差し込み文書のレポート使用すると、印刷を開始する前に計算のために遅延が生じる可能性があります。この状況が起こる時には、警告されます。
日付	このボタンをクリックするか、コード&[Date] を入力すると、現在の日付が入力されます。日付の書式は、**[日付と時間]** ダイアログで設定できます。
時刻	このボタンをクリックするか、コード&[Time] を入力すると、現在の時刻が入力されます。時刻の書式は **[日付と時間]** ダイアログで設定できます。
ファイル	このボタンをクリックするか、コード&[File] を入力すると、ファイル名が入力されます。
シート	このボタンをクリックするか、コード&[Sheet] を入力すると、シート名が入力されます。このオプションはレポートの印刷時には使用できません。
タイトル	このボタンをクリックするか、コード&[Title] を入力すると、印刷するオブジェクトのキャプションのタイトルが入力されます。このオプションはレポートの印刷時には使用できません。
図	**[画像リスト]** ダイアログから画像をインポートには、このボタンをクリックします。画像は、ヘッダーやフッター パネルで画像として印刷されます。手動で、コード&[Picture=*filename*] を入力することもできます。ここで、*filename* は、グラフィックスを含むファイルの完全なファイル名とパスです。
レポート	このボタンをクリックするか、コード&[Report] を入力すると、印刷されるオブジェクトのタイトルが印刷されます。このオプションはレポートの印刷時にのみ使用できます。

[ヘッダー] グループと**[フッター]** グループでは、上記を3つのパネルで設定します。**[左側]**、**[中央]**、および **[右側]**。表示したいパネルにカーソルを置くためにクリックし、ボタンをクリックするかコードを入力します。

次のボタンも使用できます。

ヘッダー/フッターの詳細 ボタン

ボタン	説明
フォント	このボタンは、**[フォント]** ダイアログを開きます。
日付と時間	このボタンは、**[日付と時間]** ダイアログを開きます。

ボタン	説明
初期設定	このボタンをクリックして、ヘッダーとフッターの設定をデフォルトにリセットします。
設定の保存	このボタンをクリックすると、このダイアログで作業しながらヘッダーとフッターの設定を保存できます。
印刷プレビュー	このボタンは、現在の印刷可能なオブジェクトの詳細印刷プレビューを表示するウィンドウを開きます。
印刷	このボタンをクリックすると、印刷を行い、このダイアログを閉じます。

印刷オプション: 日付と時刻

ここでは、日付と時間の表示を設定できます。

日付と時刻のオプション

オプション	説明
システム初期設定を使用	このチェックボックスをオンにし、Windows などのシステムの日付と時間の書式を適用します。
現在の設定	現在の日付と時刻の書式が表示されます。
日付	ここでは、日付の書式を設定できます。ドロップダウン リストから書式を選択します。
日付セパレーター	日付の区切りとして使用する文字を選択します。
時刻	[時刻] グループでは、時刻の書式を設定できます。 **24h** 24 時間制で時刻を表示するにはこのチェック ボックスをオンにします。 **12h** 12 時間制で時刻を表示するにはこのチェック ボックスをオンにします。 **時刻区切り** 時刻の区切りとして使用する文字を選択します。 **秒の表示** 時刻の書式に秒数を表示するにはこのチェック ボックスをオンにします。

シートの印刷

このダイアログを開くには、**[ファイル]** メニューから**[シートの印刷]** を選択します。このダイアログは、**基本設定** ページの **サイズ** グループが **シートのオプション** グループに置き換わっている点以外は、一般的な **印刷** ダイアログと同じです。

シートのオプション

[シートのオプション] グループには次の設定があります。

シート設定

構成	説明
選択したシート	このオプションを選択すると、現在のシートだけが印刷されます。
すべてのシート	このオプションを選択すると、ドキュメント内のすべてのシートが印刷されます。
背景を表示	印刷時にシートの背景 (壁紙) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。

印刷プレビュー

印刷可能なシートオブジェクトがどのように印刷されるかを見るために詳細な印刷プレビューを表示するには、プレビュー機能を使用します。拡大鏡で、プレビューのサイズをページ全体とサイズと実際の 100% のサイズを切り替えます。

印刷プレビュー オプション

オプション	説明
(印刷)	制御を **印刷に転送: アクティブなオブジェクトを印刷できる場所を基本設定** ダイアログに移動します。
ページ数	このドロップダウン メニューで、プレビューに表示するページをすばや く変更できます。
Previous	プレビューが複数ページある場合は、このボタンをクリックすると前のページが表示されます。
Next	プレビューが複数ページある場合は、このボタンをクリックすると次のページが表示されます。
ページの追加	アクティブなオブジェクトが 1 ページに収まらない場合に、プレビューを拡張してもう1 ページ含めるようにします。
ページの削除	現在のプレビュー ページを削除します。
閉じる	このダイアログを閉じます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。

コピー モード

論理モードからコピー モードに切り替えます。コピー モードでは、クリックされた値は、QlikView ドキュメントの論理状態を変更せずに **クリップボード** にコピーされます。コピー モードをオンにすると、**クリップボード コピー** リスト ダイアログが開きます。このダイアログで、コピーするための値のリストを作成できます。

クリップボード コピー リスト

[クリップボード コピー リスト] ダイアログは、**[編集]** メニューの **[コピー モード]** から開きます。このダイアログにより、クリップボードへのコピーを簡単に行うことができます。ダイアログが開かれている間は、QlikView がコピー モードになり、クリックした値は自動的に **クリップボード コピー リスト** にコピーされます。ドキュメントがコピー モードの間、QlikView のロジックは無効になります。

クリップボードの書式

このグループでは、コピー リストの書式を設定します。**[列]**、**[カンマ区切り線]**、**[タブ区切り線]** のオプションを選択できます。

引用符

このグループでは、選択した要素の引用符を設定できます。

- **[' で引用する]** は、すべての要素をシングル クォートで囲みます。コピーした要素を項目値としてスクリプトに貼り付ける場合に便利です。
- **[" で引用する]** は、すべての要素をダブル クォートで囲みます。コピーした要素を項目名としてスクリプトに貼り付けたり、QlikView マクロなどの Visual Basic スクリプトに貼り付ける場合に便利です。
- **[なし]** は、要素を引用符で囲みません。

OK

クリップボード コピー リストダイアログを閉じ、内容を Windows の**クリップボード**に転送します。

キャンセル

内容を Windows の **クリップボード** に転送せずに、**クリップボード コピー リスト**ダイアログを閉じます。

Excel 出力

テーブルを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。

Default limitations in number of rows and columns (行と列の数の既定の制限)

Excel エクスポート ファイルの行と列の既定の最大数は以下のとおりです。

- 1 シートあたり1048566 行。ピボット テーブルの場合は、1048566 列の軸です。エクスポート後に 10 行追加することができます。
- 1 シートあたり16384 列。列の数が制限を超えた場合には、エクスポートされたファイルが切り詰められて、警告メッセージが送信されます。

エクスポート/内容をエクスポート

名前を付けて保存 ダイアログを開きます。ここで、出力データの名前、場所、ファイル形式を指定できます。

ファイルは、コンマ区切りファイル、セミコロン区切りファイル、タブ区切りファイル、ハイパーテキスト (HTML)、XML、Excel (xls または xlsx) のいずれの形式でも保存できます。デフォルトの形式は、タブ区切りファイル *.qvo (QlikViewOutput) です。



qvo ファイルに出力すると、QlikView ドキュメントに表示されるデータが出力されます。Excel に出力すると、基底のデータが出力されますが、Excel の書式で表示されます。

6.10 カスタム エラー メッセージ

QlikViewには、チャートおよびテーブル ボックスのエラー メッセージをカスタマイズできる機能が備わっています。**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログは、**[チャート プロパティ]** ダイアログの **[基本設定]** ページ、または **[テーブル ボックス プロパティ]** ダイアログの **[基本設定]** ページにある **[エラー メッセージ]** ボタンを使用して開くことができます。

- **標準 メッセージ**: エラーの標準 メッセージがリストされます。メッセージをカスタマイズするには、メッセージを選択し、[カスタム メッセージ] テキスト ボックスに希望のテキストを入力します。
- **カスタム メッセージ**: ここでは、上記で選択した標準 メッセージの代わりに表示するテキストを入力します。テキストは計算式にすることもできます。
  この機能によって、「*ローカルのヒープ領域を使い果たしました*」のような不可解なエラー メッセージを問題に対処するための助けとなるヒントに変えることができます (「*…で選択を行ってください*」や「*…によるメモリ/セルの領域を増やしてください*」などがあります)。
- **すべてに適用**: このボタンをクリックすると、ドキュメントのすべての計算オブジェクトにカスタム メッセージが適用されます。
- **すべての選択をクリア**: このボタンをクリックすると、すべてのカスタム エラー メッセージがクリアされます。

6.11 キーボード コマンド ショートカット

この章では、QlikView のキーボード コマンド ショートカットのリストを掲載します。

[ファイル] メニュー コマンドのショートカット

ファイル メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数	アイコン
CTRL+N	**[ファイル]** メニューの **[新規作成]** と同じです。	
CTRL+O	**[ファイル]** メニューの **[開く]** と同じです。	
CTRL+SHIFT+O	**[ファイル]** メニューの **[サーバーから開く]** と同じです。	-
Ctrl+S	**[ファイル]** メニューの **[保存]** と同じです。	
F12	**[ファイル]** メニューの **[名前を付けて保存]** と同じです。	-
Ctrl+P	**[ファイル]** メニューの **[印刷]** と同じです。	
CTRL+SHIFT+P	**[ファイル]** メニューの **[PDF として印刷]** と同じです。	
Ctrl+E	**[ファイル]** メニューの **[ロード スクリプトの編集]** と同じです。	
CTRL+R	**[ファイル]** メニューの **[リロード]** と同じです。	
CTRL+SHIFT+R	**[ファイル]** メニューの **[パーシャル リロード]** と同じです。	-
CTRL+T	**[ファイル]** メニューの **[テーブル ビューアー]** と同じです。	

[編集] メニュー コマンドのショートカット

編集 メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数	アイコン
Ctrl+Z	**[編集]** メニューの **[レイアウト変更を元に戻す]** と同じです。	
Ctrl+Y	**[編集]** メニューの **[レイアウト変更のやり直し]** と同じです。	
Ctrl+X	**[編集]** メニューの **[切り取り]** と同じです。	
Ctrl+C	**[編集]** メニューの **[コピー]** と同じです。	
Ctrl+V	**[編集]** メニューの **[貼り付け]** と同じです。	
DEL	**[編集]** メニューの **[削除]** と同じです。	-
Ctrl+A	**[編集]** メニューの **[すべて選択]** と同じです。	-
CTRL+F	**[編集]** メニューの **[検索]** と同じです。	
CTRL+SHIFT+F	**[編集]** メニューの **[高度な検索]** と同じです。	-

[表示] メニュー コマンドのショートカット

表示 メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数	アイコン
CTRL+Q	**[表示]** メニューの **[現在の選択条件]** と同じです。	
CTRL+G	レイアウト用デザイン グリッドのオン/オフを切り替えます。	-

選択 メニュー コマンドのショートカット

選択 メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数	アイコン
Shift+左矢印	**[選択]** メニューの **[元に戻す]** と同じです。	-
Shift+右矢印	**[選択]** メニューの **[やり直し]** と同じです。	-
CTRL+SHIFT+L	**[選択]** メニューの **[ロック]** と同じです。すべての選択がロックされます。	
CTRL+SHIFT+U	**[選択]** メニューの **[アンロック]** と同じです。すべての選択がアンロックされます。	
CTRL+SHIFT+D	**[選択]** メニューの **[クリア]** と同じです。すべての選択がクリアされます。	

[設定] メニュー コマンドのショートカット

設定 メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数	アイコン
CTRL+ALT+U	**[設定]** メニューの **[ユーザー プロパティ]** と同じです。	
CTRL+ALT+D	**[設定]** メニューの **[ドキュメント プロパティ]** と同じです。	
CTRL+ALT+S	**[設定]** メニューの **[シート プロパティ]** と同じです。	
CTRL+ALT+V	**[設定]** メニューの **[変数一覧]** と同じです。	
CTRL+ALT+E	**[設定]** メニューの **[数式一覧]** と同じです。	-

[ブックマーク] メニュー コマンドのショートカット

ブックマーク メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数	アイコン
CTRL+B	**[ブックマーク]** メニューの **[ブックマークの追加]** と同じです。	
CTRL+SHIFT+B	**[ブックマーク]** メニューの **[ブックマークの整理]** と同じです。	

[ツール] メニュー コマンドのショートカット

ツール メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数	アイコン
CTRL+M	**[ツール]** メニューの **[モジュールの編集]** と同じです。	
CTRL+ALT+A	**[ツール]** メニューの **[アラート]** と同じです。	

[オブジェクト] メニュー コマンドのショートカット (リスト ボックス、統計 ボックス、開かれているマルチ ボックス)

オブジェクト メニュー コマンドのショートカット

ショートカット	関数
CTRL+SHIFT+L	**[オブジェクト]** メニューの **[ロック]** と同じです。アクティブなオブジェクトの選択をロックします。
CTRL+SHIFT+U	**[オブジェクト]** メニューの **[アンロック]** と同じです。アクティブなオブジェクトの選択をアンロックします。

ショートカット	関数
CTRL+SHIFT+D	**[オブジェクト]** メニューの **[クリア]** と同じです。アクティブなオブジェクトの選択をクリアします。
ALT+ENTER	**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** と同じです。アクティブなオブジェクトの **[プロパティ]** ダイアログを開きます。

スクリプト用 キーボード ショートカット

スクリプト内で利用できるキーボード ショートカットのリストを生成するには、スクリプト パネルで Ctrl+qsc を入力します。

スクリプト用 キーボード ショートカット

ショートカット	関数
CTRL+G	ロード スクリプトの [指定行への移動] ダイアログを開きます。
CTRL+K、C	スクリプトの行をコメント設定します。
CTRL+K、U	スクリプトの行をコメント解除します。
CTRL+Q、T、A	スクリプト内にタブを追加します。
CTRL+Q、T、P	アクティブなタブを左へ移動します。
CTRL+Q、T、D	アクティブなタブを右へ移動します。
CTRL+Q、T、N	アクティブなタブの名前を変更します。
CTRL+Q、T、R	アクティブなタブを削除します。
CTRL+Q、Q	自動生成スクリプトを作成します。
CTRL+Q、U、I	[Unicode input utility] ダイアログを開きます。
CTRL+Q、J、P、G	jpeg ファイルから属性を読むためのスクリプトを作成します。
Ctrl+Q,M,P,3	mp3 ファイルから属性を読むためのスクリプトを作成します。
CTRL+Q、W、M、A	wma ファイルから属性を読むためのスクリプトを作成します。

ファンクション キーのキーボード ショートカット

ファンクション キーのキーボード ショートカット

ショートカット	関数
F1	コンテキスト依存ヘルプを起動します。
F3	検索可能なオブジェクトがアクティブな場合は、検索モードになります。
F6	現在アクティブなタブの左隣のシート タブをアクティブにします。
F7	現在アクティブなタブの右隣のシート タブをアクティブにします。
F12	**[ファイル]** メニューの **[名前を付けて保存]** と同じです。

ショートカット	関数
Ctrl+F6	左端のシート タブをアクティブにします。
Ctrl+F7	右端のシート タブをアクティブにします。

7 データのロードについて

ここでは、データの QlikView へのロード方法について簡単に紹介します。このセクションのトピックの基本として、基本的なデータのロードと変換の方法を説明します。

QlikView は、スクリプトエディタで管理されるロードスクリプトを使用し、さまざまなデータソースに接続してデータを取得します。ロード対象の項目とテーブルは、スクリプト内で指定します。特別なスクリプトステートメントや数式を使用して、データ構造を操作および変換することもできます。

スクリプトの実行中、QlikView は異なるテーブル間で共通する項目 (キー項目) を特定し、データを関連付けます。ドキュメントにおける結果データのデータ構造は、テーブル ビューアーで確認できます。項目名を変更し、テーブル間に異なる関連付けを設定することで、データ構造を変更できます。

[リロード] ボタンをクリックして、スクリプトを実行します。スクリプト実行後、**[項目の選択]** ダイアログが開き、QlikView のシートのリストボックスに表示する項目を選択できます。

QlikView にロードされたデータは、ドキュメントに保存されます。ドキュメントはプログラムの機能を決定する要素となり、無制限のデータ連結方法、膨大な利用可能軸の数、分析スピード、コンパクトなサイズといった特性を発揮します。ドキュメントを開くと、データは RAM に保持されます。

QlikView の分析は常に、ドキュメントがデータソースに直接接続されていない間に行われます。そのため、データを更新するには、スクリプトをリロードする必要があります。

7.1 データ構造の把握

データロードのステートメント

データは、**LOAD** または **SELECT** ステートメントによりロードされます。各ステートメントは、1 つの内部テーブルを生成します。テーブルは常に何かのリストとして表示されます。各レコード (行) には、オブジェクトタイプの新しいインスタンス、各項目 (列) には、オブジェクトの特定の属性またはプロパティが含まれます。

ルール

以下の規則はデータを QlikView にロードする際に適用されます。

- QlikView では、**LOAD** ステートメントで生成されるテーブルと **SELECT** ステートメントで生成されるテーブルに違いはありません。つまり、複数のテーブルをロードする場合には、**LOAD** と **SELECT** ステートメントのどちらか一方を使用しようと、これら 2 つを組み合わせようと、その方法は重要ではありません。
- QlikView ロジックでは、ステートメント内またはデータベース内の元のテーブルの項目の順序は任意です。
- 項目名は、項目を識別したり、関連付けを作成する処理で使用されます。項目名には大文字と小文字の区別があり、そのために項目名を変更する必要がしばしば生じます。

スクリプトの実行

典型的な **LOAD** または **SELECT** ステートメントでは、イベントの順序は概ね次のようになります。

1. 数式の評価
2. による項目名の変更 **as**

3. による項目名の変更 **alias**
4. 項目名の修飾
5. 項目名が一致する場合はデータのマッピング
6. 内部テーブルへのデータの保存

項目

項目とは、QlikView の主要なデータ伝送エンティティです。項目には通常、項目値と呼ばれる値がいくつか含まれています。データベース用語では、QlikView によって処理されるデータは、データファイルから読み込まれたものであると定義されます。ファイルは複数の項目から構成されており、各データエントリがレコードとなります。ファイル、項目、レコードという用語は、それぞれテーブル、列、行と同等です。QlikView AQL ロジックは、項目とその項目値でのみ機能します。

項目データは、**LOAD** または **SELECT**、**Binary** ステートメントを介して、スクリプトにより取得されます。項目のデータを変更する唯一の方法は、スクリプトを再実行することです。ユーザーがレイアウトやオートメーションを使用して項目値を操作することはできません。QlikView に読み込まれた項目値は、論理選択および計算目的のためにのみ、表示および使用することができます。

項目値には、数値データや英数字 (テキスト) データを含めることができます。数値は、実際にはデュアル値、つまり数値とその時点の書式設定されたテキスト表現を持ちます。シートオブジェクトなどにはテキスト表現が表示されます。

項目の内容は、リストボックスに表示されます。

項目タグ

項目タグを使用して、データモデルの項目にメタデータを追加できます。項目タグには、次の 2 つの異なるタイプがあります。

- システム項目タグ
  システム項目タグは、スクリプトが実行され、データがロードされると自動的に生成されます。一部のタグはスクリプトで操作できます。システムタグの前には、常に $ 記号が付きます。
- カスタム項目タグ
  Tag ステートメントを使用して、ロードスクリプトの項目にカスタムタグを追加できます。カスタムタグに、システムタグと同じ名前を使用することはできません。

システム項目タグ

次のシステムタグは、スクリプト実行の最後に自動的に生成されます。

システム項目タグ

Tag	説明	スクリプトで操作が可能かどうか
$system	スクリプト実行時に QlikView によって生成されるシステム項目。	いいえ
$key	複数のテーブル間のリンクを提供するキー項目。	いいえ
$keypart	この項目は、1 つ以上の合成キーの一部です。	いいえ

Tag	説明	スクリプトで操作が可能かどうか
$syn	合成キー	いいえ
$hidden	非表示項目。つまり、チャート、軸、またはメジャーの作成時に項目選択リストに表示されません。数式で非表示項目を使用できますが、項目名を入力する必要があります。 **HidePrefix**および**HideSuffix**システム変数を使用して、非表示にする項目を設定することができます。	はい
$numeric	項目内のすべての値 (NULL 以外) は数値です	はい
$integer	項目内のすべての値 (NULL 以外) は整数です。	はい
$text	項目内の値は数値ではありません。	はい
$ascii	項目の値には標準の ASCII 文字列のみが含まれます。	はい
$date	項目内のすべての値 (NULL 以外) は日付 (整数) として解釈されます。	はい
$timestamp	項目内のすべての値 (NULL 以外) はタイムスタンプとして解釈されます。	はい

次のタグは *ドキュメントプロパティ: テーブル (page 233)* ダイアログで設定され、ユーザーによって有効化/無効化を切り替えられます。

- $dimension - チャートの軸やリストボックスなどでの使用を推奨する項目であることを示します。
- $measure - 数式での使用が推奨される項目であることを示します。

システム項目

データソースから抽出された項目に加えて、QlikView はシステム項目も生成します。これらはすべて "$" で始まり、通常の項目と同様にシートに表示できます。システム項目は通常、スクリプトの実行中に作成され、主にドキュメント設計をサポートする目的で使用されます。

システム項目の表示

以下の手順を行ってください。

1. シートを右クリックして、**[システム項目]** を選択します。
2. **[システム項目の表示]** チェックボックスをオンにします。

システム項目は、他の項目としても利用できます。

利用可能なシステム項目

次のシステム項目は表示できます。

システム項目

項目	説明

$Table	スクリプトによってロードされたすべての内部テーブルを表示します。1 つのテーブルが選択されると、そのリスト ボックスのキャプションに info シンボルが表示されます。これをクリックすると、テーブルがファイルから読み込まれている場合、そのテーブルを表示できます。
$Field	テーブルから読み取られた項目を表示します。このリスト ボックスに **[レコード数の表示]** (**[リスト ボックス プロパティ: General]** ページ内) を設定すると、複数の内部テーブルにあるキー項目を簡単に確認できます。
$Fields	リスト ボックスの数値は、さまざまなテーブルの項目数を表示します。
$FieldNo	リスト ボックスは、テーブルの項目の位置を表示します。
$Rows	リスト ボックスは、テーブルの行数を表示します。
$Info	ドキュメントに info テーブルが含まれる場合、その名前がここに表示されます。

システム テーブル

QlikView は自動的にピボット テーブルを作成して、システム項目を使用します。このテーブルは **システム テーブル** と呼ばれ、*$Field* と *$Table* の 2 つの軸と数式 *only([$Field])* が含まれています。デフォルトで、システム テーブルは頻度に基づいてソートされます。システム テーブル オブジェクトは QlikView Server クライアント (AJAX およびプラグイン クライアント) では利用できません。

システム テーブルの作成

以下の手順を行ってください。

1. シートを右クリックして、**[シート オブジェクトの追加]** を選択します。
2. **[システム テーブル]** を選択します。

入力フィールド

QlikView は、スクリプトを実行しなくても変更できる特別な項目の型 (入力フィールド) をサポートしています。入力フィールドは、QlikView のその他の項目と似ていますが、スクリプトで読み取られた項目の値については、その他の項目とは異なり、スクリプトを再度実行しなくても後で変更することができます。入力フィールドは、あらゆるタイプのシート オブジェクトの他の項目と同じように使用できます。

入力フィールドを使用する場合、ロード スクリプトは、各項目値のプレースホルダを作成します。これを後で編集して、新しいデータを設定できます。項目を **LOAD** または **SELECT** ステートメントに含める前に、ロード スクリプトに inputfield ステートメントでリストすることで、すべての項目を入力フィールドに変えることができます。

入力フィールドの値は、リスト ボックスのセル、テーブル ボックスのセル、およびテーブル チャートの数式セルで変更できます。入力フィールドが含まれるリスト ボックスおよびテーブル列のみを編集できます。編集可能なセル上にポインタを置くと、入力アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、そのセルは入力編集モードに設定されます。上/下矢印キーを使用して、入力編集モードのままでセル間を移動できます。QlikView ドキュメント全体は、新しい値が入力されるたびに自動的に再計算されます。

テーブル チャートの数式セルには、特別の入力フィールドに集計関数を設定でき、さらに値を入力することができます。変更は、「均等配布」または「比例配布」などの事前定義されたアルゴリズムに基づいて基底の項目値に配布し直されます。

関連する変更を指定することもできます。



関連する変更は、この配布モードを数式の一部として使用した場合に機能します。

次の構文が適用されます (*n* は番号です)。

入力構文

構文	説明
%+n	現在の値をn% 増加します
%-n	現在の値をn% 減少します
+=n	現在の値をn 増加します
-=n	現在の値をn 減少します
*=n	現在の値をn 倍します
/=n	現在の値をn 分割します

%+10 現在の値を10% 増加します。

+=56 現在の値を56 増加します。

***=2** 現在の値を2 倍します。

/=2 現在の値を2 分割します。

/=0 何も変更しません。

プログラムで値を抽出および設定するためのオートメーション API も用意されています。

制限

- 計算項目およびキー項目を入力フィールドとして使用することはできません。入力フィールドの機能が自動的に無効となります。
- 入力フィールドにおけるデータの保存効率は、通常の項目と比較すると非常に落ちるため、大量データには向いていません。
- 入力フィールドと理論項目の間のキーは一意でなければならず、複製値を含めることはできません。

入力フィールドの例

この例では、データに入力フィールドを追加して、インタラクディブに値を更新する方法を示します。

1. 次のデータをロードスクリプトにロードします。
```
Inputfield Value;

Table1:
LOAD * INLINE
[
Key, Attribute, Value
Bob, Jan, 100
Bob, Feb, 200
Bob, Mar, 300
Kate, Jan, 400
Kate, Feb, 500
Kate, Mar, 600
];
```
2. データをロードしたら、**[テーブル ボックス]** を作成し、3 つの項目すべてを追加します。

3. **[ストレート テーブル]** チャートを作成し、Key を軸として追加します。以下の数式を追加します。
   - `Sum(Value)`
   - `InputSum(Value)`

   両方の数式とも同じ値を表示しますが、`Sum(Value)` ではなく、ストレート テーブルにある `InputSum(Value)` だけを更新できます。

これで、テーブル ボックスにある Value をインタラクティブに変更できるようになります。ストレート テーブルにある数式の集計した値は、適宜更新されます。

ストレート テーブルにある `InputSum(Value)` 数式の値も更新できます。基底の値は、テーブル ボックスで更新されます。変更はすべての値で均等に配分されますが、`InputSum()` 関数で配分モードを変更できます。

項目グループ

QlikView とOLAP ツールなどのその他の多くのデータベース ビューアーの主な違いとして、QlikView では入力データの階層を事前定義する必要がありません。QlikView 固有の内部ロジックでは、完全な軸として任意の項目に任意の順序で自由にアクセスできます。ほとんどの目的において、この自由度はきわめて強力です。

ただし、事前定義された階層は、より効率よくデータを表示するために役立つ場合があります。このため、QlikView には、項目のグループを定義する機能が用意されています。グループは、階層 (ドリルダウン) または非階層 (サイクリック) で作成できます。

グループは、**[ドキュメント プロパティ]** ダイアログの **[グループ]** ページで作成されます。グループはチャートで使用することができ、**軸** の軸 ドロップダウン ボックスの項目の有効な項目と共に表示されます。

任意の項目をグループ化することができます。

ドリルダウン グループには、 アイコンが表示されます。

サイクリック グループには、 アイコンが表示されます。

階層 グループ (ドリルダウン)

複数の項目が自然階層を形成する場合は、ドリルダウン グループを作成することが適しています。一般的な例として、次のような階層 グループがあります。

Time:Year、Quarter、Month

または

Geography: Continent, Country, State, City

ドリルダウン グループをチャートの軸として使用する場合、チャートは、複数の絞込値が存在する項目のグループ リスト内の最初の項目を使用します。項目が複数の絞込値を含む場合、選択によって項目に 1 つの絞込値だけが存在する場合は、代わりにリスト内の次の項目が使用されます。複数の絞込値を含む項目がリスト内に存在しない場合は、最後の項目が使用されます。

上記の最初の例では、1 つの年が選択されるまでは、Year がチャート軸として使用されます。次に、チャートでは Quarter が表示されます。1 つの四半期が選択された場合、チャートは Month に切り替えられます。

選択が解除され、グループの項目リストの上位の項目で複数の値が有効になると、チャートは自動的にドリルアップし直されます。強制的にドリルアップするには、チャートのドリルアップ アイコンをクリックします。

階層グループ(ドリルダウン)

複数の項目が自然階層を形成する場合は、ドリルダウン グループを作成することが適しています。一般的な例として、次のような階層グループがあります。

時刻: Year, Quarter, Month

または

Geography: Continent, Country, State, City

ドリルダウン グループをチャートの軸として使用する場合、チャートは、複数の絞込値が存在する項目のグループリスト内の最初の項目を使用します。項目が複数の絞込値を含む場合、選択によって項目に1つの絞込値だけが存在する場合は、代わりにリスト内の次の項目が使用されます。複数の絞込値を含む項目がリスト内に存在しない場合は、最後の項目が使用されます。

上記の最初の例では、1つの年が選択されるまで *Year* がチャート軸として使用されます。次に、チャートでは *Quarter* が表示されます。1つの四半期を選択すると、チャートは *Month* に切り替わります。

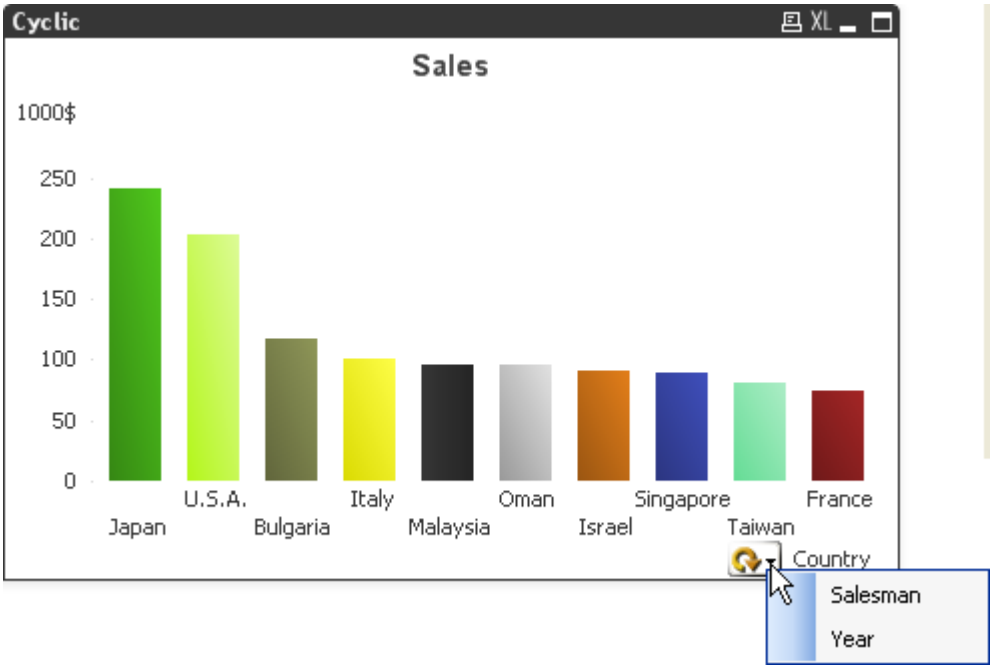
選択が解除され、グループの項目リストの上位の項目で複数の項目が有効になると、チャートは自動的にドリルアップし直されます。強制的にドリルアップするには、チャートのドリルアップ アイコンをクリックします。

同じドリルダウン グループを、チャートの軸に複数使用すると、特別な機能が現れます。2つめのグループでは、自動的にグループの項目リストの1つ下の項目が表示されます。たとえば、上記の *Geography* グループを第1軸と第2軸の両方に使用して2軸のチャートを作成すると、*Continent* と *Country* が最初に使用されます。1つの continent を選択すると、*Country* と *State* が代わりに使用されます。

自然な階層でのこの特徴の使用は便利です。けれども、そうではない状況で同様に使用することを妨げるものはありません。

データアイランドが生じるような軸と数式を使用する場合は、有効な階層が必要なため、ドリルダウンできません。この場合は、数式を適合させて階層に値を組み込む必要があります。

非階層グループ (サイクリック)



時に、自然な階層を構成しない項目をグループにすると便利な場合があります。それは、チャートやリストボックスに表示されるデータをすばやく変更できるようになるためです。

サイクリックグループでは、任意の項目をグループ化できます。サイクリックグループをチャートの軸として使用する場合、チャートは、リスト内の 1 つ目の項目を最初に使用します。次に、ユーザーがチャート内のサイクリックアイコンをクリックすると、別の項目に切り替わります。項目は、グループの項目リストに表示される順序に表示されます。リスト内の最後の項目が使用されると、また最初の項目に戻ります。この方法で、チャートはいつまでも項目を回します。

*サイクリックグループを、チャート式の**サイクリックグループ**と混同しないでください。軸のサイクリックグループは、いくつもの項目でできていますが、チャート式のサイクリック表示は、いくつもの数式でできています。*

論理テーブル

LOAD ステートメントまたは **SELECT** ステートメントは、それぞれ 1 つのテーブルを生成します。通常 QlikView は、各ステートメントの結果を 1 つの論理テーブルとして処理します。ただし、この規則にはいくつかの例外があります。

- 2 つ以上のステートメントにより、同一の項目名を持つテーブルが生成された場合は、これらのテーブルが連結されて、1 つの論理テーブルとして処理されます。
- **LOAD** または **SELECT** ステートメントの前に、次のいずれかの修飾子が付いている場合は、データが変更されるか、別々に処理されます。

論理テーブル修飾子

修飾子	説明
concatenate	このテーブルは、別の名前のテーブルまたは最後に作成された論理テーブルに連結 (追加) されます。
crosstable	このテーブルは、クロス集計形式から列形式に変換されます。
generic	このテーブルは、他のいくつかの論理テーブルに分割されます。
info	このテーブルは、論理テーブルとしてではなく、ファイルやサウンド、URL などの外部情報へのリンクを含む情報テーブルとしてロードされます。
intervalmatch	このテーブル (厳密に 2 つの列を含む) は、数値間隔として解釈されます。これらは、指定された項目内の離散数値に関連付けられます。
join	このテーブルは QlikView によって、共通項目において別の名前のテーブルまたは最後に作成された論理テーブルと結合されます。
keep	このテーブルは別の名前のテーブルまたは最後に作成された論理テーブルにより、共通する項目に縮小されます。
mapping	このテーブル (厳密に 2 つの列を含む) は、マッピング テーブルとして読み取られます。このテーブルが他のテーブルに関連付けられることはありません。
semantic	このテーブルは、論理テーブルとしてではなく、結合されない関係 (先行や後続など、同じタイプの他のオブジェクトに対するその他の参照) を含むセマンティック テーブルとしてロードされます。

データがロードされると、論理テーブルが関連付けられます。

テーブル名

QlikView テーブルは、QlikView データベースに保存されるときに名前が付けられます。テーブル名は、**resident** 句がある、または **peek** 関数を含む数式がある、**LOAD** ステートメントなどで使用され、レイアウト内の *$Table* システム項目に表示されます。

テーブルの名前は、次の規則に従って付けられます。

1. ラベルが **LOAD** または **SELECT** ステートメントの直前にある場合は、そのラベルがテーブル名として使用されます。ラベルの後にはコロンが必要です。

```
Table1:
LOAD a,b from c.csv;
```

2. ラベルが指定されていない場合、**LOAD** または **SELECT** ステートメント内のキーワード **FROM** の直後にあるファイル名またはテーブル名が使用されます。

> *ファイル名が、次のようにワイルドカードで定義されている場合、`*.csv`名前は次のようになります。`tablename-1.`*

3. インラインでロードされたテーブルには、INLINExx という名前が付けられます。xx は番号で、最初のインラインテーブルは *INLINE01* という名前になります。
4. 自動生成されるテーブルには、AUTOGENERATExx という名前が付けられます。xx は番号で、最初の自動生成テーブルは *AUTOGENERATE01* という名前になります。
5. 上の規則に従って生成されたテーブル名が既存のテーブル名と競合する場合は、名前に -x が付けられます。x は番号で、競合がなくなるまで増え続けます。たとえば、「Budget」という名前のテーブルが 3 つある場合には、それぞれ *Budget*、*Budget-1*、および *Budget-2* という名前が付けられます。

テーブル名には、**section access**、**section application**、およびマッピング テーブルの 3 つの異なるドメインが存在します。**section access** および **section application** 内で生成されるテーブル名は個別に扱われます。参照されるテーブル名がセクション内にない場合、QlikView は他のセクションも検索します。マッピング テーブルは個別に扱われ、他の 2 つのドメインのテーブル名とは一切関係がありません。

テーブル ラベル

LOAD ステートメントの **resident** 節または **peek** 関数を含む数式などが後で参照するために、テーブルにラベルを付けることができます。ラベルは数値または文字で構成される任意の文字列で、テーブルを作成する最初の **LOAD** または **SELECT** ステートメントの前に配置します。ラベルの後にはコロン「**:**」が必要です。

空白を含むラベルは、単一引用符や二重引用符、または角括弧などで囲む必要があります。

Example 1:

```
Table1:
LOAD a,b from c.csv;
LOAD x,y from d.csv where x=peek('a',y,'Table1');
```

Example 2: 空白を含むテーブル ラベル

```
[All Transactions]:
SELECT * from Transtable;
LOAD Month, sum(Sales) resident [All Transactions] group by Month;
```

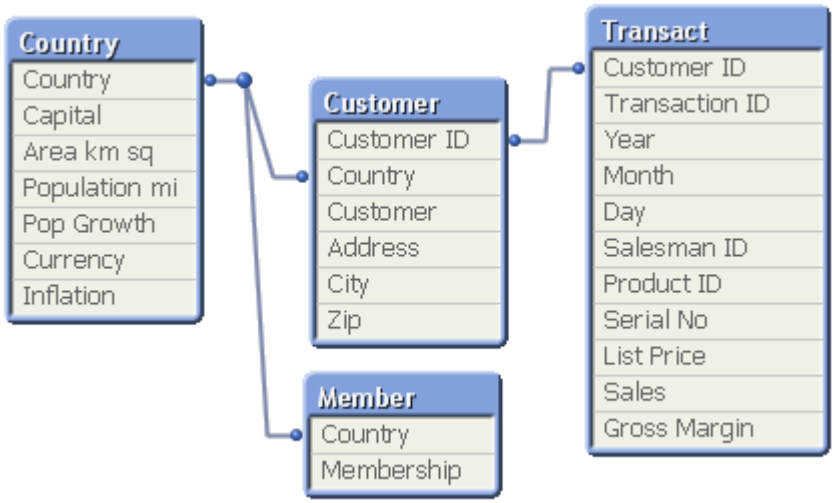
論理テーブル間の関連付け

1 つのデータベースに複数のテーブルを含めることができます。各テーブルは、何かのリストと見なすことができます。つまり、リスト内の各レコードは、何らかの種類のオブジェクトのインスタンスを表します。

2 つのテーブルが異なる対象を扱うリストの場合であっても (例えば、1 つは顧客のリストで、もう1 つが請求書のリストなど)、この 2 つのテーブルに顧客番号などの共通する項目があるなら、多くの場合、それはこの 2 つのテーブルの間に関係が存在することを示しています。標準の SQL クエリツールでは、ほとんどの場合、この 2 つのテーブルは結合されます。

QlikView スクリプトで定義されたテーブルは、論理テーブルと呼ばれます。QlikView は、項目名に基づいてテーブル間を関連付けます。そして、選択が行われると(たとえば、リスト ボックスの項目値を選択すると) 、結合を実行します。

つまり、関連付けは結合とほとんど同じです。唯一の違いは、結合はスクリプトが実行されるときに実行され、この結合の結果として論理テーブルが生成されます。それに対して、関連付けは論理テーブルの作成後に実行され、常に論理テーブル間で行われます。



SQL の自然 outer join と比較した QlikView の関連付け

QlikView の関連付けは SQL 自然 outer join に類似しています。ただし、SQL の outer join では通常、あるテーブルから別のテーブルへの一方向の関係となるため、関連付けの方がより一般的です。関連付けでは、常に完全な (双方向) 自然 outer join が形成されます。

関連付け項目のレコード数情報

ほとんどの関連付け項目 (2 つ以上のテーブル間に共通する項目) の使用には、いくつかの制限があります。項目が複数のテーブルに存在する場合、QlikView では、データのレコード数の計算に使用するテーブルを特定することが困難になります。

QlikView は、データを分析することにより、計算に含めるメイン テーブルを特定するための確実な方法が存在するどうかを確認しますが (存在する場合もあります)、ほとんどの場合は推測することしかできません。間違った推測は致命的な結果を引き起こす可能性があるため (QlikView が計算ミスをしたように見えます)、関連付け項目のデータ解釈があいまいな場合、プログラムは特定の操作が許可されないように設計されています。

項目関連付けの制限

1. 項目を表示するリスト ボックスで、レコード数情報を表示することはできません。
2. 項目の統計ボックスでは、ほとんどの統計エントリに n/a が表示されます。
3. チャートでは、**Distinct** 修飾子をアクティブにしない限り、項目のレコード数情報に基づく関数 (Sum、Count 関数、および Average など) を含む数式を作成することはできません。QlikView はリロードするたびにすべてのチャート式をスキャンして、データ構造の変更により、あいまいさが発生していないか確認します。あいまいな数式が見つかった場合は、警告ダイアログが表示され、その数式は無効になります。問題が修正されるまで、その数式を有効にすることはできません。ログ ファイルが有効にされている場合は、すべてのあいまいな数式がログにリストされます。

回避方法

これらの制限に対しては、簡単な対処方法があります。レコード数が作成されるテーブルから、項目を新しい名前で余分にロードします。次に、レコード数を含むリストボックス、統計ボックス、またはチャートの計算で、その新しい項目を使用します。

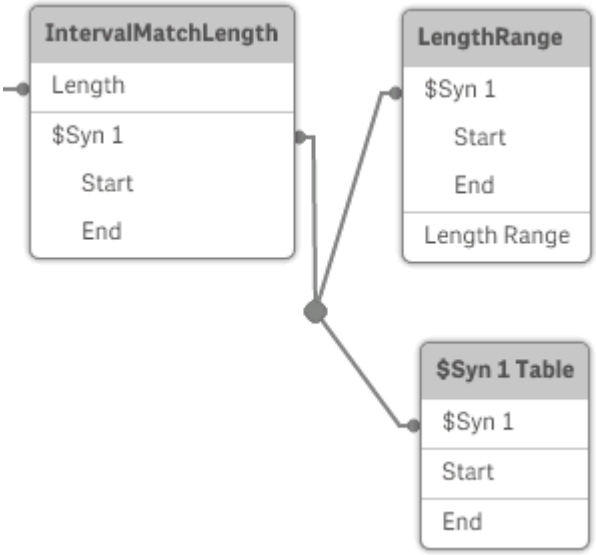
合成キー

複数の内部テーブル間に複数の項目が共通して含まれている場合、複合キーの関係が存在することを意味します。QlikView は、自動的に合成キーを作成し、これに対処しています。合成キーとは、複合キーが発生するすべての組み合わせを表す匿名項目です。

データのロード中に、合成キーに関する警告が表示された場合は、テーブルビューアでデータ構造を確認することをお勧めします。データモデルが正しいかどうかを、自分で確認してください。データモデルが正しくても、合成キーが多すぎるとスクリプトでエラーが発生する原因となります。

必ずというわけではありませんが、複数の合成キーが不正なデータモデルの兆候となることはよくあります。ですが、他の合成キーに基づく合成キーがある場合、これは不正なデータモデルの明らかな兆候です。

> *データ量やテーブル構成、その他の要因により合成キーが増加すると、QlikView はそれらを効率的に処理できなくなる場合があり、結果として大量の時間とメモリを消費してしまいます。そうした場合は、すべての合成キーを削除して、スクリプトの再構築が必要となります。*



合成キーの処理

合成キーを回避する必要がある場合は、ロードスクリプトで次のような方法を使って解決できます。

- キーとして使用されている論理的にリンクしている 2 つのテーブルの項目のみをチェックする。
    - “Comment” や “Remark”、“Description” のような項目が互いに関係のない複数のテーブルに存在する場合、キーとして使用できない。

- “Date” や “Company”、“Name” のような項目が複数のテーブルに存在し、一意の値を持っているがロールが異なる場合 (Order Date/Shipping Date、Customer Company/Supplier Company) は、キーとして使用できない。
- 冗長項目が使用されておらず、必要な項目のみが接続されていることを確認する。たとえば、日付をキーとして使用する場合は、year、month、または day_of_month などを複数の内部テーブルから同じ日付がロードされていないことを確認してください。
- 必要に応じて、通常は AutoNumber スクリプト関数内で文字列連結を使用している独自の非複合キーを作成する。

のデータ型 QlikView

QlikView では、テキスト文字列、数字、日付、時刻、タイムスタンプ、通貨を正しく処理し、さまざまな書式でソートおよび表示したり、計算に使用したりすることができます。つまり、日付と時刻、タイムスタンプを相互に加算/減算できることを意味します。

QlikView 内のデータ表現

QlikView でのデータの解釈と数値書式を理解するには、プログラムの内部でデータがどのように保存されているかを知る必要があります。QlikView にロードされるすべてのデータは、文字列または数値の 2 種類の方法で表現できます。

1. 文字列表現は常に使用でき、リストボックスなどのシートオブジェクトに表示されます。リストボックス内のデータの書式設定 (数値書式) は、文字列表現にのみ影響を与えます。
2. 数値表現は、データが有効な数値として解釈可能な場合に限り使用できます。数値表現は、すべての数値計算と数値のソートで使用できます。

1 つの項目に読み取られた複数のデータ項目の数値表現が同じ場合、それらは同じ値として処理され、検出された最初の文字列表現を共有します。例 : 数値 1.0、1、および 1.000 がこの順序で読み取られた場合、これらの数値の数値表現はすべて 1 であり、文字列表現は最初の 1.0 となります。

データ型変換

数字、通貨、日付などを含むデータをロードした場合、データの種類が定義されているかどうかに応じてデータ型が変換されます。このセクションでは、2 つの事例におけるデータ型の変換方法について解説します。

型情報を持つデータ

ODBC を使用してロードされたデータベースで、データ型が定義されている数値を含む項目は、それぞれの書式に従って QlikView によって処理されます。それらの文字列表現は、適切な書式が適用された数値になります。

QlikView は、数値書式がアプリケーションの数値書式ダイアログで変更された場合でも、項目の元の数値書式を記憶します。次をクリックすると、いつでも元の書式に戻すことができます。**[データロード時の設定に戻す]** ボタンをクリックすると、いつでも復元できます。

各種データ型のデフォルトの書式は次のとおりです。

- 整数、浮動小数点数: 数値のデフォルト設定
- 通貨: 通貨のデフォルト設定
- 時刻、日付、タイムスタンプ: ISO 標準書式

数値と通貨のデフォルト設定は、スクリプトデータ型変換変数またはオペレーティング システム設定 (**コントロール パネル**) で定義されます。

型情報を持たないデータ

ソースに特定の書式情報がないデータ(テキストファイルのデータや一般的な書式の ODBC データなど) では、状況が複雑になります。最終的な結果は、少なくとも次の 6 つの要因で決まります。

1. ソース データベースにデータが書き込まれた方法
2. 数値、時刻、日付などに対するオペレーティング システムの設定 (**コントロール パネル**)。
3. スクリプトでのオプションのデータ型変換変数の使用
4. スクリプトでのオプションの変換関数の使用
5. スクリプトでのオプションのフォーマット関数の使用
6. ドキュメント内の数値書式設定コントロール

QlikView は、入力データを数値や日付、時刻として変換しようとします。データでシステムのデフォルト設定が使用されている場合は、変換と表示書式設定は QlikView によって自動的に行われるため、自分でスクリプトや QlikView の設定を変更する必要はありません。入力データが正しく変換されているかどうかを確認する方法は簡単です。数値はリストボックスで右寄せされ、テキスト文字列は左寄せされます。

デフォルトでは、完全な一致が見つかるまで、次の手順で書式が検索されます。(デフォルトの書式とは、オペレーティング システム (**コントロール パネル**) またはスクリプト内のデータ型変換変数で指定された小数点記号、年、月、日の順序などの書式です。)

QlikView は、データを次の内のいずれかとして解釈します (順番に表示)。

1. 数値のデフォルト書式に従った数値。
2. 日付のデフォルト書式に従った日付。
3. 時刻と日付のデフォルト書式に従ったタイムスタンプ。
4. 時刻のデフォルト書式に従った時刻。
5. 次の書式に従った日付。yyyy-MM-dd。
6. 次の書式に従ったタイムスタンプ。YYYY-MM-DD hh:mm[:ss[.fff]]。
7. 次の書式に従った時刻。hh:mm[:ss[.fff]]。
8. 通貨のデフォルト書式に従った通貨。
9. 小数点記号と桁区切り記号がどちらも「,」に設定されていない場合は、「.」を小数点記号、「,」を桁区切り記号とする数値。
10. 小数点記号と桁区切り記号がどちらも「.」に設定されていない場合は、「,」を小数点記号、「.」を桁区切り記号とする数値。
11. テキスト文字列。この最後の条件が成り立たないことはありません。データを読み取ることができた場合は、常に文字列として解釈することができます。

テキストファイルから数値をロードすると、変換の問題が発生する場合があります。例えば、不適切な桁区切り記号や小数点記号によって、QlikView が数値を間違えて解釈する可能性があります。そこで最初に、スクリプト内のデータ型変換変数が正しく定義されているかどうか、**コントロール パネル**のシステム設定が正しいかどうかを確認する必要があります。

QlikView で日付または時刻として解釈されたデータは、チャートプロパティで別の日付書式または時刻書式に変更可能です。

データに書式が定義されていないため、別のレコードには、同じ項目に別の書式のデータが含まれる場合があります。つまり、1 つの項目に有効な日付、整数、およびテキストが入っている可能性もあります。その場合、データは書式設定されず、元の形式で表示されます。

日付と時刻の変換

QlikView では、データ内の日付、時刻、タイムスタンプが日付シリアル値として保存されます。日付シリアル値は、日付と時刻、タイムスタンプのほか、日付と時刻のエンティティに基づく算術計算で使用されます。これにより、日付や時刻を加算/減算したり、時間間隔を比較することが可能になります。

日付シリアル値は、1899 年 12 月 30 日からの経過日数 (実数値) です。QlikView の書式は、1900 年 3 月 1 日から2100 年 2 月 28 日までの範囲については、Microsoft Excel などのプログラムで使用される 1900 日付システムと同じです。例えば、33857 は 1992 年 9 月 10 日に相当します。この範囲外では、QlikView はグレゴリオ暦に拡張した同じ日付システムを使用します。

時刻シリアル値は、0 から 1 の間の数になります。シリアル値 0.00000 は 00:00:00 に相当し、0.99999 は 23:59:59 に相当します。これらを混合することで、日付と時刻を示すことができます。例えばシリアル値 2.5 は、1900 年 1 月 1 日の午後 12:00 を表します。

ただし、データは文字列の書式に従って表示されます。デフォルトでは、**コントロール パネル**の設定が使用されます。また、スクリプトでデータ型変換変数を使用したり、書式設定関数を使用して、データの書式を設定することもできます。さらに、シート オブジェクトのプロパティ シートでデータの書式を再設定できます。

日付とシリアル番号

日付文字列	日付シリアル番号
1997-08-06	35648
09:00	0.375
1997-08-06 09:00	35648.375

また、その逆もあります。

シリアル番号と日付

日付シリアル番号	指定された数値形式	日付文字列
35648	'D/M/YY'	6/8/97
0.375	'hh.mm'	09.00

QlikView は一連の規則に従って日付や時刻、その他のデータ型を解釈しようとします。ただし、最終的な結果は、既に説明したように多くの要素の影響を受けます。

このセクションの例は、次のデフォルト設定を前提としています。

- 小数点記号: .
- 短い日付書式: YY-MM-DD

- 時間書式 : hh:mm

以下のテーブルは、スクリプト内で特別なデータ型変換関数を使用することなく、QlikView にデータを読み込んだ場合のさまざまな表示形式を示しています。

日付の表現

ソース データ	QlikView のデフォルト解釈	'YYYY-MM-DD' 日付書式	'MM/DD/YYYY' 日付書式	'hh:mm' 時間書式	'# ##0.00' 数値書式
0.375	0.375	1899-12-30	12/30/1899	09:00	0.38
33857	33857	1992-09-10	09/10/1992	00:00	33 857.00
97-08-06	97-08-06	1997-08-06	08/06/1997	00:00	35 648.00
970806	970806	4557-12-21	12/21/4557	00:00	970 806.00
8/6/97	8/6/97	8/6/97	8/6/97	8/6/97	8/6/97

以下のテーブルは、スクリプト内で date#(A, 'M/D/YY') 変換関数を使用して、QlikView にデータを読み込んだ場合のさまざまな表示形式を示しています。

日付の表現

ソース データ	QlikView のデフォルト解釈	'YYYY-MM-DD' 日付書式	'MM/DD/YYYY' 日付書式	'hh:mm' 時間書式	'# ##0.00' 数値書式
0.375	0.375	0.375	0.375	0.375	0.375
33857	33857	33857	33857	33857	33857
97-08-06	97-08-06	97-08-06	97-08-06	97-08-06	97-08-06
970806	970806	970806	970806	970806	970806
8/6/97	8/6/97	1997-08-06	08/06/1997	00:00	35 648.00

7.2 データおよび項目のガイドライン

QlikView には、把握しておかなければならない規則や制限がいくつかあります。例えば、データテーブルや項目の数には上限があり、QlikView にロードできるデータの量も限られています。

ロードされるデータ量のガイドライン

QlikView にロード可能なデータ量は、主にコンピュータのメイン メモリの容量によります。

データテーブルと項目の上限

非常に大きなドキュメントを作成する際は、QlikView ドキュメントの 1 つの項目内に許可されている固有の値数が最大 2,147,483,648 であることに注意してください。

ロード可能な項目やデータテーブル、テーブルのセルおよび列の数は RAM のみによって制限されます。

ロードスクリプトセクションの推奨制限

ロードスクリプトセクションあたりの文字数は、50,000 文字以内に収めることをお勧めします。

数値や日付書式の変換

多くの変換関数および書式設定関数では、書式コードを使用して数値や日付の書式を設定できます。このトピックでは、数値や日付、時刻、タイムスタンプの書式設定の変換方法を説明します。これらの変換は、スクリプト関数とチャート関数の両方に該当します。

数値書式

- 数値の桁数を指定するには、各桁に記号 "0" を使用します。
- 使用可能な桁を表すには、記号 "#" を使用します。書式で小数点の左に # のみがあり、数値が 1 未満の場合は、0 が削除されて小数点から開始されます。書式で小数点の右に # がある場合は、すべての値が表示されます。
- 桁区切りや小数点の位置に記号を入れるには、適用可能な桁区切り記号と小数点記号を使用します。

書式コードは、区切り記号の位置の定義に使用されます。書式コードで区切り記号を設定することはできません。スクリプトで **DecimalSep** と **ThousandSep** の変数を使用して、設定します。
桁区切り記号を使用して、任意の位置で桁をグループ化できます。例えば、書式文字列 "0000-0000-0000" (桁区切り記号は "-") を使用して、12 桁の部品番号を "0012-4567-8912" のように表示できます。

- # ##0: 区切り記号付きの 3 桁の整数として数値を表示します。
- ###0: 区切り記号なしの3桁の整数として数値を表示します。
- 0000: 4 桁以上の整数として数値を表示します。例えば、数値 123 は、0123 と表示されます。
- 0.000: 小数点以下 3 桁で数値を表示します。
- 0.0##: 小数点以下 3 桁で数値を表示します。一部がゼロと表示される場合があります。

特殊な数値書式

QlikView では、2 進数、8 進数、16 進数を含む 2 ~ 36 の基数を解釈し、書式設定できます。ローマ数字も処理できます。

数値書式

書式	説明
2 進形式	2 進数の書式コードを表すには、(bin) または (BIN) で開始します。
8 進形式	8 進数の書式コードを表すには、(oct) または (OCT) で開始します。
16 進形式	16 進数の書式コードを表すには、(hex) または (HEX) で開始します。大文字の A-F は、形式表示に使用されます (14FA など)。小文字の場合は、形式表示に a-f が使用されます (14fa など)。書式コードが大文字でも小文字でも正しく変換されます。

書式	説明
10 進形式	10 進形式であることを示すために (dec) または (DEC) を使用することはできますが、必要ではありません。
カスタム基数形式	2 ~ 36 の基数を示すには、書式コードを (rxx) または (Rxx) で開始します。ここで、xx は、使用する基数を示す 2 桁の数値です。大文字の R を使用すると、基数が 10 より大きい場合に QlikView の形式設定で大文字が使用されます (14FA など)。小文字の r の場合は、形式設定に小文字が使用されます (14fa など)。書式コードが大文字でも小文字でも正しく変換されます。(r02) は (bin) と同じで、(R16) は (HEX) と同じです。
ローマ数字形式	ローマ数字の書式コードを表すには、(rom) または (ROM) で開始します。大文字を使用する場合、大文字が形式表示に使用されます (MMXVI など)。小文字の場合は、書式に小文字が使用されます (mmxvi)。書式コードが大文字でも小文字でも正しく変換されます。ローマ数字の場合、負の数値はマイナス記号、ゼロは 0 で示されます。小数点は無視されます。

- num(199, '(bin)') の戻り値: 11000111
- num(199, '(oct)') の戻り値: 307
- num(199, '(hex)') の戻り値: c7
- num(199, '(HEX)') の戻り値: C7
- num(199, '(r02)') の戻り値: 11000111
- num(199, '(r16)') の戻り値: c7
- num(199, '(R16)') の戻り値: C7
- num(199, '(R36)') の戻り値: 5J
- num(199, '(rom)') の戻り値: cxcix
- num(199, '(ROM)') の戻り値: CXCIX

日付

日付形式には以下の記号が使用可能です。任意の区切り記号を使用できます。

日付形式の記号

シンボル	説明
D	日を表示するには、各桁に記号 "D" を使用します。
M	月の数字表示には、記号 "M" を使用します。 • 1 桁表示には "M" を、2 桁表示には "MM" を使用します。 • "MMM" は、オペレーティング システム、またはスクリプトのシステム優先変数 **MonthNames** で定義されている月の短い方の名前を文字列で表示します。 • "MMMM" は、オペレーティング システム、またはスクリプトのシステム優先変数 **LongMonthNames** で定義されている月の長い方の名前を文字列で表示します。
Y	年を表示するには、各桁に記号 "Y" を使用します。

シンボル	説明
W	曜日を表示するには、記号 "W" を使用します。 • "W" は、曜日を 1 桁の数字として返します (月曜日は 0 など)。 • "WW" は、2 桁の数字を返します (水曜日は 02 など)。 • "WWW" は、オペレーティング システム、またはスクリプトのシステム優先変数 **DayNames** で定義されている曜日の短いバージョン (Mon など) を示します。 • "WWWW" は、オペレーティング システム、またはスクリプトのシステム優先変数 **LongDayNames** で定義されている曜日の長いバージョン (Monday) を示します。

(例として 2013 年 3 月 31 日を使用します)

- YY-MM-DD 13-03-31 と表示。
- YYYY-MM-DD 3/31/13 と表示。
- YYYY-MMM-DD 2013-Mar-31 と表示。
- DD MMMM YYYY は 31 March 2013 のように表されます。
- M/D/YY 3/31/13 と表示。
- W YY-MM-DD は 6 13-03-31 のように表されます。
- WWW YY-MM-DD は Sat 13-03-31 のように表されます。
- WWWW YY-MM-DD は Saturday 13-03-31 のように表されます。

時刻

時刻形式には以下の記号を使用できます。任意の区切り記号を使用できます。

時刻形式記号

シンボル	説明
h	時を表示するには、各桁に記号 "h" を使用します。
m	分を表示するには、各桁に記号 "m" を使用します。
s	秒を表示するには、各桁に記号 "s" を使用します。
f	秒の小数部を表示するには、各桁に記号 "f" を使用します。
tt	時刻を AM/PM 書式で表示するには、時刻の後に記号 "tt" を使用します。

(例として 18.30 を使用します)

- hh:mm: 時間は 18:30 と表記されます。
- hh.mm.ss.ff: 時間は 18.30.00.00 と表記されます。
- hh:mm:tt: 時間は 06:30:pm と表記されます。

タイムスタンプ

上記の日付と時刻の表記の法則は、タイムスタンプにも当てはまります。

(例として 2013 年 3 月 31 日 18:30 を使用します)

- YY-MM-DD hh:mm: タイム スタンプは 13-03-31 18:30 と表記されます。
- M/D/Y hh.mm.ss.ffff: タイム スタンプは 3/31/13 18.30.00.0000 と表記されます。

7.3 ファイル データのロード

QlikView は、その項目がコンマ、タブ、セミコロンなどで区切られたテーブルを表すファイルからデータを読むことができます。他にも dif ファイル (Data Interchange Format)、固定長レコードファイル、HTML テーブル、Excel ファイル、xml ファイル、および native QVD と QVX ファイルなどの形式があります。通常、ファイルの 1 行目には項目名が含まれています。

ファイルは、ロード スクリプトで **load** ステートメントを使用してロードされます。

ロード スクリプト エディタでステートメントを入力する代わりに、テーブル ファイル ウィザードを使用して自動的にステートメントを生成できます。

load ステートメントでは、スクリプトの数式一式を使用できます。

別の QlikView ドキュメントからデータを読み込むには **binary** ステートメントを使用します。

テーブル ファイル

QlikView では、*テーブル ファイル* は、項目がコンマやセミコロンなどで区切られたテーブル (テキスト ファイルともいいます)、もしくは固定長のテーブルを表すファイルを意味します。1 行目のデータは通常、項目名を表します。他のテーブル ファイルには、dif ファイル (Data Interchange Format)、固定レコード長のファイル、HTML ファイル、および Excel ファイルがあります。

QlikView にロードする Excel ファイルの準備方法

Microsoft Excel ファイルを QlikView にロードする際、ロード スクリプトのさまざまな関数を用いてデータの変換やクレンジングを行うこともできますが、Microsoft Excel スプレッドシート ファイルでソース データを直接準備した方が効率的です。このセクションでは、最小限のスクリプト コードでスプレッドシートを QlikView にロードするためのヒントを紹介します。

列見出しの使用

Excel で列見出しを使用している場合、QlikView でデータを選択する際に **[埋め込まれた項目名]** を選択すると、列見出しが項目名として自動的に使用されます。ラベルには改行を挿入せず、ヘッダーはシートの 1 行目に配置するようにしてください。

データの書式設定

コンテンツをテーブル内の生データとして設定しておくと、QlikView への Excel ファイルのロードがしやすくなります。以下はなるべく避けてください。

- 合計やカウントなどの集計。集計は QlikView で定義、計算できます。
- ヘッダーの重複。

- データの一部ではない追加情報 (コメントなど)。QlikView にファイルをロードする際にスキップできるコメント用の列を作成することをお勧めします。
- クロス集計データレイアウト。月ごとに列を 1 つずつ作成するのではなく、「Month」という名前の列を 1 つ作成し、各月につき 1 行割り当て、合計 12 の行に同じデータを記述するようにしてください。こうすることで、QlikView でクロス集計の表示が可能となります。
- 例えば、「Department A」という名前の後に Department A に関する行が続く中間ヘッダーがあるとします。このような場合、代わりに「Department」という名前の列を作成し、適切な部署名を入力します。
- セルの結合。セルは結合せず、各セルにセル値をリストしてください。
- 前の値により黙示的に値が定義される空白セル。すべてのセルにデータ値が含まれるよう、同じ値が繰り返されている場合もその値を入力する必要があります。

名前付き領域の使用

シートの一部のみを読み取る場合、行または列の領域を選択し、Excel の名前付き領域として定義することができます。QlikView では名前付き領域とシートの両方からデータをロードできます。

生データを名前付き領域として定義し、名前付き領域の外にある追加コメントや凡例をすべて維持することも可能です。この方法では、QlikView へのデータロードをより簡単に行えます。

パスワード保護の削除

データをロードする前に、Excel ファイルのパスワード保護を解除しておくことをお勧めします。

編集を有効化する

Microsoft Excel ファイルが Internet からダウンロードされた場合、データを QlikView に読み込む前に編集を有効化する必要があります。

7.4 データベースからのデータのロード

市販のデータベースシステムからデータを Microsoft OLE DB/ ODBC インターフェースを介して QlikView へロードします。そのためには、DBMS に適したドライバがインストールされていることと、データベースが ODBC データソースとして設定されている必要があります。

これが完了すると、**[ロードスクリプトの編集]** ダイアログで **[接続]** ボタンをクリックし、データベースへの接続を設定できます。これにより、ロードスクリプトに **Connect** ステートメントが生成されます。

その後、**Select** ステートメントで、読み込むテーブルと項目を定義します。このステートメントを作成するには、**選択** ボタンをクリックします。

データベースのロジック

QlikView ロジックには、データベースアプリケーションのテーブルが同時に複数含まれている場合があります。複数のテーブルに項目が存在する場合、これをキー項目としてテーブルを論理的にリンクします。

値が選択されていると、その選択と互換性のあるすべての値が選択可能な値として表示されます。その他の値はすべて、除外値として表示されます。

複数の項目で値が選択されると、論理積 AND と見なされます。

同じ項目で複数の値が選択されると、論理和 OR と見なされます。

単一の項目内の選択に論理積 AND を設定できる場合もあります。

項目に Info を表示したい場合は、列を 2 つ持つテーブルを*スクリプト*に含めます。テーブルの 1 列目は項目値を含み、2 列目はその項目値に**関連付けられた**情報を含む必要があります。1 列目は、項目名を見出しとして示す必要があります。特別なスクリプト構文である **LOAD/SELECT** ステートメントで、QlikView はこのテーブルを情報テーブルとして扱います。

7.5 インライン テーブルからデータを読み込む

スクリプトにデータを手入力して、インライン テーブルを定義します。

インライン テーブルは、ファイルおよびデータベースに接続するのではなく、スクリプトにデータを手入力して作成します。必要な構文を使用して、スクリプト テキストがインライン データとして解釈されることを示します。

基本インライン ロードを使うと、テーブルが作成され、データ項目とレコードが挿入されます。

インライン ロードを使用する理由

インライン ロードはさまざまなユース ケースで役立ちます:

- 外部ソースに接続せずに、データの管理と編集を行う場合。
- データ モデルに既存データを補足する場合。例えば、ほぼデータベース ソースから派生するデータ モデルに、テーブルを追加することができます。
- 外部ソースからの継続的ロードを回避したいデータを追加する場合。これは、データ ソースは今後変更される可能性があるが、データ値は変わらないことがわかっている場合、時間の節約となります。
- 他のファイルからスクリプトにコンテンツをコピー & ペーストしやすくなります。例えば、ワープロ文書からの .csv ファイルまたはテーブルなどが考えられます。
- 迅速にコピー & ペーストできるテスト スクリプトを作成する場合。

基本構文の例

次のスクリプトには、単純なインライン ロードが含まれています。

```
MyTable:
Load * Inline [Country, Year, Sales
Argentina, 2014, 66295.03
Argentina, 2015, 140037.89
Austria, 2014, 54166.09
Austria, 2015, 182739.87
];
```

次の構文は、上記のインライン ロードに使用されます。

- *Load * Inline* は、QlikView に対して、後続のインライン テーブルからすべての項目をロードするように指示します。
- *MyTable:* は、テーブルの名前を定義します。
- 角括弧はデータを囲みます。
- Load ステートメントの最初の行は、データ項目を定義します。
- カンマにより、データ項目とレコードが区切られます。
- セミコロンは、Load ステートメントを閉じます。

構文の概要

テーブルの命名

ロードされた他のテーブルと同様、インライン テーブルに名前を追加できます。テーブル名の定義は任意です。

テーブルの名前の後に、コロンを挿入します。

LOAD とinline ステートメント

LOAD スクリプト ステートメントを使用すると、インライン テーブルは **inline** 節とともにロードされます。**inline** 節は、エディターに手入力されたデータがテーブルの後続のテキストに含まれていることを示しています。特に指定しない限り、インライン テーブルは **txt** 形式を使用します。これは、区切り記号付きテキスト ファイルの構造と同様です。

LOAD ステートメントの詳細については、「*Load (page 923)*」を参照してください。

囲み文字とデータ入力

inline 節を使って入力されたデータは、特殊文字で囲む必要があります。データの囲い込みに使用できる文字の組み合わせは次の通りです。

- 角括弧 **[ ]**:[また、]
- 二重引用符:" また、"
- 単一引用符 '':' また、'
- バックティック`:` また、`

囲み文字として選択した文字は、競合する文字を含むインライン データを読み込むのに有用です。例えば、データに角括弧で囲まれたレコードが含まれる場合、引用符かバックティックで囲むことができます。

その他の囲み文字の例については、「*例 - その他のデータ囲み文字 (page 156)*」を参照してください。

代わりのテーブル形式を指定しない限り(デフォルトは **txt**)、囲み文字の間のテキストはファイルのコンテンツと同様に解釈されます。そのため、テキスト ファイルで新しい行を挿入する場合と同様に、**inline** 節のテキストについても Enter キーを押します。

インライン ロードの編集

インライン ロード ステートメントの終わりは、セミコロンで示されます。

データの変換

変換のない単純なインライン ロードの場合、列の数は最初の行によって定義されます。次の例では、ロードされたテーブルに 3 つの列があります。`Product_ID`、`Supplier_Name`、および `Product_Category`。

```
Products:

Load * Inline [
Product_ID, Supplier_Name, Product_Category
1, Paracel, Home Decor
2, PageWave, Electronics
3, Talarian, Software
```

```
4, Userland, Appliances
];
```

同一のインライン テーブルで変換を実行し、列を新規作成することもできます。先行するLoad を使用すると、同一テーブルにロードするのに複数の **LOAD** ステートメントを使用できます。

具体的な例については、「*例 - 変換付きのインライン ロード (page 161)*」を参照してください。

インライン ロードで形式仕様を構成する

ロードされた他のテーブルと同様、形式仕様項目を使用してインライン テーブルの形式指定を変更できます。形式仕様は括弧内に追加されます。データ囲み文字の後、**LOAD** ステートメントの終わりのセミコロンの前に追加する必要があります。追加できるカスタマイズには次のようなものがあります。

- 区切り文字をコンマから別の文字に変更する。例については、「*例 - その他の区切り文字 (page 157)*」を参照してください。
  参照: *区切り記号付きテーブル ファイルでは、delimiter is 指定子を使用して、任意の区切り記号を指定できます。この指定子は、区切り記号付きの .txt ファイル専用です。(page 933)*
- テーブル列ヘッダーを省略する。例については、「*例 - 列ヘッダーの省略 (page 158)*」を参照してください。
  参照: *LabelsLabels は、ファイルのどこに項目名が位置するかを定義する LOAD ステートメントのファイル指定子です。embedded labels|explicit labels|no labels 項目名は、ファイル内のさまざまな場所に配置できます。1 件目のレコードに項目名が含まれる場合は、embedded labels を使用します。項目名がない場合は、no labels を使用します。dif ファイルでは、明示的な項目名を持つ別のヘッダー セクションが使用されることがあります。その場合、explicit labels を使用します。何も指定しないと、embedded labels、dif ファイルと見なされます。 LOAD * from a.txt (unicode, txt, delimiter is ',' , embedded labels LOAD * from a.txt (codePage is 1252, txt, delimiter is ',' , no labels) (page 1)*
- 別のデータ形式を使用する (例えば、固定レコード形式など)。例については、「*例 - 別のデータ型のロード (page 159)*」を参照してください。
  参照: *テーブル形式 (page 933)*

  > *すべての **Table format** オプションの一部は、インライン ロードでサポートされていません。*

- 複数行コンテンツを許可する。例については、「*例 - 複数行コンテンツ (page 160)*」を参照してください。
  参照: *QuotesQuotes は、LOAD ステートメントのファイル指定子で、引用符を使用できるかどうか、また、引用符と区切り文字間の優先を定義します。テキスト ファイルのみで使用できます。no quotes msq 指定子を省略する場合、標準的な引用符 (" " または ' ') を用いることができますが、これらの使用は項目値の最初と最後の文字 (空白は不可) に限られます。引用符引数引数説明no quotesテキスト ファイルで、引用符が許可されない場合に使用しますmsq新しいスタイルの引用符を指定するためのもので、項目に複数行の内容を含めることができます。改行文字を含む項目は、ダブル クォートで囲む必要があります。msq オプションの限界のひとつは、項目の内容の最初または最後の文字としてダブル クォート (") 文字がひとつだけ使われると、複数行の最初または最後として解釈され、ロードされるデータセットで予測できない結果につながる可能性があるという点です。この場合は、標準的な引用符を使用して指定子を省略してください。(page 1)*

同一テーブルで複数の形式仕様項目を使用するには、カンマで区切ります。例: `(Delimiter is '|', no labels)`

形式仕様の詳細については、「*書式指定アイテム (page 932)*」を参照してください。

演算子およびその他の節

さらに、インライン ロードは **LOAD** ステートメントであるため、**LOAD** ステートメントの他の引数をインライン ロードと組み合わせることができます。例えば、**where** または **while** 節を使って、行内のテキストに基づき特定の行をロードするかどうかを定義します。

同様に、テキスト コンテンツ自体の外に演算子を使用することもできます。演算子を使うと、インライン データの変換方法をカスタマイズすることも、特定のデータをロードするタイミングを定義することもできます。

具体的な例については、「*例 - 変換のための演算子と節 (page 165)*」を参照してください。

例 - その他のデータ囲み文字

インライン ロードは、角括弧、引用符、バック ティックで囲むことができます。このセクションでは、例を挙げてこれについて説明します。詳細については、「*囲み文字とデータ入力 (page 154)*」を参照してください。

ロード スクリプトと結果

概要

この例では、インライン データを囲むためにバック ティックを使用する方法を示します。例のデータには、角括弧文字が含まれていますが、そのため **LOAD** ステートメントの囲み文字として角括弧は使用できません。

ロード スクリプト

```
DataTable:

Load * inline
`
custom_property, date, amount
[11402], 1/1/2024, 92.99
[11403], 1/2/2024, 102.34
[11404], 1/3/2024, 50.26
[11405], 1/4/2024, 153.69
[11406], 1/5/2024, 75.62
`;
```

結果

- custom_property
- date
- amount

結果 テーブル

custom_property	date	amount
[11402]	1/1/2024	92.99
[11403]	1/2/2024	102.34

custom_property	date	amount
[11404]	1/3/2024	50.26
[11405]	1/4/2024	153.69
[11406]	1/5/2024	75.62

例 - その他の区切り文字

カンマ以外の文字を使って、テーブルの列の値を区切ることができます。詳細については、「*インライン ロードで形式仕様を構成する (page 155)*」を参照してください。

ロード スクリプトと結果

概要

区切り文字は、テーブル内のデータにカンマが含まれている場合に交換できます。カンマが含まれていない場合、テーブル内の次の列に切り替える合図となります。

この例にはコンテナが含まれています。

- ロードする 4 つのテーブル。次の通りです。
  - Table1: 区切り文字は縦棒 (パイプ)です。Phrase 列のデータにはカンマが含まれています。
  - Table2: 区切り文字はコロンです。
  - Table3: 区切り文字はバックスラッシュです。
  - Table4: テーブルは、キーボードで Tab キーを押すことで区切られます。このオプションは、ワードプロセッサーからテーブルをコピーして、スクリプトにペーストする際に有用です。

  Table1 は、代替区切り文字を使用する実際的なユース ケースを示しています。その他のテーブルには、別の区切り文字オプションが示されています。

ロード スクリプト

```
Table1:
LOAD * INLINE [
ID|Phrase
1 | 'The transaction was complete, but the order has not yet shipped.'
2 | 'We need to confirm the following details: sales rep number, order status, and shipping
priority.'
] (Delimiter is '|');

Table2:
LOAD * INLINE [
Num1:Chr1
1:A
2:B ] (Delimiter is ':');

Table3:
LOAD * INLINE [
Num2\Chr2
```

```
1\A
2\B ] (Delimiter is \\);

Table4:
LOAD * INLINE [
Num3   Chr3
1      A
2      B ] (Delimiter is '\t');
```

結果

結果 テーブル: Table1

ID	Phrase
1	The transaction was complete, but the order has not yet shipped.
2	We need to confirm the following details: sales rep number, order status, and shipping priority.

結果 テーブル: Table2

Num1	Chr1
1	A
2	B

結果 テーブル: Table3

Num2	Chr2
1	A
2	B

結果 テーブル: Table4

Num3	Chr3
1	A
2	B

例 - 列ヘッダーの省略

形式仕様を編集して、列ヘッダーを定義せずにインライン テーブルをロードします。これは、**labels** 仕様を使って実行されます (値 no labels に設定する)。詳細については、「*インライン ロードで形式仕様を構成する (page 155)*」を参照してください。

列名を定義せずにテーブルをロードすると、システム定義の列名が自動的に使用されます。

ロード スクリプトと結果

概要

この例は、列名を定義せずにインライン テーブルをロードできる方法を示しています。

ロード スクリプト

```
Expenses:

Load * inline
[
1,Category1,40566.49
2,Category2,3504.54
3,Category3,593206.30
] (no labels);
```

結果

結果テーブル

@1	@2	@3
1	Category1	40566.49
2	Category2	3504.54
3	Category3	593206.30

例 - 別のデータ型のロード

この例は、固定レコード形式にインライン テーブルをロードできる方法を示しています。「*インライン ロードで形式仕様を構成する (page 155)*」を参照してください。

ロード スクリプトと結果

概要

この例のスクリプトには、次の要素が含まれています。

- テーブル `DataTable` を定義するインライン ロード ステートメント。
- ロードするデータが固定レコード形式であることを示す **fix** (**Table format** 仕様の一部として) の使用。

ロード スクリプト

```
DataTable:
LOAD
"@1:4",
"@5:8",
"@9:12",
"@13:16"
INLINE [
```

```
a   b   c   d
1   2   3   4
x   y   z   w
] (fix, utf8, embedded labels);
```

結果

結果テーブル

a	b	c	d
1	2	3	4
x	y	z	w

例 - 複数行コンテンツ

この例は、複数行項目コンテンツをインライン テーブルに入力できる方法を示しています。「*インライン ロードで形式仕様を構成する (page 155)*」を参照してください。

ロード スクリプトと結果

概要

この例のスクリプトには、次の要素が含まれています。

- テーブル `T1` を定義する単純なインライン ロード。
- 複数行コンテンツをサポートする **Quotes** 指定子 (値 `msq` とともに) の使用。
- フィートとインチで指定された長さの値。
- 二重引用符記号 (") は、複数行入力の終わりを示します。この例では、同じ記号がインチの値を示すのにも使用されています。これは、同じ **LOAD** ステートメントで両方を使用する必要がある場合の構文と結果の動作を示すためのものです。基本的に、" 記号を 2 つの連続する文字 ("") に入力した場合、コードが記号の単一テキスト インスタンスとして解釈されることを示します。

ロード スクリプト

```
T1:
Load *, recno() as ID inline [
Length
"1' 2""
22' 10"""
14' 8"  ] (msq);
```

結果

複数行を意図通りに表示するには、**[プロパティ...]** 構成で **[複数行設定]** を調整する必要があります。

結果テーブル

ID	Length
1	1' 2" 22' 10"
2	14' 8"

上のテーブルでは、ID 値が 1 のレコードに複数行コンテンツが含まれています。

例 - 変換付きのインライン ロード

これらの例は、インラインでロードされた項目に対して計算を実行し、データモデルに新しい項目を作成する方法を示しています。

詳細については、「*データの変換 (page 154)*」を参照してください。

例: 項目の単純な名前変更

ロード スクリプト

```
ORDERS:

Load Original as Updated,
* Inline
[
Original
ProductA
ProductB
ProductC
];
```

結果

結果テーブル

Original	Updated
ProductA	ProductA
ProductB	ProductB
ProductC	ProductC

例: ID 項目の単純な挿入

概要

この例は、計算された項目を定義して、各 ID 値を手入力しなくても各データ行の ID を示すことができる方法を示しています。

ロード スクリプト

```
ORDERS:

Load RowNo() as ID,
* Inline
[
ProductName
A
B
C
D
E
];
```

結果

結果 テーブル

ID	ProductName
1	A
2	B
3	C
4	D
5	E

例: LOAD 変換を処理するためにステートメントを構成する

概要

この例では、単純な変換をインライン データに適用する方法をいくつか示しています。1 つまたは複数の LOAD ステートメントを使用し、異なる方法で構文を構成することにより、変換により元の項目が置換されるか、それとも元の項目と新規の項目の両方がロードされるのかを定義できます。

特に、次のバリエーションと、出力にそれらがどう影響するかに注意してください。

- テーブル内の LOAD ステートメントの数。
- * 記号の有無 (後続の項目すべてをロードします)。
- カンマ (, 記号) の有無。

この例のスクリプトには、次の要素が含まれています。

- 4 つのテーブル。同じデータを参照します。項目名は異なります。
    - DerivedYears1: 2 つの LOAD ステートメントを使用して、インライン列と、インライン列の変換を含む列をロードします。

- DerivedYears2: 2 つの LOAD ステートメントを使用します。スクリプトはインライン列をロードし、次に元の列から変換された計算された項目をロードします。2 番目の LOAD ステートメントでは、元の列がテーブルにロードされないため、元の項目を効果的に新しい項目が置換しています。
- DerivedYears3: 単一の LOAD ステートメントを使用して、元のインライン列と変換された列の両方をロードします。
- DerivedYears4: 単一の LOAD ステートメントを使用して、インライン項目と元の項目の変換を定義します。変換された項目のみがテーブルにロードされます。

ロード スクリプト

```
DerivedYears1:

Load *,
Year(initial_date1) as derived_year1
;

Load
* inline [
initial_date1
'1/1/2022'
'1/1/2023'
'1/1/2024'
];

DerivedYears2:

Load
Year(initial_date2) as derived_year2
;

Load
* inline [
initial_date2
'1/1/2022'
'1/1/2023'
'1/1/2024'
];

DerivedYears3:

Load Year(initial_date3) as derived_year3,
* inline [
initial_date3
'1/1/2022'
'1/1/2023'
'1/1/2024'
];

DerivedYears4:

Load Year(initial_date4) as derived_year4
inline [
```

```
initial_date4
'1/1/2022'
'1/1/2023'
'1/1/2024'
];
```

結果

結果テーブル: DerivedYears1

initial_date1	derived_year1
1/1/2022	2022
1/1/2023	2023
1/1/2024	2024

結果テーブル: DerivedYears2

derived_year2
2022
2023
2024

結果テーブル: DerivedYears3

initial_date3	derived_year3
1/1/2022	2022
1/1/2023	2023
1/1/2024	2024

結果テーブル: DerivedYears4

derived_year4
2022
2023
2024

例: 項目コンテンツの変更

概要

大きなテキストファイルからスクリプトエディタに情報をペーストしているが、データセットのレコードに追加処理を実行したいと考えています。例えば、特定の文字とプレフィックスを削除して、各単語を大文字にしたい場合などです。

この例のスクリプトには、次の要素が含まれています。

- インライン テーブル、Transformations。項目のテキスト コンテンツを変更するために、変換が定義されています。変換されるテキストは、この後に追加されます。
- 2 つの **LOAD** ステートメント。例の構成の場合、派生項目 ProductName_Trimmed のみがテーブルにロードされます。

ロード スクリプト

```
Transformations:

Load
Capitalize(TextBetween(OrigColumn, '{','}')) as ProductName_Trimmed;

Load * inline [
OrigColumn
Product: {soft drinks and other beverages}
Product:  {snack food}
Product: {electronics and video games}
];
```

結果

結果テーブル

ProductName_Trimmed
Soft Drinks And Other Beverages
Snack Food
Electronics And Video Games

例 - 変換のための演算子と節

LOAD ステートメントで演算子を使用して、変換と特定の説を定義できます。詳細については、「*演算子およびその他の節 (page 156)*」を参照してください。

演算子 (page 1013)

ロード スクリプトと結果

概要

この例のスクリプトには、次の要素が含まれています。

- テーブル Purchases を定義する単純なインライン ロード。
- 計算された項目、OrderSize の挿入。この項目は、インライン データセットから amount 項目を変換したものです。購入額が 2000 ドルを超えるかどうかで、大か小に分類されます。
- amount が 0.05 ドル未満の場合にレコードがロードされないようにする **where** 節。

ロード スクリプト

```
Purchases:

Load
If(amount<2000,'Small Purchase','Large Purchase') as OrderSize,

* inline
[
ID, amount
1,2660.39
2,100.01
3,500.42
4,5023.99
5,0.04
6,2002.39
7,31034.53
8,1643.58
9,3993.65
10,614.34
11,675.93
]
WHERE
amount>1
;
```

結果

結果 テーブル

ID	amount	OrderSize
1	2660.39	Large Purchase
2	100.01	Small Purchase
3	500.42	Small Purchase
4	5023.99	Large Purchase
6	2002.39	Large Purchase
7	31034.53	Large Purchase
8	1643.58	Small Purchase
9	3993.65	Large Purchase
10	614.34	Small Purchase
11	675.93	Small Purchase

上のテーブルでは、5の ID のトランザクションがテーブルにロードされませんでした。これは、amount の値が 0.05 ドル未満だからです。

例 - インライン テーブルで null 値を作成する

この例は、**NullInterpret** 変数を使用して、インライン データで null 値を作成できる方法を示しています。

NullInterpret (page 971)

ロード スクリプトと結果

概要

この例のスクリプトには、次の要素が含まれています。

- テーブル T2 を定義する単純なインライン ロード。
- **NullInterpret** 変数は、2 つの一十引用符として定義されます。スクリプトがロードされると、この値を含むレコードが null 値として処理されます。

ロード スクリプト

```
set nullinterpret = '';
T2:
Load * inline [
Test
''
x ];
```

結果

結果テーブル

Test
x

上のテーブルでは、最初のレコードが null 値です。そのため、ビジュアライゼーションには含まれません。追加の軸を持ちこのテーブルに存在する null 値は、- 記号で示されます。

その他の例

その他の例については、「*Load (page 923)*」を参照してください。

7.6 循環参照の把握

データ構造に循環参照 (「ループ」) が存在する場合、テーブルは 2 つの項目間に複数の関連付けパスが存在するように関連付けられます。

このようなデータ構造は、データの解釈にあいまいさが生じるため、できる限り避ける必要があります。

QlikView は、疎結合テーブルを使用してループを壊すことにより、循環参照の問題を解決します。QlikView がロード スクリプトの実行中に循環データ構造を見つけると、警告ダイアログが表示され、1 つ以上のテーブルが疎

結合として設定されます。通常、QlikViewは、ループ内の最も長いテーブルを疎結合しようとします。多くの場合、トランザクション テーブルが最も長いため、通常はこのテーブルが疎結合されます。テーブル ビューアーでは、疎結合テーブルは、他のテーブルと赤い点線でリンクされています。

次の情報を含む3つのテーブルからデータがロードされます。

- 国代表サッカー チームの名前
- 地方のサッカー クラブ
- ヨーロッパ諸国の都市



NationalTeams

Country	Team
Germany	Die Mannschaft
Italy	Azzurri
Spain	La Roja

Sheet1 Sheet

Clubs

City	Team
Barcelona	Barcelona
Hamburg	Altona
Madrid	Real Madrid
Milano	Milan
Munich	Bayern München
Rome	Lazio
Turin	Juventus

Sheet1 Sheet2

Cities

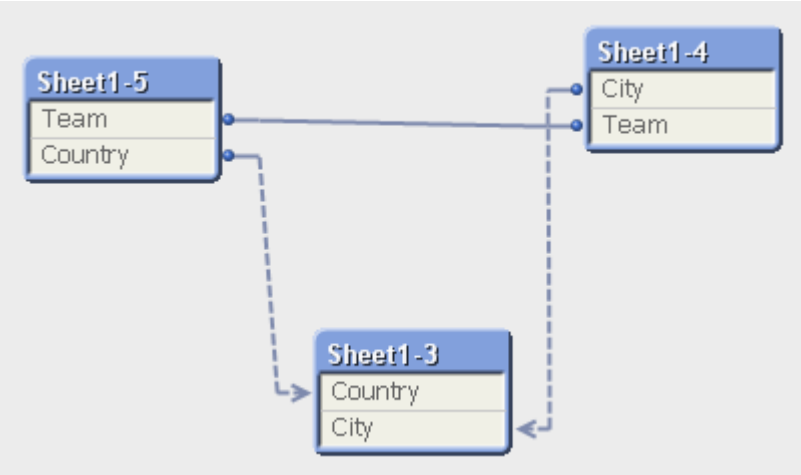
Country	City
Germany	Hamburg
Germany	Munich
Italy	Milano
Italy	Rome
Italy	Turin
Spain	Barcelona
Spain	Madrid

ソース データ テーブルの外観

このデータ構造は、項目名 *Team* が国代表チームと地方クラブの2つの異なる目的で使用されているため、あまりよくありません。テーブル内のデータで非現実的なロジック状況が発生します。

テーブルをQlikViewにロードする際、QlikViewはどのデータ接続が最も重要でないかを判定し、このテーブルを疎結合にします。

テーブル ビューアーを選択して、QlikViewがデータ接続の関連性をどのように解釈しているかを確認します。



これで、所在する都市と国が含まれているテーブルが、異なる国の代表チームのテーブルと異なる都市の地方クラブのテーブルに対して疎結合になります。

循環参照の解決

循環参照が発生した場合は、同一の名前を持つ項目のいずれかに一意の名前を割り当てて、ロードスクリプトを編集する必要があります。

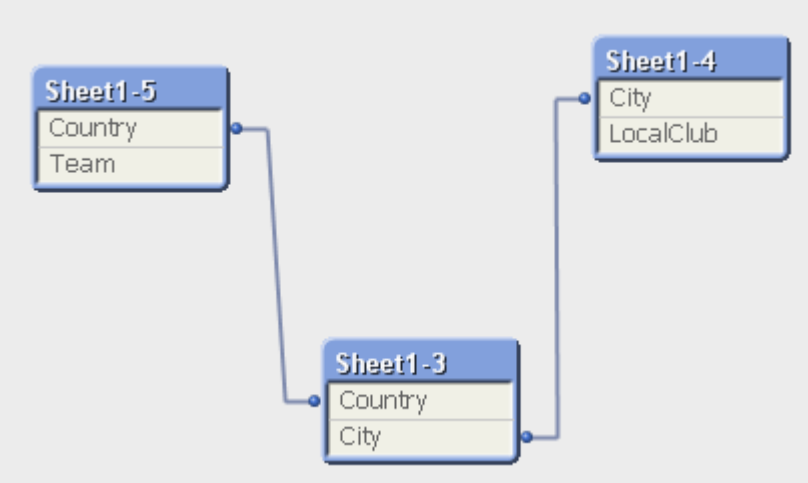
次の手順を実行します。

1. スクリプトエディタを開きます。
2. 名前が重複する項目のどちらか一方で **LOAD** ステートメントを編集します。
   この例では、地方チームとその都市が含まれているテーブルの **LOAD** ステートメントに、*Team* の新しい名前が含まれています (例: *LocalClub*)。更新された **LOAD** ステートメントは以下のようになります。
   ```
   LOAD City, Team as LocalClub
   ```
3. スクリプトをリロードします。

これですべてのテーブルで機能するロジックが完成しました。この例では、*Italy* が選択された場合、ドイツの代表チームとドイツの都市、各都市の地元クラブが関連付けられます。

Country	Team	City	LocalClub
Germany	Azzurri	Barcelona	Altona
Italy	Die Mannschaft	Hamburg	Barcelona
Spain	La Roja	Madrid	Bayern München
		Milano	Juventus
		Munich	Lazio
		Rome	Milan
		Turin	Real Madrid

[テーブル ビューアー] を開くと、疎結合された接続が通常の接続に置き換えられていることがわかります。



疎結合テーブル

循環参照が含まれているデータを QlikView にロードすると、疎結合テーブルが自動的に作成されます。これにより、循環参照が内部ロジックでループを作成することを防ぎます。疎結合テーブルは、予想される理解可能な方法でデータを視覚化できるように取り扱う必要があります。

疎結合テーブルの意図的な作成

いくつかの特別な状況では、一部のデータを通常の QlikView ロジックから切断した方がよいかもしれません。疎結合テーブルを使用すると、ひとつの項目の選択を制限してテーブル内の他の項目に伝達することができます。

テーブルを疎結合になるよう設定するには、**[ドキュメントプロパティ]** ダイアログを開いて **[テーブル]** タブを選択します。

この章には、疎結合テーブルで QlikView ロジックがどのように変わるかという例が含まれています。

次の 3 つのテーブル ボックスは、それぞれ QlikView に読み取られるテーブルを表しています。

Table1

B	A
1	x
2	y
3	z

Table2

A	C
x	6
y	7
z	8

Table3

C	D
6	a
7	b
8	c

項目Bの値2を選択した場合は、次のようになります。

Table1

B	A
2	y

Table2

A	C
y	7

Table3

C	D
7	b

選択はすべてのテーブルに伝わり、関連のない値は除外されます。

ここでこの選択のまま、Table2 を疎結合にしてみます。つまり、ロジックは、Table2 の項目 A とC の間で切断されます。結果は次のようになります。

Table1

B	A
2	y

Table2

A	C
y	6
y	7
y	8

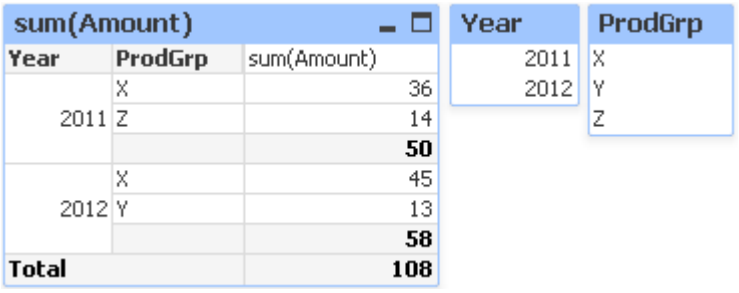
Table3

C	D
6	a
7	b
8	c

ここで Table2 は、テーブル ボックスであり、テーブルそのものではないことに注意してください。テーブル ボックスには、テーブルの各列の各項目間のすべての可能な組み合わせが表示されます。項目AとCの間にロジックが存在しないので、それぞれの絞込値のすべての組み合わせが表示されます。

以下の3つのテーブルは典型的な構造です。1つのトランザクション テーブルと2つの軸テーブルがあり、それぞれが 1 つの項目で関連付けられています。

ピボット テーブルを使うと、毎年の売上と製品グループを視覚化できます。ピボット テーブルの隣にある 2 つのリスト ボックスには軸項目が含まれています。



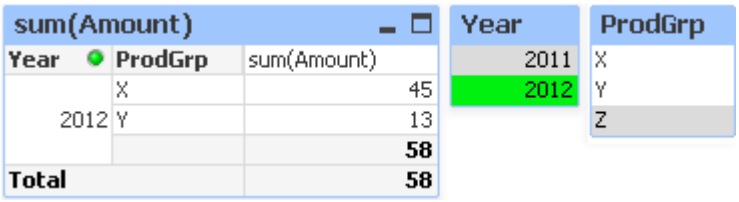
sum(Amount)

Year	ProdGrp	sum(Amount)
2011	X	36
	Z	14
		50
2012	X	45
	Y	13
		58
Total		**108**

Year: 2011, 2012

ProdGrp: X, Y, Z

これは正確なピボットテーブルですが、QlikView ロジックの効果により、望ましくない結果になる可能性があります。2012 年を選択すると、以下の結果を得られます。



sum(Amount)

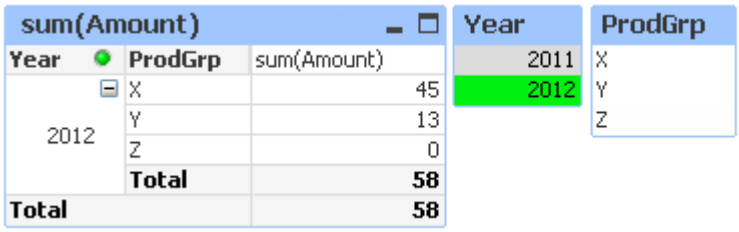
Year	ProdGrp	sum(Amount)
2012	X	45
	Y	13
		58
Total		**58**

Year: 2011, 2012

ProdGrp: X, Y, Z

製品グループ Z はピボットテーブルでは非表示になります。項目 ProdGrp の値 Z は、項目 Year の値 2012 を選択したことによって除外されているので、これは当然のことです。しかし、2012 年の売上を分析する際は、製品グループ Z が存在し、2012 年に売れなかったことを明らかにするために、チャートの sum(Amount)列に Z を 0 で表示するとよいでしょう。

2 つの項目 Year とProdGrp がお互いに関係なく、Trans テーブルを介して関連付けられているだけなので連携しないことを示すことができます。これは、Trans テーブルを疎結合として宣言し、ピボットテーブルのレイアウトを変更することによって対処できます。



sum(Amount)

Year	ProdGrp	sum(Amount)
2012	X	45
	Y	13
	Z	0
	Total	**58**
Total		**58**

Year: 2011, 2012

ProdGrp: X, Y, Z

Year リストボックスの選択は、ProdGrp リストボックスのいかなる値にも影響しないことに注目してください。

> ***[0 値を隠す]*** *が、****[チャートプロパティ]*** *ダイアログの* ***[プレゼンテーション]*** *タブにある軸向けに選択されていないことを確認してください。*

7.7 項目名の変更

必要な関連付けを取得するために、項目名の変更が必要となる場合があります。項目名を変更する主な理由は 3 つあります。

1. 2 つの項目は同じことを意味しているにも関わらず、異なる名前が付けられています。
   - *ID* テーブルの項目 *Customers*
   - *CustomerID* テーブルの項目 *Orders*

   2 つの項目は特定の顧客 ID コードを示しているため、同じ名前 (*CustomerID* など) を付ける必要があります。
2. 2 つの項目は同じ名前ですが、実際には異なるものを表しています。
   - *Date* テーブルの項目 *Invoices*
   - *Date* テーブルの項目 *Orders*

   この 2 つの項目は、*InvoiceDate* と *OrderDate* などに名前を変更した方がよいでしょう。
3. データベース内にスペルミスがある場合や、大文字と小文字に関する規則が異なっている可能性があります。

項目名はスクリプト内で変更できるため、元のデータを変更する必要はありません。例示されているように、項目の名前を変更する方法は 2 通りあります。

Example 1: alias ステートメントの使用

LOAD または **SELECT** ステートメントの前に **alias** ステートメントを使用します。

```
Alias ID as CustomerID;
LOAD * from Customer.csv;
```

Example 2: as 指定子の使用

LOAD または **SELECT** ステートメントに **as** 指定子を含めます。

```
LOAD ID as CustomerID, Name, Address, Zip, City, State from Customer.csv;
```

7.8 テーブルの連結

自動連結

ロードされた複数のテーブルの項目名と項目数が完全に一致する場合、QlikView はさまざまなステートメントのコンテンツを 1 つのテーブルに連結します。

```
LOAD a, b, c from table1.csv;
LOAD a, c, b from table2.csv;
```

作成された内部テーブルには、項目 a、b、c が含まれています。レコード件数は、テーブル 1 とテーブル 2 の合計レコード数になります。

項目の数と名前は、完全に同じでなければなりません。2 つのステートメントの順序は任意に指定できます。

強制連結

複数のテーブルにまったく同じ項目セットが存在しない場合でも、QlikView は 2 つのテーブルを強制的に連結できます。強制連結は、スクリプトで **concatenate** プレフィックスを使用すると実行できます。このプレフィックスは、特定のテーブルを別の名前のテーブルまたは最後に作成されたテーブルに連結します。

```
LOAD a, b, c from table1.csv;
concatenate LOAD a, c from table2,csv;
```

作成された内部テーブルには、項目 a、b、c が含まれています。連結されたテーブルのレコード件数は、テーブル 1 とテーブル 2 の合計レコード数になります。テーブル 2 から取得したレコードの項目 b の値は、NULL です。

*項目の数と名前は、完全に同じでなければなりません。**concatenate** ステートメントで、先にロードされたテーブルの名前が指定されていない限り、**concatenate** プレフィックスは最後に作成されたテーブルを使用します。そのため、2 つのステートメントの順序を任意に指定することはできません。*

連結の防止

ロードされた複数のテーブルの項目名と項目数が完全に一致する場合、QlikView はさまざまなステートメントのコンテンツを 1 つのテーブルに連結します。**noconcatenate** ステートメントを使用すると、この動作を防止することができます。**LOAD** または **SELECT** ステートメントでロードされたテーブルは、既存のテーブルに連結されません。

```
LOAD a, b, c from table1.csv;
noconcatenate LOAD a, b, c from table2.csv;
```

7.9 事前にロードされているテーブルからのデータのロード

LOAD ステートメントで **Resident** 述語を使用すると、以前ロードしたテーブルからデータをロードできます。日付や数値の処理といった QlikView 関数を使用するオプションがない場合でも、**SELECT** ステートメントを使用してロードされたデータで計算を行う場合に役立ちます。

この例では、最初の **Crosstable LOAD** では日付の変換を実行できないため、**Resident** ロードで変換を行います。

```
PreBudget:
Crosstable (Month, Amount, 1)
LOAD Account,
   Jan,
   Feb,
   Mar,
…
From Budget;
```

```
Budget:
Noconcatenate
LOAD
   Account,
   Month(Date#(Month,'MMM')) as Month,
   Amount
Resident PreBudget;

Drop Table PreBudget;
```



***Resident** を使用する一般的なケースは、計算やフィルターで一時的なテーブルを使う場合です。目的を達成した後は、**Drop table** ステートメントを使用して一時的なテーブルをドロップする必要があります。*

Resident と先行するLOAD の違い

ほとんどの場合、先行する**LOAD** を代わりに使用しても、同じ結果が得られます。つまり、通常指定する**From** または **Resident** などのソース修飾子を指定せずに、下記の**LOAD** または **SELECT** ステートメントからロードするのが**LOAD** ステートメントです。先行する**LOAD** は、通常は最も高速のオプションですが、場合によっては、**ResidentLOAD** を代わりに使用する必要があります。

- **Order_by** 節を使用して、**LOAD** ステートメントを処理する前にレコードをソートしたい場合。
- 先行する**LOAD** がサポートされていない以下のプレフィックスのいずれかを使用したい場合。
    - **Crosstable**
    - **Join**
    - **Intervalmatch**

先行するLOAD

先行する**LOAD** 機能を使用すると、1 つのパスでテーブルをロードし、複数の連続した変換を定義できます。基本的に、通常指定する**From** または **Resident** などのソース修飾子を指定せずに、下記の**LOAD** または **SELECT** ステートメントからロードするのが**LOAD** ステートメントです。このようにして任意の数の**LOAD** ステートメントを積み上げることができます。ステートメントの評価は、最下部のステートメントから順番に、上に向かって実行されます。

Resident を使用しても同じ結果を得られますが、ほとんどの場合、先行する**LOAD** の方が時間がかかりません。

先行するLoad のもう1 つの利点は、計算を1 か所に維持して、その上に配置された**LOAD** ステートメントで再利用できるという点にあります。



***Join**、**Crosstable**、**Intervalmatch** のプレフィックスは、先行する**LOAD** とは併用できません。*

Example 1: SELECT ステートメントでロードされたデータの変換

SELECT ステートメントを使用してデータベースからデータをロードすると、QlikView 関数を使用して **SELECT** ステートメントでデータを解釈することができなくなります。この問題を解決するには、データの変換を行う場所、**SELECT** ステートメントの上に **LOAD** ステートメントを追加します。

この例では、前の **SELECT** ステートメントをソースとして使用し、QlikView の関数 **Date#** を **LOAD** ステートメントで使用することで、保存された日付を文字列として解釈しています。

```
LOAD Date#(OrderDate,'YYYYMMDD') as OrderDate;
SQL SELECT OrderDate FROM … ;
```

Example 2: 計算の再利用によるスクリプトの簡素化

この例では、スクリプトで計算を複数回使用しています。

```
LOAD  ...,
   Age( FromDate + IterNo() – 1, BirthDate ) as Age,
   Date( FromDate + IterNo() – 1 ) as ReferenceDate
   Resident Policies
      While IterNo() <= ToDate - FromDate + 1 ;
```

最初のパスで計算を導入すると、先行する **LOAD** で Age 関数を再利用できます。

```
LOAD ..., ReferenceDate,
   Age( ReferenceDate, BirthDate ) as Age;
LOAD *,
   Date( FromDate + IterNo() – 1 ) as ReferenceDate
   Resident Policies
      While IterNo() <= ToDate - FromDate + 1 ;
```

7.10 パーシャル リロード

Replace や **Add** プレフィックスが付いた **Load** および **Select** ステートメントのみを実行します。コマンドによって、他のデータテーブルが影響を受けることはありません。

7.11 ドル記号展開

ドル記号展開はスクリプトや数式で使用されるテキスト置換の定義です。このプロセスは、たとえ新しいテキストが短くなっても展開と呼ばれます。置換はスクリプトステートメントや数式が評価される直前に行われます。技術的に言えば、これはマクロ展開です。

マクロ展開は常に '$(' で始まり、')' で終わり、括弧内のコンテンツでテキスト置換をどのように行うかを定義します。スクリプトマクロとの混同を避けるために、これ以降、マクロ展開をドル記号展開と呼びます。

ドル記号展開は以下のいずれかで使用できます。

- 変数
- パラメータ
- 数式



ドル記号展開は、計算できる展開の数に制限があります。1,000 以上の展開は演算できません。

変数を使用したドル記号展開

スクリプトや数式でのテキスト置換に変数を使用する場合は、次の構文が使用されます。

```
$(variablename)
```

$(*variablename*) により、変数内の値に展開されます。*variablename* が存在しない場合は、空の文字列に展開されます。

数値の変数展開では、次の構文が使用されます。

```
$(#variablename)
```

これは、常に変数の数値の有効な少数点値を生成します。非常に大きいまたは小さい数値の場合は、指数表記が使用されることもあります。*variablename* が存在しない場合、または数値が含まれていない場合は、*0* に展開されます。

```
SET DecimalSep=',';
LET X = 7/2;
```

ドル記号展開 **$(X)** は *3,5* に展開され、**$(#X)** は *3.5* に展開されます。

```
Set Mypath=C:\MyDocs\Files\;
...
LOAD * from $(MyPath)abc.csv;
```

データは *C:\MyDocs\Files\abc.csv* からロードされます。

```
Set CurrentYear=1992;
...
SQL SELECT * FROM table1 WHERE Year=$(CurrentYear);
```

Year=1992 の行が選択されます。

```
 Set vConcatenate = ; For each vFile in FileList('.\*.txt')    Data:    $(vConcatenate)
LOAD * FROM [$(vFile)];    Set vConcatenate = Concatenate ; Next vFile
```

この例では、ディレクトリ内のすべての.txt ファイルが **Concatenate** プレフィックスによりロードされます。これは、項目がわずかに異なる際に必要となることがあります。この場合、自動連結は機能しません。vConcatenate 変数は最初、空の文字列に設定されます。これは、最初のロードでは、**Concatenate** プレフィックスを使用できないためです。ディレクトリに *file1.txt*、*file2.txt*、*file3.txt* という名前の 3 つのファイルが含まれている場合、**LOAD** ステートメントは 3 回の反復中、以下に展開されます。

```
LOAD * FROM[.\file1.txt];
Concatenate LOAD * FROM[.\file2.txt];
Concatenate LOAD * FROM[.\file3.txt];
```

並列ステートの変数の展開

変数には値が 1 つだけあり、すべての代替ステートで使用されます。変数を拡張する場合は値も同様で、作成された場所とオブジェクトのステートとは無関係です。

変数が計算変数である場合、つまり定義が等号で始まる場合、変数定義で代替ステートを指定する場合を除き、計算は既定のステートで作成されます。

MyState という名前のステートと vMyVar という名前の変数がある場合:

vMyvar: =only({MyState} MyField)
代替ステート名を明示的に参照する変数定義のコンテンツは、変数コンテンツが評価されるステートを決定します。

パラメータを使用したドル記号展開

ドル記号展開ではパラメータを使用できます。変数には $1、$2、$3 などの仮パラメータが含まれている必要があります。変数を展開すると、パラメータはコンマで区切られたリストに記述されます。

```
Set MUL='$1*$2';
Set X=$(MUL(3,7)); // は X で '3*7' を返します。

Let X=$(MUL(3,7)); // は X で 21 を返します。
```

仮パラメータの数が実パラメータの数より多い場合は、実パラメータに対応する仮パラメータだけが展開されます。実パラメータの数が仮パラメータの数より多い場合は、余分な実パラメータが無視されます。

```
Set MUL='$1*$2';
Set X=$(MUL); // は X で '$1*$2' を返します。

Set X=$(MUL(10)); // は X で '10*$2' を返します。

Let X=$(MUL(5,7,8)); // は X で 35 を返します。
```

パラメータ $0 は、呼び出しで実際に渡されるパラメータの数を返します。

```
set MUL='$1*$2 $0 par';
set X=$(MUL(3,7)); // は X で '3*7 2 par' を返します。
```

数式を使用したドル記号展開

ドル記号展開では数式を使用できます。括弧内のコンテンツは等号で始める必要があります。

```
$(=expression )
```

数式が評価され、値が展開に使用されます。

$(=Year(Today())); // は現在の年度を含む文字列を返します。

$(=Only(Year)-1); // は選択した年の前の年を返します。

ファイル インクルード

ファイル インクルードは、ドル記号展開を使用して作成されます。構文は次のとおりです。

```
$(include=filename )
```

上記のテキストは、等号記号の後に指定されたファイルのコンテンツで置き換えられます。この機能は、テキストファイルのスクリプト全体、またはその一部を保存する場合にとても便利です。

```
$(include=C:\Documents\MyScript.qvs);
```

ドル展開と代替ステート

ドル展開は通常、代替ステートを区別しません。例外が 1 つだけあり、ドル展開に数式がある場合は、ドル展開が作成されたオブジェクトに関連するステートで評価されます。

次のようなドル展開があります。

```
$(=Sum(Amount))
```

計算は、オブジェクトのステートにある選択に基づく値の合計を返します。

7.12 スクリプトでの引用符の使用

さまざまな方法により、スクリプト ステートメントで引用符を使用することができます。

LOAD ステートメントの内側での使用

LOAD ステートメントでは、フィールド名およびテーブル名の引用符として次の記号を使用する必要があります:

Load ステートメントの引用符

シンボルの説明	シンボル	コード ポイント	例
二重引用符	""	34	`"string"`
角括弧	[]	91、93	`[string]`
アクサン グラーブ	``	96	`` `string` ``

また、文字列リテラルの引用符には以下の記号を使用する必要があります:

文字列リテラルの引用符

シンボルの説明	シンボル	コード ポイント	例
単一引用符	''	39	`'string'`

SELECT ステートメントの場合

ODBC ドライバによって解釈される **SELECT** ステートメントでは、引用符の使用方法は多少異なる場合があります。通常、項目名やテーブル名にはストレート二重引用符 (Alt + 0034) を使用し、リテラルにはストレート単一引用符 (Alt + 0039) を使用して、アクサングラーブの使用は避けるようにします。ただし、一部の ODBC ドライバでは、アクサングラーブを引用符として使用できるだけでなく、むしろ優先するものもあります。このような場合、生成される **SELECT** ステートメントには、アクサングラーブの引用符が含まれます。

Microsoft Access での使用例

Microsoft Access ODBC Driver 3.4 (Microsoft Access 7.0 に含まれる) では、**SELECT** ステートメントを分析する際に以下の引用符を使用できます。

SELECT ステートメントの引用符

シンボルの説明	記号
項目名およびテーブル名:	[ ] または " " または ` `
文字列リテラル:	' '

データベースによっては、異なる規則が適用される場合があります。

LOAD ステートメントの外側での使用

LOAD ステートメントの外側で、QlikView が数式を予測する場所では、二重引用符は項目参照ではなく変数参照を意味します。二重引用符を使用すると、囲まれた文字列は変数として解釈され、変数の値が使用されます。

コンテキスト外の項目参照およびテーブル参照

一部のスクリプト関数は、作成済みの項目あるいは **LOAD** ステートメントのアウトプットに含まれる項目を参照します (**Exists()** や **Peek()** など)。**LOAD** ステートメントの入力テーブルのような、コンテキスト内の項目を参照するソース項目参照に対して、これらの項目参照はコンテキスト外項目参照と呼ばれます。

コンテキスト外項目参照およびテーブル参照は、リテラルと見なす必要があるため、単一引用符が必要となります。

名前とリテラルの違い

次の数式を比較すると、名前とリテラルの違いがよりはっきりします。

'Sweden' as Country
この数式が **LOAD** ステートメントまたは **SELECT** ステートメントの項目リストの一部として使用された場合、QlikView の項目 "*Country*" には、テキスト文字列 *Sweden* が項目値としてロードされます。

"land" as Country
この数式が **LOAD** ステートメントまたは **SELECT** ステートメントの項目リストの一部として使用された場合、*land* の項目 "QlikView" には、"*Country*" という名前のデータベース項目またはテーブル列のコンテンツが項目値としてロードされます。つまり、*land* は項目参照として扱われます。

数値と文字列リテラルの違い

次の数式を比較すると、数値と文字列リテラルの違いがよりはっきりします。

'12/31/96'
この文字列が数式の一部として使用された場合、まずテキスト文字列 "12/31/96" として解釈され、次に日付形式が 'MM/DD/YY' の場合には日付として解釈されます。この場合、数値表現とテキスト表現の両方を持つデュアル値として保存されます。

12/31/96
この文字列が数式の一部として使用された場合、12 ÷ 31 ÷ 96 と数値的に解釈されます。

文字列での引用符の使用

引用符として使用できる文字が文字列に含まれている場合、文字列を引用するときに、文字列の開始位置と終了位置を明確に示すことが重要です。文字列が適切に引用されていないと、スクリプトが失敗するか、不正なデータのロードが行われます。

引用符を含む文字列を引用するには、2 つの方法があります。

特定の引用符を使用して文字列を引用する

文字列内で使用されていない引用符を選択し、それを使用して文字列全体を囲んでください。QlikView は、その特定の引用符を使用して文字列の開始位置と終了位置を判定します。

以下の引用符のいずれも、文字列全体の引用に使用できます。

- 二重引用符 ""
- 角括弧 []
- アクサングラーブ``
- 単一引用符 ''

[Table '1 "2"]
文字列の引用に角括弧が使用されています。文字列は次のようにロードされます。*Table '1 "2"*

'string `Name1` "Name2'
文字列の引用に単一引用符が使用されています。文字列は「*string `Name1` "Name2*」とロードされます。

エスケープ文字を使用する

エスケープ文字は、文字列の引用に使用される引用符の追加インスタンスです。文字列内に表示される引用符のインスタンスごとに、その横にエスケープ文字を追加する必要があります。すべての引用符が文字列内で使用されている場合、文字列の引用に使用されるものと同じタイプの引用符の横に、エスケープ文字を追加する必要があります。文字列内ですでに使用されている引用符を使用する場合も、エスケープ文字を使用できます。

以下の引用符のみ、エスケープ文字として使用できます。

- 二重引用符 ""
- 角括弧 []
- 単一引用符 ''

"Michael said ""It's a beautiful day""."

二重引用符 "" を使用している文字列を引用する場合は、文字列内で使用されている二重引用符の横に、さらに二重引用符を追加する必要があります。

この文字列は「*マイケルは "美しい日だ" と言った。*」としてロードされます。エスケープ文字 "" を使用することで、QlikView スクリプトエディターは、どの二重引用符が文字列の一部であり、どの引用符が文字列の終了を示しているかを認識します。短縮形 ***It's*** で使用されている単一引用符 ' は、文字列の引用に使用される引用符ではないので、エスケープ文字を追加する必要はありません。

```
'Michael said: "It''s a beautiful day".'
```

単一引用符を使用しているこの文字列を引用する場合は、文字列内で使用されているそれぞれの単一引用符の横に、さらに単一引用符を追加する必要があります。

この文字列は「*マイケルは "美しい日だ" と言った。*」としてロードされます。マイケルが言った内容の引用に使用されている二重引用符 " は、文字列の引用に使用される引用符ではないので、エスケープ文字を追加する必要はありません。

```
[Michael said [It's a "beautiful day]].]
```

角括弧 [ ] は、他の 2 つの引用符は異なる動作をします。角括弧をエスケープ文字として使用する場合は、右の角括弧] の横にのみ角括弧を追加する必要があり、左の角括弧 [の横には追加しません。

この文字列は「*マイケルは ["美しい日だ] と言った。*」としてロードされます。右の角括弧] にのみエスケープ文字が追加されます。文字列内で使用される単一引用符 ' および二重引用符 " は、文字列の引用に使用されていないので、エスケープ文字を追加する必要はありません。

7.13 データ内のワイルドカード

データ内でワイルドカードを使用することもできます。ワイルドカードには、この項目のすべての値として解釈されるスター マークと、この項目の残りのすべての値として解釈されるオプション シンボルの 2 種類があります。

スター マーク

スター マークは、この項目内のすべての値 (リストされている値)、つまりこのテーブル内の任意の場所にリストされている値として解釈されます。スクリプトのアクセス セクションでロードされたテーブル内のシステム項目 (*USERID, PASSWORD, NTNAME*、*SERIAL*) の 1 つで使用される場合は、この項目のすべての可能な値 (リストされていない値も含む) として解釈されます。

スター マークは、情報ファイルでは使用できません。また、キー項目 (テーブルを結合する項目) でも使用できません。

明示的に指定しない限り、スター マークは使用されません。

OtherSymbol

テーブル内のその他すべての値、つまりロードされたテーブルで明示的に検出されなかったすべての値を表す必要が生じることがあります。これは、**OtherSymbol** と呼ばれる特殊な変数を使用して表します。「その他のすべての値」として処理される **OtherSymbol** を定義するには、次の構文を使用します。

```
SET OTHERSYMBOL=<sym>;
```

この構文を **LOAD** または **SELECT** ステートメントの前に置きます。**<sym>** には任意の文字列を指定できます。

定義されたシンボルが内部テーブル内に出現すると、QlikView はそのシンボルが検出された項目にそれまでロードされていないすべての値として、そのシンボルを定義します。**OtherSymbol** の出現後に項目で検出された値は無視されます。

この機能をリセットするには、次の構文を使用します。

```
SET OTHERSYMBOL=;
```

Table Customers

テーブル顧客データの例

CustomerID	Name
1	ABC Inc.
2	XYZ Inc.
3	ACME INC
+	Undefined

Table Orders

テーブル注文データの例

CustomerID	Name
1	1234
3	1243
5	1248
7	1299

スクリプト内で、上記の最初のテーブルがロードされる前の場所に、次のステートメントを挿入します。

```
SET OTHERSYMBOL=+;
```

1、2、3 以外の *CustomerID*への参照 (例えば、*OrderID 1299* をクリックした場合) は、*Name* が *Undefined* になります。

> ***OtherSymbol** は、テーブル間の outer joins の作成で使用することを意図したものではありません。*

7.14 NULL 値の処理

データベース クエリまたはテーブル間の結合の結果、特定の項目にデータが生成されない場合、通常、結果は NULL 値になります。

QlikView ロジックは、以下を実際の NULL 値として処理します。

- ODBC 接続から返された NULL 値
- ロードスクリプトのテーブルの強制連結の結果として作成された NULL 値
- ロードスクリプトで行われた結合の結果として作成された NULL 値
- テーブルに表示される項目値の組み合わせを生成した結果として作成された NULL 値



NullAsValue ステートメントが使用されている場合を除き、これらの NULL 値を関連付けや選択に使用することはできません。

定義用のテキストファイルに NULL 値を含めることはできません。

ODBC からの NULL 値の関連付け/選択

ODBC データソースから NULL 値を関連付けたり、選択することができます。この目的のために、スクリプト変数が定義されています。次の構文を使用できます。

```
SET NULLDISPLAY=<sym>;
```

データ入力の最下位レベルにある ODBC データソースのすべての NULL 値の代わりにシンボル <sym> が使用されます。<sym> には任意の文字列を指定できます。

この機能をデフォルト解釈にリセットするには、次の構文を使用します。

```
SET NULLDISPLAY=;
```



NULLDISPLAY の使用は、ODBC データースのデータにのみ影響します。

ODBC 接続から返された NULL 値を空の文字列として QlikView ロジックに解釈させるには、**SELECT** ステートメントの前に次の構文を追加します。

```
SET NULLDISPLAY='';
```



'' は、間に何も挟まない 2 つの単一引用符です。

テキストファイルからの NULL 値の作成

テキストファイルまたは **inline** 節に存在する場合に、実 NULL 値として解釈されるシンボルを定義することができます。次のステートメントを使用します。

```
SET NULLINTERPRET=<sym>;
```

シンボル <sym> は、NULL として解釈されます。<sym> には任意の文字列を指定できます。

この機能をデフォルト解釈にリセットするには、次の構文を使用します。

```
SET NULLINTERPRET=;
```



NULLINTERPRET の使用は、テキストファイルおよび inline 節のデータにのみ影響します。

数式におけるNULL 値の伝達

NULL 値は、いくつかの論理的および妥当な規則に基づいて、数式を介して伝達されます。

関数

一般的な規則としては、関数が定義されている範囲からパラメータが外れると、関数は NULL を返します。

- asin(2) の戻り値: **NULL**
- log(-5) の戻り値: **NULL**
- round(A,0) の戻り値: **NULL**

上記の結果として、評価で必要なパラメータのいずれかが NULL の場合、関数は原則として NULL を返します。

- sin(NULL) の戻り値: **NULL**
- chr(NULL) の戻り値: **NULL**
- if(NULL, A, B) の戻り値: **B**
- if(True, NULL, A) は、**NULL** を返します
- if(True, A, NULL) は、**A** を返します

2 番目の規則の例外として、型をテストするための論理関数があります。

- isnull(NULL) は True (**-1**) を返します
- isnum(NULL) は False (**0**) を返します

算術および文字列演算子

これらの演算子のいずれかの側に NULL が発生した場合は、NULL が返されます。

- A + NULL の戻り値: **NULL**
- A - NULL の戻り値: **NULL**
- A / NULL の戻り値: **NULL**
- A * NULL は、**NULL** を返します
- NULL / A は、**NULL** を返します
- 0 / NULL は、**NULL** を返します
- 0 * NULL は、**NULL** を返します
- A & NULL は、**A** を返します

関係演算子

関係演算子のいずれかの側に NULL が発生した場合は、特別な規則が適用されます。

- `NULL rel.op NULL` の戻り値: **NULL**
- `A <> NULL` は True (**-1**) を返します
- `A < NULL` は False (**0**) を返します
- `A <= NULL` は False (**0**) を返します
- `A = NULL` は False (**0**) を返します
- `A >=` は False (**0**) を返します
- `A > NULL` は False (**0**) を返します

7.15 QVD ファイル

QVD (QlikView Data) ファイルは、Qlik Sense または QlikView からエクスポートされたデータのテーブルを含むファイルです。QVD は、ネイティブ Qlik フォーマットで、Qlik Sense または QlikView でのみ読み書きすることができます。ファイル形式は、QlikView スクリプトからデータを高速に読み取れるように最適化され、サイズもコンパクトです。QVD ファイルからのデータの読み取りは、他のデータソースから読み取る場合よりも一般に 10 ~ 100 倍高速になります。

QVD ファイルは、標準 (高速) と最適化 (超高速) の 2 つのモードで読み取ることができます。選択モードは、QlikView スクリプトエンジンによって自動的に決定されます。最適化モードは、ロードされたすべての項目が変換 (項目に対して実行される式) なしに読み取られる場合にのみ使用できます。ただし、項目名は変更することができます。QlikView にレコードを解凍させる WHERE 句は、最適化されたロードを無効にします。項目変換が実行されると、標準の Extract-Transform-Load (ETL) に従って、最適化された.qvd が抽出および処理されます。これによって、パフォーマンスが低下します。指定した形式は維持されず、代わりに、基となる未加工の数値形式が使用および認識されます。.qvd にある項目は変換できます。変換すると、以前の「最適化された」.qvd は、標準の最適化されていない .qvd になります。

QVD ファイルは、厳密に 1 つのデータテーブルを保持し、3 つの部分で構成されます。

1. テーブル内の項目や、後続情報およびその他のメタデータのレイアウトを記述する整形式 XML ヘッダー (UTF-8 文字セット)。
2. バイト埋め込み形式のシンボル テーブル。
3. ビット埋め込み形式の実際のテーブル データ。

QVD ファイルの使用目的

QVD ファイルは、多くの目的で使用することができます。主に 4 つの目的で使用されます。複数の目的を一度に達成できる場合もあります。

ロード速度の向上

QVD ファイルの入力データの変更されない部分または変化が遅い部分をバッファリングすることで、大きなデータセットに対するスクリプトの実行が大幅に高速化します。

データベース サーバーの負荷の減少

外部データ ソースから取得するデータ量を大幅に削減できます。これにより、外部データベースおよびネットワーク トラフィックの負荷が減少します。さらに、複数の QlikView スクリプトが同じデータを共有する場合は、ソース データベースからデータを一度 QVD ファイルにロードするだけで済みます。他のアプリケーションは、この QVD ファイルから同じデータを使用できます。

複数の QlikView アプリケーションからのデータの統合

binary スクリプトのステートメントでは、1 つの QlikView アプリケーションから別のアプリケーションにデータをロードできます。しかし、QVD ファイルを使用すると、QlikView スクリプトは任意の数の QlikView アプリケーションからのデータを統合できます。これにより、アプリケーションの可能性が広がり、たとえば、さまざまな部署からの類似するデータを統合することができます。

増分ロード

多くの一般的な状況で、QVD 機能を使用することにより、増大するデータベースから新しいレコードを排他的にロードする増分ロードを簡単に実行できます。

QVD ファイルの作成

3 つの異なる方法から 1 つを使用して QVD ファイルを作成できます。

1. QlikView スクリプトの **store** コマンドを使用した、明示的な作成と命名。選択した場所にある明示的に命名されたファイルに、事前に読み取られたテーブルまたはその一部をエクスポートするように、スクリプトに記述します。
2. スクリプトからの自動作成とメンテナンス。**load** または **select** ステートメントの前に **buffer** プレフィックスを指定すると、QlikView は自動的に QVD ファイルを作成します。このファイルは、一定の条件下でデータのリロード時に元のデータ ソースの代わりに使用されます。
3. レイアウトまたは **内部マクロ インタープリタ** から明示的に作成されて名前が付けられます。データは、GUI コマンドまたはオートメーション マクロを使用して、QlikView レイアウトからエクスポートされます。GUI では、ほとんどのシート オブジェクトのオブジェクト メニューにある **[エクスポート]** コマンドに、使用可能なエクスポート形式の 1 つとして QVD が含まれています。

読込み時間に関して、結果の QVD ファイルに違いはありません。

QVD ファイルからのデータの読み取り

QlikView は、次の方法で QVD ファイルの読込み、またはアクセスを行います。

1. 明示的なデータ ソースとしての QVD ファイルのロード。QVD ファイルは、他の種類のテキスト ファイル (csv、fix、dif、biff など) と同様に、QlikView スクリプトの **load** ステートメントで参照できます。**[ファイル ウイザード: タイプ]** では、同じ原則で QVD ファイルを扱います。

```
load  * from xyz.qvd (qvd);
load  Name, RegNo from xyz.qvd (qvd);
load  Name as a, RegNo as b from xyz.qvd (qvd);
```

2. バッファQVD ファイルの自動ロード。**load** または **select** ステートメントで **buffer** プレフィックスを使用する場合は、読み取り用の明示的なステートメントは必要ありません。QlikView が、QVD ファイルからデータを使用するか、元の **load** または **select** ステートメントを使用してデータを取得するか、その範囲を決定します。
3. スクリプトによる QVD ファイルへのアクセス。**qvd** で始まるたくさんのスクリプト関数を使用して、QVD ファイルの XML ヘッダーにあるデータのさまざまな情報を取得できます。

アスタリスクを含む QVD のインポートはサポートされていません。

QVD 暗号化

QVD ファイル内の機密情報を顧客提供のキーペアで暗号化して、データへのアクセスを制御することができます。

暗号化は、暗号化が有効になっていて証明書の拇印が追加されている *settings.ini* ファイルで構成されます。QVD 暗号化はデフォルトでは有効になっていません。

Qlik Sense および QlikView の古いバージョンは、暗号化された QVD ファイルを読み取るときにエラーを返します。

7.16 Direct Discovery

Direct Discovery は、QlikView May 2023 以降非推奨になります。Direct Discovery を QlikView で使用したい場合は、Qlik サポートに連絡してアクティブ化する方法を確認する必要があります。Direct Discovery の使用方法については、「QlikView May 2022 ヘルプ」を参照してください。

7.17 データモデリングのベストプラクティス

QlikView ドキュメントへのデータロード方法は、データ構造や希望するデータモデルによって異なります。このセクションでは、こうしたデータロード方法について説明します。

通常、ドキュメントへのデータのロードは、抽出、変換、ロードというプロセスで行います。

1. 抽出
   最初のステップは、データソースシステムからのデータ抽出です。スクリプトでは、**SELECT** または **LOAD** ステートメントでデータ抽出を定義します。この 2 つのステートメントには、以下のような違いがあります。
   - **SELECT** は、ODBC データソースあるいは OLE DB プロバイダからのデータ選択に使用します。**SELECT** SQL ステートメントは、QlikView ではなく、データプロバイダによって評価されます。
   - **LOAD** は、ファイルやスクリプトで定義されたデータ、以前にロードされたテーブル、ウェブページ、後続の **SELECT** ステートメントの結果からロードされたデータ、または自動的に生成されたデータのロードに使用します。
2. 変換
   変換段階では、スクリプト関数とルールを使用してデータを操作し、目的のデータモデル構造を取得します。標準的な操作は以下のとおりです。
   - 新しい値の計算
   - コード化された値の変換
   - 項目名の変更

- テーブルの結合
- 値の集計
- ピボット化
- データ検証

3. Load
   最終段階として、スクリプトを実行し、ドキュメントに定義したデータモデルをロードします。

QlikView でデータを効率良く取り扱えるデータモデルを構築することが目標です。これは通常、循環参照しない、ある程度標準的なスター スキーマあるいはスノーフレーク スキーマを作り、各エンティティが個々のテーブルで維持されるようなモデルを作成することを意味します。典型的なデータモデルは、以下のようになります。

- (ユニット数、売上金額、予算額などの) メジャーの計算に使用される、軸および数値のキーを含む中心ファクト テーブル。
- (製品、顧客、カテゴリ、カレンダー、サプライヤなど) 属性をすべて備えた軸を含む周辺のテーブル。

多くの場合、集計などのタスクは、ロード スクリプトでより高度なデータ モデルを構築するか、チャート式で集計を実行することで解決できます。一般的に、ロード スクリプトにデータ変換が含まれていると、より高いパフォーマンスを実現できます。

データ モデルを紙にスケッチすることも役立ちます。構造を目で確認することで、どのデータを抽出し、どの変換を実行すべきかを判断しやすくなります。

データモデルの各テーブルは、**SELECT** あるいは **LOAD** ステートメントのいずれかに対応しています。この 2 つのステートメントには、以下のような違いがあります。

- **SELECT** は、ODBC データ ソースあるいは OLE DB プロバイダからのデータ選択に使用します。**SELECT** SQL ステートメントは、QlikView ではなく、データプロバイダによって評価されます。
- **LOAD** は、ファイルやスクリプトで定義されたデータ、以前にロードされたテーブル、ウェブページ、後続の **SELECT** ステートメントの結果からロードされたデータ、または自動的に生成されたデータのロードに使用します。

QVD ファイルを使用した増分ロード

増分ロードは、データベースではきわめて一般的なタスクです。増分ロードとは、データベースから新しいレコードまたは変更されたレコードだけをロードすることを指します。残りのデータは、既に何らかの方法でアクセス可能になっています。*QVD ファイル (page 185)* で、ほとんどの場合増分ロードを実行できます。

基本手順を以下に説明します。

1. データベース テーブルから新しいデータをロードします (時間がかかりますが、限定されたレコード数をロードします)。

2. QVD ファイルから古いデータをロードします (ロードするレコード数は多いですが、はるかに高速な処理です)。

3. 新しい QVD ファイルを作成します。

4. ロードされるテーブルごとに手順を繰り返します。

このソリューションの実際の複雑さはソースデータベースの条件によって異なりますが、以下に示す基本的なケースを確認できます。

1) *ケース 1: 追加のみ (page 189)* (通常はログ ファイル)

2) *ケース 2: 挿入のみ (更新または削除なし) (page 189)*

3) *ケース 3: 挿入および更新 (削除なし) (page 190)*

4) *ケース 4: 挿入、更新、および削除 (page 190)*

次に、それぞれのケースごとのソリューションについて簡単に説明します。QVD ファイルは、最適化と標準のどちらかのモードで読み取ることができます。(使用されるモードは、オペレーションの複雑さによって QlikView スクリプト エンジンが自動的に選択します。) 最適化モードは、(かなり大まかに) 標準モードの約 10 倍、データベースのロードよりも普通の方法で約 100 倍速くなっています。

ケース 1: 追加のみ

最も単純なケースはログ ファイルです。このようなファイルではレコードが追加されるだけで、削除されることはありません。次の条件が適用されます。

- データベースは、テキスト ファイル (ODBC/OLE DB 以外) に含まれているログ ファイル (またはレコードが挿入または削除ではなく追加される他のファイル) でなくてはなりません。
- QlikView は、以前に読み取られたレコード数を常に記録し、ファイルの末尾に追加されたレコードだけをロードします。

```
Buffer (Incremental) Load * From LogFile.txt (ansi, txt, delimiter is '\t', embedded labels);
```

ケース 2: 挿入のみ (更新または削除なし)

単純なログ ファイル以外のデータベースにデータが存在する場合は、ケース 1 の方法は機能しません。ただし、少しの作業を追加するだけで問題を解決できます。次の条件が適用されます。

- データ ソースには、任意のデータベースを使用できます。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースに挿入されたレコードをロードします。
- 項目 ModificationDate (または同様の項目) は、どのレコードが新しいかを QlikView が認識するために必要です。

```
QV_Table:
SQL SELECT PrimaryKey, X, Y FROM DB_TABLE
WHERE ModificationTime >= #$(LastExecTime)#
AND ModificationTime < #$(BeginningThisExecTime)#;

Concatenate LOAD PrimaryKey, X, Y FROM File.QVD (qvd);
STORE QV_Table INTO File.QVD;
```

(SQL WHERE 句のハッシュ記号は日付の開始と終了を定義します。ご使用中のデータベースの適正な日付構文については、データベース マニュアルを確認してください。)

ケース3: 挿入および更新 (削除なし)

次のケースは、以前にロードされたレコード内のデータがスクリプト実行時に変更されている場合に適用可能です。次の条件が適用されます。

- データソースには、任意のデータベースを使用できます。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースに挿入されたレコード、またはデータベースで更新されたレコードをロードします。
- 項目 ModificationDate (または同様の項目) は、どのレコードが新しいかを QlikView が認識するために必要です。
- QlikView が QVD ファイルから更新されたレコードをソートするためには、プライマリキー項目が必要です。
- このソリューションでは、QVD ファイルの読み取りは (最適化モードではなく) 標準モードで行われます。標準モードはデータベース全体をロードするよりも、かなり高速です。

```
QV_Table:
SQL SELECT PrimaryKey, X, Y FROM DB_TABLE
WHERE ModificationTime >= #$(LastExecTime)#;

Concatenate LOAD PrimaryKey, X, Y FROM File.QVD
WHERE NOT Exists(PrimaryKey);

STORE QV_Table INTO File.QVD;
```

ケース4: 挿入、更新、および削除

最も処理が難しいケースは、スクリプト実行時にソースデータベースからレコードが実際に削除されている場合です。次の条件が適用されます。

- データソースには、任意のデータベースを使用できます。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースに挿入されたレコード、またはデータベースで更新されたレコードをロードします。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースから削除されたレコードを削除します。
- 項目 ModificationDate (または同様の項目) は、どのレコードが新しいかを QlikView が認識するために必要です。
- QlikView が QVD ファイルから更新されたレコードをソートするためには、プライマリキー項目が必要です。
- このソリューションでは、QVD ファイルの読み取りは (最適化モードではなく) 標準モードで行われます。標準モードはデータベース全体をロードするよりも、かなり高速です。

```
Let ThisExecTime = Now( );

QV_Table:
SQL SELECT PrimaryKey, X, Y FROM DB_TABLE
WHERE ModificationTime >= #$(LastExecTime)#
```

```
AND ModificationTime < #$(ThisExecTime)#;

Concatenate LOAD PrimaryKey, X, Y FROM File.QVD
WHERE NOT EXISTS(PrimaryKey);

Inner Join SQL SELECT PrimaryKey FROM DB_TABLE;

If ScriptErrorCount = 0 then
STORE QV_Table INTO File.QVD;
Let LastExecTime = ThisExecTime;
end if
```

JoinおよびKeepを使用したテーブルの結合

結合とは 2 つのテーブルを 1 つにまとめる操作です。結合により生成されるテーブルのレコードは元のテーブルのレコードを組み合わせたもので、通常、生成されたテーブル内の特定の組み合わせに関係する 2 つのレコードが 1 つ以上の共通項目に共通の値を持っています。そのため、これを「自然結合」と呼びます。QlikView では、結合はスクリプトで実行され、論理テーブルが作成されます。
その場合、QlikView ロジックは、個々のテーブルではなく、結合の結果である単一の内部テーブルを処理するようになります。この処理が必要な場合もありますが、次のような欠点があります。

- ロードされたテーブルのサイズが大きくなり、QlikView の動作が遅くなることがあります。
- 元のテーブル内のレコード数を取得できなくなり、情報の一部が失われる可能性があります。

Keep 機能には、QlikView にテーブルが保存される前に、2 つのテーブルの 1 つまたは両方をテーブル データの共通部分に縮小させる効果があり、明示的な結合の使用回数を減らす目的で設計されています。

> *このマニュアルでは、結合という用語は、内部テーブルが作成される前に行われる結合という意味で使用されています。しかし、内部テーブルが作成された後で行われる関連付けも、基本的には結合です。*

Join

結合を作成する最も簡単な方法は、スクリプトで **Join** プレフィックスを使用することです。これは、内部テーブルを別の名前のテーブルまたは最後に作成されたテーブルに結合します。この結合は outer join になり、2 つのテーブルからのすべての可能な値の組み合わせを作成します。

```
LOAD a, b, c from table1.csv;
join LOAD a, d from table2.csv;
```

その結果の内部テーブルには、項目 a、b、c、d が含まれています。レコード数は、2 つのテーブルの項目値によって異なります。

> *結合される項目の名前は、完全に同じである必要があります。結合される項目数は任意です。通常、テーブルには 1 つまたは複数の共通する項目があります。共通する項目が 1 つもない場合、テーブルのデカルト積は生成されません。すべての項目が共通することも考えられますが、通常これは意味がありません。**Join** ステートメントで、先にロードされたテーブルの名前が指定されていない限り、**Join** プレフィックスは最後に作成されたテーブルを使用します。そのため、2 つのステートメントの順序を任意に指定することはできません。*

維持

QlikView の主な機能の 1 つは、テーブルを結合する代わりにテーブル間に関連付けを作成できることです。これにより、メモリの使用量が削減され、速度が向上し、柔軟性が大幅に高まります。keep の機能は、明示的な結合の使用回数を減らす目的で設計されています。

2 つの **LOAD** または **SELECT** ステートメント間の **Keep** プレフィックスは、QlikView にテーブルが保存される前に、2 つのテーブルの片方または両方をテーブル データの共通部分に縮小させます。**Keep** プレフィックスの前には、**Inner**、**Left**、または **Right** のいずれかのキーワードを置く必要があります。テーブルからのレコードの選択は、対応する結合と同じ方法で行われます。ただし、2 つのテーブルは結合されず、個別のテーブルとしてそれぞれ異なる名前で QlikView に保存されます。

内部

Join スクリプト言語内の **Keep** および QlikView プレフィックスの前に、プレフィックス **Inner** を置くことができます。

Join の前に使用すると、2 つのテーブル間の結合が内部結合であると指定されます。結果のテーブルには、両方のテーブルのすべてのデータセットのうち、2 つのテーブル間で共通するものだけが含まれます。

Keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に、2 つのテーブルは互いの共通部分に縮小されます。

これらの例では、Table1 とTable2 のソース テーブルを使用しています。

Table1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

Inner 例のソース テーブル

まず、これらのテーブルで **Inner Join** を実行すると、VTable が作成されます。このテーブルには 2 つのテーブルのデータを結合した結果、1 行だけ、両方のテーブルに存在するレコードだけが表示されます。

```
VTable:
SELECT * from Table1;
inner join SELECT * from Table2;
```

VTable

A	B	C
1	aa	xx

Inner Join の例

それに対して、**Inner Keep** を実行すると、2 つのテーブルが残ります。これらの 2 つのテーブルは、共通項目 A を介して関連付けられます。

```
VTab1:
SELECT * from Table1;
VTab2:
inner keep SELECT * from Table2;
```

VTab1

A	B
1	aa

VTab2

A	C
1	xx

Inner Keep の例

左揃え

Join スクリプト言語内の **Keep** および QlikView プレフィックスの前に、プレフィックス **left** を置くことができます。

Join の前に使用すると、2 つのテーブル間の結合が左結合であると指定されます。結果のテーブルには、1 つ目のテーブルのすべてのデータセットと2 つのテーブルの共通するものだけが含まれます。

Keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に、2 つ目のテーブルが 1 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

これらの例では、Table1 とTable2 のソース テーブルを使用しています。

Table1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

Left 例のソース テーブル

まず、これらのテーブルで **Left Join** を実行すると、VTable が生成されます。このテーブルには、Table1 のすべての行に加え、Table2 の一致行の項目が含まれています。

```
VTable:
SELECT * from Table1;
left join SELECT * from Table2;
```

VTable

A	B	C
1	aa	xx
2	cc	–
3	ee	–

Left Join の例

それに対して、**Left Keep** を実行すると、2 つのテーブルが残ります。これらの 2 つのテーブルは、共通項目 A を介して関連付けられます。

```
VTab1:
SELECT * from Table1;
VTab2:
left keep SELECT * from Table2;
```

VTab1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

VTab2

A	C
1	xx

Left Keep の例

右

Join スクリプト言語内の **Keep** および QlikView プレフィックスの前に、プレフィックス **right** を置くことができます。

Join の前に使用すると、2 つのテーブル間の結合が右結合であると指定されます。結果のテーブルには、2 つ目のテーブルのすべてのデータと2 つのテーブルで共通するものだけが含まれます。

Keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に、1 つ目のテーブルが 2 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

これらの例では、Table1 とTable2 のソース テーブルを使用しています。

Table1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

Right 例のソース テーブル

まず、これらのテーブルで **Right Join** を実行すると、VTable が生成されます。このテーブルには、Table2 のすべての行に加え、Table1 の一致行の項目が含まれています。

```
VTable:
SELECT * from Table1;
right join SELECT * from Table2;
```

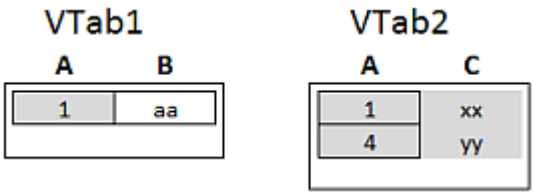
VTable

A	B	C
1	aa	xx
4	–	yy

Right Join の例

それに対して、**Right Keep** を実行すると、2 つのテーブルが残ります。これらの 2 つのテーブルは、共通項目 A を介して関連付けられます。

```
VTab1:
SELECT * from Table1;
VTab2:
right keep SELECT * from Table2;
```



Right Keep の例

結合の代替としてのマッピング

QlikView の **Join** プレフィックスは、データモデルで複数のデータテーブルを組み合わせる強力な方法です。ただし、組み合わされたテーブルが大きくなり、パフォーマンスに問題が生じる可能性があるという次点もあります。そこで、別のテーブルから単一の値を探す必要がある場合など、**Join** の代わりにマッピングを使用することができます。結合ではテーブルのレコード数が変わるため、計算のスピードダウンとエラーの原因になる可能性がある不要なデータのロードを回避できます。

マッピング テーブルは、比較項目 (入力) とマッピング値項目 (出力) の 2 つの列で構成されています。

この例では注文テーブル (Orders) を使用しており、顧客の国を把握する必要があります。この情報は、顧客テーブル (Customers) に保管されています。

Orders data table

OrderID	OrderDate	ShipperID	Freight	CustomerID
12987	2007-12-01	1	27	3
12988	2007-12-01	1	65	4
12989	2007-12-02	2	32	2
12990	2007-12-03	1	76	3

Customers data table

CustomerID	Name	Country	...
1	DataSales	Spain	...
2	BusinessCorp	Italy	...
3	TechCo	Germany	...
4	Mobecho	France	...

顧客の国 (Country) を見つけるには、以下のようなマッピング テーブルが必要です。

Country mapping table

CustomerID	Country
1	Spain
2	Italy
3	Germany
4	France

MapCustomerIDtoCountry という名前を付けたマッピング テーブルは、以下のようにスクリプトで定義されます。

```
MapCustomerIDtoCountry:      Mapping LOAD CustomerID, Country From Customers ;
```

次に、注文テーブルをロードする際に、**ApplyMap** 関数を使用してマッピングを適用します。

```
Orders:      S *,          ApplyMap('MapCustomerIDtoCountry', CustomerID, null()) as Country
        From Orders ;
```

ApplyMap 関数の 3 番目のパラメータは、マッピング テーブルで値が見つからない場合に何を返すのか定義するために使われます。この例では、**Null()** です。

この結果、テーブルは次のようになります。

Result mapping table

OrderID	OrderDate	ShipperID	Freight	CustomerID	Country
12987	2007-12-01	1	27	3	Germany
12988	2007-12-01	1	65	4	France
12989	2007-12-02	2	32	2	Italy
12990	2007-12-03	1	76	3	Germany

クロス集計での作業

クロス集計は、ヘッダー データが直交する 2 つのリストに値のマトリックスを持つ一般的なテーブルの種類で、次のようなテーブルになります。

Example 1:

Example cross table 1

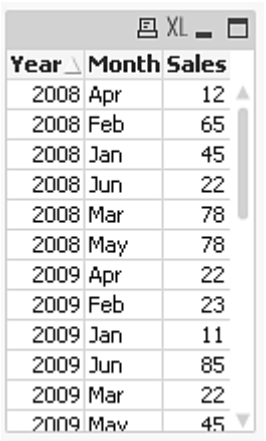
Year	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
2008	45	65	78	12	78	22
2009	11	23	22	22	45	85
2010	65	56	22	79	12	56
2011	45	24	32	78	55	15
2012	45	56	35	78	68	82

このテーブルを単純に QlikView にロードすると、*Year* (年) に 1 つ、そして各月に 1 つずつ項目が生成されます。ただし、通常はこのようなテーブルではデータを適切に管理できません。おそらく、各ヘッダー カテゴリ (*Year* および *Month*) に対して 1 つずつ、そしてマトリックス内のデータ値用に 1 つの合計 3 項目を生成する方が合理的です。

それには **LOAD** または **SELECT** ステートメントに **crosstable** プレフィックスを追加します。

```
crosstable (Month, Sales) LOAD * from ex1.xlsx;
```

その結果、QlikView で読み込んだ際に次のようになります



Year	Month	Sales
2008	Apr	12
2008	Feb	65
2008	Jan	45
2008	Jun	22
2008	Mar	78
2008	May	78
2009	Apr	22
2009	Feb	23
2009	Jan	11
2009	Jun	85
2009	Mar	22
2009	May	45

クロス集計では、いくつか行見出しとなる列を表示することがあります。これらの列は、直接的な方法で読み取ります。この場合、行見出し列は Year の 1 つだけです。

Example 2:

Example cross table 2

Salesman	Year	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
A	2008	45	65	78	12	78	22
A	2009	11	23	22	22	45	85
A	2010	65	56	22	79	12	56
A	2011	45	24	32	78	55	15
A	2012	45	56	35	78	68	82
B	2008	57	77	90	24	90	34
B	2009	23	35	34	34	57	97
B	2010	77	68	34	91	24	68
B	2011	57	36	44	90	67	27
B	2012	57	68	47	90	80	94

この場合は、左側に 2 つの行見出し列があり、その後にマトリックス列が続きます。行見出し列の数は、次のように **crosstable** プレフィックスの 3 番目のパラメータとして指定できます。

```
crosstable (Month, Sales, 2) LOAD * from ex2.xlsx;
```

その結果、QlikView で読み込んだ際に次のようになります



Salesman	Year	Month	Sales
A	2008	Apr	12
A	2008	Feb	65
A	2008	Jan	45
A	2008	Jun	22
A	2008	Mar	78
A	2008	May	78
A	2009	Apr	22
A	2009	Feb	23
A	2009	Jan	11
A	2009	Jun	85
A	2009	Mar	22
A	2009	May	45
A	2010	Apr	79

汎用データベース

汎用データベースは、項目名が項目値として1列に、項目値が2番目の列に保存されるテーブルです。通常、汎用データベースは、さまざまなオブジェクトの属性に対して使用されます。

以下にあるGenericTableの例をご覧ください。これは、ballとboxの2つのオブジェクトを含む汎用データベースです。colorおよびweightなど、いくつかの属性は両方のオブジェクトに共通していますが、diameter、height、length、widthは共通ではありません。

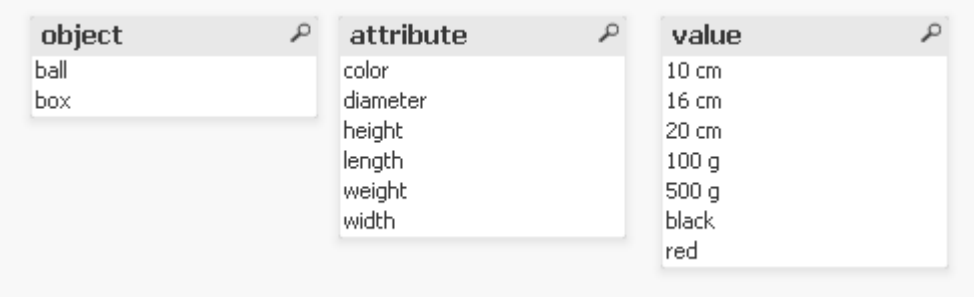
汎用テーブルの例

object	attribute	value
ball	color	red
ball	diameter	10 cm
ball	weight	100 g
box	color	black
box	height	16 cm
box	length	20 cm
box	weight	500 g
box	width	10 cm

属性の多くは特定のオブジェクトに関連していないため、それぞれの属性が固有の列を持つような方法でデータを保存することは不適切と考えられます。

一方、lengthとcolor、weightを混在させて表示すると、混乱を招く可能性があります。

標準的な方法でこのデータベースをQlikViewにロードし、テーブルでデータを表示すると以下のようになります。



ただし、このテーブルが汎用データベースとしてロードされた場合、2 列目と3 列目が個別のテーブルに分割されます (2 列目の一意の値ごとにテーブルが 1 つ作成されます)。



この場合は、次のような単純な構文が使用されます。

```
Generic SELECT* from GenericTable;
```

汎用データベースのロードで、**LOAD** ステートメントと**SELECT** ステートメントのどちらを使用するかは問題ではありません。

不連続データとIntervalmatch

intervalmatch プレフィックスを**LOAD** または **SELECT** ステートメントで使用すると、不連続の数値が 1 つ以上の数値間隔にリンクされます。これはとても強力な機能であり、次の例のような実稼働環境などで使用できます。

次の 2 つのテーブルを見てください。最初のテーブルは、さまざまな注文 (Order) の製造の開始時刻 (Start) と終了時刻 (End) を示しています。2 つ目のテーブルには個々のイベントが含まれています。どの注文がイベントの影響を受けたか、どの注文がどのシフトで処理されたかを知るには、どのように個々のイベントを注文に関連付ければよいでしょうか。

テーブル OrderLog

スタート (Start)	End	順序
01:00	03:35	A
02:30	07:58	B
03:04	10:27	C
07:23	11:43	D

テーブル EventLog

時刻	イベント(Event)	コメント
00:00	0	シフト1 の開始
01:18	1	ラインの停止
02:23	2	ラインの再開 50%
04:15	3	ラインの速度 100%
08:00	4	シフト2 の開始
11:43	5	製造の終了

まず、通常どおりに 2つのテーブルをロードします。次に、*Time* 項目を *Start* 項目と *End* 項目で定義される間隔にリンクします。

```
SELECT * from OrderLog;
SELECT * from EventLog;
Intervalmatch (Time) SELECT Start,End from OrderLog;
```

これで、以下のように QlikView でテーブルを作成できます。

Time	Event	Comment	Order	Start	End
0:00	0	Start of shift 1	-	-	-
1:18	1	Line stop	A	1:00	3:35
2:23	2	Line restart 50%	A	1:00	3:35
4:15	3	Line speed 100%	B	2:30	7:58
4:15	3	Line speed 100%	C	3:04	10:27
8:00	4	Start of shift 2	C	3:04	10:27
8:00	4	Start of shift 2	D	7:23	11:43
11:43	5	End of production	D	7:23	11:43

主に注文 *A* がライン ストップ (Line stop) の影響を受けた一方で、ライン スピード (Line speed) の減少は注文 *B* と *C* にも影響を及ぼしたことが分かります。注文 *C* と *D* だけは、一部が *Shift 2* で処理されました。

intervalmatch を使用する場合は、次の点に注意してください。

- **intervalmatch** ステートメントの前に、不連続データ ポイントを含む項目 (上の例では *Time*) が QlikView に読み取られている必要があります。**intervalmatch** ステートメントは、データベース テーブルからこの項目を読み取りません。
- **intervalmatch LOAD** または **SELECT** ステートメントで読み取られたテーブルは、厳密に 2 つの項目 (上記の例では、*Start* と *End*) を含んでいる必要があります。他の項目へのリンクを確立するには、間隔項目と共に、個別の **LOAD** または **SELECT** ステートメント (上記の例では最初の **SELECT** ステートメント) で他の項目を読み取る必要があります。
- 間隔は常に閉じているので、終端は間隔に含まれます。NULL の範囲は間隔を無限に拡張しますが、数値以外の範囲は間隔を無視します。
- 間隔は重なる場合があり、不連続値は一致する間隔すべてにリンクされます。

拡張された intervalmatch 構文を使用した穏やかに変化する軸 (SCD) 問題の解決

拡張された **intervalmatch** 構文を使用して、ソース データ内で穏やかに変化する軸 (SCD) の既知の問題を処理することができます。

サンプル スクリプト:

```
SET NullInterpret='';

IntervalTable:
LOAD Key, ValidFrom, Team from IntervalTable.xls;
NullAsValue FirstDate,LastDate;

Key:
LOAD
Key,
ValidFrom as FirstDate,
date(if(Key=previous(Key),
previous(ValidFrom) - 1)) as LastDate,
Team
RESIDENT IntervalTable order by Key, ValidFrom desc;

drop table IntervalTable;

Transact:
LOAD Key, Name, Date, Sales from Transact.xls;

INNER JOIN intervalmatch (Date,Key) LOAD FirstDate, LastDate, Key RESIDENT Key;
```

欠損値は NULL 値ではなく空の文字列として定義されるため、**nullinterpret** ステートメントはテーブル ファイルからデータを読み取る場合にのみ必要となります。NULL

IntervalTable からデータをロードすると、次のテーブルが生成されます。

テーブル 1 の例

キー	FirstDate	チーム
000110	2011-01-21	Southwest
000110	-	Northwest
000120	-	Northwest
000120	2013-03-05	Southwest
000120	2013-03-05	Northwest
000120	2013-01-06	Southwest

nullasvalue ステートメントでは、リストされている項目に NULL 値をマップできます。

previous および **order by** を使用して、*Key*、*FirstDate*、*LastDate* (属性項目) を作成します。その後、このキー テーブルで置き換えられた *IntervalTable* がドロップされます。

Transact からデータをロードすると、次のテーブルが生成されます。

テーブル 2 の例

キー	[Name] (名前)	日付	売上高
000110	Spengler Aaron	2009-08-18	100
000110	Spengler Aaron	2009-12-25	200
000110	Spengler Aaron	2011-02-03	300
000110	Spengler Aaron	2011-05-05	400
000120	Ballard John	2011-06-04	500
000120	Ballard John	2013-01-20	600
000120	Ballard John	2013-03-10	700
000120	Ballard John	2013-03-13	800
000120	Ballard John	2013-09-21	900

inner join に続く**intervalmatch** ステートメントは、*Transact* に接続する合成キーで上記のキーを置き換えます。その結果、次のテーブルが生成されます。

テーブル 3 の例

キー	チーム	[Name] (名前)	FirstDate	LastDate	日付	売上高
000110	Northwest	Spengler Aaron	-	2011-01-20	2009-08-18	100
000110	Northwest	Spengler Aaron	-	2011-01-20	2009-12-25	200
000110	Southwest	Spengler Aaron	2011-01-21	-	2011-02-03	300
000110	Southwest	Spengler Aaron	2011-01-21	-	2011-05-05	400
000120	Northwest	Ballard John	-	2013-01-05	2011-06-04	500
000120	Southwest	Ballard John	2013-01-06	2013-03-04	2013-01-20	600
000120	Southwest	Ballard John	2013-03-05	-	2013-03-10	700
000120	Southwest	Ballard John	2013-03-05	-	2013-03-13	800
000120	Southwest	Ballard John	2013-03-05	-	2013-09-21	900

単一の日付からの日付間隔の作成

時間の間隔が明示的に開始および終了を含むことなく保存される場合があります。代わりに、変更タイムスタンプという1 つの項目により暗黙のうちに定義されています。

複数の通貨の現在のレートを記載した下記のテーブルがある場合、各通貨レートの変化は新しい変換レートとともにそれぞれの行に表示されています。また、テーブルには最初に変換が実施される前の、当初の変換レートに対応する日付が空の行も含まれています。

通貨換算レート

Currency	Change Date	Rate
EUR	-	8.59
EUR	28/01/2013	8.69
EUR	15/02/2013	8.45
USD	-	6.50
USD	10/01/2013	6.56
USD	03/02/2013	6.30

このテーブルは、重複しない間隔のセットを定義し、開始日は「Change Date」と呼ばれ終了日は次の間隔の開始点によって定義されています。しかし、終了日が専用の列に明示的に保存されていないため、そのような列を作成し、新しいテーブルが間隔のリストとなるようにする必要があります。

次の手順を実行します。

1. 上記に示されたテーブルを含む *Rates.xlsx* というファイルを作成して保存し、ロードの準備を整えます。Change Date 列の日付がローカル日付書式と同じ書式になっていることを確認します。
2. 参照する時間幅を決定します。その時間幅の開始点は、日付の最初の日の前であり、終了点は最終日の後でなければなりません。
3. ソースデータをロードし、空の日付を前の手順で定義した時間幅の開始点に変更します。変更した日付は、「From Date」としてロードする必要があります。
4. まず Currency に応じてテーブルをソートしますが、最新の日付が一番上に来るように「From Date」を降順でソートします。
5. 「To Date」を計算する 2 度目のデータパススルーを実行します。現在のレコードに前のレコードとは異なる通貨がある場合、それは新しい通貨の最初のレコードとなる (だが間隔は最後) ため、手順 1 で定義した時間幅の終了日を使用する必要があります。通貨が同一の場合は、前のレコードの「From Date」を取得して時間の小さい単位を差し引き、この値を現在のレコードの「To Date」として使用します。

下記にリストされたスクリプトは、次の方法でソース テーブルを更新します。

更新されたテーブル

Currency	Rate	FromDate	ToDate
EUR	8.45	15/02/2013	vEndTime
EUR	8.69	28/01/2013	14/02/2013 23:59:59
EUR	8.59	vBeginTime	28/01/2013 23:59:59
USD	6.30	03/02/2013	vEndTime
USD	6.56	10/01/2013	2/02/2013 23:59:59
USD	6.50	vBeginTime	9/01/2013 23:59:59

QlikView スクリプトは次のようになります。

```
Let vBeginTime = Num('1/1/2013');
```

```
Let vEndTime = Num('1/3/2013');

Let vEpsilon = Pow(2,-27);

Tmp_Rates:

LOAD Currency, Rate,

        Date(If(IsNum([Change Date]), [Change Date], $(#vBeginTime))) as FromDate

From 'C:\MyFiles\Rates.xlsx'

(ooxml, embedded labels, table is Sheet1);



Rates:

LOAD Currency, Rate, FromDate,

        Date(If( Currency=Peek(Currency),

                Peek(FromDate) - $(#vEpsilon),

                $(#vEndTime)

                )) as ToDate

        Resident Tmp_Rates

        Order By Currency, FromDate Desc;



Drop Table Tmp_Rates;
```

このスクリプトを実行すると、間隔を正確にリストしたテーブルが完成します。

Intervalmatch メソッドを使用することにより、既存の日付との比較にこのテーブルを使用することができます。

階層構造

階層の深さが一定でない *n* レベルの階層は、地理的もしくは組織的次元をデータで表す場合などによく使用されます。これらの種類の階層は、通常隣接するノードテーブルに保存されます。つまり、テーブルでは、それぞれのレコードはノードと一致し、親ノードへの参照を含む項目を持っています。

NodeID	ParentNodeID	Title
1	-	General manager
2	1	Region manager
3	2	Branch manager
4	3	Department manager

このようなテーブルでは、ノードは 1 つのレコードにのみ保存されますが、子供をいくつでも持つことができます。当然のことながら、テーブルには、ノードの属性が記述された追加項目が含まれている可能性があります。

隣接するノードテーブルは、メンテナンスには役立ちますが、毎日の業務には適していません。そこでクエリと分析では、他の表現を使用します。展開されたノードテーブルは一般的な表現の 1 つで、階層の各レベルは別個の項目に保存されます。展開されたノードテーブルのレベルは、ツリー構造などで容易に使用できます。**hierarchy** のキーワードをロードスクリプトで使用すると、隣接するノードテーブルを展開ノードテーブルに変換できます。

```
Hierarchy (NodeID, ParentNodeID, Title, 'Manager') LOAD     NodeID,     ParentNodeID,
Title FROM 'hierarchy.txt' (txt, codepage is 1252, embedded labels, delimiter is ',', msq);
```

NodeID	ParentNodeID	Title	Title1	Title2	Title3	Title4
1	-	General manager	General manager	-	-	-
2	1	Region manager	General manager	Region manager	-	-
3	2	Branch manager	General manager	Region manager	Branch manager	-
4	3	Department manager	General manager	Region manager	Branch manager	Department manager

展開ノードテーブルの問題は、検索や選択を行う際に対象となるレベルを知っておく必要があり、レベル項目を簡単に使用できないという点にあります。この問題を解決する 1 つの表現が先祖テーブルで、ブリッジ テーブルとも呼ばれます。

先祖テーブルには、データで見つかった子供と先祖の関係をすべて記録するレコードが 1 つあり、この中には子供と先祖のキーと名前が含まれています。つまり、それぞれのレコードを見れば、特定のノードがどのノードに属しているのかがわかります。**hierarchybelongsto** キーワードをロードスクリプトで使用すると、隣接するノードテーブルを先祖テーブルに変換できます。

セマンティック リンク

通常は、目的の項目値をクリックすることで、明示的に選択を行います。一方、セマンティック リンクを使用して、間接的に選択を行う方法もあります。セマンティック リンクは、項目値に似ていますが、オブジェクト自体ではなく、オブジェクト間の関係を表す点が異なります。セマンティック リンクは、ボタンのリストとして表示されます。

セマンティック リンクをクリックすると、他の項目で選択が行われます。

セマンティック テーブルのルール

セマンティック テーブルは、テーブル ビューアーでは表示されません。

セマンティック リンクは、オブジェクト間のリレーションを含むテーブルをロードすることで作成されます。

- このテーブルは、厳密に3つまたは4つの列を含む必要があります。
- セマンティック テーブルには、異なる項目の項目値間のリレーション、または同じ項目の項目値間のリレーションのいずれかが含まれる必要があります。この2つを混在させることはできません。
- セマンティック テーブルをロードする **LOAD** または **SELECT** ステートメントは、その前に **semantic** 修飾子を使用して、論理テーブルでないことを示す必要があります。

通常は、4つの列が使用されます。1列目には、他の項目値へのリレーションを持つ項目値が含まれ、3列目には、関連付けられた項目値が含まれます。2列目には、リレーションの名前が含まれる必要があります。4列目には、逆リレーションの名前が含まれる必要があります。

3つの列を使用する場合は、逆リレーションの明示的な名前は指定できません。2列目に提供された名前がリレーションと逆リレーションの両方で使用されます。この名前の前または後に矢印が付けられます。

同じ項目内の項目値間にリレーションが存在する場合、1列目と3列目は同じ名前にする必要があります。また、2列目と4列目の名前、つまりリレーションのタイプも同じにする必要があります。ただし、リレーションが異なる項目の項目値間のものである場合は、すべての列は相互に異なる名前である必要があります。

データからのセマンティック テーブルの抽出

セマンティック テーブルは、必ずしもQlikViewの外部のテーブルとして存在する必要はありません。個別のLOADステートメントを使用して、オブジェクトの既存のテーブルからこのテーブルを抽出する方が柔軟性は高くなります。

*presidents*のサンプル ディレクトリに含まれるQlikViewの例では、*Predecessor*(前任者)および*Successor*(後任者)リンクを生成するためのスクリプトは次のようになります。

```
Directory presidents;
LOAD * from presdnts.csv (ansi, txt, delimiter
is ',', embedded labels);
Semantic LOAD
No -1 as No,
'Successor' as Relation,
No,
'Predecessor' as Relation
from presdnts.csv (ansi, txt, delimiter is ',',
embedded labels) where No > 1;
```

2つ目のLOADステートメントは、右の図のようなテーブルを生成します。このテーブルはセマンティック テーブルとしてロードされます。最初のレコードでは、存在しない0番目の社長に最初の社長がリンクされるため、**where**句を使用して最初のレコードを取り除きます。

このLOADステートメントには、*No*というラベルの2つの項目と*Relation*というラベルの2つの項目が含まれることにも注目してください。このようなLOADステートメントを使用して内部テーブルをロードすると、スクリプト実行エラーが発生します。1つの内部テーブルのロード手順では、同じ名前の項目が存在していないことが要求されるためです。同様に、このようなSELECTステートメントも、ほとんどのODBCドライバの要件に合わせるため、使用できません。代わりに、presidentsテーブルがデータベース内に存在する場合は、次の構造を使用してください。

```
Connect to DataBase;
SELECT * from presdnts;
Alias No2 as No, Relation2 as Relation;
Semantic SELECT
No -1 as No,
'Successor' as Relation,
No as No2,
'Predecessor' as Relation2
from presdnts where No > 1;
```

presidentsの例は、セマンティック リンクを使用するための単なる一例です。これらのセマンティック リンクは、家系図でも使用できます。この場合、セマンティック リンクは、いとこ(cousin)、兄弟姉妹(sibling)、祖母(grandmother)などになります。会社における社員の場合、セマンティック リンクは、*superior*(上役) 、*reports to* (直属の上司) 、*secretary*(秘書) などになります。

関連する値をリレーション名として使用する

関連する項目値をリレーションの名前として使用すると、よりわかりやすくなる場合があります。社長(presidents)の例では、すべての前任者(predecessor)を1つの列に含め、すべての後任者(successor)を別の列に含めることができます。

これらのリンクを作成するには次のロード スクリプトが必要です。

```
LOAD
No as DuplicateOfNo,
FirstName & ' ' & LastName as Name,
*
from presdnts.csv;
Semantic LOAD
No -1 as No,
FirstName & ' ' & LastName as Successor,
No as DuplicateOfNo,
'Dummy1'
from presdnts.csv where No > 1;
Semantic LOAD
No +1 as No,
FirstName &' ' & LastName as Predecessor,
No as DuplicateOfNo,
'Dummy2'
from presdnts.csv;
```

セマンティック リンクをクリックすると、3 列目の項目 *DuplicateOfNo* が選択されます。これは常に、セマンティック テーブルでセマンティック リンクに表示される社長の数です。

最初は明確に認識することができない可能性がありますが、上記のコンストラクション内の逆 リレーションはほとんど役にたちません。これらは社長の名前を表示し、クリックされると、表示されている社長の前任者/後継者が選択されます。これが *Dummy1* および *Dummy2* と呼ばれている理由であり、最初のリレーション(2列目) だけが使用されます。

リスト ボックスにダミー リレーションが表示されるのを避けるために、2列目と4列目を異なるタイプのリレーションとして処理する必要があります。つまり、1列目と3列目を異なる項目名にする必要があります。そのために、社長の数を含む *No* と *DuplicateOfNo* の2つの列を使用しています。

リレーションを含む2つの異なるリスト ボックスが必要なので、2つの異なる **semantic** ステートメントが必要です。

この例は、3列のセマンティック テーブルでも実行できますが、ほとんどの場合、逆 リレーションを含むリスト ボックスは、ユーザーを混乱させる可能性があります。

項目値への情報のリンク

テキスト ファイル、イメージ、または外部アプリケーション ファイルの形式の情報を QlikView ドキュメントのデータに関連付けることができます。この機能を使用するには、どの情報 ファイルをどの項目値にリンクするか記述するテーブルを作成し、そのテーブルを情報 テーブルとして使用することを QlikView に伝える必要があります。次に、この手順について説明します。

情報テーブルには2つの列が必要です。最初の列は、項目名が付けられ、その項目に属する値のリストが含まれます。2列目は、任意の名前が付けられ、情報(テキストの場合) または情報を含むファイル(イメージ、アプリケーション) への参照が含まれます。

このテーブルを情報テーブルとしてロードするためのステートメントは、次のとおりです。

```
Info LOAD Country, I from Flagsoecd.csv (ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);
```

情報にリンクされているリストボックスまたはマルチボックス項目が選択されると、項目名の横に情報アイコンが表示されます。このアイコンは、その情報にアクセスできることを示します。このアイコンをクリックすると、情報が表示されたり、アプリケーション ファイルがロードされます。**[リスト ボックス プロパティ]** ダイアログの **[レイアウト]** ページで、情報アイコンをオフにすることができます。

2列目にテキストが入力されると、そのテキストが内部テキスト ビューアーに表示されます。

このテキスト内では、新しい行を示すために改行を使用することはできません。代わりに、情報ファイル内ではシンボル "\n" を使用します。

- 2 列目に画像ファイル (拡張子 bmp) の名前を入力すると、そのイメージが内部イメージ ビューアーに表示されます。
- 2列目にサウンドファイル(拡張子 wav) を入力すると、そのサウンドが再生されます。
- 2列目に実行可能ファイルの名前を入力すると、そのファイルが実行されます。
- 2列目にその他のファイルの名前を入力すると、そのファイルに関連付けられているプログラムでファイルが開かれます。
- 2 列目に URL (インターネットアドレスなど) を入力すると、登録されているインターネットブラウザを使用してそのアドレスにアクセスされます。

情報 (info) ファイルには、スター マークを含めることはできません。ただし、**OtherSymbol** として定義されているシンボルは使用できます。

bundle info load を使用すると、外部データを QlikView ドキュメントにバンドルできます。

データ クレンジング

さまざまなテーブルからデータをロードする際には、同じ情報を示す項目値に必ずしも同じ名前が付けられているわけではないという点に注意してください。この一貫性の欠如は、余計な手間がかかるだけでなく関連性を見落とす原因にもなるため、対処が必要です。この問題は、項目値を比較するマッピング テーブルを作成することで解決できます。

マッピング テーブル

mapping load または **mapping select** からロードされたテーブルは、他のテーブルとは異なる方法で処理されます。これらのテーブルは メモリの別の領域に保存され、スクリプトの実行中にマッピング テーブルとしてのみ使用されます。また、スクリプトの実行後は、自動的に削除されます。

ルール:

- マッピング テーブルは、1 列目に比較値、2 列目にマッピング値を含む 2 列構成でなければなりません。
- 2 つの列に名前を付ける必要がありますが、名前と列に含まれる値に関連性はありません。これらの列の名前は、通常の内部テーブルの項目名とは一切関係がありません。

マッピング テーブルの使用

国をリストした複数のテーブルをロードすると、1 つの国の名前が複数の異なる名前で表示されることがあります。この例では、米国が US、U.S.、United States としてリストされています。

連結されたテーブル内で、米国を示す 3 つの異なるレコードが存在しないようにするために、表示されたものに類似したテーブルを作成し、それをマッピング テーブルとしてロードします。

スクリプト全体は、次のようになります。

```
CountryMap:
Mapping LOAD x,y from MappingTable.txt
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded
labels);
Map Country using CountryMap;
LOAD Country,City from CountryA.txt
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);
LOAD Country, City from CountryB.txt
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);
```

mapping ステートメントは、*MappingTable.txt* ファイルを *CountryMap* という名前のマッピング テーブルとしてロードします。

map ステートメントは、ロード済みの *CountryMap* マッピング テーブルを使用して *Country* 項目のマッピングを有効にします。

LOAD ステートメントは、テーブル *CountryA* および *CountryB* をロードします。これらのテーブルは、*Country* を含め、同じ項目のセットを持っているため連結され、それぞれ項目値がマッピング テーブルの 1 列目の項目値と比較されます。項目値 US、U.S.、United States が検出され、マッピング テーブルの 2 列目の値 (*USA*) に置き換えられます。

自動マッピングは、項目が QlikView テーブルに保存される一連のイベントの最後に実行されます。典型的な **LOAD** または **SELECT** ステートメントでは、イベントの順序は概ね次のようになります。

1. 数式の評価
2. as による項目の名前変更
3. alias による項目の名前変更
4. テーブル名の修飾 (該当する場合)
5. 項目名が一致する場合はデータのマッピング

つまり、マッピングは数式の一部分として項目名が出現するたびに行われるのではなく、QlikView テーブルの項目名に値が保存される際に実行されます。

マッピングを無効にするには、**unmap** を使用します。

数式レベルのマッピングの場合は、**applymap** 関数を使用します。

サブストリング レベルのマッピングの場合は、**mapsubstring** 関数を使用します。

7.18 スクリプトからの VBScript 関数の呼び出し

QlikView ドキュメントのマクロ モジュールで定義されている VBScript または JScript 関数をスクリプトから呼び出すことができます。呼び出した関数が標準のスクリプト関数として認識されない場合は、モジュールにカスタム関数があるかどうかがチェックされます。したがって、かなり自由に独自の関数を定義することができます。もちろん、カスタム マクロ関数を使用する場合は、標準の関数を実行する場合より多少速度が低下します。

```
rem ************************************************
rem *** これはモジュールからの VBScript コードです*********
rem************************************************
rem ********* グローバル変数 ********************
dim flag
rem ******* スクリプトからアクセス可能な関数 *********
rem ************ 入力ボックスでの折り返し ******************
function VBin(prompt)
VBin=inputbox(prompt)
end function

rem ********* グローバル フラグのクリア ********************
function VBclearFlag()
flag=0
end function
rem ********* 参照が渡されたかどうかをテスト ***********
function VBrelPos(Ref, Current)
if Ref=Current then
VBRelPos="Reference"
flag=1
elseif flag=0 then
VBRelPos="Before "&Ref&" in table"
else
VBRelPos="After "&Ref&" in table"
end if
end function
// ************************************************
// ************* これはスクリプトです *****************
// ************************************************

let MaxPop=VBin('Max population in millions :');
// 制限を問い合わせ

let RefCountry=VBin('Reference country :');
// 参照を問い合わせ

let dummy=VBclearFlag(); // グローバル フラグをクリア

Load
Country,recno(),
Capital,
"Area(km.sq)",
"Population(mio)",
VBrelPos('$(RefCountry)',Country)
as RelativePos
from country1.csv
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels)
where "Population(mio)" <= $(MaxPop);
```

パラメータの転送

ロードスクリプトとVBScript の間のパラメータの転送には、次の規則が適用されます。

- 欠けているパラメータは NULL として渡されます。
- 実際の数式が有効な数値と評価された場合は、その数値が渡されます。実際の数式が有効な文字列と評価された場合は、その文字列が渡されます。それ以外の場合は、NULL が渡されます。
- NULL は VT_EMPTY として渡されます。
- 戻り値は、自然な形式で処理されます。

7.19 アプリケーション パフォーマンスの最適化

はじめに

一般に、小規模または中規模の QlikView アプリケーションでは、アプリケーションの設計中にパフォーマンスを心配する必要はありません。データが多くなるに従って、アプリケーションの設計が不十分だと、時間とメモリの制約が目立つ場合があります。簡単な設計の変更によって大幅にパフォーマンスを向上させることが可能です。この付録では、ありがちな落とし穴を指摘し、その改善法を提案します。

一般に、"問題" をアプリケーション オブジェクトからスクリプト ドリブン データベースに移動すると、パフォーマンスが向上します。多くの場合、これには長所と短所があります。応答時間は向上しますが、アドホックな機能は低下します。以下の推奨事項は、すべての場合に適しているわけではありません。アプリケーションの状態が全般的によくなる場合、または違いがあまりない場合に使用してください。

以下に、問題に対応するために適用する方法の例を示します。問題について説明し、便利な QlikView 機能を紹介します。どの方法が最適かを推奨することはできませんが、重要度が高い順に例を説明します。

If (Condition(Text),....)

一般に、テキストを比較する句は時間がかかります。解決方法としては、*autonumber* などを使用してテキストを数値にマップしたり(前のセクションの例を参照)、スクリプト内でテストします。

テキスト文字列のテストは、数値のテストより遅くなります。次の数式について考えます。

```
If (Alfa= 'ABC', 'ABC', left (Alfa, 2))
```

柔軟性を損なわずにスクリプト内で直接テストを実行できます。

```
Load
*,
If (Alfa = 'ABC', 1, 0) as Flag
resident table_1 ;
```

数式は次のようになります。

```
If ( Flag = 1,'ABC', left (Alfa, 2))
```

テストはかなり簡単になります。

Sum (If (Condition, ‘FieldName’...))

ここでは、集計がテーブルの軸とは無関係で、結果がテーブルの複数の軸に分散します。この問題には、スクリプト内でテストを行い、テーブル内で集計するか、スクリプト内ですべての演算を行うことで対処できます。これには、*interval match*、[*group by*、*peek*、*if....then....else* などの多くの方法があります。

この例では、"Condition" のテストと結果の集計の 2 つの手順を行います。前の例に集計を追加します。

Sum (If (Alfa= ‘ABC’, Num*1.25 , Num))

```
Load
*,
If (Alfa = ‘ABC’, 1, 0) as Flag
resident table_1 ;
```

数式は次のようになります。

```
Sum ( If ( Flag = 1, Num* 1.25 , Num ) )
```

集計は、スクリプト内で次のように直接実行することもできます。

```
table_2:
Load
*,
If (Alfa = ‘ABC’, 1, 0) as Flag
resident table_1 ;
table_3:
Load
Alfa,
If ( Flag = 1, Num* 1.25 , Num ) as NewNum
resident table_2 ;

table_4:
Load
Alfa,
Sum( NewNum ) as SumNum
resident table_3
group by Alfa ;
```



Alfa がテスト内の軸なので、集計は Alfa に対して行われます。

If (Condition, Sum(‘FieldName’)..)

この構文は、前の例との違いを強調する目的でここに入れました。この集計は完全にコンテキスト目的です。一般にはパフォーマンスの問題が発生しません。

If (Condition1, Sum(‘FieldName’), If (Condition2, Sum(‘FieldName’)...

... ..

ネストされた *If...then else...* ロジックは、概念的には簡単ですが、しばしば対処しにくい問題の元になります。数百のネストレベルが含まれていた例もあります。これはメモリとCPU の両方を集中的に使用します。この "Condition" は、変換によって置き換えが可能なことがよくあります。典型的な例は、*quantity*price* の集計です。price は変数です。これは、"拡張 intervalmatch" で処理できます。たとえば、次の 2 つの条件 “*A* AND *B*” が満たされる場合、このテストは 1 つの条件 "*C*" に置き換えることができます。

例：

```
sum((GAC12_STD_COST * GAC15_EXCHANGE_RATE) * GIV24_DISP_QTY)
Replaces
sum
If((GAC12_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT and
GAC12_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT) and
(GAC15_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT and GAC15_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT),
GAC12_STD_COST * GAC15_EXCHANGE_RATE) * GIV24_DISP_QTY,
Null()))
```

および

```
sum
If(GAC12_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT,
If(GAC12_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT,
If(GAC15_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT,
If(GAC15_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT,
(GAC12_STD_COST * GAC15_EXCHANGE_RATE) * GIV24_DISP_QTY,
Null())))))
```

項目 GAC12_STD_COST とGAC15_EXCHANGE_RATE を SCD (穏やかに変化する軸) として読み取ります

拡張された intervalmatch 構文を使用した穏やかに変化する軸 (SCD) 問題の解決 (page 201)

テキストのソート

QlikView は、*項目を数値*、*テキスト*、*汎用*のどれとして処理するか自動的に評価します。*テキスト*として評価された項目は、ソート操作に最も時間がかかる*テキスト*としてソートされます。これを load order でソートするように手動で置き換えることができます。リスト ボックスなどでソートが必要でない場合は、無効にします。

QlikView は、文字と数値が混在する文字列を、アルファベット順にソートします。つまり、従来のASCII コードのみのソート順とは異なり、数字は数値順にソートされ、非数字はASCII コード順にソートされます。例:

テキスト ソートの例

ASCII ソート	アルファベット ソート
A1	A1
A10	A4
A11	A5
A30	A6
A4	A10
A5	A11
A6	A30

動的なキャプションおよびテキスト オブジェクト

テキストを入力できるほぼすべての場所に、動的計算式を入力できます。ただし、数式の評価に必要なリソースは、環境によって異なります。数式ダイアログで定義されるチャートおよびテーブル内の数式は、オブジェクトが表示されるときとデータが変更されるときにのみ計算されます。したがって、オブジェクトが最小化されている場合は計算されません。

一方、オブジェクトのタイトルが計算される場合は、何らかの変更が発生するたびに計算が実行されます。表示条件、計算条件などを定義する方法も多くあります。このようなテストも毎回実行されます。

ある数式は他の数式より負荷が大きく、評価回数が多くなるとさらに負荷が大きくなります。非同期の計算の導入によってこの動作は変化しており、それらの効果もアプリケーション内でわかりやすくなっています。

Now()、**Today()** などの時間関数は、再計算が必要な場合に必ず評価されます。特に、**Now()** 関数は、毎秒アプリケーションで再計算されるため、負荷が大きくなります。

例:

```
If ( ReloadTime()+3>Now(), 'Old Data', 'New Data')
```
次の例もあります。

```
If ( ReloadTime()+3>Today(), 'Old Data', 'New Data')
```
簡単なテストとして、これらの数式をテキストボックスに置きます。**Now()** が中にあるテキストボックスをサイズ変更してみてください。

マクロのトリガー("変更時")

マクロは、アプリケーション内で発生するほとんどのイベントでトリガーするように設定できます。あるイベントが次のイベントをトリガーし、それがさらに次のイベントをトリガーするようなイベントのカスケードまたは再帰的なイベントに注意してください。

7.20 データ保護問題

以下の説明は、既存のデータベース管理システム (DBMS) が存在し、QlikView が出力ツールとして使用されていることを前提としています。ただし、この説明は、テキストファイル形式の未加工データにも当てはまります。

データセキュリティと統合

通常、データ保護には複数の意味があります。入力されたデータが誤って変更されたり破壊されないようにすること、データが正しい方法で入力されるようにすること、承認されていないユーザーにデータを共有されないようにすることなどを意味します。

整合性とセキュリティという用語は、しばしばこの文脈で使用され、2 つの概念は一見同じようにも見えますが、実際にはかなり異なります。セキュリティは未承認のアクセスに対するデータの保護を意味し、整合性はデータの有効性を意味します。つまり、

- セキュリティは、ユーザーがしようとすることを許可することも含まれます。
- 整合性は、ユーザーが実行しようとすることを正しく実行できるようにすることです。

データ整合性のための仕組みは DBMS から提供されるため、ここでは、主にデータセキュリティについて説明します。

データを変更する権限

セキュリティの最初のステップは、ユーザーが不注意でデータを消去したり、変更することができないようにすることです。マルチユーザーシステムでは、これは適切に保護されたオペレーティングシステムとデータベース管理システムを使用することを意味します。このような PC 用のオペレーティングシステムの例としては、Windows NT や Novell があります。データベース管理システムの例としては、ORACLE、SQL Server、Informix があります。

データがオペレーティング システムによって保護されない場合は、常に誤ってデータが削除される可能性があります。このことは、ファイルがパスワード保護されている場合でも当てはまります。

次のステップは、認証されたユーザーの権限を設定することです。適切に設定されたシステムでは、適切なツールを使用しないとデータを操作できません。このツールとは、ユーザーが実行しようとしていることを実行することが許可されているかどうかをチェックするためのツールです。

シングル ユーザーの場合は、セキュリティの問題の大部分は存在しません。通常は、定期的にデータ ファイルをバックアップするだけで十分です。

データを表示する権限

データ セキュリティの最後の問題は、機密情報を処理する場合のセキュリティです。今までのセキュリティの問題はデータを変更する権限に関するものでしたが、この問題はデータを表示する権限に関するものです。大部分のデータベース管理システムには、データベース内のデータをユーザーから見えないようにする手段が組み込まれています。だたし、ユーザーが QlikView ファイル内のデータのコピーを見ることを防ぐことはできません。このため、QlikView は、承認されていないユーザーがデータを表示できないようにする手段を備えています。ただし、QlikView のアクセス制限 ツールは、データを表示する権限のみを制御することに注意してください。QlikView では、他のツールでユーザーがデータを破壊することは防げません。これができるのはオペレーティング システムだけです。

データ整合性

データの整合性は、構造化されたデータの流れを意味します。統一された方法でデータが入力されるようにデータの入力手順を設定する必要があります。このためのよい方法は、DBMS でフォームを設計することです。また、フォームでユーザーが無効な値 (存在しない顧客番号など) をデータベースに入力できないようにします。

シングル ユーザーのデータベースで作業する場合は、複数の人が同時にデータベースを使用しないように注意する必要もあります。マルチ ユーザーのデータベースは、その名前からもわかるように、複数のユーザーが同時にデータベースを編集しても処理できます。

この問題に関連する他の側面として、ファイルまたはデータベースがオリジナルか、それともコピーかを理解しておく必要があります。この理解がないと、ユーザーがデータベースのコピーにデータを入力してしまう可能性が高くなります。

8 ドキュメントとチャートの作成

QlikView ドキュメントは、グラフィカルなチャートを含む多数のシートと、ユーザーがデータと交流して解析できるその他のシートオブジェクトで構成されています。QlikView を使うと、独自の明確でインタラクティブなチャートとその他のシートオブジェクトを設計および作成でき、それらをドキュメント内のシートに配置できます。

ドキュメントを作成するとき、テーブルとチャートタイプ (棒グラフ、円グラフ、ゲージなど) のパレットを使用できます。テーブルとチャートでは、項目の追加やカスタマイズが簡単に行えます。QlikView は、選択に関連するアイテムを自動的にハイライトするために、ドリルダウンやフィルターといったインタラクティブな機能が内蔵されています。個々のチャートに特有の機能を用いることで、インタラクティブ性をさらに高めることもできます。

シートにテーブルとチャートを追加するにあたって、次のような経験則を考慮する必要があります。

- 色、名前、スタイルを一貫して使用することで、ユーザーがドキュメントを容易にナビゲートしたり理解したりできるようになります。
- 整頓されたシートとテーブルとデータを中心に据えた構成にする。
- シートごとにいくつかの指標 (KPI) に焦点を当て、優先順位に基づき表示する。
- ユーザーがデータをドリルダウンできる構成にする。たとえば、年、月、週、日でドリルダウンしやすいように時刻と日付の軸を作成。
- 色覚異常に対応するため、赤と緑はインジケータの色として使用しない。

数多くのアイデアが得られるデモを確認してください。

8.1 詳細

QlikView デモ

チュートリアル

8.2 ドキュメントプロパティ

ここで、起動画面や音、デフォルトのフォント、ソート順など、ドキュメント固有のパラメータを特定のドキュメントに指定できます。

ドキュメントプロパティ:基本設定

一般的なドキュメントのプロパティ

プロパティ	説明
タイトル	ここでは、ウィンドウのキャプションに表示されるタイトルを入力できます。初期設定では、ドキュメントのファイル名が使用されます。変更するには、**タイトル** 編集ボックスにその内容を入力します。
作成者	**[作成者]** 編集ボックスでは、QlikView ファイルの作成者を指定します。

プロパティ	説明
保存形式	このグループでは、QlikView ファイルの圧縮レベルを設定します。 • **圧縮率**: **[標準]** と**[高]** オプションは、ロードや保存スピードに多少影響がでますが、QlikView ファイルのサイズを大幅に減少させます。**ドキュメントプロパティ**の圧縮率オプションの設定は、現在のドキュメントに作用します。**ユーザープロパティ**の圧縮率オプションの設定は、新規作成のドキュメントに作用します。
ポップアップアラート	このボタンはポップアップアラートメッセージを定義する**[ポップアップ ウィンドウ設定]** ダイアログを開きます。
ポップアップヘルプ	このボタンはポップアップヘルプメッセージを定義する**[ポップアップ ウィンドウ設定]** ダイアログを開きます。
並列ステート	並列ステート機能は QlikView 開発者によって有効化されます。開発者はこのボタンをクリックして**並列ステート**ダイアログを開きます。 *この機能が QlikView ドキュメントで本当に必要でない限り有効にしないでください。*
メモリ稼働統計	現在の QlikView ドキュメントのメモリ使用量統計を含むテーブルファイルを保存するには、このボタンをクリックします。このファイルは、たとえば、ドキュメントのさまざまな部分の必要メモリ量を分析するために QlikView で読み取ることができます。
シート背景の設定	ドキュメントウィンドウの **シート背景の設定** の **背景色** は、このチェックボックスをオンにするとカスタマイズできます。色は、ボタンをクリックすると表示される**[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。また、**壁紙** チェックボックスをオンにして**変更** ボタンをクリックし、背景にする画像を指定できます。**画像の挿入** ダイアログが開き、画像ファイルを選択できます。 背景の画像は次のオプションで変更できます。 **画像形式:** • **縮小/拡大なし:** 画像はそのままのサイズで表示され、覆い隠すことが出来ない可能性があります。 • **塗りつぶし:** 画像は、縦横比を無視して、シート全体を覆うように拡大されます。 • **縦横比を固定する:** 画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。 • **縦横比を固定して塗りつぶし:** 画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。覆われなかった領域は切り取られた画像で塗りつぶされます。 • **並べて表示:** このオプションを選択した場合、画像は、スペースがあるだけ繰り返し並べて表示されます。 **水平方向と垂直方向:** • **水平:** 画像は水平方向に整列できます:**左揃え**、**中央揃え**、または **右揃え**。 • **垂直:** 画像は垂直方向に整列できます: **上揃え**、**上下中央揃え**、または **下揃え**。

プロパティ	説明
FTP をパッシブモードで実行する	**FTP をパッシブモードで実行する**チェックボックスをオンにすると、パッシブ FTP が有効になります。FTP パッシブモード オプションは、ファイアーウォールを通してサーバーに接続する場合に使用します。
ログ ファイルの生成	ロード スクリプトの実行を追跡するには、**[ログ ファイルの生成]** を選択します。スクリプト実行中に **[進捗]** ウィンドウに表示される情報が、qv.log として保存されます。
ログファイル名に日付と時刻を使用する	タイムスタンプを使用してログファイルに名前を付けます(例:*sales.qvw.2009_02_26_12_09_50.log*)。設定は、**ログ ファイルの生成**チェックボックスをオンにすると有効になります。
無効なメニュー オプションを隠す	**無効なメニュー オプションを隠す** は、セキュリティ設定と併せて使用されます。通常は灰色表示になるメニュー オプションが、ユーザーから完全に隠されます。
タブを隠す	**タブを隠す** チェックボックスをオンにすると、QlikView のシート タブが取り除かれます。シート間を移動するには、**[シートを右へ] / [シートを左へ]** もしくは **[表示]** メニューの**シート ツールバー**を使用する必要があります。オートメーション制御を使用して、ユーザーにシートの移動や選択を一定の順序で行わせることもできます。
照会先のない QVD バッファを保持する	**[照会先のない QVD バッファを保持する]** 設定は、作成元のドキュメントに使用されなくなった場合に、自動生成された QVD ファイル をロード スクリプトの実行後に消去する通常の手順を無視します。この設定は、通常オフにしておきます。
レガシー分位数計算	**[レガシー分位数計算]** チェック ボックスをオンにすると、Qlikview は分位数集計関数の結果として不連続値を使用します。チェック ボックスをオフにすると、QlikView は、Microsoft Excel の Percentile 関数のように補間値を使用します。
レイアウトを元に戻す機能を無効にする	**レイアウトを元に戻す機能を無効にする** チェック ボックスをオンにすると、レイアウトを元に戻すためのバッファが一時停止されます。特定の QlikView ドキュメントを配布するときに不必要なメモリ消費を避ける場合に便利な機能です。ユーザーまたはマクロがレイアウトを変更するたびに、通常、データのチャンクがレイアウトを元に戻すためのバッファに追加されます。極端な場合は、QlikView Server でドキュメントを配布するときに、蓄積されたバッファデータによって問題が発生することがあります。
WebView モードで表示する	QlikView 内で Web ブラウザを使用し AJAX ページとしてドキュメントを表示する **WebView** モードのオンとオフを切り替えます。
エクスポート エンコード設定	**エクスポート エンコード設定** を使用し、新規のドキュメントでエクスポートする際のデフォルトの文字セットを設定します。ANSI、Unicode、UTF-8 のいずれかを選択できます。

プロパティ	説明
スタイルのモード	**スタイルのモード** ドロップダウン メニューで、すべてのシート オブジェクトのオブジェクト スタイルを選択できます。 • **詳細設定** では、**シート オブジェクトのスタイル**やオブジェクトの**レイアウト**ページで設定/使用される枠線の種類などを設定できます。 • **簡易設定** でも、**シート オブジェクトのスタイル** を選択することができますが、ほとんどは自動的に設定されます。**スクロールのスタイル** や枠線などが設定されます。設定のいくつかは、オブジェクトの レイアウト ページで変更することができます。
シート オブジェクトのスタイル	**[シート オブジェクトのスタイル]** ドロップダウンで、シート オブジェクトのキャプションのスタイルを選択します。選択したスタイルは、ドキュメント内のすべてのキャプション付きのシート オブジェクトに使用されます。
タブのスタイル	**タブのスタイル** のドロップダウンから、タブの表示スタイルを 1 つ選択します。選択したスタイルは、ドキュメントのすべてのタブに使用されます。
選択スタイル設定	QlikView では、リスト ボックスやマルチ ボックスでデータを表示したり選択したりするためにいくつかの異なる方法をサポートしています。**QlikView Classic**、**コーナー タグ**、**LED**、および **LED チェック ボックス** スタイルはすべて、選択値、絞込値、および除外値を示すために色分けを使用しています。**チェックボックス** スタイルと**LED チェックボックス** スタイルは Windows の標準インターフェースに類似しており、各値にチェックボックスが付いています。このコントロールで個別のスタイルを選択すると、ドキュメントをどこで開いても個別のスタイルで表示できます。色に基づいた選択スタイルを使用する場合、多数の異なる配色が使用可能です。基本となる色の配色 (選択されていれば緑、ロックされていれば青など) は変更できませんが、さまざまな色調と強度が利用できます。 • **スタイル**: ドキュメントの選択のスタイルを設定します。ドロップダウン リストにある使用可能な選択肢から選択してください。**<初期設定>** を選択すると、ドキュメントは、常に、ドキュメントが開かれているコンピュータ上でユーザーが**ユーザー プロパティ**で指定したスタイルで開かれます。 • **配色**: ドキュメントの選択の配色を設定します。ドロップダウン リストにある使用可能な選択肢から選択してください。**<初期設定>** を選択すると、ドキュメントは、常に、ドキュメントが開かれているコンピュータ上でユーザーが**ユーザー プロパティ**で指定した配色で開かれます。 • **透過性**: リスト ボックスやマルチ ボックスで選択した色の透過性を設定します。
タブの背景	**タブの背景** ボタンをクリックし、タブ行の背景にカスタム カラーを指定します。

ポップアップ ウィンドウ設定

[ポップアップ ウィンドウ設定] ダイアログを開くには、**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** または **[アラート]** ダイアログ ページ (**[設定]** メニュー内) を選択します。**[ポップアップ ヘルプ]** や **[アラート ポップアップ]** のプロパティ設定に使用されます。

ダイアログでは、次のプロパティが設定できます。

[フォント] ボタンをクリックすると、標準の **[フォント]** ダイアログが開き、ポップアップ テキストのフォント設定を変更できます。

ポップアップ ウィンドウの **[背景色]** は、色のボタンをクリックすると表示される **[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。

ポップアップ用のデフォルト **アイコン**は、それぞれ **[ポップアップ ヘルプ]** は **クエスチョン マーク**。そして **[アラート ポップアップ]** は **アラート アイコン**です。他のオプションを選択するか、**アイコンなし**を選択します。

設定した経過時間が過ぎた後自動的にポップアップ ウィンドウを閉じるには、**[タイムアウト]** 編集ボックスに経過時間を入力します。(この経過時間はミリ秒で表します。タイムアウトを 0 に設定すると、ポップアップは、ユーザーが別の場所をクリックして移動しない限り画面に表示されたままになります。)

ポップアップに音をリンクするには、**[サウンド]** をオンにします。下の編集ボックスには、.wav サウンド ファイルの有効なパスを指定します。外部パス (例: c:\mysound.wav)、バンドルされている QlikView サウンドへのパス (例: qmem://<bundled>/sounds/qv_ok.wav) などを指定できます。

色の設定

QlikView レイアウトの色を使うほとんどの面は、**[色の設定]** ダイアログで設定できます。領域全体をカバーする単色やグラデーション効果を指定します。下に記述されたグラデーションのオプションは、テキストの色などいくつかの目的には利用できず、ダイアログで灰色表示されます。

- **単色**: 一律の **[基本色]** を使用する基本オプション。
- **1 色グラデーション**: このオプションでは、**明るさ**の変化を使用して 1 色グラデーション効果を作成します。
- **2 色グラデーション**: 色のグラデーション効果は、**[基本色]** と指定した **[第 2 色]** の間で作成されます。

色は、**基本色** グループと**第 2 色** グループで、固定もしくは計算に指定できます。

ダイアログでは、いずれの色設定もプレビュー表示されます。

基本色 グループでは、単色およびグラデーションの基本色を決定します。

- **固定** : ひとつの基本色を指定します。色を変更するには、色付きボタンをクリックします。
- **計算**: 色は数式から動的に計算することもできます。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。
- **明るさ**:**1 色グラデーション** を使用する場合、このスライダでグラデーションの対極における色の相対的な影 / 明るさを決定します。このスライダー設定は、暗い (左) から明るい (右) となります。設定の中央位置は、同一色と解釈されます。

第 2 色 グループでは、2 色グラデーションの 2 つ目の色を決定します。

- **固定** : ひとつの基本色を指定します。色を変更するには、色付きボタンをクリックします。
- **計算**: 色は チャートカラー関数を使用して、数式から動的に計算することもできます。

[1 色グラデーション] または **[2 色グラデーション]** を選択すると、グラデーション効果の方向が **[グラデーション スタイル]** グループの設定に基づいて決まります。**水平**、**垂直** などのスタイルとグラデーションの方向を示す 4 つのボタン エリアとを組み合わせて異なる結果を実現します。

ドキュメント プロパティ: を開く

このページでは、ドキュメントの起動画面をカスタマイズできます。

ドキュメント起動プロパティ

Property	説明
画像	ドキュメントに起動画面の画像を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
選択	このボタンをクリックすると**画像の挿入**ダイアログが開き、画像 (bmp、jpg、jpeg または png) を選択できます。
マウスクリックで閉じる	起動画面の画像をユーザーがクリックすると、画像が閉じます。このチェックボックスと下のチェックボックスのいずれかをオンにする必要があります。
一定時間後に閉じる	起動画面の画像を自動的に閉じます。このチェックボックスと上のチェックボックスのいずれかをオンにする必要があります。
ロード完了時に閉じる	ファイルのロードが完了すると、起動画面の画像が閉じます。
サウンド	ドキュメントに起動音を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。これにより、**[選択]** ボタンが有効になります。
選択	このボタンは**音声ファイル選択**ダイアログを開き、音声ファイルを参照できます。
再生	このボタンをクリックして、選択したサウンドを再生します。
セクションアクセスによる初期データ削除	**[セキュリティ]** オプションを選択した場合、ドキュメントを開くときに (または QlikView Server で新しい接続を確立するときに)、ドキュメントへのログオンに使用された認証に基づいてユーザーに特定のデータをまったく表示しないようにするための処理が実行されます。 QlikView Server 上で排他的に実行されていないドキュメントに対してこの機能を使用する場合は、データアクセスセキュリティを維持するために、必ず **[バイナリロード禁止]** オプション (以下を参照) と組み合わせてください。この設定は、**[セクション アクセスによる初期選択]** と互いに矛盾します。
強制削除	このチェックボックスが**セクション アクセスによる初期データ削除**と共に選択されている場合は、データを削除する際に強制排除が使用されます。つまり、セクション アクセス削除項目の項目値が、対応するセクション アプリケーション項目で一致しない場合、ドキュメントへのアクセスは拒否されます。ただし、この機能は管理者ステータスを持つユーザーには適用されず、一致がない場合、これらのユーザーには削除されていないデータセットが表示されます。
セクションアクセスによる初期選択	このオプションを選択した場合は、ドキュメントを開くときに (または QlikView Server で新しい接続を確立するときに)、ドキュメントへのログオンに使用されたユーザー認証に基づいて選択されたデータを表示するための処理が実行されます。QlikView Server 上で排他的に実行されていないドキュメントに対してこの機能を使用する場合は、データアクセスセキュリティを維持するために、必ず **[バイナリロード禁止]** オプション (以下を参照) と組み合わせてください。この設定は、**[セクション アクセスによる初期データ削除]** と互いに矛盾します。
バイナリロード禁止	このオプションが選択されている場合、別の QlikView ドキュメント内の**バイナリ**ステートメントを使用して QlikView ドキュメントからデータをロードすることはできません。
ドキュメントのサムネイル	**サムネイル** オプションを選択している場合の、アクセスポイントでのドキュメントの表示方法を設定します。 • **なし**:**Missing Image** と書かれたサムネイルがアクセスポイントに表示されます。 • **開始シート**: ドキュメントの開始シートがアクセスポイントに表示されます。 • **画像**: **[参照]** ボタンをクリックし、アクセスポイントに表示する画像を選択します。

ドキュメントプロパティ: シート

ドキュメントプロパティ: シート タブは、QlikView ドキュメントのすべてのシートやシート オブジェクトを把握するのに役立ちます。このページには、**シート**と**シート オブジェクト**の 2 つのリストがあります。

どちらのテーブルも、列ヘッダーをクリックして、任意の列でソートできます。

シート リストには以下の情報が含まれています。

ドキュメント シートプロパティ

Property	説明
#	0 で始まるシート番号 (位置)。
シートID	シートの一意の **ID**。
タイトル	シート タブに現在表示されているテキスト。
状態	シートの状態が「標準」、「隠す」、「条件付き」のどれであるかを示します。
オブジェクト数	シートにある現在のシート オブジェクト数。

リストのシートをクリックし、下にある **削除** ボタンを使用する、また、このメニューから直接その **プロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、ボタンを使用してシートを **左へ/右へ** 動かすこともできます。

シート オブジェクト リストには以下の情報が含まれています。

ドキュメント シート オブジェクトプロパティ

Property	説明
シートID	シートの一意の **ID**。
オブジェクト ID	既存のシート オブジェクトの一意の**オブジェクトID** をリスト表示します。リンク オブジェクトは、同じオブジェクトID を共有します。
タイプ	オブジェクトの種類を明確に記載します。
キャプション	シート オブジェクトのキャプションに現在表示されているテキスト。
表示モード	オブジェクトの状態が「標準」、「最小化」、「最大化」、「隠す」、「条件付き」のどれであるかを示します。
演算時間	オブジェクトの内容の前回の演算にかかったミリ秒単位の時間。この情報は、チャート、テーブル ボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。
レイヤー	シート オブジェクトのプロパティダイアログの **[レイアウト]** ページで設定されレイヤーで、**[背面]**、**[標準位置]**、**[前面]** は、リストに表示される番号 -1、0、1 に対応します。(ただし、シート オブジェクトのレイヤーは、オートメーション API によって -128 ~ +127 の任意の番号に設定できます。)
メモリ	オブジェクトの内容の前回の再演算にかかった一時メモリ量 (KB)。この情報は、チャート、テーブル ボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。

Property	説明
左、上、右、背面	シートオブジェクトの端の、ドキュメントウィンドウの端との相対的な現在位置 (ピクセル単位)。
幅、高さ	シートオブジェクトのサイズ・寸法 (ピクセル単位)。
左 (最小化)、上 (最小化)、右 (最小化)、下 (最小化)	アイコン化 (最小化) 時のシートオブジェクトの現在位置 (ピクセル単位)。
幅	シートオブジェクトの最小化アイコンの現在の幅 (ピクセル単位)。
高さ	シートオブジェクトの最小化アイコンの現在の高さ(ピクセル単位)。
構造のエクスポート	このボタンを押すと、ドキュメントのシートおよびシートオブジェクト構造を一連のテキストファイルにエクスポートできます。シート用のテキストファイル (*filename.Sheets.tab*) と、シートオブジェクト用のテキストファイル (*filename.Objects.tab*) が生成されますが、これらは、QlikView で簡単に読み取ることができ、QlikView のロジックを十分に活用して詳細に分析できます。エクスポートするターゲットフォルダを選択できるダイアログが表示されます。デフォルトでは、ファイルは QlikView ドキュメントと同じフォルダに保存されます。

リストのオブジェクトをクリックし、下にある **削除** ボタンを使用する、また、このメニューから直接その **プロパティ**ダイアログを開きます。Ctrl キーを押しながらクリックすると複数のオブジェクトを選択できます。

ドキュメントプロパティ: サーバー

このページでは、QlikView Server 上で実行されるドキュメントの動作の一部を定義します。

サーバーのドキュメントがアップデートされた場合の更新モード

この設定は、QlikView Server の更新されたドキュメントの処理方法を定義します。

クライアント側で更新を開始します。古いデータがサーバーから削除されたり、クライアントアプリケーションが古すぎた場合は、接続を切断します。

サーバーがクライアントのデータの更新を自動的に開始しないようにする場合は、このオプションを選択します。サーバーでドキュメントの新しいバージョンが使用可能になると、クライアントは、以下の **クライアント側の更新開始モード**の設定に従って更新を行うよう促されます。QlikView Server コントロールパネルで **[Allow only one copy of document in memory]** がサーバーで有効に設定されており、クライアントが更新を実行できない場合は、接続が切断されます。

クライアント側で更新を開始します。古いデータがサーバーから削除されたり、クライアントアプリケーションが古すぎた場合は、自動的に更新されます。

可能な場合はクライアント側でデータの更新を開始し、必要に応じてサーバーが自動的に更新を開始することを許可する場合は、このオプションを選択します。サーバーでドキュメントの新しいバージョンが使用可能になると、クライアントは、以下の **クライアント側の更新開始モード**の設定に従って更新を行うよう促されます。

QlikView Server コントロール パネルで **[Allow only one copy of document in memory]** がサーバーで有効に設定されており、クライアントが更新を実行できない場合は、サーバーによって自動的に更新が行われます。

クライアント側の動作なしにサーバー側で自動的に更新を開始します。

サーバーがクライアントのデータの更新を常に自動的に開始するようにする場合は、このオプションを選択します。サーバーでドキュメントの新しいバージョンが使用可能になると、クライアントのデータが更新されます。

クライアント側の更新開始モード

この設定は、サーバーに新しいデータがあることをクライアントがどのように通知され、更新を開始するかを定義します。この設定は、上記の **サーバーのドキュメントがアップデートされた場合の更新モード** でクライアント側での更新開始を選択した場合にのみ有効です。

ツールバーの更新ボタンを有効にします。

Ajax クライアントおよび QlikView プラグインでは、新しいデータがあることは、ツールバーの **[最新の情報に更新]** ボタンが有効になることで示されます。QlikView Desktop では、新しいデータがあることは、**[ファイル]** メニューの **[ドキュメントを最新の情報に更新]** コマンドによって示されます。ユーザーがビジュアライゼーションを操作している状態にならない限り、新規データの利用設定は示されません。Ajax クライアントまたは QlikView プラグインでツールバーのボタンをクリックするか、QlikView Desktop で **[最新の情報に更新]** コマンドをクリックして更新を選択すると、更新が実行されます。

ツールバーの更新ボタンを有効にし、ダイアログを表示して知らせます。

新しいデータがあることは、Ajax クライアントおよび QlikView プラグイン ツールバーまたは [QlikView Desktop **ファイル]** メニューで有効になった **[最新の情報に更新]** ボタン以外に、プロンプトダイアログによって示されます。ユーザーがビジュアライゼーションを操作している状態にならない限り、新規データの利用設定は示されません。このダイアログでは、すぐに更新するか後で更新するかを選択できます。後で更新する場合は、Ajax クライアントまたは QlikView プラグインでツールバーのボタンをクリックするか、QlikView Desktop で **[最新の情報に更新]** コマンドをクリックして更新を選択すれば、いつでも更新を実行できます。

自動的に更新を開始し、ダイアログに表示して知らせます。

サーバーに新しいデータがあることがわかると、すぐに更新が開始されます。更新が実行中であることを示すダイアログが表示されます。

自動的に更新を開始します。

サーバーに新しいデータがあることがわかると、すぐに更新が開始されます。更新が実行中であることを示すダイアログは表示されません。サーバーの設定やドキュメントのサイズによっては、わずかの間、場合によっては数分間、ドキュメントが「フリーズ」する場合があります。

サーバー オブジェクト

このグループの設定により、ドキュメントを QlikView Server で実行しているときに、クライアントが特定の要素を作成したり共有できないようにすることができます。QlikView Server コントロール パネルで **[QlikView Server での共有を許可する]** の設定を無効にすると、サーバー上のすべてのドキュメントのあらゆる種類の共有オブジェクトを無効にできます。この設定は、以下の設定より優先します。

サーバー ブックマークを許可する

リモート クライアントが QlikView Server 上のドキュメントにブックマークを作成および共有することを許可する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。また、**サーバー オブジェクトを許可 (Allow Server Objects)**を有効にする必要があります。

サーバー オブジェクトを許可 (Allow Server Objects)

リモート クライアントが QlikView Server 上のドキュメントにシート オブジェクトを作成および共有することを許可する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

サーバー レポートを許可する

リモート クライアントが QlikView Server 上のドキュメントにレポートを作成および共有することを許可する場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

OEM 製品 ID

このグループの設定では、OEM 製品 ID をドキュメントに追加することができます。OEM 製品 ID は、OEM の顧客のみがドキュメントを開けるように設定する上で役立ちます。このオプションは OEM パートナー ライセンスで有効になります。

OEM 製品 ID

ドロップダウン リストから**OEM 製品 ID** 選択します。

QlikView Server タイムアウト

ドキュメントを QlikView Server で公開する場合は、セキュリティ強化のため、最大接続時間を設定して、アクティブでない接続や長すぎる接続をサーバーが切断するようにすることをお勧めします。このページの下部にある設定を使用すると、これをドキュメント レベルで設定できます。したがって、機密データを含むドキュメントに対する制限をそれ以外のドキュメントに対する制限より厳しくすることができます。

対応する設定はサーバー側にもあり、サーバー側の設定は、公開されたすべてのドキュメントに対して有効です。この 2 つの設定のうち、より制限の厳しい設定が使用されます。

最大アイドル時間 (秒)

このチェック ボックスは、非アクティブな接続のタイムアウトを有効にします。つまり、サーバーは、指定された時間ユーザーがクリック操作を行っていない接続を切断します。非アクティブな接続がタイムアウトするまでの時間は、秒単位で設定します。

最大接続時間 (秒)

このチェック ボックスは、合計接続時間によるタイムアウトを有効にします。つまり、サーバーは、指定された時間が経過すると、ユーザーがクリックしたかどうかに関係なく、接続を切断します。接続がタイムアウトするまでの合計接続時間は、秒単位で設定します。

サーバーからの更新を有効にする

サーバーでのドキュメントの更新を許可する場合には、このチェック ボックスをオンにします。



これは AJAX を使用してサポートされていません。

動的データ更新を有効にする

サーバーでのドキュメントのダイナミック更新を許可する場合には、このチェックボックスをオンにします。

セクション アクセスで AccessPoint のドキュメント リストにフィルターをかける

このチェックボックスを有効にすると、AccessPoint や [サーバーから開く] でユーザーに表示されるドキュメントは、セクション アクセス、もしくは他のアクセス権でアクセスできるドキュメントのみとなります。セクション アクセスの NTNAME 列に示される名前は、QlikView ドキュメント ファイルにプレーン テキストで保存されますが、パスワードは保存されません。



このオプションが有効な場合、AccessPoint は、一部のケースで、セクション アクセスに基づきユーザーにはアクセス権のないドキュメントをリストアップします。なぜなら、セクション アクセスの機能が作動するからです。しかし、ユーザーはこれらドキュメントを閲覧できますが、開くことはできません。

ドキュメントプロパティ: 変数

ドキュメントプロパティ: [変数] ページには、入力ボックスプロパティの **[表示変数]** に追加されているスクリプト変数が表示されます。変数のリストは、**システム変数の表示** チェックボックスで変更できます。**[新規作成]** ボタンで、ドキュメントに新しい変数を追加できます。**削除** ボタンは、選択された変数を削除します。

[選択変数の設定] グループでは、選択された変数の現在の**値**が編集ボックスに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

変数は、通常ブックマークには含めませんが、ここで **ブックマークに含める** チェックボックスをオンにできます。Qlik Cloud で [*Excel に送信*] オプションを機能させるには、**[ブックマークに含める]** を選択する必要があります。

[入力制約] グループにより、入力ボックスの変数にユーザーが入力したすべての値をチェックするための制約を指定できます。値が指定された制約を満たさない場合、その値は拒否され、エラー メッセージを表示できます。次の選択肢を使用できます。

入力制約オプション

オプション	説明
制約なし	入力値はいかなる制約に対してもチェックされません。
標準	入力値は、ドロップダウン ボックスで選択した一般的な標準制約のいずれかに対してチェックされます。デフォルトでは、何も制約が選択されておらず、任意の値を変数に入力できます。次から1つだけを選択できます: **[標準]**、**[カスタム]**、**[組込み値のみ]**、**[読み取り専用]**。

オプション	説明
カスタム	ユーザー指定の制約に関して入力値がチェックされます。制約は編集ボックスに入力し、入力値が有効な場合に TRUE (0 以外の値) を返す QlikView 式として表す必要があります。数式では、入力値はドル記号 ($) で参照します。 **$>0** を指定した場合、入力ボックスは、選択した変数に正の数のみを受け付けます。 変数の前の値は、変数名で参照できます。 変数 abc に対する制約として **$>=abc+1** を指定した場合、入力ボックスは「前の値 + 1」以上の値の数値エントリのみを受け付けます。
組込み値のみ	入力値は、**組込み値** グループで定義されている値のリストに対してチェックされます。リストにある入力値だけが受け付けられます。
読み取り専用	変数を読み取り専用としてマークします。値は入力できません。
数式の編集ダイアログを有効にする	このチェックボックスをオンにすると、**数式の編集** ダイアログで変数値を編集することができます。このダイアログは、値をクリックすると表示される **[...]** ボタンから開けます。

制約監視

オプション	説明
不正入力時のアラート音	このチェックボックスをオンにした場合、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとすると、QlikView は警告のアラート音を鳴らします。
エラーメッセージ	通常、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとすると、その値は拒否され、現在の変数値が入力されたままになります。このチェックボックスをオンにすると、不正な入力があった場合にユーザーに提示するカスタム エラー メッセージを指定できます。エラー メッセージを編集ボックスに入力します。動的に更新する数式として指定することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

リスト表示する値 グループでは、入力ボックスに値をリスト表示する方法や表示するかどうかを設定できます。

値リストオプション

オプション	説明
リストなし	以前に変数で使用された値のリストは保持されません。
最近使用した値のリスト	選択した変数の入力ボックスに、最近使用した値のドロップダウンリストが提供されます。以前の値をいくつ保存するかをボックスで設定できます。
組込み値をドロップダウン表示	選択した変数の入力ボックスに、**組込み値**のドロップダウンリストが提供されます。
組込み値をスクロール表示	選択した変数の入力ボックスに、スクロールコントロールが提供されます。**組込み値**の間でスクロールが行われます。

[組込み値]グループでは、ドロップダウンリストでユーザーに提示したり、有効な変数値の定義に使用できる組込み値のリストを指定したりできます。

値項目オプション

オプション	説明
連続値	このチェックボックスをオンにすると、下限値、**(最小値)**、上限値 **(最大値)**、**間隔値** に基づいて、組込みの数値リストが生成されます。このオプションは、単独で使用することも、**リスト値** と組み合わせて使用することもできます。
リスト値	このチェックボックスをオンにすると、任意の組込み値のリストを指定できます。値には、数値またはアルファベットを使用できます。英数値は引用符で囲む必要があります (例:'abc') (複数イベント発生時 (複数イベント完了時))。複数の値はセミコロン **(;)** で区切ります (例:'abc';45;14.3;'xyz'). このオプションは、単独で使用することも、**連続値** と組み合わせて使用することもできます。
コメント	この項目は、変数の作成者がその機能や目的を説明できるコメント項目です。

変数の新規作成

[変数の新規作成]ダイアログを開くには、**[変数の新規作成]**ボタン **([入力ボックスプロパティ: 基本設定]** ページ内) または **[新規作成]**ボタン **([ドキュメントプロパティ: 変数]** ページ内) をクリックします。**[変数名]** に新しい変数の名前を入力します。

ドキュメントプロパティ: セキュリティ

このプロパティページでは、ドキュメントレベルの **ユーザー権限** を設定できます。初期設定では、すべてのオプションのチェックボックスがオンに設定されています。管理者権限を持つユーザーは、いつでもこのダイアログにアクセスして設定を変更できます。設定はさまざまな方法で、普通のユーザーがドキュメントの変更を行うのを防ぎます。オプションは次のとおりです。

ドキュメント暗号化プロパティ

Property	説明
データの削除	**[データの削除]** コマンドの使用を許可します。

Property	説明
シートの追加	ドキュメントへの新しいシートの追加を許可します。
ロードスクリプトの編集	**[ロードスクリプトの編集]** ダイアログへのアクセスを許可します。
リロード	ロードスクリプトの実行を許可します。  *[リロード]* と *[パーシャル リロード]* *(以下を参照)* への許可は、メニューの *[ファイル]* から起動できる *[データの削除 - 現在の除外値を削除]* を実行すると自動的に無効となります。
パーシャル リロード	[パーシャル リロード] の実行を許可します。
モジュールの編集	**[モジュールの編集]** ダイアログへのアクセスを許可します。
ドキュメントの保存 (ユーザー)	ユーザー権限でのドキュメントの保存を許可します。
ドキュメントプロパティへのアクセス (ユーザー)	ユーザー特権付きで **設定 : ドキュメントプロパティ** へのアクセスを許可します。
シートの移動	**シートを左へ** と **シートを右へ** コマンドの使用を許可します。
エクスポートを許可する	**エクスポート、印刷** もしくは **クリップボードにコピー** コマンドの使用を許可します。
(エクスポート禁止時に) 印刷を許可する	印刷の目的のために **[エクスポートを許可する]** 設定を無視します。
タブプロパティへのアクセス	**[タブプロパティへ]** へのアクセスを許可します。
マクロによるセキュリティの上書き	オートメーションによるマクロとコマンドを使用して、すべてのセキュリティ設定を上書きします。
すべてのシートとシートオブジェクトを表示	シートやシートオブジェクトの表示条件が無視され、すべて表示されます。 CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。
隠しロードスクリプトの進捗を表示	隠しスクリプトの実行中も、ダイアログにスクリプトの進捗状況を表示します。
ユーザーにリロードを許可する	ユーザー モードでドキュメントが開かれている場合に、ロードスクリプトのリロードを許可します。無効にすると、上記の **リロード** チェック ボックスがオンでもリロードできなくなります。
セキュリティを管理者権限で上書きする	管理者としてログインした場合に、ドキュメントやシートレベルのすべてのセキュリティ設定を上書きします。

Property	説明
モジュール パスワード	**[モジュールの編集]** ダイアログを開くためのパスワードを設定します。パスワードを変更するには、**[モジュール パスワード]** ボタンを再度クリックします。

ドキュメントプロパティ: [Trigger] (トリガー)

トリガー ページでは、ドキュメント イベント、変数イベント、項目イベントで呼び出すアクション (マクロ アクションを含む) を設定できます。

すべてのアクションが次のイベント トリガーから呼び出せるわけではありません。



QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロ トリガーは動作が制限されます。

ドキュメント イベント トリガー

このグループでは、ドキュメント内の選択したイベントで起動するアクションを設定します。リストでイベントを選択してから、そのイベントにアクションまたはマクロを割り当てます。

- **OnAnySelect**: QlikView ドキュメントの任意の項目で選択が行われるたびに実行するアクションを 1 つ以上割り当てる場合は、このイベントを選択します。
- **OnOpen**: QlikView ドキュメントが開かれるたびに実行するアクションを 1 つ以上割り当てる場合は、このイベントを選択します。AJAX クライアントの実行中は、このイベントはサポートされていません。
- **OnPostReduceData**: **[データの削除]** コマンドが実行されるたびに実行するアクションを 1 つ以上割り当てる場合は、このイベントを選択します。
- **OnPostReload**: スクリプトが再実行されるたびに実行するアクションを 1 つ以上割り当てる場合は、このイベントを選択します。
- **Add Action(s)**: このボタンをクリックすると **[アクション]** ページが開きます。このページでは、トリガーにアクションを 1 つ以上追加します。アクションに **[マクロ]** を選択して既存のマクロ名を選択するか、任意の名前を入力できます。任意の名前を入力した場合は、後で **[モジュールの編集]** ダイアログでマクロを作成します。

選択したドキュメント イベントが発生するたびに、アクションが実行されます。イベントにアクションが 1 つ以上適用されている場合は、ボタンが **[アクションの編集]** に代わり、イベントのアクションが変更可能になります。

項目イベント トリガー

このグループでは、ドキュメント内の指定された項目の論理状態が変化すると起動するようにアクションを設定します。リストから項目を選択し、ボタンのひとつを押して、その項目にアクションを 1 つ以上適用します。ボタンは、**アクション** ページを開きます。ここでアクションを 1 つ以上適用可能です。アクションには既存のマクロ名、または任意の名前を入力できます。任意の名前を入力した場合は、後で **[モジュールの編集]** ダイアログでマクロを作成します。

アクションが項目に適用されると、ボタンが **[アクションの編集]** に変化します。次の **[項目イベント トリガー]** があります。

- **OnSelect**: 指定した項目で選択が行われるたびに、アクションが実行されます。
- **OnLock**: 項目がロックされるたびに、アクションが実行されます。
- **OnChange**: 指定した項目に論理的に関連付けられている任意の項目で選択が行われるたびに、アクションが実行されます。
- **OnUnlock**: 項目がアンロックされるたびに、アクションが実行されます。

変数イベントトリガー

このグループでは、ドキュメント内の指定された変数の内容が変化すると起動するようにアクションを設定できます。

リストから変数を選択し、ボタンのひとつを押して、その項目にアクションを1つ以上適用します。ボタンは、**アクション**ページを開きます。このページでは、トリガーにアクションを1つ以上追加できます。マクロの実行を選択して、既存のマクロ名を適用するか、任意の名前を入力できます。名前を入力した場合は、後で**モジュールの編集**ダイアログでマクロを作成します。

変数にアクションが適用されると、ボタンが**[アクションの編集]**に変化し、イベントのアクションを変更できます。次の**[変数イベントトリガー]**があります。

- **OnInput**: 選択した変数に新しい値が直接入力されるたびに、アクションが実行されます。
- **OnChange**: 他の変数またはドキュメントの論理状態が変化した結果として、選択した変数の値が変化するたびに、アクションが実行されます。これは、通常、変数に式が含まれる場合に該当します。

以前のバージョンの QlikView との互換性を保持するには、アクションはマクロである必要があります。ひとつのマクロで構成されるアクションは、保存時に古い形式に変換されます。

他のアクションのトリガーとなるアクションは、連鎖アクションと呼ばれ、不測の結果を引き起こす可能性があるためサポートされていません。

ドキュメントプロパティ: グループ (Groups)

グループタブを有効にするには、ロードスクリプトを一度実行し、ドキュメントにデータが含まれている必要があります。

このページでは、ドリルダウン項目グループまたはサイクリック項目グループを作成できます。

ドキュメントのすべてのグループがリストに表示されます。各グループ名の左にあるアイコンは、それがドリルダウングループか、サイクリックグループかを示します。グループを選択するには、リスト内でグループをクリックします。選択されたグループが、**[使用項目]**領域に表示されます。

ドキュメントのデータ ソース プロパティ

Property	説明
新規作成	このボタンをクリックすると**[グループの設定]** ダイアログが開き、新しい項目グループを定義できます。
削除	選択したグループを削除します。
編集	選択したグループの **[グループの設定]** ダイアログが開きます。このページを使用して、項目グループにアクセスします。

グループの設定

[グループの設定] ダイアログを開くには、**[新規作成]** または **[編集]** ボタン (**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ダイアログ内) をクリックします。

グループ設定

構成	説明
グループ名	グループの名前を入力し、**ドリルダウン グループ** もしくは **サイクリック グループ** のいずれかを選択します。 *グループで使用されている項目の名前と同じ名前は使用しないでください。*
項目	この列には、有効な項目がリストされます。グループに含める項目を選択します。
テーブルの項目を表示	テーブルを選択します。
AllowAlternateAdmin=1	**項目** 列で選択した項目を**使用項目** 列に移動します。
すべて追加	すべての項目を **項目** 列から**使用項目** 列に移動します。
削除	**使用項目** 列で選択した項目を **項目** 列に移動します。
上へ	選択した項目を **使用項目** リスト内で 1 つ上に移動します。
下へ	選択した項目を **使用項目** リスト内で 1 つ下に移動します。
使用項目	この列には、現在のグループに含まれている項目がリストされます。最初、列は空です。
数式の追加	長い数式を簡単に編集できる **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
編集	**[使用項目]** 領域で選択した式を編集するために **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
ラベル	ここには、表示される項目の別名を入力できます。この名前は、チャートで軸の名前として使用されます。動的に更新する計算式としてラベルを指定することもできます。
ソート順	このボタンをクリックすると、**グループのソート順** ダイアログが開き、グループの項目ごとに個別のソート順を設定できます。

ドキュメントプロパティ: テーブル

循環参照を含むデータがQlikViewにロードされると、QlikView内部ロジックで循環参照によるループの生成を防ぐため、疎結合テーブルが自動的に作成されます。疎結合テーブルは、予想される理解可能な方法でデータを視覚化できるように取り扱う必要があります。

どのテーブルでも、このダイアログまたはマクロを使用して対話形式で疎結合にすることができます。

通常のQlikView連結ロジックは、疎結合テーブルでは内部で切断されます。つまり、ある項目での選択は、同じテーブル内の他の項目には反映されません。これは、データ構造内の循環参照を避けるためなど、多くの状況でとても役立ちます。

1つ以上のテーブルを疎結合にすると、ドキュメントの動作が大きく変わる場合があります。この機能は、十分に理解したうえで使用してください。

このページには、**テーブル**と**項目**の2つのリストがあります。

どちらのテーブルも、列ヘッダーをクリックして、任意の列でソートできます。

テーブルリストには以下の情報が含まれています。

ドキュメントテーブルプロパティ

Property	説明
[Name] (名前)	内部テーブルの名前。
疎結合	チェックボックスがオンの場合、テーブルは疎結合されています。ここで意図的に、テーブルに疎結合を設定できます。
レコード数	テーブル内のレコード(行)の数。
項目数	テーブル内の項目(列)の数。
キー数	テーブル内のキー(接続)項目(列)の数。
コメント	データソースから読み込んだコメントや項目に付けたコメントを表示します。

ページ下部にある**項目**リストには、QlikViewドキュメントのすべての項目が表示されます。また、上のリストで1つの内部テーブルを選択した場合は、そのテーブルの項目が表示されます。列は次のとおりです。

ドキュメントテーブル項目プロパティ

Property	説明
#	項目の内部番号。0 ~ 5の番号はQlikViewシステム項目で使用され、このリストには表示されません。
名前	項目の名前。

Property	説明
軸	項目にシステム タグ `$dimension` を追加するには、項目名の横のチェック ボックスをオンにします。このタグは、チャートの軸やリスト ボックスなどでの使用を推奨する項目であることを示します。`軸` タグの付いた項目は、**[数式の編集]** ダイアログ以外の QlikView の項目選択リストの上部に表示されます。
計算	項目にシステム タグ `$measure` を追加するには、項目名の横のチェック ボックスをオンにします。このタグは、数式での使用を推奨する項目であることを示します。`[メジャー]` タグの付いた項目は、**数式の編集**ダイアログが開きます。
タグ	項目タグを表示します。`$` はシステム タグであることを示します。
コメント	データ ソースから読み込んだコメントや、**Semantic (セマンティック)**、**AndMode (And モード)**、**AlwaysOneSelected (常に 1 つの選択値)**、**Info (情報)**、**Locked (ロック)** または **Hidden (非表示)** など、項目の特別な状態のインジケータが表示されます。
テーブル数	その項目が存在するテーブルの数。
値の数	選択条件に関わらない、項目値の合計数。この情報は、キー (接続) 項目では使用できません。
ユニークなレコード数	選択条件に関わらない、distinct 項目値の合計数。
タイプ	**Semantic (セマンティック)**、**AndMode (And モード)**、**AlwaysOneSelected (常に 1 つの選択値)**、**Locked (ロック)**、**Hidden (非表示)** など、項目の特別な状態のインジケータが表示されます。
タグの編集	タグの追加や削除が可能なダイアログを開きます。ここで、システム タグの削除はできません。追加タグにシステム タグが使用する名前を付けることはできません。
構造のエクスポート	このボタンを押すと、ドキュメントのテーブル構造を一連のテキスト ファイルにエクスポートできます。これらのテキスト ファイルはそれぞれ、1 つはテーブル用 (`file-name.Tables.tab`)、1 つは項目用 (`filename.Fields.tab`)、1 つはマッピング用 (`filename.Mappings.tab`) に分かれていますが、QlikView ロジックを活用して詳細な分析を行うために QlikView に簡単に読み取ることができます。エクスポートするターゲット フォルダを選択できるダイアログが表示されます。デフォルトでは、ファイルは QlikView ドキュメントと同じフォルダに保存されます。
タグのクリーンアップ	項目が QlikView ドキュメントから削除された後に残ったタグを削除するには、このボタンをクリックします。

ドキュメント プロパティ: ソート

このプロパティ ページでは、ドキュメントの項目値のソート順を設定できます。項目のソート順は別のシート オブジェクトの **[プロパティ]** ダイアログの **[ソート]** タブでも設定できます。

左にある **[項目]** リストから項目を選択し、右にあるオプションを 1 つ以上選択します。オプションを以下に説明します。

ソート順 グループでは、シート オブジェクトの項目値の標準ソート順を設定できます。このグループで行った変更は、変更後に作成したシート オブジェクトの項目に影響します。以前に作成したシート オブジェクトは影響を受けません。

ドキュメント ソート プロパティ

Property	説明
状態	選択状態によって値のソートを行うどうかを切り替えます。このオプションを設定すると選択値がリストの上部に表示されます。ソート順は、**選択値、絞込値、除外値** (昇順) です。
数式	項目値は、このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した任意の数式に基づいてソートされます。
レコード数	レコード数によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
数値	数値によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
テキスト	標準 ASCII によるアルファベット順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。
ロード順	ロード順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。

リセット ボタンで、選択状態 (昇順)、テキスト (A --> Z) のソート順が設定されます。

複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。

ドキュメント プロパティ: プレゼンテーション

このプロパティ ページでは、リスト ボックスやマルチ ボックスの作成時に使用される項目値のデフォルトの表示設定を指定できます。有効な項目が、**[項目]** グループに表示されます。

マルチ ボックスとリスト ボックスの設定 グループには、サブグループの **配置**、**セルの折り返し設定** および **設定** があります。**検索モードの設定** では、テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。

ドキュメント プレゼンテーション プロパティ

Property	説明
新規オブジェクトのテーマ設定	ここでは、QlikView のテーマを選択でき、ドキュメント内で新規に作成するすべてのシートとシート オブジェクトに適用されます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。テーマのファイルがデフォルトの QlikView テーマ カタログ以外の場所にある場合に備えて、ドロップダウン リストの最下部に参照コマンドがあります。デフォルトのテーマを使用しない場合は、新規のシート オブジェクトは最後に作成または変更されたオブジェクトのプロパティを継承します。
配置	項目値の初期配置は、**テキスト**と**数値** を別々に設定できます。初期設定では、テキスト値は左揃えに、数値は右揃えに設定されています。
セルの折り返し設定	**折り返し** チェック ボックスをオンにすると、セル (項目値) の内容 (テキスト) は 2 行以上に折り返されます。 **セルの高さ (行)** 編集ボックスで、セルの行数を設定します。

Property	説明
設定	• **1 つの列**: このチェックボックスをオンにすると1 列モードになります。 • **列でソート**: 複数列で表示する項目値を行ではなく列でソートします。 • **セルの枠線**: このチェックボックスをオンにすると、項目値の間に横線を入れます。
検索モードの設定	• **前回使用のモード**: 最後に完了した検索の検索モードが使用されます。 • **ワイルドカード検索**: 2 つのワイルドカードの間にカーソルが入った状態で表示されるため、ワイルドカード検索を容易に実行できます。 • **標準検索**: 最初に表示される検索文字列には特に何も追加されていません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。

ドキュメントプロパティ: 数値

このプロパティページは、ドキュメントの項目と変数すべての数値書式設定を提供します。

左側にあるリストは、ドキュメントの **[項目]** もしくは **[変数]** を表示するために設定されます。

[項目オプション] グループは、**[項目]** にのみ使用されます。

データロード時の設定に戻す ボタンは、書式設定をデータロード時に設定します。

リロード時に現在の設定を保持する チェックボックスをオンにすると、書式設定は永久にドキュメントに適用されます。

書式設定用に次のコントロールを使用できます。

ドキュメント数値プロパティ

Property	説明
混合	数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキストボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

[小数点] と**[桁区切り]** 区切り記号は、**[区切り記号]** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 ISO を使用します。

[システム] ボタンは、書式設定にシステム設定を使用します。

ドキュメントプロパティ: 暗号化

このページは、管理者権限モードで QlikView ドキュメントを操作する場合にのみ使用できます。1 つまたは複数の項目のデータを暗号化できます。

ドキュメント暗号化プロパティ

Property	説明
項目	ドキュメント内のすべての項目のリストです。暗号化する項目を 1 つ以上選択します。
暗号化	このボタンをクリックすると、選択した項目の内容のランダム暗号化が実行されます。数値は数値に暗号化され、テキストはテキストに暗号化されます (スペースは保持されます)。一度暗号化すると、Qlik またはその他の誰であろうと、そのデータを元の形式で再作成することはできません。ただし、ロードスクリプトを再実行すると、暗号化は失われます。

ドキュメントプロパティ: エクステンション

このページでは、拡張機能を選択し、ドキュメントのスタイルを改正することができます。

アクティブなドキュメントの拡張機能は AJAX クライアントもしくは QlikView の WebView モードで開かれている QlikView ドキュメントでのみ有効です。

ドキュメントの拡張機能はアプリケーション設計者/開発者によって作成されます。ドキュメントの拡張機能は AJAX クライアントを通してみた QlikView アプリケーションに JavaScript コードを導入する機能を提供します。拡張機能のバリエーションは Web ブラウザのさまざまな JavaScript エンジンによります。

インストール済み拡張機能 リストはインストールされた拡張機能をすべて表示します。リスト内でクリックして拡張機能を選択します。選択した拡張機能は ***アクティブな拡張機能*** 領域に表示されます。

数式プロパティ

Property	説明
インストール済み拡張機能	インストールされた拡張機能のリストがここに表示されます。
AllowAlternateAdmin=1	**インストール済み拡張機能**列で選択した項目を***アクティブな拡張機能***列へ移動します。
すべて追加	**インストール済み拡張機能** 列のすべての項目を ***アクティブな拡張機能*** 列へ移動します。

Property	説明
削除	**アクティブな拡張機能** 列で選択した項目を **インストール済み拡張機能** 列へ移動します。
アクティブな拡張機能	アクティブな拡張機能のリストがここに表示されます。これらは **インストール済み拡張機能** 列から追加された拡張機能です。
拡張機能の説明	どちらかの列で強調表示された拡張機能に関する説明がここに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

枠線の種類オプション

オプション	説明
影の強度	**影の強度** ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
枠線のスタイル	既定の枠線は次のとおりです。 **固定** 単色の固定の枠線。 **くぼみ** シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。 **浮き彫り** シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。 **壁** シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
枠線の幅	このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
色	このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
カラフル	すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** ([**ドキュメントプロパティ: 基本設定**] 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

角を丸くするオプション

オプション	説明
角を丸くする	このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
角の位置	チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
鋭度	2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
角の丸み	この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ('', inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

レイヤー

レイヤー	説明
背面	**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
標準	シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
Top	**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
カスタム	**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウト テーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

表示 オプション

オプション	説明
常に表示	シート オブジェクトは常に表示されます。
条件付き表示	シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。

*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

詳細 オプション

オプション	説明
移動/サイズ変更を許可する	このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
コピー/複製を許可する	このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
INFO を許可する	**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。
データにサイズを合わす	通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

スクロールバー設定

構成	説明
スクロール バーの位置を保持する	この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。 ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
スクロール ボタン	スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
スクロール バーの幅	このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
スクロールのスタイル	スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロール バーです。

適用オプション

オプション	説明
適用するオブジェクト	**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

キャプションと枠線のプロパティ

このダイアログでは、キャプションと枠線を適用するドキュメントのオブジェクトを設定します。

プロパティを次のオブジェクトに適用する

選択オブジェクト以外のオブジェクトにその設定を適用するには、このチェックボックスをオンにします。

1. 以下のオプションのいずれかを選択します。
   - **このシートのオブジェクト**: 現在のシートにあるオブジェクトにのみ設定を適用します。シートオブジェクトの **[レイアウト]** ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。
   - **このドキュメントのオブジェクト**: ドキュメント全体のオブジェクトに設定を適用します。
2. 以下のオプションのいずれかを選択します。
   - **このオブジェクトタイプのみ**: この種類のすべてのオブジェクトに設定を適用します。シートオブジェクトの **[レイアウト]** ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。
   - **すべてのオブジェクトタイプ**: すべてのオブジェクトに設定を適用します。

このドキュメントで新規作成するオブジェクトの規定値に設定する

現在のドキュメントの新規作成オブジェクトのデフォルトとして設定を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。シートオブジェクトの **[レイアウト]** ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

8.3 シート

QlikView ドキュメントは 1 つ以上のシートを持つことができます。シート上にはシートオブジェクトが配置されます。各シートには多くのシートオブジェクトを入れることができます。シートはロジックとは無関係です。2 つの項目が論理的に関連しているとして、それらは同じシートにあっても別のシートにあってもかまいません。選択を行った場合の論理的な結果は同じです。

作成

新しいシートは、**[レイアウト]** メニューから **[シートの追加]** を選択するか、ツールバーの **[シートの追加]** ボタンをクリックして作成します。

ナビゲーション

すべてのシートには、シート名が表示されたタブが付いています。タブ上でクリックすると、そのシートがアクティブになります。**[シート]** ツールバーがアクティブな場合は、ツールバードロップダウンでシートを選択することで、シートをアクティブにすることもできます。

タブ上で右クリックすると、次のコマンドが入ったコンテキストメニューが表示されます。

- **タブ行 プロパティ**: タブのフォントを選択するためのダイアログが表示されます。使用できるのは Truetype フォントのみです。
- **シートプロパティ**: シートを選択し、**[シートプロパティ]** ダイアログを表示します。ここで、シートの背景、表示する項目、デフォルトのフォント、オブジェクトの外観など、シート固有のパラメータを指定できます。この選択肢は、現在アクティブなシートのタブをクリックした場合にのみあります。
- **シートのコピー**: シートオブジェクトがすべて入ったシート全体の完全なコピーを作成します。コピーには "*シート名* のコピー" という名前が付けられ、ドキュメントの最後のシートとして配置されます。
- **シートを左へ**: シートを 1 つ左に移動します。
- **シートを右へ**: シートを 1 つ右に移動します。

- **ヘルプ**: コンテキスト特定ヘルプを開きます。
- **削除**: シートをアクティブにし、次にそれを削除します。

アクティブなシートのタブをクリックすると、コンテキスト メニューには **リスト ボックスの追加** や **シート オブジェクトの追加** コマンドも含まれます。このコマンドの説明については、下を参照してください。

シート タブには、選択内容があることを示す選択インジケータ(小さなビーコン) が付いている場合があります。これらは、アクティブなシートには表示されていない選択内容が表示される非表示シートのタブに表示されます。

シート: [オブジェクト] メニュー

メニュー コマンドは次の通りです。

- プロパティ: **シート プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、シートを定義する要素を設定できます。
- 項目の選択: **[シート プロパティ: 項目]** ページを表示します。シートにリスト ボックスとして表示する項目などを選択できます。
- 新規シート オブジェクト: シート オブジェクトをリストするサブ メニューを開きます。
- シートのコピー: シート オブジェクトがすべて入ったシート全体の完全なコピーを作成します。コピーには "*シート名* のコピー" という名前が付けられ、ドキュメントの最後のシートとして配置されます。
- シート オブジェクトの貼り付け: クリップボードにコピーされたシート オブジェクトをシートに貼り付けます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+V。
- シート オブジェクトをリンクとして貼り付け: クリップボードにコピーされたリンク オブジェクトをシートに貼り付けます。オブジェクトは直接オリジナルのオブジェクトにリンクされ、すべての属性とオブジェクト ID を共有します。
- 印刷:プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。[印刷] は、シート オブジェクトを含むシート領域の画像を表示します。
- 画像をクリップボードにコピー: シート領域 (のみ) のビットマップ画像を **クリップボード** にコピーします。
- 画像をファイルにエクスポート: 現在のシートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
- ヘルプ: QlikView ヘルプを開きます。
- 削除: シートとそのすべてのシート オブジェクトを削除します。

シート プロパティ: 基本設定

[シート プロパティ] ダイアログは、シートの **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択するか、**[設定]** メニューから **[シート プロパティ]** を選択すると表示されます。

> ***[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がありません。これは **[シート プロパティ: セキュリティ]** で設定します。*

シートに名前を付けるには、**タイトル** 編集ボックスにテキストを入力します。名前はシートのタブに表示されます。

- **並列ステート**:
  ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

  - **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。
  - **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
- **シート ID**: これは、マクロで使用されます。各シートには、一意の ID が SH01 から割り当てられます。この ID 番号は後で編集することが可能です。英数字は ID のみに使用することが推奨されています。

シートの表示グループでは、シートを表示する条件を指定できます。

- 常時: シートは常に表示されます。
- 条件付き表示: シートは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。
  シートの表示の制限によってドキュメント内のすべてのシートが無効な場合は、"シートはありません" というメッセージが表示されます。ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[] ドキュメントプロパティにある [すべてのシートとシート オブジェクトを表示] をオンにしてこの条件を無効にできます。セキュリティ]** ページ内) をオンにします。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。

ズーム (%) オプションでは、アクティブなシートとシート上のすべての表示サイズを変更できます。

背景 グループでは、シートの背景色を定義します。**ドキュメントの初期設定** は、**ドキュメントプロパティ**ダイアログで定義された背景色を適用します。**シートの設定** をクリックし、**色** チェックボックスをオンにしてボタンをクリックすると、背景色を定義できます。**色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。

また、シートの背景は、**画像** をオンにして **変更** ボタンをクリックするとカスタマイズできます。**画像の挿入** ダイアログが開き、使用する画像ファイルを選択できます。

画像形式:

- **縮小/拡大なし**: 画像はそのままのサイズで表示され、覆い隠すことが出来ない可能性があります。
- **全体を覆う**: 画像は、縦横比を無視して、シート全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: 画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。覆われなかった領域は切り取られた画像で塗りつぶされます。
- **並べて表示**: このオプションを選択した場合、画像は、スペースがあるだけ繰り返し並べて表示されます。

水平方向 と**垂直方向**:

- **水平**: 画像は水平方向に、**左**、**中央**、または**右**。
- **垂直**: 画像は垂直方向に、**上揃え**、**中央揃え**、または **下揃え** に配置できます。

テーマの作成

テーマの作成	**[テーマ作成]** ウィザードが開き、新しいテーマを作成したり、既存のテーマを編集したりできます。
テーマの適用	シート オブジェクトに適用するレイアウト テーマ ファイルを選択するためのファイル ブラウザ ダイアログが開きます。

タブ設定グループでは、シートのタブの背景色を定義します。

- **クラシック グレー**: グレーのタブ配色と黒いテキストを使用する場合は、このオプションを選択します。
- **シートの背景**: タブの色をシートの色に設定します。
- **カスタム カラー**: この設定では、それぞれのボタンをクリックして **タブの色** と **タブ テキストの色** を指定できます。
- **すべてに適用**: ドキュメントのすべてのシートにタブの色の設定を適用します。

シートプロパティ: 項目

ここでは、シートに表示する項目を **[項目]** リストから選択します。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。

選択された項目は、アクティブなシートにデフォルト設定のリストボックスとして表示されます。リストボックスに特定のプロパティを設定するには、右クリックして表示されるメニューから(もしくは **メイン** メニューの **オブジェクト** から) **プロパティ** を選択します。

システム項目を選択可能にするには、**システム項目の表示** チェックボックスをオンにします。

テーブルの項目を表示

ここで、**項目** リストにどの項目を表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **すべてのテーブル** を表示します。
[すべてのテーブル (テーブル名表示)] は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。)
一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。

シートプロパティ: オブジェクト

[シートプロパティ: オブジェクト] ページは、現在のシートに配置されているすべてのオブジェクトを追跡する際に使用します。これによって、オブジェクトが隠されているか、表示条件を設定されているかを把握するのが簡単になります。

テーブルの列ヘッダーをクリックして、任意の列でソートします。列には次の情報が含まれています。

- **オブジェクト ID**: 既存のシート オブジェクトの一意の **オブジェクト ID** をリスト表示します。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。
- **種類**: オブジェクトの種類を明確に記載します。
- **キャプション**: オブジェクトのキャプションに (もしあれば) 表示されるテキスト。
- **表示 モード**: オブジェクトの状態が「標準」、「最小化」、「最大化」、「隠す」、「条件付き」のどれであるかを示します。
- **ステート**: オブジェクトがどの状態にあるかを表示します。
- **演算時間**: オブジェクトの内容の前回の演算にかかったミリ秒単位の時間。この情報は、チャート、テーブル ボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。
- **レイヤー**: レイヤーは **[シート オブジェクト プロパティ: レイアウト]** ページで設定されます。ここでは、**[下]**、**[標準]**、**[上]** がそれぞれ、-1、0、1 に相当します。任意の値を入力するには、**[カスタム]** を選択します。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

- **メモリ**: オブジェクトの内容の前回の再演算にかかった一時メモリ量。この情報は、チャート、テーブル ボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。
- **左、上、右、下**: シート オブジェクトの端の、ドキュメント ウィンドウの端との相対的な現在位置 (ピクセル単位)。
- **幅、高さ**: シート オブジェクトのサイズ・寸法 (ピクセル単位)。
- **左(最小化)、上(最小化)、右(最小化)、下(最小化)**: アイコン化 (最小化) 時のシート オブジェクトの現在位置。
- **幅 (最小化)、高さ(最小化)**: オブジェクトのアイコンのサイズ。

リストのオブジェクトをクリックすると、**[削除]** ボタンを使用できるようになり、また、このメニューから直接その **[プロパティ]** ダイアログを開くことができます。Ctrl キーを押しながらクリックすると複数のオブジェクトを選択できます。

シートプロパティ: セキュリティ

このプロパティページでは、シート レベルの **[ユーザー権限]** を設定できます。初期設定では、すべてのオプションのチェックボックスがオンに設定されています。管理者権限を持つユーザーは、いつでもこのダイアログにアクセスして設定を変更できます。設定はさまざまな方法で、普通のユーザーがドシートのレイアウトを変更するのを防ぎます。オプションは次のとおりです。

- **シート オブジェクトの追加**: 新しいシート オブジェクトの追加を許可します。
- **シート オブジェクトの削除**: シート オブジェクトの削除を許可します。
- **シート オブジェクトの移動/サイズ変更**: 既存のシート オブジェクトのレイアウト変更を許可します。
- **シート オブジェクトのコピー/複製**: 既存のシート オブジェクトのコピーの追加を許可します。
- **シート オブジェクト プロパティへのアクセス**:**シート プロパティ**ダイアログへのアクセスを許可します。
- **シートの削除**: シートの削除を許可します。
- **シート プロパティへのアクセス (ユーザー)**: シート オブジェクトの [プロパティ] ページへのアクセスを許可します。

すべてのシートに適用する チェックボックスをオンにすると、上記のオプションをドキュメントのすべてのシートに適用します。

- **読み取り専用**: このチェックボックスをオンにすると、このシート上のすべてのシート オブジェクトの選択をロックします。これは、シート オブジェクトにできるのは、他のシート上にあるオブジェクトでの選択の結果を表示することだけであることを意味します。

シートプロパティ: [Trigger] (トリガー)

[トリガー] ページでは、シート イベントで呼び出される、マクロを含むアクションを指定できます。

すべてのアクションが次のイベント トリガーから呼び出せるわけではありません。

> *QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロ トリガーは動作が制限されます。*

他のアクションのトリガーとなるアクションは、連鎖アクションと呼ばれ、不測の結果を引き起こす可能性があるためサポートされていません。

シートイベントトリガー

このグループでは、アクティブなシートの変更で起動するようにマクロを設定できます。**[アクションの追加]** ボタンをクリックし、どちらかのイベントの **[アクション]** ページを開きます。このページでは、イベントにアクションを追加します。アクションに **マクロの実行** を選択して既存のマクロ名を選択するか、任意の名前を入力できます。任意の名前を入力した場合は、後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成します。イベントにアクションが適用されると、ボタンが **アクションの編集** に変更され、イベントのアクションを変更できます。以下の**シートイベントトリガー**を構成することができます。

OnActivateSheet

シートがアクティブになるたびに、アクションが実行されます。

OnLeaveSheet

シートが非アクティブになるたびに、アクションが実行されます。

タブプロパティ

タブのプロパティは、タブを右クリックすると表示される **[タブプロパティ]** ダイアログで設定されます。

- **フォント**: ここでは、タブのテキストのフォントを変更できます。
  テキストのフォント、スタイル、およびサイズを指定します。選択したフォントはすべてのタブのテキストに適用されます。

8.4 クイックチャートウィザード

クイックチャート機能は、多数のさまざまな設定やオプションを気にせずに簡単な方法で簡易チャートを作成したいユーザー向けに開発されました。

クイックチャートウィザードは、次の基本的な手順に従ってチャートの作成をガイドします。

1. チャートの種類を選択する
2. チャート軸を定義する
3. チャート式を定義する
4. チャートの書式を設定する

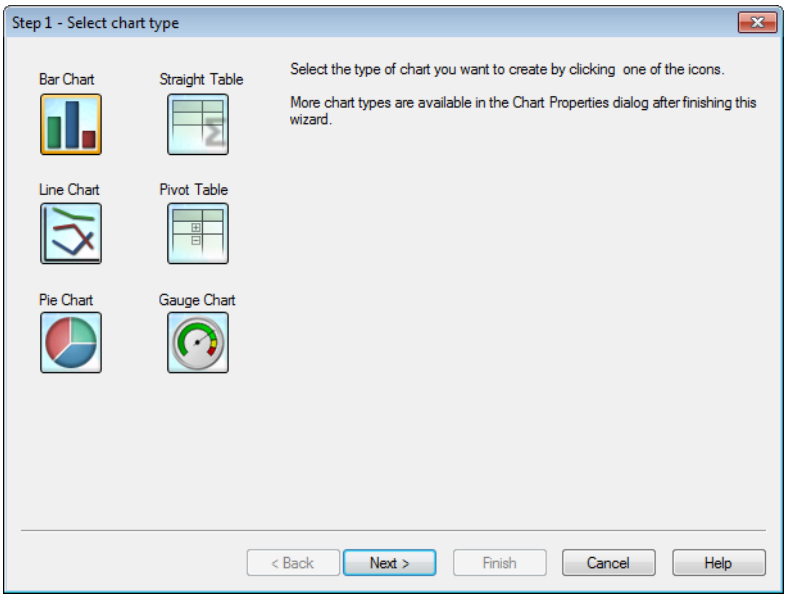
選択によっては、上記の手順の一部がスキップされる場合があります。

クイックチャートウィザードの起動

クイックチャートウィザードは、**ツール** メニューから **クイックチャートウィザード** を選択するか、**標準** ツールバーで対応するボタンをクリックして起動します。

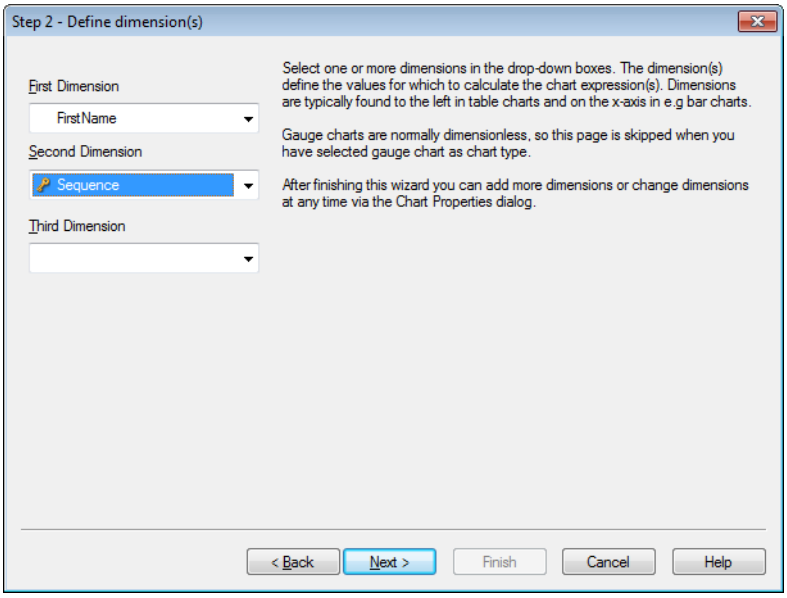
ウィザードを初めて起動したときは、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタートページが表示されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、**次回からこの画面を表示しない** チェックボックスをオンにします。**次へ** ボタンをクリックして進みます。クイックチャートウィザードは、次の基本的な手順に従ってチャートの作成をガイドします。

ステップ 1: チャートの種類を選択する



いずれかのアイコンをクリックして、作成するチャートの種類を選択します。QlikView で最もよく使用されるチャートの種類から選択できます。チャートは、ウィザード終了後に **チャートプロパティ** ダイアログから、QlikView の他の種類に変更できます。**次へ** ボタンをクリックして進みます。

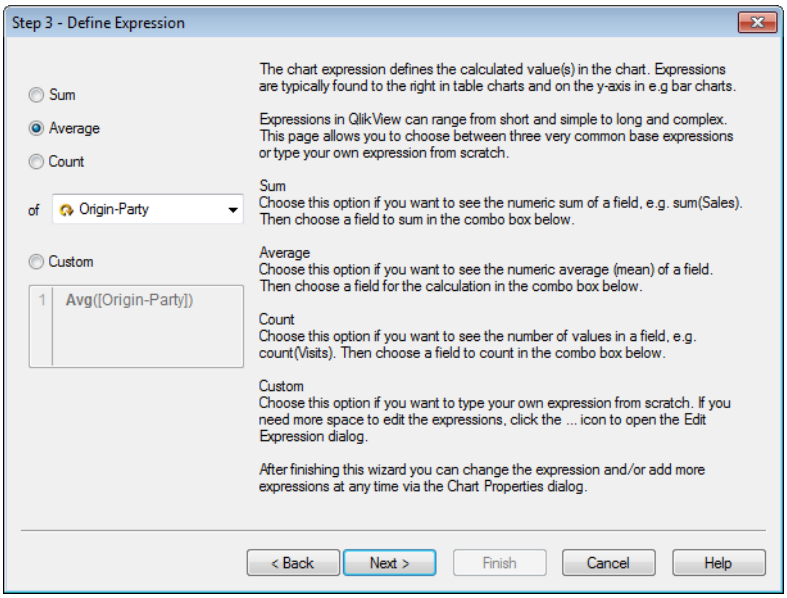
ステップ 2: 軸の設定



最初の手順でゲージチャートを選択した場合以外は、**軸の設定** ページが表示されます。ゲージチャートには、通常、軸がないため、このページは自動的にスキップされます。
ドロップダウンボックスで 1 つまたは複数の軸を選択します。軸は、チャート式の計算の対象となる値を定義しま

す。軸は、通常、テーブル チャートでは左側、棒グラフなどでは x- 軸に表示されます。
このウィザード終了後は、**チャートプロパティ**ダイアログからいつでも軸の追加や変更が可能です。
次へ ボタンをクリックして進みます。

ステップ 3: 数式の定義



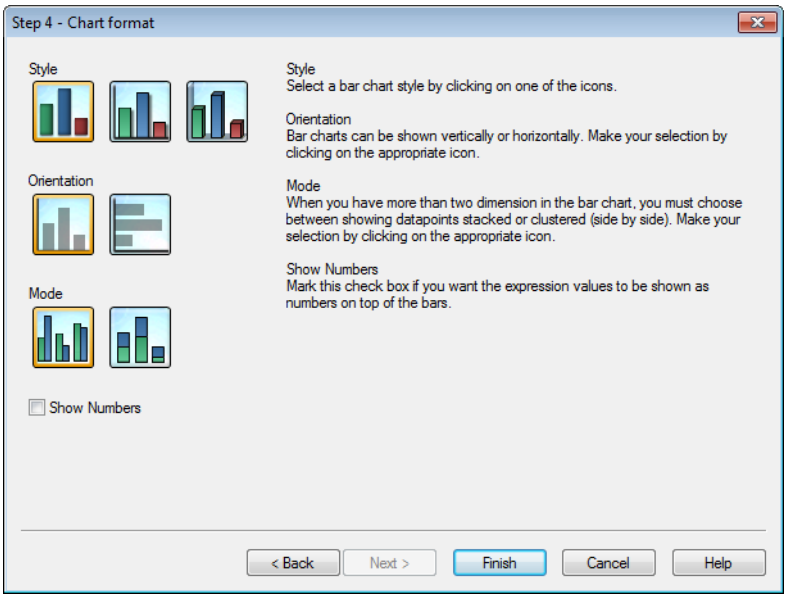
チャート式は、チャートに表示される計算値を定義します。数式は、通常、テーブル チャートの右側、棒グラフなどでは y- 軸に表示されます。
QlikView では、短くて単純な数式から長くて複雑な数式までさまざまな数式を作成できます。このページでは、3 つのよく使用される基本の数式から選択するか、自分で数式を最初から入力できます。

- **合計値**: 項目の数値合計を表示する場合は、このオプションを選択します (例: sum(Sales))。次に、下のコンボ ボックスで合計する項目を選択します。
- **平均値**: 項目の数値平均を表示する場合は、このオプションを選択します (例: avg(Score))。次に、下のコンボ ボックスで計算する項目を選択します。
- **カウント**: 項目の値の数を表示する場合は、このオプションを選択します (例: count(OrderID))。次に、下のコンボ ボックスでカウントする項目を選択します。
- **カスタム**: 自分で数式を最初から入力する場合は、このオプションを選択します。数式を編集するためにさらに大きなスペースが必要な場合は、[...] アイコンをクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

このウィザード終了後は、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでも数式を変更したり追加できます。
次へ ボタンをクリックして進みます。

ウィザードの 4 番目の手順では、チャートの書式を調整できます。チャートの種類によって書式設定は異なるため、ページの内容はウィザードの Step 1 で選択したチャートの種類によって異なります。

ステップ 4: チャートの書式 (棒グラフ)

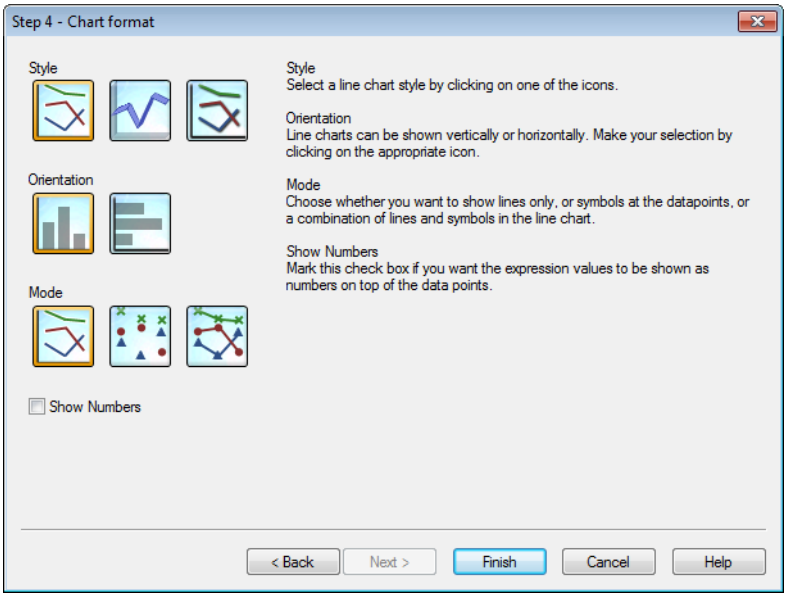


このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

- **モード**: 棒グラフに 3 つ以上の軸がある場合、データポイントの表示方法として、積み上げまたはクラスター化 (並べて表示) のどちらかを選択する必要があります。該当するアイコンをクリックして選択します。
- **数値の表示**: 棒グラフの上に数式の値を数値として表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。

ステップ 4: チャートの書式 (折れ線グラフ)

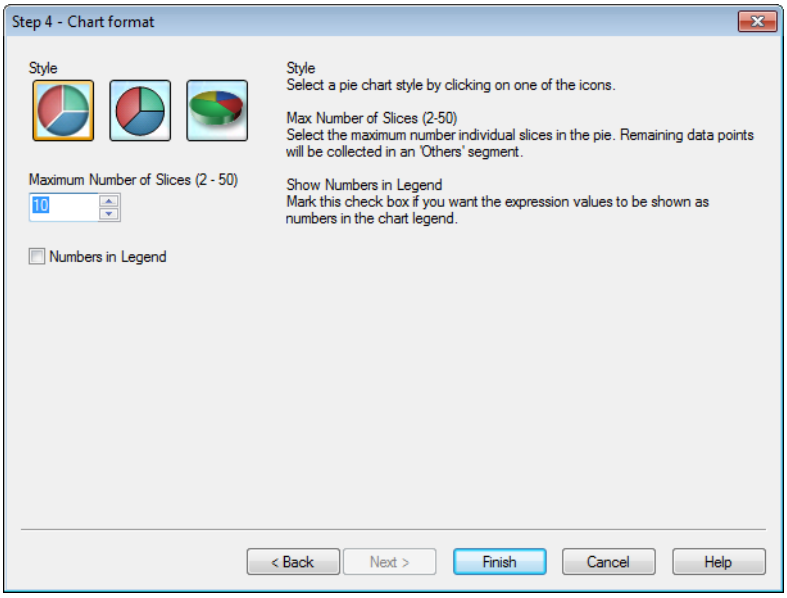


このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

- **モード**: 線、マーカー、またはそれらの組み合わせとしてデータポイントを表示します。該当するアイコンをクリックして選択します。
- **数値の表示**: データポイントの上に数式の値を数値として表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**チャートプロパティ**ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。

ステップ 4: チャートの書式 (円グラフ)

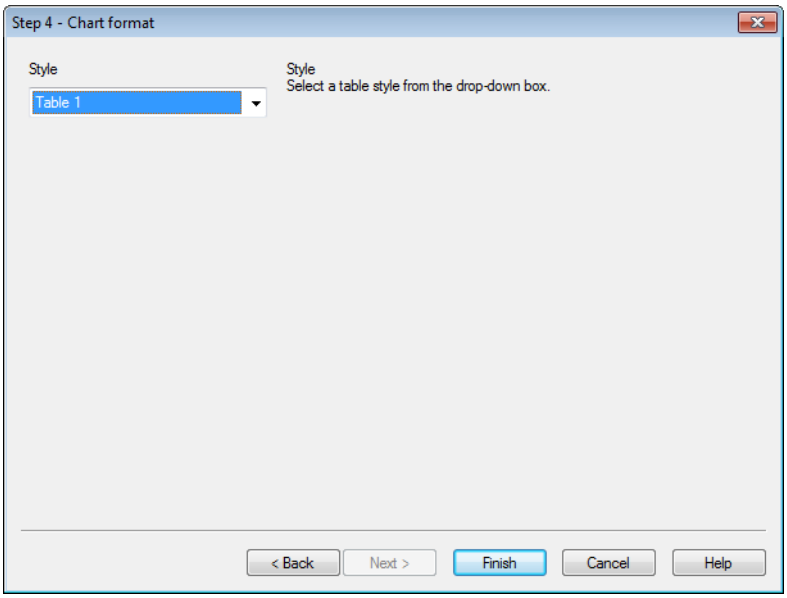


このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

- **スライスの最大数 (2 ~ 50)**: 円グラフのスライスの最大数を選択します。残りのデータポイントは "その他" セグメントにまとめられます。
- **凡例に数値を表示**: チャートの凡例に数式の値を数値として表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。

ステップ 4: チャートの書式 (ストレート テーブル)

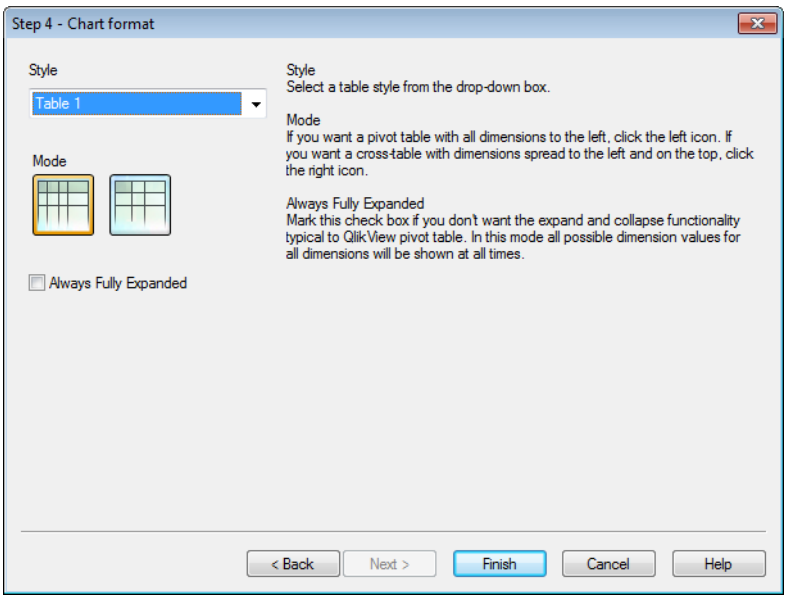


このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

- **スタイル**: ドロップダウン ボックスからテーブルのスタイルを選択します。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。

ステップ 4: チャートの書式 (ピボット テーブル)

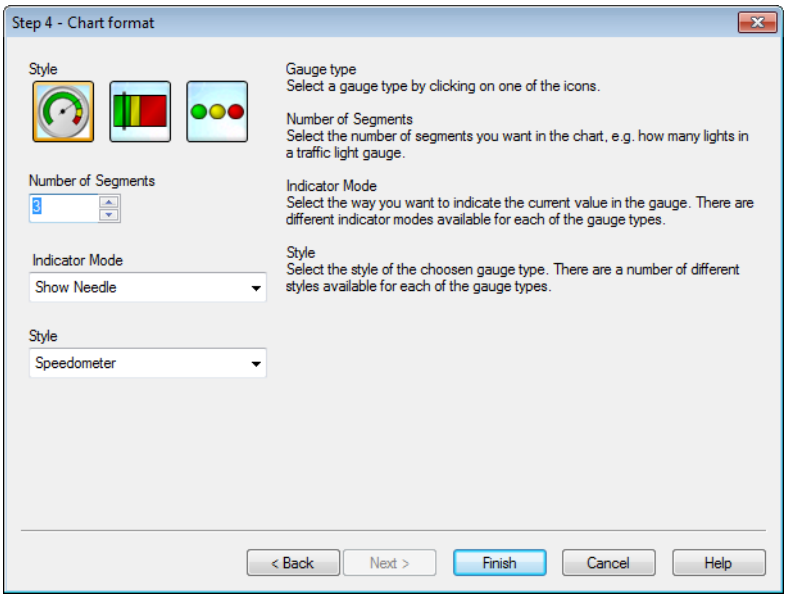


このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

- **スタイル**: ドロップダウン ボックスからテーブルのスタイルを選択します。
- **モード**: ピボット テーブルのすべての軸を左側に表示する場合は、左のアイコンをクリックします。軸が左と上の両方に表示されるクロス テーブルにする場合は、右のアイコンをクリックします。
- **常にすべて展開**: QlikView のピボット テーブルの展開/折りたたみ機能が必要ない場合は、このチェック ボックスをオンにします。このモードでは、すべての軸のすべての絞込値が常に表示されます。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャート プロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。

ステップ 4: チャートの書式 (ゲージ チャート)



このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

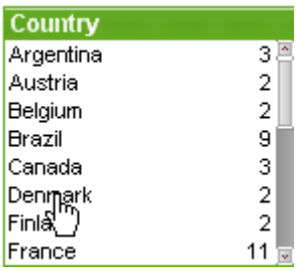
- **セグメントの数**: チャートに表示するセグメントの数 (たとえば、信号機ゲージではライトの数) を選択します。
- **インジケータ モード**: ゲージで現在の値を示す方法を選択します。それぞれのゲージの種類ごとに使用できるインジケータ モードは異なります。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャート プロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。

8.5 シート オブジェクト

シートにテーブルとチャートを追加して、データを可視化したり、データをフィルタリングするよう選択したりします。

リスト ボックス



リスト ボックスは、最も基本的なシート オブジェクトです。特定の項目のすべての絞込値のリストが含まれています。リスト ボックスの各行は、ロードしたテーブルで全く同じ値を持つ複数のレコードを表します。ひとつの値を選択することは、ロードしたテーブルの複数のレコードを選択していることになります。

リスト ボックスには、サイクリック グループやドリルダウン グループが含まれていることもあります。ドリルダウン グループが使用されている場合は、リスト ボックスで 1 つの値を選択すると、リスト ボックスがドリルダウンしてグループ内の基底の項目に切り替わります。ドリルアップして戻るには、リスト ボックスのキャプションにあるドリルアップ アイコンをクリックします。

リスト ボックスにサイクリック グループが割り当てられている場合は、リスト ボックスのキャプションに表示されているサイクリック アイコンをクリックすると、グループ内の次の項目を表示できます。また、リスト ボックスのオブジェクト メニューの **サイクリック** オプションを使用して、グループ内の任意の項目に直接移動することもできます。

リスト ボックスを右クリックすると、**[オブジェクト]** メニューが表示されます。

オブジェクト メニュー

リスト ボックスの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[リスト ボックス プロパティ]** ダイアログを開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
サイクリック	リスト ボックスがサイクリック グループを表示する設定になっている場合にのみ使用できます。カスケード メニューを開きます。リスト ボックス内に表示されるグループ内の項目を直接選択できます。
[Search] (検索)	検索ボックスを開きます。
あいまい検索	テキスト検索 ボックスをあいまい検索モードで開きます。
高度な検索	[高度な検索] ダイアログを開きます。このダイアログで、詳細な検索式を入力できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+F。

コマンド	説明
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
値の変更	入力フィールドを表示しているリスト ボックスでのみ使用できます。クリックされてたセルを入力編集モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。
値を元に戻す	入力フィールドを表示しているリスト ボックスでのみ使用できます。オプションが 3 つ入ったカスケード メニューを開きます: • **ひとつの値を元に戻す**: クリックされた項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 • **絞込値を元に戻す**: 絞り込まれたすべての項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 • **すべての値を元に戻す**: すべての項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。
絞込値の選択	リスト ボックスの除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	リスト ボックスの除外値をすべて選択します。
すべて選択	リスト ボックスのすべての値を選択します。
クリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
他項目の選択のクリア	現在のリスト ボックスの選択を保持しながら、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。
ロック	アクティブなリスト ボックスの選択値をロックします。(選択が行われていない場合はグレー表示となります。)
アンロック	アクティブなリスト ボックスのロックされた値を解除します。(選択がロックされている場合に **[ロック]** の代わりに表示されます。)

コマンド	説明
クイック チャート ウィザード	**[クイック チャート]** ウィザードが開き、チャートをすばやく簡単に作成できます。
タイム チャート ウィザード	**[タイム チャート]** が開き、特定の計算基準 (数式) を設定し、さまざまな期間で比較を行うチャートを作成できます。
統計ボックスの追加	項目 (サンプル) の選択値に関するさまざまな統計上の計算を行ない、統計ボックスに結果を表示します。
絞込値を印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。アクティブなリストボックスの除外値以外をすべて印刷します。
絞込値を PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。 *Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。*
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 • **絞込値**: 絞込値 (選択値と連結値) をクリップボードにコピーします。 • **セルの値**: (オブジェクト メニューを呼び出すときに) 右クリックしたリストボックスのセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。 • **画像**: シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 • **オブジェクト**: シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

コマンド	説明
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikViewヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

General (基本設定)

リストボックスプロパティ: 基本設定ページは、リストボックスを右クリックし、フローティングメニューから**プロパティ**を選択して開きます。ここでは、リストボックスの基本要素を設定できます。

リストボックスのパラメータ

パラメータ	説明
タイトル	リストボックスのキャプションに表示するテキスト。デフォルトのテキストは選択項目の名前です。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

パラメータ	説明
項目	リストから項目を選択します。リストボックスには、選択項目の値が含まれます。 リストボックスは、サイクリックグループやドリルダウングループも表示します。ただし、一度に表示される項目は 1 つのみです。グループは、**ドキュメントプロパティ: グループ** ダイアログで作成でき、項目リストに表示されます。 ドリルダウングループが使用されている場合は、リストボックスで 1 つの値を選択すると、リストボックスがドリルダウンしてグループ内の基底の項目に切り替わります。ドリルアップして戻るには、リストボックスのキャプションにあるドリルアップアイコンをクリックします。 リストボックスにサイクリックグループが割り当てられている場合は、リストボックスのキャプションに表示されているサイクリックアイコンをクリックすると、グループ内の次の項目に表示を切替えます。また、リストボックスのオブジェクトメニューの**サイクリック**オプションを使用して、グループ内の任意の項目に直接移動することもできます。 さらに、リストボックスには計算項目を表示できます。計算項目はスクリプトの実行によって生成されるのではなく、数式によって定義されます。同様のルールが **[計算軸]** に適用されます。リストボックスで計算項目を使用する場合、ドロップダウンで <数式> を選択します。**数式の編集** ダイアログが開き、計算項目を記述する数式を定義できます。 **タイトルとして使用** このチェックボックスをオンにすると、項目名が**タイトル**として使用されます。<項目名を使用する> というテキストが**タイトル**編集ボックスに表示されます。 **編集** このボタンは **<数式>** が項目として選択されている場合にのみ使用できます。これにより、**数式の編集**ダイアログが開かれ、計算項目を記述する数式を定義します。詳細については、「*計算された項目 (page 262)*」を参照してください。
And モード	項目内での複数選択は、**AND** または **OR** のどちらかのタイプで行います。デフォルトでの選択は **OR** タイプです。このコマンドは、複数の値を選択する場合の論理モードを切り替えます。項目がある条件を満たさない場合、このメニューオプションは無効です。このオプションは計算項目には使用できません。

パラメータ	説明
選択状態の表示切替	アクティブなリストボックスの項目で直接選択を行うことにより、その項目の他の値を除外値とするかどうかを切替えます。**選択状態の表示切り替え** チェックボックスをオンにすると、選択値以外のすべての値は連結値として表示されます。ですが、他の項目の選択によっては除外されます。デフォルトでは、すべての他の値は除外値として表示されます。このオプションは計算項目には使用できません。
除外値を隠す	項目の除外値を表示するかどうかを切り替えます。除外値は選択もできなくなります。
読み取り専用	このチェックボックスをオンにすると、リストボックスで選択を行えなくなります。ですが、ドキュメントの他の場所での選択は反映されます。
常にひとつの選択値	このチェックボックスをオンにすると、1つの値のみを選択できる状態になります。これは、通貨交換率などのように1つの値を選択するとデータが意味を持つドキュメントで便利です。このオプションは、リストボックスで1つの値が選択されると有効になります。このオプションは計算項目には使用できません。 *このオプションを有効にすると、データモデルに変更が加えられます。その結果、項目名に変更がなくても既存のブックマークが機能しなくなる可能性があります。*
ロック項目の上書き	このチェックボックスをオンにすると、ロックされているリストボックスで選択ができるようになります。選択がドキュメントの他の場所で行われると、リストボックスはロック状態のままです。
ツリー構造表示の設定	リストボックスをツリー構造で表示します。この機能は、項目に階層構造におけるノードのパスが含まれる場合にのみ有効です。そういった項目は、**Path** パラメータ(**Hierarchy** プレフィックス) を使用して生成することができます。
設定セパレーター	**ツリー構造** に使用されるパスでセパレータとして解釈される文字セットを設定します。
レコード数の表示	項目値の頻度を表示するかどうかについてのステータスを切り替えます。レコード数は、選択可能な値の組合わせの数を意味します。このオプションは計算項目には使用できません。

パラメータ	説明
パーセント表示	レコード数を絶対数で表示するか、合計入力数に対するパーセンテージで表示するかについてのステータスを切り替えます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。**継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。**初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に**[初期ステート]**にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リストボックスの場合、ID は LB01 から始まります。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。
検索対象に除外値を含める	ドロップダウンリストでは、**はい**、**いいえ**、または**ユーザープロパティ: 基本設定**で指定した既定の設定が適用される**<標準設定を使用する>**を選択できます。
検索モードの設定	テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。モードは常に、検索文字列の一部として * や ~ を入力することによってその場で変更できます。次の選択肢を使用できます。 • **<初期設定を使用する>: [ユーザープロパティ]**で指定されたデフォルトが適用されます • **ワイルドカード検索**: ワイルドカード検索を容易にするため、カーソルを間に置いた 2 つのワイルドカードが初期検索文字列として表示されます。 • **あいまい検索**: あいまい検索を意味するチルダ (~) が初期検索文字列として表示されます。 • **標準検索**: 初期値としての検索文字列は追加されません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。 • **連想検索**: 連想検索が検索ボックスで使用されます。
印刷設定	ここでは、印刷ジョブの印刷設定を設定できます。
すべての値を印刷	リストボックスの通常の印刷動作は、絞込値のみの印刷です。このチェックボックスをオンにすると、すべての値が (除外値も) 印刷されます。

パラメータ	説明
印刷時にレイアウトを適用	このチェック ボックスをオンにすると、複数列、セルの選択色分けなどについてリスト ボックスは画面に表示されたとおりに印刷されます。これは、リスト ボックスをレポートに含む場合などに便利です。

計算された項目

計算項目を使用する場合は、リスト ボックスの一部の機能が正規の項目 リスト ボックスとは異なります。プロパティ オプションの一部は使用できません (以下を参照)。さらに、このようなリスト ボックスから統計 ボックスは作成できません。

計算項目は常に 1 つ以上の通常の項目を使用する必要があります。**valuelist** および **valueloop** 関数から作成された純粋な合成計算項目は許可されていません。計算項目で選択を行うときは、実際は基底の通常の項目から選択することになります。複数の項目を計算項目の基準として使用する場合は、基準となる項目や計算項目での選択による論理的結果が非常に複雑になる場合があります。

リスト ボックスで計算項目を使用する場合は、大規模データ セットでパフォーマンス上の問題が生じる場合があります。

数式

数式 ページでは、リスト ボックスに表示する数式を定義します。各数式がリスト ボックスの新しい列に追加されます。ダイアログの左上隅には数式が表示されます。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。数式の属性式を表示するには、数式の前にある展開 アイコンをクリックします。

特定の基本の数式では、任意の数および任意の組み合わせの属性式を使用できます。属性式で定義された書式は、色などについてデータプロットのデフォルトの書式に優先します。

数式 コマンド

コマンド	説明
[Add] (追加)	このボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログが表示されます。ここでは、新しい数式を作成できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右 クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。
削除	選択した数式を削除します。このオプションは、数式のリスト内で数式を右 クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。
コピー	このオプションは、数式のリスト内で数式を右 クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。その後、この数式を同じオブジェクトや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView オブジェクトに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

コマンド	説明
エクスポート	このオプションは、数式のリスト内でメイン式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート**ダイアログが開きます。ここでは、エクスポートファイルの保存先を選択できます。ファイルには、xml のような拡張子が付きます。
貼り付け	このオプションは、数式がクリップボードにコピーされている場合に、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。
インポート	このオプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートされた数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しいメイン式としてチャートに表示されます。
上へ	選択した数式をリストの 1 つ上に上げます。このボタンを使用するのは、数式の順序を変更する場合です。
下へ	選択した数式をリストの 1 つ下に下げます。このボタンを使用するのは、数式の順序を変更する場合です。
NULL マーク	ここに入力されたマークは、テーブルで NULL 値を表示する際に使用されます。
欠損値マーク	ここに入力されたマークは、テーブルで欠損値を表示する際に使用されます。
有効化	このチェックボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
定義	選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開きます。
表示	**常に表示** を選択すると、数式は、リストボックスに追加された列に常に表示されます。**条件付き表示** を選択すると、右側の編集ボックスに入力した条件式の値に応じて、数式が動的に表示または非常時にされます。
配置	このグループでは、数式のデフォルトの配置を設定できます。テキスト、数値をそれぞれ、左揃え、中央揃え、または右揃えに設定できます。
表示オプション	このグループは、リストボックス式のセルに何を記述するかを定義します。

コマンド	説明
意味	次のオプションがあります。 **テキスト**: このオプションを選択すると、数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。 **画像**: このオプションを選択すると、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\Mypic.jpg) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式値を有効な画像参照として解釈できない場合は、値自体が表示されます。 **円形ゲージ**: このオプションを選択した場合、数式の値が円形スタイルのゲージで表示されます。ゲージ チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。 **線形ゲージ**: このオプションを選択した場合、数式の値が水平方向の線形スタイルのゲージで表示されます。ゲージ チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。 **信号機ゲージ**: このオプションを選択した場合、数式の値が水平方向の信号機スタイルのゲージで表示されます。ゲージ チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。 **LED ゲージ**: このオプションを選択した場合、数式の値が LED スタイルのゲージで表示されます。ゲージ チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。 **ミニ チャート**このオプションを選択した場合、QlikView は追加軸で集計された数式の値をミニ チャートで表示します。チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ミニ チャートの軸を定義することができ、チャートの視覚的な設定は **ミニ チャートの設置** ボタンから設定できます (以下参照)。 *Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。*
ゲージ設定	上でゲージ オプションの 1 つが選択されている場合にのみ使用できます。ゲージのプロパティを設定するためのダイアログを開きます。このダイアログは、基本的に、ゲージ チャートの **チャート プロパティ: プレゼンテーション** ページと同じです。
ミニ チャートの設定	テーブルの数式用の **表示オプション** で **ミニ チャート** が選択されているときにのみ有効です。ミニ チャートのプロパティを設定するためのダイアログを開きます。

コマンド	説明
画像形式	上記で [画像] オプションを選択した場合のみ使用できます。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。 **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は、拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。 **塗りつぶし**このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。 **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。したがって、通常は、画像の左右または上下に画像で覆われない領域ができます。 **縦横比を固定して塗りつぶし**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。 **画像がない場合にテキストを隠す**: このオプションをオンにすると、画像参照としての解釈に何らかの理由で失敗した場合、QlikView は項目値のテキストを表示しません。この場合、セルは空白のままです。

ミニチャートの設定

ミニチャートが、ストレートテーブルの**プロパティ**ダイアログの **数式** ページで選択されているときにのみ利用可能です。ミニチャートのプロパティを設定するためのダイアログを開きます。

ミニチャートプロパティ

プロパティ	説明
軸	数式を描画するための軸を選択します。

スタイル

外観プロパティ

プロパティ	説明
モード	折れ線、折れ線とマーカー、マーカー、棒、勝敗としてミニチャートを設定します。
色	**[色の設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、ミニチャートの色を設定できます。
最大値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、**[色の設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、最大値の色を設定できます。
最小値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、**[色の設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、最小値の色を設定できます。
始点値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、**[色の設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、始点値の色を設定できます。**[棒]** と**[勝敗]** モードでは無効です。

プロパティ	説明
終点値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、**[色の設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、終点値の色を設定できます。**[棒]** と**[勝敗]** モードでは無効です。
色の初期設定	QlikView に設定された色の初期値を強調設定する色に設定します。
目盛りの 0 設定	チャートの下端を軸の 0 に固定します。**勝敗** モードでは無効です。
Y 軸目盛の共有設定	列の全てのセルに同じ Y 軸目盛を使用します。

ソート

[ソート] ページは、シート オブジェクト (リスト ボックス、マルチ ボックス、テーブル ボックス、チャートまたは スライダー/カレンダー オブジェクト) を右 クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]** を選択するか、メイン メニューの**オブジェクト > プロパティ**を選択して開きます。シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。

ソート オプション

ソート順:	結果
状態	項目値を論理状態 (選択値、連結値、または除外値) に従ってソートします。 **昇順自動並べ替え** 設定は、リスト ボックスが垂直 スクロール バーを表示するときにのみ、リスト ボックス (または、マルチ ボックスの項目値を含むドロップダウン リスト) を **選択状態** に従ってソートします。リスト ボックスを拡大してすべての値を表示させると、**選択状態** によるソート順は解除されます。 *コンテナ オブジェクト内のリスト ボックスで、**昇順自動並べ替え**を使用しないでください。*
数式	このソート オプションの下にあるテキスト編集 ボックスに入力した数式に基づいて項目値をソートします。数式によるソートを使用すると、設定式でレコードのセットを定義することも可能です。なぜなら、数式はリストの選択値/絞込値で計算されて、ソートはリストの選択値/絞込値にのみ適用されるからです。 *数式によるソートは、数値項目でのみ機能し、テキスト項目では機能しないので、注意してください。*
レコード数	項目値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。
数値	項目値を数値順にソートします。

ソート順:	結果
テキスト	項目値をアルファベット順にソートします。
ロード順	項目値を最初のロード順でソートします。

初期設定 ボタンは、ソート順を初期設定値に設定します。

優先順位は、**選択状態**、**数式**、**レコード数**、**数値**、**テキスト**、**ロード順** の順です。これらのソート条件はそれぞれ、**昇順** または **降順** に設定できます。

プレゼンテーション

リスト ボックス プロパティ: プレゼンテーション ページは、リスト ボックスを右クリックし、フロート メニューから **プロパティ** を選択して開きます。ここでは、リスト ボックスのセルのレイアウトを調整できます。

画像オプション グループでは、メモリあるいはディスク上の画像へのリファレンスを構成する項目値をそのイメージとして解釈させることができます。

プレゼンテーション で、**テキスト** (初期値)、**画像** または **画像 INFO** のいずれかを選択します。

画像 選択すると、QlikView は各項目値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\Mypic.jpg) または qvw ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、*qmem://<Name>/<Peter>*) になります。QlikView が項目値を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

画像 INFO を選択すると、ロード スクリプトの **info load/info select** を使用して、QlikView が項目値にリンクした画像情報を表示します。項目値に対する有効な画像がない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

どちらかの画像オプションが選択されている場合、セルに画像を合わせるための **画像形式** の設定を使用できます。

画像形式オプション

オプション	説明
縮小/拡大なし	画像はそのままのサイズで表示され、覆い隠すことが出来ない可能性があります。
塗りつぶし	画像は、縦横比を無視して、セル全体を覆うように拡大されます。
縦横比を固定する	画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。
縦横比を固定して塗りつぶし	画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。覆われなかった領域は切り取られた画像で塗りつぶされます。

テキストの代わりに画像を表示する場合、項目値の論理状態を表示するためには、ドキュメントのデフォルトではなく別の選択スタイルを使用する必要があるかもしれません。**選択スタイルの上書き** のドロップダウン リストを使用して、**コーナー タグ** などの適切な選択スタイルを選択します。

リストボックスプレゼンテーションのオプション

オプション	説明
1列	このチェックボックスをオンにすると、リストボックスの項目値は常に1列に表示されます。
水平スクロールバーを隠す	このチェックボックスをオンにすると、指定した幅が広すぎるときに通常表示されるリストボックスの水平スクロールバーが非表示になります。代わりに、項目値は必要に応じて省略されます。
固定列数	このチェックボックスをオンにすると、リストボックスの固定列数を設定できます。このチェックボックスは、**1列** がオンの場合使用できません。
列でソート	リストボックスが2列以上のとき、値は行型に指定されたソート順で表示されます。**列でソート**は列型の表示に切替えます。
セルの枠線	項目値は、テーブルの行のように水平の線で区切られます。**セルの枠線** は、**セルを折り返して表示** チェックボックスをオンにすると自動的にオンになりますが、後で選択を解除できます。
強調検索サブストリング	検索オブジェクトに入力された検索文字列と合致する文字列を強調表示します。
背景	**[背景の設定]** ダイアログを開きます。
配置	リストボックスの項目値の配置を設定します。**[テキスト]** と**[数値]** の配置は別々に設定します。
折り返し設定	このグループでは、リストボックスのセルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。 **セルを折り返して表示** このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。 **高さn行** ここでは、セルの行数を指定できます。

背景の設定

背景の設定

構成	説明
色	この設定が有効の場合、オブジェクトに背景色が設定されます。**色** ボタンをクリックして色を選択します。
色の透過性	色のオプションが有効な場合にのみ使用できます。背景色の透過性を設定します。
画像	この設定が有効の場合、オブジェクトの背景に画像が設定できます。**参照** ボタンをクリックして画像を選択します。背景から画像を削除する場合、**削除** ボタンをクリックします。

構成	説明
画像拡大/縮小	画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。設定は、画像を適合させるための QlikView の書式設定方法を表します。 **縮小/拡大なし**: 画像は、拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、背景の一部が画像で覆われない場合があります。 **塗りつぶし**: 画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、背景全体を覆うように拡大されます。 **縦横比を固定する**: 画像は、縦横比を維持したまま、背景全体をできるだけ広く覆うように拡大されます。 **縦横比を固定して塗りつぶし**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、背景全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。
水平位置	画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。画像を **左**、**中央** または **右** に揃えます。
垂直位置	画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。画像を **上**、**上下中央** または **下** に揃えます。
画像の透過性	画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。背景画像の透過性を設定します。

数値

[] プロパティ: 数値書式] ページは、シートオブジェクトを右クリックし、フロートメニューから **[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。

各項目には、デフォルトの数値書式があり、**[] ドキュメントプロパティ: 数値]** ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このためには、この **ドキュメント初期設定を上書きする** チェックボックスをオンにし、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
混合	数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**書式パターン** 編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。

書式	説明
日付	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例:書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
パーセント表示 (%)	このチェックボックスは、次の書式で機能します。**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

[小数点] と**[桁区切り]** 区切り記号は、**[区切り記号]** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

[ドキュメント初期設定の変更] ボタンは、**[ドキュメントプロパティ: 数値]** ページを開き、ここではあらゆる項目の既定の数値形式を編集できます。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件がFALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と**[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合

は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

キャプションと枠線のプロパティ

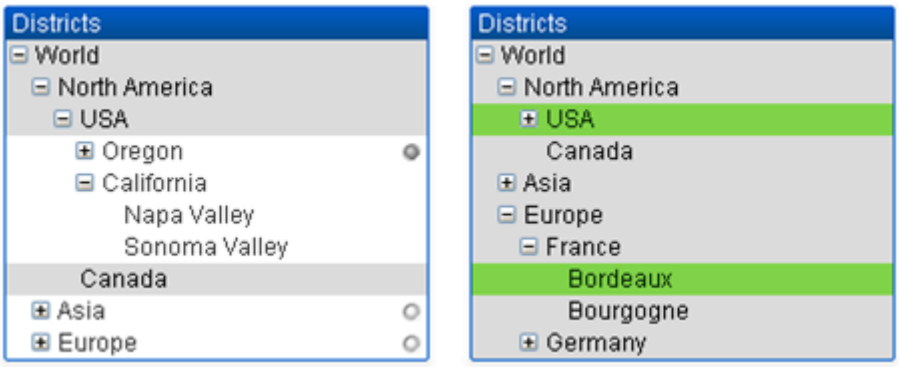
[キャプションと枠線のプロパティ] ダイアログでは、キャプションと枠線を適用するドキュメントのオブジェクトを設定します。

- **プロパティを次のオブジェクトに適用する**: 選択オブジェクト以外のオブジェクトにその設定を適用するには、このチェックボックスをオンにします。
    1. オプションの 1 つを選択します:
        - **このシートのオブジェクト**: このシートのオブジェクトこのシートにあるオブジェクトにのみ設定を適用します。シートオブジェクトの **[レイアウト]** ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。
        - **このドキュメントのオブジェクト**: ドキュメント全体のオブジェクトに設定を適用します。
    2. オプションの 1 つを選択します:
        - **この種類のオブジェクトのみ**: この種類の全てのオブジェクトに適用を設定します。シートオブジェクトの **[レイアウト]** ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。
        - **すべてのオブジェクト**: すべてのオブジェクトに設定を適用します。
- **このドキュメントで新規作成するオブジェクトの規定値に設定する**: 現在のドキュメントの新規作成オブジェクトのデフォルトとして設定を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。シートオブジェクトの **[レイアウト]** ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

リストボックス ツリー構造

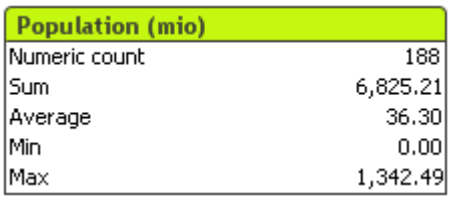
項目が、例えば *World/North America/USA/California/NapaValley* のように階層でノードのパスを含む場合、リストボックスをツリー構造で表示できます。ツリー構造では、操作を容易にするために段差をつけてノードを表示します。ノードを折りたたむと個々のノードがリストボックスで 1 行の階層の枝として表示されます。

選択は、通常の操作で行えます。階層における異なるレベルでの複数選択もサポートされています。



展開されたノードと葉 (子を持たないノード) には、QlikView 標準の色分けが使用されます。折りたたまれたノードでは、異なる状態が混在する可能性があります。その場合、ノードは、すべての値が選択されている場合は緑、すべての値が除外されている場合はグレー、そのほかの場合は白に表示されます。また、小さいインジケータが表示され、隠れたノードの状態を示します。

統計ボックス



Population (mio)	
Numeric count	188
Sum	6,825.21
Average	36.30
Min	0.00
Max	1,342.49

統計ボックスは、レコードの合計値や平均値など興味深い数値項目を表示する簡潔な方法です。選抜された統計関数を使用できます。特定の値域が選択されていない場合、QlikView は、対応する項目のリストボックスにリストされたすべての値 (連結値) を統計サンプルとして処理します。

統計ボックスのデフォルト名は選択値が属している項目の名前と同じです。

統計ボックスを右クリックすると、**[オブジェクト]** メニューが表示されます。

オブジェクト メニュー

統計ボックスの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

- **プロパティ**: パラメータを設定する **[統計ボックス プロパティ]** ダイアログを開きます。
- **ノート**: 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
- **順序**: このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
  - **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
  - **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
  - **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
  - **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
- **絞込値の選択**: 対応するリスト ボックスの除外値以外の値をすべて選択します。
- **除外値の選択**: 対応するリスト ボックスの除外値をすべて選択します。
- **すべて選択**: 対応するリスト ボックスのすべての値を選択します。
- **クリア**: 対応するリスト ボックスの現在の選択をすべて解除します。
- **他項目のクリア**: 対応するリスト ボックスの選択を保持しながら、他のシートオブジェクトの選択をすべて解除します。
- **ロック**: 対応するリスト ボックスの選択値をロックします。
- **アンロック**: 対応するリスト ボックスのロックされた値を解除します。
- **印刷**:**[印刷]** ダイアログを表示し、統計ボックスの内容を印刷できます。

- **PDF として印刷**: *Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
- **エクスポート**: **名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
- **クリップボードにコピー**: このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。
    - **データ**: 統計ボックスのデータ行をクリップボードにコピーします。
    - **セルの値**: ([オブジェクト] メニューを呼び出すときに) 右クリックした統計ボックスのセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。
    - **画像**: シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**[ユーザー プロパティ: エクスポート]** ページから既定の設定を継承します。
    - **オブジェクト**: シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
- **リンク オブジェクト**: リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。**リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
  オブジェクトのリンクを解除する: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
- **最小化**: オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▬ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **最大化**: オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ❐ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **元に戻す**: 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
- **ヘルプ**: QlikView ヘルプを開きます。
- **削除**: シート オブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

この **[基本設定]** プロパティページを開くには、**[表示]** メニューの **[シート オブジェクトの追加]** から **[統計 ボックス]** を選択するか、統計ボックスを右クリックして表示されるフロート メニューから **[プロパティ]** を選択します。ここでは、計算して統計ボックスに表示するための統計を選択できます。

- **タイトル**: ここには、シート オブジェクトのタイトルとして表示されるテキストを入力します。
- **並列ステート**:
  ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。
  - **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。
  - **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
- **オブジェクトID**:これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。統計ボックスの場合、ID は SB01 から始まります。リンク オブジェクトは、同じオブジェクトID を共有します。この ID は後で編集できます。
- **項目**:**項目** リストから使用する値を含む項目を選択します。
- **タイトルとして使用**:**タイトルとして使用** チェックボックスをオンにすると、ボックスのタイトルとして項目名を表示できます。**タイトル** 編集ボックスにタイトルを入力することもできます。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

- **利用可能な関数**: **[関数]** パネルのリストから使用したい統計関数を選択し、ダブルクリック、もしくは **[追加]** ボタンをクリックして **[表示関数]** パネルに移動させます。
- **標準誤差の表示**:**[平均値]** と**[標準偏差]** の計算に標準誤差の値を表示するには、**[標準誤差の表示]** チェックボックスをオンにします。
- **セルの枠線**:**セルの枠線** チェックボックスをオンにすると、テーブルの行のように水平の線による区切りが表示されます。
- **背景...**:**[背景の設定]** ダイアログを開きます。
- **表示関数**: 統計ボックスで使用される統計関数をリスト表示します。
- **選択行の設定**: 統計ボックスの外観は、**選択行の設定** グループでさらに修正できます。
- **ラベル**: ここにラベルを入力し、初期値として設定されている関数名を置換えます。
- **背景色**: 選択した行の背景色を指定します。[背景色] は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **テキストの色**: 選択行のテキストの色を選択します。
- **すべての行に色を適用**: このチェック ボックスをオンにしてから **適用** または **OK** をクリックすると、選択した色が統計ボックスのすべての行に適用されます。

利用できる統計関数は次のとおりです。

- **数値の個数**: サンプルのサイズです絞込値の中の数値の数です。
- **Null の個数**: 絞込値の中の空の項目値の数です。
- **テキストの個数**: 絞込値の中の文字数字の数です。
- **合計個数**: 絞込値の合計数です。リスト ボックスで表示できるレコード数と同じ数字です ([*Numeric count*] (数値の個数) と[*Text count*] (英数字の個数) の合計)。
- **欠損値の個数**: 絞込値の中の数値以外の数です。(*Null count (NULL の個数)* と*Text count (英数字の個数)* の合計)
- **合計値**: サンプルの合計です。

- **平均値**: サンプルの算術平均 (平均値) です。
- **標準偏差**: サンプルの標準偏差値
- **歪度**: サンプルの歪度
- **尖度**: サンプルの尖度
- **最小値**: サンプルの最小値
- **最大値**: サンプルの最大値
- **値のみ**: 唯一の絞込数値です。
- **中央値**: サンプルの中央値
- **フラクタイル**: サンプルの分位数

サンプルは、項目の除外値以外 (選択値 + 連結値) をすべて含みます。

最小値 や **最大値** のように見分けの付く項目値を表示する値をクリックすると、対応する項目値が選択されます。

数値

[統計ボックスプロパティ: 数値] タブは、統計ボックスを右クリックし、フロートメニューから **[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。

統計ボックスのさまざまな統計関数の統計的に正しい数値書式が、基準となる項目のデータおよび数値書式から自動的に導き出されます。ここでは、それぞれの関数に数値書式を上書き設定することができます。このためには、**[関数]** リストから統計関数を選択し、この **[初期設定を上書きする]** チェックボックスをオンにして、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
- **整数**: 数値を整数で表示します。
- **小数点以下を_桁に固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
- **通貨**:**書式パターン**編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**:**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
- **時刻**:**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
- **日付と時刻**:**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
- **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例: 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と **桁区切り** 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント**サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェック ボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシート オブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシート オブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウト テーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウト テーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロール バー

です。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集 ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

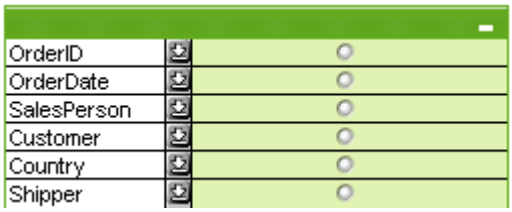
- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

マルチ ボックス



適用性によって表示項目をソートするそのユニークなオプションによって、マルチ ボックスは、同じシート上にたくさんのリスト ボックスを表示することの問題点を根本的に解決します。この **[適用順にソート]** オプションは、**[マルチ ボックス プロパティ: 基本設定]** ページにあります。

マルチ ボックスを右クリックすると、**[オブジェクト]** メニューが表示されます。

オブジェクト メニュー

マルチ ボックスの**オブジェクト** メニューには 3 つのバージョンがあります。キャプション領域をクリックして表示されるフロート メニューには、ボックス全体に適用できるコマンドが含まれ、特定の項目がポインターの下にあった場合、その項目に適用されるコマンドもメニューに含まれます。最後に、初めにファイルを開けると、フロート メニューにはさらにもう1 つのレイアウトが含まれます。すべてを含めたメニュー コマンド:

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[マルチ ボックス プロパティ]** ダイアログを開きます。

コマンド	説明
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
検索	検索 ボックスを開きます。
あいまい検索	テキスト検索 ボックスをあいまい検索 モードで開きます。
高度な検索	[高度な検索] ダイアログを開きます。このダイアログで、詳細な検索式を入力できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+F。
絞込値の選択	その項目の除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	その項目の除外値をすべて選択します。
すべて選択	その項目のすべての値を選択します。
すべての選択をクリア	マルチ ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
クリア	項目の現在の選択をすべてクリアします。
他項目の選択のクリア	マルチ ボックスの指定項目の選択を保持しながら、マルチ ボックスの他の項目の選択も含めて、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。
ロック	その項目の選択値をロックします。
選択値をすべてロックする	そのマルチ ボックスの選択値をロックします。

コマンド	説明
アンロック	その項目のロックされた値を解除します。
すべてをアンロック	マルチ ボックスのロックされた値を解除します。
印刷	プリンタ設定を指定できる**[印刷]**ダイアログを開きます。マルチ ボックスの印刷は、各項目が 1 つの値を表示する場合にのみ意味を持ちます。これは、それが唯一の選択値であり、唯一の連結値だからです。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この操作は、各項目が 1 つの値を表示する場合にのみ意味を持ちます。なぜなら、それが唯一の選択値であり、唯一の連結値だからです。
エクスポート	ダイアログが開かれ、マルチ ボックスをテーブルとして、選択したファイルにエクスポートできます。ファイルは、コンマ区切りファイル、セミコロン区切りファイル、タブ区切りファイル、ハイパーテキスト (HTML)、XML、Excel (xls または xlsx) のいずれの形式でも保存できます。デフォルトの形式は、タブ区切りファイル *.qvo (QlikViewOutput) です。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **データ** マルチ ボックスのデータ行をクリップボードにコピーします。 **セルの値** ([オブジェクト] メニューを呼び出すときに) 右クリックしたマルチ ボックスのセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。 **画像** シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

コマンド	説明
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で _ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で □ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikViewヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

マルチ ボックス オプション

オプション	説明
タイトル	マルチ ボックスの**タイトル**ウィンドウには、ウィンドウ キャプションに表示される名前を入力します。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。**継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikViewの開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。**初期ステート**: QlikViewで最も使用されるステートで$で表現されます。QlikViewドキュメントは常に**[初期ステート]**にあります。
項目	この列にはデータソース項目の名前が表示されます。初めは、すべての項目(システム項目以外)がこの列に表示されます。システム項目を表示するには、**[システム項目の表示]**チェックボックスをオンにします。 キー項目は、キーシンボルで示されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]**ボタンまたは**[< 削除]**ボタンを使用して、目的の列に移動します。
マルチボックス表示項目	この列には、マルチ ボックスに表示するために**項目**リストから選択された項目名が表示されます。初めは、この列に表示される項目はありません。 このリストで項目を選択すると、編集ボックスで**ラベル**を付けることができます。

オプション	説明
テーブルの項目を表示	ここで、**項目** リストにどの項目を表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **すべてのテーブル** を表示します。 **すべてのテーブル (テーブル名表示)** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。
数式	**[数式の編集]** ダイアログを開き、マルチ ボックスに表示項目として使用する数式を作成できます。
編集	**[マルチ ボックス表示項目]** 列で選択した項目を **[数式の編集]** ダイアログで開きます。
上へ	項目の表示される順番を 1 つ上に移動します。
下へ	項目の表示される順番を 1 つ下に移動します。
カウント順	**マルチ ボックス表示項目** 列の項目を番号順にソートします。
ロード順	**マルチ ボックス表示項目** 列をロード順 (データベースから読み込まれた順) にソートします。
テキスト順	**マルチ ボックス表示項目** 列の項目をアルファベット順にソートします。
ソート順に絞込値の有無を適用する	このチェックボックスをオンにすると、**マルチ ボックス表示項目** のソート順は選択時に動的に更新され、除外値でない値を含む項目がリストの上方へ移動し、絞込値のない項目が下方へ移動します。このオプションにより、ひとつのマルチ ボックスで文字通り 100 項目でも使用できるようになります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。マルチ ボックスの場合、ID は MB01 から始まります。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。

ソート

[ソート] タブは、シート オブジェクト (リスト ボックス、マルチ ボックス、テーブル ボックス、チャートまたはスライダー/カレンダー オブジェクト) を右クリックし、フロート メニューから **[プロパティ]** を選択するか、メイン メニューの **[オブジェクト] > [プロパティ]** を選択して開きます。シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。

オプション順にソート

ソート順:	結果
状態	項目値を論理状態 (選択値、連結値、または除外値) に従ってソートします。 **昇順自動並べ替え** 設定は、リストボックスが垂直スクロールバーを表示するときにのみ、リストボックス (または、マルチボックスの項目値を含むドロップダウンリスト) を **選択状態** に従ってソートします。リストボックスを拡大してすべての値を表示させると、**選択状態** によるソート順は解除されます。
数式	このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいて項目値をソートします。しかし、ソート順に数式を使用する場合、SET 数式でレコードのセットを定義する必要があります。ここでの数式によるソートは、数値項目でのみ機能し、テキスト項目では機能しないので、注意してください。
レコード数	項目値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。
数値	項目値を数値順にソートします。
テキスト	項目値をアルファベット順にソートします。
ロード順	項目値を最初のロード順でソートします。

初期設定 ボタンは、ソート順を初期設定値に設定します。

優先順位は、**選択状態**、**数式**、**レコード数**、**数値**、**テキスト**、**ロード順** の順です。これらのソート条件はそれぞれ、**昇順** または **降順** に設定できます。

プレゼンテーション

[マルチ ボックス プロパティ: プレゼンテーション] タブは、マルチボックスを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。ここでは、マルチボックスのセルのレイアウトを調整できます。マルチボックスの項目ごとにそれぞれ配置を設定します。- 閉じたマルチボックス - のレイアウトも調整できます。

配置プロパティ

Property	説明
配置	項目値の配置を設定します。**[テキスト]** と **[数値]** の配置は別々に設定します。

折り返しプロパティ

Property	説明
折り返し設定	このグループでは、マルチ ボックスの項目セルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。 **セルを折り返して表示** このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。 **セルの高さ (行)** ここでは、セルの行数を指定できます。
レコード数	**表示** 選択された項目値のレコード数を表示するかどうかについてのステータスを切り替えます。レコード数は、選択可能な値の組合わせの数を意味します。 **パーセント表示** レコード数を絶対数で表示するか、合計入力数に対するパーセンテージで表示するかについてのステータスを切り替えます。

プレゼンテーション プロパティ

Property	説明
(詳細設定)	このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。
1 列	このチェックボックスをオンにすると、マルチ ボックスの項目値は常に 1 列に表示されます。
水平スクロール バーを隠す	このチェック ボックスをオンにすると、指定した幅が広すぎるときに通常表示されるマルチ ボックスの水平スクロール バーが非表示になります。代わりに、項目値は必要に応じて省略されます。
列でソート	マルチ ボックスが 2 列以上のとき、値は行型に指定されたソート順で表示されます。**列でソート**は列型の表示に切替えます。
セルの枠線	項目値は、テーブルの行のように水平の線で区切られます。**セルの枠線** は、**セルを折り返して表示** チェックボックスをオンにすると自動的にオンになりますが、後で選択を解除できます。
除外値を隠す	項目の除外値を表示するかどうかを切り替えます。除外値は選択もできなくなります。
読み取り専用	このチェックボックスをオンにすると、マルチ ボックスのこの項目での選択が無効にされ、表示する機能のみとなります。
NULL を無視する	NULL 値は、指定した項目の絞込値として表示されません。 *このオプションを正しく使用しない場合は、相関関係のないデータがマルチ ボックスに表示されることがあります。*
ロック項目の上書き	このチェック ボックスをオンにすると、項目がロックされている場合でも、マルチ ボックスのその項目で選択を行うことができます。選択がドキュメントの他の場所で行われると、リスト ボックスはロック状態のままとなります。

Property	説明
グリッドのスタイル	このチェックボックスはマルチ ボックスのレイアウトを変更し、ラベルがそれに対応する項目の上にそれぞれ配置されます。
読み取り専用	このチェックボックスをオンにすると、このマルチ ボックスでの選択が無効にされ、表示する機能のみとなります。
リストを閉じているときの色	閉じたマルチ ボックスのデータ列セルの色を設定します。色は、ボタンをクリックすると表示される**[色の設定]**ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
ドロップダウン リスト表示行数 *n* 行	マルチ ボックスに表示されるドロップダウン リスト ボックスの長さを制限できます。編集ボックスに表示する値の最大数を入力します。
スタイル	**VBScript** および **JScript** から選択できます。
背景	**[背景の設定]**ダイアログを開きます。

項目詳細設定

項目詳細設定ダイアログは、**マルチ ボックス プロパティ: プレゼンテーション**、**テーブル ボックス プロパティ: プレゼンテーション**、および **チャート プロパティ: 軸** からアクセスできます。以下に説明する画像オプションはビットマップ チャートでは使用できません。

画像オプション

画像オプション

オプション	説明
意味	次のオプションがあります。 **テキスト** このオプションを選択すると、数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。 **画像** このオプションを選択すると、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\Mypic.jpg) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式値を有効な画像参照として解釈できない場合は、値自体が表示されます。 **画像 Info** このオプションを選択すると、QlikView は、項目値にリンクした画像情報を **info load/select** を使用してスクリプトに表示します。項目値に対する有効な画像がない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。ビットマップ チャートに、このオプションはありません。

オプション	説明
画像形式	上記で[画像]オプションを選択した場合のみ使用できます。この設定は、画像をセルに合わせるためのQlikViewの書式設定方法を表します。次の4つの選択肢があります。 **縮小/拡大なし** このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。 **塗りつぶし** このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。 **縦横比を固定する** このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。したがって、通常は、画像の左右または上下に画像で覆われない領域ができます。 **縦横比を固定して塗りつぶし** このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体(上下/左右とも)を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。
画像がない場合にテキストを隠す	このオプションをオンにすると、画像参照としての解釈に何らかの理由で失敗した場合、QlikViewは項目値テキストを表示しません。この場合、セルは空白のままです。
選択スタイルの上書き	テキストの代わりに画像を表示する場合、項目値の論理状態を表示するためには、ドキュメントのデフォルトではなく別の選択スタイルを使用する必要があるかもしれません。**選択スタイルの上書き**のドロップダウンリストを使用して、**コーナータグ**などの適切な選択スタイルを選択します。

検索オプション

このグループを使用すると、開かれているマルチボックスとテーブルのドロップダウンリストに適用できるテキスト検索の特定の操作を制御できます。

検索オプション

オプション	説明
検索対象に除外値を含める	テキスト検索に除外値を含めるかどうかを指定します。次の選択肢を使用できます。 **<既定値を使用>** **ユーザープロパティ**で指定されている既定値が適用されます。 **はい** 除外値をテキスト検索に常に含みます。 **いいえ** 連結値は通常通り含みますが、除外値をテキスト検索に含みません。

オプション	説明
検索モードの設定	テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。モードは常に、検索文字列の一部として * や ~ を入力することによってその場で変更できます。次の選択肢を使用できます。 **<既定値を使用>** **ユーザープロパティ**で指定されている既定値が適用されます。 **ワイルドカード検索** 2 つのワイルドカードの間にカーソルが入った状態で表示されるため、ワイルドカード検索を容易に実行できます。 **あいまい検索** あいまい検索を意味するチルダ(~) が最初に表示されます。 **標準検索** 最初に表示される検索文字列には特に何も追加されていません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。

数値

[マルチ ボックス プロパティ: 数値] タブは、マルチ ボックスを右クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。

このプロパティページは、マルチ ボックスのすべての項目の書式設定を提供します。数値書式は、**[項目]** リストからひとつ選択する、または複数選択することにより(Shift もしくは Ctrl キーを押しなたままクリック) 個々に設定できます。

各項目は既定の数値書式を持ち、**[ドキュメントプロパティ: 数値]** ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このためには、この **ドキュメント初期設定を上書きする** チェック ボックスをオンにし、下のグループ コントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値プロパティ

Property	説明
混合	数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**書式パターン**編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。

Property	説明
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例：書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

[ドキュメント初期設定の変更] ボタンは、**[ドキュメントプロパティ: 数値]** ページを開き、ここではあらゆる項目の既定の数値形式を編集できます。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント **サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。ドロップダウン メニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度** ドロップダウン メニューで、シート オブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シート オブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シート オブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シート オブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェック ボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。

- **前面**:**前面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**背面**レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面**レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面**レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件がFALSEを返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]**を**[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+Sを押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプショングループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが**[ドキュメントプロパティ: レイアウト]**と**[シートプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFOを許可する**:**info**関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合にINFOアイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションにINFOアイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikViewのすべてのテーブルシートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色** は、**色の設定** ダイアログで、**単色** または **グラデーション** として定義できます。**テキストの色** は、**固定** または **計算** 色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

テーブル ボックス



Suppliers

Supplier	Category	Product
ABC	Baby Clothes	Mehmet-Napp
ABC	Baby Clothes	Mehmet-Skor
ABC	Baby Clothes	Mehmet-Tröja
Asin Fashion Ltd Co	Swimwear	Summer Shorts
Asin Fashion Ltd Co	Women's Clothes	Okkaba Skin Jackets
Asin Fashion Ltd Co	Women's Footwear	Walking Shoes
Austerlich	Children's Clothes	RDL Suit
Austerlich	Men's Clothes	Bow tie
Austerlich	Men's Footwear	Davenport Shoes

テーブル ボックスは、複数の項目を同時に表示するシート オブジェクトです。すべての行の内容は、論理的に結合されます。行は、異なる内部テーブルから取得することも可能性で、項目の可能な組み合わせでテーブルを作成します。

テーブル ボックスを右クリックすると、**[オブジェクト]** メニューが表示されます。

リンクが解除されたデータ テーブルからテーブル ボックスに大量のフィールド データを追加する場合、QlikView は要求されるリンクを解決するデカルト積を作成しますが、これによって高いメモリ使用や他のパフォーマンスの問題が生じる可能性があります。

テーブル ボックスの使用

ソート

任意の列でテーブル ボックスをソートできます。列を右クリックし、コンテキスト メニューから**[ソート]** を選択するだけです。列のキャプションをダブル クリックしてもソートできます。コンテキスト メニューから **ソート** を選択する、または同じ列のタイトルをダブル クリックすると、ソート順が反転します。

列の順序の変更

ドラッグ アンド ドロップを使用して、列の順序を変更できます。列のタイトルをポイントし、マウス ボタンを押しながら、新しい位置に列をドラッグします。この機能を無効にするには、**[ドラッグ アンド ドロップを許可する]** チェック ボックス (**[テーブル ボックス プロパティ: プレゼンテーション]** ページ内) をオフにします。

オブジェクト メニュー

テーブル ボックスの **オブジェクト** メニューには 2 つのバージョンがあります。キャプション領域をクリックして表示されるフロート メニューには、ボックス全体に適用できるコマンドが含まれ、特定の項目がポインターの下にあった場合、その項目に適用されるコマンドもメニューに含まれます。すべてを含めたメニュー コマンド:

- **プロパティ**: パラメータを設定する **[テーブル ボックス プロパティ]** ダイアログを開きます。
- **ノート**: 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
- **データに列幅を合わせる**: テーブルのすべての列の幅を各列の最も広いデータに調整します。ヘッダーを計算に含めます。
- **列幅を同じにする**: テーブルの列幅を、クリックした列の幅と同じに設定します。
- **ソート**: クリックした項目でレコードをソートします。

- **カスタム セルの書式**:**カスタム セルの書式** ダイアログを開きます。ここでは、クリックした列のセルの書式を設定できます。このカスケード メニューは、**[デザイン グリッド]** コマンドが **[表示]** メニューでアクティブになっている場合にのみ使用できます。
- **順序**: このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
  - **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
  - **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
  - **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
  - **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
- **値の変更**: 入力フィールドを表示しているテーブル ボックス列でのみ使用できます。クリックされてたセルを入力モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。
- **値を元に戻す**: 入力フィールドを表示しているテーブル ボックス列でのみ使用できます。オプションが 3 つ入ったカスケード メニューを開きます。
  - **ひとつの値を元に戻す**: クリックされた項目値の値をスクリプトの既定値に戻します。
  - **絞込値を元に戻す**: 絞り込まれた項目値すべてをスクリプトの既定値に戻します。
  - **すべての値を元に戻す**: 項目値すべてをスクリプトの既定値に戻します。
- **絞込値の選択**: その項目の**除外**値以外の値をすべて選択します。
- **除外値の選択**: その項目の除外値をすべて選択します。
- **すべて選択**: その項目のすべての値を選択します。
- **すべての選択をクリアする**: テーブル ボックスに表示されているすべての項目の選択をクリアします。
- **クリア**: 項目の現在の選択をすべてクリアします。
- **他項目のクリア**: 現在の項目の絞込値をすべて選択し、他のすべての項目の選択をクリアします。
- **ロック**: その項目の選択値をロックします。
- **アンロック**: その項目のロックされた値を解除します。
- **印刷**: プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
- **PDF として印刷**: *Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
- **エクスポート**: 選択したファイルにテーブルの内容をエクスポートします。ファイルは、コンマ区切りファイル、セミコロン区切りファイル、タブ区切りファイル、ハイパーテキスト (HTML)、XML、Excel (xls または xlsx) のいずれの形式でも保存できます。デフォルトの形式は、タブ区切りファイル *.qvo (QlikViewOutput) です。HTML 形式にエクスポートする場合、テーブル ボックスの画像は含まれません。

- **クリップボードにコピー**: このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。
  - **テーブル全体**: ヘッダーと選択のステータスを含め、テーブルをクリップボードにコピーします。
  - **テーブルのデータ エリア**: テーブルの値のみをクリップボードにコピーします。
  - **セルの値**: ([オブジェクト] メニューを呼び出すときに) 右クリックしたリスト ボックスのテキスト値をクリップボードにコピーします。
  - **画像**: シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**[ユーザー プロパティ: エクスポート]** ページの設定により異なります。スクリプトの非表示部分によって生成されたテーブルは、*$Table* システム項目には名前で表示されません。
  - **オブジェクト**: シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
- **リンク オブジェクト**: リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
  オブジェクトのリンクを解除する: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

- **最小化**: オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **最大化**: オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **元に戻す**: 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
- **ヘルプ**: QlikView ヘルプを開きます。
- **削除**: シート オブジェクトをシートから削除します。

[カスタム セル書式] ダイアログ

このダイアログを使用すると、1 つまたは複数のグループのテーブル セルにカスタム書式を適用できます。**[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドをオンにするか、**[コンテキスト メニューにデザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。

書式設定で影響を受けるセルのグループは、コマンドを呼び出すために右クリックしたテーブル内の場所によって決定されます。書式設定するセルの最も小さいグループの単位は、テーブル ボックスの 1 項目 (通常は列) か、テーブル チャートの 1 数式/軸です。ストライプを使用する場合は、各ストライプが個別に書式設定されます。

このダイアログをテーブルの任意の部分のカスタム書式に使用すると、テーブルの**[プロパティ]** ダイアログの**[スタイル]** ページで設定されている**[スタイル]** が**[カスタム]** に設定されます。定義済みのスタイルの 1 つに**[スタイル]** 設定を戻すと、カスタム書式が失われます。



一般的なテーブル スタイルは、属性式から生成される書式に置き換えられます。

- **テーブル プレビュー パネル**: プレビュー パネルは、テーブル セルのグループに行われた書式変更を表示します。右側にある小さいプレビューの**[サンプル テキスト]** とは異なり、プレビュー パネルには、実行中の変更と、条件付き書式や属性式書式の適用後の変更が表示されます。
  このパネルでは、テーブルの周囲を自由に移動したり、さまざまなセルのグループに書式を適用することができます。書式のフォーカスを移動するには、セル内をクリックするだけです。
- **元に戻す**:**[元に戻す]** ボタンは、**[カスタム セル書式]** ダイアログ内で行われた変更を段階的に元に戻すために使用されます。
  [カスタム セル書式] ダイアログを閉じた後に、メイン ツールバーの**[元に戻す]** ボタンを 1 回クリックすると、そのダイアログで行われたすべての変更がそのクリックだけで元に戻ります。
- **やり直し**:**やり直し** ボタンは、**カスタム セル書式** ダイアログ内で **元に戻す** ボタンを使用して以前元に戻した変更を段階的に再適用するために使用されます。
- **サンプル テキスト**: これは、行われた設定を表示するプレビュー セルです。
- **背景色**: セルの背景色を定義します。
- **テキストの色**: セルのテキストの色を定義します。
- **上罫線**: ここでは、セルの前の罫線を定義します。罫線のスタイルを設定するためのドロップダウンと罫線の色を設定するためのボタンがあります。セルの罫線はセルとセルの間で結合されるので、テーブルの実際の罫線がプレビューと異なることがあります。
- **下罫線**: ここでは、セルの後の罫線を定義します。罫線のスタイルを設定するためのドロップダウンと罫線の色を設定するためのボタンがあります。セルの罫線はセルとセルの間で結合されるので、テーブルの実際の罫線がプレビューと異なることがあります。
- **テキストの設定**: このグループでは、セルに適用できるテキスト修飾子の数を定義します。
  - **テキスト サイズ**: ドロップダウンを使用して、テーブルで使用される通常のフォントにサイズ変更を適用します。
  - **太字**: 太字テキストにする場合にこのチェック ボックスをオンにします。
  - **斜体**: 斜体テキストにする場合にこのチェック ボックスをオンにします。
  - **下線**: 線付きテキストにする場合にこのチェック ボックスをオンにします。
  - **ドロップシャドウ**: テキストに影を付ける場合にこのチェック ボックスをオンにします。
- **設定対象**: 通常は、ダイアログにアクセスするために右クリックした対象の数式、軸、または項目 (テーブル ボックス) にのみ変更が適用されます。このドロップダウンを使用すると、他の数式、軸、または項目に同じ書式を適用できます。

(基本設定)

[テーブル ボックス プロパティ: 基本設定] ページは、テーブル ボックスを右クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]** コマンドを選択して開くか、テーブル ボックスがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

- **タイトル**: テーブル ボックスの **[タイトル]** ウィンドウには、ウィンドウ キャプションに表示される名前を入力します。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
- **利用可能な項目**: この列にはデータ ソース項目の名前が表示されます。初めは、すべての項目 (システム項目以外) がこの列に表示されます。システム項目を表示するには、**[システム項目の表示]** チェック ボックスをオンにします。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。
- **テーブル ボックスに表示する項目**: この列には、テーブル ボックスに表示するために **項目** リストから選択された項目名が表示されます。初めは、この列に表示される項目はありません。
  このリストで項目を選択すると、編集ボックスで **ラベル** を付けることができます。
- **システム項目の表示**: このボックスをオンにすると、システム項目が **項目** 列に表示されます。
- **テーブルの項目を表示**: ここで、**項目** リストにどの項目を表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **すべてのテーブル** を表示します。リスト ボックスで特定のテーブルの項目を表示する場合、ドロップダウン リストでテーブル名を選択します。
  すべてのテーブル (テーブル名表示) は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。)
- **上へ**: 項目の表示される順番を 1 つ上に移動します。
- **下へ**: 項目の表示される順番を 1 つ下に移動します。
- **カウント順**:**テーブル ボックス表示項目** 列の項目を番号順にソートします。
- **ロード順** :**テーブル ボックス表示項目** 列をロード順 (データベースから読み込まれた順) にソートします。
- **テキスト順**:**テーブル ボックス表示項目** 列の項目をアルファベット順にソートします。
- **並列ステート**:
  ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。
  - **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。
  - **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
- **オブジェクト ID**:これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。テーブル ボックスの場合、ID は TB01 から始まります。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。
- **演算実行条件**: テーブル ボックスを表示するために満たされなければならない **演算実行条件** を指定します。条件が満たされない限り、"演算実行条件が満たされていません" というメッセージが表示されます。
- **エラー メッセージ**: テーブル ボックス (とチャート) の標準エラー メッセージは、**[エラー メッセージ]** ボタンから開く **[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログでカスタマイズできます。

ソート

[テーブル ボックス プロパティ: ソート] タブは、テーブル ボックスを右クリックし、フロート メニューから **[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。

ソート優先順にテーブル ボックスの項目 リストを表示します。項目の順番は、**[ソート]** コマンドが実行されるときの適用されるソート順を決定します。項目の順番は、**[上へ]** と**[下へ]** ボタンを使用して変更できます。リスト内の各項目には、ソートの手順に使用される基準を指定できます。ソート基準を以下に説明します。

ソート順:

- **数式**: 項目値は、このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した任意の数式に基づいてソートされます。
- **レコード数**: レコード数によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
- **数値**: 数値によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
- **テキスト**: 標準 ASCII によるアルファベット順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。
- **ロード順** : ロード順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。

1 つ以上のソート順が指定されている場合の優先順位は、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。

プレゼンテーション

[テーブル ボックス プロパティ: プレゼンテーション] タブは、テーブル ボックスを右クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。

このダイアログでは、テーブル ボックスのレイアウトを決定します。

- **配置**: 項目値の初期配置は、**[項目]** リストの項目と**[配置]** グループの適当なオプションを選択し、**[テキスト]** と**[数値]** を別々に設定できます。初期設定では、テキスト値は左揃えに、数値は右揃えに設定されています。
- **項目値が NULL の行を省略する**: チェックボックスがオンの場合、NULL の項目値を含む行を選択した項目から削除します。NULL は、値なしと判断されます。
- **ドロップダウン選択**: チェックボックスをオンにすると、選択した項目列のヘッダの左側にドロップダウン矢印アイコンを追加します。アイコンをクリックして、ドロップダウン項目リストから項目値にアクセスできます。これは、マルチ ボックスで選択するのとほぼ同じです。

- **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。
- **折り返し設定**: このグループでは、テーブルのヘッダーとデータ セルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。
    - **テキスト ヘッダー折り返しの高さ *n* 行**: このオプションを選択すると、ヘッダーの内容を複数行で表示します。ここでは、ヘッダーの行数を指定できます。
    - **テキスト セル折り返しの高さ *n* 行**: このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。ここでは、セルの行数を指定できます。

- **縦書きラベル**: チェックボックスをオンにすると、すべての項目ラベルが縦位置に回転します。
- **ドラッグ アンド ドロップを許可する**: チェックボックスをオンにすると、ヘッダーをドラッグ アンド ドロップしてテーブル ボックスの項目順をソートできます。

- **ソート インジケータ**: チェックボックスをオンにすると、テーブル ボックスで現在 ソートされている項目の列ヘッダーの右側にソート アイコンを追加します。アイコンは、昇順と降順を反映して反転します。
- **選択 アイコンの表示**: チェックボックスをオンにすると、テーブル ボックスで現在 ソートされている項目の列ヘッダーの右側にソート アイコンを追加します。アイコンは、昇順と降順を反映して反転します。
- **ヘッダー行 を隠す**: チェック ボックスをオンにすると、ヘッダー (ラベル) 行がないテーブルが表示されます。

スタイル

スタイルに関するこのページは、QlikViewのテーブル (テーブル ボックス、ピボット テーブル、ストレート テーブル) すべてに該当します。ここでは、テーブル書式 スタイルの設定を行います。

- **現在のスタイル**: ドロップダウン リストから適切なテーブル スタイルを選択します。ドロップダウン コントロールに値 **[カスタム]** が表示される場合は、テーブルにカスタム スタイルが適用されています。定義済みのスタイルの 1 つに設定を戻すと、カスタム書式が失われます。
- **ストライプ N 行ごと** ここでは、影付きストライプを表示するかどうか、およびそれを表示する間隔を指定できます。
- **インデント モード**: この設定は、ピボット テーブルでのみ有効です。このチェック ボックスをオンにすると、限定されたテーブル幅にいくつもの軸を置く場合に特に有用な少し異なるテーブル スタイルを設定できます。
    - **第 1 軸のラベルのみを使用**: この設定はピボット テーブルが **インデント モード** になっている場合のみ有効で、ピボット テーブルのスタイルをさらに修正できます。
- **軸項目に縦の罫線を表示**: この設定は、縦のセルの境界線を軸列に表示するかどうかを決定します。
- **数式項目に縦の罫線を表示**: 上記と同じで、数式列に適用します。
- **行間に罫線を表示**:**項目詳細設定** ダイアログで **段落後の行間** チェック ボックスがオンの場合、このチェック ボックスをオンにしてテーブルのスタイルをさらに変更することができます。
- **背景...**:**[背景の設定]** ダイアログを開きます。
- **セル背景色の透過性**: 色、または画像が**背景の設定**ダイアログで適用されている場合、ここでセルの背景の色、または画像の透過性を調整できます。
- **セルの枠線の透過性**: セルの枠線をどのように表示するかを設定します。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**および フォント **サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクト プロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメント プロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメント プロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期 フォントがあります。

1. 最初のデフォルト フォント (**リスト ボックス、チャートなど**) は、リスト ボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルト フォント (**テキスト オブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキスト ボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザー プロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト(検索オブジェクト以外)には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]**もしくは**[計算]**(数式で動的に計算します)を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が]が**[スタイルのモード]**(**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]**内)として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは**[影の強度]**のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]**のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]**を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]**(**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]**内)が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。

- **鋭度**: 2 から100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と **[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と**非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集 ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン

シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。

- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

チャート

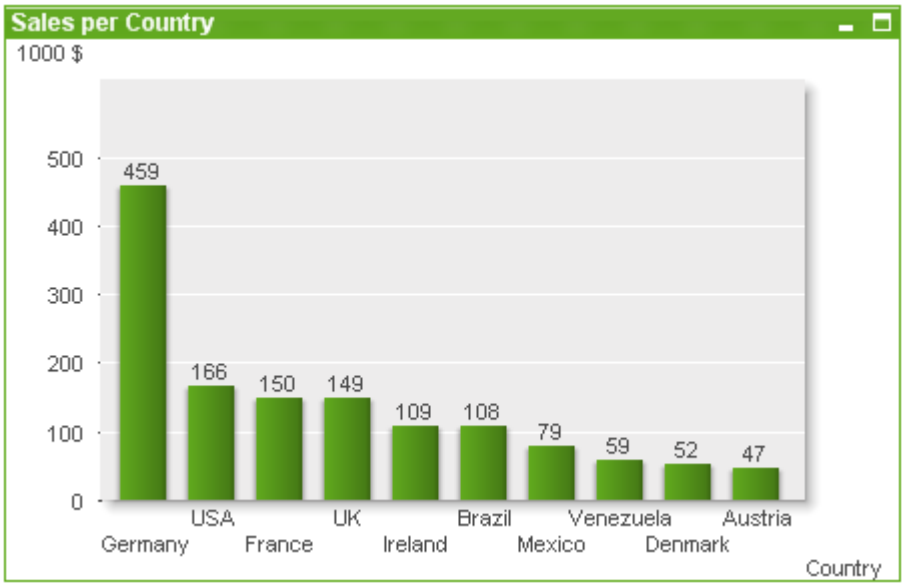
チャートとテーブルは、数値を簡潔に表示できるシート オブジェクトです。たとえば、年、月、口座番号などのさまざまな項目に配置された金額の合計を表示できます。

チャートやテーブルは、1 つの項目のさまざまな値のレコード数か、1 つの計算値 (1 つの項目の絞込値の合計など) を表示するように設定できます。どちらの場合でも、特定の項目を X 軸として選択する必要があります。つまり、この項目を使用して、円グラフのスライス、棒グラフのさまざまな棒、およびピボット テーブルの行にそれぞれラベルを付けることができます。

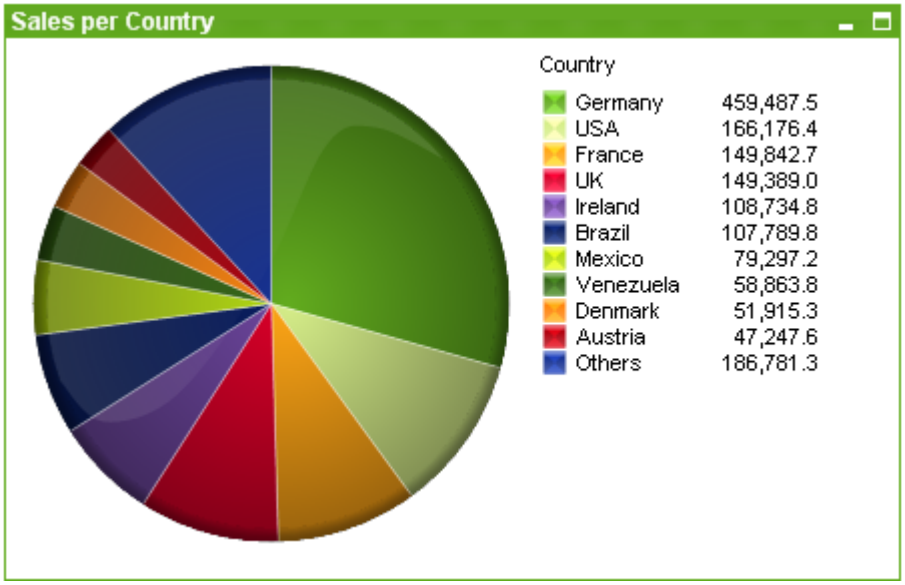
用意されているさまざまなチャートの種類

選択できるチャートの種類は、棒グラフ、円グラフ、コンボ チャート、散布図、折れ線グラフ、レーダー チャート、グリッド チャート、ゲージ チャート、ブロック チャート、ファネル チャート、ピボット テーブル、ストレート テーブル、およびメッコ チャートです。

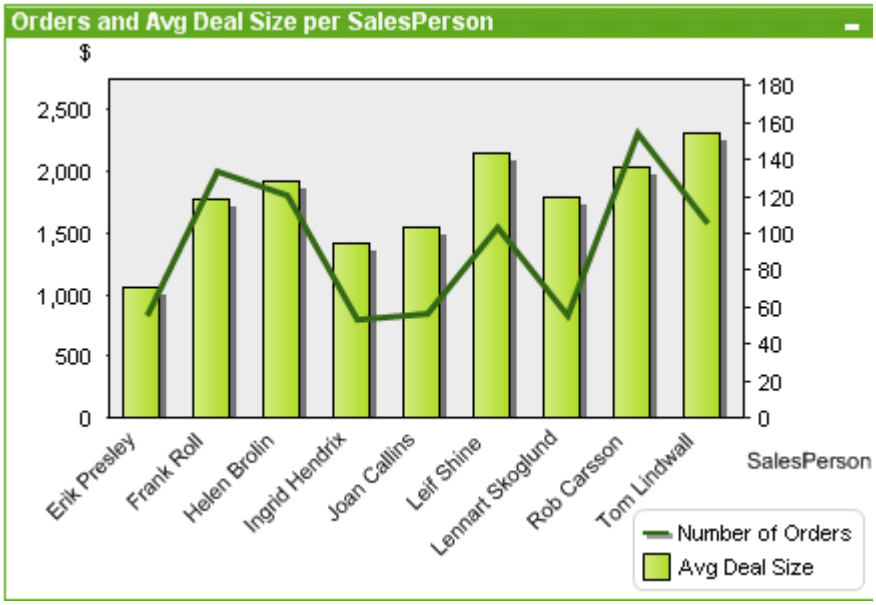
棒グラフ



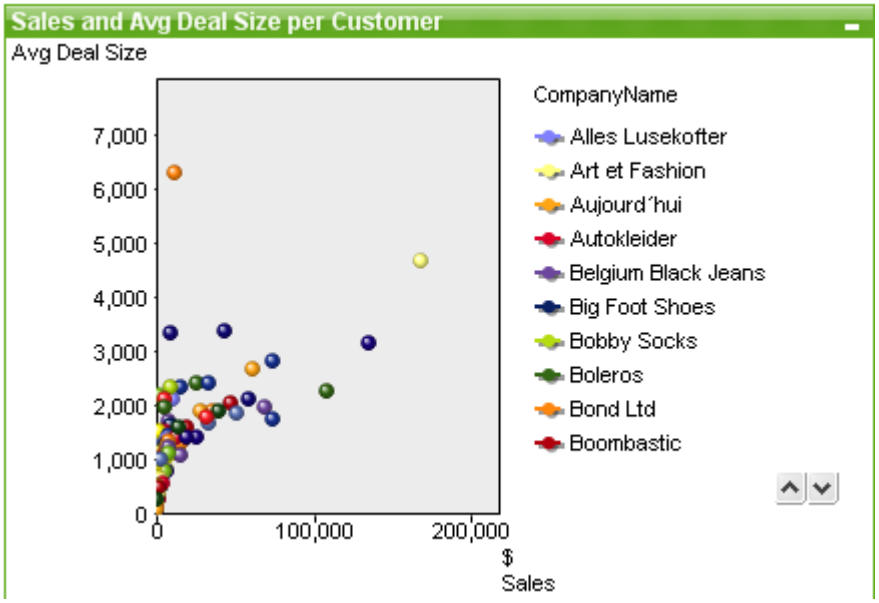
円グラフ



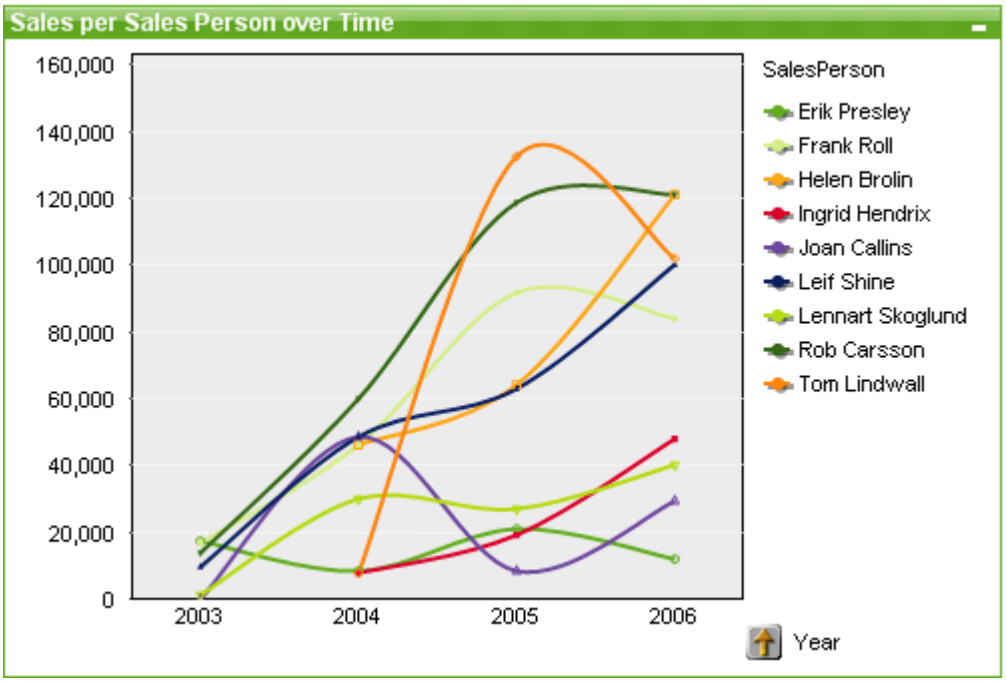
コンボ チャート



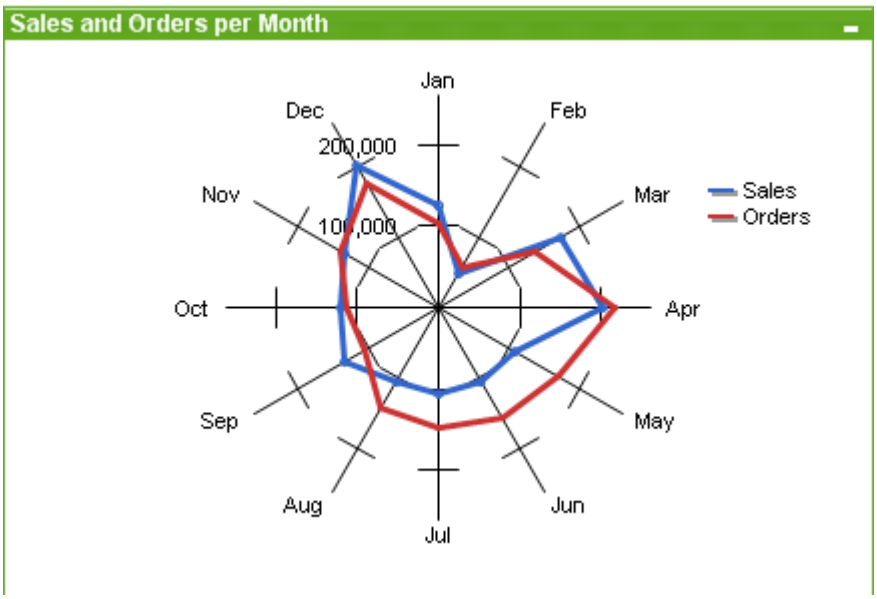
散布図


Sales and Avg Deal Size per Customer
Avg Deal Size
7,000
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
0
100,000
200,000
$
Sales
CompanyName
Alles Lusekofter
Art et Fashion
Aujourd´hui
Autokleider
Belgium Black Jeans
Big Foot Shoes
Bobby Socks
Boleros
Bond Ltd
Boombastic

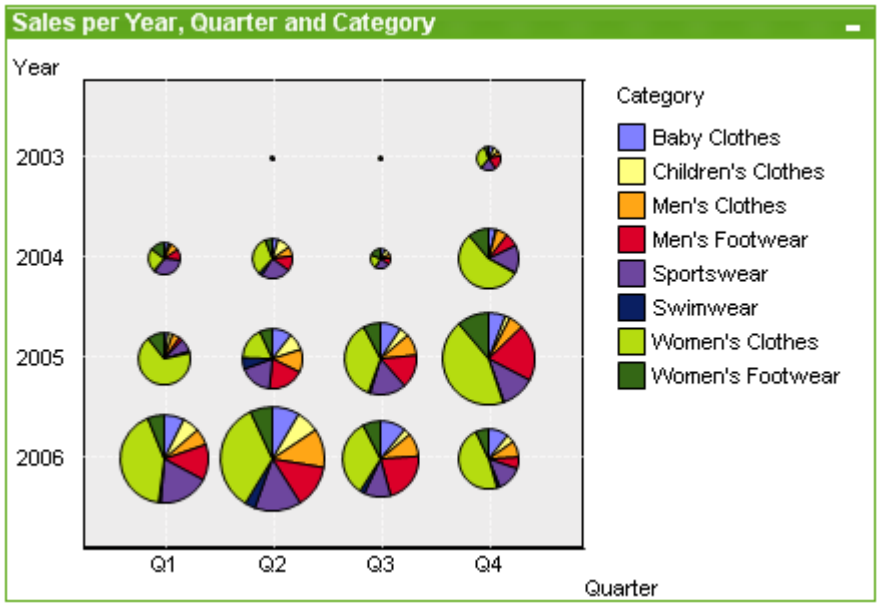
折れ線グラフ


Sales per Sales Person over Time
160,000
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
2003
2004
2005
2006
Year
SalesPerson
Erik Presley
Frank Roll
Helen Brolin
Ingrid Hendrix
Joan Callins
Leif Shine
Lennart Skoglund
Rob Carsson
Tom Lindwall

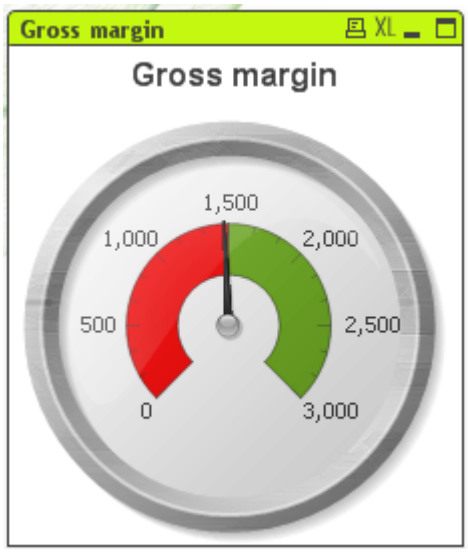
レーダー チャート



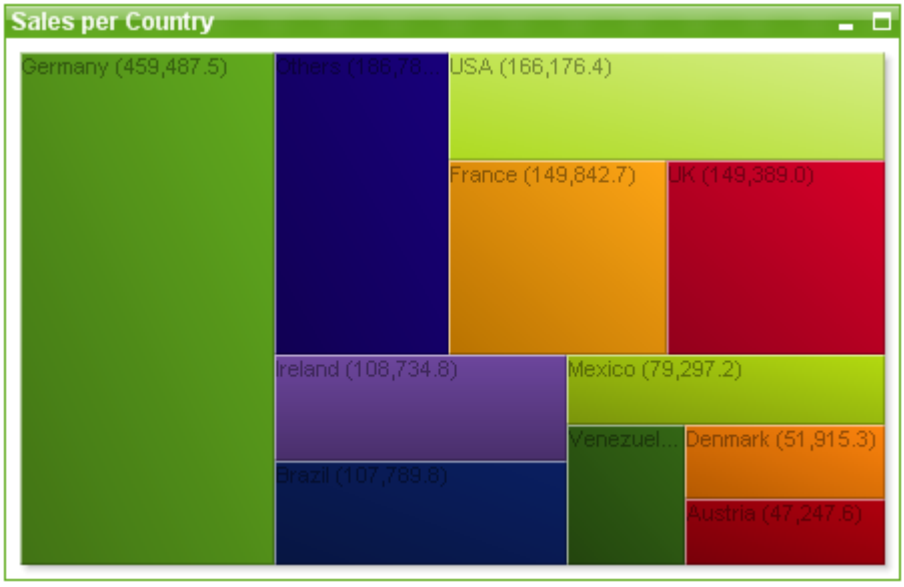
グリッド チャート



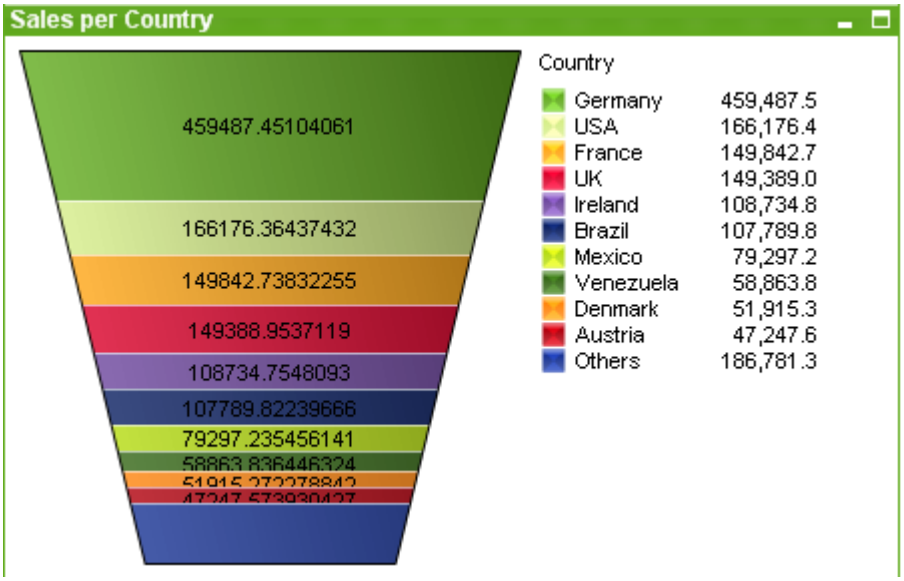
ゲージ チャート



ブロック チャート



ファネル チャート



ピボット テーブル



Pivot Table

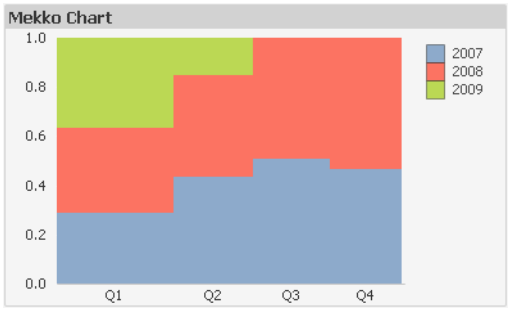
Country	Salesman	Year	Sales
Australia	Rolf Wesenlund	2005	1,030
		2006	1,210
		Total	**2,240**
	Total		**2,240**
Azerbaijan			5,329
Bahrain			1,090
Bangladesh			4,240
Belarus			26,065
Belgium	Charles Ingvar Jönsson	2006	1,210
		2008	3,159
		2009	3,690
		Total	**8,059**
	John Cleaves	2008	2,550
		Total	**2,550**
	Tony Cedholt	2008	2,500
		2009	4,249
		Total	**6,749**
	Total		**17,358**

ストレート テーブル

Sales per CategoryName

CategoryName	ProductName	Sales	Quantity
		$1,565,525.31	51952
Men's Clothes	Atles Lussekofta	$30,126.55	1057
Men's Clothes	Bow tie	$9,534.57	1315
Men's Clothes	Desperado Jeans	$18,240.68	706
Men's Clothes	Lenin Jeansshorts	$14,900.64	828
Men's Clothes	Mr2 Trousers	$17,944.48	1067
Men's Clothes	O-Man Underwear	$1,649.87	298
Men's Clothes	Rossi Bermuda Shorts	$10,947.25	1397
Men's Clothes	Samba Soccer Socks	$4,941.14	1175
Men's Clothes	US-Master Jeans	$21,764.94	817
Women's Clothes	Chantell Shirt	$7,504.70	388
Women's Clothes	Halter Dress	$361,096.85	981
Women's Clothes	Jack Flash Dress	$42,638.00	722
Women's Clothes	Langoste Shirt	$4,433.35	246
Women's Clothes	Le Baby Dress	$47,571.88	623
Women's Clothes	Minnki Pälsii	$10,472.71	184
Women's Clothes	Okkaba Skin Jackets	$42,258.78	601
Women's Clothes	Oyaki Kimono	$9,084.42	806

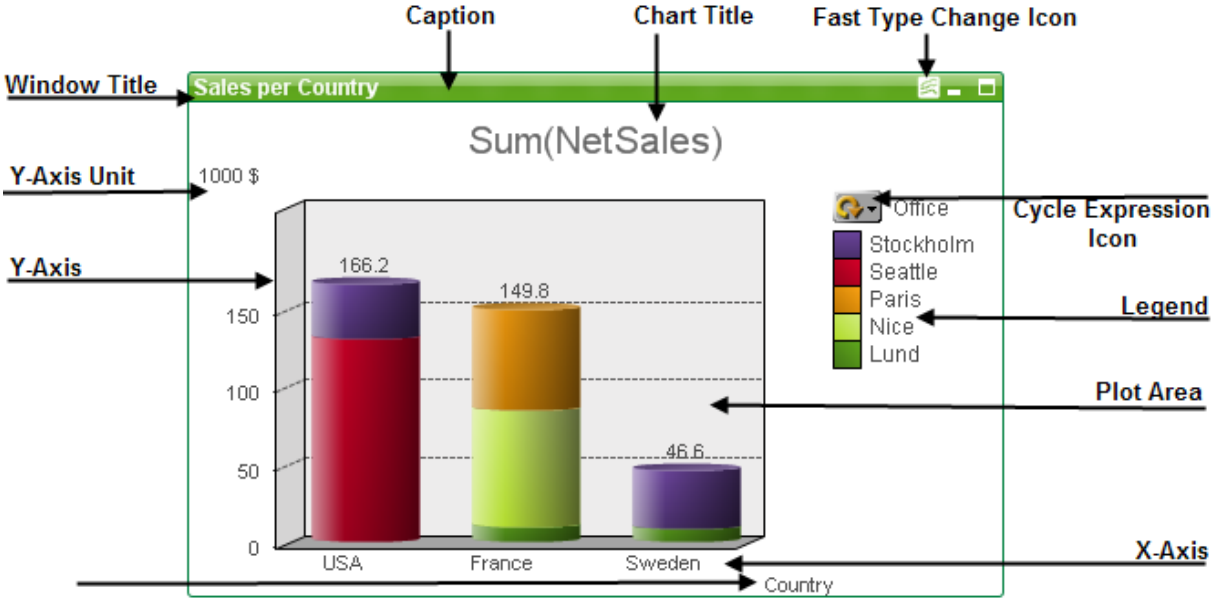
メッコ チャート



QlikView チャートは、主要な 2 つのカテゴリに分類できます。1 つ目のグラフ チャートは、棒、折れ線、コンボ、円、散布図、レーダー、グリッド、ブロック、メッコおよびゲージ チャートで構成されます。2 つ目のカテゴリのテーブル チャートは、ストレート テーブルとピボット テーブルで構成されます。これらのチャートの種類は、列と行のセルを含むテーブルとして描画されます。テーブル ボックスは、多くの点でテーブル チャートに似ていますが、チャートではなく、シート オブジェクトの別の種類であることに注意してください。

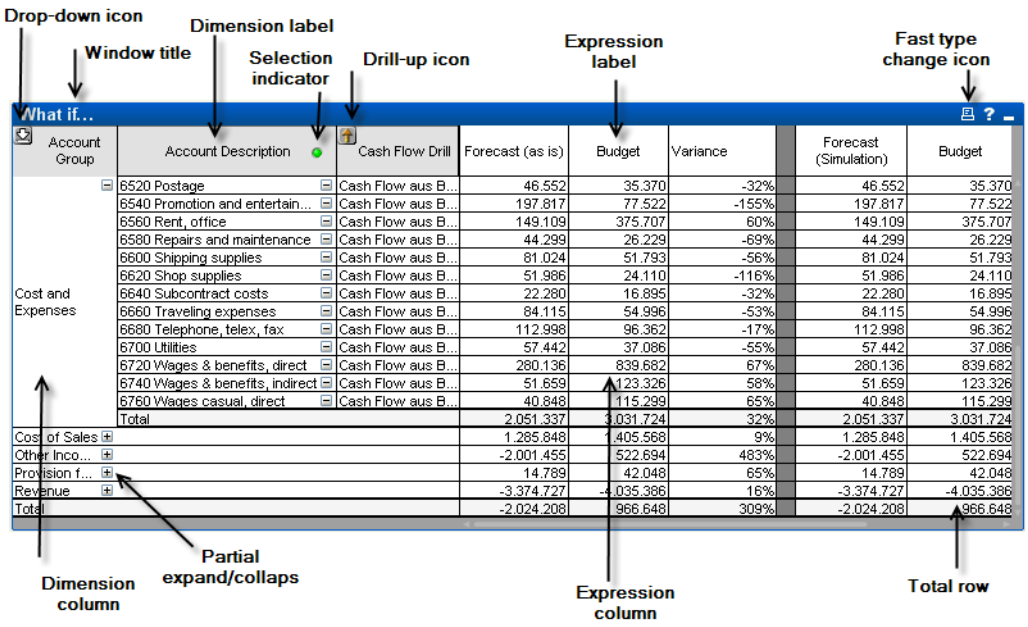
グラフ チャート

以下の棒グラフには、QlikView グラフ チャートの一般的なコンポーネントのいくつかを示します。



多くの場合、さまざまなコンポーネントの位置は、ユーザーが変更できます。

テーブル チャート



上のピボット テーブルには、QlikView テーブル チャートの一般的なコンポーネントのいくつかを示します。

チャートの追加

チャートを新規作成するには、ツールバーの **[チャートの作成]** ツールをクリックするか、空のシート領域を右クリックし、**[オブジェクト]** メニューから **[新規シート オブジェクト、チャート]** を選択するか、**[レイアウト]** メニューから **[新規シート オブジェクト、チャート]** を選択します。チャートプロパティのページが順番に開きます。

最初に表示されるページでは、名前とグラフの種類、タイトル (オプション) を設定します。**[次へ]** ボタンをクリックすると2番目のページなどが表示されます。十分な情報が入力されると、**[次へ]** もしくは **[完了]** ボタンが有効になり、次のページへ順番に進む、もしくは完了させることができます。

一度チャートがシート上に表示されると、右クリックして**プロパティ**を選択する、もしくは (キャプションの部分をクリックして) アクティブにして **オブジェクト** メニューの **プロパティ**を選択して、修正することができます。

チャートの種類

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。選択できるチャートの種類は、**棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、円グラフ、ファネル チャート、ブロック チャート、ゲージ チャート、ピボット テーブル**、および **ストレート テーブル**です。既存のチャートを別の表示に切り替えるには、**[チャートの種類]** (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) を変更します。
チャートの種類の簡単な紹介:

棒グラフ

最も基本的なチャートの種類です。各 x-軸の値は棒に対応し、棒の高さは y 軸の数値に対応しています。

折れ線グラフ

折れ線グラフは、本質的には棒グラフと同じ方法で定義されます。データは、棒の代わりに、値の点と点との間を結ぶ線、あるいは点だけ、または線と値の点の両方で表示できます。

コンボ チャート

コンボ チャートを使用すると、棒グラフの機能と折れ線グラフの機能を組み合わせることができます。1 つの数式を線またはマーカーで表示しながら、他の数式を棒で表示できます。

レーダーチャート

レーダー チャートは、x- 軸がチャートの周りを一周するように配置された一種の折れ線グラフで、結果は、レーダー画面やくもの巣に似ています。

散布図

散布図は、1 つ以上の軸で反復する数式の組み合わせを表現するデータ点を描きます。両方の軸は継続的で、それぞれ 1 つの数式を表しています。

グリッド チャート

グリッド チャートは散布図に似ていますが、軸に軸の値を表し、プロット マーカーを決定する数式を使用します。プロット マーカーとして、第 3 軸を小さい円グラフ形式で表示することもできます。

円グラフ

1 つの項目 (第 1 軸) と1 つの数式の関係を表示します。第 2 軸を設定すると、変形したチャートの種類が表示されます。複数の数式が **[チャートプロパティ: 数式]** ページで有効になっている場合は、最初の数式リストが表示されます。数式を切り替えるには **[数式]** プロパティページの **[左へ移動]**/**[右へ移動]** ボタンを使用します。

ブロック チャート

ブロック チャートは、数式の値と値の関係を大きさが異なる領域ブロックで表示します。1 軸から最大 3 軸まで使用でき、各軸のブロックがサブブロックに細分化されます。ブロック チャートの領域の合計は、常に絞り込まれた数式の値の 100% になります。「ヒート チャート」と呼ばれるチャートを作成するのに色関数が使用される場合があります。

ファネル チャート

ファネル チャートは通常、データをフローおよびプロセスで表示するために使用します。表示の観点から見ると、このチャートは円グラフと関連しています。チャートは、データに比例したセグメントの高さ/幅またはセグメントの領域で表示されます。また、データポイントを無視して、セグメントの高さ/幅が均一なチャートを描画することもできます。

ゲージ チャート

ゲージ チャートは、軸のない単一の数式の値を表示するために使用されます。

メッコ チャート

メッコ チャートでは、さまざまな幅の棒を使用してデータを表します。2 軸のチャートでは、データを最大 3 レベルまで表示できます。メッコ チャートは、マーケット分析などの領域で有効です。

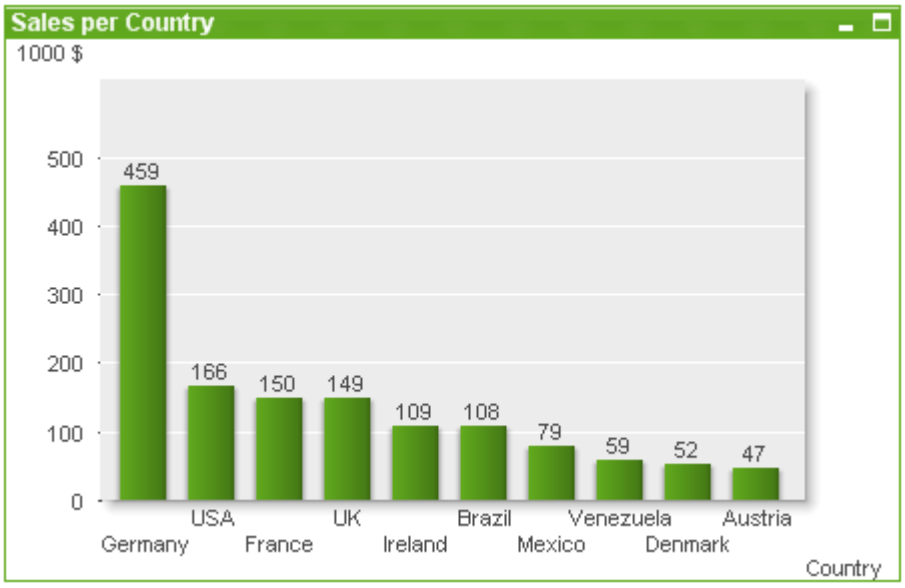
ピボット テーブル

ピボット テーブルは、軸と数式をテーブル形式で表示します。可能な軸や数式の数に、正式な制限はありません。
ピボット テーブルは、数式を使用せずに、軸レベルを移動するためのツリー ビューの生成を定義できます。

ストレート テーブル

ストレート テーブルのピボット テーブルとの違いは、小計を表示できないことと、軸のグループがレコード形式で表示されるためテーブルの各行に項目と数式の値が含まれることです。

棒グラフ



棒グラフは、最も基本的なチャートの種類です。

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャート プロパティ: 基本設定]** ページの **チャート タイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

[ツール] メニューから **[クイック チャート]** ウィザードを選択し、新しい棒グラフをすばやく作成できます。

オブジェクトを右クリックすると、**棒チャート: オブジェクト メニュー**が表示されます。棒グラフがアクティブなオブジェクトの場合は、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

チャートの追加

チャートを新規作成するには、ツールバーの **チャートの追加** ボタンをクリックする、シートの領域を右クリックし、シートの **オブジェクト** メニューから**[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択する、または、**レイアウト** メニューから**[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択します。チャートプロパティのページが順番に開きます。

最初に表示されるページでは、名前とグラフの種類、タイトル (オプション) を設定します。**[次へ]** ボタンをクリックすると2番目のページが表示されます。十分な情報が入力されると、**[次へ]** もしくは **[完了]** ボタンが有効になり、次のページへ順番に進む、もしくは完了させることができます。

一度チャートがシート上に表示されると、右クリックして**プロパティ**を選択する、もしくは (キャプションの部分をクリックして) アクティブにして **オブジェクト** メニューの **プロパティ**を選択して、修正することができます。

オブジェクト メニュー

チャートを右クリックするとフロート メニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

コマンド	説明
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレート テーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

コマンド	説明
リンクオブジェクト	リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。**リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikViewヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイックチャートウィザード**または**チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウタイトル	ウィンドウヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェックボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボットテーブルやストレートテーブルでは、チャートタイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル設定**ボタンをクリックして、チャートタイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定**ボタンをクリックすると**印刷設定**ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]**ダイアログは、**[印刷:レイアウト]**と**[印刷:ヘッダー/フッター]**の2ページで構成されます。

Property	説明
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。 リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシートオブジェクトキャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャートタイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッドチャートは 3 つの軸を表示できます。レーダーチャートとファネルチャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージチャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウングループ] には垂直矢印が、[サイクリックグループ] にはカーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キーシンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システムフィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。

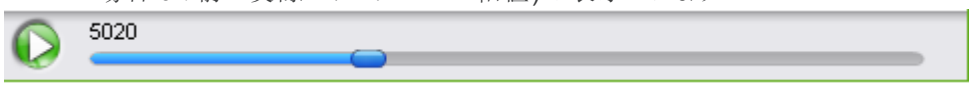
Property	説明
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウンリストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロードスクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップチャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップチャートもトレリス表示にできます。
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブルセル内のテキストのフォントスタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。

Property	説明
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: [凡例の表示] チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が x-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: [ラベル] チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。 を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。 を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

[アニメーション] ダイアログ

Ajax/WebView クライアントの使用中には、チャートのアニメーション表示はサポートされません。

アニメーションの設定

構成	説明
第 1 軸をアニメーション表示する	このチェックボックスをオンにすると、チャートの第 1 軸がチャートのアニメーションに使用されます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。たとえば、アニメーション表示されたチャートでは、ペイントまたはクリックで選択できません。すう勢線は、アニメーション表示されたチャートに描画されません。アニメーション軸に複数の絞込値がある場合にのみ、アニメーションが可能です。 チャートがアニメーション表示されるときには、チャートのプロット エリアの下部に **アニメーション バー** が表示されます。**[アニメーション バー]** には、アニメーションを開始する **[再生]** ボタンがあります。アニメーションが実行されているときは、**[再生]** ボタンは **[一時停止]** ボタンに置き換わります。これらのコントロールを使用して、いつでもアニメーションを開始または停止できます。**[進捗表示バー]** には、アニメーションの進捗が表示されます。マウスで進捗表示バーのハンドルをポイントし、マウスの左ボタンを押しながら任意の位置にドラッグして、手動でアニメーション表示できます。手動アニメーションは、通常、補間フレームをスキップ (以下の **[フレーム / 秒]** 設定を参照) し、アニメーション軸の実際の値の間のみを移動します。キーボードで CTRL キーを押しながらドラッグすると、補間フレームの上をドラッグできます。プログレス バーの上側には、現在のフレームのアニメーション軸の値 (補間フレームの場合は、前の実際のアニメーション軸値) が表示されます。 
値の表示間隔 (ミリ秒)	アニメーション軸の各値の表示間隔をミリ秒単位で設定します。この値を計算式として指定できます。
フレーム /秒	1 秒あたりのフレームの数を設定します。QlikView は、アニメーション軸の実際の値の間のプロットを補間します。値は 1 ~ 30 の整数です。この値を計算式として指定できます。
自動再生	ドキュメントで選択が行われるたびに、アニメーションを自動的に開始させる場合は、このチェックボックスをオンにします。
ループ	**アニメーション バー** の **一時停止** ボタンで停止されるまでアニメーションを繰り返し再生する場合は、このオプションを選択します。
1 回再生	アニメーションが開始されるたびに、アニメーションの実行を最初から最後まで 1 回だけ行う場合は、このオプションを有効にします。 **初めに戻る** アニメーションの終了後に最初のフレームに戻す場合は、このチェックボックスをオンにします。

構成	説明
軸の値をアニメーション表示する	このチェックボックスをオンにすると、アニメーション時のデータの値がチャートに表示されます。 **配置** 表示する値の配置を設定します。 **水平** 値を右、中央、または左に揃えます。 **垂直** 値を上、中央、または下に揃えます。 **フォント...** 表示する値のフォントの色を設定します。

トレリスの設定

トレリスの設定

構成	説明
トレリスチャートを有効にする	第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
トレリスに第 2 軸を設定する	トレリスチャートに第 2 軸を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。第 2 軸を設定する場合、第 1 軸の値はトレリス行列の列として表示され、第 2 軸の値はトレリス行列の行として表示されます。
列数	**自動設定** を選択するとQlikView が自動的に表示列数を設定し、**固定** を選択すると表示列数を指定できます。
行数	**自動設定** を選択するとQlikView が自動的に表示行数を設定し、**固定** を選択すると表示行数を指定できます。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボット テーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行までのすべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャートエンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレートテーブルに小計を表示できます。

チャートプロパティ: 数式

[チャートプロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。

[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する 2 つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例 : 以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブル セル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャート プロパティ: スタイル]**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データ ポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ**と**下へ**ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループボタンは、有効な数式が2つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikViewのレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> *[サイクル グループ]と[サイクリック グループ]は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が1つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価 マーカーとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価 マーカーの高値 ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値 ポイントをプロットするために使用されます。株価 マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの終値 ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの始値 ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェック ボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェック ボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラー バー** チェック ボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェック ボックスをオンにできません。このオプションは、コンボ チャートでのみ有効です。

ボックス プロット

数式をボックス プロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。数式 リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェック ボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラー バー** チェック ボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボ チャートでのみ有効です。

エラー バー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラー バーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェック ボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラー バー数式は、正の数を返します。エラー バーに使用される補助数式には、数式 リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップ

にのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikViewは各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例: C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(例: qmem://<Name>/<Peter>)になります。QlikViewが数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]**チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LEDゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは**[チャートプロパティ: プレゼンテーション]**ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]**ボタンを使用します。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は**[ミニチャートの設定]**ボタンで変更できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

Excelに出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]**項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText*と解釈されるテキストを返します。*DisplayText*は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**数式の編集**ダイアログが開きます。

URLリンクは、セキュリティ上の制限により、Ajaxクライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで*Name*と*Link*はロードスクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。



トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャートオブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。



[最初の文字列] または *[最後の文字列]* は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は *0* から *9*、その後 *A* から *Z* へと続きます。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ ('', inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y軸値	軸の値は、y軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または**A -> Z**と**Z -> A**を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェックボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループプロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループレベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの1つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが2つの軸を表示する、もしくは1つの軸と2つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別にx-軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大2軸です。
  - 第3軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
- 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャートプロパティ: プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャート)

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、メッコ チャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボ チャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒設定

構成	説明
要素の間隔 (-6 - 8)	クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。
グループの間隔 (0 - 8)	複合軸の棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。
細い棒を許可する	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。
すべての棒を表示	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

[データ点の値] グループでは、**チャートプロパティ: 数式** ページの **[表示オプション]** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

データ ポイント設定の値

構成	説明
最大表示数	このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
垂直	値を縦に表示します。
要素の中に値を表示	このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
引き続き上部に合計を表示	このチェック ボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフとメッコ チャートの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラー バーの表示オプションを決定します。

エラー バー表示 オプション

オプション	説明
幅	エラー バーの幅 を指定します。
厚さ	エラー バーの厚さを指定します。
色	エラー バーの色 を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボ チャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線/マーカーの設定

構成	説明
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカー セットを使用する	このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

表示設定

構成	説明
半透明	線を半透明に表示したい場合は、このオプションをオンにします。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1 つの値を同様にハイライト表示できます。
0 値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、空値や 0 値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。 **データ ラベルに 0 値を表示** このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェック ボックスがオンで、**[データ点の値]** がそのチャート式の **[表示 オプション] (チャート プロパティ: 数式)** でオンの場合は、0 値がデータ ポイントの上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、ゼロ値が隠されます。
欠損値を隠す	このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

構成	説明
ポップアップラベル	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。

凡例 グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の設定

構成	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

チャートのスクロールの設定

構成	説明
X- 軸スクロール バーの有効化	X 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
反転	このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロット エリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

基準線のオプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

[チャートのテキスト] グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

チャートのテキスト オプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

凡例の書式

チャートの凡例のレイアウトは、このダイアログのさまざまな設定でコントロールできます。

凡例の設定

構成	説明
スタイル	凡例の基本的なスタイルを設定します。複数のスタイルから選択します。
背景色	凡例の背景の色を設定します。色は、ボタンをクリックすると表示される [色の設定] ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
垂直位置	凡例に必要な垂直方向の領域がプロット エリアより狭い場合、凡例をプロット エリアに対してどのように配置するかを指定します。
フォント	標準のフォント ダイアログが開き、凡例のフォントを指定できます。
線の間隔	凡例内の項目の間の距離を指定します。
ソート順を反転する	凡例のソート順を反転します。
複数行	凡例の項目が複数行の場合の折り返しオプションを設定します。 **折り返して表示** 凡例の項目のテキストを 2 行以上に折り返します。 **セルの高さ (行)** **折り返して表示** オプションがオンの場合、この設定で各項目に何行使用するかを指定します。

基準線

基準線 ダイアログは、使用するチャートの種類によって外観が少し異なります。基準線は、1 つまたは両方の軸上の特定の地点からチャートのプロット エリアを横断する線です。たとえば、特定のレベルやチャート データのパーセンタイルを示すために使用できます。基準線は、始点の軸の現在の範囲内にある場合にのみ引かれます。

基準線の設定

構成	説明
ラベル	基準線の横に描画するラベルを指定します。使用されるデフォルト値は数式です。ラベルを計算式として定義できます。
基準線のラベルを表示	基準線の横にラベルを表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。
場所	基準線の始点の軸を設定します。 **数値目盛のX-軸** 軸基準線をX軸から開始します。このオプションは、チャートに数値目盛のX-軸が含まれている場合にのみ有効です。 **プライマリY** 基準線を第1軸 (Y軸) (左/下) から開始します。 **セカンダリY** 基準線を第2軸 (Y軸) (右/上) から開始します。
定義	基準線を描画する位置の値を設定します。値は、現在のチャートデータの固定 **パーセンタイル** (編集ボックスに1と100の間の数値を入力) または任意の数値の **数式** を指定できます。
線の書式	基準線のレイアウトを定義します。 **太さ** 基準線の太さを指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。 **色** 基準線の色を設定します。 **スタイル** 実線、破線、点線といったスタイルを基準線に指定します。
表示	基準線を表示する条件を指定します。 **常に表示** 基準線は常に表示されます。 **条件付き表示** 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式がFALSEを返す場合にのみ表示されます。

チャートテキスト

チャートのテキストオプション

オプション	説明
テキスト	チャートに表示するテキストを入力します。入力されるテキストは、動的に更新される計算式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開きi、長い数式を簡単に編集したり、複数行のテキストを入力したりできます。
フォント	標準のフォントダイアログが開き、テキストのフォントを指定できます。

オプション	説明
常に手前に表示	チャートの描画時に、テキストを前面に表示します。
背景	テキストの背景を定義します。 **透明** この設定では、テキストのみが表示されます。テキストに覆われたシートオブジェクトも完全に見えます。 **[固定]** この設定では、ラジオボタンの右にある**色**ボタンをクリックして背景色を設定します。 **計算** 色は数式から動的に計算することもできます。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。
角度	テキストの角度を指定します。0 ~ 360 度に指定でき、既定値は 0 です。
配置	テキストの水平方向の配置をその背景内で設定します。

チャートプロパティ: 目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャート)
このダイアログは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャートの**[チャートプロパティ]**ダイアログから開きます。

このダイアログでは、チャートの軸や y 軸として表現される数式の目盛線を設定できます。y 軸の目盛は 1 つ、もしくは 2 つ定義できます。x 軸が数値を表示する場合は、**[数値目盛表示]**を設定できます (以下を参照してください)。

ダイアログの内容:

数式の目盛線

数式の設定

構成	説明
数式	ここに表示される利用可能な数式は、**チャートプロパティ: [数式]**ダイアログで定義されます。

y 軸の**目盛線の色**と**幅**、および目盛りの数値の**フォント**は、それぞれ対応するオプションをクリックして個々に設定します。

目盛線の設定

構成	説明
Log スケール	Log スケールは、チャートのすべてのデータ点が正の数 (>0) である場合に使用できます。

構成	説明
0 設定	X 軸は、y = 0 に交差します。このオプションは対数軸が使用されている場合には使用できません。
目盛の非表示	選択した数式の目盛を非表示にします。
ラベルの切り捨て	バーの上部に文字列をすべて表示できない場合、文字列は切り捨てられます。この設定はデフォルトでオンになっています。
グリッドの表示 / 補助グリッドの表示	y-軸の目盛マークは、水平 (y-軸 **位置** が **左** もしくは **右** に設定されます) と垂直 (y-軸 **位置** が **上** もしくは **下** に設定されます) グリッド線の表示に使用されます。
目盛	**最小値** Y 軸の目盛りは、ドキュメントの状態によって変更されません。このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスで y 軸の最小値を固定値として設定できます。 **最大値** このチェックボックスをオンにすると、Y 軸の最大値を固定値として設定できます。 **目盛間隔** このチェックボックスをオンにすると、Y 軸の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。

[目盛] グループで入力する値は、計算式として指定できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

数式目盛線の設定

構成	説明
位置	2 つの数式が利用可能な場合、それらに異なる位置を設定し、1 つを **左(下)** に、その他を **右(上)** に表示できます。この場合、y 軸は数式のために異なる目盛りを表示します。
軸の分割	y 軸を 2 ヵ所に分けることにより、x 軸を共有する 2 つのチャートがあるように見えます。**第 1 軸 *n* (%)** は、軸の主要部分に使用される軸の長さのパーセントを定義します。

軸の目盛線

軸目盛線の設定

構成	説明
第 1 軸ラベル	第 1 軸のラベル表示を、水平、傾斜、垂直に設定します。
第 2 軸ラベル	第 2 軸のラベル表示を、水平、傾斜、垂直に設定します。

構成	説明
数値目盛の表示	(順序正しい) 連続数値の目盛り軸 。 連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトは棒グラフレイアウトでのみ許可されます。
0 設定	y 軸は、x = 0 に交差します。
目盛の非表示	x 軸は表示されません。
グリッドの表示	x 軸の目盛マークがグリッド線に拡張されます。グリッド線は、**[グリッド スタイル]** と**[グリッド色]** 設定を使用して書式設定できます (ページの最後を参照)。
補助グリッドの表示	補助グリッドを有効にします。
段組みラベル	x-軸のすべての値を表示するのに十分なスペースがない場合、ラベルを段組みにします。このオプションがオフの場合は、表示されるラベル数が少なくなる可能性があります。この設定は水平表示時のラベルでのみ有効です。通常、x-軸ラベルは左から右に段組みにされます。**[段組み表示の反転]** チェックボックスをオンにすると、段組みが右から左へと反転します。

x-軸の **目盛線の色** と**幅** は、目盛りの数値 **フォント** と同様に、適応するオプションをクリックして個々に設定します。

スケールの設定

構成	説明
目盛	**最小値** X 軸の目盛りは、ドキュメントの状態によって変更されません。このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスで x 軸の最小値を固定値として設定できます。 **最大値** このチェックボックスをオンにすると、X 軸の最大値を固定値として設定できます。 **目盛間隔** このチェックボックスをオンにすると、X 軸の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。

[目盛] グループで入力する値は、計算式として指定できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

すう勢線の設定

構成	説明
バックキャスト	この機能はすう勢線に作用します。見積もり用のすう勢線をどれだけ後ろに表示したいかをテキストの編集ボックスに入力します。すう勢線のバックキャスト部分は点線で表示されます。
フォーキャスト	予測用のすう勢線をどれだけ表示したいかをテキストの編集ボックスに入力します。すう勢線のフォーキャスト部分は点線で表示されます。

グリッドの設定

構成	説明
グリッドのスタイル	**[グリッドのスタイル]** をオンにし、ドロップダウンリストの有効なグリッドスタイルから選択できます。
グリッドの色	グリッドの色を選択します。
数式の目盛線を0レベルに揃える	2つのy軸を表示している場合、この設定はそれらを0レベルに同期させるのに使用されます。

チャートプロパティ: 色

[チャートプロパティ: 色] ページは、チャートウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に18の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラーマップをQlikViewのデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラーマップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラーマップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikViewの初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラーマップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18番目の以降の値にはすべてカラーマップの18番目の色が適用されます。オフの場合、1から18の色を順番に繰り返し使用します。
色の代わりにパターンを使用する	**印刷時** チャートは白黒の塗りつぶしパターンで印刷されます。オフの場合、白黒プリンターがグレースケールを使用します。 **スクリーン上** チャートは塗りつぶしパターンで表示されます。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。  *背景色設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

カラー マップ詳細設定

[カラー マップ詳細設定] ダイアログでは、いくつか異なるレベルの色の設定を取得、設定、またはクリアできます。

カラー マップの詳細設定

構成	説明
現在のカラー マップ	ダイアログを開くと、現在のチャートのカラー マップが表示されます。個々の色をクリックするか、**シートの初期設定**、**ドキュメントの初期設定**、**ユーザーの初期設定**、または **QlikView の初期設定** の **取得** ボタンを押して、カラー マップを変更します。
シートの初期設定	現在のシートのデフォルトのカラー マップを設定、取得、またはクリアします。現在のシートのデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します (このオプションはシートのデフォルトがある場合にのみ有効)。現在のカラー マップをシートのデフォルトとして適用するには、**[更新]** を押します。現在のシートのデフォルトをクリアするには、**削除** を押します (このオプションはシートのデフォルトがある場合にのみ有効)。

構成	説明
ドキュメントの初期設定	現在のドキュメントのデフォルトのカラー マップを設定、取得、またはクリアします。現在のドキュメントのデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します (このオプションはドキュメントのデフォルトがある場合にのみ有効)。現在のカラー マップをドキュメントのデフォルトとして適用するには、**[更新]** を押します。現在のドキュメントのデフォルトをクリアするには、**削除** を押します (このオプションはドキュメントのデフォルトがある場合にのみ有効)。
ユーザーの初期設定	ユーザーのデフォルトのカラー マップを設定、取得、またはクリアします。ユーザーのデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します (このオプションはユーザーのデフォルトがある場合にのみ有効)。現在のカラー マップをユーザーのデフォルトとして適用するには、**[更新]** を押します。ユーザーのデフォルトをクリアするには、**削除** を押します (このオプションはユーザーのデフォルトがある場合にのみ有効)。
QlikView の初期設定	QlikView のデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します。このデフォルトは、変更できません。

チャートプロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。

- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェック ボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシート オブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシート オブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウト テーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウト テーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。

*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。

- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

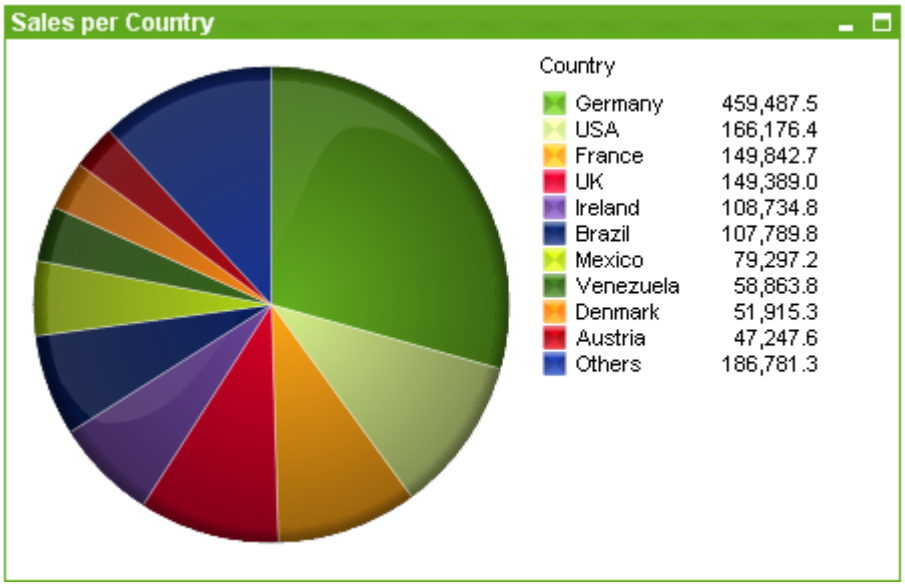
- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

> *キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。*

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

円グラフ



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャート プロパティ:[基本設定]** ページの **チャート タイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

通常、円グラフは 1 つの軸と1 つの数式の間の関係を表示しますが、2 つの軸を使用することもあります。

[ツール] メニューから**[クイック チャート]** ウィザードを選択し、新しい円グラフをすばやく作成できます。

円グラフを右クリックすると、**[円グラフ: オブジェクト メニュー]**が表示されます。円グラフがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

> *円グラフのオブジェクトで表示できるスライスは 500 個に制限されています。*

オブジェクト メニュー

チャートを右クリックするとフロート メニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

コマンド	説明
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレート テーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

コマンド	説明
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikViewヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸]ページは、チャートを右クリックして**[プロパティ]**を選択するか、チャートがアクティブな場合は**[オブジェクト]**メニューから**[プロパティ]**を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の2つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計)やそれと同類のものです。これは、**数式**ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国)別やそれと同類のものです。これは、**軸**ページで設定します。

1つのチャートは、1つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大2つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは3つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を1つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]**ページに指定された項目からその値を取得します。1つの軸は、1つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります(下の「**グループ**」を参照)。

項目、グループ、数式(計算軸)を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>]や**[<削除]**ボタンを使用して、(クリックやCTRL+クリックで)選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト(標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。

Property	説明
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と**[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

Property	説明
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が **x**-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら 3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャート

に表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャート エンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレート テーブルに小計を表示できます。

チャート プロパティ: 数式

[チャート プロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。



[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する2つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例:以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブル セル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャート プロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データ ポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ**と**下へ**ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループボタンは、有効な数式が2つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> *[サイクル グループ]と[サイクリック グループ]は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が1つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価 マーカーとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価 マーカーの高値 ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値 ポイントをプロットするために使用されます。株価 マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの終値 ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの始値 ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェック ボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェック ボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラー バー** チェック ボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェック ボックスをオンにできません。このオプションは、コンボ チャートでのみ有効です。

ボックス プロット

数式をボックス プロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。数式 リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェック ボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラー バー** チェック ボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボ チャートでのみ有効です。

エラー バー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラー バーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェック ボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラー バー数式は、正の数を返します。エラー バーに使用される補助数式には、数式 リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップ

にのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikViewは各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例: C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(例: qmem://<Name>/<Peter>)になります。QlikViewが数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]**チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LEDゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは**[チャートプロパティ: プレゼンテーション]**ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]**ボタンを使用します。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は**[ミニチャートの設定]**ボタンで変更できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

Excelに出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]**項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText*と解釈されるテキストを返します。*DisplayText*は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**数式の編集**ダイアログが開きます。

URLリンクは、セキュリティ上の制限により、Ajaxクライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで*Name*と*Link*はロードスクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。



トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャートオブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> *[最初の文字列]* または *[最後の文字列]* は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は *0* から *9*、その後 *A* から *Z* へと続きます。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸 ソート オプション

オプション	説明	
Y 軸値	軸の値は、y 軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または **A -> Z** と**Z -> A** を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェック ボックスは、**軸** リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループ プロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェック ボックスをオンにすると、グループ レベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に 1 つのソート順を適用できます。

チャート プロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの 1 つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダー チャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが 2 つの軸を表示する、もしくは 1 つの軸と2 つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別に x- 軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大 2 軸です。
  - 第 3 軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
- 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャートプロパティ: プレゼンテーション (円グラフ)
このダイアログでは、円グラフのスライスの表示方法を設定できます。

初期値は次のとおりです。

デフォルト値

値	説明
ポップアップラベル	マウスポインターが値に触れたときに、ポップアップウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。
0 値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から 0 または null を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
欠損値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の null 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
ハイライト	これをオンにすると、円グラフのセグメント上にマウスポインタを置いたときにセグメントが強調表示され、全体像を把握しやすくなります。強調表示は、凡例にも適用されます (適用可能な場合)。

凡例 グループでは、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例オプション

オプション	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に数値を表示	これをオンにすると、数値を表示する凡例がチャートに表示されます。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

チャートのテキスト グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

チャートのテキスト オプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャート レイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

チャート プロパティ: 色

チャート プロパティ: 色 ページは、チャート ウィンドウを右クリックし、**オブジェクト** メニューの **プロパティ** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

色のプロパティ

プロパティ	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。
色の代わりにパターンを使用する	**印刷時** チャートは白黒の塗りつぶしパターンで印刷されます。オフの場合、白黒プリンターがグレースケールを使用します。 **スクリーン上** チャートは塗りつぶしパターンで表示されます。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景色の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。  ***背景色**設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

[セクタの輪郭] を使用して、チャート内のセグメントを分ける線に色を割り当てることができます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。

書式	説明
通貨	**プレビュー** テキストボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント**サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェック ボックスをオンにすると、テキストにドロップ シャドウが追加されます。
- **下線**: このチェック ボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビュー パネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。ドロップダウン メニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度** ドロップダウン メニューで、シート オブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シート オブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シート オブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シート オブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェック ボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と **[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。

- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。

- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

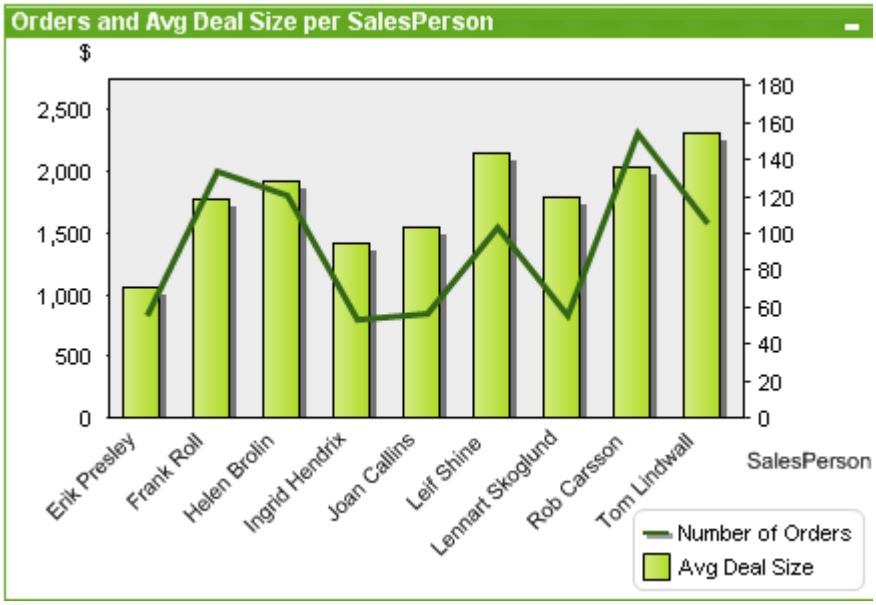


キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

コンボ チャート



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャートプロパティ:[基本設定]** ページの **チャートタイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

コンボ チャートを使用すると、棒グラフの機能と折れ線グラフの機能を組み合わせることができます。つまり、1 つの数式の値を棒で表示しながら、他の数式の値を線またはマーカーで表示できます。

ツールバーの **[チャートの追加]]**  ボタンをクリックすると、新しいコンボ チャートを簡単に作成することができます。

コンボ チャートを右クリックすると、**コンボ チャート:[オブジェクト] メニュー**が表示されます。コンボ チャートがアクティブなオブジェクトの場合は、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

コンボ チャートの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

プロパティ

プロパティダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

ノート

現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

分離設定

チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。

分離解除

分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。

参照設定

このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリックグループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。

参照解除

参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。

複製

チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序

このカスケードメニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェックボックス (**[ユーザープロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブルボックス、ストレートテーブル、またはピボットテーブルのオブジェクトメニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

- **最前面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- **前面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- **背面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

すべての選択をクリア

チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。

印刷

プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。

PDF として印刷

Microsoft Print to PDF プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。

Excel 出力

基底のデータ(チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。

エクスポート

チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー

このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。

- **値**: 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。
- **画像**: チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。
- **オブジェクト**: シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンクオブジェクト

リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。

- **リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
- **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▬ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

最大化

オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ☐ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す

最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ

QlikView ヘルプを開きます。

削除

シートオブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定
基本設定ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード**または **チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と**[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

Property	説明
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカルチャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシートオブジェクトキャプション内のいずれかに配置できます。テーブルチャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカルチャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカルチャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラーメッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキストメニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。

- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャートタイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッドチャートは 3 つの軸を表示できます。レーダーチャートとファネルチャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージチャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の「**グループ**」を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キーシンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウンリストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロードスクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。

Property	説明
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

Property	説明
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が **x**-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャート

に表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャート エンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレート テーブルに小計を表示できます。

チャート プロパティ: 数式

[チャート プロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。



[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する2つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例:以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブル セル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャート プロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データ ポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ**と**下へ**ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループボタンは、有効な数式が2つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> *[サイクル グループ]と[サイクリック グループ]は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が1つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い)としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバルーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップ

にのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikViewは各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例: C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(例: qmem://<Name>/<Peter>)になります。QlikViewが数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]**チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LEDゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは**[チャートプロパティ: プレゼンテーション]**ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]**ボタンを使用します。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は**[ミニチャートの設定]**ボタンで変更できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

Excelに出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]**項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText*と解釈されるテキストを返します。*DisplayText*は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**数式の編集**ダイアログが開きます。

URLリンクは、セキュリティ上の制限により、Ajaxクライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで*Name*と*Link*はロードスクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。



トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャートオブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> *[最初の文字列]* または *[最後の文字列]* は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は *0* から *9*、その後 *A* から *Z* へと続きます。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y軸値	軸の値は、y軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または**A -> Z**と**Z -> A**を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェックボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループプロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループレベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの1つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが2つの軸を表示する、もしくは1つの軸と2つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別にx-軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大2軸です。
  - 第3軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
- 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャートプロパティ: プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャート)

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、メッコ チャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボ チャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒設定

構成	説明
要素の間隔 (-6 - 8)	クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。
グループの間隔 (0 - 8)	複合軸の棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。
細い棒を許可する	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。
すべての棒を表示	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

[データ点の値] グループでは、**チャートプロパティ: 数式** ページの **[表示オプション]** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

データ ポイント表示オプションの値

オプション	説明
最大表示数	このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
垂直	値を縦に表示します。
要素の中に値を表示	このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
引き続き上部に合計を表示	このチェック ボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラー バーの表示オプションを決定します。

エラー バー表示 オプション

オプション	説明
幅	エラー バーの幅 を指定します。
厚さ	エラー バーの厚さを指定します。
色	エラー バーの色 を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線 グラフとコンボ チャートで使用 される線 とデータ点 のマーカーの表示 オプションを決定します。すう勢線 の幅 も決定できます。

線/マーカーの設定

構成	説明
線の幅	線の表示 を指定した場合は、線の幅 を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
マーカーのサイズ	マーカーの表示 を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅 を決定します。
マーカーセットを使用する	このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示 の種類 (リング、三角 など) が増えます。
半透明	線を半透明に表示したい場合は、このオプションをオンにします。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線 をハイライト表示します。凡例 がチャートに含まれている場合、複数の重なり合うう値 から1 つの値 を同様にハイライト表示できます。
0 値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、空値 や 0 値 の軸 を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。 • **データ ラベルに 0 値 を表示**: このオプションは、**0 値 を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェック ボックスがオンで、**[データ点 の値]** がそのチャート式 の **[表示 オプション] (チャート プロパティ: 数式)** でオンの場合は、0 値 がデータ ポイントの上側にテキストとして表示 されます。その他の場合は、ゼロ値 が隠されます。
欠損値を隠す	このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式 のすべての項目 の NULL 値 にのみ関連付けられた軸項目 のすべての組み合わせが計算で無視 されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値 をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

構成	説明
ポップアップラベル	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。

凡例 グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の設定

構成	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

チャートのスクロールの設定

構成	説明
X- 軸スクロール バーの有効化	X 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
反転	このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロット エリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

基準線の設定

構成	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

[チャートのテキスト] グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

テキストの設定

構成	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャートテキストを作成するための **[チャートテキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャートテキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

目盛線

目盛線 ページでは、X- 軸とY- 軸の表示プロパティを設定できます。

チャートプロパティ: 色

[チャートプロパティ: 色] ページは、チャートウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラーマップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラーマップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラーマップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラーマップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラーマップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロットエリアの背景とプロットエリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。  ***背景色**設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。

書式	説明
日付	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します(例:書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します(1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント、スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン(**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上)を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント(**リストボックス、チャートなど**)は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント(**テキストオブジェクトとボタン**)は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト(検索オブジェクト以外)には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]**(数式で動的に計算します)を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤーグループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と **[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

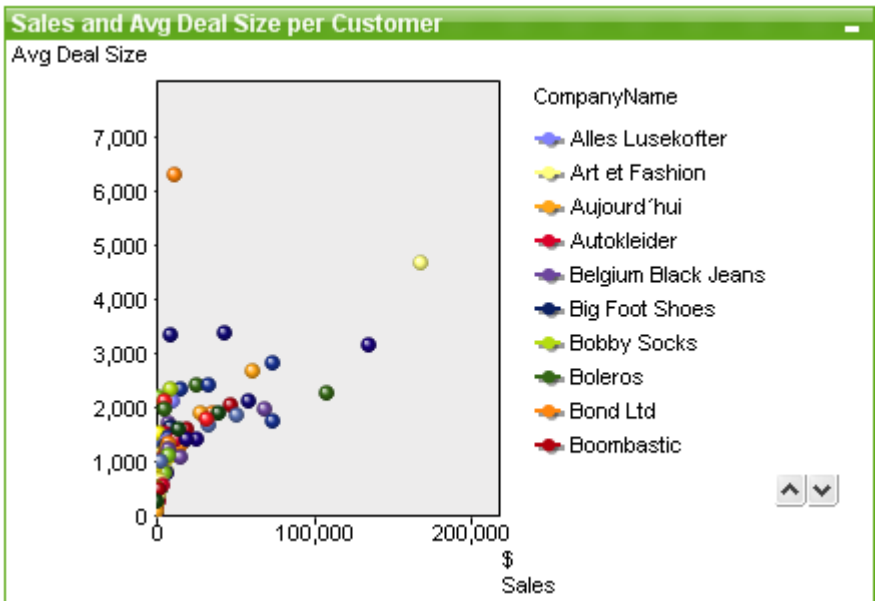
キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

散布図



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャートプロパティ:[基本設定]** ページの **チャートタイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

散布図は、2 つの数式の値の組み合わせを表示します。これは、各インスタンスに 2 つの数値がある場合に便利です (国の人口と人口増加など)。

ツールバーの**チャートを追加** ボタンをクリックすると、新しい散布図を簡単に作成することができます。

散布図を右クリックすると、**散布図:オブジェクト メニュー**が表示されます。散布図がアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

チャートを右クリックするとフロート メニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュープロパティ

プロパティ	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。

プロパティ	説明
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。

プロパティ	説明
Excel 出力	基底のデータ(チャートに相当するストレートテーブル)を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ: エクスポート**ページの設定に従います。 **オブジェクト** シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンクオブジェクト	リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 • **リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイックチャートウィザード**または **チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と**[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期 ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期 ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキスト ボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。

Property	説明
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシート オブジェクト キャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト(標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。

Property	説明
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と**[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

Property	説明
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が **x**-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャート

に表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャート エンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレート テーブルに小計を表示できます。

チャートプロパティ: 数式 (散布図)

[チャートプロパティ: 数式] ページは、散布図を右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。これは、簡易モードの **[数式]** ページで、**[詳細モード]** チェックボックスがオフの時にのみ表示されます。

X グループは、X 軸を決めるために使用されます。同様に、**Y** グループで Y 軸を作成します。この簡易モードの**数式**ダイアログでは、X 軸と Y 軸はすべて **Avg(*FieldName*)** と定義されます。Avg (平均値) は、有効な散布図を作成する可能性が最も高い関数であるため、デフォルトとして使用されます。

どちらの軸にも、**[ラベル]** を指定できます。このラベルは、計算式 としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

[Z] グループでは、散布図にプロットされる各データポイントのサイズを計算するために使用するオプションの数式を指定します。

オプション数式

オプション	説明
バブルチャート	このオプションをオンにすると、3 番目のチャート式 (Z) を使用して散布点の相対的なサイズが計算されます。数式の値により、プロットされるバブルの面積が決まります。
バブルサイズの数式	ここには、各散布点に描画されるバブルの相対的なサイズを決定する数式を入力します。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。

複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

チャート プロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの 1 つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダー チャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが 2 つの軸を表示する、もしくは 1 つの軸と2 つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別に x- 軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大 2 軸です。
  - 第 3 軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
  - 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャート プロパティ: プレゼンテーション (散布図 - グリッド チャート)

このプロパティページでは、散布図とグリッド チャートを総合的に使用できます。いくつかのオプションはいずれか 1 つに対してのみ使用できます。**軸** ページで散布図に 1 つではなく 2 つの軸を定義した場合、第 1 軸の各値と、第 2 軸の関連付けられている各値から 1 つの散布データポイントが生成されます。生成されたデータポイント

は、線で接続することができます。次の表示オプションが、**プレゼンテーション**グループで使用できます。

表示オプション

オプション	説明
線のみ	データは、データ点を線で表示します。
マーカーのみ	データは、データ点をマーカーで表示します。
線とマーカ	上記オプションの組み合わせ
マーカーの自動サイズ調節	最大バブル サイズを散布図のサイズ/グリッド チャートの値の数に合わせます。
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
最大バブル サイズ	チャートで使用する、最大のバブルのサイズを設定します。**[表示]** グループの **[マーカーのみ]** または **[線とマーカー]** との組み合わせにより一部 (**[スタイル]** タブで選択した) の表示、ならびに **[マーカーの自動サイズ調節]** の選択が解除されている場合のみ使用できます。

表示詳細オプション

オプション	説明
矢印の表示	接続線に矢印の表示オプションを設定します (上記の **プレゼンテーション** グループを参照してください)。矢印は、第 2 軸のソート順で定義された順序で、次の散布点の方向を向きます。チェックボックスをオンにすると、接続線に矢印を表示します。
矢印のサイズ	矢印のサイズをここで編集できます。
スタイル	ドロップダウン リストにあるスタイルから選択します。

オプション	説明
バブルスケール	グリッドチャートのバブルを次のどの方法に基づいて拡大縮小するかを選択します。 • **半径** バブルは半径に基づいて拡大縮小されます。 • **領域** バブルは領域に基づいて拡大縮小されます。これがグリッドチャートのデフォルトのオプションです。ほとんどの場合、このオプションでデータが最適に表示されます。

ラベル グループでは、ラベルとデータポイントの表示オプションを設定できます。プロットされるラベルは、凡例と同じです。

ラベル オプション

オプション	説明
ラベルの最大表示数	表示するラベルの数を制限します。設定した数値が大きすぎると、チャートが分かりにくくなります。
データラベル	チェックボックスをオンにすると、ラベルを表示します。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウスポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
水平位置	ドロップダウンリストから水平方向 **左揃え**、**中央揃え** または **右揃え** を選択します。
垂直位置	ドロップダウンリストから垂直方向 :**上**、**上下中央揃え**、または **下** を選択します。
ポップアップラベル	マウスポインターが値に触れたときに、ポップアップウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。

0値を隠す チェックボックスと**欠損値を隠す** チェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸がテーブルから排除されます。

ラベルの詳細 オプション

オプション	説明
X-軸ラベルの表示	**チャートプロパティ: 数式** ページの **X** グループで指定したx-軸のラベルをx-軸の終端に表示します。
Y-軸ラベルの表示	**チャートプロパティ: 数式** ページの **Y** グループで指定したy-軸のラベルをy-軸の終端に表示します。

凡例 グループでは、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例オプション

オプション	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

スクロール オプション

オプション	説明
X- 軸スクロールバーの有効化	X 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

基準線のオプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートのテキスト グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

テキスト オプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。

オプション	説明
編集	**[チャートテキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャートレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

基準線

ダイアログは、使用するチャートの種類によって外観が少し異なります。基準線は、1 つまたは両方の軸上の特定の地点からチャートのプロットエリアを横断する線です。たとえば、特定のレベルやチャートデータのパーセンタイルを示すために使用できます。基準線は、始点の軸の現在の範囲内にある場合にのみ引かれます。

基準線のオプション

オプション	説明
ラベル	基準線の横に描画するラベルを指定します。使用されるデフォルト値は数式です。ラベルを計算式として定義できます。
基準線のラベルを表示	基準線の横にラベルを表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。
場所	基準線の始点の軸を **X 軸**、**Y 軸** および **X 軸とY 軸** から選択し、設定します。
定義	基準線を描画する位置の値を設定します。値は、現在のチャートデータの固定 **パーセンタイル** (編集ボックスに 1 と100 の間の数値を入力) または任意の数値の **数式** を指定できます。
線の書式	基準線のレイアウトを定義します。 **太さ** 基準線の太さを指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。 **色** 基準線の色を設定します。 **スタイル** 実線、破線、点線といったスタイルを基準線に指定します。
表示	基準線を表示する条件を指定します。 **常に表示** 基準線は常に表示されます。 **条件付き表示** 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が FALSE を返す場合にのみ表示されます。

チャートプロパティ: 色

[チャートプロパティ: 色] ページは、チャートウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。 *背景色設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。

構成	説明
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると**画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値
このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。

- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェック ボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシート オブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシート オブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウト テーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウト テーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。

*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。

- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

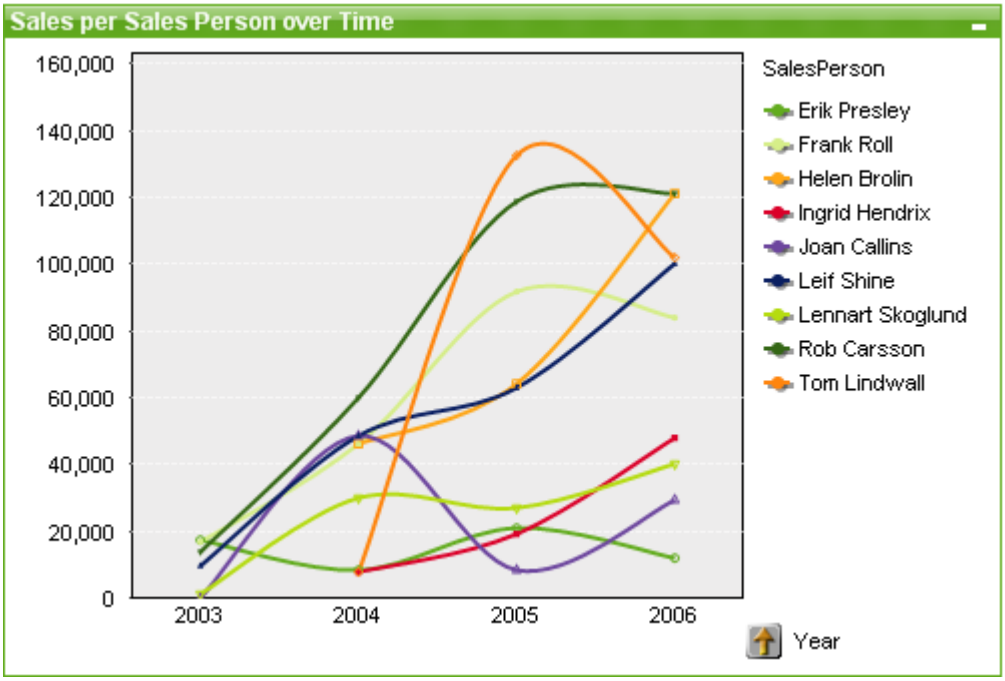
- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

> *キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。*

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

折れ線グラフ



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャート プロパティ: [基本設定]** ページの **チャート タイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

折れ線グラフは、値ポイント間の線、値ポイントのみ、または線と値ポイントの両方でデータを表します。折れ線グラフは、変更や傾向を表示する場合に便利です。

[ツール] メニューから**[クイック チャート]** ウィザードを選択し、新しい折れ線グラフをすばやく作成できます。

折れ線グラフを右クリックすると、**[折れ線グラフ: オブジェクト メニュー]**が表示されます。折れ線グラフがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

チャートの追加

チャートを新規作成するには、ツールバーの **チャートの追加** ボタンをクリックする、シートの領域を右クリックし、シートの **オブジェクト** メニューから**[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択する、または、**レイアウト** メニューから**[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択します。チャートプロパティのページが順番に開きます。

最初に表示されるページでは、名前とグラフの種類、タイトル (オプション) を設定します。**[次へ]** ボタンをクリックすると2番目のページが表示されます。十分な情報が入力されると、**[次へ]** もしくは **[完了]** ボタンが有効になり、次のページへ順番に進む、もしくは完了させることができます。

一度チャートがシート上に表示されると、右クリックして**プロパティ**を選択する、もしくは (キャプションの部分をクリックして) アクティブにして **オブジェクト** メニューの **プロパティ**を選択して、修正することができます。

オブジェクト メニュー

チャートを右クリックするとフロート メニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。

コマンド	説明
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレート テーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。

コマンド	説明
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で _ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▢ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

チャート プロパティ: 基本設定

基本設定 ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード** または **チャート プロパティ** ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と**[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期 ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期 ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキスト ボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。

Property	説明
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシート オブジェクト キャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト(標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。

Property	説明
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と**[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

Property	説明
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が **x**-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら 3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャート

に表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャート エンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレート テーブルに小計を表示できます。

チャート プロパティ: 数式

[チャート プロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。



[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する2つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例:以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブル セル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャート プロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データ ポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ**と**下へ**ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループボタンは、有効な数式が2つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> *[サイクル グループ]と[サイクリック グループ]は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が1つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価 マーカーとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価 マーカーの高値 ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値 ポイントをプロットするために使用されます。株価 マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの終値 ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの始値 ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェック ボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェック ボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラー バー** チェック ボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェック ボックスをオンにできません。このオプションは、コンボ チャートでのみ有効です。

ボックス プロット

数式をボックス プロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。数式 リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェック ボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラー バー** チェック ボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボ チャートでのみ有効です。

エラー バー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラー バーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェック ボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラー バー数式は、正の数を返します。エラー バーに使用される補助数式には、数式 リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップ

にのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikViewは各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例: C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(例: qmem://<Name>/<Peter>)になります。QlikViewが数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]**チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LEDゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは**[チャートプロパティ: プレゼンテーション]**ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]**ボタンを使用します。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は**[ミニチャートの設定]**ボタンで変更できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

Excelに出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]**項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText*と解釈されるテキストを返します。*DisplayText*は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**数式の編集**ダイアログが開きます。

URLリンクは、セキュリティ上の制限により、Ajaxクライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで*Name*と*Link*はロードスクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。



トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャートオブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> *[最初の文字列]* または *[最後の文字列]* は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は *0* から *9*、その後 *A* から *Z* へと続きます。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y軸値	軸の値は、y軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または **A -> Z** と**Z -> A** を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェックボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループプロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループレベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの1つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが2つの軸を表示する、もしくは1つの軸と2つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別にx-軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大2軸です。
  - 第3軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
- 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャートプロパティ: プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャート)

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、メッコ チャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボ チャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒設定

構成	説明
要素の間隔 (-6 - 8)	クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。
グループの間隔 (0 - 8)	複合軸の棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。
細い棒を許可する	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。
すべての棒を表示	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

[データ点の値] グループでは、**チャートプロパティ: 数式** ページの **[表示オプション]** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

データ ポイント設定の値

構成	説明
最大表示数	このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
垂直	値を縦に表示します。
要素の中に値を表示	このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
引き続き上部に合計を表示	このチェック ボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフとメッコ チャートの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラー バーの表示オプションを決定します。

エラー バー設定

構成	説明
幅	エラー バーの幅を指定します。
厚さ	エラー バーの厚さを指定します。
色	エラー バーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボ チャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線/マーカーの設定

構成	説明
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカー セットを使用する	このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

その他のプレゼンテーション設定

構成	説明
半透明	線を半透明に表示したい場合は、このオプションをオンにします。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
0 値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、空値や 0 値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。 **データ ラベルに 0 値を表示** このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェック ボックスがオンで、**[データ点の値]** がそのチャート式の **[表示オプション] (チャート プロパティ: 数式)** でオンの場合は、0 値がデータ ポイントの上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、ゼロ値が隠されます。
欠損値を隠す	このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

構成	説明
ポップアップラベル	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。

凡例 グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の設定

構成	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

チャートのスクロールの設定

構成	説明
X- 軸スクロール バーの有効化	X 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
反転	このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロット エリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

基準線のオプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

[チャートのテキスト] グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

チャートのテキスト オプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

目盛線
目盛線 ページでは、X- 軸とY- 軸の表示プロパティを設定できます。

チャートプロパティ: 色
[チャートプロパティ: 色] ページは、チャート ウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。 *背景色設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると**画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。

書式	説明
日付	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します(例:書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します(1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント、スタイル**およびフォント**サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン(**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上)を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント(**リストボックス、チャートなど**)は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント(**テキストオブジェクトとボタン**)は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト(検索オブジェクト以外)には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]**(数式で動的に計算します)を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤーグループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**前面**レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面**レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置**レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面**レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面**レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**背面**レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面**レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面**レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件がFALSEを返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]**を**[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+Sを押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプショングループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが**[ドキュメントプロパティ: レイアウト]**と**[シートプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFOを許可する**:**info**関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合にINFOアイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションにINFOアイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

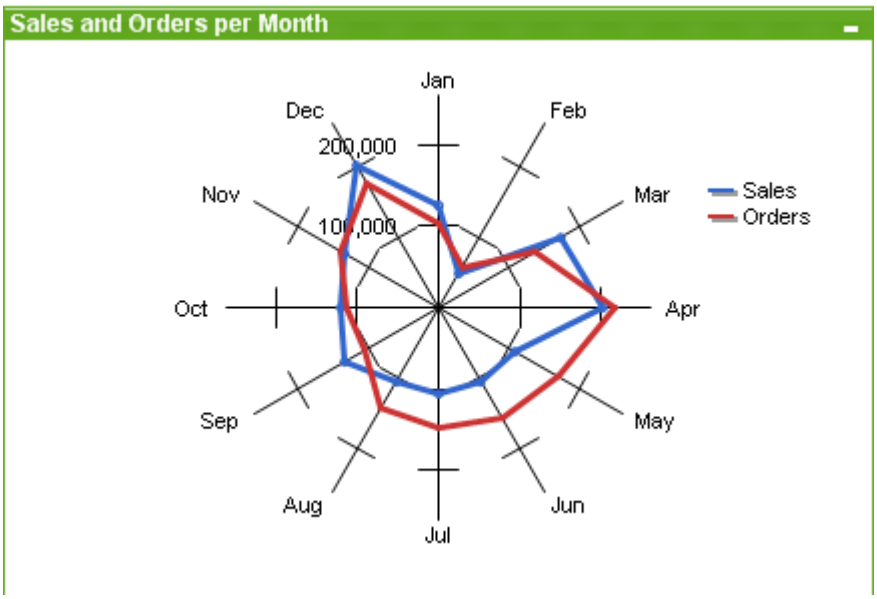
キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

レーダーチャート



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャートプロパティ:[基本設定]** ページの **チャートタイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

レーダーチャートは、x 軸が 360 度を一周するように配置され、x 値ごとに 1 つの y 軸がある折れ線グラフです。結果は、くもの巣やレーダー画面に似ています。

ツールバーの **チャートを追加** ボタンをクリックすると、新しいレーダーチャートを簡単に作成できます。

レーダーチャートを右クリックすると、**レーダーチャート: オブジェクトメニュー**が表示されます。レーダーチャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

> *レーダーチャートでは正値か負値どちらか一方のみを持つデータセットだけが表示できます。データセットが混合値や正値と負値どちらも含む場合はエラーメッセージが表示されます。*

オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクトメニュープロパティ

プロパティ	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

プロパティ	説明
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。

プロパティ	説明
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ(チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンクオブジェクト	リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 • **リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▁ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で 🗖 アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード**または **チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と**[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。

Property	説明
演算実行条件	このテキスト ボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシート オブジェクト キャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト(標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。

Property	説明
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と**[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

Property	説明
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が **x**-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら 3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャート

に表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャート エンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレート テーブルに小計を表示できます。

チャート プロパティ: 数式

[チャート プロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。



[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する2つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例:以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブル セル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャート プロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データ ポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ**と**下へ**ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループボタンは、有効な数式が2つ以上ある場合に、数式を併せてサイクルグループにするのに使用できます。QlikViewのレイアウトでは、チャートに表示されるサイクルアイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクルグループ**)。サイクルアイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップリストが表示されます。

> *[サイクルグループ]と[サイクリックグループ]は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除**ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクルグループに数式が1つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクルグループは存在しなくなります。

有効化

このチェックボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェックボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボットテーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価 マーカーとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価 マーカーの高値 ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値 ポイントをプロットするために使用されます。株価 マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの終値 ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの始値 ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い)としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバルーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップ

にのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikViewは各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例: C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(例: qmem://<Name>/<Peter>)になります。QlikViewが数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]**チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LEDゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは**[チャートプロパティ: プレゼンテーション]**ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]**ボタンを使用します。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は**[ミニチャートの設定]**ボタンで変更できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

Excelに出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]**項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText*と解釈されるテキストを返します。*DisplayText*は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**数式の編集**ダイアログが開きます。

URLリンクは、セキュリティ上の制限により、Ajaxクライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで*Name*と*Link*はロードスクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。



トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャートオブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> *[最初の文字列]* または *[最後の文字列]* は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は *0* から *9*、その後 *A* から *Z* へと続きます。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y軸値	軸の値は、y軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または**A -> Z**と**Z -> A**を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェックボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループプロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループレベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの1つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが2つの軸を表示する、もしくは1つの軸と2つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別にx-軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大2軸です。
  - 第3軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
- 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャートプロパティ: プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャート)

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、メッコ チャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボ チャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒設定

構成	説明
要素の間隔 (-6 - 8)	クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。
グループの間隔 (0 - 8)	複合軸の棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。
細い棒を許可する	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。
すべての棒を表示	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

[データ点の値] グループでは、**チャートプロパティ: 数式** ページの **[表示オプション]** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

値の設定

構成	説明
最大表示数	このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
垂直	値を縦に表示します。
要素の中に値を表示	このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
引き続き上部に合計を表示	このチェック ボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラー バーの表示オプションを決定します。

エラー バー設定

構成	説明
幅	エラー バーの幅を指定します。
厚さ	エラー バーの厚さを指定します。
色	エラー バーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボ チャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線/マーカーの設定

構成	説明
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカー セットを使用する	このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

線/マーカーの詳細設定

構成	説明
半透明	線を半透明に表示したい場合は、このオプションをオンにします。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
0値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。 **データ ラベルに 0 値を表示** このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェック ボックスがオンで、**[データ点の値]** がそのチャート式の **[表示オプション] (チャート プロパティ: 数式)** でオンの場合は、0値がデータ ポイントの上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、ゼロ値が隠されます。
欠損値を隠す	このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

構成	説明
ポップアップラベル	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。

凡例 グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の設定

構成	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

チャートのスクロールの設定

構成	説明
X- 軸スクロール バーの有効化	X 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
反転	このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロット エリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

基準線コマンド

コマンド	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

[チャートのテキスト] グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

チャートのテキスト コマンド

コマンド	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

目盛線
目盛線 ページでは、X- 軸とY- 軸の表示プロパティを設定できます。

チャートプロパティ: 色
[チャートプロパティ: 色] ページは、チャート ウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。  ***背景色**設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。

書式	説明
日付	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します(例:書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します(1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント、スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン(**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上)を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント(**リストボックス、チャートなど**)は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント(**テキストオブジェクトとボタン**)は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト(検索オブジェクト以外)には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]**(数式で動的に計算します)を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤーグループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**前面**レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面**レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置**レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面**レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面**レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**背面**レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面**レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面**レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件がFALSEを返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]**を**[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+Sを押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプショングループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが**[ドキュメントプロパティ: レイアウト]**と**[シートプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFOを許可する**:**info**関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合にINFOアイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションにINFOアイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

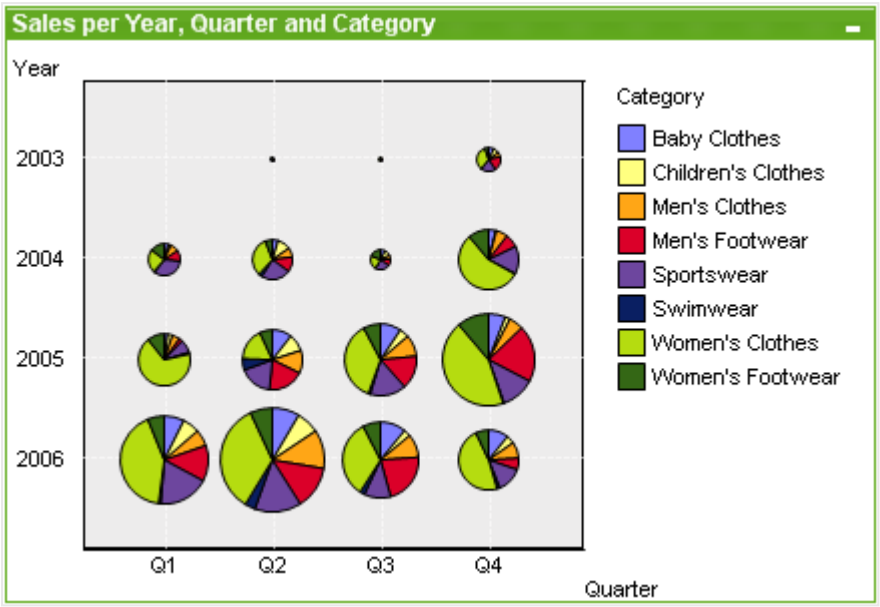
キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

グリッド チャート



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャートプロパティ:[基本設定]** ページの **チャート タイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

グリッド チャートは散布図に似ていますが、軸に軸の値をプロットし、プロット マーカーを決定する数式を使用します。特別なモードでは、第 3 軸をプロット マーカーとして小さい円グラフ形式で表示できます。

ツールバーの **チャートの追加**  ボタンをクリックすると、新しいグリッド チャートを簡単に作成することができます。

グリッド チャートを右クリックすると、**[ゲージ チャート: オブジェクト メニュー]**が表示されます。グリッド チャートがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

チャートを右クリックするとフロート メニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

コマンド	説明
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリックグループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	このカスケードメニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェックボックス (**[ユーザープロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブルボックス、ストレートテーブル、またはピボットテーブルのオブジェクトメニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。

コマンド	説明
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ(チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンクオブジェクト	リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 • **リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャートタイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッドチャートは 3 つの軸を表示できます。レーダーチャートとファネルチャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージチャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウングループ] には垂直矢印が、[サイクリックグループ] にはカーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キーシンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システムフィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。

Property	説明
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウンリストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロードスクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップチャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップチャートもトレリス表示にできます。
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブルセル内のテキストのフォントスタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。

Property	説明
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: [凡例の表示] チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が x-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: [ラベル] チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。 を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。 を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャートエンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレートテーブルに小計を表示できます。

チャートプロパティ: 数式
[チャートプロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。

[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリーコントロールで多数のコントロールオプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロットオプションは、組み合わせてプロットマーカーを定義する 2 つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例 : 以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォントスタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブルセル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャートプロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ** と **下へ** ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループ ボタンは、有効な数式が 2 つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> ***[サイクル グループ]*** *と [サイクリック グループ] は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が 1 つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像 ファイルへのパス (例: C:\Mypic.jpg) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (例: qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LED ゲージ

いずれかのゲージ オプションで、ゲージ チャートは画像として使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは **[チャート プロパティ: プレゼンテーション]** ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]** ボタンを使用します。

ミニ チャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は **[ミニ チャートの設定]** ボタンで変更できます。このオプションは、ストレート テーブルでのみ有効です。

Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。

リンク

テーブル セルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]** 項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText* と解釈されるテキストを返します。*DisplayText* は、テーブル セルに表示されるテキストで、*LinkText* は、新しいブラウザ ウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブル セルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。



URL リンクは、セキュリティ上の制限により、Ajax クライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで *Name* と *Link* はロード スクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を [数式] リストで選択します。累積は、ピボット テーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の「**累積**」を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。

> *トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。*

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の「**累積**」を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレート テーブルのチャート オブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。
- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレート テーブルの各行など) が、ドロップダウン リストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> ***[最初の文字列]*** *または* ***[最後の文字列]*** *は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は 0 から 9、その後 A から Z へと続きます。*

枠線の幅

棒グラフとコンボ チャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボ チャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y 軸値	軸の値は、y 軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順** と **降順** または **A -> Z** と **Z -> A** を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェック ボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループ プロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェック ボックスをオンにすると、グループ レベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に 1 つのソート順を適用できます。

チャート プロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの 1 つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダー チャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが 2 つの軸を表示する、もしくは 1 つの軸と2 つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別に x- 軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大 2 軸です。
  - 第 3 軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
  - 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

  以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。
  - **1 軸**
    - **数式 1 つ**: 単一の棒
    - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
  - **2 軸**
    - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
  - **3 軸**
    - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
  - **4 軸**
    - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを3 次元 モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャート プロパティ: プレゼンテーション (散布図 - グリッド チャート)

このプロパティページでは、散布図とグリッド チャートを総合的に使用できます。いくつかのオプションはいずれか1つに対してのみ使用できます。**軸** ページで散布図に1 つではなく2 つの軸を定義した場合、第 1 軸の各値と、第 2 軸の関連付けられている各値から1 つの散布データポイントが生成されます。生成されたデータポイントは、線で接続することができます。次の表示オプションが、**プレゼンテーション** グループで使用できます。

線と記号のオプション

オプション	説明
線のみ	データは、データ点を線で表示します。
マーカーのみ	データは、データ点をマーカーで表示します。
線とマーカ	上記オプションの組み合わせ
マーカーの自動サイズ調節	最大バブル サイズを散布図のサイズ/グリッド チャートの値の数に合わせます。
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

オプション	説明
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
最大バブル サイズ	チャートで使用する、最大のバブルのサイズを設定します。**[表示]** グループの **[マーカーのみ]** または **[線とマーカー]** との組み合わせにより一部 (**[スタイル]** タブで選択した) の表示、ならびに **[マーカーの自動サイズ調節]** の選択が解除されている場合のみ使用できます。

プレゼンテーションのオプション

オプション	説明
矢印の表示	接続線に矢印の表示オプションを設定します (上記の **プレゼンテーション** グループを参照してください)。矢印は、第 2 軸のソート順で定義された順序で、次の散布点の方向を向きます。チェックボックスをオンにすると、接続線に矢印を表示します。
矢印のサイズ	矢印のサイズをここで編集できます。
スタイル	ドロップダウン リストにあるスタイルから選択します。
バブル スケール	グリッド チャートのバブルを次のどの方法に基づいて拡大縮小するかを選択します。 • **半径** バブルは半径に基づいて拡大縮小されます。 • **領域** バブルは領域に基づいて拡大縮小されます。これがグリッド チャートのデフォルトのオプションです。ほとんどの場合、このオプションでデータが最適に表示されます。

ラベル グループでは、ラベルとデータ ポイントの表示オプションを設定できます。プロットされるラベルは、凡例と同じです。

ラベル オプション

オプション	説明
ラベルの最大表示数	表示するラベルの数を制限します。設定した数値が大きすぎると、チャートが分かりにくくなります。
データ ラベル	チェックボックスをオンにすると、ラベルを表示します。

オプション	説明
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
水平位置	ドロップダウンリストから水平方向 **左揃え**、**中央揃え** または **右揃え** を選択します。
垂直位置	ドロップダウン リストから垂直方向 :**上**、**上下中央揃え**、または **下** を選択します。
ポップアップ ラベル	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。

0 値を隠す チェック ボックスと**欠損値を隠す** チェック ボックスをオンにすると、空値や 0 値の軸がテーブルから排除されます。

ラベルの詳細 オプション

オプション	説明
X- 軸 ラベルの表示	**チャートプロパティ: 数式** ページの **X** グループで指定した x- 軸のラベルを x- 軸の終端に表示します。
Y- 軸 ラベルの表示	**チャートプロパティ: 数式** ページの **Y** グループで指定した y- 軸のラベルを y- 軸の終端に表示します。

凡例 グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例 オプション

オプション	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するには このチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

スクロール オプション

オプション	説明
X- 軸スクロール バーの有効化	X 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロット エリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

基準線のオプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートのテキスト グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

チャートのテキスト オプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャート レイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

目盛線

目盛線 ページでは、X- 軸と Y- 軸の表示プロパティを設定できます。

チャート プロパティ: 色

[チャート プロパティ: 色] ページは、チャート ウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。 ***背景色*** *設定は、* ***画像*** *や* ***プロット エリアのみ*** *と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。

構成	説明
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と **桁区切り** 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル** およびフォント **サイズ** を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。

- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スク

ロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション
キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

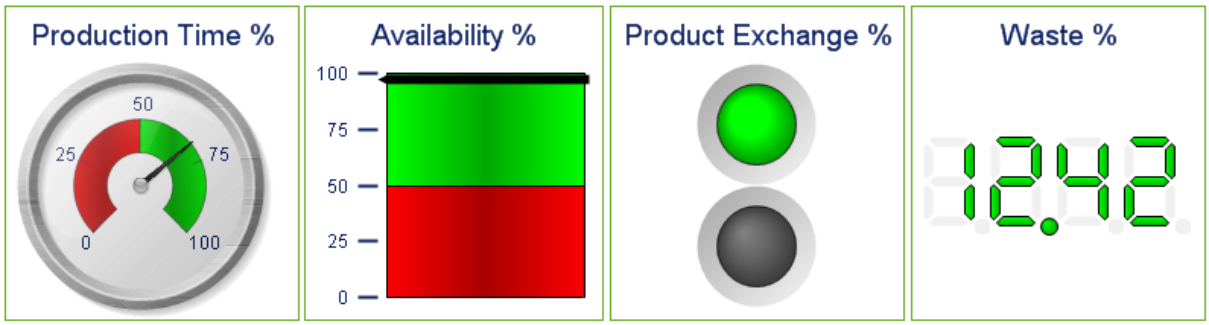
- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ゲージ チャート



ゲージ チャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。既存のチャートを別の表示に切り替えるには、**[チャートの種類]** (**[チャート プロパティ: 基本設定]** ページ内) を変更します。

ゲージ チャートは、軸のない単一の数式の値を表示するために使用されます。

[ツール] メニューから **[クイック チャート]** ウィザードを選択し、新しいゲージ チャートをすばやく作成することができます。

ゲージ チャートを右クリックすると、**[ゲージ チャート: オブジェクト メニュー]** が表示されます。ゲージ チャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

チャートを右クリックするとフロート メニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

コマンド	説明
印刷	プリンタ設定を指定できる**[印刷]**ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で**[印刷]**ダイアログを開きます。**印刷**ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ(チャートに相当するストレートテーブル)を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**[ユーザープロパティ: エクスポート]**ページの設定により異なります。 **オブジェクト** シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンクオブジェクト	リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 • **リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード**または **チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と**[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。

Property	説明
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシート オブジェクト キャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト(標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。

Property	説明
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォントスタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

Property	説明
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が **x**-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら 3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャート

に表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャート エンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレート テーブルに小計を表示できます。

チャート プロパティ: 数式

[チャート プロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。



[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する2つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例:以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブル セル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャート プロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データ ポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ**と**下へ**ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループボタンは、有効な数式が2つ以上ある場合に、数式を併せてサイクルグループにするのに使用できます。QlikViewのレイアウトでは、チャートに表示されるサイクルアイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクルグループ**)。サイクルアイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップリストが表示されます。

> *[サイクルグループ]と[サイクリックグループ]は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除**ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクルグループに数式が1つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクルグループは存在しなくなります。

有効化

このチェックボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェックボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボットテーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価 マーカーとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価 マーカーの高値 ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値 ポイントをプロットするために使用されます。株価 マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの終値 ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価 マーカーの始値 ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い)としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバルーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップ

にのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikViewは各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例: C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(例: qmem://<Name>/<Peter>)になります。QlikViewが数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]**チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LEDゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは**[チャートプロパティ: プレゼンテーション]**ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]**ボタンを使用します。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は**[ミニチャートの設定]**ボタンで変更できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

Excelに出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]**項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText*と解釈されるテキストを返します。*DisplayText*は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**数式の編集**ダイアログが開きます。

URLリンクは、セキュリティ上の制限により、Ajaxクライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで*Name*と*Link*はロードスクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。



トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャートオブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> *[最初の文字列]* または *[最後の文字列]* は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は *0* から *9*、その後 *A* から *Z* へと続きます。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y軸値	軸の値は、y軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または**A -> Z**と**Z -> A**を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェックボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループプロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループレベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの1つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが2つの軸を表示する、もしくは1つの軸と2つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別にx-軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大2軸です。
  - 第3軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
- 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャートプロパティ: プレゼンテーション (ゲージ チャート)

ゲージの設定 グループは、ゲージの限度を決定するために使用されます。選択されたゲージの種類が、このダイアログで利用できるオプションを決定します。

ゲージ設定

構成	説明
Min (最小値)	これは、ゲージの領域を制限する最小値です。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
Max (最大値)	これは、ゲージの領域を制限する最大値です。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

セグメントの設定 グループは、ゲージを形成するセグメントの定義に使用されます。LED スタイルのゲージを除くすべてのゲージには、セグメントが少なくとも 1 つ必要です。円形および線形ゲージでは、セグメントは背景の色が異なる領域を構成します。信号機ゲージでは、各セグメントは 1 つのライトに対応します。

セグメント オプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	ゲージに新しいセグメントを追加するには、このボタンをクリックします。
削除	ゲージから現在選択されているセグメントを削除するには、このボタンをクリックします。
上へ	リストのセグメントをソートするには、このボタンを使用します。
ラベル	選択されているセグメントの名前を指定します。この名前は識別のみを目的としており、ゲージ チャートを描画する際には使用されません。
下限値	選択されているセグメントの開始位置のゲージ値を指定します。**セグメントの領域を自動調整する**チェックボックス (以下を参照) をオフにすると、このテキスト ボックスが有効になり選択されたセグメントの下限値の数値を編集できます。**[セグメント領域の相対表示]** チェックボックス (以下を参照) がオンの場合、セグメントの領域は、**最小値** から**最大値** までの範囲全体に対する割合を示す 0 ~ 1 の数値で入力する必要があります。
色	色ボタンをクリックし、選択したセグメントに色を設定します。これは **[色の設定]** ダイアログを開きます。

[インジケータ] グループでは、ゲージ インジケータの表示オプションを設定します。このグループは、LED スタイルのゲージ チャートでは使用できません。

インジケータ オプション

オプション	説明
Mode	ドロップダウン リストからインジケータのモードをひとつ選択します。
スタイル	ドロップダウン リストからゲージの変異型をひとつ選択します。

スケール オプション

オプション	説明
目盛の表示	*n*[目盛] に入力する数値で、ゲージの目盛の数を定義します。 目盛りのラベルは、**ラベルの間隔** の *n* **目盛りごと**と[フォント] ボタンで変更できます。 目盛は、*n* **補助目盛** 設定でさらに詳細表示できます。

円形ゲージの設定 グループは、円形スタイルのゲージ チャート専用で、ゲージの形のプロパティを指定します。

円形ゲージの設定

構成	説明
円筒の厚さ	円形ゲージは、通常、塗りつぶされた円または円のセグメントとして描画されます。大きい番号ほど円筒が太くなります。穴でくり抜かれる領域の半径のパーセンテージを示す値を、0 ~ 99 の範囲で指定します。
円柱の範囲	ゲージの [最小値] から[最大値] までの角度。45 ~ 360 の値を指定します。
中心点	ゲージの中央値を時計に当てはめたときの角度。0 ~ 360 の値を指定します。0 はゲージの上部の中心 (12 時) を示します。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロット エリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

[チャートのテキスト] グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

チャートのテキスト オプション

オプション	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャート レイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

プレゼンテーション設定

オプション	説明
セグメントの領域を自動調整する	このチェック ボックスがオン (初期値) の場合、ゲージの **[最小値]**、**[最大値]**、および定義されているセグメント数に基づいてセグメントの領域が自動的に計算されます。このオプションをオフにすると、次のオプションが利用可能になります。**[セグメントの設定]** グループの **[下限値]**、**[セグメント領域の相対表示]** および **[Log スケール]** のオプション。
セグメント領域の相対表示	このオプションをオンにすると、セグメント領域を 0 ~ 1 の数値で入力できます。この数値は、**[最小値]** から **[最大値]** までの値の範囲全体に対する割合を示します。
セグメントの境界を隠す	このオプションをオンにすると、円形および線形ゲージのセグメントの境界で輪郭が描画されず、3 色以上の背景グラデーションを作成している場合に便利です。
ゲージの輪郭を隠す	このオプションを選択すると、ゲージの輪郭が描画されません。
Log スケール	Log スケールは、すべてのデータ点が正の数 (>0) である場合に使用できます。
ポップアップ ラベル	このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、数式値がポップアップ バルーンとして表示されます。

[LED] グループは LED スタイルのゲージ チャートに固有のグループで、LED 表示の視覚プロパティを設定できます。

LED プロパティ

Property	説明
桁	表示する LED 表示の桁数を指定します。
色	色 ボタンをクリックし、選択した LED 用の色を指定します。これは **[色の設定]** ダイアログを開きます。
スタイル	ドロップダウン リストから LED の変異型をひとつ選択します。

アクション

[アクション] ページでは、オブジェクト上でクリックしたときに実行されるアクションを指定できます。ページは、ボタン オブジェクトの **[アクション]** ページと同じです。

チャートプロパティ: 色

[チャートプロパティ: 色] ページは、チャート ウィンドウを右 クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして**[色の設定]**ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得**ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す**ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]**ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]**ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると**[色の設定]**ダイアログを開きます。 *背景色設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される**色の設定**ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される**色の設定**ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。

構成	説明
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると**画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値
このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。

- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェック ボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシート オブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシート オブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウト テーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウト テーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。

- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色** は、**色の設定** ダイアログで、**単色** または **グラデーション** として定義できます。**テキストの色** は、**固定** または **計算** 色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

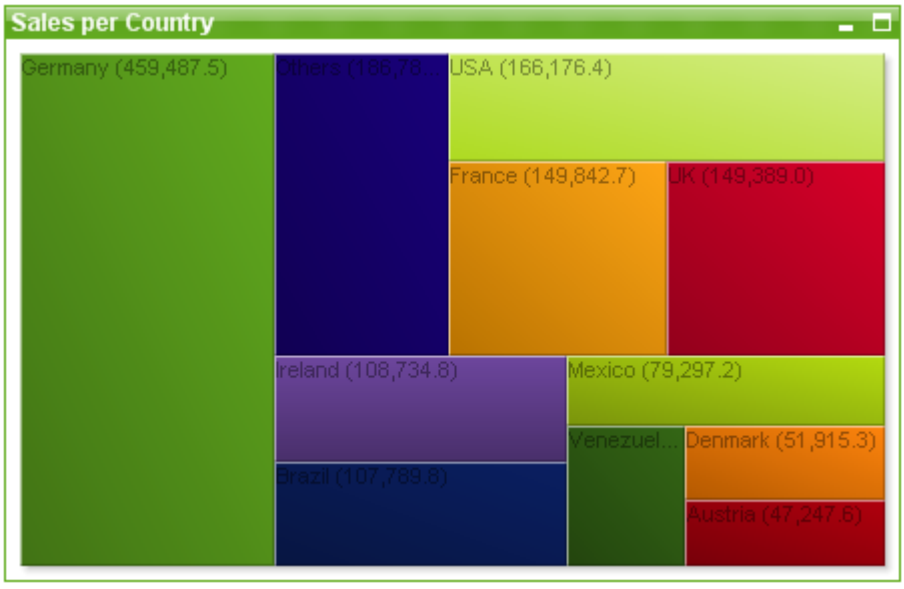
- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

> *キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。*

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ブロック チャート



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャート プロパティ: [基本設定]** ページの **チャート タイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

ブロック チャートは、数式の値と値の関係を大きさが異なる領域ブロックで表示します。最大 3 軸を表示でき、各軸がサブブロックに細分化されます。各ブロックの色を計算するために追加の数式が使用されることがあり、その場合、このチャート タイプはヒート チャートとも呼ばれます。

ツールバーの **チャートの追加**  ボタンをクリックすると、新しいブロック チャートを簡単に作成することができます。

ブロック チャートを右クリックすると、**ブロック チャート: [オブジェクト] メニュー**が表示されます。ブロック チャートがアクティブなオブジェクトの場合は、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー
ブロック チャートの **[オブジェクト]** メニューは、ボタンを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

コマンド	説明
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレート テーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

コマンド	説明
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定 ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード** または **チャートプロパティ** ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。

Property	説明
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷：レイアウト]** と**[印刷：ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に**[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。 リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシートオブジェクトキャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。

Property	説明
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。

Property	説明
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。

Property	説明
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が x-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。 を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。 を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャートエンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレートテーブルに小計を表示できます。

チャートプロパティ: 数式
[チャートプロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。



[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリーコントロールで多数のコントロールオプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロットオプションは、組み合わせてプロットマーカーを定義する 2 つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例 : 以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォントスタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブルセル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャートプロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ** と **下へ** ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループ ボタンは、有効な数式が 2 つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> ***[サイクル グループ]*** *と [サイクリック グループ] は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が 1 つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意 ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像 ファイルへのパス (例: C:\Mypic.jpg) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (例: qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LED ゲージ

いずれかのゲージ オプションで、ゲージ チャートは画像として使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは **[チャート プロパティ: プレゼンテーション]** ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]** ボタンを使用します。

ミニ チャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は **[ミニ チャートの設定]** ボタンで変更できます。このオプションは、ストレート テーブルでのみ有効です。

Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。

リンク

テーブル セルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]** 項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText* と解釈されるテキストを返します。*DisplayText* は、テーブル セルに表示されるテキストで、*LinkText* は、新しいブラウザ ウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブル セルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

URL リンクは、セキュリティ上の制限により、Ajax クライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで *Name* と *Link* はロード スクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボット テーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。

> *トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。*

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレート テーブルのチャート オブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。
- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレート テーブルの各行など) が、ドロップダウン リストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> ***[最初の文字列]*** *または* ***[最後の文字列]*** *は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は 0 から 9、その後 A から Z へと続きます。*

枠線の幅

棒グラフとコンボ チャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボ チャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの 1 つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが 2 つの軸を表示する、もしくは 1 つの軸と2 つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別に x- 軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大 2 軸です。
  - 第 3 軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
  - 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

  以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。
  - **1 軸**
    - **数式 1 つ**: 単一の棒
    - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
  - **2 軸**
    - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ

    - **3 軸**
        - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
        - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
    - **4 軸**
        - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
        - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **3 次元ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
    - **回転角度 (縦)**: 3 次元ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
    - **回転角度 (横)**: 3 次元ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
    - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
    - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
    - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
    - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
    - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
    - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
    - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャート プロパティ: プレゼンテーション (ブロック チャート)
このダイアログでは、データブロックの表示方法を設定できます。

初期値は次のとおりです。

デフォルト値

構成	値
表示レベル	ブロック チャートは、最高 3 レベルのブロック (軸を 3 つ設定するのと同じ) で表示できます。**1**、**2** または **3** を選択し、実際に表示するレベル数を設定します。

[ポップアップ] グループの次のオプションを選択し、データにマウス ポインターを近づけたときに表示されるポップアップでどの情報を表示するかを設定します。

ポップアップの設定

構成	説明
表示	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。
第 1 軸の比率値	指定された第 1 軸の値を合計と比較したパーセンテージをポップアップに表示します。
第 2 軸の比率値	指定された第 1 軸の値を定義したように、指定された第 2 軸の値を合計と比較したパーセンテージ。
第 3 軸の比率値	第 3 軸のレベルで上記と同じ。
第 1 軸の実数値	指定されたブロックを指定された第 1 軸の値の合計と比較したパーセンテージ。
第 2 軸の実数値	指定されたブロックを指定された第 2 軸の値の合計と比較したパーセンテージ。

軸 ラベルの設定

構成	説明
軸 ラベルの表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。対応するボタンをクリックし、設定を変更することもできます。 **ラベルに数値を表示** チェックボックスをオンにすると、ラベルに数値が表示されます。

[チャートのテキスト] グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

チャートのテキスト コマンド

コマンド	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログが開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャート レイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

凡例 グループでは、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の設定

構成	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**設定** ボタンをクリックし、*凡例の書式 (page 701)*を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[ブロックの枠線] グループでは、3 つの異なる軸レベルのブロックの周りに描画される枠線の幅と色を設定できます。ブロックの枠線は、ブロックチャートのキャプションスタイルを使用する場合、適用できません。
いずれの軸も、スピナーコントロールで枠線の幅を変更し、**[色]** ボタンで枠に違う色を選択できます。
[キャプションの設定] グループでは、最上位および中間の軸レベルで使用するキャプションのフォントと色を設定できます。これらの設定は、ブロックチャートのキャプションスタイルを使用する場合のみ適用できます。

キャプションの設定

構成	説明
フォント...	キャプションのフォントを設定するための **[フォント]** ダイアログを開きます。
色	キャプションの基本色を設定するための **[色の設定]** ダイアログを開きます。
中間レベル キャプション	3 軸のブロックチャートで中間軸レベルのキャプションを描画する場合は、このチェックボックスをオンにします。

目盛線
目盛線 ページでは、X- 軸と Y- 軸の表示プロパティを設定できます。

チャートプロパティ: 色
[チャートプロパティ: 色] ページは、チャートウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。  ***背景色** 設定は、**画像** や **プロット エリアのみ** と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。

構成	説明
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と **桁区切り** 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル** およびフォント **サイズ** を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。

- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スク

ロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション
キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

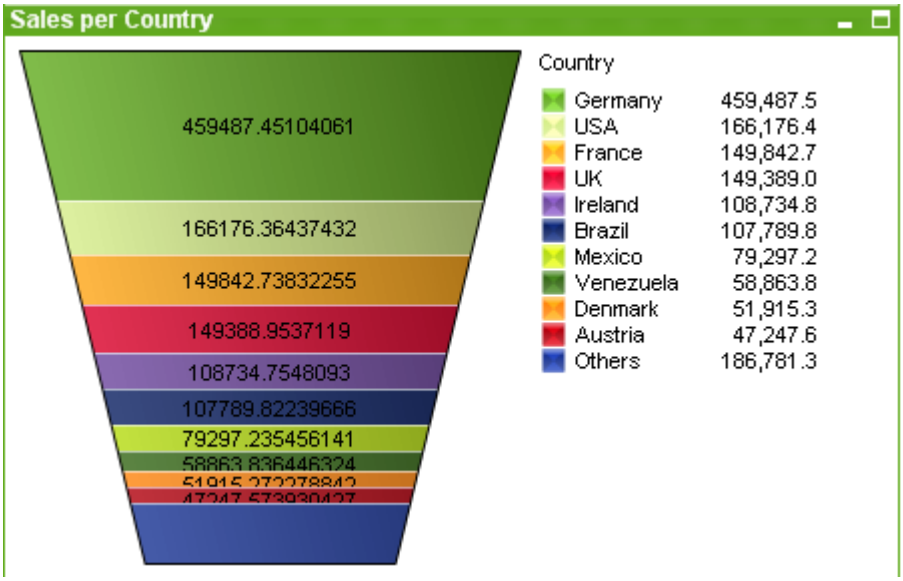
- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ファネル チャート



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。ファネル チャートは通常、データをフローおよびプロセスで表示するために使用します。表示の観点から見ると、このチャートは円グラフと関連しています。チャートは、データに比例したセグメントの高さ/幅またはセグメントの領域で表示されます。また、データ ポイントを無視して、セグメントの高さ/幅が均一なチャートを描画することもできます。

[チャート プロパティ: 基本設定] ページの **チャート タイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

ファネル チャートを右 クリックすると、**ファネル チャート: [オブジェクト]** メニューが表示されます。ファネル チャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

チャートを右 クリックするとフロート メニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

コマンド	説明
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
すべての選択をクリア	チャートで軸として使用される項目の選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレート テーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

コマンド	説明
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定 ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード** または **チャートプロパティ** ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。

Property	説明
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷：レイアウト]** と**[印刷：ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に**[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。 リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシートオブジェクトキャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。

Property	説明
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。

Property	説明
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。

Property	説明
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: [凡例の表示] チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が x-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: [ラベル] チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。 を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。 を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャートエンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレートテーブルに小計を表示できます。

チャートプロパティ: 数式
[チャートプロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。

[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリーコントロールで多数のコントロールオプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロットオプションは、組み合わせてプロットマーカーを定義する 2 つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例 : 以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォントスタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブルセル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャートプロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ** と **下へ** ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループ ボタンは、有効な数式が 2 つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> ***[サイクル グループ]*** *と [サイクリック グループ] は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が 1 つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像 ファイルへのパス (例: C:\Mypic.jpg) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (例: qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LED ゲージ

いずれかのゲージ オプションで、ゲージ チャートは画像として使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは **[チャート プロパティ: プレゼンテーション]** ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]** ボタンを使用します。

ミニ チャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は **[ミニ チャートの設定]** ボタンで変更できます。このオプションは、ストレート テーブルでのみ有効です。

Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。

リンク

テーブル セルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]** 項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText* と解釈されるテキストを返します。*DisplayText* は、テーブル セルに表示されるテキストで、*LinkText* は、新しいブラウザ ウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブル セルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。



URL リンクは、セキュリティ上の制限により、Ajax クライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで *Name* と *Link* はロード スクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボット テーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。

> *トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。*

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレート テーブルのチャート オブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。
- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレート テーブルの各行など) が、ドロップダウン リストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> ***[最初の文字列]*** *または* ***[最後の文字列]*** *は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は 0 から 9、その後 A から Z へと続きます。*

枠線の幅

棒グラフとコンボ チャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボ チャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y 軸値	軸の値は、y 軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順** と **降順** または **A -> Z** と **Z -> A** を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェック ボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループ プロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェック ボックスをオンにすると、グループ レベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に 1 つのソート順を適用できます。

チャート プロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの 1 つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダー チャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが 2 つの軸を表示する、もしくは 1 つの軸と2 つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別に x- 軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大 2 軸です。
  - 第 3 軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
  - 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

  以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。
  - **1 軸**
    - **数式 1 つ**: 単一の棒
    - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
  - **2 軸**
    - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
  - **3 軸**
    - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
  - **4 軸**
    - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャート プロパティ: プレゼンテーション (ファネル チャート)
このページの設定を変更して、ファネル チャートを画面に表示する方法を変更します。

プレゼンテーションのオプション

オプション	説明
ポップアップ ラベル	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。
先端の幅 (%)	ファネルの先端の幅を入り口の幅に対するパーセンテージで定義します。
方向の反転	ファネルの先端を左または上向きにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。

オプション	説明
データの均整表示	この設定は、基底のデータにセグメントが比例する程度を制御します。 **セグメントの高さを同じにする** データの均整表示を行いません。各セグメントは、他のすべてのセグメントと同じ高さ(水平のファネルの場合は、同じ幅) で描画されます。通常、チャートに数値が表示される場合のみ意味があります。 **セグメントの高さをデータに比例させる** 各セグメントは、基底のデータに比例した高さ(水平のファネルの場合は、幅) で描画されます。 **セグメントの領域をデータに比例させる** 各セグメントは、基底のデータに比例した合計面積で描画されます。
凡例の表示	**凡例の表示** グループでは、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。 **設定...** **[凡例の書式]** ダイアログが開かれ、凡例の設定を変更できます。 **凡例に数値を表示** 軸データラベルの横に値を表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。 **凡例に表示する文字数** 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。
チャートのテキスト	**[チャートのテキスト]** グループでは、チャートに自由に移動できるテキストを追加できます。 **AllowAlternateAdmin=1** このボタンを押すと、**[チャートのテキスト]** ダイアログが開きます。ここでは、チャートに表示される自由に移動できるテキストを作成および編集できます。 **編集** **[チャートテキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。リストでテキストをダブルクリックしても同じです。 **[削除]** 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートプロパティ: 色

[チャートプロパティ: 色] ページは、チャートウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。 ***背景色*** *設定は、* ***画像*** *や* ***プロット エリアのみ*** *と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。

構成	説明
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と **桁区切り** 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル** およびフォント **サイズ** を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。

- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スク

ロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション
キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ピボット テーブル

Pivot Table

Country	Salesman	Year	Sales
Australia	Rolf Wesenlund	2005	1,030
		2006	1,210
		Total	**2,240**
	Total		**2,240**
Azerbaijan			5,329
Bahrain			1,090
Bangladesh			4,240
Belarus			26,065
Belgium	Charles Ingvar Jönsson	2006	1,210
		2008	3,159
		2009	3,690
		Total	**8,059**
	John Cleaves	2008	2,550
		Total	**2,550**
	Tony Cedholt	2008	2,500
		2009	4,249
		Total	**6,749**
	Total		**17,358**

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。ピボット テーブルやストレート テーブルは、チャートのプロパティをすべて保持しながらデータをテーブル形式に表示する特別なケースです。既存のチャートを別の表示に切り替えるには、**[チャートの種類]** (**[チャート プロパティ: 基本設定]** ページ内) を変更します。

ピボット テーブルは、最も強力なデータ分析ツールの 1 つです。多くの機能が備えられていますが、簡単に使用できます。ピボット テーブルは、クロス テーブルのように、軸と数式を行と列に表示します。ピボット テーブルのデータは、グループ化できます。ピボット テーブルでは小計を表示できます。

[ツール] メニューから**[クイック チャート]** ウィザードを選択し、新しいピボット テーブルをすばやく作成できます。

ピボット テーブルを右クリックすると、**[ピボット テーブル: オブジェクト メニュー]** が表示されます。ピボット テーブルがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

ピボット テーブルの使用

ピボット テーブルでは、軸項目と数式軸を1つの垂直軸と1つの水平軸上に表示できます。軸は、垂直/水平軸間で、または同一軸内で自由に移動できます。これを「ピボット」と言います。QlikView では、マウスでドラッグアンド ドロップすることでピボットできます。マウスでオブジェクトをポイントし、目的の位置にクリック アンド ドラッグします。これを簡単にするために、項目が移動している間は、その枠線を青でハイライトしています。

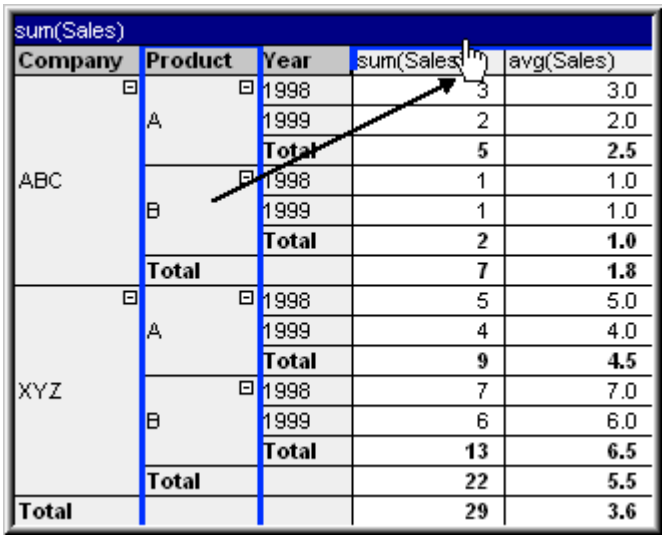
> *[ピボットを許可する]* チェックボックスを *[チャート プロパティ: プレゼンテーション (ピボット テーブル)]* でオフにするとピボットできなくなります。

QlikView の複数軸ピボット テーブルは、その項目に小さな (+) と (-) アイコンを表示します。(+) アイコンは、テーブルが詳細を表示するためにさらに展開できることを示し、(-) アイコンは詳細を隠して明瞭性やスペースを確保するために折りたためることを示します。

[ピボット テーブル: オブジェクト メニュー] からも、**[すべてを展開]**、**[全て折りたたむ]**、**[軸 (行) を折りたたむ]**、**軸 (列) を折りたたむ]** コマンドにアクセスしてこれらの設定を変更することができます。

> *循環軸グループを使用する場合は、必ず最初に **すべてを展開** してから各軸レベルで展開するか折りたたみ、あらゆるレベル (表示されていないレベルを含む) が適切に展開されていることを確認してください。*

以下のピボット テーブルで、項目「*Product (製品)*」を垂直軸から水平軸に移動するには、マウスで「*Product (製品)*」列をポイントします。マウスの左ボタンを押しながら、カーソルを数式のラベル行の上側までドラッグします。ドラッグ中は、選択されている列とその移動先が青色で強調表示されます。



sum(Sales)				
Company	Product	Year	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A	1998	3	3.0
		1999	2	2.0
		Total	**5**	**2.5**
	B	1998	1	1.0
		1999	1	1.0
		Total	**2**	**1.0**
	Total		**7**	**1.8**
XYZ	A	1998	5	5.0
		1999	4	4.0
		Total	**9**	**4.5**
	B	1998	7	7.0
		1999	6	6.0
		Total	**13**	**6.5**
	Total		**22**	**5.5**
Total			**29**	**3.6**

結果は次のようになります。

sum(Sales)							
	Product	A		B		Total	
Company	Year	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	1998	3	3.0	1	1.0	4	2.0
	1999	2	2.0	1	1.0	3	1.5
	Total	5	2.5	2	1.0	7	1.8
XYZ	1998	5	5.0	7	7.0	12	6.0
	1999	4	4.0	6	6.0	10	5.0
	Total	9	4.5	13	6.5	22	5.5
Total		14	3.5	15	3.8	29	3.6

軸項目だけでなく、数式行もピボットできます。

sum(Sales)							
	Product	A		B		Total	
Company	Year	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	1998	3	3.0	1	1.0	4	2.0
	1999	2	2.0	1	1.0	3	1.5
	Total	5	2.5	2	1.0	7	1.8
XYZ	1998	5	5.0	7	7.0	12	6.0
	1999	4	4.0	6	6.0	10	5.0
	Total	9	4.5	13	6.5	22	5.5
Total		14	3.5	15	3.8	29	3.6

結果は次のようになります。

sum(Sales)					
Company	Year	Product	A	B	Total
ABC	1998	sum(Sales)	3	1	4
		avg(Sales)	3.0	1.0	2.0
	1999	sum(Sales)	2	1	3
		avg(Sales)	2.0	1.0	1.5
	Total	sum(Sales)	5	2	7
		avg(Sales)	2.5	1.0	1.8
XYZ	1998	sum(Sales)	5	7	12
		avg(Sales)	5.0	7.0	6.0
	1999	sum(Sales)	4	6	10
		avg(Sales)	4.0	6.0	5.0
	Total	sum(Sales)	9	13	22
		avg(Sales)	4.5	6.5	5.5
Total		sum(Sales)	14	15	29
		avg(Sales)	3.5	3.8	3.6

軸の展開と折りたたみ

QlikView のピボットテーブルでは、軸を項目値単位で展開したり折りたたむことができます。これにより、他の項目値の合計を表示しながら、1 つまたは複数の項目値の詳細をドリルダウンすることができます。

リロードすると、ピボットテーブルで展開されていた列は折りたたまれます。

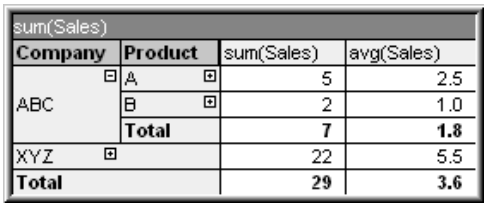
*ピボットテーブルの展開/折りたたみオプションを無効にするには、**[常にすべて展開]** チェックボックス (ピボットテーブルの **[チャートプロパティ: プレゼンテーション]** ページ上) をオンにします。*

例 (展開):

以下のピボットテーブルで、*Company* (会社) 列の項目値の右にある (+) アイコンは、テーブルを展開して詳しい情報を参照できることを示しています。

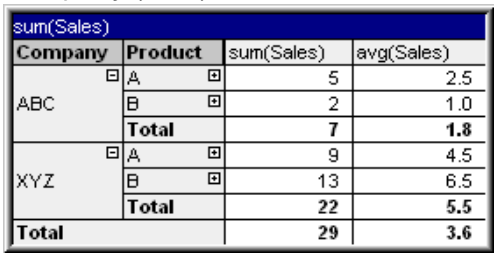
sum(Sales)		
Company	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC ⊞	7	1.8
XYZ ⊞	22	5.5
Total	29	3.6

最初の (+) アイコンをクリックすると、会社 ABC の *Product* (製品) の詳細が表示されます。



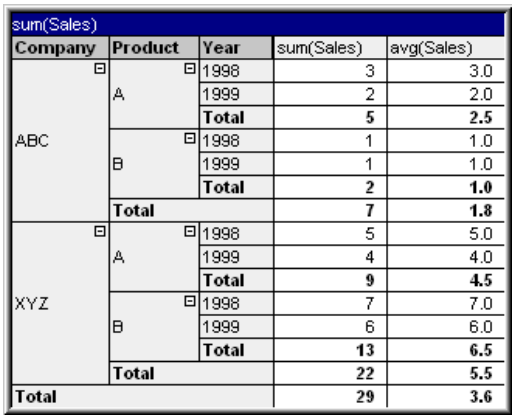
sum(Sales)			
Company	**Product**	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A	5	2.5
	B	2	1.0
	Total	**7**	**1.8**
XYZ		22	5.5
Total		**29**	**3.6**

各項目値は個別に展開して、次のレベルの詳細を表示できます。特定の列のすべての項目値を展開するには、その列を右クリックし、**オブジェクト** メニューから **すべてを展開する** を選択します。上記のテーブルの *Company* (会社) 列でこれを実行すると、結果は次のようになります。



sum(Sales)			
Company	**Product**	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A	5	2.5
	B	2	1.0
	Total	**7**	**1.8**
XYZ	A	9	4.5
	B	13	6.5
	Total	**22**	**5.5**
Total		**29**	**3.6**

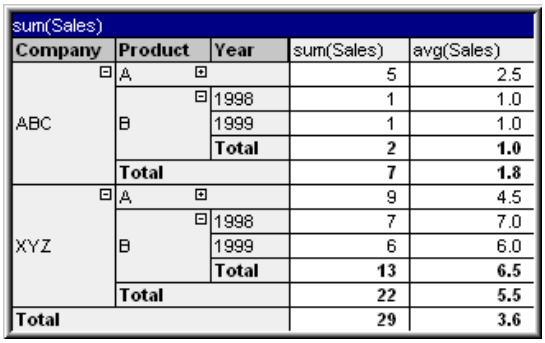
Product (製品) 列の (+) アイコンは、もう1 つレベルがあることを示しています。*Product* (製品) 列で右クリックし、再度 **すべてを展開する** を選択します。結果は次のようになります。



sum(Sales)				
Company	**Product**	**Year**	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A	1998	3	3.0
		1999	2	2.0
		Total	**5**	**2.5**
	B	1998	1	1.0
		1999	1	1.0
		Total	**2**	**1.0**
	Total		**7**	**1.8**
XYZ	A	1998	5	5.0
		1999	4	4.0
		Total	**9**	**4.5**
	B	1998	7	7.0
		1999	6	6.0
		Total	**13**	**6.5**
	Total		**22**	**5.5**
Total			**29**	**3.6**

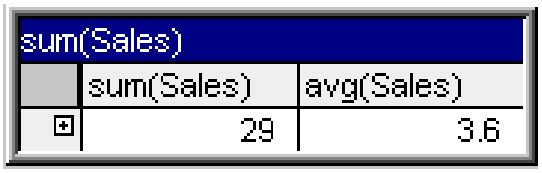
Year (年) 列には使用できる (+) アイコンがないので、このピボットテーブルでは 3 つの軸項目を使用できることがわかります。

例 (折りたたみ):
(+) アイコンで展開した場合と同様に、(-) アイコンをクリックすると、個々の値を折りたたむことができます。
上記のテーブルで、値 A の右の (-) アイコンをクリックすると、結果は次のようになります。



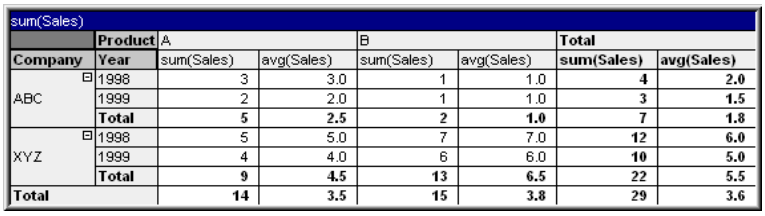
sum(Sales)				
Company	**Product**	**Year**	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A		5	2.5
	B	1998	1	1.0
		1999	1	1.0
		Total	**2**	**1.0**
	Total		**7**	**1.8**
XYZ	A		9	4.5
	B	1998	7	7.0
		1999	6	6.0
		Total	**13**	**6.5**
	Total		**22**	**5.5**
Total			**29**	**3.6**

最終的には、最初の列すらも折りたたむことができ、垂直軸の数式の全合計だけが表示されるようにできます。それには、軸項目の列のいずれかで右クリックし、**オブジェクト** メニューから **軸 (列) を折りたたむ** を選択します。結果は次のようになります。



sum(Sales)		
	sum(Sales)	avg(Sales)
⊞	29	3.6

この状態から、再度展開できます。
展開/折りたたみ機能は、以下のピボットテーブルに示されているように、水平軸上の複数の軸項目に等しく適用されます。



sum(Sales)							
	Product	A		B		Total	
Company	Year	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)
⊟ ABC	1998	3	3.0	1	1.0	4	2.0
	1999	2	2.0	1	1.0	3	1.5
	Total	5	2.5	2	1.0	7	1.8
⊟ XYZ	1998	5	5.0	7	7.0	12	6.0
	1999	4	4.0	6	6.0	10	5.0
	Total	9	4.5	13	6.5	22	5.5
Total		14	3.5	15	3.8	29	3.6

オブジェクト メニュー

ピボットテーブルの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: ALT+ENTER。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
すべてを展開する 全て折りたたむ 軸(行)を折りたたむ 軸(列)を折りたたむ	これらのコマンドは、展開 (+) と折りたたみ (-) アイコンで複数軸ピボットテーブルを操作します。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもテーブルは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはテーブルが分離されていない場合にのみ有効です。 ピボットテーブルのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたピボットテーブルを解除します。ピボットテーブルは同時にデータにリンクされます。コマンドはピボットテーブルが分離されている場合にのみ有効です。

コマンド	説明
複製	ピボット テーブルの全く同じコピーを作成します。分離設定されたピボット テーブルの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	このカスケード メニューは [表示] メニューの [デザイン グリッド] コマンドが有効なときと、[デザイン メニュー項目を常に表示] チェック ボックス ([ユーザー プロパティ: デザイン] 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
データに列幅を合わせる	テーブルの各列の幅をその最も長いデータ文字列に調整します。ヘッダーは計算に含まれます。
列幅を同じにする	ピボット テーブルの列上でマウスの右ボタンをクリックすると、このコマンドはフロート メニューに表示されます。(メイン メニュー バーの [オブジェクト] メニューにはありません) テーブルのすべての列をポインタを置いた列の幅に設定します。 列幅は、列の右端にポインタを置き (ポインタの表示が変わります)、ドラッグして個々に調整できます。
カスタム セル書式	**カスタム セルの書式** ダイアログを開きます。ここでは、クリックした列のセルの書式を設定できます。このカスケード メニューは、[デザイン グリッド] コマンドが [表示] メニューでアクティブになっている場合にのみ使用できます。
値の変更	入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。クリックされてたセルを入力編集モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。
値を元に戻す	入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。オプションが 3 つ入ったカスケード メニューを開きます。 **ひとつの値を元に戻す** クリックされたセルの基底となる項目値をスクリプトの既定値に戻します。 **絞込値を元に戻す** 絞り込まれた基底となる項目値すべてをスクリプトの既定値に戻します。 **すべての値を元に戻す** 基底となる項目値すべてをスクリプトの既定値に戻します。

コマンド	説明
すべての選択をクリア	テーブルの軸と数式での選択をすべてクリアします。

印刷 メニュー コマンド

コマンド	説明
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	テーブルを Microsoft Excel にエクスポートします。そのとき Excel が実行中でなければ自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。 ファイルは、コンマ区切りファイル、セミコロン区切りファイル、タブ区切りファイル、ハイパーテキスト (HTML)、XML、Excel (xls または xlsx) のいずれの形式でも保存できます。デフォルトの形式は、タブ区切りファイル *.qvo (QlikViewOutput) です。

オブジェクトの詳細 メニュー コマンド

コマンド	説明
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **テーブル全体をコピー** ヘッダーと選択のステータスを含め、テーブルをクリップボードにコピーします。 **テーブルのデータのみをコピー** テーブルの値のみをクリップボードにコピーします。 **セルの値** (オブジェクト メニューを呼び出すときに) 右クリックしたセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。 **画像** シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

コマンド	説明
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定 ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード** または **チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。

Property	説明
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷：レイアウト]** と**[印刷：ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。 リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシートオブジェクトキャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。

Property	説明
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。

Property	説明
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。

Property	説明
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: [凡例の表示] チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が x-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: [ラベル] チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。 を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。 を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャートエンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレートテーブルに小計を表示できます。

チャートプロパティ: 数式
[チャートプロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。

[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリーコントロールで多数のコントロールオプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロットオプションは、組み合わせてプロットマーカーを定義する 2 つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例 : 以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォントスタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブルセル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャートプロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ** と **下へ** ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループ ボタンは、有効な数式が 2 つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。



[サイクル グループ] と [サイクリック グループ] は同じではありません!

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が 1 つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像 ファイルへのパス (例: C:\Mypic.jpg) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (例: qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LED ゲージ

いずれかのゲージ オプションで、ゲージ チャートは画像として使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは **[チャート プロパティ: プレゼンテーション]** ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]** ボタンを使用します。

ミニ チャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は **[ミニ チャートの設定]** ボタンで変更できます。このオプションは、ストレート テーブルでのみ有効です。

Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。

リンク

テーブル セルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]** 項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText* と解釈されるテキストを返します。*DisplayText* は、テーブル セルに表示されるテキストで、*LinkText* は、新しいブラウザ ウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブル セルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。



URL リンクは、セキュリティ上の制限により、Ajax クライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで *Name* と *Link* はロード スクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボット テーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。

> *トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。*

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレート テーブルのチャート オブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。
- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレート テーブルの各行など) が、ドロップダウン リストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> ***[最初の文字列]*** *または* ***[最後の文字列]*** *は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は 0 から 9、その後 A から Z へと続きます。*

枠線の幅

棒グラフとコンボ チャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボ チャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y 軸値	軸の値は、y 軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順** と **降順** または **A -> Z** と **Z -> A** を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェック ボックスは、**軸** リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループ プロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェック ボックスをオンにすると、グループ レベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に 1 つのソート順を適用できます。

チャート プロパティ: プレゼンテーション (ピボット テーブル)

[軸と数式] グループでは、ピボット テーブルの項目軸と数式がすべてリストされます。リストからひとつ選択し、個々にその配置を設定します。

プレゼンテーションのオプション

オプション	説明
ドロップダウン リスト	項目列に対してこのチェック ボックスをオンにすると、ドロップダウン アイコンが列ヘッダーの右に表示されます。このアイコンをクリックすると、項目のすべての項目値を表示するリスト ボックスがテーブル上に開かれます。これで、項目がマルチ ボックスの行であるように選択と検索を行うことができます。
列/行のラベル	ここに入力したテキストは、選択した軸または数式のタイトル ラベルとして表示されます (適用できる場合)。
「合計」表示用ラベル	ここでは、合計のラベル セルに表示するテキストを指定できます。明示的なラベルを指定しない場合、文字列「合計」が使用されます。
小計の表示	ピボット テーブルに小計を表示します。
配置	このグループでは、ピボット テーブル内の数式の値とそのラベルの配置を設定できます。**ラベル**、**データ(数値)**、**データ(テキスト)** は個別に、**左揃え**、**中央揃え**、または **右揃え** に設定できます。複数行のセルまたはラベルを使用する場合は、**ラベル (垂直位置)** と**データ(垂直位置)** は **上揃え**、**中央揃え**、または **下揃え** に設定できます。

プレゼンテーションの詳細オプション

オプション	説明
ピボットを許可する	このオプションをオフにすると、ピボット テーブルの通常のピボット機能が無効にされます。
ラベルを縦書きにする	列ヘッダーのテキストが垂直に回転されます。

オプション	説明
選択アイコンの表示	このチェックボックスをオンにすると、色の付いたインジケータが選択のある項目軸のヘッダーに表示されます。
常にすべて展開	このオプションを設定すると、[-] アイコンをクリックしても軸を折りたたむことができなくなります。
グループ化アイコンを印刷しない	ピボットテーブルを印刷する際に、部分的に展開または折りたたみを行うための [+] アイコンと [-] アイコンが印刷されないようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
0 値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、テーブルから 0 値を含む行や列を排除します。
欠損値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、テーブルから空値を含む行や列を排除します。
欠損値セルを表示する	このチェックボックスをオンにすると、クロステーブルで、軸の組み合わせが見つからないことを示すセルが通常の null 値にマップされます。これにより、null 値があるかどうか、または適用される属性式やスタイル書式に関して、数式をテストできます。この設定は、QlikView 7.5 以降で作成されたすべてのピボットテーブルでは、デフォルトでオンになっています。
NULL マーク	ここに入力されたマークは、テーブルで NULL 値を表示する際に使用されます。
欠損値マーク	ここに入力されたマークは、テーブルで欠損値を表示する際に使用されます。

小計 グループは、ピボットテーブルで合計と小計を表示するための設定に使用されます。

小計オプション

オプション	説明
上に表示	このオプションをオンにすると、合計はピボットテーブルの上部または左側に表示されます。
下に表示	このオプションを選択すると、合計は下部または右側に表示されます。

[折り返し設定 (数式項目)] グループでは、複数行に表示する値を指定できます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。

折り返し設定

構成	説明
ヘッダーを折り返して表示	このオプションを選択した場合、ラベルの内容は 2 行以上で表示されます。**[ヘッダーの高さ (行)]** はセルの行数を決定します。

構成	説明
セルを折り返して表示	上記同様、その設定はデータセルに適用されます。値は、**[セルの高さ(行)]** で設定します。

チャートプロパティ: 条件付き書式

[チャートプロパティ: 条件付き書式] ページは、ピボットテーブルとストレートテーブルでのみ有効です。チャートウィンドウを右クリックし、フロートメニューから**プロパティ**コマンドを選択して開きます。

[条件付き書式] は、値をハイライト表現するために使用され、異なるフォントスタイル、フォントの色、セルの色を適用して表示します。異なる区間に属する値には、通常、異なる表現が与えられます。

値は、それぞれ異なる設定とともに **次の値以上**、**標準**、**次の値以下** オプションの3つの異なる区間を指定できます。[次の値以上] 区間は、編集ボックスに入力した数値で上区間となる値を指定し、[次の値以下] 区間は、入力した数値で下区間となる値を指定します。標準の値は、これら2つの制限の間となります。**テキスト**の値は、数値として解釈されなかった値です。

チャートプロパティ: スタイル

スタイルに関するこのページは、QlikViewのテーブル (テーブル ボックス、ピボットテーブル、ストレートテーブル) すべてに該当します。ここでは、テーブル書式スタイルの設定を行います。

スタイル設定

構成	説明
現在のスタイル	ドロップダウン リストから適切なテーブル スタイルを選択します。ドロップダウン コントロールに値 **[カスタム]** が表示される場合は、テーブルにカスタム スタイルが適用されています。定義済みのスタイルの1つに設定を戻すと、カスタム書式が失われます。
ストライプ N行ごと	ここでは、影付きストライプを表示するかどうか、およびそれを表示する間隔を指定できます。
インデントモード	この設定は、ピボットテーブルでのみ有効です。このチェック ボックスをオンにすると、限定されたテーブル幅にいくつもの軸を置く場合に特に有用な少し異なるテーブル スタイルを設定できます。 **第 1 軸のラベルのみを使用** この設定はピボットテーブルが **インデント モード** になっている場合のみ有効で、ピボットテーブルのスタイルをさらに修正できます。
軸項目に縦の罫線を表示	この設定は、縦のセルの境界線を軸列に表示するかどうかを決定します。
数式項目に縦の罫線を表示	上記と同じで、数式列に適用します。
行間に罫線を表示	**項目詳細設定** ダイアログで **段落後の行間** チェック ボックスがオンの場合、このチェック ボックスをオンにしてテーブルのスタイルをさらに変更することができます。
背景	**[背景の設定]** ダイアログを開きます。

構成	説明
セル背景色の透過性	色、または画像が**背景の設定**ダイアログで適用されている場合、ここでセルの背景の色、または画像の透過性を調整できます。
セルの枠線の透過性	セルの枠線をどのように表示するかを設定します。

チャートプロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキストボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント**サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。

- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スク

ロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション
キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ストレート テーブル

Sales per CategoryName

CategoryName	ProductName	Sales	Quantity
		$1,565,525.31	51952
Men's Clothes	Atles Lussekofta	$30,126.55	1057
Men's Clothes	Bow tie	$9,534.57	1315
Men's Clothes	Desperado Jeans	$18,240.68	706
Men's Clothes	Lenin Jeansshorts	$14,900.64	828
Men's Clothes	Mr2 Trousers	$17,944.48	1067
Men's Clothes	O-Man Underwear	$1,649.87	298
Men's Clothes	Rossi Bermuda Shorts	$10,947.25	1397
Men's Clothes	Samba Soccer Socks	$4,941.14	1175
Men's Clothes	US-Master Jeans	$21,764.94	817
Women's Clothes	Chantell Shirt	$7,504.70	388
Women's Clothes	Halter Dress	$361,096.85	981
Women's Clothes	Jack Flash Dress	$42,638.00	722
Women's Clothes	Langoste Shirt	$4,433.35	246
Women's Clothes	Le Baby Dress	$47,571.88	623
Women's Clothes	Minnki Pälsii	$10,472.71	184
Women's Clothes	Okkaba Skin Jackets	$42,258.78	601
Women's Clothes	Oyaki Kimono	$9,084.42	806

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。ピボット テーブルやストレート テーブルは、チャートのプロパティをすべて保持しながらデータをテーブル形式に表示する特別なケースです。既存のチャートを別の表示に切り替えるには、**[チャートの種類]** (**[チャート プロパティ: 基本設定]** ページ内) を変更します。

ピボット テーブルとは異なり、ストレート テーブルは、小計を表示したり、クロス テーブルとして動作することができません。しかし、列をソートしたり、各行に軸と数式の組み合わせを含めることができます。

[ツール] メニューから **[クイック チャート]** ウィザードを選択し、新しいストレート テーブルをすばやく作成できます。

ストレート テーブルを右 クリックすると、**[ストレート テーブル: オブジェクト メニュー]** が表示されます。ストレート テーブルがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

ストレート テーブルの使用

ソート

任意の列でストレート テーブルをソートできます。列を右 クリックし、コンテキスト メニューから**[ソート]** を選択するだけです。これは、ストレート テーブルの **[プロパティ]** ダイアログの **[ソート]** ページで **[優先順位]** リストの上部に列を移動する場合と同じです。また、列ヘッダーをダブル クリックしてソートする方法もあります。

列の並べ替え

軸列と数式列は、マウスでドラッグ アンド ドロップすることで移動します。列のタイトルをポイントし、マウス ボタンを押しながら、新しい位置に列をドラッグします。軸列と数式列は、任意の順序で組み合わせることができます。

チャート プロパティ: プレゼンテーション (ストレート テーブル) (page 659) から、列の順序をリセットすることができます。

オブジェクト メニュー

ストレート テーブルの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右 クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

- **プロパティ:プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、ストレート テーブルを定義する要素を設定できます。
- **ノート**: 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
- **分離**: チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
- **分離解除**: 分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
- **複製**: ストレート テーブルの全く同じコピーを作成します。分離設定されたストレート テーブルの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
- **データに列幅を合わせる**: テーブルの各列の幅をその最も長いデータ文字列に調整します。ヘッダーは計算に含まれます。
- **列幅を同じにする**: ストレート テーブルの列上でマウスの右 ボタンをクリックすると、このコマンドはフロート メニューに表示されます。(メイン メニュー バーの **[オブジェクト]** メニューにはありません)
  テーブルのすべての列をポインタを置いた列の幅に設定します。
  列幅は、列の右端にポインタを置き (ポインタの表示が変わります)、ドラッグして個々に調整できます。
- **ソート**: ストレート テーブルの列上でマウスの右 ボタンをクリックすると、このコマンドはフロート メニューに表示されます。(メイン メニュー バーの **[オブジェクト]** メニューにはありません) テーブルの行は、指定した列でソートされます。ソート順は、**[チャート プロパティ: ソート]** ページで設定します。
- **カスタム セルの書式**:**カスタム セルの書式** ダイアログを開きます。ここでは、クリックした列のセルの書式を設定できます。このカスケード メニューは、**[デザイン グリッド]** コマンドが **[表示]** メニューでアクティブになっている場合にのみ使用できます。

- **順序**: このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル

ボックス、ストレート テーブル、または ピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

- **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
- **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

- **値の変更**: 入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。クリックされてたセルを入力編集モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。
- **値を元に戻す**: 入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。オプションが 3 つ入ったカスケード メニューを開きます。
  - **ひとつの値を元に戻す**: クリックされたセルの基底となる項目値をスクリプトの既定値に戻します。
  - **絞込値を元に戻す**: 絞り込まれた基底となる項目値すべてをスクリプトの既定値に戻します。
  - **すべての値を元に戻す**: 基底となる項目値すべてをスクリプトの既定値に戻します。
- **すべての選択をクリアする**: テーブルの軸と数式での選択をすべてクリアします。
- **印刷**: プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
- **PDF として印刷**: *Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
- **Excel にエクスポート**: テーブルを Microsoft Excel にエクスポートします。そのとき Excel が実行中でなければ自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
- **エクスポート:名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。提供されるファイル形式には、さまざまな区切り記号付きテキスト ファイル形式、HTML、XML、XLS、XLSX、および QVO (QlikView エクスポート ファイル) があります。

  Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。

- **クリップボードにコピー**: このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。
  - **テーブル全体**: ヘッダーと選択のステータスを含め、テーブルをクリップボードにコピーします。
  - **テーブルのデータ エリア**: テーブルの値のみをクリップボードにコピーします。
  - **セルの値**: (オブジェクト メニューを呼び出すときに) 右クリックしたセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。
  - **画像**: シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**[ユーザー プロパティ: エクスポート]** ページから既定の設定を継承します。
  - **オブジェクト**: シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

- **リンク オブジェクト**: リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
  オブジェクトのリンクを解除する: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトID を付与します。
- **最小化**: オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **最大化**: オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **元に戻す**: 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
- **ヘルプ**: QlikView ヘルプを開きます。
- **削除**: シート オブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定 ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード** または **チャートプロパティ** ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると **印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と **[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。

Property	説明
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。 リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシートオブジェクトキャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャートタイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッドチャートは 3 つの軸を表示できます。レーダーチャートとファネルチャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージチャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウングループ] には垂直矢印が、[サイクリックグループ] にはカーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キーシンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システムフィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。

Property	説明
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウンリストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロードスクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメントプロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップチャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップチャートもトレリス表示にできます。
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブルセル内のテキストのフォントスタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。

Property	説明
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: [凡例の表示] チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が x-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: [ラベル] チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。 を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。 を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャートエンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレートテーブルに小計を表示できます。

チャートプロパティ: 数式
[チャートプロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。

> *[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。*

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリーコントロールで多数のコントロールオプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロットオプションは、組み合わせてプロットマーカーを定義する 2 つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例 : 以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォントスタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブルセル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャートプロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ** と **下へ** ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループ ボタンは、有効な数式が 2 つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> ***[サイクル グループ]*** *と [サイクリック グループ] は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が 1 つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸 ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像 ファイルへのパス (例: C:\Mypic.jpg) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (例: qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LED ゲージ

いずれかのゲージ オプションで、ゲージ チャートは画像として使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは **[チャート プロパティ: プレゼンテーション]** ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]** ボタンを使用します。

ミニ チャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は **[ミニ チャートの設定]** ボタンで変更できます。このオプションは、ストレート テーブルでのみ有効です。

Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。

リンク

テーブル セルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]** 項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText* と解釈されるテキストを返します。*DisplayText* は、テーブル セルに表示されるテキストで、*LinkText* は、新しいブラウザ ウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブル セルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。



URL リンクは、セキュリティ上の制限により、Ajax クライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで *Name* と *Link* はロード スクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレート テーブルとピボット テーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を [数式] リストで選択します。累積は、ピボット テーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。

> *トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。*

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレート テーブルのチャート オブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。
- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレート テーブルの各行など) が、ドロップダウン リストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> ***[最初の文字列]*** *または* ***[最後の文字列]*** *は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は 0 から 9、その後 A から Z へと続きます。*

枠線の幅

棒グラフとコンボ チャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

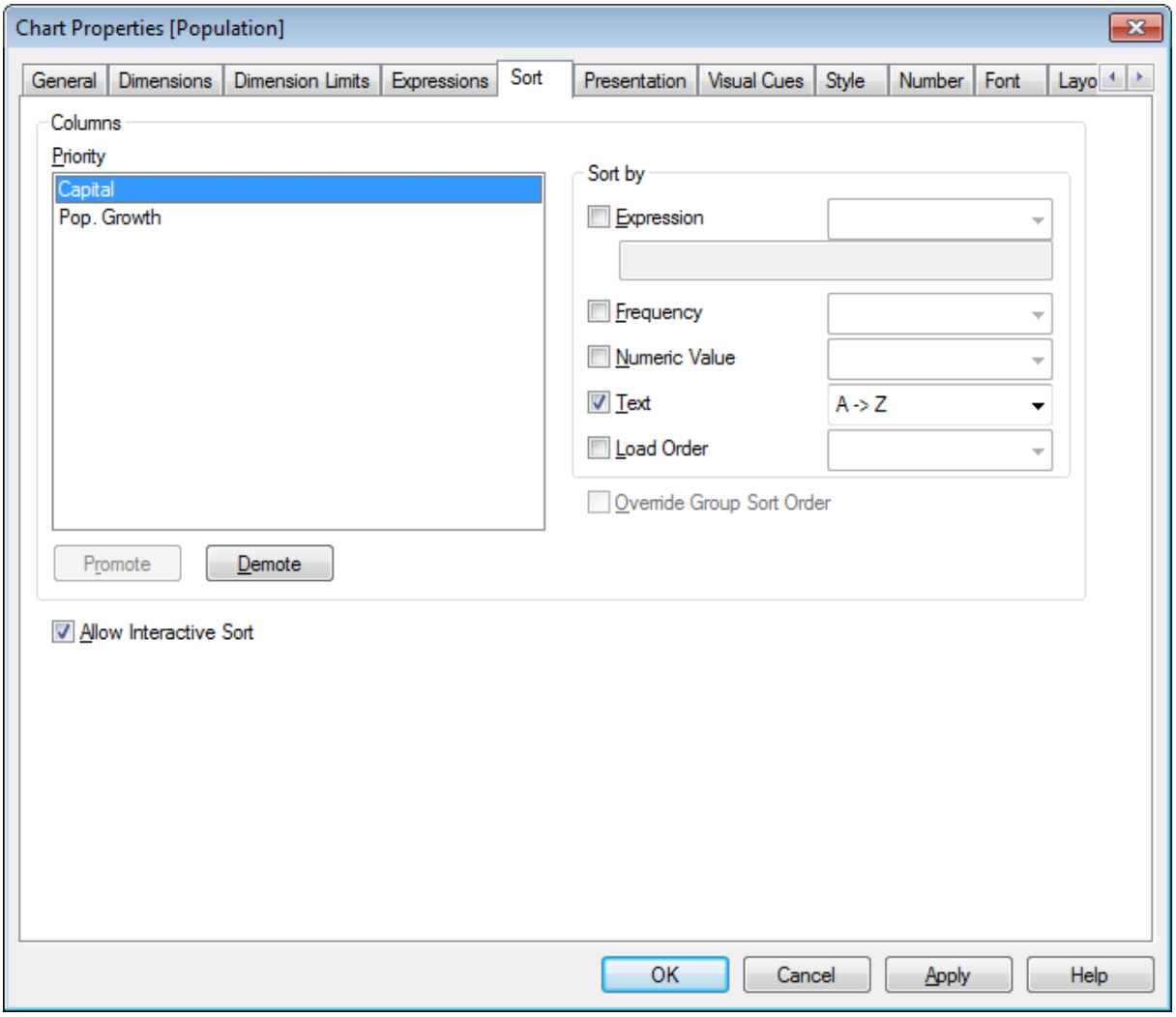
すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボ チャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ チャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート(ストレートテーブル)



チャートプロパティ: ソート(ストレートテーブル)

[チャートプロパティ: ソート] ページは、ストレートテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

ストレート テーブルに定義された変数と数式は、**列** グループにリストされます。

- **優先順位**: ソート優先順にリストされる列として選択した軸/数式が含まれます。いずれかの列を選択すると、その列の値のソート順を **ソート順** グループで設定できます。
  また、**上へ** ボタンまたは **下へ** ボタンのいずれかをクリックしてソートの優先順位を変更できます。
- **ソート順**: このグループでは、列の値のソート順を設定できます。
  - **数式**: このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいて列の値をソートします。
  - **レコード数**: 列の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。
  - **数値**: 列の値を数値順にソートします。
  - **テキスト**: 列の値をアルファベット順にソートします。
  - **ロード順** : 列の値をその最初のロード順でソートします。
- **グループのソート順を上書きする**: このチェック ボックスは、**優先順位** リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループ プロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェック ボックスをオンにすると、グループ レベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に 1 つのソート順を適用できます。

- **相互並べ替えを許可する**: このチェックボックスをオフにすると、**オブジェクトのソート** コマンドを無効にします。

チャート プロパティ: プレゼンテーション (ストレート テーブル)
ストレート テーブルに定義された軸と数式は、**列** グループにリストされます。列をひとつ選択すると、その設定を変更できます。

- **列ラベル**: 列ラベルは、項目のラベルを表示し、編集することもできます。
- **列の表示**: このラジオ ボタンを選択すると、テーブルがレイアウトに描画されるときに選択した列が表示されます。
- **列の順序をリセット**: このボタンをクリックすると、すべての軸が式の前に表示された状態で列が並べ替えられます。
- **列の非表示**: ユーザーに非表示の項目でストレート テーブルをソートしたい場合があります。**列の非表示** オプションで、ソートを目的とした項目を有効にしたまま隠すことができます。ソートの設定は、**[列]** グループの **[優先順位]** (**[チャート プロパティ: ソート (ストレート テーブル)]** ページ内) で指定します。
- **条件付き表示**: 列は、テーブルが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集ダイアログ]** が開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
- **配置**: このグループでは、ストレート テーブル内の軸値、数式の値およびそのラベルの配置を設定できます。**ラベル**、**データ (数値)**、**データ (テキスト)** は個別に、**左揃え**、**中央揃え**、または **右揃え** に設定できます。複数行のセルまたはラベルを使用する場合は、**ラベル (垂直位置)** と **データ (垂直位置)** は **上揃え**、**中央揃え**、または **下揃え** に設定できます。
- **ドロップダウン選択**: **ドロップダウン リスト** オプションは、選択した列のヘッダの左側にドロップダウン矢印アイコンを追加します。アイコンをクリックして、ドロップダウン データ リストからデータにアクセスします。これは、マルチ ボックスで選択するのとほぼ同じです。

- **検索アイコンの表示**: 数式列に対して **検索アイコンの表示** チェックボックスをオンにすると、検索アイコンが列ヘッダーの左に表示されます。アイコンをクリックすると、検索ボックスが開きます。ここで、検索条件 (>100 000 など) を入力します。ENTER キーを押すと、検索条件と一致する数式値を持つすべてのテーブル行が選択されます。
- **最大数 (1 ~ 100)**: ここには、表示する最大行数を設定します。
- **ドラッグ アンド ドロップを許可する**: このオプションにより、ヘッダーをドラッグ アンド ドロップしてテーブルの項目順をソートできます。軸列と数式列は、任意の順序で組み合わせることができます。
- **水平**: このチェックボックスをオンにすると、ストレートテーブルは 90 度置換えられ、列データが水平に表示されます。
- **0 値を隠す**: この **[0 値を隠す]** チェックボックスをオンにすると、テーブルから 0 値または NULL 値のみを含む数式を排除します。
- **ソートインジケータ**: このオプションは、テーブルで現在ソートされている項目の列ヘッダーにソートアイコンを追加します。アイコンは、昇順と降順を反映して反転します。
- **ラベルを縦書きにする**: 列ヘッダーのラベルが垂直に回転されます。
- **選択アイコンの表示**: このチェックボックスをオンにすると、色の付いたインジケータが選択のある項目列のヘッダーに表示されます。
- **ヘッダー行を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、ヘッダー (ラベル) 行がないテーブルが表示されます。
- **欠損値を隠す**: このオプションは、ストレートテーブルでは機能しません。
- **NULL マーク**: ここに入力されたマークは、テーブルで NULL 値を表示する際に使用されます。
- **欠損値マーク**: ここに入力されたマークは、テーブルで欠損値を表示する際に使用されます。

- **合計**: 合計は、次の設定に従った数式の列に表示します。
  - **合計を最初の行に表示**: 合計は、テーブルの上部に表示されます。
  - **合計を最後の行に表示**: 合計は、テーブルの下部に表示されます。
  - **ラベルの使用**: ここでは、合計のラベルを指定できます。

- **折り返し設定**: このグループでは、テーブルのヘッダーとデータセルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。
  - **ヘッダーを折り返して表示**: このオプションを選択すると、ヘッダーの内容を複数行で表示します。
  - **ヘッダーの高さ (行)**: ここでは、ヘッダーの行数を指定できます。
  - **セルのテキストを折り返して表示**: このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。
  - **セルの高さ (行)**: ここでは、セルの行数を指定できます。

チャートプロパティ: 条件付き書式

[チャートプロパティ: 条件付き書式] ページは、ピボットテーブルとストレートテーブルでのみ有効です。チャートウィンドウを右クリックし、フロートメニューから**プロパティ**コマンドを選択して開きます。

[条件付き書式] は、値をハイライト表現するために使用され、異なるフォントスタイル、フォントの色、セルの色を適用して表示します。異なる区間に属する値には、通常、異なる表現が与えられます。

値は、それぞれ異なる設定とともに **次の値以上**、**標準**、**次の値以下** オプションの 3 つの異なる区間を指定できます。[次の値以上] 区間は、編集ボックスに入力した数値で上区間となる値を指定し、[次の値以下] 区間は、入力した数値で下区間となる値を指定します。標準の値は、これら 2 つの制限の間となります。**テキスト**の値は、数値として解釈されなかった値です。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの 1 つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが 2 つの軸を表示する、もしくは 1 つの軸と 2 つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別に x- 軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大 2 軸です。
  - 第 3 軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
  - 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
  - 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

  以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。
  - **1 軸**
    - **数式 1 つ**: 単一の棒
    - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
  - **2 軸**
    - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
  - **3 軸**
    - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
  - **4 軸**
    - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
    - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** テキスト ボックスに表示されます。

書式	説明
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 : 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント **サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビュー パネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。ドロップダウン メニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度** ドロップダウン メニューで、シート オブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シート オブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シート オブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シート オブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェック ボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。

- **前面**:**前面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**背面**レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面**レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面**レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件がFALSEを返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]**を**[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+Sを押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプショングループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが**[ドキュメントプロパティ: レイアウト]**と**[シートプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFOを許可する**:**info**関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合にINFOアイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションにINFOアイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikViewのすべてのテーブルシートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色** は、**色の設定** ダイアログで、**単色** または **グラデーション** として定義できます。**テキストの色** は、**固定** または **計算** 色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集 ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

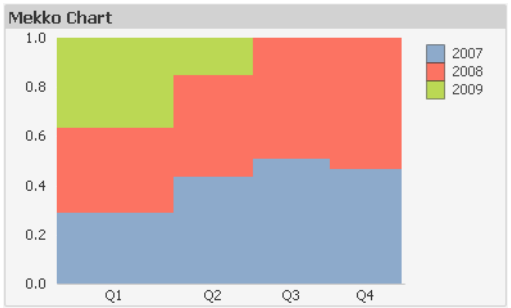
- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

メッコ チャート



チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。**[チャートプロパティ: [基本設定]** ページの **チャートタイプ** を変更することで、既存のチャートの種類を切り替えることができます。

メッコ チャートでは、さまざまな幅の棒を使用してデータを表します。2 軸のチャートでは、データを最大 3 レベルまで表示できます。メッコ チャートは、マーケット分析などの領域で有効です。

メッコ チャートを右クリックすると、**[メッコ チャート: オブジェクト メニュー]**が表示されます。チャートがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

メッコ チャートでは、さまざまな幅の棒を使用してデータを表します。2 軸のチャートでは、データを最大 3 レベルまで表示できます。メッコ チャートは、マーケット分析などの領域で有効です。

メッコ チャートの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	**プロパティ**ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: ALT + ENTER。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

コマンド	説明
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	プリンタ設定を指定できる**[印刷]**ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で**[印刷]**ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ(チャートに相当するストレートテーブル)を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このメニューには、チャートのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **値** 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 **画像** チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクト プロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクト プロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

コマンド	説明
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

チャートプロパティ: 基本設定

基本設定ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード**または **チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

チャートプロパティ基本設定

Property	説明
ウィンドウ タイトル	ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
チャートにタイトルを表示する	デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。
タイトル設定	**タイトル 設定** ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。
印刷設定	**印刷設定** ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と**[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。
分離設定	有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。

Property	説明
読み取り専用	有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
演算実行条件	このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
チャートの種類	**チャートの種類** グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。
クイック切替	このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。 • **表示する種類**: このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。 • **アイコンの表示位置の指定**: グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシート オブジェクト キャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。
サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	**[カスタム エラー メッセージ]** ダイアログが開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートプロパティ: 軸

[チャートプロパティ: 軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、まず次の 2 つの事項を確認します。

- 表示する対象は? 棒グラフの棒のサイズに対応する対象は? 答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものです。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は? 棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は? 答えは、country (国) 別やそれと同類のものです。これは、**軸** ページで設定します。

1 つのチャートは、1 つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャート タイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大 2 つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッド チャートは 3 つの軸を表示できます。レーダー チャートとファネル チャートは軸を 1 つだけ表示でき、ゲージ チャートは軸を表示できません。それ以上の軸は無視されます。

チャート軸は、**[チャートプロパティ: 軸]** ページに指定された項目からその値を取得します。1 つの軸は、1 つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の**「グループ」**を参照)。

項目、グループ、数式 (計算軸) を軸にできます。作成した合成軸も使用できます。

[追加>] や **[<削除]** ボタンを使用して、(クリックや CTRL+ クリックで) 選択した項目を移動するか、ダブルクリックして移動します。

チャート軸は数式から計算することもできます。

軸プロパティ

Property	説明
項目/グループ	軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x- 軸など)。項目グループは、[ドリルダウン グループ] には垂直矢印が、[サイクリック グループ] には カーブした矢印が前に表示されます。 グループは、**[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページで定義されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。 使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。 複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。
システム項目の表示	このオプションをオンにすると、システム フィールドが **[利用可能な項目/グループ]** に表示されます。
テーブルの項目を表示	ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **[すべてのテーブル]** を表示します。 **[すべてのテーブル (テーブル名表示)]** は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は一度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify (page 939)* とは関係ありません。) 一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。
グループの編集	このボタンを押すと直接 **[ドキュメント プロパティ: グループ]** ページに移動し、軸として使用できる項目グループを定義できます。
アニメーション	**[アニメーション]** ダイアログを開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。
トレリス	**[トレリス設定]** ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップ チャートもトレリス表示にできます。

Property	説明
軸項目	このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。 軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式** の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。 • **背景色**: **[背景色]** をダブルクリックして、軸項目のセルの背景色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの色**: **[テキストの色]** をダブルクリックして、軸項目のセルのテキスト色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な色関数のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 • **テキストの書式**: **[テキストの書式]** をダブルクリックして、各軸項目のテーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算する属性式を入力します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。 **[上へ]** と**[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。
計算軸の追加	新しい軸を追加し、**[数式の編集]** ダイアログで編集用に開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つまたは複数の項目を含む数式で構成されています。標準的な関数はすべて使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために Aggr 関数を含めることができます。
編集	**[数式の編集]** ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

Property	説明
選択軸項目の設定	このグループには、個々の軸の設定が表示されます。 **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの [...] ボタンをクリックします。 **NULL値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸項目]** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。 **すべての値の表示**: 選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。 **凡例の表示**: **[凡例の表示]** チェックボックスをオンにすると、項目値の「名前」が **x**-軸の隣に表示されます。 **ラベル**: **[ラベル]** チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。を参照してください **詳細**: このボタンは、**[項目詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。を参照してください **コメント**: コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。 **改ページ**: この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3 つのモードが以下の効果で利用できます。 • **改ページなし**: 必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。 • **条件付き改ページ**: 軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。 • **強制改ページ**: 軸の値が変更されるたびに改ページを挿入します。

チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージ チャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3 つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには、**[最初]**、**[最大]**、**[最小]** の 3 つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第 1 軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。

このプロパティページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション

「その他」の表示

このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャート

に表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

グローバル グループ モード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャート エンジンに返されます。これにより[その他] の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total

Region	Product Family	Sales
		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Women's Clothes	286,116
Scandinavia	Sportswear	164,486

Dimension Total

Region	Product Family	Sales
Overall Total		**12,250,605**
Europe	**Total**	**7,753,390**
Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322
North America	**Total**	**2,329,970**
North America	Women's Clothes	707,181
North America	Sportswear	423,914
North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Footwear	307,859
North America	Men's Clothes	217,669
North America	Children's Clothes	153,353
North America	Baby Clothes	142,239
North America	Swimwear	43,896

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレート テーブルに小計を表示できます。

チャート プロパティ: 数式

[チャート プロパティ: 数式] タブは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合は、次の 2 つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式 (売上高の合計** など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸 (国** 別など)です。



[数式] タブはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する2つ以上の数式のセットといったサブ数式を使用します (例:以下に説明する**株価**や**箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **[背景色]** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。**[テキストの色]** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

[テキストの色] の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキストの書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **[テキストの書式]** 数式を編集します (テーブル: 各軸項目のテーブル セル内のテキスト)。計算されたテキスト書式は、**[チャート プロパティ: スタイル**。

テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要ですので注意してください。

円ポップアウト

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された「分割」位置に描画するかどうかを計算するには、**[分割円]** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データ ポイントに関連付けられた棒グラフまたは棒グラフのセグメントの間隔を適切に計算するには、**[補正]** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォール グラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するための属性式を入力するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボ チャート、およびレーダー チャートにのみ有効です。線の相対的な幅は、<W*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。

<W2.5>

線のスタイルは、<S*n*> タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<W*n*> および <S*n*> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **[データ点の値]** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを「データ点の値」の値で補足するかどうかを計算するには、**[値の表示]** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、ファネル チャート、およびコンボ チャートにのみ有効です。

追加

新しい数式と補助数式は、**[追加]** ボタンで作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

削除

削除 ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでも有効です。

コピー

コピー オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

エクスポート

エクスポート オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキスト メニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。

その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポート ファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。

貼り付け

貼り付け オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。

インポート

インポート オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートした数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。

上下移動

複数の数式が表示される場合、**上へ**と**下へ**ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。

グループ

グループボタンは、有効な数式が2つ以上ある場合に、数式を併せてサイクル グループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクル アイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。(**サイクル グループ**)。サイクル アイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップ リストが表示されます。

> *[サイクル グループ]と[サイクリック グループ]は同じではありません!*

グループ解除

グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクル グループに数式が1つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクル グループは存在しなくなります。

有効化

このチェック ボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示

このチェック ボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボット テーブルでは使用できません。

表示しない

このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。

条件付き表示

このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE または NULL の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。

ラベル

数式のラベルの前のアイコンは、使用するチャートの種類 および数式に設定された**表示オプション**を示すために使用されます (以下を参照してください)。

定義

選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

コメント

この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャート テーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために 1 つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒グラフで表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。

シンボル

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線グラフで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボ チャートでのみ有効です。ドロップダウン メニューの **[標準]**、**[なめらか]**、または 3 種の **[水平]** から選択します。

ストック

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェック ボックスをオンにします。[数式] リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この 2 つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4 つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。

数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

ボックスプロット

数式をボックスプロット(統計データの表示に使用されることが多い)としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5 つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。

最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱 (上)」ポイントをプロットするために使用されます。2 つ目のサブ数式は、「箱 (下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この 2 つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。

3 ~ 5 つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱 (中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。

箱ひげ図 の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1 つまたは 2 つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。

エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上のテキスト

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバルーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップ

にのみ表示することができます。

意味

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikViewは各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例: C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(例: qmem://<Name>/<Peter>)になります。QlikViewが数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]**チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LEDゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージのレイアウトは**[チャートプロパティ: プレゼンテーション]**ダイアログで変更できます。このダイアログにアクセスするには、**[ゲージの設定]**ボタンを使用します。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は**[ミニチャートの設定]**ボタンで変更できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

Excelに出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルにクリック可能なリンクを作成する数式を、**[定義]**項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式は、*DisplayText<url>LinkText*と解釈されるテキストを返します。*DisplayText*は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。

リンクが定義されると、テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、値に下線は引かれません。表示モードでは、リンクを表示するセルでの選択は行えませんのでご注意下さい。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**数式の編集**ダイアログが開きます。

URLリンクは、セキュリティ上の制限により、Ajaxクライアントでのみ機能します。

```
=Name & '<url>' & Link
=Name & '<url>www.qlikview.com'
```

ここで*Name*と*Link*はロードスクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記で **[画像]** オプションを選択した場合のみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

- **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。

チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を **[数式]** リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累計なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

全累計

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の**「累積」**を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。



トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

累積表示 *n* 段階後退

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の**「累積」**を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャートオブジェクトにのみ選択した数式に有効です。以下の 3 つの設定があります。

- **合計なし**: 選択した数式で合計は計算されません。
- **数式の合計**: 次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

- **行の (集計関数)**: このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。

> *[最初の文字列]* または *[最後の文字列]* は最も高い値か低い値で、テーブルでは英数字順に表示されます。英数字の順序は *0* から *9*、その後 *A* から *Z* へと続きます。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。

すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線** グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が y=f(x) のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション** のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
- **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
- **R2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

チャートプロパティ: ソート

[チャートプロパティ: ソート] ページは、チャートを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

[チャートプロパティ: ソート] ページ (ストレートテーブル用) には、少し異なるオプションが含まれます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

軸ソートオプション

オプション	説明	
Y軸値	軸の値は、y軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。	
状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。	
数式	軸の値は、このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。	
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。	
数値	軸の値をその数値でソートします。	
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。	
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。	

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または **A -> Z** と**Z -> A** を切替えて反転できます。

[初期設定] ボタンをクリックすると、軸の値は **[ドキュメントプロパティ: ソート]** ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きするチェックボックスは、**軸**リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループプロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループレベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

チャートプロパティ: スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

- **スタイル**: 有効なスタイルの1つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。
- **方向**: チャートの方向を水平または垂直に設定します。
- **下位の種類**: このグループで、モードを **[グループ]** または **[積み上げ]** (レーダーチャートでは **[オーバーレイ]** または **[積み上げ]**) に設定できます。この設定はチャートが2つの軸を表示する、もしくは1つの軸と2つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別にx-軸の下側で下方向に積み上げられます。棒グラフでは、連続軸目盛を使用する場合、積み上げレイアウトのみがレイアウトとして許可されます。

  複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。
  - X-軸に表示できるのは最大2軸です。
  - 第3軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。

- テーブル チャートのみ 3 つ以上の軸を表示することができます。
- 2 つ以上の数式が有効な場合、最初の 2 つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2 つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1 つの積み上げ内にあるすべての数式は、1 つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて 1 つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまります。

以下のリストに、下位の種類を使用した複数の軸および数式の表示状態を示します。

- **1 軸**
  - **数式 1 つ**: 単一の棒
  - **数式 2 つ以上**: 数式はグループもしくは積み上げ
- **2 軸**
  - **数式 1 つ**: 軸はグループもしくは積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 軸はグループ
- **3 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ
- **4 軸**
  - **数式 1 つ**: 第 1、第 2 軸はグループ、第 3 軸は積み上げ
  - **数式 2 つ以上**: 第 1、第 2 軸はグループ、数式は積み上げ

- **3 次元 ビュー**: このグループの設定では、チャートを 3 次元モードで表示する角度を定義します。
  - **回転角度 (縦)**: 3 次元 ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度 (横)**: 3 次元 ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
- **プロット エリア色のスタイル**: このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、**[色]** ページの **[カラー マップ]** のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。**[プロット エリア色のスタイル]** 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。
  - **単色**: カラー マップのすべての色を単色に設定します。
  - **暗いグラデーション**: マップのすべての色を黒へ移行するグラデーションに設定します。
  - **明るいグラデーション**: カラー マップのすべての色を明るい色調へ移行するグラデーションに設定します。
  - **光沢**: すべての棒を光沢ある色調に設定します。
- **プロット エリア背景のスタイル**: このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロット エリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションを使用できます。
  - **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  - **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  - **最小**: このオプションは、プロット エリアの背景を削除します。
- **プレビュー**: チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。

チャートプロパティ: プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャート)

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、メッコ チャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボ チャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒設定

構成	説明
要素の間隔 (-6 - 8)	クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。
グループの間隔 (0 - 8)	複合軸の棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。
細い棒を許可する	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。
すべての棒を表示	不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

[データ点の値] グループでは、**チャートプロパティ: 数式** ページの **[表示オプション]** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

データ ポイント設定の値

構成	説明
最大表示数	このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
垂直	値を縦に表示します。
要素の中に値を表示	このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
引き続き上部に合計を表示	このチェック ボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフとメッコ チャートの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラー バーの表示オプションを決定します。

エラー バー設定

構成	説明
幅	エラー バーの幅を指定します。
厚さ	エラー バーの厚さを指定します。
色	エラー バーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボ チャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線/マーカーの設定

構成	説明
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカー セットを使用する	このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

表示設定

構成	説明
半透明	線を半透明に表示したい場合は、このオプションをオンにします。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
0値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。 **データ ラベルに 0 値を表示** このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェック ボックスがオンで、**[データ点の値]** がそのチャート式の **[表示 オプション] (チャート プロパティ: 数式)** でオンの場合は、0値がデータ ポイントの上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、ゼロ値が隠されます。
欠損値を隠す	このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

構成	説明
ポップアップラベル	マウス ポインターが値に触れたときに、ポップアップ ウィンドウに軸と数式の値を表示するかどうかを選択します。**[設定...]** をクリックして、ポップアップ ラベルを表示する軸と数式をカスタマイズします。

凡例 グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の設定

構成	説明
凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**[設定...]** ボタンをクリックし、凡例を変更できますチャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

チャートのスクロールの設定

構成	説明
X- 軸スクロール バーの有効化	X 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
反転	このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロット エリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

基準線の設定

構成	説明
AllowAlternateAdmin=1	チャートに新しい基準線を作成するための **[基準線]** ダイアログを開きます。
編集	**[基準線]** ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

[チャートのテキスト] グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

テキストの設定

構成	説明
AllowAlternateAdmin=1	新しいチャート テキストを作成するための **[チャート テキスト]** ダイアログを開きます。
編集	**[チャート テキスト]** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
削除	既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。

目盛線
目盛線 ページでは、X- 軸とY- 軸の表示プロパティを設定できます。

チャートプロパティ: 色
[チャートプロパティ: 色] ページは、チャート ウィンドウを右クリックし、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

外観の設定

構成	説明
色 1 - 18	色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **[色の設定]** ダイアログを開きます。 **初期設定色を取得** ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。 **色の変更を元に戻す** ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。 **[詳細設定...]** ボタンは、**[カラー マップ詳細設定]** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。
要素を塗り分ける	このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。
固定色	このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。
最後の色を繰り返す	このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップの 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

フレームの背景 グループでは、プロット エリアの背景とプロット エリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

背景の設定

構成	説明
色	色付きの背景でチャートがプロットされます。プロット エリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。 どちらのボタンもクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。  ***背景色**設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。*
背景	プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。
プロット エリア	チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライト グレーです。この設定は、円グラフとファネル チャート、レーダー チャートでは使用できません。
画像	画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。 **プロット エリアのみ** チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロット エリアのみに制限されます。
動的画像	計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、散布図およびグリッド チャートで有効です。
透過性	チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景色]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロット エリアの枠線 グループでは、プロット エリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

チャート プロパティ: 数値

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式

書式	説明
初期設定値	初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。
数値	**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**プレビュー** テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。

書式	説明
日付	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	**書式パターン**編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー**テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します(例:書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します(1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] ボタンは次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、および **[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

フォント
ここでは、**フォント、スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン(**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上)を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント(**リストボックス、チャートなど**)は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント(**テキストオブジェクトとボタン**)は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト(検索オブジェクト以外)には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]**(数式で動的に計算します)を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト
レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウン メニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウン メニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤーグループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**前面**レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面**レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置**レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面**レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面**レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**背面**レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面**レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面**レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件がFALSEを返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]**を**[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+Sを押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプショングループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが**[ドキュメントプロパティ: レイアウト]**と**[シートプロパティ: セキュリティ]**で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFOを許可する**:**info**関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合にINFOアイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションにINFOアイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

チャートとテーブル内での選択

チャートやテーブルでの選択の手順は、できる限り直感的に行えるように設計されています。多くの場合、チャートのプロットエリアで個々の値 (棒など) をクリックしたり、大きな範囲を"ペイント" したりして、直接選択できることがわかります。

チャートで直接選択を行えない場合は、チャートが **[分離]** モード、もしくは **[読み取り専用]** モードに設定されている可能性があります。

棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、グリッド チャート、および散布図での選択

プロットエリア内で 1 つのデータ点をクリックするか、複数のデータ点をペイントすると選択できます。ペイント中は、選択範囲がマウス ボタンを放すまで緑色に表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。

チャートの凡例内 (凡例が軸の値でなくチャートの数式を示している場合を除く) をクリックするかペイントすると選択できます。

軸とそのラベル (散布図を除く) をクリックするかペイントすると選択できます。対応する項目値が選択されます。

数式の軸とそのラベルをペイントすると選択できます。指定された結果領域でデータ点を生成する項目値が選択されます。

> *複数軸を表示する折れ線グラフと棒グラフ(コンボ チャートではありません) で直接行われた選択は、最初に 1 つの軸に適用されます。折れ線グラフの選択は、最初に第 2 軸に適用されますので、ある線をペイントすると x 軸のすべての軸値で線全体が選択されます。棒グラフでは逆に、最初に第 1 軸に選択が適用されます。*

円グラフでの選択

プロットエリア内で 1 つのスライスをクリックするか、複数のスライスをペイントすると選択できます。ペイント中は、選択範囲がマウス ボタンを放すまで緑色に表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。

チャートの凡例をクリックするかペイントすると選択できます。

ブロック チャートでの選択

プロットエリア内で 1 つのブロックをクリックするか、複数のブロックをペイントすると選択できます。クリックすると選択はドリルダウン機能で行われますので、最初のクリックは、第 1 軸の 1 つの値を選択します。2 度目 (選択内) のクリックは、第 2 軸の 1 つの値を選択します。

ペイント中は、選択範囲がマウス ボタンを放すまで緑色に表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。第 1 軸のいくつかの値の範囲を超えてペイントすると、選択によってペイントされたものだけではなく、これらの値に属している第 2 軸と第 3 軸のすべての値が選択されます。

ゲージ チャートでの選択

ゲージ チャートでは選択できません。

ストレート テーブルでの選択

1 つのセルをクリックするか、複数のセルをペイントすると軸の列内で選択できます。選択した領域は、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

1 つのセル内をクリックすると、数式の列内で選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

ピボット テーブルでの選択

1 つのセルをクリックすると、軸の列/行内で選択できます。選択したセルは、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

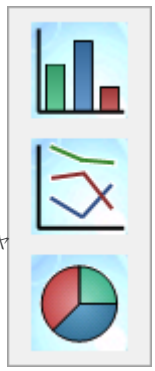
1 つのセル内をクリックすると、数式の列/行内で選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

テーブル ボックスでの選択

任意のセルをクリックするか、1 行以上かつ 1 列以上で構成される領域をペイントすると選択できます。選択した領域は、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

チャートの種類のクイック切り替え

[チャートプロパティ: 基本設定] ページで **[クイック切替]** オプションを選択すると、ユーザーは **[チャートプロパティ]** ダイアログを介さずにチャートの種類を変更できます。



次に使用可能なチャートの種類 (クイック切り替えのために選択した **[表示する種類]**) を示すアイコンがチャートに表示されます。アイコンを左クリックすると、指定した種類にチャートが変更されます。アイコンを右クリックすると、選択したすべての種類を含むドロップダウン メニューが表示されます。

アプリケーションのデザイナーは、クイック切り替えアイコンの **[アイコンの表示位置の指定]** を選択できます。**[キャプション]** を選択すると、キャプションが表示されている場合は、アイコンがチャートのキャプションに表示されます。**[チャート]** を選択すると、チャートがピボット テーブルやストレート テーブルでない場合は、アイコンがチャート内に表示されます。表示位置の指定が有効でない場合、QlikView は他のオプションを使用しようとします。キャプションを含まないテーブル チャートでは、アイコンは表示されません。

> *種類のクイック切り替えはピボット テーブルとストレート テーブルには機能しないため、種類のクイック切り替えに組み込まれている場合はスキップされます。*

チャート コンポーネントのサイズ変更と移動

個々のチャート コンポーネントの多くを必要に応じてサイズ変更または移動できます。

チャートがアクティブなときに Shift キーと Ctrl キーを押し続けると、チャート レイアウトの編集モードに切り替わります。編集モードでは、赤色の細い枠線の四角形がチャートのコンポーネントの周囲に表示され、サイズの変更や移動を行うことができます。マウスをドラッグ アンド ドロップして、コンポーネントを任意に移動します。

次のコンポーネントを編集できます。

チャートのタイトル と**チャートの凡例** は、移動とサイズ変更の両方を行うことができます。それらは、チャートの上下左右の枠線にドッキングしたり、チャート内の任意の場所にフロート配置することもできます。

自由に移動できるチャートのテキストは、チャート内の任意の場所に配置できます。輪郭の長方形は長いテキストや複数行のテキストに合わせてサイズを変更できます。

チャートの軸 とその **ラベル** で占められる領域は、サイズ変更できます。

数式のサイクリック アイコン と**チャートのクイック切り替えアイコン** は、チャート内の任意の場所にフロート配置できます。

プロット エリア自体は編集モードでサイズ変更したり、移動することができませんが、ドッキングした凡例およびタイトルと軸の間の残りのスペースに描画されます。

チャートプロパティ

ツールバーの **[チャートの追加]** ボタンをクリックすると、**[チャートプロパティ]** ダイアログが開きます。ここでは、チャートの種類、軸、タイトルなどチャートのプロパティを設定できます。

チャートを作成すると、いつでもそのプロパティを変更できます。**[チャートプロパティ]** ダイアログを開くには、チャートの **[オブジェクト]** メニューから**[プロパティ]** を選択します。プロパティコマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がありません。

チャートプロパティダイアログのさまざまなプロパティページにある設定は、最初のページ (**基本設定** ページ) で選択したチャートの種類によって異なります。**[チャートプロパティ]** ダイアログのさまざまなページ (以下で説明する **[基本設定]** ページを除く) については、それぞれのチャートの章を参照してください。

(基本設定)

基本設定ページでは、タイトルやチャートの種類といった属性を変更できます。これは、**クイック チャート ウィザード** または **チャートプロパティ**ダイアログの最初のページです。

ウィンドウ タイトル

ウィンドウ ヘッダーに表示されるタイトルです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

チャートにタイトルを表示する

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェック ボックスをオンにするだけです。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

ピボット テーブルやストレート テーブルでは、チャート タイトルは表示されません。

タイトル設定

タイトル 設定 ボタンをクリックして、チャート タイトルに詳細設定を定義します。

印刷設定

印刷設定 ボタンをクリックすると**印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**[印刷設定]** ダイアログは、**[印刷 : レイアウト]** と**[印刷 : ヘッダー/フッター]** の 2 ページで構成されます。

並列ステート
ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

- **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。
- **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

オブジェクト ID
これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。

チャートの場合、ID は **CH01** から始まります。

分離設定
有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。

読み取り専用
有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。

演算実行条件
このテキストボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。

値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。

チャートの種類
チャートの種類 グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。

各チャートの種類に関しては、*チャートの種類 (page 318)* を参照してください。

クイック切替
このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。

表示する種類

このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。

アイコンの表示位置の指定

グラフィカルチャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシートオブジェクトキャプション内のいずれかに配置できます。テーブルチャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。

サイズ変更のリセット
このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。

ドッキング位置のリセット
このボタンを押すと、グラフィカル チャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。

エラー メッセージ
[カスタム エラー メッセージ] ダイアログが開きます。

参照機能のスタイル
チャートのコンテキスト メニューから**参照設定** オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

凡例の書式

チャートの凡例のレイアウトは、このダイアログのさまざまな設定でコントロールできます。

凡例の設定

構成	説明
スタイル	凡例の基本的なスタイルを設定します。複数のスタイルから選択します。
背景色	凡例の背景の色を設定します。色は、ボタンをクリックすると表示される[色の設定] ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
垂直位置	凡例に必要な垂直方向の領域がプロット エリアより狭い場合、凡例をプロット エリアに対してどのように配置するかを指定します。
フォント	標準のフォント ダイアログが開き、凡例のフォントを指定できます。
線の間隔	凡例内の項目の間の距離を指定します。
ソート順を反転する	凡例のソート順を反転します。
複数行	凡例の項目が複数行の場合の折り返しオプションを設定します。 **折り返して表示** 凡例の項目のテキストを2行以上に折り返します。 **セルの高さ(行)** **折り返して表示** オプションがオンの場合、この設定で各項目に何行使用するかを指定します。

トレリスの設定

チャートのトレリスのレイアウトは、このダイアログのさまざまな設定でコントロールできます。

- **トレリス チャートを有効にする**: 第1軸を基準としたチャートの配列表示を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。

- **トレリスに第 2 軸を設定する**: トレリス チャートに第 2 軸を含める場合は、このチェック ボックスをオンにします。第 2 軸を設定する場合、第 1 軸の値はトレリス行列の列として表示され、第 2 軸の値はトレリス行列の行として表示されます。
- **列数**:**自動設定** を選択するとQlikView が自動的に表示列数を設定し、**固定** を選択すると表示列数を指定できます。
- **行数**: **[自動設定]** を選択するとQlikView が自動的に表示行数を設定し、**[固定]** を選択すると表示行数を指定できます。

タイトル設定

チャートのタイトルのレイアウトは、このダイアログのさまざまな設定でコントロールできます。

- **タイトルのスタイル**: タイトルの基本的なスタイルを設定します。
- **背景色**: タイトルの背景の色を設定します。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **水平位置**: タイトル テキストをプロット エリアに対してどのように配置するかを指定します。
- **フォント**: チャート タイトルのフォントを設定します。ボタンをクリックすると、標準の [フォント] ダイアログが開きます。

基準線

基準線 ダイアログは、使用するチャートの種類によって外観が少し異なります。基準線は、1 つまたは両方の軸上の特定の地点からチャートのプロット エリアを横断する線です。たとえば、特定のレベルやチャート データのパーセンタイルを示すために使用できます。基準線は、始点の軸の現在の範囲内にある場合にのみ引かれます。

基準線プロパティ

Property	説明
ラベル	基準線の横に描画するラベルを指定します。使用されるデフォルト値は数式です。ラベルを計算式として定義できます。
基準線のラベルを表示	基準線の横にラベルを表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
場所	基準線の始点の軸を設定します。 **数値目盛の X- 軸** 軸基準線を X 軸から開始します。このオプションは、チャートに数値目盛の X- 軸が含まれている場合にのみ有効です。 **プライマリ Y** 基準線を第 1 軸 (Y 軸) (左/下) から開始します。 **セカンダリ Y** 基準線を第 2 軸 (Y 軸) (右/上) から開始します。
定義	基準線を描画する位置の値を設定します。値は、現在のチャート データの固定 **パーセンタイル** (編集ボックスに 1 と100 の間の数値を入力) または任意の数値の **数式** を指定できます。

Property	説明
線の書式	基準線のレイアウトを定義します。 **太さ** 基準線の太さを指定します。値は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。 **色** 基準線の色を設定します。 **スタイル** 実線、破線、点線といったスタイルを基準線に指定します。
表示	基準線を表示する条件を指定します。 **常に表示** 基準線は常に表示されます。 **条件付き表示** 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が true を返す場合にのみ表示されます。

チャートテキスト

チャートテキストのプロパティは構成できます。

テキスト

チャートに表示するテキストを入力します。入力されるテキストは、動的に更新される計算式として定義することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開きi、長い数式を簡単に編集したり、複数行のテキストを入力したりできます。

フォント

標準のフォントダイアログが開き、テキストのフォントを指定できます。

常に手前に表示

チャートの描画時に、テキストを前面に表示します。

背景

テキストの背景を定義します。

- **透明**: この設定では、テキストのみが表示されます。テキストに覆われたシートオブジェクトも完全に見えます。
- **固定** : この設定では、ラジオボタンの右にある **色** ボタンをクリックして背景色を設定します。
- **計算**: 色は数式から動的に計算することもできます。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。

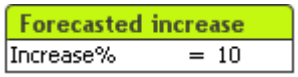
角度

テキストの角度を指定します。0 ~ 360 度に指定でき、既定値は 0 です。

配置

テキストの水平方向の配置をその背景内で設定します。

入力ボックス:



入力ボックスは、QlikView 変数にデータを入力したり、それらの値を表示したりするために使用するシートオブジェクトです。

入力ボックスを右クリックすると、オブジェクト メニューが表示されます。入力ボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

入力ボックスの使用

入力ボックスは、マルチ ボックスのようなレイアウトの 3 つの列で構成されます。最初の列には、変数のリストが表示されます。2 列目には、イコール サイン (=)、3 列目には変数の値が表示されます。このボックスには、1 つまたは複数の変数を含めることができます。行ごとに 1 つの変数を含めることができます。

QlikView の変数は、1 つのデータ値を含む名前付きのエンティティであり、複数値を含めることができる項目とは異なります。また、項目は、スクリプト内の **load** または **select** ステートメントから値を取得しますが、変数は、オートメーション呼び出しを実行するか、レイアウトの入力ボックスのヘルプを使用して、スクリプト内の **let** または **set** ステートメントから値を取得します。

変数には、数値データや英数字データを含めることができます。変数値の最初の文字が等記号 (=) の場合、QlikView は値を式 (QlikView 式) として評価し、式の実際のテキストではなく結果を表示または返します。

入力ボックスには、変数の現在の値が表示されます。入力ボックスの値をクリックすると、セルが編集モードに変わります。これにより、新しい値を入力したり、古い値を編集することができます。変数に式が含まれる場合は、式の結果ではなく、その式自体が表示されます。通常、編集モードのセルには **[...]** ボタンが含まれます。このボタンは、高度な式を簡単に作成できる完全なエディタ ウィンドウを表示します。入力ボックスの変数値のセルの機能は、スプレッドシートのセルの機能に似ています。

入力ボックスの変数値のセルに、ドロップダウン アイコンが含まれる場合があります。このアイコンを使用して、最近使用した値や組込み値にすばやくアクセスできます。変数には入力制約が加えられ、特定の条件を満たさないすべての値の入力が禁止される場合があります。入力ボックスの変数は、読み取り専用になっている場合があります。この場合は編集モードに入ることはできません。

オブジェクト メニュー

入力ボックスの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[入力ボックス プロパティ]** ページを開きます。
注記	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

コマンド	説明
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
印刷	プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
PDF として印刷	*Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	入力ボックスの値を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	ダイアログが開かれ、入力ボックスの内容を、選択したファイルにエクスポートできます。ファイルは次のいずれかの形式で保存できます: カンマ区切り、セミコロン区切り、タブ区切り、ハイパーテキスト (HTML)、XML、および Excel (xls または xlsx)。デフォルトの形式は、タブ区切りファイル *.qvo (QlikViewOutput) です。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **データ** 入力ボックスのデータ行をクリップボードにコピーします。 **セルの値** (**オブジェクト** メニューを呼び出す際に) 右クリックした入力ボックス セルのテキスト値をクリップボードにコピーします。 **画像** シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。**ユーザー環境設定: エクスポート** ページの設定に応じて、画像にシート オブジェクトのキャプションと境界線が含まれるか、または除外されます。 **[オブジェクト]** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

コマンド	説明
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

General (基本設定)

[入力ボックス プロパティ]: **[基本設定]** ページは、入力ボックスを右クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]**を選択して開きます。ここでは、入力ボックスの基本要素を設定できます。

一般的なプロパティ

プロパティ	説明
タイトル	入力ボックスのキャプションに表示するテキスト。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される数式として定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
変数	この列には有効な変数がすべてリストされます。システム変数を含めるには、**システム変数を表示** チェックボックスをオンにします。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは**[< 削除]**ボタンを使用して、目的の列に移動します。
システム変数の表示	システム変数 を**[変数]**にリスト表示します。

プロパティ	説明
変数の新規作成	**[変数の新規作成]** ダイアログを開きます。ここで、新しい変数を定義できます。
表示変数	この列には、入力ボックスに表示される変数がリストされます。最初、列は空です。
上へ	変数の表示される順番を1つ上に移動します。
下へ	変数の表示される順番を1つ下に移動します。
ラベル	入力ボックス内の変数タイトルとして使用する名前を、ここに入力できます。動的に更新する数式としてラベルを指定することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。**継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。**初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクトID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が適用され、入力ボックスであれば IB01 から割り当てられます。リンクされたシートオブジェクトは、同じオブジェクトID を共有します。この ID は後で編集できます。

プレゼンテーション

プレゼンテーションのオプション

オプション	説明
変数	現在の入力ボックスに含まれるすべての変数のリストが表示されます。リストで変数名を選択すると、その変数のプロパティを変更できます。
イコールサイン (=) の表示	入力にイコール サインを表示しない場合は、このチェックボックスをオフにします。この設定は、すべての変数に適用されます。
背景...	**[背景の設定]** ダイアログを開きます。
配置	変数の配置は設定できます。変数はそれぞれ、左揃え、中央揃え、または右揃えに設定できます。

オプション	説明
行の色	このグループでは、左側の**変数**リストで選択した行に対して、個別の色設定を行うことができます。 **[背景]** 選択した行の背景色を指定します。ボタンをクリックすると開く**カラー領域**ダイアログで、色は単色またはグラデーションとして定義できます。 **テキスト** 選択した行のテキスト色を指定します。 **[すべての行に適用する]** このチェックボックスをオンにしてから**[適用]**または**[OK]**をクリックすると、選択した色が入力ボックスのすべての行に適用されます。

制約

[入力ボックスプロパティ]: **[制約]**ページは、入力ボックスを右クリックし、フローティングメニューから**[プロパティ]**を選択して開きます。入力ボックスプロパティの**[表示変数]**に追加されたスクリプト変数は、**[制約]**タブの**[変数]**にリストされ、修正することができます。

ドキュメントプロパティ: **変数**ページには、**設定**: **ドキュメントプロパティ**: **変数**からアクセスします。変数のリストは、**[システム変数の表示]**チェックボックスで変更できます。**新規...**ボタンは、ドキュメントに新しい変数を追加します。**[削除]**ボタンは、選択された変数を削除します。

選択した変数の設定グループのエディットボックスには、選択した変数の現在の**値**が表示されます。値は、計算式として入力できます。**[...]**ボタンをクリックすると、**数式の編集**ダイアログが開かれます。

変数は、通常ブックマークには含めませんが、ここで**ブックマークに含める**チェックボックスをオンにできます。

[入力制約]グループでは、入力ボックスの変数にユーザーが入力したすべての値をチェックするための制約を指定できます。値が指定された制約を満たさない場合、その値は拒否され、エラーメッセージを表示できます。次の選択肢を使用できます。

入力制約の設定

設定	説明
制約なし	入力値はいかなる制約に対してもチェックされません。
標準	入力値は、ドロップダウンボックスで選択した一般的な標準制約のいずれかに対してチェックされます。デフォルトでは、何も制約が選択されておらず、任意の値を変数に入力できます。**[標準]**、**[カスタム]**、**[組込み値のみ]**、**[読み取り専用]**から1つだけを選択できます。
カスタム	ユーザー指定の制約に関して入力値がチェックされます。制約は編集ボックスに入力し、入力値が有効な場合にTRUE (0以外の値) を返すQlikView式として表す必要があります。数式では、入力値はドル記号 ($) で参照します。 **$>0**を指定した場合、入力ボックスは、選択した変数に正の数のみを受け付けます。 変数の前の値は、変数名で参照できます。 変数**$>=abc+1**に対する制約としてabcを指定した場合、入力ボックスは「前の値 + 1」以上の値の数値エントリのみを受け付けます。

設定	説明
組込み値のみ	入力値は、**[組込み値]** グループで定義されている値のリストに対してチェックされます。リストにある入力値だけが受け付けられます。
読み取り専用	変数を読み取り専用としてマークします。値は入力できません。
数式の編集ダイアログを有効にする	このチェックボックスをオンにすると、**[数式の編集]** ダイアログで変数値を編集することができます。このダイアログは、値をクリックすると表示される **[...]** ボタンから開けます。

制約モニタリング

オプション	説明
不正入力時のアラート音	このチェックボックスをオンにした場合、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとすると、QlikView は警告のアラート音を鳴らします。
エラーメッセージ	通常、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとすると、その値は拒否され、現在の変数値が入力されたままになります。このチェックボックスをオンにすると、不正な入力があった場合にユーザーに提示するカスタム エラー メッセージを指定できます。エラー メッセージを編集ボックスに入力します。動的に更新する数式として指定することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

[リスト表示する値] グループでは、入力ボックスに値をリスト表示する方法や表示するかどうかを設定できます。

値リストのオプション

オプション	説明
リストなし	以前に変数で使用された値のリストは保持されません。
最近使用した値のリスト	選択した変数の入力ボックスに、最近使用した値のドロップダウン リストが提供されます。以前の値をいくつ保存するかをボックスで設定できます。
組込み値をドロップダウン表示	選択した変数の入力ボックスに、**[組込み値]** のドロップダウン リストが提供されます。
組込み値をスクロール表示	選択した変数の入力ボックスに、スクロール コントロールが提供されます。**[組込み値]** の間でスクロールが行われます。

[組込み値] グループでは、ドロップダウン リストでユーザーに提示したり、有効な変数値の定義に使用できる組込み値のリストを指定したりできます。

検定項目オプション

オプション	説明
連続値	このチェックボックスをオンにすると、下限値、**([最小値])**、上限値 **([最大値])**、**[間隔値]** に基づいて、組込みの数値リストが生成されます。このオプションは、単独で使用することも、**[リスト値]** と組み合わせて使用することもできます。
リスト値	このチェックボックスをオンにすると、任意の組込み値のリストを指定できます。値には、数値またはアルファベットを使用できます。英数字の値は引用符で囲む必要があります(例:'abc'). 複数の値はセミコロン **(;)** で区切ります (例:'abc';45;14.3;'xyz'). このオプションは、単独で使用することも、**[連続値]** と組み合わせて使用することもできます。
コメント	この項目は、変数の作成者がその機能や目的を説明できるコメント項目です。

数値

[入力ボックスプロパティ]: **[数値書式]** ページは、入力ボックスを右クリックし、フロートメニューから**[プロパティ]** を選択して開きます。

このプロパティページは、入力ボックスのすべての変数の書式設定を提供します。数値書式は、**[変数]** リストからひとつ選択する、または複数選択することにより(クリック、Shift- クリック もしくは Ctrl- クリック) 個々に設定できます。

各変数は、デフォルトの数値書式を持ち、ドキュメントプロパティで設定できます。

ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このためには、この **[ドキュメント初期設定を上書きする]** チェックボックスをオンにし、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、変数値を設定する次のコントロールが含まれます。

数値書式プロパティ

プロパティ	説明
混合	数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
数値	**[有効桁数]** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	**[小数点以下の桁数]** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	**[書式パターン]** 編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、**[プレビュー]** テキストボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	**[書式パターン]** 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**[プレビュー]** テキストボックスに表示されます。
時刻	**[書式パターン]** 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**[プレビュー]** テキストボックスに表示されます。

プロパティ	説明
タイムスタンプ	**[書式パターン]** 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、**[プレビュー]** テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = *mm* では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

[パーセント表示 (%)] チェックボックスは、次の書式で機能します: **[数値]**、**[整数]**、**[実数]**。

小数点 と**桁区切り**区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

[ISO] ボタンは、日付、時刻、タイムスタンプの書式に標準 ISO を使用します。

[システム] ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード] ([ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード] ([ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤーグループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と **[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

選択表示ボックス



選択表示ボックスでは、選択値が項目名と項目値にリストされます。このオブジェクトは、移動可能な[選択表示ウィンドウ]と同じ情報を表示しますが、他のシートオブジェクトと同様にシートの上に配置されます。インジケータは、選択値とロック値を区別するために使用されます。

選択表示ボックスを右クリックすると、**選択表示ボックス: [オブジェクト] メニュー**が表示されます。選択表示ボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

検索により項目内で選択を行った場合は、項目値として検索文字列が表示されます。

オブジェクト メニュー

選択表示ボックスの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

プロパティ

パラメータを設定する **[選択表示ボックス プロパティ]** ダイアログを開きます。

ノート

現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

順序

このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

- **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

分離設定

チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。

分離解除

分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。

参照設定

このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**[参照 モード]** 設定 (**[チャートプロパティ: 基本設定]** ページ内) で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。

参照解除

参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。

複製

チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序

このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、または ピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

- **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

絞込値の選択

その項目の除外値以外の値をすべて選択します。

除外値の選択

その項目の除外値をすべて選択します。

すべて選択

その項目のすべての値を選択します。

クリア

項目の現在の選択をすべてクリアします。

他項目の選択のクリア

選択表示ボックスの指定項目の選択を保持しながら、選択表示ボックスの他の項目の選択も含めて、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。

ロック

その項目のロックされた値をロックします。

アンロック

その項目のロックされた値を解除します。

印刷

プリンタ設定を指定できる**[印刷]**ダイアログを開きます。

PDF として印刷

Microsoft Print to PDF プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。

Excel 出力

テキストを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。テキストは、新しい Excel ワークシートのセルに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。

エクスポート

ダイアログが開かれ、現在の選択の内容を、選択したファイルにエクスポートできます。ファイルは、コンマ区切りファイル、セミコロン区切りファイル、タブ区切りファイル、ハイパーテキスト (HTML)、XML、Excel (xls または xlsx) のいずれの形式でも保存できます。コンマ区切りファイル、セミコロン区切りファイル、タブ区切りファイル、ハイパーテキスト (HTML)、XML、Excel (xls または xlsx) のいずれの形式でも保存できます。デフォルトの形式は、タブ区切りファイル *.qvo (QlikViewOutput) です。

クリップボードにコピー

このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。

- **データ**: 選択した選択表示ボックスのデータ (選択) をクリップボードにコピーします。
- **セルの値**: ([オブジェクト] メニューを呼び出すときに) 右クリックした選択表示ボックスセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。
- **画像**: 選択表示ボックスの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。
- **オブジェクト**: シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンク オブジェクト

リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。

- **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
- **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。

最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。

最大化

オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す

最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ

QlikView ヘルプを開きます。

削除

シート オブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

[選択表示ボックスプロパティ: 基本設定]ページは、選択表示ボックスを右クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]**コマンドを選択して開きます。ここでは、選択表示ボックスの基本要素を設定できます。

現在の選択条件ボックスプロパティ

Property	説明
タイトル	選択表示ボックスのキャプションに表示するテキスト。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]**ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

Property	説明
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。 リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。 現在の選択条件ボックスの場合、ID は **CS01** から始まります。

表示列 グループでは、選択表示ボックスにその状態や値を表示するかどうかを決定します。

- **ステータス**: このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスに **状態** 列をインジケータとともに表示します。
- **値**: このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスに **値** 列を表示し、選択された項目値をリストします。
- **ドロップダウン リスト**: この設定を有効にすると、選択表示ボックスの各項目にドロップダウン アイコンを表示し、オブジェクト内で選択値の修正を行うことが可能になります。
- **クリア アイコン**: このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスの各項目行には、小さいクリア アイコンが表示されます。クリア アイコンをクリックすると、項目内の選択がクリアされます。ロック項目には、クリア アイコンは表示されません。
- **ロック/アンロック アイコン**: このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスの各項目行には、小さいロックまたはアンロック アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、項目内の選択がロックまたはアンロックされます。

列ラベルの表示 のチェックボックスをオンにすると以下の設定が可能になります。

- **項目**:**項目** 列の上に表示されるラベルは、テキストボックスで編集できます。
- **ステータス**:**状態** 列の上に表示されるラベルは、テキストボックスで編集できます。
- **値**:**値** 列の上に表示されるラベルは、テキストボックスで編集できます。

[色] グループでは、選択表示ボックスのコンポーネントの色を設定できます。

- **ラベルの背景**: ラベル行の背景色を定義します。
- **ラベル テキストの色**: ラベル行のテキストの色を定義します。
- **テキストの色**: 表示領域のテキストの色を定義します。
- **背景...**:**[背景の設定]** ダイアログを開きます。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。

- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバー

です。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集 ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ボタン



ボタンを作成し、QlikView でコマンドやアクションの実行を定義できます。ボタンには、**起動/エクスポート** ボタン、**ショートカット** ボタン、**マクロ** ボタンの 3 つの種類があります。

オブジェクトを右クリックすると、**[ボタン: オブジェクト メニュー]** が表示されます。ボタンがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

ボタンの**オブジェクト** メニューは、ボタンを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[ボタン プロパティ]** ダイアログを開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

コマンド	説明
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
Excel 出力	テキストを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。テキストは、新しい Excel ワークシートの 1 つのセルに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 • **テキスト**: ボタンに表示されているテキストをクリップボードにコピーします。 • **画像**: シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。 • **オブジェクト**: シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▁ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で 🗖 アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

コマンド	説明
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

[テキスト] グループでは、ボタンに表示されるテキストのプロパティを設定できます。

テキストプロパティ

Property	説明
テキスト	テキスト項目に入力されたテキストが、ラベルとしてボタンに表示されます。テキストを計算式として定義できます。テキストは、複数行にわたることができ、Enter を押すと改行されます。
配置	ボタンテキストを左揃え、中央揃え、右揃えで配置できます。

[背景] グループでは、ボタンの背景を指定できます。ドロップダウンでは、3 つの基本的なボタンスタイルと追加の設定を選択できます。

背景のスタイルとプロパティ

オプション	説明
アクア	新しいボタンの初期設定です。透き通った 3D の丸いボタンを生成します。
無地	従来の無地の QlikView ボタンを生成します。 • **システムの既定**: オペレーティングシステムでボタン用に定義されている単色の背景を提供します。
画像	画像ボタンを生成します。この画像は、単一の固定画像または結合された画像 (ボタンのアクティブ、非アクティブ、くぼみ状態を示す 3 つの部分で構成される画像) のいずれかを使用できます。 • **結合された画像**: 3 つの状態が結合された画像をボタンに割り当てるには、このラジオボタンを選択し、**[画像の挿入]** ボタンを使用して画像ファイルを参照します。この画像ファイルは、横並びの 3 つの画像で構成される必要があります。最初の画像はアクティブボタン、2 番目の画像はくぼみボタン、3 番目の画像は淡色 (非アクティブ) ボタンになります。 • **単一画像**: 1 つの状態の画像をボタンに割り当てるには、このラジオボタンを選択し、**[画像の挿入]** ボタンを使用して画像ファイルを参照します。サポートされる画像タイプには、jpg、png、bmp、gif、およびアニメーション gif があります。

オプション	説明
色	ボタンを色付きの背景で表示する場合は、このラジオ ボタンを選択します (画像を設定する場合は利用できません)。色は、[色] ボタンをクリックすると表示される **[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
透過性	ボタンの背景の透過性を設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。透過性は、背景で色または画像が使用されているかどうかに関係なく適用されます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

追加ボタンのプロパティ

オプション	説明
オブジェクトID	現在のボタンの一意の ID。作成時に、各シート オブジェクトには、制御用にオートメーションから一意の ID が割り当てられます。ID は、数値と、オブジェクトのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初のボタンは、ID BU01 に割り当てられます。共有オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。オブジェクト ID は、ドキュメント内の他のシート オブジェクト、シート、またはブックマークで現在使用されていない他の文字列に変更できます。
有効条件	ここに入力された数式は、ボタンの状態を決定します。数式が 0 を返す場合、ボタンは無効にされます。数式が 1 を返す場合、ボタンは有効にされます。数式が入力されない場合は、1 が使用されます。基底の状態のために無効にされているボタンは、条件を使用して有効にすることはできません。
印刷設定	このボタンを押すと**印刷設定** ダイアログにアクセスし、余白やヘッダー/フッターの書式を定義できます。

アクション

このページでは、特定のオブジェクトにアクション設定を行うことができます。

- ボタン
- テキスト オブジェクト
- ゲージ
- 線/矢印 オブジェクト

アクションには、外部アプリケーションの起動や QlikView データのエクスポートが含まれます。

- **追加**:**[アクションの追加]** ダイアログを開き、そのオブジェクトへのアクションを選択します。アクションの種類をリストから選択します。アクションに応じて異なるパラメータが ***アクション*** ページに表示されます。リストさ

れたアクションの入力パラメーターは、最初のアクションが実行される前に計算されます。実行の開始後にパラメーターが変更された場合 (例えば、アクションが前のアクションによって変更された場合)、変更はアクションのチェーンに登録されません。

- **削除**: オブジェクトからアクションを削除します。
- **上へ**: 選択したアクションをリストの上に移動します。
- **並列ステート**: アクションが参照するステートを設定します。この設定は、選択またはブックマークに関係のあるアクションにのみ関連します。

[アクションの追加] ダイアログ

[アクションの追加] ダイアログから次のアクションを追加できます。[...] ボタンの付いているすべての項目で、計算式を入力できます。

選択

選択アクション

アクション	説明
項目値の選択	指定された項目の指定された値を選択します。**[検索文字列]** では、検索マスクを指定できます (例、(A|B) と指定するとA とB の両方が選択されます)。引用符は数値以外の値の場合にのみ必要とされ、数値の場合には省略できます。
除外値の選択	指定された項目の除外値を選択します。
絞込値の選択	指定された項目の絞込値を選択します。
選択の切り替え	現在の選択値と指定した**項目** と**検索文字列** で選択を切り替えます。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
やり直し	選択条件のリストを1 つ次に進めます。
元に戻す	選択条件のリストを1 つ前に戻します。
パレート選択	数式とパーセントを基準に指定した項目でパレートの選択を行います。この種類の選択は、一般的に 80/20 ルール上での評価基準で主要な要因を選択するために使用されます。たとえば、売上高の 80% に貢献したトップの顧客を見つけるためには、顧客を項目として使用して sum(売上高) を数式と使用し、また 80 をパーセントとして使用します。
項目のロック	指定した項目の選択をロックします。

アクション	説明
すべてロック	すべての項目のすべての値をロックします。
項目のアンロック	指定した項目の選択のロックを解除します。
すべてをアンロック	すべての項目のすべての値のロックを解除します。
アンロックとクリア	すべての項目のすべての選択のロックと選択を解除します。
他項目の選択のクリア	指定した項目以外のすべての関連項目の選択を解除します。
すべての選択をクリア	ロックされていないすべての選択を解除します。
検索項目の選択をクリア	特定の項目をクリアします。
ステート内容のコピー	**ソース ステート**から**ターゲット ステート**へ選択条件をコピーします。別のステートが定義されている場合にのみ利用できます。
ステート内容の切り替え	**ステート1**と**ステート2**の選択を切り替えます。別のステートが定義されている場合にのみ利用できます。

レイアウト

レイアウト アクション

アクション	説明
オブジェクトを選択する	指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトをアクティブにします。この機能は Ajax クライアントでは利用できません。
シートを選択する	指定した **シート ID** のシートをアクティブにします。
次のシートに進む	ドキュメントの次のシートを開きます。
前のシートに戻る	ドキュメントの前のシートを開きます。
オブジェクトを最小化する	指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを最小化します。
オブジェクトを最大化する	指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを最大化します。
オブジェクトを元のサイズに戻す	指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを元のサイズに戻します。
ステート名の設定	指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトに指定した **ステート** を適用します。定義された並列ステートが存在する場合にのみ有効です。

ブックマーク

- **ブックマークの適用**: 指定した **ブックマーク ID** のブックマークを適用します。2 つのブックマークが同じ ID を持つ場合、ドキュメントブックマークが適用されます。サーバー ブックマークを適用するには、サーバー\ブックマーク ID を指定します。
- **ブックマークの作成**: 現在の選択でブックマークを作成します。**ブックマーク ID** と **ブックマーク名** を指定します。選択 **非表示** 非表示のブックマークを作成します。
- **ブックマークの上書き**: 指定した **ブックマーク ID** のブックマークを現在の選択に置き換えます。

印刷

- **オブジェクトの印刷**: 指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でオブジェクトを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です)
- **シートの印刷**: 指定した **シート ID** のシートを印刷します。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です。) この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **レポートの印刷**: 指定した **レポート ID** のレポートを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でレポートを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。ウィンドウズの [印刷] ダイアログを表示する場合、**[印刷] ダイアログを表示する** チェックボックスをオンにします。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です)

その他

- **エクスポート**: 特定の項目セットを含むテーブルをエクスポートします。選択条件に当てはまるレコードのみがエクスポートされます。**設定** ボタンを **アクション** ページでクリックすると、**エクスポート アクションの設定** ダイアログが開きます。ドキュメント トリガーまたはシート トリガーとしては使用できません。

> *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

- **起動**: 外部プログラムを起動します。以下の設定は、**[アクション]** ダイアログで設定できます。
  - **アプリケーション**: **[参照]** をクリックして、起動するアプリケーションを探します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **ファイル名**: 上で指定したアプリケーションで開くファイルへのパスを入力します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **パラメータ**: アプリケーションを起動するコマンドラインのパラメータを指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **作業ディレクトリ**: 起動するアプリケーションの作業ディレクトリを設定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **QlikView 終了時にアプリケーションを終了する**: QlikView 終了時にアプリケーションを強制的に終了します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

    > *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

- **URL から開く**[**URL から開く**]を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントへの URL を開くことができます (ドキュメントチェーン)。この設定により既定の WEB ブラウザで URL が開きます。この機能をドキュメントおよびシートのトリガーとして使用することはできません。**[URL から開く]** を使用する場合は、ドキュメント名を必ず小文字でアクション文字列に入力してください。
  可能であれば、**[URL から開く]** ではなく**[QlikView ドキュメントを開く]** を使用してください。

  > *既定では、URL で Javascript を使用できないようになっています。*
  > *custom.config ファイルで `PreventJavascriptInObjectActions` パラメーターを変更することにより、URL で JavaScript を使用できるようになります。*

- **QlikView ドキュメントを開く**[**QlikView ドキュメントを開く**]を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントを開くことができます (ドキュメントチェーン)。この機能は、ドキュメントトリガーまたはシートトリガーとしては使用できません。詳細については、「*ドキュメントチェーンの例 (page 733)*」を参照してください。
- **マクロの実行**: 実行するマクロのパスとマクロ名を入力します。任意の名前を入力して後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成する、もしくは動的に更新される **計算式** を入力できます。
- **変数の設定**: 指定した変数に値を適用します。
- **情報の表示**: 指定された **項目** に関連付けられたテキストファイルや画像といった情報を表示します。この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **このドキュメントを閉じる**: QlikView ドキュメントを閉じます
- **リロード**: 現在のドキュメントのリロードを行います。この機能は AJAX クライアントと IE プラグインでは利用できません。
- **ダイナミック更新**: 現在ロードされているドキュメントでデータを動的に更新します。ダイナミック更新へのステートメントは **ステートメント** フィールドに入力してください。
  ダイナミック更新の用途では、QlikView 管理者はドキュメントのリロードを実行しなくても、単一のソースから限定的な量のデータを QlikView ドキュメントにフィードすることができます。その後、QlikView Server

に接続している複数のクライアントが分析を実行できます。

> *アップロードされた情報は RAM のみで保存されるため、ドキュメントのリロードを行うと、ダイナミック更新を使用して追加または更新されたデータは失われます。*

以下の規則は、ダイナミック更新機能で使用できるステートメントとそのコンポーネントについて説明したものです。

- statements ::= statement { “;” statement } { “;” statement }
- statement ::= insert_statement | update_statement | delete_statement | begin_transaction_statement | commit_transaction_statement
- insert_statement ::= "INSERT" "INTO" ("*" | table_name) field_list "VALUES" value_list {"," value_list} ["KEY" ["AUTO" | (" (" field_list ")")] ["REPLACE" (["WITH" "ONE"] | "EACH")]]
- update_statement ::= "UPDATE" ("*" | table_name) set_clause {"," | set_clause} "WHERE" condition ["AUTO" "INSERT"]
- delete_statement ::= "DELETE" "FROM" ("*" | table_name] "WHERE" condition
- begin_transaction_statement ::= "BEGIN" ("TRANSACTION" | "TRAN") [trans_name]
- commit_transaction_statement ::= "COMMIT" ["TRANSACTION" | "TRAN"] [trans_name]
- table_name ::= identifier | quoted_name
- field_list ::= "(" field_name {"," field_name} ")"
- value_list ::= "("value {"," value} ")"
- set_clause ::= "SET" field_name "=" any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- field_name ::= identifier | quoted string
- value ::= identifier | any_qlikview_number | quoted string
- condition ::= any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- identifier ::= any_qlikview_identifier
- quoted_string ::= "[" [^]]+ "]"

```
UPDATE AbcTable SET Discount = 123 WHERE AbcField=1
```

> *この機能を使用するには、ドキュメントとサーバーの双方でダイナミック更新を許可しておかなくてはなりません。*

ドキュメントチェーンの例

[**QlikView ドキュメントを開く**]を使用して、ドキュメントチェーンを作成できます。

次の設定を適用できます。

- **ステートの転送**: 元のドキュメントから転送先のドキュメントに選択内容を転送します。転送先ドキュメントでは、まず選択内容がクリアされます。
- **現在の選択条件にステートを追加**: 転送先ドキュメントの選択内容を維持し、元のドキュメントの選択内容を追加適用します。



[現在の選択条件を追加適用する]を使用すると、2 つのドキュメントでの選択内容が競合している場合に予期せぬ結果が返されることがあります。

- **同じウィンドウで開く**AJAX ZFC クライアントを使用している場合に、同じブラウザ タブで新しいドキュメントを開きます。



QlikView Plug-In を使用している場合、ドメイン ユーザー以外のユーザーは [QlikView ドキュメントを開く] アクションを使用できません。

QlikView ドキュメント: 対象ファイルの拡張子を入力する必要があります。1 つの QlikView ドキュメントから別のドキュメントに移動するための相対パスは、連結されたドキュメントが同じフォルダー構造 (マウント) 内に保存されている限り、すべてのクライアントでサポートされます。

次の例は、対象ファイルへのファイル パスを書き込む方法を示しています。

例: 同じフォルダー構造 (同じマウント) 内に格納されたファイル。

- 対象ファイルが同じフォルダー内に格納されている場合:
  DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルがサブ フォルダー内に格納されている場合:
  SubFolder/DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが上位フォルダー内に格納されている場合:
  ../DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが上位の並列フォルダーに格納されている場合:
  ../ParallelFolder/DestinationDoc.qvw

例: 別のフォルダー構造 (別のマウント) 内に格納されているファイル。異なるマウント間の相対パスに対応しているのは Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが別のマウント内に格納されている場合:
  ../DifferentMount/DestinationDoc.qvw

例: QlikView ドキュメントを指すマウント パスの使用。マウントされたフォルダーへのパスの設定に対応しているのは、Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが同じマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \Mount\DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが別のマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \DifferentMount\DestinationDoc.qvw



マウントされたフォルダーでのドキュメント チェーンは、QlikView Plug-In では機能しません。

例: QlikView ドキュメントを指す絶対パスの使用。ドキュメント チェーンでの絶対パスの使用に対応しているのは Ajax クライアントと QlikView Desktop のみです。

- Local Root フォルダーまたはマウントへの絶対パス:
  C:\...\DestinationDoc.qvw
- ネットワーク共有への絶対パス:
  \\SharedStorage\...\DestinationDoc.qvw

Qlik Sense Cloud ハブ内での QlikView アプリ: パスではなく、アプリID が必要です。アプリは QlikView Desktop 内で準備し、更新する必要があります。アプリID は、アプリがハブ内で開かれる時の URL にあります。

例

URL が *https://qcs.us.qlikcloud.com/qv/opendoc.htm?document=1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* の場合、アプリID は、*1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* です。

他のアクションのトリガーとなるアクションは、連鎖アクションと呼ばれ、不測の結果を引き起こす可能性があるためサポートされていません。

QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロトリガーは動作が制限されます。

[エクスポートアクションの設定] ダイアログ

選択

このグループでは、エクスポートで選択される項目を設定します。

選択のオプション

オプション	説明
項目	[項目] ボックスでは、有効な項目のリストが表示されます。
出力項目	このボックスでは、エクスポート用に選択した項目が表示されます。複数値を許可した項目にはアスタリスクが表示されます。
追加 >	項目を **出力項目** ボックスに追加します。
< 削除	**出力項目** ボックスから項目を削除します。
上へ	選択した項目を 1 つ上に移動します。つまり、エクスポートテーブルでは 1 つ左に移動します。
下へ	選択した項目を 1 つ下に移動します。つまり、エクスポートテーブルでは 1 つ右に移動します。
複数値 (*)	**出力項目** ボックスの項目を選択し、このコントロールをオンにすることで、項目のエクスポートリストに複数値を追加できます。

エクスポート先

このグループでは、値をファイルにエクスポートするか、クリップボードにエクスポートするかを選択できます。

エクスポートのオプション

オプション	説明
ファイル	ファイルへエクスポートする場合は、このチェックボックスをオンにして、ファイル名を入力します。ファイル名を入力しないと、値はクリップボードにエクスポートされます。ファイル名は、計算式として入力できます。
参照	**ファイルのエクスポート**ダイアログを開きます。このダイアログでは、値をエクスポートするファイルを参照できます。
クリップボード	デフォルト設定です。上のボックスでファイルを指定しないと、値はクリップボードにエクスポートされます。
データを横持ちする	このコントロールをオンにすると、エクスポートファイルは、選択した各項目のすべての絞込値がタブで区切られて1行に表示されます。
ラベルを含める	このコントロールをオンにすると、行の最初の位置 (**[データを横持ちする]** が設定されている場合)、または最初のレコード(**[データを縦持ちする]** が設定されている場合) に、項目名が含まれます。
データを縦持ちする	このコントロールをオンにすると、エクスポートファイルは、選択した各項目がタブで区切られて1列に表示されます。
既存のファイルに追加する	このコントロールをオンにすると、エクスポートファイルは、既存のエクスポートファイル (存在する場合) に追加されます。既存のファイルに追加する場合、ラベルはエクスポートされません。エクスポートファイルが存在しない場合、このフラグは意味がありません。

数値書式

プログラムによっては、書式設定付きの数字を適切に処理することが困難な場合があります。QlikView は、ファイルまたはクリップボードにエクスポートする数値データの数字書式設定に関して3つのオプションを提供します。

新しいエクスポートボタンは、**[ユーザープロパティ: エクスポート]** ページから既定の設定を継承します。ただし設定は、エクスポートボタンごとに個別に設定可能です。

- **書式すべてあり**: QlikView ドキュメントのシートオブジェクトに表示されるとおりの数字書式を保持したまま数値データをエクスポートします。
- **桁区切りなし**: 数値データから桁区切りを削除します。
- **書式なし**: データからすべての数字書式設定を削除し、未処理の数値データとしてエクスポートします。小数点記号は、システム設定 (コントロール パネル) で定義されたとおりになります。

QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロトリガーは動作が制限されます。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント**サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。

- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロール バー

です。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集 ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

テキスト オブジェクト

テキスト オブジェクトは、ラベルなどのようにドキュメントに情報を追加するために使用できます。他のシート オブジェクトに覆われている領域でも、シート領域であればどこにでも移動して配置できます。

テキスト オブジェクトを右クリックすると、**[] テキスト オブジェクト: オブジェクト メニュー]** が表示されます。テキスト オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

テキスト オブジェクトの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

- **プロパティ**: パラメータを設定する **[テキスト オブジェクト プロパティ]** ダイアログを開きます。
- **ノート**: 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
- **順序**: このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
  - **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
  - **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

- **前面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- **背面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
- **印刷**: プリンタ設定を指定できる **[印刷]** ダイアログを開きます。
- **PDF として印刷**: *Microsoft Print to PDF* プリンタがあらかじめ選択されている状態で **[印刷]** ダイアログを開きます。**印刷** ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
- **Excel にエクスポート**: テキストを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。テキストは、新しい Excel ワークシートの 1 つのセルに表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。
- **クリップボードにコピー**: このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。
  - **テキスト**: テキストオブジェクトに表示されているテキストをクリップボードにコピーします。
  - **画像**: シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**[ユーザープロパティ: エクスポート]** ページから既定の設定を継承します。
  - **オブジェクト**: シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
- **リンクオブジェクト**: リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。**リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
  オブジェクトのリンクを解除する: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
- **最小化**: オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **最大化**: オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
- **元に戻す**: 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
- **ヘルプ**: QlikView ヘルプを開きます。
- **削除**: シートオブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

[] テキストオブジェクトプロパティ: 基本設定 ページは、テキストオブジェクトを右クリックし、フロートメニューから **[プロパティ]** を選択して開くか、テキストオブジェクトがアクティブな場合は、**[オブジェクト]** メニューの **[プロパティ]** を選択して開きます。ここでは、テキスト、その背景、配置などを設定できます。

- **前景**: ここで、テキストオブジェクトの前景を指定できます。この前景は、通常はテキスト自体で構成されますが、画像になる場合もあります。
    - **テキスト**ここに、表示されるテキストを入力します。動的更新に対応する計算式としてテキストを指定することもできます。
    - **プレゼンテーション**テキストオブジェクト内のテキストは、メモリ内またはディスク上の画像への参照として解釈される場合があります。**テキスト**を選択すると、テキストオブジェクトの内容は常にテキストとして解釈されて表示されます。**画像**を選択すると、QlikViewはテキストの内容を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(たとえば、C:\Mypic.jpg)またはQlikViewドキュメント内の画像ファイルへのパス(たとえば、qmem://<Name>/<Peter>)になります。また、画像情報(=info(MyField)など)を含む項目にリンクされたinfo関数を使用することもできます。QlikViewがテキストの内容を有効な画像への参照として解釈できない場合は、テキスト自体が表示されます。
    - **画像がない場合にテキストを隠す**: このオプションをオンにすると、画像参照としての解釈に何らかの理由で失敗した場合、QlikViewはテキストオブジェクトにテキストを表示しません。この場合、テキストオブジェクトは空白のままです。
    - **水平スクロール バー**: このチェックボックスをオンにすると、テキストの内容が横に長すぎて指定された領域内に表示できない場合に、水平スクロール バーがテキストオブジェクトに追加されます。
    - **垂直スクロール バー**: このチェックボックスをオンにすると、テキストの内容が縦に長すぎて指定された領域内に表示できない場合に、垂直スクロール バーがテキストオブジェクトに追加されます。
- **レイアウト**: このグループでは、QlikViewがテキストオブジェクト領域内にテキストまたは前景画像を表示する方法を定義します。
    - **水平位置**: テキストは、テキストオブジェクト内で水平方向に左揃え、中央揃え、右揃えにすることができます。
    - **垂直位置**: テキストは、テキストオブジェクト内で垂直方向に上揃え、中央揃え、下揃えにすることができます。
    - **画像拡大/縮小**: この設定は、前景画像をテキストオブジェクト領域に合わせるためのQlikViewの書式設定方法を表します。次の4つの選択肢があります。
    - **縮小/拡大なし**: このオプションを選択した場合、画像は拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、テキストオブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
    - **全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、テキストオブジェクト領域全体を覆うように拡大されます。
    - **縦横比を固定する**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、テキストオブジェクト領域をできるだけ広く覆うように拡大されます。したがって、通常は、画像の左右または上下に画像で覆われない領域ができます。
    - **縦横比を固定して全体を覆う**: このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、テキストオブジェクト領域全体(上下/左右とも)を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。
    - **テキスト マージン**: この設定では、テキストオブジェクトの外枠とテキスト自体の間の余白を作成できます。マージンの幅は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、またはdocunits(du、docunit)で指定できます。

- **背景**:**背景** グループでは、テキストオブジェクトの背景を指定できます。現在の設定は、右のプレビューパネルに反映されます。
    - **色**: テキストを色付きの背景で表示する場合は、このラジオボタンを選択します。色は、ボタンをクリックすると表示される**色の設定**ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
    - **画像**: 画像を背景として表示する場合は、このラジオボタンを選択します。現在の画像を変更するには、**変更**ボタンをクリックします。**テキスト**項目にテキストを入力しない場合は、このテキストオブジェクトを使用して、レイアウトにシートオブジェクトとして静的画像を表示できます。サポートされる画像タイプには、jpg、png、bmp、gif、およびアニメーション gif があります。
    - **透過性**: テキストオブジェクトの背景の透過性を設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。透過性は、背景で色または画像が使用されているかどうかに関係なく適用されます。
    - **画像拡大/縮小**: この設定は、背景画像をテキストオブジェクト領域に合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。オプションの詳細については、上記 **画像拡大/縮小** を参照してください。
    - **配置**: 背景は水平位置または垂直位置に配置できます。
- **並列ステート**: ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。**継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。**初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
- **オブジェクト ID**:これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。テキストオブジェクトの場合、ID は TX01 から始まります。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。
- **印刷設定**: このボタンを押すと**印刷設定**ダイアログにアクセスし、余白やヘッダー/フッターの書式を定義できます。

アクション

[アクション] ページでは、オブジェクト上でクリックしたときに実行されるアクションを指定できます。ページは、ボタンオブジェクトの **[アクション]** ページと同じです。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト(検索オブジェクト以外)には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]**もしくは**[計算]**(数式で動的に計算します)を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が]が**[スタイルのモード]**(**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]**内)として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは**[影の強度]**のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]**のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]**を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]**(**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]**内)が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。

- **鋭度**: 2 から100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と **[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と**非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン

シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。

- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

線/矢印オブジェクト

線/矢印 オブジェクトは、レイアウトに線または矢印を追加するために使用されます。他のシート オブジェクトに覆われている領域でも、シート領域であればどこにでも移動して配置できます。

線/矢印 オブジェクトを右クリックすると **[線/矢印オブジェクト: オブジェクト メニュー]** が表示されます。線/矢印 オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

線/矢印 **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[線/矢印オブジェクト プロパティ]** ダイアログを開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

コマンド	説明
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **画像** シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**[ユーザー プロパティ: エクスポート]** ページの設定により異なります。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブル クリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

このページは線/矢印 オブジェクトを右クリックするか、線/矢印 オブジェクトがアクティブな場合は **オブジェクト** メニューの **プロパティ** を選択すると開きます。

[方向] グループでは、線/矢印オブジェクトの方向を次の代替から1つ選択して設定します。**[水平]**、**[垂直]**、**[対角 (上昇)]**、**[対角 (下降)]**。

[スタイル] グループでは、線/矢印オブジェクトに使用するスタイルを変更できます。

線/矢印 スタイル オプション

オプション	説明
線のスタイル	実線、または何種類かある破線/点線の中から選択します。
線の太さ	線の厚さを設定します。値は、mm、cm、インチ (", inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
矢印の種類	方向や種類の違う矢印の選択肢があります。

[色] グループでは、線/矢印 オブジェクトの色を色 ボタンをクリックして開く**[色の設定]** ダイアログで設定できます。

背景 グループでは、線/矢印 オブジェクトの背景を定義できます。

背景 オプション

オプション	説明
色	オブジェクトの背景色を表示する場合は、このオプションを選択します。色は、ラジオ ボタンの右にある色のボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色としてまたは数式から動的に計算して定義できます。
画像	このオプションを選択すると、**画像の挿入** ボタンをクリックして画像をインポートする必要があります。
透過性	オブジェクトの背景の透過性を設定します。0% の場合、背景は完全に不透明になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。透過性は、背景で色または画像が使用されているかどうかに関係なく適用されます。
オブジェクトID	これは、マクロで使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。線/矢印 オブジェクトの場合、ID は LA01 から始まります。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

アクション

[アクション] ページでは、オブジェクト上でクリックしたときに実行されるアクションを指定できます。ページは、ボタン オブジェクトの **[アクション]** ページと同じです。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(''、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤーグループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と **[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

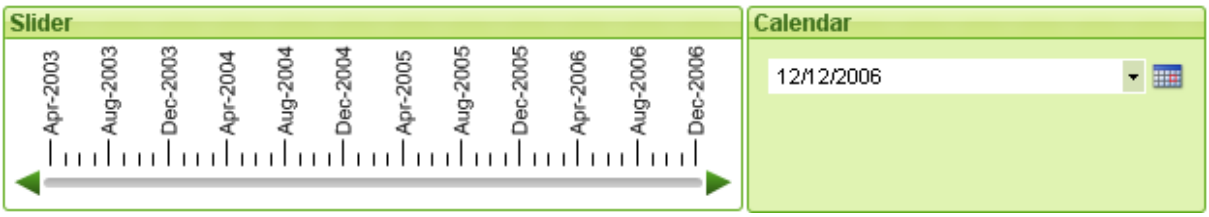
キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

スライダー/カレンダ オブジェクト



スライダー/カレンダ オブジェクトは、QlikView で項目値を選択するための異なる手段を提供します。QlikView スクリプト変数に値を入力するのにも使用できます。名前が示すように、スライダー/カレンダ オブジェクトには、2 つの完全に異なるモードが存在します。この 2 つのモードは、ユーザー インターフェースなどの外観は異なりますが、内部ではほとんど同じように機能します。

スライダー/カレンダ オブジェクトを右クリックすると、**[スライダー/カレンダ オブジェクト: オブジェクト メニュー]** が表示されます。スライダー/カレンダ オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

スライダー/カレンダ オブジェクトの使用

スライダー モード

スライダー背景に沿ってスライダーをドラッグすることで、1 つの値、2 つの値、または値域 (オブジェクトのプロパティに基づく) が項目で選択されるか、1 つまたは 2 つの変数に挿入されます。スライダーは、矢印スクロールを使用して移動することもできます。スライダーによっては、ナビゲーション用の目盛および目盛マークが組み込まれている場合があります。

カレンダ モード

カレンダ モードのスライダー/カレンダ オブジェクトは、右側にカレンダ アイコンを含むドロップダウン ボックスとしてレイアウトに表示されます。カレンダ アイコンをクリックすると、カレンダ コントロールが展開されます。矢印ボタンまたは月および年のドロップダウン コントロールを使用して、月および年を移動できます。カレンダ コントロールで日付または日付の範囲 (オブジェクトのプロパティに基づく) を選択すると、その選択範囲が基底の項目または変数に適用されます。
オブジェクトが項目に接続されている場合、リスト ボックスと同じ選択カラー コード (選択値の緑など) を使用して、その項目の選択範囲が展開されたカレンダ コントロールに反映されます。オブジェクトで複数値が設定されている場合は、リスト ボックスと同様に、複数値をペイントできます。Ctrl キーを押すことで、別の月または年に表示されている場合でも、複数値の範囲を選択することができます。選択後にカレンダ コントロールを閉じると、ドロップダウン ボックスは、基本的にマルチ ボックスの項目ドロップダウンとして機能します。

オブジェクト メニュー

スライダー/カレンダ オブジェクトの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[スライダー/カレンダ オブジェクト プロパティ]** ダイアログを開きます。

ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **画像** シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**[ユーザー プロパティ: エクスポート]** ページの設定により異なります。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブル クリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

[スライダー/カレンダ オブジェクトプロパティ: 基本設定] ページは、スライダー/カレンダ オブジェクトを右 クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。ここでは、スライダー/カレンダ オブジェクトによって操作されるデータの基本設定を行います。この情報は **[スライダー/カレンダ オブジェクトの追加]** ダイアログからも開けます。

[スタイル] では、スライダー/カレンダ オブジェクトの基本モードを選択します。ドロップダウンを使用して、オブジェクトの表示スタイルを**[スライダー]** コントロール もしくは **[カレンダ]** 入力コントロールから選択します。

[データ] グループでは、スライダー/カレンダ オブジェクトの接続先のデータ オブジェクトを定義します。スライダー/カレンダ オブジェクトは、1 つの項目 または 1 つまたは 1 組の変数のいずれかに接続できます。

- **項目**: スライダー/カレンダ オブジェクトを 1 つの項目 もしくは数式に接続する場合は、このラジオ ボタンを選択します。ドロップダウン ボックスで項目を選択します。ドロップダウンで **[数式]** 選択すると、**[数式の編集]** ダイアログが開きます。
- **編集**: ドロップダウン リストで選択した数式を **[数式の編集]** ダイアログで開きます。
- **変数**: ラジオ ボタンを選択し、ドロップダウン リストで、変数を選択します。2 番目の変数は、**[モード]** で **[複数値]** を選択した場合にだけ使用できます(以下を参照してください)。

[モード] グループでは、スライダー/カレンダ オブジェクトを使用して、**[ひとつの値]** または値域 - **[複数値]** を選択するかどうかを指定します。

[値のモード] グループでは、スライダー/カレンダ オブジェクトを使用して、**[不連続値]** (**[複数値]** モードでは無効) を選択するのか、または 値域の **[連続値]** (**[項目]** データの **[ひとつの値]** モードでは無効) を定義するのかを指定します。このグループは、**[カレンダ]** モードでは使用できません。**[カレンダ]** モードでは、常に不連続値と見なされます。

- **最小値**: 値のモード**[連続値]** のスライダー/カレンダ オブジェクトの最小値を設定します。
- **最大値**: 値のモード**[連続値]** のスライダー/カレンダ オブジェクトの最大値を設定します。
- **目盛間隔**: 値のモード**[連続値]** のスライダー/カレンダ オブジェクト値の目盛間隔を指定する場合は、このチェック ボックスをオンにし、編集 ボックスに値を入力します。
- **値 1**: スライダー/カレンダ オブジェクトが **[ひとつの値]** の場合に、値のモード**[連続値]** のスライダーの現在の値を表示します。**[複数値]** モードでは、小さい値が表示されます。
- **値 2**: 値のモード**[連続値]** のスライダー/カレンダ オブジェクトの現在の大きい値が表示されます。**[複数値]** モードにのみ関連します。
- **固定項目の上書き**: このチェック ボックスをオンにすると、項目がロックされている場合でも、スライダー/カレンダ オブジェクトからその項目内の選択を行うことができます。その項目は、他の項目での選択による論理的な変更に対してはロックされます。スライダー/カレンダ オブジェクトでは、このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **固定範囲**: このチェックボックスをオンにすると、スライダーの端をドラッグして、範囲を広げたり狭めたりできなくなります。
- **並列ステート**:
  ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。
  - **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択

するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

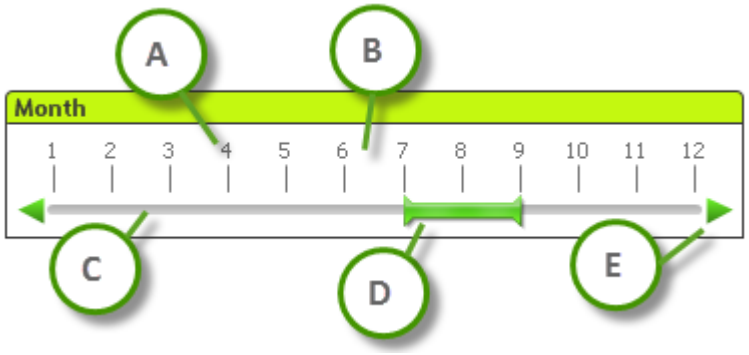
- **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

- **オブジェクトID**:これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。スライダーオブジェクトの場合、ID は SL01 から始まります。リンクオブジェクトは、同じオブジェクトID を共有します。この ID は後で編集できます。
- **印刷設定**: このボタンから **[印刷設定]** ダイアログにアクセスし、余白やヘッダー/フッターの書式を定義できます。

プレゼンテーション (スライダー モード)

[スライダー/カレンダ オブジェクト プロパティ: プレゼンテーション] タブは、**スライダー/カレンダ** オブジェクトを右クリックし、フロート メニューから **[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。ここでは、スライダー/カレンダ オブジェクトの視覚プロパティを設定できます。

[色] グループでは、この図にあるように、スライダー/カレンダのさまざまな部分の色を定義できます。



凡例

- **A**: 値の目盛り
- **B**: 背景を拡大縮小
- **C**: スライダーの背景
- **D**: 画鋲
- **E**: スクロール矢印

[スライダーの背景] と **[目盛の背景]** の色は、それぞれのボタンをクリックすると表示される **[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。スライダー背景の透過性は、ボタンの右側にある [透過性] コントロールを使用して設定できます。0% の場合、背景は完全に不透明になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

[スライダー]、**[矢印スクロール]**、**[ユニット目盛]** の色は、それぞれのボタンをクリックすると表示される **[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。

[スクロールの方向] グループでは、スライダーを **[水平]** または **[垂直]** 方向に表示できます。

[ラベルの方向] では、目盛のテキストの表示を **[水平]** または **[垂直]** 方向に決定できます。

[目盛] グループではスライダーの目盛を定義できます。**[目盛自動設定を使用する]** を選択すると、目盛は、スライダーのサイズおよび基底の値に基づいて自動的に生成されます。**[カスタム設定を使用する]** では、目盛の数を指定できます。

- **主単位**: スライダーの目盛の数を定義します。
- **主単位 n ごとにラベル**: 目盛のラベル テキストの間隔を定義します。
- **主単位あたりの補助単位**: スライダーの目盛間の補助目盛の数を定義します。

スクロールの矢印は、**[矢印スクロールの表示]** チェックボックスで表示/非表示を切替えられます。

[スライダーのスタイル] は、**[固定]** または **[光彩]** に設定できます。

> *AJAX/WebView モードでは、目盛自動設定やラベルの垂直方向関数には制限があります。可能であれば、**[カスタム設定を使用する]** を使用して目盛設定を定義することをお勧めします。*

プレゼンテーション (カレンダ モード)

*[**スライダー/カレンダ オブジェクト プロパティ: プレゼンテーション**] タブは、**スライダー/カレンダ** オブジェクトを右クリックし、フロート メニューから **[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。ここでは、スライダー/カレンダ オブジェクトの視覚プロパティを設定できます。*

[色] グループでは、カレンダ コントロールの背景の色を定義します。**[背景色]** は、ボタンをクリックすると表示される **[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。カレンダ コントロールの背景の透過性は、ボタンの右側にある **[透過性]** コントロールを使用して設定できます。0% の場合、背景は完全に不透明になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

ソート

ソート ページでは、スライダーのデータのソート順を設定できます。このダイアログは、**[ドキュメント プロパティ]** の対応するページとほぼ同じです。

数値

数値書式 ページでは、スライダーの目盛の数値書式を設定できます。このダイアログは、**[ドキュメント プロパティ]** の対応するページとほぼ同じです。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント **サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクト プロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメント プロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメント プロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルト フォント (**リスト ボックス、チャートなど**) は、リスト ボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。

2. 次のデフォルト フォント(**テキスト オブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキスト ボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザー プロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキスト オブジェクト(検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェック ボックスをオンにすると、テキストにドロップ シャドウが追加されます。
- **下線**: このチェック ボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビュー パネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。ドロップダウン メニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度** ドロップダウン メニューで、シート オブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シート オブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シート オブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シート オブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ('', inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シート オブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シート オブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロール バーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウトオプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色** は、**色の設定** ダイアログで、**単色** または **グラデーション** として定義できます。**テキストの色** は、**固定** または **計算** 色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン

シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェックボックスをオンにします。

> *キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。*

- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。

- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

カスタム オブジェクト

カスタム オブジェクトは、カスタム定義された OCX 代替コントロールを保持することを目的としたシート オブジェクトです。

[カスタム オブジェクト: オブジェクト] メニューは、カスタム オブジェクトがアクティブな場合、**[オブジェクト]** メニューからアクセスできます。

代替コントロールは、Qlik、ユーザー自身、またはサードパーティ ベンダーによってプログラムされ、QlikView 代替 OCX コントロールの仕様に準拠するウィンドウなしの OCX コントロールです。OCX コントロールは、基底のカスタム オブジェクトで輪郭が囲まれた四角形でシート上に描画されます。OCX コントロールと QlikView ドキュメント間の通信は、内部マクロ インタープリタによって保持されます。

オブジェクト メニュー

カスタム オブジェクトの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

OCX のプロパティ

使用されている OCX 代替コントロールの **[プロパティ]** ダイアログを開きます。このダイアログは、OCX 代替コントロールとともに提供されているため、ない場合があります。

プロパティ

パラメータを設定する **[カスタム オブジェクト プロパティ]** ダイアログを開きます。

順序

このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

- **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

- **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- **前面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- **背面へ移動**: シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

クリップボードにコピー

このメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。

- **画像**: カスタム オブジェクトのビットマップ画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。
- **オブジェクト**: シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンク オブジェクト

リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。

- **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
- **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

最大化

オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す

最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ

QlikView ヘルプを開きます。

削除

シートオブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

[カスタム オブジェクトプロパティ: 基本設定] タブは、カスタム オブジェクトを右 クリックし、フロート メニューから**[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。このページでは、カスタム オブジェクトのタイトルと設定を行うことができます。

カスタム オブジェクトプロパティ

Property	説明
現在選択しているOCX	現在選択されているOCX の代替の名前です。
オブジェクトID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。 カスタム オブジェクトの場合、ID は CO01 から始まります。 リンク オブジェクトは、同じオブジェクトID を共有します。この ID は後で編集できます。
OCX の選択	このボタンをクリックすると、**[オブジェクトの挿入]** ダイアログが開き、OCX 代替 コントロールを選択または変更できます。
OCX プロパティ	使用されているOCX 代替 コントロールの **[プロパティ]** ダイアログを開きます。このダイアログは、OCX 代替 コントロールのプロバイダによってプログラムされており、プロバイダごとに外観や機能が異なります。また、一部の代替 コントロールでは使用できません。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。ドロップダウン メニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度** ドロップダウン メニューで、シート オブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シート オブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。

    - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色** は、**色の設定** ダイアログで、**単色** または **グラデーション** として定義できます。**テキストの色** は、**固定** または **計算** 色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

> *キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。*

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

検索オブジェクト

検索オブジェクトはドキュメント内にあるあらゆる情報の検索に使用できます。

新しい **検索オブジェクト** を作成するには、メイン メニューから **レイアウト - シート オブジェクトの追加 - 検索オブジェクト** を選択する、シート領域を右クリックして **シート オブジェクトの追加 - 検索オブジェクト** を選択する、もしくは、ツールバーの **検索オブジェクトの追加** ボタン (ツールバーが表示されている場合) をクリックします。

検索オブジェクトを右クリックすると、**検索オブジェクト: [オブジェクト メニュー]** が表示されます。検索オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

検索オブジェクトの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

検索オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[検索オブジェクト プロパティ]** ダイアログを開きます。

コマンド	説明
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
順序	このカスケード メニューは [表示] メニューの [デザイン グリッド] コマンドが有効なときと、[デザイン メニュー項目を常に表示] チェック ボックス ([ユーザー プロパティ: デザイン] 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
クリップボードにコピー	このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 **画像** シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。 • **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▁ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で 🗖 アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

コマンド	説明
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

基本設定タブでは検索オプションの設定を行えます。

- **全ての項目**: 検索オブジェクトでドキュメント内の全ての項目を検索する場合は、このラジオボタンをオンにします。既定では、**[全ての項目]**オプションにシステム項目は含まれません。システム項目を含めるには、**[項目のリスト]**でシステム項目名を指定します。
- **項目のリスト**: このラジオボタンをオンにし、下の項目に項目をリストして検索する項目を設定します。セミコロン(;)を項目間の区切り文字として使用します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。動的更新に対応する**計算式**としてリストを指定することもできます。
- **選択項目**: このラジオボタンをオンにし、検索を行う項目を選択します。
- **テーブルの項目を表示**: このドロップダウンメニュが表示する値 **すべてのテーブル**には、ドキュメントのすべての項目が含まれます。ドロップダウンリストの特定のテーブル名を選択して、**項目**リストをそのテーブルの項目に制限できます。最後に、**すべてのテーブル(テーブル名表示)**を選択できます。これは、それらのテーブル名で限定されたドキュメントのすべての項目を表示します。項目は、属するテーブルごとに1回表示されます。
- **既定検索モード**: テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。モードは常に、検索文字列の一部として * や ~ を入力することによってその場で変更できます。次の選択肢を使用できます。
  - **既定値を使用**: **[ユーザープロパティ]**で指定されている既定値が適用されます。
  - **ワイルドカード検索**: 2つのワイルドカードの間にカーソルが入った状態で表示されるため、ワイルドカード検索を容易に実行できます。
  - **あいまい検索**: あいまい検索を意味するチルダ(~)が最初に表示されます。
  - **標準検索**: 最初に表示される検索文字列には特に何も追加されていません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。
- **オブジェクトID**: 現在の検索オブジェクトの一意のIDです。作成時に、各シートオブジェクトには、制御用にオートメーションから一意のIDが割り当てられます。IDは、数値と、オブジェクトのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初の検索オブジェクトには、ID SO01が割り当てられます。リンクされたシートオブジェクトは、同じオブジェクトIDを共有します。オブジェクトIDは、ドキュメント内の他のシートオブジェクト、シート、またはブックマークで現在使用されていない他の文字列に変更できます。
- **代替ステート**:
  ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。
  - **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikViewの開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択

するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

- **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

プレゼンテーション

検索結果

- **除外値を含める**: このチェックボックスをオンにすると、選択によって除外された値が検索に含められます。
- **検索文字列の強調**: 合致する検索文字列が強調表示されます。
- **項目にある結果が超えたら折りたたむ**: 各項目での合致する値を表示する数を制限します。

映像スタイル

- **外観**:**[角を丸くする]** と**[角を四角くする]** のどちらかを選択します。
- **反射の表示**: レイアウトに、検索オブジェクトの反射画像が表示されます。
- **検索オブジェクトのテキスト**: 検索文字列を入力する前に検索オブジェクトに表示するテキストを入力します。**[...]** ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログが開き、長い数式を簡単に編集できます。

ソート

項目値のソート順グループでは、検索オブジェクトの項目値のソート順を設定できます。

- **テキスト**: 検索結果をアルファベット順にソートします。
- **検索数**: 各項目における検索数に応じて検索結果をソートします。
- **基本設定タブのリスト順**:**[基本設定]** タブでリストされた項目順に検索結果をソートします。

フォント

ここでは、**フォント、スタイル**およびフォント**サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウンメニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ(", inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件がFALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシートオブジェクト]** を **[ドキュメントプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シートオブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **[ドキュメントプロパティ: レイアウト]** と**[シートプロパティ: セキュリティ]** で該当のチェックボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合にINFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションにINFO アイコンを表示したくない場合

は、このチェックボックスをオフにします。

Info (page 884)

- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクト プロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメント プロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると**[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シートオブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。



キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ブックマーク オブジェクト

ブックマーク オブジェクトは、選択用のブックマークを表示するために使用されるシート オブジェクトです。ブックマークは、名前で検索するか、ドロップダウンから選択できます。設定によっては、新しいブックマークを追加したり、古いブックマークを削除するために使用することもできます。ブックマーク オブジェクトは、基本的に **[ブックマーク]** メニューのオプションを提供します。

オブジェクトを右クリックすると、**[ブックマーク オブジェクト: オブジェクト メニュー]** が表示されます。ブックマーク オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合は、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

並列ステートのブックマーク オブジェクト

ブックマーク オブジェクトに並列ステートを設定できます。ブックマークにはすべてのステートで選択が含まれていますが、ブックマーク オブジェクトの状態によってブックマークの使用が影響を受けることはありません。しかし、ブックマーク オブジェクトのステートは、状態の表示や動的ラベルなど、オブジェクト自体のプロパティすべてに使用されます。

オブジェクト メニュー

ブックマークの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	パラメータを設定する **[ブックマーク オブジェクト プロパティ]** ダイアログを開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
順序	このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、またはピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。 • **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。 • **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。 • **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。 • **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
ブックマークの追加	**ブックマークの追加** ダイアログを開き、ブックマーク名を編集できます。

コマンド	説明
ブックマークの上書き	現在ドキュメントで定義されているブックマークのうち、最近使用した10個を含むカスケードメニューを開きます。ブックマークの1つを選択すると、そのブックマークの内容が現在の選択条件の内容と変数値に置き換えられます。
ブックマークの削除	現在ドキュメントで定義されているブックマークのうち、最近使用した10個を含むカスケードメニューを開きます。これらのうち1つを選択し、ドキュメントから削除します。
ブックマークのインポート	保存したブックマーク(.qbm) ファイルを参照して選択すると、**[ブックマークのインポート]** ダイアログが開き、ブックマークをインポートできます。
ブックマークのエクスポート	**[ブックマークのエクスポート]** ダイアログが開き、選択したブックマークをQlikView bookmark (.qbm) ファイルにエクスポートできます。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。 **画像** シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。 **オブジェクト** シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikViewの現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンクオブジェクト	リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 • **リンクオブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 • **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で ▁ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で ▢ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

コマンド	説明
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

[ブックマークオブジェクトプロパティ: 基本設定] タブは、ブックマークオブジェクトを右クリックし、フロートメニューから**[プロパティ]** コマンドを選択して開きます。ここでは、ブックマークオブジェクトの基本要素を設定できます。

基本設定プロパティ

Property	説明
タイトル	ブックマークオブジェクトのキャプションに表示するテキスト。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式として定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシートオブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。
オブジェクト ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。ブックマークオブジェクトの場合、ID は BM01 から始まります。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。
背景	• **色**: このボタンをクリックすると表示される **[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして色を定義できます。 • **透過性**: ブックマークオブジェクトの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の [背景] で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

ボタンの追加オプション

オプション	説明
追加ボタンの表示	チェックボックスをオンにすると、ブックマークオブジェクトに **[ブックマークの追加]** ボタンが表示されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。 • **テキスト**: ここには、**[ブックマークの追加]** ボタンに表示するテキストを入力します。これは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式として定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。テキストを入力しない場合は、編集ボックスに <初期設定を使用する> と表示され、ボタンには「ブックマークの追加」のテキストが表示されます。 • **テキストの色**: **[ブックマークの追加]** ボタンのテキストの色を設定します。
配置	ここでは、**[追加]** ボタンと**[削除]** ボタンが両方とも表示される場合の、相互の位置関係を、**[水平]** (横並び) または **[Vertical]**(積み上げ) のどちらかを選択して設定します。

ボタンの削除オプション

Property	説明
削除ボタンの表示	チェックボックスをオンにすると、ブックマークオブジェクトに **[ブックマークの削除]** ボタンが表示されます。このオプションは、デフォルトでオフになっています。 • **テキスト**: ここには、**[ブックマークの削除]** ボタンに表示するテキストを入力します。これは、ラベルのテキストの動的に更新される計算ラベル数式 として定義することができます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。テキストを入力しない場合は、編集ボックスに <初期設定を使用する> と表示され、ボタンには「ブックマークの削除」のテキストが表示されます。 • **テキストの色**: **[ブックマークの削除]** ボタンのテキストの色を設定します。
マイブックマークの表示	ブックマークオブジェクトのブックマークリストに個人用ブックマークを表示するには、このチェックボックスをオンにします。個人用ブックマークは、ドキュメントブックマークと個人用ブックマークを分ける仕切りで区切られて、リストの最後に表示されます。
ブックマークの説明文を表示	**説明文の編集** に入力されたテキストを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルト フォント (**リスト ボックス、チャートなど**) は、リスト ボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルト フォント (**テキスト オブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキスト ボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザー プロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキスト オブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェック ボックスをオンにすると、テキストにドロップ シャドウが追加されます。
- **下線**: このチェック ボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビュー パネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。ドロップダウン メニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度** ドロップダウン メニューで、シート オブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
    - **単色**: 単色の固定の枠線。
    - **くぼみ**: シート オブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
    - **浮き彫り**: シート オブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
    - **壁**: シート オブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラー パレットから選択できます。
- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シート オブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメント プロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くするグループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]**を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度**で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤーグループでは、オブジェクトを3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**前面**レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面**レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置**レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面**レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面**レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面**レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置**レイヤーと**背面**レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面**レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- **カスタム**:**前面**、**標準位置**、および**背面**レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シートオブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シートオブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。

*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する:info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバーです。
  スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメント プロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が**[オブジェクトプロパティ]**ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が**[ドキュメントプロパティ]**ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプションページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウトオプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **タイトルテキスト**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには**フォント**ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色**と**非アクティブ時の色**は別々に設定できます。

[背景色]や**[テキストの色]**ボタンをクリックすると**[色の設定]**ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ(行)**: 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikViewのシートオブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準**もしくは**最小化**時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X-位置**: シートの左端に対するシートオブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y-位置**: シートの上端に対するシートオブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikViewシートオブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikViewシートオブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]**オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または**[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または**[下揃え]**。

キャプション アイコン

シートオブジェクトのオブジェクトメニューコマンドの多くをキャプションアイコンとして設定できます。キャプションアイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェックボックスをオンにします。

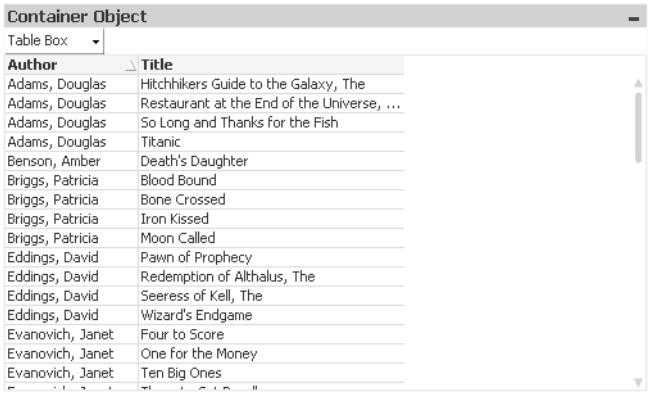
> *キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。*

- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプションウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックして

もオブジェクトを最小化することができるようになります。

- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

コンテナ オブジェクト



コンテナ オブジェクトは、他のオブジェクトを格納するオブジェクトです。コンテナ オブジェクトは、他のすべてのシート オブジェクトを格納できます。オブジェクトはグループ化され、フォントとレイアウト、キャプションの設定を共有します。

コンテナを右クリックすると、**[コンテナ: オブジェクト メニュー]** が表示されます。コンテナがアクティブなオブジェクトの場合は、**オブジェクト** メニューからもアクセスできます。

オブジェクト メニュー

コンテナの **[オブジェクト]** メニューは、オブジェクトを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

プロパティ

パラメータを設定する **[コンテナ オブジェクト プロパティ]** ダイアログを開きます。

ノート

現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

順序

このカスケード メニューは **[表示]** メニューの **[デザイン グリッド]** コマンドが有効なときと、**[デザイン メニュー項目を常に表示]** チェック ボックス (**[ユーザー プロパティ: デザイン]** 内) をオンにした場合、テーブル ボックス、ストレート テーブル、または ピボット テーブルのオブジェクト メニューからこのダイアログを呼び出すことができます。シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

- **最前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- **最背面へ移動**: オブジェクトのレイアウト レイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- **前面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- **背面へ移動**: シート オブジェクトのレイアウト レイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

クリップボードにコピー

このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。

- **画像**: シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ**ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。
- **オブジェクト**: シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンク オブジェクト

リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。

- **リンク オブジェクトを整列する**: すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。
- **オブジェクトのリンクを解除する**: オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

最大化

オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す

最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ

QlikView ヘルプを開きます。

削除

シート オブジェクトをシートから削除します。

(基本設定)

[コンテナ オブジェクト: 基本設定] タブは、コンテナを右クリックし、**[プロパティ]** を選択すると開きます。**プロパティ**コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がありません。

必要なプロパティを設定したら、**[OK]** または **[適用]** ボタンを使用して実装できます。**[OK]** ボタンではダイアログが閉じますが、**[適用]** ボタンでは閉じません。

コンテナ オブジェクトの **タイトル** ウィンドウには、ウィンドウ キャプションに表示される名前を入力します。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

オブジェクト	ドキュメント内のオブジェクトのリストです。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。
フィルター	この設定では、オブジェクトの種類などで **オブジェクト** のリストにフィルターをかけることができます。
表示オブジェクト	コンテナ オブジェクトに表示されるオブジェクトのリストです。
上へ	選択オブジェクトを 1 つ上に移動します。
下へ	選択オブジェクトを 1 つ下に移動します。
オブジェクト ID	現在のコンテナ オブジェクトの一意の ID。作成時に、各シート オブジェクトには、制御用にオートメーションから一意の ID が割り当てられます。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。ID は、数値と、オブジェクトのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。オブジェクト ID は、ドキュメント内の他のシート オブジェクト、シート、またはブックマークで現在使用されていない他の文字列に変更できます。ドキュメントの最初のコンテナ オブジェクトには、ID **CT01** が割り当てられます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 • **継承済み**: シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートになります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 • **初期ステート**: QlikView で最も使用されるステートで $ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。

選択オブジェクトのラベル	ここには、表示されるオブジェクトの別名を入力できます。動的に更新する計算式としてラベルを指定することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログが開き、長い数式を簡単に編集できます。

プレゼンテーション

ここでは、コンテナ オブジェクトの外観に関するプロパティを設定できます。

コンテナの種類	ドロップダウン リストにあるコンテナの種類を選択します。
スタイル	ここでは、コンテナ内の異なるオブジェクトを表示する方法を設定します。シングル オブジェクト モードでのみ有効です。 • **見出しタブ位置: 上**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの最上部にタブ表示されます。 • **見出しタブ位置: 左**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの左端にタブ表示されます。 • **右側のタブ**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの右端にタブ表示されます。 • **見出しタブ位置: 下**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの最下部にタブ表示されます。 • **ドロップダウン見出し: 上**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの最上部にドロップダウン メニュー表示されます。 • **タブを非表示**: すべてのタブを非表示にし、オブジェクト リストの最初のオブジェクトを表示するか、表示条件が TRUE を返す最初のオブジェクトのみを表示します。
チャートの種類をアイコンで表示する	この設定を有効にすると、タブに異なるオブジェクトを示すアイコンが表示されます。シングル オブジェクト モードでのみ有効です。
タブの色	タブの色を指定します。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。シングル オブジェクト モードでのみ有効です。
列	列の数を選択します。[グリッド] モードでのみ有効です。
行	行の数を選択します。[グリッド] モードでのみ有効です。
段落後の行間	行間のサイズを選択します。[グリッド] モードでのみ有効です。
背景	**[背景の設定]** ダイアログを開きます。

フォント

ここでは、**フォント**、**スタイル**およびフォント **サイズ**を設定します。

フォントの設定は、1 つのオブジェクト用には **[オブジェクトプロパティ: フォント]** を使用して、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **[オブジェクトに適用]** ボタン (**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページ上) を使用して行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**[ドキュメントプロパティ: フォント]** ページで設定できます。2 つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**[ユーザープロパティ: フォント]** で設定できます。

チャート、ボタンおよびテキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**[固定]** もしくは **[計算]** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数を使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

- **ドロップシャドウ**: このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。
- **下線**: このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

レイアウト

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。
レイアウトの設定をドキュメントのプロパティページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

- **影の強度**:**影の強度**ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。
- **枠線のスタイル**: 既定の枠線は次のとおりです。
  - **単色**: 単色の固定の枠線。
  - **くぼみ**: シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。
  - **浮き彫り**: シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。
  - **壁**: シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。
- **枠線の幅**: このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
- **色**: このボタンをクリックするとダイアログが開き、すべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。

- **虹色**: すべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。

[簡易設定が] が **[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) として選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは **[影の強度]** のドロップダウン メニューと**[枠線の幅]** のみとなります。

角を丸くする

角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。**[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。

- **角を丸くする**: このチェックボックスをオンにすると、角の形を丸くするオプションを設定できるようになります。
- **角**: チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。
- **鋭度**: 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には、鋭度 2 から 5 が通常最適な数値です。
- **角の丸み**: この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

- **背面**:**背面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシートオブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシートオブジェクトの上にのみ配置できます。
- **標準**: シートオブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシートオブジェクトは、**背面** レイヤーのシートオブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシートオブジェクトを覆うこともできません。
- **前面**:**前面** レイヤープロパティのシートオブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシートオブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシートオブジェクトだけです。
- ***カスタム***:**前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成 ウィザードを開くと、レイアウトテーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウトテーマを適用できます。

表示

表示 グループでは、シートオブジェクトを表示する条件を指定できます。

- **常時**: シート オブジェクトは常に表示されます。
- **条件付き表示**: シート オブジェクトは、選択などで継続的に評価される条件付き関数に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が FALSE を返す場合にのみ非表示になります。



*ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[すべてのシートとシート オブジェクト]** を **[ドキュメント プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。*

オプション

オプション グループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェック ボックスが **[ドキュメント プロパティ: レイアウト]** と **[シート プロパティ: セキュリティ]** で該当のチェック ボックスをオンにしてある場合のみ有効です。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。
- **INFO を許可する**:**info** 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。

  Info (page 884)
- **データにサイズを合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

スクロール バー

スクロール バー グループには、スクロール バーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- **スクロール バーの位置を保持する**: この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロール バーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。この設定は **[ユーザー プロパティ: オブジェクト]** でも有効にする必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。
- **スクロール ボタン**: スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロール バーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。
- **スクロール バーの幅**: このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **スクロールのスタイル**: スクロール バーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロール バー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロール バーに対応します。**標準** スクロール バー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト**は細く、ライトなスクロールバー

です。
スクロール バー スタイルを表示するには、**[スタイルのモード]** を **[詳細設定]** に設定する必要があります。この設定は、**[基本設定]** タブで **[設定]** ドロップダウン メニューを開き、**[ドキュメントプロパティ]** を選択すると見つかります。

- **適用対象**:**キャプションと枠線のプロパティ**ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト**ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

キャプション

キャプションの設定が **[オブジェクトプロパティ]** ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。キャプションの設定が **[ドキュメントプロパティ]** ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

- **キャプションの表示**: このオプションをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **タイトル テキスト**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

[背景色] や **[テキストの色]** ボタンをクリックすると **[色の設定]** ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定**ダイアログで、**単色** または **グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定** または **計算**色として色関数を使用して定義できます。

- **折り返して表示**: このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。
- **キャプションの高さ (行)**: 編集 ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

- **X- 位置**: シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。
- **Y- 位置**: シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。
- **幅**: QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。
- **高さ**: QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

- **水平**: キャプションのラベルは水平方向に整列できます: **[左揃え]**、**[中央揃え]**、または **[右揃え]**。
- **垂直**: キャプションのラベルは垂直方向に整列できます: **[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン
シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェック ボックスをオンにします。

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最大化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、計算式として指定できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

ローカル オブジェクトとサーバー オブジェクト

シート オブジェクトには 3 種類あります。
ドキュメント シート オブジェクトは、QlikView ドキュメント内に保存されます。ドキュメントがローカルで開かれている場合も、QlikView Server から開かれている場合でも使用できます。
個人用サーバー オブジェクトは、認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。お使いの個人用サーバー オブジェクトは、**[表示]** メニューからアクセスできるサーバー オブジェクト パネルから管理できます。
共有サーバー オブジェクトは、認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。個人用サーバー オブジェクトを作成したユーザーは、共有するフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。個人用サーバー オブジェクトと同様、共有サーバー シート オブジェクトはサーバーのリポジトリに保存されます。利用可能な共有サーバー オブジェクトは、**[表示]** メニューからアクセスできるサーバー オブジェクト パネルから管理できます。

アクション

このページでは、特定のオブジェクトにアクション設定を行うことができます。

- ボタン
- テキスト オブジェクト
- ゲージ
- 線/矢印オブジェクト

アクションには、外部アプリケーションの起動や QlikView データのエクスポートが含まれます。

アクション

アクション	[Details] (詳細)
AllowAlternateAdmin=1	**[アクションの追加]** ダイアログを開き、そのオブジェクトへのアクションを選択します。アクションの種類をリストから選択します。アクションに応じて異なるパラメータが **アクション** ページに表示されます。アクションは、リストの表示順に実行されます。アクションは個別のスレッドで処理され、その前のコマンドの終了を待機せずに開始されます。このため、アクションが完了する順序は、必ずしも開始順と同じではありません。
削除	オブジェクトからアクションを削除します。
上へ	選択したアクションをリストの上に移動します。
並列ステート	アクションが参照するステートを設定します。この設定は、選択またはブックマークに関係のあるアクションにのみ関連します。

ノートとコメント

QlikView Server に接続しているときは、すべてのオブジェクトにノートとコメントを追加することが可能で、ユーザーは現在のオブジェクトに関するノートを作成し、共有できます。

ノートは他の QlikView ユーザーと共有され、他のユーザーはノートに対するコメントを残すことができます。また、ノートが付いたデータのスナップショット(ブックマーク) を保存することも可能です。

オブジェクトを右クリックすると、コンテキストメニューから**[ノート]** を選択して、新しいノートの追加や既存のノートの表示ができます。**[新しいノートの追加]** あるいは **[既存のノートの表示]** を選択すると、現在のドキュメントのすべてのオブジェクトに添付されている既存のノートが、左上角に表示されます。各オブジェクトに添付されているノートの数も表示されます。

8.6 レイアウトテーマ

QlikView のレイアウトテーマについて

テーマの基本

QlikView のレイアウトテーマは、QlikView のレイアウト全体またはその一部に適用できる書式設定プロパティのセットです。テーマファイルは、XML でコーディングされ、通常、アクティブなユーザーの Windows の Application Data フォルダにある特別な QlikView テーマフォルダに格納されます。

テーマを使用すると、QlikView のレイアウトを見栄えのする一貫性のあるものするために必要な時間と労力を大幅に削減できます。また、社内で特定のグラフィカルなデザインが使用されるようにすることもできます。

テーマトポロジ

QlikView のテーマファイルは、レイアウトオブジェクト(ドキュメント、シート、すべての種類のシートオブジェクト) の種類ごとの個別のセクションで構成されています。各セクションには、オブジェクトの種類固有のプロパティ用、枠線/キャプションのプロパティ用、および印刷設定プロパティ用 (印刷可能なオブジェクトの種類のみ) の 3 つのサブセクションがあります。各セクションおよびサブセクションは、**テーマ作成ウィザード**を使用して個別に作成または置換でき、テーマファイル内の他のセクションが影響を受けることはありません。

テーマ セクションは次のようにして作成します。

1. 特定のオブジェクトに書式を設定します。
2. **テーマ作成ウィザード**を使用して、そのオブジェクトから選択したプロパティを抽出し、テーマ ファイルに挿入します。

汎用テーマ

汎用テーマとは、さまざまなオブジェクトの種類のすべてに対してセクションが定義されているテーマです。このようなテーマは QlikView インストール パッケージで数多く提供されています。

汎用テーマを自分で作成する場合は、次の手順を実行します。

1. **[ドキュメント プロパティ]** を設定します。
2. シートの **[シート プロパティ]** を設定します。
3. 必要に応じて各種のシート オブジェクトを作成して設定します。キャプション/枠線のプロパティは、通常、標準でキャプションを使用するシート オブジェクトの種類 (リスト ボックス、チャートなど) と、標準ではキャプションを使用しないシート オブジェクトの種類 (テキスト オブジェクト、ボタンなど) に対してそれぞれ一度設定するだけで済みます。
4. **テーマ作成ウィザード**を実行して新しいテーマを作成し、前述した設定済みエンティティの最初のエンティティからプロパティを挿入します (順序は関係ありません)。
5. 前述した設定済みエンティティの残りのエンティティごとに一度、**テーマ作成ウィザード**を繰り返し実行します。

限定目的テーマ

特定の使用目的でテーマを作成することができます。使用目的によっては、使用可能なテーマ セクションおよびサブセクションの小さなサブセットを定義するだけでよい場合があります。たとえば、チャート オブジェクトを特定のサイズとシート上の位置に設定するだけのテーマを定義できます。それには、チャートに対してのみ、キャプション/枠線グループの 1 つのプロパティを持つテーマ、つまりサブセクションが 1 つだけあるテーマを定義します。

レイアウトでのテーマの適用

QlikView のレイアウト テーマは、任意の時点で手動で適用することも、新しいレイアウト オブジェクトが作成されるたびに自動的に適用することもできます。テーマは以下のものに適用できます。

- 個々のシート オブジェクト
- シート オブジェクト グループ
- シート
- ドキュメント全体

個々のオブジェクトへのテーマの適用

次の手順を実行します。

1. シート オブジェクトをクリックしてアクティブにします。
2. コンテキスト メニューからシート オブジェクトの **[プロパティ]** ダイアログを開きます。
3. **[レイアウト]** ページに移動します。
4. **[テーマの適用]** ボタンをクリックします。

5. 開かれたブラウザ ダイアログでテーマを選択します。
6. [OK] をクリックします

選択したシート オブジェクトに適用できるテーマ内のすべてのプロパティが適用されます。シート オブジェクトのグループにテーマを適用するには、はじめにすべてのシートをアクティブにする必要があります。これを行うには、Shift を押しながらクリックするか、選択項目を三角で囲みます (左マウス ボタンを押しながら三角を描き、三角形内にあるすべてのオブジェクトを選択します)。

シートへのテーマの適用

次の手順を実行します。

1. シートのタブをクリックしてシートをアクティブにします。
2. **[設定]** メニューから**[シートプロパティ]** ダイアログを開きます。
3. **基本設定** ページに移動します。
4. **[テーマの適用]** ボタンをクリックします。
5. 開かれたブラウザ ダイアログでテーマを選択します。
6. **[OK]** をクリックします。

選択したシートに適用できるテーマ内のすべてのプロパティが適用されます。また、テーマは、シート上のすべてのシート オブジェクトにも適用されます。

ドキュメント全体へのテーマの適用

次の手順を実行します。

1. ドキュメントを開くか、アクティブにします。
2. **[設定]** メニューから**[ドキュメントプロパティ]** ダイアログを開きます。
3. **[レイアウト]** ページに移動します。
4. **[テーマの適用]** ボタンをクリックします。
5. 開かれたブラウザ ダイアログでテーマを選択します。
6. **[OK]** をクリックします。

ドキュメントに適用できるテーマ内のすべてのプロパティが適用されます。また、テーマは、ドキュメント内のすべてのシートとシート オブジェクトにも適用されます。

テーマ作成ウィザード

Step 1 - テーマ ファイルの選択

Step 2 - ソース選択

Step 3 - 個別のプロパティの選択

Step 4 - テーマへプロパティの挿入

Step 5 - テーマの保存

テーマ作成ウィザードを開始するには、**テーマ作成ウィザード** コマンドを **ツール** メニューから選択します。

初めて起動すると、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタートページが表示されます。最初のページを次回からスキップする場合は、**次回からこの画面を表示しない** チェックボックスをオンにします。**次へ** ボタンをクリックして進みます。

Step 1 - テーマファイルの選択

新しいテーマを1から作成する、既存のテーマに基づいて新しいテーマを作成する、既存のテーマを変更する、のいずれかを選択します。

- **テーマの新規作成**: 新しいテーマを作成する場合は、このオプションを選択します。
- **テンプレート**: 新しいテーマを既存のテーマに基づいて作成する場合は、このドロップダウンで基本のテーマを選択します。ドロップダウンには、デフォルトの QlikView テーマフォルダにあるすべての既存のテーマがリストされます。リストの最後には、**[参照]** オプションがあり、他の場所にあるテーマファイルを参照できます。
- **既存テーマの編集**: 既存のテーマを変更する場合は、このオプションを選択します。ドロップダウンでテーマを選択します。ドロップダウンには、デフォルトの QlikView テーマフォルダにあるすべての既存のテーマがリストされます。リストの最後には、**[参照]** オプションがあり、他の場所にあるテーマファイルを参照できます。

次へ ボタンをクリックして進みます。新しいテーマを作成する場合、**名前を付けて保存** ダイアログが表示されます。

Step 2 - ソース選択

テーマを作成する際は、既存のオブジェクトから書式設定プロパティのグループを1つまたは複数取得します。ソースオブジェクトには、任意のシートオブジェクト、シート、またはドキュメントそのものを指定できます。

- **ソース**: ドロップダウンのリストからソースオブジェクトを選択します。ドロップダウンリストには、ドキュメント内の使用可能なすべてのオブジェクトのリストが含まれます。アクティブなオブジェクトがあらかじめ選択されています。
- **プロパティのグループ**: レイアウトオブジェクトから抽出してテーマに挿入できる書式設定プロパティは、3つの主要グループに分かれています。以下の3つのチェックボックスの1つまたは複数をオンにして、ソースオブジェクトからテーマに抽出するグループを選択します。
    - **オブジェクトの種類別**: オブジェクトの種類別プロパティをソースオブジェクトから抽出してテーマに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。オブジェクトの種類に固有のプロパティとは、特定のオブジェクトの種類 (チャートなど) にのみ存在するプロパティです。この種類のプロパティは、ソースオブジェクトの種類と同じ種類のオブジェクトにのみコピーできます。
    - **キャプションと枠線**: キャプションと枠線のプロパティをソースオブジェクトから抽出してテーマに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。この種類のプロパティは、ソースオブジェクトの種類以外の種類のオブジェクトにコピーできます。
    - **印刷設定**: 印刷設定プロパティをソースオブジェクトから抽出してテーマに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。この種類のプロパティは、ソースオブジェクトの種類以外の種類のオブジェクトにコピーできます。ウィザードの次の手順では、上記で選択したグループごとに、特定のプロパティをテーマに含めるか、テーマから除外するかを選択できます。

次へ ボタンをクリックして進みます。

Step 3 - 個別のプロパティの選択

Step 3 では、ソース オブジェクトから抽出してテーマに含めるプロパティをさらに細かく選択します。ウィザードのこの手順は、Step 2 で選択した 3 つの主要プロパティグループのそれぞれについて、繰り返し実行します。

リストの各項目は、テーマに含める、またはテーマから除外することができる 1 つのプロパティまたはプロパティグループを示します。含める項目にチェック マークを付けます。

既存のテーマを変更している場合、この手順を開始したときにマークが付けられている項目は、現在テーマに含まれている項目です。選択の変更によって、テーマの設定はすべて上書きされます。

新しいテーマを最初から作成している場合、この手順を開始したときにマークが付けられている項目は、通常、汎用テーマに含めるのに適した項目です。

次へ ボタンをクリックして進みます。

Step 4 - テーマへプロパティの挿入

ウィザードの 4 番目の手順では、テーマのどのセクションまたはサブセクションを抽出されたオブジェクトのプロパティと共にテーマに書き出すかを決定します。チェック ボックスがある列が 3 つあり、それぞれのチェック ボックスはテーマの 1 つのサブセクションを表します。ウィザードの Step 2 と 3 の選択に基づいて、一部のチェック ボックスだけが選択でき、残りは淡色表示されます。

これらの緑色の枠で囲まれたチェック ボックスは、現在テーマで定義されているサブセクションであることを示します (既存のテーマを変更する場合のみに適用されます)。

チェック ボックスがある列は、Step 2 の 3 つのチェック ボックスに対応しています。Step 2 で対応するチェック ボックスをオンにし、その後 Step 3 で該当する選択を行った場合のみ列内のチェック ボックスを選択できます。

オブジェクト タイプに固有のサブセクションは、Step 2 でその種類のソース オブジェクトを選択した場合のみ選択できます。キャプション/枠線の設定と印刷設定は、オブジェクト タイプすべてで設定できます。

次へ ボタンをクリックして進みます。

Step 5 - テーマの保存

テーマを新規のドキュメントやオブジェクトのデフォルトとして保存する場合、次の 2 つのオプションを選択できます。

- **このドキュメントの既定テーマとして設定する**: このテーマを現在のドキュメントで既定テーマとして使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。テーマは、ドキュメント内に新しく作成されるすべてのシートおよびシート オブジェクトに適用されます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。標準のテーマは、いつでも **[ドキュメント プロパティ: プレゼンテーション]** ページ内) をオフにします。
- **新規ドキュメントの既定テーマとして設定する**: テーマを新規ドキュメントの既定テーマとして使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。テーマは、新規に作成されるドキュメントのデフォルトのテーマとして設定されます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。新規ドキュメントのデフォルトのテーマは、**[ユーザー プロパティ]** ダイアログの **[デザイン]** ページからいつでも設定できます。

[終了] をクリックしてテーマを保存しレイアウトに戻ります。

8.7 タイム チャート ウィザード

タイム チャート ウィザードでは、チャートを作成する共通のタスクで特定の計算基準 (数式) を設定し、さまざまな期間で比較を行うチャートを作成できます。

たとえば、Sum(Sales) のような数式を表示したいが、昨年度または現四半期に期間を限定したい場合があります。また、その結果を以前の期間 (前年度、前年同期など) の同じ計算基準と比較したい場合もあります。QlikView では、このような作業を行う数式を作成するための関数が数多く提供されていますが、初心者にとっては、それらを習得することは容易ではありません。タイム チャート ウィザードは、ユーザーの仕様に基づいて、適切な時間関数を使用した基本的な指標となる計算式を作成する作業を支援することを目的に設計されています。

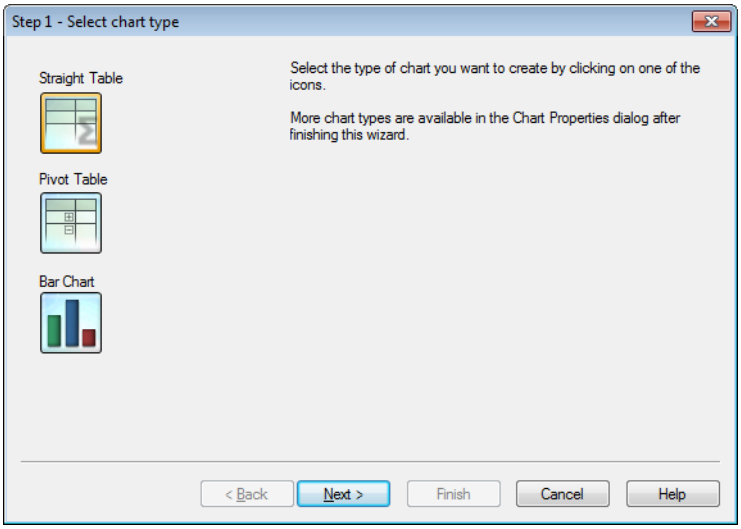
タイム チャート ウィザードの起動

タイム チャート ウィザードは、**ツール** メニューから **タイム チャート ウィザード** を選択するか、**デザイン** ツールバーで対応するボタンをクリックして起動します。

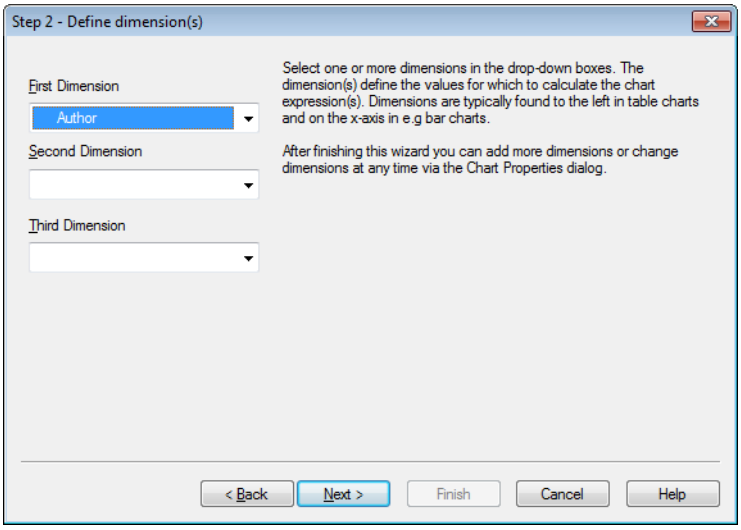
ウィザードを初めて起動したときは、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタート ページが表示されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、**[次回からこの画面を表示しない]** チェック ボックスをオンにします。

選択によっては、下記の手順の一部がスキップされる場合があります。**次へ** ボタンをクリックして、ウィザードを前に進めます。**[終了]** をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。さらに調整するには、いつでも **チャート プロパティ** ダイアログからチャートに戻ります。

タイム チャート ウィザードは、次の基本的な手順に従ってチャートの作成をガイドします。



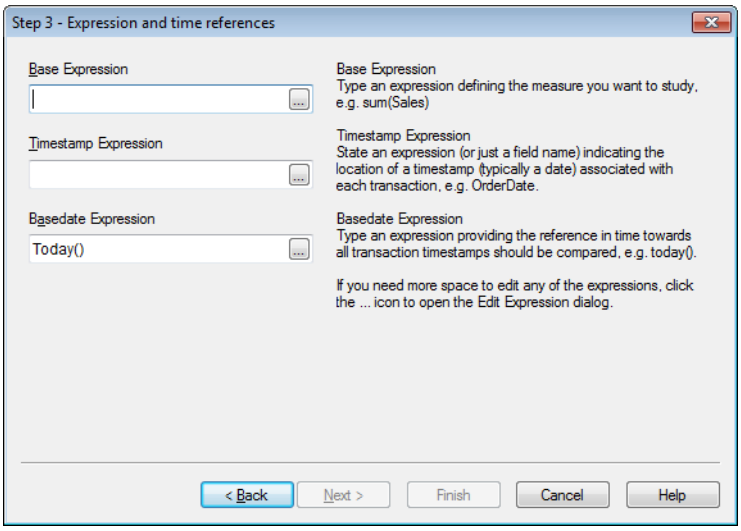
1. いずれかのアイコンをクリックして、作成するチャートの種類を選択します。選択できるのは、期間の修飾を伴うチャートで一般に使用されるチャートの種類です。チャートは、ウィザード終了後に **チャート プロパティ** ダイアログから、QlikView の他の種類に変更できます。



2. ドロップダウン ボックスで 1 つまたは複数の軸を選択します。軸は、チャート式の計算の対象となる値を定義します。

*軸は、通常、テーブル チャートでは左側、棒グラフなどでは **x-** 軸に表示されます。*

*このウィザード終了後は、**チャート プロパティ** ダイアログからいつでも軸の追加や変更が可能です。*

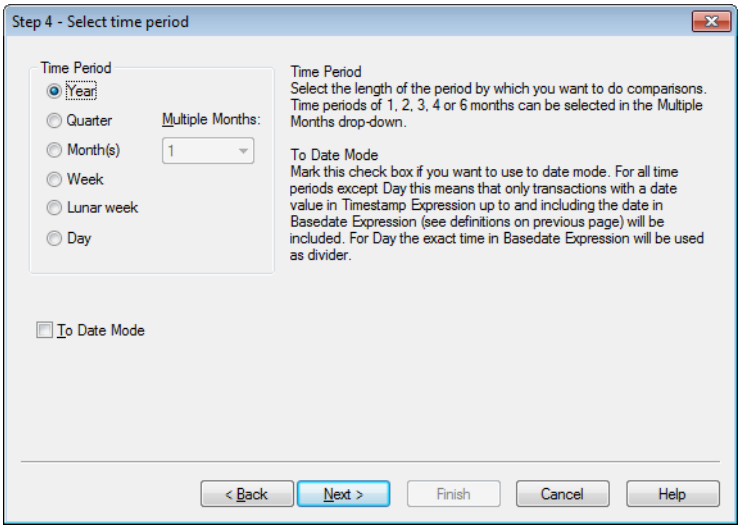


3. 基本の数式で、分析したい計算基準を定義する数式を入力します (例: sum(Sales))。

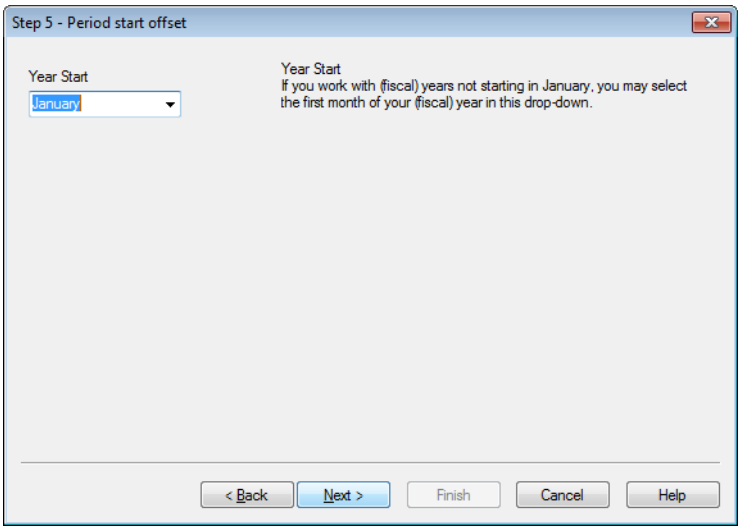
*数式を編集するためにさらに大きなスペースが必要な場合は、**[...]** アイコンをクリックして **数式の編集** ダイアログを開きます。*

4. 日付と時刻の数式で、各トランザクションに関連付けられた日付と時刻 (通常、日付) の場所を示す数式 (または項目名のみ) を入力します (例: OrderDate)。

5. 基準日の数式で、すべてのトランザクションの日付と時刻の比較の基準となる時間を指定する数式を入力します (例: today())。

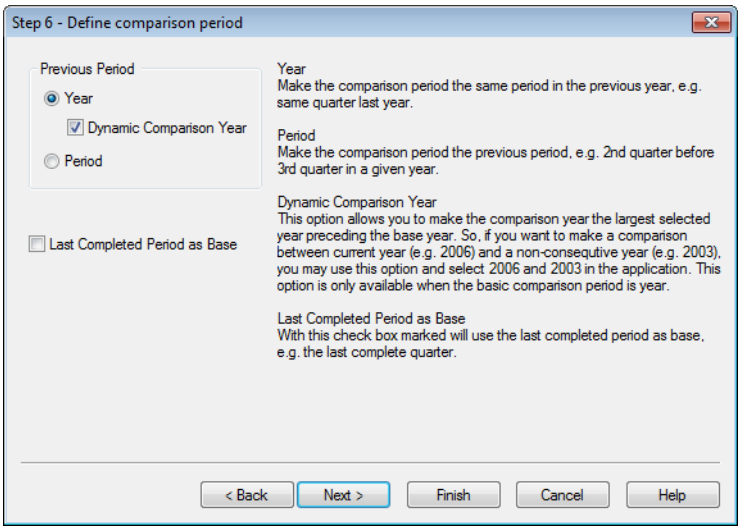


6. **[期間]** で、チャートの数式を設定して比較を行う期間の長さを選択します。[月] オプションを使用する場合は、**[複数ヶ月]** ドロップダウンから、1、2、3、4、6 ヶ月の期間を選択できます。値 3 を指定できますが、これは、**[期]** を選択するのとまったく同じです。[週周期] は、毎年 1 月 1 日に始まる連続した週 (7 日間) です。1 年には、常に、週周期が正確に 52 あり、52 番目の週周期は 8 日もしくは 9 日となります。
7. To Date モードを使用したい場合は、**期間初来モード** チェックボックスをオンにします。[日] 以外の期間を選択した場合は、**日付と時刻の数式** の日付が、**基準日の数式** の日付 (同日を含む) までの日付になっているトランザクションだけが含まれます (前ページの定義を参照)。**日** を選択した場合は、**基準日の数式** の時間が仕切りとして使用されます。
8. 前期などの最終確定期間を基準として使用するには、**[最終確定期を基準とする]** チェックボックスをオンにします。

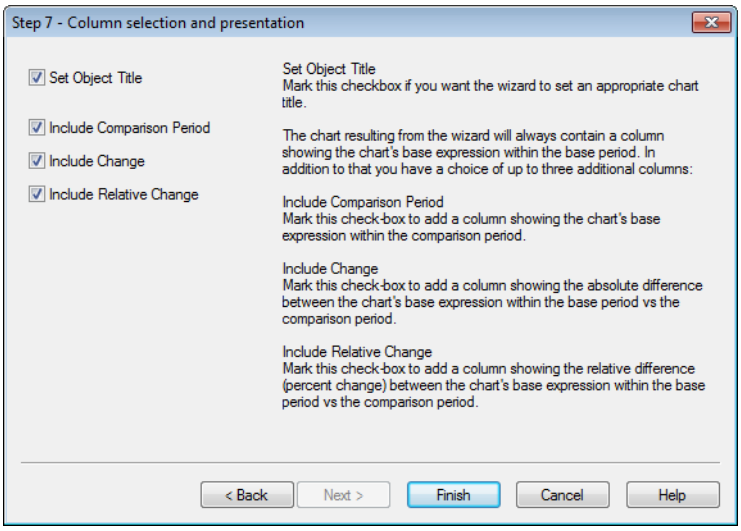


9. オプションで、選択した期間の始まりをオフセットすることができます。上記の手順 6 で選択した **[期間]** に応じて、次に挙げる 2 つのオプションのいずれかを指定できます。

- 年度 (会計) の始まりをオフセットするには、このドロップダウンにある年度 (会計) の初月を選択します。このオプションは、上記の手順 4 で選択した **[期間]** が **[年]**、**[期]**、または **[月]** の場合のみ設定できます。
- 週または日の始まりをオフセットするには、日数またはその一部 (例: 1 は火曜日で始まる暦週、または午後 3 時に始まる 1 日は 0.125) を入力します。このオプションは、上記の手順 4 で選択した **[期間]** が **[週]**、**[週周期]**、または **[日]** の場合のみ設定できます。



10. 比較期間を定義します。上記の手順 4 で **[期間]** に **[年]** を選択した場合、このページは自動的にスキップされます。



11. チャートに含める数式列を選択します。
    - ウィザードを使用して適切なチャートタイトルを設定する場合は、**[オブジェクトのタイトル設定]** チェックボックスをオンにします。
    - 比較期間内にチャートの基本数式を表示する列を追加する場合は、**[比較期間を含める]** のチェックボックスをオンにします。

- 基準期間内にあるチャートの基本数式と比較期間内にあるチャートの基本数式の絶対値差分を表示する列を追加するには、**[差分を含める]** のチェックボックスをオンにします。
- 基準期間内にあるチャートの基本数式と比較期間内にあるチャートの基本数式の相対的差分(変化率)を表示する列を追加するには、**[相対的差分を含める]** のチェックボックスをオンにします。

8.8 統計チャートウィザード

統計チャートウィザードでは、QlikView で一般的な統計テストをデータに適用するためのガイダンスが提供されます。

統計チャートウィザードの起動

統計チャートウィザードを起動するには、**ツール** メニューから**統計チャートウィザード**を選択します。最初のページでは、統計テストを選択できます。適切なテストの種類を選択した後、**[次へ]** をクリックして続行します。

QlikView では、ウィザードで選択できる以上の種類のテストがサポートされています。統計テストとその使用の詳細については、統計に関する書籍を参照してください。

Chi2-Test

このオプションは、カイ二乗検定が返す値を使用してストレートテーブルを生成します。カイ二乗検定は、2 つの値セットを比較して、2 つのセットが同じ統計的分布に由来している可能性を判定するために使用されます。カイ二乗検定のチャートを作成するには、以下を指定する必要があります。

- **列**: 検定標本データの列ヘッダーを返す項目または数式を指定します。
- **行**: 検定標本データの行ヘッダーを返す項目または数式を指定します。
- **値**: 検定値データを返す項目または数式を指定します。
- **期待値**: 期待値との比較検証を行う場合は、このチェックボックスをオンにします。期待値を返す項目名または数式を下の編集ボックスに入力します。期待値が指定されていない場合、検定は、行/列内の差異に対して行われます。
- **p (p- 値/有意性の表示)**: 生成されるチャートに、p 値 (有意性) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **df (自由度の表示)**: 生成されるチャートに df 値 (自由度) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **Chi2 (Chi2 値の表示)**: 生成されるチャートに、検定値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。いつでもチャートに戻って、**チャートプロパティ**ダイアログからさらに調整することができます。

2 標本 t 検定

このオプションは、対応のあるスチューデント t 検定が返す値でストレートテーブルを生成します。

t 検定のチャートを作成するには、以下を指定する必要があります。

- **値項目/数式**: 検定値データ系列を返す項目または数式を指定します。
- **検定値**: 検定値データを返す項目または数式を指定します。
- **t (t- 値の表示)**: 生成されるチャートに、t 値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **df (自由度の表示)**: 生成されるチャートに df 値 (自由度) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **p (p- 値/有意性 (両側検定) の表示)**: 生成されるチャートに、p 値 (有意性、両側検定) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **平均の差**: 生成されるチャートに、平均の差の値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **最小値 (信頼度 %)**: 信頼区間の下限値 (下記の **[信頼度]** で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
- **最大値 (信頼度 %)**: 信頼区間の上限値 (下記の **[信頼度]** で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
- **信頼度**: 信頼度のパーセンテージを指定します。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。いつでもチャートに戻って、**チャートプロパティ**ダイアログからさらに調整することができます。

独立標本 t 検定

このオプションは、独立 2 標本スチューデント t 検定が返す値でストレートテーブルを生成します。

t 検定のチャートを作成するには、以下を指定する必要があります。

- **グループ項目/数式**: 検定グループデータ系列を返す項目または数式を指定します。正確に 2 つの値を返す必要があります。
- **検定項目/数式**: 検定値データ系列を返す項目または数式を指定します。
- **t (t- 値の表示)**: 生成されるチャートに、t 値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **df (自由度の表示)**: 生成されるチャートに df 値 (自由度) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **p (p- 値/有意性 (両側検定) の表示)**: 生成されるチャートに、p 値 (有意性、両側検定) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **平均の差**: 生成されるチャートに、平均の差の値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **最小値 (信頼度 %)**: 信頼区間の下限値 (下記の **[信頼度]** で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
- **最大値 (信頼度 %)**: 信頼区間の上限値 (下記の **[信頼度]** で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
- **信頼度**: 信頼度のパーセンテージを指定します。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。いつでもチャートに戻って、**チャートプロパティ**ダイアログからさらに調整することができます。

8.9 箱ひげ図ウィザードのスタートページ

ウィザードを初めて起動したときは、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタートページが表示されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、**[次回からこの画面を表示しない]** チェックボックスをオンにします。

箱ひげ図ウィザードによるデータの定義

X-軸用の **軸** を選択します。このウィザード終了後は、**チャートプロパティ**ダイアログからいつでも軸の追加や変更が可能です。

箱ひげ図集計枠 を選択します。箱ひげ図集計枠は、数式が演算する場合に反復される値です。

最後に、**数式** を定義します。数式は、チャートに表示される計算値を定義します。数式は、通常、棒グラフのy-軸に表示されます。QlikView では、短くて単純な数式から長くて複雑な数式までさまざまな数式を作成できます。ここでは自分で数式を最初から入力できます。

このウィザード終了後は、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでも数式を変更したり追加できます。

箱ひげ図ウィザードのプレゼンテーション

次のプロパティを構成できます。

- **表示モード**: 配分を決める**表示モード**である**平均値モード**または **中央値モード**を選択します。
- **上下のひげを含める**: このチェックボックスをオンにすると、**最小値/最大値** または **5/95 パーセンタイル**のいずれかで上側と下側のひげを表示するチャートを作成できます。
- **外れ値を使用する(最小値/最大値)**: 外れ値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

8.10 レポート

レポートの印刷では、1 つのテーブルまたはグラフを印刷することがよくあります。QlikView ではこれを、シートオブジェクトを選択し、メニューまたはツールバーから**[印刷]** を選択することで簡単に行えます。ただし、複数のチャートやテーブルを含む、より複雑なレポートを作成しなければならないこともあります。このような場合、QlikView の **[レポートの編集]** 機能が重要になります。QlikView **レポートエディタ** を使用すると、ヘッダーやフッターなどのページレイアウトを完全に制御しながら、多数の異なるシートオブジェクトを 1 ページまたは複数のページにまとめることができます。

QlikView レポートは、ドキュメントレポートとマイレポートの 2 つのエディションに分類されます。

レポートの種類

レポートの種類	説明
ドキュメントレポート	QlikView ドキュメントで作成され、QlikView ファイル (QVF または QVW) の一部として保存されます。ローカルでまたは QlikView Server を通して QlikView ドキュメントにアクセスするユーザーは、ドキュメント内のドキュメントレポートにアクセスできます。
マイレポート	QlikView Server からドキュメントを操作するユーザーによって作成されます。レポートは、ユーザーブックマークと同様にローカル クライアント マシンに保存されます。ローカル ユーザーのみが各自のマイレポートへのアクセス権を保持します。Windows ベースの QlikView クライアントからのみマイレポートを作成できます (AJAX クライアントからは作成できません)。
マイサーバー レポート	認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。
共有サーバー レポート	認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。マイ サーバー レポートを作成したユーザーは、他のユーザーと共有するフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。マイ サーバー レポートと同様、共有サーバー レポートはサーバーのリポジトリに保存されます。

"レポート ジェネレータ" という用語を使用する場合、通常はソフトウェア製品の十分に定義されたカテゴリを指します。通常、これらはいくつかの SQL クエリのデータを結合して動作し (グラフィカル インターフェースによってユーザーには隠されます)、それぞれ異なる方法でフォーマットされて印刷されます。QlikView レポートは QlikView シート オブジェクトからデータを取得しますが、SQL クエリからデータを描画できません。QlikView でレポートを作成できるということは正しいですが、QlikView レポート エディタを従来の意味でレポート ジェネレータに分類することは正しくありません。

レポート編集

[レポートの編集] ダイアログは、**[レポート リスト]** と**[ページの編集]** の 2 ページで構成されます。初めて **[レポートの編集]** を開くと、[レポート リスト] が表示されます。

レポート リスト

[レポート リスト] ページは、レポートを管理するために使用されます。新しいレポートを作成したり、既存のレポートを削除することができます。このページは、**レポート編集** で編集するためのレポートを選択する場所でもあります。ページの上部には、ドロップダウンとレポートのリストが表示されます。ドロップダウン メニューは以下のとおりです。

- **ドキュメント レポート**: アクティブなドキュメント内のすべてのドキュメント レポートのリストを開きます。レポート名をクリックすると、レポートを印刷するための **[印刷]** ダイアログが開きます。
- **ユーザー レポート**: ユーザーのコンピュータに個別に保存されたレポートのリストを開きます。レポート名をクリックすると、レポートを印刷するための **[印刷]** ダイアログが開きます。

- **マイ サーバー レポート**: 個人用サーバー レポートは、認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。
- **共有 サーバー レポート**: 共有サーバー レポートは、認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。マイ サーバー レポートを作成したユーザーは、他のユーザーと共有するフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。マイ サーバー レポートと同様、共有サーバー レポートはサーバーのリポジトリに保存されます。

レポートには、ドキュメントに保存される**[ドキュメント レポート]** と、ユーザーのコンピュータに個別に保存される**[マイ レポート]** があります。レポート編集 ダイアログの上部にある**[レポート]** ドロップダウン リストで、表示される**[ドキュメント レポート]** または **[ユーザー レポート]** を選択します。サーバー ドキュメントの場合は、**[マイ サーバー レポート]**、**[共有 サーバー レポート]**、または **[マイ レポート]** を選択できます。リスト自体にはいくつかの列が含まれます。

ドキュメントプロパティ

Property	説明
[Name] (名前)	レポートの名前。
ID	一意のレポートID (以下を参照)。
ページ	レポートで現在定義されているページ数。
共有	このチェック ボックスは、[マイ サーバー レポート] リストでのみ使用できます。マイ サーバー レポートのいずれかでチェックをオンにすると、レポートは、[共有 サーバー レポート] リストで同じサーバー ドキュメントの他の認証ユーザーからも使用できるようになります。レポートは、[マイ サーバー レポート] リストに限られ、[共有 サーバー レポート] リストには表示されません。共有を取り消すには、いつでもチェック ボックスをオフにします。
Author	レポートの作成者の認証された名前。
追加	新しいレポートを作成するには、このボタンを押します。上部の **[レポートのリスト]** で **[ドキュメント レポート]** が選択されている場合、新しいレポートはドキュメント レポートになります。[マイ レポート] が選択されている場合、新しいレポートはマイ レポートになります。レポートに名前を付けることができるように、**[レポートの追加]** ダイアログが開きます。**[他のレポートからページをコピーする]** チェックボックスをオンにし、ページをコピーするための既存のレポートをドロップダウン メニューで選択します。
削除	**[レポートのリスト]** で現在選択されているレポートを削除するには、このボタンを押します。
上へ	**[レポートのリスト]** で現在選択されているレポートをリストの 1 つ上に移動するには、このボタンを押します。
下へ	**[レポートのリスト]** で現在選択されているレポートをリストの 1 つ下に移動するには、このボタンを押します。

Property	説明
マイ レポートをサーバーに転送する	このテキストは、サーバー ドキュメントを操作し、リストの上部のドロップダウンで **[マイ レポート]** を選択した場合にのみ表示されます。テキストをクリックすると、すべてのローカルのレポートをサーバー リポジトリに保存されるサーバーのレポートに変換できます。マイ サーバー レポートは、コンピュータを変更したりサーバー ドキュメントの名前を変更した場合でもサーバーからアクセスできるので、使用することをお勧めします。変換が行われる前に、確認のメッセージが表示されます。転送は、すべてかゼロのどちらかで (アクティブなドキュメント内で) 一方向です。
編集 >>	選択したレポートの **[ページの編集]** を起動します。このボタンを押す操作は、**[レポートのリスト]** でレポートをダブルクリックする操作と同じです。

ページの編集

[ページの編集] は、**[レポート リスト]** ページで選択したレポートのページを定義するために使用されます。このページには、レポート ページの設計を支援する2 つのパネルと1 つのツールバーがあります。下部には、次のボタンが表示されます。

レポート リスト ボタン

ボタン	説明
レポート リスト >>	**[レポートのリスト]** ページに戻ります。

[編集] メニュー

編集 メニュー ボタン

ボタン	説明
コピー	レポートの現在の選択アイテムとページをコピーします。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
レポートの貼り付け	クリップボードからレポートを貼り付けます。
ページの貼り付け	クリップボードからページを貼り付けます。
アイテムの貼り付け	クリップボードからアイテムを貼り付けます。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
グリッド	レポート アイテムの配置を補助するため、レポートにグリッドを表示します。

[レポート] メニュー

レポート メニュー ボタン

ボタン	説明
AllowAlternateAdmin=1	レポートを追加します。**[レポート リスト]** を表示しているときにのみ有効です。
削除	レポートを削除します。**[レポート リスト]** を表示しているときにのみ有効です。
上へ	選択したレポートをレポートのリストの 1 つ上に移動します。**[レポート リスト]** を表示しているときにのみ有効です。

ボタン	説明
下へ	選択したレポートをレポートのリストの 1 つ下に移動します。**[レポート リスト]** を表示しているときにのみ有効です。
エクスポート	XML ドキュメントとしてレポート ファイルを保存します。**[レポート リスト]** を表示しているときにのみ有効です。
インポート	XML として保存されたレポートをインポートします。**[レポート リスト]** を表示しているときにのみ有効です。
印刷プレビュー	**[印刷プレビュー]** ダイアログを開き、QlikView ドキュメントの現在の選択範囲で印刷したときの現在のレポートの外観を確認できます。
印刷	**[印刷]** ダイアログを開き、現在のレポートを印刷します。
レポート設定	**[レポート設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、レポートのさまざまなプロパティを設定できます。これには、余白、ヘッダー/フッターの設定などが含まれます。

ページ メニュー

ページ メニュー ボタン

ボタン	説明
上へ	現在選択されているページを 1 つ上に移動します。これは、ページ リスト パネルでページをドラッグ アンド ドロップして行うこともできます
下へ	現在選択されているページを 1 つ下に移動します。これは、ページ リスト パネルでページをドラッグ アンド ドロップして行うこともできます
複式ページの追加	現在選択されているページの後に複式ページを追加します。
単式ページの追加	現在選択されているページの後に単式ページを追加します。
削除	現在選択されているページを削除します。
ページ設定	**[ページ設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択したページのさまざまなプロパティを設定できます。

アイテム メニュー

アイテム メニュー ボタン

ボタン	説明
左揃え	(Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを左に揃えます。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。

ボタン	説明
左右中央揃え	印刷オブジェクトが2つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平中央位置に配置します。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
右揃え	(Shiftキーを押しながらクリックして)2つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを右に揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
下揃え	(Shiftキーを押しながらクリックして)2つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを下に揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
上下中央揃え	印刷オブジェクトが2つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸の中央に揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
上揃え	(Shiftキーを押しながらクリックして)2つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを上に揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
左右に整列	印刷オブジェクトが2つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平軸上に等間隔に整列します。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
上下に整列	印刷オブジェクトが2つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸上に等間隔に整列します。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
左詰め	印刷オブジェクトが2つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番左のオブジェクトの左端を基準にして右方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシートオブジェクトを配置します。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
上詰め	印刷オブジェクトが2つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番上のオブジェクトの上端を基準にして下方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシートオブジェクトを配置します。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
幅を揃える	(Shiftキーを押しながらクリックして)2つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。現在選択しているアイテムを同じ幅に揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
高さを揃える	(Shiftキーを押しながらクリックして)2つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。現在選択しているアイテムを同じ高さに揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
画像の追加...	新しいテキストオブジェクトをドキュメントの非表示の場所に作成し、イメージを選択できる[テキストオブジェクトプロパティ]ダイアログを開きます。イメージが通常の印刷アイテムとしてプレビューパネルに表示されます。このパネルでは、他の印刷アイテムと同様に移動およびサイズ変更できます。

ボタン	説明
テキストの追加	新しいテキスト オブジェクトをドキュメントの非表示の場所にを作成し、[テキスト オブジェクト プロパティ] ダイアログを開きます。このダイアログでは、新しいテキスト オブジェクトのプロパティを編集できます。テキスト オブジェクトが通常の印刷アイテムとしてプレビュー パネルに表示されます。このパネルでは、他の印刷アイテムと同様に移動およびサイズ変更できます。
選択表示ボックスの追加	レポートの選択スタンプ オブジェクトを作成します。選択スタンプが通常の印刷アイテムとしてプレビュー パネルに表示されます。このパネルでは、他の印刷アイテムと同様に移動およびサイズ変更できます。
削除	現在選択されているアイテムを削除します。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
アイテム設定	**[アイテム設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択した印刷アイテムのさまざまなプロパティを設定できます。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。

2 つのパネルの下部には、異なるメニューの機能がアイコンとして表示されています。

メニュー アイコン

アイコン	関数
ページ設定	**ページ設定** ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択した印刷アイテムのさまざまなプロパティを設定できます。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
削除	強調表示されたページを削除します。
AllowAlternateAdmin=1	現在選択されているページの後に単式ページ または 複式ページ を追加します。
アイテム設定	**[アイテム設定]** ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択した印刷アイテムのさまざまなプロパティを設定できます。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
削除	強調表示されたアイテムを削除します。
AllowAlternateAdmin=1	新しい画像や新しいテキスト、新しい現在の選択スタンプを追加します。

ページ リスト パネル

左側には、レポートのすべてのページのリストが表示されます。QlikView レポートには、単式ページと複式ページの 2 種類の異なるページを含めることができます。レポートには、任意の数のページを追加したり、2 種類のページを任意の組み合わせで混入できます。

単式ページ

単式ページには、任意の数のシート オブジェクトを含めることができます。ページは常に 1 用紙ページ (または PDF ページ) に印刷されますので、シート オブジェクトはページに合わせて拡大または切り捨てする必要があります。ページではシート オブジェクトを重ねることができます。テキストを追加できます。

複式ページ

複式ページには、印刷するデータ量に応じて、複数の用紙ページ (または PDF ページ) に広げることができる 1 つのシート オブジェクトを含めることができます。複式ページは、大きなテーブルを印刷するときの典型的な選択肢です。動的サイズのオブジェクトのほかに、ページの序文やアペンディックス領域には固定サイズのオブジェクトを追加できます。これらの領域は、単式ページと同様に動作します。

ページ リストの操作

編集するページを選択するには、リストのそのページをクリックします。ページ リスト パネルに直接関連付けられた多数のツールバー コマンドがあります。

ページ リスト ツールバー コマンド

コマンド	関数
単式ページの追加	現在選択されているページの後に単式ページを追加します。
複式ページの追加	現在選択されているページの後に複式ページを追加します。
ページの削除	現在選択されているページを削除します。
ページを上へ	選択したページをリストの 1 つ上に上げます。ページ リスト パネルでページをドロップ アンド ダウンすることもできます。
ページを下へ	選択したページをリストの 1 つ下に下げます。ページ リスト パネルでページをドロップ アンド ダウンすることもできます。

プレビュー パネル

ページ リスト パネルの右側には、ページ リスト パネルで現在選択されているページのプレビューが表示されます。

レポートへのシート オブジェクトの追加

レポート ページ プレビューにアイテムを追加するには、レイアウトからシート オブジェクトをドラッグ、またはダブルクリックするだけです。印刷オブジェクトは、QlikView レイアウトの現在の外観どおりにプレビューに表示されます。当然、レポートのオブジェクトの正確な外観は、選択したデータの変更だけでなく、プロパティの変更についても、印刷時のレイアウトでのシート オブジェクトの外観を動的に反映します。レイアウトの複数のシート オブジェクトを選択し、1 つのグループとしてレポートにドラッグできます。複式ページの中央の動的領域には、1 つの印刷オブジェクトしか追加できないことに注意してください。

ページでの印刷オブジェクトのサイズ変更と配置

追加されると、シート オブジェクトはプレビュー パネルに表示されます。オブジェクトの周囲には境界線が表示され、各角にはオブジェクトが選択されていることを示すプレースホルダが表示されます。マウスでオブジェクトをポイントし、目的の位置に移動します。角のプレースホルダを使用して、サイズを調整します。破線は、現在の余白を示します。この余白の外側には印刷オブジェクトを配置できません。

ページでの印刷オブジェクトの移動と選択

印刷オブジェクトを選択するには、それをクリックします。1 つの印刷オブジェクトが選択されると、TAB キーを使用して、選択を次のオブジェクトに移動できます (逆に移動するには SHIFT+TAB キー)。Shift キーを押しながらクリックして、複数のオブジェクトを選択します。複式ページでは、印刷オブジェクトを異なる領域の間でドラッグします。

プレビュー パネルでアイテムが強調表示されると、配置/整列 ツールバーのコマンドが有効になります。

配置/整列 ツールバー コマンド

コマンド	関数
上揃え	(Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを上に揃えます。
上下中央揃え	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸の中央に揃えます。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
下揃え	(Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを下に揃えます。
左揃え	(Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを左に揃えます。
左右中央揃え	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平中央位置に配置します。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
右揃え	(Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを右に揃えます。
左右に整列	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平軸上に等間隔に整列します。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
上下に整列	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸上に等間隔に整列します。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
左詰め	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番左のオブジェクトの左端を基準にして右方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
上詰め	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番上のオブジェクトの上端を基準にして下方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。ページ プレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。

ツールバー コマンド

ページ プレビュー パネルに直接関連付けられた 2 つのツールバー コマンドがあります。

ページ プレビュー コマンド

コマンド	関数
デザイン グリッド	デザイン グリッドのオンとオフを切り替えます。これは、位置合わせ機能付きグリッドもアクティブにします。デザイン グリッドと位置合わせ機能付きグリッドをアクティブにすると、ページのシート オブジェクトを揃えることが簡単になりますが、あまり正確に制御できなくなります。
ズーム	このドロップダウンでは、プレビュー パネル全体の拡大率を指定します。拡大率を大きくすると、オブジェクトの正確な配置がより簡単になります。

次に、**[レポートの編集]** ダイアログ内からレポートを印刷するために使用するツールバー ボタンがいくつかあります。

印刷 コマンド

コマンド	関数
印刷プレビュー	**[印刷プレビュー]** ダイアログを開き、QlikView ドキュメントの現在の選択範囲で印刷したときの現在のレポートの外観を確認するには、このボタンを押します。このボタンは、**[レポートの編集]** ダイアログの **[ページの編集]** ページにも用意されています。
印刷	[印刷] ダイアログを開き、現在のレポートを印刷するには、このボタンを押します。このボタンは、**[レポートの編集]** ダイアログの **[ページの編集]** ページにも用意されています。
コピー	強調表示されたレポート、ページ、アイテムをコピーします。

最後に、コピーしたレポート、ページ、アイテムを貼り付けるためのツールバー ボタンがあります。

レポート編集: [レポート設定] ダイアログ

このダイアログには、レポートのグローバル (ページ関連以外) 設定が表示されます。ダイアログは、4 ページで構成されます。

[設定] ページ

この **[設定]** ページには、レポートの基本的なプロパティが含まれます。

レポートプロパティ

Property	説明
[Name] (名前)	レポートの名前。これには、テキスト文字列を指定できます。動的更新に対応する計算式として名前を指定することもできます。
レポート ID	レポートの一意の ID。作成時に、各レポートを含む QlikView レイアウト エンティティには、制御用にオートメーションから一意の ID が割り当てられます。デフォルトで ID は、数値と、エンティティのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初のレポートには、ID RP01 が割り当てられます。ID は、ドキュメント内の他のレポート、シート オブジェクト、シート、ブックマーク、またはアラートで現在使用されていない他の文字列に変更できます。

Property	説明
コメント	この項目は、レポートの作成者がレポートの目的またはレポートの詳細を説明できるコメント項目です。これは、このダイアログの外部では使用されません。
用紙サイズの指定	ドロップダウンで、レポートの用紙サイズを指定できます。選択した用紙サイズの縦横比は、ページ プレビュー パネルに反映されます。最終的に、設計した用紙サイズとは別の用紙サイズでレポートを印刷する場合、QlikView は印刷オブジェ◆◆トを新しい用紙サイズに合わせるように拡大または縮小して、レポートの内容を調整しようとします。
条件付き表示	このチェック ボックスをオンにすると、右側の編集ボックスに入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。使用可能なレポートのリストが生成されるたびに、条件式が評価されます。条件が真の場合にのみ、レポートが表示されます。ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、**[] ドキュメント プロパティにある [すべてのシートとシート オブジェクトを表示] をすべての表示条件より優先させることができます。セキュリティ**ダイアログ。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+SHIFT+S。

[余白] ページ

[余白] ページには、レポートの余白の設定が含まれます。コントロールは、**[印刷]** ダイアログの **[レイアウト]** ページのコントロールと同じです。

[ヘッダー/フッター] タブ

[ヘッダー/フッター] タブには、レポートのヘッダー/フッターの設定が含まれます。コントロールは、**[印刷]** ダイアログの **[ヘッダー/フッター]** ページのコントロールと同じです。

[選択] ページ

この **[選択]** ページには、レポートの印刷時に使用される選択の設定が含まれます。

選択の設定

構成	説明
初期選択	これらのラジオ ボタンを使用して、レポート印刷に関する最初の選択を指定できます。使用する設定に関係なく、レポート印刷の前に適用されていた選択は、印刷後に再設定されます。
現在の選択条件	レポート印刷の基礎として現在の選択を使用します (デフォルト)。
すべての選択をクリア	レポートの印刷前に、ドキュメント内の現在のすべての選択がクリアされます。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。
現在の選択条件	レポートの印刷前に、ドロップダウン ボックスで選択できるブックマークが適用されます。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。
設定項目の絞込値ごとにレポートを印刷する	このチェック ボックスをオンにすると、下のドロップダウン ボックスで指定された項目で各絞込値を選択しながら、レポート全体が繰り返し印刷されます。指定された項目に絞込値がない場合は、何も印刷されません。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。ページ番号を使用する場合は、印刷されるすべてのページに連続してページ番号が付けられます。

レポート編集: [ページ設定] ダイアログ

このダイアログでは、現在選択されているページに関する設定が表示されます。ダイアログは 3 ページあります。

基本設定

[基本設定] ページには、ページの基本的なプロパティが含まれます。

ページ プロパティ

Property	説明
方向	各ページで、向きについて個別に設定できます。**縦** と **横** を選択できます。選択は、上のページ リスト パネルに反映されます。
ページの種類	レポートを印刷するページの種類を **単式ページ** または **複式ページ** (テーブル データ用) に設定します。
用紙サイズに合わせる	この設定は、複式ページでのみ使用できます。 **指定なし** シート オブジェクトの印刷で拡大縮小を行いません。各方向に必要な数のページが使用されます。 **Scale to x %** (任意倍率 x %) シート オブジェクトの印刷が元のサイズの特定のパーセンテージで拡大縮小されます。各方向に必要な数のページが使用されます。 **複数ページ表示** シート オブジェクトの印刷が特定のページ数に収まるように拡大縮小されます。

設定

[設定] ページには、複式ページの序文とアペンディックス領域に関する設定が含まれます。単式ページでは使用できません。

序文とアペンディクスの設定

構成	説明
序文とアペンディックスを使用する	複式ページで動的サイズの内容のほかに、固定サイズの印刷アイテムを使用できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。
序文の配置	チェック ボックスの 1 つ、2 つ、または 3 つをオンにすると、**[先頭ページ]**、すべての **[中間ページ]**、または **[最終ページ]** の序文領域を印刷できます。
序文の高さ	序文領域の各ページに割り当てられた高さを定義します。数値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。この設定は、ページ プレビュー パネルで境界線を直接ドラッグして変更することもできます。
序文の間隔	序文領域とメイン領域の間の間隔を定義します。値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。

構成	説明
アペンディックスの配置	チェック ボックスの 1 つ、2 つ、または 3 つをオンにすると、**[先頭ページ]**、すべての **[中間ページ]**、または **[最終ページ]** のアペンディックス領域を印刷できます。
アペンディックスの高さ	アペンディックス領域の各ページに割り当てられた高さを定義します。数値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。この設定は、ページ プレビュー パネルで境界線を直接ドラッグして変更することもできます。
アペンディックスの間隔	序文領域とメイン領域の間の間隔を定義します。値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。

差し込み文書

[差し込み文書] ページには、一連のアウトプット ページのプロパティが含まれます。つまり、指定された項目の絞込値ごとにページが繰り返し印刷されます。

設定項目の絞込値ごとにページを印刷する チェック ボックスをオンにすると、下のドロップダウン ボックスで指定された項目で各絞込値を選択しながら、ページが繰り返し印刷されます。指定された項目に絞込値がない場合は、何も印刷されません。選択のループがレポート レベルでも指定された場合、レポートの選択によってページ レベルのループ変数のすべての値が除外されるという状況が発生することがあります。そのレポート ループ値のため、ページがスキップされます。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。ページ番号を使用する場合は、印刷されるすべてのページに連続してページ番号が付けられます。

レポート編集 : [アイテム設定] ダイアログ

このダイアログでは、ページ プレビュー パネルで現在選択されている印刷アイテム (オブジェクト) に関する設定が表示されます。ダイアログは 2 ページあります。

基本設定

基本設定 ページには、ページ プレビュー パネルで現在選択されている印刷アイテムに関する設定が含まれます

一般設定

構成	説明
オブジェクト ID	印刷するシート オブジェクトのシート オブジェクト ID。
縮小/拡大	このコントロールは、単式ページのオブジェクトにのみ使用できます。ここで、印刷オブジェクトをそれに割り当てられた四角形内に収めるためのサイズを選択できます。
拡大/縮小なし	印刷オブジェクトのサイズを変更しません。印刷オブジェクトがプレースホルダの四角形に対して大きすぎる場合は、印刷オブジェクトが切り捨てられます。小さすぎる場合は、印刷オブジェクトの周囲が空白になります。
塗りつぶし	プレースホルダの四角形に合わせるように印刷オブジェクトのサイズを変更します。

構成	説明
縦横比を固定して塗りつぶし	元のシートオブジェクトの割合を維持しながら、プレースホルダの四角形に収まるように印刷オブジェクトのサイズを変更します。
枠線の使用	通常、印刷オブジェクトはフレームまたは境界線なしでページに印刷されます。このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの周囲に境界線を付けることができます。
フレームの色	境界線の色を選択するには、このボタンを押します。
フレームの幅	ここで、境界線の幅を指定できます。

位置

位置 ページには、印刷可能領域におけるオブジェクトの位置とサイズの設定が含まれます。

位置設定

構成	説明
左揃え	左端に対する現在の選択アイテムの位置を設定します。0 は印刷可能領域の左端を示します。
前面	上端に対する現在の選択アイテムの位置を設定します。0 は印刷可能領域の上端を示します。
幅	印刷可能領域の幅を 1000 とした現在の選択アイテムの位置を設定します。
高さ	印刷可能領域の高さを 1000 とした現在の選択アイテムの位置を設定します。
Z レベル	現在選択されているアイテムのレイアーを設定します。重なる場合、一番低いレベル (1) のアイテムが先に印刷され、次に、次のレイヤーが印刷されます。

8.11 アラート

アラートを定義する最も簡単な方法は、**[アラート ウィザード]** を使用することです。このウィザードは、**[ツール]** メニューから呼び出すことができます。また、**[アラート]** ダイアログでもアラートを作成および管理できます。このダイアログは、**[ツール]** メニューから開くことができます。アラートは、QlikView ドキュメントの一部として保存されます。アラートは、Windows バージョンの QlikView からのみ作成・トリガー作成できます (AJAX クライアントからはできません)。

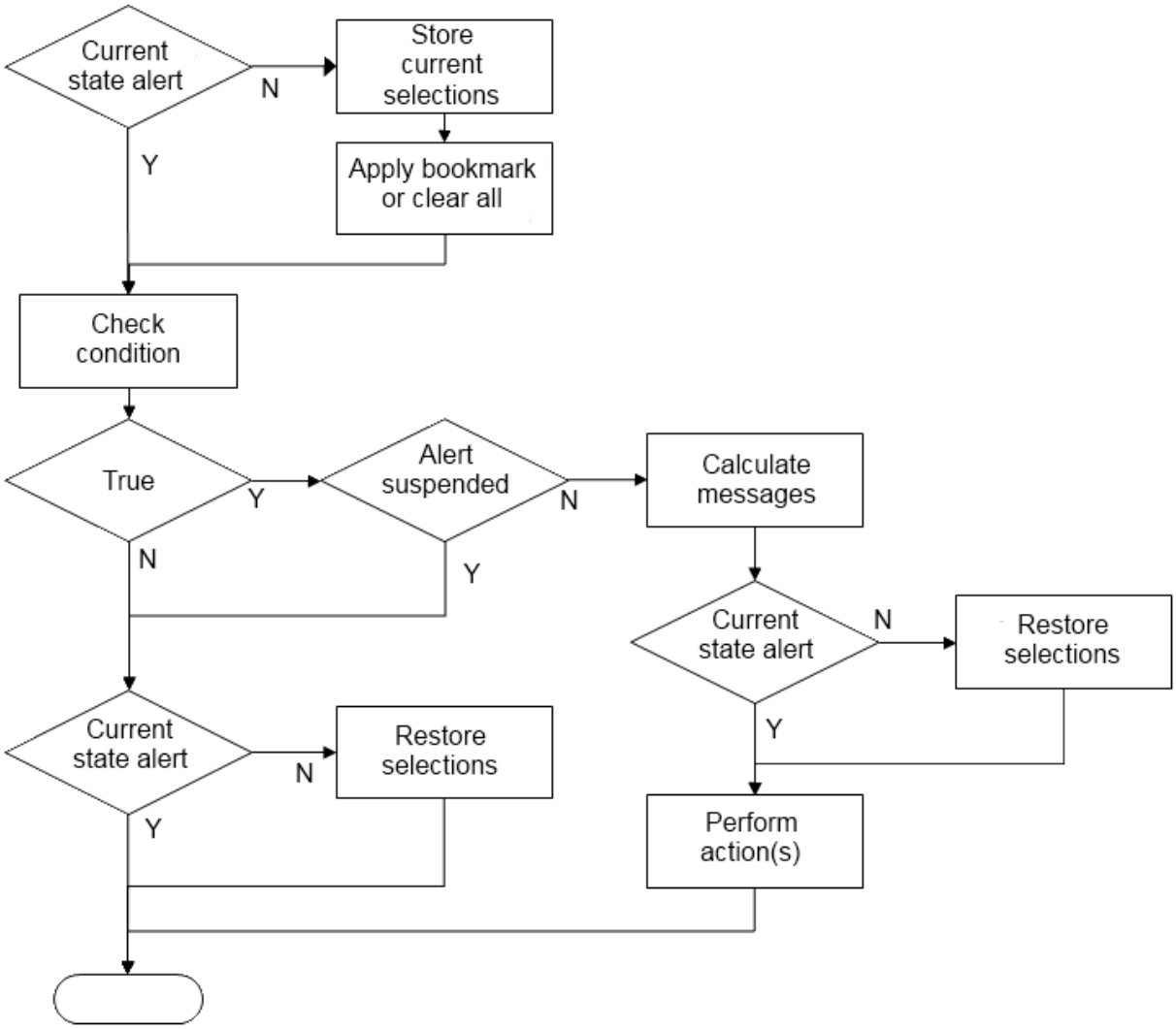
アラートの使用

QlikView アラートチェックは、次の 3 つの異なる方法でトリガーできます。

1. ドキュメントのデータが変更されている可能性がある場合 (ドキュメントが開いている場合、スクリプトが実行された場合、またはデータの削除操作が実行された場合など)、QlikView レイアウトで自動的にトリガーされます。
2. 特別なオートメーション API を使用してマクロから手動でトリガーできます。詳細については、『QlikView API ガイド』を参照してください。

3. QlikView をバッチ モードで実行する外部プログラムに、発生したアラートのリストを指定されたコンテキストから取得するための特別なオートメーション API がある場合にトリガーできます。

アラート チェックのトリガーの後に続くイベントの連鎖は、次のように表すことができます。



アラートの各トリガーにより、QlikView ドキュメントで論理操作の連鎖が開始されます。通常、QlikView は次の主要な手順を実行する必要があります。

1. 現在の選択項目を保存し、アラートに関連するブックマークを表示します。
2. アラートが適切であることを確認するために、アラートの条件を再確認してください。そうでない場合は、元の選択状態を復元します。
3. アラートが一時停止されているかどうかを確認し、その場合は、元の選択状態を復元します。
4. アラートが一時停止されていない場合、アラート関連のメッセージと計算を表示します。
5. アラート関連のアクションを実行し、元の選択状態を復元します。

アラートが発生した後に、必要に応じて一時停止できます。例えば、毎月の予算目標が達成されたことを示すアラートは、同じ情報のアラートが繰り返し発生するのを防ぐため、1回のみ発生し、翌月まで一時停止するように設定できます。

これらのアラート操作のほとんどを実行するのに必要な処理時間は、ユーザーがインターフェイスで同等のアクションを手動で実行する際の処理時間と同等です。手順 4 で条件式の値を計算するために必要な処理時間は、数式が読み込まれたシートオブジェクト内にあった場合とほぼ同じです。合計すると、アラート条件のチェックに必要な時間は、大きなドキュメントではかなりの時間になります。そのため、マクロによってトリガーされるアラートを大量に使用すると、ドキュメントの読み込みや応答が遅くなる可能性があります。

アラートダイアログ

アラートを定義する最も簡単な方法は、**[アラート ウィザード]** を使用することです。このウィザードは、**[ツール]** メニューから呼び出すことができます。
アラートダイアログは **ツール** メニューから開きます。このダイアログはアラートの管理に使用し、アラートは、QlikView ドキュメントの一部として保存されます。

アラートは、通常 3 つの基本的な部分で構成される複合エンティティです。

1. 条件は、true または false のいずれかです。
2. 論理状態 (ブックマーク、すべての選択をクリア、または現在の選択条件)。条件式の状態をチェックする前に適用する必要があります。
3. 1 つまたは複数のアクション。条件がチェックされ、true と評価された場合に実行されます。典型的なアクションは、ポップアップ ウィンドウでのメッセージの表示や、1 人または複数の受信者への電子メール メッセージの送信などです。マクロを使用して詳細なアクションをプログラムできます。

アラートメールは、いずれの Windows 版 QlikView (AJAX クライアントを除く) からでもトリガーできます。また、ポップアップアラートは AJAX クライアントからトリガーすることもできますが、Windows クライアントからトリガーされた場合とは見た目が異なる場合があります。

アラートをチェックし、条件が満たされ、アクションが実行された場合に、アラートが「発生した」と言えます。
QlikView アラートチェックは、次の 3 つの異なる方法でトリガーできます。

a. ドキュメントのデータが変更されている可能性がある場合 (ドキュメントが開いている場合、スクリプトが実行された場合、または **[データの削除]** 操作が実行された場合など) は、QlikView レイアウトで自動的にトリガーされます。
b. 特別なオートメーション API を使用してマクロから手動でトリガーできます。

> *詳細に関しては QlikView ファイルの APIguide.qvw (QlikView でマクロ機能を使用する方法を説明する QlikView ファイル。通常、プログラムと一緒にインストールされます) を参照してください。*

c. QlikView をバッチ モードで実行する外部プログラムに、発生したアラートのリストを指定されたコンテキストから取得するための特別なオートメーション API がある場合にトリガーできます。

アラートを作成する場合には注意が必要です。マクロからトリガーされる大量のアラートがドキュメントの機能を低下させる可能性があります。

[アラート] ダイアログ

ダイアログの左上部には、ドキュメントで現在定義されているすべてのアラートのリストが表示されます。このリストには 3 つの列が含まれます。**[ID]**、**[有効化]**、および **[説明文]** です。

- **ID**: アラートの一意の ID は、アラートのリストとともに、**ID** 編集ボックスにも表示されます。作成時に、各アラートを含む QlikView レイアウト エンティティには、制御用にマクロから一意の ID が割り当てられます。ドキュメントの最初のアラートには、ID AL01 が割り当てられます。この ID は **ID** 編集ボックスで後から編集できます。
- **有効化**: アラートを有効/無効にするために、チェック ボックスをオンまたはオフにします。
- **説明**: **[説明文]** で定義されるアラートの説明 (以下を参照)。
- **追加**:**追加** ボタンは標準のアラートを編集できるリストに新規追加します。
- **削除**: リストから削除するには、アラートを選択して **削除** ボタンをクリックします。
- **条件**: **[条件]** グループは、条件式の定義に使用されます。
    - **(条件)**: これはアラートが発生するときに true (ゼロ以外) と評価される QlikView 式です。
    - **すべての選択をクリア**: このオプションをオンにすると、アラート条件を評価するときに、すべての選択をクリアする状態が使用されます。
    - **ブックマーク**: **[すべての選択をクリア]** チェック ボックスがオンでない場合は、アラート条件がテストされる前に適用されるブックマークを指定できます。ブックマークは、ブックマーク ID として指定する必要があります。アラートが正しく動作するには、そのブックマークが存在していなければ成りません。ブックマークの指定を行わず、**すべての選択をクリア** チェック ボックスもオフの場合、アラート条件のテスト時には現在の選択条件 (ドキュメントの論理状態) が使用されます。
- **イベント**:**イベント** グループは、イベントの自動チェックの定義に使用されます。
    - **ドキュメント起動時**: ドキュメントが開いたときにアラートが自動的にチェックされます。
    - **リロード完了時**: ドキュメントのロード スクリプトが実行 (**リロード**) された後に、アラートが自動的にチェックされます。また、ドキュメントに保存されている最後のリロード時間が最後にアラートがチェックされた時間より後である場合は、ドキュメントが開いたときにもアラートがチェックされます。
    - **データ削減完了時**: ドキュメントのデータ削減 (**データの削減** コマンド) 後に、アラートが自動的にチェックされます。また、ドキュメントに保存されている最後の削除時間が最後にアラートがチェックされた時間より後である場合は、ドキュメントが開いたときにもアラートがチェックされます。
    - **遅延**: 再設定 アラートが発生した後の自動的にチェックされるアラートの再発生を一定の **[日数]**、一時停止できます。1 日の一部を指定するには、小数を使用します。値 0 は、一時停止時間がないことを示します。
    - **トリガー レベル**: 自動的にチェックされるアラートの再発生は、アラートの発生後にアラート ステータスが変更されたかどうかに基づいて一時停止することもできます。このドロップダウン リストでは、3 つの再発レベルから選択できます。
        - **常時**: トリガー イベントが生じてアラートの条件が満たされるたびにアラートが発せられます。
        - **メッセージ変更時**: アラート **[メッセージ]** が変更されるまで、アラートの発生が一時停止されます。これは、動的なメッセージ テキストの変更を意味します。(評価されるメッセージが変更されるには、アラート条件の状態が必ずしも変更される必要はありません。**[メールの件名]** の変更 (以下を参照してください) は、メッセージの変更と見なされます。)
        - **状態の変更時**: アラートの状態が変更される (つまり、アラートの条件が少なくとも 1 回のチェックでは満たされなかったが、その後のチェックでは満たされた状態になる) まで、アラートの発生が一時停止されます。これは、アラート一時停止の最も強力なタイプです。
- **ポップアップの表示**: アラートが発生したときにアラート メッセージをポップアップで表示する場合は、**ポップアップの表示** チェック ボックスをオンにします。

- **カスタム ポップアウトを使用する**:**カスタム ポップアウトを使用する** グループでは、選択したアラートにカスタム ポップアップ フォーマットを定義できます。この代替値をオンにすると、標準の **[ポップアップ アラート]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** で定義) を変更できます。**[ポップアップ設定]** ボタンで、**[ポップアップ ウィンドウ設定]** ダイアログを開きます。
  ポップアップ ウィンドウ設定 (page 219)
- **モード**:**モード** グループでは、対話型のアラート (レイアウトの自動トリガー) **イベント** として、または、バッチ トリガー用のオートメーション API を通して QlikView Publisher など QlikView を**バッチ** モード (コマンドラインの実行) で実行する外部プログラムに関連するアラートとして定義するために、適切なオプションを選択できます。このグループのチェック ボックスがいずれもオフの場合は、マクロを使用してアラートを手動でチェックすることもできます。
- **説明**: アラートの作成者がアラートの目的を説明できるコメント項目です。このダイアログのアラートのリストでのみ使用されます。
- **メッセージ**:**メッセージ**編集ボックスに、アラートとともに表示されるメッセージを入力します。ポップアップ アラートの場合、テキストはポップアップで表示されるメッセージとなり、メール アラートの場合、これはメールの本文となります。動的更新に対応する計算式としてメッセージ テキストを指定することもできます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
  計算式の数式構文 (page 1013)
- **メールの件名**: **[メールの件名]** 編集ボックスには、アラート メッセージのメールの件名に使用されるテキストを入力します。テキストは、動的に更新される計算ラベル数式として定義することができます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。空白にした場合、件名には "QlikView アラート" と表示されます。
- **メールの宛先**:**メールの宛先** パネルには、セミコロンで区切られたメール アドレスのリストを入力します。アラートが発生するたびに、これらのアドレスに電子メール メッセージが送信されます。リストは、動的に更新される計算文字列式として定義することができます。

アラート ウィザード

アラート ウィザードでは、アラートを簡単に定義できます。

処理には、次の基本的な手順が含まれます。

手順 1 - アラートに名前を付ける/アラートを説明する

手順 2 - アラート条件を定義する

手順 3 - アラート条件がいつテストされるかを定義する

手順 4 - テストの延期を定義する

手順 5 - アラートが発生したときに実行されるアクションを定義する

選択によっては、上記の手順の一部がスキップされる場合があります。

アラート ウィザードを起動する
アラート ウィザードを起動するには **[ツール]** メニューから **[アラート ウィザード]** を選択します。

初めてウィザードを起動すると、2 つのスタートページが表示されます。最初のページでは、アラートの概念が説明され、2 番目のページではウィザードの概略と関連する基本的な手順が説明されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、いずれかのページまたは両方のページの **[次回からこの画面を表示しない]** チェックボックスをオンにします。**次へ** ボタンをクリックして進みます。

手順 1 - アラートに名前を付ける/アラートを説明する

アラートの説明文 に名前や簡単なテキストを入力し、作成するアラートを説明します。この項目は、アラートの作成者がアラートの目的またはアラートの詳細を説明できるコメント項目です。**[アラート]** ダイアログのアラートリストでのみ使用されます。**次へ** ボタンをクリックして進みます。

手順 2 - アラート条件を定義する

この手順では、アラート条件とアラート条件がチェックされるときに使用される選択状態を定義します。次の項目を記入します。

- **アラートの条件**: アラートが発生するときに true (ゼロ以外) と評価される QlikView 式を入力します。
- **アラートをテストする際の選択条件**: ここでは、アラート条件の結果をテストするときに使用される選択状態を決定します。3 つの選択肢があります。
    - **現在の選択条件**: アラートの条件はアラート確認時の選択条件で精査されます。
    - **すべての選択をクリア**: アラートの条件が精査される前に、すべての選択が一時的に解除されます。
    - **ブックマーク**: アラートの条件が精査される前に、指定したブックマークが一時的に適用されます。

次へ ボタンをクリックして進みます。

手順 3 - アラート条件がいつテストされるかを定義する

この手順では、アラートをいつチェックするかを定義します。オートメーション コールを用いてアラートをいつでも手動実行することができます。関連イベントでの自動チェックは、このページの設定を使用して行うことができます。次の項目を記入します。

- **アラートをインタラクディブにチェック**: 以下のイベント時にアラートが自動的にチェックされるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
    - **ドキュメント起動時**: ドキュメントを開いたときにアラートを自動的に精査する場合は、このチェックボックスをオンにします。
    - **リロード完了時**: ドキュメントのリロード (ロード スクリプト実行) 完了時にアラートを自動的に精査する場合は、このチェックボックスをオンにします。
    - **データ削減完了時**: ドキュメントのデータ削減 (データ削減 コマンド) 完了時にアラートを自動的に精査する場合は、このチェックボックスをオンにします。
- **バッチ アラート**: バッチ トリガー向けの特別なオートメーション API を使用して、外部プログラムからトリガーするようにアラートを設計する場合は、このチェックボックスをオンにします。

次へ ボタンをクリックして進みます。

手順 4 - テストの延期を定義する

この手順では、アラートが発生した後の一時停止時間を定義できます。この一時停止時間内はアラートのチェックが禁止されます。これにより、例えば 1 日 1 回ドキュメントを最初に開いたときにのみアラートを発する設定が可能になります。次の項目を記入します。

- **遅延**: アラートが発生した後の自動的にチェックされるアラートの再発生を一定の時間一時停止できます。このボックスに日数を入力します。少数値を使用して1日を分割して指定できます。
- **トリガー レベル**: 自動的にチェックされるアラートの発生は、データ変更に基づいて一時停止することもできます。このドロップダウンでは、3つの再発レベルから選択できます。
  - **常時**: トリガー イベントが生じてアラート条件が満たされるたびにアラートが発せられます。
  - **メッセージ変更時**: アラート メッセージが変更されるまで、アラートの発生が一時停止されます。これは、動的なメッセージ テキストの変更を意味します。評価されたメッセージを変更するために、アラートの条件の状態を変更する必要はありません。
  - **状態の変更時**: アラートの状態が変更されるまで (つまり、アラートの条件が少なくとも1回の精査では満たされなかったが、その後の精査では満たされた状態になる)、アラートを発するのを一時停止します。これは、アラート一時停止の最も強力なタイプです。

次へ ボタンをクリックして進みます。

手順 5 - アラートが発生したときに実行されるアクションを定義する

この最後の手順では、アラートが発生したときに実行されるアクションを決定します。マクロで確認するだけのアラートの場合、このステップは必要ないかも知れません。次の項目を記入します。

- **メッセージ**: ここに、アラートと共に表示されるメッセージを入力します。ポップアップ アラートの場合、これはポップアップで表示されるメッセージです。メール アラートの場合、これはメールの本文となります。動的更新に対応するQlikView式としてテキストを定義することもできます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
- **ポップアップの表示**: アラートが発生したときにアラート メッセージをポップアップで表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- **メールの送信**: 発生しているアラートの結果としてメールを送信するには、このチェック ボックスをオンにします。アラート メッセージのテキストがメールの本文となります。
- **メールの件名**: 送信メールで件名として使用されるテキストを入力します。件名をQlikView式として定義できます。
- **メールの宛先**: セミコロンで区切られたメール アドレスのリストを入力します。アラートが発せられると、これらのアドレス宛にメールでメッセージが送られます。リストをQlikView式として定義できます。

新しいアラートの作成を終了するには、**[終了]** をクリックします。

8.12 マクロと自動化

QlikView オートメーション インターフェース

QlikViewは、オートメーション インターフェースを備えています (オートメーションは、以前はOLE オートメーションと呼ばれていました)。このインターフェースを使用すると、外部プログラムまたは内部マクロからQlikView アプリケーションにアクセスして制御することができます。

QlikView オートメーション インターフェースの完全な仕様は、QlikView アプリケーションのDocumentation フォルダに収録されています。

オートメーション インターフェースは QlikView に不可欠なので、アクティブにするために特別なタスクを実行する必要はありません。

オートメーションとマクロによるQlikViewの制御

QlikViewの外部制御

QlikViewオブジェクトには、オートメーションによって外部プログラム (オートメーションをサポートするVisual Basicまたは C++ で記述されたプログラムなど) からアクセスできます。

このようなコードを使用して、他のアプリケーションまたはスタンドアロンプログラムからQlikViewを制御することができます。

スタンドアロンの実行ファイルは、起動ボタンを使用してQlikViewドキュメントから呼び出すことができます。

内部マクロインタープリタ

QlikViewオブジェクトには、組み込みのマクロインタープリタを使用して、QlikView内からオートメーションを介してアクセスすることもできます。

現在、QlikViewドキュメント内のVBScriptまたはJScriptで記述されたマクロは、いくつかの方法で呼び出すことができます。

ドキュメントイベント:

- QlikViewドキュメントを開いた後にマクロを実行できます。
- スクリプトを再実行した後にマクロを実行できます。
- **データの削除**コマンドの後にマクロを実行できます。
- ドキュメント内の任意の項目で選択が行われた後にマクロを実行できます。

シートイベント:

- シートをアクティブにした後にマクロを実行できます。
- シートを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

シートオブジェクトイベント:

- シートオブジェクトをアクティブにした後にマクロを実行できます。
- シートオブジェクトを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

ボタンイベント:

- ボタンシートオブジェクトをマクロにリンクできます。

項目イベント:

- 指定された項目で選択が行われた後にマクロを実行できます。
- 指定され項目に論理的に関連付けられている任意の項目で選択が行われるときにマクロを実行できます。
- 指定された項目で選択がロックされるときにマクロを実行できます。
- 指定された項目で選択がアンロックされるときにマクロを実行できます。

変数イベント:

- 指定された変数に値が入力された後にマクロを実行できます。
- 式値の変更によって式を含む指定された変数の値が変更されたときにマクロを実行できます。

内部マクロインタープリタ

QlikView オブジェクトには、組み込みのスクリプトエンジンを使用して、QlikView 内からオートメーションを介してアクセスすることもできます。

マクロの呼び出し

QlikView ドキュメント内の VBScript または JScript で記述されたマクロは、複数の方法で呼び出すことができます。

ドキュメントイベント:

- QlikView ドキュメントを開いた後にマクロを実行できます。
- スクリプトを再実行した後にマクロを実行できます。
- **データの削除** コマンドの後にマクロを実行できます。
- ドキュメント内の任意の項目で選択が行われた後にマクロを実行できます。
- ドキュメント内の任意の変数値が変更されるとマクロを実行できます。

ドキュメントのイベントから呼ばれるマクロは、**[ドキュメントプロパティ: トリガー]** ページで作成できます。

シートイベント:

- シートをアクティブにした後にマクロを実行できます。
- シートを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

シートイベントから呼ばれるマクロは、**[シートプロパティ: トリガー]** ページで作成できます。

シートオブジェクトイベント:

- シートオブジェクトをアクティブにした後にマクロを実行できます。
- シートオブジェクトを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

シートオブジェクトイベントから呼ばれるマクロは、**[シートプロパティ: トリガー]** ページで作成できます。

ボタンイベント:

- ボタンをマクロボタンとして定義できます。

マクロボタンのイベントから呼ばれるマクロは、**ボタンプロパティ: [アクション]** ページから作成できます。

項目イベント:

- 指定された項目で選択が行われた時にマクロを実行できます。
- 指定され項目に論理的に関連付けられている任意の項目で選択が行われるときにマクロを実行できます。
- 指定された項目で選択がロックされるときにマクロを実行できます。
- 指定された項目で選択がアンロックされるときにマクロを実行できます。

項目イベントから呼ばれるマクロは、**[ドキュメントプロパティ: トリガー]** ページで作成できます。

変数イベント:

- 指定されたスクリプト変数に直接新しい値が入力されたときにマクロを実行できます。
- 他の変数またはドキュメントの論理状態が変化した結果として、指定した変数の値が変化したときに、このマクロ(存在する場合)が実行されます。

変数イベントから呼ばれるマクロは、**[ドキュメントプロパティ: トリガー]** ページで作成できます。

マクロ編集:

マクロは、そのトリガーの方法に関わりなく、**[モジュールの編集]** ダイアログで作成、編集できます。

このセクションでは、とても役立つVBScript マクロの例をいくつか提供します。

```
Using VBScript Input Boxes for User Interaction
rem ** Clear selections, ask for product, **
rem ** select that product, **
rem ** go to sheet "Market", **
rem ** show pivot table "Sales" **
Sub ChooseValue
Set q = ActiveDocument
q.ClearAll (false)
Set f = q.Fields("Model Name")
x = inputbox ("Enter product")
f.Select(x)
set s = q.Sheets("Market")
s.Activate
s.SheetObjects("Sales").Activate
end sub
```

JScript の特別なライブラリ関数

VBScript マクロでは、標準のVBScript 関数 InputBox および MsgBox を自由に使用できますが、JScript を使用する場合は、これらに直接対応する関数がありません。このため、これらのアクションのための特別なライブラリ関数 qvlib が追加されました。次に、この関数の例を示します。

```
// JScript
function Test()
{
personName = qvlib.InputBox("What is you name?")
msg = "Hello " + personName + " !"
qvlib.MsgBox(msg)
}
```

次の例に示すように、実際には VBScript マクロでも qvlib 関数は機能しますが、この場合は、汎用のVBScript 関数であるInputBox とMsgBox を使用することをお勧めします。

```
rem VBScript
sub TestModule
name = qvlib.InputBox("What is your name?")
msg = "Hello "
msg = msg + name + " !"
qvlib.MsgBox(msg)
end sub
```

モジュールの編集

モジュールの編集 ダイアログを使用して、VBScript または JScript でマクロやカスタム定義関数を記述できます。モジュールは、ドキュメントと共に保存されます。

次のコマンドを使用できます。

ファイル メニューの **モジュール ファイルにエクスポート** コマンドを選択すると、スクリプトをファイルとして保存できます。スクリプトを **[印刷]** するオプションもあります。

[編集] メニューには、複数の一般的なオプションが含まれています。**[元に戻す]**、**[やり直し]**、**[コピー]**、**[切り取り]**、**[貼り付け]**、**[クリア]**、**[すべて選択]**、および **[検索/置換]** などの共通のオプションがあります。次のオプションもあります。**[ファイルの挿入]** オプションもあります。**コメント設定** コマンドを使用してスクリプトのテキスト行をコメントに変換し、**コメント解除** コマンドを使用して設定を元に戻します。

編集モジュール オプション

Property	説明
(マクロの編集ボックス)	大きな編集ボックスは、マクロを入力する場所です。すべてのマクロは、対応する sub .. end sub の間にサブルーチンとして記述する必要があります。
(エントリポイントのリスト)	エントリポイントがスクリプトエンジンに認識されるとすぐに、左の小さなテキストボックスのリストに表示されます。このリストからエントリポイントを選択することもできます。
(メッセージ)	マクロの編集ボックスの上の小さなボックスにエラーメッセージの現在の状態が表示されます。
構文チェック	サブルーチンを記述したら、このボタンをクリックして構文をチェックします。
行指定	**[エントリポイントのリスト]** でエントリポイントを強調表示し、**[行指定]** ボタンをクリックすると、**[マクロの編集ボックス]** にあるその位置に移動できます。
テスト	エントリポイントを選択して **テスト** ボタンをクリックすると、マクロをテストできます。エラーは、**メッセージ** ボックスに表示されます。
スクリプトエンジン	**VBScript** または **JScript** を選択します。
モジュールセキュリティの設定	**[セーフモード]** を指定することで、この QlikView ドキュメントのマクロには、QlikView の外部のシステムまたはアプリケーションにアクセスできるコードが含まれていないことを示します。**[セーフモード]** として宣言されたドキュメント内のマクロの実行中にこのようなコードが検出された場合は、マクロの実行が失敗します。 一方、**[システム アクセス]** モードを指定した場合は、エンドユーザーがドキュメントを開くときにプロンプトが表示され、システム アクセスを許可するか **([システムアクセスを許可する])**、ドキュメントのマクロをすべて無効にするか **([マクロを無効にする])**、またはシステム アクセスなしのマクロのみを許可するか **([セーフモード])** を指定できます。

Property	説明
現在のローカル セキュリティ	[セーフ モード] と宣言されているけれども "安全ではない" 可能性のあるマクロを含むドキュメントを開くと、プロンプトが表示されます。(上の **[モジュール セキュリティの設定]** を参照してください。) ユーザーの選択はシステムに記録されますが、設定はこのメニューから後で変更することができます。マクロ セキュリティ レベルとして、**実行しない**、**セーフ モードのみ** または **システム アクセスを許可する**を設定できます。



これは、とても簡単な QlikView スクリプト エンジンの手引きです。VBScript や JScript をさらに理解するには、それぞれのハンドブックを参照してください。

QV サーバー上の QV ドキュメントでのマクロの使用

QlikView Server 上のマクロ

QlikView Server が QlikView ドキュメント内のマクロを実行できるようになりました。クライアント サーバー環境でマクロを使用する際は、考慮する事項があります。

クライアントとして QlikView を使用している場合、すべてのマクロは クライアントで実行されます。この場合は、多くの操作が許可されます。



マクロを広範囲に渡って使用すると、設計者が意図/想定する連続的なマクロ実行の代わりに、並行的なマクロ実行という潜在的な問題を引き起こす可能性があります。

マクロ機能の制限

どのタイプのクライアントを使用する場合でも、QlikView Server 環境のマクロでは、次の機能が正しく機能します。

- 項目のクリア、選択などの論理操作
- 変数に関する操作

次の機能は、予期しない結果を招く可能性があるため、QlikView Server 環境では使用されません。

- SetProperties を使用して、シートやシート オブジェクトのプロパティを制御するレイアウト操作
- ドキュメントまたはユーザー設定を変更する操作
- スクリプトに関連するすべての操作 (Reload を含む)
- データ削除操作 (ReduceData など)
- ドキュメントの保存、開くなどの操作
- 値を返す必要がある AJAX の動作は、結果として空のバッファーを返す場合があります



サーバー オブジェクトのプロパティを制御するレイアウト操作がサポートされます。

マクロ トリガーの制限

以下のトリガーは、あらゆるクライアントの QlikView Server 環境で通常どおり動作しますが、イベント トリガーをサポートしていない AJAX モードは例外です。

```
Document.OnAnySelect
Field.OnSelect
Field.OnChange
Field.OnUnlock
Document.OnPressMacroButton
Variable.OnChange
Variable.OnInput
```

次のトリガーは、意味がないか、予期しない結果を招く可能性があるため、QlikView Server 環境では使用されません。

```
OnPostReduceData
OnPostReload
```

VBScript 関数

QlikView ドキュメントのモジュールで定義される VBScript 関数は、一般に、QlikView Server で正しく機能します。前のセクションで説明した一般的な機能の制限が適用されます。

サーバー側 エクスポート

ボタンに関連付けられたマクロを使用して、任意のチャートの内容をサーバーのテキスト ファイルにエクスポートすることができます。この機能は、QlikView ドキュメントに追加する必要があります。マクロは、Web ブラウザで QlikView Server から直接実行できます。

9 発見と分析

ドキュメントを作成してデータをロードすると、データの発見と分析が行えるようになります。分析を実施する理由はさまざまで、使用可能なツールも多数あります。

9.1 選択

QlikView では、選択が主な操作です。選択により、QlikView にロードされたデータのサブセットがフィルタリングされます。

選択を使用して詳細を知りたいものを調べると、QlikView は色分けされた絞込値と除外値を異なる色で示します。

9.2 ルーチン分析

ルーチン分析の典型的なアクティビティとして、以下のように定期的に主要指標 (KPI) を確認する作業が挙げられます。

- 毎朝のノルマに対する総売上高
- 前年同期比総売上高に対する総売上高
- 週末における受注未発送件数
- 各月同日における地域ごとの売上高

例えば、売上高の推移を示すデータがあると仮定します。このような場合、データを絞って特定の月の売上高のみを表示します。そして、翌月のデータのみを表示すれば、売上高がどのように推移したかを確認できます。

9.3 予備分析

QlikView では、新しい洞察を得るために、次のようなさまざまな方法でデータを探索できます。

- 複数を選択して効率的にデータをフィルタリングする
- 比較分析をして what-if の質問をする/質問に回答する
- 新しいビューや詳細をクリックまたはタップする
- 任意の方法でデータをリミックスして再度組み立てる

9.4 データ内の検索

QlikViewのユニバーサルな検索ツールを使用し、ファジー論理を活用することで、潜在的なすべての一致を見つけることができます。

9.5 分析接続

分析接続を使用すると、外部分析をビジネスディスカバリと統合することができます。分析接続で、外部計算エンジンを呼び出すことによって、ロードスクリプトとチャートで使用できる数式を拡張します (これを行う際、計算エンジンはサーバーサイド拡張 (SSE) としての役割を果たします)。例えば、R への分析接続を作成して、データをロードするときに統計数式を使用することができます。

9.6 ブックマークの選択

選択ステートをブックマークとして保存すると、過去の選択内容や頻繁に選択される内容をトラッキングできます。

9.7 項目値の選択

値をクリックするだけで、項目から値を1つ選択できます。一度選択すると、セルが緑になり、新しい状態 (選択済み) を示します。選択は現在のシートおよび他のシート上にある別のシートオブジェクトの多数の値の状態に影響を与える可能性があります。

白いセルは、連結された項目値を表し、灰色のセルは選択によって除外された項目値を表します。選択を行うと、関連のあるすべてのテーブル間で自然結合が動的に評価されます。

ほとんどの種類のシートオブジェクトで選択を行うことができます。

以前に選択された値を解除するには、その値をクリックします。また、**[クリア]** を**[オブジェクト]** メニューから選択するか、**[クリア]** コマンドのひとつを**[選択]** メニューから選択することもできます。除外値をクリックすると、この値と競合する選択は取り消され、クリックした値が選択されます。

欲しい値を検索して選択することもできます。

9.8 配色

項目値の状態は、セルの色で示されます。

デフォルトで次の配色が使用されます。

- 選択値 緑
- 連結値 白
- 除外値 灰色

特別な状況で使用できる他の色分けもあります。

- 選択肢 白/黄色
- ロック値 青
- 強制除外の結果 赤

既定の配色 (Classic) の既定の色は、**[選択スタイル設定]** グループ (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** ページ内) を変更します。

[選択状態の表示切替] オプションをオンにすると、対応するリストボックス内の選択されていないセルが他の項目の選択によって除外されていない限り、それらのセルは選択肢の値 (白または薄い黄色) として表示されます。ただし、それらのセルは論理的に除外されているため、絞込値 (連結値および選択値) で実行される計算には含まれません。**選択状態の表示切替** オプションをオフにすると、選択されていないセルが除外 (灰色) 対象として表示されます。

チェックボックス選択スタイルには、この配色は使用されません。

9.9 選択スタイル

QlikView では、リストボックスやチャート、その他のオブジェクトで項目値を表示したり選択したりするための数多くの異なる方法をサポートしています。**[QlikView Classic]**、**[コーナー タグ]**、および**[LED]** スタイルはすべて、選択値、絞込値、および除外値を示すために色分けを使用しています。**[チェックボックス]** スタイルは Windows の標準インターフェースに類似しており、各々の値にチェックボックスが付いています。**LED チェックボックス** は、色分けと**チェックボックス** スタイルを組み合わせて使用するスタイルです。

色に基づいた選択スタイルを使用する場合、多数の異なる配色が使用可能です。基本色 (選択されていれば緑、ロックされていれば青など) は変更できませんが、さまざまな色調と強度が可能です。

使用するスタイルは、いくつかの異なる方法で管理できます。

- **[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** ページ上
- **[ユーザープロパティ: 基本設定]** ページ上
- **[リストボックス プロパティ: プレゼンテーション]** ページ上

論理状態の表現

QlikView での項目値の論理状態は、**[QlikView Classic]** スタイルで色分けされており、リストボックスとマルチボックスのセル内の背景とテキストの色分けによって表現します。その他のシートオブジェクト内やシートタブに、選択を示す選択ビーコンが表示される場合があります。リストボックスとマルチボックスのデータの左に表示されることのある & および ! 文字は、AND 選択と強制除外 (NOT 選択と呼ばれることもあります) を示します。

[チェックボックス] スタイルでは、色分けは、リストボックスとマルチボックス内の絞込値と除外値を示すセルの背景の白と灰色だけです。ただし、すべてのセルにデータのアイコン機能があり、論理ステータスを示します。これらのアイコンは、ドキュメントの他の部分の選択ビーコンの場所にも表示されます。

違いを次の表にまとめました。

論理ステート

QlikView の状態	QlikView の色分けスタイル	Windows チェックボックス スタイル (アイコン)
可能な値	白/黒	
除外値	灰色/ライトグレー	
選択値	緑/黒	
選択除外値	灰色/ライトグレー	
ロック	青/黄色	
除外値のロック	灰色/ライトグレー	

QlikView の状態	QlikView の色分けスタイル	Windows チェック ボックス スタイル (アイコン)
AND 選択	緑/黒と**&**	
強制排除の対象	赤/黒と**!**	

論理的な動作

[チェック ボックス] スタイルと**[LED チェックボックス]** スタイルの論理的な動作は、色分けのスタイルと2 つの点で異なります。

1. **チェック ボックス**と**LED チェックボックス** スタイルでの選択はすべて、選択の切り替えと見なされます。つまり、色分けスタイルで Ctrl キーを押しながら選択する場合と同じように動作します。
2. すべてのリスト ボックスは、プロパティの実際の設定とは関係なく、**[選択状態の表示切替]** オプションが選択されているように処理されます。

9.10 インジケータ

インジケータ(ビーコン) は、テーブル、タブ、およびステータス バーの右端に表示されることがある、色付きのドットです。インジケータは、現在表示しているシート上で利用できない項目に実行されている選択について、注意を促すためのものです。QlikView ドキュメントのすべてのシートは常に内部で結合されているため、たとえそれが即座に現れなくても、選択はアクティブなシートの表示に影響します。これが、インジケータを使用する主な理由です。

QlikView テーブル (テーブル ボックス、ストレート テーブル、およびピボット テーブル) のデータ項目の右上角にも選択インジケータが表示されます。テーブルの選択はそれ自身が色分けされていないため、これは便利なオプションです。オプションは、ユーザー プロパティ: [オブジェクト] ダイアログで選択/選択解除できます。

選択インジケータは、選択表示ボックスと自由に移動できる選択表示ウィンドウにも表示され、選択値とロック値を区別します。

インジケータの配色

インジケータの色は、一般的な配色に従います。

配色

インジケータの色	配色
緑色	選択値
青	ロック値
赤	強制除外に含まれている AND モードの値

以下は、異なるインジケータが選択表示ボックスでどのように表示されるかを示したものです。



9.11 項目内の複数選択

1 つの項目内で複数選択を行うには (1 つの項目からの複数の値を許可するなど)、次の方法があります。

- リストボックス内にカーソルを置き、マウス ボタンを押しながら複数の項目値の上をドラッグする。
- 選択する最初の項目値をクリックし、Ctrl キーを押しながらその他の選択する項目をそれぞれクリックする。
- 選択する最初の項目値をクリックし、Shift キーを押しながら選択する 1 番下の項目値をクリックする。これにより、その間にある値すべてが選択されます。ただし、ソート機能がオンになっていると、最初の選択で順序が変更される場合があり、正しく次を選択することが難しくなる場合があります。
- テキスト検索を確認して Enter を押す。これにより、一致するすべての項目値が選択されます。Ctrl キーを押しながら Enter を押すと、テキスト検索による選択が前の選択に追加されます。

選択された項目を選択解除するには、Ctrl キーを押しながらその選択をクリックします。

1 つのリストボックスで複数の項目を選択し、他のリストボックスの選択可能な連結値から新しく選択する場合、1 つ目のリストボックスの選択値の一部が除外される場合があります。ただし、2 つ目のリストボックスの選択を取り消すと、デフォルトでは、以前の選択が元の状態に戻ります。

複数選択は通常、論理和 OR として解釈されます。つまり、QlikView は選択した項目値のいずれかに関連するソリューションを見つけます。

9.12 選択の移動

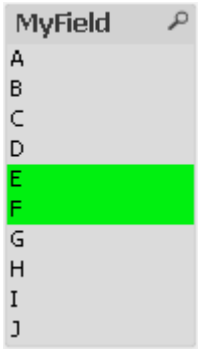
キーボードのキーを使用すると、アクティブなリストボックスまたは開いているマルチ ボックス項目の現在の選択を移動できます。

キーボード動作のショートカット

キー	動作
下向き矢印	現在の選択をリストボックスの 1 つ下に移動します。最後の値に届くと、選択は最初の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスはセルを一度に 1 つ下にスクロールします。
上向き矢印	現在の選択をリストボックスの 1 つ上に移動します。最初の値に届くと、選択は最後の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスはセルを一度に 1 つ上にスクロールします。

キー	動作
Page Up	最も外側のにある選択値の間の距離と等しい間隔分、現在の選択をリストボックスの上方に移動します。最初の値に届くと、選択は最後の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスは一度に1ページ上にスクロールします。
Page Down	最も外側のにある選択値の間の距離と等しい間隔分、現在の選択をリストボックスの下方に移動します。最後の値に届くと、選択は最初の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスは一度に1ページ下にスクロールします。

以下のリストボックスでEとFを選択し、異なるキーを使うと以下の結果を得られます。



結果の例

キー	動作
下向き矢印	FとGが選択されます。
上向き矢印	DとEが選択されます。
Page Up	CとDが選択されます。
Page Down	GとHが選択されます。

9.13 選択されている項目値のロック

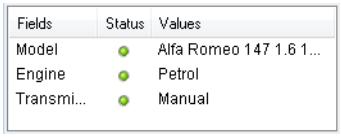
除外されている項目値を選択すると、新しい選択と競合する前の選択は取り消されます。このように前の選択が取り消されることを防ぐには、**[オブジェクト]** メニューを開いて**[ロック]** コマンドを選択し、リストボックス内のすべての選択をロックします。

前に設定したロックを解除するには、リストボックスの**[オブジェクト]** メニューを開き、**[アンロック]** を選択します。すべての選択全体に対する一般的なロックとアンロックは、**[選択]** メニューから実行できます。

他の項目でロックされている選択と競合する値を選択しようとすると、選択は失敗します。

リストボックス、マルチボックス、スライダーオブジェクトの**[ロック項目の上書き]**設定により、項目内のロックされている選択を特定のシートオブジェクトから上書きできます。その項目は、他の項目での選択による論理的な変更に対してはロックされます。スライダーオブジェクトでは、このオプションは、デフォルトでオンになっています。

9.14 現在の選択条件



選択表示ウィンドウでは、選択値が項目名と項目値にリストされます。このウィンドウは常にシートの上に配置され、ドキュメントの選択状態を把握するのに役立ちます。**[状態]**列で、インジケータは、選択値とロック値を区別するために使用されます。**[表示]**メニューまたはツールバーの**[選択表示ウィンドウ]**ボタンから開きます。

強調表示されている項目がない状態で**[現在の選択条件]**ウィンドウ内を右クリックすると、次のコマンドを含むフローティングメニューが表示されます。

- **すべての選択をクリアする**: ドキュメントのすべての選択値を選択解除します。
- **選択値をすべてロックする**: ドキュメントのすべての選択値をロックします。
- **すべてをアンロックする**: ドキュメントのすべてのロックされている値をロック解除します。
- **データ**: ドキュメントのすべての選択値の名前と選択されている項目の名前をクリップボードにコピーします。

選択表示ウィンドウは、サイズ変更可能であるということとドキュメントの作業中に開いたままにできるという点でシートオブジェクトと同じです。現在のQlikViewドキュメントを閉じても、これは開いたままになり、その内容は別のドキュメントが開かれると変更されます。シートオブジェクトと同様に、新しい選択が行われると即座に動的に更新され、現在の選択の概要をいつでも把握できます。

[選択表示]ウィンドウに表示されるユニークな選択値の最大数は、**[ユーザープロパティ]**ダイアログで指定されます。選択する値が多くなると、各々の項目について「x項目:y」と表示されます。

ANDボックスでの選択では、それが選択か除外かによって**&**または**!**が先頭に表示されます。

検索により項目内で選択を行った場合は、項目値として検索文字列が表示されます。

9.15 他のオブジェクトの選択

ほとんどのオブジェクトでは項目で直接選択を行うことができます。テーブルでは、セルの色が緑色になり、値が選択されていることを示します。クリックして単一の値を選択するか、マウスでペイントして複数の値を選択します。

また、検索によって選択することも可能です。

次のセクションでは、さまざまなタイプのオブジェクトで選択を行う方法について説明します。以下の説明のようにオブジェクトで選択を行えない場合は、チャートが**分離**モード、もしくは**読み取り専用**モードに設定されている可能性があります。

統計ボックス

統計ボックスでは、**[最小値]**、**[最大値]**、**[中央値]** などいくつかの統計量をクリックし、それに対応する値を選択できます。統計ボックスでは、その選択はマークされませんが、その他のボックスでマークされます。

マルチボックス

マルチボックスの1行は項目を表します。小さな矢印をクリックすると、項目に属する値のリストを表示します。選択と検索は、リストボックスと同様にこのリストでも行うことができます。

テーブルボックス

任意のセルをクリックするか、1行以上かつ1列以上で構成される領域をペイントすると選択できます。**ドロップダウンリスト**チェックボックスがオンの場合、列のヘッダーに矢印が表示されます。矢印をクリックすると、この項目に属する値のリストを表示します。選択と検索は、リストボックスと同様にこのリストでも行うことができます。

スライダー/カレンダオブジェクト

スライダーでは、ひとつの項目を基準に、スライダーを目的の位置に合わせて値の選択を行うことができます。スライダーが適宜に設定されている場合、スライダーのサイズをマウスのクリックで変更することが可能です。この場合、複数の値を選択できます。

カレンダオブジェクトにある小さなカレンダのアイコンをクリックするとカレンダが開きます。カレンダオブジェクトの設定に基づいて、マウスで日付または期間を選択でき、その選択が基底の項目に転送されます。Ctrl+Click を使用すると、異なる月や年であっても複数の期間を選択できます。

棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、グリッドチャート、および散布図

このようなオブジェクトでは、さまざまな方法で選択を行うことができます。

- 単一のデータ点をクリックするか、プロットエリア内で複数のデータ点をペイントできます。ペイントすると、範囲内の領域は緑のラスタがかかって表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。
- チャートの凡例内 (凡例が軸の値でなくチャートの数式を示している場合を除く) をクリックするかペイントできます。
- 軸とそのラベル (散布図を除く) をクリックするかペイントできます。対応する項目値が選択されます。
- 数式の軸とそのラベルをペイントできます。指定された結果領域でデータ点を生成する項目値が選択されます。

ユーザーの要望を反映して、2軸以上の折れ線グラフと棒グラフでペイントして選択する場合の QlikView の選択ロジックの動作は、他のチャートとは少し異なります。これらのグラフでの選択は、両方の軸に同時には影響を与えません。

折れ線グラフの選択は、主に第2軸で行われます。つまり、ある線をペイントすると、x 軸のすべての軸の値の線全体が選択されます。

棒グラフでは、逆が適用されます。選択は、最初に第 1 軸に適用されます。つまり、1 つの棒のセグメントをクリックすると、そのセグメントの x 軸の値が選択され、すべてのスタックやクラスターのセグメントは選択可能のままです。選択で第 1 軸の選択が 1 つの値に絞り込まれた場合、古い選択ロジックが再度適用され、第 2 軸も選択できるようになります。

コンボ チャートでは、選択はすべての軸に影響を与えます。

円グラフ

プロット エリア内で 1 つのスライスをクリックするか、複数のスライスをペイントすると選択できます。ペイントすると、範囲内の領域は緑のラスタがかかって表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。

チャートの凡例をクリックするかペイントして、選択を行うことも可能です。

ブロック チャート

ブロック チャートの各ブロックを選択できます。ドリルダウン機能を使用して、特定の軸を参照します。最初のブロックを選択すると最初の軸が参照され、最初のブロック内で 2 番目のブロックを選択すると、2 番目の軸が参照されます。

領域をペイントして、複数のブロックを選択することもできます。この選択領域は、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。そういった選択は第 1 軸のひとつの値、もしくは複数の値を照会します。ブロックに対応するこれらの値を基準に計算が行われます。選択が第 1 軸に属する複数値のブロック枠をまたがる場合、選択した範囲の値だけではなく、第 2、第 3 軸に属する関連するすべての値にも影響します。

ゲージ チャート

ゲージ チャートでは軸が定義されていないため、選択を行うことはできません。

ストレート テーブル

1 つのセルをクリックするか、複数のセルをペイントすると、ストレート テーブルの軸の列内で選択できます。この選択領域は、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

軸を示す列の **[ドロップダウン リスト]** チェックボックスがオンの場合、小さな矢印が列のヘッダーに表示されます。矢印をクリックすると、項目のすべての値のリストを表示します。このリストでは選択と検索を実行できます。

1 つのセル内をクリックすると、数式の列内で選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

ピボット テーブル

1 つのセルをクリックすると、ピボット テーブルの軸の列/行内で選択できます。選択されたセルは、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

軸を示す列の **[ドロップダウン リスト]** チェックボックスがオンの場合、小さな矢印が列のヘッダーに表示されます。矢印をクリックすると、項目のすべての値のリストを表示します。このリストでは選択と検索を実行できます。

1 つのセル内をクリックすると、数式の列内でも選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

9.16 [Search] (検索)

QlikView オブジェクトで値をクリックして選択を行う代わりに、テキストまたは数値検索を使用して選択することもできます。

検索を使用した選択

次のセクションでは、テキスト検索を使用して選択を行う方法と、QlikView が異なるコマンドに応答する方法について説明します。以下の手順を行ってください。

1. リストボックスのキャプションをクリックして、検索文字列を入力します。文字列では、大文字と小文字が区別されません。
   検索文字列がポップアップの検索ボックスに表示されます。QlikView では検索文字列の条件を満たす選択された項目のすべての値が結果に表示されます。
2. Enter を押すか、結果のセルのひとつをクリックして値を選択します。

> *Ctrl + Enter を押すと、検索文字列と一致するすべての値が選択に追加されます (前の選択に含まれていない場合)。検索文字列と一致するが、すでに前の選択に含まれている値は、Ctrl + Enter を押すと選択から除外されます。前の選択に含まれていて、検索文字列と一致しない値は、選択に保持されます。*

Enter キーまたは Esc キーを押すか、レイアウト内をクリックすると、検索ボックスは自動的に閉じます。検索ボックスの **x** アイコンをクリックして検索ボックスを閉じることもできます。検索ボックスはサイズ変更可能で、再度開いたときにそのサイズを維持します。

複数のリストボックスでの検索

検索にはアクティブなリストボックスがすべて含まれます。複数のリストボックスを検索するには、Shift を押しながらキャプションをクリックしてリストボックスをアクティブにします。複数のリストボックスを検索しているときに Enter を押しても、検索結果の値を選択することはできません。

すでに選択が行われている場合、検索を解釈できる方法は 2 通りあります。

- 連結値のみを検索
- すべての値を検索 (検索で除外された値を含む)

作業する検索モードを設定するには、**ユーザープロパティ**ダイアログの **検索対象に除外値を含める** をオンまたはオフにします。このモードで特定の個別のシートオブジェクトも設定できます。

> *論理積 (and) オプションを項目に設定すると、検索された値を複数選択できない場合があります。*

テキスト検索

検索の最も簡単な方法は、テキスト検索です。入力したテキスト文字列に一致する項目値が検索されます。

ワイルドカードを使用しない標準検索の場合、QlikView は検索文字列と同じように始まる単語を検索します。検索文字列に空白で区切られた複数の単語が含まれる場合、QlikView はそれを複数の検索文字列と解釈し、いずれかの文字列を含む項目値を表示します。

ワイルドカード

検索文字列には 1 つまたは複数のワイルドカードを使用できます。次のワイルドカードを使用できます。

検索ワイルドカード

ワイルドカード	意味
*	ゼロまたはそれ以上の文字、空白文字を含む。このワイルドカードは自由度が高く、指定の位置にあるあらゆる文字、またはあらゆる文字のブロックを照合します。
?	1 文字、空白文字を含む。このワイルドカードは文字列にスペルミスが含まれているのではないかと疑われる場合、スペルが不確かな場合、または文字列に再現が難しい特殊文字が含まれている場合などに便利です。
^	項目値の文字の最初。このワイルドカードは他のワイルドカードと組み合わせて使用されます。

*ワイルドカードを使用すると、検索文字列全体に合致するレコードのみが表示され、空白が論理和 (or) と解釈されません。検索文字列 '*creamed' は "Rocky's creamed corn" と適合しません。これはこの値の最後が “creamed” でないためです。同様に、検索文字列 “creamed*” は "Rocky's creamed corn" と適合しません。これはこの値の最初が “creamed” でないためです。*

ワイルドカードの例

例	結果
a*	文字 “a” で開始するすべての値が検出されます。一文字目が “a” の複数の単語も含まれます。
*b	文字 “b” で終了するすべての値が検出されます。最後の文字が “b” の複数の単語も含まれます。
c	文字 “c” を含むすべての値が検出されます。複数の単語からなる文字列も含まれます。
^ab	"ab" で始まる単語を含むすべての値が返されます。 “ab” の通常の検索と同じ結果が返されますが、ワイルドカードを使用すると、通常の検索と異なり、より複雑な検索を実行できます。Set 分析などプログラムの検索でも使用できます。
r?ck	4 文字で構成され "r" で始まり、任意の文字が続き、"ck" で終わる値、たとえば、“rack”、“rick”、“rock”、“ruck” などが検出されます。
r?? ????d	3 文字の "r" で始まるすべての単語と、5 文字の "d" で終わる単語が含まれるすべての値が検出されます。

*検索文字列に空白を含めた場合とそうでない場合は違いがあります。"*corn" を検索した場合、たとえば、"popcorn" と "corn" のように、指定した文字で終わる単語が検出されます。"* corn" など、文字列の中に空白を使用した場合は、"corn" で終わる単語のみが返されます。*

あいまい検索

あいまい検索は、検索文字列への類似度に応じてすべての項目を比較し、ソートする以外は、標準の検索に類似しています。あいまい検索は、スペルミスが問題となるような場合に特に便利です。お互いにほとんど同じ値を複数検索するのにも役立ちます。

あいまい検索が使用されるときは、チルダ記号 (~) が検索文字の前に表示されます。

テキスト検索をチルダ記号で開始すると、あいまい検索モードでテキスト検索ウィンドウが開きます。検索ウィンドウにはチルダ (~) が表示され、その後にカーソルが置かれています。入力すると、すべての値が検索文字列との類似性の高さに基づいてソートされ、最も一致している値がリストの一番上にきます。Enter キーを押すと、リストの最初の値が選択されます。

数値検索

数値検索を使用して選択することもできます。テキスト検索とほぼ同じです。唯一の違いは、検索文字列が以下の関係演算子のいずれかで始まる必要があるという点です。

数値検索演算子

演算子	説明
>	より大きい
>=	以上
<	未満
<=	以下

数値検索演算子の例

例	結果
>900	900 より大きいすべての値を検索します
<=900	900 以下のすべての値を検索します
>900<1000	900 より大きく、かつ 1000 より小さい値がすべて検索されます
<900>1000	900 より小さい、または 1000 より大きい値がすべて検索されます

初期検索モード

テキストを入力し始める場合の動作は異なる可能性があります。QlikView が検索文字列にワイルドカードを追加して、ワイルドカード検索を行うことがあります。

好みの検索モードは、オブジェクトのプロパティ、もしくは **ユーザープロパティ** で設定できます。

検索文字列の評価

検索文字列が入力、編集された後、QlikView は上記のどの検索動作を選択するかを評価します。

検索文字列にワイルドカード文字が含まれている場合は、標準検索ではなくワイルドカード検索が行われます。

検索文字列にワイルドカード、より大きい (>)、より小さい (<) といった文字を追加するか削除すると、いつでも検索モードを変更できます。

連想検索

リストボックスの検索ボックスには、右側にシェブロン (>>) が含まれています。これをクリックすると、検索ボックスは右側に拡張され、1 つ目の検索結果の横に 2 つ目の検索結果が表示されます。この 2 つ目のリストには、他の項目で合致した検索結果が含まれます。2 つ目の検索結果をクリックし、一時的な選択を行うことができます。この選択により、1 つ目の選択結果がさらに絞り込まれます。2 つ目の検索結果で選択を行うと、最初のリストで選択を行う前に新しい検索文字列を入力することができます。最後に、1 つ目の検索結果で選択を行うと、2 つ目の検索結果は閉じられます。

高度な検索

複雑な検索式では、**[高度な検索]** ダイアログを使用できます。これはキーボードのショートカット Ctrl+Shift+F で呼び出せます。イコール サイン (=) を使用してテキスト検索を開始する場合、ブール論理と関連付けられた項目の検索条件を含む高度な検索式を入力できます。等号の後には、任意の有効な QlikView レイアウト数式を入力できます (*[数式の編集]ダイアログ (page 114)*)。この数式は、検索項目の項目値ごとに評価されます。検索式が 0 以外の値を返すすべての値が選択されます。

=MyField **like** 'A*' or MyField **like** '*Z'

> 項目 MyField を含むリストボックスから例を呼び出すと、文字 A で始まるか文字 Z で終わるすべての項目値が検索で返されます。

=**sum**(Sales)>**sum**(Budget)

> 項目 Salesman を含むリストボックスから例を呼び出すと、関連付けられている売り上げ値が関連付けられている Budget より大きなすべての営業担当が検索で返されます。

テキスト検索ボックス

このテキストボックスでは、テキスト検索の検索文字列を表示します。文字列は編集できます。

高度な検索

イコール サイン (=) を使用してテキスト検索を開始する場合、ブール論理と関連付けられた項目の検索条件を含む高度な検索式を入力できます。イコール サインの後には、任意の有効な QlikView レイアウト数式を入力できます。この数式は、検索項目の項目値ごとに評価されます。検索式が 0 以外の値を返すすべての値が選択されます。

高度な検索の例

例	説明
=MyField like 'A*' or MyField like '*Z'	項目 **MyField** を含むリストボックスから例を呼び出すと、文字 A で始まるか文字 Z で終わるすべての項目値が検索で返されます。
=sum (Sales)>sum (Budget)	項目 Salesman を含むリストボックスから例を呼び出すと、関連付けられている売り上げ値が関連付けられている Budget より大きなすべての営業担当が検索で返されます。

9.17 [高度な検索] ダイアログ

[高度な検索] ダイアログを使用すると、QlikView 項目に適用する複雑な検索クエリを作成できます。アクティブなリストボックスに入力して検索を開始するときに表示される標準の検索ボックスとは異なり、検索の結果は、**[検索]** ボタンを押して検索を実行するまでレイアウトに対話的に表示されません。ダイアログは、QlikView レイアウトでの作業中は開いたままにできます。ダイアログは全面的にサイズ変更可能で、大きく複雑な数式を簡単に編集できます。

検索ダイアログ要素

要素	説明
検索を行う項目	検索を実行する項目。ダイアログに入力するときにアクティブなリストボックスの項目に設定されます。ドロップダウンを使用していつでも検索項目を変更できます。
検索の数式	検索の数式を入力する場所です。通常の検索ボックスを使用した場合と同じルールが適用されます。
検索	検索を検索項目に適用します。
元に戻す	QlikView は、過去の選択条件を 100 段階まで記憶します。選択条件のリストを 1 つ前に戻すにはこのボタンをクリックします。
やり直し	選択条件のリストを 1 つ次に進めるにはこのボタンをクリックします (直前の **元に戻す** コマンドを取り消すのと同じです)。**[元に戻す]** コマンドを直前で使用した場合に限り使用できます。
検索項目の選択をクリア	現在の検索項目の選択をクリアします。
すべての選択をクリア	ドキュメント内のすべての選択をクリアします。
ヘルプ	高度な検索の **[ヘルプ]** ダイアログを開きます。
閉じる	ダイアログを閉じます。

ダイアログの最下部にある 3 つのタブを含むパネルは、高度な検索の数式を構築する際に役立ちます。

項目

[項目] タブを選択すると、QlikView 項目データに関連する構文を貼り付けるためのコントロールを使用できます。

項目タブ要素

要素	[Details] (詳細)
集計	このドロップダウンから、QlikView レイアウトで使用できる統計集計関数を選択できます。
テーブル	このドロップダウンで、選択する項目のあるテーブルを選択すると、**項目** のドロップダウンを使用した操作が簡単になります。
項目	このドロップダウンリストには、使用可能なすべての項目がリストされます。上の**テーブル** ドロップダウンで特定のテーブルを選択すると、リストを絞り込むことができます。
システム項目の表示	このチェック ボックスをオンにすると、ドキュメントの項目のリストにシステム項目が表示されます。
Distinct	デフォルトでは、統計関数は、元のテーブル内の出現数に基づいて計算されます。ただし、重複を計算してはならない場合があります。その場合は、このチェック ボックスをオンにしてから関数を貼り付けます。
貼り付け	選択した関数または項目そのものを **検索の数式** 編集ボックスに貼り付けます。分位数関数を使用する場合には、パーセンテージを使用できます。

関数

[関数] タブを選択すると、QlikView の一般的な関数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールを使用できます。

関数タブ要素

要素	[Details] (詳細)
関数の種類	ドロップダウンで関数の種類を選択すると、**関数** のドロップダウンを使用した操作が簡単になります。
関数	QlikView レイアウトで使用できるすべての関数の中から、数式に貼り付ける関数をドロップダウンから選択できます。上記の **[関数の種類]** ドロップダウンで選択し、特定のカテゴリに属する関数のみを表示するようにリストを限定できます。
貼り付け	選択した関数名を **[検索の数式]** 編集ボックスに貼り付けます。

ダイアログの最下部に、**関数** ドロップダウンで選択している関数の引数の構文が表示されるパネルがあります。

変数

[変数] タブを選択すると、QlikView の変数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールを使用できます。

変数タブ要素

要素	[Details] (詳細)
変数	ドロップダウンで、ドキュメントで現在定義されているすべての変数を確認できます。 **貼り付け** 選択した関数を**[検索の数式]**編集ボックスに貼り付けます。 **システム変数の表示** このチェックボックスをオンにすると、システム変数が**[変数]**ドロップダウンのリストに表示されます。

ダイアログの最下部に、**変数**ドロップダウンで選択している変数の現在の値を表示するパネルがあります。

9.18 リストボックスの AND モード

AND モードに設定されたリストボックスで複数選択を行うと、選択された項目値のすべてに関連するデータのみが他の項目に表示されます。

顧客が異なる品物を購入したことに関する情報がデータソースに含まれています。

初期モードでいくつかの品物を選択すると、選択した品物を購入した顧客が QlikView に表示されます。

AND モードでいくつかの品物を選択すると、選択した品物を購入した顧客が QlikView に表示されます。

AND モードの前提条件

項目のモードは、**[リストボックスプロパティ: 基本設定]**タブで設定します。

And モードがアクティブな場合は、選択値の前にアンパサンド**("&")**が表示されます。

値をクリックしてしばらく保持すると、選択が**(AND)**選択 (緑) から**NOT**選択 (赤) に切り替わります。アンパサンドも感嘆符 **("!")** に置き換わります。強制排除や強制排除のマークを持つ**NOT**選択は、**And モード**に設定されているリストボックスでのみ作成できます。

AND モードの基準

項目は、常に論理 AND モードに設定できるとは限りません。関連する項目が他の 1 つの項目のみにリンクされている場合に限り、AND に論理的な意味があるからです。次の条件を満たす必要があります。

- 項目が 1 つの論理テーブルにのみ存在する
- 項目は最大 2 項目までで、かつそのうちの 2 列目である
- テーブルに重複するレコードがあってはならない
- その項目のロードには distinct 修飾子を使用する。テーブルのロードに Select ステートメントを使用する場合、Load distinct * ステートメントで先行する必要があります。

AND モードでのリストボックスの設定

以下の手順は、初期モード(論理和 OR) の代わりに AND モードでリストボックスを設定する方法を説明しています。以下の手順を行ってください。

1. AND モード基準が満たされていることを確認してください。
2. リストボックスを右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
3. **[基本設定]** タブで **[And モード]** チェックボックスをオンにします。

強制除外

強制除外 (NOT 選択と呼ばれることもあります) は AND 選択に密接に関連しています。強制除外では、明示的に項目値を除外できます。つまり、QlikView に検出される結果は、除外値に関連付けられません。

強制除外を行うには、セルをクリックして、セルが赤くなるまでマウスボタンを押し続けます。この方法で Ctrl キーを押しながらクリックすると、前の選択/除外に対する追加要求である除外が行われます。強制除外は、AND モードの項目でのみ実行できます。

テキストオブジェクトなどのオブジェクトの特定の項目値を強制的に除外する場合は、スクリプトの構文を変更する必要があります。例えば、スクリプトステートメントが次の場合:

```
=count({<ANDActor=>}DISTINCT Title)
```

次のように変更します:

```
=count({<~ANDActor=, ANDActor=>} DISTINCT Title)
```

9.19 並列ステート

説明

[並列ステート]を使用して、重複したデータアイテム間の比較分析 (例えば、バスケット解析目的) を行えます。選択状態の場合、選択の組み合わせを保持します。

QlikView の開発者は QlikView ドキュメントに複数の状態を作成し、ドキュメントの特定のオブジェクトにこれらの状態を適用できます。エンドユーザーはこれらのオブジェクト (サーバー オブジェクト) のコピーを作成し、それらのオブジェクトに異なるステートを設定することが可能です。

[分離設定] と**[並列ステート]** の最も重要な違いは、特定の状態が設定されたオブジェクトはすべて、その状態で行われた選択の影響を受けるということです。特定のステートが設定されたオブジェクトは、他のステートにおける選択の影響を受けません。

[並列ステート]は、ロードスクリプトでは使用できません。

*[並列ステート] 機能は、QlikView デベロッパーによって有効化されて、慎重に使用されなければなりません。なぜなら、並列ステートに、オブジェクトや数式が存在することを示す自動オンスクリーン表示がないため、エンドユーザーに多大な混乱を引き起こす可能性があるからです。QlikView の開発者は **StateName()** 関数を使用してこの情報をエンドユーザーに提供できます。*

[並列ステート]選択の視覚化は、データがセクション アクセスやデータ削減の下にある場合には失敗することがあります。[並列ステート]選択は、セクション アクセスで QlikView ドキュメントを消費しているユーザーがデータにアクセスできない場合には視覚化できません。

並列ステートの設定

以下を行い、並列ステートを設定して有効にしてください。

1. **ドキュメントプロパティで [並列ステート...] をクリックします。基本設定]** タブ内) をクリックします。 **[並列ステート]** ダイアログが開きます。
2. **[追加]**をクリックして、ステートを多数作成し、それらに名前を設定します。その名前は、ステートの識別子として参照されます。
3. **[OK]** をクリックしてダイアログを閉じます。

これで、QlikView デベロッパーは、スクリーン オブジェクト内から、新規の[並列ステート]を作成することができます。

QlikView Server からQlikView ドキュメントにアクセスするエンドユーザーは、[並列ステート] を利用できますが [並列ステート] を作成することはできません。

ステートをオブジェクトに割り当てる

以下を行い、ステートをオブジェクトに割り当ててください:

1. **[プロパティ]** ダイアログを開き、**[基本設定]** タブを選択します。
2. オブジェクトに使用したいステートの識別子に **[並列ステート]**を設定します。

他のオブジェクトが同じステートに設定されない限り、オブジェクトは、選択の条件により、そのオブジェクトは、ドキュメントの残りのオブジェクトに影響されません。

[初期ステート] と**[継承済み]** の 2 つのステートは常に使用できます。**初期ステート**は QlikView で最も頻繁に使用されるステートで、$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **[初期ステート]** にあります。オブジェクトはシートやコンテナといった上位レベルのオブジェクトからステートを継承できます。つまりステートは、ドキュメント- シート- シート オブジェクト。シートとシート オブジェクトは、QlikView の開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。

並列ステートの比較

同じオブジェクトの2つのステートを比較することができます。例えば、set 分析を使用している数式のステートを割り当てるにことにより、同じ軸を持つデータの両方のステートを表示するために、折れ線グラフを作成することができます。

状態を定義した場合 *Group1* および *Group2*これら2 つの数式を折れ線グラフで表示することにより、グループの項目 *Adj.Close*の平均を比較できます。

```
Avg({[Group1]} [Adj.Close])
```

```
Avg({[Group2]} [Adj.Close])
```

並列ステート使用時の論理的な動作

[クリア] ボタンはすべてのステートに影響します。
Inter Explorer プラグインでは、メニュー項目が、特定のステートの選択をクリアすることができる**クリア** ボタンのドロップダウン メニューに追加されます。このメニューは、Ajax クライアントでは利用できませんが、特定のステートで、クリアのアクションと関連付けられたアクション ボタンを作成することにより、同じ機能を実現できます。

[元に戻す] と**[やり直し]** ボタンはすべてのステートに影響します。特定のステートにおいて、元に戻したりやり直したりする機能はありません。

[ロック] と**[アンロック]** ボタンはすべてのステートに影響します。これらのボタンで特定のステートをロック/アンロックすることはできません。特定のステートにあるリスト ボックスを右クリックして表示されるメニューを使用し、ステートの特定項目をロックすることが可能です。

[選択] メニューのメニュー項目はすべてのステートに適用されます。このメニューには特定のステートに影響する機能はありません。

[並列ステート] はリンク オブジェクトで使用できます。オブジェクトのインスタンスすべてにそのステートが適用されます。リンク オブジェクトでは、リンクするオブジェクトのひとつのステートを変更すると、その他のオブジェクトも同じステートになります。

トリガーはすべてのステートで発生します。

アクションは特定のステートで発生するように設定できます。**[マクロの実行]** アクションは例外となります。特定のステートで起動するように設定できますが、マクロはすべてのステートで発生します。

存在しないステート(開発者が削除したステート) が設定されたオブジェクトは、**[並列ステート]** ドロップダウンを介して初期ステートに戻ります。ここには以下のような情報が表示されます。
`AlternateStateName <unavailable>`

State 引数のある項目関数は、並列ステートと一緒にのみ使用できます。

並列ステートの変数

変数を展開するときに使用するステートを指定できます。特定のステートでの変更は、別のステートで展開される変数値には影響しません。ステートを指定しない場合、変数はデフォルトのステートで展開されます。

`MyState` という名前のステートと `vMyVar` という名前の変数がある場合:

- `$(vMyVar)` は、変数をデフォルトのステートで展開します。
- `$({MyState} vMyVar)` は、変数を `MyState` のステートで展開します。

9.20 ブックマーク

現在の選択条件の状態を後で使用するためにブックマークとして保存できます。ブックマークは、QlikView ドキュメントに定義されたすべてのステートの選択条件を記録します。作成されたブックマークを呼び出すと、すべてのステートの選択条件が適用されます。

ブックマークの種類

ブックマークには、次の種類があります。

- **ドキュメント シート オブジェクト**: QlikView ドキュメント内に保存されます。ドキュメントがローカルで開かれている場合も、QlikView Server から開かれている場合でも使用できます。
- **ユーザー ブックマーク**: ユーザーのコンピュータに別途保存されます。マイ ブックマークは、作成したユーザーが、作成に使用したコンピュータ上でのみ使用できます。ドキュメントが移動されたり、名前が変更されると、関連する個人用のブックマークはすべて失われます。
- **個人用 サーバー ブックマーク**: 認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。
- **共有 サーバー ブックマーク**: 認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。個人用サーバー ブックマークを作成したユーザーは、これを他のユーザーと共有するためのフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。個人用サーバー ブックマークと同様、共有サーバー ブックマークはサーバーのリポジトリに保存されます。
- **仮ブックマーク**: 一部の機能を使用するときに QlikView によって作成されます。たとえば、**ブックマークのリンクを電子 メールで送信** およびドキュメント チェーンなどです。認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。

*データ モデルに変更を加えると、項目名に変更がなくても既存のブックマークが機能しなくなる可能性があります。たとえば、**[常にひとつの選択値]** オプション (**[リスト ボックス** プロパティ] 内) の有効化などです。*

[ブックマークの追加] ダイアログ

[ブックマーク] メニューから **[ブックマークの追加]** を選択するか、Ctrl+B を押すと、現在の選択の状態をブックマークとして保存できます。ブックマークは、QlikView レイアウトのブックマーク オブジェクトを使用して作成することもできます。これにより、**[ブックマークの追加]** ダイアログが開きます。

ローカル ドキュメントを操作しているか、QlikView Server 上のドキュメントを操作しているかによってダイアログは多少異なります。最初にローカル ドキュメントのダイアログについて説明し、次にサーバー ドキュメントとの違いを説明します。

ブックマーク項目

項目	[Details] (詳細)
ブックマーク名	作成されるブックマークのデフォルト名は、現在の日付です。さらに、特定の日に作成された最初のブックマークには、番号 1、2 番目には 2 が付きます。ただし、名前を入力して既定の名前をよりわかりやすいテキストに変更できます。
このブックマークをドキュメントのブックマークにする	チェック ボックスをオンにすると、ブックマークは ドキュメントと共に保存されます。このオプションは、ローカル ドキュメントでのみ使用できます。チェック ボックスをオフにすると、ブックマークはユーザー ブックマークとして作成され、コンピュータにローカルで保存されます。
選択条件を含める	チェック ボックスをオンにすると、アプリケーションの選択条件がブックマークに含まれます。
このブックマークの条件を選択時の条件に追加適用する	チェック ボックスをオンにすると、ドキュメントの既存の選択を最初にクリアしないでブックマークが適用されます。
レイアウト状態を含める	このチェック ボックスをオンにすると、ブックマークの作成時にアクティブだったシート上のすべてのシート オブジェクトのレイアウト状態が保存されます。この中には、チャートのサイクル位置などが含まれます。レイアウト情報を含むブックマークを再度呼び出すと、シートがアクティブにされ、シート オブジェクトがその状態に復元されます。 ブックマークのレイアウト状態には、オブジェクトの全体的なプロパティではなく、表示状態 (最小化/最大化) と展開状態のみが含まれます。 アクティブなシート上のあらゆるストレート テーブルとピボット テーブルのレイアウトは、コンテナ オブジェクト内にない限り保持されます。ただし、ストレート テーブルとピボット テーブルの列の位置は保持されません。 ストレート テーブルとピボット テーブルのレイアウトに関しては リセット オプションはありません。回避方法としては、ピボット テーブルの元のレイアウトを使用してドキュメントがクリアの状態でドキュメント ブックマークを作成する方法があります。
スクロール バーの位置を含める	このチェック ボックスをオンにすると、ブックマークのテーブル オブジェクトに、現在の垂直スクロールの位置が含まれます。
入力フィールドの値を含める	このチェック ボックスをオンにすると、入力フィールドの値がブックマークに含まれます。
説明文	ブックマークを再度呼び出した場合に表示される、ブックマークを説明するテキストかメッセージを編集ボックスに入力できます。
ポップアップ メッセージ	チェック ボックスをオンにすると、ブックマークを再度呼び出すたびにブックマーク情報のテキスト(存在する場合) がポップアップ ウィンドウに表示されます。

サーバー ドキュメントの相違

項目	[Details] (詳細)
このブックマークをサーバーのブックマークにする	このチェック ボックスをオンにすると、ブックマークは個人用サーバーブックマークとして作成され、サーバーのリポジトリに保存されます。このオプションは認証ユーザーだけが使用でき、QlikView Server とドキュメントでサーバーブックマークを作成できることが前提です。 チェック ボックスをオフにすると、ブックマークはユーザーブックマークとして作成され、コンピュータにローカルで保存されます。
他のユーザーとブックマークを共有	サーバーブックマークを作成できる場合に、このチェック ボックスをオンにすると、即座にブックマークを同じサーバー ドキュメントの認証ユーザーと共有して使用できます。**ブックマーク** ダイアログの **マイ サーバー ブックマーク** ページで **共有** チェック ボックスをオフにすることで、いつでも共有を取り消せます。

*ブックマークにソート順は保存されません。ブックマークを選択すると、**[プロパティ]** で定義されているソート順に置き換わります。*

ブックマークの削除

カスケード メニューを開くと、最初の 10 個のドキュメントブックマークが、最初の 10 個のマイ ブックマークの上にリスト表示されます。ブックマークを選択し、削除します。

[ブックマーク] ダイアログ

[ブックマーク] メニューから**[ブックマークの整理]** を選択し、**[ブックマーク]** ダイアログを開きます。[ブックマーク] ダイアログは、2 ページ (ローカル ドキュメントの場合) または 5 ページ (サーバー ドキュメントの場合) に分かれていて、ドキュメントブックマークとマイ ブックマーク、マイ サーバー ブックマーク (サーバー ドキュメントのみ)、他のユーザーとの共有サーバー ブックマーク (サーバー ドキュメントのみ)、一時的なブックマーク (サーバー ドキュメントのみ) となります。

ダイアログの上部に、QlikView ドキュメントで現在定義されているブックマークが表示されます。ブックマークは次の複数の列で表され、ソートすることができます。

ブックマーク ダイアログの列

列	説明
表示	ブックマーク オブジェクトのリストと**ブックマーク** メニューにブックマークを表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。チェック ボックスをオフのままにすると、ブックマークは表示されませんが、このダイアログからアクセスできます。
名前	ブックマークの名前。ブックマークをアルファベット順でソートするには、列のヘッダーをクリックします。2 回 クリックすると、ブックマークはアルファベット順の降順でソートされます。
+	ブックマークのチェック ボックスをオンにすると、ドキュメント内の既存の選択を最初にクリアしないでブックマークが適用されます。ドキュメントの既存の選択条件に矛盾しない限り、その選択条件にブックマークが追加適用されます。

列	説明
レイアウト	ブックマークがレイアウト情報と共に作成されている場合、ブックマークのレイアウト設定をチェックボックスを使用して切り替えることができます。レイアウト設定がオンの場合、プログラムはブックマークが作成されたときに設定されていたレイアウトを再形成しようとします。これには、正しいシートへの切り替えとシート上のシートオブジェクトのレイアウト更新が含まれます。 レイアウト情報なしにブックマークを作成した場合、この設定を使用してレイアウト情報を追加することはできません。
作成日時	ブックマークが作成された日付と時刻の情報。
ID	これは、マクロで使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が割り当てられます。英数字は ID のみに使用することをお勧めします。ブックマークの場合、ID は BM01 から始まります。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。これは、同じ ID のドキュメントブックマークとサーバーブックマークを持つことができることを意味します。 ブックマーク ID は、マクロを使用してドキュメントの他のブックマーク、シートまたはシートオブジェクトで現在使用されていない他の文字列に変更できます。ブックマークの名前を変更しても、ブックマーク ID は変更されません。ブックマークをエクスポートしてからインポートすると、新しいブックマーク ID が作成されます。ブックマーク ID の先頭には、その種類 (ドキュメント、ユーザーなど) を説明するプレフィックスが付きます。
ポップアップ	ブックマークに説明文を追加した場合にこのチェックボックスをオンにすると、ポップアップテキストとして表示します。
説明文	ブックマークに説明文を追加した場合、ここに表示されます。
共有	このチェックボックスは、**[マイ サーバーブックマーク]** ページでのみ使用できます。マイサーバーブックマークのいずれかでチェックをオンにすると、ブックマークは、**共有サーバーブックマーク** ページで同じサーバードキュメントの他の認証ユーザーからも使用できるようになります。ブックマークは、**マイ サーバーブックマーク** ページに限られ、**共有サーバーブックマーク** ページには表示されません。 チェックボックスをオフにすることで、いつでも共有を取り消せます。

ダイアログの下部に、上のリストで現在選択されているブックマークで操作を実行するためのボタンが表示されます。

ブックマークダイアログのボタン

ボタン	アクション
角の丸みには	画面に選択されたブックマークを表示します。
Replace	選択したブックマークを現在の選択に置き換えます。自分で作成したブックマークのみ、置換することが可能です。
Rename	ブックマークの新しい名前を指定できる**ブックマーク名の変更**ダイアログが開きます。自分で作成したブックマークのみ、名前の変更が可能です。

ボタン	アクション
削除	選択したブックマークを削除します。自分で作成したブックマークのみ、削除が可能です。
すべての選択をクリア	ダイアログの現在のパネルにあるすべてのブックマークを削除します。自分で作成したブックマークのみ、削除が可能です。
クリア選択状態の設定	強調表示したブックマークの選択を[クリア選択状態]として使用する場合、このボタンをクリックします。
説明文の編集	ここでは説明文を編集できます。
インポート	保存したブックマーク(.qbm)ファイルを参照して選択すると、**[ブックマークのインポート]**ダイアログが開き、ブックマークをインポートできます。
エクスポート	**[ブックマークのエクスポート]**ダイアログが開き、選択したブックマークをQlikView bookmark (.qbm)ファイルにエクスポートできます。
上へ	選択したブックマークをリストの1つ上に移動します。クリックアンドドロップし、リスト内を移動させることも可能です。 *サーバードキュメントでは利用できません。*
下へ	選択したブックマークをリストの1つ下に移動します。 *サーバードキュメントでは利用できません。*
ユーザーブックマークをサーバーに転送する	このテキストは、サーバードキュメントの操作中にのみ**[マイブックマーク]**タブに表示されます。テキストをクリックすると、すべてのローカルユーザーブックマークをサーバーリポジトリに保存されるサーバーブックマークに変換できます。マイサーバーブックマークは、コンピュータを変更したりサーバードキュメントの名前を変更した場合でもサーバーからアクセスできるので、使用することをお勧めします。変換が行われる前に、確認のメッセージが表示されます。転送は、すべてかゼロのどちらかで(アクティブなドキュメント内で)一方向です。

ブックマークのエクスポート

ブックマークのエクスポートダイアログでは、現在のドキュメントで定義されているすべてのブックマークがリスト表示されます。チェックされたブックマークのみが、出力されたブックマーク(.qbm)ファイルに含まれます。

OKをクリックすると、ファイル名とブックマークファイルの場所を指定するように要求されます。ブックマークファイルを保存すると、後で使用したり、同じQlikViewアプリケーションを使用する他のユーザーに配布することができます。

ブックマークのインポート

ブックマーク メニューから **インポート** を選択すると、ブックマークをブックマーク ファイルにインポートできます。QlikView ブックマーク ファイル (拡張子 .qbm) を選択できるダイアログが開きます。**ブックマークのインポート** ダイアログが開きます。

ブックマークのインポート ダイアログでは、選択したブックマーク ファイルに含まれるすべてのブックマークをリスト表示します。

> *ブックマークは、ブックマークが参照する項目と項目値が含まれている QlikView ドキュメントにのみインポートする必要があります。*

- **インポート可能なブックマーク**: 左側に、ブックマーク ファイルで定義されているブックマークがすべて表示されます。
- **現在のブックマーク**: 右側に、既存のユーザー ブックマークまたはドキュメントのドキュメント ブックマークのリストが表示されます。ブックマークは、ユーザー ブックマークまたはドキュメント ブックマークとしてインポートされる必要があります。ダイアログ上部のラジオ ボタンによってブックマークのインポート方法が決まります。
- **インポート**:**インポート可能なブックマーク** リストで 1 つまたは複数のブックマークを強調表示にし、このボタンを押してインポートします。
- **名前変更**:**ブックマーク名の変更** ダイアログが開き、インポートする前に強調表示したブックマークに新しい名前を指定できます。

並列ステートとブックマーク

ブックマークは、QlikView ドキュメントに定義されたすべてのステートの選択条件を記録します。作成されたブックマークを呼び出すと、すべてのステートの選択条件が適用されます。

数式でブックマークに含まれた特定のステートを活用することができます。例えば、この数式は「Group 1」ステート用に BM01 ブックマークで定義された選択条件によって生成されたデータセットの売り上げ (Sales) を計算します。

sum({[Group 1]::BM01} Sales)

> *ブックマークは参照するステートが存在しない場合 (開発者がステートを削除)、無効なステートを無視します。*

10 スクリプト構文およびチャート関数

スクリプトでは、ロジックに含まれるデータソースやテーブル、項目の名前が定義されます。さらに、アクセス権を定義する項目もスクリプトで定義されます。

スクリプトは、連続して実行される複数のステートメントで構成されています。

QlikView コマンドライン構文およびスクリプト構文は、Backus-Naur 形式または BNF コードと呼ばれる表記で記述されます。

新しい QlikView ファイルが作成された時点で、最初のコード行はすでに生成されています。これらのデータ型変換変数の初期値は、OS の地域の設定から取得されます。

スクリプトでは、ロジックに含まれるデータソースやテーブル、項目の名前が定義されます。スクリプトは、連続して実行される多数のステートメントとキーワードで構成されています。

コンマ、タブ、セミコロンを区切り記号として含むテーブル ファイルでは、**LOAD** ステートメントが使用されます。デフォルトでは、**LOAD** ステートメントはファイルのすべての項目をロードします。

一般的なデータベースには、Microsoft ODBC からアクセスする必要があります。ここでは、標準 SQL ステートメントが使用されます。使用可能な SQL 構文は、ODBC ドライバの種類によって異なります。

すべてのスクリプト ステートメントは、セミコロン「**;**」で終わる必要があります。

スクリプト構文に関する詳細情報については、このセクションのトピックからアクセスできます。

10.1 Backus-Naur 形式とは

QlikView コマンドライン構文およびスクリプト構文は、Backus-Naur 形式または BNF コードと呼ばれる表記で記述されます。

以下の表に、BNF コードで使用されるシンボルとその解釈についての説明を記載しています。

BNF コード シンボル

シンボル	説明
|	論理 OR。両側のいずれかのシンボルを使用できます。
( )	丸括弧は優先を意味します。BNF 構文を構成するために使用されます。
[ ]	角括弧。囲まれた項目はオプションです。
{ }	波括弧。囲まれた項目を 0 回以上繰り返します。
シンボル	非終端構文カテゴリ。他のシンボルにさらに分割できます。つまり、上記のシンボルと他の非終端シンボル、テキスト文字列などの組み合わせです。
::=	シンボルを定義するブロックの開始マークです。
LOAD	1 つのテキスト文字列から成る終端シンボル。このとおりにスクリプトに書き込む必要があります。

終端シンボルはすべて、**bold face** フォントで表記されます。例えば、" (" は優先順位を定義する丸括弧として解釈され、"(" はスクリプトで出力される文字として解釈されます。

alias ステートメントは次のように記述されます。

alias fieldname **as** aliasname { , fieldname **as** aliasname}

これは、テキスト文字列 "alias"、任意の項目名、テキスト文字列 "as"、任意の alias 名の順番で続くと解釈されます。任意の数の "fieldname as alias" をコンマで区切って指定できます。

次のステートメントは有効です。

```
alias a as first;
alias a as first, b as second;
alias a as first, b as second, c as third;
```

次のステートメントは無効です。

```
alias a as first b as second;
alias a as first { , b as second };
```

10.2 関数

関数は、ドキュメントのデータ上で特定のタスクを実行する手順またはルーチンの一種です。QlikView には、計算の実行、データやシステム情報の解釈、条件の判断など、さまざまな目的に使用できる数百種類の関数が用意されています。

多くの関数は、スクリプトエディタおよびチャートの両方で使用できます。チャートに固有の関数 (チャート関数) もあれば、スクリプトエディタに固有の関数 (スクリプト関数) もあります。

必ずというわけではありませんが、数式では関数がよく使用されます。

次のリストに、いくつかの関数の例を示します。

- **Max**: スクリプトおよびチャートで使用できる集計関数。
  例:**Max(Sales)** は、項目 Sales の最大値を計算します。
- **IF**: スクリプトおよびチャートで使用できる条件付き関数。
  例: **IF(Amount>0, 'OK','Alarm')** は、条件「Amount の値はゼロより大きいか?」を満たすかどうかを決定します。満たす場合は OK が書き込まれ、満たさない場合は Alarm が書き込まれます。
- **Date#**: スクリプトおよびチャートで使用できる変換関数。
  たとえば、**Date#(A)** は入力値 **A** を取得し、日付として評価します。

10.3 スクリプトのステートメントとキーワード

QlikView のスクリプトは多数のステートメントで構成されています。ステートメントは、正規のスクリプトステートメントまたはスクリプト制御ステートメントのどちらかになります。先頭にプレフィックスが付くステートメントもあります。

一般に正規ステートメントは、何らかの形でデータの操作に使用されます。これらのステートメントはスクリプト内で何行でも記述できます。常にセミコロン (;) で終了する必要があります。

通常、制御ステートメントはスクリプト実行の流れを制御するために使用されます。制御ステートメントの各節は1つのスクリプト行に収める必要があり、セミコロン「;」または改行コードで終了する必要があります。

正規ステートメントには必要に応じてプレフィックスを適用できますが、制御ステートメントには適用されることはありません。ただし、**when** および **unless** プレフィックスは、一部の制御ステートメント句のサフィックスとして使用できます。

次のセクションでは、スクリプトステートメントと制御ステートメント、プレフィックスをアルファベット順にリストアップしています。

スクリプトのキーワードは、いずれも小文字と大文字の組み合わせが可能です。ただし、ステートメントで使用されている項目名と変数名は大文字と小文字の区別があります。

スクリプト制御ステートメント

QlikView のスクリプトは多数のステートメントで構成されています。ステートメントは、正規のスクリプトステートメントまたはスクリプト制御ステートメントのどちらかになります。

通常、制御ステートメントはスクリプト実行の流れを制御するために使用されます。制御ステートメントの各節は1スクリプト行に収める必要があり、セミコロンまたは改行コードで終了する必要があります。

プレフィックスは、制御ステートメントには適用されません。ただし、例外として、**when** および **unless** プレフィックスは、数個の特定の制御ステートメントで使用できます。

スクリプトのキーワードは、いずれも小文字と大文字の組み合わせが可能です。

スクリプト制御ステートメントの概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Call

call 制御ステートメントは、事前に **sub** ステートメントで定義されているサブルーチンを呼び出します。

```
Call name ( [ paramlist ])
```

Do..loop

do..loop 制御ステートメントはスクリプト反復構文で、論理条件が満たされるまで、あるいは満たされている間、1つまたは複数のステートメントを実行します。

```
Do..loop [ ( while | until ) condition ] [statements]
[exit do [ ( when | unless ) condition ] [statements]
loop [ ( while | until ) condition ]
```

Exit script

この制御ステートメントは、スクリプトの実行を停止します。スクリプト内の任意の場所に挿入できます。

```
Exit script[ (when | unless) condition ]
```

For each ..next

for each..next 制御ステートメントは、コンマ区切りリストの各値に対して、1 つまたは複数のステートメントを実行するスクリプト反復構文です。**for** と **next** で囲まれたループ内のステートメントは、リストの各値で指定された回数分実行されます。

```
For each..next var in list
[statements]
[exit for [ ( when | unless ) condition ]
[statements]
next [var]
```

For..next

for..next 制御ステートメントは、カウンタ付きのスクリプト反復構文です。**for** と **next** で囲まれたループ内のステートメントは、カウンタ変数の初期値と最終値 (および両方を含む) で指定された回数分実行されます。

```
For..next counter = expr1 to expr2 [ stepexpr3 ]
[statements]
[exit for [ ( when | unless ) condition ]
[statements]
Next [counter]
```

If..then

if..then 制御ステートメントは、1 つ以上の論理条件に応じて異なるパスに従うようスクリプトを強制実行させるスクリプト選択構文です。

> *if..then ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 4 つの節 (if..then、elseif..then、else、end if) が行をまたぐことはできません。*

```
If..then..elseif..else..end if condition then
 [ statements ]
{ elseif condition then
 [ statements ] }
[ else
 [ statements ] ]
end if
```

Sub

sub..end sub 制御ステートメントは、**call** ステートメントで呼び出されるサブルーチンを定義します。

```
Sub..end sub name [ ( paramlist )] statements end sub
```

Switch

switch 制御ステートメントは、数式の値に基づいて異なるパスに従うようスクリプトを強制実行させるスクリプト選択構文です。

```
Switch..case..default..end switch expression {case valuelist [ statements ]}
[default statements] end switch
```

Call

call 制御ステートメントは、事前に **sub** ステートメントで定義されているサブルーチンを呼び出します。

構文:

```
Call name ( [ paramlist ])
```

引数:

Call 引数

引数	説明
name	サブルーチンの名前。
paramlist	サブルーチンに送られる実パラメータのコンマ区切りのリスト。リスト内の各項目は、項目名や変数名、任意の数式です。

call ステートメントで呼び出されるサブルーチンは、スクリプトの実行中に先に出現する **sub** ステートメントで定義される必要があります。

パラメータはサブルーチンにコピーされます。**call** ステートメントのパラメータが数式ではなく変数の場合、パラメータはサブルーチンが終了したときにコピーして戻されます。

制限事項:

call ステートメントは、制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わるため、行をまたぐことはできません。

Example 1:

```
// Example 1
Sub INCR (I,J)

      I = I + 1
      Exit Sub when I < 10
      J = J + 1

End Sub
Call INCR (X,Y)
```

Example 2:

```
// Example 2 - List all QV related files on disk
sub DoDir (Root)

      For Each Ext in 'qvw', 'qvo', 'qvs', 'qvt', 'qvd', 'qvc'

            For Each File in filelist (Root&'\*.' &Ext)

                  LOAD

                        '$(File)' as Name, FileSize( '$(File)' ) as
```

```
                        Size, FileTime( '$(File)' ) as FileTime
                        autogenerate 1;

            Next File

      Next Ext
      For Each Dir in dirlist (Root&'\*' )

            Call DoDir (Dir)

      Next Dir

End Sub
Call DoDir ('C:')
```

Do..loop

do..loop 制御ステートメントはスクリプト反復構文で、論理条件が満たされるまで、あるいは満たされている間、1 つまたは複数のステートメントを実行します。

```
Do [ ( while | until ) condition ] [statements]
[exit do [ ( when | unless ) condition ] [statements]
loop[ ( while | until ) condition ]
```

> ***do..loop*** *ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 3 つの節 (**do**、**exit do**、**loop**) が行をまたぐことはできません。*

Do 引数

引数	説明
condition	True または False の評価を実施する論理式。
statements	1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループ。
while / until	**while** または **until** 条件節は、**do..loop** ステートメントに 1 つだけ必要です (例えば、**do** あるいは **loop** の後)。各条件は、初出の場合に限り解釈されますが、ループ内に出現した場合は毎回評価されます。
exit do	**exit do** 節がループ内で出現した場合、スクリプトの実行はループの終了を示す **loop** 節の後の最初のステートメントに移ります。**exit do** 節は、**when** や **unless** サフィックスを使用して条件を付けることができます。

```
// LOAD files file1.csv..file9.csv
Set a=1;
Do while a<10
LOAD * from file$(a).csv;
Let a=a+1;
Loop
```

Exit script

この制御ステートメントは、スクリプトの実行を停止します。スクリプト内の任意の場所に挿入できます。

構文:

```
Exit Script [ (when | unless) condition ]
```

exit script ステートメントは、制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わるため、行をまたぐことはできません。

引数:

Exit スクリプト引数

引数	説明
condition	True または False の評価を実施する論理式。
when / unless	**exit script** ステートメントは、**when** や**unless** 節をオプションで使用して、条件を付けることができます。

```
//Exit script
Exit Script;

//Exit script when a condition is fulfilled
Exit Script when a=1
```

For..next

for..next 制御ステートメントは、カウンタ付きのスクリプト反復構文です。**for** と**next** で囲まれたループ内のステートメントは、カウンタ変数の初期値と最終値 (および両方を含む) で指定された回数分実行されます。

構文:

```
For counter = expr1 to expr2 [ step expr3 ]
[statements]
[exit for [ ( when | unless ) condition ]
[statements]
Next [counter]
```

数式 *expr1*、*expr2*、および *expr3* は、ループが最初に挿入される際に評価されます。カウンタ変数の値はループ内のステートメントで変更できますが、これは良いプログラミングとは言えません。

exit for 節がループ内で出現した場合、スクリプトの実行はループの終了を示す **next** 節の後の最初のステートメントに移ります。**exit for** 節は、**when** や **unless** サフィックスを使用して条件を付けることができます。

> *for..next ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 3 つの節 (for..to..step、exit for、next) が行をまたぐことはできません。*

引数:

For 引数

引数	説明
counter	変数名。*counter* が **next** の後に指定されている場合は、対応する **for** の後に検出されるものと同じ変数名である必要があります。
expr1	ループが実行される *counter* 変数の最初の値を判定する数式。
expr2	ループが実行される *counter* 変数の最大値を判定する数式。
expr3	ループが実行されるたびに *counter* 変数の増分を示す値を判定する数式。
condition	True または False の評価を実施する論理式。
statements	1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループ。

Example 1: 連続ファイルのロード

```
// LOAD files file1.csv..file9.csv
for a=1 to 9

      LOAD * from file$(a).csv;

next
```

Example 2: ランダムな数のファイルのロード

この例では、*x1.csv*、*x3.csv*、*x5.csv*、*x7.csv*、*x9.csv* というデータファイルが存在すると仮定します。ロードプロセスは、`if rand( )<0.5 then` 条件によってランダム ポイントで停止します。

```
for counter=1 to 9 step 2

      set filename=x$(counter).csv;
      if rand( )<0.5 then

            exit for unless counter=1

      end if
      LOAD a,b from $(filename);

next
```

For each..next

for each..next 制御ステートメントは、コンマ区切りリストの各値に対して、1 つまたは複数のステートメントを実行するスクリプト反復構文です。**for** と **next** で囲まれたループ内のステートメントは、リストの各値で指定された回数分実行されます。

構文:
現在のディレクトリ内のファイルとディレクトリ名のリストの生成を可能にする特殊構文です。

```
for each var in list
[statements]
[exit for [ ( when | unless ) condition ]
[statements]
```

```
next [var]
```

引数:

For 各引数

引数	説明
var	ループ実行のたびに、リストから新しい値を取得するスクリプト変数名。**var** が **next** の後に指定されている場合は、対応する**for each** の後に検出されるものと同じ変数名である必要があります。

var 変数の値は、ループ内のステートメントで変更できますが、これは良いプログラミングとは言えません。

exit for 節がループ内で出現した場合、スクリプトの実行はループの終了を示す **next** 節の後の最初のステートメントに移ります。**exit for** 節は、**when** や **unless** サフィックスを使用して条件を付けることができます。



for each..next *ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 3 つの節 (**for each**、**exit for**、**next**) が行をまたぐことはできません。*

構文:

```
list := item { , item }
item := constant | (expression) | filelist (mask) | dirlist (mask) |
fieldvaluelist (fieldname)
```

List 引数

引数	説明
constant	任意の数値または文字列。スクリプトに直接書き込まれた文字列は単一引用符で囲む必要があります。単一引用符で囲まれていない文字列は、変数として解釈され、変数の値が使用されます。数字は単一引用符で囲む必要はありません。
expression	任意の式。
mask	有効なファイル名の文字や、標準的なワイルドカード文字 ***** と**?** を含むファイル名またはディレクトリ名のマスク。
condition	True または False の評価を実施する論理式。
statements	1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループ。
filelist mask	この構文は、ファイル名のマスクに一致する現在のディレクトリ内にある、すべてのファイルのコンマ区切りリストを生成します。
dirlist mask	この構文は、ディレクトリ名のマスクに一致する現在のフォルダ内にある、すべてのディレクトリのコンマ区切りリストを生成します。
fieldvaluelist mask	この構文は、QlikView にすでにロードされた項目の値を使って繰り返されます。

*Qlik Web ストレージ プロバイダ コネクタとその他の DataFile 接続は、ワイルドカード (***** および **?**) の使用に対応していません。*

Example 1: ファイルのリストのロード

```
// LOAD the files 1.csv, 3.csv, 7.csv and xyz.csv for each a in 1,3,7,'xyz'    LOAD * from
file$(a).csv; next
```

Example 2: ファイル リストをディスクに作成

この例では、フォルダにあるすべての QlikView 関連ファイルのリストをロードしています。

```
 sub DoDir (Root)    for each Ext in 'qvw', 'qva', 'qvo', 'qvs', 'qvc', 'qvd'        for each
File in filelist (Root&'\*.' &Ext)           LOAD              '$(File)' as Name,
FileSize( '$(File)' ) as Size,              FileTime( '$(File)' ) as FileTime
autogenerate 1;        next File     next Ext    for each Dir in dirlist (Root&'\*' )
call DoDir (Dir)     next Dir  end sub  call DoDir ('C:')
```

Example 3: 項目の値を使って繰り返し

この例は、ロードされた値のリストである FIELD を使って繰り返され、新しい項目 NEWFIELD を生成します。FIELD の 1 つの値につき、2 つの NEWFIELD レコードが作成されます。

```
 load * inline [ FIELD one two three ];  FOR Each a in FieldValueList('FIELD') LOAD '$(a)' &'-
'&RecNo() as NEWFIELD AutoGenerate 2; NEXT a
```

この結果、テーブルは次のようになります。

Example 3

NEWFIELD
one-1
one-2
two-1
two-2
three-1
three-2

If..then..elseif..else..end if

if..then 制御ステートメントは、1 つ以上の論理条件に応じて異なるパスに従うようスクリプトを強制実行させるスクリプト選択構文です。

通常、制御ステートメントはスクリプト実行の流れを制御するために使用されます。チャートの数式では、代わりに **if** 条件分岐関数を使用してください。

構文:

```
If  condition then
```

```
 [ statements ]
{ elseif condition then
 [ statements ] }
[ else
 [ statements ] ]
end if
```

if..then ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 4 つの節 (**if..then**、**elseif..then**、**else**、**end if**) が行をまたぐことはできません。

引数:

If 引数

引数	説明
condition	True か False で評価できる論理式です。
statements	1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループ。

Example 1:

```
if a=1 then

      LOAD * from abc.csv;
      SQL SELECT e, f, g from tab1;

end if
```

Example 2:

```
if a=1 then; drop table xyz; end if;
```

Example 3:

```
if x>0 then

      LOAD * from pos.csv;

elseif x<0 then

      LOAD * from neg.csv;

else

      LOAD * from zero.txt;

end if
```

Sub..end sub

sub..end sub 制御ステートメントは、**call** ステートメントで呼び出されるサブルーチンを定義します。

構文:

```
Sub name [ ( paramlist )] statements end sub
```

引数はサブルーチンにコピーされ、**call** ステートメントで対応する実パラメータが変数名の場合は、サブルーチンの終了後、コピーして戻されます。

サブルーチンに **call** ステートメントで渡される実パラメータよりも仮パラメータが多い場合は、余分なパラメータは NULL に初期化され、サブルーチン内でローカル変数として使用できます。

sub ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、2 つの節 (**sub**、**end sub**) が行をまたぐことはできません。

引数:

Sub 引数

引数	説明
name	サブルーチンの名前。
paramlist	サブルーチンの仮パラメータの変数名のコンマ区切りリスト。これはサブルーチン内の変数として使用できます。
statements	1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループ。

Example 1:

```
Sub INCR (I,J)
I = I + 1
Exit Sub when I < 10
J = J + 1
End Sub
Call INCR (X,Y)
```

Example 2: - パラメータ転送

```
Sub ParTrans (A,B,C)
A=A+1
B=B+1
C=C+1
End Sub
A=1
X=1
C=1
Call ParTrans (A, (X+1)*2)
```

上記の結果、サブルーチン内でローカルに A は 1、B は 4、C は NULL に初期化されます。

サブルーチンを終了する際、グローバル変数 A は 2 を値として取得します (サブルーチンからコピーして返されます)。2 番目の実パラメータ“(X+1)*2” は変数ではないため、コピーして返されません。最後に、グローバル変数 C はサブルーチン呼び出しの影響を受けません。

Switch..case..default..end switch

switch 制御ステートメントは、数式の値に基づいて異なるパスに従うようスクリプトを強制実行させるスクリプト選択構文です。

構文:

```
Switch expression {case valuelist [ statements ]} [default statements] end switch
```



switch ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 4 つの節 (switch、case、default、end switch) が行をまたぐことはできません。

引数:

Switch 引数

引数	説明
expression	任意の式。
valuelist	比較される数式の値のコンマ区切りのリスト。スクリプトの実行は、値リストの値が数式の値と等しい最初のグループのステートメントで続行されます。値リストの各値は、任意の数式の場合があります。**case** 節で一致しない場合は、**default** 節 (指定した場合) のステートメントが実行されます。
statements	1 つ以上の QlikView スクリプト ステートメントのグループ。

```
Switch I
Case 1
LOAD '$(I): CASE 1' as case autogenerate 1;
Case 2
LOAD '$(I): CASE 2' as case autogenerate 1;
Default
LOAD '$(I): DEFAULT' as case autogenerate 1;
End Switch
```

スクリプトのプレフィックス

正規ステートメントには必要に応じてプレフィックスを適用できますが、制御ステートメントには適用されることはありません。ただし、**when** および **unless** プレフィックスは、一部の制御ステートメント句のサフィックスとして使用できます。

スクリプトのキーワードは、いずれも小文字と大文字の組み合わせが可能です。ただし、ステートメントで使用されている項目名と変数名は大文字と小文字の区別があります。

スクリプトのプレフィックスの概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Add

add プレフィックスは、スクリプト内の **LOAD** または **SELECT**、**map...using** ステートメントに追加できます。パーシャル リロードでのみ有効です。

```
Add [only] (loadstatement | selectstatement | mapstatement)
```

Buffer

QVD ファイルは、**buffer** プレフィックスを使用して、自動的に作成、管理することができます。このプレフィックスは、ロード スクリプトのほとんどの **LOAD** および **SELECT** ステートメントで使用できます。つまり、ステートメントの結果をキャッシュ/バッファする際には、QVD ファイルが使用されます。

```
Buffer[(option [ , option])] ( loadstatement | selectstatement )
option::= incremental | stale [after] amount [(days | hours)]
```

Bundle

Bundle プレフィックスは、画像やサウンドなどの外部ファイル、または項目値に接続されているオブジェクトを QlikView ファイルに保存する際に使用します。

```
Bundle [Info] ( loadstatement | selectstatement)
```

Concatenate

連結される 2 つのテーブルに異なる項目セットが存在する場合、**Concatenate** プレフィックスを使用すると 2 つのテーブルを強制的に連結できます。

```
Concatenate[ (tablename ) ] ( loadstatement | selectstatement )
```

Crosstable

crosstable プリフィックスはストレート テーブルにクロス テーブルを返すために使用されます。つまり、多くの列を持つワイド テーブルは、トール テーブルに変換され、列の見出しは、単独の属性列に配置されます。

```
Crosstable (attribute field name, data field name [ , n ] ) ( loadstatement |
selectstatement )
```

First

First または **LOAD** ステートメントへの **SELECT (SQL)** プレフィックスは、データソース テーブルから最大レコード数をロードする際に使用します。

```
First n( loadstatement | selectstatement )
```

Generic

generic プリフィックスはトール テーブルを解凍し、属性値ごとに 1 つの項目を作成します。これはテーブルのピボット化に似ていますが、異なるのは作成された項目ごとの分離テーブルになる点です。

```
Generic ( loadstatement | selectstatement )
```

Hierarchy

hierarchy プレフィックスは、親子階層テーブルを QlikView データモデルで有用なテーブルに変換する際に使用します。これは、**LOAD** や **SELECT** ステートメントの前に置き、ロード ステートメントの結果をテーブル変換の入力として使用します。

```
Hierarchy (NodeID, ParentID, NodeName, [ParentName], [PathSource],
[PathName], [PathDelimiter], [Depth])(loadstatement | selectstatement)
```

HierarchyBelongsTo

このプレフィックスは、親子階層テーブルをQlikViewデータモデルで有用なテーブルに変換する際に使用します。これは、**LOAD**や**SELECT**ステートメントの前に置き、ロードステートメントの結果をテーブル変換の入力として使用します。

```
HierarchyBelongsTo (NodeID, ParentID, NodeName, AncestorID, AncestorName,
[DepthDiff])(loadstatement | selectstatement)
```

Image_Size

この句は、データベース管理システムからの画像のサイズを変更して項目に合わせるために**Info**プレフィックスまたは**Bundle**プレフィックスとともに使用します。

```
Info [Image_Size(width,height )] ( loadstatement | selectstatement )
```

Info

infoプレフィックスは、テキストファイルや画像、ビデオなどの外部情報を項目値にリンクする際に使用します。

```
Info( loadstatement | selectstatement )
```

Inner

joinおよび**keep**プレフィックスの前には、プレフィックス**inner**を置くことができます。**join**の前に使用すると、内部結合を指定できます。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は双方のテーブルに示されます。**keep**の前に使用すると、QlikViewに保存される前に、双方の生データテーブルが共通部分に縮小されます。.

```
Inner ( Join | Keep) [ (tablename) ](loadstatement |selectstatement )
```

Inputfield

loadまたは**select**ステートメントで参照される前に項目を**inputfield**ステートメントにリストすると、項目は入力フィールドとしてフラグを付けられます。

```
Inputfield (page 886) fieldlist
```

IntervalMatch

IntervalMatchプレフィックスを使うと、不連続数値を1つ以上の数値間隔に一致させるテーブル、そしてオプションとして1つ以上の追加キーの値を一致させるテーブルを作成できます。

```
IntervalMatch (matchfield)(loadstatement | selectstatement )
IntervalMatch (matchfield,keyfield1 [ , keyfield2, ... keyfield5 ] )
(loadstatement | selectstatement )
```

Join

joinプレフィックスは、ロード済みのテーブルを名前が付いた既存テーブルまたは直前に作成されたデータテーブルと結合します。

```
[Inner | Outer | Left | Right ] Join [ (tablename ) ]( loadstatement |
selectstatement )
```

Keep

keep プレフィックスは **join** プレフィックスに類似しています。**join** プレフィックスのように、ロード済みテーブルと既存の名前付きテーブルまたは直前に作成されたデータテーブルを比較します。しかし、ロード済みテーブルと既存のテーブルを結合する代わりに、テーブル データの共通部分に基づき、QlikView に保存される前に、2 つのうち一方または両方のテーブルを縮小する効果があります。実施された比較は、すべての共通項目で行われる自然結合に相当します (対応する結合と同じ方法など)。ただし、2 つのテーブルは結合されず、別の名前付きテーブルとして QlikView に保存されます。

```
(Inner | Left | Right) Keep [(tablename )]( loadstatement | selectstatement
)
```

Left

Join および **Keep** プレフィックスの前には、プレフィックス **left** を置くことができます。

join の前に使用すると、左結合を指定します。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は最初のテーブルに示されます。**keep** の前に使用すると、QlikView に保存される前に、2 つ目の生データテーブルは 1 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

```
Left ( Join | Keep) [ (tablename) ](loadstatement |selectstatement )
```

マッピング

mapping プレフィックスは、マッピング テーブルの作成に使用します。マッピング テーブルは、スクリプト実行中に項目値と項目名を置き換えるといった操作で使用できます。

```
Mapping ( loadstatement | selectstatement )
```

NoConcatenate

NoConcatenate プレフィックスは、同一の項目セットでロードされた 2 つのテーブルを、強制的に別個の内部テーブルとして扱います (そうでない場合、自動的に連結されます)。

```
NoConcatenate( loadstatement | selectstatement )
```

Outer

Join プレフィックスの前に明示的に **outer** プレフィックスを記述すると、外部結合を指定できます。外部結合では、2 つのテーブルのすべての組み合わせが生成されます。結果テーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は片方または双方のテーブルに示されます。**outer** プレフィックスはオプションです。

```
Outer Join [ (tablename) ](loadstatement |selectstatement )
```

Replace

replace プレフィックスは、QlikView のテーブル全体をドロップし、ロード済みまたは選択済みの新しいテーブルと置き換える際に使用します。

```
Replace[only](loadstatement |selectstatement |map...usingstatement)
```

Right

Join および **Keep** プレフィックスの前には、プレフィックス **right** を置くことができます。

join の前に使用すると、右結合を指定します。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は 2 番目のテーブルに示されます。**keep** の前に使用すると、QlikView に保存される前に、1 つ目の生データテーブルは 2 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

```
Right (Join | Keep) [(tablename)](loadstatement |selectstatement )
```

Sample

sample または **LOAD** ステートメントの **SELECT** プレフィックスは、データソースからランダムにレコードサンプルをロードする際に使用します。

```
Sample p ( loadstatement | selectstatement )
```

Semantic

semantic プレフィックスを使用すると、レコード間の関係を含むテーブルをロードできます。これはテーブル内における、親 (会社) や所属先、前任者といった 1 つのレコードポイントから別のポイントへの自己参照です。

```
Semantic ( loadstatement | selectstatement)
```

Unless

unless プレフィックスとサフィックスは、条件節の作成に使用します。条件節は、ステートメントまたは exit 節を評価するかどうかを決定します。これは、**if..end if** ステートメントの簡単な代替として使用されることがあります。

```
(Unless condition statement | exitstatement Unless condition )
```

When

when プレフィックスとサフィックスは、条件節の作成に使用します。条件節は、ステートメントまたは exit 節を実行するかどうかを決定します。これは、**if..end if** ステートメントの簡単な代替として使用されることがあります。

```
( When condition statement | exitstatement when condition )
```

Add

スクリプト内の任意の **LOAD** または **SELECT** ステートメントに **Add** プレフィックスを追加して、別のテーブルにレコードを追加するように指定できます。また、このステートメントを部分的なリロードで実行する必要があることも指定します。**Add** プレフィックスは **Map** ステートメントでも使用できます。

構文:

```
Add[only][Concatenate[(tablename)]] (loadstatement | selectstatement)
```

```
Add[only]mapstatement
```

通常 (非パーシャル) のリロードの間、**AddLOAD** 構文は、通常の **LOAD** ステートメントとして機能します。レコードが生成され、テーブルに保存されます。

Concatenate プレフィックスが使用されるか、同一の項目セットのあるテーブルが存在する場合、レコードは関連する既存のテーブルに追加されます。それ以外の場合、**AddLOAD** 構文は新しいテーブルを作成します。

パーシャル リロードの場合も同様です。唯一の相違は、**AddLOAD** 構文によって新しいテーブルが作成されることは決してない点です。レコードの追加される必要がある以前のスクリプト実行からの関連するテーブルが常に存在します。

その際、重複チェックは行われないため、**Add** プレフィックスを使用するステートメントには、重複を防ぐdistinct 修飾子または where 句がしばしば含まれます。

Add Map...Using ステートメントでは、パーシャル スクリプトの実行中もマッピングが発生します。

引数:

Add 引数

引数	説明
only	パーシャル リロードではない通常のリロード中にステートメントを無視するよう指定するオプションの修飾子。

例と結果:

例と結果

例	結果

`Tab1:`
`LOAD Name, Number FROM Persons.csv;`
`Add LOAD Name, Number FROM newPersons.csv;`
	通常のリロードでは、データは *Persons.csv* からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に保存されます。*NewPersons.csv* のデータは、同じ QlikView テーブルに連結されます。
	
	パーシャル リロードを実行している場合、データは *NewPersons.csv* からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に追加されます。重複チェックは実行されません。

`Tab1:`
`SQL SELECT Name, Number FROM Persons.csv;`
`Add LOAD Name, Number FROM NewPersons.csv (txt) where not exists (Name);`
	重複チェックは、Name が以前にロードされたテーブル データに存在するかどうか確認することで行われます (レコード間関数の exists 関数を参照)。
	
	通常のリロードでは、データは *Persons.csv* からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に保存されます。*NewPersons.csv* のデータは、同じ QlikView テーブルに連結されます。
	
	パーシャル リロードを実行している場合、データは *NewPersons.csv* からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に追加されます。重複チェックは、Name が以前にロードされたテーブル データに存在するかどうか確認することで行われます。

`Tab1:`
`LOAD Name, Number FROM Persons.csv;`
`Add Only LOAD Name, Number FROM NewPersons.csv (txt) where not exists(Name);`
	通常のリロードでは、データは *Persons.csv* からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に保存されます。*NewPersons.csv* をロードするステートメントは無視されます。
	
	パーシャル リロードを実行している場合、データは *NewPersons.csv* からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に追加されます。重複チェックは、Name が以前にロードされたテーブル データに存在するかどうか確認することで行われます。

Buffer

QVD ファイルは、**buffer** プレフィックスを使用して、自動的に作成、管理することができます。このプレフィックスは、ロードスクリプトのほとんどの **LOAD** および **SELECT** ステートメントで使用できます。つまり、ステートメントの結果をキャッシュ/バッファする際には、QVD ファイルが使用されます。

構文:

```
Buffer [(option [ , option])] ( loadstatement | selectstatement )
option::= incremental | stale [after] amount [(days | hours)]
```

オプションを使用していない場合、最初のスクリプト実行で作成された QVD バッファが無限に使用されます。

QVD バッファはデフォルトで *C:\ProgramData\QlikTech\QlikView\Buffers* に保存されます。

通常、QVD バッファが削除されるのは、そのバッファを作成したドキュメントのスクリプト全体の実行でバッファが参照されなくなったときと、そのバッファを作成したドキュメントが存在しなくなったときです。

引数:

Buffer 引数

引数	説明
incremental	incremental オプションを使用すると、基底ファイルの一部のみを読み取る機能が有効になります。以前のファイル サイズは、QVD ファイルの XML ヘッダーに保存されます。これは、ログ ファイルで特に便利です。過去にロードされたレコードは、すべて QVD ファイルから読み取られますが、以降の新しいレコードについては元のソースから読み取った上で QVD ファイルを更新します。incremental オプションは **LOAD** ステートメントとテキスト ファイルでのみ使用でき、古いデータが変更されたり削除されている場合、増分ロードは使用できませんのでご注意ください。
stale [after] amount [(days | hours)]	amount は期間を指定する数字で、10 進数を使用できます。単位が省略されている場合は、日数と見なされます。 通常、stale after オプションは、ソース データに一般的なタイムスタンプがない DB ソースで使用します。そのため、それ以外の場合は QVD スナップショットを使用できる期間を指定します。stale after 節は、QVD バッファが作成されてから有効期限切れになるまでの期間を指定します。それまでの間、QVD バッファがデータ ソースとして使用され、期間終了後は元のデータ ソースが使用されます。その後、QVD バッファ ファイルが自動更新され、新しい期間が開始します。

制限事項:

このスクリプトには、多くの制限が存在します。最も代表的な例としては、複雑なステートメントの核にファイル **LOAD** または **SELECT** ステートメントを含めなければならないという条件が挙げられます。

Example 1:

```
Buffer SELECT * from MyTable;
```

Example 2:

```
Buffer (stale after 7 days) SELECT * from MyTable;
```

Example 3:

```
Buffer (incremental) LOAD * from MyLog.log;
```

Bundle

Bundle プレフィックスは、画像やサウンドなどの外部ファイル、または項目値に接続されているオブジェクトを QlikView ファイルに保存する際に使用します。

構文:

```
Bundle [Info] ( loadstatement | selectstatement)
```

移植性を維持するには、QlikView ファイルに外部ファイルを含める必要があります。このような場合、**Bundle** プレフィックスを使用します。情報ファイルをバンドルするとファイルが圧縮されますが、それでもファイルとRAM 両方で追加スペースを使用します。そのため、バンドルするファイルのサイズと数を事前に考慮する必要があります。

情報は、info chart 関数を使用して通常の情報としてレイアウトから参照できます。または特殊構文を使用して内部ファイルとして参照することも可能です。構文は、**qmem://** *fieldname* / *fieldvalue* または **qmem://** fieldname / < index > となります。index は、項目値の内部インデックスです。

引数:

Bundle 引数

引数	説明
loadstatement | selectstatement	画像や音声などの外部情報を項目値に接続する場合、テーブルを **Info** プレフィックスでロードします。 **Bundle** を使用する場合は、**Info** プレフィックスを省略しても構いません。

```
Bundle Info LOAD * From flagoecd.csv;
Bundle SQL SELECT * from infotable;
```

Concatenate

連結される2 つのテーブルに異なる項目セットが存在する場合、**Concatenate** プレフィックスを使用すると2 つのテーブルを強制的に連結できます。このステートメントは、指定の既存テーブルまたは最後に作成された論理テーブルとの連結を強制します。自動連結は同じ項目名が2 つあると実行されます。

構文:

```
Concatenate[ (tablename ) ] ( loadstatement | selectstatement )
```

連結は基本的に **SQL UNION** ステートメントと同じですが、2 つの相違点があります。

- **Concatenate** プレフィックスは、テーブルに同一名の項目名が含まれているかどうかに関わらず使用できます。
- **Concatenate** プレフィックスで同一レコードが削除されることはありません。

引数:

Concatenate 引数

引数	説明
tablename	既存テーブルの名前。

Example 1:

```
LOAD * From file2.csv;
Concatenate SELECT * From table3;
```

Example 2:

```
tab1:
LOAD * From file1.csv;
tab2:
LOAD * From file2.csv;
.. .. ..
Concatenate (tab1) LOAD * From file3.csv;
```

Crosstable

crosstable プリフィックスはストレートテーブルにクロステーブルを返すために使用されます。つまり、多くの列を持つワイドテーブルは、トールテーブルに変換され、列の見出しは、単独の属性列に配置されます。

```
crosstable (attribute field name, data field name [ , n ] ) ( loadstatement | selectstatement )
```

Crosstable の引数

引数	説明
attribute field name	属性値を含む項目。
data field name	データ値を含む項目。
n	汎用的な形式に変換されるテーブルに先行する修飾子項目の数。デフォルトは 1 です。

クロス集計は、ヘッダーデータが直交する2つ以上のリストに値のマトリックスを持つテーブルの一般的な種類です。このうちの1つは、列ヘッダーとして使われます。典型的な例では、1か月につき1つの列が使用されます。**crosstable** プレフィックスを使用すると、列ヘッダー(月名など)が1つの項目(属性項目)に保存され、列データ(月を表す数字)は2番目の項目(データ項目)に保存されます。

```
Crosstable (Month, Sales, 2) LOAD * INLINE[
Person, Location, Jan, Feb, Mar
Bob, London, 100, 200, 300
Kate, New York, 400, 500, 600
];
```

結果:

例 1

Person,	Location,	Month,	Sales
Bob,	London,	Jan,	100
Bob,	London,	Feb,	200
Bob,	London,	Mar,	300
Kate,	New York,	Jan,	400
Kate,	New York,	Feb,	500
Kate,	New York,	Mar,	600

クロステーブル ウィザード

クロステーブル ウィザードは、ダイアログ形式で crosstable ステートメントを作成します。このダイアログは、**ファイル ウィザード** の **オプション** ページで **クロステーブル** ボタンをクリックすると開きます。クロステーブル ウィザードには次のオプションがあります。

クロステーブルウィザードのフィールド

項目の種類	説明
行見出し項目	変換後に項目に先行する行見出しとする項目の数。
列見出しの項目名	変換後に列見出しとなる項目 (属性値) すべてを含む新しい項目の名前。
値の項目名	列見出しとなる項目のデータを含む新しい項目の名前。

First

First または **LOAD** ステートメントへの **SELECT (SQL)** プレフィックスは、データソース テーブルから最大レコード数をロードする際に使用します。

構文:

```
First n ( loadstatement | selectstatement )
```

引数:

First 引数

引数	説明
n	読み取り対象の最大レコード件数を示す整数を評価する任意の数式。 *n* は *(n)* のように丸括弧で囲む場合がありますが、必須ではありません。

```
First 10 LOAD * from abc.csv;
First (1) SQL SELECT * from Orders;
```

Generic

generic プリフィックスは トール テーブルを解凍し、属性値ごとに 1 つの項目を作成します。これはテーブルのピボット化に似ていますが、異なるのは作成された項目ごとの分離テーブルになる点です。

構文:

```
Generic( loadstatement | selectstatement )
```

generic ステートメントでロードされたテーブルは、自動連結できません。

```
Table1:

Generic LOAD * INLINE

[

Key, Attribute, Value

Bob, Jan, 100

Bob, Feb, 200

Bob, Mar, 300

Kate, Jan, 400

Kate, Feb, 500

Kate, Mar, 600

];
```

結果:

このため次の 3 つのテーブルに影響します。

Table1.Jan:

例 1

Key,	Jan
Bob,	100
Kate,	400

Table1.Feb:

例 2

Key,	Feb
Bob,	200
Kate,	500

Table1.Mar:

例 3

Key,	Mar
Bob,	300
Kate,	600

Hierarchy

hierarchy プレフィックスは、親子階層テーブルを QlikView データモデルで有用なテーブルに変換する際に使用します。これは、**LOAD** や **SELECT** ステートメントの前に置き、ロードステートメントの結果をテーブル変換の入力として使用します。

このプレフィックスを使用すると、展開ノードテーブルが作成されます。通常、レコード数は入力テーブルと同じですが、階層の各レベルがさらに別の項目に格納されます。パス項目は、ツリー構造で使用できます。

構文:

```
Hierarchy (NodeID, ParentID, NodeName, [ParentName, [ParentSource, [PathName, [PathDelimiter, Depth]]]])(loadstatement | selectstatement)
```

入力テーブルは、隣接するノードテーブルでなければなりません。通常、隣接するノードテーブルは、各レコードがノードと一致し、親ノードへの参照を含む項目が含まれます。このようなテーブルでは、ノードは 1 つのレコードにしか保存されませんが、子ノードをいくつでも持つことができます。当然のことながら、テーブルには、ノードの属性が記述された追加項目が含まれている可能性があります。

通常、入力テーブルには各ノードに 1 件のレコードが含まれており、出力テーブルにも同数のレコードが含まれます。しかし、場合によっては複数の親を持つノードがあり、1 つのノードが入力テーブル内にある複数のレコードで表されることがあります。その場合、出力テーブルのレコード数は入力テーブルを上回ります。

ノード ID 列にない親 ID を持つノード(親 ID がないノードを含む) はすべて、ルートとみなされます。また、直接/間接を問わず、ルートノードに接続されているノードのみをロードし、循環参照を回避します。

親ノードのノード名とノードのパス、ノードの階層レベルを含む追加項目を作成することもできます。

引数:

Hierarchy 引数

引数	説明
NodeID	ノード ID を含む項目の名前。この項目は入力テーブルになくてはなりません。
ParentID	親ノードのノード ID を含む項目の名前。この項目は入力テーブルになくてはなりません。

引数	説明
NodeName	ノード名が含まれる項目の名前。この項目は入力テーブルになくてはなりません。
ParentName	新しい **ParentName** 項目に名前を付けるための文字列。省略すると、この項目は作成されません。
ParentSource	ノードパスの構築に使用するノード名が含まれた項目の名前。このパラメータはオプションです。省略すると、**NodeName** が使われます。
PathName	新しい **Path** 項目に名前を付けるための文字列で、ルートからノードへのパスが含まれます。このパラメータはオプションです。省略すると、この項目は作成されません。
PathDelimiter	新しい **Path** 項目の区切り記号として使用する文字列。このパラメータはオプションです。省略すると、「/」が使われます。
Depth	新しい **Depth** 項目に名前を付けるための文字列で、ノードの階層レベルを含みます。このパラメータはオプションです。省略すると、この項目は作成されません。

```
Hierarchy(NodeID, ParentID, NodeName, ParentName, NodeName, PathName, '\', Depth) LOAD *
inline [
NodeID, ParentID, NodeName
1, 4, London
2, 3, Munich
3, 5, Germany
4, 5, UK
5, , Europe
];
```

結果:

例 1

NodeID	NodeName	ParentID	ParentName	NodeName1	NodeName2	NodeName3	PathName	Depth
5	Europe		-	Europe	-	-	Europe	1
3	Germany	5	Europe	Europe	Germany	-	Europe\Germany	2
2	Munich	3	Germany	Europe	Germany	Munich	Europe\Germany\Munich	3
4	UK	5	Europe	Europe	UK	-	Europe\UK	2
1	London	4	UK	Europe	UK	London	Europe\UK\London	3

HierarchyBelongsTo

このプレフィックスは、親子階層テーブルを QlikView データモデルで有用なテーブルに変換する際に使用します。これは、**LOAD** や **SELECT** ステートメントの前に置き、ロードステートメントの結果をテーブル変換の入力として使用します。

このプレフィックスを使用すると、階層における先祖ノードと子ノードの関係をすべて含むテーブルが作成されます。その結果、先祖項目を使用して階層のツリー全体を選択できるようになります。ほとんどの場合、出力テーブルには各ノードにつき複数のレコードが含まれています。

構文:

```
HierarchyBelongsTo (NodeID, ParentID, NodeName, AncestorID, AncestorName,
[DepthDiff])(loadstatement | selectstatement)
```

入力テーブルは、隣接するノードテーブルでなければなりません。通常、隣接するノードテーブルは、各レコードがノードと一致し、親ノードへの参照を含む項目が含まれます。このようなテーブルでは、ノードは 1 つのレコードにしか保存されませんが、子ノードをいくつでも持つことができます。当然のことながら、テーブルには、ノードの属性が記述された追加項目が含まれている可能性があります。

異なるレベルのノードを持つ追加項目を作成することも可能です。

引数:

HierarchyBelongsTo 引数

引数	説明
NodeID	ノード ID を含む項目の名前。この項目は入力テーブルになくてはなりません。
ParentID	親ノードのノード ID を含む項目の名前。この項目は入力テーブルになくてはなりません。
NodeName	ノード名が含まれる項目の名前。この項目は入力テーブルになくてはなりません。
AncestorID	新しい親 ID フィールドに名前を付けるための文字列で、親ノードの ID が含まれます。
AncestorName	新しい先祖項目に名前を付けるための文字列で、先祖ノードの名前が含まれます。
DepthDiff	新しい **DepthDiff** 項目に名前を付けるための文字列で、先祖ノードと関連している階層ノードのレベルが含まれます。このパラメータはオプションです。省略すると、この項目は作成されません。

```
HierarchyBelongsTo (NodeID, AncestorID, NodeName, AncestorID, AncestorName, DepthDiff) LOAD *
inline [
NodeID, AncestorID, NodeName
1, 4, London
2, 3, Munich
3, 5, Germany
4, 5, UK
5, , Europe
];
```

結果:

例 1

NodeID	AncestorID	NodeName	AncestorName	DepthDiff

1	1	London	London	0
1	4	London	UK	1
1	5	London	Europe	2
2	2	Munich	Munich	0
2	3	Munich	Germany	1
2	5	Munich	Europe	2
3	3	Germany	Germany	0
3	5	Germany	Europe	1
4	4	UK	UK	0
4	5	UK	Europe	1
5	5	Europe	Europe	0

Image_Size

この句は、データベース管理システムからの画像のサイズを変更して項目に合わせるために **Info** プレフィックスまたは **Bundle** プレフィックスとともに使用します。

構文:

```
Bundle [Image_Size(width,height )] ( loadstatement | selectstatement )
```

引数:

Image_Size 引数

引数	説明
width	画像の幅 (ピクセル)。
height	画像の高さ(ピクセル)。

フォルダーの各イメージに設定されたサムネイルは、*MyPictures* QlikView ドキュメントに格納されます。イメージの幅と高さの比率は保持されます。

```
for each vBundleExt in 'jpg', 'jpeg', 'jpe', 'png', 'jif', 'jfi'
for each vBundleFoundFile in filelist( GetFolderPath('MyPictures') & '\*.'& vBundleExt )
BundleFileList:
BUNDLE IMAGE_SIZE(20, 20) Info Load FileLongName, FileLongName;
Load @1:n as FileLongName Inline "$(vBundleFoundFile)" (fix, no labels);
Next vBundleFoundFile
Next vBundleExt
```

Info

info プレフィックスは、テキストファイルや画像、ビデオなどの外部情報を項目値にリンクする際に使用します。

構文:

```
Info( loadstatement | selectstatement )
```

テキストファイルや画像、動画などの外部情報を項目値にリンクする場合は、**info** プレフィックスを使用してロードしたテーブルで行います (ただし、QlikView ファイルに情報を保存する場合は、**bundle** プレフィックスの使用が適していることもあります)。テーブルは、必ず 2 列で構成する必要があります。1 列目には情報のキーとなる項目値、2 列目には画像のファイル名などの情報要素を含めます。

これは、データベース管理システムから取得した画像などの場合も同様です。バイナリ項目 BLOB では、info select ステートメントにより黙示的に **bundle** を実行します。つまり、バイナリデータが直ちに取得され、QlikView ファイルに保存されます。バイナリデータは **SELECT** ステートメントの 2番目の項目でなければなりません。

```
Info LOAD * inline[
LinkedField, ImageFileName
QlikView, QlikViewLogo.png
];
```

結果:

LinkedField のみが項目名として目にすることができます。

画像形式のシートにテキストオブジェクトを追加し、=Info(LinkedField) と入力すると、このテキストオブジェクトにはイメージのファイル名が表示されます。

Inner

join および **keep** プレフィックスの前には、プレフィックス **inner** を置くことができます。**join** の前に使用すると、内部結合を指定できます。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は双方のテーブルに示されます。**keep** の前に使用すると、QlikView に保存される前に、双方の生データテーブルが共通部分に縮小されます。

構文:

```
Inner ( Join | Keep) [ (tablename) ](loadstatement |selectstatement )
```

引数:

Table load 引数

引数	説明
tablename	名前が付いたテーブルが、ロード済みのテーブルと比較されます。
loadstatement、または selectstatement	ロード済みテーブルの **LOAD** または **SELECT** ステートメントです。

Example 1:

Table1	**-**

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2	-
A	C
1	xx
4	yy

```
QVTable:
SQL SELECT * From table1;
inner join SQL SELECT * From table2;
```

QVTable	-	-
A	B	C
1	aa	xx

Example 2:

```
QVTab1:
SQL SELECT * From Table1;
QVTab2:
inner keep SQL SELECT * From Table2;
```

QVTab1	-
A	B
1	aa

QVTab2	-
A	C
1	xx

keep の例にある2 つのテーブルは、A によって関連付けられます。

Inputfield

LOAD または **SELECT** ステートメントで参照される前に項目を **inputfield** ステートメントにリストすると、項目は入力フィールドとしてフラグを付けられます。



キー項目に入力フィールドとしてフラグを付けることはできません。

```
inputfield fieldlist
```

fieldlist は、入力フィールドとしてフラグを付けられる項目のカンマ区切りのリストです。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。
入力フィールドの動作は、通常の項目と異なる部分があります。最も重要な違いは、スクリプトを実行せずに対話形式またはプログラムで項目の値を変更できるということです。項目値は、**LOAD** または **SELECT** ステートメントで項目にロードする必要があります。スクリプトでロードされる各項目値は、項目値を置き換える値のプレースホルダを作成します。既存の項目値のみを対話形式またはプログラムで変更できます。置き換え値はユーザーによって異なります。たとえば、入力フィールドをサーバーで使用している場合、異なるユーザーには異なる入力フィールド値が表示されます。入力フィールドでは、すべての項目値は、同じ値を持つ複数の項目がある場合でも distinct として処理されます。入力フィールドは通常、再ロード後、前もって設定された値を保持します。

Example 1:

```
Inputfield B;
Inputfield A,B;
Inputfield B??x*;
```

Example 2:

```
Inputfield I;Load RecNo() as I, RecNo() as K autogenerate 10;
```

K の値は、I が入力フィールドとなるために、一意の値である必要があります。

IntervalMatch

IntervalMatch プレフィックスを使うと、不連続数値を 1 つ以上の数値間隔に一致させるテーブル、そしてオプションとして 1 つ以上の追加キーの値を一致させるテーブルを作成できます。

```
IntervalMatch (matchfield)(loadstatement | selectstatement )
IntervalMatch (matchfield,keyfield1 [ , keyfield2, ... keyfield5 ] )
(loadstatement | selectstatement )
```

IntervalMatch プレフィックスは、間隔をロードする **LOAD** または **SELECT** ステートメントの前に配置する必要があります。不連続データポイントを含む項目 (以下の例では Time) および追加キーは、QlikView プレフィックスを含むステートメントの前に **IntervalMatch** にロードされていなければなりません。このプレフィックスはデータベーステーブルからこの項目を読み取るのではなく、ロードした間隔テーブルとキーを変換して追加列 (不連続数値データ点) を含むテーブルを生成します。また、新しいテーブルで不連続データポイントと間隔、キー項目の値の組み合わせごとにレコードが 1 つ存在するようレコード数を増やします。

間隔は重なる場合があり、不連続値は一致する間隔すべてにリンクされます。

拡張された **IntervalMatch** プレフィックスを使うと、不連続数値を 1 つ以上の数値間隔に一致させると同時に 1 つ以上の追加キーの値を一致させるテーブルを作成できます。これは強力かつ柔軟な機能で、時間の経過に伴って変化する軸 (穏やかに変化する軸) のあるトランザクションを連結するために使用できます。

未定義の間隔範囲が無視されないようにするには、間隔の下限または上限を構成する項目への NULL 値のマッピングを許可しなければならない可能性があります。その場合は、**NullAsValue** ステートメントを使用するか、不連続数値データポイントの前または後で NULL 値を数値に置き換える明示的なテストを実施します。

IntervalMatch の引数

引数	説明
matchfield	間隔にリンクする不連続の数値が含まれた項目。
keyfield	変換で一致させる追加属性が含まれた項目。
loadstatementor selectstatement	最初の項目に各間隔の下限、2 つ目の項目に各間隔の上限を含むテーブルが生成されます。キー一致を使用している場合、3 つ目以降の項目には **IntervalMatch** ステートメントのキー項目が含まれます。間隔は常に閉じているので、終端は間隔に含まれます。数値以外の範囲では間隔が無視されます (未定義として対処)。

下記の 2 つのテーブルのうち、最初のテーブルは注文の製造開始時間と終了時間を定義します。2 つ目のテーブルには、個々のイベントが掲載されます。**IntervalMatch** プレフィックスを使用すると、2 つのテーブルが論理的に接続され、イベントの影響を受けた注文を特定したり、どのシフトでどの注文が処理されたかを確認することができます。

```
EventLog:

LOAD * Inline [

Time, Event, Comment
00:00, 0, Start of shift 1
01:18, 1, Line stop
02:23, 2, Line restart 50%
04:15, 3, Line speed 100%
08:00, 4, Start of shift 2
11:43, 5, End of production
];


OrderLog:
LOAD * INLINE [
Start, End, Order
01:00, 03:35, A
02:30, 07:58, B
03:04, 10:27, C
07:23, 11:43, D
];

//Link the field Time to the time intervals defined by the fields Start and End.

Inner Join IntervalMatch ( Time )

LOAD Start, End
Resident OrderLog;
```

結果:

OrderLog テーブルには現在と追加の列 : *Time* が含まれます。レコードの数もまた増えます。

Example 1

Time	Start	End	Order

00:00	-	-	-
01:18	01:00	03:35	A
02:23	01:00	03:35	A
04:15	02:30	07:58	B
04:15	03:04	10:27	C
08:00	03:04	10:27	C
08:00	07:23	11:43	D
11:43	07:23	11:43	D

Example 1: (keyfield の使用)

前述の例と同じで、*ProductionLine* をキー項目として追加します。

```
EventLog:
LOAD * Inline [
Time, Event, Comment, ProductionLine
00:00, 0, Start of shift 1, P1
01:00, 0, Start of shift 1, P2
01:18, 1, Line stop, P1
02:23, 2, Line restart 50%, P1
04:15, 3, Line speed 100%, P1
08:00, 4, Start of shift 2, P1
09:00, 4, Start of shift 2, P2
11:43, 5, End of production, P1
11:43, 5, End of production, P2
];
OrderLog:
LOAD * INLINE [
Start, End, Order, ProductionLine
01:00, 03:35, A, P1
02:30, 07:58, B, P1
03:04, 10:27, C, P1
07:23, 11:43, D, P2
];
//Link the field Time to the time intervals defined by the fields Start and End and match the
values
// to the key ProductionLine.
Inner Join
IntervalMatch ( Time, ProductionLine )
LOAD Start, End, ProductionLine
Resident OrderLog;
```

結果:

次のようなテーブル ボックスが作成されます。

Example 2

ProductionLine	Time	Event	Comment	Order	Start	End
P1	00:00	0	Start of shift 1	-	-	-

P2	01:00	0	Start of shift 1	-	-	-
P1	01:18	1	Line stop	A	01:00	03:35
P1	02:23	2	Line restart 50%	A	01:00	03:35
P1	04:15	3	Line speed 100%	B	02:30	07:58
P1	04:15	3	Line speed 100%	C	03:04	10:27
P1	08:00	4	Start of shift 2	C	03:04	10:27
P2	09:00	4	Start of shift 2	D	07:23	11:43
P1	11:43	5	End of production	-	-	-
P2	11:43	5	End of production	D	07:23	11:43

IntervalMatch (拡張構文)

拡張された **IntervalMatch** プレフィックスを使うと、不連続数値を 1 つ以上の数値間隔に一致させると同時に 1 つ以上の追加キーの値を一致させるテーブルを作成できます。

これは強力かつ柔軟な機能で、時間の経過に伴って変化する軸(ゆっくり変化する軸) のあるトランザクションを連結するために使用できます。

IntervalMatch プレフィックスは、間隔をロードする **Load** または **Select** ステートメントの前に配置する必要があります。**IntervalMatch** プレフィックスのあるステートメントの前に、不連続データ点を含むテーブルと追加キーが QlikView にすでにロードされていなくてはなりません。ロードされた間隔テーブルとキーを変換して追加列 (不連続数値データ点) を含むテーブルを生成します。また、新しいテーブルで不連続データポイントと間隔、キー項目の値の組み合わせごとにレコードが 1 つ存在するようレコード数を増やします。

構文は次のとおりです。

```
intervalmatch (matchfield,keyfield1 [ , keyfield2, ... keyfield5 ] )
(loadstatement | selectstatement )
```

`matchfield` は、間隔にリンクする不連続の数値を含む項目です。

`keyfield(s)` は、変換で一致させる追加属性を含む項目です。

`loadstatement` または `selectstatement` の結果では、最初の 2 つの項目は各間隔の下限と上限を格納し、3 つ目 (およびその後の項目) は **IntervalMatch** ステートメントの `keyfield(s)` を格納する必要があります。間隔は常に閉じているので、終端は間隔に含まれます。数値以外の範囲では間隔が無視されます (未定義として対処)。

未定義の間隔範囲が無視されるのを防ぐためには、間隔の下限または上限を構成する項目に、NULL 値をマップできるようにする必要があるかもしれません。これは、**NullAsValue** ステートメントによって、または不連続数値データポイントの前後で、NULL 値を数値に置き換える明示的なテストによって対応することができます。

```
Inner Join IntervalMatch (Date,Key) LOAD FirstDate, LastDate, Key resident Key;
```

Join

join プレフィックスは、ロード済みのテーブルを名前が付いた既存テーブルまたは直前に作成されたデータテーブルと結合します。

構文:

```
[inner | outer | left | right ]Join [ (tablename ) ]( loadstatement | selectstatement )
```

join は、すべての基本項目で行われる自然結合です。このステートメントの前には、**inner** または **outer**、**left**、**right** のプレフィックスを配置できます。

引数:

Table load 引数

引数	説明
tablename	名前が付いたテーブルが、ロード済みのテーブルと比較されます。
loadstatement 、または selectstatement	ロード済みテーブルの **LOAD** または **SELECT** ステートメントです。

```
Join LOAD * from abc.csv;

Join SELECT * from table1;

tab1:
LOAD * from file1.csv;
tab2:
LOAD * from file2.csv;
.. .. ..
join (tab1) LOAD * from file3.csv;
```

Keep

keep プレフィックスは **join** プレフィックスに類似しています。**join** プレフィックスのように、ロード済みテーブルと既存の名前付きテーブルまたは直前に作成されたデータテーブルを比較します。しかし、ロード済みテーブルと既存のテーブルを結合する代わりに、テーブル データの共通部分に基づき、QlikView に保存される前に、2 つのうち一方または両方のテーブルを縮小する効果があります。実施された比較は、すべての共通項目で行われる自然結合に相当します (対応する結合と同じ方法など)。ただし、2 つのテーブルは結合されず、別の名前付きテーブルとして QlikView に保存されます。

構文:

```
(inner | left | right) keep [(tablename ) ]( loadstatement | selectstatement )
```

keep プレフィックスの前には、**inner** または **left**、**right** のプレフィックスを配置する必要があります。

QlikView スクリプト言語における明示的な **join** プレフィックスは、2 つのテーブルの完全な結合を実行します。その結果、1 つのテーブルが生成されます。通常、このような結合を行うと、かなり大きなテーブルが作成されます。そのため、QlikView では、テーブルを結合する代わりに複数のテーブル間で関連付けを行います。これにより、メモリの使用量が削減され、処理速度がアップすると同時に柔軟性が極めて高まります。このような理由から、一般的には QlikView スクリプトでの明示的な結合は避ける必要があります。**keep** の機能は、明示的な結合の使用回数を減らすよう設計されています。

引数:

Table load 引数

引数	説明
tablename	名前が付いたテーブルが、ロード済みのテーブルと比較されます。
loadstatement、または selectstatement	ロード済みテーブルの **LOAD** または **SELECT** ステートメントです。

```
Inner Keep LOAD * from abc.csv;
Left Keep SELECT * from table1;
tab1:
LOAD * from file1.csv;
tab2:
LOAD * from file2.csv;
.. .. ..
Left Keep (tab1) LOAD * from file3.csv;
```

Left

Join および **Keep** プレフィックスの前には、プレフィックス **left** を置くことができます。

join の前に使用すると、左結合を指定します。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は最初のテーブルに示されます。**keep** の前に使用すると、QlikView に保存される前に、2 つ目の生データテーブルは 1 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

同じ名前で文字列関数を検索していた場合参照: Left (page 1514)

構文:

```
Left ( Join | Keep) [ (tablename) ](loadstatement | selectstatement)
```

引数:

Table load 引数

引数	説明
tablename	名前が付いたテーブルが、ロード済みのテーブルと比較されます。
loadstatement、または selectstatement	ロード済みテーブルの **LOAD** または **SELECT** ステートメントです。

Example 1A

Table1	-
A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Example 1B

Table2	-
A	C
1	xx
4	yy

```
QVTable:
SELECT * From table1;
Left Join Select * From table2;
```

Example 1C

QVTable	-	-
A	B	C
1	aa	xx
2	cc	
3	ee	

```
QVTab1:
SELECT * From Table1;
QVTab2:
Left Keep SELECT * From Table2;
```

Example 1D

QVTab1	-
A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Example 1E

QVTab2	-
A	C
1	xx

keep の例にある 2 つのテーブルは、A によって関連付けられます。

```
tab1:
LOAD * From file1.csv;
tab2:
LOAD * From file2.csv;
.. .. ..
Left Keep (tab1) LOAD * From file3.csv;
```

Mapping

mapping プレフィックスは、マッピング テーブルの作成に使用します。マッピング テーブルは、スクリプト実行中に項目値と項目名を置き換えるといった操作で使用できます。

```
Mapping( loadstatement | selectstatement )
```

mapping プレフィックスは **LOAD** または **SELECT** ステートメントの前に入れることができ、ロード ステートメントの結果をマッピング テーブルとして保存します。マッピング機能を使用すると、スクリプト実行中に項目値を効率的に置換できます。例:「US」、「U.S.」、「America」を「USA」に置き換えることができます。マッピング テーブルは 2 列構成で、1 列目には比較値、2 列目はマッピング値が含まれます。マッピング テーブルは一時的にメモリに保存され、スクリプト実行後に自動的に削除されます。あるいは、**Drop mapping table** ステートメントの *Drop table (page 917)* バリアントを使用して、スクリプト実行の早い段階でマッピング テーブルをドロップすることもできます。

マッピング テーブルのコンテンツには、**Map ... Using** および **Rename Field** ステートメント、**Applymap()** および **Mapsubstring()** 関数を使用してアクセスできます。

この例では、Salesperson とその居住国の国コードのリストをロードします。国コードを国名に置き換えるために、国コードを国にマッピングしたテーブルを使用します。このマッピング テーブルでは、3 つの国のみが定義されており、他の国は 'Rest of the world' としてマッピングされています。

```
// Load mapping table of country codes:
map1:
mapping LOAD *
Inline [
CCode, Country
Sw, Sweden
Dk, Denmark
No, Norway
] ;

// Load list of salesmen, mapping country code to country

// If the country code is not in the mapping table, put Rest of the world
Salespersons:
LOAD *,
ApplyMap('map1', CCode,'Rest of the world') As Country
Inline [
```

```
CCode, Salesperson
Sw, John
Sw, Mary
Sw, Per
Dk, Preben
Dk, Olle
No, Ole
Sf, Risttu] ;
// We don't need the CCode anymore
Drop Field 'CCode';
```

この結果、テーブルは次のようになります。

Example 1

Salesperson	Country
John	Sweden
Mary	Sweden
Per	Sweden
Preben	Denmark
Olle	Denmark
Ole	Norway
Risttu	Rest of the world

Merge

Merge プレフィックスをスクリプト内の任意の **LOAD** または **SELECT** ステートメントに追加して、ロードされたテーブルを別のテーブルに統合する必要があることを指定できます。また、このステートメントを部分的なリロードで実行する必要があることも指定します。

典型的なユースケースは変更ログをロードする時で、inserts、updates、および deletes を既存のテーブルに適用する場合に使用します。

構文:

```
Merge [only] [(SequenceNoField [, SequenceNoVar])] On ListOfKeys [Concatenate [(TableName)]] (loadstatement | selectstatement)
```

通常 (非パーシャル) のリロードの間、**Merge LOAD** 構文は、通常の **Load** ステートメントとして機能しますが、古い廃止されたレコードと削除用にマーク済みのレコードを削除する追加の機能があります。ロードステートメントの最初の項目には、次の操作についての情報が必要です。Insert、Update、または Delete。

ロードされた各レコードのために、レコード識別子は以前にロードされたレコードを比較し、最新のレコード(順番に基づく) のみを保持します。最新のレコードが Delete でマークされている場合は、一切保持しません。

Concatenate プレフィックスが使用されるか、同一の項目セットのあるテーブルがすでに存在する場合、これが変更するための関連するテーブルです。それ以外の場合、**Merge LOAD** 構文の結果は、新しいテーブルに保存されます。

Concatenate プレフィックスが使用される場合、結果テーブルには、**Merge** の入力として使用した変更ログよりも多くの項目がある可能性があります。

パーシャル リロードは、フル リロードの場合と同様です。唯一の相違は、**Merge LOAD** 構文が新しいテーブルを作成しないことです。変更するために、以前のスクリプト実行からの関連するテーブルが常に存在します。

ロードされた変更ログが累積ログ、つまり、すでにロードされた変更がログに含まれる場合は、入力データを制限するために、**Where** 句でパラメーター SequenceNoVar を使用できます。その後、**Merge LOAD** を項目 SequenceNoField が SequenceNoVar よりも大きいロード レコードのみに適用します。完了時に **Merge LOAD** は、最大値が SequenceNoField 項目の新しい値を SequenceNoVar に割り当てます。

引数:

引数

引数	説明
only	パーシャル リロード中に限りステートメントを実行するように指定するオプションの修飾子。通常 (非パーシャル) のリロード中は無視します。
SequenceNoField	日付と時刻、または操作の順序を定義する順序番号を含んだ項目の名前。
SequenceNoVar	結合したテーブルの SequenceNoField の最大値が割り当てられる変数の名前。
ListOfKeys	プライマリキーを指定する項目名のコンマ区切りされたリスト。
operation	ロード ステートメントの最初の項目には、次の操作についての情報が含まれている必要があります。Insert、Update、または Delete。「i」、「u」、および「d」も使用できます。

NoConcatenate

NoConcatenate プレフィックスは、同一の項目セットでロードされた 2 つのテーブルを、強制的に別個の内部テーブルとして扱います (そうでない場合、自動的に連結されます)。

構文:

```
NoConcatenate( loadstatement | selectstatement )
```

```
LOAD A,B from file1.csv;
NoConcatenate LOAD A,B from file2.csv;
```

Outer

Join プレフィックスの前に明示的に **outer** プレフィックスを記述すると、outer join を指定できます。outer join では、2 つのテーブルのすべての組み合わせが生成されます。結果テーブルには、生データ テーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は片方または双方のテーブルに示されます。

outer キーワードはオプションで、結合プレフィックスが記述されていない場合、デフォルトの結合タイプとなります。

構文:

```
Outer Join [ (tablename) ](loadstatement |selectstatement )
```

引数:

Table load 引数

引数	説明
tablename	名前が付いたテーブルが、ロード済みのテーブルと比較されます。
loadstatement、または selectstatement	ロード済みテーブルの **LOAD** または **SELECT** ステートメントです。

Example 1A

Table1	-
A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Example 1B

Table2	-
A	C
1	xx
4	yy

```
SQL SELECT * from table1;
join SQL SELECT * from table2;
```

OR

```
SQL SELECT * from table1;
outer join SQL SELECT * from table2;
```

例 1C

結合されたテーブル	-	-
A	B	C
1	aa	xx
2	cc	-
3	ee	-
4	-	yy

パーシャル リロード

通常 (非パーシャル) のリロードは常に、既存のデータモデルにあるすべてのテーブルを削除することから開始し、その後、ロードスクリプトを実行します。

パーシャル リロードの場合は異なります。代わりに、データモデルにあるすべてのテーブルは保持され、その後、**Add**、**Merge**、または **Replace** プレフィックスが追加された、**Load** ステートメントと**Select** ステートメントを実行します。他のデータテーブルは、このコマンドの影響を受けません。**only** 引数は、パーシャル リロード中に限りステートメントを実行し、通常 (非パーシャル) のロード中は無視することを表します。

Replace

Replace プレフィックスをスクリプト内の任意の **LOAD** または **SELECT** ステートメントに追加して、ロードされたテーブルを別のテーブルに置き換えるように指定できます。また、このステートメントを部分的なリロードで実行する必要があることも指定します。**Replace** プレフィックスは **Map** ステートメントでも使用できます。

構文:

```
Replace[only][Concatenate[(tablename)]] (loadstatement | selectstatement)
```

```
Replace[only]mapstatement
```

通常 (非パーシャル) のリロードの間、**ReplaceLOAD** 構文は、通常の **LOAD** ステートメントとして機能しますが、**DropTable** が先行します。最初に古いテーブルがドロップされ、その後にレコードが生成され、新しいテーブルに保存されます。

Concatenate プレフィックスが使用されるか、同一の項目セットのあるテーブルが存在する場合、これがドロップするための関連するテーブルです。それ以外の場合は、ドロップするテーブルがなく、**ReplaceLOAD** 構文は、通常の **LOAD** と同一です。

パーシャル リロードの場合も同様です。唯一の相違は、以前のスクリプト実行から、ドロップする必要のあるテーブルが常にあることです。**ReplaceLOAD** 構文は常に、古いテーブルを最初にドロップし、その後、新しいテーブルを作成します。

Replace Map...Using ステートメントでは、パーシャル スクリプトの実行中もマッピングが発生します。

引数:

Replace 引数

引数	説明
only	パーシャル リロードではない通常のリロード中にステートメントを無視するよう指定するオプションの修飾子。

例と結果:

例と結果

例	結果
`Tab1: Replace LOAD * from File1.csv;`	通常のリロードおよびパーシャル リロードでは、まず QlikView テーブル Tab1 が削除されます。次に File1.csv から新しいデータがロードされ、Tab1 に保存されます。
`Tab1: Replace only LOAD * from File1.csv;`	通常のリロード中、このステートメントは無視されます。 パーシャル リロードでは、以前に指定した Tab1 テーブルの QlikView が最初に削除されます。次に File1.csv から新しいデータがロードされ、Tab1 に保存されます。
`Tab1: LOAD a,b,c from File1.csv; Replace LOAD a,b,c from File2.csv;`	通常のリロードでは、最初にファイル File1.csv が QlikView テーブル Tab1 に読み取られますが、このファイルは直ちに削除され、File2.csv からロードされた新しいデータに置き換えられます。その結果、File1.csv のデータはすべて失われます。 パーシャル リロードでは、まず QlikView テーブル Tab1 が削除されます。次に File2.csv からロードされた新しいデータに置き換えられます。
`Tab1: LOAD a,b,c from File1.csv; Replace only LOAD a,b,c from File2.csv;`	通常のリロードでは、データは File1.csv からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に保存されます。その際、File2.csv は無視されます。 パーシャル リロードでは、まず QlikView テーブル Tab1 が削除されます。次に File2.csv からロードされた新しいデータに置き換えられます。その結果、File1.csv のデータはすべて失われます。

Right

Join および **Keep** プレフィックスの前には、プレフィックス **right** を置くことができます。

join の前に使用すると、右結合を指定します。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は 2 番目のテーブルに示されます。**keep** の前に使用すると、QlikView に保存される前に、1 つ目の生データテーブルは 2 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

同じ名前で文字列関数を検索していた場合参照: Right (page 1519)

構文:

```
Right (Join | Keep) [(tablename)](loadstatement |selectstatement )
```

引数:

Table load 引数

引数	説明
tablename	名前が付いたテーブルが、ロード済みのテーブルと比較されます。
loadstatement 、または selectstatement	ロード済みテーブルの **LOAD** または **SELECT** ステートメントです。

Example 1A

Table1	-
A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Example 1B

Table2	-
A	C
1	xx
4	yy

```
QVTable:
SQL SELECT * from table1;
right join SQL SELECT * from table2;
```

Example 1C

QVTable	-	-
A	B	C
1	aa	xx
4	-	yy

```
QVTab1:
SQL SELECT * from Table1;
QVTab2:
right keep SQL SELECT * from Table2;
```

Example 1D

QVTab1	-

A	B
1	aa

Example 1E

QVTab2	-
A	C
1	xx
4	yy

keep の例にある2 つのテーブルは、A によって関連付けられます。

```
tab1:
LOAD * from file1.csv;
tab2:
LOAD * from file2.csv;
.. .. ..
right keep (tab1) LOAD * from file3.csv;
```

Sample

sample または **LOAD** ステートメントの **SELECT** プレフィックスは、データソースからランダムにレコードサンプルをロードする際に使用します。

構文:

```
Sample  p ( loadstatement | selectstatement )
```

引数:

Sample 引数

引数	説明
p	0 以上 1 以下の数を評価する任意の数式。数は、指定したレコードが読み取られる確率を示します。 レコードはすべて読み取られますが、QlikView にロードされるのは一部のみです。

```
Sample 0.15 SQL SELECT * from Longtable;
Sample(0.15) LOAD * from Longtab.csv;
```

丸括弧も使用できますが、必須ではありません。

Semantic

semantic プレフィックスを使用すると、レコード間の関係を含むテーブルをロードできます。これはテーブル内における、親 (会社) や所属先、前任者といった 1 つのレコードポイントから別のポイントへの自己参照です。

構文:

```
Semantic( loadstatement | selectstatement)
```

セマンティック ロードは、データ内を移動するときに使用されるリスト ボックスで表示可能な、セマンティック項目を作成します。

semantic ステートメントでロードしたテーブルは、連結できません。

```
Semantic LOAD * from abc.csv;
Semantic SELECT Object1, Relation, Object2, InverseRelation from table1;
```

Unless

unless プレフィックスとサフィックスは、条件節の作成に使用します。条件節は、ステートメントまたは exit 節を評価するかどうかを決定します。これは、**if..end if** ステートメントの簡単な代替として使用されることがあります。

構文:

```
(Unless condition statement | exitstatement Unless condition )
```

statement または **exitstatement** は、**condition** が False と評価された場合に限り、実行されます。

unless プレフィックスは、他の **when** や **unless** プレフィックスなどの 1 つまたは複数のステートメントを含むステートメントで使用できます。

引数:

Unless 引数

引数	説明
condition	True または False の評価を実施する論理式。
statement	制御ステートメント以外の任意の QlikView スクリプト ステートメント。
exitstatement	**exit for**、**exit do**、**exit sub** 節、あるいは **exit script** ステートメント。

```
exit script unless A=1;
unless A=1 LOAD * from myfile.csv;
unless A=1 when B=2 drop table Tab1;
```

When

when プレフィックスとサフィックスは、条件節の作成に使用します。条件節は、ステートメントまたは exit 節を実行するかどうかを決定します。これは、**if..end if** ステートメントの簡単な代替として使用されることがあります。

構文:

```
(when condition statement | exitstatement when condition )
```

statement または **exitstatement** は、condition が True と評価された場合に限り、実行されます。

when プレフィックスは、他の **when** や **unless** プレフィックスなどの 1 つまたは複数のステートメントを含むステートメントで使用できます。

構文:

When 引数

引数	説明
condition	True または False の評価を実施する論理式。
statement	制御ステートメント以外の任意の QlikView スクリプト ステートメント。
exitstatement	**exit for**、**exit do**、**exit sub** 節、あるいは **exit script** ステートメント。

```
exit script when A=1;
when A=1 LOAD * from myfile.csv;
when A=1 unless B=2 drop table Tab1;
```

スクリプト正規ステートメント

一般に正規ステートメントは、何らかの形でデータの操作に使用されます。これらのステートメントはスクリプト内で何行でも記述できます。常にセミコロン (;) で終了する必要があります。

スクリプトのキーワードは、いずれも小文字と大文字の組み合わせが可能です。ただし、ステートメントで使用されている項目名と変数名は大文字と小文字の区別があります。

スクリプト正規ステートメントの概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

エイリアス

alias ステートメントは、エイリアスの設定に使用します。後続のスクリプトで項目が出現すると、エイリアスに従って項目の名前がその都度変更されます。

```
Alias fieldname as aliasname {,fieldname as aliasname}
```

AutoNumber

このステートメントは、スクリプトの実行中に発生する項目の個々の評価値について、一意の整数値を作成します。

```
AutoNumber *fieldlist
 [Using namespace] ]
```

Binary

binary ステートメントは、別の QlikView アプリや ドキュメントからデータ (セクション アクセス データなど) をロードする際に使用します。

```
Binary  [[path] filename]
```

コメントフィールド

データベースやスプレッドシートの項目のコメント(metadata) を表示する方法を提供します。ドキュメントに存在しない項目名は無視されます。項目名が何度も発生する場合は、最後の値が使用されます。

```
Comment field *fieldlist using mapname
Comment field fieldname with comment
```

コメントテーブル

データベースやスプレッドシートのテーブルのコメント(メタデータ) を表示する方法を提供します。

```
Comment table tablelist using mapname
Comment table tablename with comment
```

接続

CONNECT ステートメントは、QlikView が OLE DB/ODBC インターフェイスから一般的なデータベースにアクセスする方法を定義する際に使用します。ODBC の場合、まず ODBC アドミニストレータを使用して、データソースを指定する必要があります。

```
ODBC CONNECT TO connect-string
OLEDB CONNECT TO connect-string
CUSTOM CONNECT TO connect-string
LIB CONNECT TO connection
```

Directory

Directory ステートメントは、新たな **Directory** ステートメントが作成されるまで、後続の **LOAD** ステートメントのどのディレクトリでデータファイルを検索するか定義します。

```
Directory [path]
```

切断

Disconnect ステートメントは、現在の ODBC/OLE DB/カスタム接続を終了します。このステートメントはオプションです。

```
Disconnect
```

ドロップ フィールド

QlikView ステートメントを使用すると、スクリプトの実行中にいつでもデータモデルやメモリから 1 つ以上の **drop field** 項目を削除できます。テーブルの「個別」のプロパティは、**drop field** ステートメントの後に削除されます。

> ***drop field*** *と* ***drop fields*** *では同じ結果が得られるため、どちらを使用しても構いません。テーブルが指定されていない場合は、その項目が存在するすべてのテーブルから項目が削除されます。*

```
Drop field  fieldname [ , fieldname2 ...] [from tablename1 [ , tablename2
...]]
drop fields fieldname [ , fieldname2 ...] [from tablename1 [ , tablename2
...]]
```

テーブルをドロップ

drop table ステートメントを使用すると、スクリプトの実行中いつでも、1 つまたは複数の QlikView 内部テーブルをデータモデルから、ひいてはメモリから削除できます。必要に応じて、**drop mapping table** バリアントを使用して、スクリプトの実行が終了する前にマッピング テーブル–**Mapping** プレフィックスで作成されたもの–を削除します。



*形式は **drop table** と**drop tables** のどちらでも構いません。*

```
Drop [mapping] table tablename [, tablename2 ...]
drop [mapping] tables[ tablename [, tablename2 ...]
```

変数を削除

スクリプトの実行中にスクリプト変数をドロップするには、**Drop variable** ステートメントを使用します。



***drop variable** と**drop variables** では同じ結果が得られるため、どちらを使用しても構いません。*

```
Drop variable variablename [ , variablename2 ...]
Drop variables variablename [ , variablename2 ...]
```

実行

Execute ステートメントはその他のプログラムの実行に使用しますが、QlikView ではデータのロードを行います。例えば、必要な変換を行う場合などです。

```
Execute commandline
```

強制

force ステートメントによって、QlikView は後続の **LOAD** および **SELECT** ステートメントの項目値を大文字のみ、小文字のみ、常に先頭を大文字化、またはそのまま(混合)として強制的に解釈します。このステートメントを使用すると、異なる表記規則に従って作成されたテーブルの項目値を関連付けられます。

```
Force ( capitalization | case upper | case lower | case mixed )
```

LOAD

LOAD ステートメントは、ファイル、スクリプトで定義されたデータ、事前にロードされたテーブル、Web ページ、後続の **SELECT** ステートメントの結果、または自動生成されたデータから項目をロードします。

```
 Load [ distinct ] *fieldlist
[( from file [ format-spec ] |
from_field fieldassource [format-spec]
inline data [ format-spec ] |
resident table-label |
autogenerate size )]
[ where criterion | while criterion ]
[ group_by groupbyfieldlist ]
[order_by orderbyfieldlist ]
```

Let

let ステートメントは、**set** ステートメントを補完し、スクリプト変数を定義する際に使用します。**let** ステートメントでは、**set** ステートメントとは逆に、変数に代入する前に「=」の右側の数式が評価されます。

```
Let variablename=expression
```

テーブルを緩める

スクリプト実行中に **Loosen Table** ステートメントを使用すると、1 つまたは複数の QlikView 内部データテーブルに対して明示的に疎結合を宣言できます。スクリプトで **Loosen Table** ステートメントを 1 度以上使用すると、QlikView はスクリプト実行前に疎結合化されたテーブルの設定を無視します。

```
Loosen Table tablename [ , tablename2 ...]
Loosen Tables tablename [ , tablename2 ...]
```

... を使用してマッピング

map ... using ステートメントは、特定のマッピング テーブルの値に、特定の項目値または数式をマップするために使用されます。マッピング テーブルは、**Mapping** ステートメントで作成します。

```
Map  *fieldlist Using  mapname
```

NullAsNull

NullAsNull ステートメントは、以前 **NullAsValue** ステートメントで設定された文字列値への NULL 値の変換を無効にします。

```
NullAsNull *fieldlist
```

NullAsValue

NullAsValue ステートメントは、NULL を値に変換する項目を指定します。

```
NullAsValue *fieldlist
```

適格化

Qualify ステートメントは、項目名の修飾を切り替える際に使用します (項目名がプレフィックスとしてテーブル名を取得するなど)。

```
Qualify *fieldlist
```

Rem

rem ステートメントは、スクリプト内に備考やコメントを挿入するため、またスクリプトを削除することなく一時的に無効にするために使用します。

```
Rem string
```

フィールド名の変更

このスクリプト関数は、既存の 1 つ以上の QlikView 項目をロードした後、名前を変更します。

```
Rename field (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

```
Rename Fields (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

テーブルの名前を変更

このスクリプト関数は、既存の 1 つ以上の QlikView 内部テーブルをロードした後、名前を変更します。

```
Rename table  (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
Rename Tables (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

セクション

section ステートメントでは、後続の **LOAD** および **SELECT** ステートメントをデータとして、またはアクセス権の定義としてみなすかどうかを定義できます。

```
Section (access | application)
```

選択

ODBC データソースまたは OLE DB プロバイダの項目選択は、標準的な SQL **SELECT** ステートメントを介して実行されます。ただし、**SELECT** ステートメントが許可されるかどうかは、使用する ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダによって異なります。

```
Select [all | distinct | distinctrow | top n [percent] ] *fieldlist

From tablelist

[Where criterion ]

[Group by fieldlist [having criterion ] ]

[Order by fieldlist [asc | desc] ]

[ (Inner | Left | Right | Full)Join tablename on fieldref = fieldref ]
```

設定

set ステートメントは、スクリプト変数を定義する際に使用します。これらは、文字列、パス、ドライバなどの代入に使用されます。

```
Set variablename=string
```

スリープ

sleep ステートメントは、指定した時間におけるスクリプトの実行を停止します。

```
Sleep n
```

SQL

SQL ステートメントを使用すると、ODBC または OLE DB 接続から任意の SQL コマンドを送信できます。

```
SQL sql_command
```

SQLColumns

sqlcolumns ステートメントは、**connect** が実行される ODBC または OLE DB データソースの列を記述する項目セットを返します。

```
SQLColumns
```

SQLTables

sqltables ステートメントは、**connect** が実行されている ODBC または OLE DB データソースのテーブルを説明する項目をセットで返します。

```
SQLTables
```

SQLTypes

sqltypes ステートメントは、**connect** が実行されるODBC または OLE DB データソースの種類を記述する項目セットを返します。

```
SQLTypes
```

スター

star ステートメントを使用すると、データベースの項目すべての値セットを表す文字列を設定できます。後続の **LOAD** および **SELECT** ステートメントに影響を与えます。

```
Star is [ string ]
```

ストア

このスクリプト関数は、QVD または CSV ファイルを作成します。

```
Store [ *fieldlist from] table into filename [ format-spec ];
```

タグ

このスクリプト関数は、1 つ以上の項目にタグを適用する方法を提供します。ドキュメントにない項目名にタグを付けしようとしても、無視されます。項目名やタグ名が何度も発生する場合には、最後の値が使用されます。

```
Tag fields fieldlist using mapname
Tag field fieldname with tagname
```

トレース

trace ステートメントを使用すると、**[ロード スクリプトの進捗]** ウィンドウとスクリプトのログ ファイルに使用した文字列が書き込まれます。これはデバッグの際に非常に有用です。**trace** ステートメントの前に計算される変数の $ 拡張を使用すると、メッセージをカスタマイズできます。

```
Trace string
```

マッピング解除

Unmap ステートメントは、前に **Map ... Using** ステートメントによって指定した項目値の、後続のロードされた項目のマッピングを無効にします。

```
Unmap *fieldlist
```

不適格にする

Unqualify ステートメントは、**Qualify** ステートメントで事前に有効化された項目名の修飾を無効にする際に使用します。

```
Unqualify *fieldlist
```

タグ解除

1 つまたは複数の項目からタグを削除する方法を提供します。ドキュメントにない項目名のタグを外そうとしても、無視されます。項目名やタグ名が何度も発生する場合には、最後の値が使用されます。

```
Untag fields fieldlist using mapname
Untag field fieldname with tagname
```

Alias

aliasステートメントは、エイリアスの設定に使用します。後続のスクリプトで項目が出現すると、エイリアスに従って項目の名前がその都度変更されます。

構文:

```
alias fieldname as aliasname {,fieldname as aliasname}
```

引数:

引数

引数	説明
fieldname	ソースデータに含まれる項目の名前
aliasname	代わりに使用するエイリアス名

例と結果

以下の表の例では、定義された項目名の変更は、その後のすべての **SELECT** および **LOAD** ステートメントの元の項目名の参照に適用されます。項目名として定義された新しいエイリアスは、その後のスクリプトの任意の場所で、新しい **alias** ステートメントによって定義されます。

この項目は、データモデルとアプリコンテンツでもエイリアス名で参照されます。

例と結果

例	結果
`Alias ID_N as NameID;`	項目名 *ID_N* は *NameID* に変更されました。
`Alias A as Name, B as Number, C as Date;`	項目名 *A*、*B*、*C* は、それぞれ *Name*、*Number*、*Date* に変更されました。

長文の例

概要

データロードエディターを開き、以下のロードスクリプトを新しいセクションに追加します。

ロードスクリプト

```
alias [A] as [AAA];
                                        T1:
                                        Load 'string 1' as A autogenerate 1;
                                        T2:
                                        Load 'string 2' as B autogenerate 1;
                                        T3:
                                    Load 'string 3' as A autogenerate 1;
```

結果

データをロードしてシートを開きます。新しいテーブルを作成し、この項目を軸として追加します。

- AAA

結果テーブル

AAA
string 1
string 3

AutoNumber

このステートメントは、スクリプトの実行中に検出される個々の評価値について、一意の整数値を作成します。

LOAD ステートメント内では *autonumber (page 1202)* 関数も使用できますが、最適化されたロードを使用する際にいくらかの制限があります。最適化されたロードを作成するには、まず **QVD** ファイルからデータをロードし、その後、**AutoNumber** ステートメントを使用して値を記号キーに変換します。

構文:

```
AutoNumber fieldlist [Using namespace] ]
```

引数:

引数

引数	説明
fieldlist	項目のコンマ区切りされたリストで、値は記号キーに変換されています。 項目名でワイルドカード文字「?」と「*」を使用して、一致する名前の項目すべてを含めることができます。「*」を使用して、項目すべてを含めることもできます。ワイルドカードを使用する時は、項目名を引用する必要があります。
namespace	**Using** namespace はオプションです。異なる項目の同一値で同一キーを共有する namespace を作成する場合は、このオプションを使用します。 このオプションを使用しない場合、すべての項目には個別のキーインデックスがあるようになります。

制限事項:

スクリプトに複数の **LOAD** ステートメントがある場合、**AutoNumber** ステートメントは、最後の **LOAD** ステートメントの後に配置する必要があります。

この例では、メモリを節約するために、**AutoNumber** ステートメントを使用して、項目値を記号テーブル キーに置き換えます。この例は、デモのために、簡略化したものになっていますが、この方法が効果的なのは、多数の行が含まれるテーブルで使用した場合です。

データの例

Region	Year	Month	Sales
North	2014	May	245
North	2014	May	347
North	2014	June	127
South	2014	June	645
South	2013	May	367
South	2013	May	221

インライン データを使用して、ソース データをロードします。それから、Region、Year、および Month 項目がある **AutoNumber** ステートメントを追加します。

```
RegionSales: LOAD * INLINE [ Region, Year, Month, Sales North,  2014,   May,    245 North,      2014,
May,    347 North,      2014,   June,   127 South,      2014,   June,   645 South,      2013,   May, 367 Sout
        221 ];  AutoNumber Region, Year, Month;
```

結果テーブルは、次のようになります。

結果テーブル

Region	Year	Month	Sales
1	2	1	245
1	2	1	347
1	2	2	127
2	2	2	645
2	1	1	367
2	1	1	221

Binary

binary ステートメントは、別の QlikView アプリや ドキュメントからデータ(セクション アクセス データなど) をロードする際に使用します。レイアウト情報や変数はロードされません。

最適化されたデータ モデル、つまり合成キーを含まないデータ モデルを含むドキュメントから、**binary** ステートメントを含むデータのみをロードすることを推奨します。その他の合成キーを参照するのみの合成キーを含むドキュメントからデータをロードした場合、データ セット全体がロードされないことがあります。

このスクリプト内で許可される **binary** ステートメントは 1 つのみです。**binary** ステートメントは、必ず最初のステートメント(通常スクリプトの先頭に置かれる SET ステートメントよりも前) でなければなりません。

合成キー (page 143)

構文:

```
binary [[path] filename ]
```

引数:

Binary 引数

引数	説明
path	このスクリプト行を含む .qvw または .qvf ファイルへの絶対パスまたは相対パスで指定します。ファイルが QlikView パスに存在しない場合に必要になります。 • 絶対 *c:\data* • このスクリプト行を含むドキュメントの相対パス。 *data*
filename	ファイル拡張子 .qvw または .qvf を含むファイル名。ファイル名が提供されない場合、ステートメントはアプリ自体からロードします。つまり、**binary** ステートメントを含んだアプリからロードします。

例と結果:

例と結果

例	結果
`Binary ;`	これにより、アプリ自体からデータをロードします。
`Binary customer.qvw;`	この例では、*customer.qvw* は QlikView 作業ディレクトリになければなりません。
`Binary c:\qv\customer.qvw;`	この例では絶対ファイルパスを使用しています。

Comment field

データベースやスプレッドシートの項目のコメント (metadata) を表示する方法を提供します。ドキュメントに存在しない項目名は無視されます。項目名が何度も発生する場合は、最後の値が使用されます。

構文:

```
comment [fields] *fieldlist using mapname
comment [field] fieldname with comment
```

使用するマッピング テーブルは 2 列で構成され、1 列目に項目名、2 列目にはコメントが含まれます。

引数:

Comment field 引数

引数	説明
**fieldlist*	コメントする項目のコンマ区切りリスト。項目リストに * を使用すると、すべての項目が対象となります。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。
mapname	マッピング **LOAD** またはマッピング **SELECT** ステートメントで、以前読み取られたマッピングテーブルの名前。
fieldname	コメントする項目の名前。
comment	項目に追加するコメント。

Example 1:

```
commentmap:
mapping LOAD * inline [
a,b
Alpha,This field contains text values
Num,This field contains numeric values
];
comment fields using commentmap;
```

Example 2:

```
comment field Alpha with AFieldContainingCharacters;
comment field Num with '*A field containing numbers';
comment Gamma with 'Mickey Mouse field';
```

Comment table

データベースやスプレッドシートのテーブルのコメント(メタデータ)を表示する方法を提供します。

ドキュメントに存在しないテーブル名は無視されます。テーブル名が何度も発生する場合は、最後の値が使用されます。データソースからコメントを読み取るには、キーワードを使用します。

構文:

```
comment [tables] tablelist using mapname
comment [table] tablename with comment
```

引数:

Comment table 引数

引数	説明
tablelist	(table{,table})

引数	説明
mapname	マッピング **LOAD** またはマッピング **SELECT** ステートメントで、以前読み取られたマッピングテーブルの名前。
tablename	コメントするテーブルの名前。
comment	テーブルに追加するコメント。

Example 1:

```
Commentmap:
mapping LOAD * inline [
a,b
Main,This is the fact table
Currencies, Currency helper table
];
comment tables using Commentmap;
```

Example 2:

```
comment table Main with 'Main fact table';
```

Connect

CONNECT ステートメントは、QlikView が OLE DB/ODBC インターフェイスから一般的なデータベースにアクセスする方法を定義する際に使用します。ODBC の場合、まず ODBC アドミニストレータを使用して、データソースを指定する必要があります。

構文:

```
ODBC CONNECT TO connect-string
OLEDB CONNECT TO connect-string
CUSTOM CONNECT TO connect-string
LIB CONNECT TO connection
```

引数:

Connect 引数

引数	説明
connect-string	connect-string ::= datasourcename { ; conn-spec-item } 接続文字列は、データソースの名前と1つまたは複数の接続指定アイテムのリスト(オプション) で構成されます。データソース名に空白が含まれる場合や接続指定アイテムがリストされている場合、接続文字列を引用符で囲む必要があります。 **datasourcename** は定義されたODBC データソース、あるいは OLE DB プロバイダを定義する文字列でなくてはなりません。 conn-spec-item ::=**DBQ=**database_specifier |**DriverID=**driver_specifier |**UID=**userid |**PWD=**password 使用可能な接続指定アイテムは、データベースにより異なります。上記以外のアイテムを使用できるデータベースもあります。OLE DB では、一部の接続特有の項目は必須に指定されており、オプションではありません。
connection	スクリプトエディタで保管されるデータ接続名。

ODBC が **CONNECT** の前に配置されている場合、ODBC インターフェースが使用されます。それ以外の場合は OLE DB が使用されます。

LIB CONNECT TO を使用すると、スクリプトエディターで作成され保管されていたデータ接続を使用する、データベースに接続します。

Example 1:

```
ODBC CONNECT TO 'Sales
DBQ=C:\Program Files\Access\Samples\Sales.mdb';
```

このステートメントで定義されたデータソースは、新しい **CONNECT** ステートメントが作成されるまで、その後の **Select (SQL)** ステートメントに使用されます。

Example 2:

```
LIB CONNECT TO 'MyDataConnection';
```

Connect32

このステートメントは **CONNECT** ステートメントと同じ方法で使用されますが、64 ビットシステムで強制的に 32 ビットODBC/OLE DB プロバイダを使用します。カスタム接続には適用されません。

Connect64

このステートメントは **CONNECT** ステートメントと同じ方法で使用されますが、64 ビットプロバイダを強制的に使用します。カスタム接続には適用されません。

Directory

Directory ステートメントは、新たな **Directory** ステートメントが作成されるまで、後続の **LOAD** ステートメントのどのディレクトリでデータファイルを検索するか定義します。

構文:

```
Directory[path]
```

Directory ステートメントを **path** なしで、あるいは省略して発行すると、QlikView は QlikView 作業ディレクトリを探します。

引数:

引数	説明
path	データファイルのパスとして解釈されるテキスト。 ファイルのパスは以下のいずれかになります。 • 絶対 *c:\data* • QlikView ドキュメントの相対パス。 *data* • インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。 *http://www.qlik.com*

```
DIRECTORY C:\userfiles\data; // OR -> DIRECTORY data\;

LOAD * FROM
[data1.csv] // ONLY THE FILE NAME CAN BE SPECIFIED HERE (WITHOUT THE FULL PATH)
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);

LOAD * FROM
[data2.txt] // ONLY THE FILE NAME CAN BE SPECIFIED HERE UNTIL A NEW DIRECTORY STATEMENT IS
MADE
(ansi, txt, delimiter is '\t', embedded labels);
```

Disconnect

Disconnect ステートメントは、現在の ODBC/OLE DB/カスタム接続を終了します。このステートメントはオプションです。

構文:

```
Disconnect
```

新しい **connect** ステートメントの実行が開始または終了した時点で、接続が自動的に終了します。

```
Disconnect;
```

Drop field

QlikView ステートメントを使用すると、スクリプトの実行中にいつでもデータモデルやメモリから 1 つ以上の **drop field** 項目を削除できます。テーブルの「個別」のプロパティは、**drop field** ステートメントの後に削除されます。

> *drop field* と *drop fields* では同じ結果が得られるため、どちらを使用しても構いません。テーブルが指定されていない場合は、その項目が存在するすべてのテーブルから項目が削除されます。

構文:

```
Drop field fieldname [ , fieldname2 ...] [from tablename1 [ , tablename2
...]]
Drop fields fieldname [ , fieldname2 ...] [from tablename1 [ , tablename2
...]]
```

```
Drop field A;
Drop fields A,B;
Drop field A from X;
Drop fields A,B from X,Y;
```

Drop table

drop table ステートメントを使用すると、スクリプトの実行中いつでも、1 つまたは複数の QlikView 内部テーブルをデータモデルから、ひいてはメモリから削除できます。必要に応じて、**drop mapping table** バリアントを使用して、スクリプトの実行が終了する前にマッピング テーブル—**Mapping** プレフィックスで作成されたもの—を削除します。

```
drop [mapping] table  tablename [, tablename2 ...]
drop [mapping] tables [ tablename [, tablename2 ...]
```

> 形式は *drop table* と *drop tables* のどちらでも構いません。

以下のアイテムが削除されます。

- 実際のテーブル
- 残されたテーブルに属さないすべての項目。
- 残された項目に含まれる項目値 (削除されたテーブルから排他的に発生)。

例と結果

例	結果
drop table Orders, Salesmen, T456a;	メモリから3 つのテーブルが削除されます。
Tab1: Load * Inline [Customer, Items, UnitPrice Bob, 5, 1.50]; Tab2: LOAD Customer, Sum(Items * UnitPrice) as Sales resident Tab1 group by Customer; drop table Tab1;	テーブル *Tab2* が作成されたら、テーブル *Tab1* が削除されます。

例	結果

// Load mapping table of country codes:
map1:
mapping LOAD *
Inline [
CCode, Country
Sw, Sweden
Dk, Denmark
No, Norway
] ;
// Load list of salesmen, mapping country code to country
// If the country code is not in the mapping table, put Rest of the world
Salespersons:
LOAD *,
ApplyMap('map1', CCode,'Rest of the world') As Country
Inline [
CCode, Salesperson
Sw, John
Sw, Mary
Sw, Per
Dk, Preben
Dk, Olle
No, Ole
Sf, Risttu] ;
// We don't need the CCode anymore
Drop Field 'CCode';
 	
Drop Mapping Table map1;
 	
Metrics:
 	
Load * Inline [
Transaction ID, Sales Amount, Sales Cost, City, Customer ID
1000012, 4509.33, 1234.22, Oslo, 250v9849
1000013, 1043.21, 180.23, Gothenburg, 195d5930
1000014, 6038.35, 1400.10, Copenhagen, 195d5930
 	
];
	この例は、**Drop mapping table** バリアントの使用方法を示しています。マッピング テーブル *map1* が作成され、その後 **LOAD** ステートメントで **ApplyMap** 関数とともに使用されます。マッピング テーブルが使用された後、メモリからドロップされ、スクリプト実行の後続のテーブルにロードされるデータの RAM 使用量が最適化されます。
	
	この場合、マッピング テーブルの行数が少ないため、RAM の最適化はわずかになります。ただし、大規模なマッピング テーブルの場合や、ループ内でマッピング テーブルを作成する場合は、パフォーマンスを大幅に向上させることができます。

Drop variable

スクリプトの実行中にスクリプト変数をドロップするには、**Drop variable** ステートメントを使用します。

drop variable と*drop variables* では同じ結果が得られるため、どちらを使用しても構いません。

```
Drop variable  variablename {, variablename2 ...}
 Drop variables variablename {, variablename2 ...}
Drop variable MyVarToDrop1;
Drop variables MyVarToDrop2, MyVarToDrop3;
```

Drop variable ステートメントを使用するタイミング

Drop variable ステートメントは、スクリプト開発とシート開発を分離するのに役立ちます。変数を使用することで、シート作成時の操作画面を煩雑にすることなく、計算の実行または特定のデータのみのロードを実行できます。変数が多く、スクリプトでロードするデータ量も膨大な場合は、スクリプトの早い段階で変数をドロップすることでメモリ使用量を抑え、パフォーマンスを向上させることができます。

Execute

Execute ステートメントはその他のプログラムの実行に使用しますが、QlikView ではデータのロードを行います。例えば、必要な変換を行う場合などです。

構文:

```
execute commandline
```

引数:

Execute 引数

引数	説明
commandline	オペレーティング システムがコマンド ラインとして解釈するテキスト。

QlikView での Execute の有効化

既定値では、リロード中の **Execute** ステートメントの実行は、QlikView Server および QlikView Desktop の両方で無効化されます。QlikView Server または QlikView Desktop のインストールで **Execute** コマンドを手動で有効にすることができます。

QlikView Server

QlikView Batch *Settings.ini* ファイルを変更することによって、QlikView Server の **Execute** ステートメントを有効にすることができます。

次の手順を実行します。

- *C:\Windows\System32\config\systemprofile\AppData\Roaming\QlikTech\QlikViewBatch* に移動して、*Settings.ini* ファイルを開きます。
- `AllowExecuteCommand` 行を探して、次のように値を 1 に設定します。
  `AllowExecuteCommand=1`

ここで、QlikView Management Console からドキュメントのリロードを実行すると、**Execute** ステートメントが有効になります。

Execute ステートメントの実行は、QlikView Batch (QVB) ログ ファイルに登録されます。QlikView Server でスクリプトの実行時に QlikView Batch ログ ファイルを生成するには、C:\Windows\System32\config\systemprofile\AppData\Roaming\QlikTech\QlikViewBatch にある Settings.ini ファイルを開き、次のフラグを追加します。

```
EnableQVBLog=1
```

QlikView Desktop

次の手順を実行します。

- QlikView Desktop スタート ページで、**[設定]** ドロップダウン メニューをクリックして **[ユーザー プロパティ]** を選択します。
- **[セキュリティ]** タブで、**[スクリプトからのデータベースへの書込/実行 ステートメントの実行 を許可する]** を選択して、セキュリティの上書きを有効にします。

*スクリプトで Execute ステートメントを許可するには、必ず **[スクリプトからのデータベースへの書込/実行 ステートメントの実行 を許可する]** 設定を有効にする必要があります。*
参照 : ユーザー プロパティ: セキュリティ

- **Execute** ステートメントを実行する QlikView ドキュメントを開き、**[ファイル]** ドロップダウン メニューから **[ロード スクリプトの編集]** を選択して**スクリプト エディタ**を開きます。
- スクリプト エディタ ウィンドウの下部で、**[設定]** タブに移動して **[外部プログラムを実行する]** を選択します。

これで、リロード中にスクリプトでこのステートメントを実行できるようになりました。

スクリプト エディタの設定で **[外部プログラムを実行する]** 設定が有効になっていない場合でも、リロード中にこのステートメントを実行できます。この場合は、Execut ステートメントを含むスクリプトを実行するたびに、**[Security Alert]** (セキュリティ アラート) ウィンドウが表示されます。スクリプトで Execute ステートメントの実行を許可するには、[Security Alert] (セキュリティ アラート) ウィンドウにあるオプションから **[Override Security, Execute This Statement]** (セキュリティを上書きしてこのステートメントを実行する) を選択します。

*Execute ステートメントの実行は、ログ ファイルに登録されます。QlikView Desktop でスクリプトの実行時にログ ファイルの生成を有効にするには、**[設定]** ドロップダウン メニューから **[ドキュメント プロパティ]** を選択し、**[基本設定]** タブで **[ログ ファイルの生成]** を選択します。*

```
Execute "C:\Program Files\Office12\Excel.exe";
Execute "winword macro.doc";
Execute cmd.exe /C "C:\BatFiles\Log.bat";
```

/C は cmd.exe のパラメータのため、必ず含める必要があります。

Force

force ステートメントによって、QlikView は後続の **LOAD** および **SELECT** ステートメントの項目値を大文字のみ、小文字のみ、常に先頭を大文字化、またはそのまま(混合) として強制的に解釈します。このステートメントを使用すると、異なる表記規則に従って作成されたテーブルの項目値を関連付けられます。

force ステートメントは、次のデータソースのロードまたは選択中に項目名を変更することもできます。

- QVD
- CSV (テキストファイル)
- XLS
- QVX (ファイルおよび ODBC 接続)

force ステートメントは、データがコンパクトモード(* でロード) でロードされた場合にのみ項目名を変更します。

次のデータソースの項目名は、**force** ステートメントの影響を受けません。

- JSON
- Parquet
- XML
- XLSX

```
Force ( capitalization | case upper | case lower | case mixed )
```

何も指定されない場合、大文字と小文字を混在させると見なされます。force ステートメントは、新たな force ステートメントが実行されるまで有効です。

force ステートメントは、アクセスセクションでは使用できず、ロードされる項目値は大文字と小文字が区別されません。

例と結果

例	結果

この例では頭文字の大文字化を強制する方法を説明します。
 	
`FORCE Capitalization;`
`Capitalization:`
`LOAD * Inline [`
`ab`
`Cd`
`eF`
`GH`
`];`
	Capitalization テーブルには次の値があります。
	
	`Ab`
	`Cd`
	`Ef`
	`Gh`
	すべての値の頭文字が大文字化されます。

例	結果

この例では大文字の使用を強制する方法を説明します。
 	
`FORCE Case Upper;`
`CaseUpper:`
`LOAD * Inline [`
`ab`
`Cd`
`eF`
`GH`
`];`
	CaseUpper テーブルには次の値があります。
	
	`AB`
	`CD`
	`EF`
	`GH`
	すべての値が大文字になります。

この例では小文字の使用を強制する方法を説明します。
 	
`FORCE Case Lower;`
`CaseLower:`
`LOAD * Inline [`
`ab`
`Cd`
`eF`
`GH`
`];`
	CaseLower テーブルには次の値があります。
	
	`ab`
	`cd`
	`ef`
	`gh`
	すべての値が小文字になります。

この例では大文字と小文字の混在を強制する方法を説明します。
 	
`FORCE Case Mixed;`
`CaseMixed:`
`LOAD * Inline [`
`ab`
`Cd`
`eF`
`GH`
`];`
	CaseMixed テーブルには次の値があります。
	
	`ab`
	`Cd`
	`eF`
	`GH`
	すべての値はスクリプトの表記と同じになります。

Load

LOAD ステートメントは、ファイル、スクリプトで定義されたデータ、事前にロードされたテーブル、Web ページ、後続の **SELECT** ステートメントの結果、または自動生成されたデータから項目をロードします。

```
LOAD [ distinct ] fieldlist
[( from file [ format-spec ] |
from_field fieldassource [format-spec]
inline data [ format-spec ] |
resident table-label |
autogenerate size )]
[ where criterion | while criterion ]
[ group_by groupbyfieldlist ]
[order_by orderbyfieldlist ]
```

引数をロードする

引数	説明
distinct	一意のレコードをロードする場合にのみ、**distinct** を述語として使用できます。重複したレコードがある場合、最初のインスタンスがロードされます。 先行する Load を使用している場合、**distinct** はロード先テーブルにのみ影響するため、最初の Load ステートメントに **distinct** を配置する必要があります。
fieldlist	*fieldlist ::= (* | field {, field })* ロードする項目のリスト。項目リストとして * を使用すると、テーブルのすべての項目が指定されます。 *field ::= (fieldref | expression) [***as** *aliasname]* 項目定義には、リテラル、既存項目への参照、または数式を含める必要があります。 *fieldref ::= (fieldname |@fieldnumber |@startpos:endpos [I | U | R | B | T])* *fieldname* は、テーブル内の項目名と同じテキストです。項目名にスペースなどが含まれる場合は、ストレート二重引用符または角括弧で囲む必要があります。明示的に表現できない項目名については、次のような表記規則を使用します。 *@fieldnumber* は、区切り記号付きテーブル ファイルの項目番号を表します。「@」が前に付いた正の整数でなければなりません。常に 1 から項目の数まで、番号が振られています。 *@startpos*:*endpos* は、固定長レコードが含まれるファイル内の項目の開始および終了位置を表します。位置はどちらも正の整数でなければなりません。2 つの番号の前に「@」を付け、コロン (:) で区切る必要があります。常に 1 から位置の数までの番号が付けられます。最後の項目で、**n** は終了位置として使用されます。 • *@startpos*:*endpos* の直後に **I** か **U** の文字が続く場合は、バイトの読み取りは符号付き (**I**) バイナリまたは符号なし (**U**) の整数 (Intel のバイト順) と解釈されます。読み取られる位置の数は、1、2、または 4 です。 • *@startpos*:*endpos*の直後に文字 **R** が続く場合は、読み取られるバイトはバイナリの実数 (IEEE 32 ビットまたは 64 ビットの浮動小数点) として解釈されます。読み取られる位置の数は、4 または 8 です。 • *@startpos*:*endpos* の直後に文字 **B** が続く場合は、読み取られるバイトは COMP-3 標準に従った BCD (Binary Coded Decimal) 数として解釈されます。任意のバイト数を指定できます。 *expression* は、同じテーブルにある 1 つまたは複数の項目に基づいた数値関数または文字列関数です。詳細については、数式の構文を参照してください。 項目に新しい名前を割り当てるには、**as** を使用します。

引数	説明
from	**from** は、データをファイルからロードする必要がある場合に使用します。 *file ::= [path] filename* • 絶対 ***c:\data*** • QlikView ドキュメントの相対パス。 ***data*** • インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。この URL は、たとえば空白文字を含んでいる場合などに URL エンコードする必要があります。 ***http://www.qlik.com*** ***http://www.enterprise.com/project%20files*** (***http://www.enterprise.com/project files***) パスを省略すると、QlikView は、**Directory** ステートメントで指定されたディレクトリのファイルを検索します。**Directory** ステートメントが存在しない場合は、QlikView は作業中のディレクトリを検索します。通常は、このディレクトリは QlikView ファイルが置かれているディレクトリです。 *QlikView サーバー インストール時のデフォルトの作業ディレクトリは、C:\ProgramData\QlikTech\Documents になります。デフォルトの作業ディレクトリは QlikView 管理コンソール で変更できます。* *filename* には、標準の DOS ワイルドカード文字 (* および ?) が含まれる場合があります。これにより、指定されたディレクトリ内にあるすべての一致ファイルがロードされます。 *format-spec ::= (fspec-item { , fspec-item })* この書式指定は、括弧に囲まれた複数の書式指定アイテムのリストで構成されます。
from_field	事前にロードされた項目からデータをロードする場合は、**from_field** を使用します。 *fieldassource::=(tablename, fieldname)* この項目は、事前にロードされた *tablename* と *fieldname* の名前です。 *format-spec ::= (fspec-item {, fspec-item })* この書式指定は、括弧に囲まれた複数の書式指定アイテムのリストで構成されます。

引数	説明
inline	**inline** スクリプト内でデータを入力し、ファイルからロードしない場合は、を使用します。 *data ::= [text]* **inline** 句を通じて入力されるデータは、角括弧、引用符、またはバックティックなどの特定の文字で囲む必要があります。括弧で囲まれたテキストは、ファイルのコンテンツと同じ方法で解釈されます。そのため、テキストファイル内で新しい行を挿入する場合は、**inline** 句のテキスト内でも新しい行を挿入する必要があります。つまり、スクリプトを入力するときに Enter キーを押します。 単純なインライン ロードでは、列の数は最初の行で定義されます。 *format-spec ::= (fspec-item {, fspec-item })* インライン ロードは、他のロード テーブルにある同じ形式仕様項目の多くでカスタマイズすることができます。これらの項目は括弧で囲まれています。詳細については、「*書式指定アイテム (page 932)*」を参照してください。 インライン ロードの詳細については、「*インライン テーブルからデータを読み込む (page 153)*」を参照してください。
resident	事前にロード済みのテーブルからデータをロードする場合は、**resident** を使用します。 *table label* は、元のテーブルを作成した **LOAD** または **SELECT** ステートメントの前に配置されるラベルです。ラベルの最後にはコロン (:) を記述します。 **distinct** 以降で **resident** とQlikView12.00 Load ステートメントを組み合わせて使用する場合、データのロード順は QlikView11.20 とは異なります。適切なロード順を定義するには、**order by** 節を追加します。
autogenerate	QlikView でデータを自動生成する場合は、**autogenerate** を使用します。 *size ::= number* *Number* は、生成するレコード数を示す整数です。項目のリストには、データベースからデータを取得する必要のある数式を記述できません。数式では、定数とパラメータを使用しない関数 (*rand()* や *recno()* など) のみが使用されます。

引数	説明
extension	分析接続からデータをロードすることができます。**extension** 節を使用して、サーバーサイド拡張 (SSE) プラグインで定義された関数を呼び出すか、スクリプトを評価する必要があります。 1 つのテーブルを SSE プラグインに送信することができ、1 つのデータテーブルが返されます。このプラグインで返された項目の名前が指定されていない場合、項目には Field1, Field2 などの名前が付けられます。 `Extension pluginname.functionname( tabledescription );` • SSE プラグインで関数を使用してデータをロードする *tabledescription ::= (table { ,tablefield})* テーブル項目を指定しなかった場合、項目はロード順に使用されます。 • SSE プラグインでのスクリプトの評価によってデータをロードする *tabledescription ::= (script, table { ,tablefield})* **テーブル項目定義でのデータ型の処理** 分析接続では自動的にデータ型が検出されます。データに数値が含まれておらず、NULL 以外のテキスト文字列が少なくとも 1 つ含まれている場合、この項目はテキストと見なされます。その他の場合は、項目は数値と見なされます。 項目名を **String()** または **Mixed()** でラップすることによって、データ型を強制できます。 • **String()** は項目がテキストとなるよう強制します。項目が数値である場合、dual 値のテキスト部分が抽出され、変換は実行されません。 • **Mixed()** は項目がデュアルとなるよう強制します。 **String()** または **Mixed()** は **extension** テーブル項目定義以外では使用できず、その他の QlikView 関数をテーブル項目定義で使用することはできません。 **分析接続に関する詳細** QlikView Server または QlikView Desktop での分析接続の作成については、以下を参照してください: 分析接続
where	**where** 節は、レコードを選択に含めるかどうかを示します。*criterion* が True の場合は選択が含まれます。 *criterion* は論理式です。
while	**while** は、レコードを繰り返し読み取るかどうかを示す節です。*criterion* が True である限り、同じレコードが読み取られます。通常、**while** 節には **IterNo( )** 関数が含まれていなければなりません。 *criterion* は論理式です。

引数	説明
group_by	データを集計 (グループ化) すべき項目を定義するには、**group by** 節を使用します。集計項目は、ロードする数式に挿入しなければなりません。集計項目以外の項目は、ロードした数式に含まれる集計関数の外部で使用できます。 *groupbyfieldlist ::= (fieldname { ,fieldname })*
order_by	**order by** 節は、**load** ステートメントで処理される前に、常駐テーブルのレコードをソートします。1 つ以上の項目の昇順または降順で、常駐テーブルをソートできます。最初に数値、次に各国の照合順でソートされます。この節は、データソースが常駐テーブルの場合に限り使用できます。 順序項目は、常駐テーブルをソートする項目を指定します。項目は、名前または常駐テーブル内での番号 (最初の項目が番号 1) で指定できます。 orderbyfieldlist ::= fieldname [sortorder] { , fieldname [sortorder] } *sortorder* は、昇順の *asc* または降順の *desc* のどちらかになります。*sortorder* を指定しない場合は、*asc* と見なされます。 *fieldname*、*path*、*filename*、*aliasname* は、それぞれの名前を示すテキスト文字列です。ソーステーブルのフィールドは *fieldname* として使用できます。ただし、as 節 (*aliasname*) を使用して作成された項目は範囲外になり、同じ **load** ステートメント内では使用できません。

from、**inline**、**resident**、**from_field**、または **autogenerate** 節でデータのソースが指定されない場合、データは直後の **SELECT** または **LOAD** ステートメントの結果からロードされます。後続のステートメントには、プレフィックスを記述できません。

さまざまなファイル形式の読み込み

区切り記号付きデータファイルを既定のオプションでロードします。

```
LOAD * from data1.csv;
```

コンマを区切り記号として指定し、埋め込みラベル付きで、区切り記号付きファイルをロードします。

```
LOAD * from 'c:\userfiles\data1.csv' (ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);
```

タブを区切り記号として指定し、埋め込みラベル付きで、区切り記号付きファイルをロードします。

```
LOAD * from 'c:\userfiles\data2.txt' (ansi, txt, delimiter is '\t', embedded labels);
```

dif ファイルを埋め込みヘッダー付きでロードします。

```
LOAD * from file2.dif (ansi, dif, embedded labels);
```

固定長レコードファイルから、ヘッダーなしで 3 項目をロードします。

```
LOAD @1:2 as ID, @3:25 as Name, @57:80 as City from data4.fix (ansi, fix, no labels, header is
0, record is 80);
```

QVX ファイルを、絶対パスを指定してロードします。

```
LOAD * from C:\qdssamples\xyz.qvx (qvx);
```

特定のフィールドの選択、フィールドの名前変更、および計算

区切り記号付きファイルから特定の 3 項目のみロードします。

```
LOAD FirstName, LastName, Number from data1.csv;
```
ラベルなしでファイルをロードする場合、Rename 最初の項目の名前をA に変更し、2 番目の項目の名前をB に変更します。

```
LOAD @1 as A, @2 as B from data3.txt (ansi, txt, delimiter is '\t', no labels);
```
Name を、FirstName、空白文字、および LastName の連結としてロードします。

```
LOAD FirstName&' '&LastName as Name from data1.csv;
```
Quantity、Price、および Value (Quantity とPrice の積) をロードします。

```
LOAD Quantity, Price, Quantity*Price as Value from data1.csv;
```

特定のレコードの選択

一意のレコードのみロードします。重複しているレコードは破棄されます。

```
LOAD distinct FirstName, LastName, Number from data1.csv;
```
項目 Litres がゼロ (0) より大きい値を持つレコードのみロードします。

```
LOAD * from Consumption.csv where Litres>0;
```

ファイルに存在しないデータおよび自動生成されたデータの読み込み

CatID および Category という2 項目のインライン データを持つテーブルをロードします。

```
LOAD * Inline
[CatID, Category
0,Regular
1,Occasional
2,Permanent];
```
UserID、Password、および Access という3 項目のインライン データを持つテーブルをロードします。

```
LOAD * Inline [UserID, Password, Access
A, ABC456, User
B, VIP789, Admin];
```
10 000 行を持つテーブルをロードします。項目 A には、読み取られたレコード (1,2,3,4,5...) の数が含まれ、項目 B には 0 ~ 1 間の乱数が含まれます。

```
LOAD RecNo( ) as A, rand( ) as B autogenerate(10000);
```



autogenerate 後の丸かっこはオプションです。

以前にロードしたテーブルからのデータのロード

最初に、区切り記号付きテーブル ファイルをロードし、tab1 という名前を付けます。

```
tab1:
SELECT A,B,C,D from transtable;
```
ロード済みのテーブル tab1 からtab2 として項目をロードします。

```
tab2:
LOAD A,B,month(C),A*B+D as E resident tab1;
```
ロード済みのテーブル tab1 から項目 (ただし、A が B より大きいレコードのみ) をロードします。

```
tab3:
LOAD A,A+B+C resident tab1 where A>B;
```
ロード済みのテーブル tab1 から、A によって指定された項目をロードします。

```
LOAD A,B*C as E resident tab1 order by A;
```
ロード済みのテーブル tab1 から、最初の項目によって指定された項目をロードし、次に 2 番目の項目によって指定された項目をロードします。

```
LOAD A,B*C as E resident tab1 order by 1,2;
```
ロード済みのテーブル tab1 から、C によって指定された項目を降順でロードし、次に B によって指定された項目を昇順でロードし、最初の項目を降順でロードします。

```
LOAD A,B*C as E resident tab1 order by C desc, B asc, 1 des;
```

以前にロードされたフィールドからのデータのロード

事前にロードされているテーブル Types から、項目 Characters を A としてロードします。:

```
LOAD A from_field (Characters, Types);
```

後続テーブルからのデータのロード(先行 LOAD)

後続の ASELECTB ステートメントにロードされている X から、Y、Table1、および計算項目の **および** をロードします。

```
LOAD A, B, if(C>0,'positive','negative') as X, weekday(D) as Y;
SELECT A,B,C,D from Table1;
```

データのグループ化

ArtNo によってグループ化 (集計) された項目をロードします。

```
LOAD ArtNo, round(Sum(TransAmount),0.05) as ArtNoTotal from table.csv group by ArtNo;
```
Week と ArtNo によってグループ化 (集計) された項目をロードします。

```
LOAD Week, ArtNo, round(Avg(TransAmount),0.05) as WeekArtNoAverages from table.csv group by
Week, ArtNo;
```

1 つのレコードを繰り返し読み取る

この例では、ひとつの項目に各生徒の成績が要約して含まれている、入力ファイル Grades.csv があります。

```
Student,Grades
Mike,5234
John,3345
Pete,1234
Paul,3352
```
成績は、1 から 5 に分かれていて、科目 Math、English、Science、および History を表しています。**IterNo( )** 関数をカウンタとして使用して、各レコードを複数回、**while** 句で読み取り、成績を個々の値に分けることができます。読み取るたびに、**Mid** 関数で成績が抽出され、Grade に保存され、科目が **pick** 関数を使用して選択され、Subject に保存されます。最後の **while** 節には、全成績が読み取られたか確認するテスト(この場合、生徒 1 人に付き 4 教科分) が含まれています。その後、次の生徒の成績を読み取ります。

```
MyTab:
LOAD Student,
mid(Grades,IterNo( ),1) as Grade,
pick(IterNo( ), 'Math', 'English', 'Science', 'History') as Subject from Grades.csv
while IsNum(mid(Grades,IterNo(),1));
```
結果は、このデータが含まれるテーブルにあります。

Student	Subject	Grade
John	English	3
John	History	5
John	Math	3
John	Science	4
Mike	English	2
Mike	History	4
Mike	Math	5
Mike	Science	3
Paul	English	3
Paul	History	2
Paul	Math	3
Paul	Science	5
Pete	English	2
Pete	History	4
Pete	Math	1
Pete	Science	3

分析接続からのロード
次のサンプル データが使用されます。

```
Values:
Load
 Rand() as A,
 Rand() as B,
 Rand() as C
AutoGenerate(50);
```

関数を使用してデータをロードする

以下の例では、*P* という名前の分析接続プラグインがあり、カスタム関数 *Calculate(Parameter1, Parameter2)* を含むことを前提とします。この関数は、項目 *Field1* および *Field2* を含むテーブル *Results* を返します。

```
Load * Extension P.Calculate( Values{A, C} );
```
項目 A および C を関数に送信すると返されるすべての項目をロードします。

```
Load Field1 Extension P.Calculate( Values{A, C} );
```
項目 Field1 および A を関数に送信すると、C 項目のみをロードします。

```
Load * Extension P.Calculate( Values );
```
項目 A および B を関数に送信すると返されるすべての項目をロードします。項目が指定されていない場合は、テーブルの順序の最初の A および B が使用されます。

```
Load * Extension P.Calculate( Values {C, C});
```
項目 C を関数の両方のパラメータに送信すると返されるすべての項目をロードします。

```
Load * Extension P.Calculate( Values {String(A), Mixed(B)});
```
文字列として強制された項目 A および数値として強制された B を関数に送信するときに、返されるすべての項目をロードします。

スクリプトの評価によってデータをロードする

```
Load A as A_echo, B as B_echo Extension R.ScriptEval( 'q;', Values{A, B} );
```

q および A の値を送信すると、スクリプト B によって返されるテーブルをロードします。

```
Load * Extension R.ScriptEval( '$(My_R_Script)', Values{A, B} );
```

My_R_Script および A の値を送信すると、B 変数に格納されたスクリプトによって返されるテーブルをロードします。

```
Load * Extension R.ScriptEval( '$(My_R_Script)', Values{B as D, *} );
```

名前が My_R_Script、B、および D に変更された A の値を送信すると、C 変数に格納されたスクリプトによって返される値をロードします。* を使用すると、残っている照会先のない項目が送信されます。

書式指定アイテム

各書式指定アイテムは、次のようなテーブル ファイルのプロパティを定義します。

fspec-item ::= [**ansi | oem | mac | UTF-8 | Unicode | txt | fix | dif | biff | ooxml | html | xml | qvd | qvx | delimiter is** `char` | **no eof | embedded labels | explicit labels | no labels | table is [**`tablename`**] | header is** `n` | **header is** `line` | **header is** `n` **lines | comment is** `string` | **record is** `n` | **record is** `line` | **record is**`n` **lines | no quotes |msq**]

文字セット

文字セットは、ファイルで使われる文字セットを定義する **LOAD** ステートメントのファイル指定子です。

構文:

```
utf8 | unicode | ansi | oem | mac | codepage is
```

引数:

Character set 引数

引数	説明
utf8	UTF-8 文字セット
unicode	Unicode 文字セット
ansi	Windows、コードページ 1252
oem	DOS、OS/2、AS400、その他
mac	コードページ 10000
codepage is	**codepage** 指定子を使用すると、あらゆる Windows コードページを *N* として使用できます。

制限事項:

oem 文字セットからの変換は macOS には実装されていません。何も指定されない場合、Windows ではコードページ 1252 と見なされます。

```
LOAD * from a.txt (utf8, txt, delimiter is ',' , embedded labels)
LOAD * from a.txt (unicode, txt, delimiter is ',' , embedded labels)
LOAD * from a.txt (codepage is 10000, txt, delimiter is ',' , no labels)
```

テーブル形式

テーブルの書式は、ファイルの種類を定義する**LOAD** ステートメントのファイル指定子です。何も指定されない場合、*.txt* ファイルと見なされます。

指定されたテーブルの種類

ファイルの種類	説明
txt	区切り記号付きテキストファイルでは、テーブル内の列は区切り文字で区切られます。
fix	固定レコード長ファイルでは、各項目は正確に特定の文字数を幅とする文字列です。 通常、多くの固定レコード長ファイルには、ラインフィードによって区切られたレコードが含まれていますが、レコードのサイズをバイト単位で指定したり、**Record is** を使用して複数行に拡大したりする、より高度なオプションがあります。 *データにマルチバイト文字が含まれている場合、書式がバイト単位の固定長に基づいているため、項目分割が不揃いになる場合があります。*
dif	*.dif* (Data Interchange Format) ファイルでは、テーブルを定義する特殊な書式が使用されます。
biff	QlikView は、*biff* 形式 (Binary Interchange File Format) を使用して、標準の Excel ファイルのデータを解釈することもできます。
ooxml	Excel 2007 以降のバージョンでは、ooxml *.xslx* 形式を使用しています。
html	テーブルが html ページまたはファイルの一部になっている場合は、html を使用してください。
xml	xml (Extensible Markup Language) は、テキスト形式でデータ構造を示す一般的なマークアップ言語です。
qvd	*qvd* 形式は、QlikView ドキュメントからエクスポートされた独自の QVD ファイル形式です。
qvx	*qvx* は、QlikView への高効率出力を提供するファイル/ストリーム形式です。

Delimiter

区切り記号付きテーブル ファイルでは、**delimiter is** 指定子を使用して、任意の区切り記号を指定できます。この指定子は、区切り記号付きの .txt ファイル専用です。

構文:

```
delimiter is char
```

引数:

Delimiter is 引数

引数	説明
char	127 ASCII 文字から単一の文字を指定します。
'\t'	引用符付き/引用符なしのタブ記号を表します。

引数	説明
'\\'	円記号 (\) を表します。
'spaces'	1 つ以上のスペースのあらゆる組み合わせを表します。32 を下回る ASCII 値を持つ印刷不能な文字で、例外として CR と LF はスペースと解釈されます。

何も指定されていない場合は、**delimiter is ','** と見なされます。

```
LOAD * from a.txt (utf8, txt, delimiter is ',' , embedded labels);
```

No eof

no eof 指定子は、区切り記号付き **.txt** ファイルをロードする場合、ファイルの最後の文字を無視する際に使用します。

構文:

```
no eof
```

no eof 指定子が使用される場合、ファイルの終端を意味する文字 26 が無視され、項目値の一部となります。

この指定子は、区切り記号付きファイルにのみ使用できます。

```
LOAD * from a.txt (txt, utf8, embedded labels, delimiter is ' ', no eof);
```

Labels

Labels は、ファイルのどこに項目名が位置するかを定義する **LOAD** ステートメントのファイル指定子です。

構文:

```
embedded labels|explicit labels|no labels
```

項目名は、ファイル内のさまざまな場所に配置できます。1 件目のレコードに項目名が含まれる場合は、**embedded labels** を使用します。項目名がない場合は、**no labels** を使用します。*dif* ファイルでは、明示的な項目名を持つ別のヘッダー セクションが使用されることがあります。その場合、**explicit labels** を使用します。何も指定しないと、**embedded labels**、*dif* ファイルと見なされます。

Example 1:

```
LOAD * from a.txt (unicode, txt, delimiter is ',' , embedded labels
```

Example 2:

```
LOAD * from a.txt (codePage is 1252, txt, delimiter is ',' , no labels)
```

Header is

テーブル ファイルでヘッダーのサイズを指定します。**header is** 指定子で、任意のヘッダー長を指定できます。ヘッダーは、QlikView で使用されないテキスト セクションです。

構文:

```
header is n
header is line
header is n lines
```

ヘッダー長は、バイト単位 (**header is n**)、または行単位 (**header is line** または **header is n lines**) で指定できます。**n** はヘッダー長を表す正の整数です。何も指定されていない場合、**header is 0** と見なされます。**header is** 指定子は、テーブル ファイルにのみ使用できます。

これは、QlikView によってデータとして解釈されてはならないヘッダー テキスト行を含むデータ ソース テーブルの例です。

```
*Header line
Col1,Col2
a,B
c,D
```

header is 1 lines 指定子を使用すると、最初の行はデータとしてロードされません。この例の **embedded labels** 指定子は、最初の非除外行に項目ラベルが含まれるものとして解釈するようQlikView に指示します。

```
LOAD Col1, Col2
FROM header.txt
(txt, embedded labels, delimiter is ',', msq, header is 1 lines);
```

結果として、2 つの項目 Col1 とCol2を含むテーブルが作成されます。

Record is

固定レコード長のファイルでは、レコード長を **record is** 指定子で指定する必要があります。

構文:

```
Record is n
Record is line
Record is n lines
```

引数:

Record is 引数

引数	説明
n	バイト単位でレコード長を指定します。
line	行単位でレコード長を指定します。
n lines	行単位でレコード長を指定します (n はレコード長を表す正の整数)。

制限事項:

record is 指定子は、**fix** ファイルにのみ使用できます。

Quotes

Quotes は、**LOAD** ステートメントのファイル指定子で、引用符を使用できるかどうか、また、引用符と区切り文字間の優先を定義します。テキストファイルのみで使用できます。

構文:

```
no quotes
```

```
msq
```

指定子を省略する場合、標準的な引用符 (" " または ' ') を用いることができますが、これらの使用は項目値の最初と最後の文字 (空白は不可) に限られます。

引数:

引用符引数

引数	説明
no quotes	テキストファイルで、引用符が許可されない場合に使用します
msq	新しいスタイルの引用符を指定するためのもので、項目に複数行の内容を含めることができます。改行文字を含む項目は、ダブルクォートで囲む必要があります。 msq オプションの限界のひとつは、項目の内容の最初または最後の文字としてダブルクォート (") 文字がひとつだけ使われると、複数行の最初または最後として解釈され、ロードされるデータセットで予測できない結果につながる可能性があるという点です。この場合は、標準的な引用符を使用して指定子を省略してください。

XML

このスクリプト指定子は、xml ファイルをロードする際に使用します。**XML** 指定子の有効なオプションは、構文にリストされています。

QlikView では DTD ファイルをロードできません。

構文:

```
xmlsimple
```

Let

let ステートメントは、**set** ステートメントを補完し、スクリプト変数を定義する際に使用します。**let** ステートメントでは、**set** ステートメントとは逆に、変数に代入する前に「=」の右側の数式が評価されます。

構文:

```
Let variablename=expression
```

let は省略できますが、その場合は制御ステートメントになります。**let** キーワードがないステートメントは、1 行のスクリプトに収める必要があり、セミコロン「;」または改行コード (end-of-line) で終了します。

例と結果:

例と結果

例	結果
Set x=3+4; Let y=3+4; z=$(y)+1;	$(x) は '3+4' として評価されます $(y) は '7' として評価されます $(z) は '8' として評価されます
Let T=now( );	$(T) には現在の時刻の値が渡されます。

Loosen Table

スクリプト実行中に **Loosen Table** ステートメントを使用すると、1 つまたは複数の QlikView 内部データテーブルに対して明示的に疎結合を宣言できます。テーブルが疎結合されている場合、テーブルに含まれる項目値のすべての関連付けは削除されます。疎結合のテーブルに含まれる各項目を独立状態の非結合テーブルとしてロードしても似たような効果が得られます。疎結合テーブルは、テスト中など、データ構造から異なる部分を一時的に隔離するのに便利です。疎結合テーブルはテーブル ビューアーでは点線と矢印を使い識別できます。スクリプトで **Loosen Table** ステートメントを 1 度以上使用すると、QlikView はスクリプト実行前に疎結合化されたテーブルの設定を無視します。

構文:

```
Loosen Tabletablename [ , tablename2 ...]
Loosen Tablestablename [ , tablename2 ...]
```

いずれかの構文:**Loosen Table** または **Loosen Tables** を使用できます。

> *QlikView が、対話的にまたはスクリプトで明示的に疎結合を宣言されたテーブルで、分割できないデータ構造の循環参照を検出すると、循環参照がなくなるまで、他のテーブルが 1 つ以上強制的に疎結合にされます。その場合、**ループ警告**ダイアログで、警告が表示されます。*

```
Tab1:
SELECT * from Trans;
Loosen Table Tab1;
```

Map

map ... using ステートメントは、特定のマッピング テーブルの値に、特定の項目値または数式をマップするために使用されます。マッピング テーブルは、**Mapping** ステートメントで作成します。

構文:

```
Map *fieldlist Using  mapname
```

自動マッピングは、**Map ... Using** ステートメントの後、スクリプトが終わるまで、または **Unmap** ステートメントが作成されるまで、ロードされた項目に対して実行されます。

マッピングは、項目が QlikView の内部テーブルに保存される一連のイベントの最後に実行されます。つまり、マッピングは数式に項目名が出現するたびに行われるのではなく、内部テーブルの項目名に値を保する際に実行されます。数式レベルでのマッピングが必要な場合は、**Applymap()** 関数を使用する必要があります。

引数:

Map 引数

引数	説明
**fieldlist*	スクリプトのこの場所からマッピングされる項目のコンマ区切りリスト。項目リストに * を使用すると、すべての項目が対象となります。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。
mapname	**mapping load** または **mapping select** ステートメントで、以前読み取られたマッピング テーブルの名前。

例と結果:

例と結果

例	結果
Map Country Using Cmap;	マップ Cmap を使用して項目 Country のマッピングを有効にします。
Map A, B, C Using X;	マップ X を使用して、項目 A、B、C マッピングを有効にします。
Map * Using GenMap;	GenMap を使用し、すべての項目のマッピングを有効にします。

NullAsNull

NullAsNull ステートメントは、以前 **NullAsValue** ステートメントで設定された文字列値への NULL 値の変換を無効にします。

構文:

```
NullAsNull *fieldlist
```

NullAsValue ステートメントはスイッチとしての役割があり、**NullAsValue** または **NullAsNull** ステートメントを使用すると、スクリプトでオン/オフの切り替えができます。

引数:

NullAsNull 引数

引数	説明
*fieldlist	**NullAsNull** が有効である項目のコンマ区切りリスト。項目リストに * を使用すると、すべての項目が対象となります。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。

```
NullAsNull A,B;
LOAD A,B from x.csv;
```

NullAsValue

NullAsValue ステートメントは、NULL を値に変換する項目を指定します。

構文:

```
NullAsValue *fieldlist
```

QlikView のデフォルトでは、NULL 値は不明または未定義の値と見なされます。ただし、特定のデータベースのコンテキストでは、NULL 値は単なる欠損値ではなく、特殊な値と見なされることがあります。通常、NULL 値を他の NULL 値にリンクすることはできませんが、**NullAsValue** ステートメントではこの制約を一時的に無効にできます。

NullAsValue ステートメントにはスイッチの役割があり、その後のロード ステートメントで有効になります。オン/オフの切り替えは、**NullAsNull** ステートメントを使用して実行できます。

引数:

NullAsValue 引数

引数	説明
*fieldlist	**NullAsValue** が有効である項目のコンマ区切りリスト。項目リストに * を使用すると、すべての項目が対象となります。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。

```
NullAsValue A,B;
Set NullValue = 'NULL';
LOAD A,B from x.csv;
```

Only

Only スクリプト キーワードは、集計関数として、またはパーシャル リロード プレフィックス **Add**、**Replace**、および **Merge** にある構文の一部として使用されます。

Qualify

Qualify ステートメントは、項目名の修飾を切り替える際に使用します (項目名がプレフィックスとしてテーブル名を取得するなど)。

構文:

```
Qualify *fieldlist
```

項目名をテーブル名で修飾する**qualify** ステートメントでは、異なるテーブルにある同じ名前の項目の自動結合を一時的に無効にできます。その結果、テーブルで検出された際に項目名が変更されます。新しい名前は、*tablename.fieldname* の形式になります。*Tablename* は現在のテーブルのラベルに相当します。ラベルが存在しない場合は、**LOAD** および **SELECT** ステートメントで **from** の後に現れる名前が採用されます。

修飾は、**qualify** ステートメントの後にロードされたすべての項目で行われます。

スクリプトの実行開始時、デフォルトでは修飾が常に無効に設定されています。**qualify** ステートメントを使用すれば、いつでも項目名の修飾を有効にできます。修飾を無効にするには、**Unqualify** ステートメントを使用します。

> ***qualify** ステートメントは、パーシャル リロードと併用できません。*

引数:

Qualify 引数

引数	説明
*fieldlist	修飾を有効にする項目のコンマ区切りリスト。項目リストに * を使用すると、すべての項目が対象となります。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。

Example 1:

```
Qualify B;
LOAD A,B from x.csv;
LOAD A,B from y.csv;
```

2 つのテーブル **x.csv** および **y.csv** は、**A** のみが関連付けられます。3 つの項目の結果は次の通りです。A、x.B、y.B。

Example 2:

不慣れなデータベースでは、例に挙げるように、最初は 1 つまたは 2 ~ 3 の項目を関連付けることから始めるといいでしょう。

```
qualify *;
unqualify TransID;
SQL SELECT * from tab1;
SQL SELECT * from tab2;
SQL SELECT * from tab3;
```

テーブル*tab1*、*tab2*、*tab3* の関連付けには、**TransID** のみが使用されます。

Rem

rem ステートメントは、スクリプト内に備考やコメントを挿入するため、またスクリプトを削除することなく一時的に無効にするために使用します。

構文:

```
Rem string
```

rem と次のセミコロン「**;**」の間に含まれるすべてがコメントと見なされます。

スクリプト内でコメント化を行うには、他に 2 つの方法があります。

1. **/*** と***/** の間に、コメント化したい部分を配置することにより、スクリプトのどこにでも (ただし、2 つの引用符の間以外) コメントを作成することができます。
2. スクリプト内で **//** を入力すると、同じ行内にある右側のテキストがすべてコメントになります。(例外として、//: はインターネットアドレスの一部に使用されます。)

引数:

Rem 引数

引数	説明
string	任意のテキスト。

```
Rem ** This is a comment **;
/* This is also a comment */
// This is a comment as well
```

Rename field

このスクリプト関数は、既存の 1 つ以上の QlikView 項目をロードした後、名前を変更します。

> *QlikView では、項目と変数に同じ名前を使用することは、推奨されていません.*

いずれかの構文:**rename field** または **rename fields** を使用できます。

構文:

```
Rename Field (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
Rename Fields (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

引数:

Rename field 引数

引数	説明
mapname	以前にロードされたマッピング テーブル (項目の古い名前と新しい名前が 1 組以上含まれる) の名前。
oldname	古い項目名。
newname	新しい項目名。

制限事項:

2 つの異なる名前の付いた項目名を、同じ名前に変更することはできません。スクリプトは支障なく実行できますが、2 番目の項目の名前を変更できなくなります。

Example 1:

```
Rename Field XAZ0007 to Sales;
```

Example 2:

```
FieldMap:
Mapping SQL SELECT oldnames, newnames from datadictionary;
Rename Fields using FieldMap;
```

Rename table

このスクリプト関数は、既存の 1 つ以上の QlikView 内部テーブルをロードした後、名前を変更します。

いずれかの構文：**rename table** または **rename tables** を使用できます。

構文:

```
Rename Table (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
Rename Tables (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

引数:

Rename table 引数

引数	説明
mapname	以前にロードされたマッピング テーブル (テーブルの古い名前と新しい名前が 1 組以上含まれる) の名前。
oldname	古いテーブル名。
newname	新しいテーブル名。

制限事項:

2 つの異なる名前の付いたテーブル名を、同じ名前に変更することはできません。スクリプトは支障なく実行できますが、2 番目のテーブルの名前を変更できなくなります。

Example 1:

```
Tab1:
SELECT * from Trans;
Rename Table Tab1 to Xyz;
```

Example 2:

```
TabMap:
Mapping LOAD oldnames, newnames from tabnames.csv;
Rename Tables using TabMap;
```

Section

section ステートメントでは、後続の **LOAD** および **SELECT** ステートメントをデータとして、またはアクセス権の定義としてみなすかどうかを定義できます。

構文:

```
Section (access | application)
```

何も指定されていない場合は、**section application** と見なされます。**section** 定義は、新たな **section** ステートメントが作成されるまで有効です。

```
Section access;
Section application;
```

Select

ODBC データソースまたは OLE DB プロバイダの項目選択は、標準的な SQL **SELECT** ステートメントを介して実行されます。ただし、**SELECT** ステートメントが許可されるかどうかは、使用する ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダによって異なります。

構文:

```
Select [all | distinct | distinctrow | top n [percent] ] fieldlist

From tablelist

[where criterion ]

[group by fieldlist [having criterion ] ]

[order by fieldlist [asc | desc] ]

[ (Inner | Left | Right | Full) join tablename on fieldref = fieldref ]
```

さらに、**union** 演算子を使用して、複数の **SELECT** ステートメントを 1 つに連結できる場合があります。

```
selectstatement Union selectstatement
```

SELECT ステートメントは、ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダによって解釈されるため、ODBC ドライバまたはOLE DB プロバイダの機能の違いにより、一般的な SQL 構文との差が生じる場合があります。

- **as** を使用できない場合があります。(その場合、*aliasname* は必ず *fieldname* の直後に記述する必要があります。)
- *aliasname* を使用すると**as** の記述が必要になる場合があります。
- **distinct**、**as**、**where**、**group by**、**order by**、**union** は、使用できないことがあります。
- ODBC ドライバによっては、前述した引用符の一部を使用できない場合があります。

*これは、SQL **SELECT** ステートメントのすべてを説明したものではありません。例えば、**SELECT** ステートメントはネストしたり、複数の結合を 1 つの **SELECT** ステートメントで実行したり、数式で膨大な関数を使用できる場合があります。*

引数:

Select 引数

引数	説明
distinct	**distinct** は、選択した項目の値の組み合わせが重複している場合に 1 回だけロードする際に使用する述語です。
distinctrow	**distinctrow** は、ソース テーブルに含まれるレコードが重複している場合に 1 回だけロードする際に使用する述語です。
fieldlist	**fieldlist ::= (*| field) {, field }** 選択する項目のリスト。* を使用すると、テーブルのすべての項目が指定されます。 **fieldlist ::= field {, field }** コンマで区切られた 1 つまたは複数の項目のリスト。 **field ::= (fieldref| expression) [as aliasname]** 数式には、他の項目に基づいた数値や文字列関数を 1 つまたは複数使用できます。通常は、次のような演算子と関数を使用できます。+、-、*、/、& (文字列連結)、sum (fieldname)、count(fieldname)、avg(fieldname)(average)、month(fieldname)。詳細については、ODBC ドライバのマニュアルを参照してください。 **fieldref ::= [tablename.] fieldname** **tablename** と**fieldname** は、それぞれの名前を示すテキスト文字列です。スペースなどを含む場合は、ストレート二重引用符で囲む必要があります。 項目に新しい名前を割り当てるには、**as** 句を使用します。
from	**tablelist ::= table {, table }** 項目が選択されるテーブルのリスト。 **table ::= tablename [[as] aliasname]** **tablename** は、引用符で囲むことも囲まないことも可能です。
where	**where** 節は、レコードを選択に含めるかどうかを示します。 **criterion** は論理式で、非常に複雑になる場合があります。使用できる演算子には、数値演算子と関数 **=**、**<>** または **#(** 等号否定)、**>**、**>=**、**<**、**<=**、**and**、**or**、**not**、**exists**、**some**、**all**、**in** および新しい **SELECT** ステートメントがあります。詳細については、ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダのマニュアルを参照してください。
group by	**group by** 節は、複数のレコードを 1 つに集計 (グループ化) する際に使用します。1 つのグループに含まれる特定の項目のレコードは、すべて同じ値を持たなければなりません。そうでない場合は、項目は sum または average などの数式内でのみ使用する必要があります。1 つまたは複数の項目に基づいた数式は、項目記号の数式で定義されます。

引数	説明
having	**having** 節は、レコードを修飾する **where** 節と同様の方法で、グループを修飾する際に使用します。
order by	**order by** 節は、**SELECT** ステートメントの結果のテーブルのソート順を示します。
join	**join** 修飾子は、複数のテーブルを 1 つに結合することを示します。項目名とテーブル名に、スペースや各国語文字セットが含まれる場合は、引用符で囲む必要があります。QlikView で自動生成されるスクリプトについては、**Connect** ステートメントのデータソース定義で指定される ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダ推奨の引用符が使用されます。

Example 1:

```
SELECT * FROM `Categories`;
```

Example 2:

```
SELECT `Category ID`, `Category Name` FROM `Categories`;
```

Example 3:

```
SELECT `Order ID`, `Product ID`,
`Unit Price` * Quantity * (1-Discount) as NetSales
FROM `Order Details`;
```

Example 4:

```
SELECT `Order Details`.`Order ID`,
Sum(`Order Details`.`Unit Price` * `Order Details`.Quantity) as `Result`
FROM `Order Details`, Orders
where Orders.`Order ID` = `Order Details`.`Order ID`
group by `Order Details`.`Order ID`;
```

Set

set ステートメントは、スクリプト変数を定義する際に使用します。これらは、文字列、パス、ドライバなどの代入に使用されます。

構文:

```
Set variablename=string
```

Example 1:

```
Set FileToUse=Data1.csv;
```

Example 2:

```
Set Constant="My string";
```

Example 3:

```
Set BudgetYear=2012;
```

Sleep

sleep ステートメントは、指定した時間におけるスクリプトの実行を停止します。

構文:

```
Sleep n
```

引数:

Sleep 引数

引数	説明
n	*n* は、3600000 ミリ秒 (1 時間) 未満の正の整数です。この値には数式も使用できます。

Example 1:

```
Sleep 10000;
```

Example 2:

```
Sleep t*1000;
```

SQL

SQL ステートメントを使用すると、ODBC または OLE DB 接続から任意の SQL コマンドを送信できます。

構文:

```
SQL sql_command
```

QlikView で ODBC 接続を読み取り専用モードで開いている場合、データベースを更新する SQL ステートメントを送るとエラーが返されます。

以下の構文を使用できます。

```
SQL SELECT * from tab1;
```

SELECT ステートメントには、この構文が推奨されます (一貫性のため)。ただし、SQL プレフィックスは **SELECT** ステートメントではオプションです。

引数:

SQL 引数

引数	説明
sql_command	有効な SQL コマンド。

Example 1:

```
SQL leave;
```

Example 2:

```
SQL Execute <storedProc>;
```

SQLColumns

sqlcolumns ステートメントは、**connect** が実行される ODBC または OLE DB データ ソースの列を記述する項目セットを返します。

構文:

```
SQLcolumns
```

この項目を **sqltables** および **sqltypes** コマンドで生成される項目と組み合わせると、データベースの把握に役立ちます。12 の標準項目は次のとおりです。

TABLE_QUALIFIER

TABLE_OWNER

TABLE_NAME

COLUMN_NAME

DATA_TYPE

TYPE_NAME

PRECISION

LENGTH

SCALE

RADIX

NULLABLE

REMARKS

これらの項目の詳細については、ODBC リファレンスを参照してください。

```
Connect to 'MS Access 7.0 Database; DBQ=C:\Course3\DataSrc\QWT.mbd';
SQLcolumns;
```

このコマンドをサポートしていない ODBC ドライバもあります。追加項目が生じる ODBC ドライバもあります。

SQLTables

sqltables ステートメントは、**connect** が実行されているODBC または OLE DB データソースのテーブルを説明する項目をセットで返します。

構文:

```
SQLTables
```

この項目を**sqlcolumns** および **sqltypes** コマンドで生成される項目と組み合わせると、データベースの把握に役立ちます。5 つの標準項目は次のとおりです。

TABLE_QUALIFIER

TABLE_OWNER

TABLE_NAME

TABLE_TYPE

REMARKS

これらの項目の詳細については、ODBC リファレンスを参照してください。

```
Connect to 'MS Access 7.0 Database; DBQ=C:\Course3\DataSrc\QWT.mbd';
SQLTables;
```



このコマンドをサポートしていない ODBC ドライバもあります。追加項目が生じる ODBC ドライバもあります。

SQLTypes

sqltypes ステートメントは、**connect** が実行されるODBC または OLE DB データソースの種類を記述する項目セットを返します。

構文:

```
SQLTypes
```

この項目を**sqlcolumns** および **sqltables** コマンドで生成される項目と組み合わせると、データベースの把握に役立ちます。15 個の標準項目は次のとおりです。

TYPE_NAME

DATA_TYPE

PRECISION

LITERAL_PREFIX

LITERAL_SUFFIX

CREATE_PARAMS

NULLABLE

CASE_SENSITIVE

SEARCHABLE

UNSIGNED_ATTRIBUTE

MONEY

AUTO_INCREMENT

LOCAL_TYPE_NAME

MINIMUM_SCALE

MAXIMUM_SCALE

これらの項目の詳細については、ODBC リファレンスを参照してください。

```
Connect to 'MS Access 7.0 Database; DBQ=C:\Course3\DataSrc\QWT.mbd';
SQLTypes;
```



このコマンドをサポートしていない ODBC ドライバもあります。追加項目が生じる ODBC ドライバもあります。

Star

star ステートメントを使用すると、データベースの項目すべての値セットを表す文字列を設定できます。後続の **LOAD** および **SELECT** ステートメントに影響を与えます。

構文:

```
Star is[ string ]
```

引数:

Star is 引数

引数	説明
string	任意のテキスト。文字列に空白がある場合は、引用符で囲む必要があります。 何も指定されていない場合は、**star is;** と見なされ、明示的に指定されている場合以外はスターマークを使用できません。この定義は、新たな **star** ステートメントが作成されるまで有効となります。

[Star is] ステートメントは、セクション アクセスが使用されている場合、スクリプトのデータ部分 (**Section Application** の下) での使用はお勧めしません。ただし、スター文字は、スクリプトの **Section Access** 部分の保護項目で完全にサポートされています。この場合、セクション アクセスでは常に暗黙的であるため、明示的な **[Star is]** ステートメントを使用する必要はありません。

制限

- キー項目でスター文字を使用することはできません。つまり、テーブルをリンクする項目です。
- **Unqualify** ステートメントの影響を受ける項目でスター文字を使用することはできません。これは、テーブルをリンクする項目に影響を与える可能性があるためです。
- スター文字は、論理テーブル以外のテーブル (例えば、情報ロード テーブルやマッピング ロード テーブル) では使用できません。
- スター文字がセクション アクセスの縮小項目 (データにリンクする項目) で使用されている場合、これはセクション アクセスのこの項目にリストされている値を表します。データに存在する可能性があるが、セクション アクセスにリストされていない他の値を表すものではありません。
- **Section Access** 領域外のデータ削減のフォームの影響を受ける項目でスター文字を使用することはできません。

下記は、セクション アクセス機能を持つデータ ロード スクリプト抽出の例です。

```
Star is *;

Section Access;
LOAD * INLINE [
ACCESS, USERID, PASSWORD, OMIT
ADMIN, ADMIN, ADMIN,
USER, USER1, U1, SALES
USER, USER2, U2, WAREHOUSE
USER, USER3, U3, EMPLOYEES
USER, USER4, U4, SALES
USER, USER4, U4, WAREHOUSE
USER, USER5, U5, *
];

Section Application;
LOAD * INLINE [
SALES, WAREHOUSE, EMPLOYEES, ORDERS
1, 2, 3, 4
];
```

次が適用されます。

- *Star* 記号は * です。
- ユーザー *USER1* は項目 *SALES* を参照できません。
- ユーザー *USER2* は項目 *WAREHOUSE* を参照できません。
- ユーザー *USER3* は項目 *EMPLOYEES* を参照できません。
- ユーザー *USER4* はこのユーザーの *SALES* と *WAREHOUSE* の 2 項目を省略するために、ソリューションに 2 回追加されています。

- *USER5* には "*" が追加されています。これは、OMIT の全リスト項目は使用できないことを意味します。アスタリスク* は項目のすべての値ではなく、すべてのリスト値を意味します。
- ユーザー *USER5* は項目 *SALES*、*WAREHOUSE*、*EMPLOYEES* を参照できませんが、このユーザーは項目 *ORDERS* を参照できます。

Store

このスクリプト関数は、QVD または CSV ファイルを作成します。

構文:

```
Store[ *fieldlist from] table into filename [ format-spec ];
```

これは明示的に命名された QVD ファイルや CSV ファイルを作成するステートメントで、項目のエクスポートは 1 つのデータテーブルからのみ行えます。エクスポートする項目が複数のテーブルに存在する場合、スクリプトで明示的に join を行い、エクスポート対象のデータテーブルを作成する必要があります。

テキスト値は、BOM 形式の UTF-8 で CSV ファイルにエクスポートされます。区切り文字を指定できます (**LOAD** を参照)。CSV ファイルへの **store** ステートメントでは、BIFF エクスポートを行えません。

引数:

ストア引数

引数	説明
**fieldlist::= (* | field) { , field })*	選択する項目のリスト。項目リストとして * を使用すると、すべての項目が指定されます。 *field::= fieldname [***as***aliasname]* *fieldname* は、*table* の項目名と同じテキストです。(項目名にスペースや非標準的な文字などが含まれる場合、ストレート二重引用符または角括弧で囲む必要があります。) *aliasname* は、結果の QVD ファイルまたは CSV ファイルで使用される項目の別名です。
table	データソースとして使用するロード済みテーブルを表すスクリプトラベル。

引数	説明
filename	有効なパスを含むターゲットファイルの名前。 • 絶対 ***c:\data\sales.qvd*** • QlikView ドキュメントの相対パス。 ***data\sales.qvd*** パスを省略すると、QlikView は **Directory** ステートメントで指定されたディレクトリにファイルを保存します。**Directory** ステートメントがない場合、QlikView はファイルを作業ディレクトリに保存します。
format-spec ::=((**txt** | **qvd**))	テキストファイルの書式指定はテキスト**txt**、**qvd** ファイルの場合はテキスト**qvd** で構成されます。書式指定が省略されている場合は、**qvd** で処理されます。

```
Store mytable into xyz.qvd (qvd);

Store * from mytable into xyz.qvd;

Store Name, RegNo from mytable into xyz.qvd;

Store Name as a, RegNo as b from mytable into xyz.qvd;

store mytable into myfile.txt (txt);

store * from mytable into myfile.txt (txt);
```

Table/Tables

Table および **Tables** スクリプトキーワードは、**Load** ステートメントの書式指定子、そして **Drop**、**Comment**、**Rename** ステートメントで使用されます。

Tag

このスクリプトステートメントは、1 つ以上の項目またはテーブルにタグを割り当てる方法を提供します。アプリケーションにない項目またはテーブルにタグを付けしようとしても、無視されます。項目名やタグ名の競合が発生する場合は、最後の値が使用されます。

構文:

```
Tag[field|fields]fieldlistwithtagname

Tag[field|fields]fieldlistusingmapname
```

```
Tagtabletablelistwithtagname
```

引数:

Tag 引数

引数	説明
fieldlist	コンマ区切りされたリスト内でタグ付けする必要がある、1 つまたは複数の項目。
mapname	**mapping Load** または **mapping Select** ステートメントで、以前ロードされたマッピング テーブルの名前。
tablelist	タグ付けする必要があるテーブルのコンマ区切りされたリスト。
tagname	項目に適用するタグの名前。

Example 1:

```
tagmap:
mapping LOAD * inline [
a,b
Alpha,MyTag
Num,MyTag
];
tag fields using tagmap;
```

Example 2:

```
tag field Alpha with 'MyTag2';
```

Trace

trace ステートメントを使用すると、**[ロード スクリプトの進捗]** ウィンドウとスクリプトのログ ファイルに使用した文字列が書き込まれます。これはデバッグの際に非常に有用です。**trace** ステートメントの前に計算される変数の **$** 拡張を使用すると、メッセージをカスタマイズできます。

構文:

```
Trace string
```

Example 1:

```
Trace Main table loaded;
```

Example 2:

```
Let MyMessage = NoOfRows('MainTable') & ' rows in Main Table';
Trace $(MyMessage);
```

Unmap

Unmap ステートメントは、前に **Map ... Using** ステートメントによって指定した項目値の、後続のロードされた項目のマッピングを無効にします。

構文:

```
Unmap *fieldlist
```

引数:

Unmap 引数

引数	説明
*fieldlist	スクリプト内でマッピングの終了点に指定する項目のカンマ区切りリスト。項目リストに * を使用すると、すべての項目が対象となります。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。

例と結果:

例と結果

例	結果
Unmap Country;	項目 Country のマッピングを無効にします。
Unmap A, B, C;	項目 A、B、C のマッピングを無効にします。
Unmap * ;	すべての項目のマッピングを無効にします。

Unqualify

Unqualify ステートメントは、**Qualify** ステートメントで事前に有効化された項目名の修飾を無効にする際に使用します。

構文:

```
Unqualify *fieldlist
```

引数:

Unqualify 引数

引数	説明
*fieldlist	修飾を有効にする項目のコンマ区切りリスト。項目リストに * を使用すると、すべての項目が対象となります。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際には、項目名を引用符で囲まなければならない場合があります。 詳細については、**Qualify** ステートメントの説明を参照してください。

Example 1:

不慣れなデータベースでは、例に挙げるように、最初は 1 つまたは 2 ~ 3 の項目を関連付けることから始めるといいでしょう。

```
qualify *;
unqualify TransID;
```

```
SQL SELECT * from tab1;
SQL SELECT * from tab2;
SQL SELECT * from tab3;
```

まず、すべての項目で修飾を有効にします。
その後、**TransID** の修飾を無効にします。
テーブル*tab1*、*tab2*、*tab3* の関連付けには、**TransID** のみが使用されます。その他の項目すべては、テーブル名で修飾されます。

Untag

このスクリプトステートメントは、項目またはテーブルからタグを削除する方法を提供します。アプリケーションにない項目またはテーブルのタグを外そうとしても、無視されます。

構文:

```
Untag[field|fields]fieldlistwithtagname

Untag[field|fields]fieldlistusingmapname

Untagtabletablelistwithtagname
```

引数:

Untag 引数

引数	説明
fieldlist	コンマ区切りされたリスト内でタグを削除する必要がある、1 つまたは複数の項目。
mapname	マッピング **LOAD** またはマッピング **SELECT** ステートメントで以前ロードされたマッピング テーブルの名前。
tablelist	タグを外す必要があるテーブルのコンマ区切りされたリスト。
tagname	項目から削除するタグの名前。

Example 1:

```
tagmap:
mapping LOAD * inline [
a,b
Alpha,MyTag
Num,MyTag
];
Untag fields using tagmap;
```

Example 2:

```
Untag field Alpha with MyTag2;
```

スクリプト変数

QlikView の変数は、数値や英数字などの静的な値または計算を格納するコンテナです。ドキュメントで変数を使用する場合、変数の値を変えると、その変数が使用されているすべての箇所に変更が反映されます。変数は、スクリプトエディタを使用してスクリプトで定義されています。ロードスクリプトでは、変数は値を **Let**、**Set** な

どの制御ステートメントから取得します。

変数値の最初の文字が等記号 (=) の場合、QlikView は値を式 (QlikView 式) として評価し、式の実際のテキストではなく結果を表示または返します。

変数を使用すると、変数の代わりにその値が使用されます。変数は、スクリプトの中でドル記号展開のため、また、さまざまな制御ステートメントの中で使用できます。たとえば、パスのように、同じ文字列がスクリプト内に何度も繰り返し出てくる場合に便利です。

一部の特別なシステム変数は、スクリプトの実行開始時に、以前の値とは関係なくQlikView によって設定されます。

変数を定義する場合は、以下の構文を使用します。

```
set variablename = string
```
または

```
let variable = expression
```
が使用されます。**Set** コマンドは等号の右辺にあるテキストを変数に代入し、**Let** コマンドは数式を評価します。

変数では、大文字と小文字が区別されます。

```
set HidePrefix = $ ; // 変数は、文字列「$」を値として取得します。

let vToday = Num(Today()); // は、本日の日付通し番号を返します。
```

変数の計算

QlikView で計算済みの値を使って変数を使用する方法はいくつかあり、その結果は、これを定義する方法と数式で呼び出す方法によって異なります。

この例では、いくつかのインライン データをロードします。

```
LOAD * INLINE [     Dim, Sales     A, 150     A, 200     B, 240     B, 230     C, 410     C,
330 ];
```
2 つの変数を定義してみましょう。

```
Let vSales  = 'Sum(Sales)' ;

Let vSales2  = '=Sum(Sales)' ;
```
2 番目の変数では、数式の前に等号を追加します。これにより、変数が展開される前に計算され、数式が評価されます。

vSales 変数をそのまま使用する場合 (メジャーで使用する場合など)、その結果は文字列Sum(Sales) になります。つまり、計算は行われません。

ドル記号展開を追加して数式で $(vSales) を呼び出すと、変数が展開され、Sales の合計が表示されます。

最後に、$(vSales2) を呼び出すと、変数は展開される前に計算されます。つまり、表示される結果は Sales の合計です。メジャー数式として =$(vSales) を使用した場合と=$(vSales2) を使用した場合に結果がどう違うかを、下記の表に示します。

Example results

Dim	$(vSales)	$(vSales2)
A	350	1560
B	470	1560
C	740	1560

ご覧のように、$(vSales) は軸値の小計になり、$(vSales2) は合計になります。

エラー変数

エラー変数の値は、スクリプト実行後もすべて残ります。最初の変数 ErrorMode は、ユーザー入力によるもので、最後の 3 つはスクリプトのエラーに関する情報を含む QlikView からの出力です。

エラー変数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ErrorMode
このエラー変数は、スクリプトの実行中にエラーが発生したときに、QlikView によって実行されるアクションを定義します。

```
ErrorMode
```

ScriptError
このエラー変数は、最後に実行されたスクリプト ステートメントのエラー コードを返します。

```
ScriptError
```

ScriptErrorCount
このエラー変数は、現在のスクリプトの実行中にエラーを発生させたステートメントの総数を返します。この変数は、スクリプトの実行開始時に常に 0 にリセットされます。

```
ScriptErrorCount
```

ScriptErrorList
このエラー変数には、最後のスクリプトの実行中に発生したすべてのスクリプト エラーの連結リストが含まれます。各エラーは、改行文字 (LF) で区切られます。

```
ScriptErrorList
```

ErrorMode

このエラー変数は、スクリプトの実行中にエラーが発生したときに、QlikView によって実行されるアクションを定義します。

構文:

```
ErrorMode
```

引数:

ErrorMode 引数

引数	説明
ErrorMode=1	デフォルトの設定。スクリプトの実行が中止され、ユーザーのアクションが要求されます (バッチ モード以外)。
ErrorMode =0	QlikView はエラーを無視し、スクリプトの次のステートメントから、スクリプトの実行を続行します。
ErrorMode =2	QlikView は、エラーの発生直後に "Execution of script failed...(スクリプトの実行失敗)" というエラー メッセージを表示します。ユーザーに要求されるアクションはありません。

```
set ErrorMode=0;
```

ScriptError

このエラー変数は、最後に実行されたスクリプト ステートメントのエラー コードを返します。

構文:

```
ScriptError
```

この変数は、各スクリプト ステートメントが正常に実行されるたびに、0 にリセットされます。エラーが発生すると、変数は内部 QlikView エラー コードに設定されます。エラー コードは、数値とテキスト値のデュアル値です。以下のようなエラー コードがあります。

ScriptError コード

エラー コード	説明
0	エラーなし
1	一般エラー
2	構文エラー
3	一般的な ODBC エラー
4	一般的な OLE DB エラー
5	一般的なカスタム データベース エラー
6	一般的な XML エラー
7	一般的な HTML エラー
8	ファイルが見つかりません
9	データベースが見つかりません
10	テーブルが見つかりません

エラー コード	説明
11	項目が見つかりません
12	ファイル形式が正しくありません
13	BIFF エラー
14	暗号化された BIFF エラー
15	サポートされていないバージョンの BIFF エラー
16	セマンティック エラー

```
set ErrorMode=0;
LOAD * from abc.qvw;
if ScriptError=8 then
exit script;
//no file;
end if
```

ScriptErrorCount

このエラー変数は、現在のスクリプトの実行中にエラーを発生させたステートメントの総数を返します。この変数は、スクリプトの実行開始時に常に 0 にリセットされます。

構文:

```
ScriptErrorCount
```

ScriptErrorList

このエラー変数には、最後のスクリプトの実行中に発生したすべてのスクリプト エラーの連結リストが含まれます。各エラーは、改行文字 (LF) で区切られます。

構文:

```
ScriptErrorList
```

データ型変換変数

データ型変換変数はシステムで定義されます。つまり、新しいドキュメントが作成される際に、オペレーティング システムが現在の地域設定に従って自動的に生成されます。現在の地域設定は、QlikView Desktop ではコンピュータのオペレーティング システムの設定が使用され、QlikView では QlikView がインストールされているサーバーの設定が使用されます。

データ型変換変数は、新しい QlikView ドキュメントのスクリプトの最上部に含まれており、スクリプトを実行する際にオペレーティング システムのデフォルト設定の代替として使用されます。データ型変換変数は自由に、削除や編集、複製が可能です。

データ型変換変数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

通貨書式

MoneyDecimalSep

定義した小数点記号がオペレーティング システム (地域設定) の通貨の小数点記号の代わりに使用されます。

```
MoneyDecimalSep
```

MoneyFormat

定義した記号がオペレーティング システム (地域設定) の通貨記号の代わりに使用されます。

```
MoneyFormat
```

MoneyThousandSep

定義した桁区切り記号がオペレーティング システム (地域設定) の通貨の桁区切り記号の代わりに使用されます。

```
MoneyThousandSep
```

数値書式

DecimalSep

定義した小数点記号がオペレーティング システム (地域設定) の小数点記号の代わりに使用されます。

```
DecimalSep
```

ThousandSep

定義した桁区切り記号がオペレーティング システム (地域設定) の桁区切り記号の代わりに使用されます。

```
ThousandSep
```

時間書式

DateFormat

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の日付書式の代わりに使用されます。

```
DateFormat
```

TimeFormat

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の時刻書式の代わりに使用されます。

```
TimeFormat
```

TimestampFormat

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の日付と時刻の書式の代わりに使用されます。

```
TimestampFormat
```

MonthNames

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の月名表記規則の代わりに使用されます。

```
MonthNames
```

LongMonthNames

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の長い月名の表記規則の代わりに使用されます。

LongMonthNames

DayNames
定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の曜日表記規則の代わりに使用されます。

DayNames

LongDayNames
定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の長い曜日名の表記規則の代わりに使用されます。

LongDayNames

FirstWeekDay
この整数は、週の最初として使用する曜日を定義します。

FirstWeekDay

BrokenWeeks
この設定は、週が分離しているかどうかを定義します。

BrokenWeeks

ReferenceDay
この設定は、週 1 を定義する際に 1 月 のどの曜日を参照に設定するかを定義します。

ReferenceDay

FirstMonthOfYear
この設定は、年の最初の月をどれにするかを定義し、毎月のオフセットを使用する財務年度を定義するために使用できます (例: 4 月 1 日から開始するなど)。

FirstMonthOfYear

BrokenWeeks

この設定は、週が分離しているかどうかを定義します。

構文:

BrokenWeeks

デフォルトでは、QlikView 関数は分離していない週を使用します。つまり、

- 第 1 週が 12 月から始まる年もあれば、第 52 週や第 53 週が 1 月に渡る年もあります。
- 通常第 1 週には、少なくとも 1 月の 4 日間が含まれます。

分離した週を使用するオプションもあります。つまり、

- 第 52 週や第 53 週は 1 月へと続きません。
- 第 1 週は 1 月 1 日から始まり、多くの場合は完全な 1 週間ではありません。

次の値を使用できます。

- 0 (= 分離しない週を使用)
- 1 (= 分離した週を使用)

```
Set BrokenWeeks=0; //(use unbroken weeks)
Set BrokenWeeks=1; //(use broken weeks)
```

DateFormat

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の日付書式の代わりに使用されます。

構文:

DateFormat

```
Set DateFormat='M/D/YY'; //(US format)
Set DateFormat='DD/MM/YY'; //(UK date format)
Set DateFormat='YYYY-MM-DD'; //(ISO date format)
```

DayNames

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の曜日表記規則の代わりに使用されます。

構文:

DayNames

```
Set DayNames='Mon;Tue;Wed;Thu;Fri;Sat;Sun';
```

DecimalSep

定義した小数点記号がオペレーティング システム (地域設定) の小数点記号の代わりに使用されます。

構文:

DecimalSep

```
Set DecimalSep='.';
Set DecimalSep=',';
```

FirstWeekDay

この整数は、週の最初として使用する曜日を定義します。

構文:

FirstWeekDay

デフォルトでは、QlikView 関数は月曜日を週の第 1 日目として使用します。次の値を使用できます。

- 0 (= 月曜日)
- 1 (= 火曜日)
- 2 (= 水曜日)
- 3 (= 木曜日)

- 4 (= 金曜日)
- 5 (= 土曜日)
- 6 (= 日曜日)

```
Set FirstWeekDay=6; //(set Sunday as the first day of the week)
```

LongDayNames

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の長い曜日名の表記規則の代わりに使用されます。

構文:

```
LongDayNames
```

```
Set LongDayNames='Monday;Tuesday;Wednesday;Thursday;Friday;Saturday;Sunday';
```

LongMonthNames

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の長い月名の表記規則の代わりに使用されます。

構文:

```
LongMonthNames
```

```
Set
LongMonthNames='January;February;March;April;May;June;July;August;September;October;November;D
ecember';
```

MoneyDecimalSep

定義した小数点記号がオペレーティング システム (地域設定) の通貨の小数点記号の代わりに使用されます。

構文:

```
MoneyDecimalSep
```

```
Set MoneyDecimalSep='.';
```

MoneyFormat

定義した記号がオペレーティング システム (地域設定) の通貨記号の代わりに使用されます。

構文:

```
MoneyFormat
```

```
Set MoneyFormat='$ #,##0.00; ($ #,##0.00)';
```

MoneyThousandSep

定義した桁区切り記号がオペレーティング システム (地域設定) の通貨の桁区切り記号の代わりに使用されます。

構文:

MoneyThousandSep

```
Set MoneyThousandSep=',';
```

MonthNames

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の月名表記規則の代わりに使用されます。

構文:

MonthNames

```
Set MonthNames='Jan;Feb;Mar;Apr;May;Jun;Jul;Aug;Sep;Oct;Nov;Dec';
```

ReferenceDay

構文:

ReferenceDay

この設定は、週 1 を定義する際に 1 月 のどの曜日を参照に設定するかを定義します。デフォルトでは、QlikView 関数は 4 を参照日として使用します。これは、第 1 週に必ず 1 月 4 日が含まれる、または第 1 週に少なくとも 1 月の 4 日間が常に含まれることを意味します。

次の値は異なる参照日の設定に使用可能です。

- 1 (= 1 月 1 日)
- 2 (= 2 月 1 日)
- 3 (= 3 月 1 日)
- 4 (= 4 月 1 日)
- 5 (= 5 月 1 日)
- 6 (= 6 月 1 日)
- 7 (= 7 月 1 日)

```
Set ReferenceDay=3; //(set January 3 as the reference day)
```

FirstMonthOfYear

この設定は、年の最初の月をどれにするかを定義し、毎月のオフセットを使用する財務年度を定義するために使用できます (例: 4 月 1 日から開始するなど)。

有効な設定は、1 (1 月) から 12 (12 月) です。デフォルト設定は 1 です。

構文:
FirstMonthOfYear

```
Set FirstMonthOfYear=4; //Sets the year to start in April
```

ThousandSep

定義した桁区切り記号がオペレーティング システム (地域設定) の桁区切り記号の代わりに使用されます。

構文:
ThousandSep

```
Set ThousandSep=','; //(for example, seven billion must be specified as: 7,000,000,000)
Set ThousandSep=' ';
```

TimeFormat

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の時刻書式の代わりに使用されます。

構文:
TimeFormat

```
Set TimeFormat='hh:mm:ss';
```

TimestampFormat

定義した書式がオペレーティング システム (地域設定) の日付と時刻の書式の代わりに使用されます。

構文:
TimestampFormat

```
Set TimestampFormat='M/D/YY hh:mm:ss[.fff]';
```

システム変数

システム変数は、システムで定義されているものもあり、システムとQlikView ドキュメントに関する情報を提供します。

システム変数の概要

関数の中には、概要の後に詳細が示されているものもあります。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

含める

Include/Must_Include 変数は、スクリプトにインクルードしてスクリプト コードとして評価する必要があるテキストが格納されたファイルを指定します。スクリプト コードの一部を別のテキスト ファイルに保存して、複数のドキュメントで再利用することができます。これはユーザー定義変数です。

```
$(Include =filename)
$(Must_Include=filename)
```

HidePrefix

このテキスト文字列から始まるすべての項目名は、システム項目と同様に非表示になります。これはユーザー定義変数です。

```
HidePrefix
```

HideSuffix

このテキスト文字列で終わるすべての項目名は、システム項目と同様に非表示になります。これはユーザー定義変数です。

```
HideSuffix
```

ScriptOnlyVariables

ScriptOnlyVariables システム変数は、スクリプト専用変数を定義するために使用されます。この変数は、スクリプト変数がスクリプト内でのみ使用可能か、あるいはスクリプト外でも使用可能(および表示可能) であるか(たとえば、QlikView ドキュメントでシートを構築する場合など) を指定します。

```
ScriptOnlyVariables
```

StripComments

この変数を 0 に設定すると、スクリプト内の /*..*/ および // コメントの除去は禁止されます。この変数が設定されない場合、コメントの除去は常に実行されます。

```
StripComments
```

逐語的

通常、QlikView データベースにロードする前に、すべての項目値から前後の空白文字 (ASCII 32) およびタブ (ASCII 9) が自動的に除去されます。この変数を 1 に設定すると、空白およびタブの除去が一時停止されます。ハード スペース (ANSI 160) が除去されることはありません。

```
Verbatim
```

OpenUrlTimeout

この変数は、URL ソース(ページなど) からデータを取得する際に、QlikView が考慮すべきタイムアウトを秒単位で定義します。HTML ページ省略した場合、約 20 分でタイムアウトになります。

```
OpenUrlTimeout
```

CollationLocale

ソート順序および検索一致で使用するロケールを指定します。値は、たとえば 'en-US' などのロケールのカルチャ名です。これはシステム定義変数です。

```
CollationLocale
```

HidePrefix

このテキスト文字列から始まるすべての項目名は、システム項目と同様に非表示になります。これはユーザー定義変数です。

構文:

```
HidePrefix
```

```
set HidePrefix='_' ;
```

このステートメントを使用すると、システム項目が非表示の場合、アンダースコア (_) から始まる項目名が項目名リストに表示されません。

HideSuffix

このテキスト文字列で終わるすべての項目名は、システム項目と同様に非表示になります。これはユーザー定義変数です。

構文:

```
HideSuffix
```

```
set HideSuffix='%';
```

このステートメントを使用すると、システム項目が非表示の場合、パーセント記号 (%) で終わる項目名が項目名リストに表示されません。

Include

Include/Must_Include 変数は、スクリプトにインクルードしてスクリプトコードとして評価する必要があるテキストが格納されたファイルを指定します。スクリプトコードの一部を別のテキストファイルに保存して、複数のドキュメントで再利用することができます。これはユーザー定義変数です。

構文:

```
$(Include=filename)
$(Must_Include=filename)
```

この変数には、次の 2 つのバージョンがあります。

- **Include** は、ファイルが見つからない場合にエラーを生成しません。失敗した場合、何もしません。
- **Must_Include** は、ファイルが見つからない場合にエラーを生成します。

パスを指定していない場合、ファイル名は、ファイル名は QlikView ドキュメントの作業ディレクトリを基準とする相対パス名になります。また、絶対ファイルパスを指定することもできます。

*構文 **set Include =**filename は適用できません。*

```
$(Include=abc.txt);
$(Must_Include=abc.txt);
```

ScriptOnlyVariables

ScriptOnlyVariables システム変数は、スクリプト専用変数を定義するために使用されます。この変数は、スクリプト変数がスクリプト内でのみ使用可能か、あるいはスクリプト外でも使用可能(および表示可能) であるか(たとえば、QlikView ドキュメントでシートを構築する場合など) を指定します。

ScriptOnlyVariables の値が明示的に、または既定値の 0 を介して暗黙的に定義された後、この定義以降に **Let** または **Set** ステートメントで定義されたすべての変数は、スクリプト内で後から **ScriptOnlyVariables** の値が変更されない限り、定義された設定を使用します。つまり、一部の変数をスクリプト専用として定義し、他の変数はスクリプトの外部で表示できるようにします。

```
ScriptOnlyVariables
```

ScriptOnlyVariables の値

値	結果
0	変数はスクリプト内だけでなく、スクリプトの外部にも表示されます。 **ScriptOnlyVariables** 変数の値がスクリプト内で明示的に定義されていない場合、0 がデフォルト値になります。
1	変数はスクリプトの外部には表示されません。

Example 1: スクリプトの外部で変数を表示する

この例では、変数 vNotScriptOnly はスクリプトの外部に表示されるように明示的に設定されています。

```
SET ScriptOnlyVariables = 0;
SET vNotScriptOnly = "example_text";
```

Example 2: スクリプトの外部で変数を非表示にする

この例では、変数 vScriptOnly はスクリプトの実行中にのみ使用できます。スクリプトの外部には表示されません。

```
SET ScriptOnlyVariables = 1;
SET vScriptOnly = "example_text";
```

Example 3: 一部の変数を非表示にし、他の変数を表示する

この例では、異なる変数設定を可能にするため、スクリプト全体を通して **ScriptOnlyVariables** の値が複数回定義されています。変数 vHideOutsideScript はスクリプトの実行中にのみ使用できます。変数 vAllowInSheets はスクリプトの外部に公開されます。

```
SET ScriptOnlyVariables = 1;
SET vHideOutsideScript = "example_text";
SET ScriptOnlyVariables = 0;
SET vAllowInSheets = "example_text";
```

ScriptOnlyVariables を使用するタイミング

スクリプト専用変数は、次のような目的に役立ちます。

- データモデルのコンテキストにおいて、計算や項目定義のためだけに特定の変数を使用する。
- シートとチャートの作成に不要な変数を削除し、ダッシュボード開発を簡素化する。

OpenUrlTimeout

この変数は、URL ソース (ページなど) からデータを取得する際に、QlikView が考慮すべきタイムアウトを秒単位で定義します。HTML ページ省略した場合、約 20 分でタイムアウトになります。

構文:

OpenUrlTimeout

```
set OpenUrlTimeout=10;
```

StripComments

この変数を 0 に設定すると、スクリプト内の /*..*/ および // コメントの除去は禁止されます。この変数が設定されない場合、コメントの除去は常に実行されます。

構文:

StripComments

特定のデータベースのドライバは、/*..*/ を **SELECT** ステートメントにおける最適化のヒントとして使用します。この場合、**SELECT** ステートメントをデータベースのドライバに送信する前に、コメントを削除することはできません。



コメントが必要なステートメントの直後に、この変数を 1 にリセットすることをお勧めします。

```
set StripComments=0;
SQL SELECT * /* <optimization directive> */ FROM Table ;
set StripComments=1;
```

Verbatim

通常、QlikView データベースにロードする前に、すべての項目値から前後の空白文字 (ASCII 32) およびタブ (ASCII 9) が自動的に除去されます。この変数を 1 に設定すると、空白およびタブの除去が一時停止されます。ハードスペース (ANSI 160) が除去されることはありません。

構文:

Verbatim

```
set Verbatim = 1;
```

値を操作する変数

このセクションでは、NULL とその他の値を処理する際に使用する変数について説明します。

値を操作する変数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

NullDisplay

定義済みの記号は、最下位レベルのデータで ODBC から取得されたすべての NULL 値の代わりに使用されます。これはユーザー定義変数です。

```
NullDisplay
```

NullInterpret

ここに定義される記号が、テキストファイルや CSV、インライン ステートメントに表示される場合に NULL として解釈されます。これはユーザー定義変数です。

```
NullInterpret
```

NullValue

NullAsValue ステートメントを使用する場合は、特定の文字列を含む **NullAsValue** の指定項目内のすべての NULL 値の代わりに定義した記号が使用されます。

```
NullValue
```

OtherSymbol

LOAD/SELECT ステートメントの前にある「他のすべての値」として処理される記号を定義します。これはユーザー定義変数です。

```
OtherSymbol
```

NullDisplay

定義済みの記号は、最下位レベルのデータで ODBC から取得されたすべての NULL 値の代わりに使用されます。これはユーザー定義変数です。

構文:

```
NullDisplay
```

```
set NullDisplay='<NULL>';
```

NullInterpret

ここに定義される記号が、テキストファイルやCSV、インライン ステートメントに表示される場合にNULL として解釈されます。これはユーザー定義変数です。

構文:

```
NullInterpret
```

```
set NullInterpret=' ';

set NullInterpret =;

set NullInterpret ='';
```

NullValue

NullAsValue ステートメントを使用する場合は、特定の文字列を含む **NullAsValue** の指定項目内のすべてのNULL 値の代わりに定義した記号が使用されます。

構文:

```
NullValue
```

```
NullAsValue Field1, Field2;
set NullValue='<NULL>';
```

OtherSymbol

LOAD/SELECT ステートメントの前にある「他のすべての値」として処理される記号を定義します。これはユーザー定義変数です。

構文:

```
OtherSymbol
```

```
set OtherSymbol='+';
LOAD * inline
[X, Y
a, a
b, b];
LOAD * inline
[X, Z
a, a
+, c];
```

項目値 Y='b' は、他の記号からZ='c' とリンクします。

10.4 スクリプト式

数式は、**LOAD** ステートメントと**SELECT** ステートメントの両方で使用できます。ここで説明する構文と関数が適用されるのは、**LOAD** ステートメントで、**SELECT** ステートメントではありません。これは、Select ステートメントがQlikView ではなくODBC ドライバによって解釈されるためです。ただし、ほとんどの ODBC ドライバは、以下で説明する多くの関数を解釈できます。

数式は関数、項目、演算子を構文で組み合わせたものです。

QlikView スクリプト内のすべての数式は、数値と文字列のいずれか適切なものを返します。論理関数と演算子は、False の場合は 0、True の場合は -1 を返します。数値から文字列、文字列から数値への変換は、黙示的に行われます。論理演算子と関数は、0 を False、それ以外のすべてを True と解釈します。

数式の一般的な構文は、次のとおりです。

```
expression ::= ( constant | fieldref | operator1 expression | expression operator2 expression
| function | (expression ) )
```

ここで

constant は、ストレート単一引用符で囲まれた文字列 (テキスト、日付、時刻) または数値です。3 桁区切りの記号は使用せず、小数点に 10 進小数点として記述します。

fieldref は、ロードされるテーブルの項目名です。

operator1 は、右側にある 1 つの数式に対して作用する単項演算子です。

operator2 は、両側にある 2 つの数式に対して作用する二項演算子です。

function ::= functionname(parameters)

parameters ::= expression { , expression }

パラメータの数と型は任意ではなく、使用する関数によって異なります。

数式と関数は自由にネストでき、解釈可能な値を数式が返す限り、QlikView はエラー メッセージを表示しません。

10.5 チャートの数式

数式は関数および項目、数学演算子 (+ * / =). を組み合わせたもので、チャートで確認可能な結果を生成するために、ドキュメントでデータを処理する際に使用します。数式はメジャー以外にも使用できます。タイトルやサブタイトル、脚注、さらには軸などの数式を使用することで、より動的で効果的なチャートを作成できます。

例えば、チャートのタイトルを静的テキストではなく、選択内容によって結果が変わる数式から生成される動的テキストにすることも可能です。

集計範囲の定義

数式で集計の値を定義するために使用されるレコードは、通常 2 つの要素により決定されます。ビジュアライゼーションでの作業時は、次の 2 つの要素があります。

- 軸の値 (チャートの数式での集計の場合)
- 選択

この 2 つの要素によって集計範囲が決まります。選択、軸、またはその両方を無視して計算が必要となる場合があるとします。チャート関数では、TOTAL 修飾子、set 分析、またはその 2 つの組み合せを使用すると、これを実行できます。まとめ:

- 軸のグループ化を無視または調整するには: TOTAL 修飾子を使用
- 選択を無視または調整するには set 分析を使用

集計: 方法と説明

メソッド	説明
TOTAL 修飾子	集計関数内で TOTAL 修飾子を利用すると、軸の値が無視されます。 total 修飾子は、軸の値を無視して集計範囲を再定義するために、集計の内部で使用することができます。その結果、可能性のあるすべての項目の値について集計が代わりに実行されます。 **TOTAL** 修飾子の後には、山括弧で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。 例: `Sum(TOTAL <Quarter> {<Year={2013}, Quarter={'Q2'}>} Amount)` これらの項目名は、チャート軸のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除き、すべてのチャート軸を無視して計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに 1 つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内の軸がすべてリストされている場合、この関数はドリルダウンレベルが変更されても一貫した集計結果を返します。 角括弧内に例外を追加する例については、*例: 例外を持つ TOTAL 修飾子と set 分析 (page 976)* を参照してください。
set 分析	集計内部での set 分析の使用は、選択に優先します。これにより、軸全体で分割されているすべての値について集計が行われます。
TOTAL 修飾子と set 分析	**TOTAL** 修飾子と set 分析の集計内部での使用は選択に優先し、**TOTAL** 修飾子の後の角括弧内に記載された軸を除くすべての軸が無視されます。

ALL 修飾子	**ALL** 修飾子を集計内部で使用する場合は、選択と軸は無視されます。これは {1} set 分析のステートメントと **TOTAL** 修飾子でも同様です。
	
	`=sum(All Sales)`
	
	`=sum({1} Total Sales)`

例:TOTAL 修飾子

以下は、TOTAL 修飾子を使用した相対的なシェアの計算方法を示した例です。Q2 を選択した場合、TOTAL を使用すると軸が無視され、すべての値の合計が計算されます。

例: TOTAL 修飾子

Year	Quarter	Sum(Amount)	Sum(TOTAL Amount)	Sum(Amount)/Sum(TOTAL Amount)
		3000	3000	100%
2012	Q2	1700	3000	56,7%
2013	Q2	1300	3000	43,3%

例: set 分析

以下は、set 分析を使用した選択前のデータセット比較方法を示した例です。Q2 が選択されたと想定し、set 定義 {1} で set 分析を使用すると、あらゆる値の合計が計算され、選択は無視されますが、軸で分割されます。

例: set 分析

Year	Quarter	Sum(Amount)	Sum({1} Amount)	Sum(Amount)/Sum({1} Amount)
		3000	10800	27,8%
2012	Q1	0	1100	0%
2012	Q3	0	1400	0%
2012	Q4	0	1800	0%
2012	Q2	1700	1700	100%
2013	Q1	0	1000	0%
2013	Q3	0	1100	0%
2013	Q4	0	1400	0%
2013	Q2	1300	1300	100%

例: TOTAL 修飾子とset 分析 ({1} 識別子)

以下は、選択前に実施するset 分析とTOTAL 修飾子を組み合せたすべての軸のデータセット比較方法を示した例です。Q2 を選択した場合、set 定義 {1} とTOTAL 修飾子の set 分析を使用すると、項目選択と軸は無視され、あらゆる値の合計が計算されます。

例: TOTAL 修飾子とset 分析

Year	Quarter	Sum (Amount)	Sum({1} TOTAL Amount)	Sum(Amount)/Sum({1} TOTAL Amount)
		3000	10800	27,8%

Year	Quarter	Sum (Amount)	Sum({1} TOTAL Amount)	Sum(Amount)/Sum({1} TOTAL Amount)
2012	Q2	1700	10800	15,7%
2013	Q2	1300	10800	12%

例:TOTAL 修飾子とset 分析 (基準値とのデータ比較)

以下の例では、set 分析とTOTAL 修飾子を使用してテーブルに参照列を作成し、メトリクスの行レベルの比較を簡単に行う方法を示します。データを理解しやすくし、消費しやすくするために、メジャーの列にラベルを付けます。

2013 年第 2 四半期のデータは、テーブル内の他のすべての値と比較するための参照値として使用されています。

次の手順を実行します。

1. テーブルをシートに追加します。
2. 次の項目を軸として追加します。
    - *Year*
    - *Quarter*
3. 次のメジャーを追加します。
   `Sum(Amount)`
4. 追加したメジャーのプロパティで、メジャーに以下のラベルを付けます: *Total Sales*
5. 次のメジャーを追加します。
   `Sum(TOTAL {<Year={2013}, Quarter={'Q2'}>} Amount)`
6. 追加したメジャーのプロパティで、メジャーに以下のラベルを付けます: *Reference Quarter (2013-Q2) Total Sales*
7. 次のメジャーを追加します。
   `round((sum(Amount) / sum(total {<Year={2013}, Quarter={'Q2'}>} Amount))*100,'0.01') & '%'`
8. 追加したメジャーのプロパティで、メジャーに以下のラベルを付けます: *Rounded Quotient - Total Sales Compared to Reference Quarter (2013-Q2)*

何も選択しない場合、表は次のようになります:

例:TOTAL 修飾子とset 分析 (参照列)

Year	Quarter	Total Sales	Reference Quarter (2013-Q2) Total Sales	Rounded Quotient - Total Sales Compared to Reference Quarter (2013-Q2)
2012	Q1	1100	1300	84.62%
2012	Q2	1700	1300	130.77%
2012	Q3	1400	1300	107.69%

Year	Quarter	Total Sales	Reference Quarter (2013-Q2) Total Sales	Rounded Quotient - Total Sales Compared to Reference Quarter (2013-Q2)
2012	Q4	1800	1300	138.46%
2013	Q1	1000	1300	76.92%
2013	Q2	1300	1300	100.00%
2013	Q3	1100	1300	84.62%
2013	Q4	1400	1300	107.69%

例: 例外を持つTOTAL 修飾子とset 分析

次の例は、TOTAL 修飾子の使い方を示していますが、この修飾子の例外を角括弧で囲んでいます。この例では、set 分析も使用しています。

次の手順を実行します。

1. テーブルをシートに追加します。
2. 次の項目を軸として追加します。
    - *Year*
    - *Quarter*
3. 次のメジャーを追加します。
   `Sum(Amount)`
4. 追加したメジャーのプロパティで、メジャーに以下のラベルを付けます: *Total Sales*
5. 次のメジャーを追加します。
   `Sum(TOTAL <Quarter> {<Year={2013}, Quarter={'Q2'}>} Amount)`
6. 追加したメジャーのプロパティで、メジャーに以下のラベルを付けます: *Reference Quarter (2013-Q2) Total Sales*

例: 例外を持つTOTAL 修飾子とset 分析

Year	Quarter	Total Sales	Reference Quarter (2013-Q2) Total Sales
2012	Q1	1100	0
2012	Q2	1700	1300
2012	Q3	1400	0
2012	Q4	1800	0
2013	Q1	1000	0
2013	Q2	1300	1300
2013	Q3	1100	0
2013	Q4	1400	0

参照列式は以下のように解釈されます:

- set 式 {<Year={2013}, Quarter={'Q2'}>} は、入力データを Year が 2013 で Quarter が Q2 のレコードに制限します。
- TOTAL 修飾子は、テーブル内のすべての軸が無視されるようにします。ただし、<Quarter> 修飾子の場合、Quarter の軸は例外となります。

このページの例で使用されているデータ

例で使用されているデータ:

```
AggregationScope:
LOAD * inline [
Year Quarter Amount
2012 Q1 1100
2012 Q2 1700
2012 Q3 1400
2012 Q4 1800
2013 Q1 1000
2013 Q2 1300
2013 Q3 1100
2013 Q4 1400] (delimiter is ' ');
```

特別な入力フィールドの集計関数

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

入力フィールドで使用可能な特別集計関数は次の通りです。

inputavg
inputavg() はチャート軸で反復処理された **inputfield** の集計された平均を返します。**inputfield** は、スクリプトで入力フィールドとして正しく宣言された項目の項目名にする必要があります。

inputavg (page 977) **([inputfield [, distribution_mode][set_expression])**

inputsum
inputsum() はチャート軸で反復処理された **inputfield** の集計された合計値を返します。**inputfield** は、スクリプトで入力フィールドとして正しく宣言された項目の項目名にする必要があります。

inputsum (page 978) **([inputfield [, distribution_mode][set_expression])**

inputavg

inputavg() はチャート軸で反復処理された **inputfield** の集計された平均を返します。**inputfield** は、は、スクリプトで入力フィールドとして正しく宣言された項目の項目名にする必要があります。

構文:

```
inputavg(inputfield [, distribution_mode][set_expression])
```

この集計関数をテーブル チャートの数式として使用する場合は、集計された値を対話式に編集することができます。数式のセル上にポインタを置くと、入力アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、そのセルは入力

編集モードに設定されます。上/下矢印キーを使用して、入力編集モードのままでセル間を移動できます。集計された値の変更は、選択された **distribution_mode** を使用して、基底の項目に配布されます。QlikView ドキュメント全体は、新しい値が入力されるたびに自動的に再計算されます。

distribution_mode パラメータには、次の値を含めることができます。

distribution_mode パラメーター値

パラメータ	説明
'+'	デフォルトモード。変更に相当する部分がすべての基底の値に分配されます。
'*'	変更が(既存の値に対する)比例的に基底の値に分配されます。
'='	入力された値がすべての基底の値に与えられます。
'/'	前の分配は無視されますが、前の平均を保持しながら、値が基底の値の間で均等に分割されます。

前述の **distribution_mode** の値には、次の修飾子を追加できます。

distribution_mode パラメーター値の修飾子

変更	説明
T	たとえば、'+T' は、入力フィールドの他の選択値に対して、入力された変更を埋め合わせます(全合計はそのままです)。
A	たとえば、'+A' は、他のすべての値に対して、入力された変更を埋め合わせます(全合計はそのままです)。

```
inputavg (Budget )
inputavg (Budget, '+' )
inputavg (Budget, '*' )
inputavg (Budget, '=' )
inputavg (Budget, '/' )
inputavg (Budget, '+T' )
inputavg (Budget, '+A' )
```

inputsum

inputsum() はチャート軸で反復処理された **inputfield** の集計された合計値を返します。**inputfield** は、スクリプトで入力フィールドとして正しく宣言された項目の項目名にする必要があります。

構文:

```
inputsum(inputfield [, distribution_mode][set_expression])
```

この集計関数をテーブル チャートの数式として使用する場合は、集計された合計を対話式に編集することができます。数式のセル上にポインタを置くと、入力アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、そのセルは入力編集モードに設定されます。上/下矢印キーを使用して、入力編集モードのままでセル間を移動できます。集計された合計の変更は、選択された **distribution_mode** を使用して、基底の項目に配布されます。QlikView ドキュメント全体は、新しい値が入力されるたびに自動的に再計算されます。

distribution_mode パラメータには、次の値を含めることができます。

distribution_mode パラメーター値

パラメータ	説明
'+'	デフォルトモード。変更に相当する部分がすべての基底の値に分配されます。
'*'	変更が (既存の値に対する) 比例的に基底の値に分配されます。
'='	入力された値がすべての基底の値に与えられます。
'/'	前の分配は無視されますが、前の合計を保持しながら、値が基底の値の間で均等に分割されます。

前述の **distribution_mode** の値には、次の修飾子を追加できます。

distribution_mode パラメーター値の修飾子

変更	説明
T	たとえば、'+T' は、入力フィールドの他の選択値に対して、入力された変更を埋め合わせます (全合計はそのままです)。
A	たとえば、'+A' は、他のすべての値に対して、入力された変更を埋め合わせます (全合計はそのままです)。

```
inputsum (Budget )
inputsum (Budget, '+' )
inputsum (Budget, '*' )
inputsum (Budget, '=' )
inputsum (Budget, '/' )
inputsum (Budget, '+T' )
inputsum (Budget, '+A' )
```

set 分析および set 数式

set 分析を使用すると、現在の選択で定義された通常のセットとは異なるデータ値のセット (またはグループ) を定義できます。

通常、選択を行う場合、**Sum**、**Max**、**Min**、**Avg**、**Count** などの集計関数が選択した範囲 (現在の選択) に対して集計を行います。選択によって、集計するデータ・セットが自動的に定義されます。set 分析を使用すると、現在の選択に関係なくグループを定義できます。たとえば、現在の選択に関係なく、ある商品の全地域での市場シェアなど特定の値を表示する場合に便利です。

set 分析は、ベストセラー商品をあまり売れていない商品と比較したり、今年と昨年で比較する場合など、さまざまな比較を行うときにも役立ちます。

リストボックスで 2010 年を選択することによってドキュメントでの作業を開始する例を考えてみましょう。集計はその選択に基づき、チャートにはその年の値のみが表示されます。新しい選択を行うと、それに従ってチャートが更新されます。集計は、現在の選択によって定義されたレコードセットに対して行われます。set 分析を使用すると、関心のあるセットを定義することが可能で、選択に依存しません。

set 数式の作成

set 分析の例の別の部分を見る前に、set 数式とset 分析には次の違いがあります。

項目値のセットを定義する作業は「set 数式の定義」と呼ばれていますが、set 数式を使用してデータを分析する作業は「set 分析」と呼ばれています。そのため、この選択の残りの部分では set 数式とそのコンポーネントに焦点を当てます。

set 分析の例: `sum( {$<Year={2009}>} Sales )`。`{$<Year={2009}>}` は set 数式です。

set 数式は集計関数の内部と外部で使用でき、中括弧で囲まれます。

内部 set 数式

```
Sum( {$<Year={2021}>} Sales )
```

外部 set 数式

```
{<Year={2021}>} Sum(Sales) / Count(distinct Customer)
```

内部および外部セットの数式の詳細については、「*内部 set 数式と外部 set 数式*」を参照してください。

set 数式は、次の部分の組み合わせで構成されます。

- **Identifiers**。1 つ以上の識別子が set 数式と残りの数式で評価されるものの関係を定義します。単純な set 数式は、ドル記号 `{$}` など、現在の選択のすべてのレコードを意味する 1 つの識別子で構成されます。
- **Operators**。識別子が 2 つ以上ある場合は、たとえば、識別子によって表されるデータセットをどのように組み合わせてサブセットやスーパーセットを作成するのかを指定することによって、演算子を使用してデータセットを絞り込みます。
- **Modifiers**。修飾子を set 数式に追加して選択を変更できます。修飾子は、単一で使用するか、識別子を変更してデータセットをフィルタするために使用できます。
- **空セット保持フラグ** 。外部 set 数式のチェーン内の最後の式を除く、すべての外部 set 数式で使用できる高度な要素。このフラグは、これらの外部 set 数式で定義されたセットの暗黙的なセットのクリアをオーバーライドし、高度な数式の構成を簡素化します。
  構文: `&`

> *Set 数式は、チャートの数式にのみ使用可能で、スクリプト式には使用できません。*

識別子、演算子、および修飾子については、次のサブセクションで詳しく説明します。

識別子

識別子は、set 数式と評価対象の項目値または数式との関係を定義します。

この例の `sum( {$<Year={2009}>} Sales )` では、識別子はドル記号 $ です。これは、評価されるレコードセットが現在の選択のすべてのレコードで構成されていることを意味します。このセットは、set 数式の修飾子部分でさらにフィルタリングされます。より複雑な set 数式では、演算子を使用して 2 つの識別子を組み合せることができます。

$ セット識別子は、セット識別子を指定しないことと同じになります。たとえば、上の例では、Sum({$<Year = {2009}>} Sales) という数式は Sum({<Year = {2009}>} Sales) と同等になります。

このテーブルには、いくつかの一般的な識別子が表示されています。

一般的な識別子

識別子	説明
1	行われた選択に関係なく、アプリケーションに含まれるすべてのレコードセットを表しています。
$ (またはセット識別子なし)。	現在選択されているレコードを表しています。set 数式 {$} は、set 数式を提示していない状態と同様です。
$1	1つ前の選択を表します。$2 は2つ前の選択を表し、以降も同様です。
$_1	次の (前) 選択を表しています。$_2 は次の 1 つを除く選択を表し、以下同様に表します。
BM01	任意のブックマーク ID またはブックマーク名を使用できます。
MyAltState	ステートの名前で並列ステートで行った選択内容を参照できます。

例と結果

例	結果
sum ({1} Sales)	選択を無視して、ドキュメントの sales の合計が軸ごとに返されます。
sum ({$} Sales)	現在の選択の sales が返されます (sum(Sales) と同様)。
sum ({$1} Sales)	前の選択の sales が返されます。
sum ({BM01} Sales)	*BM01* という名前のブックマークの sales が返されます。

演算子

演算子は、データセットの一部または全体を包含、除外、または交差するために使用されます。すべての演算子はオペランドとして set を使用し、結果として set を返します。

このテーブルには、set 数式で使用できる演算子が表示されています。

set 演算子

演算子	説明
+	Union。この二項演算子は、2 つの SET オペランドのいずれかに属するレコードを含む SET を返します
-	Exclusion。この二項演算子は、2 つの内最初の SET オペランドにのみ属するレコードを含む SET を返します。また、単項演算子として使用する場合は、補集合を返します。
*	Intersection。この二項演算子は、2 つの SET オペランドの両方に属するレコードを含む SET を返します。
/	対称差演算子 (XOR)。この二項演算子は、2 つの SET オペランドのどちらかに属していて、両方に属していないレコードを含む SET を返します。

例と結果

例	結果
sum({1-$} Sales)	選択によって除外された、あらゆるsalesを返します。
sum({$*BM01} Sales)	選択とブックマークBM01の共有部分におけるsalesを返します。
sum({-($+BM01)} Sales)	選択とブックマークBM01によって除外されたsalesを返します。
Sum({$<Year={2009}>+1<Country={'Sweden'}>} Sales)	現在選択されている内容に関連して、2009年の販売額を返し、1年間を通じて国 *Sweden* に関連するデータのフルセットを追加します。 この式は、以下のセット識別子を使用します。$。したがって、セット識別子を記述しないこの式と等価となります。Sum({<Year={2009}>+1<Country={'Sweden'}>} Sales)。

修飾子

修飾子は、選択に追加または変更を行う場合に使用されます。そのような修飾子は、set数式で使用できます。修飾子は1つ以上の項目名で構成され、それぞれの後には項目で行うことのできる1つ以上の選択が続きます。修飾子は山括弧 **<>** で囲みます。

set修飾子はset識別子に先行する選択内容を変更します。set識別子が参照されない場合は、現在の選択条件が明示されます。

例と結果:

MyField	結果
sum({$<OrderDate = DeliveryDate>} Sales)	OrderDate = DeliveryDateの現在の選択のsalesが返されます。 この式では、次のセット識別子を使用します: $。したがって、これはセット識別子を指定しない次の式と同等です: sum({<OrderDate = DeliveryDate>} Sales)。
sum({1<Region = {US}>} Sales)	現在の選択を無視して、US地域のsalesが返されます。
sum({$<Region = >} Sales)	選択における *Region* での選択を除いたsalesが返されます。 この式では、次のセット識別子を使用します: $。したがって、これはセット識別子を指定しない次の式と同等です: sum({<Region = >} Sales)。
sum({<Region = >} Sales)	上記の例と同じ値が返されます。set修飾子が省略されている場合は、継承したステートとみなされます。
sum({$<Year={2000}, Region={"U*"}>} Sales)	現在の選択条件でのsalesが返されますが、*Year* と *Region* で新たな選択が行われます。 この式では、次のセット識別子を使用します: $。したがって、これはセット識別子を指定しない次の式と同等です: sum({<Year={2000}, Region={"U*"}>} Sales)。

set 関数の構文

完全な構文 (優先を定義する標準の括弧のオプション使用は除く) は、BNF (Backus-Naur Formalism: バッカスナウル形式) で記述します。

```
set_expression ::= { set_entity { set_operator set_entity } }
set_entity ::= set_identifier [ set_modifier ]
set_identifier ::= 1 | $ | $N | $_N | bookmark_id | bookmark_name
set_operator ::= + | - | * | /
set_modifier ::= < field_selection {, field_selection } >
field_selection ::= field_name [ = | += | -= | *= | /= ] element_set_
expression
element_set_expression ::= element_set { set_operator element_set }
element_set ::= [ field_name ] | { element_list } | element_function
element_list ::= element { , element }
element_function ::= ( P | E ) ( [ set_expression ] [ field_name ] )
element ::= field_value | " search_mask "
```

set 修飾子

セットは選択を追加・変更することで修飾できます。そのような修飾子は、set 数式で使用できます。

この修飾子は、項目の選択を定義する値を含む 1 つあるいは複数の項目名で構成されており、すべてが「<」と「>」で囲まれます。例: <Year={2007,+2008},Region={US}>。項目名と項目値は通常どおり引用符で囲みます (例:<[Sales Region]={'West coast', 'South America'}>)。

set 修飾子は set 識別子に先行する選択内容を変更します。set 識別子を参照していない場合、現在の選択のステートは黙示的となります。

選択は、以下のような方法で定義します。

他の項目に基づくもの

簡単な例としては、<OrderDate = DeliveryDate> などの他の項目の選択値に基づいた選択が挙げられます。この修飾子は、**DeliveryDate** から選択値を取得し、**OrderDate** に適用します。distinct 値が多数 (200 以上) ある場合は、CPU に多大な負荷がかかるため避けてください。

要素セットに基づいたもの

set 数式の最も一般的な例としては、中括弧で囲まれた一連の項目値に基づくものが挙げられます。各値は <Year = {2007, 2008}> のようにコンマで区切られています。中括弧は要素セット (明示的な項目値または検索フィールド値) を定義します。

括弧内の一連の値に空白や特殊文字が含まれていない限り、引用符を用いる必要はありません。該当の一連の値は、単に項目値に関して比較されます。この比較では大文字と小文字は区別されません。

括弧内の一連の値に空白や特殊文字が含まれている場合、またはワイルドカードを使用したい場合には、値を引用符で囲む必要があります。括弧内の値が明示的な項目値である場合は、一重引用符を使用します。こうすることで、一連の値と個々の項目値の間で大文字と小文字を区別して検索することが可能になります。

ワイルドカードを含む文字列、または関係演算子や等号で始まる文字列を検索する場合には、二重引用符を使用します。例えば、<Ingredient = {"*Garlic*"}> は、文字列 'Garlic' を含むすべての ingredient を選択します。二重引用符は、例えば <Ingredient = {[*Garlic*]}> のように角括弧に置き換えることもできます。二重引用符はまた、<Ingredient = {`*Garlic*`}> のようにアクサングラーブにも置き換えられます。検索では大文字と小文字は区別せず。

以前のバージョンの QlikView では一重と二重の引用符が区別されず、引用符で囲んだ文字列はすべて検索の対象として処理されていました。下位互換性を維持するため、旧バージョンの QlikView で作成したドキュメントは、引き続き前のバージョンの場合と同様に操作できます。QlikView November 2017 以降のバージョンで作成したドキュメントでは、一重引用符と二重引用符が区別されます。

強制除外

and モードの項目では、強制除外も可能です。特定の項目値を強制的に除外したい場合は、項目名の前に「~」を使用します。

例と結果:

結果の例

例	結果
sum({1<Region= {USA} >} Sales)	現在の選択条件を無視して、USA 地域の sales を返します
sum({$<Region = >} Sales)	現在の選択条件における「Region」での選択を除いた sales を返します
sum({<Region = >} Sales)	上記の例と同じ値が返されます。set 修飾子が省略されている場合は **$** と見なされます。 *前の 2 つの例にある構文は、「Region」での選択がないと解釈されるので、他の選択によって絞り込まれたすべての region が可能な値となります。これは、region がないと解釈される、構文 <Region = {}> あるいは等号の右側の他のテキスト(空の要素セットを暗示する結果となる)とは異なります。*
sum({$<Year = {2000}, Region = {US, SE, DE, UK, FR}>} Sales)	現在の選択条件における sales が返されますが、「**Year**」と「**Region**」で新たな選択が行われます。
sum({$<~Ingredient = {"*garlic*"}>} Sales)	項目 *Ingredient* は AND モードです。 現在の選択条件から、文字列 **garlic** を含むすべての ingredient を強制的に除外した sales が返されます。

例	結果
sum({$<Year = {“2*”}>} Sales)	現在の選択条件で year が 2 で始まる slales が返されます。つまり恐らくは、**Year** 項目で選択されている 2000 年以降が返されます。
sum({$<Year = {“2*”,”198*”}>} Sales)	上記に加え、ここでは 1980 年代も選択対象となります。
sum({$<Year = {“>1978<2004”}>} Sales)	現在の選択条件の販売を返しますが、この場合、全体の販売を合計するため、年の範囲を指定する数値検索が使用されます。

テキストオブジェクトなどのオブジェクトの特定の項目値を強制的に除外する場合は、スクリプトの構文を変更する必要があります。例えば、スクリプトステートメントが次の場合:

```
=count({<ANDActor=>}DISTINCT Title)
```

次のように変更します:

```
=count({<~ANDActor=, ANDActor=>} DISTINCT Title)
```

set 演算子を使った set 修飾子

項目内の選択は、さまざまな要素のセットで set 演算子を使用することで定義できます。例えば、修飾子 **<Year = {"20*", 1997} - {2000}>** は、1997 および 2000 以外の 20 で始まるすべての Year を選択します。

例と結果:

例と結果

例	結果
sum({$<Product = Product + {OurProduct1} - {OurProduct2} >} Sales)	現在の選択に製品 (Product) の OurProduct1 を追加し、OurProduct2 を削除した sales が返されます。
sum({$<Year = Year + ({“20*”,1997} - {2000}) >} Sales)	現在の選択に対する sales が返されますが、Year 項目で追加の選択が行われます (1997 および 2000 以外の 20 から始まるすべての Year)。 2000 が現在の選択に含まれる場合、修飾子の後にもこの値が含まれることに注意してください。
sum({$<Year = (Year + {“20*”,1997}) - {2000} >} Sales)	上記とほぼ同じ結果を返しますが、ここでは現在の選択に 2000 が含まれていても変更後は削除されます。この例が示すように、優先順位を定義するために括弧が必要となる場合があります。
sum({$<Year = {“*”} - {2000}, Product = {“*bearing*”} >} Sales)	現在の選択に 2000 以外の Year と文字列 bearing を含む Product の新規選択を追加した sales の合計が返されます。

黙示的 set 代入演算子を使った set 修飾子

この表記は、項目内の現在の選択を無視し、新しい選択を定義します。ただし、現在の選択を基準にして項目値を追加したい場合は、 <Year = Year + {2007, 2008}> のように修飾子を設定します。これをより簡潔に記述すると、<Year += {2007, 2008}> となります。代入演算子は黙示的に union を定義します。また、黙示的な Intersection 演算子、Exclusion 演算子、そして対称差演算子は、「*=」、「-=」、「/=」で定義できます。

例と結果

例	結果
sum({$<Product += {OurProduct1, OurProduct2} >} Sales)	現在の選択に対して、製品 (Product) の OurProduct1 とOurProduct2 を追加した sales が返されます。
sum({$<Year += {“20*”,1997} - {2000} >} Sales)	現在の選択に対して sales が返されますが、黙示的な union を用いて年が追加されます (1997 と、2000 以外の 20 から始まるすべての Year)。 2000 が現在の選択に含まれる場合、修飾子の後にもこの値が含まれることに注意してください。これは、<Year=Year + ({“20*”,1997}-{2000})> と同様です。
sum({$<Product *= {OurProduct1} >} Sales)	現在の選択のうち、Product の現在の選択値とOurProduct1 の共通部分における sales の合計が返されます。

高度な検索を使った set 修飾子

セットは、ワイルドカードや集計を用いた高度な検索で定義することもできます。

例と結果

例	結果
sum({$-1<Product = {“*Internal*”, “*Domestic*”}>} Sales)	現在の選択から製品 (Product) が文字列 Internal もしくは Domestic を含む取引を除外した売上 (Sales) の合計が返されます。
sum({$<Customer = {“=Sum ({1<Year = {2007}>} Sales) > 1000000”}>} Sales)	現在の選択に Customer への新規選択 (2007 年の売上合計が 1,000,000 以上の顧客のみ) を追加した売上 (Sales) の合計が返されます。

ドル記号展開を使った set 修飾子

set 数式では、変数と他のドル記号展開を使用できます。

例と結果

例	結果
sum({$<Year = {$(#vLastYear)}>} Sales)	現在の選択に関連した、前年の sales が返されます。ここでは、対応する年を含む変数 vLastYear がドル記号展開に使用されています。
sum({$<Year = {$(#=Only(Year)-1)}>} Sales)	現在の選択に関連した、前年の sales が返されます。ここでは、前年を計算するためにドル記号展開が使用されています。

黙示的項目値定義を使った set 修飾子

ここでは、ネスト set 定義を用いて、項目値セットを定義する方法について説明します。

このような場合、可能な値の要素セットと項目の除外値をそれぞれ表す関数 P() と E() を使用する必要があります。括弧の中は、`P({1} Customer)` のように、数式と項目 1 つずつ指定できます。これらの関数は、他の数式では使用できません。

例と結果

例	結果
sum({$<Customer = P({1<Product= {'Shoe'}>} Customer)>} Sales)	現在の選択に対する sales が返されますが、製品「Shoe」を購入したことのある顧客のみが対象となります。要素関数 P( ) はここで、絞り込まれた顧客 (Shoe を項目 Product で選択することで黙示的に定義) のリストを返します。
sum({$<Customer = P({1<Product= {'Shoe'}>})>} Sales)	上記と同様です。要素関数内の項目が省略されると、外部代入で指定された項目に可能な値が返されます。
sum({$<Customer = P({1<Product= {'Shoe'}>} Supplier)>} Sales)	現在の選択に対する sales が返されますが、製品「Shoe」を供給したことのある顧客のみが対象となります。要素関数 P( ) はここで、絞り込まれたサプライヤ (「Shoe」を項目 Product で選択することで黙示的に定義) のリストを返します。次に、サプライヤのリストは項目 Customer の選択に使用されます。

例	結果
sum({$<Customer = E ({1<Product= {'Shoe'}>})>} Sales)	現在の選択に対するsalesが返されますが、製品「Shoe」を購入したことのない顧客のみが対象となります。ここで関数 E( ) は、「Shoe」をProduct項目で選択することによって除外されたCustomerのリストを返します。

内部 set 数式と外部 set 数式

set 数式は中括弧で囲まれた集計関数内外で使用できます。

集計関数内で set 数式を使用すると、次のようになります。

内部の set 数式

```
Sum( {$<Year={2021}>} Sales )
```

複数の集計を行う式があり、すべての集計関数で同じ set 数式を書くことを回避する場合、集計関数の外で set 数式を使用します。

外部の set 数式を使用する場合、スコープの始めに配置する必要があります。

外部の set 数式

```
{<Year={2021}>} Sum(Sales) / Count(distinct Customer)
```

集計関数の外で set 数式を使用する場合、既存のマスター メジャーに適用することもできます。

マスター メジャーに適用された外部の set 数式

```
{<Year={2021}>} [Master Measure]
```

集計関数の外で使用される set 数式は、括弧で囲まれていない限り、式全体に影響を及ぼします。以下の語彙範囲の例では、set 数式が括弧内の集計にのみ適用されます。

語彙範囲

```
( {<Year={2021}>} Sum(Amount) / Count(distinct Customer) ) - Avg(CustomerSales)
```

ルール

語彙範囲

set 数式は、括弧で囲まれていない限り、数式全体に影響します。その場合、括弧が語彙範囲を定義します。

位置

set 数式は、語彙範囲の最初に配置する必要があります。

コンテキスト

コンテキストは、数式に関連性のある選択です。従来、コンテキストは常に現在の選択状態を既定としています。しかしオブジェクトが代替ステートに設定されている場合、コンテキストは現在の選択状態の代替ステートとなります。

外部の set 数式の形式でコンテキストを定義することもできます。

継承

内部の set 数式は、外部の set 数式よりも優先されます。内部の set 数式に set 識別子が含まれている場合、外部の set 数式で定義されたコンテキストがオーバーライドされます。それ以外の場合は、内部の set 数式と外部の set 数式の両方が評価されます。

Example 1: set 識別子を持つ内部の set 数式

```
{<Year={2023}>} Sum(Sales) / Count({1} distinct OrderNumber)
```

上記の数式では、内部の set 数式 `Count({1} distinct OrderNumber)` は set 識別子 `{1}` で構成されています。この内部の set 数式が評価されるとき、外部の set 数式 `{<Year={2023}>}` で定義されたスコープは適用されません。

Example 2: set 識別子を持たない内部の set 数式

```
{<Year={2023}>} Sum ({<Status={'Confirmed'}>} Sales_Stream1) + Sum ({<UpdatedStatus=
{'Confirmed'}>} Sales_Stream2)
```

上記の数式では、内部の set 数式 `Sum ({<Status={'Confirmed'}>} Sales_Stream1)` と`Sum ({<UpdatedStatus={'Confirmed'}>} Sales_Stream2)` には set 識別子が含まれていません。したがって、結果を評価するときには、外部の set 数式 `{<Year={2023}>}` と両方の内部の set 数式がすべて適用されます。

要素セットの割り当て

要素セットの割り当ては、2 つの選択肢がどのようにマージされるかを決定します。通常の等号が使用される場合、内部の set 数式の選択が優先されます。そうでない場合、暗黙の set 演算子が使用されます。

- `{<Field={value}>}` - この内部選択肢は “`Field`” の任意の外部選択肢を置換します。
- `{<Field+={value}>}` - この内部選択肢は、union 演算子を使用して “`Field`” の外部選択肢とマージされます。
- `{<Field*={value}>}` - この内部選択肢は、intersection 演算子を使用して “`Field`” の外部選択肢とマージされます。

複数のステップの継承

継承は複数のステップで発生する可能性があります。例:

- 現在の選択 → `Sum(Amount)`
  集計関数はコンテキストを使用します。ここでは現在の選択です。

- 現在の選択 → {<Set1>} Sum(Amount)
  Set1 は現在の選択から継承され、結果は集計関数のコンテキストとなります。
- 現在の選択 → {<Set1>} ({<Set2>} Sum(Amount))
  Set2 は Set1 から継承され、結果は集計関数のコンテキストとなります。

内部および外部の set 数式のチェーンの継承

複雑なチェーンで複数の set 数式を使用する場合、特に外部の set 数式に他の外部の set 数式や内部の set 数式が続く場合は、継承に関する追加の考慮事項があります。詳細については、「*複数の外部および内部の set 数式のチェーン (page 990)*」を参照してください。

Aggr() 関数

Aggr() 関数は、2 つの独立した集計を持つネストされた集計を作成します。下の例では、Count() が Dim の各値に対して計算され、算出された配列は Sum() 関数を使用して集計されます。

Sum(Aggr(Count(X),Dim))
Count() は内部集計であり、Sum() は外部集計です。

- 内部集計は、外部集計からどのコンテキストも継承しません。
- 内部集計は Aggr() 関数からコンテキストを継承しますが、これには set 数式が含まれている可能性があります。
- Aggr() 関数と外部集計関数の両方とも、外部の set 数式からコンテキストを継承します。

複数の外部および内部の set 数式のチェーン

外部の set 数式は複数使うことができます。次の例では、2 つの外部 set 数式と1 つの内部 set 数式があります。

{<Year={2021}>} {<Region={"Europe"}>} Sum({$<Product={"XI345"}>} Sales)
set 数式は左から右へ適用されます。つまり、set 数式同士が相反するデータセットを指定していた場合、右側の式が優先されます。

外部 set 数式はこのようにいくつでもチェーンできますが、内部 set 数式は 1 つだけに制限されています。内部 set 数式を複数並べてもエラーにはなりませんが、評価時には最も右側のものだけが使用されます。

set 数式の継承

集計式の中で複数の set 数式がチェーンされている場合、それらは左から右へ順番に評価されます。各 set 数式の結果は、軸ごとに 1 つ、または複数のセットのグループとなります。セットは、次の set 数式へと渡され、そこでさらに変更が加えられ、連鎖して処理されていきます。

各 set 数式が異なる軸で動作している限り、それらの間で競合は発生せず、すべてのセットはチェーンの最後まで保持されます (集計時に適用されます)。ただし、set 数式内の軸が空のセット (データなし) を返す場合は、このルールに例外が生じることがあります。詳細については、次を参照してください。

- *空の選択セット (page 991)*
- *暗黙的な選択セットのクリア (page 991)*

空の選択セット

set 数式の中で軸が評価される際、そのセットにデータが含まれていない場合があります。これを空のセットと呼びます。空のセットは、次のようなさまざまな状況で発生する可能性があります。

- 式の定義が誤っている場合。例: 2025 年の値を探そうとしたときに、set 数式 {<OrderYear={'2025'}>} ではなく、誤って {<OrderYear={'0025'}>} と記述する。
- 分析中に、式で参照されている軸とは異なる軸が選択された場合。この選択により、set 数式の軸にデータが存在しなくなることがあります。例: ユーザーが Region='Europe' を選択し、set 数式で {<ProductCategory={'Shirts'}>} Sum (Sales) をフィルターするとします。ヨーロッパでシャツが販売されていない場合、set 数式には空のセットが含まれます。
- 式の中で明示的に空のセットが指定されている場合。これは一般的ではなく、実用的でもありませんが、技術的には可能です。例: {<Year={}>}

暗黙的な選択セットのクリア

set 数式を適用した後の結果が軸の 1 つに対して空のセットである場合 (空の選択セット (page 991) を参照)、その後にさらに 1 つの set 数式が適用されると、その次の set 数式が適用される直前にその軸の選択がクリアされます (完全なセットに戻されます)。選択セットのクリアとは、すべての値が含まれることを意味します。ただし、このクリアは、空セットが生成された set 数式の後に、1 つ以上の追加の外部 set 数式が適用されている場合にのみ実行されます。

選択セットがクリアされる状況の例を次に示します。

```
{<Year={}>} {<Region={"Europe"}>} Sum( Sales )
```

Year={} は、Year の軸に対して空のセットを作成します。これにより、Year の選択セットが、Region={Europe} を含む次の set 数式に渡されるときにクリアされます。選択のクリアは 1 つの軸に対してのみ実行されます。他の軸のセット (同じ set 数式内のセットを含む) は、変更されずにそのまま引き継がれます。

選択セットのクリアにおける、別の例を次に示します。

```
{<Year={}, Product={"XI345"}>} {<Region={"Europe"}>} Sum(Sales)
```

上記の例では、次のことが起こります。

- 選択セット Product={"XI345"} と Region={"Europe"} が適用されます。
- Year={} は適用されません。これは、最後の set 数式 ({<Region={"Europe"}>}) が適用される際に、セットがクリアされるためです。

set 数式の構成要素を最後の外部 set 数式に移動すると、暗黙的なクリアは実行されなくなります。次の例を参照してください。

```
{<Product={"XI345"}>} {<Year={}, Region={"Europe"}>} Sum(Sales)
```

ここでは、Year 式をチェーン内の最後の set 数式に移動しています。これにより、暗黙的なクリアは実行されず、Year 軸の空のセットが実際に Sum 集計に使用されます。

いずれの場合でも、選択セットがクリアされると望ましくない動作が発生する可能性があります。分析エクスペリエンスを向上させ、set 数式のチェーンを簡単に記述できるようにするには、空セット保持フラグを使用します。詳細については、「空セット保持フラグ (外部の set 数式) (page 991)」を参照してください。

空セット保持フラグ (外部の set 数式)

& 記号 (空セット保持フラグ) を使用すると、外部の set 数式の評価モデルを簡素化できます。例:

```
{& <Year={}, Product={XI345}>} {<Region={Europe}>} Sum( Sales )
```

この例では、Year={} は Year の空の選択セットを定義しています。& 記号がない場合、{<Region={Europe}>} 式によって Year の空の選択セットがクリアされ、すべてのデータが集計の計算に使用されることになります。& 記号を使用することで、集計で Year の空の選択セットを尊重するように強制し、よりわかりやすい出力を生成します。

空セット保持フラグの詳細については、「空セット保持フラグ (page 992)」を参照してください。

空セット保持フラグ

一部の外部 set 数式の先頭に & 記号 (空セット保持フラグ) を使用すると、ユーザー分析中に [暗黙的な選択セットのクリア] をオーバーライドできます。空セット保持フラグを使用すると、長い高度な set 数式を書き直さずに、ユーザーが選択を行うときに集計が計算および表示される方法を変更できます。

たとえば、次の set 数式では、空セット保持フラグが使用されています。

```
{&<Country*={'Sweden', 'Denmark'}>} {<ProductCategory={'shirts'}>} Sum( Sales )
```

背景

使用条件

空セット保持フラグは、次のいずれかの構成要素を持つ set 数式で使用できます。

- 少なくとも 1 つの内部 set 数式と 1 つの外部 set 数式
- 2 つ以上の外部 set 数式

暗黙的な選択セットのクリア (page 992) を回避する場合は、空セット保持フラグを使用します。

暗黙的な選択セットのクリア

暗黙的な選択セットのクリアは、複雑な set 数式のチェーンが使用されている場合に、エンドユーザーの分析にとって望ましくない可能性がある内部動作です。*使用条件 (page 992)* に従って構造化された set 数式では、暗黙的な選択セットのクリアが発生する可能性があります。

望ましくない動作は次のとおりです。

1. チェーン内の 1 つ以上の外部 set 数式 (具体的には、最初 (または唯一) の外部 set 数式と、最後を除く後続のすべての外部 set 数式) によってデータセットが定義されます。例: `Country*={'Sweden', 'Denmark'}>}`
2. これらの外部 set 数式の構成要素の 1 つ以上で、何らかの理由により空のセットが生成される場合があります。もっとも一般的な理由は、アプリ内で矛盾する選択が行われることです。
3. 空セットの場合、これらの数式によって定義されたセットは、数式が評価されるとクリアされます。つまり、集計に使用されるデータは定義されたセットに限定されなくなり、すべてのデータが使用されることになります。
   一方、空でないセットを生成する外部 set 数式で定義されたセットと、チェーン内の最後の外部 set 数式は、評価中に尊重されます。

この動作により、集計値が予期しないものとなり、一貫性のない分析につながる可能性があります。暗黙的な選択セットのクリアを回避するには、空セット保持フラグを使用できます。「解決策: 空セット保持フラグの使用 (page 993)」を参照してください。

解決策: 空セット保持フラグの使用

暗黙的な選択セットのクリアをオーバーライドするには、&記号 (空セット保持フラグ) を使用します。このフラグを使用すると、チェーン内の最初の外部 set 数式で定義されたセットがクリアされず、代わりに式全体の評価を通して尊重されるようになります。

空セット保持フラグを使用することで、次のような利点があります。

- 高度で長い set 数式を書き直さずにそのまま保持できるため、柔軟性が高く、作業時間の節約にもつながります。
- 複雑なユースケースに応じて、集計ロジックを柔軟に変更できる機能を提供します。

構文

外部 set 数式では、空セット保持フラグは、数式の先頭、つまりset 修飾子、set 識別子、set 演算子の前に、単一の & 文字として配置されます。

例 - 空セット保持フラグ

数式	空セット保持フラグのない数式
`{&<Country*={'Sweden', 'Denmark'}>} {<ProductCategory={'shirts'}>} Sum( Sales )`	`{<Country={'Sweden'}>} {<ProductCategory={'shirts'}>} Sum (Sales)`
`{& <Year=, Product={XI345}>} {<Region={Europe}>} Sum (Sales)`	`{<Year=, Product={XI345}>} {<Region={Europe}>} Sum (Sales)`

詳細と例

さらに詳しい情報については、「*複数の外部および内部の set 数式のチェーン (page 990)*」を参照してください。

チャートの数式および集計構文

チャート(チャート) の数式と集計に使用される構文については、以下のセクションで説明します。

チャート式用の一般的な構文

次の一般的な構文は、数多くのオプション パラメーターと合わせてチャートの数式のために使用できます。

```
expression ::= ( constant | expressionname | operator1 expression | expression operator2 expression | function | aggregation function | (expression ) )
```

ここではそれぞれ以下に該当します。

constant は、ストレート単一引用符で囲まれた文字列 (テキスト、日付、時刻) または数値です。定数は 3 桁区切りの記号を使用せず、小数点に 10 進小数点を使用します。

expressionname は、同じチャートに含まれるもう1 つの式の名前 (ラベル) です。

operator1 は、右側にある 1 つの数式に対して作用する単項演算子です。

operator2 は、両側にある 2 つの数式に対して作用する二項演算子です。

```
function ::= functionname ( parameters )
parameters ::= expression { , expression }
```

パラメータの数と種類は任意ではなく、使用する関数によって異なります。

```
aggregationfunction ::= aggregationfunctionname ( parameters2 )
parameters2 ::= aggrexpression { , aggrexpression }
```
パラメータの数と種類は任意ではなく、使用する関数によって異なります。

集計関数の一般的な構文

次の一般的な構文は、数多くのオプション パラメーターと合わせて集計のために使用できます。

```
aggrexpression ::= ( fieldref | operator1 aggrexpression | aggrexpression operator2
aggrexpression | functioninaggr | ( aggrexpression ) )
```
fieldref は項目名です。

```
functionaggr ::= functionname ( parameters2 )
```
このように、**fieldref** が常にちょうど 1 つの集計関数で囲まれており、数式が解釈可能な値を返す限り、数式と関数は自由にネストが可能であり、QlikView にエラー メッセージが表示されることはありません。

集計修飾子の例

これらの例は、*Sum- チャート関数 (page 1040)* 関数で作成されていますが、set 分析定義および **total** 修飾子をサポートするすべてのチャート集計関数に適用できます。

選択を行う前の論理的な状態を描写する、次のストレート テーブルの表示を見てください。

Aggregation function with total qualifier

Month	Group	Sum(Value)	sum(total Value)	sum({1} total Value)
		21	**21**	**21**
1	A	1	21	21
1	B	2	21	21
2	A	3	21	21
2	B	4	21	21
3	A	5	21	21
3	B	6	21	21

テーブルの例: total 修飾子を使用した集計関数

Month	Group	Sum(Value)	sum(total Value)	sum({1} total Value)
-	-	21	21	21
1	A	1	21	21
1	B	2	21	21
2	A	3	21	21
2	B	4	21	21
3	A	5	21	21
3	B	6	21	21

2 番目と3 番目の数式列には、すべての行に同じ数値が含まれています。この数値は、最初の数式列の計算された合計になります。

ここでは、Month 1 と2 だけを選択します。結果は次のようになります。

Aggregation function with total qualifier

Month	Group	Sum(Value)	sum(total Value)	sum({1} total Value)
		10	**10**	**21**
1	A	1	10	21
1	B	2	10	21
2	A	3	10	21
2	B	4	10	21

テーブルの例: 月でフィルタリングされた TOTAL 修飾子付きの集計関数

Month (フィルター: 1-2)	Group	Sum(Value)	sum(total Value)	sum({1} total Value)
-	-	10	10	21
1	A	1	10	21
1	B	2	10	21
2	A	3	10	21
2	B	4	10	21

set 定義が現在の選択を無視するため、3 番目 (5 列目) の数式の結果は変更されません。**total** 修飾子を含む 2 番目の数式列 (4 列目) には、新しい合計値 10 が表示されます。これは、最初の数式列 (3 列目) で計算された合計になります。

次のストレートテーブルの表示を見てください。

total qualifier with listed fields

Month	Group	Sum(Value)	sum(total <Month> Value)	sum(total <Group> Value)
		21	**21**	**21**
1	A	1	3	9
1	B	2	3	12
2	A	3	7	9
2	B	4	7	12
3	A	5	11	9
3	B	6	11	12

テーブルの例: リストされた項目を含む Total 修飾子

Month	Group	Sum(Value)	sum(total <Month> Value)	sum(total <Group> Value)
-	-	21	21	21
1	A	1	3	9
1	B	2	3	12
2	A	3	7	9
2	B	4	7	12
3	A	5	11	9
3	B	6	11	12

3 番目の数式列 (`sum(total<Month> Val)`) では、Month ごとに 1 つの合計が計算されます。

p 4番目の数式列 (sum(total<grp> val)) では、group ごとに 1 つの合計が計算されます。
p *set 分析および set 数式 (page 979)*
p *ピボットテーブルの行の合計 (page 1184)*
p *AggrAggr() は、指定された軸上で計算された数式の値の配列を返します。たとえば、顧客別、地域別 sales の最大値です。Aggr 関数は、ネストされた集計に使用されます。この場合、最初のパラメーター(内部集計) は、軸の値ごとに 1 回計算されます。軸は、第 2 パラメータ(および後続のパラメータ) で指定します。さらに、Aggr 関数の結果の配列を、ネストされる集計への入力として使用し、外部の集計関数で Aggr 関数を囲みます。Aggr({SetExpression}[DISTINCT] [NODISTINCT] expr, StructuredParameter{, StructuredParameter}) デュアル expr: 集計関数で構成される数式。デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。StructuredParameter:StructuredParameter は、軸と、オプションのソート基準から構成され、次の形式を持ちます:(Dimension(Sort-type, Ordering)) 軸は単一項目で、数式ではありません。軸は、Aggr 式の計算対象となる値の配列を決定するために使用されます。ソート基準が含まれる場合、Aggr 関数によって作成された値の配列がその軸に対して計算され、ソートされます。これは、Aggr 関数を囲む数式の結果にソート順が影響を及ぼす場合に重要です。ソート基準の使用方法の詳細は、「Adding sorting criteria to the dimension in the structured parameter」を参照してください。SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。DISTINCT: expression 引数の前に distinct 修飾子が配置されている場合、あるいは修飾子がまったく使用されていない場合は、軸の値の組み合わせごとに 1 つの戻り値のみが生成されます。これは正常な集計方法で、これらの異なる組み合わせがそれぞれチャートの 1 行に反映されます。NODISTINCT: expression 引数の前に nodistinct 修飾子が配置されている場合、軸の値の組み合わせは、いずれも基底のデータ構造に基づいて、複数の戻り値を生成する可能性があります。軸が 1 本だけの場合、ソースデータに行が存在するので、aggr 関数は要素と同じ数の配列を返します。Sum、Min、Avg などの基本的な集計関数では単一の数値が返されますが、Aggr() 関数は一時的に複数の段階的結果 (仮想テーブル) を作成して他の集計結果と比較できます。たとえば、Aggr() ステートメントで、顧客による売上の集計から平均の売上を計算し、合計された結果の平均を計算します。Avg(TOTAL Aggr(Sum(Sales), Customer))。複数のレベルでネストされたチャート集計を作成する場合、計算軸で Aggr() 関数を使用してください。 Aggr() 関数の各軸は単一の項目でなければならず、数式 (計算軸) にすることはできません。構造化されたパラメータにおける軸へのソート基準の追加基本的な形式では、Aggr 関数の構文における引数 StructuredParameter は 1 軸です。数式: Aggr(Sum(Sales, Month)) を使用すると、各月の売上の合計値が求まります。ただし、別の集計関数に囲まれている場合、ソート基準を使用しないと予期に反する結果になることがあります。これは、軸によっては数値としてもアルファベット順でもソートできるためです。Aggr 関数の StructuredParameter 引数では、数式において軸のソート基準を指定できます。こうすると、Aggr 関数によって作成された仮想テーブルに対してソート順を強制適用できます。引数 StructuredParameter の構文は次のとおりです。(FieldName, (Sort-type, Ordering))構造化されたパラメータは、次のようにネストできます。(FieldName, (FieldName2, (Sort-type, Ordering)))可能なソートタイプは、NUMERIC、TEXT、FREQUENCY、または LOAD_ORDER です。各ソートタイプに関連付けられた順序タイプは次のとおりです。ソート順序タイプソートタイプ使用可能な順序タイプ NUMERICASCENDING、DESCENDING、または REVERSETEXTASCENDING、A2Z、DESCENDING、REVERSE、または Z2AFREQUENCYDESCENDING、REVERSE、または ASCENDINGLOAD_ORDERASCENDING、ORIGINAL、DESCENDING、または REVERSE順序タイプの REVERSE と DESCENDING は同じです。ソートタイプ TEXT では、順序タイプ ASCENDING と A2Z が同じ、DESCENDING、REVERSE と Z2A が同じです。ソートタイプ LOAD_ORDER では、順序タイプ ASCENDING と ORIGINAL が同じです。例 Avg(Aggr(Sum(UnitSales*UnitPrice), Customer))数式 Aggr(Sum(UnitSales*UnitPrice), Customer) は、Customer による売上の合計値を求め、3 つの Customer 値の配列: 295、715、120 を返します。事実上、値を含む明示的なテーブルや列を作成する必要なく、値の一時リストを作成できました。これらの値は Avg() 関数への入力として使用され、売上の平均値「376.6667」を算出します (プロパティパネルで、Presentation の下の [合計] を選択しておく必要があります)。Aggr(NODISTINCT Max*

*(UnitPrice), Customer)値の配列: 16、16、16、25、25、25、19 および 19。nodistinct 修飾子は、配列がソースデータ1 行に 1 つの要素が含まれることを意味します: それぞれが、各 Customer および Product に対する最大 UnitPrice です。 max(aggr(sum(Customers)-above(Sum(Customers)), (MonthYear,(NUMERIC, ASCENDING))))数式の StructuredParameter 引数におけるソート基準の使用。max(aggr(sum (Customers)-above(Sum(Customers)), (MonthYear,(NUMERIC, ASCENDING)))) ソート基準がない場合、数式 max(aggr(sum(Customers)-above(Sum(Customers)), (MonthYear))) の結果は、軸 MonthYear のソート方式によって異なります。必要な結果を得られないことがあります。ソートタイプおよび順序タイプに値を追加すると、構造化パラメータ(MonthYear, (NUMERIC, ASCENDING)) にソート基準が与えられます。ここで、MonthYear は、ソートタイプ NUMERIC および順序 ASCENDING により、数値の昇順でソートするように指定されています。ここでは、顧客数が最も増えた月を求めようとしています。これは、たとえば KPI のビジュアライゼーションで使用できます。数式の Aggr の部分は、ある月の顧客総数 (MonthYear で与えられる) を、前月の総数と比較します。軸(MonthYear,(NUMERIC, ASCENDING)) のソート基準を使用するので、月をアルファベットの昇順でなく、数値の昇順でソートすることにより、Aggr が、仮想テーブルで連続する月の顧客数を比較することが保証されます。例で使用されているデータ:Customer、Product、UnitPrice、UnitSales を軸としたテーブルを作成します。数式をメジャーとしてテーブルに追加します。ProductData:LOAD * inline [Customer|Product|UnitSales|UnitPriceAstrida|AA|4|16Astrida|AA|10|15Astrida|BB|9|9Betacab|BB|5|10Betacab|CC|2|20Betacab|DD|25|25Canutility|AA|8|15Canutility|CC||19] (delimiter is '|'); (page 1)*

concat 関数の例

CONCAT() 関数は、**CONCATENATE** スクリプトのキーワードと、混同してはいけません。

最もシンプルな形では、値 / ワード / 選択をひとつの文字列に結合させるのに、**Concat()** が使用されます。しかし、異なる問題を解決するのに役立つ多数の方法で、活用することが可能です。すべての例は、下記のテーブルに基づいています:

Table	MyColumn	Date	Value
Data	JKL	01/01/2012	11
Data1	VWX	01/02/2012	13
Data	GHI	01/03/2012	13
Data	ABC	01/04/2012	15
Data1	STU	01/05/2012	18
Data1	PQR	01/06/2012	10
Data1	MNO	01/07/2012	25
Data	DEF	01/08/2012	11

文字列テーブル データの例

Table	MyColumn	Date	Value
Data	JKL	01/01/2012	11
Data1	WVX	01/02/2012	13
Data	GHI	01/03/2012	13
Data	ABC	01/04/2012	15
Data1	STU	01/05/2012	18
Data1	PQR	01/06/2012	10
Data1	MNO	01/07/2012	25
Data	DEF	01/08/2012	11

シンプルな文字列連結

これまでに説明した通り、**concat** 関数は、リストされた値を連結することができます。これら値はハード・コード化されたり、選択 / データによって駆動されます。

```
=CONCAT(MyColumn,',')
```

```
=CONCAT(DISTINCT MyColumn,',')
```

このシンプルな**concat** ステートメントで、列**MyColumn** の絞込値をすべて連結します。DISTINCT キーワードを追加した方がよい場合があります。これにより、各値は、文字列で 1 回だけ表示されるようになります。

```
ABC,DEF,GHI,JKL,MNO,PQR,STU,VWX
```

シンプルな**concat**を使用した場合、選択した列ごとに、文字列の値を順番に並べる関数に、sort weightを追加する選択肢が増えます。下記の例では、値をソートするために、データ列が追加されています。

```
=CONCAT(MyColumn, ',', Date)
```

結果:`JKL,VWX,GHI,ABC,STU,PQR,MNO,DEF`

数式/Set ステートメント内の Concat()

Set 分析の数式に複数の動的な値を渡す

Set ステートメントに動的な値の選択を渡したい場合があります。そうするためには、**CONCAT()** 関数が 'JKL' や 'VWX' などを返すように、文字列にシングル クォートを追加する必要があります。しかし、シングル クォートそのままで、使用することはできません。なぜなら、Set 数式が評価されているときではなく、**Concat** が評価されている時に、シングル クォートが解釈されるからです。よって代わりに、下記のように**Chr()** 関数を使用します:

```
=CONCAT(Chr(39)&MyColumn&Chr(39),',')
```

そして、この**concat** ステートメントを数式内に渡すことができます:

```
=Sum({<MyColumn={$(=CONCAT(Chr(39)&MyColumn&Chr(39),','))}>} Value)
```

このテクニックはほとんどの場合、データアイランドが存在するときに使用されます。データアイランドのテーブルがデータモデルに連結していないので、データモデルに何の影響を及ぼさない数式に、値が渡されます。

スクリプト内の Concat()

また、**Concat** は、他の集計関数と同じように、複数の行を単一の列の値にコンバートするために、スクリプト内で使用されます。

以前、使用されていたソースデータを把握している場合、スクリプト側**CONCAT** の結果は、以下の通りです:

```
ConcatExample:

Load Table,

Concat(MyColumn,',') as CombinedData

Resident Temp

Group By Table;
```

以下は、このスクリプト関数の結果です:

テーブル形式の出力例

Table	CombinedData
Data	ABC,DEF,GHI,JKL
Data1	MNO,PQR,STU,WVX

Rank() を使用して、Concat() に影響を及ぼす

concat() と併せて、その他の関数を活用し始めると、うまく結果を達成できるようになります。この例では、(値に基づき) 上位3名のパフォーマーを把握し、その結果を連結させるために、**Rank()** が使用されています。

```
=CONCAT(IF(aggr(Rank(sum(Value)),MyColumn)<=3,MyColumn),',')
```

結果:`ABC,MNO,STU`

チャート式における並列ステートの例

これらの例は、QlikView 開発者 および/または QlikView パワー ユーザーが用いる並列ステートのベストプラクティスを示すことを目的としています。これらの例は次のファイルにあります。「Alternate States Functionality.qvw」

ステート間の選択を同期化

次の数式をひとつのチャートの中で使用できます。

- `count({$} DISTINCT [請求書番号])`
- `count({State1} DISTINCT [請求書番号])`
- `count({State2} DISTINCT [請求書番号])`

この方法で問題となるのは、エンドユーザーが個々のステートで的確な選択を行うために QlikView の開発者は 3 つすべてのステートの選択 (リスト ボックスとマルチ ボックス) を重複させる必要があるということです。多くの場面で、QlikView の開発者はすべてのステートで利用できる "共通する" 選択条件を設定しようとします。これにより、エンドユーザーが個々のチャートにコンテキストを設定し、ステート間の差異を表示するための特定の選択条件を利用できるようになります。Set 分析をステートと共に使用し、ステート間で特定の選択条件の一貫性を保つことができます。

- `count({State1<Year = $::Year, Month = $::Month>} DISTINCT [請求書番号])`
- `count({State2<Year = $::Year, Month = $::Month>} DISTINCT [請求書番号])`

QlikView の開発者は、**初期ステート** の Year および Month と同期する State1 と State2 の Year および Month の選択条件を保ちます。QlikView の開発者は、ステート間でより多くの項目の一貫性を保つため、必要に応じて set 修飾子に要素を追加できます。

SET 演算子

ステートに Set 演算子 (+, *, -, /) を使用できます。次の数式は有効です。**初期ステート** または State1 のユニークな請求書番号をカウントします。

- `count({$ + State1} DISTINCT [請求書番号])`
  は、初期ステートとState1 を合わせたユニークな請求書番号をカウントします。

- `count({1 - State1} DISTINCT [請求書番号])`
  は、State1 に無いユニークな請求書番号をカウントします。

- `count({State1 * State2} DISTINCT [請求書番号])`
  は、初期ステートとState1 の両方に存在するユニークな請求書番号をカウントします。



このようにSet 演算子を使用する場合は注意が必要です。場合によっては、期待する結果が得られない可能性があります。これは、既定のステートにおいて選択によって生成されたデータセットが結合されたデータセットと完全に対応していないからかも知れません。これは、データモデルが複雑になるにつれてその傾向が強くなります。

暗黙的項目値定義

set 演算子を関数 P() や関数 E() と使用する方法があります。これらの関数は Set 数式内でのみ利用できます。

- `count`({$<[Invoice Number] = p({State1} [請求書番号])>} DISTINCT [請求書番号])
  この数式は、State1 で絞り込まれた請求書番号に基づいた初期ステートのユニークな請求書番号をカウントします。

ほぼ次の数式と同じですが、全く同じという訳ではありません。

- `count({$<[Invoice Number] = State1::[Invoice Number]>} DISTINCT [請求書番号])`

数式の違いは、最初の数式では請求書番号の絞込値がState1 から**初期ステート**に渡されます。2 つ目の数式では選択値がState1 から**初期ステート**に渡されます。ユーザーがState1 で請求書番号の選択を行わなかった場合、**初期ステート**に渡される請求書番号の値はありません。

Set 演算子は Set 修飾子内で使用するのが最適です。次の数式では、State1 とState2 から共通する請求書番号の絞込値を**初期ステート**の請求書番号に渡します。

- `count({$<[Invoice Number] = p({State1} [請求書番号]) * p({State2} [請求書番号])>} DISTINCT [請求書番号])`

初期ステートとState1 の共通する請求書番号を返す数式は次の通りです。

- `count({$<[Invoice Number] = p({$} [請求書番号]) * p({State1} [請求書番号])>} DISTINCT [請求書番号])`

この数式では、要素関数とSet 識別子 の両方にステート(この場合は初期ステート) 使用されているため分かりにくいかも知れません。要素関数 p($) が **初期ステート** の絞込値を返していることを覚えておいてください。set/state 識別子 {$} は要素関数の結果によって変更されています。現在、**初期ステート**に存在する請求書の選択条件は、要素関数の共通する値によって無効にされます。

上記数式は、**初期ステート** とState1 の共通する選択条件の同期に失敗するため、完全に正しいとは言えませんのでご注意ください。次の数式はそれを行います。

- `count({$<[Invoice Number] = p({$} [請求書番号]) * p({State1<Year = $::Year, Month = $::Month>} [請求書番号])>} DISTINCT [請求書番号])`

すでに述べた通り、QlikView の開発者はステート間で選択条件の一貫性を保つため、修飾子に項目を追加できます。

チャートの順位付け関数の例

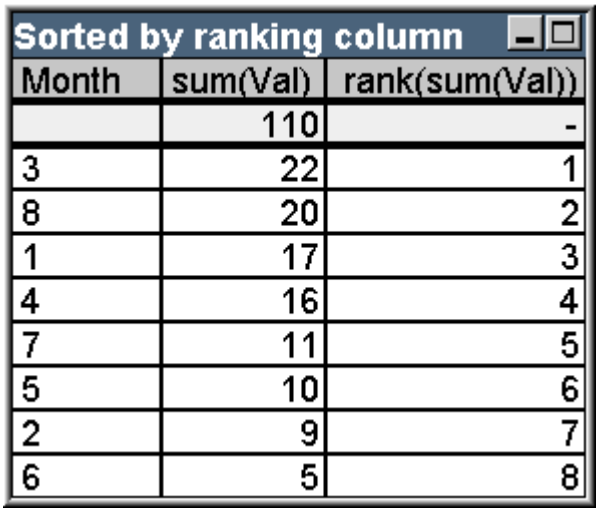
これらの例は **rank (VRank)** 関数で作成されていますが、**HRank** 関数にも同じように適用できます。ただし、**HRank** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

Example 1:

次の 2 つの 1 軸ストレートテーブルを見てください。

Single dimension RANK

Month	sum(Val)	rank(sum(Val))
	110	-
1	17	3
2	9	7
3	22	1
4	16	4
5	10	6
6	5	8
7	11	5
8	20	2



Sorted by ranking column		
Month	sum(Val)	rank(sum(Val))
	110	-
3	22	1
8	20	2
1	17	3
4	16	4
7	11	5
5	10	6
2	9	7
6	5	8

テーブルの例: 単一軸の順位

Month	sum(Val)	rank(sum(Val))
-	110	-
1	17	3
2	9	7
3	22	1
4	16	4
5	10	6
6	5	8
7	11	5
8	20	2

テーブルの例: 単一軸の順位、順位付け列でソート

Month	sum(Val)	rank(sum(Val))
-	110	-
3	22	1
8	20	2
1	17	3
4	16	4
7	11	5
5	10	6
2	9	7
6	5	8

2 つのテーブルは同じですが、左側のテーブルは最初の列でソートされており、右側のテーブルは最後の列でソートされています。この例は、**rank** の基本機能を示します。最大値が最高順位になります (最小順位番号) になります。

rank 関数は、合計行では常に NULL を返します。

Example 2:

次の 2 軸ピボットテーブルを見てください。

Two dimension RANK and the effect of total

Group	Month	sum(Val)	rank(sum(Val))	rank(total sum(Val))
A	1	17	2	3
	4	16	3	4
	7	11	4	5
	8	20	1	2
	Total	64	-	-
B	2	9	3	7
	3	22	1	1
	5	10	2	6
	6	5	4	8
	Total	46	-	-
Total		110	-	-

テーブルの例: 2 軸の順位と合計の効果

Group	Month	sum(Val)	rank(sum(Val))	rank(total sum(Val))
A	1	17	2	3
A	4	16	3	4
A	7	11	4	5
A	8	20	1	2
A	合計	64	-	-
B	2	9	3	7
B	3	22	1	1
B	5	10	2	6
B	6	5	4	8
B	合計	46	-	-
合計	-	110	-	-

このテーブルは、例 1 の 2 つのテーブルと同じデータに基づきます。複数軸で、現在の列セグメントがどのように内側でグループ化されているかがわかります。Group A の Month 項目は、Group B の Month 項目とは別々に順位付けされています。**total** 修飾子を使用することで全体の順位付けを実現することができます。

Example 3:

次の例は、順位付けの数値表現のさまざまなモードの効果について説明します。次のテーブルを見てください。

The effect of the mode parameter on the result number representatio							
Month	sum(X)	rank(sum(X))	mode=0	mode=1	mode=2	mode=3	mode=4
	86	-	-	-	-	-	-
4	20	1	1	1	1	1	1
2	12	2-3	2	2	2.5	3	2
7	12	2-3	2	2	2.5	3	3
3	10	4-5	4.5	4	4.5	5	5
5	10	4-5	4.5	4	4.5	5	4
8	9	6	6	6	6	6	6
6	7	7	7	7	7	7	7
1	6	8	8	8	8	8	8

テーブルの例: 結果の数値表現に対するモードパラメーターの効果

Month	sum (X)	rank(sum (X))	mode=0	mode=1	mode=2	mode=3	mode=4
-	86	-	-	-	-	-	-
4	20	1	1	1	1	1	1
2	12	2-3	2	2	2.5	3	2
7	12	2-3	2	2	2.5	3	3
3	10	4-5	4.5	4	4.5	5	5
5	10	4-5	4.5	4	4.5	5	4
8	9	6	6	6	6	6	6
6	7	7	7	7	7	7	7
1	6	8	8	8	8	8	8

3 列目は、テキスト表現の順位付けを示し、4 ~ 8 列目は、同じ順位付けの数値表現をさまざまなモードで示します。各列の数式は、次のようになります。

```
num( rank( sum( X ), mode ))
```

`mode` は 0 ~ 4 の値です。

- **Mode 0 (default)** 2 行目と3 行目は順位を共有しますが、明らかに総合順位の上位側に位置します。したがって、これらの数値表現は 2 に切り捨てられます。4 行目と5 行目は順位を共有しますが、順位

付けテーブル中央のすぐ上に位置します。列の最初の順位と最後の順位の平均の数値表現を取得します ((1+8)/2 = 4.5)。このモードは、特に、**条件付き書式**を使用して、グループ内の最高および最低の順位データをマークする場合に便利です。

- **Mode 1** どちらの場合も、グループ内の小さい順位番号が使用されます。2 行目と3 行目の場合は 2、4 行目と5 行目の場合は 4 になります。
- **Mode 2** どちらの場合も、グループ内の小さい順位番号と大きい順位番号の平均が使用されます。行 2 および 3 の場合は 2.5 ((2+3)/2)、行 4 および 5 の場合は 4.5 ((4+5)/2) になります。
- **Mode 3** どちらの場合も、グループ内の大きい順位番号が使用されます。2 行目と3 行目の場合は 3、4 行目と5 行目の場合は 5 になります。
- **Mode 4** 各行は、独自のユニークな数値を取得します。順位を共有するグループ内の順序は、チャートの軸のソート順によって決定されます。

Example 4:

次の例は、順位付け関数のテキスト表現のさまざまな書式の効果について説明します。次のテーブルを見てください。

The effect of the format parameter on the result text representation				
Month	sum(X)	rank(sum(X),0,0)	rank(sum(X),0,1)	rank(sum(X),0,2)
	86	-	-	-
4	20	1	1	1
2	12	2-3	2	2
7	12	2-3	2	
3	10	4-5	4	
5	10	4-5	4	4
8	9	6	6	6
6	7	7	7	7
1	6	8	8	8

テーブルの例: 結果のテキスト表現に対する書式パラメーターの効果

Month	sum(X)	rank(sum(X),0,0)	rank(sum(X),0,1)	rank(sum(X),0,2)
-	86	-	-	-
4	20	1	1	1
2	12	2-3	2	2
7	12	2-3	2	-
3	10	4-5	4	-
5	10	4-5	4	4
8	9	6	6	6
6	7	7	7	7
1	6	8	8	8

3 ~ 5 列目は、異なる `format` パラメーターの値を使用した同じ順位付け関数のテキスト表現を示します。`format` は、0 ~ 2の値です。

- **Format 0 (default)** 順位を共有する行は、'小さい値 - 大きい値' (たとえば、'2 - 3' および '4 - 5') として表示されます。
- **Format 1** 順位を共有する行は、常にテキスト表現として最も小さい順位番号を取得します。この場合は、2 行目と3 行目は 2 を取得します。
- **Format 2** 順位を共有する各グループ内の 1 つの行は、テキスト表現として小さい順位番号を取得し、グループ内のその他の行は、空白文字列を取得します。順位を共有するグループ内の順序は、チャートの軸のソート順によって決定されます。

チャートのレコード関数の例

Top 関数の例

これらの例は、**top** 関数で作成されていますが、**bottom**、**first** および **last** 関数にも同じように適用できます。ただし、**first** と**last** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

Example 1:

1 軸のテーブルで使用する**top** 関数を描写する、次のストレートテーブルの表示を見てください。

Single dimension straight table - top

Month	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val)/top(sum(Val))
	21	3	700%
1	3	3	100%
2	7	3	233%
3	11	3	367%

テーブルの例:top 関数を使用した 1 軸のストレートテーブル

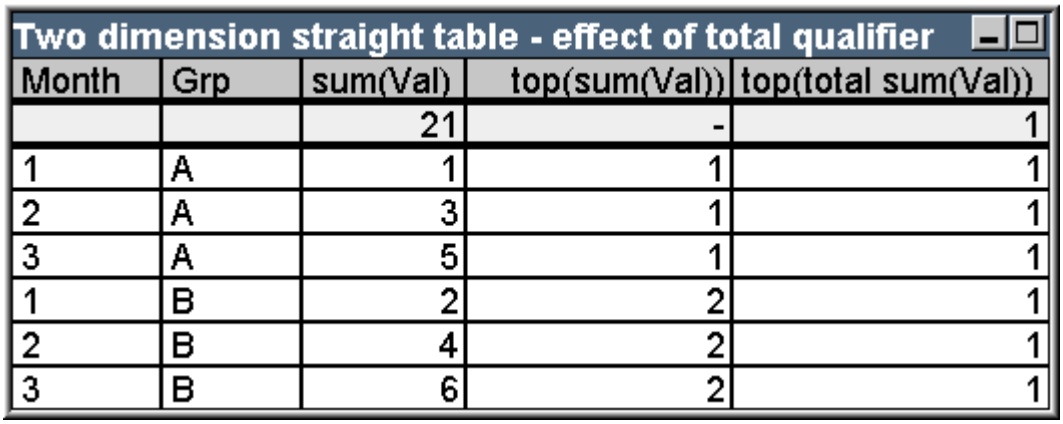
Month	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val) / top(sum(Val))
-	21	3	700%
1	3	3	100%
2	7	3	233%
3	11	3	367%

1 軸の場合、**top** 関数は、常にテーブルの最初のデータ行を参照します (合計行は含まれません)。

top 関数を使用する数式は、合計行でも正しく評価されます。合計は、特定の列セグメント(この例では、列全体) と明確な関係があるためです。

Example 2:

これは、主に Grp 項目でソートされた 2 軸ストレートテーブルです。



Two dimension straight table - effect of total qualifier

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	top(total sum(Val))
		21	-	1
1	A	1	1	1
2	A	3	1	1
3	A	5	1	1
1	B	2	2	1
2	B	4	2	1
3	B	6	2	1

テーブルの例:total 修飾子を使用した2軸のストレートテーブル

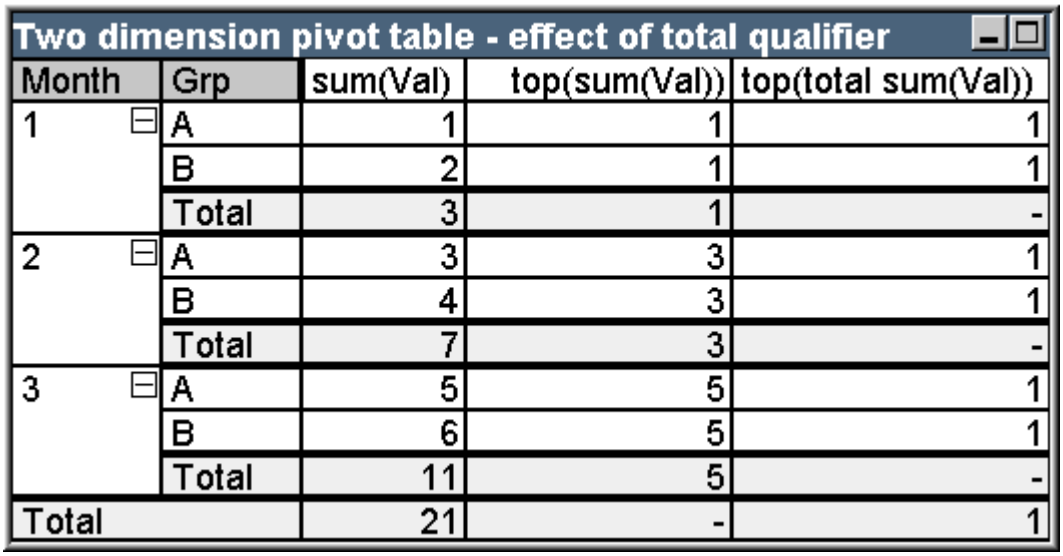
Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	top(total sum(Val))
-	-	21	-	1
1	A	1	1	1
2	A	3	1	1
3	A	5	1	1
1	B	2	2	1
2	B	4	2	1
3	B	6	2	1

total 修飾子のない **top** 関数は、最も内側のソートグループ内 (この例では、Grp 軸) の先頭行で評価された数式を返します。Grp=A に 1 つの値、Grp=B に 1 つの値を返します。

複数軸の場合は、**total** 修飾子を使用することで、テーブル全体の先頭行を再度参照し、すべての行に同じ値を返すことができます。もちろん、数式は、列全体にわたる列セグメントで評価されます。

total 修飾子なしで **top** 関数を使用する数式は、合計行では NULL に評価されます。これは、特定の列セグメントに明確に関連付けられていないためです。

次は、上のストレートテーブルをすべての合計を表示するピボットテーブルに変換してみます。



Two dimension pivot table - effect of total qualifier

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	top(total sum(Val))
1	A	1	1	1
	B	2	1	1
	Total	3	1	-
2	A	3	3	1
	B	4	3	1
	Total	7	3	-
3	A	5	5	1
	B	6	5	1
	Total	11	5	-
Total		21	-	1

テーブルの例:total 修飾子を使用した2軸のピボットテーブル

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	top(total sum(Val))
1	A	1	1	1
1	B	2	1	1
1	合計	3	1	-
2	A	3	3	1
2	B	4	3	1
2	合計	7	3	-
3	A	5	5	1
3	B	6	5	1
3	合計	11	5	-
合計	-	21	-	1

total 修飾子なしで **top** 関数を使用する数式は、合計行では NULL に評価されます。これは、特定の列セグメントに明確に関連付けられていないためです。ただし、すべての部分合計は、列セグメントごとに評価されます。

total 修飾子を使用する数式は、部分合計に値を返しませんが、全合計行には値を返します。

Example 3:

次の Grp 項目でソートされたストレートテーブルを見てください。

Two dimension straight table - sort on Grp				
Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val)/top(sum(Val))
		21	-	-
1	A	1	1	100%
2	A	3	1	300%
3	A	5	1	500%
1	B	2	2	100%
2	B	4	2	200%
3	B	6	2	300%

テーブルの例:Grp でソートした 2 軸 ストレート テーブル

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val) / top(sum(Val))
-	-	21	-	-
1	A	1	1	100%
2	A	3	1	300%
3	A	5	1	500%
1	B	2	2	100%
2	B	4	2	200%
3	B	6	2	300%

次に、チャートが Month でソートされるように、項目 ソート順を変更します。テーブルは次のようになります。

Two dimension straight table - sort on Month				
Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val)/top(sum(Val))
		21	-	-
1	A	1	1	100%
1	B	2	1	200%
2	A	3	3	100%
2	B	4	3	133%
3	A	5	5	100%
3	B	6	5	120%

テーブルの例:Month でソートした 2 軸 ストレート テーブル

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val) / top(sum(Val))
-	-	21	-	-
1	A	1	1	100%
1	B	2	1	200%

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val) / top(sum(Val))
2	A	3	3	100%
2	B	4	3	133%
3	A	5	5	100%
3	B	6	5	120%

Above 関数の例

これらの例は、**above** 関数で作成されていますが、**below**、**before** および **after** 関数にも同じように適用できます。ただし、**before** と**after** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

Example 4:

1 軸のテーブルで使用する**above** 関数を描写する、次のストレートテーブルの表示を見てください。

Single dimension straight table - above

Month	sum(Val)	above(sum(Val))	sum(Val)/above(sum(Val))
	21	-	-
1	3	-	-
2	7	3	233%
3	11	7	157%

テーブルの例:Above 関数を使用した1 軸のストレートテーブル

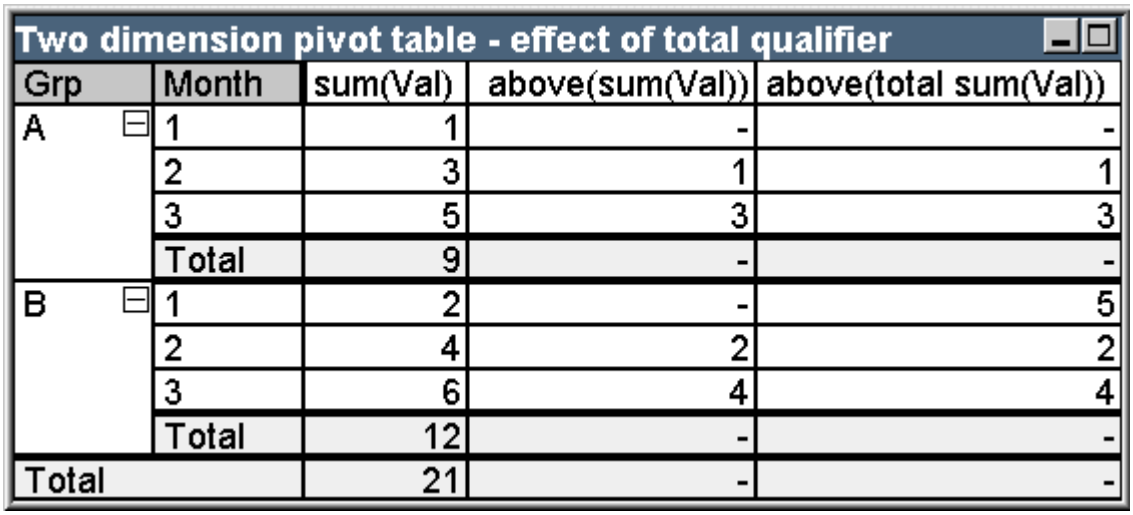
Month	sum(Val)	above(sum(Val))	sum(Val) / above(sum(Val))
-	21	-	-
1	3	-	-
2	7	3	233%
3	11	7	157%

3 列目は、現在行の 1 つ上の行を評価する数式 **sum(Val)** を示します。これは、2 列目の **sum(Val)** の値と比較することで確認できます。最初の行では、**above** 関数は NULL を返します。数式が評価される上の行が存在しないためです。**above** 関数は、すべての合計行に対して常に NULL を返します。

4 列目は、この関数の最も一般的な使用方法を示します。つまり、さまざまな期間ごとの違いなどを計算します。

Example 5:

次の 2 軸ピボットテーブルを見てください。



Two dimension pivot table - effect of total qualifier

Grp	Month	sum(Val)	above(sum(Val))	above(total sum(Val))
A	1	1	-	-
	2	3	1	1
	3	5	3	3
	Total	9	-	-
B	1	2	-	5
	2	4	2	2
	3	6	4	4
	Total	12	-	-
Total		21	-	-

テーブルの例:total 修飾子を使用した2軸のピボットテーブル

Grp	Month	sum(Val)	above(sum(Val))	above(total sum(Val))
A	1	1	-	-
A	2	3	1	1
A	3	5	3	3
A	合計	9	-	-
B	1	2	-	5
B	2	4	2	2
B	3	6	4	4
B	合計	12	-	-
合計	-	21	-	-

total 修飾子のない **above** 関数 (3 列目) は、各ソートグループ内でのみ機能します。各列セグメントの先頭行には、NULL 値が返されます。

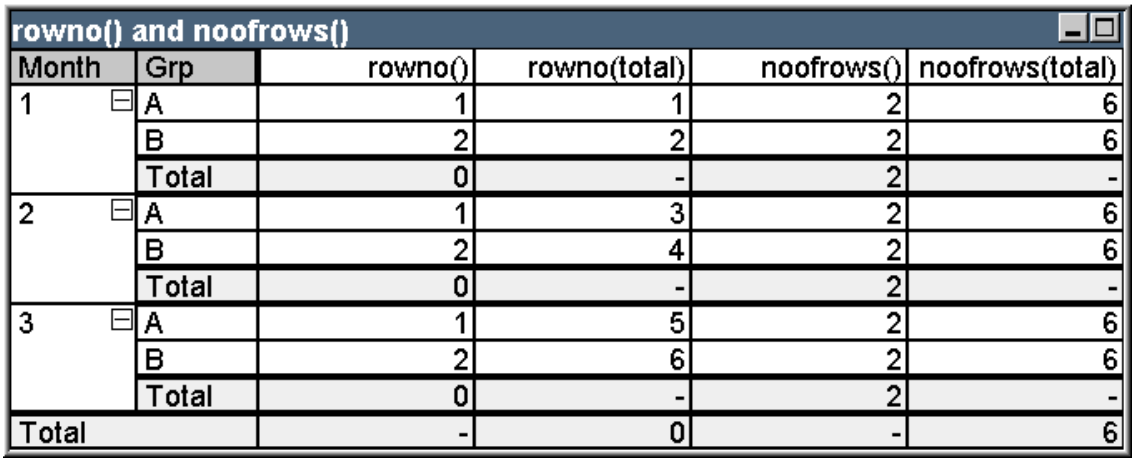
total 修飾子を追加すると(4 列目)、列全体が 1 つの列セグメントと見なされます。一番上の先頭行だけが NULL を返します。すべての合計行は無視され、NULL を返します。

RowNo および NoOfRows 関数の例

この例は、**RowNo** および **NoOfRows** 関数で作成されていますが、**ColumnNo** および **NoOfColumns** 関数にも同じように適用できます。ただし、**ColumnNo** と **NoOfColumns** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

Example 6:

次の 2 軸ピボットテーブルを見てください。



rowno() and noofrows()

Month	Grp	rowno()	rowno(total)	noofrows()	noofrows(total)
1	A	1	1	2	6
	B	2	2	2	6
	Total	0	-	2	-
2	A	1	3	2	6
	B	2	4	2	6
	Total	0	-	2	-
3	A	1	5	2	6
	B	2	6	2	6
	Total	0	-	2	-
Total		-	0	-	6

テーブルの例:RowNo 関数とNoOfRows 関数

Month	Grp	RowNo()	RowNo(total)	NoOfRows()	NoOfRows(total)
1	A	1	1	2	6
1	B	2	2	2	6
1	合計	0	-	2	-
2	A	1	3	2	6
2	B	2	4	2	6
2	合計	0	-	2	-
3	A	1	5	2	6
3	B	2	6	2	6
3	合計	0	-	2	-
合計	-	-	0	-	6

- 3 列目の **RowNo** 関数は、各ソートグループの列セグメント内の行番号を返します。小計行では、行番号 0 が返されます。これらの合計は、特定の列セグメントに明確に属しているためです。全合計行には、NULL が返されます。
- 4 列目の total 修飾子を使用する **RowNo** 関数は、列全体内の行数を返します。小計行には、NULL 値が返されます。全合計行には、0 が返されます。
- 5 列目 **NoOfRows** 関数は、各ソートグループの列セグメント内のデータ行の数を返します。小計行では、データ行と同じ数が返されます。全合計行には、NULL が返されます。
- 6 列目の total を使用する **NoOfRows** 関数は、列全体内のデータ行の数を返します。この数は、全合計行にも返されます。小計行には、NULL が返されます。

計算式

QlikView シートおよびシートオブジェクトのプロパティダイアログでは、固定テキストラベルまたは固定番号のための多くのプロパティがあります。通常、これらは、ラベル、ウィンドウのタイトル、チャートのタイトルとして使用され、場合によっては固定数値範囲として使用されます。

上記で示した多くのプロパティエントリには、定数テキストまたは番号ではなく、計算式を入力できます。この機能を"計算式" と言います。計算式を使用できる場合は、このマニュアルの該当する場所で示されます。

計算式の入力

計算式は、次の構文に基づいて入力します。

```
= expression
```

許可される数式の構文については、以下のセクションを参照してください。

エントリの最初の位置にあるイコール サインは、その後の入力が数式として解釈されることを示します。QlikView はこの数式の評価を試みます。不正な構文などで数式を評価できない場合は、イコール サインを含むラベル全体が表示されます。

計算式は、**[数式の編集]** ダイアログで生成することもできます。このダイアログは、編集ボックスの横にある **[...]** ボタンをクリックすると表示されます。

エラー メッセージ

計算式が QlikView によって正しく評価されない場合は、その式自体が返され、式の後に 2 つのスラッシュとエラー メッセージが続きます。

```
= mode(x) //オブジェクトのメモリが不足しています
```

各計算式は、特定のメモリ量を必要とします。余分なメモリを消費しないようにするため、各計算ラベルの許可されるメモリ割り当て量の制限がプログラムで指定されています。かなり複雑な数式を入力すると、QlikView は、その数式を返し、数式の後にエラー メッセージ "// オブジェクト メモリが不足しています" を表示します。

計算式の数式構文

計算ラベルの **expression** の構文は、いくつかの例外を除いてチャートの数式とほとんど同じです。

- 反復処理する軸が存在しないため、チャート集計関数は、基本的には、すべての項目名の前に **total** 修飾子を含むチャート式を使用しているように動作します。そのため **total** 修飾子はオプションであり、計算式では特別な意味はありません。**set** 定義は、チャートの数式と同様に動作します。現在の選択とは異なる選択で集計を行います。
- 計算式の場合は、任意で項目名を集計関数で囲まずに使用できます。この場合は、集計関数として **only** を使用します。

```
= Currency
```

は、次の式と同じです。

```
= only(Currency)
```

10.6 演算子

このセクションでは、QlikView で利用できる演算子について説明します。2 種類の演算子があります。

- 単項演算子 (単一オペランドのみを使用します)
- 二項演算子 (2 つのオペランドを使用します)

ほとんどの演算子は、二項演算子です。

次の演算子を定義できます。

- ビット演算子
- 論理演算子
- 数値演算子
- 関係演算子
- 文字列演算子

ビット演算子

すべてのビット演算子は、オペランドを符号付き整数 (32 ビット) に変換し (切り捨て)、同じ方法で結果を返します。すべての演算は、ビット単位で行われます。オペランドを数値として解釈できない場合、演算は NULL を返します。

ビット演算子

ビット演算子	演算子名	演算子関数
bitnot	Bit inverse	単項演算子。この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理否定を返します。 `bitnot 17` は、-18 を返します
bitand	Bit and	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理積を返します。 `17 bitand 7` は、1 を返します
bitor	Bit or	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理和を返します。 `17 bitor 7` は、23 を返します
bitxor	Bit exclusive or	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの排他的論理和を返します。 `17 bitxor 7` は、22 を返します

ビット演算子	演算子名	演算子関数
>>	Bit right shift	演算は、右シフトした最初のオペランドを返します。手順数は、2 番目のオペランドで定義されます。 8 >> 2 は、2 を返します
<<	Bit left shift	演算は、左シフトした最初のオペランドを返します。手順数は、2 番目のオペランドで定義されます。 8 << 2 は、32 を返します

論理演算子

すべての論理演算子は、オペランドを論理的に解釈し、結果として True (-1) または False (0) を返します。

論理演算子

論理演算子	演算子関数
not	論理否定。いくつかの単項演算子の 1 つ。この演算は、オペランドの論理否定を返します。
and	論理積 (and)。この演算は、オペランドの論理積を返します。
or	論理和 (or)。この演算は、オペランドの論理和を返します。
Xor	排他的論理和。この演算は、オペランドの排他的論理和を返します。つまり、論理和と似ていますが、両方のオペランドが True の場合の結果が False になるという違いがあります。

数値演算子

すべての数値演算子はオペランドの数値を使用し、結果として数値を返します。

数値演算子

数値演算子	演算子関数
+	正の数値 (単項演算子) または加算を表す記号。この二項演算子は、2 つのオペランドの和を返します。
-	負の数値 (単項演算子) または減算を表す記号。この単項演算子は -1 倍したオペランドを返し、二項演算子は 2 つのオペランドの差を返します。
*	乗算。この演算子は、2 つのオペランドの積を返します。
/	除算。この演算子は、2 つのオペランドの割合を返します。

関係演算子

すべての関係演算子はオペランドの値を比較し、結果としてTrue (-1) または False (0) を返します。すべての関係演算子が二項演算子です。

関係演算子

関係演算子	演算子名	演算子関数
<	未満	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
<=	以下	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
>	超	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
>=	以上	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
=	等しい	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
<>	等しくない	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
precedes		**<** 演算子とは異なり、比較の前に引数値の数値解釈は行われません。演算子の左側の値がテキスト表現で、それが文字列の比較で右側の値のテキスト表現の前に来る場合は True を返します。 `'1 ' precedes ' 2'` の戻り値: FALSE 一方、 `' 1' precedes ' 2'` の戻り値: TRUE 空白 (' ') の ASCII 値は、数字の ASCII 値より、少ない値になります。 これを次の例と比較します。 `'1 ' < ' 2'` の戻り値: TRUE および `' 1' < ' 2'` の戻り値: TRUE

関係演算子	演算子名	演算子関数
follows		**>** 演算子とは異なり、比較の前に引数値の数値解釈は行われません。演算子の左側の値がテキスト表現で、それが文字列の比較で右側の値のテキスト表現の後に来る場合は True を返します。 `' 2' follows '1` は FALSE を返します 一方、 ' 2' follows ' 1' の戻り値: TRUE 空白 (' ') の ASCII 値は、数字の ASCII 値より、少ない値になります。 これを次の例と比較します。 `' 2' > ' 1'` の戻り値: TRUE および `' 2' > '1 '` の戻り値: TRUE

文字列演算子

2 つの文字列演算子があります。そのうちの 1 つはオペランドの文字列値を使用し、結果として文字列を返します。もう1 つはオペランドを比較し、一致したかどうかを示す論理値を返します。

文字列演算子

文字列演算子	演算子の説明
&	文字列連結。この演算は、2 つのオペランド文字列を順に連結したテキスト文字列を返します。 `'abc' & 'xyz'` は abcxyz を返します
like	ワイルドカード文字列を使用した文字列比較。演算子の前の文字列が演算子の後の文字列と一致した場合、この演算は論理値 True (-1) を返します。2 番目の文字列には、ワイルドカード文字 * (任意の数の任意の文字) または ? (1 つの任意の文字) が含まれることがあります。 `'abc' like 'a*'` は、True (-1) を返します `'abcd' like 'a?c*'` は、True (-1) を返します `'abc' like 'a??bc'` は、False (0) を返します

10.7 スクリプトの関数とチャートの数式

このセクションでは、QlikView ロードスクリプトで使用できる関数と、データの変換と集計を行うチャートの数式について説明します。

関数の多くはロードスクリプトとチャート式の両方で同じように使用できますが、次のようないくつかの例外があります。

- ロードスクリプトでのみ使用できる関数もあり、それらはスクリプト関数として表されています。
- チャートの数式でのみ使用できる関数もあり、それらはチャート関数として表されています。
- ロードスクリプトおよびチャートの数式の両方で使用できる関数もありますが、パラメータおよびアプリケーションは異なります。それらは、スクリプト関数またはチャート関数として個別のトピックで説明されています。

分析接続

QlikView Desktop および QlikView Server の両方で、*settings.ini* ファイルを編集して分析接続を構成します。分析接続によって有効化された関数は、*setting.ini* ファイルに分析接続を構成済みで、QlikView が起動されている場合にのみ表示されます。「分析接続」ページで分析接続の作成方法を確認してください。

集計関数

集計関数と呼ばれる関数のファミリは、複数の項目値を入力として取得し、グループごとに結果を 1 つ返す関数で構成されます。グループ化はチャート軸やスクリプトステートメント内の **group by** 条件によって定義されます。

集計関数には、**Sum()**、**Count()**、**Min()**、**Max()** などがあります。

ほとんどの集計関数は、データロードスクリプトとチャート式の両方で使用できますが、構文が異なります。

データロードスクリプトでの集計関数の使用

集計関数は **LOAD** および **SELECT** ステートメントの内部でのみ使用できます。

チャート式での集計関数の使用

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

集計関数は、選択内容によって定義されたレコードセットを集計します。ただし、代替のレコードセットは、Set 分析で Set 数式を用いることで定義できます。

集計の計算方法

集約は、特定のテーブルのレコードをループし、そのテーブル内のレコードを集約します。例えば、**Count** (<Field>) は、<Field> が存在するテーブル内のレコードの数をカウントします。固有の項目値のみを集計する場合は、**Count (distinct <>) などの** distinctField 句を使用する必要があります。

集計関数に異なるテーブルの項目が含まれている場合、集計関数は、構成項目のテーブルの外積のレコードをループします。これにはパフォーマンスの低下があります。このため、特に大量のデータがある場合は、このような集計を回避する必要があります。

キー項目の集約

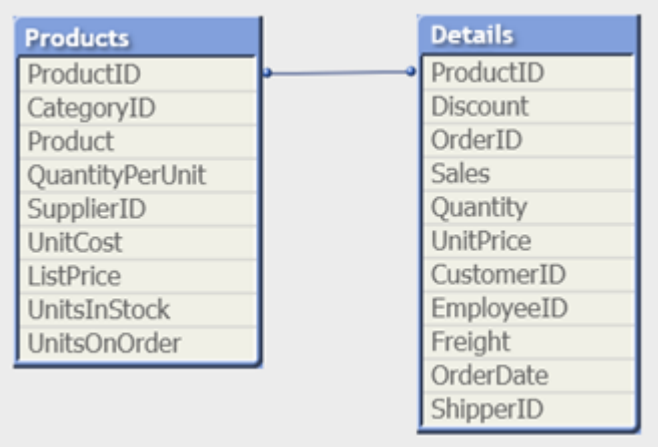
集計の計算方法は、集計に使用するテーブルが明確でないため、キー項目を集計できないことを意味します。例えば、項目 <Key> が 2 つのテーブルをリンクしている場合、**Count**(<Key>) が最初のテーブルまたは 2 番目のテーブルのレコード数を返す必要があるかどうかは明確ではありません。

ただし、**distinct** 句を使用する場合、集計は明確に定義されており、2 つのテーブルにリンクされたキー項目に対して計算できます。

distinct 句を指定せずに集計関数内でキー項目を使用すると、QlikView は意味のない数値を返します。解決策は、**distinct** 句を使用するか、キーのコピー (1 つのテーブルにのみ存在するコピー) を使用することです。

次のテーブルに対する例では、テーブル間のキーは *ProductID* です。

ProductId とProducts テーブル間の Details キー



Count(ProductID) は *Products* テーブル (製品ごとに1つのレコードしかない- *ProductID* が主キー)、または *Details* テーブル (製品ごとに複数のレコードがあるものが多い) でカウントされます。個別の製品の数をカウントする場合は、*Count(distinct ProductID)* を使用する必要があります。特定のテーブルの行数をカウントする場合は、キーを使用しないでください。

3 以上のテーブルに含まれたキー項目の集計

distinct プレフィックスは、最大 2 つのテーブルをリンクするキー項目でのみ正常に機能します。3 つ以上のテーブルに存在するキー項目をグループ化する場合、項目の頻度情報を必要とする操作はすべて NULL を返します。キー項目が 3 つ以上のテーブルにリンクしている場合、項目の非キーコピーを代わりに使用する必要があります。

Aggr

Aggr() は、指定された軸上で計算された数式の値の配列を返します。たとえば、顧客別、地域別 sales の最大値です。

Aggr 関数は、ネストされた集計に使用されます。この場合、最初のパラメーター(内部集計) は、軸の値ごとに 1 回計算されます。軸は、第 2 パラメータ(および後続のパラメータ) で指定します。

さらに、**Aggr** 関数の結果の配列を、ネストされる集計への入力として使用し、外部の集計関数で **Aggr** 関数を囲みます。

構文:

```
Aggr({SetExpression}[DISTINCT] [NODISTINCT ] expr, StructuredParameter{, StructuredParameter})
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

- `expr`: 集計関数で構成される数式。デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。
- `StructuredParameter`:StructuredParameter は、軸と、オプションのソート基準から構成され、次の形式を持ちます:`(Dimension(Sort-type, Ordering))` 軸は単一項目で、数式ではありません。軸は、Aggr 式の計算対象となる値の配列を決定するために使用されます。
  ソート基準が含まれる場合、Aggr 関数によって作成された値の配列がその軸に対して計算され、ソートされます。これは、Aggr 関数を囲む数式の結果にソート順が影響を及ぼす場合に重要です。ソート基準の使用方法の詳細は、「*構造化されたパラメータにおける軸へのソート基準の追加 (page 1020)*」を参照してください。
- `SetExpression`: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- `DISTINCT`: expression 引数の前に **distinct** 修飾子が配置されている場合、あるいは修飾子がまったく使用されていない場合は、軸の値の組み合わせごとに 1 つの戻り値のみが生成されます。これは正常な集計方法で、これらの異なる組み合わせがそれぞれチャートの 1 行に反映されます。
- `NODISTINCT`: expression 引数の前に **nodistinct** 修飾子が配置されている場合、軸の値の組み合わせは、いずれも基底のデータ構造に基づいて、複数の戻り値を生成する可能性があります。軸が 1 本だけの場合、ソースデータに行が存在するので、**aggr** 関数は要素と同じ数の配列を返します。

Sum、**Min**、**Avg** などの基本的な集計関数では単一の数値が返されますが、Aggr() 関数は一時的に複数の段階的結果 (仮想テーブル) を作成して他の集計結果と比較できます。たとえば、**Aggr()** ステートメントで、顧客による売上の集計から平均の売上を計算し、合計された結果の平均を計算します。**Avg(TOTAL Aggr (Sum(Sales), Customer))**。



複数のレベルでネストされたチャート集計を作成する場合、計算軸で Aggr() 関数を使用してください。

制限事項:

Aggr() 関数の各軸は単一の項目でなければならず、数式 (計算軸) にすることはできません。

構造化されたパラメータにおける軸へのソート基準の追加

基本的な形式では、Aggr 関数の構文における引数 StructuredParameter は 1 軸です。数式: Aggr(Sum (Sales, Month)) を使用すると、各月の売上の合計値が求まります。ただし、別の集計関数に囲まれている場合、ソート基準を使用しないと予期に反する結果になることがあります。これは、軸によっては数値としてもアルファベット順でもソートできるためです。

Aggr 関数の StructuredParameter 引数では、数式において軸のソート基準を指定できます。こうすると、Aggr 関数によって作成された仮想テーブルに対してソート順を強制適用できます。

引数 StructuredParameter の構文は次のとおりです。

```
(FieldName, (Sort-type, Ordering))
```

構造化されたパラメータは、次のようにネストできます。

```
(FieldName, (FieldName2, (Sort-type, Ordering)))
```

可能なソートタイプは、NUMERIC、TEXT、FREQUENCY、または LOAD_ORDER です。

各ソートタイプに関連付けられた順序タイプは次のとおりです。

ソート順序タイプ

ソートタイプ	使用可能な順序タイプ
NUMERIC	ASCENDING、DESCENDING、または REVERSE
TEXT	ASCENDING、A2Z、DESCENDING、REVERSE、または Z2A
FREQUENCY	DESCENDING、REVERSE、または ASCENDING
LOAD_ORDER	ASCENDING、ORIGINAL、DESCENDING、または REVERSE

順序タイプの REVERSE と DESCENDING は同じです。

ソートタイプ TEXT では、順序タイプ ASCENDING と A2Z が同じ、DESCENDING、REVERSE と Z2A が同じです。

ソートタイプ LOAD_ORDER では、順序タイプ ASCENDING と ORIGINAL が同じです。

例

Example 1:

```
Avg(Aggr(Sum(UnitSales*UnitPrice), Customer))
```

数式 `Aggr(Sum(UnitSales*UnitPrice), Customer)` は、**Customer** による売上の合計値を求め、3 つの **Customer** 値の配列: 295、715、120 を返します。

事実上、値を含む明示的なテーブルや列を作成する必要なく、値の一時リストを作成できました。これらの値は **Avg()** 関数への入力として使用され、売上の平均値「376.6667」を算出します(プロパティパネルで、**Presentation** の下の **[合計]** を選択しておく必要があります)。

Example 2:

```
Aggr(NODISTINCT Max(UnitPrice), Customer)
```

値の配列: 16、16、16、25、25、25、19 および 19。**nodistinct** 修飾子は、配列がソースデータ1 行に 1 つの要素が含まれることを意味します: それぞれが、各 **Customer** および **Product** に対する最大 **UnitPrice** です。

Example 3:

```
max(aggr(sum(Customers)-above(Sum(Customers)), (MonthYear,(NUMERIC, ASCENDING))))
```

数式の `StructuredParameter` 引数におけるソート基準の使用。`max(aggr(sum(Customers)-above(Sum(Customers)), (MonthYear,(NUMERIC, ASCENDING))))`

ソート基準がない場合、数式 `max(aggr(sum(Customers)-above(Sum(Customers)), (MonthYear)))` の結果は、軸 MonthYear のソート方式によって異なります。必要な結果を得られないことがあります。ソートタイプおよび順序タイプに値を追加すると、構造化パラメータ `(MonthYear, (NUMERIC, ASCENDING))` にソート基準が与えられます。ここで、MonthYear は、ソートタイプ NUMERIC および順序 ASCENDING により、数値の昇順でソートするように指定されています。

ここでは、顧客数が最も増えた月を求めようとしています。これは、たとえば KPI のビジュアライゼーションで使用できます。

数式の Aggr の部分は、ある月の顧客総数 (MonthYear で与えられる) を、前月の総数と比較します。軸 (MonthYear,(NUMERIC, ASCENDING)) のソート基準を使用するので、月をアルファベットの昇順でなく、数値の昇順でソートすることにより、Aggr が、仮想テーブルで連続する月の顧客数を比較することが保証されます。

例で使用されているデータ:

Customer、**Product**、**UnitPrice**、**UnitSales** を軸としたテーブルを作成します。数式をメジャーとしてテーブルに追加します。

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD|25|25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

基本集計関数

基本的な集計関数の概要

基本的な集計関数は、最も一般的な集計関数のグループです。

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ロードスクリプトの基本的な集計関数

FirstSortedValue

保存された値は、**group by** 条件で定義されたレコードの数だけ反復処理されます。**group by** 条件が定義されていない場合は、すべてのデータセットから集計されます。

```
FirstSortedValue ([ distinct ] expression , sort-weight [, n ])
```

Max

Max() は、**group by** 句で定義された数式の集計データの最大値を算出します。**rank** n を指定することで、n 番目に高い値を探し出すことができます。

```
Max ( expression[, rank])
```

Min

Min() は、**group by** 句で定義された数式の集計データの最小値を算出します。**rank** n を指定することで、n 番目に低い値を探し出すことができます。

```
Min ( expression[, rank])
```

Mode

Mode() は、**group by** 句で定義された数式の集計データで最も頻繁に登場する値 (モード値) を返します。**Mode()** 関数は数値だけでなく、テキスト値を返すこともあります。

```
Mode (expression )
```

Only

Only() は、集計データに結果が 1 つしか存在しない場合に値を返します。各グループの結果内に含まれるレコードが、group by 節での定義に従い 1 つの値しか含んでいない場合、その値が返されます。そうでない場合は NULL が返されます

```
Only (expression )
```

Sum

Sum() は、**group by** 句で定義された数式の集計値の合計を計算します。

```
Sum ([distinct]expression)
```

チャート式の基本的な集計関数

チャート集計関数は、チャートの数式に含まれる項目にのみ使用できます。1 つの集計関数の引数式に、別の集計関数を含めることはできません。

FirstSortedValue

FirstSortedValue() では、**value** で指定された項目の中で **sort_weight** 引数のソート結果に対応する値が返されます。**rank** を指定している場合は、それも考慮されます。指定された **sort_weight** で複数の値が同じ **rank** を共有している場合、この関数は **NULL** を返します。

```
FirstSortedValue() では、value で指定された項目の中で sort_weight 引数のソート結果に対応する値が返されます。rank を指定している場合は、それも考慮されます。指定された sort_weight で複数の値が同じ rank を共有している場合、この関数は NULL を返します。([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] value, sort_weight [,rank])
```

Max

Max() は集計データの最高値を検出します。**rank** n を指定することで、n 番目に高い値を探し出すことができます。

MaxMax() は集計データの最高値を検出します。rank n を指定することで、n 番目に高い値を探し出すことができます。 FirstSortedValue および rangemax 関数は、Max 関数と機能がよく似ています。必要に応じて、これらの解説も参照してください。 Max([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr [,rank])数値 expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。rank: rank のデフォルト値は 1 で、これは最大値に相当します。rank を 2 に指定すると、2 番目に高い値が返されます。rank を 3 に指定すると 3 番目に高い値が返され、以下同様に指定した順位に相当する値が返されます。SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコード セットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコード セットを定義することも可能です。 TOTAL: 関数の引数の前に TOTAL の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。 TOTAL 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。 例と結果例結果Max(UnitSales)10 (UnitSales の最大値)注文の値は、(UnitSales) で販売された個数に単価を乗じて計算されます。Max(UnitSales*UnitPrice)150 ((UnitSales)*(UnitPrice) で算出されるあらゆる計算結果の最大値)Max(UnitSales, 2)9 (2 番目に大きい値)Max(TOTAL UnitSales)10 (TOTAL 修飾子は、最大値が特定され、チャート軸が無視されたことを意味するため)Customer が軸に設定されているチャートで TOTAL 修飾子を使用すると、各顧客の最大 UnitSales ではなく、全データセットにおける最大値が返されます。 Customer B を選択します。Max({1} TOTAL UnitSales)10 (選択に関係なく、Set Analysis の数式 {1} では ALL として評価されるレコード セットが定義されるため)例で使用されているデータ:ProductData:LOAD * inline [Customer|Product|UnitSales|UnitPriceAstrida|AA|4|16Astrida|AA|10|15Astrida|BB|9|9Betacab|BB|5|10Betacab|CC|2|20Betacab|DD||25Canutility|AA|8|15Canutility|CC||19] (delimiter is '|'); テーブル形式のデータ例 CustomerProductUnitSalesUnitPrice AstridaAA416AstridaAA1015AstridaBB99BetacabBB510BetacabCC220BetacabDD-25CanutilityAA815CanutilityCC-19([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr [,rank])

Min

Min() は、集計データの最低数値を検出します。**rank** n を指定することで、n 番目に低い値を探し出すことができます。

Min() は、集計データの最低数値を検出します。rank n を指定することで、n 番目に低い値を探し出すことができます。 ([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr [,rank])

Mode

Mode() は、集計データで最も頻繁に登場する値 (モード値) を返します。**Mode()** 関数は、テキスト値と同様に数値も処理できます。

***Mode - チャート関数*({[SetExpression] [TOTAL [<fld {,fld}>]]} expr)**

Only

Only() は、集計データに結果が 1 つしか存在しない場合に値を返します。例えば、単価 = 9 の製品を検索した場合、単価が 9 の製品が複数あると、NULL が返されます。

```
Only ([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

Sum

Sum() は、集計データ全体の数式や項目による値の合計を計算します。

```
Sum- チャート関数([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr])
```

FirstSortedValue

FirstSortedValue() では、**value** で指定された項目の中で **sort_weight** 引数のソート結果に対応する値が返されます。**rank** を指定している場合は、それも考慮されます。指定された **sort_weight** で複数の値が同じ **rank** を共有している場合、この関数は **NULL** を返します。

保存された値は、**group by** 条件で定義されたレコードの数だけ反復処理されます。**group by** 条件が定義されていない場合は、すべてのデータセットから集計されます。

構文:

```
FirstSortedValue ([ distinct ] value, sort-weight [, rank ])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

FirstSortedValue 引数

引数	説明
value Expression	この関数は、数式 **value** の値を特定します。これは **sort_weight** のソート結果に対応します。
sort-weight Expression	ソート対象となるデータが含まれている数式です。**sort_weight** の最初の値 (最小値) が返され、そこから **value** 数式の対応する値が特定されます。**sort_weight** の前にマイナス記号を付けると、最後にソートされた値 (最大値) が返されます。
rank Expression	**rank** "n" に 1 よりも大きな値を入力するとで、n 番目のソート値を取得できます。
distinct	関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

Example 1:

```
Temp:

LOAD * inline [
```

```
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID
Astrida|AA|1|10|1
Astrida|AA|7|18|1
Astrida|BB|4|9|1
Astrida|CC|6|2|1
Betacab|AA|5|4|2
Betacab|BB|2|5|2
Betacab|DD|12|25|2
Canutility|AA|3|8|3
Canutility|CC|13|19|3
Divadip|AA|9|16|4
Divadip|AA|10|16|4
Divadip|DD|11|10|4
] (delimiter is '|');

FirstSortedValue:
LOAD Customer,FirstSortedValue(Product, UnitSales) as MyProductWithSmallestOrderByCustomer
Resident Temp Group By Customer;
```

例 1 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyProductWithSmallestOrderByCustomer)
Astrida	CC
Betacab	AA
Canutility	AA
Divadip	DD

この関数は UnitSales を最小値から最大値の順にソートし、Customer の値のうち UnitSales の最小値を持つものを、最小値から順に検索します。

これは、CC が customer Astrida の最小の注文 (値は UnitSales: 2) に対応するためです。AA は customer Betacab の最小注文 (4)、AA は customer Canutility の最小注文 (8)、DD は customer Divadip の最小注文 (10) に対応します。

Example 2:

Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合:

```
LOAD Customer,FirstSortedValue(Product, -UnitSales) as MyProductWithLargestOrderByCustomer
Resident Temp Group By Customer;
```

例 2 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyProductWithLargestOrderByCustomer)
Astrida	AA
Betacab	DD
Canutility	CC
Divadip	-

sort_weight 引数の前にマイナス記号を付けると、最大値から順にソートされます。

AA は customer Astrida の最大の注文 (値は UnitSales:18)、DD は customer Betacab の最大の注文 (12)、CC は customer Canutility の最大の注文 (13) に対応します。customer Divadip の最大の注文は 2 つの同じ値 (16) を持つため、結果は NULL となります。

Example 3:

Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合:

```
LOAD Customer,FirstSortedValue(distinct Product, -UnitSales) as
MyProductWithSmallestOrderByCustomer Resident Temp Group By Customer;
```

例 3 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyProductWithLargestOrderByCustomer)
Astrida	AA
Betacab	DD
Canutility	CC
Divadip	AA

distinct 修飾子が使用されている点を除くと、前の例と同じ結果になります。この場合は Divadip の結果が重複して無視され、NULL 以外の値を返すことができるようになります。

FirstSortedValue

FirstSortedValue() では、**value** で指定された項目の中で **sort_weight** 引数のソート結果に対応する値が返されます。**rank** を指定している場合は、それも考慮されます。指定された **sort_weight** で複数の値が同じ **rank** を共有している場合、この関数は **NULL** を返します。

構文:

```
FirstSortedValue([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] value,
sort_weight [,rank])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

- `value`: 出力フィールド。この関数は、数式 **value** の値を特定します。これは **sort_weight** のソート結果に対応します。
- `sort_weight`: 入力フィールド。ソート対象となるデータが含まれている数式です。**sort_weight** の最初の値 (最小値) が返され、そこから **value** 数式の対応する値が特定されます。**sort_weight** の前にマイナス記号を付けると、最後にソートされた値 (最大値) が返されます。
- `rank`: **rank** "n" に 1 よりも大きな値を入力するとで、n 番目のソート値を取得できます。
- `SetExpression`: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。

- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
`firstsortedvalue (Product, UnitPrice)`	BB (最小 `UnitPrice` (9) の `Product`)。
`firstsortedvalue (Product, UnitPrice, 2)`	BB (`UnitPrice` (10) が 2 番目に低い `Product`)。
`firstsortedvalue (Customer, -UnitPrice, 2)`	Betacab (`UnitPrice` (20) が 2 番目に高い `Product` に関連付けられている `Customer`)。
`firstsortedvalue (Customer, UnitPrice, 3)`	NULL (`UnitPrice` (15) の rank が同じ (最下位から 3 番目) `Customer` の値が 2 つ (Astrida と Canutility) あるため)。 予期しない NULL が返ってこないよう、distinct 修飾子を使います。
`firstsortedvalue (Customer, -UnitPrice*UnitSales, 2)`	Canutility (`UnitPrice` と `UnitSales` (120) を掛けた販売注文値が 2 番目に高い `Customer`)。

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD||25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Astrida	AA	4	16
Astrida	AA	10	15
Astrida	BB	9	9

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Betacab	BB	5	10
Betacab	CC	2	20
Betacab	DD	-	25
Canutility	AA	8	15
Canutility	CC	-	19

Max

Max() は、**group by** 句で定義された数式の集計データの最大値を算出します。**rank** n を指定することで、n 番目に高い値を探し出すことができます。

構文:

```
Max ( expr [, rank])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Max 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
rank Expression	**rank** のデフォルト値は 1 で、これは最大値に相当します。**rank** を 2 に指定すると、2 番目に高い値が返されます。**rank** を 3 に指定すると 3 番目に高い値が返され、以下同様に指定した順位に相当する値が返されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

Example 1:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID
Astrida|AA|1|10|1
Astrida|AA|7|18|1
Astrida|BB|4|9|1
Astrida|CC|6|2|1
Betacab|AA|5|4|2
Betacab|BB|2|5|2
Betacab|DD
Canutility|DD|3|8
Canutility|CC
] (delimiter is '|');

Max:
```

```
LOAD Customer, Max(UnitSales) as MyMax Resident Temp Group By Customer;
```

例 1 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyMax)
Astrida	18
Betacab	5
Canutility	8

Example 2:

Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合:

```
LOAD Customer, Max(UnitSales,2) as MyMaxRank2 Resident Temp Group By Customer;
```

例 2 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyMaxRank2)
Astrida	10
Betacab	4
Canutility	-

Max

Max() は集計データの最高値を検出します。**rank** n を指定することで、n 番目に高い値を探し出すことができます。



***FirstSortedValue** および **rangemax** 関数は、**Max** 関数と機能がよく似ています。必要に応じて、これらの解説も参照してください。*

構文:

```
Max([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr [,rank])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- `expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `rank`: **rank** のデフォルト値は 1 で、これは最大値に相当します。**rank** を 2 に指定すると、2 番目に高い値が返されます。**rank** を 3 に指定すると3 番目に高い値が返され、以下同様に指定した順位に相当する値が返されます。
- `SetExpression`: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- `TOTAL`: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
Max(UnitSales)	10 (UnitSales の最大値)
注文の値は、(UnitSales) で販売された個数に単価を乗じて計算されます。 Max (UnitSales*UnitPrice)	150 ((UnitSales)*(UnitPrice) で算出されるあらゆる計算結果の最大値)
Max(UnitSales, 2)	9 (2 番目に大きい値)
Max(TOTAL UnitSales)	10 (TOTAL 修飾子は、最大値が特定され、チャート軸が無視されたことを意味するため)Customer が軸に設定されているチャートで TOTAL 修飾子を使用すると、各顧客の最大 UnitSales ではなく、全データセットにおける最大値が返されます。
Customer B を選択します。 Max({1} TOTAL UnitSales)	10 (選択に関係なく、Set Analysis の数式 {1} では ALL として評価されるレコードセットが定義されるため)

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD||25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Astrida	AA	4	16
Astrida	AA	10	15
Astrida	BB	9	9
Betacab	BB	5	10

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Betacab	CC	2	20
Betacab	DD	-	25
Canutility	AA	8	15
Canutility	CC	-	19

Min

Min() は、**group by** 句で定義された数式の集計データの最小値を算出します。**rank** n を指定することで、n 番目に低い値を探し出すことができます。

構文:

```
Min ( expr [, rank])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
rank Expression	**rank** のデフォルト値は 1 で、これは最小値に相当します。**rank** を 2 と指定すると、2 番目に低い値が返されます。**rank** が 3 のときは、3 番目に低い値が返され、以下同様に値が返されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

Example 1:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID
Astrida|AA|1|10|1
Astrida|AA|7|18|1
Astrida|BB|4|9|1
Astrida|CC|6|2|1
Betacab|AA|5|4|2
Betacab|BB|2|5|2
Betacab|DD
Canutility|DD|3|8
Canutility|CC
] (delimiter is '|');

Min:
LOAD Customer, Min(UnitSales) as MyMin Resident Temp Group By Customer;
```

例 1 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyMin)
Astrida	2
Betacab	4
Canutility	8

Example 2:

Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合:

```
LOAD Customer, Min(UnitSales,2) as MyMinRank2 Resident Temp Group By Customer;
```

例 2 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyMinRank2)
Astrida	9
Betacab	5
Canutility	-

Min

Min() は、集計データの最低数値を検出します。**rank** n を指定することで、n 番目に低い値を探し出すことができます。



FirstSortedValue および rangemin 関数は、Min 関数と機能がよく似ています。必要に応じて、これらの解説も参照してください。

構文:

```
Min([{SetExpression}] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr [,rank])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- rank: **rank** のデフォルト値は 1 で、これは最大値に相当します。**rank** を 2 に指定すると、2 番目に高い値が返されます。**rank** を 3 に指定すると3 番目に高い値が返され、以下同様に指定した順位に相当する値が返されます。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

Min() 関数は、数式で与えられた値の配列から NULL 以外の値を返します。この例では、データに NULL 値があるため、数式で評価されている NULL 以外の最初の値が返されます。

例と結果

例	結果
`Min(UnitSales)`	2 (NULL 以外で最小の `UnitSales` の値)
注文の値は、(`UnitSales`) で販売された個数に単価を乗じて計算されます。 `Min (UnitSales*UnitPrice)`	40 (NULL 以外の最小値。((`UnitSales`)*(`UnitPrice`) で算出)
`Min(UnitSales, 2)`	4 (NULL 値の後に続く2 番目に低い値)
`Min(TOTAL UnitSales)`	2 (TOTAL 修飾子は、最小値が特定され、チャート軸が無視されたことを意味するため)Customer が軸に設定されているチャートで TOTAL 修飾子を使用すると、各顧客の最小 UnitSales ではなく、全データセットにおける最小値が返されます。
Customer B を選択します。 `Min({1} TOTAL UnitSales)`	2 (選択に関係なく、Set Analysis の数式 {1} では ALL として評価されるレコードセットが定義されるため)

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD||25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Astrida	AA	4	16

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Astrida	AA	10	15
Astrida	BB	9	9
Betacab	BB	5	10
Betacab	CC	2	20
Betacab	DD	-	25
Canutility	AA	8	15
Canutility	CC	-	19

Mode

Mode() は、**group by** 句で定義された数式の集計データで最も頻繁に登場する値 (モード値) を返します。**Mode()** 関数は数値だけでなく、テキスト値を返すこともあります。

構文:

```
Mode ( expr )
```

戻り値データ型: デュアル

Mode 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

制限事項:

複数の値が同じ頻度で現れる場合は、NULL が返されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID
Astrida|AA|1|10|1
Astrida|AA|7|18|1
Astrida|BB|4|9|1
Astrida|CC|6|2|1
Betacab|AA|5|4|2
Betacab|BB|2|5|2
Betacab|DD
Canutility|DD|3|8
Canutility|CC
] (delimiter is '|');

Mode:
LOAD Customer, Mode(Product) as MyMostOftenSoldProduct Resident Temp Group By Customer;
```

例 1 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyMostOftenSoldProduct)
Astrida	AA
Betacab	-
Canutility	-

Mode - チャート関数

Mode() は、集計データで最も頻繁に登場する値 (モード値) を返します。**Mode()** 関数は、テキスト値と同様に数値も処理できます。

構文:

```
Mode([{SetExpression}] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
Mode(UnitPrice) Customer A を選択します。	15 (UnitSales で最も一般的に発生する値) NULL (-) を返します。単一の値が他の値よりも頻繁に生じることはありません。
Mode(Product) Customer A を選択します。	AA (Product で最も一般的に生じる値) NULL (-) を返します。単一の値が他の値よりも頻繁に生じることはありません。
Mode(TOTAL UnitPrice)	15 (TOTAL 修飾子は、最も一般的に生じる値が 15 で、チャート軸も無視されることを意味するため)
Customer B を選択します。 Mode){1} TOTAL UnitPrice)	15 (選択に関係なく、Set Analysis の数式 {1} では ALL として評価されるレコードセットが定義されるため)

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD||25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Astrida	AA	4	16
Astrida	AA	10	15
Astrida	BB	9	9
Betacab	BB	5	10
Betacab	CC	2	20
Betacab	DD	-	25
Canutility	AA	8	15
Canutility	CC	-	19

Only

Only() は、集計データに結果が 1 つしか存在しない場合に値を返します。各グループの結果内に含まれるレコードが、group by 節での定義に従い 1 つの値しか含んでいない場合、その値が返されます。そうでない場合は NULL が返されます

構文:

```
Only ( expr )
```

戻り値データ型: デュアル

Only 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Temp:
LOAD * inline [
```

```
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID
Astrida|AA|1|10|1
Astrida|AA|7|18|1
Astrida|BB|4|9|1
Astrida|CC|6|2|1
Betacab|AA|5|4|2
Betacab|BB|2|5|2
Betacab|DD
Canutility|DD|3|8
Canutility|CC
] (delimiter is '|');

Only:
LOAD Customer, Only(CustomerID) as MyUniqIDCheck Resident Temp Group By Customer;
```

例 1 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MyUniqIDCheck)
Astrida	1 (顧客 Astrida のみが CustomerID を含んだ包括的レコードを持っているためです。)

Only

Only() は、集計データに結果が 1 つしか存在しない場合に値を返します。例えば、単価 = 9 の製品を検索した場合、単価が 9 の製品が複数あると、NULL が返されます。

構文:

```
Only([{SetExpression}] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

- `expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `SetExpression`: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- `TOTAL`: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

Only() は、サンプルデータに可能な値が複数存在する場合に NULL を返すよう設定するために使用します。

例と結果

例	結果
Only({<UnitPrice={9}>} Product)	BB (Product の中で「9」というUnitPrice がある唯一の項目)
Only({<Product={DD}>} Customer)	Betacab (「DD」というProduct を販売している唯一の Customer)
Only({<UnitPrice={20}>} UnitSales)	UnitSales の数。UnitSales の値は 1 つしかないため、UnitPrice が 20 の場合は 2 になる((UnitPrice) =20)
Only({<UnitPrice={15}>} UnitSales)	NULL (UnitPrice = 15 の UnitSales 値が 2 つあるため)

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD||25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Astrida	AA	4	16
Astrida	AA	10	15
Astrida	BB	9	9
Betacab	BB	5	10
Betacab	CC	2	20
Betacab	DD	-	25
Canutility	AA	8	15
Canutility	CC	-	19

Sum

Sum() は、**group by** 句で定義された数式の集計値の合計を計算します。

構文:

```
sum ( [ distinct] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Sum 引数

引数	説明
distinct	数式の前に **distinct** がある場合、重複はすべて無視されます。
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID
Astrida|AA|1|10|1
Astrida|AA|7|18|1
Astrida|BB|4|9|1
Astrida|CC|6|2|1
Betacab|AA|5|4|2
Betacab|BB|2|5|2
Betacab|DD
Canutility|DD|3|8
Canutility|CC
] (delimiter is '|');

Sum:
LOAD Customer, Sum(UnitSales) as MySum Resident Temp Group By Customer;
```

例 1 の結果

結果項目 (Customer)	結果の値 (MySum)
Astrida	39
Betacab	9
Canutility	8

Sum- チャート関数

Sum() は、集計データ全体の数式や項目による値の合計を計算します。

```
Sum([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 数値

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。

  > *DISTINCT 修飾子はサポート対象ですが、一部のデータが省略されていても総額が表示されていると誤解を招く可能性があるため、使用する場合は細心の注意が必要です。*

- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
Sum(UnitSales)	38(UnitSales の値の合計)
Sum (UnitSales*UnitPrice)	505。(UnitPrice に UnitSales の集計値を乗じた合計)
Sum(TOTAL UnitSales*UnitPrice)	TOTAL 修飾子はチャート軸に関わらず、合計が 505 であることを意味するため、テーブルのすべての行と合計が 505 になります。
Customer B を選択します。 Sum({1} TOTAL UnitSales*UnitPrice)	505 (選択に関係なく、Set Analysis の数式 {1} では ALL として評価されるレコードセットが定義されるため)

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD||25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	UnitSales	UnitPrice
Astrida	AA	4	16
Astrida	AA	10	15
Astrida	BB	9	9
Betacab	BB	5	10
Betacab	CC	2	20
Betacab	DD	-	25
Canutility	AA	8	15
Canutility	CC	-	19

カウンタ集計関数

カウンタ集計関数は、ロードスクリプトに含まれる多数のレコード、またはチャート軸の多数の値の数式について、多様なカウントタイプを返します。

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ロードスクリプトのカウンタ集計関数

Count

Count() は、**group by** 句で定義された数式で集計される値の数を返します。

```
Count ([ distinct ] expression)
```

MissingCount

MissingCount() は、**group by** 句で定義された数式で集計される欠損値の数を返します。

```
MissingCount ([ distinct ] expression)
```

NullCount

NullCount() は、**group by** 句で定義された数式で集計されるNULL値の数を返します。

```
NullCount ([ distinct ] expression)
```

NumericCount

NumericCount() は、**group by** 句で定義された数式で見つかる数値の数を返します。

```
NumericCount ([ distinct ] expression)
```

TextCount

TextCount() は、**group by** 句で定義された数式で集計される数値以外の項目値の数を返します。

```
TextCount ([ distinct ] expression)
```

チャート式のカウンタ集計関数

チャートで使用可能なカウンタ集計関数は、次のとおりです。

Count

Count() は、各チャート軸に含まれる値、テキスト、数値の数の集計に使われます。

```
Count() は、各チャート軸に含まれる値、テキスト、数値の数の集計に使われます。
([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

MissingCount

MissingCount() は、各チャート軸の欠損値の数の集計に使われます。欠損値は、いずれも数値ではありません。

```
MissingCount() は、各チャート軸の欠損値の数の集計に使われます。欠損値は、いずれも数値ではありません。([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

NullCount

NullCount() は、各チャート軸の NULL 値の数の集計に使われます。

```
NullCount() は、各チャート軸の NULL 値の数の集計に使われます。 ([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

NumericCount

NumericCount() は、各チャート軸に含まれる数値の数を集計します。

```
NumericCount() は、各チャート軸に含まれる数値の数を集計します。 ([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

TextCount

TextCount() は、各チャート軸に含まれる数値以外の項目値の数の集計に使われます。

```
TextCount - チャート関数([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

Count

Count() は、**group by** 句で定義された数式で集計される値の数を返します。

```
Count( [ distinct ] expr)
```

戻り値データ型： 整数

引数のカウント

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** という用語が付いている場合、重複はすべて無視されます。

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Temp: LOAD * inline [Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice Astrida|AA|1|4|16 Astrida|AA|7|10|15 Astrida|BB|4|9|9 Betacab|CC|6|5|10 Betacab|AA|5|2|20 Betacab|BB|1|25| 25 Canutility|AA|3|8|15 Canutility|CC|||19 Divadip|CC|2|4|16 Divadip|DD|3|1|25] (delimiter is '|'); Count1: LOAD Customer,Count(OrderNumber) as OrdersByCustomer Resident Temp Group By Customer;	Customer OrdersByCustomer Astrida 3 Betacab 3 Canutility 2 Divadip 2 軸 Customer がシートのテーブルに含まれている限り、OrdersByCustomer の結果は 3, 2 です。
Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合: LOAD Count(OrderNumber) as TotalOrderNumber Resident Temp;	TotalOrderNumber 10
Temp テーブルが最初の例のようにロードされた場合: LOAD Count(distinct OrderNumber) as TotalOrderNumber Resident Temp;	TotalOrderNumber 8 OrderNumber の 2 つの値は同一の値であるため、1、および null 値が 1 つになります。

Count

Count() は、各チャート軸に含まれる値、テキスト、数値の数の集計に使われます。

```
Count([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 整数

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

以下の例では、別途記載されていない限り、すべての顧客が選択されているものとします。

例と結果

例	結果
`Count(OrderNumber)`	10 (OrderNumber の値を持つことができる項目が 10 個あり、空のレコードを含むすべてのレコードがカウントされるため) *「0」は値と見なされ、空白のセルとはなりません。ただし、メジャーの軸に対する集計結果が 0 の場合、この軸はチャートには含まれません。*
`Count (Customer)`	10 (Count では、あらゆる項目の発生回数が評価されるため)
`Count (DISTINCT [Customer])`	4 (Distinct 修飾子を使用すると、Count では固有の発生のみが評価されるため)
顧客 Canutility が選択されている場合 `Count (OrderNumber)/Count ({1} TOTAL OrderNumber`	0.2 (この数式では、選択した顧客の注文数が全顧客の注文の割合として返されるため。この場合は、2 / 10)
顧客 Astrida と Canutility が選択されている場合 `Count(TOTAL <Product> OrderNumber)`	5 (選択した顧客の製品注文数であり、空のセルがカウントされるため)

例で使用されているデータ:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|1|4|16
Astrida|AA|7|10|15
Astrida|BB|4|9|9
Betacab|CC|6|5|10
Betacab|AA|5|2|20
Betacab|BB|1|25| 25
Canutility|AA|3|8|15
Canutility|CC|||19
Divadip|CC|2|4|16
Divadip|DD|3|1|25
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	OrderNumber	UnitSales	Unit Price
Astrida	AA	1	4	16
Astrida	AA	7	10	15
Astrida	BB	4	9	9

Customer	Product	OrderNumber	UnitSales	Unit Price
Betacab	BB	6	5	10
Betacab	CC	5	2	20
Betacab	DD	1	25	25
Canutility	AA	3	8	15
Canutility	CC	-	-	19
Divadip	AA	2	4	16
Divadip	DD	3	-	25

MissingCount

MissingCount() は、**group by** 句で定義された数式で集計される欠損値の数を返します。

```
MissingCount ( [ distinct ] expr)
```

戻り値データ型： 整数

MissingCount の引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** という用語が付いている場合、重複はすべて無視されます。

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Temp: LOAD * inline [Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice Astrida|AA|1|4|16 Astrida|AA|7|10|15 Astrida|BB|4|9|9 Betacab|CC|6|5|10 Betacab|AA|5|2|20 Betacab|BB||| 25 Canutility|AA|||15 Canutility|CC| ||19 Divadip|CC|2|4|16 Divadip|DD|3|1|25] (delimiter is '|'); MissCount1: LOAD Customer,MissingCount(OrderNumber) as MissingOrdersByCustomer Resident Temp Group By Customer; Load MissingCount(OrderNumber) as TotalMissingCount Resident Temp;	Customer MissingOrdersByCustomer Astrida 0 Betacab 1 Canutility 2 Divadip 0 2 番目のステートメントの結果: TotalMissingCount 3 この軸を有するテーブル。
Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合: LOAD MissingCount(distinct OrderNumber) as TotalMissingCountDistinct Resident Temp;	TotalMissingCountDistinct 1 OrderNumber 欠損値が 1 つのみのことが理由。

MissingCount

MissingCount() は、各チャート軸の欠損値の数の集計に使われます。欠損値は、いずれも数値ではありません。

構文:

MissingCount([{SetExpression}] [**DISTINCT**] [**TOTAL** [<fld {,fld}>]] expr**)**

戻り値データ型: 整数

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
`MissingCount([OrderNumber])`	3 (10 個の OrderNumber 項目のうち、空白になっているものが 3 つあるため)。 *「0」は値と見なされ、空白のセルとはなりません。ただし、メジャーの軸に対する集計結果が 0 の場合、この軸はチャートには含まれません。*
`MissingCount ([OrderNumber])/MissingCount ({1} Total [OrderNumber])`	この数式では、選択した顧客の未完了注文数が全顧客の未完了注文数の割合として返されます。全顧客の OrderNumber のうち、合計 3 つの欠損値があるため、Product の欠損値を持つ各 Customer については、1/3 が返されます。

例で使用されているデータ:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|1|4|16
Astrida|AA|7|10|15
Astrida|BB|4|9|9
Betacab|CC|6|5|10
Betacab|AA|5|2|20
Betacab|BB|1|25| 25
Canutility|AA|3|8|15
Canutility|CC|||19
Divadip|CC|2|4|16
Divadip|DD|3|1|25
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	OrderNumber	UnitSales	Unit Price
Astrida	AA	1	4	16
Astrida	AA	7	10	15
Astrida	BB	4	9	9
Betacab	BB	6	5	10
Betacab	CC	5	2	20
Betacab	DD	1	25	25
Canutility	AA	3	8	15

Customer	Product	OrderNumber	UnitSales	Unit Price
Canutility	CC	-	-	19
Divadip	AA	2	4	16
Divadip	DD	3	-	25

NullCount

NullCount() は、**group by** 句で定義された数式で集計されるNULL値の数を返します。

構文:

```
NullCount ( [ distinct ] expr)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

NullCount引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** という用語が付いている場合、重複はすべて無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Set NULLINTERPRET = NULL; Temp: LOAD * inline [Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID Astrida|AA|1|10|1 Astrida|AA|7|18|1 Astrida|BB|4|9|1 Astrida|CC|6|2|1 Betacab|AA|5|4|2 Betacab|BB|2|5|2 Betacab|DD||| Canutility|AA|3|8| Canutility|CC|NULL||] (delimiter is '|'); Set NULLINTERPRET=; NullCount1: LOAD Customer,NullCount(OrderNumber) as NullOrdersByCustomer Resident Temp Group By Customer; LOAD NullCount(OrderNumber) as TotalNullCount Resident Temp;	Customer NullOrdersByCustomer Astrida 0 Betacab 0 Canutility 1 2番目のステートメントの結果: TotalNullCount 1 その軸を有するテーブルで、null値を含むレコードは1つだけです。

NullCount

NullCount() は、各チャート軸の NULL 値の数の集計に使われます。

構文:

```
NullCount([{SetExpression}][DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
NullCount ([OrderNumber])	1 (インライン **LOAD** ステートメントで NullInterpret を使用して Null 値を導入しているため)

例で使用されているデータ:

```
Set NULLINTERPRET = NULL;
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|CustomerID
Astrida|AA|1|10|1
Astrida|AA|7|18|1
Astrida|BB|4|9|1
Astrida|CC|6|2|1
Betacab|AA|5|4|2
Betacab|BB|2|5|2
Betacab|DD|||
Canutility|AA|3|8|
Canutility|CC|NULL||
] (delimiter is '|');
Set NULLINTERPRET=;
```

NumericCount

NumericCount() は、**group by** 句で定義された数式で見つかる数値の数を返します。

構文:

```
NumericCount ( [ distinct ] expr)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

NumericCount 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** という用語が付いている場合、重複はすべて無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

Example 1:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|1|4|16
Astrida|AA|7|10|15
Astrida|BB|4|9|9
Betacab|CC|6|5|10
Betacab|AA|5|2|20
Betacab|BB||| 25
Canutility|AA|||15
Canutility|CC| ||19
Divadip|CC|2|4|16
Divadip|DD|7|1|25
] (delimiter is '|');
NumCount1:
LOAD Customer,NumericCount(OrderNumber) as NumericCountByCustomer Resident Temp Group By
Customer;
```

例 1 の結果

Customer	NumericCountByCustomer
Astrida	3
Betacab	2
Canutility	0
Divadip	2

Example 2:

```
LOAD NumericCount(OrderNumber) as TotalNumericCount Resident Temp;
```

2 番目のステートメントの結果:
TotalNumericCount
7

Example 3:

Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合:

```
LOAD NumericCount(distinct OrderNumber) as TotalNumericCountDistinct Resident Temp;
```

TotalNumericCountDistinct
6
別のものと重複している OrderNumber が 1 つあるため、重複を除いた結果は 6 になります。

NumericCount

NumericCount() は、各チャート軸に含まれる数値の数を集計します。

構文:

```
NumericCount([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

以下の例では、別途記載されていない限り、すべての顧客が選択されているものとします。

例と結果

例	結果
NumericCount ([OrderNumber])	7 (10 個の OrderNumber 項目のうち 3 つが空のため)。 *「0」は値と見なされ、空白のセルとはなりません。ただし、メジャーの軸に対する集計結果が 0 の場合、この軸はチャートには含まれません。*

例	結果
NumericCount ([Product])	0 (すべての製品名がテキストのため)。通常、この関数を使用して、テキスト項目に数値が含まれているかチェックできます。
NumericCount (DISTINCT [OrderNumber])/Count (DISTINCT [OrderNumber])	固有の数値注文番号をすべてカウントし、数値と非数値の注文番号の合計数で除算します。項目値がすべて数字の場合は 1 になります。通常、この関数を使用してすべての項目値が数字になっているかチェックできます。この例では、一意の数値および非数値が 8 つあり、OrderNumber に一意の数値が 7 つあるため、0.875 が返されます。

例で使用されているデータ:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|1|4|16
Astrida|AA|7|10|15
Astrida|BB|4|9|9
Betacab|CC|6|5|10
Betacab|AA|5|2|20
Betacab|BB|1|25| 25
Canutility|AA|3|8|15
Canutility|CC|||19
Divadip|CC|2|4|16
Divadip|DD|3|1|25
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	OrderNumber	UnitSales	Unit Price
Astrida	AA	1	4	16
Astrida	AA	7	10	15
Astrida	BB	4	9	9
Betacab	BB	6	5	10
Betacab	CC	5	2	20
Betacab	DD	1	25	25
Canutility	AA	3	8	15
Canutility	CC	-	-	19
Divadip	AA	2	4	16
Divadip	DD	3	-	25

TextCount

TextCount() は、**group by** 句で定義された数式で集計される数値以外の項目値の数を返します。

構文:

```
TextCount ( [ distinct ] expr)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

TextCount 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** という用語が付いている場合、重複はすべて無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

Example 1:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|1|4|16
Astrida|AA|7|10|15
Astrida|BB|4|9|9
Betacab|CC|6|5|10
Betacab|AA|5|2|20
Betacab|BB||| 25
Canutility|AA|||15
Canutility|CC| ||19
Divadip|CC|2|4|16
Divadip|DD|3|1|25
] (delimiter is '|');
TextCount1:
LOAD Customer,TextCount(Product) as ProductTextCount Resident Temp Group By Customer;
```

例 1 の結果

Customer	ProductTextCount
Astrida	3
Betacab	3
Canutility	2
Divadip	2

Example 2:

```
LOAD Customer,TextCount(OrderNumber) as OrderNumberTextCount Resident Temp Group By Customer;
```

例 2 の結果

Customer	OrderNumberTextCount
Astrida	0
Betacab	1
Canutility	2
Divadip	0

TextCount - チャート関数

TextCount() は、各チャート軸に含まれる数値以外の項目値の数の集計に使われます。

構文:

```
TextCount([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld {,fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- `expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `SetExpression`: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- `DISTINCT`: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- `TOTAL`: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
`TextCount ([Product])`	10 (10 個の Product 項目がすべてテキストのため)。 *「0」は値と見なされ、空白のセルとはなりません。ただし、メジャーの軸に対する集計結果が 0 の場合、この軸はチャートには含まれません。*
`TextCount ([OrderNumber])`	3 (空のセルがカウントされるため)。通常、この関数を使用して、数字の項目にテキストが指定されていないか検証します。

例で使用されているデータ:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice
```

```
Astrida|AA|1|4|16
Astrida|AA|7|10|15
Astrida|BB|4|9|9
Betacab|CC|6|5|10
Betacab|AA|5|2|20
Betacab|BB|1|25| 25
Canutility|AA|3|8|15
Canutility|CC|||19
Divadip|CC|2|4|16
Divadip|DD|3|1|25
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Product	OrderNumber	UnitSales	Unit Price
Astrida	AA	1	4	16
Astrida	AA	7	10	15
Astrida	BB	4	9	9
Betacab	BB	6	5	10
Betacab	CC	5	2	20
Betacab	DD	1	25	25
Canutility	AA	3	8	15
Canutility	CC	-	-	19
Divadip	AA	2	4	16
Divadip	DD	3	-	25

財務集計関数

このセクションでは、支払とキャッシュフローに関する財務業務向けの集計関数について説明します。

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ロードスクリプトの財務集計関数

IRR

IRR() は、group by 句で定義されたレコードで反復処理される数式の数で表される一連のキャッシュフローから集計された内部収益率を返します。

```
IRR (expression)
```

XIRR

XIRR() は、group by 句で定義されたレコードで反復処理される **pmt** と **date** のペア数値で表されたキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の集計された内部収益率を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

```
XIRR (pmt, date)
```

NPV

NPV() は、group by 句で定義された複数のレコードで反復処理される **value** の数として表される期間あたりの一定 **discount_rate**、将来の支払い (負の値)、および収入 (正の値) に基づく一連の投資について、集計された正味現在価値を返します。支払いと収入は、各期末に発生すると仮定しています。

```
NPV(discount_rate, value)
```

XNPV

XNPV() は、group by 句で定義されたレコードで反復処理される **pmt** と **date** のペア数値で表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の集計された正味現在価値を返します。レートは、期間あたりの利率です。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

```
XNPV (discount_rate, pmt, date)
```

チャート式の財務集計関数

チャートで使用可能な財務集計関数は、次のとおりです。

IRR

IRR() は、チャート軸に対して反復する **value** による数式の数値で表される一連のキャッシュフローについて、集計された内部収益率を返します。

```
IRR - チャート関数([TOTAL [<fld {,fld}>]] value)
```

NPV

NPV() は、チャート軸に対して反復処理される **value** 内の数として表される期間あたりの **discount_rate**、将来の支払い (負の値)、および収入 (正の値) に基づく投資について、集計された正味現在価値を返します。支払いと収入は、各期末に発生すると仮定しています。

```
NPV() は、チャート軸に対して反復処理される value 内の数として表される期間あたりの discount_rate、将来の支払い (負の値)、および収入 (正の値) に基づく投資について、集計された正味現在価値を返します。支払いと収入は、各期末に発生すると仮定しています。([TOTAL [<fld {,fld}>]] discount_rate, value)
```

XIRR

XIRR() は、チャート軸で反復処理された **pmt** と **date** の数値ペアで表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の内部収益率を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

```
XIRR() は、チャート軸で反復処理された pmt と date の数値ペアで表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の内部収益率を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。([TOTAL [<fld {,fld}>]] pmt, date)
```

XNPV

XNPV() は、チャート軸で反復処理された **pmt** と **date** の数値ペアで表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の正味現在価値を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

```
XNPV() は、チャート軸で反復処理された pmt と date の数値ペアで表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の正味現在価値を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。([TOTAL [<fld{,fld}>]] discount_rate, pmt, date)
```

IRR

IRR() は、group by 句で定義されたレコードで反復処理される数式の数で表される一連のキャッシュフローから集計された内部収益率を返します。

これらのキャッシュフローは、年金のように均等である必要はありませんが、毎月または毎年のように、定期的に発生しなければなりません。内部収益率は、定期的に発生する支払い (負の値) と収入 (正の値) からなる投資の利率です。この関数の計算には、正の値と負の値が少なくともそれぞれ 1 つずつ必要です。

この関数は、内部利益率 (IRR) を計算するためにニュートン法の簡素化されたバージョンを使用します。

構文:

```
IRR(value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

制限事項:

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
] (delimiter is '|');


Cashflow1:

LOAD Year,IRR(Payments) as IRR2013 Resident Cashflow Group By Year;
```

例の結果

年	IRR2013
2013	0.1634

IRR - チャート関数

IRR() は、チャート軸に対して反復する **value** による数式の数値で表される一連のキャッシュフローについて、集計された内部収益率を返します。

これらのキャッシュフローは、年金のように均等である必要はありませんが、毎月または毎年のように、定期的に発生しなければなりません。内部収益率は、定期的に発生する支払い (負の値) と収入 (正の値) からなる投資の利率です。この関数の計算には、正の値と負の値が少なくとも1つずつ必要です。

この関数は、内部利益率 (IRR) を計算するためにニュートン法の簡素化されたバージョンを使用します。

構文:

```
IRR([TOTAL [<fld {,fld}>]] value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。
  TOTAL 修飾子の後には、山括弧で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除き、すべてのチャート軸の変数を無視して計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに1つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての変数を指定すると、ドリルダウンレベルが変更されたときに関数が機能するようになります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

例と結果:

IRR(Payments): **0.1634**。

支払いは定期的に発生するものとします (毎月など)。

> *非定期の支払いの場合は、**XIRR** 関数を参照してください。*

例で使用されているデータ:

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
```

```
] (delimiter is '|');
```

NPV

NPV() は、group by 句で定義された複数のレコードで反復処理される **value** の数として表される期間あたりの一定 **discount_rate**、将来の支払い (負の値)、および収入 (正の値) に基づく一連の投資について、集計された正味現在価値を返します。支払いと収入は、各期末に発生すると仮定しています。

構文:

```
NPV(discount_rate, value)
```

戻り値データ型: 数値結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。

引数:

- discount_rate:**discount_rate** は、一定期間における割引率を表しています。**discount_rate** は定数です。
- value: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

制限事項:

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
] (delimiter is '|');

Cashflow1:
LOAD Year,NPV(0.2, Payments) as NPV1_2013 Resident Cashflow Group By Year;
```

結果の例

年	NPV1_2013
2013	-$540.12

Cashflow テーブルが前の例のようにロードされた場合:

```
LOAD Year,NPV(Discount, Payments) as NPV2_2013 Resident Cashflow Group By Year, Discount;
```

結果の例

年	Discount	NPV2_2013
2013	0.1	-$3456.05
2013	0.2	$5666.67

例	結果項目		結果の値
Cashflow: LOAD 2013 as Year, * inline [Date|Discount|Payments 2013-01-01|0.1|-10000 2013-03-01|0.1|3000 2013-10-30|0.1|4200 2014-02-01|0.2|6800] (delimiter is '|'); Cashflow1: LOAD Year,NPV(0.2, Payments) as NPV1_2013 Resident Cashflow Group By Year;	Year 2013		NPV1_2013 -$540.12
Cashflow テーブルが前の例のようにロードされた場合: LOAD Year,NPV(Discount, Payments) as NPV2_2013 Resident Cashflow Group By Year, Discount;	Year 2013 2013	Discount 0.1 0.2	NPV2_2013 -$3456.05 $5666.67

NPV

NPV() は、チャート軸に対して反復処理される **value** 内の数として表される期間あたりの **discount_rate**、将来の支払い (負の値)、および収入 (正の値) に基づく投資について、集計された正味現在価値を返します。支払いと収入は、各期末に発生すると仮定しています。

構文:

```
NPV([TOTAL [<fld {,fld}>]] discount_rate, value)
```

戻り値データ型: 数値結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。

引数:

- discount_rate: **discount_rate** は、一定期間における割引率を表しています。
- value: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。
  TOTAL 修飾子の後には、山括弧で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。例:`Sum (TOTAL <Quarter> {<Year={2013}, Quarter={'Q2'}>} Amount)` これらの項目名は、チャート軸のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除き、すべてのチャート軸を無視して計算

が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに 1 つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内の軸がすべてリストされている場合、この関数はドリルダウンレベルが変更されても一貫した集計結果を返します。

制限事項:

discount_rate および **value** の内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれる場合を除き、これらに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

例と結果:

NPV(Discount, Payments): **-$540.12**。

例で使用されているデータ:

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
] (delimiter is '|');
```

XIRR

XIRR() は、group by 句で定義されたレコードで反復処理される **pmt** と **date** のペア数値で表されたキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の集計された内部収益率を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

Qlik の XIRR 機能 (**XIRR()** および **RangeXIRR()** 関数) は、次の方程式を使用して Rate 値を解き、正しい XIRR 値を決定します。

```
XNPV(Rate, pmt, date) = 0
```

この方程式は、ニュートン法の簡素化されたバージョンを使用して解かれます。

構文:

```
XIRR(pmt, date )
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- pmt: 支払い。**date** で指定された支払日に対応する数式または項目で、キャッシュフローが含まれます。
- date: **pmt** で指定された支払いキャッシュフローに対応する数式または項目で、支払日が含まれます。

制限事項:

一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、NULL 値、不明な値があると、すべての対となるデータが無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
] (delimiter is '|');


Cashflow1:

LOAD Year,XIRR(Payments, Date) as XIRR2013 Resident Cashflow Group By Year;
```

例の結果

年	XIRR2013
2013	0.5385

XIRR

XIRR() は、チャート軸で反復処理された **pmt** と **date** の数値ペアで表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の内部収益率を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

Qlik の XIRR 機能 (**XIRR()** および **RangeXIRR()** 関数) は、次の方程式を使用して Rate 値を解き、正しい XIRR 値を決定します。

```
XNPV(Rate, pmt, date) = 0
```

この方程式は、ニュートン法の簡素化されたバージョンを使用して解かれます。

構文:

```
XIRR([TOTAL [<fld {,fld}>]] pmt, date)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- pmt: 支払い。**date** で指定された支払日に対応する数式または項目で、キャッシュフローが含まれます。
- date: **pmt** で指定された支払いキャッシュフローに対応する数式または項目で、支払日が含まれます。

- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

pmt および **date** の内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれる場合を除き、これらに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

例と結果:

XIRR(Payments, Date): **0.5385**。

例で使用されているデータ:

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
] (delimiter is '|');
```

XNPV

XNPV() は、group by 句で定義されたレコードで反復処理される **pmt** と **date** のペア数値で表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の集計された正味現在価値を返します。レートは、期間あたりの利率です。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

構文:

```
XNPV(discount_rate, pmt, date)
```

戻り値データ型: 数値結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。.

引数:

- pmt: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- date: **pmt** で指定された支払いキャッシュフローに対応する数式または項目で、支払日が含まれます。
- discount_rate: **discount_rate** は、一定期間における割引率を表しています。

制限事項:

一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、NULL 値、不明な値があると、すべての対となるデータが無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
] (delimiter is '|');

Cashflow1:
LOAD Year,XNPV(0.2, Payments, Date) as XNPV1_2013 Resident Cashflow Group By Year;
```

結果の例

年	XNPV1_2013
2013	$2104.37

Cashflow テーブルが前の例のようにロードされた場合:

```
LOAD Year,XNPV(Discount, Payments, Date) as XNPV2_2013 Resident Cashflow Group By Year,
Discount;
```

結果の例

年	Discount	XNPV2_2013
2013	0.1	-$3164.35
2013	0.2	$6800.00

XNPV

XNPV() は、チャート軸で反復処理された **pmt** と **date** の数値ペアで表されるキャッシュフロー計算書 (不定期の場合もあります) の正味現在価値を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

```
XNPV([TOTAL [<fld{,fld}>]] discount_rate, pmt, date)
```

戻り値データ型: 数値結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。

- pmt: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- date: **pmt** で指定された支払いキャッシュフローに対応する数式または項目で、支払日が含まれます。
- discount_rate: **discount_rate** は、一定期間における割引率を表しています。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

discount_rate、**pmt**、および **date** には、これらの内部集約に **TOTAL** 修飾子が含まれている場合を除き、集約関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

XNPV(Discount, Payments, Date): **-$3164.35**.

例で使用されているデータ:

```
Cashflow:
LOAD 2013 as Year, * inline [
Date|Discount|Payments
2013-01-01|0.1|-10000
2013-03-01|0.1|3000
2013-10-30|0.1|4200
2014-02-01|0.2|6800
] (delimiter is '|');
```

統計集計関数

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ロードスクリプトの統計集計関数

スクリプトで使用可能な統計集計関数は次のとおりです。

Avg

Avg() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内の集計データの平均値を算出します。

```
Avg ([distinct] expression)
```

Correl

Correl() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される **x-expression** と **y-expression** のペア数値で表される一連の座標の、集計された相関係数を返します。

```
Correl (x-expression, y-expression)
```

Fractile

Fractile() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内の集計データの包括的フラクタイル (分位値) に対応する値を算出します。

```
Fractile (expression, fractile)
```

FractileExc

FractileExc() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内の集計データの排他的フラクタイル (分位値) に対応する値を算出します。

```
FractileExc (expression, fractile)
```

Kurtosis

Kurtosis() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内のデータの尖度を返します。

```
Kurtosis ([distinct ] expression )
```

LINEST_B

LINEST_B() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計 b 値 (y 切片) を返します。

```
LINEST_B (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_df

LINEST_DF() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された自由度を返します。

```
LINEST_DF (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_f

このスクリプト関数は、**group by** 節で定義された複数のレコードで反復処理された x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された F 統計量 ($r^2/(1-r^2)$) を返します。

```
LINEST_F (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_m

LINEST_M() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された m 値 (傾き) を返します。

```
LINEST_M (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_r2

LINEST_R2() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された r^2 値 (決定係数) を返します。

```
LINEST_R2 (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_seb

LINEST_SEB() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された b 値の標準誤差を返します。

```
LINEST_SEB (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_sem

LINEST_SEM() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された m 値の標準誤差を返します。

```
LINEST_SEM (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_sey

LINEST_SEY() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された y 予測値の標準誤差を返します。

```
LINEST_SEY (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

LINEST_ssreg

LINEST_SSREG() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された回帰変動を返します。

```
LINEST_SSREG (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

Linest_ssresid

LINEST_SSRESID() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された残差変動を返します。

```
LINEST_SSRESID (y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

Median

Median() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式の集計された中央値を返します。

```
Median (expression)
```

Skew

Skew() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式の歪度を返します。

```
Skew ([ distinct] expression)
```

Stdev

Stdev() は、**group by** 句で定義されたレコードの、数式によって得られた値の標準偏差を返します。

```
Stdev ([distinct] expression)
```

Sterr

Sterr() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される数式で表される一連の値に対して、集計標準誤差 (stdev/sqrt(n)) を返します。

```
Sterr ([distinct] expression)
```

STEYX

STEYX() は、**group by** 句で定義された複数のレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標について、回帰における各 X 値に対する y 予測値の集計された標準誤差を返します。

```
STEYX (y-expression, x-expression)
```

チャート式の統計集計関数

チャートで使用可能な統計集計関数は、次のとおりです。

Avg

Avg() は、チャート軸で反復処理された数式または項目の集計された平均を返します。

```
Avg - チャート関数([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

Correl

Correl() は、2 つのデータセットの集計相関係数を返します。相関関数はデータセット間の関係を表すメジャーとして、チャート軸に対して反復処理される (x,y) 値のペアに対して集計されます。

```
Correl - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld {, fld}>]] value1, value2 )
```

Fractile

Fractile() は、チャート軸に対して反復処理された数式で指定された範囲において、集計データの包括的フラクタイル (分位値) に相当する値を返します。

```
Fractile - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld {, fld}>]] expr,
fraction)
```

FractileExc

FractileExc() は、チャート軸に対して反復処理された数式で指定された範囲において、集計データの排他的フラクタイル (分位値) に相当する値を返します。

```
FractileExc - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld {, fld}>]] expr,
fraction)
```

Kurtosis

Kurtosis() は、チャート軸で反復処理される数式または項目のデータを集計し、データ範囲の尖度を返します。

```
Kurtosis - チャート関数([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]]
expr)
```

LINEST_b

LINEST_B() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された b 値 (y 切片) を返します。

```
LINEST_B - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{ ,fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

LINEST_df

LINEST_DF() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された自由度を返します。

```
LINEST_DF - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_
value [, y0_const [, x0_const]])
```

LINEST_f

LINEST_F() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の F 統計値 (r2/(1-r2)) を返します。

```
LINEST_F - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL[<fld{, fld}>]] y_value, x_value
[, y0_const [, x0_const]])
```

LINEST_m

LINEST_M() は数値チャート関数で、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された m 値 (傾き) を返します。

```
LINEST_M - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL[<fld{, fld}>]] y_value, x_value
[, y0_const [, x0_const]])
```

LINEST_r2

LINEST_R2() は、チャート軸で反復処理された**x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された r2 値 (決定係数) を返します。

```
LINEST_R2 - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{ ,fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

LINEST_seb

LINEST_SEB() は、チャート軸で反復処理された**x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された b 値の標準誤差を返します。

```
LINEST_SEB - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{ ,fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

LINEST_sem

LINEST_SEM() は、チャート軸で反復処理された**x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された m 値の標準誤差を返します。

```
LINEST_SEM - チャート関数([{set_expression}][ distinct ] [total [<fld {,fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]] )
```

LINEST_sey

LINEST_SEY() は、チャート軸で反復処理された**x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された y 予測値の標準誤差を返します。

```
LINEST_SEY - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{ ,fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

LINEST_ssreg

LINEST_SSREG() は、チャート軸で反復処理された**x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された回帰変動を返します。

```
LINEST_SSREG - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{ ,fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

LINEST_ssresid

LINEST_SSRESID() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の残差変動を返します。

```
LINEST_SSRESID - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{ ,fld}>]] y_value, x_value[, y0_const[, x0_const]])
```

Median

Median() は、チャート軸で反復処理された数式の値を集計し、その範囲の中央値を返します。

```
Median - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

MutualInfo

MutualInfo は、2 つの項目間または **Aggr()** の集計値間の相互情報量 (MI) を計算します。

```
MutualInfo - チャート関数({SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL target, driver [, datatype [, breakdownbyvalue [, samplesize ]]])
```

Skew

Skew() は、チャート軸で反復処理された数式または項目の集計された歪度を返します。

```
Skew - チャート関数([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{ ,fld}>]] expr)
```

Stdev

Stdev() は、チャート軸で反復処理された数式または項目のデータを集計し、データ範囲の標準偏差を返します。

```
Stdev - チャート関数([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

Sterr

Sterr() は、チャート軸で反復処理された数式の集計値の範囲に対して、平均値の標準誤差 (stdev/sqrt(n)) を返します。

```
Sterr - チャート関数([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL[<fld{, fld}>]] expr)
```

STEYX

STEYX() は、数式 **y_value** と**x_value** 数値ペアで表される一連の座標について、線形回帰の各 x 値に対して予想される y 値の集計された標準誤差を返します。

```
STEYX - チャート関数([{SetExpression}] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value)
```

Avg

Avg() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内の集計データの平均値を算出します。

構文:

```
Avg([DISTINCT] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Avg 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
DISTINCT	数式の前に **distinct** がある場合、重複はすべて無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Temp: crosstable (Month, Sales) load * inline [Customer|Jan|Feb|Mar||Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22 Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15 Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27 Divadip|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94] (delimiter is '|'); Avg1: LOAD Customer, Avg(Sales) as MyAverageSalesByCustomer Resident Temp Group By Customer;	Customer MyAverageSalesByCustomer Astrida 48.916667 Betacab 44.916667 Canutility 56.916667 Divadip 63.083333 この結果はメジャー Sum(Sales)/12
Temp テーブルが前の例のようにロードされた場合: LOAD Customer,Avg(DISTINCT Sales) as MyAvgSalesDistinct Resident Temp Group By Customer;	Customer MyAverageSalesByCustomer Astrida 43.1 Betacab 43.909091 Canutility 55.909091 Divadip 61 ユニーク値のみカウントされています。

Avg - チャート関数

Avg() は、チャート軸で反復処理された数式または項目の集計された平均を返します。

構文:

```
Avg([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

例と結果

例	結果
Avg(Sales)	軸とメジャー Customer および軸メジャー Avg([Sales]) を含むテーブルで [合計] が表示されている場合、結果は 2566 になります。
Avg([TOTAL (Sales))	Customer のあらゆる値で 53.458333 になります。これは、TOTAL 修飾子を使うと軸が無視されるためです。
Avg(DISTINCT (Sales))	合計 51.862069 になります。これは、Distinct 修飾子を使うと、各 Customer で Sales の固有の値のみが評価されるためです。

テーブル形式の出力例

Customer	Sum (Sales)	Avg (Sales)	Avg(TOTAL Sales)	Avg(DISTINCT Sales)	Avg({1}DISTINCT Sales)
-	**2566**	**53.46**	**53.458333**	**51.862069**	**53.458333**
Astrida	587	48.92	53.458333	43.1	53.458333
Betacab	539	44.92	53.458333	43.909091	53.458333
Canutility	683	56.92	53.458333	55.909091	53.458333
Divadip	757	63.08	53.458333	61	53.458333

例で使用されているデータ:

```
Monthnames:
LOAD * INLINE [
```

```
Month, Monthnumber
Jan, 1
Feb, 2
Mar, 3
Apr, 4
May, 5
Jun, 6
Jul, 7
Aug, 8
Sep, 9
Oct, 10
Nov, 11
Dec, 12
];
Sales2013:
crosstable (Month, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

月を取得して正しい順番でソートするには、チャートを作成する際に、チャートプロパティの**[Sort]** タブに移動し、**[Sort by]** の下で **[Expression]** チェックボックスを選択します。数式ボックスに、`Monthnumber` と入力します。

テーブル形式のデータ例

Customer	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
Astrida	46	60	70	13	78	20	45	65	78	12	78	22
Betacab	65	56	22	79	12	56	45	24	32	78	55	15
Canutility	77	68	34	91	24	68	57	36	44	90	67	27
Divadip	57	36	44	90	67	27	57	68	47	90	80	94

Correl

Correl() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標の、集計された相関係数を返します。

構文:

```
Correl(value1, value2)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Correl 引数

引数	説明
value1, value2	相関係数を測定する 2 つのサンプル セットを含む数式または項目。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Salary: Load *, 1 as Grp; LOAD * inline ["Employee name"|Gender|Age|Salary Aiden Charles|Male|20|25000 Brenda Davies|Male|25|32000 Charlotte Edberg|Female|45|56000 Daroush Ferrara|Male|31|29000 Eunice Goldblum|Female|31|32000 Freddy Halvorsen|Male|25|26000 Gauri Indu|Female|36|46000 Harry Jones|Male|38|40000 Ian Underwood|Male|40|45000 Jackie Kingsley|Female|23|28000] (delimiter is '|'); Correl1: LOAD Grp, Correl(Age,Salary) as Correl_Salary Resident Salary Group By Grp;	Correl_Salary = 0.9270611

Correl - チャート関数

Correl() は、2つのデータセットの集計相関係数を返します。相関関数はデータセット間の関係を表すメジャーとして、チャート軸に対して反復処理される(x,y)値のペアに対して集計されます。

構文:

```
Correl([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] value1, value2 )
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value1, value2: 相関係数を測定する2つのサンプル セットを含む数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set分析数式でレコードセットを定義することも可能です。

- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

例と結果

例	結果
Correl(Age, Salary)	軸とメジャー Employee nameおよびメジャー Correl(Age, Salary) を含むテーブルでは、結果は 0.9270611 となります。結果は合計セルにのみ表示されます。
Correl(TOTAL Age, Salary))	0.927. これ以降は、読みやすさの観点から小数点以下 3 桁で結果を示しています。

例で使用されているデータ:

```
Salary:
LOAD * inline [
"Employee name"|Gender|Age|Salary
Aiden Charles|Male|20|25000
Brenda Davies|Male|25|32000
Charlotte Edberg|Female|45|56000
Daroush Ferrara|Male|31|29000
Eunice Goldblum|Female|31|32000
Freddy Halvorsen|Male|25|26000
Gauri Indu|Female|36|46000
Harry Jones|Male|38|40000
Ian Underwood|Male|40|45000
Jackie Kingsley|Female|23|28000
] (delimiter is '|');
```

Fractile

Fractile() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内の集計データの包括的フラクタイル (分位値) に対応する値を算出します。



FractileExc (page 1080) を使用して、排他分位数を計算できます。

構文:

```
Fractile(expr, fraction)
```

戻り値データ型: 数値

関数は、rank = fraction * (N-1) + 1 によって定義されたランクに対応する値を返します。ここで、N は expr の値の数です。ランクが整数でない場合、2 つの最も近い値の間で補間が行われます。

引数:

Fractile 引数

引数	説明
expr	分位数を計算するときに使用するデータを含む数式または項目。
fraction	計算対象となる分位数 (変位値) に相当する値 (0 ~ 1 の範囲内)。

例と結果:

アプリケーションにスクリプト例を追加して実行します。結果を表示するには、結果列に含まれている項目をアプリケーションのシートに追加します。

例と結果

例	結果
Table1: Crosstable (Type, Value) Load recno() as ID, * inline [Observation|Comparison 35|2 40|27 12|38 15|31 21|1 14|19 46|1 10|34 28|3 48|1 16|2 30|3 32|2 48|1 31|2 22|1 12|3 39|29 19|37 25|2] (delimiter is '|'); Fractile1: LOAD Type, Fractile(Value,0.75) as MyFractile Resident Table1 Group By Type;	Type 軸および MyFractile 軸を持つテーブルでは、このデータロードスクリプトの Fractile() 計算の結果は、次のようになります。 Type MyFractile Comparison 27.5 Observation 36

Fractile - チャート関数

Fractile() は、チャート軸に対して反復処理された数式で指定された範囲において、集計データの包括的フラクタイル (分位値) に相当する値を返します。

FractileExc - チャート関数 (page 1081) を使用して、排他分位数を計算できます。

構文:

```
Fractile([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr, fraction)
```

戻り値データ型: 数値

関数は、rank = fraction * (N-1) + 1 によって定義されたランクに対応する値を返します。ここで、N は expr の値の数です。ランクが整数でない場合、2 つの最も近い値の間で補間が行われます。

引数:

- expr: 分位数を計算するときに使用するデータを含む数式または項目。
- fraction: 計算対象となる分位数 (変位値) に相当する値 (0 ~ 1 の範囲内)。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL [<fld {,fld}>]** (ここで、**TOTAL** 修飾子の後には、1 つまたは複数の項目名のリストがチャート軸変数のサブセットとして続く) を使用して、合計絞込値のサブセットを作成できます。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメーターに他の集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

例と結果

例	結果
Fractile (Sales, 0.75)	軸とメジャー CustomerFractile([Sales]) を含むテーブルの場合、**[合計]** が表示されると、結果は 71.75 になります。これは、Sales の値の分布にあるポイントで、値の 75% がこれを下回ります。
Fractile (TOTAL Sales, 0.75))	Customer のあらゆる値で 71.75 になります。これは、TOTAL 修飾子を使うと軸が無視されるためです。
Fractile (DISTINCT Sales, 0.75)	合計 70 になります。これは、DISTINCT 修飾子を使うと、各 Customer で Sales の固有の値のみが評価されるためです。

例で使用されているデータ:

```
Monthnames:
LOAD *, Dual(MonthText,MonthNumber) as Month INLINE [
MonthText, MonthNumber
Jan, 1
Feb, 2
Mar, 3
Apr, 4
May, 5
Jun, 6
Jul, 7
Aug, 8
Sep, 9
```

```
Oct, 10
Nov, 11
Dec, 12
];

Sales2013:
Crosstable (MonthText, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
Astrida	46	60	70	13	78	20	45	65	78	12	78	22
Betacab	65	56	22	79	12	56	45	24	32	78	55	15
Canutility	77	68	34	91	24	68	57	36	44	90	67	27
Divadip	57	36	44	90	67	27	57	68	47	90	80	94

FractileExc

FractileExc() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内の集計データの排他的フラクタイル (分位値) に対応する値を算出します。



Fractile (page 1076) を使用して、包括分位数を計算できます。

構文:

```
FractileExc(expr, fraction)
```

戻り値データ型: 数値

関数は、rank = fraction * (N+1) によって定義されたランクに対応する値を返します。ここで、N は expr の値の数です。ランクが整数でない場合、2 つの最も近い値の間で補間が行われます。

引数:

FractileExc 引数

引数	説明
expr	分位数を計算するときに使用するデータを含む数式または項目。
fraction	計算対象となる分位数 (変位値) に相当する値 (0 ~ 1 の範囲内)。

例と結果:

アプリケーションにスクリプト例を追加して実行します。結果を表示するには、結果列に含まれている項目をアプリケーションのシートに追加します。

例と結果

例	結果
Table1: Crosstable (Type, Value) Load recno() as ID, * inline [Observation|Comparison 35|2 40|27 12|38 15|31 21|1 14|19 46|1 10|34 28|3 48|1 16|2 30|3 32|2 48|1 31|2 22|1 12|3 39|29 19|37 25|2] (delimiter is '|'); Fractile1: LOAD Type, FractileExc(Value,0.75) as MyFractile Resident Table1 Group By Type;	Type 軸および MyFractile 軸を持つテーブルでは、このデータロードスクリプトの FractileExc() 計算の結果は、次のようになります。 Type MyFractile Comparison 28.5 Observation 38

FractileExc - チャート関数

FractileExc() は、チャート軸に対して反復処理された数式で指定された範囲において、集計データの排他的フラクタイル (分位値) に相当する値を返します。

Fractile - チャート関数 (page 1078) を使用して、包括分位数を計算できます。

構文:

```
FractileExc([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr,
fraction)
```

戻り値データ型: 数値

関数は、rank = fraction * (N+1) によって定義されたランクに対応する値を返します。ここで、N は expr の値の数です。ランクが整数でない場合、2 つの最も近い値の間で補間が行われます。

引数:

- expr: 分位数を計算するときに使用するデータを含む数式または項目。
- fraction: 計算対象となる分位数 (変位値) に相当する値 (0 ~ 1 の範囲内)。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL [<fld {,fld}>]** (ここで、**TOTAL** 修飾子の後には、1 つまたは複数の項目名のリストがチャート軸変数のサブセットとして続く) を使用して、合計絞込値のサブセットを作成できます。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメーターに他の集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

例と結果

例	結果
FractileExc (Sales, 0.75)	軸とメジャー CustomerFractileExc([Sales]) を含むテーブルの場合、**[合計]** が表示されると、結果は 75.25 になります。これは、Sales の値の分布にあるポイントで、値の 75% がこれを下回ります。
FractileExc (TOTAL Sales, 0.75))	Customer のあらゆる値で 75.25 になります。これは、TOTAL 修飾子を使うと軸が無視されるためです。
FractileExc (DISTINCT Sales, 0.75)	合計 73.50 になります。これは、DISTINCT 修飾子を使うと、各 Customer で Sales の固有の値のみが評価されるためです。

例で使用されているデータ:

```
Monthnames:
LOAD *, Dual(MonthText,MonthNumber) as Month INLINE [
MonthText, MonthNumber
Jan, 1
Feb, 2
Mar, 3
Apr, 4
```

```
May, 5
Jun, 6
Jul, 7
Aug, 8
Sep, 9
Oct, 10
Nov, 11
Dec, 12
];

Sales2013:
Crosstable (MonthText, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Customer	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
Astrida	46	60	70	13	78	20	45	65	78	12	78	22
Betacab	65	56	22	79	12	56	45	24	32	78	55	15
Canutility	77	68	34	91	24	68	57	36	44	90	67	27
Divadip	57	36	44	90	67	27	57	68	47	90	80	94

Kurtosis

Kurtosis() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式内のデータの尖度を返します。

構文:

```
Kurtosis([distinct ] expr )
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Kurtosis 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** がある場合、重複はすべて無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Table1: crosstable LOAD recno() as ID, * inline [Observation|Comparison 35|2 40|27 12|38 15|31 21|1 14|19 46|1 10|34 28|3 48|1 16|2 30|3 32|2 48|1 31|2 22|1 12|3 39|29 19|37 25|2] (delimiter is '|'); Kurtosis1: LOAD Type, Kurtosis(Value) as MyKurtosis1, Kurtosis(DISTINCT Value) as MyKurtosis2 Resident Table1 Group By Type;	Type 軸、MyKurtosis1 および MyKurtosis2 軸を持つテーブルでは、このロードスクリプトの Kurtosis() 計算の結果は、次のようになります。 Type MyKurtosis1 MyKurtosis2 Comparison -1.1612957 -1.4982366 Observation -1.1148768 -0.93540144

Kurtosis - チャート関数

Kurtosis() は、チャート軸で反復処理される数式または項目のデータを集計し、データ範囲の尖度を返します。

構文:

```
Kurtosis([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

例と結果

例	結果
Kurtosis (Value)	軸とメジャー Type およびメジャー Kurtosis(Value) を含むテーブルで **[合計]** が表示されている場合、数字の書式設定が有効桁数 3 に設定され、結果は 1.252 になります。Comparison は 1.161、Observation は 1.115 です。
Kurtosis (TOTAL Value))	Type のあらゆる値で 1.252 になります。これは、TOTAL 修飾子を使うと軸が無視されるためです。

例で使用されているデータ:

```
Table1:
crosstable LOAD recno() as ID, * inline [
Observation|Comparison
35|2
40|27
12|38
15|31
21|1
14|19
46|1
10|34
28|3
48|1
16|2
30|3
32|2
48|1
31|2
```

```
22|1
12|3
39|29
19|37
25|2 ] (delimiter is '|');
```

テーブル形式のデータ例

Comparison	2	27	38	31	1	19	1	34	3	1	2	3	2	1	2	1	3	29	37	2
Observation	35	40	12	15	21	14	46	10	28	48	16	30	32	48	31	22	12	39	19	25

LINEST_B

LINEST_B() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計 b 値 (y 切片) を返します。

構文:

```
LINEST_B (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_B 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
x_value	メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 と x0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0 と x0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 と x0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_B - チャート関数

LINEST_B() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と **y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された b 値 (y 切片) を返します。

構文:

```
LINEST_B([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value
[, y0_const [ , x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0_const,x0_const: オプション値y0を記述することにより、y軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前にDISTINCTという用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前にTOTALの文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。TOTAL修飾子の後には、山括弧<fld>で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計にTOTAL修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数Aggrを使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_DF

LINEST_DF()は、group by句で定義されたレコードで反復処理されるx-expressionとy-expressionのペア数値で表される一連の座標に対して、数式y=mx+bで定義される直線回帰の集計された自由度を返します。

構文:

```
LINEST_DF (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_DF引数

引数	説明
y_value	メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。

引数	説明
x_value	メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_DF - チャート関数

LINEST_DF() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された自由度を返します。

構文:

```
LINEST_DF([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value [, y0_const [, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  > *y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_F

このスクリプト関数は、**group by** 節で定義された複数のレコードで反復処理された x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された F 統計量 ($r^2/(1-r^2)$) を返します。

構文:

```
LINEST_F (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_F 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
x_value	メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 と x0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0 と x0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 と x0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_F - チャート関数

LINEST_F() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と **y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の F 統計値 (r2/(1-r2)) を返します。

構文:

```
LINEST_F([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value
[, y0_const [, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 と x0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

> *y0 と x0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 と x0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_M

LINEST_M() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された m 値 (傾き) を返します。

構文:

```
LINEST_M (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_M 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。

引数	説明
x_value	メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_M - チャート関数

LINEST_M() は数値チャート関数で、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計されたm値 (傾き) を返します。

構文:

```
LINEST_M([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value
[, y0_const [, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  > *y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_R2

LINEST_R2() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された r^2 値 (決定係数) を返します。

構文:

```
LINEST_R2 (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_R2 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
x_value	メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 と x0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0 と x0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 と x0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_R2 - チャート関数

LINEST_R2() は、チャート軸で反復処理された **x_value** と **y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された r2 値 (決定係数) を返します。

構文:

```
LINEST_R2([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 と x0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

> *y0 と x0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 と x0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SEB

LINEST_SEB() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された b 値の標準誤差を返します。

構文:

```
LINEST_SEB (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_SEB 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。

引数	説明
x_value	メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SEB - チャート関数

LINEST_SEB() は、チャート軸で反復処理された**x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計されたb値の標準誤差を返します。

構文:

```
LINEST_SEB([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value[, y0_const[, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  > *y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SEM

LINEST_SEM() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された m 値の標準誤差を返します。

構文:

```
LINEST_SEM (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_SEM 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
x_value	メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 と x0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0 と x0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 と x0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SEM - チャート関数

LINEST_SEM() は、チャート軸で反復処理された **x_value** と **y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計された m 値の標準誤差を返します。

構文:

```
LINEST_SEM([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値y0を記述することにより、y軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  > *y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前にDISTINCTという用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前にTOTALの文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。TOTAL修飾子の後には、山括弧<fld>で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計にTOTAL修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数Aggrを使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SEY

LINEST_SEY()は、group by句で定義されたレコードで反復処理されるx-expressionとy-expressionのペア数値で表される一連の座標に対して、数式y=mx+bで定義される直線回帰の集計されたy予測値の標準誤差を返します。

構文:

```
LINEST_SEY (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_SEY引数

引数	説明
y_value	メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。

引数	説明
x_value	メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SEY - チャート関数

LINEST_SEY() は、チャート軸で反復処理された**x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の集計されたy予測値の標準誤差を返します。

構文:

```
LINEST_SEY([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value[, y0_const[, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0とx0の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  > *y0とx0の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効なデータペアが必要です。y0とx0が記述されている場合は、データペアが1組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ1つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SSREG

LINEST_SSREG() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される **x-expression** と **y-expression** のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 **y=mx+b** で定義される直線回帰の集計された回帰変動を返します。

構文:

```
LINEST_SSREG (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_SSREG 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
x_value	メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 **y0** を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。**y0** と **x0** の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。 **y0** と **x0** の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。**y0** と **x0** が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SSREG - チャート関数

LINEST_SSREG() は、チャート軸で反復処理された **x_value** と **y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 **y=mx+b** で定義される線形回帰の集計された回帰変動を返します。

構文:

```
LINEST_SSREG([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_
value[, y0_const[, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 とx0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  > *y0 とx0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 とx0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SSRESID

LINEST_SSRESID() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理されるx-expression とy-expression のペア数値で表される一連の座標に対して、数式 y=mx+b で定義される直線回帰の集計された残差変動を返します。

構文:

```
LINEST_SSRESID (y-value, x-value[, y0 [, x0 ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

LINEST_SSRESID 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。

引数	説明
x_value	メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
y(0), x(0)	オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 とx0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。 y0 とx0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 とx0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

LINEST_SSRESID - チャート関数

LINEST_SSRESID() は、チャート軸で反復処理された数式 **x_value** と**y_value** の数値ペアで表される一連の座標に対して、方程式 y=mx+b で定義される線形回帰の残差変動を返します。

構文:

```
LINEST_SSRESID([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value,
x_value[, y0_const[, x0_const]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象であるy値の範囲が含まれている数式または項目です。
- x_value: メジャー対象であるx値の範囲が含まれている数式または項目です。
- y0,x0: オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 とx0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

  > *y0 とx0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効なデータペアが必要です。y0 とx0 が記述されている場合は、データペアが 1 組あれば計算できます。*

- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

オプション値 y0 を記述することにより、y 軸上にある特定の点に回帰線を通すことができます。y0 とx0 の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

Median

Median() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式の集計された中央値を返します。

構文:

```
Median (expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Median 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

例と結果:

アプリに例のスクリプトを追加して実行します。続いて、軸として `Type` と `MyMedian` を使用してストレートテーブルをビルドします。

例と結果

例	結果
Table1: crosstable LOAD recno() as ID, * inline [Observation|Comparison 35|2 40|27 12|38 15|31 21|1 14|19 46|1 10|34 28|3 48|1 16|2 30|3 32|2 48|1 31|2 22|1 12|3 39|29 19|37 25|2] (delimiter is '|'); Median1: LOAD Type, Median(Value) as MyMedian Resident Table1 Group By Type;	Median() の計算の結果は次のとおりです。 • Type =MyMedian • Comparison =2.5 • Observation =26.5

Median - チャート関数

Median() は、チャート軸で反復処理された数式の値を集計し、その範囲の中央値を返します。

構文:

```
Median([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

アプリにスクリプトの例を追加して実行します。

```
Table1:
crosstable LOAD recno() as ID, * inline [
Observation|Comparison
35|2
40|27
12|38
15|31
21|1
14|19
46|1
10|34
28|3
48|1
16|2
30|3
32|2
48|1
31|2
22|1
12|3
39|29
19|37
25|2 ] (delimiter is '|');
```

それから、`Type` を軸として、`Median(Value)` をメジャーとして、ストレートテーブルを構築します。`Totals` は、テーブルのプロパティで有効になっている必要があります。

結果:

次の中央値:

- Totals は 19
- Comparison は 2.5
- Observation は 26.5

MutualInfo - チャート関数

MutualInfo は、2 つの項目間または **Aggr()** の集計値間の相互情報量 (MI) を計算します。

MutualInfo により、異なる種類の MI 分析が可能になります。

- ペアワイズ MI: ドライバー項目とターゲット項目間の MI を計算します。
- ドライバーの値別詳細: ドライバー項目とターゲット項目にある、個別の項目値間の MI を計算します。

- 機能の選択: グリッドチャートで **MutualInfo** 使用し、MI に基づいてすべての項目を相互に比較するマトリックスを作成します。

MutualInfo は、2 つのデータセットの集計された相互情報を返します。相互情報は、データセット間の関係を表すメジャーであり、チャート軸に対して反復処理される (x,y) のペア値のために集計されます。相互情報のメジャーは、0 と1 の間です。**MutualInfo** は、選択または set 数式で定義します。

相互情報を計算する場合、関係性は、異なるテーブルに由来する項目からの値の間と、値の頻度の対応に影響を与えます。

同じターゲットとドライバーの戻り値は、若干異なる場合があります。これは、各 **MutualInfo** 呼び出しがランダムに選択されたサンプルで動作することと、**MutualInfo** アルゴリズム特有のランダム性に起因します。

MutualInfo は、**Aggr()** 関数に適用できます。

構文:

```
MutualInfo({SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL] target, driver , datatype [, breakdownbyvalue [, samplesize ]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

引数

引数	説明
target, driver	相互情報をメジャーする 2 つのサンプル セットを含む数式または項目。
datatype	ターゲットとドライバーに含まれるデータタイプは、 discrete:discrete の場合、1 または 'dd' continuous:continuous の場合、2 または 'cc' continuous:discrete の場合、3 または 'cd' discrete:continuous の場合、4 または 'dc' データタイプは、大文字と小文字を区別しません。
breakdownbyvalue	ドライバーにある値に対応する静的値。提供されると、計算はその値の MI 貢献度を算出します。**ValueList()** または **ValueLoop()** を使用できます。**Null()** が追加された場合、計算はドライバーにあるすべての値の MI 全体を算出します。 値別で細分化するには、ドライバーに離散データが含まれている必要があります。

引数	説明
samplesize	ターゲットとドライバーからサンプルへの値の数。サンプリングはランダムです。**MutualInfo** には、最低 80 個のサンプル サイズが必要です。既定では、**MutualInfo** がサンプルできるのは最大 10,000 個のデータペアに限定されます。これは、**MutualInfo** がリソースを集中的に使用するためです。サンプル サイズで、より多くのデータペアを指定できます。**MutualInfo** がタイムアウトする場合は、サンプル サイズを減らしてください
SetExpression	デフォルトでは、集計関数は選択されたレコード セットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコード セットを定義することも可能です。
DISTINCT	関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
TOTAL	関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

例と結果:

アプリに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をアプリのシートに追加して結果を表示します。

関数の例

例	結果
`mutualinfo(Age, Salary, 1)`	軸とメジャー `Employee name` およびメジャー `mutualinfo(Age, Salary, 1)` を含むテーブルでは、結果は 0.99820986 となります。結果は合計セルにのみ表示されます。
`mutualinfo (TOTAL Age, Salary, 1, null (), 81)`	軸 Gender でフィルター パネルを作成し、そこから選択を実行する場合は、Female を選択すると結果 0.99805677 が表示され、Male を選択すると0.99847373 が表示されます。これは、Gender の他の値に属しない結果すべては、選択から除外されるためです。
`mutualinfo (TOTAL Age, Gender, 1, ValueLoop (25,35))`	0.68196996.Gender から値を選択すると、これは 0 に変更されます。
`mutualinfo({1} TOTAL Age, Salary, 1, null ())`	0.99820986. これは、選択に依存しません。set 数式 {1} は、すべての選択と軸を無視します。

例で使用されているデータ:

```
Salary:
LOAD * inline [
"Employee name"|Age|Gender|Salary
Aiden Charles|20|Male|25000
Ann Lindquist|69|Female|58000
Anna Johansen|37|Female|36000
Anna Karlsson|42|Female|23000
Antonio Garcia|20|Male|61000
Benjamin Smith|42|Male|27000
Bill Yang|49|Male|50000
Binh Protzmann|69|Male|21000
Bob Park|51|Male|54000
Brenda Davies|25|Male|32000
Celine Gagnon|48|Female|38000
Cezar Sandu|50|Male|46000
Charles Ingvar Jönsson|27|Male|58000
Charlotte Edberg|45|Female|56000
Cindy Lynn|69|Female|28000
Clark Wayne|63|Male|31000
Daroush Ferrara|31|Male|29000
David Cooper|37|Male|64000
David Leg|58|Male|57000
Eunice Goldblum|31|Female|32000
Freddy Halvorsen|25|Male|26000
Gauri Indu|36|Female|46000
George van Zaant|59|Male|47000
Glenn Brown|58|Male|40000
Harry Jones|38|Male|40000
Helen Brolin|52|Female|66000
Hiroshi Ito|24|Male|42000
Ian Underwood|40|Male|45000
Ingrid Hendrix|63|Female|27000
Ira Baumel|39|Female|39000
Jackie Kingsley|23|Female|28000
Jennica Williams|36|Female|48000
Jerry Tessel|31|Male|57000
Jim Bond|50|Male|58000
Joan Callins|60|Female|65000
Joan Cleaves|25|Female|61000
Joe Cheng|61|Male|41000
John Doe|36|Male|59000
John Lemon|43|Male|21000
Karen Helmkey|54|Female|25000
Karl Berger|38|Male|68000
Karl Straubaum|30|Male|40000
Kaya Alpan|32|Female|60000
Kenneth Finley|21|Male|25000
Leif Shine|63|Male|70000
Lennart Skoglund|63|Male|24000
Leona Korhonen|46|Female|50000
Lina André|50|Female|65000
Louis Presley|29|Male|36000
Luke Langston|50|Male|63000
Marcus Salvatori|31|Male|46000
Marie Simon|57|Female|23000
Mario Rossi|39|Male|62000
Markus Danzig|26|Male|48000
```

```
Michael Carlen|21|Male|45000
Michelle Tyson|44|Female|69000
Mike Ashkenaz|45|Male|68000
Miro Ito|40|Male|39000
Nina Mihn|62|Female|57000
Olivia Nguyen|35|Female|51000
Olivier Simenon|44|Male|31000
Östen Ärlig|68|Male|57000
Pamala Garcia|69|Female|29000
Paolo Romano|34|Male|45000
Pat Taylor|67|Female|69000
Paul Dupont|34|Male|38000
Peter Smith|56|Male|53000
Pierre Clouseau|21|Male|37000
Preben Jørgensen|35|Male|38000
Rey Jones|65|Female|20000
Ricardo Gucci|55|Male|65000
Richard Ranieri|30|Male|64000
Rob Carsson|46|Male|54000
Rolf Wesenlund|25|Male|51000
Ronaldo Costa|64|Male|39000
Sabrina Richards|57|Female|40000
Sato Hiromu|35|Male|21000
Sehoon Daw|57|Male|24000
Stefan Lind|67|Male|35000
Steve Cioazzi|58|Male|23000
Sunil Gupta|45|Male|40000
Sven Svensson|45|Male|55000
Tom Lindwall|46|Male|24000
Tomas Nilsson|27|Male|22000
Trinity Rizzo|52|Female|48000
Vanessa Lambert|54|Female|27000
] (delimiter is '|');
```

Skew

Skew() は、**group by** 句で定義されたレコードの数式の歪度を返します。

構文:

```
Skew([ distinct] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Skew 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
DISTINCT	数式の前に **distinct** がある場合、重複はすべて無視されます。

例と結果:

アプリに例のスクリプトを追加して実行します。続いて、軸として Type とMySkew を使用してストレートテーブルをビルドします。

例と結果

例	結果
Table1: crosstable LOAD recno() as ID, * inline [Observation|Comparison 35|2 40|27 12|38 15|31 21|1 14|19 46|1 10|34 28|3 48|1 16|2 30|3 32|2 48|1 31|2 22|1 12|3 39|29 19|37 25|2] (delimiter is '|'); Skew1: LOAD Type, Skew(Value) as MySkew Resident Table1 Group By Type;	データロードスクリプトでのSkew() の計算の結果: • Type =MySkew • Comparison =0.86414768 • Observation =0.32625351

Skew - チャート関数

Skew() は、チャート軸で反復処理された数式または項目の集計された歪度を返します。

構文:

```
Skew([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。

- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

アプリに例のスクリプトを追加して実行します。

```
Table1:
crosstable LOAD recno() as ID, * inline [
Observation|Comparison
35|2
40|27
12|38
15|31
21|1
14|19
46|1
10|34
28|3
48|1
16|2
30|3
32|2
48|1
31|2
22|1
12|3
39|29
19|37
25|2 ] (delimiter is '|');
```

それから、Type を軸として、Skew(Value) をメジャーとして、ストレートテーブルを構築します。Totals は、テーブルのプロパティで有効になっている必要があります。

結果:

Skew(Value) の計算の結果は次のとおりです。

- Total =0.23522195
- Comparison =0.86414768
- Observation =0.32625351

Stdev

Stdev() は、**group by** 句で定義されたレコードの、数式によって得られた値の標準偏差を返します。

構文:

```
Stdev([distinct] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Stdev 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** がある場合、重複はすべて無視されます。

例と結果:

アプリに例のスクリプトを追加して実行します。続いて、軸として `Type` と`MyStdev` を使用してストレートテーブルをビルドします。

例と結果

例	結果

`Table1:`
`crosstable LOAD recno() as ID, * inline [`
`Observation|Comparison`
`35|2`
`40|27`
`12|38`
`15|31`
`21|1`
`14|19`
`46|1`
`10|34`
`28|3`
`48|1`
`16|2`
`30|3`
`32|2`
`48|1`
`31|2`
`22|1`
`12|3`
`39|29`
`19|37`
`25|2 ] (delimiter is '|');`
 	
`Stdev1:`
`LOAD Type,`
` Stdev(Value) as MyStdev`
`Resident Table1 Group By Type;`
	Stdev() の計算の結果は次のとおりです。
	• `Type` =MyStdev
	• `Comparison` =14.61245
	• `Observation` =12.507997

Stdev - チャート関数

Stdev() は、チャート軸で反復処理された数式または項目のデータを集計し、データ範囲の標準偏差を返します。

構文:

```
Stdev([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

アプリに例のスクリプトを追加して実行します。

```
Table1:
crosstable LOAD recno() as ID, * inline [
Observation|Comparison
35|2
40|27
12|38
15|31
21|1
14|19
46|1
10|34
28|3
48|1
16|2
30|3
32|2
48|1
31|2
22|1
12|3
39|29
19|37
```

```
25|2 ] (delimiter is '|');
```

それから、Type を軸として、Stdev(Value) をメジャーとして、ストレートテーブルを構築します。Totals は、テーブルのプロパティで有効になっている必要があります。

結果:

Stdev(Value) の計算の結果は次のとおりです。

- Total =15.47529
- Comparison =14.61245
- Observation =12.507997

Sterr

Sterr() は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される数式で表される一連の値に対して、集計標準誤差 (stdev/sqrt(n)) を返します。

構文:

```
Sterr ([distinct] expr)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

Sterr 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
distinct	数式の前に **distinct** がある場合、重複はすべて無視されます。

制限事項:

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Table1: crosstable LOAD recno() as ID, * inline [Observation|Comparison 35|2 40|27 12|38 15|31 21|1 14|19 46|1 10|34 28|3 48|1 16|2 30|3 32|2 48|1 31|2 22|1 12|3 39|29 19|37 25|2] (delimiter is '|'); Sterr1: LOAD Type, Sterr(Value) as MySterr Resident Table1 Group By Type;	Type 軸および MySterr 軸を持つテーブルでは、このロードスクリプトの Sterr() 計算の結果は、次のようになります。 Type MySterr Comparison 3.2674431 Observation 2.7968733

Sterr - チャート関数

Sterr() は、チャート軸で反復処理された数式の集計値の範囲に対して、平均値の標準誤差 (stdev/sqrt(n)) を返します。

構文:

Sterr([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] expr**)**

戻り値データ型: 数値

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート

軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

Sterr(Value) を使用して、アプリにスクリプトの例を追加して実行します。

```
Table1:
crosstable LOAD recno() as ID, * inline [
Observation|Comparison
35|2
40|27
12|38
15|31
21|1
14|19
46|1
10|34
28|3
48|1
16|2
30|3
32|2
48|1
31|2
22|1
12|3
39|29
19|37
25|2 ] (delimiter is '|');
```

それから、Type を軸として、Sterr(Value) をメジャーとして、ストレートテーブルを構築します。Totals は、テーブルのプロパティで有効になっている必要があります。

結果:

Sterr(Value) の計算の結果は次のとおりです。

- Total =2.4468583
- Comparison =3.2674431
- Observation =2.7968733

STEYX

STEYX() は、**group by** 句で定義された複数のレコードで反復処理される x-expression と y-expression のペア数値で表される一連の座標について、回帰における各 X 値に対する y 予測値の集計された標準誤差を返します。

構文:

```
STEYX (y-value, x-value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

STEYX 引数

引数	説明
y_value	メジャー対象である y 値の範囲が含まれている数式または項目です。
x_value	メジャー対象である x 値の範囲が含まれている数式または項目です。

制限事項:

データペアのどちらか、または両方にテキスト値または NULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果
Trend: Load *, 1 as Grp; LOAD * inline [Month|KnownY|KnownX Jan|2|6 Feb|3|5 Mar|9|11 Apr|6|7 May|8|5 Jun|7|4 Jul|5|5 Aug|10|8 Sep|9|10 Oct|12|14 Nov|15|17 Dec|14|16] (delimiter is '|'); STEYX1: LOAD Grp, STEYX(KnownY, KnownX) as MySTEYX Resident Trend Group By Grp;	MySTEYX 軸を持つテーブルでは、このロードスクリプトの STEYX() 計算の結果は、2.0714764 になります。

STEYX - チャート関数

STEYX() は、数式 **y_value** と**x_value** 数値ペアで表される一連の座標について、線形回帰の各 x 値に対して予想される y 値の集計された標準誤差を返します。

構文:

```
STEYX([{SetExpression}] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] y_value, x_value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- y_value: メジャー対象となる既知の y 値の範囲が含まれている数式および項目。
- x_value: メジャー対象となる既知の x 値の範囲が含まれている数式および項目。
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- DISTINCT: 関数の引数の前に **DISTINCT** という用語が付いている場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

制限事項:

内部集計に **TOTAL** 修飾子が含まれない限り、集計関数のパラメータに集計関数を含めることはできません。ネストされた集計関数が必要な場合、指定された軸と組み合わせて高度な関数 **Aggr** を使用します。

データペアのどちらか、または両方にテキスト値またはNULL 値、欠損値が含まれている場合、データペア全体が無視されます。

アプリに例のスクリプトを追加して実行します。

```
Trend:
LOAD * inline [
Month|KnownY|KnownX
Jan|2|6
Feb|3|5
Mar|9|11
Apr|6|7
May|8|5
Jun|7|4
Jul|5|5
Aug|10|8
Sep|9|10
Oct|12|14
Nov|15|17
Dec|14|16
] (delimiter is '|');
```

それから、KnownY とKnownX を軸として、Steyx(KnownY,KnownX) をメジャーとして、ストレートテーブルを構築します。Totals は、テーブルのプロパティで有効になっている必要があります。

結果:

STEYX(KnownY,KnownX) の計算の結果は 2.071 です (数値書式が少数テイン以下 3 桁に設定されている場合。)。

linest関数の使用方法の例

linest 関数は、直線回帰分析に関連した値の計算に使用します。このセクションでは、サンプル データを使って、linest で使用可能な QlikView 関数の値を特定するためのチャートの作成方法を説明します。linest 関数は、ロードスクリプトおよびチャート式で使用できます。

構文と引数については、各 linest チャート関数およびスクリプト関数のトピックを参照してください。

サンプル データのロード

次の手順を実行します。

1. 新規ドキュメントを作成します。
2. ツールバーで **[ロード スクリプトの編集]** を選択し、次のスクリプトを入力します。

```
T1:
LOAD *, 1 as Grp;
LOAD * inline [
```

```
X |Y
1| 0
2|1
3|3
4| 8
5| 14
6| 20
7| 0
8| 50
9| 25
10| 60
11| 38
12| 19
13| 26
14| 143
15| 98
16| 27
17| 59
18| 78
19| 158
20| 279 ] (delimiter is '|');
R1:
LOAD
Grp,
linest_B(Y,X) as Linest_B,
linest_DF(Y,X) as Linest_DF,
linest_F(Y,X) as Linest_F,
linest_M(Y,X) as Linest_M,
linest_R2(Y,X) as Linest_R2,
linest_SEB(Y,X,1,1) as Linest_SEB,
linest_SEM(Y,X) as Linest_SEM,
linest_SEY(Y,X) as Linest_SEY,
linest_SSREG(Y,X) as Linest_SSREG,
linest_SSRESID(Y,X) as Linest_SSRESID
resident T1 group by Grp;
```

3. スクリプトを保存し、**[リロード]** をクリックしてデータをロードします。

スクリプトの計算結果の表示

次の手順を実行します。

1. シートにテーブル ボックスを追加し、表示する以下の項目を選択します。
    - Linest_B
    - Linest_DF
    - Linest_F
    - Linest_M
    - Linest_R2
    - Linest_SEB
    - Linest_SEM
    - Linest_SEY
    - Linest_SSREG
    - Linest_SSRESID

ロード スクリプトで行われた linest 計算の結果が含まれるテーブルは、次のようになります。

結果の例(最初の5件)

Linest_B	Linest_DF	Linest_F	Linest_M	Linest_R2
-35.047	18	20.788	8.605	0.536

結果の例 (残り5 エントリ)

Linest_SEB	Linest_SEM	Linest_SEY	Linest_SSREG	Linest_SSRESID
22.607	1.887	48.666	49235.014	42631.186

linestチャート関数 チャートの作成

次の手順を実行します。

1. **オブジェクト> 新規 シート オブジェクト> チャート...** に移動して、新しい折れ線グラフを作成します:
   - **軸** ウィンドウで、X を軸として追加します。
   - **式** ウィンドウで、メジャーとして Sum(Y) を追加します。
   - **プレゼンテーション** ウィンドウで、**ゼロ値の抑制** の選択を解除します。

   X をY に対してプロットしたグラフを表す折れ線グラフが作成され、このグラフからlinest 関数の計算が行われます。
2. 数式 Sum(Y) には、直線のすう勢線機能を有効にし、[式の表示] をオンにします。
   これにより、記載されている直帰回帰関数に最適な QlikView に組み込まれている線が表示されます。
3. 次のように定義されている2 番目の数式を追加して、linest_b とlinest_m 関数を使用して直線回帰関数を計算します。
   $(=LINEST_M(Y,X))*ONLY(X)+$(=LINEST_B(Y,X))
4. シートにストレートテーブルを追加し、計算軸として以下を追加します。
   `ValueList('Linest_b', 'Linest_df','Linest_f', 'Linest_m','Linest_r2','Linest_SEB','Linest_SEM','Linest_SEY','Linest_SSREG','Linest_SSRESID')`
   その際、linest 関数の名前を持つ軸のラベルを作成するために合成軸関数を使用します。ラベルを **Linest functions** に変更してスペースを節約することも可能です。
5. 次の数式をメジャーとしてテーブルに追加します。
   ```
   Pick(Match(ValueList('Linest_b', 'Linest_df','Linest_f', 'Linest_m','Linest_r2','Linest_SEB','Linest_SEM','Linest_SEY','Linest_SSREG','Linest_SSRESID'),'Linest_b', 'Linest_df','Linest_f', 'Linest_m','Linest_r2','Linest_SEB','Linest_SEM','Linest_SEY','Linest_SSREG','Linest_SSRESID'),Linest_b(Y,X),Linest_df(Y,X),Linest_f(Y,X),Linest_m(Y,X),Linest_r2(Y,X),Linest_SEB(Y,X,1,1),Linest_SEM(Y,X),Linest_SEY(Y,X),Linest_SSREG(Y,X),Linest_SSRESID(Y,X) )
   ```
   これは、合成軸内の対応する名前の各 linest 関数の結果値を表示します。`Linest_b(Y,X)` の結果は **linest_b** の隣に表示されます。

テーブル形式での出力例

Linest functions	Linest function results
Linest_b	-35.047
Linest_df	18
Linest_f	20.788

Linest functions	Linest function results
Linest_m	8.605
Linest_r2	0.536
Linest_SEB	22.607
Linest_SEM	1.887
Linest_SEY	48.666
Linest_SSREG	49235.014
Linest_SSRESID	42631.186

統計検定関数

このセクションでは、統計検定の関数について説明します。この関数は次の 3 つのカテゴリに分類されます。関数は、ロードスクリプトとチャート式の両方で使用できますが、構文が異なります。

カイ二乗検定関数

通常は質的変数の調査に使用します。一元度数表で観測度数と期待度数を比較したり、分割表で 2 つの変数の関係を調べることができます。

t 検定関数

t 検定関数は、2 つの母平均の統計学的検討に使用されます。2 サンプル t 検定は、2 つの標本が異なるものかどうかを調べます。これは、一般に、2 つの正規分布の分散が不明であり、かつ実験で小さな標本サイズが使用される場合に使用されます。

z 検定関数

2 つの母平均の統計学的検討を行います。2 サンプル z 検定は、2 つの標本が異なるものかどうかを調べます。これは、一般に、2 つの正規分布の分散が既知であり、かつ実験で大きな標本サイズが使用される場合に使用されます。

カイ二乗検定関数

通常は質的変数の調査に使用します。一元度数表で観測度数と期待度数を比較したり、分割表で 2 つの変数の関係を調べることができます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

Chi2Test_chi2

Chi2Test_chi2() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ 2 乗検定の値を返します。

```
Chi2Test_chi2() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ 2 乗検定の値を返します。
(col, row, actual_value[, expected_value])
```

Chi2Test_df

Chi2Test_df() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ二乗検定の df 値 (自由度) を返します。

Chi2Test_df() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ二乗検定の df 値 (自由度) を返します。(col, row, actual_value[, expected_value])

Chi2Test_p

Chi2Test_p() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ二乗検定の p 値 (有意性) を返します。

Chi2Test_p - チャート関数(col, row, actual_value[, expected_value])

Chi2Test_chi2

Chi2Test_chi2() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ ^{2} 乗検定の値を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

すべて QlikView chi^2 検定の関数には、同じ引数が含まれています。

構文:

Chi2Test_chi2(col, row, actual_value[, expected_value])

戻り値データ型: 数値

引数:

- col, row: 検定対象の値マトリックスにおいて指定されている列と行を指します。
- actual_value: 指定した **col** および **row** でのデータの観測値です。
- expected_value: 指定した **col** および **row** での分布予想値です。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
Chi2Test_chi2( Grp, Grade, Count )
Chi2Test_chi2( Gender, Description, Observed, Expected )
```

Chi2Test_df

Chi2Test_df() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ二乗検定の df 値 (自由度) を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

すべて*QlikView chi*^{2} *検定の関数には、同じ引数が含まれています。*

構文:

```
Chi2Test_df(col, row, actual_value[, expected_value])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- col, row: 検定対象の値マトリックスにおいて指定されている列と行を指します。
- actual_value: 指定した **col** および **row** でのデータの観測値です。
- expected_value: 指定した **col** および **row** での分布予想値です。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
Chi2Test_df( Grp, Grade, Count )
Chi2Test_df( Gender, Description, Observed, Expected )
```

Chi2Test_p - チャート関数

Chi2Test_p() は、1 つまたは 2 つの一連の値に対して集計されたカイ二乗検定の p 値 (有意性) を返します。検定は、指定された **col** と **row** マトリックスの変動を検定する **actual_value** の値を用いて、または **actual_value** の値を **expected_value** の対応値と比較することで実行されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

すべて*QlikView chi*^{2} *検定の関数には、同じ引数が含まれています。*

構文:

```
Chi2Test_p(col, row, actual_value[, expected_value])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- col, row: 検定対象の値マトリックスにおいて指定されている列と行を指します。
- actual_value: 指定した **col** および **row** でのデータの観測値です。
- expected_value: 指定した **col** および **row** での分布予想値です。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
Chi2Test_p( Grp, Grade, Count )
Chi2Test_p( Gender, Description, Observed, Expected )
```

t 検定関数

t 検定関数は、2 つの母平均の統計学的検討に使用されます。2 サンプル t 検定は、2 つの標本が異なるものかどうかを調べます。これは、一般に、2 つの正規分布の分散が不明であり、かつ実験で小さな標本サイズが使用される場合に使用されます。

以下の t 検定統計関数は、各関数タイプに適用される標本のスチューデント検定に基づいてグループ化されています。

サンプル データのロード (page 1163)

2 つの独立標本による t 検定

次の関数は、2 つの独立標本のスチューデント t 検定に適用されます。

ttest_conf

TTest_conf は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t検定信頼区間値を返します。

```
TTest_conf は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t 検定信頼区間値を返します。 ( grp, value [, sig[, eq_var]])
```

ttest_df

TTest_df() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定値 (自由度) を返します。

```
TTest_df() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定値 (自由度) を返します。 (grp, value [, eq_var)
```

ttest_dif

TTest_dif() は数値関数で、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。

```
TTest_dif() は数値関数で、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。 (grp, value)
```

ttest_lower

TTest_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

```
TTest_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。
(grp, value [, sig[, eq_var]])
```

ttest_sig

TTest_sig() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の両側有意水準を返します。

TTest_sig() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。 (grp, value [, eq_var])

ttest_sterr

TTest_sterr() は、2 つの独立した一連の値値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。

TTest_sterr() は、2 つの独立した一連の値値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差の標準誤差を返します。 (grp, value [, eq_var])

ttest_t

TTest_t() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたt値を返します。

TTest_t() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t 値を返します。 (grp, value [, eq_var])

ttest_upper

TTest_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

TTest_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。 (grp, value [, sig [, eq_var]])

2 つの独立加重標本によるt検定

次の関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる、2 つの独立標本のスチューデントt検定に適用されます。

ttestw_conf

TTestw_conf() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたt値を返します。

TTestw_conf() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t 値を返します。 (weight, grp, value [, sig[, eq_var]])

ttestw_df

TTestw_df() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の df 値 (自由度) を返します。

TTestw_df() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の df 値 (自由度) を返します。 (weight, grp, value [, eq_var])

ttestw_dif

TTestw_dif() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。

TTestw_dif() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。 (weight, grp, value)

ttestw_lower

TTestw_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

TTestw_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。
(weight, grp, value [, sig[, eq_var]])

ttestw_sig
TTestw_sig() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の両側有意水準を返します。

TTestw_sig() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。 (weight, grp, value [, eq_var])

ttestw_sterr
TTestw_sterr() は、2 つの独立した一連の値値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。

TTestw_sterr() は、2 つの独立した一連の値値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差の標準誤差を返します。 (weight, grp, value [, eq_var])

ttestw_t
TTestw_t() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたt値を返します。

TTestw_t() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t 値を返します。 (weight, grp, value [, eq_var])

ttestw_upper
TTestw_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

TTestw_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。
(weight, grp, value [, sig [, eq_var]])

1 つの標本によるt検定

次の関数は、1 標本のスチューデントt検定に適用されます。

ttest1_conf
TTest1_conf() は、一連の値に対して集計された信頼区間値を返します。

TTest1_conf() は、一連の値に対して集計された信頼区間値を返します。 (value [, sig])

ttest1_df
TTest1_df() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の df 値 (自由度) を返します。

TTest1_df() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の df 値 (自由度) を返します。 (value)

ttest1_dif
TTest1_dif() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。

TTest1_dif() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。
(value)

ttest1_lower
TTest1_lower() は、一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

TTest1_lower() は、一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。 (value [, sig])

ttest1_sig

TTest1_sig() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の両側有意水準を返します。

TTest1_sig() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。 (value)

ttest1_sterr

TTest1_sterr() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。

TTest1_sterr() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差の標準誤差を返します。 (value)

ttest1_t

TTest1_t() は、一連の値に対して集計されたt値を返します。

TTest1_t() は、一連の値に対して集計された t 値を返します。 (value)

ttest1_upper

TTest1_upper() は、一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

TTest1_upper() は、一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。 (value [, sig])

1つの加重標本によるt検定

次の関数は、入力データ系列が加重2段組で与えられる、1標本のスチューデントt検定に適用されます。

ttest1w_conf

TTest1w_conf() は、一連の値に対して集計された信頼区間値を返す **numeric** 関数です。

TTest1w_conf() は、一連の値に対して集計された信頼区間値を返す numeric 関数です。 (weight, value [, sig])

ttest1w_df

TTest1w_df() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定のdf値 (自由度) を返します。

TTest1w_df() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の df 値 (自由度) を返します。 (weight, value)

ttest1w_dif

TTest1w_dif() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。

TTest1w_dif() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。 (weight, value)

ttest1w_lower

TTest1w_lower() は、一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

TTest1w_lower() は、一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。 (weight, value [, sig])

ttest1w_sig

TTest1w_sig() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の両側有意水準を返します。

```
TTest1w_sig() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。
(weight, value)
```

ttest1w_sterr

TTest1w_sterr() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。

```
TTest1w_sterr() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差の標準誤差を返します。 (weight, value)
```

ttest1w_t

TTest1w_t() は、一連の値に対して集計されたt値を返します。

```
TTest1w_t() は、一連の値に対して集計された t 値を返します。 ( weight, value)
```

ttest1w_upper

TTest1w_upper() は、一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

```
TTest1w_upper() は、一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。 (weight, value [, sig])
```

TTest_conf

TTest_conf は、2つの独立した一連の値に対して集計された t検定信頼区間値を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントのt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_conf ( grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された2つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_conf( Group, Value )
TTest_conf( Group, Value, Sig, false )
```

TTest_df

TTest_df() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt検定値 (自由度) を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントのt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_df (grp, value [, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_df( Group, Value )
TTest_df( Group, Value, false )
```

TTest_dif

TTest_dif() は数値関数で、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントのt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_dif (grp, value [, eq_var] )
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_dif( Group, Value )
TTest_dif( Group, Value, false )
```

TTest_lower

TTest_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_lower (grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_lower( Group, Value )
TTest_lower( Group, Value, Sig, false )
```

TTest_sig

TTest_sig() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の両側有意水準を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントのt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_sig (grp, value [, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_sig( Group, Value )
TTest_sig( Group, Value, false )
```

TTest_sterr

TTest_sterr() は、2 つの独立した一連の値値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントのt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_sterr (grp, value [, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_sterr( Group, Value )
TTest_sterr( Group, Value, false )
```

TTest_t

TTest_t() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t 値を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_t(grp, value[, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。

- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_t( Group, Value, false )
```

TTest_upper

TTest_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロード スクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest_upper (grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest_upper( Group, Value )
TTest_upper( Group, Value, sig, false )
```

TTestw_conf

TTestw_conf() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t 値を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデントt 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTestw_conf (weight, grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_conf( Weight, Group, Value )
TTestw_conf( Weight, Group, Value, sig, false )
```

TTestw_df

TTestw_df() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデントt 検定の df 値 (自由度) を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデントt 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTestw_df (weight, grp, value [, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_df( Weight, Group, Value )
TTestw_df( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_dif

TTestw_dif() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデント t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTestw_dif (weight, group, value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_dif( Weight, Group, Value )
TTestw_dif( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_lower

TTestw_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデント t 検定に適用されます。

関数がロード スクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTestw_lower (weight, grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_lower( Weight, Group, Value )
TTestw_lower( Weight, Group, Value, sig, false )
```

TTestw_sig

TTestw_sig() は、2 つの独立した一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデント t 検定に適用されます。

関数がロード スクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTestw_sig ( weight, grp, value [, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_sig( Weight, Group, Value )
TTestw_sig( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_sterr

TTestw_sterr() は、2 つの独立した一連の値値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデントt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTestw_sterr (weight, grp, value [, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。

- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_sterr( Weight, Group, Value )
TTestw_sterr( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_t

TTestw_t() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された t 値を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデント t 検定に適用されます。

関数がロード スクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ttestw_t (weight, grp, value [, eq_var])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_t( Weight, Group, Value )
TTestw_t( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_upper

TTestw_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、2 つの独立したサンプル スチューデントt 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTestw_upper (weight, grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTestw_upper( Weight, Group, Value )
TTestw_upper( Weight, Group, Value, sig, false )
```

TTest1_conf

TTest1_conf() は、一連の値に対して集計された信頼区間値を返します。

この関数は、1 サンプル スチューデントt 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_conf (value [, sig ])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

引数	説明
value	評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
sig	両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1_conf( Value )
TTest1_conf( Value, 0.005 )
```

TTest1_df

TTest1_df() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定のdf値 (自由度) を返します。

この関数は、1 サンプル スチューデントt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_df (value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

TTest1_df(Value)

TTest1_dif

TTest1_dif() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。

この関数は、1サンプル スチューデントt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_dif (value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

TTest1_dif(Value)

TTest1_lower

TTest1_lower() は、一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

この関数は、1サンプル スチューデントt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_lower (value [, sig])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。

- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1_lower( value )
TTest1_lower( value, 0.005 )
```

TTest1_sig

TTest1_sig() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の両側有意水準を返します。

この関数は、1 サンプル スチューデントt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_sig (value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1_sig( value )
```

TTest1_sterr

TTest1_sterr() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。

この関数は、1 サンプル スチューデントt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_sterr (value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1_sterr( value )
```

TTest1_t

TTest1_t() は、一連の値に対して集計された t 値を返します。

この関数は、1 サンプル スチューデント t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_t (value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1_t( value )
```

TTest1_upper

TTest1_upper() は、一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

この関数は、1 サンプル スチューデント t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1_upper (value [, sig])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1_upper( Value )
TTest1_upper( Value, 0.005 )
```

TTest1w_conf

TTest1w_conf() は、一連の値に対して集計された信頼区間値を返す **numeric** 関数です。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1 サンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_conf (weight, value [, sig ])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1w_conf( Weight, Value )
TTest1w_conf( Weight, Value, 0.005 )
```

TTest1w_df

TTest1w_df() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定のdf値 (自由度) を返します。

この関数は、加重2段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1サンプル スチューデントのt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_df (weight, value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って1回または複数回カウントされます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1w_df( Weight, Value )
```

TTest1w_dif

TTest1w_dif() は、一連の値に対して集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。

この関数は、加重2段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1サンプル スチューデントのt検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_dif (weight, value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1w_dif( Weight, Value )
```

TTest1w_lower

TTest1w_lower() は、一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1 サンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_lower (weight, value [, sig ])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1w_lower( Weight, Value )
TTest1w_lower( Weight, Value, 0.005 )
```

TTest1w_sig

TTest1w_sig() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1 サンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_sig (weight, value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1w_sig( Weight, Value )
```

TTest1w_sterr

TTest1w_sterr() は、一連の値に対して集計されたスチューデント t 検定の平均の差の標準誤差を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1 サンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_sterr (weight, value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

TTest1w_sterr(Weight, Value)

TTest1w_t

TTest1w_t() は、一連の値に対して集計された t 値を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1 サンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_t ( weight, value)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

TTest1w_t(Weight, Value)

TTest1w_upper

TTest1w_upper() は、一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

この関数は、加重 2 段組に入力データ系列が与えられている状態にある、1 サンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
TTest1w_upper (weight, value [, sig])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価されるサンプルです。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- weight: **value** の各値は、**weight** に対応する加重値に従って 1 回または複数回カウントされます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
TTest1w_upper( Weight, Value )
TTest1w_upper( Weight, Value, 0.005 )
```

z 検定関数

2 つの母平均の統計学的検討を行います。2 サンプル z 検定は、2 つの標本が異なるものかどうかを調べます。これは、一般に、2 つの正規分布の分散が既知であり、かつ実験で大きな標本サイズが使用される場合に使用されます。

z 検定統計関数は、関数に適用される入力データ系列のタイプに基づいてグループ化されています。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

サンプル データのロード (page 1166)

1 段組形式の関数

次の関数は、シンプルな入力データ系列を含む z 検定に適用されます。

ztest_conf
ZTest_conf() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。

ZTest_conf() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。 (value [, sigma [, sig])

ztest_dif
ZTest_dif() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差を返します。

ZTest_dif() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差を返します。 (value [, sigma])

ztest_sig
ZTest_sig() は、一連の値に対して集計された z 検定の両側有意水準を返します。

ZTest_sig() は、一連の値に対して集計された z 検定の両側有意水準を返します。 (value [, sigma])

ztest_sterr

ZTest_sterr() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。

ZTest_sterr() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。 (value [, sigma])

ztest_z

ZTest_z() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。

ZTest_z() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。 (value [, sigma])

ztest_lower

ZTest_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

ZTest_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。 (grp, value [, sig [, eq_var]])

ztest_upper

ZTest_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

ZTest_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。 (grp, value [, sig [, eq_var]])

加重 2 段組形式の関数

次の関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

ztestw_conf

ZTestw_conf() は、一連の値に対して集計された z 信頼区間値を返します。

ZTestw_conf() は、一連の値に対して集計された z 信頼区間値を返します。 (weight, value [, sigma [, sig]])

ztestw_dif

ZTestw_dif() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差を返します。

ZTestw_dif() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差を返します。 (weight, value [, sigma])

ztestw_lower

ZTestw_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

ZTestw_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。 (weight, value [, sigma])

ztestw_sig

ZTestw_sig() は、一連の値に対して集計された z 検定の両側有意水準を返します。

ZTestw_sig() は、一連の値に対して集計された z 検定の両側有意水準を返します。 (weight, value [, sigma])

ztestw_sterr

ZTestw_sterr() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。

ZTestw_sterr() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。
(weight, value [, sigma])

ztestw_upper

ZTestw_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

ZTestw_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。
(weight, value [, sigma])

ztestw_z

ZTestw_z() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。

ZTestw_z() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。 (weight, value [, sigma])

ZTest_z

ZTest_z() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:
ZTest_z(value[, sigma])

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその平均値を減算します。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTest_z( Value-TestValue )
```

ZTest_sig

ZTest_sig() は、一連の値に対して集計された z 検定の両側有意水準を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTest_sig(value[, sigma])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその平均値を減算します。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTest_sig(Value-TestValue)
```

ZTest_dif

ZTest_dif() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTest_dif(value[, sigma])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその平均値を減算します。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTest_dif(Value-TestValue)
```

ZTest_sterr

ZTest_sterr() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTest_sterr(value[, sigma])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその平均値を減算します。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTest_sterr(Value-TestValue)
```

ZTest_conf

ZTest_conf() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTest_conf(value[, sigma[, sig]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその平均値を減算します。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTest_conf(Value-TestValue)
```

ZTest_lower

ZTest_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTest_lower (grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTest_lower( Group, Value )
ZTest_lower( Group, Value, sig, false )
```

ZTest_upper

ZTest_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTest_upper (grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTest_upper( Group, Value )
ZTest_upper( Group, Value, sig, false )
```

ZTestw_z

ZTestw_z() は、一連の値に対して集計された z 値を返します。

この関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTestw_z (weight, value [, sigma])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 値は、**value** によって返される必要があります。標本平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。
- weight: **value** の各サンプル値は、**weight** に対応する重みに従って、1 回または複数回カウントされます。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTestw_z( Weight, Value-TestValue)
```

ZTestw_sig

ZTestw_sig() は、一連の値に対して集計された z 検定の両側有意水準を返します。

この関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTestw_sig (weight, value [, sigma])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 値は、**value** によって返される必要があります。標本平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。
- weight: **value** の各サンプル値は、**weight** に対応する重みに従って、1 回または複数回カウントされます。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTestw_sig( Weight, Value-TestValue)
```

ZTestw_dif

ZTestw_dif() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差を返します。

この関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTestw_dif ( weight, value [, sigma])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 値は、**value** によって返される必要があります。標本平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。
- weight: **value** の各サンプル値は、**weight** に対応する重みに従って、1 回または複数回カウントされます。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTestw_dif( Weight, Value-TestValue)
```

ZTestw_sterr

ZTestw_sterr() は、一連の値に対して集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。

この関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTestw_sterr (weight, value [, sigma])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 値は、**value** によって返される必要があります。標本平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。
- weight: **value** の各サンプル値は、**weight** に対応する重みに従って、1 回または複数回カウントされます。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTestw_sterr( Weight, Value-TestValue)
```

ZTestw_conf

ZTestw_conf() は、一連の値に対して集計された z 信頼区間値を返します。

この関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTest_conf(weight, value[, sigma[, sig]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその平均値を減算します。
- weight: **value** の各サンプル値は、**weight** に対応する重みに従って、1 回または複数回カウントされます。
- sigma: 標準偏差がわかっている場合は、**sigma** に記述します。**sigma** の記述を省略すると、実際のサンプル標準偏差が使用されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTestw_conf( Weight, Value-TestValue)
```

ZTestw_lower

ZTestw_lower() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の下限値を返します。

関数がロードスクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTestw_lower (grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロードスクリプトに入力されていない場合、**Value**

という名前が自動的に付与されます。

- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTestw_lower( Group, Value )
ZTestw_lower( Group, Value, sig, false )
```

ZTestw_upper

ZTestw_upper() は、2 つの独立した一連の値に対して集計された信頼区間の上限値を返します。

この関数は、独立したサンプル スチューデントの t 検定に適用されます。

関数がロード スクリプトでが使用される場合、値は group by 句で定義されたレコードで反復処理されます。

関数がチャート式で使用される場合、値はチャート軸に対して反復処理されます。

構文:

```
ZTestw_upper (grp, value [, sig [, eq_var]])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 評価対象の標本値です。サンプル値は、**group** で指定された 2 つの値に従って、論理的にグループ化する必要があります。サンプル値の項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Value** という名前が自動的に付与されます。
- grp: 2 つのサンプル グループの名前が含まれている項目です。グループの項目名がロード スクリプトに入力されていない場合、**Type** という名前が自動的に付与されます。
- sig: 両側有意水準は、**sig** で指定します。指定されない場合、**sig** は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。
- eq_var: **eq_var** が False (0) に指定されている場合、2 つのサンプルは個別に分散していると解釈されます。**eq_var** が True (1) に指定されている場合、サンプルは均等に分散していると解釈されます。

制限事項:

数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、この関数は NULL を返します。

```
ZTestw_upper( Group, Value )
```

```
ZTestw_upper( Group, Value, sig, false )
```

統計検定関数の例

このセクションでは、チャートとロードスクリプトで使用される統計検定関数の例を紹介します。

チャートでの chi2-test 関数の使用例

chi2-test 関数は、カイ二乗統計分析に関連した値の計算に使用します。このセクションでは、サンプルデータを用いて QlikView で使用可能なカイ二乗分布検定関数の値を特定するためのチャートの作成方法を説明します。構文と引数については、各 chi2-test チャート関数のトピックを参照してください。

10.8 サンプルデータのロード

3 つの異なる統計サンプルをスクリプトにロードする方法を説明するために、3 組のサンプルデータを使用します。

次の手順を実行します。

1. 新規ドキュメントを作成します。
2. ツールバーで **[ロードスクリプトの編集]** を選択し、次のスクリプトを入力します。

```
// Sample_1 data is pre-aggregated... Note: make sure you set your DecimalSep='.' at the
top of the script.
Sample_1:
LOAD * inline [
Grp,Grade,Count
I,A,15
I,B,7
I,C,9
I,D,20
I,E,26
I,F,19
II,A,10
II,B,11
II,C,7
II,D,15
II,E,21
II,F,16
];
// Sample_2 data is pre-aggregated: If raw data is used, it must be aggregated using
count()...
Sample_2:
LOAD * inline [
Sex,Opinion,OpCount
1,2,58
1,1,11
1,0,10
2,2,35
2,1,25
2,0,23 ] (delimiter is ',');
// Sample_3a data is transformed using the crosstable statement...
Sample_3a:
crosstable(Gender, Actual) LOAD
Description,
[Men (Actual)] as Men,
[Women (Actual)] as Women;
LOAD * inline [
Men (Actual),Women (Actual),Description
```

```
58,35,Agree
11,25,Neutral
10,23,Disagree ] (delimiter is ',');
// Sample_3b data is transformed using the crosstable statement...
Sample_3b:
crosstable(Gender, Expected) LOAD
Description,
[Men (Expected)] as Men,
[Women (Expected)] as Women;
LOAD * inline [
Men (Expected),Women (Expected),Description
45.35,47.65,Agree
17.56,18.44,Neutral
16.09,16.91,Disagree ] (delimiter is ',');
// Sample_3a and Sample_3b will result in a (fairly harmless) Synthetic Key...
```

3. スクリプトを保存し、**[リロード]** をクリックしてデータをロードします。

10.9 chi2-testチャート関数 チャートの作成

サンプル 1

次の手順を実行します。

1. シートにテーブル ボックスを追加し、軸として Grp、Grade、Count を追加します。
   このテーブルにはサンプル データが表示されています。
2. 以下の計算軸でストレート テーブルを追加します。
   `ValueList('p','df','Chi2')`
   その際、3 つの chi2-test 関数の名前を持つ軸のラベルを作成するために合成軸関数を使用します。
3. 以下の数式を追加します。
   ```
   IF(ValueList('p','df','Chi2')='p',Chi2Test_p(Grp,Grade,Count),
   IF(ValueList('p','df','Chi2')='df',Chi2Test_df(Grp,Grade,Count),
   Chi2Test_Chi2(Grp,Grade,Count)))
   ```
   これにより、各 chi2-test 関数の結果値が関連する合成軸の横のテーブルに表示されます。
4. 数式の数値の書式を **[数値]** に、**[有効桁数]** を **[3]** に設定します。



式では、代わりに次の式を使用することもできます:

```
Pick(Match(ValueList('p','df','Chi2'),'p','df','Chi2'),Chi2Test_p
(Grp,Grade,Count),Chi2Test_df(Grp,Grade,Count),Chi2Test_Chi2(Grp,Grade,Count))
```

結果:

サンプル 1 の chi2-test 関数の結果テーブルには次の値が含まれます。

例の結果

p	df	Chi2
0.820	5	2.21

サンプル 2

次の手順を実行します。

1. シートに別のテーブル ボックスを追加し、軸として Sex、Opinion、OpCount を追加します。
2. サンプル 1 の結果ストレート テーブルを **[クリップボードにコピー]/[オブジェクト]** と **[シート オブジェクトの貼り付け]** コマンドでコピーします。数式を編集し、3 つの chi2-test 関数すべての引数をサンプル 2 データで使用されている名前 (例えば、`Chi2Test_p(Sex,Opinion,OpCount)`) に置き換えます。

結果:

サンプル 2 の chi2-test 関数の結果テーブルには次の値が含まれます。

例の結果

p	df	Chi2
0.000309	2	16.2

サンプル 3

次の手順を実行します。

1. サンプル 1 および 2 と同じ方法でテーブル ボックスとストレート テーブルをさらに 1 つずつ作成します。テーブル ボックスで、Gender、Description、Actual、Expected を軸として使用します。
2. 結果ストレート テーブルで、サンプル 3 データで使用した項目名を使用します。例:`Chi2Test_p(Gender,Description,Actual,Expected)`

結果:

サンプル 3 の chi2-test 関数の結果テーブルには次の値が含まれます。

例の結果

p	df	Chi2
0.000308	2	16.2

ロード スクリプトでの chi2-test 関数の使用例

chi2-test 関数は、カイ二乗統計分析に関連した値の計算に使用します。このセクションでは、QlikView で使用可能なカイ二乗分布検定関数のロード スクリプトでの使用方法を説明します。構文と引数については、各 chi2-test スクリプト関数のトピックを参照してください。

この例では、2 グループ (I と II) の学生の成績 (A から F) 別の人数を含むテーブルを使用します。

chi2-test example

-	A	B	C	D	E	F
I	15	7	9	20	26	19
II	10	11	7	15	21	16

10.10 サンプル データのロード

次の手順を実行します。

1. 新規ドキュメントを作成します。
2. ツールバーで **[ロード スクリプトの編集]** を選択し、次のスクリプトを入力します。
```
// Sample_1 data is pre-aggregated... Note: make sure you set your DecimalSep='.' at the top of the script.
Sample_1:
LOAD * inline [
Grp,Grade,Count
I,A,15
I,B,7
I,C,9
I,D,20
I,E,26
I,F,19
II,A,10
II,B,11
II,C,7
II,D,15
II,E,21
II,F,16
];
```
3. スクリプトを保存し、**[リロード]** をクリックしてデータをロードします。

サンプル データがロードされます。

10.11 chi2-test 関数の値のロード

chi2-test の値を Grp でグループ化された新しいテーブルのサンプル データに基づいて、ロードします。

次の手順を実行します。

1. ツールバーで **[スクリプトの編集]** を選択して、スクリプとの最後に次を追加します。
```
// Sample_1 data is pre-aggregated... Note: make sure you set your DecimalSep='.' at the top of the script.
Chi2_table:
LOAD Grp,
Chi2Test_chi2(Grp, Grade, Count) as chi2,
Chi2Test_df(Grp, Grade, Count) as df,
Chi2Test_p(Grp, Grade, Count) as p
resident Sample_1 group by Grp;
```
2. スクリプトを保存し、**[リロード]** をクリックしてデータをロードします。

chi2-test の値が、Chi2_table という名前のテーブルにロードされます。

10.12 結果

chi2-test の結果の値を、テーブル ビューアで表示できます。次のように表示されます。

chi2-test results

Grp	chi2	df	p
I	16.00	5	0.007
II	9.40	5	0.094

標準的な t-test レポートの作成

標準的なスチューデントt-test レポートには、**Group Statistics** と**Independent Samples Test** の結果を含むテーブルを掲載できます。以下のセクションでは、QlikViewt-test 関数を 2 つの独立したサンプル グループ、Observation とComparison に適用してテーブルを構築します。これらのサンプルに対応するテーブルは以下のようになります。

Group Statistics

グループ統計のテーブル出力例

Type	N	Mean	Standard Deviation	Standard Error Mean
Comparison	20	11.95	14.61245	3.2674431
Observation	20	27.15	12.507997	2.7968933

Independent Sample Test

独立サンプル テストのテーブル出力例

-	t	df	Sig. (2-tailed)	Mean Difference	Standard Error Difference	95% Confidence Interval of the Difference (Lower)	95% Confidence Interval of the Difference (Upper)
Equal Variance not Assumed	3.534	37.116717335823	0.001	15.2	4.30101	6.48625	23.9137
Equal Variance Assumed	3.534	38	0.001	15.2	4.30101	6.49306	23.9069

10.13 サンプル データのロード

次の手順を実行します。

1. 新規ドキュメントを作成します。
2. ツールバーで **[ロード スクリプトの編集]** を選択し、次のスクリプトを入力します。

```
Table1:
crosstable LOAD recno() as ID, * inline [
Observation|Comparison
```

```
35|2
40|27
12|38
15|31
21|1
14|19
46|1
10|34
28|3
48|1
16|2
30|3
32|2
48|1
31|2
22|1
12|3
39|29
19|37
25|2 ] (delimiter is '|');
```

このロードスクリプトでは、**crosstable** に 3 つの引数が必要となるため、**recno()** が含まれています。よって、**recno()** により追加の引数 (この場合は各行の ID) が返されます。これが存在しない場合、**Comparison** サンプル値はロードされません。

3. スクリプトを保存し、**[リロード]** をクリックしてデータをロードします。

10.14 Group Statistics テーブルの作成

次の手順を実行します。

1. シートにストレートテーブルを追加し、軸として Type を選択します。
2. 以下の数式を追加します。

追加する数式

ラベル	数式
N	Count(Value)
Mean	Avg(Value)
Standard Deviation	Stdev(Value)
Standard Error Mean	Sterr(Value)

3. Type がソートリストの先頭にあることを確認します。

結果:

これらのサンプルの Group Statistics テーブルは以下のようになります。

グループ統計のテーブル出力例

Type	N	Mean	Standard Deviation	Standard Error Mean
Comparison	20	11.95	14.61245	3.2674431
Observation	20	27.15	12.507997	2.7968933

10.15 Two Independent Sample Student's T-test テーブルの作成

次の手順を実行します。

1. テーブルをシートに追加します。
2. テーブルに以下の計算軸を軸として追加します。`=ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1))`
3. 以下の数式を追加します。

追加する数式

ラベル	数式
conf	if(ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1)),TTest_conf(Type, Value),TTest_conf(Type, Value, 0))
t	if(ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1)),TTest_t(Type, Value),TTest_t(Type, Value, 0))
df	if(ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1)),TTest_df(Type, Value),TTest_df(Type, Value, 0))
Sig. (2-tailed)	if(ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1)),TTest_sig(Type, Value),TTest_sig(Type, Value, 0))
Mean Difference	TTest_dif(Type, Value)
Standard Error Difference	if(ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1)),TTest_sterr(Type, Value),TTest_sterr(Type, Value, 0))
95% Confidence Interval of the Difference (Lower)	if(ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1)),TTest_lower(Type, Value,(1-(95)/100)/2),TTest_lower (Type, Value,(1-(95)/100)/2, 0))
95% Confidence Interval of the Difference (Upper)	if(ValueList (Dual('Equal Variance not Assumed', 0), Dual('Equal Variance Assumed', 1)),TTest_upper(Type, Value,(1-(95)/100)/2),TTest_upper (Type, Value,(1-(95)/100)/2, 0))

結果:

これらのサンプルの **Independent Sample Test** テーブルは以下のようになります。

独立サンプル テストのテーブル出力例

-	t	df	Sig. (2-tailed)	Mean Difference	Standard Error Difference	95% Confidence Interval of the Difference (Lower)	95% Confidence Interval of the Difference (Upper)
Equal Variance not Assumed	3.534	37.116717335823	0.001	15.2	4.30101	6.48625	23.9137
Equal Variance Assumed	3.534	38	0.001	15.2	4.30101	6.49306	23.9069

z-test 関数の使用例

z-test 関数は、分散が既知であり、通常 30 を超える大型データサンプルの z-test 統計分析に関連した値を特定する際に使用します。このセクションでは、サンプル データを使って、QlikView で使用可能な z-test 関数の値を特定するためのチャートの作成方法を説明します。構文と引数については、各 z-test チャート関数のトピックを参照してください。

10.16 サンプル データのロード

ここで使用するサンプル データは、t-test 関数の例で使用したものと同じです。このサンプル データは通常 z 検定分析には小さすぎますが、ここでは QlikView で異なる z-test 関数の使用を説明する目的で使用します。

次の手順を実行します。

1. 新規ドキュメントを作成します。

   t-test 関数用のドキュメントを作成したことがある場合、そのアプリを使ってこれらの関数のシートを新規作成することも可能です。

2. ツールバーで **[ロード スクリプトの編集]** を選択し、次のスクリプトを入力します。

```
Table1:
crosstable LOAD recno() as ID, * inline [
Observation|Comparison
35|2
40|27
12|38
15|31
21|1
14|19
46|1
10|34
28|3
48|1
16|2
```

```
30|3
32|2
48|1
31|2
22|1
12|3
39|29
19|37
25|2 ] (delimiter is '|');
```

このロードスクリプトでは、**crosstable** に 3 つの引数が必要となるため、**recno()** が含まれています。よって、**recno()** により追加の引数 (この場合は各行の ID) が返されます。これが存在しない場合、**Comparison** サンプル値はロードされません。

3. スクリプトを保存し、**[リロード]** をクリックしてデータをロードします。

10.17 z-testチャート関数チャートの作成

次の手順を実行します。

1. シートにストレートテーブルを追加し、軸として Type を選択します。
2. 以下の数式を追加します。

追加する数式

ラベル	数式
ZTest Conf	ZTest_conf(Value)
ZTest Dif	ZTest_dif(Value)
ZTest Sig	ZTest_sig(Value)
ZTest Sterr	ZTest_sterr(Value)
ZTest Z	ZTest_z(Value)

意味のある値を表示するために、必要に応じてメジャーの数値形式を調整します。大部分の数値形式に対して[小数点以下の桁数]を2に設定すると、テーブルの読み取りが容易になります。たとえば ZTest Sig の場合は、数値形式に[数値]を使用し、書式パターンを# ##に調整します。

結果:

サンプルデータの z-test 関数の結果テーブルには次の値が含まれます。

z-test テーブル出力の例

Type	ZTest Conf	ZTest Dif	ZTest Sig	ZTest Sterr	ZTest Z
Comparison	6.40	11.95	0.000123	3.27	3.66
Value	5.48	27.15	0.001	2.80	9.71

10.18 z-testwチャート関数チャートの作成

z-testw 関数は、入力データ系列が加重 2 段組で発生した場合に使用します。この数式には、weight 引数の値が必要です。ここで示す例では全体的に値 2 が使用されていますが、各観測値の weight を値として定義する数式を使用することもできます。

例と結果:

z-test 関数と同じサンプル データと数値形式をすると、z-testw 関数は次の値を含む結果テーブルを返します。

z-testw テーブル出力の例

Type	ZTestw Conf	ZTestw Dif	ZTestw Sig	ZTestw Sterr	ZTestw Z
Comparison	3.53	2.95	5.27e-005	1.80	3.88
Value	2.97	34.25	0	4.52	20.49

文字列集計関数

このセクションでは、文字列関連の集計関数について説明します。

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ロードスクリプトの文字列集計関数

Concat

Concat() は、文字列値を組み合わせるために使用します。このスクリプト関数は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される数式の値をすべて集計した文字列連結を返します。

```
Concat ([ distinct ] expression [, delimiter [, sort-weight]])
```

FirstValue

FirstValue() は、数式で定義され、**group by** 句でソートされたレコードから最初にロードされた値を返します。

> *この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。*

```
FirstValue (expression)
```

LastValue

LastValue() は、数式で定義され、**group by** 句でソートされたレコードから最後にロードされた値を返します。

> *この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。*

```
LastValue (expression)
```

MaxString

MaxString() は、数式の文字列値を算出し、**group by** 句で定義されたレコードでソートされる最後のテキスト値を返します。

```
MaxString (expression )
```

MinString

MinString() は、数式の文字列値を算出し、**group by** 句で定義されたレコードでソートされる最初のテキスト値を返します。

```
MinString (expression )
```

チャートの文字列集計関数

次のチャート関数は、チャートの文字列を集計する際に使用できます。

Concat

Concat() は、文字列値を組み合わせるために使用します。この関数では、それぞれの軸に対して評価された数式に含まれるあらゆる値の文字列連結が返されます。

```
Concat- チャート関数({[SetExpression] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] string[, delimiter[, sort_weight]])
```

MaxString

MaxString() は、数式または項目に含まれる文字列の値を特定し、テキストソート順での最後のテキスト値を返します。

```
MaxString- チャート関数({[SetExpression] [TOTAL [<fld{, fld}>]]} expr)
```

MinString

MinString() は、数式または項目に含まれる文字列の値を特定し、テキストソート順での最初のテキスト値を返します。

```
MinString- チャート関数({[SetExpression] [TOTAL [<fld {, fld}>]]} expr)
```

Concat

Concat() は、文字列値を組み合わせるために使用します。このスクリプト関数は、**group by** 句で定義されたレコードで反復処理される数式の値をすべて集計した文字列連結を返します。

```
Concat ([ distinct ] string [, delimiter [, sort_weight]])
```

戻り値データ型： 文字列

処理される文字列が含まれている数式および項目。

引数を連結

引数	説明
string	処理される文字列が含まれている数式および項目。
delimiter	各値は、delimiter の文字列によって区切られます。

引数	説明
sort_weight	連結の順序は、軸 **sort_weight** の値によって決定されます。最小値に対応する文字列が連結の最初に表示されます。0 が **sort_weight** 引数値として使用される場合、出力にソートは適用されません。**sort_weight** 引数が省略された場合、関数は既定で英数字順のソートになります。
distinct	数式の前に **distinct** という用語が付いている場合、重複はすべて無視されます。

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果フィールド	結果値

`TeamData:`
`LOAD * inline [`
`SalesGroup|Team|Date|Amount`
`East|Gamma|01/05/2013|20000`
`East|Gamma|02/05/2013|20000`
`West|Zeta|01/06/2013|19000`
`East|Alpha|01/07/2013|25000`
`East|Delta|01/08/2013|14000`
`West|Epsilon|01/09/2013|17000`
`West|Eta|01/10/2013|14000`
`East|Beta|01/11/2013|20000`
`West|Theta|01/12/2013|23000`
`] (delimiter is '|');`
`Concat1:`
`LOAD SalesGroup,Concat(Team) as TeamConcat1`
`Resident TeamData Group By SalesGroup;`
	SalesGroup
	East
	West
		TeamConcat1
		AlphaBetaDeltaGammaGamma
		EpsilonEtaThetaZeta

TeamData テーブルが前の例のようにロードされた場合: `LOAD SalesGroup,Concat(distinct Team,'-') as TeamConcat2 Resident TeamData Group By SalesGroup;`	SalesGroup East West	TeamConcat2 Alpha-Beta-Delta-Gamma Epsilon-Eta-Theta-Zeta
TeamData テーブルが前の例のようにロードされた場合:**sort_weight** 引数が追加されているので、結果は軸 Amount の値によって並べ替えられます。 `LOAD SalesGroup,Concat(distinct Team,'-',Amount) as TeamConcat2 Resident TeamData Group By SalesGroup;`	SalesGroup East West	TeamConcat2 Delta-Beta-Gamma-Alpha Eta-Epsilon-Zeta-Theta

例	結果フィールド	結果値
T1: Load * INLINE [EmployeeID, Unit, Department, Age, Salary, Country 1, A, z, 30, 81000, GER 2, B, z, 29, 39000, IRL 3, B, y, 40, 58000, IRL 4, A, y, 45, 71000, USA 5, A, z, 26, 79000, GBR 6, B, z, 20, 31000, GER 7, A, y, 56, 29000, USA 8, A, y, 35, 52000, GBR]; T2: Load Unit, Concat(Age, '-', 0) as ConcatNoSort resident T1 group by Unit;	Unit A B	ConcatNoSort 30-45-26-56-35 29-40-20

Concat- チャート関数

Concat() は、文字列値を組み合わせるために使用します。この関数では、それぞれの軸に対して評価された数式に含まれるあらゆる値の文字列連結が返されます。

```
Concat({[SetExpression] [DISTINCT] [TOTAL [<fld{, fld}>]] string[, delimiter [, sort_weight]]})
```

戻り値データ型： 文字列

引数の連結

引数	説明
string	処理される文字列が含まれている数式および項目。
delimiter	各値は、delimiter の文字列によって区切られます。
sort_weight	連結の順序は、軸 **sort_weight** の値によって決定されます。最小値に対応する文字列が連結の最初に表示されます。0 が **sort_weight** 引数値として使用される場合、出力にソートは適用されません。**sort_weight** 引数が省略された場合、関数は既定で英数字順のソートになります。
SetExpression	デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
distinct	数式の前に **distinct** という用語が付いている場合、重複はすべて無視されます。

引数	説明
TOTAL	関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
`Concat(Team)`	テーブルは、軸 SalesGroup とAmount、およびメジャー Concat(Team) のバリエーションで構成されています。テーブル結果を無視すると、SalesGroup の 2 つの値にまたがる Team の 8 つの値のデータがある場合でも、テーブルでは複数の Team 文字列値を連結するメジャー Concat(Team) の結果のみが、軸 Amount 20000 を含む行になる点に注意が必要です。これにより、BetaGammaGamma が得られます。これは、入力データで Amount 20000 の値が 3 つあるためです。SalesGroup とAmount の各組み合わせの Team の値は 1 つしかないため、メジャーが軸全体にある場合は、その他すべての結果は連結されません。
`Concat (DISTINCT Team,', ')`	Beta, Gamma (DISTINCT 修飾子を使用すると、重複した Gamma の結果が無視されるため。また、区切り記号の引数がコンマとスペースで定義されているため)。
`Concat (TOTAL <SalesGroup> Team)`	TOTAL 修飾子が使用されている場合、Team のあらゆる値の文字列値がすべて連結されます。<SalesGroup> の項目選択が指定されている場合は、SalesGroup 軸の 2 つの値に結果が分割されます。SalesGroup East の結果は AlphaBetaDeltaGammaGamma になります。SalesGroup West の結果は EpsilonEtaThetaZeta になります。
`Concat (TOTAL <SalesGroup> Team,';', Amount)`	**sort_weight**: Amount の引数を追加すると、結果は Amount 軸の値によって順位が付けられます。結果は、DeltaBetaGammaGammaAlpha および EtaEpsilonZEtaTheta になります。
`Concat(Team, '', 0)`	**sort_weight** を 0 に設定すると、結果はソートされません。
`Concat(TOTAL <SalesGroup> Team, '', 0)`	**sort_weight** を 0 に設定すると、結果はソートされません。さらに、Team 修飾子が使用されているため、TOTAL のあらゆる値の文字列値がすべて連結されます。

例で使用されているデータ:

```
TeamData:
LOAD * inline [
SalesGroup|Team|Date|Amount
East|Gamma|01/05/2013|20000
East|Gamma|02/05/2013|20000
West|Zeta|01/06/2013|19000
East|Alpha|01/07/2013|25000
East|Delta|01/08/2013|14000
West|Epsilon|01/09/2013|17000
West|Eta|01/10/2013|14000
```

```
East|Beta|01/11/2013|20000
West|Theta|01/12/2013|23000
] (delimiter is '|');
```

データテーブルの例

SalesGroup	Amount	Concat (Team)	Concat(TOTAL <SalesGroup> Team)	Concat(Team, ', ', 0)	Concat(TOTAL <SalesGroup> Team, '', 0)
East	14000	Delta	AlphaBetaDeltaGammaGamma	Delta	GammaGammaAlphaDeltaBeta
East	20000	BetaGammaGamma	AlphaBetaDeltaGammaGamma	GammaGammaBeta	GammaGammaAlphaDeltaBeta
East	25000	Alpha	AlphaBetaDeltaGammaGamma	Alpha	GammaGammaAlphaDeltaBeta
West	14000	Eta	EpsilonEtaThetaZeta	Eta	ZetaEpsilonEtaTheta
West	17000	Epsilon	EpsilonEtaThetaZeta	Epsilon	ZetaEpsilonEtaTheta
West	19000	Zeta	EpsilonEtaThetaZeta	Zeta	ZetaEpsilonEtaTheta
West	23000	Theta	EpsilonEtaThetaZeta	Theta	ZetaEpsilonEtaTheta

FirstValue

FirstValue() は、数式で定義され、**group by** 句でソートされたレコードから最初にロードされた値を返します。

この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。

構文:

```
FirstValue ( expr)
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

FirstValue 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

制限事項:

テキスト値が見つからない場合は、NULL が返されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果項目	結果の値
TeamData: LOAD * inline [SalesGroup|Team|Date|Amount East|Gamma|01/05/2013|20000 East|Gamma|02/05/2013|20000 West|Zeta|01/06/2013|19000 East|Alpha|01/07/2013|25000 East|Delta|01/08/2013|14000 West|Epsilon|01/09/2013|17000 West|Eta|01/10/2013|14000 East|Beta|01/11/2013|20000 West|Theta|01/12/2013|23000] (delimiter is '|'); FirstValue1: LOAD SalesGroup,FirstValue(Team) as FirstTeamLoaded Resident TeamData Group By SalesGroup;	SalesGroup East West	FirstTeamLoaded Gamma Zeta

LastValue

LastValue() は、数式で定義され、**group by** 句でソートされたレコードから最後にロードされた値を返します。

この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。

構文:

```
LastValue ( expr )
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

LastValue 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

制限事項:

テキスト値が見つからない場合は、NULL が返されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果項目	結果の値
TeamData: LOAD * inline [SalesGroup|Team|Date|Amount East|Gamma|01/05/2013|20000 East|Gamma|02/05/2013|20000 West|Zeta|01/06/2013|19000 East|Alpha|01/07/2013|25000 East|Delta|01/08/2013|14000 West|Epsilon|01/09/2013|17000 West|Eta|01/10/2013|14000 East|Beta|01/11/2013|20000 West|Theta|01/12/2013|23000] (delimiter is '|'); LastValue1: LOAD SalesGroup,LastValue(Team) as LastTeamLoaded Resident TeamData Group By SalesGroup;	SalesGroup East West	LastTeamLoaded Beta Theta

MaxString

MaxString() は、数式の文字列値を算出し、**group by** 句で定義されたレコードでソートされる最後のテキスト値を返します。

構文:

```
MaxString ( expr )
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MaxString 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

制限事項:

テキスト値が見つからない場合は、NULL が返されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果項目	結果の値
TeamData: LOAD * inline [SalesGroup|Team|Date|Amount East|Gamma|01/05/2013|20000 East|Gamma|02/05/2013|20000 West|Zeta|01/06/2013|19000 East|Alpha|01/07/2013|25000 East|Delta|01/08/2013|14000 West|Epsilon|01/09/2013|17000 West|Eta|01/10/2013|14000 East|Beta|01/11/2013|20000 West|Theta|01/12/2013|23000] (delimiter is '|'); Concat1: LOAD SalesGroup,MaxString(Team) as MaxString1 Resident TeamData Group By SalesGroup;	SalesGroup East West	MaxString1 Gamma Zeta
TeamData テーブルが前の例のようにロードされ、ロードスクリプトに次の SET ステートメントが含まれている場合: SET DateFormat='DD/MM/YYYY';': LOAD SalesGroup,MaxString(Date) as MaxString2 Resident TeamData Group By SalesGroup;	SalesGroup East West	MaxString2 01/11/2013 01/12/2013

MaxString- チャート関数

MaxString() は、数式または項目に含まれる文字列の値を特定し、テキストソート順での最後のテキスト値を返します。

```
MaxString({[SetExpression] [TOTAL [<fld{, fld}>]]} expr)
```

戻り値データ型: dual

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。.
- SetExpression: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

数式に文字列表現の値が含まれていない場合は、NULL が返されます。

この表は、軸 Customer のすべての値と、対応する Product の値を表しています。シート上の実際のテーブル チャートでは、Customer と Product のそれぞれの値に 1 列が割り当てられます。

例と結果

例	結果
MaxString (Team)	軸 Amount の 20000 には、Gamma の 2 つの値 (異なる日付) とBeta の 1 つの値、合計 3 つの値があります。このため、メジャー MaxString (Team) の結果はソートされた文字列の最大値である Gamma になります。
MaxString (Date)	2013/11/01 は、軸 Date に関連付けられている 3 つの Amount 値の最大値です。ここでは、スクリプトに SET ステートメント SET DateFormat='YYYY-MM-DD';' が含まれているものとします。

例で使用されているデータ:

```
TeamData:
LOAD * inline [
SalesGroup|Team|Date|Amount
East|Gamma|01/05/2013|20000
East|Gamma|02/05/2013|20000
West|Zeta|01/06/2013|19000
East|Alpha|01/07/2013|25000
East|Delta|01/08/2013|14000
West|Epsilon|01/09/2013|17000
West|Eta|01/10/2013|14000
East|Beta|01/11/2013|20000
West|Theta|01/12/2013|23000
] (delimiter is '|');
```

データテーブルの例

SalesGroup	Amount	MaxString(Team)	MaxString(Date)
East	14000	Delta	2013/08/01
East	20000	Gamma	2013/11/01
East	25000	Alpha	2013/07/01
West	14000	Eta	2013/10/01
West	17000	Epsilon	2013/09/01
West	19000	Zeta	2013/06/01
West	23000	Theta	2013/12/01

MinString

MinString() は、数式の文字列値を算出し、**group by** 句で定義されたレコードでソートされる最初のテキスト値を返します。

構文:

```
MinString ( expr )
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MinString 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。

制限事項:

テキスト値が見つからない場合は、NULL が返されます。

例と結果:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

例と結果

例	結果項目	結果の値

`TeamData:`
`LOAD * inline [`
`SalesGroup|Team|Date|Amount`
`East|Gamma|01/05/2013|20000`
`East|Gamma|02/05/2013|20000`
`West|Zeta|01/06/2013|19000`
`East|Alpha|01/07/2013|25000`
`East|Delta|01/08/2013|14000`
`West|Epsilon|01/09/2013|17000`
`West|Eta|01/10/2013|14000`
`East|Beta|01/11/2013|20000`
`West|Theta|01/12/2013|23000`
`] (delimiter is '|');`
 	
`Concat1:`
`LOAD SalesGroup,MinString(Team) as MinString1 Resident`
`TeamData Group By SalesGroup;`
	SalesGroup
	East
	West
		MinString1
		Alpha
		Epsilon

TeamData テーブルが前の例のようにロードされ、ロードスクリプトに次の SET ステートメントが含まれている場合:
`SET DateFormat='DD/MM/YYYY';`:
 	
`LOAD SalesGroup,MinString(Date) as MinString2 Resident`
`TeamData Group By SalesGroup;`
	SalesGroup
	East
	West
		MinString2
		01/05/2013
		01062/2013

MinString- チャート関数

MinString() は、数式または項目に含まれる文字列の値を特定し、テキストソート順での最初のテキスト値を返します。

```
MinString({[SetExpression] [TOTAL [<fld {, fld}>]]} expr)
```

戻り値データ型： dual

- `expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。.
- `SetExpression`: デフォルトでは、集計関数は選択されたレコードセットに対して集計を行います。Set 分析数式でレコードセットを定義することも可能です。
- `TOTAL`: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
`MinString (Team)`	軸 Amount の 20000 には、Gamma の 2 つの値 (異なる日付) と Beta の 1 つの値、合計 3 つの値があります。このため、メジャー MinString (Team) の結果はソートされた文字列の最大値である Beta になります。
`MinString (Date)`	2013/11/01 は、軸 Date に関連付けられている 3 つの値で最も早い Amount の値です。ここでは、スクリプトに SET ステートメント `SET DateFormat='YYYY-MM-DD';` が含まれているものとします。

例で使用されているデータ:

```
TeamData:
LOAD * inline [
SalesGroup|Team|Date|Amount
East|Gamma|01/05/2013|20000
East|Gamma|02/05/2013|20000
West|Zeta|01/06/2013|19000
East|Alpha|01/07/2013|25000
East|Delta|01/08/2013|14000
West|Epsilon|01/09/2013|17000
West|Eta|01/10/2013|14000
East|Beta|01/11/2013|20000
West|Theta|01/12/2013|23000
] (delimiter is '|');
```

データテーブルの例

SalesGroup	Amount	MaxString(Team)	MaxString(Date)
East	14000	Delta	2013/08/01
East	20000	Gamma	2013/11/01
East	25000	Alpha	2013/07/01
West	14000	Eta	2013/10/01
West	17000	Epsilon	2013/09/01
West	19000	Zeta	2013/06/01
West	23000	Theta	2013/12/01

合成軸関数

合成軸は、データモデルの項目から直接作成するのではなく、合成軸関数で生成した値を基にドキュメントで作成します。合成軸関数で生成された値をチャートで計算済みの軸として使用すると、合成軸が作成されます。合成軸を使用すると、データから取得した値のある軸 (つまり動的軸) でチャートを作成できます。

合成軸は選択に影響されません。

チャートで使用可能な合成集計関数は、次のとおりです。

ValueList

ValueList() は、計算軸で使用される場合、合成軸を形成するリストされた値のセットを返します。

ValueList - チャート関数 (v1 {, Expression}**)**

ValueLoop

ValueLoop() は、計算軸で使用される場合、合成軸を形成する反復処理された値のセットを返します。

ValueLoop - チャート関数(from [, to [, step]]**)**

ValueList - チャート関数

ValueList() は、計算軸で使用される場合、合成軸を形成するリストされた値のセットを返します。

***ValueList** 関数を用いて作成された合成軸を持つチャートでは、チャート式に同じパラメータを持つ **ValueList** 関数を再記述することで、特定の数式のセルに対応する軸の値を参照できます。もちろん、この関数はレイアウト内の任意の場所で使用できますが、合成軸に対して使用する場合を除き、この関数は集計関数内でのみ有効になります。*

合成軸は選択に影響されません。

構文:

ValueList(v1 {,...}**)**

戻り値データ型: デュアル

引数:

- v1: 静的な値 (通常は文字列、ただし数値も可)。
- {,...}: オプションの静的値リスト

例と結果

例	結果
`ValueList('Number of Orders', 'Average Order Size', 'Total Amount')`	例えば、テーブルで軸の作成に使用すると、テーブルの行ラベルとして3つの文字列値が生じます。これらの値は数式で参照できます。
`=IF( ValueList('Number of Orders', 'Average Order Size', 'Total Amount') = 'Number of Orders', count(SaleID),` `IF( ValueList('Number of Orders', 'Average Order Size', 'Total Amount') = 'Average Order Size', avg(Amount), sum(Amount) ))`	以下のテーブル例のように、この数式では、作成された軸から値を取得し、ネストされたIFステートメントで3つの集計関数の入力として参照します。

テーブル形式の出力例

作成された軸	年	追加された数式
-	-	**522.00**
Number of Orders	2012	5.00
Number of Orders	2013	7.00
Average Order Size	2012	13.20
Average Order Size	2013	15.43
Total Amount	2012	66.00
Total Amount	2013	108.00

例で使用されているデータ:

```
SalesPeople:
LOAD * INLINE [
SaleID|SalesPerson|Amount|Year
1|1|12|2013
 2|1|23|2013
3|1|17|2013
4|2|9|2013
5|2|14|2013
6|2|29|2013
7|2|4|2013
 8|1|15|2012
 9|1|16|2012
10|2|11|2012
11|2|17|2012
12|2|7|2012
 ] (delimiter is '|');
```

ValueLoop - チャート関数

ValueLoop() は、計算軸で使用される場合、合成軸を形成する反復処理された値のセットを返します。生成される値は、**from** 値から始まり、**to** 値で終了します (step 増分の中間値を含む)。

ValueLoop 関数を用いて作成された合成軸を持つチャートでは、チャート式に同じパラメータを持つ ValueLoop 関数を再記述することで、特定の数式のセルに対応する軸の値を参照できます。もちろん、この関数はレイアウト内の任意の場所で使用できますが、合成軸に対して使用する場合を除き、この関数は集計関数内でのみ有効になります。

合成軸は選択に影響されません。

構文:

```
ValueLoop(from [, to [, step ]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

- from: 生成する一連の値の開始値。
- to: 生成する一連の値の終了値。
- step: 値の増分量。

例と結果

例	結果
ValueLoop (1, 10)	これにより、数字付きラベルのような目的に使用できるテーブルの軸などが作成されます。この例では、値は 1 から 10 になります。これらの値は数式で参照できます。
ValueLoop (2, 10,2)	この例では、引数 step が 2 になっているため、値は 2、4、6、8、10 になります。

ネストされた集計関数

別の集計結果に対して集計処理を行わなければならない場合、ネスト集計と呼ばれる演算を行います。

原則として、QlikView チャートの数式で、集計関数をネストすることはできません。ネストが可能なのは、以下の場合のみです。

- 内部集計関数で **TOTAL** 修飾子が使用されている場合。

100 レベル以下のネストが可能です。

TOTAL 修飾子を含むネストされた集計関数

Sales 項目で、前年の **OrderDate** と等しい取引のみを集計することにします。前年のデータは、集計関数 **Max(TOTAL** Year(OrderDate)**)** で取得できます。

このような場合は、次の集計関数を使用します。

```
Sum(If(Year(OrderDate)=Max(TOTAL Year(OrderDate)), Sales))
```

QlikView でこのようなネストを構築する場合はもちろん、比較を行う際にも **TOTAL** 修飾子を使用する必要があります。これらは非常によく使われるタイプのネストで、データの入手に適しています。

集計関数を使用したネストされた集計関数

TOTAL関数を使用したネストは、必ずしも十分ではありません。もっと一般的なネストにするためには、計算軸と組み合わせた高度な集計関数を使用する必要があります。

次のデータは、スクリプトから読み取られています。

SalesRep	Customer
Donna Brown	Bechtel Corporation
Karl Anderson	Berkeley Design
Donna Brown	Capitolnet Marketing Group (CMG)
Karl Anderson	Chas T. Main, Inc.
Karl Anderson	Degoyler and MacNaughton
Lisa Taylor	ediSys
John Smith	Fimetrics System
Kathy Johnson	HCS
Lisa Taylor	Homestead Custom
Lisa Taylor	Illuminati
John Smith	Metro-Goldwyn-Mayer, Inc.
Lisa Taylor	Onetouch Interactive
Peggie Hurt	Savetz Publishing
William Fisher	TECC
William Fisher	VA Research
Lisa Taylor	XYZ Operations

このデータからは、*「各営業員が受け持つ顧客数は?」*という質問が導かれます。

その問いに対する回答を、標準的な QlikView のテーブルから、簡単に得ることができます:

また、入手した知見に基づき、*「顧客が一人しかいない営業員は何人いるか?」*、*「3人以上の顧客を受け持つ営業員は何人いるか?」*といった、新たな疑問が起こるかもしれません。

このような単純な例で、手動で数式列の数を数えることはできますが、通常、2 つ目の集計順序を必要とする種類の質問となります。計算を行うために必要なデータは元の項目には存在せず、それらの項目から直接計算することもできません。

新しいチャートの軸として、上記のチャートの数式列を使用する方法を見つける必要があります。高度な集計関数を使用すると、入手できます。

新しいチャートの内部チャート計算として、最初のチャートの計算を実行するために、次のような軸のステートメントを使用する必要があります。

```
=Aggr(Count(Customer),SalesRep)
```

そして、新しいチャートのための数式を、次のように入力します:

```
Count(Distinct SalesRep)
```

QlikView は、基底のテーブル内の行数をカウントするため、**DISTINCT**修飾子が必要となります。

結果の表から、*「1、2、3 人の顧客を受け持つ営業員は何人いますか? 」*といった質問に対し、回答が導きだされます。

次の 2 つの点に注意してください。

1. 2番目のチャートは、最初のチャートの存在は必要としません。このチャートには、その軸内に定義された最初の順序の集計が含まれています。
2. ネストの可能性はここまでではありません。もちろん、高度な集計関数の軸引数には、高度な集計関数を使用する計算軸が含まれます。ただし、3つ目の集計レベルを通過するときの実行中の内容が分からなくなるところがあります。

ピボットテーブルの行の合計

QlikView のストレートテーブルでは、行の単純な合計と計算式の合計のいずれかを選択できます。QlikView のピボットテーブルでは、この選択はできません。ピボットテーブルの合計は、常に数式の合計として計算されます。

この 2 つが異なる場合に行全体の合計が関連することはめったにないため、通常はこれで問題ありません。

> *純粋な合計ではなく任意の種類の集計で行の合計を使用する場合は、慎重に使用してください。*

次のセクションでは、そのことに注意をして、全体の列の合計が望み通りの結果となる例が表示されます。

この例では、学生 3 人で一組のチームが、異なる3 つの教科で成績ごとにポイントを獲得する、学校のコンテストがあると仮定します。チームは、教科ごとにグループ内の最も高いスコアを選択し、この 3 つの上位のスコアを合計に追加します。次のデータは、スクリプトから読み取られています。

Class	Name	Score
English	John	5
English	Karen	1
English	Lisa	4
History	John	3
History	Karen	3
History	Lisa	2
Math	John	3
Math	Karen	3
Math	Lisa	4

軸としてClassと、数式として**Max**(Score)が備わるストレートテーブルは、行の合計を次のように行います。

Straight table with sum of rows

Class	Max(Score)
English	5
History	3
Math	4
	12

行の合計ではなく、数式の合計として常に計算されるピボットテーブルに、ストレートテーブルが変換される場合、問題が起こる場合があります。

Pivot table with expression total

Class	Max(Score)
English	5
History	3
Math	4
Total	5

この例の場合は、合計が12となるはずですが、5では目的に適っていません。この場合、**Aggr**関数は軸ではなく、数式で使用されます。

囲まれているチャートの軸を**Aggr**関数の軸としても使用し、元の数式を**Aggr**関数で囲みます。これでこのバンドルは、引数として、**Sum**集計関数に使用されます。テーブルには、予測される合計が表示されます。

Pivot table with sum of rows

Class	sum(aggr(max(Score),Class))
English	5
History	3
Math	4
Total	12

高度な集計関数の利点は、個々の行では、1つの値に評価されることです。これは、軸は通常のデータ行ごとに1つの絞込値だけを持つためです。内部の軸および数式は、囲まれているチャートの場合と同じであるため、各値は、もちろん、囲まれた**Sum**関数および高度な集計関数がなくても、まったく同じ結果になります。

ただし、合計行の場合、高度な集計関数は、3つの値 (軸項目の値ごとに1つ) を返します。これらは、**Sum**集計関数によって合計されます。正式には数式の合計ですが、結果は行の合計と等しくなります。

テーブル チャートの直線回帰

直線回帰のすう勢線は、**チャートプロパティ**の **数式** ページにある **すう勢線** オプションを使用して、QlikView ビットマップ チャートに表示できます。また、回帰方程式を表示することもできます。

テーブル チャートなどで回帰データを表示する場合は、回帰が計算される必要があります。**LINEST_M** および **LINEST_B** 集計関数は、直線回帰の必要な傾きとy 切片値を提供します。**LINEST_M** と**LINEST_B** 集計関数は、常に数値目盛の **x-** 軸に対応します。つまり、チャートのプロパティの **[目盛線]** タブでこの設定を行う必要があります。

正しく計算するには、これらの関数には、入力としてチャート集計全体 (軸で反復処理された数式) を含める必要があります。これは、含まれるチャートと同じ基本の数式と軸を含む高度な集計関数を定義することで実現できます。これで、**LINEST** 集計関数は、高度な集計関数へのパラメータとして使用されます。結果の数式は、次のようになります。

```
linest_M(total aggr(TransVal,TransID),TransID)*TransID + linest_b(total aggr
(TransVal,TransID),TransID)
```

Only 関数は、TransVal とTransID のすべてのデータに基づいて示されます。**LINEST** 集計は、**TOTAL** 修飾子を使用して作成する必要があります。そうでない場合、データセット全体ではなく、データポイントごとに回帰パラメータが計算されます。結果は、回帰を通常の線の数式として表示する次のコンボ チャートで見ることができます。

直線回帰の計算値は、連続軸 (推奨) を使用してグラフに表示される値と対応します。計算値は、不連続軸 (非推奨) を使用してグラフに表示される値とは異なります。連続軸には計算値が表示され、不連続軸には値が表示されます。つまり、NULL 値は不連続軸には含まれません。

このチャートはストレート テーブルに変換できます。

以下の数式が表示順で使用されます。

```
Round(Sum(TransVal),'0.1')
Round(LINEST_M(TransVal,TransID,TransID),'0,1')
Round(LINEST_B(TransVal,TransID,TransID),'0,1')
```

分析接続

分析接続を使用すると、外部分析をビジネスディスカバリと統合することができます。分析接続で、外部計算エンジンを呼び出すことによって、ロード スクリプトとチャートで使用できる数式を拡張します (これを行う際、計算エンジンはサーバーサイド拡張 (SSE) としての役割を果たします)。例えば、R への分析接続を作成して、データをロードするときに統計数式を使用することができます。

分析接続の作成

QlikView Desktop および QlikView Server (QVS) の両方で、*Settings.ini* を編集することによって分析接続が確立されます。



QlikView Desktop は、Settings.ini ファイルを編集する前に閉じる必要があります。
QlikView Server は、Settings.ini ファイルを編集する前に停止する必要があります。
新しい接続を追加したり、既存の接続を変更したりした場合は、その後に再起動して変更を有効にする必要があります。



QlikView を起動する前に、SSE プラグイン サーバーが実行されている必要があることに注意してください。実行されていない場合、接続は確立されません。

次の手順を実行します。

1. *Settings.ini* ファイルを開きます。
   QlikView Desktop の場合、このファイルは *C:\Users\username\AppData\Roaming\QlikTech\QlikView* にあります。
   QlikView Server の場合は *C:\ProgramData\QlikTech\QlikViewServer* にあります。
2. 次の構成を追加します。

```
[Settings 7]
SSEPlugin=<PluginConfig>[;<PluginConfig>...]
```

   ここで、`<PluginConfig>` は次を含む構成要素のカンマ区切りのリストです。
   `<EngineName>,<Address>[,<PathToCertFile>,<RequestTimeout>,<ReconnectTimeout>]`

接続プロパティ

Property	説明
<EngineName>	分析接続の名前。一意でなければなりません。アプリの数式内から使用されるプラグインへのマッピング/alias。このプラグイン機能を使用するには `<EngineName>` が必要です。たとえば、Python プラグインの場合の SSEPython や R プラグインの場合の R などです。
<Address>	2 つの要素から構成されるコロン区切りのリスト。 `<Host>`: プラグインの DNS 名 (または IP アドレス)。 `<Port>`: プラグインの待ち受けポート。

Property	説明
<PathToCertFile>	プラグインとのセキュアな通信に必要なクライアント証明書を含むフォルダーへのファイル システム パス。このパスは、証明書が配置されているフォルダーを指し示しているだけです。証明書が実際にこのフォルダーにコピーされていることを確認する必要があります。3 つの証明書の名前は、*root_cert.pem*、*sse_client_cert.pem*、*sse_client_key.pem* とする必要があります。許可されているのは相互認証のみです (サーバーとクライアント間の認証)。 *証明書のファイル パスは任意で設定することになっていますが、省略した場合、安全でない通信が呼び出されます。*
<RequestTimeout>	整数値 (秒)。オプション。既定値は 0 (無期限) です。メッセージ経過時間のタイムアウト。
<ReconnectTimeout>	整数値 (秒)。オプション。既定値は 20 (秒) です。クライアントが、プラグインへの接続が失われてから再接続を試みるまでの時間。

3. QlikView Batch *Settings.ini* を開いてステップ 2 と同じ構成を追加し、ドキュメントをリロードできるようにします。
   既定の場所は、
   C:\Windows\system32\config\systemprofile\AppData\Roaming\QlikTech\QlikViewBatch です。
4. 変更内容を *Settings.ini* ファイルに保存した後、QlikView を再起動します。[数式の編集] ダイアログまたは [ロード スクリプト] ダイアログから分析接続を追加すると、使用可能になります。

分析接続のセキュリティ保護

分析接続を使用する際は、QlikView 環境のセキュリティを強化するために、次のベストプラクティスを検討してください。

- サーバーサイド拡張 (SSE) プラグインは、管理者権限を使用せずに、分離された別個の環境にインストールして実行します。悪意のあるスクリプトからの害を最小限にするため、プラグインを開始しているユーザー アカウント、そしてこのユーザーがマシンおよびドメイン内で所有するアクセス権を把握しておきます。
- セキュリティを強化するために、SSE プラグイン構成ファイル内で構成パラメータ `allowScript` を false に設定することによって、EvaluateScript 機能を無効にすることができます。これにより任意のスクリプトを実行することができなくなり、SSE プラグインは事前に定義された関数のみを実行できます。
- QlikView ドキュメントを作成しているアプリケーション開発者は、SSE 数式で使用する変数を、制限された形式に設定することを推奨します。例えば、変数形式を数値のみに制限できます。

分析接続の使用における制限

新しい共有サーバー オブジェクトを作成しているときに、分析接続の機能が無効になります。

分析接続の数式を含む既存のシート オブジェクトをコピーすると、自動的にチャートプロパティエディタが無効になります。つまり、このシート オブジェクトのチャートプロパティは編集できなくなります。

例

以下の例は、サーバーサイド拡張 (SSE) プラグインの設定方法を示しています。ここでは、Python プラグインを使用して、1 台または複数のサーバーを定義します。

- SSE プラグイン サーバー 1 台: SSEPlugin=SSEPython,localhost:50051
- SSE プラグイン サーバー 2 台: SSEPlugin=SSEPython,localhost:50051;R,localhost:50053
- SSE プラグイン サーバー 1 台が証明書パスなしで定義されているが、タイムアウト設定を行う: SSEPlugin=SSEPython,localhost:50051,,0,20

カラー関数

これらの関数は、チャート オブジェクトのカラー プロパティを設定および評価する数式やロード スクリプトで使用します。

*QlikView では、下位互換性の理由からカラー関数 **qliktechblue** および **qliktechgray** がサポートされますが、これらの使用はお勧めできません。*

ARGB

ARGB()は、チャート オブジェクトのカラー プロパティを設定または評価する数式で使用されます。色は **alpha** のアルファ係数 (不透明度) を使用した、赤の要素 **r**、緑の要素 **g**、青の要素 **b** によって定義されます。

```
ARGB(alpha, r, g, b)
```

HSL

HSL() は、チャート オブジェクトのカラー プロパティを設定、または評価する数式で使用されます。色は、**hue**、**saturation**、**luminosity** の 0 ~ 1 の間の値で定義されます。

```
HSL (hue, saturation, luminosity)
```

RGB

RGB() は、チャート オブジェクトのカラー プロパティを設定、または評価する数式で使用されます。色は赤の要素 **r**、緑の要素 **g**、青の要素 **b** によって定義されていますこれは 0 ~ 255 の間の値で定義されます。

```
RGB (r, g, b)
```

Color

Color() は、チャート プロパティで表示されるチャート カラー マップの色番号 n の色表現を返す数式で使用されます。色表現はデュアル値で構成され、テキスト表現は 'RGB(r, g, b)' 形式で提供されます。r、g、および b は、赤、緑、青の色の値を表す 0 ~ 255 の数値です。数値表現は、赤、緑、青の色要素を表す整数です。

```
Color (n)
```

Black

黒 (RGB 0,0,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Black ([alpha])
```

Darkgray
濃いグレー(RGB 128,128,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Darkgray ([alpha])
```

Lightgray
明るいグレー(RGB 192,192,192) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Lightgray ([alpha])
```

White
白 (RGB 255,255,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
White ([alpha])
```

Blue
青 (RGB 0,0,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Blue ([alpha])
```

Lightblue
明るい青 (RGB 0,0,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Lightblue ([alpha])
```

Green
緑 (RGB 0,128,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Green ([alpha])
```

Lightgreen
明るい緑 (RGB 0,255,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Lightgreen ()
```

Cyan

シアン(RGB 0,128,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Cyan ([alpha])
```

Lightcyan

明るいシアン(RGB 0,255,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Lightcyan ()
```

Red

赤 (RGB 128,0,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Red ([alpha])
```

Lightred

明るい赤 (RGB 255,0,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Lightred ([alpha])
```

Magenta

マゼンタ(RGB 128,0,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Magenta ([alpha])
```

Lightmagenta

明るいマゼンタ(RGB 255,0,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Lightmagenta ([alpha])
```

Brown

茶 (RGB 128,128,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Brown ([alpha])
```

Yellow

黄 (RGB 255,255,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
Yellow ([alpha])
```

qliktechblue

Qliktech の灰色 (RGB 96,112,169) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
qliktechblue ([alpha])
```

qliktechgray

Qliktech のグレー(RGB 166,166,166) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。alpha の値が入力されていない場合は、255 が使用されます。

```
qliktechgray ([alpha])
```

Colormix1

Colormix1() は、0 ~ 1 の間の値を基準に 2 色グラデーションの ARGB 値を返す数式で使用されます。

```
Colormix1 (Value , ColorZero , ColorOne)
```

Value は、0 と1 の間の実数です。

- Value = 0 の場合、ColorZero を返します。
- Value = 1 の場合、ColorOne を返します。
- 0 < Value < 1 のとき、相当する中間の陰影を持つ色を返します。

ColorZero は、色を間隔の下端に関連付ける有効な RGB カラー表現です。

ColorOne は、色を間隔の上端に関連付ける有効な RGB カラー表現です。

Colormix1(0.5, red(), blue())

ARGB(255,64,0,64) (紫) を返します。

Colormix2

Colormix2() は、-1 ~ 1 の間の値を基準に 2 色グラデーションの ARGB 値を返す数式で使用されます。中心位置 (0) に中間色を指定することもできます。

```
Colormix2 (Value ,ColorMinusOne , ColorOne[ , ColorZero])
```

Value は、-1 と1 の間の実数です。

- Value = -1 のとき、1 つ目の色を返します。
- Value = 1 のとき、2 つ目の色を返します。

- -1 < Value < 1 のとき、適切な配色を返します。

ColorMinusOne は、色を間隔の下端に関連付ける有効な RGB カラー表現です。

ColorOne は、色を間隔の上端に関連付ける有効な RGB カラー表現です。

ColorZero は、色を間隔の中間に関連付ける有効なオプションの RGB カラー表現です。

SysColor
SysColor() は、Windows システム色 nr の ARGB 値を返します。nr は、Windows API 関数 **GetSysColor(nr)** へのパラメータに相当します。

```
SysColor (nr)
```

ColorMapHue
ColorMapHue() は、カラー マップから色の ARGB 値を返します。カラー マップは、HSV カラー モデルの色相要素によって異なります。カラー マップは赤から始まり、黄、緑、シアン、青、マゼンタを通り、赤に戻ります。x は 0 ~ 1 の値で指定される必要があります。

```
ColorMapHue (x)
```

ColorMapJet
ColorMapJet() は、カラー マップからの色の ARGB 値を返します。カラー マップは青から始まり、シアン、黄、オレンジを通って赤に戻ります。x は 0 ~ 1 の値で指定される必要があります。

```
ColorMapJet (x)
```

定義済みのカラー関数

次の関数は、定義済みの色の数式で使用できます。各関数は、RGB カラー表現を返します。

任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。その場合、ARGB カラー表現が返されます。アルファ係数 0 は完全な透明に相当し、255 は完全な不透明色に相当します。

カラー関数

カラー関数	RGB 値
black ([alpha])	(0,0,0)
blue([alpha])	(0,0,128)
brown([alpha])	(128,128,0)
cyan([alpha])	(0,128,128)
darkgray([alpha])	(128,128,128)
green([alpha])	(0,128,0)
lightblue([alpha])	(0,0,255)
lightcyan([alpha])	(0,255,255)
lightgray([alpha])	(192,192,192)

カラー関数	RGB 値
lightgreen([alpha])	(0,255,0)
lightmagenta([alpha])	(255,0,255)
lightred([alpha])	(255,0,0)
magenta([alpha])	(128,0,128)
red([alpha])	(128,0,0)
white([alpha])	(255,255,255)
yellow([alpha])	(255,255,0)

例と結果:

- `Blue()` は、RGB(0,0,128) を返します。
- `Blue(128)` は、ARGB(128,0,0,128) を返します。

ARGB

ARGB()は、チャートオブジェクトのカラープロパティを設定または評価する数式で使用されます。色は **alpha** のアルファ係数 (不透明度) を使用した、赤の要素 **r**、緑の要素 **g**、青の要素 **b** によって定義されます。

構文:

```
ARGB(alpha, r, g, b)
```

戻り値データ型: dual

引数:

- `alpha`: 範囲 0 ~ 255 の透過性値。0 は完全な透明で、255 は完全な不透明色です。
- `r, g, b`: 赤、緑および青の成分値。成分値は 0 が最小値、255 が最大値になります。



すべての引数は、0 から 255 の範囲の整数で分解できる数式でなければなりません。

数値コンポーネントと書式が 16 進法で解釈されている場合、色成分の値はより分かりやすくなります。例えば、薄緑色の数値は 4 278 255 360 となり、16 進法では FF00FF00 となります。最初の 2 桁 'FF' (255) は、**alpha** 係数を示します。最初の 2 桁 '00' は、**red** の量、次の 2 桁 'FF' は **green** の量、最後の 2 桁 '00' は **blue** の量を示します.

RGB

RGB() は、チャートオブジェクトのカラープロパティを設定、または評価する数式で使用されます。色は赤の要素 **r**、緑の要素 **g**、青の要素 **b** によって定義されていますこれは 0 ~ 255 の間の値で定義されます。

構文:

```
RGB (r, g, b)
```

戻り値データ型： デュアル

引数：

- r, g, b: 赤、緑および青の成分値。成分値は 0 が最小値、255 が最大値になります。



すべての引数は、0 から 255 の範囲の整数で分解できる数式でなければなりません。

数値コンポーネントと書式が 16 進法で解釈されている場合、色成分の値はより分かりやすくなります。例えば、薄緑色の数値は 4 278 255 360 となり、16 進法では FF00FF00 となります。最初の 2 桁 'FF' (255) は、**alpha** 係数を示します。関数 **RGB** と**HSL** では、常に 'FF' (不透明) です。最初の 2 桁 '00' は、**red** の量、次の 2 桁 'FF' は **green** の量、最後の 2 桁 '00' は **blue** の量を示します.

HSL

HSL() は、チャートオブジェクトのカラープロパティを設定、または評価する数式で使用されます。色は、**hue**、**saturation**、**luminosity** の 0 ~ 1 の間の値で定義されます。

構文:

```
HSL (hue, saturation, luminosity)
```

戻り値データ型： dual

引数：

- hue, saturation, luminosity: **hue**、**saturation**、**luminosity** のコンポーネント値は 0 から 1 の範囲です。



すべての引数は、0 ~ 1 の範囲の整数に解決される数式である必要があります。

数値コンポーネントと書式が 16 進法で解釈されている場合、色成分の RGB 値はより分かりやすくなります。例えば、薄緑色の数値は 4 278 255 360 となり、16 進法では FF00FF00 と RGB (0,255,0) となります。これは、HSL (80/240, 240/240, 120/240) ((0.33, 1, 0.5) の HSL 値) と同じです。

条件分岐関数

条件分岐関数は条件を評価し、条件値に応じて異なる答えを返します。関数は、ロードスクリプトおよびチャート式で使用できます。

条件分岐関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

alt

alt 関数は、有効な数値表現を持つ最初のパラメータを返します。一致するものが見つからない場合は、最後のパラメータを返します。任意の数のパラメータを使用できます。

```
alt (case1[ , case2 , case3 , ...] , else)
```

class

class 関数は、class の間隔に最初のパラメータを割り当てます。結果はデュアル値であり、a<=x<b がテキスト値として含まれています (a とb はビンの上限と下限で、下限は数値で示されます)。

```
class (expression, interval [ , label [ , offset ]])
```

if

if 関数は、与えられた条件が True または False のどちらに評価されるかによって異なる値を返します。

```
if (condition , then , else)
```

match

match 関数は、最初のパラメータとそれに続くすべてのパラメータを比較し、一致した数式の数を返します。比較では大文字と小文字が区別されます。

```
match ( str, expr1 [ , expr2,...exprN ])
```

mixmatch

mixmatch 関数は、最初のパラメータとそれに続くすべてのパラメータを比較し、一致した数式の数を返します。大文字と小文字は区別されず、ひらがなとカタカナも区別されません。

```
mixmatch ( str, expr1 [ , expr2,...exprN ])
```

pick

pick 関数は、リストの *n* 番目の数式を返します。

```
pick (n, expr1[ , expr2,...exprN])
```

wildmatch

wildmatch 関数は、最初のパラメータとそれに続くすべてのパラメータを比較し、一致した数式の数を返します。比較する文字列にはワイルドカード文字 (***** および **?**) を使用できます。大文字と小文字は区別されず、ひらがなとカタカナも区別されません。

```
wildmatch ( str, expr1 [ , expr2,...exprN ])
```

alt

alt 関数は、有効な数値表現を持つ最初のパラメータを返します。一致するものが見つからない場合は、最後のパラメータを返します。任意の数のパラメータを使用できます。

構文:

```
alt(case1[ , case2 , case3 , ...] , else)
```

alt 関数は、数値または日付の変換関数で使用されます。このように、QlikView は、優先順順位に従って異なる日付形式をテストできます。また、数式での NULL 値の処理にも使用できます。

例と結果:

例と結果

例	結果
`alt( date#( dat , 'YYYY/MM/DD' ), date#( dat , 'MM/DD/YYYY' ), date#( dat , 'MM/DD/YY' ), 'No valid date' )`	この数式は、項目の日付が指定された3つの日付形式のいずれかに従っているかどうかをテストします。従っている場合は、元の文字列と日付の有効な数値表現を含むデュアル値を返します。どの形式にも従っていない場合、'No valid date' というテキストが返されます (有効な数値表現は含まれません)。
`alt(Sales,0) + alt(Margin,0)`	この数式は、項目 Sales とMargin を追加して、すべての欠損値 (NULL) を0で置き換えます。

class

class 関数は、class の間隔に最初のパラメータを割り当てます。結果はデュアル値であり、a<=x<b がテキスト値として含まれています (a とb はビンの上限と下限で、下限は数値で示されます)。

構文:

```
class(expression, interval [ , label [ , offset ]])
```

引数:

Class 引数

引数	説明
interval	ビン幅を特定する数値。
label	結果のテキストの 'x' を置き換えることができる任意の文字列。
offset	デフォルトの分類開始点から、オフセットとして使用される数値。デフォルトの開始点は、通常 0 です。

例と結果:

例 1 ~ 3 と結果

例	結果
`class( 23,10 )`	の戻り値: '20<=x<30'
`class( 23,5,'value' )`	の戻り値: '20<= value <25'
`class( 23,10,'x',5 )`	の戻り値: '15<=x<25'

この例では、人々の名前と年齢を含むテーブルをロードします。10歳単位での年齢グループにより、各人を分類する項目を追加します。ソーステーブルは次のようになります。

ソース テーブル

Name	Age
John	25
Karen	42
Yoshi	53

年齢グループ分類項目を追加するために、**class** 関数を使用する先行する load ステートメントを追加できます。この例では、インライン データを使用して、ソース テーブルをロードします。

```
 LOAD *, class(Age, 10, 'age') As Agegroup;  LOAD * INLINE [ Age, Name 25, John 42, Karen 53, Yoshi];
```

ロードされたデータは次のようになります。

結果テーブル

Name	Age	Agegroup
John	25	20 <= age < 30
Karen	42	40 <= age < 50
Yoshi	53	50 <= age < 60

if

if 関数は、与えられた条件が True または False のどちらに評価されるかによって異なる値を返します。

構文:

```
if(condition , then [, else])
```

if 関数には 3 つのパラメータ(*condition*、*then*、*else*) があり、すべて数式です。他の 2 つの *then* と *else* は、任意の型を取ることができます。

引数:

If 引数

引数	説明
condition	論理的に解釈された数式。
then	数式は任意の型に指定できます。*condition* が True の場合、if 関数は *then* 数式の値を返します。
else	数式は任意の型に指定できます。*condition* が False の場合、if 関数は *else* 数式の値を返します。 このパラメータはオプションです。else を指定していない場合は、*condition* が False のときに NULL を返します。

例と結果:

例と結果

例	結果
`if( Amount>= 0, 'OK', 'Alarm' )`	この数式は、Amount が正の数 (0 以上) かどうかテストし、正の数であれば 'OK' を返します。Amount が 0 未満であれば、'Alarm' を返します。

match

match 関数は、最初のパラメータとそれに続くすべてのパラメータを比較し、一致した数式の数を返します。比較では大文字と小文字が区別されます。

構文:

```
match( str, expr1 [ , expr2,...exprN ])
```

*大文字と小文字を区別せずに比較する場合は、**mixmatch** 関数を使用します。大文字と小文字を区別せずにワイルドカードを使用して比較する場合は、**wildmatch** 関数を使用します。*

例と結果:

例と結果

例	結果
`match( M, 'Jan','Feb','Mar')`	2 を返します (M = Feb の場合) 0 を返します (M = Apr または jan の場合)

mixmatch

mixmatch 関数は、最初のパラメータとそれに続くすべてのパラメータを比較し、一致した数式の数を返します。大文字と小文字は区別されず、ひらがなとカタカナも区別されません。

構文:

```
mixmatch( str, expr1 [ , expr2,...exprN ])
```

*大文字と小文字を区別して比較する場合は、**match** 関数を使用します。大文字と小文字を区別せずにワイルドカードを使用して比較する場合は、**wildmatch** 関数を使用します。*

例と結果:

例と結果

例	結果
`mixmatch( M, 'Jan','Feb','Mar')`	1 を返します (M = jan の場合)

pick

pick 関数は、リストの *n* 番目の数式を返します。

```
pick(n, expr1[ , expr2,...exprN])
```

引数を選択

引数	説明
n	*n* は 1 から N の間の整数です。

例と結果

例	結果
`pick( N, 'A','B',4, 6 )`	'B' を返します (N = 2 の場合) 4 を返します (N = 3 の場合)

wildmatch

wildmatch 関数は、最初のパラメータとそれに続くすべてのパラメータを比較し、一致した数式の数を返します。比較する文字列にはワイルドカード文字 (***** および **?**) を使用できます。大文字と小文字は区別されず、ひらがなとカタカナも区別されません。

構文:

```
wildmatch( str, expr1 [ , expr2,...exprN ])
```



*ワイルドカードを使わずに比較する場合は、**match** 関数または **mixmatch** 関数を使用します。**match** は 3 つの関数の中で最高のパフォーマンスを備えています。*

例と結果:

例と結果

例	結果
`wildmatch( M, 'ja*','fe?','mar')`	1 を返します (M = January の場合) 2 を返します (M = fex の場合)

カウンタ関数

このセクションでは、ロードスクリプトで **LOAD** ステートメント評価中のレコードカウンタに関連する関数について説明します。チャート数式で使用される唯一の関数は、**RowNo()** です。

一部のカウンタ関数はパラメータを取りませんが、末尾の括弧は必要です。

カウンタ関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

autonumber

このスクリプト関数は、スクリプトの実行中に発生する *expression* の個々の評価値について、一意の整数値を返します。この関数は、たとえば複合キーのコンパクトメモリ表示を作成する場合などに使用します。

```
autonumber (expression[ , AutoID])
```

autonumberhash128

このスクリプト関数は、複合入力式の値の 128 ビットハッシュ値を計算し、スクリプトの実行中に発生する個々のハッシュ値について一意の整数値を返します。この関数は、複合キーのコンパクトメモリ表示を作成する場合などに使用します。

```
autonumberhash128 (expression {, expression})
```

autonumberhash256

このスクリプト関数は、複合入力式の値の 256 ビットハッシュ値を計算し、スクリプトの実行中に発生する個々のハッシュ値について一意の整数値を返します。この関数は、たとえば複合キーのコンパクトメモリ表示を作成する場合などに使用します。

> *この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。*

```
autonumberhash256 (expression {, expression})
```

fieldvaluecount

このスクリプト関数は、項目内の個別の値の数を返します。*fieldname* は、文字列 (引用符で囲まれたリテラルなど) として指定する必要があります。

```
fieldvaluecount (fieldname)
```

IterNo

このスクリプト関数は **while** 節内の現在の反復を示す整数を返します。最初の反復の番号は 1 です。**IterNo** 関数は、**while** 節と共に使用される場合にのみ有効となります。

```
IterNo ( )
```

RecNo

このスクリプト関数は、現在のテーブルで読み取られている行番号を整数で返します。最初のレコードの番号は 1 です。

```
RecNo ( )
```

RowNo - script function

この関数は、結果として得られるQlikViewの内部テーブルの現在の行の位置を整数で返します。最初の行の番号は1です。

```
RowNo ( )
```

RowNo - chart function

RowNo() は、テーブルの現在の列セグメント内の現在行の数を返します。ビットマップチャートの場合、**RowNo()** はストレートテーブルに相当するセグメントに含まれる現在の行の数を返します。

```
RowNo([TOTAL])
```

autonumber

このスクリプト関数は、スクリプトの実行中に発生する *expression* の個々の評価値について、一意の整数値を返します。この関数は、たとえば複合キーのコンパクトメモリ表示を作成する場合などに使用します。

> *autonumber キーは、テーブルが読み込まれた順番で生成されるため、同じデータロードで生成された場合のみ結合できます。ソースデータのソート処理から独立してデータロード間で恒久的に維持されるキーを使用する必要がある場合は、**hash128** 関数、**hash160** 関数、**hash256** 関数を使用する必要があります。*

構文:

```
autonumber(expression[ , AutoID])
```

引数:

Autonumber 引数

引数	説明
AutoID	**autonumber** 関数が1つのスクリプト内の複数のキーで使用されている場合に、複数のカウンタインスタンスを作成するには、オプションのパラメータ *AutoID* を使用して各カウンタに名前を付けます。

複合キーの作成

この例では、メモリを保護するために、**autonumber** 関数を使用して複合キーを作成します。この例は、デモのために、簡略化したものになっていますが、この方法が効果的なのは、多数の行が含まれるテーブルで使用した場合です。

複合キーの例 1

Region	Year	Month	Sales
North	2014	May	245
North	2014	May	347
North	2014	June	127

Region	Year	Month	Sales
South	2014	June	645
South	2013	May	367
South	2013	May	221

インライン データを使用して、ソース データをロードします。次に、Region項目、Year項目、Month 項目から複合キーを作成する先行するLoad を作成します。

```
RegionSales: LOAD *, AutoNumber(Region&Year&Month) as RYMkey;  LOAD * INLINE [ Region, Year,
Month, Sales North,     2014,   May,    245 North,      2014,   May,    347 North,      2014,   June,   127 S
June,   645 South,      2013,   May, 367 South, 2013,   May,    221 ];
```

この結果、テーブルは次のようになります。

複合キーの例 2

Region	Year	Month	Sales	RYMkey
North	2014	May	245	1
North	2014	May	347	1
North	2014	June	127	2
South	2014	June	645	3
South	2013	May	367	4
South	2013	May	221	4

この例では、別のテーブルにリンクする必要がある場合、たとえば、文字列 "North2014May" の代わりに RYMkey の 1 を参照できます。

同様の方法で、Costs のソース テーブルをロードします。Region 項目、Year 項目、Month 項目は、**autonumber** 関数を使用しテーブルをリンクしてすでに複合キーを作成しているため、合成キーの作成を避けるために先行するLoad から除外されます。

```
RegionCosts: LOAD Costs, AutoNumber(Region&Year&Month) as RYMkey;  LOAD * INLINE [ Region,
Year, Month, Costs South,       2013,   May,    167 North,      2014,   May,    56 North,       2014,   June,
2014,   June,   64 South,       2013,   May, 172 South, 2013,   May,    126 ];
```

テーブル チャートをシートに追加し、Region 項目、Year 項目、Month 項目、および Sales とCosts の Sum メジャーを追加できるようになりました。テーブルは次のようになります。

複合キーの例 3

Region	Year	Month	Sum([Sales])	Sum([Costs])
Totals	-	-	1952	784
North	2014	June	127	199

Region	Year	Month	Sum([Sales])	Sum([Costs])
North	2014	May	592	56
South	2014	June	645	64
South	2013	May	588	465

autonumberhash128

このスクリプト関数は、複合入力式の値の 128 ビット ハッシュ値を計算し、スクリプトの実行中に発生する個々のハッシュ値について一意の整数値を返します。この関数は、複合キーのコンパクト メモリ表示を作成する場合などに使用します。

> ***autonumberhash128*** *キーは、テーブルが読み込まれた順番で生成されるため、同じデータロードで生成された場合のみ結合できます。ソース データのソート処理から独立してデータロード間で恒久的に維持されるキーを使用する必要がある場合は、**hash128** 関数、**hash160** 関数、**hash256** 関数を使用する必要があります。*

構文:

```
autonumberhash128(expression {, expression})
```

複合キーの作成

この例では、メモリを保護するために、**autonumberhash128** 関数を使用して複合キーを作成します。この例は、デモのために、簡略化したものになっていますが、この方法が効果的なのは、多数の行が含まれるテーブルで使用した場合です。

複合キーの例 1

Region	Year	Month	Sales
North	2014	May	245
North	2014	May	347
North	2014	June	127
South	2014	June	645
South	2013	May	367
South	2013	May	221

インライン データを使用して、ソース データをロードします。次に、Region項目、Year項目、Month 項目から複合キーを作成する先行する Load を作成します。

```
RegionSales: LOAD *, AutoNumberHash128(Region, Year, Month) as RYMkey;  LOAD * INLINE [
Region, Year, Month, Sales North,       2014,   May,    245 North,      2014,   May,    347 North,      2014,
South,  2014,   June,   645 South,      2013,   May, 367 South, 2013,   May,    221 ];
```

この結果、テーブルは次のようになります。

複合キーの例 2

Region	Year	Month	Sales	RYMkey
North	2014	May	245	1
North	2014	May	347	1
North	2014	June	127	2
South	2014	June	645	3
South	2013	May	367	4
South	2013	May	221	4

この例では、別のテーブルにリンクする必要がある場合、たとえば、文字列 "North2014May" の代わりに RYMkey の 1 を参照できます。

同様の方法で、Costs のソース テーブルをロードします。Region 項目、Year 項目、Month 項目は、**autonumberhash128** 関数を使用しテーブルをリンクしてすでに複合キーを作成しているため、合成キーの作成を避けるために先行する Load から除外されます。

```
RegionCosts: LOAD Costs, AutoNumberHash128(Region, Year, Month) as RYMkey;  LOAD * INLINE [
Region, Year, Month, Costs South,       2013,   May,    167 North,      2014,   May,    56 North,       2014,
South,  2014,   June,   64 South,       2013,   May, 172 South, 2013,   May,    126 ];
```

テーブル チャートをシートに追加し、Region 項目、Year 項目、Month 項目、および Sales と Costs の Sum メジャーを追加できるようになりました。テーブルは次のようになります。

複合キーの例 3

Region	Year	Month	Sum([Sales])	Sum([Costs])
Totals	-	-	1952	784
North	2014	June	127	199
North	2014	May	592	56
South	2014	June	645	64
South	2013	May	588	465

autonumberhash256

このスクリプト関数は、複合入力式の値の 256 ビット ハッシュ値を計算し、スクリプトの実行中に発生する個々のハッシュ値について一意の整数値を返します。この関数は、たとえば複合キーのコンパクト メモリ表示を作成する場合などに使用します。

> ***autonumberhash256*** *キーは、テーブルが読み込まれた順番で生成されるため、同じデータロードで生成された場合のみ結合できます。ソース データのソート処理から独立してデータロード間で恒久的に維持されるキーを使用する必要がある場合は、****hash128*** *関数、****hash160*** *関数、****hash256*** *関数を使用する必要があります。*

構文:

```
autonumberhash256(expression {, expression})
```

複合キーの作成

この例では、メモリを保護するために、**autonumberhash256** 関数を使用して複合キーを作成します。この例は、デモのために、簡略化したものになっていますが、この方法が効果的なのは、多数の行が含まれるテーブルで使用した場合です。

複合キーの例 1

Region	Year	Month	Sales
North	2014	May	245
North	2014	May	347
North	2014	June	127
South	2014	June	645
South	2013	May	367
South	2013	May	221

インライン データを使用して、ソース データをロードします。次に、Region項目、Year項目、Month 項目から複合キーを作成する先行する Load を作成します。

```
RegionSales: LOAD *, AutoNumberHash256(Region, Year, Month) as RYMkey;  LOAD * INLINE [
Region, Year, Month, Sales North,       2014,   May,    245 North,      2014,   May,    347 North,      2014,
South,  2014,   June,   645 South,      2013,   May, 367 South, 2013,   May,    221 ];
```

この結果、テーブルは次のようになります。

複合キーの例 2

Region	Year	Month	Sales	RYMkey
North	2014	May	245	1
North	2014	May	347	1
North	2014	June	127	2
South	2014	June	645	3
South	2013	May	367	4
South	2013	May	221	4

この例では、別のテーブルにリンクする必要がある場合、たとえば、文字列 "North2014May" の代わりに RYMkey の 1 を参照できます。

同様の方法で、Costs のソース テーブルをロードします。Region 項目、Year 項目、Month 項目は、**autonumberhash256** 関数を使用しテーブルをリンクしてすでに複合キーを作成しているため、合成キーの作成を避けるために先行する Load から除外されます。

```
RegionCosts: LOAD Costs, AutoNumberHash256(Region, Year, Month) as RYMkey;  LOAD * INLINE [
Region, Year, Month, Costs South,       2013,   May,    167 North,      2014,   May,    56 North,       2014,
South,  2014,   June,   64 South,       2013,   May, 172 South, 2013,   May,    126 ];
```

テーブル チャートをシートに追加し、Region 項目、Year 項目、Month 項目、および Sales と Costs の Sum メジャーを追加できるようになりました。テーブルは次のようになります。

複合キーの例 3

Region	Year	Month	Sum([Sales])	Sum([Costs])
Totals	-	-	1952	784
North	2014	June	127	199
North	2014	May	592	56
South	2014	June	645	64
South	2013	May	588	465

fieldvaluecount

このスクリプト関数は、項目内の個別の値の数を返します。*fieldname* は、文字列 (引用符で囲まれたリテラルなど) として指定する必要があります。

構文:

```
fieldvaluecount(fieldname)
```

この例では、Region の数がカウントされ RegionCount 変数に格納されます。この場合、値は 2 になり、既存の Region の数を知る必要がある場合、この値をさらに別の形で利用することもできます。

```
LOAD * INLINE
[ Region, Year, Month, Sales
South, 2014, June, 645
North, 2014, May, 245
North, 2014, May, 347
North, 2014, June, 127
South, 2013, May, 367
South, 2013, July, 221 ];

 Let RegionCount = FieldValueCount('Region');
```

IterNo

このスクリプト関数は **while** 節内の現在の反復を示す整数を返します。最初の反復の番号は 1 です。**IterNo** 関数は、**while** 節と共に使用される場合にのみ有効となります。

構文:

```
IterNo( )
```

例と結果:

```
LOAD
   IterNo() as Day,
   Date( StartDate + IterNo() - 1 ) as Date
   While StartDate + IterNo() - 1 <= EndDate;

LOAD * INLINE
[StartDate, EndDate
2014-01-22, 2014-01-26
];
```

この **LOAD** ステートメントは、**StartDate** と**EndDate** によって定義される範囲内で、日付ごとにレコードを 1 つ生成します。

この結果、テーブルは次のようになります。

結果テーブル

Day	Date
1	2014-01-22
2	2014-01-23
3	2014-01-24
4	2014-01-25
5	2014-01-26

RecNo

このスクリプト関数は、現在のテーブルで読み取られている行番号を整数で返します。最初のレコードの番号は 1 です。

構文:

```
RecNo( )
```

生成される QlikView テーブルの行をカウントする **RowNo( )** とは対照的に、**RecNo( )** は、生データテーブルのレコードをカウントし、生データテーブルが別のテーブルと連結された場合はリセットされます。

ロードスクリプト

生データテーブルのロード:

```
Tab1: LOAD * INLINE [A, B 1, aa 2,cc 3,ee];  Tab2: LOAD * INLINE [C, D 5, xx 4,yy 6,zz];
```

選択した行のレコードと行番号のロード:

```
QTab:
LOAD *,
RecNo( ),
RowNo( )
resident Tab1 where A<>2;

LOAD
C as A,
D as B,
RecNo( ),
RowNo( )
resident Tab2 where A<>5;

//We don't need the source tables anymore, so we drop them
Drop tables Tab1, Tab2;
```

結果の QlikView 内部テーブル:

結果テーブル

A	B	RecNo( )	RowNo( )
1	aa	1	1
3	ee	3	2
4	yy	2	3
6	zz	3	4

RowNo

この関数は、結果として得られる QlikView の内部テーブルの現在の行の位置を整数で返します。最初の行の番号は 1 です。

構文:

```
RowNo( [TOTAL])
```

生データテーブルのレコード数をカウントする **RecNo( )** とは対照的に、**RowNo( )** 関数は、**where** 節で除外されたレコードはカウントせず、生データテーブルが別のテーブルに連結された場合でもリセットされません。



*先行する Load (同じテーブルから読み取りを行う、スタックされた複数の **LOAD** ステートメント) を使用する場合は、**RowNo( )** のみを最上部の **LOAD** ステートメントで使用できます。**RowNo( )** を後続の **LOAD** ステートメントで使用すると、0 が返されます。*

ロードスクリプト

生データテーブルのロード:

```
Tab1: LOAD * INLINE [A, B 1, aa 2,cc 3,ee];  Tab2: LOAD * INLINE [C, D 5, xx 4,yy 6,zz];
```

選択した行のレコードと行番号のロード:

```
QTab:
```

```
LOAD *,
RecNo( ),
RowNo( )
resident Tab1 where A<>2;

LOAD
C as A,
D as B,
RecNo( ),
RowNo( )
resident Tab2 where A<>5;

//We don't need the source tables anymore, so we drop them
Drop tables Tab1, Tab2;
```

結果の QlikView 内部テーブル:

結果テーブル

A	B	RecNo( )	RowNo( )
1	aa	1	1
3	ee	3	2
4	yy	2	3
6	zz	3	4

RowNo

RowNo() は、テーブルの現在の列セグメント内の現在行の数を返します。ビットマップチャートの場合、**RowNo()** はストレートテーブルに相当するセグメントに含まれる現在の行の数を返します。

テーブルまたはテーブルに相当するアイテムに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目間ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。

チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

構文:

```
RowNo([TOTAL])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 <fld> で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

例と結果

例	結果
軸 **Customer**、**UnitSales** を有するテーブルで構成されるチャートを作成し、**[セグメントの行]** および **Row Number** というラベルのメジャーとして `RowNo( )` と `RowNo(TOTAL)` を追加します。	**Row in Segment** 列には、顧客 Astrida の UnitSales の値が含まれている列セグメントの結果 1、2、3 が表示されます。行番号は、次の列セグメント Betacab でも再度 1 から始まります。 **Row Number** 列では、軸をテーブルの行のカウントに使用できることは無視されます。
式を追加: メジャーとして `IF( RowNo( )=1, 0, UnitSales / Above( UnitSales ))` 。	この数式は、各列セグメントの 1 行目に 0 を返すため、列は 0、2.25、1.1111111、0、2.5、5、0、NULL、0、4 のように表示されます。

例で使用されているデータ:

```
Temp:
LOAD * inline [
Customer|Product|OrderNumber|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|1|4|16
Astrida|AA|7|10|15
Astrida|BB|4|9|9
Betacab|CC|6|5|10
Betacab|AA|5|2|20
Betacab|BB|1|25| 25
Canutility|AA|3|8|15
Canutility|CC|||19
Divadip|CC|2|4|16
Divadip|DD|3|1|25
] (delimiter is '|');
```

データテーブルの例

Customer	UnitSales	Row in Segment	Row Number
Astrida	4	1	1
Astrida	10	2	2
Astrida	9	3	3
Betacab	5	1	4
Betacab	2	2	5
Betacab	25	3	6
Canutility	8	1	7

Customer	UnitSales	Row in Segment	Row Number
Canutility	-	2	8
Divadip	4	1	9
Divadip	1	2	10

日付および時刻関数

QlikView の日付および時刻関数は、日付と時間の値を転送、変換するために使用されます。すべての関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

関数は、1899 年 12 月 30 日からの経過日数と等しい日時のシリアル値に基づいています。整数値は日付を表し、小数値はその日付の時刻を表します。

QlikView はパラメータの数値を使用するため、日付や時刻として書式設定されていない場合でも、数値はパラメータとして有効です。パラメータが文字列の場合など、数値ではない場合、QlikView は、日付と時刻の環境変数に従って、その文字列の解釈を試みます。

パラメータで使用されている時刻書式が、環境変数で設定されている書式に対応していない場合、QlikView は正しく解釈することができません。この問題を解決するには、設定を変更するか、変換関数を使用します。

各関数の例は、日付と時刻のデフォルト書式である hh:mm:ss および YYYY-MM-DD (ISO 8601) を使用していると仮定して記載しています。

> *日付と時刻を日付または時刻関数で処理する際に、日付または時刻関数に地理的な位置が含まれている場合を除いて、QlikView では夏時間パラメータが無視されます。*
>
> *たとえば、`ConvertToLocalTime( filetime('Time.qvd'), 'Paris')` では夏時間パラメータが使用されますが、`ConvertToLocalTime(filetime('Time.qvd'), 'GMT-01:00')` では夏時間パラメータが使用されません。*

日付と時刻の関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

時刻の整数式

秒

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、秒を表す整数を返します。

```
second (expression)
```

minute

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、分を表す整数を返します。

```
minute (expression)
```

HOUR

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、時間を表す整数を返します。

```
hour (expression)
```

日

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って日付と判断される場合に、日付を表す整数を返します。

```
day (expression)
```

WEEK

この関数は、ISO 8601 に従って、週番号を表す整数を返します。週番号は標準的な数値の解釈に従って、数式の日付の解釈により計算されます。

```
week (timestamp [, first_week_day [, broken_weeks [, reference_day]]])
```

月

この関数は、環境変数 **MonthNames** および 1 から 12 までの整数で定義されている月名を持つデュアル値を返します。月は標準的な数値の解釈に従って、数式の日付の解釈により計算されます。

```
month (expression)
```

年

この関数は、**expression** が標準的な数値の解釈に従って日付と判断される場合に、年を表す整数を返します。

```
year (expression)
```

weekyear

この関数は、ISO 8601 に基づいた週番号が含まれる年を返します。週の周期は 1 ~ 52 前後です。

```
weekyear (expression)
```

weekday

この関数は、以下を持つデュアル値を返します。環境変数 **DayNames** で定義される日の名前。曜日に相当する 0 から 6 までの整数。

```
weekday (date)
```

タイムスタンプ関数

現在

この関数は、システム クロックから取得した現在の時刻のタイムスタンプを返します。デフォルト値は 1 です。

```
now ([ timer_mode])
```

今日

この関数は、システム クロックから取得した現在の日付を返します。

```
today ([timer_mode])
```

LocalTime

この関数は、指定されたタイム ゾーンのシステム クロックから取得した現在の時刻のタイムスタンプを返します。

```
localtime ([timezone [, ignoreDST ]])
```

make 関数

makedate

この関数は、年 **YYYY**、月 **MM**、日 **DD** から算出された日付を返します。

```
makedate (YYYY [ , MM [ , DD ] ])
```

makeweekdate

この関数は、年 **YYYY**、週 **WW**、曜日 **D** から算出された日付を返します。

```
makeweekdate (YYYY [ , WW [ , D ] ])
```

maketime

この関数は、時間 **hh**、分 **mm**、秒 **ss** から算出された時間を返します。

```
maketime (hh [ , mm [ , ss [ .fff ] ] ])
```

その他の日付関数

AddMonths

この関数は、**startdate** の **n** か月後の日付を返し、**n** が負の場合には、**startdate** の **n** か月前の日付を返します。

```
addmonths (startdate, n , [ , mode])
```

AddYears

この関数は、**startdate** の **n** 年後の日付を返し、**n** が負の場合には、**startdate** の **n** 年前の日付を返します。

```
addyears (startdate, n)
```

yeartodate

この関数は、入力した日付がスクリプトが最後にロードされた日付の年に該当するかどうかを算出し、該当する場合は True を返し、該当しない場合は False を返します。

```
yeartodate (timestamp [ , yearoffset [ , firstmonth [ , todaydate] ] ])
```

timezone 関数

timezone

この関数は Windows で定義されている現在のタイム ゾーンの名前を返します。このとき、夏時間の調整は考慮されません。

```
timezone ( )
```

GMT

この関数は、日付と現在の Greenwich Mean Time を返します。これはシステム クロックとWindows の時刻設定から導かれます。

```
GMT ( )
```

UTC

日付と現在の Coordinated Universal Time を返します。

```
UTC ( )
```

daylightsaving

Windows の定義に基づき、現在の夏時間調整を返します。

```
daylightsaving ( )
```

converttolocaltime

UTC または GMT の日付と時刻をデュアル値として現地時間に変換します。場所は、任意の数の世界中の都市とタイム ゾーンです。

```
converttolocaltime (timestamp [, place [, ignore_dst=false]])
```

時刻設定関数

setdateyear

この関数は入力として **timestamp** と**year** を取得し、**timestamp** を入力で指定された**year** で置き換えます。

```
setdateyear (timestamp, year)
```

setdateyearmonth

この関数は入力として **timestamp** と**month** と**year** を取得し、**timestamp** を入力で指定された**year** と **month** で置き換えます。

```
setdateyearmonth (timestamp, year, month)
```

in... 関数

inyear

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む年の範囲内にある場合、True を返します。

```
inyear (date, basedate , shift [, first_month_of_year = 1])
```

inyeartodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** のミリ秒単位まで正確に **base_date** を含む年の範囲内にある場合、True を返します。

```
inyeartodate (date, basedate , shift [, first_month_of_year = 1])
```

inquarter

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む四半期に含まれる場合、True を返します。

```
inquarter (date, basedate , shift [, first_month_of_year = 1])
```

inquartertodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** のミリ秒単位まで正確に **base_date** を含む四半期の範囲内にある場合、True を返します。

```
inquartertodate (date, basedate , shift [, first_month_of_year = 1])
```

inmonth

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む月にある場合、True を返します。

```
inmonth (date, basedate , shift)
```

inmonthtodate

base_date の最後のミリ秒まで **base_date** を含む月に **timestamp** がある場合に True を返します。

```
inmonthtodate (date, basedate , shift)
```

inmonths

この関数は、タイムスタンプが基準日と同じ月、隔月、四半期、4 か月、または半年のどれに該当するかを調べます。タイムスタンプがその前後の期間に該当するか確認することもできます。

```
inmonths (n, date, basedate , shift [, first_month_of_year = 1])
```

inmonthstodate

この関数は、タイムスタンプが、**base_date** の最後のミリ秒までの月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の範囲内か確認します。タイムスタンプがその前後の期間に該当するか確認することもできます。

```
inmonthstodate (n, date, basedate , shift [, first_month_of_year = 1])
```

inweek

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む週にある場合、True を返します。

```
inweek (date, basedate , shift [, weekstart])
```

inweektodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** のミリ秒単位まで正確に **base_date** を含む週の範囲内にある場合、True を返します。

```
inweektodate (date, basedate , shift [, weekstart])
```

inlunarweek

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む週周期の範囲内であれば真を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

```
inlunarweek (date, basedate , shift [, weekstart])
```

inlunarweektodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** の最後のミリ秒までの週周期の範囲内である場合に真を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

```
inlunarweektodate (date, basedate , shift [, weekstart])
```

inday

この関数は、**base_timestamp** を含む日に **timestamp** が含まれている場合、True を返します。

```
inday (timestamp, basetimestamp , shift [, daystart])
```

indaytotime

この関数は、**timestamp** が **base_timestamp** のミリ秒単位まで正確に **base_timestamp** を含む日の範囲内にある場合、True を返します。

```
indaytotime (timestamp, basetimestamp , shift [, daystart])
```

start ... end 関数

yearstart

この関数は、**date** を含む年の初日に対応するタイムスタンプを返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
yearstart ( date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

yearend

この関数は、**date** を含む年の最終日の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
yearend ( date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

yearname

この関数は、**date** を含む年の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する数値を基底として、4 桁の年の表示値を返します。

```
yearname (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]] )
```

quarterstart

この関数は、**date** を含む四半期の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
quarterstart (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

quarterend

この関数は、**date** を含む四半期の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
quarterend (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

quartername

この関数は、四半期の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を基底として、四半期の月数 (**MonthNames** スクリプト変数に従った書式) および年の表示値を返します。

```
quartername (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

monthstart

この関数は、**date** を含む月の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
monthstart (date [, shift = 0])
```

monthend

この関数は、**date** を含む月の最終日の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
monthend (date [, shift = 0])
```

monthname

この関数は、月の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する基底の数値を持つ、月 (**MonthNames** スクリプト変数に従った書式) および年の表示値を返します。

```
monthname (date [, shift = 0])
```

monthsstart

この関数は、ベース日付を含む月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。その前後の期間のタイムスタンプを取得することもできます。

```
monthsstart (n, date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

monthsend

この関数は、ベース日付を含む月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。その前後の期間のタイムスタンプを取得することもできます。

```
monthsend (n, date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

monthsname

この関数は、期間の月の範囲 (**MonthNames** スクリプト変数に従った書式で表示) および年を表す表示値を返します。基底値は、ベース日付を含む月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値です。

```
monthsname (n, date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])
```

weekstart

この関数は、**date** を含む暦週の初日 (月曜日) の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
weekstart (date [, shift = 0 [,weekoffset = 0]])
```

weekend

この関数は、**date** を含む暦週の最終日 (日曜日) における最後のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

```
weekend (date [, shift = 0 [,weekoffset = 0]])
```

weekname

この関数は、**date** を含む週の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する数値を基底として、年と週番号を表示する値を返します。

```
weekname (date [, shift = 0 [,weekoffset = 0]])
```

lunarweekstart

この関数は、**date** を含む週周期の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

```
lunarweekstart (date [, shift = 0 [,weekoffset = 0]])
```

lunarweekend

この関数は、**date** を含む週周期の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

```
lunarweekend (date [, shift = 0 [,weekoffset = 0]])
```

lunarweekname

この関数は、**date** を含む週周期の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する年と週周期番号を表示する表示値を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

```
lunarweekname (date [, shift = 0 [,weekoffset = 0]])
```

daystart

この関数は、**time** 引数に含まれる日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **TimestampFormat** です。

```
daystart (timestamp [, shift = 0 [, dayoffset = 0]])
```

dayend

この関数は、**time** を含む日の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **TimestampFormat** です。

```
dayend (timestamp [, shift = 0 [, dayoffset = 0]])
```

dayname

この関数は、**time** を含む日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する数値を基底として、日付を表示する値を返します。

```
dayname (timestamp [, shift = 0 [, dayoffset = 0]])
```

日付連番関数

age

age 関数は、**date_of_birth** に生まれた人の **timestamp** 時点での年齢 (満年齢) を返します。

```
age (timestamp, date_of_birth)
```

networkdays

networkdays 関数は、オプションで指定された **holiday** を考慮した上で、**start_date** と **end_date** の間の当日を含む作業日数 (月 ~ 金曜日) を返します。

```
networkdays (start:date, end_date {, holiday})
```

firstworkdate

firstworkdate 関数は、**end_date** までに **no_of_workdays** (月 ~ 金曜日) の日数に達するように、オプションで指定された休日を考慮した最遅開始日を返します。**end_date** と **holiday** は、有効な日付またはタイムスタンプでなければなりません。

```
firstworkdate (end_date, no_of_workdays {, holiday} )
```

lastworkdate

lastworkdate 関数は、オプションで指定された **holiday** を考慮した上で、**start_date** に開始した場合に **no_of_workdays** (月 ~ 金曜日) の日数に達する最早終了日を返します。**start_date** と **holiday** は、有効な日付またはタイムスタンプでなければなりません。

```
lastworkdate (start_date, no_of_workdays {, holiday})
```

daynumberofyear

この関数は、タイムスタンプの年の日番号を計算します。計算は、年の初日の最初のミリ秒から行われますが、最初の月を補正することもできます。

```
daynumberofyear (date[,firstmonth])
```

daynumberofquarter

この関数は、タイムスタンプの四半期の日番号を計算します。

```
daynumberofquarter (date[,firstmonth])
```

addmonths

この関数は、**startdate** の **n** か月後の日付を返し、**n** が負の場合には、**startdate** の **n** か月前の日付を返します。

構文:

```
AddMonths(startdate, n , [ , mode])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

AddMonths 引数

引数	説明
startdate	タイムスタンプの開始日。例: '2012-10-12'
n	正または負の整数の月数。

引数	説明
mode	**mode** は、該当する月がその月の始めに対して追加されているのか、その月の終わりに対して追加されているのかを指定します。例えば、入力した日付が 28 日以降で、**mode** が 1 に設定されている場合、関数はその月の終わりから、入力した日付と同じ日数だけ離れている日付を返します。デフォルトモードは 0 です。

例と結果:

例と結果

例	結果
`addmonths ('2003-01-29',3)`	'2003-04-29' を返します
`addmonths ('2003-01-29',3,0)`	'2003-04-29' を返します
`addmonths ('2003-01-29',3,1)`	'2003-04-28' を返します
`addmonths ('2003-01-29',1,0)`	'2003-02-28' を返します
`addmonths ('2003-01-29',1,1)`	'2003-02-26' を返します
`addmonths ('2003-02-28',1,0)`	'2003-03-28' を返します
`addmonths ('2003-02-28',1,1)`	'2003-03-31' を返します

addyears

この関数は、**startdate** の **n** 年後の日付を返し、**n** が負の場合には、**startdate** の **n** 年前の日付を返します。

構文:

```
AddYears(startdate, n)
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

AddYears 引数

引数	説明
startdate	タイムスタンプの開始日。例: '2012-10-12'
n	正または負の整数の年数。

例と結果:

例と結果

例	結果
`addyears ('2010-01-29',3)`	'2013-01-29' を返します
`addyears ('2010-01-29',-1)`	'2009-01-29' を返します

age

age 関数は、**date_of_birth** に生まれた人の **timestamp** 時点での年齢 (満年齢) を返します。

構文:

```
age(timestamp, date_of_birth)
```

数式に使用できます。

戻り値データ型: 数値

引数:

Age 引数

引数	説明
timestamp	満年齢を計算するためのタイムスタンプまたは計算結果がタイムスタンプになる数式。
date_of_birth	年齢を計算する人の生年月日。数式に使用できます。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
age('25/01/2014', '29/10/2012')
```

1 を返します。

Example 2:

```
age('29/10/2014', '29/10/2012')
```

2 を返します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
Employees:
LOAD * INLINE [
Member|DateOfBirth
John|28/03/1989
Linda|10/12/1990
Steve|5/2/1992
Birg|31/3/1993
Raj|19/5/1994
Prita|15/9/1994
Su|11/12/1994
Goran|2/3/1995
Sunny|14/5/1996
```

```
Ajoa|13/6/1996
Daphne|7/7/1998
Biffy|4/8/2000
] (delimiter is |);
AgeTable:
Load *,
age('20/08/2015', DateOfBirth) As Age
Resident Employees;
Drop table Employees;
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する age の戻り値が表示されます。

例 3 の結果

Member	DateOfBirth	Age
John	28/03/1989	26
Linda	10/12/1990	24
Steve	5/2/1992	23
Birg	31/3/1993	22
Raj	19/5/1994	21
Prita	15/9/1994	20
Su	11/12/1994	20
Goran	2/3/1995	20
Sunny	14/5/1996	19
Ajoa	13/6/1996	19
Daphne	7/7/1998	17
Biffy	4/8/2000	15

converttolocaltime

UTC または GMT のタイムスタンプをデュアル値として現地時間に変換します。

```
ConvertToLocalTime(timestamp [, place [, ignore_dst=false]])
```

戻り値のデータ型: dual

ConvertToLocalTime 引数

引数	説明
timestamp	例えば、'2012-10-12' のように、変換するタイムスタンプまたは計算結果がタイムスタンプになる数式として評価する日付。

引数	説明
place	下記の場所とタイム ゾーンの表に示された場所またはタイム ゾーン。あるいは、GMT または UTC を使用して現地時間を定義できます。次の値とタイム オフセットの範囲が有効です。 • GMT • GMT-12:00 - GMT-01:00 • GMT+01:00 - GMT+14:00 • UTC • UTC-12:00 - UTC-01:00 • UTC+01:00 - UTC+14:00 *DST オフセットを使用する場合 (**を評価する** ignore_dstFalse 引数値を指定する)、**place** 引数では GMT オフセットではなく場所を指定する必要があります。これは、夏時間の調整には、GMT オフセットが提供する経度情報に加えて、緯度情報が必要なためです。詳細については、「GMT オフセットを DST と組み合わせて使用する (page 1227)」を参照してください。* *標準タイム オフセットのみ使用できます。GMT-04:27 など、任意のタイム オフセットを使用することはできません。*
ignore_dst	この引数が True を評価する場合、DST (夏時間) は無視されます。True を評価する有効な引数値には、-1 と True() が含まれます。 この引数が False を評価する場合、日付と時刻は夏時間に調整されます。False を評価する有効な引数値には、0 と False() が含まれます。 **ignore_dst** 引数値が無効な場合、関数は **ignore_dst** 値が True と仮定して数式を評価します。**ignore_dst** 引数値が指定されていない場合、関数は **ignore_dst** 値が False と仮定して数式を評価します。

ignore_dst が True に設定されている場合を除き、結果として返される時刻は夏時間に調整されます。

場所とタイム ゾーン

ConvertToLocalTime 関数は、Windows レジストリにある世界各地の場所とタイム ゾーンの情報を取得します。従って、この関数が作動するには、使用する場所の名称が Windows レジストリの対応の名称と一致していなければなりません。

また Windows レジストリに登録されている表記はご使用の Windows の言語設定によっても異なります。これは、言語によって国名や都市名に異なる綴りが使用されていることがあるためです。

Windows レジストリで用いられている場所とタイムゾーンの完全な一覧については以下をご参照ください:

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Time Zones

またタイム ゾーンと場所の一覧には Windows のコントロール パネルからアクセスすることもできます。*コントロール パネル* を開き、*日付と時刻*、*タイム ゾーンの変更* の順に選択してください。ドロップダウン リストに、各タイム ゾーンに関連付けられている都市と国がすべて収録されています。

有効な場所とタイム ゾーン

A-C	D-K	L-R	S-Z
Abu Dhabi	Darwin	La Paz	Samoa
Adelaide	Dhaka	Lima	Santiago
Alaska	Eastern Time (US & Canada)	Lisbon	Sapporo
Amsterdam	Edinburgh	Ljubljana	Sarajevo
Arizona	Ekaterinburg	London	Saskatchewan
Astana	Fiji	Madrid	Seoul
Athens	Georgetown	Magadan	Singapore
Atlantic Time (Canada)	Greenland	Mazatlan	Skopje
Auckland	Greenwich Mean Time : Dublin	Melbourne	Sofia
Azores	Guadalajara	Mexico City	Solomon Is.
Baghdad	Guam	Mid-Atlantic	Sri Jayawardenepura
Baku	Hanoi	Minsk	St. Petersburg
Bangkok	Harare	Monrovia	Stockholm
Beijing	Hawaii	Monterrey	Sydney
Belgrade	Helsinki	Moscow	Taipei
Berlin	Hobart	Mountain Time (US & Canada)	Tallinn
Bern	Hong Kong	Mumbai	Tashkent
Bogota	Indiana (East)	Muscat	Tbilisi
Brasilia	International Date Line West	Nairobi	Tehran
Bratislava	Irkutsk	New Caledonia	Tokyo
Brisbane	Islamabad	New Delhi	Urumqi
Brussels	Istanbul	Newfoundland	Warsaw
Bucharest	Jakarta	Novosibirsk	Wellington
Budapest	Jerusalem	Nuku'alofa	West Central Africa

A-C	D-K	L-R	S-Z
Buenos Aires	Kabul	Osaka	Vienna
Cairo	Kamchatka	Pacific Time (US & Canada)	Vilnius
Canberra	Karachi	Paris	Vladivostok
Cape Verde Is.	Kathmandu	Perth	Volgograd
Caracas	Kolkata	Port Moresby	Yakutsk
Casablanca	Krasnoyarsk	Prague	Yerevan
Central America	Kuala Lumpur	Pretoria	Zagreb
Central Time (US & Canada)	Kuwait	Quito	-
Chennai	Kyiv	Riga	-
Chihuahua	-	Riyadh	-
Chongqing	-	Rome	-
Copenhagen	-	-	-

例と結果

例	結果
`ConvertToLocalTime('2023-08-14 08:39:47','Paris')`	'2023-08-14 10:39:47' と、対応する日付と時刻の内部表現を返します。
`ConvertToLocalTime(UTC(), 'Stockholm')`	夏時間に調整したストックホルムの時刻を返します。
`ConvertToLocalTime(UTC(), 'Stockholm', -1)`	夏時間調整していないストックホルムの時刻を返します。
`ConvertToLocalTime(UTC(), 'GMT-05:00')`	北米東海岸 (ニューヨークなど) の時刻を返します。場所ではなくGMT オフセットが指定されているため、夏時間調整は実行されていません。
`ConvertToLocalTime(UTC(), 'New York', -1)`	夏時間調整なしで、北米東海岸 (ニューヨーク) の時刻を返します。
`ConvertToLocalTime(UTC(), 'New York', True())`	夏時間調整なしで、北米東海岸 (ニューヨーク) の時刻を返します。
`ConvertToLocalTime(UTC(), 'New York', 0)`	夏時間に調整した北米東海岸 (ニューヨーク) の時刻を返します。
`ConvertToLocalTime(UTC(), 'New York', False())`	夏時間に調整した北米東海岸 (ニューヨーク) の時刻を返します。

GMT オフセットを DST と組み合わせて使用する

QlikView 2018 年 11 月の International Components for Unicode (ICU) ライブラリの実装後、GMT (グリニッジ標準時) オフセットを DST (夏時間) と組み合わせて使用する場合、緯度情報を追加する必要があります。

GMT は経度 (東西) オフセットで、DST は緯度 (南北) オフセットです。例えば、ヘルシンキ (フィンランド) とヨハネスブルグ (南アフリカ) noは同じ GMT+02:00 オフセットを共有していますが、同じ夏時間オフセットは共有していません。つまり、GMT オフセットに加え、DST オフセットでは、現地の DST 条件に関する詳細な情報を取得するために現地のタイムゾーンの緯度位置に関する情報 (地理的タイムゾーン入力) gaを必要とする。

day

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って日付と判断される場合に、日付を表す整数を返します。

構文:

```
day(expression)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例と結果

例	結果
`day( '1971-10-12' )`	12 を返します
`day( '35648' )`	6 を返します (35648 = 1997-08-06 のため)

dayend

この関数は、**time** を含む日の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **TimestampFormat** です。

構文:

```
DayEnd(time[, [period_no[, day_start]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

DayEnd 引数

引数	説明
time	評価するタイムスタンプ。
period_no	**period_no** は整数または計算結果が整数になる数式で、値 0 は **time** を含む日を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の日を、正の場合は将来の日を示します。
day_start	1 日の開始時刻を深夜 0 時以外に設定する場合は、**day_start** に 1 日未満の長さを補正値として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
dayend('25/01/2013 16:45:00')
```

25/01/2013 23:59:59 を返します。

Example 2:

```
dayend('25/01/2013 16:45:00', -1)
```

'24/01/2013 23:59:59' を返します。

Example 3:

```
dayend('25/01/2013 16:45:00', 0, 0.5)
```

26/01/2013 11:59:59 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の翌日の終了時刻を示すタイムスタンプを取得します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
DayEnd(InvDate, 1) AS DEnd
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、dayend() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	DEnd
28/03/2012	29/03/2012 23:59:59
10/12/2012	11/12/2012 23:59:59
5/2/2013	07/02/2013 23:59:59
31/3/2013	01/04/2013 23:59:59
19/5/2013	20/05/2013 23:59:59
15/9/2013	16/09/2013 23:59:59
11/12/2013	12/12/2013 23:59:59
2/3/2014	03/03/2014 23:59:59
14/5/2014	15/05/2014 23:59:59
13/6/2014	14/06/2014 23:59:59
7/7/2014	08/07/2014 23:59:59
4/8/2014	05/08/2014 23:59:59

daylightsaving

Windows の定義に基づき、現在の夏時間調整を返します。

構文:

```
DaylightSaving( )
```

戻り値データ型: デュアル

```
daylightsaving( )
```

dayname

この関数は、**time** を含む日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する数値を基底として、日付を表示する値を返します。

構文:

```
DayName(time[, period_no [, day_start]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

DayName 引数

引数	説明
time	評価するタイムスタンプ。
period_no	**period_no** は整数または計算結果が整数になる数式で、値 0 は **time** を含む日を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の日を、正の場合は将来の日を示します。
day_start	1 日の開始時刻を深夜 0 時以外に設定する場合は、**day_start** に 1 日未満の長さを補正値として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
dayname('25/01/2013 16:45:00')
```

25/01/2013 を返します。

Example 2:

```
dayname('25/01/2013 16:45:00', -1)
```

24/01/2013 を返します。

Example 3:

```
dayname('25/01/2013 16:45:00', 0, 0.5 )
```

25/01/2013 を返します。
タイムスタンプ全体を表示すると、'25/01/2013 12:00:00.000. に相当する元の値が表示されます。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、日の名前は、テーブルの各請求書日付の翌日の開始時刻を示すタイムスタンプから作成されます。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
```

```
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
DayName(InvDate, 1) AS DName
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、dayname() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	DName
28/03/2012	29/03/2012 00:00:00
10/12/2012	11/12/2012 00:00:00
5/2/2013	07/02/2013 00:00:00
31/3/2013	01/04/2013 00:00:00
19/5/2013	20/05/2013 00:00:00
15/9/2013	16/09/2013 00:00:00
11/12/2013	12/12/2013 00:00:00
2/3/2014	03/03/2014 00:00:00
14/5/2014	15/05/2014 00:00:00
13/6/2014	14/06/2014 00:00:00
7/7/2014	08/07/2014 00:00:00
4/8/2014	05/08/2014 00:00:00

daynumberofquarter

この関数は、タイムスタンプの四半期の日番号を計算します。

構文:

```
DayNumberOfQuarter(timestamp[,start_month])
```

戻り値データ型: 整数

この関数は、常に 366 日を基準に年を使用します。

引数:

DayNumberOfQuarter 引数

引数	説明
timestamp	評価する日付。
start_month	**start_month** を 2 から 12 の間で指定することで (省略した場合は 1)、年の開始時点を任意の月の初日に移動することができます。例えば、会計年度を 3 月 1 日から開始する場合には、**start_month** = 3 と指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
DayNumberOfQuarter('12/09/2014')
```

現四半期の日番号、74 を返します。

Example 2:

```
DayNumberOfQuarter('12/09/2014',3)
```

現四半期の日番号、12 を返します。
この場合、第 1 四半期は 3 月から始まります (start_month に 3 が指定されているため)。これは、現四半期が第 3 四半期で、9 月 1 日に始まったことを意味します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
ProjectTable:
LOAD recno() as InvID, * INLINE [
StartDate
28/03/2014
10/12/2014
5/2/2015
31/3/2015
19/5/2015
15/9/2015
] ;
NrDays:
Load *,
DayNumberOfQuarter(StartDate,4) As DayNrQtr
Resident ProjectTable;
Drop table ProjectTable;
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する DayNumberOfQuarter の戻り値が表示されます。

例 3 の結果

InvID	StartDate	DayNrQtr
1	28/03/2014	88
2	10/12/2014	71
3	5/2/2015	36
4	31/3/2015	91
5	19/5/2015	49
6	15/9/2015	77

daynumberofyear

この関数は、タイムスタンプの年の日番号を計算します。計算は、年の初日の最初のミリ秒から行われますが、最初の月を補正することもできます。

構文:

```
DayNumberOfYear(timestamp[,start_month])
```

戻り値データ型: 整数

この関数は、常に 366 日を基準に年を使用します。

引数:

DayNumberOfYear 引数

引数	説明
timestamp	評価する日付。
start_month	start_month を 2 から 12 の間で指定することで (省略した場合は 1)、年の開始時点を任意の月の初日に移動することができます。例えば、会計年度を 3 月 1 日から開始する場合には、start_month = 3 と指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
DayNumberOfYear('12/09/2014')
```

年の初めからカウントした日番号である 256 を返します。

Example 2:

```
DayNumberOfYear('12/09/2014',3)
```

3 月 1 日からカウントした日番号である 196 を返します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
ProjectTable:
LOAD recno() as InvID, * INLINE [
StartDate
28/03/2014
10/12/2014
5/2/2015
31/3/2015
19/5/2015
15/9/2015
] ;
NrDays:
Load *,
DayNumberOfYear(StartDate,4) As DayNrYear
Resident ProjectTable;
Drop table ProjectTable;
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する DayNumberOfYear の戻り値が表示されます。

例 3 の結果

InvID	StartDate	DayNrYear
1	28/03/2014	363
2	10/12/2014	254
3	5/2/2015	311
4	31/3/2015	366
5	19/5/2015	49
6	15/9/2015	168

daystart

この関数は、**time** 引数に含まれる日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **TimestampFormat** です。

構文:

```
DayStart(time[, [period_no[, day_start]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

DayStart 引数

引数	説明
time	評価するタイムスタンプ。
period_no	**period_no** は整数または計算結果が整数になる数式で、値 0 は **time** を含む日を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の日を、正の場合は将来の日を示します。
day_start	1 日の開始時刻を深夜 0 時以外に設定する場合は、**day_start** に 1 日未満の長さを補正値として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
daystart('25/01/2013 16:45:00')
```

25/01/2013 00:00:00 を返します。

Example 2:

```
daystart('25/01/2013 16:45:00', -1)
```

24/01/2013 00:00:00 を返します。

Example 3:

```
daystart('25/01/2013 16:45:00', 0, 0.5 )
```

25/01/2013 12:00:00 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の翌日の開始時刻を示すタイムスタンプを取得します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
```

```
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
DayStart(InvDate, 1) AS DStart
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、daystart() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	DStart
28/03/2012	29/03/2012 00:00:00
10/12/2012	11/12/2012 00:00:00
5/2/2013	06/02/2013 00:00:00
31/3/2013	01/04/2013 00:00:00
19/5/2013	20/05/2013 00:00:00
15/9/2013	16/09/2013 00:00:00
11/12/2013	12/12/2013 00:00:00
2/3/2014	03/03/2014 00:00:00
14/5/2014	15/05/2014 00:00:00
13/6/2014	14/06/2014 00:00:00
7/7/2014	08/07/2014 00:00:00
4/8/2014	05/08/2014 00:00:00

firstworkdate

firstworkdate 関数は、**end_date** までに **no_of_workdays** (月 ~ 金曜日) の日数に達するように、オプションで指定された休日を考慮した最遅開始日を返します。**end_date** と **holiday** は、有効な日付またはタイムスタンプでなければなりません。

構文:

```
firstworkdate(end_date, no_of_workdays [, holiday] )
```

戻り値データ型: 整数

引数:

FirstWorkDate 引数

引数	説明
end_date	評価する終了日のタイムスタンプ。
no_of_ workdays	作成する作業日数。

holiday	作業日から除外する休日期間。休日期間は、開始日と終了日で指定され、コンマで区切られます。
	`'25/12/2013', '26/12/2013'`
	コンマで区切ることで、複数の休日期間を除外することもできます。
	`'25/12/2013', '26/12/2013', '31/12/2013', '01/01/2014'`

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
firstworkdate ('29/12/2014', 9)
```

'17/12/2014' を返します。

Example 2:

```
firstworkdate ('29/12/2014', 9, '25/12/2014', '26/12/2014')
```

2 日間の休日期間を考慮したため、'15/12/2014' を返します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
ProjectTable:
LOAD *, recno() as InvID INLINE [
EndDate
28/03/2015
10/12/2015
5/2/2016
31/3/2016
19/5/2016
15/9/2016
] ;
NrDays:
Load *,
```

```
FirstWorkDate(EndDate,120) As StartDate
Resident ProjectTable;
Drop table ProjectTable;
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する FirstWorkDate の戻り値が表示されます。

例 3 の結果

InvID	EndDate	StartDate
1	28/03/2015	13/10/2014
2	10/12/2015	26/06/2015
3	5/2/2016	24/08/2015
4	31/3/2016	16/10/2015
5	19/5/2016	04/12/2015
6	15/9/2016	01/04/2016

GMT

この関数は、日付と現在の Greenwich Mean Time を返します。これはシステム クロックと Windows の時刻設定から導かれます。

構文:

```
GMT( )
```

戻り値データ型: デュアル

hour

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、時間を表す整数を返します。

構文:

```
hour(expression)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例と結果

例	結果
hour('09:14:36')	9 を返します
hour('0.5555')	13 を返します (0.5555 = 13:19:55 のため)

inday

この関数は、**base_timestamp** を含む日に **timestamp** が含まれている場合、True を返します。

構文:

```
InDay (timestamp, base_timestamp, period_no[, day_start])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InDay 引数

引数	説明
timestamp	**base_timestamp** と比較したい日付と時刻。
base_timestamp	タイムスタンプの評価に使用する日付と時刻。
period_no	日は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_timestamp** を含む日を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の日を、正の場合は将来の日を示します。
day_start	1 日の開始時刻を深夜 0 時以外に設定する場合は、**day_start** を使用して 1 日未満の長さを補正値として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

Example 1:

```
inday ('12/01/2006 12:23:00', '12/01/2006 00:00:00', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
inday ('12/01/2006 12:23:00', '13/01/2006 00:00:00', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inday ('12/01/2006 12:23:00', '12/01/2006 00:00:00', -1)
```

False を返します

Example 4:

```
inday ('11/01/2006 12:23:00', '12/01/2006 00:00:00', -1)
```

True を返します

Example 5:

```
inday ('12/01/2006 12:23:00', '12/01/2006 00:00:00', 0, 0.5)
```

False を返します

Example 6:

```
inday ('12/01/2006 11:23:00', '12/01/2006 00:00:00', 0, 0.5)
```

True を返します

Example 7:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、請求書日付が base_timestamp から始まる日かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvTime
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
];

InvoiceData:
LOAD *,
InDay(InvTime, '28/03/2012 00:00:00', 0) AS InDayEx
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inday() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 7 の結果

InvTime	InDayEx
28/03/2012	-1 (True)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	0 (False)

indaytotime

この関数は、**timestamp** が **base_timestamp** のミリ秒単位まで正確に **base_timestamp** を含む日の範囲内にある場合、True を返します。

構文:

```
InDayToTime (timestamp, base_timestamp, period_no[, day_start])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InDayToTime 引数

引数	説明
timestamp	**base_timestamp** と比較したい日付と時刻。
base_timestamp	タイムスタンプの評価に使用する日付と時刻。
period_no	日は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_timestamp** を含む日を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の日を、正の場合は将来の日を示します。
day_start	(オプション) 1 日の開始時刻を深夜 0 時以外に設定する場合は、**day_start** を使用して 1 日未満の長さを補正値として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

Example 1:

```
indaytotime ('12/01/2006 12:23:00', '12/01/2006 23:59:00', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
indaytotime ('12/01/2006 12:23:00', '12/01/2006 00:00:00', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
indaytotime ('11/01/2006 12:23:00', '12/01/2006 23:59:00', -1)
```

True を返します

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、請求書のタイムスタンプが base_timestamp から始まる日の 17:00:00 以前かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvTime
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
```

```
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InDayToTime(InvTime, '28/03/2012 17:00:00', 0) AS InDayExTT
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、indaytotime() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvTime	InDayExTT
28/03/2012	-1 (True)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	0 (False)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inlunarweek

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む週周期の範囲内であれば真を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

構文:

```
InLunarWeek (timestamp, base_date, period_no[, first_week_day])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InLunarWeek 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。

引数	説明
base_date	週周期の評価に使用する日付。
period_no	週周期は **period_no** によって補正することができます。period_no は整数で、値 0 は **base_date** を含む週周期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の週周期を、正の場合は将来の週周期を示します。
first_week_day	0 未満または 0 よりも大きい補正値。日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を指定して、年の開始時点を変更できます。

Example 1:

```
inlunarweek('12/01/2013', '14/01/2013', 0)
```

True を返します。timestamp の値 12/01/2013 は、08/01/2013 から14/01/2013 までの週の範囲内です。

Example 2:

```
inlunarweek('12/01/2013', '07/01/2013', 0)
```

False を返します。base_date 07/01/2013 は、01/01/2013 から07/01/2013 までの週周期の範囲内です。

Example 3:

```
inlunarweek('12/01/2013', '14/01/2013', -1)
```

False を返します。period_no の値に -1 が指定されており、前の週である01/01/2013 から07/01/2013.に週がシフトしています。

Example 4:

```
inlunarweek('07/01/2013', '14/01/2013', -1)
```

True を返します。上の例と異なり、週を過去へシフトするとタイムスタンプがその週の範囲内になります。

Example 5:

```
inlunarweek('11/01/2006', '08/01/2006', 0, 3)
```

False を返します。first_week_day の値に 3 を指定した場合、年の始まりが 04/01/2013 から計算されるので、base_date の値が最初の週の範囲内になり、timestamp の値が 11/01/2013 から17/01/2013 までの週の範囲内になります。

Example 6:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、請求書日付が、base_date の値から4 週間シフトした週の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
```

```
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InLunarWeek(InvDate, '11/01/2013', 4) AS InLWeekPlus4
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inlunarweek() 関数の戻り値の列が含まれています。

この関数は、InvDate5/2/2013 の値に対して True を返します。base_date の値 11/01/2013 は 4 週間シフトされており、5/02/2013 から11/02/2013 の週の範囲内です。

例 6 の結果

InvDate	InLWeekPlus4
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	-1 (True)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inlunarweektodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** の最後のミリ秒までの週周期の範囲内である場合に真を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

構文:

```
InLunarWeekToDate (timestamp, base_date, period_no [, first_week_day])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InLunarWeekToDate 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	週周期の評価に使用する日付。
peroid_no	週周期は **period_no** によって補正することができます。period_no は整数で、値 0 は **base_date** を含む週周期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の週周期を、正の場合は将来の週周期を示します。
week_start	0 未満または 0 よりも大きい補正値。日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を指定して、年の開始時点を変更できます。

Example 1:

```
inlunarweektodate('12/01/2013', '13/01/2013', 0)
```

True を返します。timestamp の値 12/01/2013 は、08/01/2013 から13/01/2013 までの週の範囲内です。

Example 2:

```
inlunarweektodate('12/01/2013', '11/01/2013', 0)
```

False を返します。両方の日付が 12/01/2012 より前の同じ週周期の範囲内でも、timestamp の値は base_date の値より後です。

Example 3:

```
inlunarweektodate('12/01/2006', '05/01/2006', 1)
```

True を返します。period_no に 1 を指定するとbase_date を 1 週間先にシフトするので、timestamp の値がその週周期の範囲内になります。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、請求書日付が、base_date の値から4 週間シフトした週の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
```

```
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InLunarWeekToDate(InvDate, '07/01/2013', 4) AS InLWeek2DPlus4
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inlunarweek() 関数の戻り値の列が含まれています。

この関数は、InvDate5/2/2013 の値に対して True を返します。base_date の値 11/01/2013 は 4 週間シフトされており、5/02/2013 から07/02/2013 の週の範囲内です。

例 4 の結果

InvDate	InLWeek2DPlus4
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	-1 (True)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inmonth

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む月にある場合、True を返します。

構文:

```
InMonth (timestamp, base_date, period_no[, first_month_of_year])
```

戻り値データ型 : ブール値

引数:

InMonth 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	月の評価に使用する日付。
period_no	月は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む月を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の月を、正の場合は将来の月を示します。
first_month_of_year	**first_month_of_year** パラメーターは無効化されており、将来使用する目的で予約されています。

Example 1:

```
inmonth ('25/01/2013', '01/01/2013', 0 )
```

True を返します

Example 2:

```
inmonth('25/01/2013', '01/04/2013', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inmonth ('25/01/2013', '01/01/2013', -1)
```

False を返します

Example 4:

```
inmonth ('25/12/2012', '01/01/2013', -1)
```

True を返します

Example 5:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、period_no に 4 を指定して、請求書日付が base_date の月の 4 か月後の月の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
```

```
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InMonth(InvDate, '31/01/2013', 4) AS InMthPlus4
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inmonth() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 5 の結果

InvDate	InMthPlus4
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	0 (False)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	-1 (True)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inmonths

この関数は、タイムスタンプが基準日と同じ月、隔月、四半期、4 か月、または半年のどれに該当するかを調べます。タイムスタンプがその前後の期間に該当するか確認することもできます。

構文:

```
InMonths(n_months, timestamp, base_date, period_no [, first_month_of_year])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InMonths 引数

引数	説明
n_months	期間を定義する月数。整数、または計算結果が整数になる数式で次のうちのいずれかである必要があります: 1 (inmonth() 関数と同機能)、2 (2 か月)、3 (inquarter() 関数と同機能)、4 (4 か月)、6 (半年)。
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	期間の評価に使用する日付。
period_no	期間は、**period_no**、整数、計算結果が整数になる数式を使用して補正できます。値 0 は **base_date** を含む期間を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の期間を、正の場合は将来の期間を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
inmonths(4, '25/01/2013', '25/04/2013', 0)
```

True を返します。timestamp の値 25/01/2013 は、01/01/2013 から 30/04/2013 までの 4 か月の範囲内です。この期間には、base_date の値 25/04/2013 も含まれています。

Example 2:

```
inmonths(4, '25/05/2013', '25/04/2013', 0)
```

False を返します。25/05/2013 は、上の例の期間の範囲外です。

Example 3:

```
inmonths(4, '25/11/2012', '01/02/2013', -1 )
```

True を返します。period_no の値に -1 が指定されているので、比較対象の期間が 4 か月 (n-months の値) 前の 01/09/2012 から 31/12/2012. までの期間にシフトしています。

Example 4:

```
inmonths( 4, '25/05/2006', '01/03/2006', 0, 3)
```

True を返します。first_month_of_year の値に 3が設定されており、比較対象の期間は 01/03/2006 から 30/07/2006 までではなく01/01/2006 から 30/04/2006までになっています。

Example 5:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの請求書日付が、base_date を 1 x 2 か月間 (period_no に 1 を指定) 後にシフトした日を含む 2 か月単位の期間の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InMonths(2, InvDate, '11/02/2013', 1) AS InMthsPlus1
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、InMonths() 関数の戻り値の列が含まれています。

base_date の値が関数の値 (11/02/2013) から 2 か月後にシフトされているので、比較対象の期間は 01/03/2013 から 30/04/2013 までです。

例 5 の結果

InvDate	InMthsPlus1
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	0 (False)
31/3/2013	-1 (True)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)

13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inmonthstodate

この関数は、タイムスタンプが、**base_date** の最後のミリ秒までの月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の範囲内か確認します。タイムスタンプがその前後の期間に該当するか確認することもできます。

構文:

```
InMonths (n_months, timestamp, base_date, period_no[, first_month_of_year ])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InMonthsToDate 引数

引数	説明
n_months	期間を定義する月数。整数、または計算結果が整数になる数式で次のうちのいずれかである必要があります: 1 (inmonth() 関数と同機能)、2 (2 か月)、3 (inquarter() 関数と同機能)、4 (4 か月)、6 (半年)。
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	期間の評価に使用する日付。
period_no	期間は、**period_no**、整数、計算結果が整数になる数式を使用して補正できます。値 0 は **base_date** を含む期間を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の期間を、正の場合は将来の期間を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
inmonthstodate(4, '25/01/2013', '25/04/2013', 0)
```

True を返します。timestamp の値 25/01/2013 は、01/01/2013 から 25/04/2013 までの 4 か月の範囲内です。この期間には、base_date の値 25/04/2013 も含まれています。

Example 2:

```
inmonthstodate(4, '26/04/2013', '25/04/2006', 0)
```

False を返します。26/04/2013 は、上の例の期間の範囲外です。

Example 3:

```
inmonthstodate(4, '25/09/2005', '01/02/2006', -1)
```

True を返します。period_no の値に -1 が指定されているので、比較対象の期間が 4 か月 (n-months の値) 前の 01/09/2005 から01/02/2006. までの期間にシフトしています。

Example 4:

```
inmonthstodate(4, '25/04/2006', '01/06/2006', 0, 3)
```

True を返します。first_month_of_year の値に 3が設定されており、比較対象の期間は 01/03/2006 から 01/06/2006 までではなく01/05/2006 から01/06/2006までになっています。

Example 5:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの請求書日付が、base_date を 4 x 2 か月間 (period_no に 4 を指定) 後にシフトした日を含む 2 か月単位の期間の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InMonthsToDate(2, InvDate, '15/02/2013', 4) AS InMths2DPlus4
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、InMonths() 関数の戻り値の列が含まれています。

base_date の値が関数の値 (15/02/2013) から8 か月後にシフトされているので、比較対象の期間は 01/09/2013 から15/10/2013 までです。

例 5 の結果

InvDate	InMths2DPlus4

28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	0 (False)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	-1 (True)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inmonthtodate

base_date の最後のミリ秒まで **base_date** を含む月に **timestamp** がある場合に True を返します。

構文:

```
InMonthToDate (timestamp, base_date, period_no)
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InMonthToDate 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	月の評価に使用する日付。
period_no	月は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む月を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の月を、正の場合は将来の月を示します。

Example 1:

```
inmonthtodate ('25/01/2013', '25/01/2013', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
inmonthtodate ('25/01/2013', '24/01/2013', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inmonthtodate ('25/01/2013', '28/02/2013', -1)
```

True を返します

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、period_no に 4 を指定して、請求書日付が、base_date の月の 4 か月後の月の範囲内かつ base_date で指定された日の 4 か月後の日の終了時刻以前であることを確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InMonthToDate(InvDate, '31/01/2013', 4) AS InMthPlus42D
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inmonthtodate() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvDate	InMthPlus42D
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	0 (False)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	-1 (True)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)

2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inquarter

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む四半期に含まれる場合、True を返します。

構文:

```
InQuarter (timestamp, base_date, period_no[, first_month_of_year])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InQuarter 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	四半期の評価に使用する日付。
period_no	四半期は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む四半期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の四半期を、正の場合は将来の四半期を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

Example 1:

```
inquarter ('25/01/2013', '01/01/2013', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
inquarter ('25/01/2013', '01/04/2013', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inquarter ('25/01/2013', '01/01/2013', -1)
```

False を返します

Example 4:

```
inquarter ('25/12/2012', '01/01/2013', -1)
```

True を返します

Example 5:

```
inquarter ('25/01/2013', '01/03/2013', 0, 3)
```

False を返します

Example 6:

```
inquarter ('25/03/2013', '01/03/2013', 0, 3)
```

True を返します

Example 7:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、first_month_of_year の値に 4 を指定し base_date を 31/01/2013 にして、請求書日付が指定された会計年度の第 4 四半期の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InQuarter(InvDate, '31/01/2013', 0, 4) AS Qtr4FinYr1213
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inquarter() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 7 の結果

InvDate	Qtr4Fin1213

28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	-1 (True)
31/3/2013	-1 (True)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inquartertodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** のミリ秒単位まで正確に **base_date** を含む四半期の範囲内にある場合、True を返します。

構文:

```
InQuarterToDate (timestamp, base_date, period_no [, first_month_of_year])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InQuarterToDate 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	四半期の評価に使用する日付。
period_no	四半期は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む四半期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の四半期を、正の場合は将来の四半期を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

Example 1:

```
inquartertodate ('25/01/2013', '25/01/2013', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
inquartertodate ('25/01/2013', '24/01/2013', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inquartertodate ('25/01/2012', '01/02/2013', -1)
```

False を返します

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、first_month_of_year の値に 4 を指定し、請求書日付が指定された会計年度の第 4 四半期の範囲内かつ 28/02/2013 の日の終了時刻以前かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InQuarterToDate(InvDate, '28/02/2013', 0, 4) AS Qtr42Date
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inquartertodate() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvDate	Qtr42Date
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	-1 (True)

31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inweek

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む週にある場合、True を返します。

構文:

```
InWeek (timestamp, base_date, period_no[, first_week_day])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InWeek 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	週の評価に使用する日付。
period_no	週は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む週を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の週を、正の場合は将来の週を示します。
first_week_day	デフォルトでは、週の初日は月曜日で、日曜日と月曜日の間の深夜 0 時から始まります。別の曜日から始まる週を指定するには、**first_week_day** に補正値を指定します。補正値は、日数を示す整数または 1 日未満の長さ、またはその両方で指定できます。

Example 1:

```
inweek ('12/01/2006', '14/01/2006', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
inweek ('12/01/2006', '20/01/2006', 0 )
```

False を返します

Example 3:

```
inweek ('12/01/2006', '14/01/2006', -1 )
```

False を返します

Example 4:

```
inweek ('07/01/2006', '14/01/2006', -1)
```

True を返します

Example 5:

```
inweek ('12/01/2006', '09/01/2006', 0, 3)
```

False を返します
first_week_day に 3 (木曜日) が指定されているので、12/01/2006 は 09/01/2006 を含む週の次の週の初日になります。

Example 6:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、period_no に 4 を指定して、請求書日付が base_date の週の 4 週間後の週の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InWeek(InvDate, '11/01/2013', 4) AS InWeekPlus4
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inweek() 関数の戻り値の列が含まれています。

InvDate5/2/2013 は base_date から4 週間後の週になります:11/1/2013.

例 6 の結果

InvDate	InWeekPlus4
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	-1 (True)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inweektodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** のミリ秒単位まで正確に **base_date** を含む週の範囲内にある場合、True を返します。

構文:

```
InWeekToDate (timestamp, base_date, period_no [, first_week_day])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InWeekToDate 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	週の評価に使用する日付。
period_no	週は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む週を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の週を、正の場合は将来の週を示します。
first_week_day	デフォルトでは、週の初日は月曜日で、日曜日と月曜日の間の深夜 0 時から始まります。別の曜日から始まる週を指定するには、**first_week_day** に補正値を指定します。補正値は、日数を示す整数または 1 日未満の長さ、またはその両方で指定できます。

Example 1:

```
inweektodate ('12/01/2006', '12/01/2006', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
inweektodate ('12/01/2006', '11/01/2006', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inweektodate ('12/01/2006', '18/01/2006', -1)
```

False を返します
period_no に -1 が指定されているため、timestamp と比較する日付は 11/01/2006 になります。

Example 4:

```
inweektodate ( '11/01/2006', '12/01/2006', 0, 3 )
```

False を返します
first_week_day に 3 (木曜日) が指定されているので、12/01/2006 は 12/01/2006 を含む週の次の週の初日になります。

Example 5:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、period_no に 4 を指定して、請求書日付が base_date の週の 4 週間後の週の範囲内かつ base_date の 4 週間後の日以前かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InWeekToDate(InvDate, '11/01/2013', 4) AS InWeek2DPlus4
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inweek() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 5 の結果

InvDate	InWeek2DPlus4
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	0 (False)
5/2/2013	-1 (True)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inyear

この関数は、**timestamp** が **base_date** を含む年の範囲内にある場合、True を返します。

構文:

```
InYear (timestamp, base_date, period_no [, first_month_of_year])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InYear 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	年の評価に使用する日付。
period_no	年は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む年を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の年を、正の場合は将来の年を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
inyear ('25/01/2013', '01/01/2013', 0 )
```

True を返します

Example 2:

```
inyear ('25/01/2012', '01/01/2013', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inyear ('25/01/2013', '01/01/2013', -1)
```

False を返します

Example 4:

```
inyear ('25/01/2012', '01/01/2013', -1 )
```

True を返します

Example 5:

```
inyear ('25/01/2013', '01/01/2013', 0, 3)
```

True を返します

Example 6:

```
inyear ('25/03/2013', '01/07/2013', 0, 3 )
```

False を返します。この timestamp を指定する base_date とfirst_month_of_year の値は、01/03/2012 から 28/02/2013 までの範囲内である必要があります

Example 7:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、first_month_of_year の値に 4 を指定し base_date を 1/4/2012 から31/03/2013 の間にして、請求書日付が指定された会計年度の範囲内かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
```

```
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];
```

InvDate が、1/04/2012 から31/03/2013 までの会計年度の範囲内かどうかテストします。

```
InvoiceData:
LOAD *,
InYear(InvDate, '31/01/2013', 0, 4) AS FinYr1213
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inyear() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 7 の結果

InvDate	FinYr1213
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	-1 (True)
5/2/2013	-1 (True)
31/3/2013	-1 (True)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

inyeartodate

この関数は、**timestamp** が **base_date** のミリ秒単位まで正確に **base_date** を含む年の範囲内にある場合、True を返します。

構文:

```
InYearToDate (timestamp, base_date, period_no[, first_month_of_year])
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

InYearToDate 引数

引数	説明
timestamp	**base_date** と比較する日付。
base_date	年の評価に使用する日付。
period_no	年は **period_no** によって補正することができます。**period_no** は整数で、値 0 は **base_date** を含む年を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の年を、正の場合は将来の年を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

Example 1:

```
inyeartodate ('2013/01/25', '2013/02/01', 0)
```

True を返します

Example 2:

```
inyeartodate ('2012/01/25', '2013/01/01', 0)
```

False を返します

Example 3:

```
inyeartodate ('2012/01/25', '2013/02/01', -1)
```

True を返します

Example 4:

```
inyeartodate ('2012/11/25', '2013/01/31', 0, 4)
```

True を返します
timestamp の値は、4 番目の月から始まる会計年度かつ base_date の値までの範囲内です。

Example 5:

```
inyeartodate ( '2013/3/31', '2013/01/31', 0, 4 )
```

False を返します
上の例との違いは、timestamp の値が会計年度内ではあるものの base_dateの値の後になることです。そのため、範囲外になります。

Example 6:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、first_month_of_year の値に 4 を指定し、請求書日付が、指定された会計年度内かつ 31/01/2013 の終了時刻以前かどうか確認します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
InYearToDate(InvDate, '31/01/2013', 0, 4) AS FinYr2Date
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、inyeartodate() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 6 の結果

InvDate	FinYr2Date
28/03/2012	0 (False)
10/12/2012	-1 (True)
5/2/2013	0 (False)
31/3/2013	0 (False)
19/5/2013	0 (False)
15/9/2013	0 (False)
11/12/2013	0 (False)
2/3/2014	0 (False)
14/5/2014	0 (False)
13/6/2014	0 (False)
7/7/2014	0 (False)
4/8/2014	0 (False)

lastworkdate

lastworkdate 関数は、オプションで指定された **holiday** を考慮した上で、**start_date** に開始した場合に **no_of_workdays** (月 ~ 金曜日) の日数に達する最早終了日を返します。**start_date** と **holiday** は、有効な日付またはタイムスタンプでなければなりません。

構文:

```
lastworkdate(start_date, no_of_workdays {, holiday})
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Lastworkdate 引数

引数	説明
start_date	評価する開始日。
no_of_workdays	作成する作業日数。
holiday	作業日から除外する休日期間。休日期間は、開始日と終了日で指定され、コンマで区切られます。 **'25/12/2013', '26/12/2013'** コンマで区切ることで、複数の休日期間を除外することもできます。 **'25/12/2013', '26/12/2013', '31/12/2013', '01/01/2014'**

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
lastworkdate ('19/12/2014', 9)
```

「31/12/2014」を返します。

Example 2:

```
lastworkdate ('19/12/2014', 9, '2014-12-25', '2014-12-26')
```

2 日間の休日期間を考慮したため、'02/01/2015' を返します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
ProjectTable:
LOAD *, recno() as InvID INLINE [
StartDate
28/03/2014
10/12/2014
5/2/2015
31/3/2015
19/5/2015
15/9/2015
] ;
NrDays:
Load *,
LastWorkDate(StartDate,120) As EndDate
Resident ProjectTable;
Drop table ProjectTable;
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する LastWorkDate の戻り値が表示されます。

例 3 の結果

InvID	StartDate	EndDate
1	28/03/2014	11/09/2014
2	10/12/2014	26/05/2015
3	5/2/2015	27/07/2015
4	31/3/2015	14/09/2015
5	19/5/2015	02/11/2015
6	15/9/2015	29/02/2016

localtime

この関数は、指定されたタイム ゾーンのシステム クロックから取得した現在の時刻のタイムスタンプを返します。

```
LocalTime([timezone [, ignoreDST ]])
```

戻り値のデータ型: dual

LocalTime 引数

引数	説明
timezone	**timezone** は、**[Windows コントロール パネル]** の **[日付と時間]** で **[タイム ゾーン設定]** にリストされているいずれかの場所を含む文字列、あるいは 'GMT+hh:mm' 形式の文字列として指定されます。使用できる場所とタイムゾーンの一覧は、以下の表の通りです。 タイムゾーンが指定されていない場合は、現地時間が返されます。 *DST オフセットを使用する場合 (**を評価する** ignoreDSTFalse 引数値を指定する)、**place** 引数では GMT オフセットではなく場所を指定する必要があります。これは、夏時間の調整には、GMT オフセットが提供する経度情報に加えて、緯度情報が必要なためです。詳細については、「GMT オフセットを DST と組み合わせて使用する (page 1272)」を参照してください。*
ignoreDST	この引数が True を評価する場合、DST (夏時間) は無視されます。有効な引数値には、-1 と `True()` が含まれます。 この引数が False を評価する場合、日付と時刻は夏時間に調整されます。有効な引数値には、0 と `False()` が含まれます。 **ignoreDST** 引数値が無効な場合、関数は **ignoreDST** 値を True と評価して数式を評価します (夏時間は無視される)。**ignoreDST** 引数値が指定されない場合、関数は **ignoreDST** 値を False と評価して数式を評価します (日付と時刻は夏時間に調整される)。

有効な場所とタイム ゾーン

A-C	D-K	L-R	S-Z
Abu Dhabi	Darwin	La Paz	Samoa
Adelaide	Dhaka	Lima	Santiago
Alaska	Eastern Time (US & Canada)	Lisbon	Sapporo
Amsterdam	Edinburgh	Ljubljana	Sarajevo
Arizona	Ekaterinburg	London	Saskatchewan
Astana	Fiji	Madrid	Seoul
Athens	Georgetown	Magadan	Singapore
Atlantic Time (Canada)	Greenland	Mazatlan	Skopje
Auckland	Greenwich Mean Time : Dublin	Melbourne	Sofia
Azores	Guadalajara	Mexico City	Solomon Is.

A-C	D-K	L-R	S-Z
Baghdad	Guam	Mid-Atlantic	Sri Jayawardenepura
Baku	Hanoi	Minsk	St. Petersburg
Bangkok	Harare	Monrovia	Stockholm
Beijing	Hawaii	Monterrey	Sydney
Belgrade	Helsinki	Moscow	Taipei
Berlin	Hobart	Mountain Time (US & Canada)	Tallinn
Bern	Hong Kong	Mumbai	Tashkent
Bogota	Indiana (East)	Muscat	Tbilisi
Brasilia	International Date Line West	Nairobi	Tehran
Bratislava	Irkutsk	New Caledonia	Tokyo
Brisbane	Islamabad	New Delhi	Urumqi
Brussels	Istanbul	Newfoundland	Warsaw
Bucharest	Jakarta	Novosibirsk	Wellington
Budapest	Jerusalem	Nuku'alofa	West Central Africa
Buenos Aires	Kabul	Osaka	Vienna
Cairo	Kamchatka	Pacific Time (US & Canada)	Vilnius
Canberra	Karachi	Paris	Vladivostok
Cape Verde Is.	Kathmandu	Perth	Volgograd
Caracas	Kolkata	Port Moresby	Yakutsk
Casablanca	Krasnoyarsk	Prague	Yerevan
Central America	Kuala Lumpur	Pretoria	Zagreb
Central Time (US & Canada)	Kuwait	Quito	-
Chennai	Kyiv	Riga	-
Chihuahua	-	Riyadh	-
Chongqing	-	Rome	-
Copenhagen	-	-	-

以下の例は、現地時間 2023-08-14 08:39:47 にこの関数が呼び出され、サーバーまたはデスクトップ環境の現地タイムゾーンが GMT-05:00 で、この日付時点で夏時間が導入されている地域であるという条件に基づいています。

スクリプトの例

例	結果
`localtime ()`	現地時刻 2023-08-14 08:39:47 を返します。
`localtime ('London')`	ロンドンの現地時刻 2023-08-14 13:39:47 を返します。
`localtime ('GMT+02:00')`	GMT+02:00 のタイムゾーンの現地時間 2023-08-14 14:39:47 を返します。場所ではなくGMT オフセットが指定されているため、夏時間調整は実行されていません。
`localtime ('Paris',-1)`	夏時間を無視したパリの現地時間 2023-08-14 13:39:47 を返します。
`localtime ('Paris',True())`	夏時間を無視したパリの現地時間 2023-08-14 13:39:47 を返します。
`localtime ('Paris',0)`	夏時間を考慮したパリの現地時間 2023-08-14 14:39:47 を返します。
`localtime ('Paris',False ())`	夏時間を考慮したパリの現地時間 2023-08-14 14:39:47 を返します。

GMT オフセットを DST と組み合わせて使用する

QlikView 2018 年 11 月の International Components for Unicode (ICU) ライブラリの実装後、GMT (グリニッジ標準時) オフセットを DST (夏時間) と組み合わせて使用する場合、緯度情報を追加する必要があります。

GMT は経度 (東西) オフセットで、DST は緯度 (南北) オフセットです。例えば、ヘルシンキ (フィンランド) とヨハネスブルグ (南アフリカ) noは同じ GMT+02:00 オフセットを共有していますが、同じ夏時間オフセットは共有していません。つまり、GMT オフセットに加え、DST オフセットでは、現地の DST 条件に関する詳細な情報を取得するために現地のタイムゾーンの緯度位置に関する情報 (地理的タイムゾーン入力) gaを必要とする。

lunarweekend

この関数は、**date** を含む週周期の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

構文:

```
LunarweekEnd(date[, period_no[, first_week_day]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

LunarweekEnd 引数

引数	説明
date	評価する日付。

引数	説明
period_no	**period_no** は整数または計算結果が整数になる数式で、値 0 は **date** を含む週周期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の週周期を、正の場合は将来の週周期を示します。
first_week_day	0 未満または 0 よりも大きい補正値。日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を指定して、年の開始時点を変更できます。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
lunarweekend('12/01/2013')
```

14/01/2013 23:59:59 を返します。

Example 2:

```
lunarweekend('12/01/2013', -1)
```

7/01/2013 23:59:59 を返します。

Example 3:

```
lunarweekend('12/01/2013', 0, 1)
```

15/01/2013 23:59:59 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の週周期の最終日を取得します。period_no に 1 が指定されているので date は 1 週間シフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
```

```
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
LunarWeekEnd(InvDate, 1) AS LWkEnd
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、lunarweekend() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	LWkEnd
28/03/2012	07/04/2012
10/12/2012	22/12/2012
5/2/2013	18/02/2013
31/3/2013	08/04/2013
19/5/2013	27/05/2013
15/9/2013	23/09/2013
11/12/2013	23/12/2013
2/3/2014	11/03/2014
14/5/2014	27/05/2014
13/6/2014	24/06/2014
7/7/2014	15/07/2014
4/8/2014	12/08/2014

lunarweekname

この関数は、**date** を含む週周期の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する年と週周期番号を表示する表示値を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

構文:

```
LunarWeekName(date [, period_no[, first_week_day]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

LunarWeekName 引数

引数	説明
date	評価する日付。

引数	説明
period_no	**period_no** は整数または計算結果が整数になる数式で、値 0 は **date** を含む週周期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の週周期を、正の場合は将来の週周期を示します。
first_week_day	0 未満または 0 よりも大きい補正値。日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を指定して、年の開始時点を変更できます。

Example 1:

```
lunarweekname('12/01/2013')
```

2013/02 を返します。

Example 2:

```
lunarweekname('12/01/2013', -1)
```

2013/01 を返します。

Example 3:

```
lunarweekname('12/01/2013', 0, 1)
```

2013/02 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付について、週が含まれている年と週周期番号に基づいて、週周期名を作成します。period_no に 1 が指定されているので、週周期番号は 1 週間シフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
```

```
LunarWeekName(InvDate, 1) AS LWkName
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、lunarweekname() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	LWkName
28/03/2012	2012/14
10/12/2012	2012/51
5/2/2013	2013/07
31/3/2013	2013/14
19/5/2013	2013/21
15/9/2013	2013/38
11/12/2013	2013/51
2/3/2014	2014/10
14/5/2014	2014/21
13/6/2014	2014/25
7/7/2014	2014/28
4/8/2014	2014/32

lunarweekstart

この関数は、**date** を含む週周期の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。QlikView の週周期は、1 月 1 日を週の最初の日と見なして定義されています。

構文:

```
LunarweekStart(date[, period_no[, first_week_day]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

LunarweekStart 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数または計算結果が整数になる数式で、値 0 は **date** を含む週周期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の週周期を、正の場合は将来の週周期を示します。

引数	説明
first_week_day	0 未満または 0 よりも大きい補正値。日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を指定して、年の開始時点を変更できます。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
lunarweekstart('12/01/2013')
```

08/01/2013 を返します。

Example 2:

```
lunarweekstart('12/01/2013', -1)
```

01/01/2013 を返します。

Example 3:

```
lunarweekstart('12/01/2013', 0, 1 )
```

09/01/2013 を返します。
first_week_day を 1 にして補正値を指定しているので、年の開始は 02/01/2013 からになります。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の週周期の開始日を取得します。period_no に 1 が指定されているので date は 1 週間シフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];
```

```
InvoiceData:
LOAD *,
LunarWeekStart(InvDate, 1) AS LWkStart
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、lunarweekstart() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	LWkStart
28/03/2012	01/04/2012
10/12/2012	16/12/2012
5/2/2013	12/02/2013
31/3/2013	02/04/2013
19/5/2013	21/05/2013
15/9/2013	17/09/2013
11/12/2013	17/12/2013
2/3/2014	05/03/2014
14/5/2014	21/05/2014
13/6/2014	18/06/2014
7/7/2014	09/07/2014
4/8/2014	06/08/2014

makedate

この関数は、年 **YYYY**、月 **MM**、日 **DD** から算出された日付を返します。

構文:

```
MakeDate(YYYY [ , MM [ , DD ] ])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MakeDate 引数

引数	説明
YYYY	年 (整数)。
MM	月 (整数)。月が指定されていない場合は、1 (1 月) と見なされます。
DD	日 (整数)。 日が定義されていない場合は、1 (1 日) と見なされます。

例と結果:

例と結果

例	結果
makedate(2012)	の戻り値: 2012-01-01
makedate(12)	の戻り値: 0012-01-01
makedate(2012,12)	の戻り値: 2012-12-01
makedate(2012,2,14)	の戻り値: 2012-02-14

maketime

この関数は、時間 **hh**、分 **mm**、秒 **ss** から算出された時間を返します。

構文:

```
MakeTime(hh [ , mm [ , ss ] ])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MakeTime 引数

引数	説明
hh	時間 (整数)。
mm	分 (整数)。 分が指定されていない場合は、00 として処理されます。
ss	秒 (整数)。 秒が指定されていない場合は、00 として処理されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
maketime(22)	の戻り値: 22:00:00
maketime(22, 17)	の戻り値: 22:17:00
maketime(22, 17, 52)	の戻り値: 22:17:52

makeweekdate

この関数は、年 **YYYY**、週 **WW**、曜日 **D** から算出された日付を返します。

構文:

```
MakeWeekDate(YYYY [ , WW [ , D ] ])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MakeWeekDate 引数

引数	説明
YYYY	年 (整数)。
WW	週 (整数)。
D	曜日 (整数)。 曜日が指定されていない場合は、0 (月曜日) として処理されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
makeweekdate(2014,6,6)	の戻り値: 2014-02-09
makeweekdate(2014,6,1)	の戻り値: 2014-02-04
makeweekdate(2014,6)	2014-02-03 を返します (曜日が 0 として処理されます)

minute

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、分を表す整数を返します。

構文:

```
minute(expression)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例と結果

例	結果
minute ('09:14:36')	14 を返します
minute ('0.5555')	19 を返します (0.5555 = 13:19:55 のため)

month

この関数は、環境変数 **MonthNames** および 1 から 12 までの整数で定義されている月名を持つデュアル値を返します。月は標準的な数値の解釈に従って、数式の日付の解釈により計算されます。

構文:

```
month(expression)
```

戻り値データ型: デュアル

例と結果:

例と結果

例	結果
`month( '2012-10-12' )`	Oct を返します
`month( '35648' )`	Aug を返します (35648 = 1997-08-06 のため)

monthend

この関数は、**date** を含む月の最終日の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
MonthEnd(date[, period_no])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MonthEnd 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数であり、0 が指定された場合または省略された場合、**date** を含む月を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の月を、正の場合は将来の月を示します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
monthend('19/02/2012')
```

29/02/2012 23:59:59 を返します。

Example 2:

```
monthend('19/02/2001', -1)
```

31/01/2001 23:59:59 を返します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の月の最終日を取得します。period_no に 4 が指定されているので base_date は 4 か月シフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
MonthEnd(InvDate, 4) AS MthEnd
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、monthend() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 3 の結果

InvDate	MthEnd
28/03/2012	31/07/2012
10/12/2012	30/04/2013
5/2/2013	30/06/2013
31/3/2013	31/07/2013
19/5/2013	30/09/2013
15/9/2013	31/01//2014

11/12/2013	30/04//2014
2/3/2014	31/07//2014
14/5/2014	30/09/2014
13/6/2014	31/10/2014
7/7/2014	30/11/2014
4/8/2014	31/12/2014

monthname

この関数は、月の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する基底の数値を持つ、月 (**MonthNames** スクリプト変数に従った書式) および年の表示値を返します。

構文:

```
MonthName(date[, period_no])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MonthName 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数であり、0 が指定された場合または省略された場合、**date** を含む月を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の月を、正の場合は将来の月を示します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
monthname('19/10/2013')
```

Oct 2013 を返します。
この例および他の例では、**SET Monthnames** ステートメントが Jan;Feb;Mar のように設定されています。

Example 2:

```
monthname('19/10/2013', -1)
```

Sep 2013 を返します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付について、月の名前が base_date から4 か月シフトした月の名前と年に基づいて作成されます。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
MonthName(InvDate, 4) AS MthName
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、monthname() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 3 の結果

InvDate	MthName
28/03/2012	Jul 2012
10/12/2012	Apr 2013
5/2/2013	Jun 2013
31/3/2013	Jul 2013
19/5/2013	Sep 2013
15/9/2013	Jan 2014
11/12/2013	Apr 2014
2/3/2014	Jul 2014
14/5/2014	Sep 2014
13/6/2014	Oct 2014
7/7/2014	Nov 2014
4/8/2014	Dec 2014

monthsend

この関数は、ベース日付を含む月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。その前後の期間のタイムスタンプを取得することもできます。

構文:

```
MonthsEnd(n_months, date[, period_no [, first_month_of_year]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MonthsEnd 引数

引数	説明
n_months	期間を定義する月数。整数、または計算結果が整数になる数式で次のうちのいずれかである必要があります: 1 (inmonth() 関数と同機能)、2 (2 か月)、3 (inquarter() 関数と同機能)、4 (4 か月)、6 (半年)。
date	評価する日付。
period_no	期間は、**period_no**、整数、計算結果が整数になる数式を使用して補正できます。値 0 は **base_date** を含む期間を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の期間を、正の場合は将来の期間を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
monthsend(4, '19/07/2013')
```

31/08/2013 を返します。

Example 2:

```
monthsend(4, '19/10/2013', -1)
```

31/08/2013 を返します。

Example 3:

```
monthsend(4, '19/10/2013', 0, 2)
```

31/01/2014 を返します。
年の開始は、2 月からです。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、各請求書日付を含む 2 か月単位の期間の最終日を取得します。各請求書日付は、1 x 2 か月間後にシフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
MonthsEnd(2, InvDate, 1) AS BiMthsEnd
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、MonthsEnd() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvDate	BiMthsEnd
28/03/2012	30/06/2012
10/12/2012	28/02/2013
5/2/2013	30/04/2013
31/3/2013	30/06/2013
19/5/2013	31/08/2013
15/9/2013	31/12/2013
11/12/2013	28/02/2014
2/3/2014	30/06/2014
14/5/2014	31/08/2014
13/6/2014	31/08/2014
7/7/2014	31/10/2014
4/8/2014	31/10/2014

monthsname

この関数は、期間の月の範囲 (**MonthNames** スクリプト変数に従った書式で表示) および年を表す表示値を返します。基底値は、ベース日付を含む月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値です。

構文:

```
MonthsName(n_months, date[, period_no[, first_month_of_year]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MonthsName 引数

引数	説明
n_months	期間を定義する月数。整数、または計算結果が整数になる数式で次のうちのいずれかである必要があります: 1 (inmonth() 関数と同機能)、2 (2 か月)、3 (inquarter() 関数と同機能)、4 (4 か月)、6 (半年)。
date	評価する日付。
period_no	期間は、**period_no**、整数、計算結果が整数になる数式を使用して補正できます。値 0 は **base_date** を含む期間を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の期間を、正の場合は将来の期間を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
monthsname(4, '19/10/2013')
```

Sep-Dec 2013 を返します。
この例および他の例では、**SET Monthnames** ステートメントが Jan;Feb;Mar のように設定されています。

Example 2:

```
monthsname(4, '19/10/2013', -1)
```

May-Aug 2013 を返します。

Example 3:

```
monthsname(4, '19/10/2013', 0, 2)
```

Oct-Jan 2014 を返します。
2 月に年が開始するように指定されているので、この 4 か月単位の期間は次の年の最初の月に終了します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付について、月の名前が 2 か月単位の期間の月の範囲と年に基づいて作成されます。範囲は、period_no に 4 を指定して、4x2 か月補正されています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
MonthsName(2, InvDate, 4) AS MthsName
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、monthsname() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvDate	MthsName
28/03/2012	Nov-Dec 2012
10/12/2012	Jul-Aug 2013
5/2/2013	Sep-Oct 2013
31/3/2013	Nov-Dec2013
19/5/2013	Jan-Feb 2014
15/9/2013	May-Jun 2014
11/12/2013	Jul-Aug 2014
2/3/2014	Nov-Dec 2014
14/5/2014	Jan-Feb 2015

13/6/2014	Jan-Feb 2015
7/7/2014	Mar-Apr 2015
4/8/2014	Mar-Apr 2015

monthsstart

この関数は、ベース日付を含む月、2 か月、四半期、4 か月、半年のいずれかの期間の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。その前後の期間のタイムスタンプを取得することもできます。

構文:

```
MonthsStart(n_months, date[, period_no [, first_month_of_year]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MonthsStart 引数

引数	説明
n_months	期間を定義する月数。整数、または計算結果が整数になる数式で次のうちのいずれかである必要があります: 1 (inmonth() 関数と同機能)、2 (2 か月)、3 (inquarter() 関数と同機能)、4 (4 か月)、6 (半年)。
date	評価する日付。
period_no	期間は、**period_no**、整数、計算結果が整数になる数式を使用して補正できます。値 0 は **base_date** を含む期間を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の期間を、正の場合は将来の期間を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
monthsstart(4, '19/10/2013')
```

1/09/2013 を返します。

Example 2:

```
monthsstart(4, '19/10/2013', -1)
```

01/05/2013 を返します。

Example 3:

```
monthsstart(4, '19/10/2013', 0, 2 )
```

01/10/2013 を返します。
年の開始は、2 月からです。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、各請求書日付を含む 2 か月単位の期間の開始日を取得します。各請求書日付は、1 x 2 か月間シフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
MonthsStart(2, InvDate, 1) AS BiMthsStart
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、MonthsStart() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvDate	BiMthsStart
28/03/2012	01/05/2012
10/12/2012	01/01/2013
5/2/2013	01/03/2013
31/3/2013	01/05/2013
19/5/2013	01/07/2013
15/9/2013	01/11/2013

11/12/2013	01/01/2014
2/3/2014	01/05/2014
14/5/2014	01/07/2014
13/6/2014	01/07/2014
7/7/2014	01/09/2014
4/8/2014	01/09/2014

monthstart

この関数は、**date** を含む月の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
MonthStart(date[, period_no])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

MonthStart 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数であり、0 が指定された場合または省略された場合、**date** を含む月を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の月を、正の場合は将来の月を示します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
monthstart('19/10/2001')
```

01/10/2001 を返します。

Example 2:

```
monthstart('19/10/2001', -1)
```

01/09/2001 を返します。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の月の開始日を取得します。period_no に 4 が指定されているので base_date は 4 か月シフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
MonthStart(InvDate, 4) AS MthStart
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、monthstart() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 3 の結果

InvDate	MthStart
28/03/2012	01/07/2012
10/12/2012	01/04/2013
5/2/2013	01/06/2013
31/3/2013	01/07/2013
19/5/2013	01/09/2013
15/9/2013	01/01/2014
11/12/2013	01/04/2014
2/3/2014	01/07/2014
14/5/2014	01/09/2014
13/6/2014	01/10/2014
7/7/2014	01/11/2014
4/8/2014	01/12/2014

networkdays

networkdays 関数は、オプションで指定された **holiday** を考慮した上で、**start_date** と **end_date** の間の当日を含む作業日数 (月 ~ 金曜日) を返します。

構文:

```
networkdays (start_date, end_date [, holiday])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

Networkdays 引数

引数	説明
start_date	評価する開始日。
end_date	評価する終了日。

holiday	作業日から除外する休日期間。休日期間は、開始日と終了日で指定され、コンマで区切られます。
	`'25/12/2013', '26/12/2013'`
	コンマで区切ることで、複数の休日期間を指定することもできます。
	`'25/12/2013', '26/12/2013', '31/12/2013', '01/01/2014'`

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
networkdays ('19/12/2013', '07/01/2014')
```

14 を返します。この例では、休日を考慮に入れていません。

Example 2:

```
networkdays ('19/12/2013', '07/01/2014', '25/12/2013', '26/12/2013')
```

12 を返します。25/12/2013 から26/12/2013 までの休日を考慮に入れています。

Example 3:

```
networkdays ('19/12/2013', '07/01/2014', '25/12/2013', '26/12/2013', '31/12/2013',
'01/01/2014')
```

10 を返します。この例では、2 日間の休日期間を考慮に入れています。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
PayTable:
LOAD recno() as InvID, * INLINE [
InvRec|InvPaid
28/03/2012|28/04/2012
10/12/2012|01/01/2013
5/2/2013|5/3/2013
31/3/2013|01/5/2013
19/5/2013|12/6/2013
15/9/2013|6/10/2013
11/12/2013|12/01/2014
2/3/2014|2/4/2014
14/5/2014|14/6/2014
13/6/2014|14/7/2014
7/7/2014|14/8/2014
4/8/2014|4/9/2014
] (delimiter is '|');
NrDays:
Load *,
NetWorkDays(InvRec,InvPaid) As PaidDays
Resident PayTable;
Drop table PayTable;
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する NetworkDays の戻り値が表示されます。

例 4 の結果

InvID	InvRec	InvPaid	PaidDays
1	28/03/2012	28/04/2012	23
2	10/12/2012	01/01/2013	17
3	5/2/2013	5/3/2013	21
4	31/3/2013	01/5/2013	23
5	19/5/2013	12/6/2013	18
6	15/9/2013	6/10/2013	15
7	11/12/2013	12/01/2014	23
8	2/3/2014	2/4/2014	23
9	14/5/2014	14/6/2014	23
10	13/6/2014	14/7/2014	22
11	7/7/2014	14/8/2014	29
12	4/8/2014	4/9/2014	24

now

この関数は、システム クロックから取得した現在の時刻のタイムスタンプを返します。デフォルト値は 1 です。

構文:

```
now([ timer_mode])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Now 引数

引数	説明
timer_mode	以下の値を取ることができます。 • 0 (データのロードが最後に終了した時刻) • 1 (関数呼び出しの時刻) • 2 (ドキュメントを開いた時刻) *ロードスクリプトでこの関数を使用する場合、**timer_mode=0** を指定すると最後にデータロードが終了した時刻を取得でき、**timer_mode=1** を指定すると現在のデータロードで関数を呼び出した時刻を取得できます。*

例と結果:

例と結果

例	結果
now(0)	最後にデータロードが完了した時刻を返します。
now(1)	• チャートの数式で使用された場合は、関数を呼び出した時刻を返します。 • ロードスクリプトで使用された場合は、現在のデータロードで関数を呼び出した時刻を返します。
now(2)	ドキュメントを開いた時刻を返します。

quarterend

この関数は、**date** を含む四半期の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
QuarterEnd(date[, period_no[, first_month_of_year]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

QuarterEnd 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数で、値 0 は **date** を含む四半期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の四半期を、正の場合は将来の四半期を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
quarterend('29/10/2005')
```

31/12/2005 23:59:59 を返します。

Example 2:

```
quarterend('29/10/2005', -1)
```

30/09/2005 23:59:59 を返します。

Example 3:

```
quarterend('29/10/2005', 0, 3)
```

30/11/2005 23:59:59 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の四半期の最終日を取得します。また、年の最初の月には 3 月が指定されています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
```

```
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
QuarterEnd(InvDate, 0, 3) AS QtrEnd
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、quarterend() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	QtrEnd
28/03/2012	31/05/2012
10/12/2012	28/02/2013
5/2/2013	28/02/2013
31/3/2013	31/05/2013
19/5/2013	31/05/2013
15/9/2013	30/11/2013
11/12/2013	28/02/2014
2/3/2014	31/05/2014
14/5/2014	31/05/2014
13/6/2014	31/08/2014
7/7/2014	31/08/2014
4/8/2014	31/08/2014

quartername

この関数は、四半期の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を基底として、四半期の月数 (**MonthNames** スクリプト変数に従った書式) および年の表示値を返します。

構文:

```
QuarterName(date[, period_no[, first_month_of_year]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

QuarterName 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数で、値 0 は **date** を含む四半期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の四半期を、正の場合は将来の四半期を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

Example 1:

```
quartername('29/10/2013')
```

Oct-Dec 2013 を返します。

Example 2:

```
quartername('29/10/2013', -1)
```

Jul-Sep 2013 を返します。

Example 3:

```
quartername('29/10/2013', 0, 3)
```

Sep-Nov 2013 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求日付ごとに、*InvID* を含む四半期をもとに、四半期の名前が作成されます。年の最初の月が 4 月と指定されているためです。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
```

```
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
QuarterName(InvDate, 0, 4) AS QtrName
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、quartername() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvDate	QtrName
28/03/2012	Jan-Mar 2011
10/12/2012	Oct-Dec 2012
5/2/2013	Jan-Mar 2012
31/3/2013	Jan-Mar 2012
19/5/2013	Apr-Jun 2013
15/9/2013	Jul-Sep 2013
11/12/2013	Oct-Dec 2013
2/3/2014	Jan-Mar 2013
14/5/2014	Apr-Jun 2014
13/6/2014	Apr-Jun 2014
7/7/2014	Jul-Sep 2014
4/8/2014	Jul-Sep 2014

quarterstart

この関数は、**date** を含む四半期の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
QuarterStart(date[, period_no[, first_month_of_yea]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

QuarterStart 引数

引数	説明
date	評価する日付。

引数	説明
period_no	**period_no** は整数で、値 0 は **date** を含む四半期を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の四半期を、正の場合は将来の四半期を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
quarterstart('29/10/2005')
```

01/10/2005 を返します。

Example 2:

```
quarterstart('29/10/2005', -1 )
```

01/07/2005 を返します。

Example 3:

```
quarterstart('29/10/2005', 0, 3)
```

01/09/2005 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の四半期の開始日を取得します。また、年の最初の月には 3 月が指定されています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
```

```
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
QuarterStart(InvDate, 0, 3) AS QtrStart
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、quarterstart() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	QtrStart
28/03/2012	01/03/2012
10/12/2012	01/12/2012
5/2/2013	01/12/2012
31/3/2013	01/03/2013
19/5/2013	01/03/2013
15/9/2013	01/09/2013
11/12/2013	01/12/2013
2/3/2014	01/03/2014
14/5/2014	01/03/2014
13/6/2014	01/06/2014
7/7/2014	01/06/2014
4/8/2014	01/06/2014

second

この関数は、**expression** の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、秒を表す整数を返します。

構文:

```
second (expression)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例と結果

例	結果
second('09:14:36')	36 を返します
second('0.5555')	55 を返します (0.5555 = 13:19:55 のため)

setdateyear

この関数は入力として**timestamp** と**year** を取得し、**timestamp** を入力で指定された**year** で置き換えます。

構文:

```
setdateyear (timestamp, year)
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

SetDateYear 引数

引数	説明
timestamp	例えば、'2012-10-12' のように、変換するタイムスタンプまたは計算結果がタイムスタンプになる数式として評価する日付。
year	4 桁の年。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
setdateyear ('29/10/2005', 2013)
```

'29/10/2013' を返します

Example 2:

```
setdateyear ('29/10/2005 04:26:14', 2013)
```

'29/10/2013 04:26:14' を返します

チャートでタイムスタンプの時刻部分を表示するには、数値形式に [日付] を設定し、時刻値を表示する [書式] の値を選択する必要があります。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
SetYear:
Load *,
SetDateYear(testdates, 2013) as NewYear
Inline [
testdates
1/11/2012
10/12/2012
1/5/2013
2/1/2013
```

```
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];
```

結果テーブルには、元の日付と、年が 2013 に設定された列が含まれています。

例 3 の結果

testdates	NewYear
1/11/2012	1/11/2013
10/12/2012	10/12/2013
2/1/2012	2/1/2013
1/5/2013	1/5/2013
19/5/2013	19/5/2013
15/9/2013	15/9/2013
11/12/2013	11/12/2013
2/3/2014	2/3/2013
14/5/2014	14/5/2013
13/6/2014	13/6/2013
7/7/2014	7/7/2013
4/8/2014	4/8/2013

setdateyearmonth

この関数は入力として **timestamp** と **month** と **year** を取得し、**timestamp** を入力で指定された **year** と **month** で置き換えます。.

構文:

```
SetDateYearMonth (timestamp, year, month)
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

SetDateYearMonth 引数

引数	説明
timestamp	例えば、'2012-10-12' のように、変換するタイムスタンプまたは計算結果がタイムスタンプになる数式として評価する日付。
year	4 桁の年。
month	1 桁あるいは 2 桁の月。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
setdateyearmonth ('29/10/2005', 2013, 3)
```

'29/03/2013' を返します

Example 2:

```
setdateyearmonth ('29/10/2005 04:26:14', 2013, 3)
```

'29/03/2013 04:26:14' を返します

チャートでタイムスタンプの時刻部分を表示するには、数値形式に [日付] を設定し、時刻値を表示する [書式] の値を選択する必要があります。

Example 3:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
SetYearMonth:
Load *,
SetDateYearMonth(testdates, 2013,3) as NewYearMonth
Inline [
testdates
1/11/2012
10/12/2012
2/1/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];
```

結果テーブルには、元の日付と、年が 2013 に設定された列が含まれています。

例 3 の結果

testdates	NewYearMonth
1/11/2012	1/3/2013
10/12/2012	10/3/2013
2/1/2012	2/3/2013
19/5/2013	19/3/2013
15/9/2013	15/3/2013
11/12/2013	11/3/2013
14/5/2014	14/3/2013
13/6/2014	13/3/2013
7/7/2014	7/3/2013
4/8/2014	4/3/2013

timezone

この関数は Windows で定義されている現在のタイム ゾーンの名前を返します。このとき、夏時間の調整は考慮されません。

構文:

```
TimeZone( )
```

戻り値データ型: 文字列

today

この関数は、システム クロックから取得した現在の日付を返します。

構文:

```
today([ timer_mode])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Today 引数

引数	説明
timer_mode	以下の値を取ることができます。 • 0 (データのロードが最後に終了した日付) • 1 (関数呼び出しの日付) • 2 (ドキュメントを開いた日付) *ロードスクリプトでこの関数を使用する場合、**timer_mode=0** を指定すると最後にデータロードが終了した日付を取得でき、**timer_mode=1** を指定すると現在のデータロードの日付を取得できます。*

例と結果:

例と結果

例	結果
`Today( 0)`	最後にデータロードが終了した日付を返します。
`Today( 1)`	チャートの数式で使用された場合は、関数を呼び出した日付を返します。 ロードスクリプトで使用された場合は、現在のデータロードが開始した日付を返します。
`Today( 2)`	ドキュメントを開いた日付を返します。

UTC

日付と現在の Coordinated Universal Time を返します。

構文:

```
UTC( )
```

戻り値データ型: デュアル

week

この関数は、ISO 8601 に従って、週番号を表す整数を返します。週番号は標準的な数値の解釈に従って、数式の日付の解釈により計算されます。

構文:

```
week(timestamp [, first_week_day [, broken_weeks [, reference_day]]])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

Week 引数

引数	説明
timestamp	例えば、'2012-10-12' のように、変換するタイムスタンプまたは計算結果がタイムスタンプになる数式として評価する日付。
first_week_day	週の最初として使用する曜日を定義する整数。デフォルトでは、QlikView 関数は月曜日を週の第 1 日目として使用します。次の値を使用できます。 • 0 (= 月曜日) • 1 (= 火曜日) • 2 (= 水曜日) • 3 (= 木曜日) • 4 (= 金曜日) • 5 (= 土曜日) • 6 (= 日曜日)
broken_weeks	この設定は、週が分離しているかどうかを定義します。 デフォルトでは、QlikView関数は分離していない週を使用します。つまり、 • 第 1 週が 12 月から始まる年もあれば、第 52 週や第 53 週が 1 月に渡る年もあります。 • 通常第 1 週には、少なくとも 1 月の 4 日間が含まれます。 分離した週を使用するオプションもあります。 • 第 52 週や第 53 週は 1 月へと続きません。 • 第 1 週は 1 月 1 日から始まり、多くの場合は完全な 1 週間ではありません。 次の値を使用できます。 • 0 (= 分離しない週を使用) • 1 (= 分離した週を使用)

引数	説明
reference_day	この設定は、週 1 を定義する際に 1 月 のどの曜日を参照に設定するかを定義します。デフォルトでは、QlikView 関数は 4 を参照日として使用します。これは、第 1 週に必ず 1 月 4 日が含まれる、または第 1 週に少なくとも 1 月の 4 日間が常に含まれることを意味します。 次の値は異なる参照日の設定に使用可能です。 • 1 (= 1 月 1 日) • 2 (= 2 月 1 日) • 3 (= 3 月 1 日) • 4 (= 4 月 1 日) • 5 (= 5 月 1 日) • 6 (= 6 月 1 日) • 7 (= 7 月 1 日)

Example 1:

```
week ('2012-10-12')
```

41 を返します

Example 2:

```
week( '35648')
```

32 を返します (35648 = 1997-08-06 のため)

Example 3:

```
week('2012-10-12', 0, 1)
```

42 を返します

weekday

この関数は、以下を持つデュアル値を返します。

- 環境変数 **DayNames** で定義される日の名前。
- 曜日に相当する 0 から 6 までの整数。

構文:

```
weekday(date [,first_week_day=0])
```

戻り値データ型 : デュアル

引数:

Weekday 引数

引数	説明
date	評価する日付。
first_week_day	**first_week_day** が指定されていない場合、変数 **FirstWeekDay** の値が週の初日として使用されます。 週の初日として別の曜日を指定する場合は、**first_week_day** を次のように設定します。 • 0 - 月曜日 • 1 - 火曜日 • 2 - 水曜日 • 3 - 木曜日 • 4 - 金曜日 • 5 - 土曜日 • 6 - 日曜日 これで、関数から返された整数は、**first_week_day** (0 が基数) で指定した週の初日を使用するようになります。

Example 1:

```
weekday( '1971-10-12' )
```

'Tue' と1 を返します

Example 2:

```
weekday( '1971-10-12' , 6)
```

'Tue' と2 を返します。

この例では、週の初日として日曜日 (6) を使用しています。

Example 3:

```
weekday( '1971-10-12')
```

'Tue' と2 を返します。

weekend

この関数は、**date** を含む暦週の最終日 (日曜日) における最後のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
WeekEnd(date [, period_no = 0 [, first_week_day=0]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

WeekEnd 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**shift** は整数で、値 0 は **date** を含む週を示します。負の値の shift は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。
first_week_day	**first_week_day** が指定されていない場合、変数 **FirstWeekDay** の値が週の初日として使用されます。 週の初日として別の曜日を指定する場合は、**first_week_day** を次のように設定します。 • 0 - 月曜日 • 1 - 火曜日 • 2 - 水曜日 • 3 - 木曜日 • 4 - 金曜日 • 5 - 土曜日 • 6 - 日曜日 これで、関数から返された整数は、**first_week_day** (0 が基数) で指定した週の初日を使用するようになります。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
weekend('10/01/2013')
```

12/01/2013 23:59:59 を返します。

Example 2:

```
weekend('10/01/2013', -1)
```

06/01/2013 23:59:59. を返します

Example 3:

```
weekend('10/01/2013', 0, 1)
```

14/01/2013 23:59:59 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の週の翌週の最終日を取得します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
WeekEnd(InvDate, 1) AS WkEnd
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、weekend() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	WkEnd
28/03/2012	08/04/2012
10/12/2012	23/12/2012
5/2/2013	17/02/2013
31/3/2013	07/04/2013
19/5/2013	26/05/2013
15/9/2013	22/09/2013
11/12/2013	22/12/2013
2/3/2014	09/03/2014
14/5/2014	25/05/2014
13/6/2014	22/06/2014
7/7/2014	20/07/2014
4/8/2014	17/08/2014

weekname

この関数は、**date** を含む週の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する数値を基底として、年と週番号を表示する値を返します。

構文:

```
WeekName(date [, period_no = 0 [, first_week_day=0]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

WeekName 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**shift** は整数で、値 0 は **date** を含む週を示します。負の値の shift は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。
first_week_day	**first_week_day** が指定されていない場合、変数 **FirstWeekDay** の値が週の初日として使用されます。 週の初日として別の曜日を指定する場合は、**first_week_day** を次のように設定します。 • 0 - 月曜日 • 1 - 火曜日 • 2 - 水曜日 • 3 - 木曜日 • 4 - 金曜日 • 5 - 土曜日 • 6 - 日曜日 これで、関数から返された整数は、**first_week_day** (0 が基数) で指定した週の初日を使用するようになります。

Example 1:

```
weekname('12/01/2013')
```

2013/02 を返します。

Example 2:

```
weekname('12/01/2013', -1)
```

2013/01 を返します。

Example 3:

```
weekname('12/01/2013', 0, 1)
```

'2013/02' を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付について、週が含まれている年と週番号に基づいて、週名を作成します。period_no に 1 が指定されているので、週番号は 1 週間シフトされています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
WeekName(InvDate, 1) AS WkName
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、weekname() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	WkName
28/03/2012	2012/14
10/12/2012	2012/51
5/2/2013	2013/07
31/3/2013	2013/14
19/5/2013	2013/21
15/9/2013	2013/38
11/12/2013	2013/51
2/3/2014	2014/10
14/5/2014	2014/21

13/6/2014	2014/25
7/7/2014	2014/29
4/8/2014	2014/33

weekstart

この関数は、**date** を含む暦週の初日 (月曜日) の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
WeekStart(date [, period_no = 0 [, first_week_day=0]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

WeekStart 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**shift** は整数で、値 0 は **date** を含む週を示します。負の値の shift は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。
first_week_day	**first_week_day** が指定されていない場合、変数 **FirstWeekDay** の値が週の初日として使用されます。 週の初日として別の曜日を指定する場合は、**first_week_day** を次のように設定します。 • 0 - 月曜日 • 1 - 火曜日 • 2 - 水曜日 • 3 - 木曜日 • 4 - 金曜日 • 5 - 土曜日 • 6 - 日曜日 これで、関数から返された整数は、**first_week_day** (0 が基数) で指定した週の初日を使用するようになります。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
weekstart('12/01/2013')
```

07/01/2013 を返します。

Example 2:

```
weekstart('12/01/2013', -1 )
```

31/11/2012 を返します。

Example 3:

```
weekstart('12/01/2013', 0, 1)
```

08/01/2013 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の週の翌週の開始日を取得します。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
WeekStart(InvDate, 1) AS WkStart
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、weekstart() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	WkStart
28/03/2012	02/04/2012
10/12/2012	17/12/2012
5/2/2013	11/02/2013

31/3/2013	01/04/2013
19/5/2013	20/05/2013
15/9/2013	16/09/2013
11/12/2013	16/12/2013
2/3/2014	03/03/2014
14/5/2014	19/05/2014
13/6/2014	16/06/2014
7/7/2014	14/07/2014
4/8/2014	11/08/2014

weekyear

この関数は、ISO 8601 に基づいた週番号が含まれる年を返します。週の周期は 1 ~ 52 前後です。

構文:

```
weekyear(expression)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例と結果

例	結果
weekyear('1996-12-30')	1997 を返します (1997 年の第 1 週は 1996/12/30 に開始するため)
weekyear('1997-01-02')	1997 を返します
weekyear('1997-12-28')	1997 を返します
weekyear('1997-12-30')	1998 を返します (1998 年の第 1 週は 1997/12/29 に開始するため)
weekyear('1999-01-02')	1998 を返します (1998 年の第 53 週は 1999/01/03 に終了するため)

制限事項:

1997 年 12 月の場合のように、12 月に第 1 週目が始まる年もあります。また 1999 年 1 月など、前年の第 53 週目から始まる年もあります。このように週番号が別の年に含まれる場合、関数 **year** と**weekyear** はこれらの数日に対して異なる値を返します。

year

この関数は、**expression** が標準的な数値の解釈に従って日付と判断される場合に、年を表す整数を返します。

構文:

```
year(expression)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例と結果

例	結果
`year( '2012-10-12' )`	2012 を返します
`year( '35648' )`	1997 を返します (35648 = 1997-08-06 のため)

yearend

この関数は、**date** を含む年の最終日の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
YearEnd( date[, period_no[, first_month_of_year = 1]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

YearEnd 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数で、値 0 は **date** を含む年を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の年を、正の場合は将来の年を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
yearend ( '19/10/2001' )
```

31/12/2001 23:59:59 を返します。

Example 2:

```
yearend ( '19/10/2001', -1 )
```

31/12/2000 23:59:59 を返します。

Example 3:

```
yearend ( '19/10/2001', 0, 4)
```

31/03/2002 23:59:59 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の年の最終日を取得します。年の最初の月には 4 月が指定されています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
YearEnd(InvDate, 0, 4) AS YrEnd
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、yearend() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	YrEnd
28/03/2012	31/03/2011
10/12/2012	31/03/2012
5/2/2013	31/03/2013
31/3/2013	31/03/2013
19/5/2013	31/03/2014
15/9/2013	31/03/2014

11/12/2013	31/03/2014
2/3/2014	31/03/2014
14/5/2014	31/03/2015
13/6/2014	31/03/2015
7/7/2014	31/03/2015
4/8/2014	31/03/2015

yearname

この関数は、**date** を含む年の初日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する数値を基底として、4 桁の年の表示値を返します。

構文:

```
YearName(date[, period_no[, first_month_of_year]] )
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

YearName 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数で、値 0 は **date** を含む年を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の年を、正の場合は将来の年を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。表示値は、2 年を表す文字列になります。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
yearname ( '19/10/2001')
```

2001 を返します。

Example 2:

```
yearname ( '19/10/2001', -1 )
```

'2000' を返します。

Example 3:

```
yearname ( '19/10/2001', 0, 4)
```

'2001-2002' を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の年の 4 + 4 桁の名称を作成します。このような名称が必要なのは、年の最初の月に 4 月が指定されているためです。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
YearName(InvDate, 0, 4) AS YrName
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、yearname() 関数の戻り値の列が含まれています。

例 4 の結果

InvDate	YrName
28/03/2012	2011-2012
10/12/2012	2012-2013
5/2/2013	2012-2013
31/3/2013	2012-2013
19/5/2013	2013-2014
15/9/2013	2013-2014
11/12/2013	2013-2014

2/3/2014	2013-2014
14/5/2014	2014-2015
13/6/2014	2014-2015
7/7/2014	2014-2015
4/8/2014	2014-2015

yearstart

この関数は、**date** を含む年の初日に対応するタイムスタンプを返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている **DateFormat** です。

構文:

```
YearStart(date[, period_no[, first_month_of_year]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

YearStart 引数

引数	説明
date	評価する日付。
period_no	**period_no** は整数で、値 0 は **date** を含む年を示します。**period_no** の値が負の場合は過去の年を、正の場合は将来の年を示します。
first_month_of_year	事業年度が 1 月以外の月に始まる場合は、**first_month_of_year** で 2 から 12 の間の値を指定します。

例と結果:

これらの例は、日付書式 DD/MM/YYYY を使用しています。日付書式は、ロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。必要に応じて、書式を変更してください。

Example 1:

```
yearstart ('19/10/2001')
```

01/01/2001 を返します。

Example 2:

```
yearstart ('19/10/2001', -1)
```

01/01/2000 を返します。

Example 3:

```
yearstart ('19/10/2001', 0, 4)
```

01/04/2001 を返します。

Example 4:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

この例では、テーブルの各請求書日付の年の開始日を取得します。年の最初の月には 4 月が指定されています。

```
TempTable:
LOAD RecNo() as InvID, * Inline [
InvDate
28/03/2012
10/12/2012
5/2/2013
31/3/2013
19/5/2013
15/9/2013
11/12/2013
2/3/2014
14/5/2014
13/6/2014
7/7/2014
4/8/2014
];

InvoiceData:
LOAD *,
YearStart(InvDate, 0, 4) AS YrStart
Resident TempTable;
Drop table TempTable;
```

結果テーブルには、元の日付と、yearstart() 関数の戻り値の列が含まれています。チャートプロパティで書式を指定すると、タイムスタンプ全体を表示できます。

例 4 の結果

InvDate	YrStart
28/03/2012	01/04/2011
10/12/2012	01/04/2012
5/2/2013	01/04/2012
31/3/2013	01/04/2012
19/5/2013	01/04/2013
15/9/2013	01/04/2013
11/12/2013	01/04/2013
2/3/2014	01/04/2013
14/5/2014	01/04/2014

13/6/2014	01/04/2014
7/7/2014	01/04/2014
4/8/2014	01/04/2014

yeartodate

この関数は、入力した日付がスクリプトが最後にロードされた日付の年に該当するかどうかを算出し、該当する場合は True を返し、該当しない場合は False を返します。

構文:

```
YearToDate(timestamp [ , yearoffset [ , firstmonth [ , todaydate] ] ])
```

戻り値データ型: ブール値

オプションのパラメータがどれも使用されていない場合、年初から当日までとは、さかのぼって直近の 1 月 1 日からスクリプトを最後に実行した日付までを含む 1 暦年以内のいずれかの日付を意味します。

引数:

YearToDate 引数

引数	説明
timestamp	例えば、'2012-10-12' のように、変換するタイムスタンプまたは計算結果がタイムスタンプになる数式として評価する日付。
yearoffset	**yearoffset** を指定することで、**yeartodate** は、別の年の同じ期間について True を返します。負の値の **yearoffset** は過去の年を示し、正の値の場合は将来の年を示します。前年 1 年間を取得するときは、yearoffset = -1 を指定します。省略された場合は、0 として処理されます。
firstmonth	**firstmonth** を 1 から 12 の間で指定することにより(省略した場合は 1)、年の始めを任意の月の 1 日に移動することができます。例えば、会計年度を 5 月 1 日から開始する場合には、**firstmonth** = 5 と指定します。
todaydate	**todaydate** を指定することにより(省略した場合は最後にスクリプトを実行したタイムスタンプ)、期間の上限として使用する日付を移動できます。

例と結果:

次の例では、最後のリロード時を 2011-11-18 としています。

例と結果

例	結果
`yeartodate( '2010-11-18')`	の戻り値: False
`yeartodate( '2011-02-01')`	の戻り値: True

例	結果
yeartodate('2011-11-18')	の戻り値: True
yeartodate('2011-11-19')	の戻り値: False
yeartodate('2011-11-19', 0, 1, '2011-12-31')	の戻り値: True
yeartodate('2010-11-18', -1)	の戻り値: True
yeartodate('2011-11-18', -1)	の戻り値: False
yeartodate('2011-04-30', 0, 5)	の戻り値: False
yeartodate('2011-05-01', 0, 5)	の戻り値: True

ドキュメント関数

これらの関数は、チャートとスクリプトで使用できます。

ReportComment(*report_number*)
アクティブなドキュメントの指定した番号のレポートのコメントを返します。

ReportName(*report_number*)
アクティブなドキュメントの指定した番号のレポート名を返します。

ReportID(*report_number*)
アクティブなドキュメントの指定した番号のレポートIDを返します。

ReportNumber(*report_id_or_name*)
アクティブなドキュメントの指定したIDもしくは名前のレポート番号を返します。

NoOfReports()
アクティブなドキュメントのレポート数を返します。

指数関数と対数関数

このセクションでは、指数および対数の計算に関連する関数について説明します。すべての関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

次の関数では、パラメータは数式であり、**x** と**y** は実際の数値と解釈されます。

exp

自然対数の底 **e** を底として使用する自然指数関数 **e^x**。結果は正の数値です。

exp(*x*)

例と結果:

exp(3) は、20.085 を返します。

log

x の自然対数。関数は、**x**> 0 の場合にのみ定義されます。結果は数値で返されます。

log(*x*)

例と結果:

log(3) は、1.0986 を返します

log10

x の常用対数 (10 を底とする対数) です。関数は、**x**> 0 の場合にのみ定義されます。結果は数値で返されます。

```
log10(x )
```

例と結果:

log10(3) は、0.4771 を返します

pow

x の **y** 乗を返します。結果は数値で返されます。

```
pow(x,y )
```

例と結果:

pow(3, 3) は 27 を返します

sqr

x の 2 乗 (**x** の 2 のべき乗)。結果は数値で返されます。

```
sqr (x )
```

例と結果:

sqr(3) は 9 を返します

sqrt

x の平方根です。関数は、**x** >= 0 の場合にのみ定義されます。結果は正の数値です。

```
sqrt(x )
```

例と結果:

sqrt(3) は 1.732 を返します

項目関数

これらの関数は、チャート式で使用できます。

整数または文字列を返す項目関数は、項目選択におけるさまざまな側面を識別します。

カウント関数

GetSelectedCount

GetSelectedCount() は、項目内で選択された(緑)値の数を返します。

```
GetSelectedCount (field_name [, include_excluded])
```

GetAlternativeCount

GetAlternativeCount() は、特定された項目に含まれる代替値(白セルに灰色文字)の数を返します。

```
GetAlternativeCount (field_name)
```

GetPossibleCount

GetPossibleCount() は、特定した項目に含まれる絞込値(白)の数を返します。識別された項目に選択が含まれている場合は、選択された項目(緑)もカウントされます。

```
GetPossibleCount(field_name)
```

GetExcludedCount

GetExcludedCount() は、特定した項目に含まれる除外された個別の値の数を検出します。除外された(灰色セルに白文字)値のみがカウントされます。代替値(白いセルに灰色文字)および選択除外値(灰色セルに緑文字)はカウントされません。

```
GetExcludedCount(field_name)
```

GetNotSelectedCount

このチャート関数は、**fieldname** という名前の項目内に含まれる未選択の値(赤セルに黒文字)の数を返します。この関数が機能するには、この項目を And モードにする必要があります。

```
GetNotSelectedCount(fieldname [, includeexcluded=false])
```

GetStateCounts

GetStateCounts() チャート関数は、指定された選択ステートに一致する一意の値の合計数を計算するために使用されます。

```
GetStateCounts (field_name, state_name [, state_type1,...state_typeN])
```

項目および選択関数

GetCurrentField

GetCurrentField() は、指定したグループで現在アクティブな項目を返します。

```
GetCurrentField (group_name)
```

GetCurrentSelections

GetCurrentSelections() はドキュメントの現在の選択を返します。

```
GetCurrentSelections([record_sep [,tag_sep [,value_sep [,max_values]]]])
```

GetFieldSelections

GetFieldSelections() は、項目内の現在の選択の **string** を返します。

```
GetFieldSelections ( field_name [, value_sep [, max_values]])
```

GetObjectField

GetObjectField() は、軸の名前を返します。**Index** は、返される軸を示すオプションの整数です。

```
GetObjectField (page 1336) ([index])
```

GetObjectMeasure

GetObjectMeasure() は、メジャーの名前 を返します。**Index** は、返されるメジャーを示すオプションの整数です。

```
GetObjectMeasure ([index])
```

GetAlternativeCount

GetAlternativeCount() は、特定された項目に含まれる代替値 (白セルに灰色文字) の数を返します。

構文:

```
GetAlternativeCount (field_name)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- field_name: メジャー対象となるデータ範囲が含まれている項目です。

次の表には、この関数に関連するその他の関数が示されています。

関連する関数

関数	相互作用
GetStateCounts (page 1341)	**GetStateCounts()** を使用すると、単一の関数呼び出しを使用して、次の個数の計算を組み合わせることができます。 • 選択された含められた値の個数。 • 可能な値の個数。 • 選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効)。 • 代替値の個数。 • 代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数。 • 選択された除外値の個数。
GetSelectedCount (page 1339)	選択された含められた値の個数を返します。
GetPossibleCount (page 1337)	可能な値の個数を返します。
GetNotSelectedCount (page 1334)	選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効) を返します。
GetAlternativeCount (page 1327)	代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数を返します。

リストボックスの選択状態の色

このページのすべての情報は、リストボックスの選択状態の色について言及しています。

- QlikView ドキュメントの **[配色]** を **[クラシック拡張]** に設定します。参照: *選択スタイル設定 (page 219)*
- **[代替値の表示]** がオンに設定されたリストボックス参照: *選択状態の表示切替 (page 260)*

次の表は、この設定によるリストボックスの各選択状態の配色の概要を示しています。

リストボックスの配色。

状態	セルの色	テキストカラー
代替値	白色	灰色
選択解除	赤色	黒
除外値	灰色	白色
可能	白色	黒
選択済み	緑色	黒
選択除外値	灰色	緑色

例

以下の例では、リストボックスに読み込まれた **First name** 項目と、以下の構文を使用しています。

```
GetAlternativeCount ([First name])
```

- **First name** で **John** が選択されている場合、スクリプトは **4** を返します。**First name** には 4 つの一意の除外値 (グレー) があるからです。
- **John** と **Peter** が選択されている場合、スクリプトは **3** を返します。**First name** には 3 つの一意の除外値 (グレー) があるからです。
- **First name** では値が選択されていないため、スクリプトは **0** を返します。

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

GetCurrentField

GetCurrentField() は、指定したグループで現在アクティブな項目を返します。

構文:

```
GetCurrentField (group_name)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

- group_name: 評価対象となっているグループの名前です。

例

以下の例では、**MyGroup** の項目に Sales とPrice 以下の構文が含まれています。

```
GetCurrentField (MyGroup )
```

- **Sales** がアクティブの場合、スクリプトはアクティブ項目である **Sales** を返します。

GetCurrentSelections

GetCurrentSelections() はドキュメントの現在の選択を返します。

オプションを使用している場合、record_sep を指定する必要があります。新しい行を指定するには、**record_sep** を **chr(13)&chr(10)** に設定します。

特定の値を除くすべての値を選択する場合、除外する値が 2 つの場合は「NOT x,y」、1 つの場合は「NOT y」形式を使用します。すべての値を選択し、その値のカウントが max_values よりも大きい場合、ALL のテキストが返されます。

構文:

```
GetCurrentSelections ([record_sep [,tag_sep [,value_sep [,max_values]]]])
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

- record_sep: 項目レコードの間に置かれる区切り記号です。デフォルトでは、新しい行を意味する <CR><LF> が使用されます。
- tag_sep: 項目名のタグと項目値の間に置かれる区切り記号です。デフォルトは「: 」です。
- value_sep: 項目値の間に配置される区切り記号。デフォルトは「 , 」です。
- max_values: 個々にリストされる項目値の最大数です。この数が大きくなると、「x of yvalue」(x/y 個) という表記が使用されます。デフォルトは 6 です。

例

以下の例では、異なるリストボックスにロードされた 2 つの項目を使用しています (1 つは **First name** 名のもの、もう1 つは **Initials** のもの)。

Example 1: First name で John が選択されている場合

```
GetCurrentSelections ()
```

'First name: John' を返します。

Example 2: John とPeter は First name で選択されています。

```
GetCurrentSelections ()
```

'First name: John, Peter' を返します。

Example 3: John は First name で、JA は Initials で選択されています。

```
GetCurrentSelections ()
```
'First name: John; Peter とInitials: JA' を返します。

Example 4: John は First name で、JA は Initials で選択されています。

```
GetCurrentSelections ( chr(13)&chr(10) , ' = ' )
```
'First name = John とInitials = JA' を返します。

Example 5: Sue 以外のすべての名前が First name に選択されており、Initials が選択されていない場合。

```
=GetCurrentSelections(chr(13)&chr(10),'=',',',3)
```
'First name=NOT Sue' を返します。

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

GetExcludedCount

GetExcludedCount() は、特定した項目に含まれる除外された個別の値の数を検出します。除外された(灰色セルに白文字) 値のみがカウントされます。代替値 (白いセルに灰色文字) および選択除外値(灰色セルに緑文字) はカウントされません。

構文:

```
GetExcludedCount (field_name)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

- field_name: メジャー対象となるデータ範囲が含まれている項目です。

次の表には、この関数に関連するその他の関数が示されています。

関連する関数

関数	相互作用
GetStateCounts (page 1341)	**GetStateCounts()** を使用すると、単一の関数呼び出しを使用して、次の個数の計算を組み合わせることができます。 • 選択された含められた値の個数。 • 可能な値の個数。 • 選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効)。 • 代替値の個数。 • 代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数。 • 選択された除外値の個数。
GetSelectedCount (page 1339)	選択された含められた値の個数を返します。
GetPossibleCount (page 1337)	可能な値の個数を返します。
GetNotSelectedCount (page 1334)	選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効) を返します。
GetAlternativeCount (page 1327)	代替値の個数を返します。

リストボックスの選択状態の色

このページのすべての情報は、リストボックスの選択状態の色について言及しています。

- QlikView ドキュメントの **[配色]** を **[クラシック拡張]** に設定します。参照: *選択スタイル設定 (page 219)*
- **[代替値の表示]** がオンに設定されたリストボックス参照: *選択状態の表示切替 (page 260)*

次の表は、この設定によるリストボックスの各選択状態の配色の概要を示しています。

リストボックスの配色。

状態	セルの色	テキストカラー
代替値	白色	灰色
選択解除	赤色	黒
除外値	灰色	白色
可能	白色	黒
選択済み	緑色	黒
選択除外値	灰色	緑色

例

以下の例では、異なるリストボックスにロードされた3 つの項目を使用しています (1 つは **First name** のもの、1 つは **Last name** のもの、もう1 つは **Initials** のもの)。

Example 1: First name に選択された値がない場合

```
GetExcludedCount (Initials)
```

0を返します。選択項目はありません。

Example 2: First name で John が選択されている場合

```
GetExcludedCount (Initials)
```

5 を返します。**Initials** には灰色表示の除外値が 5 つあります。**JA** 値は、**First name** の **John** という選択に関連付けられているため、白色で表示されます。

Example 3: John とPeter が First name で選択されている場合

```
GetExcludedCount (Initials)
```

3 を返します。**Initials** では、**John** は 1 つの値に関連付けられ、**Peter** は 2 つの値に関連付けられます。

Example 4: John とPeter が First name で選択されており、Franc が Last name で選択されている場合

```
GetExcludedCount ([First name])
```

結果は 3 になります。**First name** には 3 つの除外値があり、灰色で表示されます。**GetExcludedCount()** では除外値のみがカウントされます。代替値および選択された除外値はカウントに含まれません。

Example 5: John とPeter が First name で選択されており、Franc とAnderson が Last name で選択されている場合

```
GetExcludedCount (Initials)
```

4 を返します。**Initials** には灰色表示の除外値が 4 つあります。他の 2 つの値 (**JA** と**PF**) は、**First name** での選択 **John** および **Peter** と関連付けられているため、白色または薄い黄色で表示されます。

Example 6: John とPeter が First name で選択されており、Franc とAnderson が Last name で選択されている場合

```
GetExcludedCount ([Last name])
```

3 を返します。**Last name** には 3 つの除外値があります。**Brown**、**Carr**、**Elliot**。値 **Devonshire** は代替値なので、カウントには含まれません。

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

GetFieldSelections

GetFieldSelections() は、項目内の現在の選択の **string** を返します。

すべての値の中で一部を除外して選択する場合、除外する値が 2 つの場合は「NOT x,y」、1 つの場合は「NOT y」形式を使用します。すべての値を選択し、その値のカウントが max_values よりも大きい場合、ALL のテキストが返されます。

構文:

```
GetFieldSelections ( field_name [, value_sep [, max_values [, state_name]]])
```

戻り値データ型: 文字列

返される文字列の書式

書式	説明
'a, b, c'	選択された値の数が max_values 以下の場合、返される文字列は選択値のリストになります。 値は value_sep を区切り記号として区切ります。
'NOT a, b, c'	非選択値の数が max_values 以下の場合、返される文字列は、非選択値のリストに NOT を前置したものです。 値は value_sep を区切り記号として区切ります。
'x of y'	x = 選択値の数 y = 値の合計数 max_values < x < (y - max_values) のときに返されます。
'ALL'	すべての値が選択されている場合に返されます。
'-'	値が選択されていない場合に返されます。
<search string>	[検索] を選択した場合、検索文字列が返されます。

引数:

- field_name: メジャー対象となるデータ範囲が含まれている項目です。
- value_sep: 項目値の間に配置される区切り記号。デフォルトは「, 」です。
- max_values: 個々にリストされる項目値の最大数です。この数が大きくなると、「x of yvalue」(x/y 個) という表記が使用されます。デフォルトは 6 です。
- state_name: 特定のビジュアライゼーションのために選択された並列ステートの名前。**state_name** 引数が使用されると、特定のステート名に関連付けられた選択のみが対象になります。詳細については、「*並列ステート (page 849)*」を参照してください。

例

以下の例では、リストボックスに読み込まれた **First name** 項目を使用しています。

Example 1: First name で John が選択されている場合

```
GetFieldSelections ([First name])
```
'John' を返します

Example 2: John とPeter が First name で選択されている場合

```
GetFieldSelections ([First name])
```
'John,Peter' を返します

Example 3: John とPeter が First name で選択されている場合

```
GetFieldSelections ([First name],'; ')
```
'John; Peter' を返します

Example 4: John、Sue、Mark が First name で選択されている場合

```
GetFieldSelections ([First name],';',2)
```
NOT Jane;Peter を返します。(max_values 引数の値に 2 が指定されているため) それ以外の場合は、John; Sue; Mark. が返されます。

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

GetNotSelectedCount

このチャート関数は、**fieldname** という名前の項目内に含まれる未選択の値 (赤セルに黒文字) の数を返します。この関数が機能するには、この項目を And モードにする必要があります。

```
GetNotSelectedCount ( field_name [, include_excluded])
(Inherited)GetNotSelectedCount ( FieldName [, IncludeExcluded])
```

- field_name: メジャー対象となるデータ範囲が含まれている項目です。
- include_excluded: **IncludeExcluded** が **True()** の場合、別の項目で除外された選択値がカウントに含まれます。False の場合や省略されている場合、これらの値は含まれません。

次の表には、この関数に関連するその他の関数が示されています。

関連する関数

関数	相互作用
GetStateCounts (page 1341)	**GetStateCounts()** を使用すると、単一の関数呼び出しを使用して、次の個数の計算を組み合わせることができます。 • 選択された含められた値の個数。 • 可能な値の個数。 • 選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効)。 • 代替値の個数。 • 代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数。 • 選択された除外値の個数。
GetSelectedCount (page 1339)	選択された含められた値の個数を返します。
GetPossibleCount (page 1337)	可能な値の個数を返します。
GetAlternativeCount (page 1327)	代替値の個数を返します。
GetNotSelectedCount (page 1334)	代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数を返します。

```
GetNotSelectedCount ( Year )
GetNotSelectedCount (Year,True())
```

リストボックスの選択状態の色

このページのすべての情報は、リストボックスの選択状態の色について言及しています。

- QlikView ドキュメントの **[配色]** を **[クラシック拡張]** に設定します。参照: *選択スタイル設定 (page 219)*
- **[代替値の表示]** がオンに設定されたリストボックス参照: *選択状態の表示切替 (page 260)*

次の表は、この設定によるリストボックスの各選択状態の配色の概要を示しています。

リストボックスの配色。

状態	セルの色	テキストカラー
代替値	白色	灰色
選択解除	赤色	黒
除外値	灰色	白色
可能	白色	黒
選択済み	緑色	黒
選択除外値	灰色	緑色

GetObjectField

GetObjectField() は、軸の名前を返します。**Index** は、返される軸を示すオプションの整数です。

> *この機能は、以下の場所にあるチャートでは使用できません: タイトル、サブタイトル、フッター、基準線式、最小/最大式。*

構文:

```
GetObjectField ([index])
```

```
GetObjectField(1)
```

例: チャートの数式

チャートの数式の GetObjectField 関数の例を表示する QlikView テーブル。

GetObjectField の使用例

transaction_date	customer_id	transaction_quantity	=GetObjectField()	=GetObjectField(0)	=GetObjectField(1)
2018/08/30	049681	13	transaction_date	transaction_date	customer_id
2018/08/30	203521	6	transaction_date	transaction_date	customer_id
2018/08/30	203521	21	transaction_date	transaction_date	customer_id

この例では、transaction_quantity はメジャーであるため、**GetObjectField** 関数から結果を返しません。代わりに **GetObjectMeasure** 関数を使用してください。

GetObjectMeasure

GetObjectMeasure() は、メジャーの名前 を返します。**Index** は、返されるメジャーを示すオプションの整数です。

> *この機能は、以下の場所にあるチャートでは使用できません: タイトル、サブタイトル、フッター、基準線式、最小/最大式。*

構文:

```
GetObjectMeasure ([index])
```

```
GetObjectMeasure(1)
```

例: チャートの数式

チャートの数式の GetObjectMeasure 関数の例を表示する QlikView テーブル。

GetObjectMeasure の使用例

transaction_quantity	transaction_amount	=GetObjectMeasure()	=GetObjectMeasure(0)	=GetObjectMeasure(1)
13	484.21	transaction_quantity	transaction_quantity	transaction_amount
6	556.31	transaction_quantity	transaction_quantity	transaction_amount
21	177.42	transaction_quantity	transaction_quantity	transaction_amount

軸を返す場合は、代わりに **GetObjectField** 関数を使用してください。

GetPossibleCount

GetPossibleCount() は、特定した項目に含まれる絞込値 (白) の数を返します。識別された項目に選択が含まれている場合は、選択された項目 (緑) もカウントされます。

選択が含まれている項目の場合、**GetPossibleCount()** を使用すると選択した項目 (緑色) の数が返されます。

戻り値データ型: 整数

構文:

```
GetPossibleCount (field_name)
```

引数:

- field_name: メジャー対象となるデータ範囲が含まれている項目です。

次の表には、この関数に関連するその他の関数が示されています。

関連する関数

関数	相互作用
GetStateCounts (page 1341)	**GetStateCounts()** を使用すると、単一の関数呼び出しを使用して、次の個数の計算を組み合わせることができます。 • 選択された含められた値の個数。 • 可能な値の個数。 • 選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効)。 • 代替値の個数。 • 代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数。 • 選択された除外値の個数。
GetSelectedCount (page 1339)	選択された含められた値の個数を返します。

関数	相互作用
GetNotSelectedCount (page 1334)	選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効) を返します。
GetAlternativeCount (page 1327)	代替値の個数を返します。
GetPossibleCount (page 1337)	代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数を返します。

リストボックスの選択状態の色

このページのすべての情報は、リストボックスの選択状態の色について言及しています。

- QlikView ドキュメントの **[配色]** を **[クラシック拡張]** に設定します。参照: *選択スタイル設定 (page 219)*
- **[代替値の表示]** がオンに設定されたリストボックス参照: *選択状態の表示切替 (page 260)*

次の表は、この設定によるリストボックスの各選択状態の配色の概要を示しています。

リストボックスの配色。

状態	セルの色	テキストカラー
代替値	白色	灰色
選択解除	赤色	黒
除外値	灰色	白色
可能	白色	黒
選択済み	緑色	黒
選択除外値	灰色	緑色

例

以下の例では、異なるリストボックスにロードされた 2 つの項目を使用しています (1 つは **First name** 名のもの、もう1 つは **Initials** のもの)。

Example 1: First name で John が選択されている場合

```
GetPossibleCount ([Initials])
```

1 を返します。(Initials には、**John** という**First name** に関連付けられている値が 1 つ存在するため)

Example 2: First name で John が選択されている場合

```
GetPossibleCount ([First name])
```

1 を返します。(**John** という**First name** の選択項目が 1 つ存在するため)

Example 3: Peter が First name で選択されている場合

```
GetPossibleCount ([Initials])
```

2 を返します。(Peter は **Initials** の 2 つの値に関連付けられているため)

Example 4: First name に選択された値がない場合

```
GetPossibleCount ([First name])
```
5 を返します。(何も選択されていないが、**First name** に固有の値が 5 つ存在するため)

Example 5: First name に選択された値がない場合

```
GetPossibleCount ([Initials])
```
6 を返します。(何も選択されていないが、**Initials** に固有の値が 6 つ存在するため)

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

GetSelectedCount

GetSelectedCount() は、項目内で選択された (緑) 値の数を返します。

構文:

```
GetSelectedCount (field_name [, include_excluded])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- field_name: メジャー対象となるデータ範囲が含まれている項目です。
- include_excluded: **True()** に設定されている場合、他の項目の選択によって現在除外されている選択値がカウントに含まれます。**False** の場合や省略されている場合、これらの値は含まれません。
- state_name: 並列ステートの名称。指定している場合は、並列ステートの項目の、カウントされた値が返されます。並列ステートを指定していない場合は、初期ステートが使用されます。

次の表には、この関数に関連するその他の関数が示されています。

関連する関数

関数	相互作用
GetStateCounts (page 1341)	**GetStateCounts()** を使用すると、単一の関数呼び出しを使用して、次の個数の計算を組み合わせることができます。 • 選択された含められた値の個数。 • 可能な値の個数。 • 選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効)。 • 代替値の個数。 • 代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数。 • 選択された除外値の個数。
GetPossibleCount (page 1337)	可能な値の個数を返します。
GetNotSelectedCount (page 1334)	選択解除された値の個数 (項目が AND モードの場合のみ有効) を返します。
GetAlternativeCount (page 1327)	代替値の個数を返します。
GetSelectedCount (page 1339)	代替値と選択された除外値を含まない、除外値の個数を返します。

リストボックスの選択状態の色

このページのすべての情報は、リストボックスの選択状態の色について言及しています。

- QlikView ドキュメントの **[配色]** を **[クラシック拡張]** に設定します。参照: *選択スタイル設定 (page 219)*
- **[代替値の表示]** がオンに設定されたリストボックス参照: *選択状態の表示切替 (page 260)*

次の表は、この設定によるリストボックスの各選択状態の配色の概要を示しています。

リストボックスの配色。

状態	セルの色	テキストカラー
代替値	白色	灰色
選択解除	赤色	黒
除外値	灰色	白色
可能	白色	黒
選択済み	緑色	黒
選択除外値	灰色	緑色

例

以下の例では、異なるリストボックスにロードされた3つの項目を使用しています (1つは **First name** 名のもの、もう1つは **Initials** のもの、そして最後は **Has cellphone** のもの)。

Example 1: First name で John が選択されている場合

```
GetSelectedCount ([First name])
```

First name で1つの値が選択されているため、**1** を返します。

Example 2: First name で John が選択されている場合

```
GetSelectedCount ([Initials])
```

Initials で値が選択されていないため、**0** を返します。

Example 3: First name で選択なし、Initials ですべての値が選択され、Yes で Has cellphone が選択されている場合

```
GetSelectedCount ([Initials], True())
```

6 を返します。(**Initials** MC および PD は **Has cellphone** が **No** に選択されているが、引数 include_excluded が True() に設定されているため、結果はいずれにせよ 6 となるため)

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

GetStateCounts

GetStateCounts() チャート関数は、指定された選択ステートに一致する一意の値の合計数を計算するために使用されます。

GetStateCounts() を使用すると、**GetSelectedCount()**、**GetNotSelectedCount()**、**GetAlternativeCount()**、**GetPossibleCount()**、**GetExcludedCount()** の関数の計算を1つの関数呼び出しに組み合わせることができます。選択された除外値の個数も計算に追加できます。各関数の計算で返される合計を加算するか減算するかを指定できます。

構文:

```
GetStateCounts (field_name, state_name [, state_type1,...state_typeN])
```

戻り値データ型: 整数

引数

引数	説明
field_name	選択ステートを計算する項目。存在しない項目名の場合、結果は NULL になります。
state_name	代替ステートの名前。引数が空 ('') または NULL の場合、継承された代替ステートが使用されます。既定のステートを明示的に使用するには、$ を使用します。名前付き (空でない) ステート名が既存のステートと一致しない場合、結果は NULL となります。
state_type	項目値の 1 つ以上のステートタイプのリスト。これらのステートタイプはカウントに集計されます。ステートタイプはキーを使用して指定されます。各キーを単一引用符で囲んで入力します。 この引数を省略すると、関数は列挙と同じ順序で、項目のすべての使用可能なステートカウントを含む文字列を返します。 使用できるステートのリストについては、下表を参照してください。

ステートタイプは特定のキーを使用して参照されます。キーの数値バージョンまたはテキストバージョンを使用できます。同じ数式で複数のキーを組み合わせると、結果をさらにカスタマイズできます。ステートの数を合計に加えるのではなく、合計から減算できます。これを実行するには、テキストキーを使用し、ステートタイプのプレフィックスにマイナス記号 (-) を付けます。

ステートタイプおよび該当する場合は、マイナス記号は単一引用符で囲む必要があります。

各項目のステートタイプのキー

項目のステートタイプ	説明	数値キー	テキストキー
選択済み	選択された値を計算に含めます。同等の関数については、「*GetSelectedCount (page 1339)*」を参照してください。	1	S
オプション	オプション (選択されていないが選択可能) 値を計算に含めます。同等の関数については、「*GetPossibleCount (page 1337)*」を参照してください。	2	O
選択解除	選択されていない値を計算に含めます。このステートタイプは、項目が AND モードの場合にのみ使用できます。 このステートタイプは、**GetNotSelectedCount()** 関数の **include_excluded** 引数が既定値の False に設定されていると仮定して、関数が返すのと同じ計算を返します。**GetNotSelectedCount()** の詳細については、「*GetNotSelectedCount (page 1334)*」を参照してください。	3	D
代替値	代替値を計算に含めます。同等の関数については、「*GetAlternativeCount (page 1327)*」を参照してください。	4	A
除外値	除外 (選択されていない) 値を計算に含めます。同等の関数については、「*GetExcludedCount (page 1330)*」を参照してください。	5	X

項目のステートタイプ	説明	数値キー	テキストキー
選択除外値	選択された除外値を計算に含めます。	6	XS

使用に適しているケース

GetStateCounts() を使用すると、カスタム選択ステートを計算できます。この関数を使用すると、複数の関数呼び出しを1つの関数呼び出しに統合できるため、数式の記述プロセスが簡素化されます。

たとえば、ある項目の除外値、代替値、選択された除外値の合計数を計算する必要があるとします。この合計を計算するには、**GetStateCounts()** を使用できます。

例と結果

例	結果
`=GetStateCounts(ProductName, Null(), 'S')`	継承された代替ステートで、*ProductName* の選択された数を返します。
`=GetStateCounts(ProductName, '', 'A', 'XS')`	*ProductName* の代替値と選択された除外値の合計数を返します。継承された代替ステートが使用されます。
`=GetStateCounts(ProductName, '', 'S', 'XS')`	継承されたステートでの *ProductName* のユーザー選択の合計数を返します。
`=GetStateCounts(ProductName, '', 'X', , 'A', 'XS')`	*ProductName* の除外値、選択された除外値、代替値の合計数を返します。継承された代替ステートが使用されます。
ProductName 項目が AND モードであると仮定します。 `=GetStateCounts(ProductName, '', 'D', '-O')`	*ProductName* の可能な値の数から減算した、選択されていない値の数を返します。継承された代替ステートが使用されます。
`=GetStateCounts(ProductName, '$', 'O')`	既定の代替ステートでの *ProductName* の実行できる個数を返します。
`=GetStateCounts(ProductName, 'StateA', 'S')`	*StateA* という名前の代替ステートで、*ProductName* の選択された個数を返します。

例 1 - ユーザー選択の合計数をカウントする (選択された除外値を含む)

チャートの数式

概要

GetSelectedCount() 関数は、選択された除外値の合計数を含まない、選択された値の合計数を返します。**GetExcludedCount()** を使用すると、選択された除外値の個数をチャートの計算に含めることができます。

まずは、以下のロードスクリプトをドキュメントに追加してください。

ロードスクリプト

```
Names:
LOAD * inline [
First name|Last name|Initials|Has cellphone
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC|No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

結果

次の手順を実行します。

1. データをロードし、シートに 2 つのリストボックスを作成します。
2. 1 つ目のリストボックスに **First name** を軸として追加します。2 つ目のリストボックスに **Last name** を軸として追加します。
3. 次に、このメジャーでストレートテーブルを作成します。
   `=GetStateCounts([First Name],'', 'S','XS')`
4. **First name** リストボックスで、値 **Mark** と **Peter** を選択します。**Last name** フィルター リストボックスで、値 **Carr** を選択します。
5. ストレートテーブルの値が 2 であることを確認します。これは、選択した除外値 **Peter** を含む、選択したすべての値がカウントされていることを反映しています。

例 2 - 除外、選択除外、代替カウントの組み合わせ

チャートの数式

概要

GetExcludedCount() 関数は、選択も除外もされていない一意の値の合計数を返します。選択した除外数と代替数をビジュアライゼーションに含める場合は、次のように **GetStateCounts()** 関数を使用できます。

まずは、以下のロードスクリプトをドキュメントに追加してください。

ロードスクリプト

```
Names:
LOAD * inline [
First name|Last name|Initials|Has cellphone
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC|No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
```

結果

次の手順を実行します。

1. データをロードし、シートに 2 つのリストボックスを作成します。
2. 1 つ目のリストボックスに **First name** を軸として追加します。2 つ目のリストボックスに **Last name** を軸として追加します。
3. 次に、この式でストレートテーブルを作成します。
   `=GetStateCounts([First name], '', 'X', 'A', 'XS')`
4. **First name** リストボックスで、値 **John** と**Peter** を選択します。**Last name** リストボックスで、値 **Franc** を選択します。
5. ストレートテーブルの値が 4 であることを確認します。これは、除外された値に加えて、選択された除外値 **John** がカウントされていることを反映しています。
6. ストレートテーブルを編集し、既存の式を以下に置き換えます。
   `=GetStateCounts([Last name], '', 'X', 'A', 'XS')`
7. 既存の選択を維持したまま、**Last name** 式で値 **Anderson** を選択します。
8. ストレートテーブルの値がまだ 4 であることを確認します。これは、除外された値に加えて、代替値 **Devonshire** がカウントされていることを反映しています。

ファイル関数

ファイル関数 (スクリプト式でのみ有効) は、現在読み込まれているテーブル ファイルに関する情報を返します。これらの関数は、テーブル ファイル以外のすべてのデータ ソースの NULL を返します (**ConnectString( )** は例外)。

ファイル関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Attribute

このスクリプト関数は、異なるメディア ファイルのメタタグの値をテキストとして返します。対応しているファイル形式は、MP3、WMA、WMV、PNG、および JPG です。**filename** ファイルが存在しない場合、ファイル形式がサポートされていない場合、または **attributename** というメタタグが含まれていない場合は、NULL を返します。

```
Attribute (filename, attributename)
```

ConnectString

ConnectString() 関数は、ODBC 接続または OLE DB 接続のアクティブなデータ接続の名前を返します。**connect** ステートメントが実行されていない場合、または **disconnect** ステートメントの実行後は、空の文字列を返します。

```
ConnectString ()
```

FileBaseName

FileBaseName 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのファイル名を、パスや拡張子を省略した文字列で返します。

```
FileBaseName ()
```

FileDir

FileDir 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのディレクトリパスを文字列で返します。

```
FileDir ()
```

FileExtension

FileExtension 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルの拡張子を文字列で返します。

```
FileExtension ()
```

FileName

FileName 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのファイル名を、パスを省略し、拡張子を付けて文字列で返します。

```
FileName ()
```

FilePath

FilePath 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのフル パスを文字列で返します。

```
FilePath ()
```

FileSize

FileSize 関数は、ファイル filename のサイズをバイト数で表した整数を返します。filename が指定されていない場合は、現在読み取り中のテーブル ファイルのサイズを返します。

```
FileSize ()
```

FileTime

FileTime 関数は、ファイル filename が最後に更新された日付と時刻のタイムスタンプを UTC で返します。filename が指定されていない場合、この関数は現在読み取り中のテーブル ファイルを参照します。

```
FileTime ([ filename ])
```

GetFolderPath

GetFolderPath 関数は、Microsoft Windows SHGetFolderPath 関数の値を返します。この関数は Microsoft Windows のフォルダー名が入力されると、フォルダーのフル パスを返します。

```
GetFolderPath ()
```

QvdCreateTime

このスクリプト関数は、QVD ファイルからの XML ヘッダーの日付と時刻 (ある場合) を返します。ない場合は NULL を返します。日付と時刻で提供される時刻は UTC です。

```
QvdCreateTime (filename)
```

QvdFieldName

このスクリプト関数は、項目番号 **fieldno** が QVD ファイル内にあれば、その名前 (ない場合は NULL) を返します。

```
QvdFieldName (filename , fieldno)
```

QvdNoOfFields

このスクリプト関数は、QVD ファイル内の項目数を返します。

```
QvdNoOfFields (filename)
```

QvdNoOfRecords

このスクリプト関数は、QVD ファイル内に含まれるレコードの数を返します。

```
QvdNoOfRecords (filename)
```

QvdTableName

このスクリプト関数は、QVD ファイルに保存されているテーブルの名前を返します。

```
QvdTableName (filename)
```

Attribute

このスクリプト関数は、異なるメディア ファイルのメタタグの値をテキストとして返します。対応しているファイル形式は、MP3、WMA、WMV、PNG、および JPG です。**filename** ファイルが存在しない場合、ファイル形式がサポートされていない場合、または **attributename** というメタタグが含まれていない場合は、NULL を返します。

構文:

```
Attribute(filename, attributename)
```

さまざまなメタタグを読み込むことができます。このトピックの例では、サポートされている各ファイル タイプ別に読み込むことができるタグを示しています。

> ***Windows Explorer****(Windows 7) または* ***File Explorer****(Windows 8.1 および 10) で保存されたメタ情報ではなく、関連性に従ってファイルで保存されたメタタグのみが読み込み可能です。例えば、ID2v3 は MP3 ファイルのタグで、EXIF は JPG ファイルのタグです。*

引数:

- filename: *メディア ファイルのファイル名で、場合によってはパスを含みます。*
  - 絶対

    c:\data
  - QlikView ドキュメントの相対パス。

    data
- attributename: *メタタグの名前。*

Example 1: MP3 ファイル

このスクリプトでは、存在する可能性のあるすべての MP3 メタタグを、*MyMusic* フォルダで読み込みます。

```
// Script to read MP3 meta tags for each vExt in 'mp3' for each vFoundFile in filelist(
GetFolderPath('MyMusic') & '\*.'& vExt ) FileList: LOAD FileLongName,     subfield
(FileLongName,'\',-1) as FileShortName,     num(FileSize(FileLongName),'# ### ### ###',',','
```

```
') as FileSize,     FileTime(FileLongName) as FileTime,      // ID3v1.0 and ID3v1.1 tags
Attribute(FileLongName, 'Title') as Title,     Attribute(FileLongName, 'Artist') as Artist,
 Attribute(FileLongName, 'Album') as Album,     Attribute(FileLongName, 'Year') as Year,
Attribute(FileLongName, 'Comment') as Comment,     Attribute(FileLongName, 'Track') as Track,
   Attribute(FileLongName, 'Genre') as Genre,

     // ID3v2.3 tags     Attribute(FileLongName, 'AENC') as AENC, // Audio encryption
Attribute(FileLongName, 'APIC') as APIC, // Attached picture     Attribute(FileLongName,
'COMM') as COMM, // Comments     Attribute(FileLongName, 'COMR') as COMR, // Commercial frame
   Attribute(FileLongName, 'ENCR') as ENCR, // Encryption method registration     Attribute
(FileLongName, 'EQUA') as EQUA, // Equalization     Attribute(FileLongName, 'ETCO') as ETCO,
// Event timing codes     Attribute(FileLongName, 'GEOB') as GEOB, // General encapsulated
object     Attribute(FileLongName, 'GRID') as GRID, // Group identification registration
Attribute(FileLongName, 'IPLS') as IPLS, // Involved people list     Attribute(FileLongName,
'LINK') as LINK, // Linked information     Attribute(FileLongName, 'MCDI') as MCDI, // Music
CD identifier     Attribute(FileLongName, 'MLLT') as MLLT, // MPEG location lookup table
Attribute(FileLongName, 'OWNE') as OWNE, // Ownership frame     Attribute(FileLongName,
'PRIV') as PRIV, // Private frame     Attribute(FileLongName, 'PCNT') as PCNT, // Play counter
    Attribute(FileLongName, 'POPM') as POPM, // Popularimeter

     Attribute(FileLongName, 'POSS') as POSS, // Position synchronisation frame     Attribute
(FileLongName, 'RBUF') as RBUF, // Recommended buffer size     Attribute(FileLongName, 'RVAD')
as RVAD, // Relative volume adjustment     Attribute(FileLongName, 'RVRB') as RVRB, // Reverb
   Attribute(FileLongName, 'SYLT') as SYLT, // Synchronized lyric/text     Attribute
(FileLongName, 'SYTC') as SYTC, // Synchronized tempo codes     Attribute(FileLongName,
'TALB') as TALB, // Album/Movie/Show title     Attribute(FileLongName, 'TBPM') as TBPM, // BPM
(beats per minute)     Attribute(FileLongName, 'TCOM') as TCOM, // Composer     Attribute
(FileLongName, 'TCON') as TCON, // Content type     Attribute(FileLongName, 'TCOP') as TCOP,
// Copyright message     Attribute(FileLongName, 'TDAT') as TDAT, // Date     Attribute
(FileLongName, 'TDLY') as TDLY, // Playlist delay

     Attribute(FileLongName, 'TENC') as TENC, // Encoded by     Attribute(FileLongName,
'TEXT') as TEXT, // Lyricist/Text writer     Attribute(FileLongName, 'TFLT') as TFLT, // File
type     Attribute(FileLongName, 'TIME') as TIME, // Time     Attribute(FileLongName, 'TIT1')
as TIT1, // Content group description     Attribute(FileLongName, 'TIT2') as TIT2, //
Title/songname/content description     Attribute(FileLongName, 'TIT3') as TIT3, //
Subtitle/Description refinement     Attribute(FileLongName, 'TKEY') as TKEY, // Initial key
 Attribute(FileLongName, 'TLAN') as TLAN, // Language(s)     Attribute(FileLongName, 'TLEN')
as TLEN, // Length     Attribute(FileLongName, 'TMED') as TMED, // Media type

     Attribute(FileLongName, 'TOAL') as TOAL, // Original album/movie/show title     Attribute
(FileLongName, 'TOFN') as TOFN, // Original filename     Attribute(FileLongName, 'TOLY') as
TOLY, // Original lyricist(s)/text writer(s)     Attribute(FileLongName, 'TOPE') as TOPE, //
Original artist(s)/performer(s)     Attribute(FileLongName, 'TORY') as TORY, // Original
release year     Attribute(FileLongName, 'TOWN') as TOWN, // File owner/licensee     Attribute
(FileLongName, 'TPE1') as TPE1, // Lead performer(s)/Soloist(s)     Attribute(FileLongName,
'TPE2') as TPE2, // Band/orchestra/accompaniment

     Attribute(FileLongName, 'TPE3') as TPE3, // Conductor/performer refinement     Attribute
(FileLongName, 'TPE4') as TPE4, // Interpreted, remixed, or otherwise modified by
Attribute(FileLongName, 'TPOS') as TPOS, // Part of a set     Attribute(FileLongName, 'TPUB')
as TPUB, // Publisher     Attribute(FileLongName, 'TRCK') as TRCK, // Track number/Position in
set     Attribute(FileLongName, 'TRDA') as TRDA, // Recording dates     Attribute
(FileLongName, 'TRSN') as TRSN, // Internet radio station name     Attribute(FileLongName,
'TRSO') as TRSO, // Internet radio station owner
```

```
     Attribute(FileLongName, 'TSIZ') as TSIZ, // Size     Attribute(FileLongName, 'TSRC') as
TSRC, // ISRC (international standard recording code)     Attribute(FileLongName, 'TSSE') as
TSSE, // Software/Hardware and settings used for encoding     Attribute(FileLongName, 'TYER')
as TYER, // Year     Attribute(FileLongName, 'TXXX') as TXXX, // User defined text information
frame     Attribute(FileLongName, 'UFID') as UFID, // Unique file identifier     Attribute
(FileLongName, 'USER') as USER, // Terms of use     Attribute(FileLongName, 'USLT') as USLT,
// Unsychronized lyric/text transcription     Attribute(FileLongName, 'WCOM') as WCOM, //
Commercial information     Attribute(FileLongName, 'WCOP') as WCOP, // Copyright/Legal
information

     Attribute(FileLongName, 'WOAF') as WOAF, // Official audio file webpage     Attribute
(FileLongName, 'WOAR') as WOAR, // Official artist/performer webpage     Attribute
(FileLongName, 'WOAS') as WOAS, // Official audio source webpage     Attribute(FileLongName,
'WORS') as WORS, // Official internet radio station homepage     Attribute(FileLongName,
'WPAY') as WPAY, // Payment     Attribute(FileLongName, 'WPUB') as WPUB, // Publishers
official webpage     Attribute(FileLongName, 'WXXX') as WXXX; // User defined URL link frame
LOAD @1:n as FileLongName Inline "$(vFoundFile)" (fix, no labels); Next vFoundFile Next vExt
```

Example 2: JPEG

このスクリプトでは、存在する可能性のあるすべてのEXIF メタタグを、*MyPictures* フォルダのJPG ファイルから読み込みます。

```
// Script to read Jpeg Exif meta tags for each vExt in 'jpg', 'jpeg', 'jpe', 'jfif', 'jif',
'jfi' for each vFoundFile in filelist( GetFolderPath('MyPictures') & '\*.'& vExt )

 FileList: LOAD FileLongName,     subfield(FileLongName,'\',-1) as FileShortName,     num
(FileSize(FileLongName),'# ### ### ###',',',' ') as FileSize,     FileTime(FileLongName) as
FileTime,      // ************   Exif Main (IFD0) Attributes   ************     Attribute
(FileLongName, 'ImageWidth') as ImageWidth,     Attribute(FileLongName, 'ImageLength') as
ImageLength,     Attribute(FileLongName, 'BitsPerSample') as BitsPerSample,     Attribute
(FileLongName, 'Compression') as Compression,

    //  examples: 1=uncompressed, 2=CCITT, 3=CCITT 3, 4=CCITT 4,

    //5=LZW, 6=JPEG (old style), 7=JPEG, 8=Deflate, 32773=PackBits RLE,      Attribute
(FileLongName, 'PhotometricInterpretation') as PhotometricInterpretation,

    //  examples: 0=WhiteIsZero, 1=BlackIsZero, 2=RGB, 3=Palette, 5=CMYK, 6=YCbCr,
Attribute(FileLongName, 'ImageDescription') as ImageDescription,     Attribute(FileLongName,
'Make') as Make,     Attribute(FileLongName, 'Model') as Model,     Attribute(FileLongName,
'StripOffsets') as StripOffsets,     Attribute(FileLongName, 'Orientation') as Orientation,

    //  examples: 1=TopLeft, 2=TopRight, 3=BottomRight, 4=BottomLeft,

    // 5=LeftTop, 6=RightTop, 7=RightBottom, 8=LeftBottom,      Attribute(FileLongName,
'SamplesPerPixel') as SamplesPerPixel,     Attribute(FileLongName, 'RowsPerStrip') as
RowsPerStrip,     Attribute(FileLongName, 'StripByteCounts') as StripByteCounts,     Attribute
(FileLongName, 'XResolution') as XResolution,     Attribute(FileLongName, 'YResolution') as
YResolution,     Attribute(FileLongName, 'PlanarConfiguration') as PlanarConfiguration,

    //  examples: 1=chunky format, 2=planar format,      Attribute(FileLongName,
'ResolutionUnit') as ResolutionUnit,
```

```
    //  examples: 1=none, 2=inches, 3=centimeters,      Attribute(FileLongName,
'TransferFunction') as TransferFunction,     Attribute(FileLongName, 'Software') as Software,
   Attribute(FileLongName, 'DateTime') as DateTime,     Attribute(FileLongName, 'Artist') as
Artist,     Attribute(FileLongName, 'HostComputer') as HostComputer,     Attribute
(FileLongName, 'WhitePoint') as WhitePoint,     Attribute(FileLongName,
'PrimaryChromaticities') as PrimaryChromaticities,     Attribute(FileLongName,
'YCbCrCoefficients') as YCbCrCoefficients,     Attribute(FileLongName, 'YCbCrSubSampling') as
YCbCrSubSampling,     Attribute(FileLongName, 'YCbCrPositioning') as YCbCrPositioning,

    //  examples: 1=centered, 2=co-sited,      Attribute(FileLongName, 'ReferenceBlackWhite')
as ReferenceBlackWhite,     Attribute(FileLongName, 'Rating') as Rating,     Attribute
(FileLongName, 'RatingPercent') as RatingPercent,     Attribute(FileLongName,
'ThumbnailFormat') as ThumbnailFormat,

    //  examples: 0=Raw Rgb, 1=Jpeg,      Attribute(FileLongName, 'Copyright') as Copyright,
  Attribute(FileLongName, 'ExposureTime') as ExposureTime,     Attribute(FileLongName,
'FNumber') as FNumber,     Attribute(FileLongName, 'ExposureProgram') as ExposureProgram,

    //  examples: 0=Not defined, 1=Manual, 2=Normal program, 3=Aperture priority, 4=Shutter
priority,

    // 5=Creative program, 6=Action program, 7=Portrait mode, 8=Landscape mode, 9=Bulb,
Attribute(FileLongName, 'ISOSpeedRatings') as ISOSpeedRatings,     Attribute(FileLongName,
'TimeZoneOffset') as TimeZoneOffset,     Attribute(FileLongName, 'SensitivityType') as
SensitivityType,

    //  examples: 0=Unknown, 1=Standard output sensitivity (SOS), 2=Recommended exposure index
(REI),

    // 3=ISO speed, 4=Standard output sensitivity (SOS) and Recommended exposure index (REI),

    //5=Standard output sensitivity (SOS) and ISO Speed, 6=Recommended exposure index (REI)
and ISO Speed,

    // 7=Standard output sensitivity (SOS) and Recommended exposure index (REI) and ISO speed,
     Attribute(FileLongName, 'ExifVersion') as ExifVersion,     Attribute(FileLongName,
'DateTimeOriginal') as DateTimeOriginal,     Attribute(FileLongName, 'DateTimeDigitized') as
DateTimeDigitized,     Attribute(FileLongName, 'ComponentsConfiguration') as
ComponentsConfiguration,

    //  examples: 1=Y, 2=Cb, 3=Cr, 4=R, 5=G, 6=B,      Attribute(FileLongName,
'CompressedBitsPerPixel') as CompressedBitsPerPixel,     Attribute(FileLongName,
'ShutterSpeedValue') as ShutterSpeedValue,     Attribute(FileLongName, 'ApertureValue') as
ApertureValue,     Attribute(FileLongName, 'BrightnessValue') as BrightnessValue, //
examples: -1=Unknown,      Attribute(FileLongName, 'ExposureBiasValue') as ExposureBiasValue,
   Attribute(FileLongName, 'MaxApertureValue') as MaxApertureValue,     Attribute
(FileLongName, 'SubjectDistance') as SubjectDistance,

    //  examples: 0=Unknown, -1=Infinity,      Attribute(FileLongName, 'MeteringMode') as
MeteringMode,

    //  examples: 0=Unknown, 1=Average, 2=CenterWeightedAverage, 3=Spot,

    // 4=MultiSpot, 5=Pattern, 6=Partial, 255=Other,      Attribute(FileLongName,
'LightSource') as LightSource,
```

```
    //  examples: 0=Unknown, 1=Daylight, 2=Fluorescent, 3=Tungsten, 4=Flash, 9=Fine weather,

    // 10=Cloudy weather, 11=Shade, 12=Daylight fluorescent,

    // 13=Day white fluorescent, 14=Cool white fluorescent,

    // 15=White fluorescent, 17=Standard light A, 18=Standard light B, 19=Standard light C,

    // 20=D55, 21=D65, 22=D75, 23=D50, 24=ISO studio tungsten, 255=other light source,
Attribute(FileLongName, 'Flash') as Flash,     Attribute(FileLongName, 'FocalLength') as
FocalLength,     Attribute(FileLongName, 'SubjectArea') as SubjectArea,     Attribute
(FileLongName, 'MakerNote') as MakerNote,     Attribute(FileLongName, 'UserComment') as
UserComment,     Attribute(FileLongName, 'SubSecTime') as SubSecTime,

     Attribute(FileLongName, 'SubsecTimeOriginal') as SubsecTimeOriginal,     Attribute
(FileLongName, 'SubsecTimeDigitized') as SubsecTimeDigitized,     Attribute(FileLongName,
'XPTitle') as XPTitle,     Attribute(FileLongName, 'XPComment') as XPComment,

     Attribute(FileLongName, 'XPAuthor') as XPAuthor,     Attribute(FileLongName,
'XPKeywords') as XPKeywords,     Attribute(FileLongName, 'XPSubject') as XPSubject,
Attribute(FileLongName, 'FlashpixVersion') as FlashpixVersion,     Attribute(FileLongName,
'ColorSpace') as ColorSpace, //  examples: 1=sRGB, 65535=Uncalibrated,      Attribute
(FileLongName, 'PixelXDimension') as PixelXDimension,     Attribute(FileLongName,
'PixelYDimension') as PixelYDimension,     Attribute(FileLongName, 'RelatedSoundFile') as
RelatedSoundFile,

     Attribute(FileLongName, 'FocalPlaneXResolution') as FocalPlaneXResolution,     Attribute
(FileLongName, 'FocalPlaneYResolution') as FocalPlaneYResolution,     Attribute(FileLongName,
'FocalPlaneResolutionUnit') as FocalPlaneResolutionUnit,

    //  examples: 1=None, 2=Inch, 3=Centimeter,      Attribute(FileLongName, 'ExposureIndex')
as ExposureIndex,     Attribute(FileLongName, 'SensingMethod') as SensingMethod,

    //  examples: 1=Not defined, 2=One-chip color area sensor, 3=Two-chip color area sensor,

    // 4=Three-chip color area sensor, 5=Color sequential area sensor,

    // 7=Trilinear sensor, 8=Color sequential linear sensor,      Attribute(FileLongName,
'FileSource') as FileSource,

    //  examples: 0=Other, 1=Scanner of transparent type,

    // 2=Scanner of reflex type, 3=Digital still camera,      Attribute(FileLongName,
'SceneType') as SceneType,

    //  examples: 1=A directly photographed image,      Attribute(FileLongName, 'CFAPattern')
as CFAPattern,     Attribute(FileLongName, 'CustomRendered') as CustomRendered,

    //  examples: 0=Normal process, 1=Custom process,      Attribute(FileLongName,
'ExposureMode') as ExposureMode,

    //  examples: 0=Auto exposure, 1=Manual exposure, 2=Auto bracket,      Attribute
(FileLongName, 'WhiteBalance') as WhiteBalance,
```

```
    //  examples: 0=Auto white balance, 1=Manual white balance,      Attribute(FileLongName,
'DigitalZoomRatio') as DigitalZoomRatio,     Attribute(FileLongName, 'FocalLengthIn35mmFilm')
as FocalLengthIn35mmFilm,     Attribute(FileLongName, 'SceneCaptureType') as SceneCaptureType,

    //  examples: 0=Standard, 1=Landscape, 2=Portrait, 3=Night scene,      Attribute
(FileLongName, 'GainControl') as GainControl,

    //  examples: 0=None, 1=Low gain up, 2=High gain up, 3=Low gain down, 4=High gain down,
  Attribute(FileLongName, 'Contrast') as Contrast,

    //  examples: 0=Normal, 1=Soft, 2=Hard,      Attribute(FileLongName, 'Saturation') as
Saturation,

    //  examples: 0=Normal, 1=Low saturation, 2=High saturation,      Attribute(FileLongName,
'Sharpness') as Sharpness,

    //  examples: 0=Normal, 1=Soft, 2=Hard,      Attribute(FileLongName,
'SubjectDistanceRange') as SubjectDistanceRange,

    //  examples: 0=Unknown, 1=Macro, 2=Close view, 3=Distant view,      Attribute
(FileLongName, 'ImageUniqueID') as ImageUniqueID,     Attribute(FileLongName,
'BodySerialNumber') as BodySerialNumber,     Attribute(FileLongName, 'CMNT_GAMMA') as CMNT_
GAMMA,     Attribute(FileLongName, 'PrintImageMatching') as PrintImageMatching,     Attribute
(FileLongName, 'OffsetSchema') as OffsetSchema,

     // ************   Interoperability Attributes   ************     Attribute(FileLongName,
'InteroperabilityIndex') as InteroperabilityIndex,     Attribute(FileLongName,
'InteroperabilityVersion') as InteroperabilityVersion,     Attribute(FileLongName,
'InteroperabilityRelatedImageFileFormat') as InteroperabilityRelatedImageFileFormat,
Attribute(FileLongName, 'InteroperabilityRelatedImageWidth') as
InteroperabilityRelatedImageWidth,     Attribute(FileLongName,
'InteroperabilityRelatedImageLength') as InteroperabilityRelatedImageLength,     Attribute
(FileLongName, 'InteroperabilityColorSpace') as InteroperabilityColorSpace,

    //  examples: 1=sRGB, 65535=Uncalibrated,      Attribute(FileLongName,
'InteroperabilityPrintImageMatching') as InteroperabilityPrintImageMatching,     //
************   GPS Attributes   ************     Attribute(FileLongName, 'GPSVersionID') as
GPSVersionID,     Attribute(FileLongName, 'GPSLatitudeRef') as GPSLatitudeRef,     Attribute
(FileLongName, 'GPSLatitude') as GPSLatitude,     Attribute(FileLongName, 'GPSLongitudeRef')
as GPSLongitudeRef,     Attribute(FileLongName, 'GPSLongitude') as GPSLongitude,     Attribute
(FileLongName, 'GPSAltitudeRef') as GPSAltitudeRef,

    //  examples: 0=Above sea level, 1=Below sea level,      Attribute(FileLongName,
'GPSAltitude') as GPSAltitude,     Attribute(FileLongName, 'GPSTimeStamp') as GPSTimeStamp,
 Attribute(FileLongName, 'GPSSatellites') as GPSSatellites,     Attribute(FileLongName,
'GPSStatus') as GPSStatus,     Attribute(FileLongName, 'GPSMeasureMode') as GPSMeasureMode,
 Attribute(FileLongName, 'GPSDOP') as GPSDOP,     Attribute(FileLongName, 'GPSSpeedRef') as
GPSSpeedRef,

     Attribute(FileLongName, 'GPSSpeed') as GPSSpeed,     Attribute(FileLongName,
'GPSTrackRef') as GPSTrackRef,     Attribute(FileLongName, 'GPSTrack') as GPSTrack,
Attribute(FileLongName, 'GPSImgDirectionRef') as GPSImgDirectionRef,     Attribute
(FileLongName, 'GPSImgDirection') as GPSImgDirection,     Attribute(FileLongName,
'GPSMapDatum') as GPSMapDatum,     Attribute(FileLongName, 'GPSDestLatitudeRef') as
GPSDestLatitudeRef,
```

```
    Attribute(FileLongName, 'GPSDestLatitude') as GPSDestLatitude,    Attribute
(FileLongName, 'GPSDestLongitudeRef') as GPSDestLongitudeRef,    Attribute(FileLongName,
'GPSDestLongitude') as GPSDestLongitude,    Attribute(FileLongName, 'GPSDestBearingRef') as
GPSDestBearingRef,    Attribute(FileLongName, 'GPSDestBearing') as GPSDestBearing,
Attribute(FileLongName, 'GPSDestDistanceRef') as GPSDestDistanceRef,

    Attribute(FileLongName, 'GPSDestDistance') as GPSDestDistance,    Attribute
(FileLongName, 'GPSProcessingMethod') as GPSProcessingMethod,    Attribute(FileLongName,
'GPSAreaInformation') as GPSAreaInformation,    Attribute(FileLongName, 'GPSDateStamp') as
GPSDateStamp,    Attribute(FileLongName, 'GPSDifferential') as GPSDifferential;

   //  examples: 0=No correction, 1=Differential correction,  LOAD @1:n as FileLongName
Inline "$(vFoundFile)" (fix, no labels); Next vFoundFile Next vExt
```

Example 3: Windows メディア ファイル

このスクリプトでは、存在する可能性のあるすべての WMA/WMV ASF メタタグを、*MyMusic* フォルダで読み込みます。

```
/ Script to read WMA/WMV ASF meta tags for each vExt in 'asf', 'wma', 'wmv' for each
vFoundFile in filelist( GetFolderPath('MyMusic') & '\*.'& vExt )

 FileList: LOAD FileLongName,    subfield(FileLongName,'\',-1) as FileShortName,    num
(FileSize(FileLongName),'# ### ### ###',',',' ') as FileSize,    FileTime(FileLongName) as
FileTime,    Attribute(FileLongName, 'Title') as Title,    Attribute(FileLongName,
'Author') as Author,    Attribute(FileLongName, 'Copyright') as Copyright,    Attribute
(FileLongName, 'Description') as Description,

    Attribute(FileLongName, 'Rating') as Rating,    Attribute(FileLongName, 'PlayDuration')
as PlayDuration,    Attribute(FileLongName, 'MaximumBitrate') as MaximumBitrate,
Attribute(FileLongName, 'WMFSDKVersion') as WMFSDKVersion,    Attribute(FileLongName,
'WMFSDKNeeded') as WMFSDKNeeded,    Attribute(FileLongName, 'IsVBR') as IsVBR,    Attribute
(FileLongName, 'ASFLeakyBucketPairs') as ASFLeakyBucketPairs,

    Attribute(FileLongName, 'PeakValue') as PeakValue,    Attribute(FileLongName,
'AverageLevel') as AverageLevel; LOAD @1:n as FileLongName Inline "$(vFoundFile)" (fix, no
labels); Next vFoundFile Next vExt
```

Example 4: PNG

このスクリプトでは、存在する可能性のあるすべての PNG メタタグを、*MyPictures* フォルダで読み込みます。

```
// Script to read PNG meta tags for each vExt in 'png' for each vFoundFile in filelist(
GetFolderPath('MyPictures') & '\*.'& vExt )

 FileList: LOAD FileLongName,    subfield(FileLongName,'\',-1) as FileShortName,    num
(FileSize(FileLongName),'# ### ### ###',',',' ') as FileSize,    FileTime(FileLongName) as
FileTime,    Attribute(FileLongName, 'Comment') as Comment,

    Attribute(FileLongName, 'Creation Time') as Creation_Time,    Attribute(FileLongName,
'Source') as Source,    Attribute(FileLongName, 'Title') as Title,    Attribute
(FileLongName, 'Software') as Software,    Attribute(FileLongName, 'Author') as Author,
Attribute(FileLongName, 'Description') as Description,
```

```
    Attribute(FileLongName, 'Copyright') as Copyright; LOAD @1:n as FileLongName Inline
"$(vFoundFile)" (fix, no labels); Next vFoundFile Next vExt
```

ConnectString

ConnectString() 関数は、ODBC 接続または OLE DB 接続のアクティブなデータ接続の名前を返します。**connect** ステートメントが実行されていない場合、または **disconnect** ステートメントの実行後は、空の文字列を返します。

構文:

```
ConnectString()
```

例と結果

例	結果

FileBaseName

FileBaseName 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのファイル名を、パスや拡張子を省略した文字列で返します。

構文:

```
FileBaseName()
```

例と結果:

例と結果

例	結果
LOAD *, filebasename( ) as X from C:\UserFiles\abc.txt	読み込まれた各レコードの項目 X に 'abc' を返します。

FileDir

FileDir 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのディレクトリパスを文字列で返します。

構文:

```
FileDir()
```

例と結果:

例と結果

例	結果
Load *, filedir( ) as X from C:\UserFiles\abc.txt	読み込まれた各レコードの項目 X に 'C:\UserFiles' を返します。

FileExtension

FileExtension 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルの拡張子を文字列で返します。

構文:

```
FileExtension()
```

例と結果:

例と結果

例	結果
LOAD *, FileExtension( ) as X from C:\UserFiles\abc.txt	読み込まれた各レコードの項目 X に 'txt' を返します。

FileName

FileName 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのファイル名を、パスを省略し、拡張子を付けて文字列で返します。

構文:

```
FileName()
```

例と結果:

例と結果

例	結果
LOAD *, FileName( ) as X from C:\UserFiles\abc.txt	読み込まれた各レコードの項目 X に ' 'abc.txt" を返します。

FilePath

FilePath 関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルのフル パスを文字列で返します。

構文:

```
FilePath()
```

例と結果:

例と結果

例	結果
Load *, FilePath( ) as X from C:\UserFiles\abc.txt	読み込まれた各レコードの項目 X に ' 'C:\UserFiles\abc.txt" を返します。

FileSize

FileSize 関数は、ファイル filename のサイズをバイト数で表した整数を返します。filename が指定されていない場合は、現在読み取り中のテーブル ファイルのサイズを返します。

構文:
FileSize([filename]**)**

引数:

- filename: ファイルの名前です。場合によってはパスも含まれます。ファイル名を指定しない場合、現在読み取り中のテーブル ファイルが使用されます。
    - 絶対

      c:\data

    - QlikView ドキュメントの相対パス。

      data

    - インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。

      http://www.qlik.com

例と結果:

例と結果

例	結果
LOAD *, FileSize( ) as X from abc.txt;	読み込まれた各レコードの項目 X に、指定されたファイル (abc.txt) のサイズを整数で返します。
FileSize('xyz.xls')	xyz.xls のファイル サイズを返します。

FileTime

FileTime 関数は、ファイル filename が最後に更新された日付と時刻のタイムスタンプを UTC で返します。filename が指定されていない場合、この関数は現在読み取り中のテーブル ファイルを参照します。

構文:
FileTime([filename]**)**

引数:

- ファイル名: ファイルの名前です。場合によってはパスも含まれます。
    - 絶対

      c:\data

    - QlikView ドキュメントの相対パス。

      data

- インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。

  http://www.qlik.com

例と結果:

例と結果

例	結果
`LOAD *, FileTime( ) as X from abc.txt;`	読み込まれた各レコードの項目 X に、ファイル (abc.txt) が最後に更新された日付と時刻をタイムスタンプとして返します。
FileTime('xyz.xls')	ファイル xyz.xls の最終更新のタイムスタンプを返します。

GetFolderPath

GetFolderPath 関数は、Microsoft Windows SHGetFolderPath 関数の値を返します。この関数は Microsoft Windows のフォルダー名が入力されると、フォルダーのフル パスを返します。

構文:

```
GetFolderPath(foldername)
```

引数:

GetFolderPath 引数

引数	説明
foldername	Microsoft Windows フォルダの名前。 フォルダ名にスペースを含めることはできません。Windows Explorer 上でフォルダ名のスペースが確認できる場合はフォルダ名から削除してください。 例: *MyMusic* *MyDocuments*

例と結果:

この例の目的は、次の Microsoft Windows フォルダのパスを取得することです: *MyMusic*、*MyPictures* 、*Windows*。アプリに例のスクリプトを追加して再読み込みします。

```
LOAD   GetFolderPath('MyMusic') as MyMusic,  GetFolderPath('MyPictures') as MyPictures,
GetFolderPath('Windows') as Windows AutoGenerate 1;
```

アプリが再読み込みされると、項目 *MyMusic*、*MyPictures* 、*Windows* がデータモデルに追加されます。各項目には入力で定義されたフォルダへのパスが含まれます。以下に例を挙げます。

- フォルダ *MyMusic* の場合は *C:\Users\smu\Music*
- フォルダ *MyPictures* の場合は *C:\Users\smu\Pictures*
- フォルダ *Windows* の場合は *C:\Windows*

QvdCreateTime

このスクリプト関数は、QVD ファイルからの XML ヘッダーの日付と時刻 (ある場合) を返します。ない場合は NULL を返します。日付と時刻で提供される時刻は UTC です。

構文:

```
QvdCreateTime(filename)
```

引数:

- ファイル名: QVD ファイルの名前です。場合によってはパスも含まれます。
  - 絶対

    c:\data

  - QlikView ドキュメントの相対パス。

    data

  - インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。

    http://www.qlik.com

```
QvdCreateTime('MyFile.qvd')
QvdCreateTime('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

QvdFieldName

このスクリプト関数は、項目番号 **fieldno** が QVD ファイル内にあれば、その名前 (ない場合は NULL) を返します。

構文:

```
QvdFieldName(filename , fieldno)
```

引数:

- ファイル名: QVD ファイルの名前です。場合によってはパスも含まれます。
  - 絶対

    c:\data

  - QlikView ドキュメントの相対パス。

data

- インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。

  http://www.qlik.com

- fieldno:QVD ファイルに含まれるテーブル内の項目の番号 (1 で始まる) です。

```
QvdFieldName ('MyFile.qvd', 3)
QvdFieldName ('C:\MyDir\MyFile.qvd', 5)
```

QvdNoOfFields

このスクリプト関数は、QVD ファイル内の項目数を返します。

構文:

```
QvdNoOfFields(filename)
```

引数:

- ファイル名: QVD ファイルの名前です。場合によってはパスも含まれます。
  - 絶対

    c:\data

  - QlikView ドキュメントの相対パス。

    data

  - インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。

    http://www.qlik.com

```
QvdNoOfFields ('MyFile.qvd')
QvdNoOfFields ('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

QvdNoOfRecords

このスクリプト関数は、QVD ファイル内に含まれるレコードの数を返します。

構文:

```
QvdNoOfRecords(filename)
```

引数:

- ファイル名: QVD ファイルの名前です。場合によってはパスも含まれます。
  - 絶対

    c:\data

  - QlikView ドキュメントの相対パス。

    data

  - インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。

    http://www.qlik.com

```
QvdNoOfRecords ('MyFile.qvd')
QvdNoOfRecords ('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

QvdTableName

このスクリプト関数は、QVD ファイルに保存されているテーブルの名前を返します。

構文:

```
QvdTableName(filename)
```

引数:

- ファイル名: QVD ファイルの名前です。場合によってはパスも含まれます。
  - 絶対

    c:\data

  - QlikView ドキュメントの相対パス。

    data

  - インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP あるいは FTP)。

    http://www.qlik.com

```
QvdTableName ('MyFile.qvd')
QvdTableName ('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

財務関数

財務関数は、ロードスクリプトおよびチャート式で使用可能で、支払いと金利を計算します。
すべての引数で、支払う現金は負の数で表します。受領する現金は正の数で表します。

財務関数に使用される引数をリストアップします (**range** で始まるもの以外)。

> *すべての財務関数において重要なのは、**rate** と **nper** に同じ単位を指定することです。年利 6 % の 5 年ローンの月賦には、**rate** に 0.005 (6%/12)、**nper** に 60 (5*12) を使用します。同じローンの年賦の場合は、**rate** に 6%、**nper** に 5 を使用します。*

財務関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

FV

この関数は、定期、定額支払、単純年利の将来価値を返します。

```
FV (rate, nper, pmt [ ,pv [ , type ] ])
```

nPer

この関数は、定期、定額支払、固定金利での投資の期間数を返します。

```
nPer (rate, pmt, pv [ ,fv [ , type ] ])
```

Pmt

この関数は、定期、定額支払、固定金利でのローンの支払額を返します。年金の期間内で変更することはできません。支払額は、-20 のように負の数で指定されます。

```
Pmt (rate, nper, pv [ ,fv [ , type ] ] )
```

PV

この関数は、投資の現在価値を返します。

```
PV (rate, nper, pmt [ ,fv [ , type ] ])
```

Rate

この関数は、年金の期間あたりの利率を返します。結果は、**Fix** 小数点 2 桁と % のデフォルトの数値書式で返されます。

```
Rate (nper, pmt , pv [ ,fv [ , type ] ])
```

BlackAndSchole

Black and Scholes モデルは、金融派生商品の数学的モデルです。この方程式は、オプションの理論値を計算します。QlikView の **BlackAndSchole** 関数は、Black and Scholes オリジナル方程式 (ヨーロッパ スタイル オプション) に基づいて値を返します。

```
BlackAndSchole(strike , time_left , underlying_price , vol , risk_free_rate , type)
```

戻り値データ型 : 数値

引数:

BlackAndSchole 引数

引数	説明
strike	将来の株の購入価格です。
time_left	残存期間です。
underlying_price	株の時価です。
vol	期間あたりの予想変動率 (%) です。
risk_free_rate	期間あたりのリスクフリー利回り(%) です。
type	オプションのタイプ: コール オプションの場合は、'c'、'call' または任意のゼロでない数値、 プット オプションの場合は、'p'、'put'、または '0' です。

例と結果:

例と結果

例	結果
`BlackAndSchole(130, 4, 68.5, 0.4, 0.04, 'call')` これは、時価 68.5 の株を 4 年以内に 1 株あたり 130 で購入するオプションの理論価格を計算します。予想変動率を年 40%、リスクフリー利回りを 4% と仮定します。	11.245 を返します

FV

この関数は、定期、定額支払、単純年利の将来価値を返します。

構文:

```
FV(rate, nper, pmt [ ,pv [ , type ] ])
```

戻り値データ型: 数値結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。.

引数:

FV 引数

引数	説明
rate	期間あたりの利率。
nper	年金の支払期間の総数。
pmt	各期間の支払額。年金の期間内で変更することはできません。支払額は、-20 のように負の数で指定されます。

引数	説明
pv	現在価値、つまり将来の一連の支払額が現在持つ価値の合計額です。**pv** は省略されると、0 (ゼロ) と見なされます。
type	支払い期限が期末の場合は 0 で、支払い期限が期首の場合は 1 です。**type** は省略されると、0 と見なされます。

例と結果:

例と結果

例	結果
月々 $20 の 36 回払いで、新しい家電製品を買うとします。年率 6% です。請求書は毎月末に届きます。最終支払が行われた時点での投資総額はいくらでしょうか。 `FV(0.005,36,-20)`	$786.72 を返します

nPer

この関数は、定期、定額支払、固定金利での投資の期間数を返します。

構文:

```
nPer(rate, pmt, pv [ ,fv [ , type ] ])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

nPer 引数

引数	説明
rate	期間あたりの利率。
nper	年金の支払期間の総数。
pmt	各期間の支払額。年金の期間内で変更することはできません。支払額は、-20 のように負の数で指定されます。
pv	現在価値、つまり将来の一連の支払額が現在持つ価値の合計額です。**pv** は省略されると、0 (ゼロ) と見なされます。
fv	将来価値、または最終支払が行われた後の目標とする現金残高です。**fv** は省略されると、0 と見なされます。
type	支払い期限が期末の場合は 0 で、支払い期限が期首の場合は 1 です。**type** は省略されると、0 と見なされます。

例と結果:

例と結果

例	結果
月々 $20 で、家電製品を買うとします。年率 6% です。請求書は毎月末に届きます。最終支払が行われた後の受領額が $800 になるためには何期必要でしょうか。 `nPer(0.005,-20,0,800)`	36.56 を返します

Pmt

この関数は、定期、定額支払、固定金利でのローンの支払額を返します。年金の期間内で変更することはできません。支払額は、-20 のように負の数で指定されます。

```
Pmt(rate, nper, pv [ ,fv [ , type ] ] )
```

戻り値データ型: 数値結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。.

ローン期間の支払総額を算出するには、返された **pmt** の値に **nper** を掛けます。

引数:

Pmt 引数

引数	説明
rate	期間あたりの利率。
nper	年金の支払期間の総数。
pv	現在価値、つまり将来の一連の支払額が現在持つ価値の合計額です。**pv** は省略されると、0 (ゼロ) と見なされます。
fv	将来価値、または最終支払が行われた後の目標とする現金残高です。**fv** は省略されると、0 と見なされます。
type	支払い期限が期末の場合は 0 で、支払い期限が期首の場合は 1 です。**type** は省略されると、0 と見なされます。

例と結果:

例と結果

例	結果
次の方程式は、$20,000 のローンを年率 10 %、8 か月で完済する場合の月々の支払額を返します。 `Pmt(0.1/12,8,20000)`	-$2,594.66 を返します
同じローンで、支払期日が期首である場合の支払は次のようになります。 `Pmt(0.1/12,8,20000,0,1)`	-$2,573.21 を返します

PV

この関数は、投資の現在価値を返します。

```
PV(rate, nper, pmt [ ,fv [ , type ] ])
```

戻り値データ型: 数値結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。.

現在価値とは、将来的な一連の支払いの現在の価値総額です。例えば、借金をしている場合、その融資額が貸手にとっての現在価値です。

引数:

PV 引数

引数	説明
rate	期間あたりの利率。
nper	年金の支払期間の総数。
pmt	各期間の支払額。年金の期間内で変更することはできません。支払額は、-20 のように負の数で指定されます。
fv	将来価値、または最終支払が行われた後の目標とする現金残高です。**fv** は省略されると、0 と見なされます。
type	支払い期限が期末の場合は 0 で、支払い期限が期首の場合は 1 です。**type** は省略されると、0 と見なされます。

例と結果:

例と結果

例	結果
月末ごとに $100 が 7% の利率で 5 年間にわたって支払われるとすると、現在の負債の額はいくらでしょうか。 `PV(0.07/12,12*5,-100,0,0)`	$5,050.20 を返します

Rate

この関数は、年金の期間あたりの利率を返します。結果は、**Fix** 小数点 2 桁と **%** のデフォルトの数値書式で返されます。

構文:

```
Rate(nper, pmt , pv [ ,fv [ , type ] ])
```

戻り値データ型: 数値

rate は、反復によって計算され、ゼロまたは複数の解を持つ場合があります。**rate** の連続的な結果が収束しない場合は、NULL 値が返されます。

引数:

Rate 引数

引数	説明
nper	年金の支払期間の総数。
pmt	各期間の支払額。年金の期間内で変更することはできません。支払額は、-20 のように負の数で指定されます。
pv	現在価値、つまり将来の一連の支払額が現在持つ価値の合計額です。**pv** は省略されると、0 (ゼロ) と見なされます。
fv	将来価値、または最終支払が行われた後の目標とする現金残高です。**fv** は省略されると、0 と見なされます。
type	支払い期限が期末の場合は 0 で、支払い期限が期首の場合は 1 です。**type** は省略されると、0 と見なされます。

例と結果:

例と結果

例	結果
期間が 5 年の $10,000 の年金ローンで、月々の支払額が $300 の場合の利率はいくらでしょうか。 `Rate(60,-300,10000)`	2.00% を返します

書式設定関数

書式設定関数は、入力数値項目または数式に表示形式を適用します。データ型に応じて、小数点記号、3 桁区切りの記号などの文字を指定できます。

この関数は、すべて文字列と数値の両方を持つデュアル値を返しますが、数値から文字列への変換を実行するものとみなすことができます。**Dual()** は特別なケースですが、その他の書式設定関数は入力式の数値を取得し、数値を表す文字列を生成します。

それに対して、変換関数は上記の正反対のことを行います。つまり、文字列式を取得し、それを数値として評価し、結果として返される数値の書式を指定します。

この関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

読みやすさを考慮し、すべての数値表現で小数点に小数点記号を使用しています。

書式設定関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Date

Date() は、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムの書式設定、または提供されている場合は書式文字列を使用して、数式を日付として書式設定します。

```
Date (number[, format])
```

Dual

Dual() は、数値と文字列を組み合わせて 1 つのレコードにし、そのレコードの数値表現をソートや計算に使用できるようする一方で、文字列値を表示に使用できるようにします。

```
Dual (text, number)
```

Interval

Interval() は、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムの書式、または提供されている場合は書式文字列を使用して、数値を時間間隔として書式設定します。

```
Interval (number[, format])
```

Money

Money() は、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムの書式設定 (書式文字列が提供されている場合を除く)、およびオプションの小数点記号と千の桁区切りを使用して数式を数字で金額値として書式設定します。

```
Money (number[, format[, dec_sep [, thou_sep]]])
```

Num

Num()は数値をフォーマットします。つまり、第 2 パラメータで指定されたフォーマットで、入力された数値を表示用テキストに変換します。第 2 パラメータを省略すると、データロードスクリプトに設定されている小数点および桁区切り記号が使用されます。カスタマイズされた小数点と桁区切りの記号はオプションのパラメータです。

```
Num (number[, format[, dec_sep [, thou_sep]]])
```

Time

Time() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムの時刻書式設定を使用して、数式を時刻値として書式設定します。

```
Time (number[, format])
```

Timestamp

TimeStamp() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムのタイムスタンプ書式設定を使用して、数式を日付と時刻の値として書式設定します。

```
Timestamp (number[, format])
```

Date

Date() は、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムの書式設定、または提供されている場合は書式文字列を使用して、数式を日付として書式設定します。

構文:

```
Date(number[, format])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Date 引数

引数	説明
number	書式設定する数値。
format	結果文字列の形式を説明する文字列。書式文字列が提供されていない場合は、オペレーティング システムが使用している日付形式が使用されます。

この例では、次のデフォルト設定を前提としています。

- 日付の設定 1: YY-MM-DD
- 日付の設定 2: M/D/YY

Example 1:

```
Date( A )
```
ここで A=35648

例 1 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	97-08-06	8/6/97
数値:	35648	35648

Example 2:

```
Date( A, 'YY.MM.DD' )
```
ここで A=35648

例 2 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	97.08.06	97.08.06
数値:	35648	35648

Example 3:

```
Date( A, 'DD.MM.YYYY' )
```
ここで A=35648.375

例 3 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	06.08.1997	06.08.1997
数値:	35648.375	35648.375

Example 4:

```
Date( A, 'YY.MM.DD' )
```
ここで A=8/6/97

例 4 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	NULL (なし)	97.08.06
数値:	NULL	35648

Dual

Dual() は、数値と文字列を組み合わせて 1 つのレコードにし、そのレコードの数値表現をソートや計算に使用できるようする一方で、文字列値を表示に使用できるようにします。

構文:

```
Dual(text, number)
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Dual 引数

引数	説明
text	数値引数と組み合わせて使用される文字列値。
number	文字列引数の文字列と組み合わせて使用される数値。

QlikView では、すべての項目値がデュアル値になる可能性があります。つまり、項目値には、数値とテキスト値の両方を含むことができることを意味します。この一例となるのが日付で、数値の 40908 とテキスト表記の '2011-12-31' の両方が可能です。

1 つの項目に読み込まれている複数のデータアイテムで、文字列表現が異なっていても同じ有効な数値表現があるなら、それらはすべて最初に出現した文字列表現を共有します。



***dual** 関数は、一般的にスクリプトの早い段階、関係する項目に他のデータが読み取られる前に使用され、リストボックスなどで表示される最初の文字列表現を作成します。*

Example 1:

スクリプトに次の例を追加して実行します。

```
Load dual ( NameDay,NumDay ) as DayOfWeek inline
[ NameDay,NumDay
Monday,0
Tuesday,1
Wednesday,2
Thursday,3
Friday,4
Saturday,5
Sunday,6 ];
```

項目 DayOfWeek は、たとえば、チャートで軸として使用できます。曜日を持つテーブルでは、アルファベット順ではなく、正しいシーケンス番号に自動的にソートされます。

Example 2:

```
Load Dual('Q' & Ceil(Month(Now())/3), Ceil(Month(Now())/3)) as Quarter AutoGenerate 1;
```

この例では、現在の四半期を取得します。**Now()** 関数が年の最初の 3 ヶ月で実行される場合、Q1 と表示され、年の 2 番目の 3 ヶ月で実行される場合、Q2 と表示され、以下同様に表示されます。ただし、ソートで使用する場合、項目 Quarter は数値 : 1 ~ 4。

Example 3:

```
Dual('Q' & Ceil(Month(Date)/3), Ceil(Month(Date)/3)) as Quarter
```

上の例に示されているように、項目 Quarter はテキスト値 'Q1' ~ 'Q4' を用いて作成され、数値 1 ~ 4 が割り当てられます。これをスクリプトで使用するには、Date の値をロードする必要があります。

Example 4:

```
Dual(WeekYear(Date) & '-W' & Week(Date), WeekStart(Date)) as YearWeek
```

この例では、項目 YearWeek (形式のテキスト値 '2012-W22' を持つ) を作成し、同時にその週の最初の日の日付値に対応する数値を割り当てます (たとえば、41057. これをスクリプトで使用するには、Date の値をロードする必要があります。

Interval

Interval() は、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムの書式、または提供されている場合は書式文字列を使用して、数値を時間間隔として書式設定します。

時間間隔は、時間や日数、あるいは日、時、分、秒、それ以下の時間区分の組み合わせとして書式設定できます。

構文:

```
Interval(number[, format])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Interval 引数

引数	説明
number	書式設定する数値。
format	結果として返される間隔文字列の書式を設定する方法を記述する文字列。省略されている場合は、オペレーティング システムで設定された短い日付書式、時間書式、および小数点記号が使用されます。

この例では、次のデフォルト設定を前提としています。

- 日付の書式設定 1: YY-MM-DD
- 日付の書式設定 2: hh:mm:ss
- 小数点記号: .

例と結果

例	文字列	数値
`Interval( A )` ここで A=0.375	09:00:00	0.375
`Interval( A )` ここで A=1.375	33:00:00	1.375
`Interval( A, 'D hh:mm' )` ここで A=1.375	1 09:00	1.375
`Interval( A-B, 'D hh:mm' )` ここで A=97-08-06 09:00:00、B=96-08-06 00:00:00	365 09:00	365.375

Num

Num()は数値をフォーマットします。つまり、第 2 パラメータで指定されたフォーマットで、入力された数値を表示用テキストに変換します。第 2 パラメータを省略すると、データロード スクリプトに設定されている小数点および桁区切り記号が使用されます。カスタマイズされた小数点と桁区切りの記号はオプションのパラメータです。

構文:

```
Num(number[, format[, dec_sep [, thou_sep]]])
```

戻り値データ型: デュアル

Num 関数は、文字列と数値の両方を持つデュアル値を返します。この関数は、入力式の数値を取得し、数値を表す文字列を生成します。

引数:

Num 引数

引数	説明
number	書式設定する数値。
format	結果として返される文字列の書式を設定する方法を指定する文字列。省略すると、データロードスクリプトに設定されている小数点および桁区切り記号が使用されます。
dec_sep	小数点記号を指定する文字列。省略されている場合は、データロードスクリプトで設定された変数 DecimalSep 値が使用されます。
thou_sep	3 桁区切りの記号を指定する文字列。省略されている場合は、データロードスクリプトで設定された変数 ThousandSep 値が使用されます。

次の表に、項目 A が 35648.312 の場合の結果を示します。

結果

A	結果
Num(A)	35648.312 (スクリプトの環境変数に依存)
Num(A, '0.0', '.')	35648.3
Num(A, '0,00', ',')	35648,31
Num(A, '#,##0.0', '.', ',')	35,648.3
Num(A, '# ##0', ',', ' ')	35 648

アプリにこの例のスクリプトを追加して実行します。

続いて、軸として `Field1` と `Field2` を使用してストレートテーブルをビルドします。

```
Sheet1:
let result= Num( pi( ), '0,00' );
Load * inline
[Field1; Field2
9; 8,2
1; $(result)
](delimiter is ';');
```

`Field1` には 1 と9 の値が含まれます。

`Field2` には 3,14 と8,2 の値が含まれます。

Money

Money() は、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムの書式設定 (書式文字列が提供されている場合を除く)、およびオプションの小数点記号と千の桁区切りを使用して数式を数字で金額値として書式設定します。

構文:

```
Money(number[, format[, dec_sep[, thou_sep]]])
```

戻り値データ型: dual

引数:

お金の引数

引数	説明
number	書式設定する数値。
format	結果として返される通貨文字列の書式を設定する方法を記述する文字列。
dec_sep	小数点記号を指定する文字列。
thou_sep	3 桁区切りの記号を指定する文字列。

format、**dec_sep**、**thou_sep** 引数を省略すると、出力の各特定部分をフォーマットするときに、オペレーティング システムで設定された通貨形式が使用されます。スクリプトの作成時にオペレーティング システムの設定がシステム変数として自動的に含められるため、アプリケーション全体で一貫性が保たれます。

これらのシステム変数は **MoneyFormat**、**MoneyDecimalSep**、**MoneyThousandSep** であり、それぞれ **format**、**dec_sep**、**thou_sep** 関数の引数にマップされます。

この例では、次のデフォルト設定を前提としています。

- MoneyFormatの設定 1:kr ##0,00, MoneyThousandSep' '
- MoneyFormat の設定 2:$ #,##0.00, MoneyThousandSep','

Example 1:

```
Money( A )
```
ここで A=35648

例 1 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	kr 35 648,00	$ 35,648.00
数値:	35648.00	35648.00

Example 2:

```
Money( A, '#,##0 ¥', '.' , ',' )
```
ここで A=3564800

例 2 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	3,564,800￥	3,564,800￥
数値:	3564800	3564800

Time

Time() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティングシステムの時刻書式設定を使用して、数式を時刻値として書式設定します。

構文:

```
Time(number[, format])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Time 引数

引数	説明
number	書式設定する数値。
format	結果として返される時刻文字列の書式を設定する方法を記述する文字列。省略されている場合は、オペレーティング システムで設定された短い日付書式、時間書式、および小数点記号が使用されます。

この例では、次のデフォルト設定を前提としています。

- 時刻の書式設定 1: hh:mm:ss
- 時刻の書式設定 2: hh.mm.ss

Example 1:

```
Time( A )
```
ここで A=0.375

例 1 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	09:00:00	09.00.00
数値:	0.375	0.375

Example 2:

```
Time( A )
```
ここで A=35648.375

例 2 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	09:00:00	09.00.00
数値:	35648.375	35648.375

Example 3:

```
Time( A, 'hh-mm' )
```
ここで A=0.99999

例 3 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	23-59	23-59
数値:	0.99999	0.99999

Timestamp

TimeStamp() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトのシステム変数またはオペレーティング システムのタイムスタンプ書式設定を使用して、数式を日付と時刻の値として書式設定します。

構文:

```
Timestamp(number[, format])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Timestamp 引数

引数	説明
number	書式設定する数値。
format	結果として返される日付と時刻文字列の書式を設定する方法を記述する文字列。省略されている場合は、オペレーティング システムで設定された短い日付書式、時間書式、および小数点記号が使用されます。

この例では、次のデフォルト設定を前提としています。

- TimeStampFormat の設定 1: YY-MM-DD hh:mm:ss
- TimeStampFormat の設定 2: M/D/YY hh:mm:ss

Example 1:

```
Timestamp( A )
```
ここで A=35648.375

例 1 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	97-08-06 09:00:00	8/6/97 09:00:00
数値:	35648.375	35648.375

Example 2:

```
Timestamp( A,'YYYY-MM-DD hh.mm')
```
ここで A=35648

例 2 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	1997-08-06 00.00	1997-08-06 00.00
数値:	35648	35648

一般的な数値関数

これらの一般的な数値関数では、引数は数式であり、**x** は実際の数値と解釈されます。すべての関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

一般的な数値関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

bitcount

BitCount() は、数値を 2 進数表記した場合に 1 に設定されるビット数を求めます。つまり、この関数は **integer_number** に設定されたビット数を返します。**integer_number** は符号付きの 32 ビットの整数と解釈されます。

```
BitCount(integer_number)
```

div

Div() は、1 番目の引数を 2 番目の引数で割り算して得られる整数部分を返します。パラメータは両方とも実数として解釈されるため、整数である必要はありません。

```
Div(integer_number1, integer_number2)
```

fabs

Fabs() は、**x** の絶対値を返します。結果は正の数値です。

```
Fabs(x)
```

fact

Fact() は、正の整数 **x** の階乗を返します。

```
Fact(x)
```

frac

Frac() は **x** の小数点の右側に端数を返します。ここで **x** は実数です。

```
Frac(x)
```

sign

Sign() は、**x** が正の数か 0、あるいは負の数かによって 1、0、-1 を返します。

```
Sign(x)
```

組み合わせ関数と順列関数

combin

Combin() は、**p** アイテムのセットから選択できる **q** 要素の組み合わせの数を返します。次の方程式で表されます:`Combin(p,q) = p! / q!(p-q)!` アイテムの選択順序に意味はありません。

```
Combin(p, q)
```

permut

Permut() は、**p** アイテムのセットから選択できる **q** 順列の数を返します。次の方程式で表されます:`Permut(p,q) = (p)! / (p - q)!` アイテムの選択順序には有意性があります。

```
Permut(p, q)
```

モジュロ関数

fmod

fmod() は、1 番目の引数 (被除数) を 2 番目の引数 (除数) で割り算した余りを返す、モジュロ関数です。結果は実数です。引数は両方とも実数として解釈されるため、整数である必要はありません。

```
Fmod(a, b)
```

mod

Mod() は、整数除算による負でない余りを返す、モジュロ関数です。1 番目の引数は被除数で、2 番目の引数は除数で、両方の引数とも整数でなければなりません。

```
Mod(integer_number1, integer_number2)
```

パリティ関数

even

Even() はTrue (-1) を返します。これは、**integer_number** が偶数の整数またはゼロの場合です。これが False (0) を返すのは **integer_number** が奇数の整数である場合で、NULL を返すのは **integer_number** が整数ではない場合です。

```
Even(integer_number)
```

odd

Odd() はTrue (-1) を返します。これは、**integer_number** が奇数の整数またはゼロの場合です。これが False (0) を返すのは **integer_number** が偶数の整数である場合で、NULL を返すのは **integer_number** が整数ではない場合です。

```
Odd(integer_number)
```

丸め関数

ceil

Ceil() は、最も近い **step** [+ **offset**] の倍数まで **x** を切り上げます。**offset** のデフォルト設定は 0 です。

```
Ceil(x[, step[, offset]])
```

floor

Floor() は、最も近い **step** [+ **offset**] の倍数まで **x** を切り下げます。**offset** のデフォルト設定は 0 です。

```
Floor(x[, step[, offset]])
```

round

Round() は、**x** を **step** [+ **offset**] の最も近い倍率で切り上げた/切り下げた結果を返します。**offset** のデフォルト設定は 0 です。

```
Round( x [ , step [ , offset ]])
```

BitCount

BitCount() は、数値を2進数表記した場合に1に設定されるビット数を求めます。つまり、この関数は **integer_number** に設定されたビット数を返します。**integer_number** は符号付きの32ビットの整数と解釈されます。

構文:

```
BitCount(integer_number)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

- `BitCount ( 3 )`: 3 はバイナリ101のため、2 が返されます
- `BitCount ( -1 )`: -1 はバイナリでは 64 個の 1 のため、64 が返されます

Ceil

Ceil() は、最も近い **step** [+ **offset**] の倍数まで **x** を切り上げます。**offset** のデフォルト設定は 0 です。

これは、数値の切り下げに使用する **floor** 関数とは対照的です。

構文:

```
Ceil(x[, step[, offset]])
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

- `Ceil( 2.4 )`: 3 を返します
- `Ceil( 2.6 )`: 3 を返します
- `Ceil( 3.88 , 0.1 )`: 3.9 を返します
- `Ceil( 3.88 , 5 )`: 5 を返します
- `Ceil( 1.1 , 1 )`: 2 を返します
- `Ceil( 1.1 , 1 , 0.5 )`: 1.5 を返します
- `Ceil( 1.1 , 1 , -0.01 )`: 1.99 を返します

Combin

Combin() は、**p** アイテムのセットから選択できる **q** 要素の組み合わせの数を返します。次の方程式で表されます:`Combin(p,q) = p! / q!(p-q)!` アイテムの選択順序に意味はありません。

構文:

```
Combin(p, q)
```

戻り値データ型: 整数

制限事項:

引数が整数以外の場合、小数点以下は切り捨てられます。

例と結果:

- 合計 35 個のロトナンバーから 7 個の数を選ぶ場合、組み合わせは何通りあるか。
  `Combin( 35,7 )` は 6,724,520 を返します

Div

Div() は、1 番目の引数を 2 番目の引数で割り算して得られる整数部分を返します。パラメータは両方とも実数として解釈されるため、整数である必要はありません。

構文:

```
Div(integer_number1, integer_number2)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

- `Div( 7,2 )`: 3 を返します
- `Div( 7.1,2.3 )`: 3 を返します
- `Div( 9,3 )`: 3 を返します
- `Div( -4,3 )`: -1 を返します
- `Div( 4,-3 )`: -1 を返します
- `Div( -4,-3 )`: 1 を返します

Even

Even() はTrue (-1) を返します。これは、**integer_number** が偶数の整数またはゼロの場合です。これがFalse (0) を返すのは **integer_number** が奇数の整数である場合で、NULL を返すのは **integer_number** が整数ではない場合です。

構文:

```
Even(integer_number)
```

戻り値データ型: ブール値

例と結果:

- `Even( 3 )`: 0、False を返します
- `Even( 2 * 10 )`: -1、True を返します
- `Even( 3.14 )`: NULL を返します

Fabs

Fabs() は、**x** の絶対値を返します。結果は正の数値です。

構文:

```
fabs(x)
```

戻り値データ型: 数値

例と結果:

- `fabs( 2.4 )`: 2.4 を返します
- `fabs( -3.8 )`: 3.8 を返します

Fact

Fact() は、正の整数 **x** の階乗を返します。

構文:

```
Fact(x)
```

戻り値データ型: 整数

制限事項:

数値 **x** が整数以外の場合は切り捨てられます。正の数でない場合は、NULL を返します。

例と結果:

- `Fact( 1 )`: 1 を返します
- `Fact( 5 )`: 120 を返します (1 * 2 * 3 * 4 * 5 = 120)
- `Fact( -5 )`: NULL を返します

Floor

Floor() は、最も近い **step [+ offset]** の倍数まで **x** を切り下げます。**offset** のデフォルト設定は 0 です。

これは、数値の切り上げに使用する **ceil** 関数とは対照的です。

構文:

```
Floor(x[, step[, offset]])
```

戻り値データ型: 数値

例と結果:

- `Floor( 2,4 )`: 0 を返します
- `Floor( 4,2 )`: 4 を返します
- `Floor( 3.88 , 0.1 )`: 3.8 を返します
- `Floor( 3.88 , 5 )`: 0 を返します
- `Floor( 1.1 , 1 )`: 1 を返します
- `Floor( 1.1 , 1 , 0.5 )`: 0.5 を返します

Fmod

fmod() は、1 番目の引数 (被除数) を 2 番目の引数 (除数) で割り算した余りを返す、モジュロ関数です。結果は実数です。引数は両方とも実数として解釈されるため、整数である必要はありません。

構文:

```
fmod(a, b)
```

戻り値データ型: 数値

例と結果:

- `fmod( 7,2 )`: 1 を返します
- `fmod( 7.5,2 )`: 1.5 を返します
- `fmod( 9,3 )`: 0 を返します

- fmod(-4,3): -1 を返します
- fmod(4,-3): 1 を返します
- fmod(-4,-3): -1 を返します

Frac

Frac() は **x** の小数点の右側に端数を返します。ここで **x** は実数です。

小数部分は、Frac(x) + Floor(x) = x と定義されます。つまり、正の数値の小数部分は、数値 (x) とその前にある整数との差となります。

例: 11.43 の小数部分 = 11.43 - 11 = 0.43

-1.4 などの負の数の場合、Floor(-1.4) = -2 となり、次の結果が得られます。
-1.4 の小数部分 = 1.4 - (-2) = -1.4 + 2 = 0.6

構文:

```
Frac(x)
```

戻り値データ型: 数値

例と結果:

- Frac(11.43): 0.43 を返します
- Frac(-1.4): 0.6 を返します

Mod

Mod() は、整数除算による負でない余りを返す、モジュロ関数です。1 番目の引数は被除数で、2 番目の引数は除数で、両方の引数とも整数でなければなりません。

構文:

```
Mod(integer_number1, integer_number2)
```

戻り値データ型: 整数

制限事項:

integer_number2 は、0 よりも大きい値でなければなりません。

例と結果:

- Mod(7,2): 1 を返します
- Mod(7.5,2): NULL を返します
- Mod(9,3): 0 を返します
- Mod(-4,3): 2 を返します
- Mod(4,-3): NULL を返します
- Mod(-4,-3): NULL を返します

Odd

Odd() はTrue (-1) を返します。これは、**integer_number** が奇数の整数またはゼロの場合です。これがFalse (0) を返すのは **integer_number** が偶数の整数である場合で、NULL を返すのは **integer_number** が整数ではない場合です。

構文:

```
Odd(integer_number)
```

戻り値データ型: ブール値

例と結果:

- `Odd( 3 )`: -1、True を返します
- `Odd( 2 * 10 )`: 0、False を返します
- `Odd( 3.14 )`: NULL を返します

Permut

Permut() は、**p** アイテムのセットから選択できる **q** 順列の数を返します。次の方程式で表されます:`Permut (p,q) = (p)! / (p - q)!` アイテムの選択順序には有意性があります。

構文:

```
Permut(p, q)
```

戻り値データ型: 整数

制限事項:

引数が整数以外の場合、小数点以下は切り捨てられます。

例と結果:

- 8 人の選手が参加する 100 m 決勝で、金、銀、銅のメダルの分配方法は何通りあるか。
  `Permut( 8,3 )` は 336 を返します

Round

Round() は、**x** を **step** [+ **offset**] の最も近い倍率で切り上げた/切り下げた結果を返します。**offset** のデフォルト設定は 0 です。**step** のデフォルト設定は 1 です。

x がちょうど中間に位置する場合は切り上げられます。

構文:

```
Round(x[, step[, offset]])
```

戻り値データ型: 数値

浮動小数点を切り上げる場合、誤った結果が出る可能性があります。このようなほとんど大きな値で生じる切り上げ時のエラーは、浮動小数点が2進数の有限数として表現されていることが原因です。その結果、QlikViewでは、予め切り上げた数値で計算されます。正しく切り上げた数値を取得するのが重要である場合は、その数値を掛けて整数にしてから計算するというワークアラウンドがあります。

例と結果:

- `Round( 3.8 )`: 4 を返します。
- `Round( 3.8, 4 )`: 4 を返します。
- `Round( 2.5 )`: 3 を返します。2.5 はデフォルトのステップ間隔のちょうど中間のため、切り上げとなります。
- `Round( 2, 4 )`: 4 を返します。2 はデフォルトのステップ間隔 4 のちょうど中間のため、切り上げとなります。
- `Round( 2, 6 )`: 0 を返します。2 はステップ間隔 6 の中間よりも小さいため、切り捨てとなります。
- `Round( 3.88 , 0.1 )`: 3.9 を返します。
- `Round( 3.88 , 5 )`: 5 を返します。
- `Round( 1.1 , 1 , 0.5 )`: 1.5 を返します。

Sign

Sign() は、**x** が正の数か 0、あるいは負の数かによって 1、0、-1 を返します。

構文:

```
Sign(x)
```

戻り値データ型: 数値

制限事項:

数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例と結果:

- `Sign( 66 )`: 1 を返します
- `Sign( 0 )`: 0 を返します
- `Sign( - 234 )`: -1 を返します

変換関数

変換関数は、入力テキスト項目または数式のコンテンツを評価し、結果として返される数値に、指定されたデータ形式を適用します。これらの関数を使用して、小数点記号、3 桁区切りの記号、および日付書式などの属性を含むデータ型に基づいて数値の書式を指定できます。

この変換関数は、すべて文字列と数値の両方を持つデュアル値を返しますが、文字列から数値への変換を実行するものとみなすことができます。この関数は、入力式のテキスト値を取得し、文字列を表す数値を生成します。

それに対して、書式設定関数は上記の正反対のことを行います。つまり数式を取得し、それを文字列として評価し、結果として返されるテキスト値の表示形式を指定します。

変換関数が使用されない場合、QlikView は、スクリプトの変数とオペレーティング システムが定義するデフォルトの数値、日付、時間の書式を使用して、データを数値、日付、時刻、タイムスタンプ、文字列の組み合わせとして解釈します。

すべての変換関数は、ロード スクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。



読みやすさを考慮し、すべての数値表現で小数点に小数点記号を使用しています。

変換関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Date#

Date# は指定された日付形式パターンを適用するか、省略された場合は既定の日付形式パターンを使用して、テキスト文字列を数値の日付に変換します。形式コードが省略されている場合は、オペレーティング システムが使用している既定の日付形式が使用されます。

```
Date#(text[, format])
```

Interval#

Interval#() は、既定では、テキスト表現をオペレーティング システムの書式設定の時間間隔として評価します。ただし、2 番目の引数で書式が指定されている場合は、その書式の時間間隔として評価します。

```
Interval#(text[, format])
```

Money#

Money#() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロード スクリプトまたはオペレーティング システムの書式設定で、テキスト文字列を金額の値に変換します。カスタマイズされた小数点と桁区切りの記号はオプションのパラメータです。

```
Money# (text[, format[, dec_sep[, thou_sep ] ] ])
```

Num#

Num#()はテキスト文字列を数値として解釈します。つまり、第 2 パラメータで指定されたフォーマットで、入力された文字列を数値に変換します。第 2 パラメータを省略すると、データ ロード スクリプトに設定されている小数点および桁区切り記号が使用されます。カスタマイズされた小数点と桁区切りの記号はオプションのパラメータです。

```
Num#(text[ , format[, dec_sep[ , thou_sep]]])
```

Text

Text() は、数値として解釈できる場合でも、数式をテキストとして処理します。

```
Text (expr)
```

Time#

Time#() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトまたはオペレーティング システムの時刻書式設定で、数式を時刻値として評価します。。

```
Time# (text[, format])
```

Timestamp#

Timestamp#() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトまたはオペレーティング システムのタイムスタンプ書式設定で、数式を日付と時刻の値として評価します。

```
Timestamp# (text[, format])
```

Date#

Date# は指定された日付形式パターンを適用するか、省略された場合は既定の日付形式パターンを使用して、テキスト文字列を数値の日付に変換します。

```
Date#(text[, format])
```

戻り値データ型： dual

日付#引数

引数	説明
text	評価対象のテキスト文字列。
format	テキスト文字列を解釈するために使用する形式を記述する文字列。省略されている場合は、オペレーティング システムが使用している日付形式が使用されます。

次の例では日付書式 **M/D/YYYY** が使用されます。日付書式は、データロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。

アプリにこの例のスクリプトを追加して実行します。

```
Load *,
Num(Date#(StringDate)) as Date;
LOAD * INLINE [
StringDate
8/7/97
8/6/1997
];
```

StringDate と **Date** を軸としたテーブルを作成する場合、結果は次のようになります。

例 1 の結果

StringDate	Date
8/7/97	35649
8/6/1997	35648

Interval#

Interval#() は、既定では、テキスト表現をオペレーティング システムの書式設定の時間間隔として評価します。ただし、2 番目の引数で書式が指定されている場合は、その書式の時間間隔として評価します。

構文:

```
Interval#(text[, format])
```

戻り値データ型: dual

引数:

引数	説明
text	評価対象のテキスト文字列。
format	文字列を数字間隔に変換する際にしようが予想される入力形式を説明する文字列。 省略されている場合は、オペレーティング システムで設定された短い日付書式、時間書式、および小数点記号が使用されます。

interval# 関数はテキスト時間区間を相当する数値に変換します。

この例では、次のオペレーティング システムの設定を前提としています。

- 短い日付書式: YY-MM-DD
- 時間書式: M/D/YY
- 小数点記号: .

例と結果

例	結果
`Interval#( A, 'D hh:mm' )` ここで A='1 09:00'	1.375

Money#

Money#() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロード スクリプトまたはオペレーティング システムの書式設定で、テキスト文字列を金額の値に変換します。カスタマイズされた小数点と桁区切りの記号はオプションのパラメータです。

構文:

```
Money#(text[, format[, dec_sep [, thou_sep ] ] ])
```

戻り値データ型： デュアル

引数：

Money# 引数

引数	説明
text	評価対象のテキスト文字列。
format	文字列を数値区間に変換するときに使用する想定される入力書式を説明した文字列。 省略されている場合は、オペレーティング システムが使用している通貨形式が使用されます。
dec_sep	小数点記号を指定する文字列。省略されている場合は、ロード スクリプトで設定された MoneyDecimalSep 値が使用されます。
thou_sep	3 桁区切りの記号を指定する文字列。省略されている場合は、ロード スクリプトで設定された MoneyThousandSep 値が使用されます。

money# 関数は、原則として **num#** 関数と同じように機能しますが、小数点および桁区切り記号のデフォルト値をスクリプトの通貨書式の変数または通貨のシステム設定から決定します。

この例では、次の 2 つのオペレーティング システムの設定を前提としています。

- 通貨書式のデフォルト設定 1: kr # ##0,00
- 通貨書式のデフォルト設定 2: $ #,##0.00

Example 1:

```
Money#(A , '# ##0,00 kr' )
```
ここで A=35 648,37 kr

例 1 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	35 648.37 kr	35 648.37 kr
数値:	35648.37	3564837

Example 2:

```
Money#( A, ' $#', '.', ',' )
```
ここで A= $35,648.37

例 2 の結果

結果	設定 1	設定 2
文字列:	$35,648.37	$35,648.37
数値:	35648.37	35648.37

Num#

Num#()はテキスト文字列を数値として解釈します。つまり、第 2 パラメータで指定されたフォーマットで、入力された文字列を数値に変換します。第 2 パラメータを省略すると、データロードスクリプトに設定されている小数点および桁区切り記号が使用されます。カスタマイズされた小数点と桁区切りの記号はオプションのパラメータです。

```
Num#(text[, format[, dec_sep [, thou_sep ] ] ])
```

戻り値データ型: dual

Num#() 関数は、文字列と数値の両方が指定されたデュアル値を返します。この関数は、入力式のテキスト表現を取得し、数値を生成します。数値の形式は変更されません。出力は入力と同じ方法で形式化されます。

番号#引数

引数	説明
text	評価対象のテキスト文字列。
format	最初のパラメータで使用される数値形式を指定する文字列。省略した場合、データロードスクリプトで設定されている10 進数と1000 進数の区切り文字が使用されます。
dec_sep	小数点記号を指定する文字列。省略されている場合は、データロードスクリプトで設定された変数 DecimalSep 値が使用されます。
thou_sep	3 桁区切りの記号を指定する文字列。省略されている場合は、データロードスクリプトで設定された変数 ThousandSep 値が使用されます。

次のテーブルは、*のさまざまな値に対する*Num#(A, '#', '.' , ',')A の結果を示しています。

結果

A	文字列表現	数値 (ここでは小数で表示されます)
35,648.31	35,648.31	35648.31
35 648.312	35 648.312	35648.312
35.648,3123	35.648,3123	-
35 648,31234	35 648,31234	-

Text

Text() は、数値として解釈できる場合でも、数式をテキストとして処理します。

構文:

```
Text (expr)
```

戻り値データ型: デュアル

例と結果:

例と結果

例	結果	結果の値
`Text( A )` ここで A=1234	文字列:	1234
	数値:	-
`Text( pi( ) )`	文字列:	3.1415926535898
	数値:	-

Time#

Time#() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトまたはオペレーティング システムの時刻書式設定で、数式を時刻値として評価します。。

構文:

```
time#(text[, format])
```

戻り値データ型: dual

引数:

時間#引数

引数	説明
text	評価対象のテキスト文字列。
format	テキスト文字列を解釈するために使用する形式を記述する文字列。省略されている場合は、オペレーティング システムで設定された短い日付書式、時間書式、および小数点記号が使用されます。

例と結果:
この例では、次の 2 つのオペレーティング システムの設定を前提としています。

- 時間書式のデフォルト設定 1: hh:mm:ss
- 時間形式のデフォルト設定 2: hh.mm.ss

Example 1:

```
time#( A )
```
A=09:00:00

結果	設定 1	設定 2
文字列:	09:00:00	09:00:00
数値:	0.375	-

Example 2:

```
time#( A, 'hh.mm' )
```
A=09.00

結果	設定 1	設定 2
文字列:	09.00	09.00
数値:	0.375	0.375

Timestamp#

Timestamp#() は、書式文字列が提供されている場合を除き、ロードスクリプトまたはオペレーティング システムのタイムスタンプ書式設定で、数式を日付と時刻の値として評価します。

```
timestamp#(text[, format])
```

戻り値データ型: dual

日付と時刻#引数

引数	説明
text	評価対象のテキスト文字列。
format	テキスト文字列を解釈するために使用する形式を記述する文字列。省略されている場合は、オペレーティング システムで設定された短い日付書式、時間書式、および小数点記号が使用されます。タイムスタンプに ISO 8601 がサポートされています。

次の例では日付書式 **M/D/YYYY** が使用されます。日付書式は、データロードスクリプト上部の **SET DateFormat** ステートメントで指定されています。

アプリにこの例のスクリプトを追加して実行します。

```
Load *,
Timestamp(Timestamp#(String)) as TS;
LOAD * INLINE [
String
2015-09-15T12:13:14
1952-10-16T13:14:00+0200
1109-03-01T14:15
];
```
String と**TS** を軸としたテーブルを作成する場合、結果は次のようになります。

例 1 の結果

String	TS
2015-09-15T12:13:14	9/15/2015 12:13:14 PM
1952-10-16T13:14:00+0200	10/16/1952 11:14:00 AM
1109-03-01T14:15	3/1/1109 2:15:00 PM

レコード間関数

レコード間関数は、次のスクリプトと数式に使用します。

- ロードスクリプト(現在のレコードの評価に以前にロードされたデータのレコード値が必要な場合)
- チャート式 (チャートのデータセットからもう1 つ値が必要な場合)

チャートの式いずれかにレコード間のチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでレコード間のチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。この制限は、同等のスクリプト関数 (ある場合) には当てはまりません。

*QlikView 12.00 以降では、ゼロ値を隠すことがデフォルトで有効になっています。レコード間関数の使用時に QlikView 11.20 と同じ動作を保持する場合は、ゼロ値を隠すことを無効にする必要があります。**[チャートプロパティ]** を開いて **[プレゼンテーション]** タブに移動し、**[0 値を隠す]** の選択を解除します。*

自己参照型の数式の定義は、含まれる行が 100 未満であるテーブルでのみ信頼して作成することができますが、Qlik エンジンが実行されているハードウェアによって異なります。

行関数

これらの関数は、チャート式で使用できます。

Above

Above() は、テーブルの列セグメント内の現在の行の上にある行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは真上の行です。テーブル以外のチャートでは、**Above()** は、チャートのストレートテーブルに相当するセグメントの現在の行よりも上にある行を評価します。

```
Above([TOTAL [<fld{,fld}>]] expr [ , offset [,count]])
```

Below

Below() は、テーブルの列セグメント内の現在の行の下にある行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは真下の行です。テーブル以外のチャートでは、**Below()** は、チャートのストレートテーブルに相当するセグメントの現在の行よりも下にある行を評価します。

```
Below([TOTAL[<fld{,fld}>]] expression [ , offset [,count ]])
```

Bottom

Bottom() は、テーブルの列セグメント内の最後 (最下部) の行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは最下部の行です。テーブル以外のチャートでは、評価はチャートのストレートテーブルに相当する現在の列の最後の行を評価します。

```
Bottom([TOTAL[<fld{,fld}>]] expr [ , offset [,count ]])
```

Top

Top() は、テーブルの列セグメントの最初 (最上部) の行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは最上部の行です。テーブル以外のチャートでは、**Top()** はチャートのストレートテーブルに相当するセグメントの現在の列の最初の行を評価します。

```
Top([TOTAL [<fld{,fld}>]] expr [ , offset [,count ]])
```

NoOfRows

NoOfRows() は、テーブルの現在の列セグメント内の行の数を返します。ビットマップチャートの場合、**NoOfRows()** はチャートのストレートテーブルに相当するセグメントに含まれる行の数を返します。

```
NoOfRows([TOTAL])
```

列関数

これらの関数は、チャート式で使用できます。

Column

Column()は、軸に関係なく、ストレートテーブルで **ColumnNo** に対応する列の値を返します。例えば、**Column(2)** は 2 番目のメジャー列の値を返します。

```
Column- チャート関数(ColumnNo)
```

Dimensionality

Dimensionality() は、現在の行の軸の数を返します。ピボットテーブルの場合、この関数は、集計以外の内容 (部分合計または折りたたまれた集計を含まない) を含む軸列の合計数を返します。

```
Dimensionality ( )
```

Secondarydimensionality

Secondarydimensionality() は、集計以外の内容 (部分合計または折りたたまれた集計を含まない) を含む軸のピボットテーブル行の数を返します。この関数は、水平ピボットテーブル軸の **dimensionality()** 関数に相当します。

```
Secondarydimensionality ( )
```

項目関数

FieldIndex

FieldIndex() は、**field_name** 項目内の **value** 項目値の位置を返します (ロード順)。

```
FieldIndex(field_name , value)
```

FieldValue

FieldValue() は、**field_name** 項目の **elem_no** の位置にある値を返します (ロード順)。

```
FieldValue(field_name , elem_no)
```

FieldValueCount

FieldValueCount() は **integer** 関数で、項目に含まれる固有値の数を返します。

```
FieldValueCount(field_name)
```

ピボットテーブル関数

これらの関数は、チャート式で使用できます。

After

After() は、ピボットテーブルの行セグメント内の現在列の後の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。

```
After ([TOTAL] expression [ , offset [,n]])
```

Before

Before() は、ピボットテーブルの行セグメント内の現在列の前の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。

```
Before ([TOTAL] expression [ , offset [,n]])
```

First

First() は、ピボットテーブルの現在の行セグメントの最初の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

```
First ([TOTAL] expression [ , offset [,n]])
```

Last

Last() は、ピボットテーブルの現在の行セグメントの最後の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

```
Last ([TOTAL] expression [ , offset [,n]])
```

ColumnNo

ColumnNo() は、ピボットテーブルの現在の行セグメント内の現在列の番号を返します。最初の列の番号は 1 です。

```
ColumnNo ([TOTAL])
```

NoOfColumns

NoOfColumns() は、ピボットテーブルの現在の行セグメント内の列の数を返します。

```
NoOfColumns ([TOTAL])
```

ロードスクリプトのレコード間関数

Exists

Exists() は、特定の項目値がロードスクリプトの項目にすでにロードされているかどうかを決定します。この関数は TRUE または FALSE を返すため、**LOAD** ステートメントまたは **IF** 関数の **where** 句で使用できます。

```
Exists (field [ , expression ]
```

LookUp

Lookup() は、すでにロードされているテーブルを参照し、項目 **match_field_name** における値 **match_field_value** の最初の出現に対応する **field_name** の値を返します。テーブルは、現在のテーブルまたは前にロードして別のテーブルにすることができます。

```
LookUp (fieldname, matchfieldname, matchfieldvalue [, tablename])
```

Peek

Peek() は、すでにロードされている行または内部メモリに存在する行に対してテーブルの項目値を算出します。行番号は、テーブルと同様に指定できます。

```
Peek (fieldname [ , row [ , tablename ] ]
```

Previous

Previous() は、以前の入力レコードのデータを使用して、**expr** 式の値を算出します。内部テーブルの最初のレコードの場合は、NULL を返します。

```
Previous (expression )
```

Above

Above() は、テーブルの列セグメント内の現在の行の上にある行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは真上の行です。テーブル以外のチャートでは、**Above()** は、チャートのストレートテーブルに相当するセグメントの現在の行よりも上にある行を評価します。

構文:

```
Above([TOTAL] expr [ , offset [,count]])
```

戻り値データ型: dual

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- offset: **offset n** を 0 より大きい値にすると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** が負の値である場合、**Above** 関数は、相応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- count: 3 番目の引数 **count** を 1 より大きい値にすると、この関数は **count** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから上方向に **count** 行の各値を返します。この形式では、任意の特別な範囲関数の引数として関数を使用できます。*範囲関数 (page 1440)*
- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

列セグメントの最初の行では、上に行がないため、NULL 値が返されます。

列セグメントは、現在のソート順で軸に同じ値を持つ連続したセルのサブセットとして定義されます。レコード間チャート関数は、チャートのストレートテーブルに相当する右端の軸を除外して列セグメントで実行されます。チャートに軸が 1 つしかない場合、または TOTAL 修飾子が指定されていると、数式はテーブル全体を評価します。

テーブルまたはテーブルに相当するアイテムに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目間ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。

制限事項:

- 再帰呼び出しは、NULL を返します。
- チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

例と結果:

Example 1:

テーブル出力例

Customer	Sum (Sales)	Above(Sum (Sales))	Sum(Sales) + Above(Sum (Sales))	Above offset 3	Higher?
-	**2566**	-	-	-	-
Astrida	587	-	-	-	-
Betacab	539	587	1126	-	-
Canutility	683	539	1222	-	Higher
Divadip	757	683	1440	1344	Higher

この例で示されているテーブル チャートの図では、軸 **Customer** とメジャー `Sum(Sales)` および `Above(Sum (Sales))` からテーブルが作成されています。

行 **Customer** の上には行がないため、列 Above(Sum(Sales)) は、**Astrida** を含む Customer に対して NULL を返します。たとえば、行 **Betacab** の結果は **Astrida** の Sum(Sales) の値を示し、**Canutility** の結果は **Betacab** などの **Sum(Sales)** の値を示します。

Sum(Sales)+Above(Sum(Sales)) というラベルの列では、**Betacab** 行の結果には、行 **Betacab** と**Astrida** 値の加算結果 (539+587) が **Sum(Sales)** に表示されます。**Canutility** 行の結果には、行 **Canutility** と**Betacab** 値の加算結果 (683+539) が **Sum(Sales)** に表示されます。

数式 Sum(Sales)+Above(Sum(Sales), 3) を使用して作成された Above offset 3 というラベルのメジャーは、引数 **offset** が 3 に設定されており、現在の行より3 行上の値を取得します。また、現在の **Customer** の **Sum (Sales)** 値が 3 行上の **Customer** の値に追加されます。**Customer** の最初の 3 行で返される値は Null です。

テーブルには、Sum(Sales)+Above(Sum(Sales)) から作られたものと、**Higher?** というラベルの IF(Sum (Sales)>Above(Sum(Sales)), 'Higher') から作成されたより複雑なメジャーも表示されます。

この関数は、棒グラフなどテーブル以外のチャートでも使用できます。

その他のチャートの場合、どの行が関数に関連しているかわかりやすくするために、チャートをストレートテーブルに相当するセグメントに変換します。

Example 2:

この例で示されているテーブル チャートの図では、より多くの軸がチャートに追加されています。**Month** および **Product**。複数の軸が含まれているチャートでは、**Above**、**Below**、**Top**、**Bottom** 関数を含む数式の結果は、QlikView における列軸のソート順序によって変わります。QlikView は、最後にソートされた軸の結果である列セグメントに基づいて関数を評価します。列のソート順は、**[ソート]** で制御され、必ずしも列がテーブルに表示される順序ではありません。

例 2 のテーブルのチャートを示した以下の図では、最後にソートされた軸が **Month** のため、**Above** 関数は月に基づいて評価を行います。列セグメントにある各月 (**Jan** から**Aug**) の各 **Product** の値について一連の結果が出されます。この後に次の列セグメントのシリーズ、つまり次の **Product** の各 **Month** の値が続きます。各 **Product** のそれぞれの **Customer** 値に列セグメントが生成されます。

テーブル出力例

Customer	Product	Month	Sum(Sales)	Above(Sum(Sales))
-	-	-	**2566**	-
Astrida	AA	Jan	46	-
Astrida	AA	Feb	60	46
Astrida	AA	Mar	70	60
Astrida	AA	Apr	13	70
Astrida	AA	May	78	13
Astrida	AA	Jun	20	78
Astrida	AA	Jul	45	20
Astrida	AA	Aug	65	45

Example 3:

例 3 のテーブル チャートを示した図では、最後にソートされた軸が **Product** になっています。これは、プロパティ パネルにあるソート タブで Product を位置 3 に移動することで達成できます。**Above** 関数は各 **Product** について評価されます。製品は **AA** と**BB** の 2 つしかないため、Null 以外の結果は各シリーズにつき 1 つのみとなります。月が **Jan** の行 **BB** では、**Above(Sum(Sales))** の値は 46 です。行 **AA** では、値は Null です。**AA** の上には **Product** の値がないため、任意の月の行 AA の値は常に Null になります。2 番目のシリーズは、**Customer** 値、**Astrida** について、月 **Feb** の **AA** と**BB** で評価されます。**Astrida** ですべての月を評価したら、2 番目の **Customer**、Betacab などでもこのステップを繰り返します。

テーブル出力例

Customer	Product	Month	Sum(Sales)	Above(Sum(Sales))
-	-	-	**2566**	-
Astrida	AA	Jan	46	-
Astrida	BB	Jan	46	46
Astrida	AA	Feb	60	-
Astrida	BB	Feb	60	60
Astrida	AA	Mar	70	-
Astrida	BB	Mar	70	70
Astrida	AA	Apr	13	-
Astrida	BB	Apr	13	13

Example 4:

Above 関数は、範囲関数への入力として使用できます。例: `RangeAvg (Above(Sum(Sales),1,3))`。

Above() 関数の引数では、**offset** は 1 に設定され、**count** は 3 に設定されています。この関数は、列セグメントの現在行のすぐ上の 3 行 (行がある場合) で数式 Sum(Sales) の結果を算出します。この 3 つの値は、RangeAvg() 関数への入力として使用され、指定された数値の範囲で平均値を算出します。

軸として Customer を有するテーブルによって、RangeAvg() の数式について次の結果が得られます。

テーブル出力例

Customer	RangeAvg (Above(Sum(Sales),1,3))
Astrida	-
Betacab	587
Canutility	563
Divadip	603

例で使用されているデータ:

```
Monthnames:
```

```
LOAD * INLINE [
Month, Monthnumber
Jan, 1
Feb, 2
Mar, 3
Apr, 4
May, 5
Jun, 6
Jul, 7
Aug, 8
Sep, 9
Oct, 10
Nov, 11
Dec, 12
];
Sales2013:
crosstable (Month, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

月を取得して正しい順番でソートするには、チャートを作成する際に、チャートプロパティの**[Sort]** タブに移動し、**[Sort by]** の下で **[Expression]** チェックボックスを選択します。数式ボックスに、`Monthnumber` と入力します。

Below

Below() は、テーブルの列セグメント内の現在の行の下にある行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは真下の行です。テーブル以外のチャートでは、**Below()** は、チャートのストレートテーブルに相当するセグメントの現在の行よりも下にある行を評価します。

構文:

```
Below([TOTAL] expression [ , offset [,count ]])
```

戻り値データ型: dual

引数:

- `expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `offset`: **offset n** を 0 より大きい値にすると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** が負の値である場合、**Above** 関数は、相応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- `count`: 3 番目の引数 **count** を 1 より大きい値にすると、この関数は **count** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから上方向に **count** 行の各値を返します。この形式では、任意の特別な範囲関数の引数として関数を使用できます。*範囲関数 (page 1440)*
- `TOTAL`: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

列セグメントの最後の行では下に行が存在しないため、NULL 値が返されます。

列セグメントは、現在のソート順で軸に同じ値を持つ連続したセルのサブセットとして定義されます。レコード間チャート関数は、チャートのストレートテーブルに相当する右端の軸を除外して列セグメントで実行されます。チャートに軸が 1 つしかない場合、または TOTAL 修飾子が指定されていると、数式はテーブル全体を評価します。

テーブルまたはテーブルに相当するアイテムに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目間ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。

制限事項:

- 再帰呼び出しは、NULL を返します。
- チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

例と結果:

Example 1:

テーブル出力例

Customer	Sum (Sales)	Below(Sum (Sales))	Sum(Sales) + Below(Sum (Sales))	Below offset 3	Higher?
-	**2566**	-	-	**1344**	-
Astrida	587	539	1126	-	Higher
Betacab	539	683	1222	-	-
Canutility	683	757	1440	-	-
Divadip	757	-	-	-	-

この例 1 で示されているテーブル チャートの図では、軸 **Customer** とメジャー `Sum(Sales)` および `Below(Sum (Sales))` からテーブルが作成されています。

Divadip を含む **Customer** 行の下には行がないため、列 **Below(Sum(Sales))** はこの行に対して NULL を返します。たとえば、行 **Canutility** の結果は **Divadip** の Sum(Sales) の値を示し、**Betacab** の結果は **Canutility** などの **Sum(Sales)** の値を示します。

テーブルには、より複雑なメジャーも含まれます (列 `Sum(Sales)+Below(Sum(Sales))`, **Below +Offset 3** および **Higher?** というラベルのコラムを参照) これらの数式は、次の説明のとおり機能します。

Sum(Sales)+Below(Sum(Sales)) というラベルの列では、**Astrida** 行の結果には、行 **Betacab** と**Astrida** 値の加算結果 (539+587) が **Sum(Sales)** に表示されます。**Betacab** 行の結果には、行 **Canutility** と**Betacab** 値の加算結果 (539+683) が **Sum(Sales)** に表示されます。

数式 `Sum(Sales)+Below(Sum(Sales), 3)` を使用して作成された **Below +Offset 3** というラベルのメジャーは、引数 **offset** が 3 に設定されており、現在の行より3 つ下の行の値を取得します。現在の **Customer** の **Sum (Sales)** 値を3 行下の **Customer** の値に加えます。**Customer** の最後の 3 行の値は Null です。

Higher? というラベルのメジャーは、`IF(Sum(Sales)>Below(Sum(Sales)), 'Higher')` という数式から作成されています。これは、メジャー **Sum(Sales)** の現在の行の値をその下の行と比較します。現在の行の値が大きい場合、「Higher」が出力されます。

この関数は、棒グラフなどテーブル以外のチャートでも使用できます。

その他のチャートの場合、どの行が関数に関連しているかわかりやすくするために、チャートをストレートテーブルに相当するセグメントに変換します。

複数の軸が含まれているチャートでは、**Above**、**Below**、**Top**、**Bottom** 関数を含む数式の結果は、QlikView における列軸のソート順序によって変わります。QlikView は、最後にソートされた軸の結果である列セグメントに基づいて関数を評価します。列のソート順は、**[ソート]** で制御され、必ずしも列がテーブルに表示される順序ではありません。詳細については、**Above** 関数の例 2 を参照してください。

Example 2:

Below 関数は、範囲関数への入力として使用できます。例: `RangeAvg (Below(Sum(Sales),1,3))`。

Below() 関数の引数では、offset は 1 に設定され、count は 3 に設定されています。この関数は、列セグメントの現在行のすぐ下の 3 行 (行がある場合) で数式 **Sum(Sales)** の結果を算出します。この 3 つの値は、RangeAvg() 関数への入力として使用され、指定された数値の範囲で平均値を算出します。

軸として **Customer** を有するテーブルによって、の数式について次の結果が得られます。

テーブル出力例

Customer	RangeAvg (Below(Sum(Sales),1,3))
Astrida	659.67
Betacab	720
Canutility	757
Divadip	-

例で使用されているデータ:

```
Monthnames:
LOAD * INLINE [
Month, Monthnumber
Jan, 1
Feb, 2
Mar, 3
```

```
Apr, 4
May, 5
Jun, 6
Jul, 7
Aug, 8
Sep, 9
Oct, 10
Nov, 11
Dec, 12
];
Sales2013:
crosstable (Month, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

月を取得して正しい順番でソートするには、チャートを作成する際に、チャートプロパティの**[Sort]** タブに移動し、**[Sort by]** の下で **[Expression]** チェックボックスを選択します。数式ボックスに、`Monthnumber` と入力します。

Bottom

Bottom() は、テーブルの列セグメント内の最後 (最下部) の行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは最下部の行です。テーブル以外のチャートでは、評価はチャートのストレートテーブルに相当する現在の列の最後の行を評価します。

構文:

```
Bottom([TOTAL] expr [ , offset [,count ]])
```

戻り値データ型: dual

引数:

- `expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `offset`: **offset n** を 0 より大きい値にすると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** が負の値である場合、**Above** 関数は、相応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- `count`: 3 番目の引数 **count** を 1 より大きい値にすると、この関数は **count** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから上方向に **count** 行の各値を返します。この形式では、任意の特別な範囲関数の引数として関数を使用できます。*範囲関数 (page 1440)*
- `TOTAL`: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

> *列セグメントは、現在のソート順で軸に同じ値を持つ連続したセルのサブセットとして定義されます。レコード間チャート関数は、チャートのストレートテーブルに相当する右端の軸を除外して列セグメントで実行されます。チャートに軸が 1 つしかない場合、または TOTAL 修飾子が指定されていると、数式はテーブル全体を評価します。*

テーブルまたはテーブルに相当するアイテムに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目間ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。

制限事項:

- 再帰呼び出しは、NULL を返します。
- チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

例と結果:

Example 1:

テーブル出力例

Customer	Sum (Sales)	Bottom(Sum (Sales))	Sum(Sales) + Bottom(Sum (Sales))	Bottom offset 3
-	**2566**	**757**	**3323**	**3105**
Astrida	587	757	1344	1126
Betacab	539	757	1296	1078
Canutility	683	757	1440	1222
Divadip	757	757	1514	1296

この例で示されているテーブル チャートの図では、軸 **Customer** とメジャー `Sum(Sales)` および `Bottom(Sum (Sales))` からテーブルが作成されています。

列 **Bottom(Sum(Sales))** はすべての行で 757 を返します (最終行 **Divadip** の値)。

テーブルには、`Sum(Sales)+Bottom(Sum(Sales))` から作成されたものと、数式 `Sum(Sales)+Bottom(Sum (Sales), 3)` を使用して作成され、引数 **offset** が 3 に設定されている **Bottom offset 3** という、より複雑なメジャーも表示されています。最後から3 つ上にある行の値に現在の行の **Sum(Sales)** 値を加えます (現在の行 + **Betacab** の値)。

Example 2:

この例で示されているテーブル チャートの図では、より多くの軸がチャートに追加されています。**Month**、**Product**。複数の軸が含まれているチャートでは、**Above**、**Below**、**Top**、**Bottom** 関数を含む数式の結果は、QlikView における列軸のソート順序によって変わります。QlikView は、最後にソートされた軸の結果である列セグメントに基づいて関数を評価します。列のソート順は、**[ソート]** で制御され、必ずしも列がテーブルに表示される順序ではありません。

最初のテーブルで数式は **Month**、2 番目のテーブルでは **Product** に基づいて評価されます。メジャー **End value** には数式 `Bottom(Sum(Sales))` が含まれています。**Month** の最終行は Dec で、Dec の **Product** の値は両方とも 22 になっています (テーブル参照)。(スペースの関係上、一部の行は表示されていません。)

1 つ目のテーブル出力例

Customer	Product	Month	Sum(Sales)	End value
-	-	-	**2566**	-
Astrida	AA	Jan	46	22
Astrida	AA	Feb	60	22
Astrida	AA	Mar	70	22
...	...	...	...	...
Astrida	AA	Sep	78	22
Astrida	AA	Oct	12	22
Astrida	AA	Nov	78	22
Astrida	AA	Dec	22	22
Astrida	BB	Jan	46	22

2 つ目のテーブル出力例

Customer	Product	Month	Sum(Sales)	End value
			2566	-
Astrida	AA	Jan	46	46
Astrida	BB	Jan	46	46
Astrida	AA	Feb	60	60
Astrida	BB	Feb	60	60
Astrida	AA	Mar	70	70
Astrida	BB	Mar	70	70
Astrida	AA	Apr	13	13
Astrida	BB	Apr	13	13

詳細については、**Above** 関数の例 2 を参照してください。

Example 3:

Bottom 関数は、範囲関数への入力として使用できます。例: `RangeAvg (Bottom(Sum(Sales),1,3))`。

Bottom() 関数の引数では、**offset** は 1 に設定され、**count** は 3 に設定されています。この関数は、列セグメントの最終行の上の行から始まる 3 行 (offset=1 のため)、およびその上の 2 行 (行がある場合) で数式 **Sum (Sales)** の結果を算出します。この 3 つの値は、RangeAvg() 関数への入力として使用され、指定された数値の範囲で平均値を算出します。

軸として **Customer** を有するテーブルによって、RangeAvg() の数式について次の結果が得られます。

テーブル出力例

Customer	RangeAvg (Bottom(Sum(Sales),1,3))
Astrida	659.67
Betacab	659.67
Canutility	659.67
Divadip	659.67

例で使用されているデータ:

```
Monthnames:
LOAD * INLINE [
Month, Monthnumber
Jan, 1
Feb, 2
Mar, 3
Apr, 4
May, 5
Jun, 6
Jul, 7
Aug, 8
Sep, 9
Oct, 10
Nov, 11
Dec, 12
];
Sales2013:
crosstable (Month, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

月を取得して正しい順番でソートするには、チャートを作成する際に、チャートプロパティの**[Sort]** タブに移動し、**[Sort by]** の下で **[Expression]** チェックボックスを選択します。数式ボックスに、`Monthnumber` と入力します。

Column- チャート関数

Column()は、軸に関係なく、ストレートテーブルで **ColumnNo** に対応する列の値を返します。例えば、**Column(2)** は 2 番目のメジャー列の値を返します。

構文:

```
Column(ColumnNo)
```

戻り値データ型： dual

引数：

- ColumnNo: メジャーを含むテーブルの列番号です。

  Column() 関数は軸列を無視します。

制限事項:

- チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。
- **ColumnNo** が参照する列にメジャーがない場合は、NULL 値が返されます。
- 再帰呼び出しは、NULL を返します。

例と結果:

スクリプトの結果例

例	結果
Order Value は、数式 `Sum(UnitPrice*UnitSales)` を伴うメジャーとしてテーブルに追加されます。 Total Sales Value は、数式 `Sum(TOTAL UnitPrice*UnitSales)` を伴うメジャーとして追加されます。 % Sales は、以下の数式を伴うメジャーとして追加されます。`100*Column(1)/Column(2)`	Column(1) の結果は、最初のメジャー列である Order Value から得られます。 Column(2) の結果は、2 番目のメジャー列である Total Sales Value から得られます。 例 *総売上高の割合 (page 1406)* の % Sales 列の結果を参照してください。
Customer A を選択します。	選択が Total Sales Value に変わるため、%Sales になります。*選択した顧客の売上高率 (page 1407)* の例を参照してください。

総売上高の割合

Customer	Product	UnitPrice	UnitSales	Order Value	Total Sales Value	% Sales
A	AA	15	10	150	505	29.70
A	AA	16	4	64	505	12.67
A	BB	9	9	81	505	16.04

Customer	Product	UnitPrice	UnitSales	Order Value	Total Sales Value	% Sales
B	BB	10	5	50	505	9.90
B	CC	20	2	40	505	7.92
B	DD	25	-	0	505	0.00
C	AA	15	8	120	505	23.76
C	CC	19	-	0	505	0.00

選択した顧客の売上高率

Customer	Product	UnitPrice	UnitSales	Order Value	Total Sales Value	% Sales
A	AA	15	10	150	295	50.85
A	AA	16	4	64	295	21.69
A	BB	9	9	81	295	27.46

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
LOAD * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD||25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC||19
] (delimiter is '|');
```

Dimensionality

Dimensionality() は、現在の行の軸の数を返します。ピボットテーブルの場合、この関数は、集計以外の内容 (部分合計または折りたたまれた集計を含まない) を含む軸列の合計数を返します。

構文:

```
Dimensionality ( )
```

戻り値データ型: 整数

制限事項:

この関数は、チャートでのみ使用できます。合計が 0 の場合を除き、すべての行の軸数が返されます。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合は、合計行を除くすべての行の軸の数を返します。合計行の場合は 0 を返します。

チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートのy値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

Dimensionality の典型的な使用例は、軸に対して値が1つしかないときだけ計算を行いたい場合などです。

例と結果

例	結果
軸 UnitSales を含むテーブルで、請求書が発送されたことのみ示したい場合: `IF(Dimensionality()=3, "Invoiced")` 。	-

Exists

Exists() は、特定の項目値がロードスクリプトの項目にすでにロードされているかどうかを決定します。この関数は TRUE または FALSE を返すため、**LOAD** ステートメントまたは **IF** 関数の **where** 句で使用できます。

> ***Not Exists()*** *を使用して項目値がロードされていないかどうかを確認することもできますが、**where** 句で **Not Exists()** を使用する場合は注意が必要です。**Exists()** 関数は、以前にロードされたテーブルと現在のテーブルで以前にロードされた値の両方をテストします。したがって、最初の出現のみがロードされます。2番目の出現が検出されると、値はすでにロードされています。詳細については、例を参照してください。*

構文:

```
Exists(field_name [, expr] )
```

戻り値データ型: ブール値

引数:

Exists 引数

引数	説明
field_name	値を検索する項目の名前。引用符なしで明示的な項目名を使用できます。 項目はスクリプトによって既にロードされている必要があります。つまり、スクリプトのさらに下の句にロードされている項目を参照することはできません。
expr	存在するかどうかを確認する値。現在の [load] ステートメントの1つまたは複数の項目を参照する明示的な値または数式を使用できます。 > *現在の **[load]** ステートメントに含まれていない項目は参照できません。* この引数はオプションです。省略すると、関数は現在のレコードの **field_name** の値が既に存在するかどうかを確認します。

Example 1:

```
Exists (Employee)
```

現在のレコード内の項目 **Employee** の値が、その項目を含む読み取り済みのレコード内にすでに存在してれば、-1 (True) を返します。

Example 2:

```
Exists(Employee, 'Bill')
```

項目値 **'Bill'** が項目 **Employee** の現在のコンテンツに含まれていれば、-1 (True) を返します。

ステートメント`Exists (Employee, Employee)`と`Exists (Employee)`は同じ働きをします。

Example 3:

```
Employees:
LOAD * inline [
Employee|ID|Salary
Bill|001|20000
John|002|30000
Steve|003|35000
] (delimiter is '|');

Citizens:
Load * inline [
Employee|Address
Bill|New York
Mary|London
Steve|Chicago
Lucy|Madrid
Lucy|Paris
John|Miami
] (delimiter is '|') where Exists (Employee);

Drop Tables Employees;
```

この例では、データモデルの Citizens と呼ばれるテーブルがロードされ、このテーブルは Employee 軸と Address 軸を使用してテーブル チャートとして表示できます。

where 節：`where Exists (Employee)`は、テーブル Citizens から Employees にも存在する名前のみを新しいテーブルにロードすることを意味します。Drop ステートメントは、一時的なテーブル Employees を混乱を避けるために削除します。

例 3 の結果

Employee	Address
Bill	New York
John	Miami
Steve	Chicago

Example 4:

```
Employees:
Load * inline [
Employee|ID|Salary
Bill|001|20000
John|002|30000
Steve|003|35000
] (delimiter is '|');

Citizens:
Load * inline [
Employee|Address
Bill|New York
Mary|London
Steve|Chicago
Lucy|Madrid
Lucy|Paris
John|Miami
] (delimiter is '|') where not Exists (Employee);

Drop Tables Employees;
```

where 句には次のものが含まれます not: `where not Exists (Employee)`。

これは、テーブル Citizens から Employees にも存在する名前のみを新しいテーブルにロードすることを意味します。

Citizens テーブルには Lucy の値が 2 つありますが、結果テーブルには 1 つしか含まれていないことに注意してください。最初の行に値 Lucy をロードすると、その行は Employee フィールドに含まれます。したがって、2 行目がチェックされると、値はすでに存在します。

例 4 の結果

Employee	Address
Mary	London
Lucy	Madrid

Example 5:

この例は、すべての値をロードする方法を示しています。

```
Employees:
Load Employee As Name;
LOAD * inline [
Employee|ID|Salary
Bill|001|20000
John|002|30000
Steve|003|35000
] (delimiter is '|');
```

```
Citizens:
Load * inline [
Employee|Address
Bill|New York
Mary|London
Steve|Chicago
Lucy|Madrid
Lucy|Paris
John|Miami
] (delimiter is '|') where not Exists (Name, Employee);

Drop Tables Employees;
```

Lucy のすべての値を取得できるようにするために、2 つのことが変更されました。

- Employees テーブルへの先行ロードが挿入され、Employee の名前が Name に変更されました。
  `Load Employee As Name;`
- Citizens の Where 条件が次のように変更されました。
  `not Exists (Name, Employee).`

これにより、Name と Employee のフィールドが作成されます。Lucy の 2 行目をチェックしても、Name にはまだ存在しません。

例 5 の結果

Employee	Address
Mary	London
Lucy	Madrid
Lucy	Paris

例で使用されているデータ:

```
LOAD * inline [
Employee|ID|Salary
Bill|001|20000
John|002|30000
Steve|003|35000
] (delimiter is '|');

Citizens:
Load * inline [
Employee|Address
Bill|New York
Mary|London
Steve|Chicago
Lucy|Madrid
Lucy|Paris
John|Miami
] (delimiter is '|');
```

FieldIndex

FieldIndex() は、**field_name** 項目内の **value** 項目値の位置を返します (ロード順)。

構文:

```
FieldIndex(field_name , value)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- field_name: インデックスが必要な項目名。たとえば、テーブルの列など。文字列値でなければなりません。これは、項目名は単一引用符で囲む必要があることを意味します。
- value: 項目 **field_name** の値。

制限事項:

- チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。この制限は、同等のスクリプト関数には当てはまりません。
- **value** が項目 **field_name** の項目値の中にない場合は、0 を返します。

ドキュメントに以下の例のデータを追加して実行します。以下の例では、テーブル **Names** の項目 **First name** を使用しています。

例と結果

例	結果
チャート関数 - 軸 **First name** を含むテーブルで、メジャーとして、次の項目を追加します。 `FieldIndex ('First name','John')`	1 (ロード順序でソートされた場合、John は **First name** 項目の最初に登場するため。ただしリストボックスではロード順序ではなくアルファベット順にソートされるため、**John** は上から 2 番目に表示されます。
First name を持つチャート関数: `FieldIndex ('First name','Peter')`	4 (**FieldIndex()** では、1 つの値しか返されないため。この場合は 4 がロード順序における最初の項目)

例	結果

スクリプト関数 - テーブル **Names** が例のデータのようにロードされた場合:
 	
`John1:`
 	
`Load FieldIndex('First name','John') as MyJohnPos`
 	
`Resident Names;`
	`MyJohnPos`=1 ('John' が**First name** 項目のロード順序の最初に登場するため) ただしリストボックスではロード順序ではなくアルファベット順にソートされるため、**John** は上から2 番目に表示されます。

Names を持つスクリプト関数:
 	
`Peter1:`
 	
`Load FieldIndex('First name','Peter') as MyPeterPos`
 	
`Resident Names;`
	`MyPeterPos`=4 (**FieldIndex()** では、1 つの値しか返されないため。この場合は 4 がロード順序における最初の項目)

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');

John1:

Load FieldIndex('First name','John') as MyJohnPos

Resident Names;



Peter1:

Load FieldIndex('First name','Peter') as MyPeterPos

Resident Names;
```

FieldValue

FieldValue() は、**field_name** 項目の **elem_no** の位置にある値を返します (ロード順)。

構文:

```
FieldValue(field_name , elem_no)
```

戻り値データ型： dual

引数：

- field_name: インデックスが必要な項目名。たとえば、テーブルの列など。文字列値でなければなりません。これは、項目名は単一引用符で囲む必要があることを意味します。
- elem_no: ロード順序において、返される値が含まれる項目の位置 (要素) 番号を表します。これは、テーブルの行に対応している場合がありますが、要素 (行) がロードされる順序によっては対応していない場合もあります。

制限事項:

- チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。この制限は、同等のスクリプト関数には当てはまりません。
- **elem_no** が項目値の数より大きい場合は、NULL が返されます。

ドキュメントに以下の例のデータを追加して実行します。以下の例では、テーブル **Names** の項目 **First name** を使用しています。

例と結果

例	結果
チャート関数 - 軸 **First name** を含むテーブルで、メジャーとして、次の項目を追加します。 `FieldValue('First name','1')`	John (ロード順序でソートされた場合、John は **First name** 項目の最初に登場するため。ただしリストボックスではロード順序ではなくアルファベット順にソートされるため、**John** は上から2番目 (**Jane** の次) に表示されます。
First name を持つチャート関数: `FieldValue('First name','7')`	NULL (**First name** 項目には値が 6 つしかないため)

例	結果

スクリプト関数 - テーブル **Names** が例のデータのようにロードされた場合:
 	
`John1:`
 	
`Load FieldValue('First name',1) as MyPos1`
 	
`Resident Names;`
	`MyPos1=`John (ロード順序でソートされた場合、John は **First name** 項目の最初に登場するため)

Names を持つスクリプト関数:
 	
`Peter1:`
 	
`Load FieldValue('First name',7) as MyPos2`
 	
`Resident Names;`
	`MyPo2s=` - (Null) (**First name** 項目には 6 つの値しかないため)

例で使用されているデータ:

```
Names:
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');
John1:

Load FieldValue('First name',1) as MyPos1

Resident Names;



Peter1:

Load FieldValue('First name',7) as MyPos2

Resident Names;
```

FieldValueCount

FieldValueCount() は **integer** 関数で、項目に含まれる固有値の数を返します。

構文:

```
FieldValueCount(field_name)
```

戻り値データ型： 整数

引数：

- `field_name`: インデックスが必要な項目名。たとえば、テーブルの列など。文字列値でなければなりません。これは、項目名は単一引用符で囲む必要があることを意味します。



チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートのy値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

ドキュメントに以下の例のデータを追加して実行します。以下の例では、テーブル **Names** の項目 **First name** を使用しています。

例と結果

例	結果
チャート関数 - 軸 **First name** を含むテーブルで、メジャーとして、次の項目を追加します。 `FieldValueCount('First name')`	5 (**Peter** は 2 回登場するため)
First name を持つチャート関数: `FieldValueCount('Initials')`	6 (**Initials** には固有の値しか含まれていないため)

スクリプト関数 - テーブル **Names** が例のデータのようにロードされた場合:
`John1:`
`Load FieldValueCount('First name') as MyFieldCount1`
`Resident Names;`
	`MyFieldCount1=5` (John は 2 回登場するため)

Names を持つスクリプト関数:
`John1:`
`Load FieldValueCount('Initials') as MyInitialsCount1`
`Resident Names;`
	`MyFieldCount1=6` (Initials には固有の値しか含まれていないため)

例で使用されているデータ:

例で使用されているデータ:

```
Names:
```

```
LOAD * inline [
"First name"|"Last name"|Initials|"Has cellphone"
John|Anderson|JA|Yes
Sue|Brown|SB|Yes
Mark|Carr|MC |No
Peter|Devonshire|PD|No
Jane|Elliot|JE|Yes
Peter|Franc|PF|Yes ] (delimiter is '|');


FieldCount1:

Load FieldValueCount('First name') as MyFieldCount1

Resident Names;



FieldCount2:

Load FieldValueCount('Initials') as MyInitialsCount1

Resident Names;
```

LookUp

Lookup() は、すでにロードされているテーブルを参照し、項目 **match_field_name** における値 **match_field_value** の最初の出現に対応する**field_name** の値を返します。テーブルは、現在のテーブルまたは前にロードして別のテーブルにすることができます。

構文:

```
lookup(field_name, match_field_name, match_field_value [, table_name])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

LookUp 引数

引数	説明
field_name	戻り値が必要な項目名。入力値は文字列として指定する必要があります (たとえば、引用符で囲まれた文字列)。
match_field_name	**match_field_value** を検索する項目の名前。入力値は文字列として指定する必要があります (たとえば、引用符で囲まれた文字列)。
match_field_value	**match_field_name** 項目で検索する値。
table_name	値を検索するテーブルの名前。入力値は文字列として指定する必要があります (例えば、引用符で囲まれた文字列)。 **table_name** が省略されている場合は、現在のテーブルとして処理されます。

引数に引用符がない場合、現在のテーブルを参照します。他のテーブルを参照するには、引数を単一引用符で囲みます。

制限事項:

連結などの複雑な操作の結果テーブルでは、検索順は明確に定義されませんが、それ以外の場合、検索はロード順に実行されます。**field_name** と**match_field_name** は両方とも、**table_name** で指定された同一テーブルの項目であることが必要です。

一致するものがない場合は、NULL が返されます。

サンプルデータでは、**Lookup()** 関数を以下の形式で使用します。

```
Lookup('Category', 'ProductID', ProductID, 'ProductList')
```

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
ProductList:
Load * Inline [
ProductID|Product|Category|Price
1|AA|1|1
2|BB|1|3
3|CC|2|8
4|DD|3|2
] (delimiter is '|');

OrderData:
Load *, Lookup('Category', 'ProductID', ProductID, 'ProductList') as CategoryID
Inline [
InvoiceID|CustomerID|ProductID|Units
1|Astrida|1|8
1|Astrida|2|6
2|Betacab|3|10
3|Divadip|3|5
4|Divadip|4|10
] (delimiter is '|');

Drop Table ProductList
```

ProductList テーブルが最初にロードされます。

Lookup() 関数を使用して、**OrderData** テーブルが構築されます。この関数では、3 番目の引数として、**ProductID** が指定されています**ProductList** の **'ProductID'** (単一引用符で囲まれた 2 番目の引数) で、この項目の値が検索されます。

関数は、**'Category'** (**ProductList** テーブル) の値を **CategoryID**. としてロードして返します。

drop ステートメントは、不要になった **ProductList** テーブルをデータモデルから削除します。以下の結果を持つ **OrderData** テーブルが残ります。

例 1 の結果

ProductID	InvoiceID	CustomerID	Units	CategoryID
1	1	Astrida	8	1
2	1	Astrida	6	1
3	2	Betacab	10	2
3	3	Divadip	5	2
4	4	Divadip	10	3

Lookup() 関数には柔軟性があり、過去にロードしたテーブルにもアクセスできます。ただし、Applymap() 関数と比べると、処理に時間がかかります。

NoOfRows

NoOfRows() は、テーブルの現在の列セグメント内の行の数を返します。ビットマップ チャートの場合、**NoOfRows()** はチャートのストレート テーブルに相当するセグメントに含まれる行の数を返します。

チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

テーブルまたはテーブルに相当するアイテムに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目間ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。

構文:

```
NoOfRows([TOTAL])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

```
if( RowNo( )= NoOfRows( ), 0, Above( sum( Sales )))
```

Peek

Peek() は、すでにロードされている行または内部メモリに存在する行に対してテーブルの項目値を算出します。行番号は、テーブルと同様に指定できます。

構文:

```
Peek(field_name[, row_no[, table_name ] ] )
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

Peek 引数

引数	説明
field_name	戻り値が必要な項目名。入力値は文字列として指定する必要があります (たとえば、引用符で囲まれた文字列)。
row_no	テーブルの行。必要な項目がある行を指定します。数式の場合を指定することもできますが、結果が整数になる必要があります。0 は最初のレコード、1 は 2 番目のレコードを示し、以下同様に表されます。負の数は、テーブルの最後から見た順序を表します。-1 は、読み取られた最後のレコードを示します。 **row** が指定されていない場合は、-1 として処理されます。
table_name	末尾にコロンが付いていない、テーブルのラベルです。**table_name** が指定されていない場合は、現在のテーブルとして処理されます。**LOAD** ステートメント以外で使用する、または他のテーブルを参照する場合は、**table_name** が含まれている必要があります。

制限事項:

内部テーブルの最初のレコードの場合は、NULL を返します。

Example 1:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
EmployeeDates:
Load * Inline [
EmployeeCode|StartDate|EndDate
101|02/11/2010|23/06/2012
102|01/11/2011|30/11/2013
103|02/01/2012|
104|02/01/2012|31/03/2012
105|01/04/2012|31/01/2013
106|02/11/2013|
] (delimiter is '|');

FirstEmployee:
Load EmployeeCode, Peek('EmployeeCode',0) As EmpCode
Resident EmployeeDates;
```

`Peek(EmployeeCode,0)` が、EmployeeDates テーブルの EmployeeCode の最初の値を返すため、EmpCode = 101 になります。

引数 **row_no** の値を置き換えた場合、以下のように、テーブルの他の行の値を返します。

Peek('EmployeeCode',2) は、テーブルの 3 番目の値を返します。103.

ただし、3 番目の引数 **table_no** にテーブルを指定しない場合は、関数は現在のテーブル (この場合は、内部テーブル) を参照します。 `Peek(EmployeeCode,-2)` の結果は、次の複数の値になります。

例 1 の結果

EmployeeCode	EmpCode
101	-
102	-
103	101
104	102
105	103
106	104

Example 2:

```
FirstEmployee:
Load EmployeeCode, Peek('EmployeeCode',-2,'EmployeeDates') As EmpCode
Resident EmployeeDates;
```

引数 **table_no** に `'EmployeeDates'` を指定すると、この関数は EmployeeDates テーブルの EmployeeCode の最後から2 番目の値である次の値を返します:105.

Example 3:

Peek() 関数は、まだロードしていない参照データを使用することができます。

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
T1:
LOAD * inline [
ID, Value
1|3
1|4
1|6
3|7
3|8
2|1
2|11
5|2
5|78
5|13
] (delimiter is '|');
T2:
LOAD
*,
IF(ID=Peek('ID'), Peek('List')&','&Value,Value) AS List
RESIDENT T1
ORDER BY ID ASC;
DROP TABLE T1;
```

ID、**List**、**Value** を軸として使用して、ドキュメントのシートにテーブルを作成します。

例 3 の結果

ID	List	Value
1	6	6
1	6,3	3
1	6,3,4	4
2	11	11
2	11,10	10
2	11,10,1	1
3	8	8
3	8,7	7
5	13	13
5	13,2	2
5	13,2,78	78

この **IF()** ステートメントは、一時的なテーブル T1 を利用して構築されています。
`Peek('ID')` は、現在のテーブル T2 の現在の行の 1 行前の ID 項目を参照します。
`Peek('List')` は、テーブル T2 の現在の行の 1 行前の List 項目を参照しており、評価対象の数式として構築されています。

ステートメントは次のように評価されます。
ID の現在の値が ID の 1 行前の値と同じ場合、Peek('List') の値を Value の現在の値と連結して書き込みます。それ以外の場合は、Value の現在の値のみ書き込みます。

Peek('List') に連結された結果がすでに含まれている場合、Peek('List)' の新しい結果がその結果に連結されます。

> ***Order by** 節に注意してください。表のソート方法 (ID による昇順) を指定しています。この指定がない場合、**Peek()** は、内部テーブルのデータ順序を使用するので、予測不可能な結果につながります。*

Previous

Previous() は、以前の入力レコードのデータを使用して、**expr** 式の値を算出します。内部テーブルの最初のレコードの場合は、NULL を返します。

構文:

```
Previous(expr)
```

戻り値データ型： デュアル

引数：

Previous 引数

引数	説明
expr	メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。 数式に **previous()** 関数をネストすることで、さらに前のレコードにアクセスすることもできます。データは入力ソースから直接取得されるため、QlikView にまだロードされていない項目を参照することができます。つまり、その連想データベースに保存されていなくても項目を参照できます。

制限事項:

内部テーブルの最初のレコードの場合は、NULL を返します。

Example 1:

```
Sales2013:
Load *, (Sales - Previous(Sales) )as Increase Inline [
Month|Sales
1|12
2|13
3|15
4|17
5|21
6|21
7|22
8|23
9|32
10|35
11|40
12|41
] (delimiter is '|');
```

Previous() 関数を **Load** ステートメントで使用することで、Sales の現在の値を先行する値と比較でき、3 番目の項目 Increase で使用できます。

例 1 の結果

Month	Sales	Increase
1	12	-
2	13	1
3	15	2
4	17	2
5	21	4
6	21	0

Month	Sales	Increase
7	22	1
8	23	1
9	32	9
10	35	3
11	40	5
12	41	1

Example 2:

```
Sales2013:
Load * Inline [
Month|Sales
1|12
2|13
3|15
4|17
5|21
6|21
7|22
8|23
9|32
10|35
11|40
12|41
] (delimiter is '|');

Sales:
NoConcatenate Load *, (Sales - Previous(Sales) )as Increase Resident Sales2013 where Month >
6;

 Drop Table Sales2013;
```

この例では、**WHERE** 句を使用することによって、Month が 6 以下であるレコードを除外します。これによって、この関数はロードから除外されたデータを参照できるので、引き続き **Previous()** を使用できます。

この場合、Month=7 の Increase の計算は Month=6 の Sales の値を参照し、ロードから除外されます。

例 2 の結果

Month	Sales	Increase
7	22	1
8	23	1
9	32	9
10	35	3
11	40	5
12	41	1

Top

Top() は、テーブルの列セグメントの最初 (最上部) の行の数式を評価します。どの行が計算されるかは、**offset** 値により決定されますが、デフォルトは最上部の行です。テーブル以外のチャートでは、**Top()** はチャートのストレートテーブルに相当するセグメントの現在の列の最初の行を評価します。

構文:

```
Top([TOTAL] expr [ , offset [,count ]])
```

戻り値データ型: dual

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- offset: **offset n** を 0 より大きい値にすると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** が負の値である場合、**Above** 関数は、相応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- count: 3 番目の引数 **count** を 1 より大きい値にすると、この関数は **count** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから上方向に **count** 行の各値を返します。この形式では、任意の特別な範囲関数の引数として関数を使用できます。*範囲関数 (page 1440)*
- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

列セグメントは、現在のソート順で軸に同じ値を持つ連続したセルのサブセットとして定義されます。レコード間チャート関数は、チャートのストレートテーブルに相当する右端の軸を除外して列セグメントで実行されます。チャートに軸が 1 つしかない場合、または TOTAL 修飾子が指定されていると、数式はテーブル全体を評価します。

テーブルまたはテーブルに相当するアイテムに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目間ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。

制限事項:

- チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。
- 再帰呼び出しは、NULL を返します。

例と結果:

Example 1:

テーブル出力例

Customer	Sum(Sales)	Top(Sum(Sales))	Sum(Sales) + Top(Sum(Sales))	Top offset 3
	2566	**587**	**3153**	**3249**
Astrida	587	587	1174	1270
Betacab	539	587	1126	1222
Canutility	683	587	1270	1366
Divadip	757	587	1344	1440

この例で示されているテーブル チャートの図では、軸 **Customer** とメジャー `Sum(Sales)` および `Top(Sum(Sales))` からテーブルが作成されています。

列 **Top(Sum(Sales))** は、先頭行 **Astrida** の値である587 をすべての行で返します。

テーブルには、`Sum(Sales)+Top(Sum(Sales))` から作成されたものと、数式 `Sum(Sales)+Top(Sum(Sales), 3)` を使用して作成され、引数 **offset** が 3 に設定されている **Top offset 3** という、より複雑なメジャーも表示されています。先頭から3 つ下にある行の値に現在の行の **Sum(Sales)** 値を加えます (現在の行 + **Canutility** の値)。

Example 2:

この例で示されているテーブル チャートの図では、より多くの軸がチャートに追加されています。**Month**、**Product**。複数の軸が含まれているチャートでは、**Above**、**Below**、**Top**、**Bottom** 関数を含む数式の結果は、QlikView における列軸のソート順序によって変わります。QlikView は、最後にソートされた軸の結果である列セグメントに基づいて関数を評価します。列のソート順は、**[ソート]** で制御され、必ずしも列がテーブルに表示される順序ではありません。(スペースの関係上、一部の行は表示されていません。)

1 つ目のテーブル出力例

Customer	Product	Month	Sum(Sales)	First value
			2566	-
Astrida	AA	Jan	46	46
Astrida	AA	Feb	60	46
Astrida	AA	Mar	70	46
...	...	...	...	...
Astrida	AA	Sep	78	46
Astrida	AA	Oct	12	46
Astrida	AA	Nov	78	46

Customer	Product	Month	Sum(Sales)	First value
Astrida	AA	Dec	22	46
Astrida	BB	Jan	46	46

2 つ目のテーブル出力例

Customer	Product	Month	Sum(Sales)	First value
			2566	-
Astrida	AA	Jan	46	46
Astrida	BB	Jan	46	46
Astrida	AA	Feb	60	60
Astrida	BB	Feb	60	60
Astrida	AA	Mar	70	70
Astrida	BB	Mar	70	70
Astrida	AA	Apr	13	13
Astrida	BB	Apr	13	13

詳細については、**Above** 関数の例 2 を参照してください。

Example 3:

Top 関数は、範囲関数への入力として使用できます。例: `RangeAvg (Top(Sum(Sales),1,3))`。

Top() 関数の引数では、**offset** は 1 に設定され、**count** は 3 に設定されています。この関数は、列セグメントの最終行の下の行から始まる 3 行 (offset=1 のため) およびその下の 2 行 (行がある場合) で数式 **Sum(Sales)** の結果を算出します。この 3 つの値は、RangeAvg() 関数への入力として使用され、指定された数値の範囲で平均値を算出します。

軸として **Customer** を有するテーブルによって、RangeAvg() の数式について次の結果が得られます。

テーブル出力例

Customer	RangeAvg (Top(Sum(Sales),1,3))
Astrida	603
Betacab	603
Canutility	603
Divadip	603

例で使用されているデータ:

```
Monthnames:
LOAD * INLINE [
Month, Monthnumber
Jan, 1
```

```
Feb, 2
Mar, 3
Apr, 4
May, 5
Jun, 6
Jul, 7
Aug, 8
Sep, 9
Oct, 10
Nov, 11
Dec, 12
];
Sales2013:
crosstable (Month, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

月を取得して正しい順番でソートするには、チャートを作成する際に、チャートプロパティの**[Sort]** タブに移動し、**[Sort by]** の下で **[Expression]** チェックボックスを選択します。数式ボックスに、`Monthnumber` と入力します。

Secondarydimensionality

Secondarydimensionality() は、集計以外の内容 (部分合計または折りたたまれた集計を含まない) を含む軸のピボットテーブル行の数を返します。この関数は、水平ピボットテーブル軸の **dimensionality()** 関数に相当します。

> *チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。*

構文:

`SecondaryDimensionality( )`

戻り値データ型: 整数

secondarydimensionality 関数は、ピボットテーブルの外側で使用される場合には、常に 0 を返します。

After

After() は、ピボットテーブルの行セグメント内の現在列の後の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。

構文:

`after([ total ]` `expression [ , offset [,n ]])`

> *ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。*

チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートのy値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

引数:

- expression: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- offset:**offset n** を 0 より大きい値に指定すると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** を負の値に指定すると、**Above** 関数は、対応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- n: 3 番目のパラメータである **n** を 1 より大きい値に設定した場合、この関数は、**n** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから右方向に **n** 行の各値を返します。
- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

行セグメントの最後の列では、これより後に列が存在しないため NULL 値が返されます。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目間ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。.

```
after( sum( Sales ))
after( sum( Sales ), 2 )
after( total sum( Sales ))
```

`rangeavg (after(sum(x),1,3))` は、在列のすぐ右の 3 つの列で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果の平均を返します。

Before

Before() は、ピボットテーブルの行セグメント内の現在列の前の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。

構文:

```
before([ total ] expression [ , offset [,n ]])
```

ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートのy値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

引数:

- expression: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- offset:**offset n** を 0 より大きい値に指定すると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** を負の値に指定すると、**Above** 関数は、対応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- n: 3 番目のパラメータである **n** を 1 より大きい値に設定した場合、この関数は、**n** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから右方向に **n** 行の各値を返します。
- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

行セグメントの最初の列では、これより前に列が存在しないため NULL 値が返されます。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目間ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。.

```
before( sum( Sales ))
before( sum( Sales ), 2 )
before( total sum( Sales ))
```

`rangeavg (before(sum(x),1,3))` は、在列のすぐ左の 3 つの列で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果の平均を返します。

First

First() は、ピボットテーブルの現在の行セグメントの最初の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

構文:

```
first([ total ] expression [ , offset [,n ]])
```

引数:

- expression: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- offset:**offset n** を 0 より大きい値に指定すると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** を負の値に指定すると、**Above** 関数は、対応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- n: 3 番目のパラメータである **n** を 1 より大きい値に設定した場合、この関数は、**n** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから右方向に **n** 行の各値を返します。
- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。



チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートのy値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目間ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。.

```
first( sum( Sales ))
first( sum( Sales ), 2 )
first( total sum( Sales )
```

`rangeavg (first(sum(x),1,5))` は、現在の行セグメントの左端 5 つの列で評価された **sum(x)** 関数の結果の平均を返します。

Last

Last() は、ピボットテーブルの現在の行セグメントの最後の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

構文:

```
last([ total ] expression [ , offset [,n ]])
```

引数:

- `expression`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `offset`:**offset n** を 0 より大きい値に指定すると、数式の評価が現在の行から **n** 行上に移動します。**offset** に 0 を指定すると、現在の行で数式を評価します。**offset** を負の値に指定すると、**Above** 関数は、対応する正の **offset** 値が付いた **Below** 関数と同様に機能します。
- `n`: 3 番目のパラメータである **n** を 1 より大きい値に設定した場合、この関数は、**n** 値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから右方向に **n** 行の各値を返します。
- `TOTAL`: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目間ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。.



チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートのy値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

```
last( sum( Sales ))
last( sum( Sales ), 2 )
last( total sum( Sales )
```

`rangeavg (last(sum(x),1,5))` は、現在の行セグメントの右端 5 つの列で評価された **sum(x)** 関数の結果の平均を返します。

ColumnNo

ColumnNo() は、ピボットテーブルの現在の行セグメント内の現在列の番号を返します。最初の列の番号は 1 です。

構文:

```
ColumnNo([total])
```

引数:

- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目間ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。.



チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートの y 値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

```
if( ColumnNo( )=1, 0, sum( Sales ) / before( sum( Sales )))
```

NoOfColumns

NoOfColumns() は、ピボットテーブルの現在の行セグメント内の列の数を返します。

構文:

```
NoOfColumns([total])
```

引数:

- TOTAL: テーブルが 1 軸の場合、または **TOTAL** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体と等しくなります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれますピボットテーブルの水平軸の項目間ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。.

チャートの式いずれかにこのチャート関数が使用されている場合、チャートのy値のソート、またはテーブルの式列ごとのソートは許可されません。よって、これらのソート機能は自動的に無効になります。ビジュアライゼーションまたはテーブルでこのチャート関数を使用すると、ビジュアライゼーションのソートは、レコード間の関数に対するソートされた入力の状態に戻ります。

```
if( ColumnNo( )=NoOfColumns( ), 0, after( sum( Sales )))
```

論理関数

このセクションでは、論理演算子を処理する関数について説明します。すべての関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

IsNum

数式を数値として解釈できる場合は -1 (True)、それ以外の場合は 0 (False) を返します。

```
IsNum( expr )
```

IsText

数式にテキスト表現がある場合は -1 (True)、それ以外の場合は 0 (False) を返します。

```
IsText( expr )
```

***IsNum** も **IsText** も、数式が NULL の場合、0 を返します。*

以下の例では、テキストと数値が混ざった値を持つインライン テーブルをロードし、それぞれの値が数値かテキスト値かチェックします。

```
Load *, IsNum(Value), IsText(Value) Inline [ Value 23 Green Blue 12 33Red];
```

この結果、テーブルは次のようになります。

Example 1

Value	IsNum(Value)	IsText(Value)
23	-1	0
Green	0	-1
Blue	0	-1
12	-1	0
33Red	0	-1

マッピング関数

このセクションでは、マッピング テーブルを処理する関数について説明します。マッピング テーブルは、スクリプトの実行中に項目値または項目名を置き換える際に使用できます。

マッピング関数は、ロードスクリプトでのみ使用できます。

マッピング関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ApplyMap

ApplyMap スクリプト関数は、以前ロードされたマッピング テーブルの数式のアウトプットのマッピングに使用されます。

```
ApplyMap ('mapname', expr [ , defaultexpr ] )
```

MapSubstring

MapSubstring スクリプト関数を使用すると、以前ロードされたマッピング テーブルに任意の数式の一部をマップできます。マッピングでは大文字と小文字が区別され、反復されません。サブストリングは左から右にマップされます。

```
MapSubstring ('mapname', expr)
```

ApplyMap

ApplyMap スクリプト関数は、以前ロードされたマッピング テーブルの数式のアウトプットのマッピングに使用されます。

構文:

```
ApplyMap('map_name', expression [ , default_mapping ] )
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

ApplyMap 引数

引数	説明
map_name	以前に **mapping load** または **mapping select** ステートメントで作成されたマッピング テーブルの名前です。この名前は、単一引用符で囲む必要があります。 *マクロが展開された変数でこの関数を使用して、存在しないマッピング テーブルを参照した場合、関数呼び出しは失敗し、フィールドは作成されません。*
expression	結果がマッピングされる数式です。

引数	説明
default_mapping	指定された場合、この値は、マッピング テーブルに expression に一致する値が存在しない場合、デフォルトの値として使用されます。指定されない場合は、expression の値がそのまま返されます。

ApplyMap の出力項目の名前をその入力項目のいずれかの名前と同じにすることはできません。これにより、予期しない結果になる可能性があります。使用しない場合の例:`ApplyMap('Map', A) as A`。

この例では、salesperson とその居住国の国コードのリストをロードします。国コードを国名に置き換えるために、国コードを国にマッピングしたテーブルを使用します。このマッピング テーブルでは、3 つの国のみが定義されており、他の国は 'Rest of the world' としてマッピングされています。

```
// Load mapping table of country codes: map1: mapping LOAD *  Inline [ CCode, Country Sw, Sweden Dk, Denmark No, Norway ] ;  // Load list of salesmen, mapping country code to country // If the country code is not in the mapping table, put Rest of the world Salespersons: LOAD *,  ApplyMap('map1', CCode,'Rest of the world') As Country  Inline [ CCode, Salesperson  Sw, John Sw, Mary Sw, Per  Dk, Preben Dk, Olle No, Ole  Sf, Risttu ] ;  // We don't need the CCode anymore Drop Field 'CCode';
```

出力されるテーブル (Salespersons) は次のようになります。

Example 1

Salesperson	Country
John	Sweden
Mary	Sweden
Per	Sweden
Preben	Denmark
Olle	Denmark
Ole	Norway
Risttu	Rest of the world

MapSubstring

MapSubstring スクリプト関数を使用すると、以前ロードされたマッピング テーブルに任意の数式の一部をマップできます。マッピングでは大文字と小文字が区別され、反復されません。サブストリングは左から右にマップされます。

構文:

```
MapSubstring('map_name', expression)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

MapSubstring 引数

引数	説明
map_name	**mapping load** または **mapping select** ステートメントを使って事前にロードされたマッピングテーブルの名前です。名前は単一引用符で囲む必要があります。 *マクロが展開された変数でこの関数を使用して、存在しないマッピング テーブルを参照した場合、関数呼び出しは失敗し、フィールドは作成されません。*
expression	結果がサブストリングによってマッピングされる数式です。

この例では、製品モデルのリストをロードします。各モデルの属性は、合成されたコードで記述されます。マッピング テーブルとMapSubstring を使用すると、属性コードを説明書きに展開できます。

```
map2: mapping LOAD *  Inline [ AttCode, Attribute R, Red Y, Yellow B, Blue C, Cotton P,
Polyester S, Small M, Medium L, Large ] ;  Productmodels: LOAD *, MapSubString('map2',
AttCode) as Description Inline [ Model, AttCode Twixie, R C S Boomer, B P L Raven, Y P M
Seedling, R C L SeedlingPlus, R C L with hood Younger, B C with patch MultiStripe, R Y B C
S/M/L  ] ; // We don't need the AttCode anymore Drop Field 'AttCode';
```

この結果、テーブルは次のようになります。

Example 1

Model	Description
Twixie	Red Cotton Small
Boomer	Blue Polyester Large
Raven	Yellow Polyester Medium
Seedling	Red Cotton Large
SeedlingPlus	Red Cotton Large with hood
Younger	Blue Cotton with patch
MultiStripe	Red Yellow Blue Cotton Small/Medium/Large

数学関数

このセクションでは、数理定数とブール値の関数について説明します。これらの関数はパラメータを持ちませんが、括弧は必要です。

すべての関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

e
この関数は、自然対数の底 **e** (2.71828...) を返します。

```
e( )
```

false
この関数は、数式の中で論理偽として使用できるテキスト値 'False' と数値 0 のデュアル値を返します。

```
false( )
```

pi
この関数は π 値 (3.14159...) を返します。

```
pi( )
```

rand
この関数は、0 ~ 1 間の乱数を返します。この関数は、サンプル データの作成に使用できます。

```
rand( )
```

この例のスクリプトは、ランダムに選択された大文字の文字 (65 から 91 (65+26) までの範囲の文字) が含まれた 1000 件のレコードを持つテーブルを作成します。

```
Load
     Chr( Floor(rand() * 26) + 65) as UCaseChar,
     RecNo() as ID
     Autogenerate 1000;
```

true
この関数は、数式の中で論理真として使用できるテキスト値 'True' と数値 -1 のデュアル値を返します。

```
true( )
```

NULL 関数

このセクションでは、NULL 値を返したり検出する関数について説明します。

すべての関数は、ロード スクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

NULL 関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Null
Null 関数は、NULL 値を返します。

```
NULL( )
```

IsNull

IsNull 関数は、数式の値が NULL かどうかを検定します。NULL の場合は -1 (True)、NULL でない場合は 0 (False) を返します。

```
IsNull (expr )
```

EmptyIsNull

EmptyIsNull 関数は、空の文字列を NULL に変換します。したがって、パラメータが空の文字列の場合は NULL を返し、そうでない場合はパラメータを返します。

構文:

```
EmptyIsNull(exp )
```

例と結果:

スクリプトの例

例	結果
`EmptyIsNull(AdditionalComments)`	この数式は、*AdditionalComments* 項目の文字列値が空の場合、空の文字列の代わりに null を返します。空ではない文字列と数値は返されます。
`EmptyIsNull(PurgeChar (PhoneNumber, ' -()'))`	この数式は、*PhoneNumber* 項目からダッシュ、スペース、括弧を削除します。文字が残っていない場合、EmptyIsNull 関数は空の文字列を null として返します。たとえば、空の電話番号は、電話番号がないのと同等です。

IsNull

IsNull 関数は、数式の値が NULL かどうかを検定します。NULL の場合は -1 (True)、NULL でない場合は 0 (False) を返します。

構文:

```
IsNull(expr )
```

*長さ 0 の文字列は NULL とみなされず、**IsNull** は False を返します。*

ロード スクリプト

この例では、4 つの行を持つインライン テーブルがロードされ、その最初の 3 行の Value 列は、空になっているか、- または 'NULL' になっています。真ん中の先行する **LOAD** で **Null** 関数を使って、これらの値を実際の NULL 値表現に変換します。

1 つ目の先行する **LOAD** では、値が NULL かどうかをチェックする項目を **IsNull** 関数を使って追加しています。

```
NullsDetectedAndConverted:  LOAD *, If(IsNull(ValueNullConv), 'T', 'F') as IsItNull;  LOAD *, If(len(trim(Value))= 0 or Value='NULL' or Value='-', Null(), Value ) as ValueNullConv;  LOAD * Inline [ID, Value 0, 1,NULL 2,- 3,Value];
```

この結果、テーブルは次のようになります。ValueNullConv 列では、NULL 値が - で表されています。

Example 1

ID	Value	ValueNullConv	IsItNull
0	-	-	T
1	NULL	-	T
2	-	-	T
3	Value	Value	F

NULL

Null 関数は、NULL 値を返します。

構文:

```
Null( )
```

ロード スクリプト

この例では、4 つの行を持つインライン テーブルがロードされ、その最初の 3 行の Value 列は、空になっているか、- または 'NULL' になっています。これらの値を実際の NULL 値表現に変換します。

真ん中の先行する **LOAD** は、**Null** 関数を使用して変換を実行します。

1 つ目の先行する **LOAD** は、値が **NULL** かどうかをチェックする項目を追加しています。この例では、この項目は、見る人にわかりやすくするためにのみ追加されています。

```
NullsDetectedAndConverted:

LOAD *,
If(IsNull(ValueNullConv), 'T', 'F') as IsItNull;

LOAD *,
If(len(trim(Value))= 0 or Value='NULL' or Value='-', Null(), Value ) as ValueNullConv;

LOAD * Inline
[ID, Value
0,
1,NULL
2,-
3,Value];
```

この結果、テーブルは次のようになります。ValueNullConv 列では、NULL 値が - で表されています。

Example 1

ID	Value	ValueNullConv	IsItNull
0	-	-	T
1	NULL	-	T
2	-	-	T
3	Value	Value	F

範囲関数

範囲関数は、値の配列を取得し、結果として1つの値を生成する関数です。すべての範囲関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

たとえば、チャートでは、範囲関数でレコード間配列から1つの値を計算できます。ロードスクリプトでは、範囲関数で内部テーブルの値の配列から1つの値を計算できます。

*範囲関数は、一般的な数値関数である**numsum**、**numavg**、**numcount**、**nummin**、**nummax**から置き換わりました。これらの関数はまだ使用できますが、推奨されていません。*

基本的な範囲関数

RangeMax

RangeMax() は、数式または項目に含まれる最大値を返します。

```
RangeMax(first_expr[, Expression])
```

RangeMaxString

RangeMaxString() は、数式または項目における、テキストソート順の最後の値を返します。

```
RangeMaxString(first_expr[, Expression])
```

RangeMin

RangeMin() は、数式または項目に含まれる最小値を返します。

```
RangeMin(first_expr[, Expression])
```

RangeMinString

RangeMinString() は、数式または項目における、テキストソート順の最初の値を返します。

```
RangeMinString(first_expr[, Expression])
```

RangeMode

RangeMode() は、数値または項目において、最も頻繁に登場する値 (モード値) を返します。

```
RangeMode(first_expr[, Expression])
```

RangeOnly

RangeOnly() は **dual** 関数で、数式の結果が単一の固有値になる場合に値を返します。それ以外の場合は **NULL** が返されます。

```
RangeOnly(first_expr[, Expression])
```

RangeSum

RangeSum() は、数値の範囲の合計を返します。**+** 演算子とは異なり、数値以外の値はすべて0として処理されます。

```
RangeSum(first_expr[, Expression])
```

カウンタ範囲関数

RangeCount

RangeCount() は、数式または項目に含まれる文字列と数値の療法を含む数値を返します。

```
RangeCount(first_expr[, Expression])
```

RangeMissingCount

RangeMissingCount() は、数式または項目に含まれる、数値以外の値 (NULL を含む) の数を返します。

```
RangeMissingCount(first_expr[, Expression])
```

RangeNullCount

RangeNullCount() は、数式または項目に含まれるNULL 値の数を返します。

```
RangeNullCount(first_expr[, Expression])
```

RangeNumericCount

RangeNumericCount() は、数値または項目に含まれる、数値の数を返します。

```
RangeNumericCount(first_expr[, Expression])
```

RangeTextCount

RangeTextCount() は、数値または項目に含まれる、テキスト値の数を返します。

```
RangeTextCount(first_expr[, Expression])
```

統計的範囲関数

RangeAvg

RangeAvg() は、範囲の平均を返します。関数には、値の範囲または数式のいずれかを入力できます。

```
RangeAvg(first_expr[, Expression])
```

RangeCorrel

RangeCorrel() は、2 つのデータセットの相関係数を返します。相関係数はデータセット間の関係を表すメジャーです。

```
RangeCorrel(x_values , y_values[, Expression])
```

RangeFractile

RangeFractile() は、数値の範囲における n 番目の **fractile** (変位値) に相当する値を返します。

```
RangeFractile(fractile, first_expr[ ,Expression])
```

RangeKurtosis

RangeKurtosis() は、数値の範囲の尖度に相当する値を返します。

```
RangeKurtosis(first_expr[, Expression])
```

RangeSkew

RangeSkew() は、数値の範囲の歪度に相当する値を返します。

```
RangeSkew(first_expr[, Expression])
```

RangeStdev

RangeStdev() は、数値の範囲の標準偏差を返します。

```
RangeStdev(expr1[, Expression])
```

財務範囲関数

RangeIRR

RangeIRR() は、入力値で表される一連のキャッシュフローの内部収益率を返します。

```
RangeIRR (value[, value][, Expression])
```

RangeNPV

RangeNPV() は、割引率、一連の将来の支払い (負の値)、および収入 (正の値) に基づいて、投資の正味現在価値を返します。結果は、**money** のデフォルトの数値書式で返されます。

```
RangeNPV (discount_rate, value[, value][, Expression])
```

RangeXIRR

RangeXIRR() は、キャッシュフロー明細表に対する内部収益率を返します。キャッシュフロー明細表は、定期的である必要はありません。一連の定期的キャッシュフローに対する内部収益率の計算には、**RangeIRR** 関数を使用します。

```
RangeXIRR (values, dates[, Expression])
```

RangeXNPV

RangeXNPV() は、キャッシュフロー明細表に対する正味現在価値を返します。キャッシュフロー明細表は、定期的である必要はありません。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。一連の定期的キャッシュフローに対する正味現在価値の計算には、**RangeNPV** 関数を使用します。

```
RangeXNPV (discount_rate, values, dates[, Expression])
```

RangeAvg

RangeAvg() は、範囲の平均を返します。関数には、値の範囲または数式のいずれかを入力できます。

```
RangeAvg(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: 集計の対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: 平均化する追加データを含む、省略可能な式またはフィールド。複数の追加の数式を使用できます。

数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例と結果

例	結果
`RangeAvg (1,2,4)`	2.33333333 を返します
`RangeAvg (1,'xyz')`	1 を返します
`RangeAvg (null( ), 'abc')`	戻り値 NULL

(式を使って)

```
RangeAvg (Above(MyField),0,3))
```

現在の行とその上の 2 行で計算された、**MyField** の 3 つの値域の結果のスライド平均が返されます。3 番目の引数に 3 を指定すると、**Above()** 関数は、上に十分な行のある場所に 3 つの値を返し、**RangeAvg()** 関数への入力として取得されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeAvg (Above (MyField,0,3))	説明
10	10	これが先頭の行のため、範囲は 1 つの値のみで構成されます。
2	6	この行の上に 1 つの行しかないため、範囲は 10,2 です。
8	6.6666666667	RangeAvg(10,2,8) に相当。
18	9.333333333	-
5	10333333333	-
9	10.6666666667	-

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
2
8
18
5
9
] ;
```

(表形式)

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:
LOAD recno() as RangeID, RangeAvg(Field1,Field2,Field3) as MyRangeAvg INLINE [
Field1, Field2, Field3
10,5,6
2,3,7
8,2,8
18,11,9
5,5,9
9,4,2
];
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対するMyRangeAvg の戻り値が表示されます。

テーブル形式での出力例

RangeID	MyRangeAvg
1	7
2	4
3	6
4	12.666
5	6.333
6	5

RangeCorrel

RangeCorrel() は、2 つのデータセットの相関係数を返します。相関係数はデータセット間の関係を表すメジャーです。

構文:

```
RangeCorrel(x_values , y_values[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

データ系列は、(x,y) ペアとして入力してください。例えば、array1 (array1 = 2,6,9) とarray2 (array2 = 3,8,4) の 2 種類のデータ系列を評価する場合、`RangeCorrel (2,3,6,8,9,4)` と入力すると、0.269 が返されます。

引数:

- `x-value, y-value`: それぞれの値は、3 番目のオプション パラメータを持つレコード間関数によって返される単一の値または値域を表します。それぞれの値や値域は、**x-value** または **y-values** の値域に対応していなければなりません。
- `Expression`: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

この関数の計算には、少なくとも 2 組の座標が必要です。

テキスト値、NULL 値、欠損値は、NULL を返します。

例と結果

例	結果
RangeCorrel (2,3,6,8,9,4)	0.269 を返します

RangeCount

RangeCount() は、数式または項目に含まれる文字列と数値の療法を含む数値を返します。

構文:

```
RangeCount(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- first_expr: データを含む数式または項目をカウントします。
- Expression: カウントされる追加データが含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

NULL 値はカウントされません。

例と結果

例	結果
RangeCount (1,2,4)	3 を返します
RangeCount (2,'xyz')	2 を返します
RangeCount (null( ))	0 を返します
RangeCount (2,'xyz', null())	2 を返します

(式を使って)

```
RangeCount (Above(MyField,1,3))
```

MyField の 3 つの結果に含まれる値の数が返されます。**Above()** 関数の 2 番目および 3 番目の引数として 3 を指定すると、十分な行のある現在の行の上 3 項目からの値が返され、**RangeSum()** 関数への入力として取得されます。

式の出力例

MyField	RangeCount(Above(MyField,1,3))
10	0
2	1
8	2
18	3
5	3
9	3

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
2
8
18
5
9
] ;
```

(表形式)

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:

LOAD recno() as RangeID, RangeCount(Field1,Field2,Field3) as MyRangeCount INLINE [

Field1, Field2, Field3

10,5,6

2,3,7

8,2,8

18,11,9

5,5,9

9,4,2

];
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する MyRangeCount の戻り値が表示されます。

テーブル形式での出力例

RangeID	MyRangeCount
1	3
2	3
3	3
4	3
5	3
6	3

RangeFractile

RangeFractile() は、数値の範囲における n 番目の **fractile** (変位値) に相当する値を返します。



RangeFractile() は、分位数の計算時に最も近いランク間で線形補間を使用します。

構文:

```
RangeFractile(fractile, first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `fractile`: 計算対象となる分位数 (変位値) に相当する値 (0 ~ 1 の範囲内)。
- `first_expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

例と結果

例	結果
`RangeFractile (0.24,1,2,4,6)`	1.72 を返します
`RangeFractile(0.5,1,2,3,4,6)`	3 を返します
`RangeFractile (0.5,1,2,5,6)`	3.5 を返します

(式を使って)

```
RangeFractile (0.5, Above(Sum(MyField),0,3))
```

この例では、レコード間関数 **Above()** にオプションで **offset** および **count** 引数が含まれています。これにより、範囲関数への入力として使用できる結果の範囲が生成されます。この場合、`Above(Sum(MyField),0,3)` は現在行およびその上の 2 行に `MyField` の値を返します。これらの値によって、**RangeFractile()** 関数への入力が指定されます。つまり、下の表の一番下の行では、これは `RangeFractile(0.5, 3,4,6)` に相当し、つまり系列 3、4、6 について 0.5 フラクチルを計算することになります。下の表の最初の 2 行は、現在の行より上の行がない場合、それに応じて範囲内の値の数が減ります。同様の結果が、他のレコード間関数でも生成されます。

式の出力例

MyField	RangeFractile(0.5, Above(Sum(MyField),0,3))
1	1
2	1.5
3	2
4	3
5	4
6	5

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:

LOAD * INLINE [

MyField

1

2

3

4

5

6

] ;
```

(表形式)

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab:

LOAD recno() as RangeID, RangeFractile(0.5,Field1,Field2,Field3) as MyRangeFrac INLINE [

Field1, Field2, Field3
```

```
10,5,6

2,3,7

8,2,8

18,11,9

5,5,9

9,4,2

];
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する MyRangeFrac の戻り値が表示されます。

テーブル形式での出力例

RangeID	MyRangeFrac
1	6
2	3
3	8
4	11
5	5
6	4

RangeIRR

RangeIRR() は、入力値で表される一連のキャッシュフローの内部収益率を返します。

内部収益率は、定期的に発生する支払い (負の値) と収入 (正の値) からなる投資の利率です。

この関数は、内部利益率 (IRR) を計算するためにニュートン法の簡素化されたバージョンを使用します。

構文:

```
RangeIRR(value[, value][, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- value: 3 番目のオプション パラメータを持つレコード間関数によって返される単一値または値域です。この関数の計算には、少なくとも 1 つの正の値と1 つの負の値が必要です。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

Example 1:

RangeIRR(-70000,12000,15000,18000,21000,26000) の戻り値: **0.0866**。

Example 2:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:

LOAD *,

recno() as RangeID,

RangeIRR(Field1,Field2,Field3) as RangeIRR;

LOAD * INLINE [

Field1|Field2|Field3

-10000|5000|6000

-2000|NULL|7000

-8000|'abc'|8000

-1800|11000|9000

-5000|5000|9000

-9000|4000|2000

] (delimiter is '|');
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する RangeIRR の戻り値が表示されます。

例の結果

RangeID	RangeIRR
1	0.0639
2	0.8708
3	-
4	5.8419
5	0.9318
6	-0.2566

RangeKurtosis

RangeKurtosis() は、数値の範囲の尖度に相当する値を返します。

構文:

```
RangeKurtosis(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- first_expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例と結果

例	結果
RangeKurtosis (1,2,4,7)	-0.28571428571429 を返します

RangeMax

RangeMax() は、数式または項目に含まれる最大値を返します。

構文:

```
RangeMax(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- first_expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。複数の追加の数式を使用できます。

制限事項:

数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例と結果

例	結果
`RangeMax (1,2,4)`	4 を返します
`RangeMax (1,'xyz')`	1 を返します
`RangeMax (null( ), 'abc')`	NULL を返します

(式を使って)

```
RangeMax (Above(MyField,0,3))
```

現在の行とその上の 2 行で計算された、**MyField** の 3 つの値域の結果の最大値が返されます。3 番目の引数に 3 を指定すると、**Above()** 関数は、上に十分な行のある場所に 3 つの値を返し、**RangeMax()** 関数への入力として取得されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeMax (Above(Sum(MyField),1,3))
10	10
2	10
8	10
18	18
5	18
9	18

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
2
8
18
5
9
] ;
```

(表形式)

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:

LOAD recno() as RangeID, RangeMax(Field1,Field2,Field3) as MyRangeMax INLINE [

Field1, Field2, Field3

10,5,6

2,3,7

8,2,8

18,11,9

5,5,9

9,4,2

];
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する MyRangeMax の戻り値が表示されます。

テーブル形式での出力例

RangeID	MyRangeMax
1	10
2	7
3	8
4	18
5	9
6	9

RangeMaxString

RangeMaxString() は、数式または項目における、テキストソート順の最後の値を返します。

構文:

```
RangeMaxString(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型： 文字列

引数：

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- first_expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。複数の追加の数式を使用できます。

例と結果

例	結果
RangeMaxString (1,2,4)	4 を返します
RangeMaxString ('xyz','abc')	'xyz' を返します
RangeMaxString (5,'abc')	'abc' を返します
RangeMaxString (null( ))	NULL を返します

(式を使って)

RangeMaxString (Above(MaxString(MyField),0,3))

現在の行とその上の 2 つの行で評価された **MaxString(MyField)** 関数の 3 つの結果のうち、(テキスト順で) 最後の値が返されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeMaxString(Above(MaxString(MyField),0,3))
10	10
abc	abc
8	abc
def	def
xyz	xyz
9	xyz

例で使用されているデータ:

RangeTab:

```
LOAD * INLINE [

MyField

10

'abc'

8

'def'

'xyz'

9

] ;
```

RangeMin

RangeMin() は、数式または項目に含まれる最小値を返します。

構文:

```
RangeMin(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- first_expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。複数の追加の数式を使用できます。

制限事項:

数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例と結果

例	結果
RangeMin (1,2,4)	1 を返します
RangeMin (1,'xyz')	1 を返します
RangeMin (null( ), 'abc')	NULL を返します

(式を使って)

```
RangeMin (Above(MyField,0,3))
```

現在の行とその上の2行で計算された、**MyField** の3つの値域の結果の最小値が返されます。3番目の引数に3を指定すると、**Above()** 関数は、上に十分な行のある場所に3つの値を返し、**RangeMin()** 関数への入力として取得されます。

式の出力例

MyField	RangeMin(Above(MyField,0,3))
10	10
2	2
8	2
18	2
5	5
9	5

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
2
8
18
5
9
] ;
```

(表形式)

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:

LOAD recno() as RangeID, RangeMin(Field1,Field2,Field3) as MyRangeMin INLINE [

Field1, Field2, Field3

10,5,6

2,3,7

8,2,8

18,11,9

5,5,9

9,4,2

];
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する MyRangeMin の戻り値が表示されます。

テーブル形式での出力例

RangeID	MyRangeMin
1	5
2	2
3	2
4	9
5	5
6	2

RangeMinString

RangeMinString() は、数式または項目における、テキストソート順の最初の値を返します。

構文:

```
RangeMinString(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- first_expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。複数の追加の数式を使用できます。

例と結果:

例	結果
RangeMinString (1,2,4)	1 を返します
RangeMinString ('xyz','abc')	'abc' を返します
RangeMinString (5,'abc')	5 を返します
RangeMinString (null( ))	NULL を返します

(式を使って)

```
RangeMinString (Above(MinString(MyField),0,3))
```

現在の行とその上の 2 つの行で評価された **MinString(MyField)** 関数の 3 つの結果のうち、(テキスト順で) 最初の値が返されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeMinString(Above(MinString(MyField),0,3))
10	10
abc	10
8	8
def	8
xyz	8
9	9

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:

LOAD * INLINE [

MyField

10

'abc'

8

'def'

'xyz'

9

] ;
```

RangeMissingCount

RangeMissingCount() は、数式または項目に含まれる、数値以外の値 (NULL を含む) の数を返します。

```
RangeMissingCount(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 整数

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: データを含む数式または項目をカウントします。
- `Expression`: データの範囲を含むオプションの数式または項目をカウントします。

例と結果

例	結果
`RangeMissingCount (1,2,4)`	0 を返します
`RangeMissingCount (5,'abc')`	1 を返します
`RangeMissingCount (null( ))`	1 を返します。

(式を使って)

```
RangeMissingCount (Above(MinString(MyField),0,3))
```

現在の行とその上の 2 つの行で評価された **MinString(MyField)** 関数の 3 つの結果に含まれる、数値以外の値の数が返されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeMissingCount(Above (MinString(MyField),0,3))	説明
10	2	2 が返されます (上に他の行がないため、3 つの値のうち、2 つが欠けていると認識されるため)
abc	2	2 が返されます (上に行が 1 つしかなく、現在の行 ('abc') が数値でないため)
8	1	1 が返されます (3 つの行のうち、1 つの行に数値以外の値 ('abc') が含まれているため)
def	2	2 が返されます (3 つの行のうち、2 つの行に数値以外の値 ('def' と'abc') が含まれているため)
xyz	2	2 が返されます (3 つの行のうち、2 つの行に数値以外の値 (' xyz' と'def') が含まれているため)
9	2	2 が返されます (3 つの行のうち、2 つの行に数値以外の値 (' xyz' と'def') が含まれているため)

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
'abc'
8
'def'
'xyz'
9
] ;
```

RangeMode

RangeMode() は、数値または項目において、最も頻繁に登場する値 (モード値) を返します。

構文:

```
RangeMode(first_expr {, Expression})
```

戻り値データ型: 数値

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

同じ最大頻度を持つ値が複数ある場合は、NULL が返されます。

例と結果

例	結果
`RangeMode (1,2,9,2,4)`	2 を返します
`RangeMode ('a',4,'a',4)`	NULL を返します
`RangeMode (null( ))`	NULL を返します

(式を使って)

```
RangeMode (Above(MyField,0,3))
```

現在の行とその上の 2 つの行で評価された **MyField** の 3 つの結果のうち、最も頻繁に出現する値が返されます。3 番目の引数に 3 を指定すると、**Above()** 関数は、上に十分な行のある場所に 3 つの値を返し、**RangeMode()** 関数への入力として取得されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeMode(Above(MyField,0,3))
10	10 が返されます (上に他の行がないため、この単一値が最も頻繁に登場するため)
2	-

MyField	RangeMode(Above(MyField,0,3))
8	-
18	-
5	-
9	-

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
2
8
18
5
9
] ;
```

(表形式)

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:

LOAD recno() as RangeID, RangeMode(Field1,Field2,Field3) as MyRangeMode INLINE [

Field1, Field2, Field3

10,5,6

2,3,7

8,2,8

18,11,9

5,5,9

9,4,2

];
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する MyRangeMode の戻り値が表示されます。

テーブル形式での出力例

RangeID	MyRangeMode
1	-
2	-
3	8
4	-
5	5
6	-

RangeNPV

RangeNPV() は、割引率、一連の将来の支払い (負の値)、および収入 (正の値) に基づいて、投資の正味現在価値を返します。結果は、**money** のデフォルトの数値書式で返されます。

定期的である必要のないキャッシュフローについては、*RangeXNPV (page 1474)* を参照してください。

構文:

```
RangeNPV(discount_rate, value[,value][, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- discount_rate: 期間あたりの利率。
- value: 各期末に発生する支払または収入。それぞれの値は、3 番目のオプション パラメータを持つレコード間関数によって返される、単一値または値域を表している可能性があります。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

Example 1:

RangeNPV(0.1,-10000,3000,4200,6800) は **1188.44** を返します

Example 2:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:
LOAD *,
recno() as RangeID,
RangeNPV(Field1,Field2,Field3) as RangeNPV;
LOAD * INLINE [
```

```
Field1|Field2|Field3
10|5|-6000
2|NULL|7000
8|'abc'|8000
18|11|9000
5|5|9000
9|4|2000
] (delimiter is '|');
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対するRangeNPVの戻り値が表示されます。

結果の例

RangeID	RangeNPV
1	$-49.13
2	$777.78
3	$98.77
4	$25.51
5	$250.83
6	$20.40

RangeNullCount

RangeNullCount() は、数式または項目に含まれるNULL値の数を返します。

構文:

```
RangeNullCount(firstexpr [, Expression])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

例と結果

例	結果
`RangeNullCount (1,2,4)`	0を返します
`RangeNullCount (5,'abc')`	0を返します
`RangeNullCount (null( ), null( ))`	2を返します

(式を使って)

```
RangeNullCount (Above(Sum(MyField),0,3))
```

現在の行とその上の 2 つの行で評価された **Sum(MyField)** 関数の結果に含まれる NULL 値の数が返されます。



*以下の例では、**MyField** をコピーしても NULL 値は生じません。*



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeNullCount(Above(Sum(MyField),0,3))
10	2 が返されます(上に他の行がないため、3 つの値のうち、2 つが欠けている (=NULL) と認識されるため)
'abc'	1 が返されます (上に行が 1 つしかないため、3 つの値のうち、1 つが欠けている (=NULL) と認識されるため)
8	0 が返されます (3 つの行が NULL 値になっていないため)

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:

LOAD * INLINE [

MyField

10

'abc'

8

] ;
```

RangeNumericCount

RangeNumericCount() は、数値または項目に含まれる、数値の数を返します。

構文:

```
RangeNumericCount(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型： 整数

引数：

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- first_expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

例と結果

例	結果
RangeNumericCount (1,2,4)	3 を返します
RangeNumericCount (5,'abc')	1 を返します
RangeNumericCount (null( ))	0 を返します

(式を使って)

```
RangeNumericCount (Above(MaxString(MyField),0,3))
```

現在の行とその上の 2 つの行で評価された **MaxString(MyField)** 関数の 3 つの結果に存在する数値の数が返されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeNumericCount(Above(MaxString(MyField),0,3))
10	1
abc	1
8	2
def	1
xyz	1
9	1

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:

LOAD * INLINE [

MyField
```

```
10

'abc'

8

def

xyz

9

] ;
```

RangeOnly

RangeOnly() は **dual** 関数で、数式の結果が単一の固有値になる場合に値を返します。それ以外の場合は **NULL** が返されます。

構文:

```
RangeOnly(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- first_expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

例と結果

例	結果
RangeOnly (1,2,4)	NULL を返します
RangeOnly (5,'abc')	NULL を返します
RangeOnly (null( ), 'abc')	'abc' を返します
RangeOnly(10,10,10)	10 を返します

RangeSkew

RangeSkew() は、数値の範囲の歪度に相当する値を返します。

構文:

```
RangeSkew(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型： 数値

引数：

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例と結果

例	結果
`rangeskew (1,2,4)`	0.93521952958283 を返します
`rangeskew (above (SalesValue,0,3))`	下表の出力に見られるように、現在の行とその上の 2 行で計算された数式 above () 関数から返された 3 つの値域のスライド歪度を返します。

テーブル形式での出力例

CustID	RangeSkew(Above(SalesValue,0,3))
1-20	-, -, 0.5676, 0.8455, 1.0127, -0.8741, 1.7243, -1.7186, 1.5518, 1.4332, 0, 1.1066, 1.3458, 1.5636, 1.5439, 0.6952, -0.3766

例で使用されているデータ:

```
SalesTable:
LOAD recno() as CustID, * inline [
SalesValue
101
163
126
139
167
86
83
22
32
70
108
124
176
113
95
32
42
```

```
92
61
21
] ;
```

RangeStdev

RangeStdev() は、数値の範囲の標準偏差を返します。

構文:

```
RangeStdev(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例と結果

例	結果
`RangeStdev (1,2,4)`	1.5275252316519 を返します
`RangeStdev (null( ))`	NULL を返します
`RangeStdev (above (SalesValue),0,3))`	下表の出力に見られるように、現在の行とその上の 2 行で計算された数式 above() 関数から返された 3 つの値域のスライド基準を返します。

テーブル形式での出力例

CustID	RangeStdev(SalesValue, 0,3))
1-20	-,43.841, 34.192, 18.771, 20.953, 41.138, 47.655, 36.116, 32.716, 25.325, 38,000, 27.737, 35.553, 33.650, 42.532, 33.858, 32.146, 25.239, 35.595

例で使用されているデータ:

```
SalesTable:
LOAD recno() as CustID, * inline [
SalesValue
101
163
126
139
```

```
167
86
83
22
32
70
108
124
176
113
95
32
42
92
61
21
] ;
```

RangeSum

RangeSum() は、数値の範囲の合計を返します。**+** 演算子とは異なり、数値以外の値はすべて 0 として処理されます。

構文:

```
RangeSum(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: 合計の対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: データの範囲を含むオプションの数式または項目を合計します。複数の追加の数式を使用できます。

制限事項:

RangeSum 関数は、**+** 演算子と違い、数値以外の値をすべて 0 として扱います。

例と結果

例	結果
`RangeSum (1,2,4)`	7 を返します
`RangeSum (5,'abc')`	5 を返します
`RangeSum (null( ))`	0 を返します

(式を使って)

```
RangeSum (Above(MyField,0,3))
```

現在の行とその上の2つの行から**MyField)** 関数の3つの値の合計が返されます。3番目の引数に3を指定すると、**Above()** 関数は、上に十分な行のある場所に3つの値を返し、**RangeSum()** 関数への入力として取得されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	RangeSum(Above(MyField,0,3))
10	10
2	12
8	20
18	28
5	31
9	32

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
2
8
18
5
9
] ;
```

(表形式)

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:

LOAD recno() as RangeID, Rangesum(Field1,Field2,Field3) as MyRangeSum INLINE [

Field1, Field2, Field3

10,5,6

2,3,7

8,2,8
```

```
18,11,9

5,5,9

9,4,2

];
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対する MyRangeSum の戻り値が表示されます。

テーブル形式での出力例

RangeID	MyRangeSum
1	21
2	12
3	18
4	38
5	19
6	15

RangeTextCount

RangeTextCount() は、数値または項目に含まれる、テキスト値の数を返します。

```
RangeTextCount(first_expr[, Expression])
```

戻り値データ型: 整数

この関数の引数式には、レコード間関数を含めることができます。これらの関数は、その内部で値リストを返します。

- `first_expr`: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- `Expression`: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

例と結果

例	結果
`RangeTextCount (1,2,4)`	0 を返します
`RangeTextCount (5,'abc')`	1 を返します
`RangeTextCount (null( ))`	0 を返します

(式を使って)

```
RangeTextCount (Above(MaxString(MyField),0,3))
```

現在の行とその上の 2 つの行で評価された **MaxString(MyField)** 関数の 3 つの結果に存在するテキスト値の数が返されます。



*このような場合、集計エラーを防ぐため **MyField** によるソートは無効にしておきます。*

式の出力例

MyField	MaxString(MyField)	RangeTextCount(Above(Sum(MyField),0,3))
10	10	0
abc	abc	1
8	8	1
def	def	2
xyz	xyz	2
9	9	2

例で使用されているデータ:

```
RangeTab:
LOAD * INLINE [
MyField
10
'abc'
8
null()
'xyz'
9
] ;
```

RangeXIRR

RangeXIRR() は、キャッシュフロー明細表に対する内部収益率を返します。キャッシュフロー明細表は、定期的である必要はありません。一連の定期的キャッシュフローに対する内部収益率の計算には、**RangeIRR** 関数を使用します。

Qlik の XIRR 機能 (**XIRR()** および **RangeXIRR()** 関数) は、次の方程式を使用して `Rate` 値を解き、正しい XIRR 値を決定します。

```
XNPV(Rate, pmt, date) = 0
```

この方程式は、ニュートン法の簡素化されたバージョンを使用して解かれます。

構文:

```
RangeXIRR(values, dates[, Expression])
```

戻り値データ型： 数値

引数：

- dates: キャッシュフローの支払いに対応する支払日または支払予定日です。
- values: 支払予定日の日付に対応する単一または一連のキャッシュフローです。それぞれの値は、3番目のオプション パラメータを持つレコード間関数によって返される、単一値または値域を表している可能性があります。一連の値は、少なくとも 1 つの正の値と1 つの負の値を含む必要があります。
- Expression: メジャーの対象となるデータ範囲が含まれている任意の数式または項目。

制限事項:

テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。

Example 1:

RangeXIRR(-2500,'2008-01-01',2750,'2008-09-01') は、**0.1532** を返します。

Example 2:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:

LOAD *,

recno() as RangeID,

RangeXIRR(Field1,Field2,Field3) as RangeXIRR;

LOAD * INLINE [

Field1|Field2|Field3

10|5|-6000

2|NULL|7000

8|'abc'|8000

18|11|9000

5|5|9000

9|4|2000

] (delimiter is '|');
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対するRangeXIRRの戻り値が表示されます。

例の結果

RangeID	RangeXIRR
1	-
2	0.5893
3	0.5089
4	0.4476
5	0.4476
6	2.5886

RangeXNPV

RangeXNPV() は、キャッシュフロー明細表に対する正味現在価値を返します。キャッシュフロー明細表は、定期的である必要はありません。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。一連の定期的キャッシュフローに対する正味現在価値の計算には、**RangeNPV** 関数を使用します。

構文:

```
RangeXNPV(discount_rate, values, dates[, Expression])
```

戻り値データ型: 数値

引数:

- `dates`: キャッシュフローの支払いに対応する支払日または支払予定日です。
- `discount_rate`: 期間あたりの利率。
- `values`: 支払予定日の日付に対応する単一または一連のキャッシュフローです。それぞれの値は、3番目のオプション パラメータを持つレコード間関数によって返される、単一値または値域を表している可能性があります。一連の値は、少なくとも1つの正の値と1つの負の値を含む必要があります。

制限事項:

テキスト値、NULL値、欠損値は無視されます。

すべての支払いは、年365日計算で割り引かれます。

Example 1:

`RangeXNPV(0.1, -2500,'2008-01-01',2750,'2008-09-01')` は **80.25** を返します

Example 2:

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
RangeTab3:
```

```
LOAD *,
recno() as RangeID,
RangeXNPV(Field1,Field2,Field3) as RangeNPV;
LOAD * INLINE [
Field1|Field2|Field3
10|5|-6000
2|NULL|7000
8|'abc'|8000
18|11|9000
5|5|9000
9|4|2000
] (delimiter is '|');
```

結果テーブルには、テーブルの各レコードに対するRangeXNPVの戻り値が表示されます。

結果の例

RangeID	RangeXNPV
1	$-49.13
2	$777.78
3	$98.77
4	$25.51
5	$250.83
6	$20.40

NumAvg

引数1から**N**までの数値の平均を返します。数値が見つからない場合は、NULLを返します。

numavg関数は、現在サポートされていません。RangeAvg (page 1442)関数をご使用ください。numavgを使用することもできますが、推奨されていません。

構文:

```
NumAvg(expr1 [ , expr2, ... exprN ])
```

例と結果:

- `numavg( 1,2,4 )`は2.33333333を返します
- `numavg( 1,'xyz' )`は1を返します
- `numavg( null( ) 'abc' )`はNULLを返します

NumCount

引数1から**N**までの数値の数を返します。

numcount関数は、現在サポートされていません。RangeCount (page 1445)関数をご使用ください。numcountを使用することもできますが、推奨されていません。

構文:

```
NumCount(expr1 [ , expr2, ... exprN ])
```

例と結果:

- numcount(1,2,4,) は 3 を返します
- numcount(2,xyz) は 1 を返します
- numcount(null( )) は 0 を返します

NumMax

引数 1 から**N** までの最大値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

> *nummax 関数は、現在サポートされていません。RangeMax (page 1451) 関数をご使用ください。nummax を使用することもできますが、推奨されていません。*

構文:

```
NumMax(expr1 [ , expr2, ... exprN ])
```

例と結果:

- nummax(1,2,4) は 4 を返します
- nummax(1,'xyz') は 1 を返します
- nummax(null( ) 'abc') は NULL を返します

NumMin

引数 1 から**N** までの最小値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

> *nummin 関数は、現在サポートされていません。RangeMin (page 1455) 関数をご使用ください。nummin を使用することもできますが、推奨されていません。*

構文:

```
NumMin(expr1 [ , expr2, ... exprN ])
```

例と結果:

- nummin(1,2,4) は 1 を返します
- nummin(1,'xyz') は 1 を返します
- nummin(null( ) 'abc') は NULL を返します

NumSum

引数 1 から**N** までの数値の合計を返します。+ 演算子とは異なり、**numsum** 関数は数値以外の値をすべて 0 として扱います。

numsum 関数は、現在サポートされていません。RangeSum (page 1469) 関数をご使用ください。numsum を使用することもできますが、推奨されていません。

構文:

```
NumSum(expr1 [ , expr2, ... exprN ])
```

例と結果:

- numsum(1,2,4) は 7 を返します
- numsum(1,'xyz') は 1 を返します
- numsum(null( )) は 0 を返します

関係関数

これは、すでに集計されている数値を利用して、グラフ内の個々の次元の数値の特性を計算する関数群です。

関数は、関数の出力がデータ点自体の値だけでなく、その値と他のデータ点との関係にも依存するという意味で関係的です。例えば、ランクは他の軸の値がなければ計算できません。

これらの関数は、チャート式でのみ使用できます。ランクは、ロードスクリプトで使用できません。

軸は比較に必要な他のデータポイントを定義するため、チャートで必要となります。よって、関係関数は軸チャートにおいては有意ではありません (KPI チャートなど)。

ランキング関数

これらの関数が使用される場合、0 値を隠す機能は自動的に無効になります。NULL 値は無視されます。

Rank

Rank() は、数式におけるチャートの行を評価し、それぞれの行に対して、数式で評価される軸の値の相対位置を示します。この関数は数式の評価時に、結果を現在の列セグメントに含まれるその他の行の結果と比較して、セグメント内の現在の行の順位付けを返します。

```
Rank - チャート関数([TOTAL [<fld {, fld}>]] expr[, mode[, fmt]])
```

HRank

HRank() は expression を評価し、結果をピボットテーブルの現在の行セグメント内のその他の列の結果と比較します。この関数は、セグメント内の現在の例のランキングを返します。

```
HRank- チャート関数([TOTAL] expr[, mode[, fmt]])
```

クラスタリング関数

KMeans2D

KMeans2D() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターのクラスター ID を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は、それぞれ、パラメーター coordinate_1 と coordinate_2 によって決定されます。これらはともに集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。データは、オプションで norm パラメーターによって正規化できます。

```
KMeans2D- チャート関数(num_clusters, coordinate_1, coordinate_2 [, norm])
```

KMeansND

KMeansND() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターのクラスター ID を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は、パラメーター coordinate_1、coordinate_2、などによって、最大 n 列まで決定されます。これらはすべて集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。

```
KMeansND - チャート関数(num_clusters, num_iter, coordinate_1, coordinate_2
[,coordinate_3 [, ...]])
```

KMeansCentroid2D

KMeansCentroid2D() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターの目的の座標を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は、それぞれ、パラメーター coordinate_1 と coordinate_2 によって決定されます。これらはともに集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。データは、オプションで norm パラメーターによって正規化できます。

```
KMeansCentroid2D- チャート関数(num_clusters, coordinate_no, coordinate_1,
coordinate_2 [, norm])
```

KMeansCentroidND

KMeansCentroidND() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターの目的の座標を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は、パラメーター coordinate_1、coordinate_2、などによって、最大 n 列まで決定されます。これらはすべて集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。

```
KMeansCentroidND - チャート関数(num_clusters, num_iter, coordinate_no,
coordinate_1, coordinate_2 [,coordinate_3 [, ...]])
```

時系列分解関数

STL_Trend

STL_Trend は時系列の分解関数です。**STL_Seasonal** と **STL_Residual** と合わせて、この関数は、時系列を季節、トレンド、残差のコンポーネントに分解するために使用します。STL アルゴリズムのコンテキストでは、入力指標と他のパラメータが与えられた場合、繰り返される季節パターンと一般的なトレンドの両方を識別するために時系列分解を使用します。**STL_Trend** 関数は、時系列データの季節パターンやサイクルと関係なく、一般的トレンドを識別します。

```
STL_Trend- チャート関数(target_measure, period_int [,seasonal_smoother [,trend_
smoother]])
```

STL_Seasonal

STL_Seasonal は時系列の分解関数です。**STL_Trend** と**STL_Residual** と合わせて、この関数は、時系列を季節、トレンド、残差のコンポーネントに分解するために使用します。STL アルゴリズムのコンテキストでは、入力指標と他のパラメータが与えられた場合、繰り返される季節パターンと一般的なトレンドの両方を識別するために時系列分解を使用します。**STL_Seasonal** 関数は、データに表示される一般的トレンドと区別しながら、時系列内の季節パターンを特定します。

```
STL_Seasonal- チャート関数(target_measure, period_int [,seasonal_smoother
[,trend_smoother]])
```

STL_Residual

STL_Residual は時系列の分解関数です。**STL_Seasonal** と**STL_Trend** と合わせて、この関数は、時系列を季節、トレンド、残差のコンポーネントに分解するために使用します。STL アルゴリズムのコンテキストでは、入力指標と他のパラメータが与えられた場合、繰り返される季節パターンと一般的なトレンドの両方を識別するために時系列分解を使用します。この演算を実行すると、季節コンポーネントまたはトレンドコンポーネントのいずれにも当てはまらない入力メトリクスの変動の一部が、残差コンポーネントとして定義されます。**STL_Residual** チャート関数は、計算のこの部分を捕捉します。

```
STL_Residual- チャート関数(target_measure, period_int [,seasonal_smoother
[,trend_smoother]])
```

Rank - チャート関数

Rank() は、数式におけるチャートの行を評価し、それぞれの行に対して、数式で評価される軸の値の相対位置を示します。この関数は数式の評価時に、結果を現在の列セグメントに含まれるその他の行の結果と比較して、セグメント内の現在の行の順位付けを返します。

テーブル以外のチャートでは、現在の列セグメントはチャートのストレートテーブルに相当するセグメントに従い定義されます。

構文:

```
Rank([TOTAL expr[, mode[, fmt]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

- expr: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- mode: 関数の計算結果の数値表現を指定します。
- fmt: 関数の計算結果のテキスト表現を指定します。
- TOTAL:チャートが 1 軸の場合、または数式の前に **TOTAL** 修飾子が付加されている場合は、関数は列全体を評価します。テーブルまたはテーブルに相当するアイテムに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除く、すべての軸列の現在行と同じ値を持つ行のみが含まれます。

ランキングは、デュアル値として返されます。行ごとに固有のランキングがある場合、1 から現在の列セグメント内の行数を示す整数になります。

複数の行がランキングを共有する場合は、テキストおよび数値表現を **mode** および **fmt** のパラメータで制御できます。

mode
2 番目の引数 **mode** は、次の値を取ることができます。

2 番目の引数の値

値	説明
0 (デフォルト)	共有グループ内のすべての順位がランキング全体の中間値以下に入る場合、いずれの行も共有グループ内の最低順位を取得します。 共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の中間値以上に入る場合は、いずれの行も共有グループ内の最高順位を取得します。 共有グループ内の順位がランキング全体の中間値をまたぐ場合は、いずれの行も列セグメント全体の最高順位と最低順位の平均に相当する値を取得します。
1	すべての行における最低順位。
2	すべての行における平均順位。
3	すべての行における最高順位。
4	最初の行における最低順位、その後は行ごとに 1 ずつ増加。

fmt
3 番目の引数 **fmt** は、次のいずれかの値になります。

3 番目の引数の値

値	説明
0 (デフォルト)	すべての行における低い値 **-** 高い値 (例: 3 - 4)。
1	すべての行における低い値。
2	最初の行における低い値、その後のグループ内の行は空白。

mode 4 と **fmt** 2 の行の順序は、チャート軸のソート順で決定されます。

例と結果:

軸 Product および Sales から 2 つのチャートを作成し、Product および UnitSales からもう1 つのチャートを作成します。次のテーブルに示すように、メジャーを追加します。

Example 1:

軸 `Customer` および `Sales` とメジャー `Rank(Sales)` を持つテーブルを作成します。

結果は軸のソート順により異なります。テーブルが Customer でソートされている場合、Astrida のすべての Sales の値が表示されます (Betacab 以降も同様)。Rank(Sales) の結果は、Sales の値 12 に対して 10、Sales の値 13 に対して 9 と順番に、Sales の値 78 に対して rank 値 1 が返されます。次の列セグメントは Betacab で始まり、セグメント内の Sales の最初の値は 12 です。この Rank(Sales) の rank 値は 11 として指定されています。

テーブルが Sales でソートされている場合、列セグメントは Sales の値と対応する Customer の値で構成されます。12 というSales の値が 2 つ (Astrida および Betacab) あるため、その列セグメントの Rank(Sales) の値は Customer の各値で 1-2 となります。これは、Sales の値が 12 の Customer が 2 つあるためです。値が 4 つあった場合は、すべての行で 1-4 になります。これは、引数 fmt のデフォルト値 (0) の結果がどのようになるかを示しています。

Example 2:

軸 Customer を Product に置換し、メジャー `Rank(Sales,1,2)` を追加します。

この場合、引数 **mode** および **fmt** はそれぞれ 1 と2 に設定されているため、各列セグメントの最初の行には 1 が返され、その他の行は空白となります。

例で使用されているデータ:

```
ProductData:
Load * inline [
Customer|Product|UnitSales|UnitPrice
Astrida|AA|4|16
Astrida|AA|10|15
Astrida|BB|9|9
Betacab|BB|5|10
Betacab|CC|2|20
Betacab|DD|0|25
Canutility|AA|8|15
Canutility|CC|0|19
] (delimiter is '|');

Sales2013:
crosstable (Month, Sales) LOAD * inline [
Customer|Jan|Feb|Mar|Apr|May|Jun|Jul|Aug|Sep|Oct|Nov|Dec
Astrida|46|60|70|13|78|20|45|65|78|12|78|22
Betacab|65|56|22|79|12|56|45|24|32|78|55|15
Canutility|77|68|34|91|24|68|57|36|44|90|67|27
Divadip|57|36|44|90|67|27|57|68|47|90|80|94
] (delimiter is '|');
```

HRank- チャート関数

HRank() は expression を評価し、結果をピボットテーブルの現在の行セグメント内のその他の列の結果と比較します。この関数は、セグメント内の現在の例のランキングを返します。

構文:

```
HRank([ total ] expression [ , mode [, format ] ])
```

戻り値データ型: デュアル

この関数は、ピボットテーブルでのみ有効です。他の種類のチャートでは、NULL を返します。

引数:

- expression: メジャーの対象となるデータが含まれている数式または項目。
- mode: 関数の計算結果の数値表現を指定します。
- format: 関数の計算結果のテキスト表現を指定します。
- TOTAL: 関数の引数の前に **TOTAL** の文字が配置されている場合、現在の軸の値に関連しているものだけでなく、現在の選択範囲内にあるすべての可能な値に対して計算が実行されます。つまりチャート軸は無視されます。**TOTAL** 修飾子の後には、山括弧 **<fld>** で囲んだ 1 つ以上の項目名のリストを続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。

ピボットテーブルが 1 軸の場合、または数式の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。

順位付けは、デュアル値として返されます。列ごとに一意の順位付けがある場合は、1 と現在の行セグメント内の列数の間の整数になります。

複数の列がランキングを共有する場合は、テキストおよび数値表現を **mode** および **format** の引数で制御できます。

2 番目の引数 **mode** は、関数結果の数値表現を指定:

2 番目の引数の値

値	説明
0 (デフォルト)	共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の中間値の下位側に入る場合は、すべての列は、共有グループ内の最も低い順位を取得します。 共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の中間値の上位側に入る場合は、すべての列は、共有グループ内の最も高い順位を取得します。 共有グループ内の順位がランキング全体の中間値をまたぐ場合は、いずれの行も列セグメント全体の最高順位と最低順位の平均に相当する値を取得します。
1	グループ内のすべての列における最も低い順位。
2	グループ内のすべての列における平均順位。
3	グループ内のすべての列における最も高い順位。
4	最初の列における最も低い順位、その後はグループ内の列ごとに 1 ずつ増加。

3 番目の引数 **format** は、関数結果のテキスト表現を指定:

3 番目の引数の値

値	説明
0 (デフォルト)	グループ内のすべての列における小さい値 **&' - '&** 大きい値 (例: 3 - 4)。
1	グループ内のすべての列における小さい順位。
2	最初の列における小さい値、その後のグループ内の列は空白。

mode 4 と**format** 2 の列の順序は、チャート軸のソート順で決定されます。

```
HRank( sum( Sales ))
HRank( sum( Sales ), 2 )
HRank( sum( Sales ), 0, 1 )
```

VRank - チャート関数

VRank() は、**Rank** 関数と同じ機能を持っています。どちらの関数を使用しても構いません。

構文:

```
VRank([TOTAL [<fld {,fld}>]] expr[, mode[, fmt]])
```

戻り値データ型: デュアル

KMeans2D- チャート関数

KMeans2D() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターのクラスター ID を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は、それぞれ、パラメーター coordinate_1 と coordinate_2 によって決定されます。これらはともに集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。データは、オプションで norm パラメーターによって正規化できます。

KMeans2D は、データポイントごとに 1 つの値を返します。戻り値はデュアル値であり、各データポイントが割り当てられているクラスターに対応する整数値です。

```
KMeans2D(num_clusters, coordinate_1, coordinate_2 [, norm])
```

戻り値データ型: dual

引数

引数	説明
num_clusters	クラスターの数を指定する整数。
coordinate_1	チャートから作成できる散布図の最初の座標 (通常は x 軸) を計算する集約です。追加のパラメーターである coordinate_2 は、2 番目の座標を計算します。

引数	説明
norm	KMeans クラスタリングの前にデータセットに適用されるオプションの正規化方法。 考えられる値: 正規化なしの場合は 0 または「なし」 z-score の正規化の場合は 1 または「zscore」 min-max の正規化の場合は 2 または「minmax」 パラメーターが指定されていない場合、または指定されたパラメーターが正しくない場合、正規化は適用されません。 z-score は、機能平均と標準偏差に基づいてデータを正規化します。z-score は、各機能のスケールが同じであることを保証するものではありませんが、外れ値を処理する場合は、min-max よりも優れたアプローチです。 min-max の正規化は、それぞれの最小値と最大値を取得し、各データポイントを再計算することにより、機能が同じスケールを持つことを保証します。

自動クラスタリング

KMeans 関数は、深度差異 (DeD) と呼ばれる方法を使用した自動クラスタリングをサポートします。ユーザーがクラスターの数に 0 を設定すると、そのデータセットに最適なクラスターの数が決定されます。クラスター数 (*k*) の整数は明示的に返されませんが、KMeans アルゴリズム内で計算されることに注意してください。例えば、*KmeansPetalClusters* の値の関数で 0 が指定されている場合、または変数入力ボックスを介して設定されている場合、クラスターの割り当ては、クラスターの最適な数に基づいてデータセットに対して自動的に計算されます。

KMeansND - チャート関数

KMeansND() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターのクラスター ID を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は , パラメーター coordinate_1、coordinate_2、などによって、最大 n 列まで決定されます。これらはすべて集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。

KMeansND は、データポイントごとに 1 つの値を返します。戻り値はデュアル値であり、各データポイントが割り当てられているクラスターに対応する整数値です。

構文:

```
KMeansND(num_clusters, num_iter, coordinate_1, coordinate_2 [,coordinate_3 [,...]])
```

戻り値データ型： デュアル

引数：

引数

引数	説明
num_clusters	クラスターの数を指定する整数。
num_iter	再初期化されたクラスター中心を使用したクラスター化の反復回数。
coordinate_1	(チャートから作成できる散布図の) 通常は x 軸の最初の座標を計算する集計。追加のパラメーターは、2 番目、3 番目、4 番目の座標などを計算します。

自動クラスタリング

KMeans 関数は、深度差異 (DeD) と呼ばれる方法を使用した自動クラスタリングをサポートします。ユーザーがクラスターの数に 0 を設定すると、そのデータセットに最適なクラスターの数が決定されます。クラスター数 (*k*) の整数は明示的に返されませんが、KMeans アルゴリズム内で計算されることに注意してください。例えば、*KmeansPetalClusters* の値の関数で 0 が指定されている場合、または変数入力ボックスを介して設定されている場合、クラスターの割り当ては、クラスターの最適な数に基づいてデータセットに対して自動的に計算されます。

KMeansCentroid2D- チャート関数

KMeansCentroid2D() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターの目的の座標を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は，それぞれ，パラメーター coordinate_1 とcoordinate_2 によって決定されます。これらはともに集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。データは、オプションで norm パラメーターによって正規化できます。

KMeansCentroid2D は、データポイントごとに 1 つの値を返します。戻り値はデュアル値であり、データポイントが割り当てられているクラスター中心に対応する位置の座標の 1 つです。

```
KMeansCentroid2D(num_clusters, coordinate_no, coordinate_1, coordinate_2 [, norm])
```

戻り値データ型： dual

引数

引数	説明
num_clusters	クラスターの数を指定する整数。
coordinate_no	図心の望ましい座標番号 (たとえば、x、y、または z 軸に対応)。
coordinate_1	チャートから作成できる散布図の最初の座標 (通常は x 軸) を計算する集約です。追加のパラメーターである coordinate_2 は、2 番目の座標を計算します。

引数	説明
norm	KMeans クラスタリングの前にデータセットに適用されるオプションの正規化方法。 考えられる値: 正規化なしの場合は 0 または「なし」 z-score の正規化の場合は 1 または「zscore」 min-max の正規化の場合は 2 または「minmax」 パラメーターが指定されていない場合、または指定されたパラメーターが正しくない場合、正規化は適用されません。 z-score は、機能平均と標準偏差に基づいてデータを正規化します。z-score は、各機能のスケールが同じであることを保証するものではありませんが、外れ値を処理する場合は、min-max よりも優れたアプローチです。 min-max の正規化は、それぞれの最小値と最大値を取得し、各データポイントを再計算することにより、機能が同じスケールを持つことを保証します。

自動クラスタリング

KMeans 関数は、深度差異 (DeD) と呼ばれる方法を使用した自動クラスタリングをサポートします。ユーザーがクラスターの数に 0 を設定すると、そのデータセットに最適なクラスターの数が決定されます。クラスター数 (*k*) の整数は明示的に返されませんが、KMeans アルゴリズム内で計算されることに注意してください。例えば、*KmeansPetalClusters* の値の関数で 0 が指定されている場合、または変数入力ボックスを介して設定されている場合、クラスターの割り当ては、クラスターの最適な数に基づいてデータセットに対して自動的に計算されます。

KMeansCentroidND - チャート関数

KMeansCentroidND() は、K 平均法クラスタリングを適用してチャートの行を評価し、チャートの各行に、このデータポイントが割り当てられているクラスターの目的の座標を表示します。クラスタリング アルゴリズムで使用される列は, パラメーター coordinate_1、coordinate_2、などによって、最大 n 列まで決定されます。これらはすべて集計です。作成されるクラスターの数は、num_clusters パラメーターによって決定されます。

KMeansCentroidND は、行ごとに 1 つの値を返します。戻り値はデュアル値であり、データポイントが割り当てられているクラスター中心に対応する位置の座標の 1 つです。

構文:

```
KMeansCentroidND((num_clusters, num_iter, coordinate_no, coordinate_1,
coordinate_2 [,coordinate_3 [, ...]])
```

戻り値データ型: デュアル

引数:

引数

引数	説明
num_clusters	クラスターの数を指定する整数。
num_iter	再初期化されたクラスター中心を使用したクラスター化の反復回数。
coordinate_no	図心の望ましい座標番号 (たとえば、x、y、または z 軸に対応)。
coordinate_1	(チャートから作成できる散布図の) 通常は x 軸の最初の座標を計算する集計。追加のパラメーターは、2 番目、3 番目、4 番目の座標などを計算します。

自動クラスタリング

KMeans 関数は、深度差異 (DeD) と呼ばれる方法を使用した自動クラスタリングをサポートします。ユーザーがクラスターの数に 0 を設定すると、そのデータセットに最適なクラスターの数が決定されます。クラスター数 (*k*) の整数は明示的に返されませんが、KMeans アルゴリズム内で計算されることに注意してください。例えば、*KmeansPetalClusters* の値の関数で 0 が指定されている場合、または変数入力ボックスを介して設定されている場合、クラスターの割り当ては、クラスターの最適な数に基づいてデータセットに対して自動的に計算されます。

STL_Trend- チャート関数

STL_Trend は時系列の分解関数です。**STL_Seasonal** と**STL_Residual** と合わせて、この関数は、時系列を季節、トレンド、残差のコンポーネントに分解するために使用します。STL アルゴリズムのコンテキストでは、入力指標と他のパラメータが与えられた場合、繰り返される季節パターンと一般的なトレンドの両方を識別するために時系列分解を使用します。**STL_Trend** 関数は、時系列データの季節パターンやサイクルと関係なく、一般的トレンドを識別します。

3 つの STL 関数は、単純合計を使った入力メトリクスに関連しています。

STL_Trend + **STL_Seasonal** + **STL_Residual** = 入力メトリクス

STL (Loss を使用した季節およびトレンドの分解) では、データ平滑化手法を採用し、入力パラメーターを介して、実行する計算の周期性をユーザーが調整できるようにします。この周期性により、入力メトリクス (メジャー) の時間軸が分析でセグメント化される方法を決定します。

少なくとも、**STL_Trend** は `period_int` のために入力メトリクス (`target_measure`) と整数値を取得し、浮動小数値を返します。入力メトリクスは、時間軸に応じた集計の形式になります。オプションで、`seasonal_smoother` と `trend_smoother` の値を含めて、平滑化アルゴリズムを調整することができます。

構文:

```
STL_Trend(target_measure, period_int [,seasonal_smoother [,trend_smoother]])
```

戻り値データ型： デュアル

引数

引数	説明
target_measure	季節コンポーネントとトレンドコンポーネントに分解するメジャー。これは、時間軸に沿って異なるSum(Sales) または Sum(Passengers) などのメジャーである必要があります。 これは定数値にできません。
period_int	データセットの周期性。このパラメータは、信号の1周期 (季節サイクル) を構成する離散ステップの数を表す整数値です。 例えば、時系列が1年の四半期ごとに1つのセクションに分割されている場合、周期性を「年」と定義するために、**period_int** を4という値に設定する必要があります。
seasonal_smoother	季節性スムーザーの長さ。これは偶数の整数である必要があります。季節性スムーザーは、一定期間数の季節性変数において特定の段階のデータを使用します。時間軸の1つの離散ステップは、各期間から使用されます。季節性スムーザーは、スムージングに使用される期間数を示しています。 例えば、時間軸を月でセグメント化し、期間を年 (12) とすると、季節コンポーネントは、各年の特定の月がその年と隣接する年の同じ月のデータから算出されるように計算されます。**seasonal_smoother** の値は、スムージングに使用される年数です。
trend_smoother	トレンドスムーザーの長さ。これは偶数の整数である必要があります。トレンドスムーサーは、**period_int** パラメータと同じ時間スケールを使用し、その値はスムージングに使用される粒子の数です。 たとえば、時間系列が月でセグメント化している場合、トレンドスムーザーはスムージングに使用される月数となります。

STL_Trend チャート関数は、次の関数と組み合わせてよく使用されます。

関連関数

関数	相互作用
STL_Seasonal- チャート関数 (page 1489)	これは、時系列の季節性成分を計算するために使用される関数です。

関数	相互作用
STL_Residual- チャート関数 (page 1491)	入力メトリックを季節性成分と傾向成分に分解すると、メジャーの変動の一部が 2 つの主要成分のどちらにも収まりません。**STL_Residual** 関数は、分解のこの部分を計算します。

STL_Seasonal- チャート関数

STL_Seasonal は時系列の分解関数です。**STL_Trend** と**STL_Residual** と合わせて、この関数は、時系列を季節、トレンド、残差のコンポーネントに分解するために使用します。STL アルゴリズムのコンテキストでは、入力指標と他のパラメータが与えられた場合、繰り返される季節パターンと一般的なトレンドの両方を識別するために時系列分解を使用します。**STL_Seasonal** 関数は、データに表示される一般的トレンドと区別しながら、時系列内の季節パターンを特定します。

3 つの STL 関数は、単純合計を使った入力メトリクスに関連しています。

STL_Trend + **STL_Seasonal** + **STL_Residual** = 入力メトリクス

STL (Loss を使用した季節およびトレンドの分解) では、データ平滑化手法を採用し、入力パラメーターを介して、実行する計算の周期性をユーザーが調整できるようにします。この周期性により、入力メトリクス (メジャー) の時間軸が分析でセグメント化される方法を決定します。

少なくとも、**STL_Seasonal** は `period_int` のために入力メトリクス (`target_measure`) と整数値を取得し、浮動小数値を返します。入力メトリクスは、時間軸に応じた集計の形式になります。オプションで、`seasonal_smoother` と `trend_smoother` の値を含めて、平滑化アルゴリズムを調整することができます。

構文:

```
STL_Seasonal(target_measure, period_int [,seasonal_smoother [,trend_smoother]])
```

戻り値データ型： デュアル

引数

引数	説明
target_measure	季節コンポーネントとトレンドコンポーネントに分解するメジャー。これは、時間軸に沿って異なるSum(Sales) または Sum(Passengers) などのメジャーである必要があります。 これは定数値にできません。
period_int	データセットの周期性。このパラメータは、信号の1周期 (季節サイクル) を構成する離散ステップの数を表す整数値です。 例えば、時系列が1年の四半期ごとに1つのセクションに分割されている場合、周期性を「年」と定義するために、**period_int** を4という値に設定する必要があります。
seasonal_smoother	季節性スムーザーの長さ。これは偶数の整数である必要があります。季節性スムーザーは、一定期間数の季節性変数において特定の段階のデータを使用します。時間軸の1つの離散ステップは、各期間から使用されます。季節性スムーザーは、スムージングに使用される期間数を示しています。 例えば、時間軸を月でセグメント化し、期間を年 (12) とすると、季節コンポーネントは、各年の特定の月がその年と隣接する年の同じ月のデータから算出されるように計算されます。**seasonal_smoother** の値は、スムージングに使用される年数です。
trend_smoother	トレンドスムーザーの長さ。これは偶数の整数である必要があります。トレンドスムーサーは、**period_int** パラメータと同じ時間スケールを使用し、その値はスムージングに使用される粒子の数です。 たとえば、時間系列が月でセグメント化している場合、トレンドスムーザーはスムージングに使用される月数となります。

STL_Seasonal チャート関数は、次の関数と組み合わせてよく使用されます。

関連関数

関数	相互作用
STL_Trend- チャート関数 (page 1487)	これは、時系列の傾向成分を計算するために使用される関数です。

関数	相互作用
STL_Residual- チャート関数 (page 1491)	入力メトリックを季節性成分と傾向成分に分解すると、メジャーの変動の一部が 2 つの主要成分のどちらにも収まりません。**STL_Residual** 関数は、分解のこの部分を計算します。

STL_Residual- チャート関数

STL_Residual は時系列の分解関数です。**STL_Seasonal** と**STL_Trend** と合わせて、この関数は、時系列を季節、トレンド、残差のコンポーネントに分解するために使用します。STL アルゴリズムのコンテキストでは、入力指標と他のパラメータが与えられた場合、繰り返される季節パターンと一般的なトレンドの両方を識別するために時系列分解を使用します。この演算を実行すると、季節コンポーネントまたはトレンドコンポーネントのいずれにも当てはまらない入力メトリクスの変動の一部が、残差コンポーネントとして定義されます。**STL_Residual** チャート関数は、計算のこの部分を捕捉します。

3 つの STL 関数は、単純合計を使った入力メトリクスに関連しています。

STL_Trend + **STL_Seasonal** + **STL_Residual** = 入力メトリクス

STL (Loss を使用した季節およびトレンドの分解) では、データ平滑化手法を採用し、入力パラメーターを介して、実行する計算の周期性をユーザーが調整できるようにします。この周期性により、入力メトリクス (メジャー) の時間軸が分析でセグメント化される方法を決定します。

時系列分解は主にデータ内の季節性と一般的変動を検索するため、残差内の情報は、3 つのコンポーネントのうちで重要性が最も低いものとみなされます。しかし、歪んだ残差コンポーネント、または周期的残差コンポーネントは、誤った周期性の設定など、計算上の問題を識別するために役立ちます。

少なくとも、**STL_Residual** は `period_int` のために入力メトリクス (`target_measure`) と整数値を取得し、浮動小数値を返します。入力メトリクスは、時間軸に応じた集計の形式になります。オプションで、`seasonal_smoother` と `trend_smoother` の値を含めて、平滑化アルゴリズムを調整することができます。

構文:

```
STL_Residual(target_measure, period_int [,seasonal_smoother [,trend_
smoother]])
```

戻り値データ型： デュアル

引数

引数	説明
target_measure	季節コンポーネントとトレンドコンポーネントに分解するメジャー。これは、時間軸に沿って異なるSum(Sales) または Sum(Passengers) などのメジャーである必要があります。 これは定数値にできません。
period_int	データセットの周期性。このパラメータは、信号の1周期 (季節サイクル) を構成する離散ステップの数を表す整数値です。 例えば、時系列が1年の四半期ごとに1つのセクションに分割されている場合、周期性を「年」と定義するために、**period_int** を4という値に設定する必要があります。
seasonal_smoother	季節性スムーザーの長さ。これは偶数の整数である必要があります。季節性スムーザーは、一定期間数の季節性変数において特定の段階のデータを使用します。時間軸の1つの離散ステップは、各期間から使用されます。季節性スムーザーは、スムージングに使用される期間数を示しています。 例えば、時間軸を月でセグメント化し、期間を年 (12) とすると、季節コンポーネントは、各年の特定の月がその年と隣接する年の同じ月のデータから算出されるように計算されます。**seasonal_smoother** の値は、スムージングに使用される年数です。
trend_smoother	トレンドスムーザーの長さ。これは偶数の整数である必要があります。トレンドスムーサーは、**period_int** パラメータと同じ時間スケールを使用し、その値はスムージングに使用される粒子の数です。 たとえば、時間系列が月でセグメント化している場合、トレンドスムーザーはスムージングに使用される月数となります。

STL_Residual チャート関数は、次の関数と組み合わせてよく使用されます。

関連関数

関数	相互作用
STL_Seasonal- チャート関数 (page 1489)	これは、時系列の季節性成分を計算するために使用される関数です。
STL_Trend- チャート関数 (page 1487)	これは、時系列の傾向成分を計算するために使用される関数です。

統計的分布関数

統計的分布関数は、特定の入力変数に対する予測可能な異なる結果の発生確率を返します。これらの関数を使用して、データポイントの潜在価値を計算できます。

下記に説明した統計的分布関数の 3 つグループは、すべて Cephes 関数ライブラリを使用して Qlik Sense に実装されています。使用されるアルゴリズム、精度などの詳細な参照文献は、≤ Cephes library を参照してください。Cephes 関数ライブラリの使用には、許可が必要です。

- 確率関数は、提供された値による分布のポイントにおける確率を計算します。
  - 頻度関数は、離散分布のために使用します。
  - 密度関数は、連続関数のために使用します。
- 分布関数は、提供された値による分布のポイントにおける分布の累積確率を計算します。
- 逆数関数は、特定の分布の累積確率による逆数値を計算します。

すべての関数は、データロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

統計的分布関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

BetaDensity

`BetaDensity()` は、ベータ分布の確率を返します。

```
BetaDensity (value, alpha, beta)
```

BetaDist

`BetaDist()` は、ベータ分布の累計確率を返します。

```
BetaDist (value, alpha, beta)
```

BetaInv

`BetaINV()` は、ベータ分布の累計確率の逆関数を返します。

```
BetaInv (prob, alpha, beta)
```

BinomDist

`BinomDist()` は、2 項分布の累計確率を返します。

```
BinomDist (value, trials, trial_probability)
```

BinomFrequency

`BinomFrequency()` は、2 項確率分布を返します。

```
BinomFrequency (value, trials, trial_probability)
```

BinomInv

`BinomInv()` は、2 項分布の累計確率の逆関数を返します。

```
BinomInv (prob, trials, trial_probability)
```

ChiDensity

ChiDensity() は、カイ 2 分布の片側確率を返します。カイ2 密度関数は、カイ2 テストに関連付けられています。

```
ChiDensity (value, degrees_freedom)
```

ChiDist

ChiDist() は、分布の片側確率を返します。カイ2 分布は、カイ2 テストに関連付けられています。

```
ChiDist (value, degrees_freedom)
```

ChiInv

ChiInv() は、chi2 分布の片側確率の逆関数の値を返します。

```
ChiInv (prob, degrees_freedom)
```

FDensity

FDensity() は、F 分布の確率を返します。

```
FDensity (value, degrees_freedom1, degrees_freedom2)
```

FDist

FDist() は、F 分布の累計確率を返します。

```
FDist (value, degrees_freedom1, degrees_freedom2)
```

FInv

FInv() は、F 分布の累計確率の逆関数を返します。

```
FInv (prob, degrees_freedom1, degrees_freedom2)
```

GammaDensity

GammaDensity() は、ガンマ分布の確率を返します。

```
GammaDensity (value, k, θ)
```

GammaDist

GammaDist() は、ガンマ分布の累計確率を返します。

```
GammaDist (value, k, θ)
```

GammaInv

GammaInv() は、ガンマ分布の累計確率の逆関数を返します。

```
GammaInv (prob, k, θ)
```

NormDist

NormDist() は、指定された平均と標準偏差について、累積正規分布を返します。例えば、mean = 0、standard_dev = 1 の場合は、標準正規分布の値が返されます。

```
NormDist (value, mean, standard_dev)
```

NormInv

NormInv() は、指定された平均と標準偏差について、累積正規分布の逆関数分布を返します。

```
NormInv (prob, mean, standard_dev)
```

PoissonDist

PoissonDist() は、ガンマ分布の累計確率を返します。

```
PoissonDist (value, mean)
```

PoissonFrequency

PoissonFrequency() は、ポアソン確率分布を返します。

```
PoissonFrequency (value, mean)
```

PoissonInv

PoissonInv() は、Gamma distribution分布の累計確率の逆関数を返します。

```
PoissonInv (prob, mean)
```

TDensity

TDensity() は、スチューデントの t 密度関数の値を返します。ここでの数値は t の計算値であり、この値に対して確率が計算されます。

```
TDensity (value, degrees_freedom, tails)
```

TDist

TDist() は、スチューデント t 分布における確率を返します。ここでの数値は t の計算値であり、この値に対して確率が計算されます。

```
TDist (value, degrees_freedom, tails)
```

TInv

TInv() は、スチューデント t 分布の t 値を確率と自由度の関数として返します。

```
TInv (prob, degrees_freedom)
```

BetaDensity

BetaDensity() は、ベータ分布の確率を返します。

構文:

```
BetaDensity(value, alpha, beta)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は 0 ~ 1 である必要があります。

引数	説明
alpha	最初の形状パラメータを定義する正の数値。確率変数の指数です
beta	2 番目の形状パラメータを定義する正の数値。分母の自由度を数値で示します。

BetaDist

BetaDist() は、ベータ分布の累計確率を返します。

構文:

```
BetaDist(value, alpha, beta)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は 0 ~ 1 である必要があります。
alpha	最初の形状パラメータを定義する正の数値。確率変数の指数です
beta	2 番目の形状パラメータを定義する正の数値。分布の形状を制御する指数です。

この関数は、次のように BetaInv 関数に関連します。
If prob = BetaDist(value, alpha, beta), then BetaInv(prob, alpha, beta) = value

BetaInv

BetaINV() は、ベータ分布の累計確率の逆関数を返します。

構文:

```
BetaInv(prob, alpha, beta)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
prob	ベータ確率分布に関連付けられた確率。0 ~ 1 の数値を指定します。
alpha	最初の形状パラメータを定義する正の数値。確率変数の指数です
beta	2 番目の形状パラメータを定義する正の数値。分布の形状を制御する指数です。

この関数は、次のように BetaDist 関数に関連します。
If prob = BetaDist(value, alpha, beta), then BetaInv(prob, alpha, beta) = value

BinomDist

BinomDist() は、2 項分布の累計確率を返します。

構文:

```
BinomDist(value, trials, trial_probability)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。この値は 0 より大きく、かつ試行回数未満の整数となります。
trials	試行回数を示す正の整数。
trial_probability	各試行の成功確率。必ず 0 ~ 1 の数値となります。

この関数は、次のように BinomInv 関数に関連します。
If prob = BinomDIST(value, trials, trial_probability), then BinomInv(prob, trials, trial_probability) = value

BinomFrequency

BinomFrequency() は、2 項確率分布を返します。

構文:

```
BinomFrequency(value, trials, trial_probability)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。この値は 0 より大きく、かつ試行回数未満の整数となります。
trials	試行回数を示す正の整数
trial_probability	各試行の成功確率。必ず 0 ~ 1 の数値となります。

BinomInv

BinomInv() は、2 項分布の累計確率の逆関数を返します。

構文:

```
BinomInv(prob, trials, trial_probability)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
prob	2 項確率分布に関連付けられた確率。0 ~ 1 の数値を指定します。

引数	説明
trials	試行回数を示す正の整数。
trial_probability	各試行の成功確率。必ず 0 ~ 1 の数値となります。

この関数は、次のように BinomDist 関数に関連します。
If prob = BinomDist(value, trials, trial_probability), then BinomInv(prob, trials, trial_probability) = value

ChiDensity

ChiDensity() は、カイ 2 分布の片側確率を返します。カイ2 密度関数は、カイ2 テストに関連付けられています。

構文:

```
ChiDensity(value, degrees_freedom)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
degrees_freedom	分子の自由度を数値で示す正の整数です。

ChiDist

ChiDist() は、chi2 分布の片側確率の値を返します。chi2 分布は、chi2 検定に関連付けられています。

構文:

```
ChiDist(value, degrees_freedom)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

CHIDIST 引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
degrees_freedom	自由度を数値で示す正の整数です。

この関数は、次のように **ChiInv** 関数に関連します。
If prob = ChiDist(value,df), then ChiInv(prob, df) = value

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
CHIDIST(8, 15)	0.9238 を返します

ChiInv

ChiInv() は、chi^2 分布の片側確率の逆関数の値を返します。

構文:

```
ChiInv(prob, degrees_freedom)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

CHIINV 引数

引数	説明
prob	chi^2 分布に関連付けられた確率。0 ~ 1 の数値を指定します。
degrees_freedom	自由度を数値で示す正の整数です。

この関数は、次のように **ChiDist** 関数に関連します。

```
If prob = ChiDist(value,df), then ChiInv(prob, df) = value
```

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
ChiInv(0.9237827, 15)	8.0000 を返します

FDensity

`FDensity()` は、F 分布の確率を返します。

構文:

```
FDensity(value, degrees_freedom1, degrees_freedom2)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
degrees_freedom1	分子の自由度を数値で示す正の整数です。
degrees_freedom2	分母の自由度を数値で示す正の整数です。

FDist

FDist() は、F 確率分布を返します。

構文:

```
FDist(value, degrees_freedom1, degrees_freedom2)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

FDIST 引数

引数	説明
value	分布を評価する値。**Value** が負でないことが条件です。
degrees_freedom1	分子の自由度を数値で示す正の整数です。
degrees_freedom2	分母の自由度を数値で示す正の整数です。

この関数は、次のように **FInv** 関数に関連します。

```
If prob = FDist(value, df1, df2), then FInv(prob, df1, df2) = value
```

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
FDist(15, 8, 6)	0.0019 を返します

FInv

FInv() は、F 確率分布の逆関数を返します。

構文:

```
FInv(prob, degrees_freedom1, degrees_freedom2)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

FINV 引数

引数	説明
prob	F 分布に関連する確率で、0 ~ 1 の間の数値を指定します。
degrees_freedom	自由度を数値で示す正の整数です。

この関数は、次のように **FDist** 関数に関連します。
`If prob = FDist(value, df1, df2), then FInv(prob, df1, df2) = value`

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
FInv(0.0019369, 8, 6)	15.0000 を返します

GammaDensity

`GammaDensity()` は、ガンマ分布の確率を返します。

構文:
```
GammaDensity(value, k, θ)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
k	形状パラメータを定義する正の数値。
θ	スケール パラメータを定義する正の数値。

GammaDist

`GammaDist()` は、ガンマ分布の累計確率を返します。

構文:
```
GammaDist(value, k, θ)
```

戻り値データ型： 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
k	形状パラメータを定義する正の数値。
θ	スケール パラメータを定義する正の数値。

この関数は、次のように GammaINV 関数に関連します。
`If prob = GammaDist(value, k, θ), then GammaInv(prob, k, θ) = value`

GammaInv

GammaInv() は、ガンマ分布の累計確率の逆関数を返します。

構文:

```
GammaInv(prob, k, θ)
```

戻り値データ型： 数値

引数

引数	説明
prob	ガンマ確率分布に関連付けられた確率。0 ~ 1 の数値を指定します。
k	形状パラメータを定義する正の数値。
θ	スケール パラメータを定義する正の数値。

この関数は、次のように GammaDist 関数に関連します。
`If prob = GammaDist(value, k, θ), then GammaInv(prob, k, θ) = value`

NormDist

NormDist() は、指定された平均と標準偏差について、累積正規分布を返します。例えば、mean = 0、standard_dev = 1 の場合は、標準正規分布の値が返されます。

構文:

```
NormDist(value, mean, standard_dev)
```

戻り値データ型： 数値

引数：

NORMDIST 引数

引数	説明
value	分布を評価する値。
mean	分布の算術平均を示す値です。
standard_dev	分布の標準偏差を示す正の値です。

この関数は、次のように **NormInv** 関数に関連します。
`If prob = NormDist(value, m, sd), then NormInv(prob, m, sd) = value`

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
NormDist(0.5, 0, 1)	0.6915 を返します

NormInv

NormInv() は、指定された平均と標準偏差について、累積正規分布の逆関数を返します。

構文:

```
NormInv(prob, mean, standard_dev)
```

戻り値データ型： 数値

引数：

NORMINV 引数

引数	説明
prob	正規分布に関連付けられた確率。0 ~ 1 の数値を指定します。
mean	分布の算術平均を示す値です。
standard_dev	分布の標準偏差を示す正の値です。

この関数は、次のように **NormDist** 関数に関連します。
`If prob = NormDist(value, m, sd), then NormInv(prob, m, sd) = value`

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
NormInv(0.6914625, 0, 1)	0.5000 を返します

PoissonDist

PoissonDist() は、ガンマ分布の累計確率を返します。

構文:

```
PoissonDist(value, mean)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
mean	平均結果を定義する正の数値。

この関数は、次のように PoissonInv 関数に関連します。
If prob = PoissonDist(value, mean), then PoissonInv(prob, mean) = value

PoissonFrequency

PoissonFrequency() は、ポアソン確率分布を返します。

構文:

```
PoissonFrequency(value, mean)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
mean	平均結果を定義する正の数値。

PoissonInv

PoissonInv() は、Gamma distribution分布の累計確率の逆関数を返します。

構文:

```
PoissonInv(prob, mean)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
prob	ポアソン確率分布に関連付けられた確率。0 ~ 1 の数値を指定します。
mean	平均結果を定義する正の数値。

この関数は、次のように PoissonDIST 関数に関連します。
`If prob = PoissonDist(value, mean), then PoissonInv(prob, mean) = value`

TDensity

TDensity() は、スチューデントの t 密度関数の値を返します。ここでの数値は t の計算値であり、この値に対して確率が計算されます。

構文:

```
TDensity(value, degrees_freedom)
```

戻り値データ型: 数値

引数

引数	説明
value	分布を評価する値。値は、負の値でないことが条件です。
degrees_freedom	自由度を数値で示す正の整数です。

TDist

TDist() は、スチューデントの t 分布における確率を返します。ここでの数値は t の計算値であり、これに対して確率が計算されます。

構文:

```
TDist(value, degrees_freedom, tails)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

TDIST 引数

引数	説明
value	分布を評価する値。負の値でないことが条件です。

引数	説明
degrees_freedom	自由度を数値で示す正の整数です。
tails	1 (片側分布) または 2 (両側分布) のどちらかです。

この関数は、次のように **TInv** 関数に関連します。
`If prob = TDist(value, df ,2), then TInv(prob, df) = value`

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

例と結果:

例と結果

例	結果
TDist(1, 30, 2)	0.3253 を返します

TInv

TInv() は、スチューデントの t 分布の t 値を確率と自由度の関数として返します。

構文:

```
TInv(prob, degrees_freedom)
```

戻り値データ型: 数値

引数:

TINV 引数

引数	説明
prob	t 分布に関連付けられた両側確率です。0 ~ 1 の数値を指定します。
degrees_freedom	自由度を数値で示す正の整数です。

制限事項:

すべての引数は数値でなくてはなりません。数値でない場合は NULL が返されます。

この関数は、次のように **TDist** 関数に関連します。
`If prob = TDist(value, df ,2), then TInv(prob, df) = value`。

例と結果:

例と結果

例	結果
TInv(0.3253086, 30)	1.0000 を返します

文字列関数

このセクションでは、文字列の取り扱いと操作を行うための関数について説明します。次の関数では、パラメータは数式であり、**s** は文字列と解釈されます。

すべての関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。例外は **Evaluate** で、これはロードスクリプトでしか使用できません。

文字列関数の概要

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

ApplyCodepage

数式に記載されたテキストや項目に異なるコードページを適用します。コードページの書式は数値である必要があります。

```
ApplyCodepage(text, codepage)
```

Capitalize

Capitalize() は、すべての単語の頭文字が大文字の文字列を返します。

```
Capitalize (text)
```

Chr

Chr() は、指定された整数に対応する Unicode 文字を返します。

```
Chr (int )
```

Evaluate

Evaluate() は、指定されたテキスト文字列が有効な QlikView 数式かどうかを評価し、有効な数式の場合は、数式の値を文字列として返します。指定された数式が有効な数式でない場合は、NULL が返されます。

```
Evaluate (expression_text)
```

FindOneOf

FindOneOf() は、文字列を検索して、指定された文字のセットのいずれかの文字が出現する位置を取得します。3 番目の引数に 1 よりも大きい値が指定されていない限り、指定された文字のセットのいずれかの文字が最初に出現した位置が返されます。出現しない場合は、**0** が返されます。

```
FindOneOf (text, char_set[, count])
```

Hash128

Hash128() は、複合入力式の値の 128 ビットハッシュ値を返します。結果は、22 文字の文字列になります。

```
Hash128 (expr{, expression})
```

Hash160

Hash160() は、複合入力式の値の 160 ビットハッシュ値を返します。結果は、27 文字の文字列になります。

```
Hash160 (expr{, expression})
```

Hash256

Hash256() は、複合入力式の値の 256 ビットハッシュ値を返します。結果は、43 文字の文字列になります。

```
Hash256 (expr{, expression})
```

Index

Index() は、文字列を検索して、指定されたサブストリングが n 回目に出現する開始位置を取得します。n の値は、オプションの 3 番目の引数で指定されます。省略されている場合は、1 になります。負の値が指定された場合は、文字列の末尾から検索を行います。文字列内での位置は、**1** から順に番号が付けられます。

```
Index (text, substring[, count])
```

KeepChar

KeepChar() は、1 番目の引数の文字列 'text' から 2 番目の引数の文字列 "keep_chars" に含まれていないすべての文字を削除した文字列を返します。

```
KeepChar (text, keep_chars)
```

Left

Left() は、入力文字列の最初 (左端) から数えた文字列を返し、ここで返される文字列の文字数は 2 番目の引数で指定されます。

```
Left (text, count )
```

Len

Len() は、指定された文字列の長さを返します。

```
Len (text )
```

Lower

Lower() は、指定された文字列のすべての文字を小文字に変換します。

```
Lower (text)
```

LTrim

LTrim() は、指定された文字列を先頭のスペースを削除して返します。

```
LTrim (text)
```

Mid

Mid() は入力文字列の部分について、2 番目の引数 'start' で定義された文字の場所で開始し、3 番目の引数 'count' で指定された文字数分を返します。'count' が省略されていると、入力文字列の残りすべてを返します。入力文字列の先頭が 1 になります。

```
Mid (text, start[, count])
```

Ord

Ord() は、指定された文字列の最初の文字の Unicode コードポイント番号を返します。

```
Ord (char )
```

PurgeChar

PurgeChar() は、2 番目の引数 ('remove_chars') に表示されるものを除き、入力文字列 ('text') に含まれる文字で構成される文字列を返します。

```
PurgeChar (text, remove_chars)
```

Repeat

Repeat() は、指定された文字列を、2 番目の引数で指定された回数分繰り返した文字列を返します。

```
Repeat (text[, repeat_count])
```

Replace

Replace() は、指定された文字列内に含まれる指定されたサブストリングすべてを別のサブストリングで置き換えた文字列を返します。この関数は非再帰関数で、左から右へ処理されます。

```
Replace (text, from_str, to_str)
```

Right

Right() は、指定された文字列の末尾 (右端) から、2 番目の引数で指定された文字数の文字列を返します。

```
Right (text, count )
```

RTrim

RTrim() は、指定された文字列を末尾のスペースを削除して返します。

```
RTrim (text)
```

SubField

Subfield() は、元のレコード項目が区切り文字で区切られた複数の部分で構成されている文字列項目からサブストリング部分を抽出するために使用されます。

```
SubField (text, delimiter[, field_no ])
```

SubStringCount

SubstringCount()は、指定された文字列テキストに、指定されたサブストリングが出現する回数を返します。一致するものがない場合は、0 を返します。

```
SubStringCount ( text , substring)
```

TextBetween

TextBetween() は、区切り文字として指定された文字間で行われる入力文字列でのテキストを返します。

```
TextBetween (text, sub_string)
```

Trim

Trim() は、指定された文字列を先頭と末尾のスペースを削除して返します。

```
Trim (text)
```

Upper

Upper() は、数式のすべてのテキスト文字について、入力文字列のすべての文字を大文字に変換します。数字と記号は無視されます。

```
Upper (text)
```

Capitalize

Capitalize() は、すべての単語の頭文字が大文字の文字列を返します。

構文:

```
Capitalize(text)
```

戻り値データ型: 文字列

例と結果:

例と結果

例	結果
`Capitalize ( 'my little pony' )`	'My Little Pony' を返します
`Capitalize ( 'AA bb cC Dd')`	'Aa Bb Cc Dd' を返します

Chr

Chr() は、指定された整数に対応する Unicode 文字を返します。

構文:

```
Chr(int)
```

戻り値データ型: string

例と結果:

例と結果

例	結果
Chr(65)	文字列 'A' を返します
Chr(163)	文字列 '£' を返します
Chr(35)	文字列 '#' を返します

Evaluate

Evaluate() は、指定されたテキスト文字列が有効な QlikView 数式かどうかを評価し、有効な数式の場合は、数式の値を文字列として返します。指定された数式が有効な数式でない場合は、NULL が返されます。

構文:

```
Evaluate(expression_text)
```

戻り値データ型: デュアル



これらの文字列関数は、チャートの数式では使用できません。

例と結果:

例と結果

例	結果
`Evaluate ( 5 * 8 )`	'40' を返します

FindOneOf

FindOneOf() は、文字列を検索して、指定された文字のセットのいずれかの文字が出現する位置を取得します。3 番目の引数に 1 よりも大きい値が指定されていない限り、指定された文字のセットのいずれかの文字が最初に出現した位置が返されます。出現しない場合は、**0** が返されます。

```
FindOneOf(text, char_set[, count])
```

戻り値データ型: 整数

FindOneOf の引数

引数	説明
text	元の文字列。
char_set	text で検索する文字セット
count	検索するいずれかの文字のうち、出現する文字を定義します。たとえば、値 2 は 2 番目の出現を検索します。

例と結果

例	結果
`FindOneOf( 'my example text string', 'et%s')`	'4' を返します。
`FindOneOf( 'my example text string', 'et%s', 3)`	'12' を返します。検索ではすべての文字列が対象となるため e、t、% または s、および "t" は 3 番目の出現で、12 の位置となります。
`FindOneOf( 'my example text string', '¤%&')`	'0' を返します。

Hash128

Hash128() は、複合入力式の値の 128 ビットハッシュ値を返します。結果は、22 文字の文字列になります。

構文:

```
Hash128(expr{, expression})
```

戻り値データ型: 文字列

```
Hash128 ( 'abc', 'xyz', '123' )
Hash128 ( Region, Year, Month )
```

Hash160

Hash160() は、複合入力式の値の 160 ビット ハッシュ値を返します。結果は、27 文字の文字列になります。

構文:

```
Hash160(expr{, expression})
```

戻り値データ型: 文字列

```
Hash160 ( 'abc', 'xyz', '123' )
Hash160 ( Region, Year, Month )
```

Hash256

Hash256() は、複合入力式の値の 256 ビット ハッシュ値を返します。結果は、43 文字の文字列になります。

構文:

```
Hash256(expr{, expression})
```

戻り値データ型: 文字列

```
Hash256 ( 'abc', 'xyz', '123' )
Hash256 ( Region, Year, Month )
```

Index

Index() は、文字列を検索して、指定されたサブストリングが n 回目に出現する開始位置を取得します。n の値は、オプションの 3 番目の引数で指定されます。省略されている場合は、1 になります。負の値が指定された場合は、文字列の末尾から検索を行います。文字列内での位置は、1 から順に番号が付けられます。

構文:

```
Index(text, substring[, count])
```

戻り値データ型: 整数

引数:

引数

引数	説明
text	元の文字列。
substring	text で検索する文字の文字列。  *テキスト内に部分文字列が存在しない場合、インデックスは 0 を返します。*
count	検索する **substring** の出現を定義します。たとえば、値 2 は 2 番目の出現を検索します。

例と結果:

例と結果

例	結果
Index('abcdefg', 'cd')	3 を返します
Index('abcdabcd', 'b', 2)	6 ('b' の 2 番目の出現) を返します
Index('abcdabcd', 'b',-2)	2 ('b' の終わりから始めて 2 番目の出現) を返します
`Left( Date, Index( Date,'-') -1 )` where **Date** = 1997-07-14	1997 を返します
`Mid( Date, Index( Date, '-', 2 ) -2, 2 )` where **Date** = 1997-07-14	07 を返します
Index('abc', 'x')	0 を返します ('x' は文字列 'abc' に存在しない)
Index('abc', 'a', 2)	0 を返します ('a' の 2 番目の出現はなし)

KeepChar

KeepChar() は、1 番目の引数の文字列 'text' から 2 番目の引数の文字列 "keep_chars" に含まれていないすべての文字を削除した文字列を返します。

構文:

```
KeepChar(text, keep_chars)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

KeepChar 引数

引数	説明
text	元の文字列。
keep_chars	text に保持される文字を含む文字列。

例と結果:

例と結果

例	結果
`KeepChar ( 'a1b2c3','123' )`	'123' を返します。
`KeepChar ( 'a1b2c3','1234' )`	'123' を返します。
`KeepChar ( 'a1b22c3','1234' )`	'1223' を返します。
`KeepChar ( 'a1b2c3','312' )`	'123' を返します

Left

Left() は、入力文字列の最初 (左端) から数えた文字列を返し、ここで返される文字列の文字数は 2 番目の引数で指定されます。

構文:

```
Left(text, count)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

Left 引数

引数	説明
text	元の文字列。
count	**text** 文字列の左側から含まれている文字の数を定義します。

例と結果:

例と結果

例	結果
`Left('abcdef', 3)`	'abc' を返します

より複雑な文字列の分析が可能な *Index (page 1512)*。

Len

Len() は、指定された文字列の長さを返します。

構文:

```
Len(text)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例と結果

例	結果
Len ('Peter')	'5' を返します

LevenshteinDist

LevenshteinDist() は、2 つの文字列間の Levenshtein の距離を返します。これは、1 つの文字列を別の文字列に変更するために必要な 1 文字の編集 (挿入、削除、または置換) の最小数として定義されます。この関数は、あいまい文字列の比較に役立ちます。

構文:

```
LevenshteinDist(text1, text2)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果:

例	結果
LevenshteinDist('Kitten','Sitting')	「3」を返します

Lower

Lower() は、指定された文字列のすべての文字を小文字に変換します。

構文:

```
Lower(text)
```

戻り値データ型: 文字列

例と結果:

例と結果

例	結果
Lower('abcD')	'abcd' を返します

LTrim

LTrim() は、指定された文字列を先頭のスペースを削除して返します。

構文:

```
LTrim(text)
```

戻り値データ型: 文字列

例と結果:

例と結果

例	結果
LTrim(' abc')	'abc' を返します
LTrim('abc ')	'abc ' を返します

Mid

Mid() は入力文字列の部分について、2 番目の引数 'start' で定義された文字の場所で開始し、3 番目の引数 'count' で指定された文字数分を返します。'count' が省略されていると、入力文字列の残りすべてを返します。入力文字列の先頭が 1 になります。

構文:

```
Mid(text, start[, count])
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

Mid 引数

引数	説明
text	元の文字列。
start	text に含まれる最初の文字の位置を定義する整数。
count	出力文字列の文字列長を定義します。省略されている場合は、**start** で定義された位置からのすべての文字が含まれます。

例と結果:

例と結果

例	結果
Mid('abcdef',3)	'cdef' を返します
Mid('abcdef',3, 2)	'cd' を返します

Ord

Ord() は、指定された文字列の最初の文字の Unicode コードポイント番号を返します。

構文:

```
Ord(char)
```

戻り値データ型: 整数

例と結果

例	結果
Ord('A')	整数 65 を返します。
Ord('Ab')	整数 65 を返します。

PurgeChar

PurgeChar() は、2 番目の引数 ('remove_chars') に表示されるものを除き、入力文字列 ('text') に含まれる文字で構成される文字列を返します。

構文:

```
PurgeChar(text, remove_chars)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

PurgeChar 引数

引数	説明
text	元の文字列。
remove_chars	text で削除される文字を含む文字列。

戻り値データ型: 文字列

例と結果:

例と結果

例	結果
PurgeChar ('a1b2c3','123')	'abc' を返します
PurgeChar ('a1b2c3','312')	'abc' を返します

Repeat

Repeat() は、指定された文字列を、2 番目の引数で指定された回数分繰り返した文字列を返します。

構文:

```
Repeat(text[, repeat_count])
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

Repeat 引数

引数	説明
text	元の文字列。
repeat_count	**text** 文字列の文字が出力文字列で繰り返される回数を定義します。

例と結果:

例と結果

例	結果
`Repeat( ' * ', rating )` when **rating** = 4	`'****'` を返します

Replace

Replace() は、指定された文字列内に含まれる指定されたサブストリングすべてを別のサブストリングで置き換えた文字列を返します。この関数は非再帰関数で、左から右へ処理されます。

構文:

```
Replace(text, from_str, to_str)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

Replace 引数

引数	説明
text	元の文字列。
from_str	**text** 入力文字列に 1 回以上現れる文字列。
to_str	**text** 文字列に現れる **from_str** をすべて置き換える文字列。

例と結果:

例と結果

例	結果
`Replace('abccde','cc','xyz')`	'abxyzde' を返します

Right

Right() は、指定された文字列の末尾 (右端) から、2 番目の引数で指定された文字数の文字列を返します。

構文:

```
Right(text, count)
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

Right 引数

引数	説明
text	元の文字列。
count	**text** 文字列の右側から含まれている文字の数を定義します。

例と結果:

例と結果

例	結果
`Right('abcdef', 3)`	'def' を返します

RTrim

RTrim() は、指定された文字列を末尾のスペースを削除して返します。

構文:

```
RTrim(text)
```

戻り値データ型: 文字列

例と結果:

例と結果

例	結果
`RTrim( ' abc' )`	' abc' を返します
`RTrim( 'abc ' )`	'abc' を返します

SubField

Subfield() は、元のレコード項目が区切り文字で区切られた複数の部分で構成されている文字列項目からサブストリング部分を抽出するために使用されます。

Subfield() 関数は、フルネームで構成されるレコードのリストからファーストネームと姓、パス名のコンポーネントパーツを抽出したり、コンマ区切りのテーブルからデータを抽出したりするために使用できます。

LOAD ステートメントで、オプションの field_no パラメータを省略して、**Subfield()** 関数を使用する場合、サブストリングごとに完全な 1 つのレコードが生成されます。**Subfield()** を使用してを複数の項目がロードされる場合、すべての組み合わせのデカルト積が生成されます。

構文:

```
SubField(text, delimiter[, field_no ])
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

SubField 引数

引数	説明
text	元の文字列。これは、ハードコードされたテキスト、変数、ドル記号展開、またはその他の数式となります。
delimiter	文字列をコンポーネントパーツに分割する入力 **text** 内の文字。
field_no	オプションの 3 番目の引数は、親文字列 **text** のサブストリングのどれが返されるかを指定する整数です。 • **field_no** が正の値の場合、サブストリングは左から右に向かって抽出されます。 • **field_no** が負の値の場合、サブストリングは右から左に向かって抽出されます。

SubField() は、Len()、Right()、Left()、Mid()、およびその他の文字列関数など、複雑な関数の組み合わせの代わりに使用することができます。

例と結果:

例 1 ~ 3

例	結果
`SubField('abc;cde;efg', ';', 2)`	'cde' を返します
`SubField('', ';', 1)`	NULL を返します
`SubField(';', ';', 1)`	空の文字列を返します

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
FullName:
LOAD * inline [
Name
'Dave Owen'
'Joe Tem'
];

SepNames:
Load Name,
```

```
SubField(Name, ' ',1) as FirstName,
SubField(Name, ' ',-1) as Surname
Resident FullName;
Drop Table FullName;
```

例 4

Name	FirstName	Surname
Dave Owen	Dave	Owen
Joe Tem	Joe	Tem

パス名 vMyPath を保持する変数があるとします。

`Set vMyPath=\Users\ext_jrb\Documents\Qlik\Sense\Apps;` 。

テキストと画像のチャートでは、次のようなメジャーを追加できます。
`SubField(vMyPath, '\',-3)`。これは変数 vMyPath の右端から3 番目のサブストリングであるため「Qlik」となります。

この例では、**Subfield()** の単一インスタンスから複数の行を作成する方法を説明します。

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
LOAD DISTINCT
Player,
SubField(Project,',') as Project;

Load * inline [
Player|Project
Neil|Music,OST
Jo|Music
Mike|Music,OST,Video
] (delimiter is '|');
```

例 5

Player	Project
Neil	Music
Neil	OST
Jo	Music
Mike	Music
Mike	OST
Mike	Video

この例では、**Subfield()** 関数の複数のインスタンスを使用することにより、同じ **LOAD** ステートメント内から、それぞれの field_no パラメーターを除外し、すべての組み合わせの直積集合を作成する方法を示します。
DISTINCT オプションは、重複したレコードの作成を防ぐために使用します。

ドキュメントに例のスクリプトを追加して実行します。その後、結果列に含まれている項目をドキュメントのシートに追加して結果を表示します。

```
LOAD DISTINCT
Instrument,
SubField(Player,',') as Player,
SubField(Project,',') as Project;

Load * inline [
Instrument|Player|Project
Guitar|Neil,Mike|Music,Video
Guitar|Neil|Music,OST
Synth|Neil,Jen|Music,Video,OST
Synth|Jo|Music
Guitar|Neil,Mike|Music,OST
] (delimiter is '|');
```

例 6

Instrument	Player	Project
Guitar	Mike	Music
Guitar	Mike	Video
Guitar	Mike	OST
Guitar	Neil	Music
Guitar	Neil	Video
Guitar	Neil	OST
Synth	Jen	Music
Synth	Jen	Video
Synth	Jen	OST
Synth	Jo	Music
Synth	Neil	Music
Synth	Neil	Video
Synth	Neil	OST

SubStringCount

SubstringCount()は、指定された文字列テキストに、指定されたサブストリングが出現する回数を返します。一致するものがない場合は、0 を返します。

構文:

```
SubStringCount(text, sub_string)
```

戻り値データ型: 整数

引数:

SubStringCount 引数

引数	説明
text	元の文字列。
sub_string	**text** 入力文字列に 1 回以上現れる文字列。

例と結果:

例と結果

例	結果
`SubStringCount ( 'abcdefgcdxyz', 'cd' )`	'2' を返します
`SubStringCount ( 'abcdefgcdxyz', 'dc' )`	'0' を返します

TextBetween

TextBetween() は、区切り文字として指定された文字間で行われる入力文字列でのテキストを返します。

構文:

```
TextBetween(text, delimiter1, delimiter2[, n])
```

戻り値データ型: 文字列

引数:

TextBetween 引数

引数	説明
text	元の文字列。
delimiter1	**text** で検索する最初の区切り文字 (または文字列) を指定します。
delimiter2	**text** で検索する 2 番目の区切り文字 (または文字列) を指定します。
n	検索する区切り文字のペアのうち、出現する区切り文字を定義します。たとえば値 2 は、delimiter1 の 2 番目に出現する文字と、delimiter2 の 2 番目に出現する文字の間の文字を返します。

例と結果:

例と結果

例	結果
`TextBetween('<abc>', '<', '>')`	'abc' を返します

例	結果
TextBetween('<abc><de>', '<', '>',2)	'de' を返します

Trim

Trim() は、指定された文字列を先頭と末尾のスペースを削除して返します。

構文:

```
Trim(text)
```

戻り値データ型: 文字列

例と結果:

例と結果

例	結果
Trim(' abc')	'abc' を返します
Trim('abc ')	'abc' を返します
Trim(' abc ')	'abc' を返します

Upper

Upper() は、数式のすべてのテキスト文字について、入力文字列のすべての文字を大文字に変換します。数字と記号は無視されます。

構文:

```
Upper(text)
```

戻り値データ型: 文字列

例と結果:

例と結果

例	結果
Upper(' abcD')	'ABCD' を返します

システム関数

システム関数は、システム、デバイスおよび QlikView ドキュメントのプロパティにアクセスするための関数を提供します。

システム関数の概要

関数の中には、概要の後に詳細が示されているものもあります。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Author

この関数は、現在のドキュメントの作成者プロパティを含む文字列を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
Author( )
```

ClientPlatform

この関数は、クライアントブラウザのユーザー エージェント文字列を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
 Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko)
Chrome/35.0.1916.114 Safari/537.36
ClientPlatform( )
```

ComputerName

この関数は、オペレーティング システムが返すコンピュータ名を含む文字列を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
ComputerName( )
```

DocumentName

この関数は、現在の QlikView ドキュメントのファイル名について、パスなしで拡張子を含む文字列を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
DocumentName( )
```

DocumentPath

この関数は、現在の QlikView ドキュメントへの完全なパスを含む文字列を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
DocumentPath( )
```

DocumentTitle

この関数は、現在の QlikView ドキュメントのタイトルを含む文字列を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
DocumentTitle( )
```

GetCollationLocale

このスクリプト関数は、使用されている照合ロケールのカルチャ名を返します。変数 CollationLocale がまだ設定されていない場合は、実際のユーザー マシンのロケールを返します。

```
GetCollationLocale( )
```

GetActiveSheetID

アクティブなシートの ID を含む文字列を返します。

```
GetActiveSheetID( )
```

GetExtendedProperty

この関数は、指定したオブジェクトID を持つシート オブジェクトにある、名前の付いた拡張プロパティの値を返します。**objectid** が指定されていない場合は、数式が含まれるシート オブジェクトが使用されます。拡張プロパティは、定義ファイルの拡張オブジェクトで定義されます。

```
GetExtendedProperty - チャート関数(name[, objectid])
```

GetObjectField

GetObjectField() は、軸の名前を返します。**Index** は、返される軸を示すオプションの整数です。

```
GetObjectField - チャート関数([index])
```

GetRegistryString

この関数は、Windows レジストリにある key の値を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
GetRegistryString(path, key)
```

Input

この関数は、スクリプトでのみ使用でき、スクリプトの実行中にユーザーに値の入力を促す入力ボックスを開きます。パラメータcue および caption は、それぞれ メッセージ テキストとキャプション テキストとして使用されます。この関数は、入力された値を返します。
この入力ボックス関数は、ダイアログがキャンセルされたり、閉じられたり、表示できない場合には NULL を返します。

```
Load
Input('Enter value', 'Input box') as v,
Recno () as r
autogenerate 3;
Input(str cue [, str caption])
```

IsPartialReload

現在のリロードが部分的である場合は -1 (True)、それ以外の場合は 0 (False) を返します。これはスクリプトでのみ機能します。

```
IsPartialReload( )
```

MsgBox

この関数は、スクリプトでのみ使用でき、スクリプトの実行中にメッセージ ボックスを開きます。パラメータ**msg** および **caption** は、それぞれ メッセージ テキストとキャプション テキストとして使用されます。パラメータ**mb_buttons** は、メッセージ ボックスにどのボタンが表示されるかを下記に従って定義します。

1 つのボタン [OK] の場合は 0 または 'OK'、
2 つのボタン [OK] および [Cancel] の場合は 1 または 'OKCANCEL'、
3 つのボタン [Abort]、[Retry]、[Ignore] の場合は 2 または 'ABORTRETRYIGNORE'、
3 つのボタン [Yes]、[No]、[Cancel] の場合は 2 または 'YESNOCANCEL'、
2 つのボタン [Yes] および [No] の場合は 4 または 'YESNO'、
2 つのボタン [Retry] および [Cancel] の場合は 5 または 'RETRYCANCEL'、

パラメータ**mb_icons** は、メッセージ ボックスにどのアイコンが表示されるかを下記に従って定義します。

アイコンなしの場合は 0 または空の文字列
X の付いたアイコンの場合は 16 または 'ICONHAND'、重大なエラーに使用
疑問符の付いたアイコンの場合は 32 または 'ICONQUESTION'
感嘆符の付いたアイコンの場合は 48 または 'ICONEXCLAMATION'、軽度のエラー、注意、および警告に使用
i の付いたアイコンの場合は 64 または 'ICONASTERISK'、情報メッセージに使用。

パラメータ **mb_defbutton** は、メッセージ ボックスを表示する際に、どのボタンにフォーカスを置くかを下記に従って定義します。

1 番目のボタンにフォーカスが置かれた場合は 0 または 'DEFBUTTON1'
2 番目のボタンにフォーカスが置かれた場合は 256 または 'DEFBUTTON2'
3 番目のボタンにフォーカスが置かれた場合は 512 または 'DEFBUTTON3'
4 番目のボタンにフォーカスが置かれた場合は 768 または 'DEFBUTTON4'

この関数は、ユーザーによって押されたボタンを次のように整数値で返します。

[OK] に対して 1
[Cancel] に対して 2
[Abort] に対して 3
[Retry] に対して 4
[Ignore] に対して 5
[Yes] に対して 6
[No] に対して 7

パラメータ 3、4、および 5 は内部で追加されるため、上記以外の数値が使用された場合、予想外の組み合わせのアイコンとボタンが表示される可能性があります。

このメッセージ ボックス関数は、ダイアログを表示できない場合には NULL を返します。

```
Load
MsgBox('Message 2', 'msgbox', 'OKCANCEL', 'ICONASTERISK') as x, 2 as r
autogenerate 1;
```

```
MsgBox(str msg [, str caption [, mb_buttons [, mb_icons[, mb_defbutton]]]] )
```

OSUser

この関数は、オペレーティング システムが返す現在のユーザー名を含む文字列を返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
OSUser( )
```

QlikViewVersion

このスクリプト関数は、QlikView のフル バージョンとビルド番号を文字列で返します。

```
QlikViewVersion (page 1528)()
```

QVuser

section access での入力に基づいて、現在の QlikView ユーザーのユーザー名を含む文字列を返します。

```
QVuser( )
```

ReloadTime

この関数は、最後にデータロードを実行したときのタイムスタンプを返します。これは、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

```
ReloadTime( )
```

StateName

このチャート関数は、使用されているオブジェクトのステート名を返します。QlikView でこの関数を使用すると、オブジェクトのステート変更に応じて動的テキストとカラーを適用できます。この関数が機能するのはオブジェクト上のみですので注意してください。チャートの数式で、数式が参照するステートを判断するために使用することはできません。

```
StateName - チャート関数()
```

GetExtendedProperty - チャート関数

この関数は、指定したオブジェクトID を持つシートオブジェクトにある、名前の付いた拡張プロパティの値を返します。**objectid** が指定されていない場合は、数式が含まれるシートオブジェクトが使用されます。拡張プロパティは、定義ファイルの拡張オブジェクトで定義されます。

構文:

```
GetExtendedProperty (name[, objectid])
```

```
GetExtendedProperty ('Greeting')
```

GetObjectField - チャート関数

GetObjectField() は、軸の名前を返します。**Index** は、返される軸を示すオプションの整数です。

構文:

```
GetObjectField ([index])
```

```
GetObjectField(2)
```

ProductVersion

このスクリプト関数は、製品のフル バージョンとビルド番号を文字列で返します。ProductVersion を使用することで、バージョン番号が他の Qlik 製品 (Qlik Sense など) に適合したものとなります。

構文:

```
ProductVersion()
```

QlikViewVersion

このスクリプト関数は、QlikView のフル バージョンとビルド番号を文字列で返します。

構文:

```
QlikViewVersion()
```



ProductVersion を使用することで、バージョン番号が他の Qlik 製品 (Qlik Sense など) に適合したものとなります。

参照先:ProductVersion

StateName - チャート関数

このチャート関数は、使用されているオブジェクトのステート名を返します。QlikView でこの関数を使用すると、オブジェクトのステート変更に応じて動的テキストとカラーを適用できます。この関数が機能するのはオブジェクト上のみですので注意してください。チャートの数式で、数式が参照するステートを判断するために使用することはできません。

構文:

```
StateName ()
```



*並列ステートは **[設定] > [ドキュメントプロパティ] > [基本設定] > [並列ステート]** で定義できます。*

Example 1:

```
      動的テキスト
='Region - ' & if(StateName() = '$', 'Default', StateName())
```

Example 2:

```
      動的カラー
if(StateName() = 'Group 1', rgb(152, 171, 206),
      if(StateName() = 'Group 2', rgb(187, 200, 179),
            rgb(210, 210, 210)
      )
)
```

テーブル関数

テーブル関数は、現在読み込まれているデータテーブルに関する情報を返します。テーブル名の指定がなく、関数が **LOAD** ステートメント内で使用されている場合、現在のテーブルと判断されます。

すべての関数は、ロードスクリプトで使用できますが、**NoOfRows** は唯一チャート式でも使用できます。

テーブル関数の概要

関数の中には、概要の後に詳細が示されているものもあります。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

FieldName

FieldName スクリプト関数は、ロード済みのテーブルに含まれる指定の番号の項目名を返します。**LOAD** ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

```
FieldName (field_number ,table_name)
```

FieldNumber

FieldNumber スクリプト関数は、ロード済みのテーブルに含まれる指定の項目の番号を返します。**LOAD** ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

```
FieldNumber (field_name ,table_name)
```

NoOfFields

NoOfFields スクリプト関数は、ロード済みのテーブルに含まれる項目数を返します。**LOAD** ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

```
NoOfFields (table_name)
```

NoOfRows

NoOfRows 関数は、ロード済みのテーブルに含まれる行数 (レコード数) を返します。**LOAD** ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

```
NoOfRows (table_name)
```

NoOfTables

このスクリプト関数は、これまでにロードされたテーブル数を返します。

```
NoOfTables()
```

TableName

このスクリプト関数は、指定した番号のテーブル名を返します。

```
TableName(table_number)
```

TableNumber

このスクリプト関数は、指定したテーブルの番号を返します。最初のテーブルの番号は 0 です。

table_name が存在しない場合、値は返されません。関数が関数値を返すように設定されている場合、この変数は初期化されません。回避策として、`LET vImaginaryTabNum = If(TableNumber ('NotExistingTable')>=0,TableNumber('NotExistingTable'),'NULL') ;` を設定することができます。

```
TableNumber(table_name)
```

この例では、ロードされたテーブルと項目についての情報を持つテーブルを作成します。

まず、サンプル データをロードします。このセクションに記載されているテーブル関数の説明に使用される 2 つのテーブルが作成されます。

```
Characters: Load Chr(RecNo()+Ord('A')-1) as Alpha, RecNo() as Num autogenerate 26;  ASCII:
Load   if(RecNo()>=65 and RecNo()<=90,RecNo()-64) as Num,  Chr(RecNo()) as AsciiAlpha,   RecNo
() as AsciiNum autogenerate 255  Where (RecNo()>=32 and RecNo()<=126) or RecNo()>=160 ;
```

次に、ロードしたテーブルを**NoOfTables**関数を使って繰り返し処理してから、**NoOfFields**関数を使って各テーブルの項目を繰り返し処理し、テーブル関数を使って情報をロードします。

```
//Iterate through the loaded tables For t = 0 to NoOfTables() - 1  //Iterate through the fields of table  For f = 1 to NoOfFields(TableName($(t)))  Tables:  Load  TableName($(t)) as Table,  TableNumber(TableName($(t))) as TableNo,  NoOfRows(TableName($(t))) as TableRows,  FieldName($(f),TableName($(t))) as Field,  FieldNumber(FieldName ($(f),TableName($(t))),TableName($(t))) as FieldNo  Autogenerate 1;  Next f Next t;
```

この結果、Tablesは次のようになります。

Tables table

Table	TableNo	TableRows	Field	FieldNo
Characters	0	26	Alpha	1
Characters	0	26	Num	2
ASCII	1	191	Num	1
ASCII	1	191	AsciiAlpha	2
ASCII	1	191	AsciiNum	3

FieldName

FieldNameスクリプト関数は、ロード済みのテーブルに含まれる指定の番号の項目名を返します。**LOAD**ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

構文:

```
FieldName(field_number ,table_name)
```

引数:

FieldName 引数

引数	説明
field_number	参照する項目の項目番号。
table_name	参照する項目が含まれているテーブル。

```
LET a = FieldName(4,'tab1');
```

FieldNumber

FieldNumberスクリプト関数は、ロード済みのテーブルに含まれる指定の項目の番号を返します。**LOAD**ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

構文:

```
FieldNumber(field_name ,table_name)
```

FieldNumber 引数

引数	説明
field_name	項目の名前。
table_name	項目が含まれているテーブルの名前。

field_name 項目が、table_name に存在しない場合、もしくは table_name が存在しない場合は、この関数は 0 を返します。

```
LET a = FieldNumber('Customer','tab1');
```

NoOfFields

NoOfFields スクリプト関数は、ロード済みのテーブルに含まれる項目数を返します。**LOAD** ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

構文:

```
NoOfFields(table_name)
```

引数:

NoOfFields 引数

引数	説明
table_name	テーブルの名前。

```
LET a = NoOfFields('tab1');
```

NoOfRows

NoOfRows 関数は、ロード済みのテーブルに含まれる行数 (レコード数) を返します。**LOAD** ステートメントで使用されている場合、ロード中のテーブルを参照することはできません。

構文:

```
NoOfRows(table_name)
```

引数:

NoOfRows 引数

引数	説明
table_name	テーブルの名前。

```
LET a = NoOfRows('tab1');
```

三角関数と双曲線関数

このセクションでは、三角関数と双曲線関数の演算子について説明します。これらのすべての関数では、引数は計算結果がラジアンで表された角度になる数式で、**x** は実数として解釈されます。

角度はすべてラジアンで表します。

すべての関数は、ロードスクリプトおよびチャート式の両方で使用できます。

cos

x の余弦です。結果は、-1 から 1 の間の数値になります。

```
cos( x )
```

acos

x の逆コサイン。関数は、-1≤**x**≤1 の場合にのみ定義されます。結果は、0 からπの間の数値になります。

```
acos( x )
```

sin

x の正弦です。結果は、-1 から 1 の間の数値になります。

```
sin( x )
```

asin

x の逆サイン。関数は、-1≤**x**≤1 の場合にのみ定義されます。結果は、-π/2 からπ/2 の間の数値になります。

```
asin( x )
```

tan

x の正接です。結果は実数です。

```
tan( x )
```

atan

x の逆タンジェント。結果は、-π/2 からπ/2 の間の数値になります。

```
atan( x )
```

atan2

逆正接関数の 2 次元一般化です。原点と、**x** 座標と **y** 座標で表される点との間の角度を返します。結果は、-π から +π の間の数値になります。

```
atan2( y,x )
```

cosh

x の双曲線余弦。結果は正の実数です。

```
cosh( x )
```

sinh

x の双曲線正弦。結果は実数です。

```
sinh( x )
```

tanh

x の双曲線正接。結果は実数です。

```
tanh( x )
```

以下のスクリプト コードはサンプル テーブルをロードし、その後、値を三角関数と双曲線関数で計算した結果を含むテーブルをロードします。

```
SampleData:
LOAD * Inline
[Value
-1
0
1];

Results:
Load *,
cos(Value),
acos(Value),
sin(Value),
asin(Value),
tan(Value),
atan(Value),
atan2(Value, Value),
cosh(Value),
sinh(Value),
tanh(Value)
RESIDENT SampleData;

Drop Table SampleData;
```

ウィンドウ関数

ウィンドウ関数は、複数行からの値を使って計算を実行し、各行に別の値を生成します。ウィンドウ関数は、テーブル全体が読み込まれて初めて計算されます。

ウィンドウ関数を使用して、次のような演算を実行できます。

- 行内の個別の数値と列内の平均値、最大値、最小値を比較する。
- 列内またはテーブル全体で、個々の値のランキングを計算する。

ウィンドウ関数は、テーブル内のレコード数を変更しませんが、集計関数またはリレーショナル関数および範囲関数と同様のタスクを実行できます。

それぞれの関数についての説明は、概要の後に表示されます。また、構文内の関数名をクリックすると、その関数の詳細を確認できます。

Window
Window 関数は、複数行から計算を実行して、各行に別の値を生成します。

Window() は、完全なテーブルのセクション（または「ウィンドウ」）の複数の行から計算を実行し、行ごとに 1 つの値を生成します。(main_expr, [partition1, partition2, ...], [sort_type, [sort_expr],[filter_expr], [start_expr, end_expr]])

WRank
WRank 関数は、**Window** 内でランキング計算を実行します。

WRank() は、ロード スクリプトでテーブルの行を評価し、それぞれの行に対して、ロード スクリプトで評価された項目の値の相対位置を示します。この関数はテーブルの評価時に、結果を現在のパーティションに含まれるその他の行の結果と比較して、セグメント内の現在の行のランキングを返します。 ([mode[, fmt]])

Window

Window() は、完全なテーブルのセクション (または「ウィンドウ」) の複数の行から計算を実行し、行ごとに 1 つの値を生成します。

Window 関数を使用して、次のような演算を実行できます。

- 行内の個々の数値を、テーブルのウィンドウ内の平均、最大値、または最小値と比較します。
- ウィンドウ内またはテーブル全体内で個々の値のランクを計算します。

Window 関数はテーブル内のレコード数を変更しませんが、集計関数、関係関数、範囲関数と同様のタスクを実行できます。

Window 関数は、操作しているテーブルの LOAD ステートメント内に含めるか、Resident LOAD などでテーブルを参照する必要があります。この例は*例 - 集計を含む項目の追加 (page 1538)*を参照してください。

名前は省略できますが、その場合、項目名が **Window** 関数式全体に設定されます。たとえば、*AvgDepSalary* は次の例のようになります。

```
[AvgSalary]:
Load
       *,
       Window(avg(Salary), Department) as AvgDepSalary
Resident Employees;
```

> ***Window** 関数には項目名を付けることをお勧めします。*

Window は、丸めや基本的な数値演算などの一般的な関数をサポートします。例:

```
Load *, Round(Window(Sum(Salary),Department)) as SumDepSalary
Load *, Window(Sum(Salary),Department) + 5 as SumDepSalary
```



Window 関数はテーブル全体をスキャンします。メモリ消費の観点から見ると、このスキャンのコストはテーブル内の項目の数に比例します。Window 関数が動作する項目以外の項目がいくつかあるテーブルは、多くの項目があるテーブルよりも常に優先されます。

通常、Window 関数は、同じ集計、Where 句 (フィルター)、Group by 句 (パーティション)、Order by 句 (ソート) を含む同様のスクリプト操作と比較すると、2 ~ 4 倍のメモリを消費し、リロード時間も 2 ~ 4 倍長くなります。

```
Window (main_expr, [partition1, partition2, ...], [sort_type, [sort_expr],
[filter_expr], [start_expr, end_expr]])
```

返されるデータ型: 行ごとに 1 つの値。この値は、別の式と組み合わせたり、別の式で使用したり、LOAD ステートメントによって作成された結果のテーブルに直接追加したりできます。

引数

引数	説明

main_expr	関数によって計算され、返される主な入力式です。集計に基づいた数式である必要があります (Median(Salary) など)。例:
	`Window(Median(Salary)) as MedianSalary`
	数式は、集計が適用されない項目名とすることもできます。この場合、Window が、Only() 関数がその項目に適用されたかのように処理します。例:
	`Window(Salary) as WSalary`
	Window(Sum(Avg(Salary))) や Window(Sum(Window(Salary))) などのネストされた集計またはネストされたウィンドウ関数を含む数式は許可されません。

partition 1, partition 2	main_expr の後は、任意の数のパーティションを定義できます。パーティションは、集計を適用する組み合わせを定義する項目です。例:
	`Window(Avg(Salary), Department) as AvgDepSalary`
	各部門の平均給与を計算します。
	複数のパーティション パラメーターが指定されている場合、パーティション項目の一意の組み合わせを持つ各行に集計が適用されます。例:
	`Window(Avg(Salary), Department, Country) as AvgDepSalaryPerCountry`
	各国の各部門の平均給与を計算します。スウェーデンのマーケティングとカナダのマーケティングなど、異なる国での重複した部門は、異なるパーティションとして扱われます。
	パーティショニングは、group by 句によるグループ化と似ています。ただし、パーティショニングによって、入力テーブルと比較したレコード数は減りません。

引数	説明
sort_type, [sort_expr]	オプションで、ソートタイプとソート数式を指定します。これは、集計が実行される順序を定義します。sort_type は定数文字列であり、次の 3 つの値のいずれかを取ることができます。 • ASC: 昇順ソート。 • DESC: 降順ソート。 • NONE sort_type ASC または DESC を定義する場合は、ソート数式を定義する必要があります。sort_type NONE の場合、ソート数式を指定する必要はありません。ソート数式は、パーティション内の行の順序を決定します。 例: `Window(RecNo(), Department, 'ASC', Year)` 上記の例では、パーティション内の集計は *Year* 項目の昇順で実行されます。 ソートパラメーターは、スライディング ウィンドウがテーブルを処理する順序にも影響します。例については、「*例 - ソートされたスライディング ウィンドウを使用した項目の追加 (page 1541)*」を参照してください。
filter_expr	オプションで、フィルター式を追加します。これは、レコードを計算に含めるかどうかを決定するブール式です。 filter_expr が指定されている場合は、ソートタイプを含める必要があります。ソートタイプが定義されていない場合、引数はソート数式ではなくパーティション パラメーターとして解釈されます。filter_expr パラメーターは完全に省略することも、真の値を含めることもできます。どちらもフィルターを使用しないため、除外される行はありません。 例: `Window(avg(Salary), Department, 'ASC', Age, Country='US' Or Country='Canada') as AvgDepSalaryInUsOrCanada` 上記の **Window** ステートメントは、*Country*項目が *US* または *Canada* でない行をフィルタリングし、それらの行を集計から除外します。フィルタリングで除外された行の出力値は残りますが、他のすべての出力行と同様に、フィルタリングによって除外されていない行の集計結果のみが含まれます。

引数	説明

start_expr,end_expr	必要に応じて、スライディング ウィンドウ機能の引数を設定します。これにより、集計される行数がさらに制限されます。各出力行には、現在の行の前と後のいくつかの行からの (集計された) 結果のみが含まれます。スライディング ウィンドウには 2 つの引数 (start_expr,end_expr) が必要です。これらの引数が指定されている場合は、ソート タイプをスキップしないでください。スキップすると、引数はスライディング ウィンドウではなくパーティション パラメーターとして解釈される可能性があります。パラメーター start_expr,end_expr は次のもので構成されます。
	• 開始の数式: ウィンドウに含める現在の行より前の行数。
	• 終了の数式: ウィンドウに含める現在の行より後の行数。
	例えば、前の 3 行、現在の行、次の行を含める場合は、次のようになります。
	`Window(concat(Text(Salary),'-'), Department, 'NONE', 1, -3, 1) as WSlidingSalaryDepartment`
	先行行と後続行をすべて示すには、**Unbounded()** 関数を使用できます。例えば、先行行、現行行、後続行を含めたい場合:
	`Window(concat(Text(Salary),'-'), Department, 'NONE', 1, UNBOUNDED(), 1) as WSlidingSalaryDepartment`
	例えば、現行行から3 行目と、すべての後続行を含めるには:
	`Window(concat(Text(Salary),'-'), Department, 'NONE', 1, 3, UNBOUNDED()) as WSlidingSalaryDepartment`
	上記の例では、スクリプトがパーティション引数とソート タイプの後に続くパラメータを区別できるように、ソート タイプ NONE が指定されています。

例 - 集計を含む項目の追加

例: 集計を含むフィールドの追加

ロード スクリプト

データ ロード エディタで新しいタブを作成し、次のデータをインライン ロードとしてロードします。結果を確認するには、以下の Qlik Sense のテーブルを作成します。

```
[Employees]:
Load
       *,
       Window(avg(Salary), Department) as AvgDepSalary
Inline [
       Name, Department, Salary, Age, Year, Country
       David, Sales, 11, 32, 2019, Canada
       Sara, Sales, 22, 25, 2022, Sweden
       Nils, Marketing, 33, 18, 2022, Sweden
       Patrick, Marketing, 44, 43, 2022, Canada
       Anna, Sales, 55, 33, 2023, Canada
       Johan, Sales, 66, 26, 2025, Sweden
       Olle, Marketing, 77, 19, 2023, Sweden
       Bonnie, Marketing, 88, 44, 2023, US
];
```

結果

集計を含む項目を追加した結果

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	AvgDepSalary
David	Sales	11	32	2019	Canada	39
Sara	Sales	22	25	2022	Sweden	39
Nils	Marketing	33	18	2022	Sweden	61
Patrick	Marketing	44	43	2022	Canada	61
Anna	Sales	55	33	2023	Canada	39
Johan	Sales	66	26	2025	Sweden	39
Olle	Marketing	77	19	2023	Sweden	61
Bonnie	Marketing	88	44	2023	US	61

例 - 特定の値でフィルタリングされた集計を含む項目の追加

例: 特定の値でフィルター処理された集計を含むフィールドの追加

ロードスクリプト

データロードエディタで新しいタブを作成し、次のデータをインライン ロードとしてロードします。結果を確認するには、以下の Qlik Sense のテーブルを作成します。

```
[Employees]:
Load
*,
Window(avg(Salary), Department, 'NONE', Country = 'Sweden') as AvgDepSalarySweden
Inline [
       Name, Department, Salary, Age, Year, Country
       David, Sales, 11, 32, 2019, Canada
       Sara, Sales, 22, 25, 2022, Sweden
       Nils, Marketing, 33, 18, 2022, Sweden
       Patrick, Marketing, 44, 43, 2022, Canada
       Anna, Sales, 55, 33, 2023, Canada
       Johan, Sales, 66, 26, 2025, Sweden
       Olle, Marketing, 77, 19, 2023, Sweden
       Bonnie, Marketing, 88, 44, 2023, US
];
```

結果

特定の値でフィルタリングされた集計を含む項目を追加した結果

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	AvgDepSalarySweden
David	Sales	11	32	2019	Canada	44

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	AvgDepSalarySweden
Sara	Sales	22	25	2022	Sweden	44
Nils	Marketing	33	18	2022	Sweden	55
Patrick	Marketing	44	43	2022	Canada	55
Anna	Sales	55	33	2023	Canada	44
Johan	Sales	66	26	2025	Sweden	44
Olle	Marketing	77	19	2023	Sweden	55
Bonnie	Marketing	88	44	2023	US	55

例 - スライディング ウィンドウを使用した項目の追加

例: スライディングウィンドウを使用したフィールドの追加

ロード スクリプト

データ ロード エディタで新しいタブを作成し、次のデータをインライン ロードとしてロードします。結果を確認するには、以下の Qlik Sense のテーブルを作成します。

```
[Employees]:
Load
       *,
       Window(concat(Text(Salary),'-'), Department, 'NONE', -1, 1) as SlidingWindow
Inline [
       Name, Department, Salary, Age, Year, Country
       David, Sales, 11, 32, 2019, Canada
       Sara, Sales, 22, 25, 2022, Sweden
       Nils, Marketing, 33, 18, 2022, Sweden
       Patrick, Marketing, 44, 43, 2022, Canada
       Anna, Sales, 55, 33, 2023, Canada
       Johan, Sales, 66, 26, 2025, Sweden
       Olle, Marketing, 77, 19, 2023, Sweden
       Bonnie, Marketing, 88, 44, 2023, US
];
```

結果

特定の値でフィルタリングされた集計を含む項目を追加した結果

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	SlidingWindow
David	Sales	11	32	2019	Canada	11-22
Sara	Sales	22	25	2022	Sweden	11-22-55
Nils	Marketing	33	18	2022	Sweden	33-44
Patrick	Marketing	44	43	2022	Canada	33-44-77
Anna	Sales	55	33	2023	Canada	22-55-66

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	SlidingWindow
Johan	Sales	66	26	2025	Sweden	55-66
Olle	Marketing	77	19	2023	Sweden	44-77-88
Bonnie	Marketing	88	44	2023	US	77-88

例 - ソートされたスライディング ウィンドウを使用した項目の追加

例: スライディング ウィンドウを使用したフィールドの追加

ロード スクリプト

データ ロード エディタで新しいタブを作成し、次のデータをインライン ロードとしてロードします。結果を確認するには、以下の Qlik Sense のテーブルを作成します。

```
[Employees]:
Load
       *,
       Window(concat(Text(Salary),'-'), Department, 'ASC', Age, -1, 1) as SortedSlidingWindow
Inline [
       Name, Department, Salary, Age, Year, Country
       David, Sales, 11, 32, 2019, Canada
       Sara, Sales, 22, 25, 2022, Sweden
       Nils, Marketing, 33, 18, 2022, Sweden
       Patrick, Marketing, 44, 43, 2022, Canada
       Anna, Sales, 55, 33, 2023, Canada
       Johan, Sales, 66, 26, 2025, Sweden
       Olle, Marketing, 77, 19, 2023, Sweden
       Bonnie, Marketing, 88, 44, 2023, US
];
```

結果

特定の値でフィルタリングされた集計を含む項目を追加した結果

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	SortedSlidingWindow
David	Sales	11	32	2019	Canada	11-55-66
Sara	Sales	22	25	2022	Sweden	22-66
Nils	Marketing	33	18	2022	Sweden	33-77-88
Patrick	Marketing	44	43	2022	Canada	44-77
Anna	Sales	55	33	2023	Canada	11-55
Johan	Sales	66	26	2025	Sweden	11-22-66
Olle	Marketing	77	19	2023	Sweden	33-44-77
Bonnie	Marketing	88	44	2023	US	33-88

パーティションと並べ替え順序がスライディング ウィンドウの集計にどのように影響するかをよりよく理解するには、テーブルを名前の昇順に並べ替えます。

特定の値向けにフィルターされた集計を含む項目を追加した結果

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	SortedSlidingWindow
Anna	Sales	55	33	2023	Canada	11-55
Bonnie	Marketing	88	44	2023	US	33-88
David	Sales	11	32	2019	Canada	11-55-66
Johan	Sales	66	26	2025	Sweden	11-22-66
Nils	Marketing	33	18	2022	Sweden	33-77-88
Olle	Marketing	77	19	2023	Sweden	33-44-77
Patrick	Marketing	44	43	2022	Canada	44-77
Sara	Sales	22	25	2022	Sweden	22-66

Johan の行では、集計に *David* と *Sara* の給与値も含まれています。これらは、名前順に並べ替えた場合の *Sales* 部門パーティション内の前の行と次の行です。

含まれる行を示す別の例として、**Windows** 式を `Window(concat(Text(Salary),'-'), Department, 'ASC', Age, -1, 1)` から `Window(concat(Text(Name),'-'), Department, 'ASC', Age, -1, 1)` に変更してリロードします。以下の表の SortedSlidingWindow の値は、パーティション *Sales* 内の前の行と次の行の名前を示します。

特定の値でフィルタリングされた集計を含む項目を追加した結果

Name	Department	Salary	Age	Year	Country	SortedSlidingWindow
Anna	Sales	55	33	2023	Canada	Anna-David
Bonnie	Marketing	88	44	2023	US	Bonnie-Nils
David	Sales	11	32	2019	Canada	Anna-David-Johan
Johan	Sales	66	26	2025	Sweden	David-Johan-Sara
Nils	Marketing	33	18	2022	Sweden	Bonnie-Nils-Olle
Olle	Marketing	77	19	2023	Sweden	Nils-Olle-Patrick
Patrick	Marketing	44	43	2022	Canada	Olle-Patrick
Sara	Sales	22	25	2022	Sweden	Johan-Sara

制限

Window には、次の制限があります。

- **Window** はリソースを大量に消費する関数です (特にメモリ)。
- **Window** は Qlik Sense Mobile には対応していません。
- チャートの数式は **Window** をサポートしていません。
- **Window** 関数は、他の **Window** 関数の内側にネストできません。

- **Window** は、集計関数の内側で使用できません。
- **Window** は、group by 句を含む Load ステートメントでは使用できません。
- **Window** は、where 句を含む load ステートメントでは使用できません
- **Window** は、テーブル全体をスキャンできる必要があります。
- スライディング ウィンドウ機能を使用している場合、**WRank()**、**RecNo()**、および **RowNo()** は、**Window** と使用できません。
- スライディング ウィンドウ機能を使用すると、ウィンドウのサイズに応じて計算時間が増加します。一般的に、大きなテーブルと大きなウィンドウ サイズの組み合わせは避けるべきです。

WRank

WRank() は、ロード スクリプトでテーブルの行を評価し、それぞれの行に対して、ロード スクリプトで評価された項目の値の相対位置を示します。この関数はテーブルの評価時に、結果を現在のパーティションに含まれるその他の行の結果と比較して、セグメント内の現在の行のランキングを返します。

テーブルのパーティション



WRank は、**Window** 関数でのみ使用できます。**Window** 関数には、ソート タイプとソート数式が含まれている必要があります。ランキングは、ソート数式で適用されます。

構文:

```
WRank ([mode[, fmt]])
```

戻り値データ型: dual

引数:

引数

引数	説明
mode	オプションで、関数の計算結果の数値表現を指定します。
fmt	オプションで、関数の計算結果のテキスト表現を指定します。

ランキングは、デュアル値として返されます。行ごとに固有のランキングがある場合、1 から現在のパーティション内の行数を示す整数になります。

複数の行がランキングを共有する場合は、テキストおよび数値表現を **mode** および **fmt** のパラメータで制御できます。

mode

1 番目の引数 **mode** は、次のいずれかの値になります。

mode値

値	説明
0 (デフォルト)	共有グループ内のすべての順位がランキング全体の中間値以下に入る場合、いずれの行も共有グループ内の最低順位を取得します。 共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の中間値以上に入る場合は、いずれの行も共有グループ内の最高順位を取得します。 共有グループ内の順位がランキング全体の中間値をまたぐ場合は、いずれの行もパーティション全体の最高順位と最低順位の平均に相当する値を取得します。
1	すべての行における最低順位。
2	すべての行における平均順位。
3	すべての行における最高順位。
4	最初の行における最低順位、その後は行ごとに 1 ずつ増加。

fmt

2 番目の引数 **fmt** は、次の値を取ることができます。

fmt値

値	説明
0 (デフォルト)	すべての行における低い値 **-** 高い値 (例: 3 - 4)。
1	すべての行における低い値。
2	最初の行における低い値、その後のグループ内の行は空白。

mode 4 と**fmt** 2 の行の順序は、テーブル項目のロード順で決定されます。

例 - ランク付けされた項目の追加

例: ランク付けされた項目の追加

ロードスクリプト

データロードエディタで新しいタブを作成し、次のデータをインライン ロードとしてロードします。結果を確認するには、以下の Qlik Sense のテーブルを作成します。

```
Transactions:
Load
*,
Window(WRank(0),customer_id, 'Desc', transaction_amount) as TransactionRanking;

Load * Inline [
transaction_id, transaction_date, transaction_amount, transaction_quantity, customer_id, size,
color_code
3750, 20180830, 23.56, 2, 2038593, L, Red
```

```
3751, 20180907, 556.31, 6, 203521, M, Orange
3752, 20180916, 5.75, 1, 5646471, S, Blue
3753, 20180922, 125.00, 7, 3036491, L, Black
3754, 20180922, 484.21, 13, 049681, XS, Red
3756, 20180922, 59.18, 2, 2038593, M, Blue
3757, 20180923, 177.42, 21, 203521, XL, Black
3758, 20180924, 153.42, 14, 2038593, L, Red
3759, 20180925, 7.42, 5, 203521, M, Orange
3760, 20180925, 80.12, 18, 5646471, M, Blue
3761, 20180926, 3.42, 7, 3036491, XS, Black
3763, 20180926, 63.55, 12, 049681, S, Red
3763, 20180927, 177.56, 10, 2038593, L, Blue
3764, 20180927, 325.95, 8, 203521, XL, Black
];
```

結果

ランキング付けされた項目を追加した結果

transaction_id	transaction_date	transaction_amount	transaction_quantity	customer_id	size	color_code	TransactionRanking
3750	20180830	23.56	2	2038593	L	赤色	4-4
3751	20180907	556.31	6	203521	M	オレンジ	1-1
3752	20180916	5.75	1	5646471	S	青	2-2
3754	20180922	484.21	13	049681	XS	赤色	1-1
3756	20180922	59.18	2	2038593	M	青	3-3
3753	20180922	125.00	7	3036491	L	黒	1-1
3757	20180923	177.42	21	203521	XL	黒	3-3
3758	20180924	153.42	14	2038593	L	赤色	2-2
3759	20180925	7.42	5	203521	M	オレンジ	4-4
3760	20180925	80.12	18	5646471	M	青	1-1
3763	20180926	63.55	12	049681	S	赤色	2-2
3761	20180926	3.42	7	3036491	XS	黒	2-2
3764	20180927	325.95	8	203521	XL	黒	2-2
3763	20180927	177.56	10	2038593	L	青	1-1

例 - 1 桁の結果に対して fmt を使用してランク付けされた項目を追加する

例: 1 桁の結果に対して fmt を使用してランク付けされた項目を追加

ロード スクリプト

データ ロード エディタで新しいタブを作成し、次のデータをインライン ロードとしてロードします。結果を確認するには、以下の Qlik Sense のテーブルを作成します。

```
Transactions:
Load
*,Window(WRank(0,1),customer_id, 'Desc', transaction_amount) as TransactionRanking;

Load * Inline [
transaction_id, transaction_date, transaction_amount, transaction_quantity, customer_id, size,
color_code
3750, 20180830, 23.56, 2, 2038593, L, Red
3751, 20180907, 556.31, 6, 203521, M, Orange
3752, 20180916, 5.75, 1, 5646471, S, Blue
3753, 20180922, 125.00, 7, 3036491, L, Black
3754, 20180922, 484.21, 13, 049681, XS, Red
3756, 20180922, 59.18, 2, 2038593, M, Blue
3757, 20180923, 177.42, 21, 203521, XL, Black
3758, 20180924, 153.42, 14, 2038593, L, Red
3759, 20180925, 7.42, 5, 203521, M, Orange
3760, 20180925, 80.12, 18, 5646471, M, Blue
3761, 20180926, 3.42, 7, 3036491, XS, Black
3763, 20180926, 63.55, 12, 049681, S, Red
3763, 20180927, 177.56, 10, 2038593, L, Blue
3764, 20180927, 325.95, 8, 203521, XL, Black
];
```

結果

1 桁の結果に fmt を使ってランキングされた項目を追加した結果

transaction_id	transaction_date	transaction_amount	transaction_quantity	customer_id	size	color_code	TransactionRanking
3750	20180830	23.56	2	2038593	L	赤色	4
3751	20180907	556.31	6	203521	M	オレンジ	1
3752	20180916	5.75	1	5646471	S	青	2
3754	20180922	484.21	13	049681	XS	赤色	1
3756	20180922	59.18	2	2038593	M	青	3
3753	20180922	125.00	7	3036491	L	黒	1

transaction_id	transaction_date	transaction_amount	transaction_quantity	customer_id	size	color_code	TransactionRanking
3757	20180923	177.42	21	203521	XL	黒	3
3758	20180924	153.42	14	2038593	L	赤色	2
3759	20180925	7.42	5	203521	M	オレンジ	4
3760	20180925	80.12	18	5646471	M	青	1
3763	20180926	63.55	12	049681	S	赤色	2
3761	20180926	3.42	7	3036491	XS	黒	2
3764	20180927	325.95	8	203521	XL	黒	2
3763	20180927	177.56	10	2038593	L	青	1

例 - 複数のパーティションを持つランク付けされた項目を追加する

例: 複数のパーティションを持つランク付けされた項目を追加

ロードスクリプト

データロードエディタで新しいタブを作成し、次のデータをインライン ロードとしてロードします。結果を確認するには、以下の Qlik Sense のテーブルを作成します。

```
Transactions:
Load
*,Window(WRank(0,1),customer_id, size, color_code, 'Desc', transaction_amount) as
TransactionRanking;

Load * Inline [
transaction_id, transaction_date, transaction_amount, transaction_quantity, customer_id, size,
color_code
3750, 20180830, 23.56, 2, 2038593, L, Red
3751, 20180907, 556.31, 6, 203521, M, Orange
3752, 20180916, 5.75, 1, 5646471, S, Blue
3753, 20180922, 125.00, 7, 3036491, L, Black
3754, 20180922, 484.21, 13, 049681, XS, Red
3756, 20180922, 59.18, 2, 2038593, M, Blue
3757, 20180923, 177.42, 21, 203521, XL, Black
3758, 20180924, 153.42, 14, 2038593, L, Red
3759, 20180925, 7.42, 5, 203521, M, Orange
3760, 20180925, 80.12, 18, 5646471, M, Blue
3761, 20180926, 3.42, 7, 3036491, XS, Black
3763, 20180926, 63.55, 12, 049681, S, Red
3763, 20180927, 177.56, 10, 2038593, L, Blue
3764, 20180927, 325.95, 8, 203521, XL, Black
];
```

結果

1 桁の結果に fmt を使ってランキングされた項目を追加した結果

transaction_id	transaction_date	transaction_amount	transaction_quantity	customer_id	size	color_code	TransactionRanking
3750	20180830	23.56	2	2038593	L	赤色	2
3751	20180907	556.31	6	203521	M	オレンジ	1
3752	20180916	5.75	1	5646471	S	青	1
3754	20180922	484.21	13	049681	XS	赤色	1
3756	20180922	59.18	2	2038593	M	青	1
3753	20180922	125.00	7	3036491	L	黒	1
3757	20180923	177.42	21	203521	XL	黒	2
3758	20180924	153.42	14	2038593	L	赤色	1
3759	20180925	7.42	5	203521	M	オレンジ	2
3760	20180925	80.12	18	5646471	M	青	1
3763	20180926	63.55	12	049681	S	赤色	1
3761	20180926	3.42	7	3036491	XS	黒	1
3764	20180927	325.95	8	203521	XL	黒	1
3763	20180927	177.56	10	2038593	L	青	1

制限

7WRank には、次の制限があります。

- fmt 値が 0 で、**WRank** のデュアル結果のテキスト部分を使用する場合、**Window(WRank)** に **Text()** を使用する必要があります。例: `Text(Window(WRank(0), Unit, 'DESC', Age)) as UnitWRankedByAgeText`。

11 セキュリティ

QlikView におけるセキュリティのメカニズムは、2 つの異なる方法で設定できます。QlikView ドキュメントのロードスクリプトに組み込むか、QlikView Publisher を使用して設定します。

11.1 認証と承認

認証は、承認を求めている人が本人であることを検証するためのプロセスです。QlikView では、Windows オペレーティング システムに認証を任せるか、ユーザー ID とパスワード(Windows のユーザー ID とパスワードとは異なるもの) を要求するか、QlikView ライセンス キーを簡単な認証方法として使用することができます。

承認は、識別された人がリソースを持つことを許可されているかどうかを判断することです。QlikView は、Windows オペレーティング システムに承認を任せるか、自身で承認を行うことができます。後者の場合は、セキュリティテーブルをロードスクリプトに組み込む必要があります。

11.2 QlikView Publisher によるセキュリティ

QlikView Publisher でセキュリティを処理するように設定すると、各 QlikView ファイルがいくつかのファイルに分割され、関連ユーザーまたはユーザー グループに関するデータが各ファイルに格納されます。これらのファイルは、正しい OS セキュリティ設定を含むフォルダに格納されます。つまり、QlikView はオペレーティング システムに認証と承認を処理させます。

ただし、ファイル自体に組み込まれたセキュリティがないので、ダウンロードしたファイルは保護されません。

1 つのファイルがいくつかに分割され、ユーザーは自分のデータを含むファイルを開くだけなので、通常はファイル サイズが小さくなります。ただし、これにより、同じデータを含む複数のファイルがロードされることがあるので、1 つのファイルにすべてのデータを保持する場合に比べて、QlikView Server が使用するメモリが増える可能性もあります。

詳細については、QlikView Publisher のドキュメントを参照してください。

11.3 QlikView ロードスクリプトのセクション アクセスによるセキュリティ

QlikView スクリプトの Section Access でセキュリティを処理するように設定すると、1 つのファイルで多数のユーザーやユーザー グループのデータを保持できます。QlikView は、Section Access 内の情報を使用することにより、認証と承認を行い、ユーザーが自分のデータのみにアクセスするようにデータを動的に削減します。

ファイル自体にセキュリティが組み込まれるので、ダウンロードしたファイルもある程度まで保護されます。ただし、セキュリティの必要性が高い場合は、ファイルのダウンロードとオフライン使用を禁止する必要があります。ファイルは、QlikView Server によってのみ公開する必要があります。

1 つのファイルにすべてのデータが保持されるので、このファイルはサイズが非常に大きくなる可能性があります。

QlikView ドキュメントは、オフライン モードで非表示にすることができます。オフラインのユーザー ドキュメントを非表示にするには、QMC を使用して、ユーザー ドキュメントのドキュメント情報セクションで、次の属性を追加します。

- 名前: *表示しない*
- 値:*真*

以下の情報すべては、QlikView スクリプトの Section Access を使用したセキュリティ方法に関連します。

11.4 ロードスクリプトのセクション

行レベルのアクセスは、データが通常ロードされるのと同じ方法でロードされる 1 つまたは複数のセキュリティテーブルを通じ管理されます。これにより、これらのテーブルを標準のデータベースまたはスプレッドシートに保存できます。セキュリティテーブルを管理するスクリプトステートメントは、スクリプトの中で **Section Access** ステートメントで開始される承認セクション内に指定します。
スクリプト内で承認セクションが定義されている場合、アプリケーションのデータをロードする部分のスクリプトを **Section Application** で開始される別のセクション内に配置する必要があります。

```
Section Access;
AuthorizationTable:
Load ACCESS,  USERID,   REGION From ...;

Section Application;
Load ... From ...;
```

11.5 セクション アクセスのアクセス レベル

指定したユーザーまたはユーザーのグループに対して、QlikView ドキュメントへのアクセスを承認できます。セキュリティテーブルでは、アクセス レベルの ADMIN または USER をユーザーに割り当てることができます。アクセス レベルが割り当てられていないユーザーは、QlikView ドキュメントを開くことができません。
管理者 ("ADMIN") アクセス権限を持つ人は、ドキュメントのすべての項目を変更できます。管理者アクセス権限 ("ADMIN") を与えられた人は、**[ドキュメント プロパティ]** ダイアログと**[シート プロパティ]** ダイアログの **[セキュリティ]** ページを使用して、ユーザーがドキュメントを変更する可能性を制限できます。ユーザー権限 ("USER") を与えられた人は、**[セキュリティ]** ページにアクセスできません。

> *管理者アクセス権 (ADMIN) はローカル ドキュメントにのみ当てはまります。サーバー上で開かれたドキュメントには、常にユーザー権限 (USER) でアクセスされます。*

11.6 セクション アクセスのシステム項目

アクセス レベルは、セクション アクセス内にロードされた 1 つまたは複数のテーブルに含まれるユーザーに割り当てられます。これらのテーブルには、さまざまなユーザー固有のシステム項目を含めることができます。通常は、"USERID" と"PASSWORD"、およびアクセス レベルを定義する項目の "ACCESS" です。**セクション アクセス** のすべてのシステム項目が認証と承認に使用されます。**section access** のすべてのシステム項目を以下に説明します。
セキュリティ項目は、すべてまたは任意の組み合わせをアクセス セクションにロードできます。また、何もロードしないことも可能です。よって、USERID を使用する必要はありません。シリアル番号など、他の項目のみを使用して、承認を行うことができます。

セクション アクセスのシステム項目

項目	説明
ACCESS	対応するユーザーに与えられるアクセス権限を定義する項目。
USERID	許可されるユーザーID を含む項目。QlikView がユーザーID の入力を要求し、この項目の値と比較します。このユーザーID は、Windows のユーザーID と同じではありません。
USER.EMAIL	現在はサポートされていません。QlikView ではワイルドカードにのみ一致します。
PASSWORD	許可されるパスワードを含む項目。QlikView がパスワードの入力を要求し、この項目の値と比較します。このパスワードは、Windows のパスワードと同じではありません。
SERIAL	QlikView シリアル番号に対応する番号、または文字列 'QLIKVIEW' を含む必要があるフィールド。 例 : 4900 2394 7113 7304。 QlikView がユーザーのシリアル番号または文字列 'QLIKVIEW' を確認し、それをこの項目の値と比較します。
NTNAME	Windows NT のドメイン ユーザー名またはグループ名に対応する文字列を含む項目。別の認証システムを使用する場合、認証されたユーザーの名前が含まれている必要があります。 QlikView が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。
NTDOMAINSID	Windows NT ドメイン SID に対応する文字列を含む必要があるフィールド。 例 : S-1-5-21-125976590-4672381061092489882。 QlikView が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。
NTSID	Windows NT SID を含む必要があるフィールド。 例 : S-15-21-125976590-467238106-1092489882-1378。 QlikView が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。
OMIT	この特定のユーザーに対して省略する項目を含む項目。ワイルドカードを使用することができます。空にすることもできます。これを手軽に行うには、サブフィールドを使用します。 *基盤のデータ構造が変更されてしまうため、キー項目には OMIT を適用しないでください。適用すると、論理の孤立化や計算の矛盾が生じる可能性があります。*

QlikView は、QlikView のシリアル番号を *SERIAL* 項目と、Windows NT ユーザー名およびグループを *NTNAME* と、Windows NT ドメインの SID を *NTDOMAINSID* と、Windows NT の SID を *NTSID* と比較します。さらに、ユーザーID とパスワードの入力を要求し、それらを *USERID* および *PASSWORD* 項目と比較します。
ユーザーID、パスワード、および環境プロパティの見つかった組み合わせが **section access** テーブルでも見つかると、対応するアクセス レベルでドキュメントが開きます。見つからない場合、QlikView はドキュメントへのユーザー アクセスを拒否します。ユーザーID やパスワードが正しく入力されない場合は、ログオン手順全体を繰り返す必要があります。

QlikView の特徴である同じ内部ロジックがアクセス セクションでも使用されているので、セキュリティ項目をさまざまなテーブルに配置できます。このため、システム管理者はセキュリティテーブルからQlikView ドキュメントを作成できます。この場合は、対応する項目値をクリックすることで、正しいシリアル番号、パスワードなどがシミュレートされます。)

ログオン手順では、QlikView は最初に *SERIAL*、*NTNAME*、*NTDOMAINSID*、*NTSID* をチェックして、この情報がドキュメントへのユーザー アクセスを許可するために十分であるかどうかを確認します。十分である場合、QlikView はユーザー ID とパスワードの入力を要求せずに、ドキュメントを開きます。

アクセス項目の一部のみがロードされる場合は、上の要件のうちの対応する部分が使用されます。

セクション アクセス内の **LOAD** または **SELECT** ステートメントにリストする項目は、すべて大文字で記述する必要があります。データベース内の小文字を含む項目名は、**Load** または **Select** ステートメントで読み取られる前に、**upper** 関数を使用して大文字に変換する必要があります。

Upper (page 1524)

ただし、QlikView ドキュメントを開くエンドユーザーが入力するユーザー ID とパスワードは、大文字と小文字が区別されません。

ワイルドカード(*) は、この項目に含まれるすべての値 (リストされている値)、つまりこのテーブル内のその他の場所にリストされている値として解釈されます。スクリプトのアクセス セクションでロードされたテーブル内のシステム項目 (*USERID, PASSWORD, NTNAME*、*SERIAL*) の 1 つで使用される場合は、この項目のすべての可能な値 (リストされていない値も含む) として解釈されます。

QVD ファイルからデータをロードする際に Upper 関数を使用すると、ロード速度が低下します。

*inline ステートメントでアクセス テーブルを生成するには、**[アクセス制限 テーブル ウィザード]** を使用します。*

セクション アクセスを有効にした場合は、ここにリストされたセクション アクセスのシステム項目名をデータ モデルの項目名として使用できなくなります。

シリアル番号のみがチェックされます。特定の 1 台のコンピュータに管理者アクセス権限が与えられます。それ以外のすべてにユーザー アクセス権限が与えられます。このとき、スターを使用して "任意のシリアル番号" を示すことができます。

例 1

ACCESS	SERIAL
ADMIN	4900 2394 7113 7304。
USER	*

管理者と、QlikView がバッチ ジョブとして実行されているサーバーに、管理者アクセス権が与えられます。ドメインのその他の人は、ユーザー ID とパスワードとして "USER" と入力することにより、ユーザー アクセス権が与えられます。

例 2

ACCESS	SERIAL	NTDOMAINSID	USERID	PASSWORD
ADMIN	*	S-1-5-21-125976590-467238106-1092489882	ADMIN	ADMIN
ADMIN	4900 2394 7113 7304。	*	*	*
USER	*	S-1-5-21-125976590-467238106-1092489882	USER	USER

11.7 混合環境

QlikView とQlik Cloud の両方で同じ権限テーブルを使用する場合は、いくつか注意すべき点があります:

• USERID は QlikView とQlik Cloud で意味が異なり、使用した場合、セキュリティ上の問題を引き起こす可能性があります。代わりに NTNAME を使用するか、以下で説明するように SERIAL と組み合わせてください。

• GROUP および 'USER.NAME' や 'USER.EMAIL' など、'USER.' で始まる項目は、Qlik Sense Enterprise SaaS の認証項目です (または今後認証項目になります)。セクション アクセスでこれらの項目を使用すると、Qlik Cloud でアクセスが拒否される場合があります。

• PASSWORD、NTSID、NTDOMAINSID は Qlik Cloud では使用できません。ワイルドカードを使用しない限り、アクセスは拒否されます。

• SERIAL を使用して Qlik Cloud のライセンス番号を確認することはできません。ただし、この項目に文字列「QLIKCLOUD」または「QLIKVIEW」が含まれている場合は、アクセスが許可される場合があります。これは、次のような承認テーブルを持つことが可能であることを意味します。この場合、1 行目では QlikView でのアクセスが許可され (Qlik Cloud では許可されず)、2 行目では Qlik Cloud でのアクセスが許可されます (QlikView では許可されません)。

線	SERIAL	USERID	コメント
1	4600 0123 4567 8901	*	QlikView の正しいライセンス番号へのアクセス権を付与します。
2	QLIKCLOUD	John Doe	Qlik Sense Enterprise SaaS で適切なユーザーにアクセス権を付与します。

線	SERIAL	USERID	コメント
1	QLIKVIEW	*	QlikView へのアクセスを許可します。
2	QLIKCLOUD	John Doe	Qlik Sense Enterprise SaaS で適切なユーザーにアクセス権を付与します。

11.8 QlikView 機能の制限

ドキュメントプロパティ: [セキュリティ] ページと**シートプロパティ: [セキュリティ]** ページにあるコントロールを使用すると、特定のメニュー項目へのアクセスを拒否したり、レイアウトの変更を禁止したりすることができます。これらの設定を本格的な保護の手段として使用する場合は、ドキュメントユーザーがユーザーとしてログインすることが重要です。管理者としてログインした人は、いつでもセキュリティ設定を変更できます。

ユーザー権限でドキュメントを開いたユーザーには、[プロパティ] ダイアログの **[セキュリティ]** ページが表示されません。

11.9 動的データ削除

QlikView と QlikView Server は、**section access** ログインに基づいてドキュメントの一部のデータをユーザーに表示しない機能をサポートします。

第 1 に、システム項目の **OMIT** を使用して項目 (列) を非表示にできます。

第 2 に、**Section Access** のデータを実際のデータにリンクして、レコード (行) を非表示にできます。表示/除外する値の選択は、1 つ以上の項目に **section access** と **section application** で共通の名前を付けて制御します。ユーザー ログイン後、QlikView は、**section access** での項目内の選択を **section application** の完全に同じ名前 (項目名は大文字で記述) の項目にコピーしようとします。選択が行われると、QlikView は選択によって除外されたすべてのデータをユーザーに表示しなくなります。

この処理が行われるには、**ドキュメントプロパティ: 起動画面** ページで **セクション アクセスによる初期データ削除** オプションを選択する必要があります。QlikView Server を使用する以外の方法で配布されるドキュメントでこの機能を使用する場合は、[ドキュメントプロパティ] の同じページで**バイナリ ロード禁止** オプションを選択して、データ保護を維持する必要があります。

> ***section access*** *では、すべての項目名と項目値がデフォルトで大文字に変換されるので、上で説明した転送で使用するすべての項目名とそれらの項目のすべての項目値を大文字にする必要があります。*

```
section access;
LOAD * inline [
ACCESS, USERID, REDUCTION, OMIT
ADMIN, ADMIN, *,
USER, A, 1
USER, B, 2, NUM
USER, C, 3, ALPHA
];
section application;
T1:
LOAD *,
NUM AS REDUCTION;
LOAD
Chr( RecNo()+ord('A')-1) AS ALPHA,
RecNo() AS NUM
AUTOGENERATE 3;
```

現在、項目 REDUCTION (大文字) が **section access** と**section application** の両方にあります (全ての項目値も大文字)。通常、2 つの項目はまったく異なり、区別されますが、**[セクション アクセスによる初期データ削除]** オプションを選択した場合、それらはリンクされ、ユーザーに表示されるレコード数は減少します。

section access の項目 OMIT で、ユーザーから隠すべき項目を定義します。

結果は次のようになります。

User A は、すべての項目とREDUCTION=1 に接続されたレコードを見ることができます。

User B は、NUM 以外のすべての項目とREDUCTION=2 に接続されたレコードを見ることができます。

User C は、ALPHA 以外のすべての項目とREDUCTION=3 に接続されたレコードを見ることができます。

11.10 アクセス制限の継承

バイナリロードを使用すると、新しい QlikView ドキュメントによってアクセス制限が継承されます。この新しいドキュメントへの管理者権限を持つ人は、新しい **access** section を追加して、この新しいドキュメントのアクセス権を変更できます。ユーザー権限を与えられた人は、スクリプトを実行したり、スクリプトを変更できるので、バイナリロードされたファイルに独自のデータを追加できます。しかし、アクセス権を変更することはできません。これにより、データベース管理者はバイナリロードされた QlikView ドキュメントに対してもユーザー アクセスを制御できます。

11.11 暗号化

QlikView Server とQlikView Windows クライアントの間の通信は暗号化されます。ただし、AJAX クライアントを使用する場合、通信は暗号化されません。

さらに、すべての QlikView ドキュメントが暗号化されるので、ビューアー、デバッガなどで情報を読み取ることはできません。

また、お客様が用意したキーペアを使用して QVD ファイル内の機密データを暗号化することもできます。これにより、誰がデータにアクセスするかを制御できます。

12 AJAX/WebView

このQlikView ローカル クライアントの WebView モードとAJAX クライアントのヘルプになります。いくつかの機能は、クライアントによって少々異なる場合があります。

12.1 QlikView ローカル クライアントの WebView モード

QlikView ローカル クライアントを起動している場合、ツールバーのボタンをクリックするだけで、従来表示とAJAX 表示を切り替えることができるようになりました。この便利な機能により、開発者は AJAX クライアントで表示した場合の正確なレイアウトを確認できます。WebView で起動している場合、AJAX のプロパティダイアログが利用でき、標準表示では利用できない機能がいくつか提供されます。しかし、以下に挙げるように、WebView で利用できない機能があるので、ご了解ください:

- レポート編集。
- 切り取り、コピー、貼り付けといったメニュー コマンド(ショートカットの Ctrl+X, Ctrl+C, and Ctrl+V) 。
- チャートのアニメーション表示。
- 埋め込み画像の印刷またはエクスポート。

12.2 チャートの画像をクリップボードにコピー

Ctrl+Shift を押してチャート オブジェクトを右クリックし、メニューから[コピー] を選択すると、チャート オブジェクトの画像をコピーできます。

12.3 タッチ機能

次の機能はタッチ スクリーンでサポートされています。

- オブジェクトの作成
- オブジェクトの移動、コピー、およびサイズ変更
- プロパティの変更

12.4 ファイル名における制限

AJAX クライアントを使用しているQlikView ドキュメントを共有したい場合、ファイル名にはハッシュ(#) 記号は使用できません。

12.5 キーボード ショートカット

QlikView Desktop キーボード ショートカットは AJAX クライアントでは無効です。

12.6 モバイル クライアントでの AJAX

モバイル クライアント向け AJAX は、スマートフォンなど小型のタッチ式デバイスにおけるQlikView データ探索のサポートを提供します。QlikView はモバイル クライアントのスクロールやズームといったビルトイン機能との同時使用が可能なため、既存のアプリケーションは再設計なしで使用できる場合があります。QlikView ドキュメントはモ

バイル クライアントに合わせてオブジェクトを自動的に再設計するレイアウト、あるいはオリジナルのアプリケーション レイアウトで開くことができます。Ajax クライアントのブラウザとは異なり、モバイル クライアントのバージョンはシートの概念がありません。そのため、すべてのオブジェクトがロードされます。モバイル クライアント バージョン用に大型のドキュメントを開発するのは避けてください。

次の説明は iPhone を使用した場合であり、他のモバイル クライアントでは詳細が異なる場合がありますのでご注意ください。

モバイル クライアントでのAJAXの準備

QlikView ドキュメントへの接続

QlikView AccessPoint から利用可能なすべての QlikView ドキュメントを選択できます。QlikView AccessPoint に接続するには、Web ブラウザに *http://localhost/qlikview/index.htm* と入力します。

QlikView AccessPoint の設定

QlikView AccessPoint のスタート ページで希望するモバイル バージョンを選択します。

QlikView プラットフォーム バージョン

バージョン	**詳細 (Details)**
モバイル クライアントのバージョン	モバイル クライアントに合わせてオブジェクトを自動的に再設計するレイアウトで QlikView ドキュメントを表示します。
Ajax クライアント	オリジナルのアプリケーション レイアウトで QlikView ドキュメントを表示します。

次に、設定をデバイスに保存するかを選択します。設定は、QlikView AccessPoint のスタート ページ右上の **[プロファイル]** タブにある **[お気に入りおよびプロファイル]** から後で編集することも可能です。

また、QlikView ドキュメントを開いている間は、レイアウトをいつでも切り替えられます。

ホーム画面でのショートカットの作成

QlikView ドキュメントを開くと**ホーム**画面でショートカットを作成することができます。ショートカットを使用することでブラウザのアドレス欄が不要となり、QlikView ドキュメントの作業スペースを最大限に使用できます。ショートカットの作成後は、アイコンをタップしてアプリケーションを起動します。

注意！ この説明は iPad または iPhone にのみ該当します。

モバイル クライアントでの QlikView ドキュメントの操作

適合レイアウト

モバイル クライアントの限られたスペースを有効利用するため、モバイル クライアント向け AJAX でドキュメントを開いた場合に一部のオブジェクトが含まれない場合があります:

- ボタン
- コンテナ
- 線/矢印

- 選択表示ボックス
- 入力ボックス
- マルチ ボックス
- ブックマーク オブジェクト
- 検索オブジェクト
- テキスト オブジェクト

除外オブジェクトには Ajax クライアントに切り替えるとアクセスできます。

シート間の移動

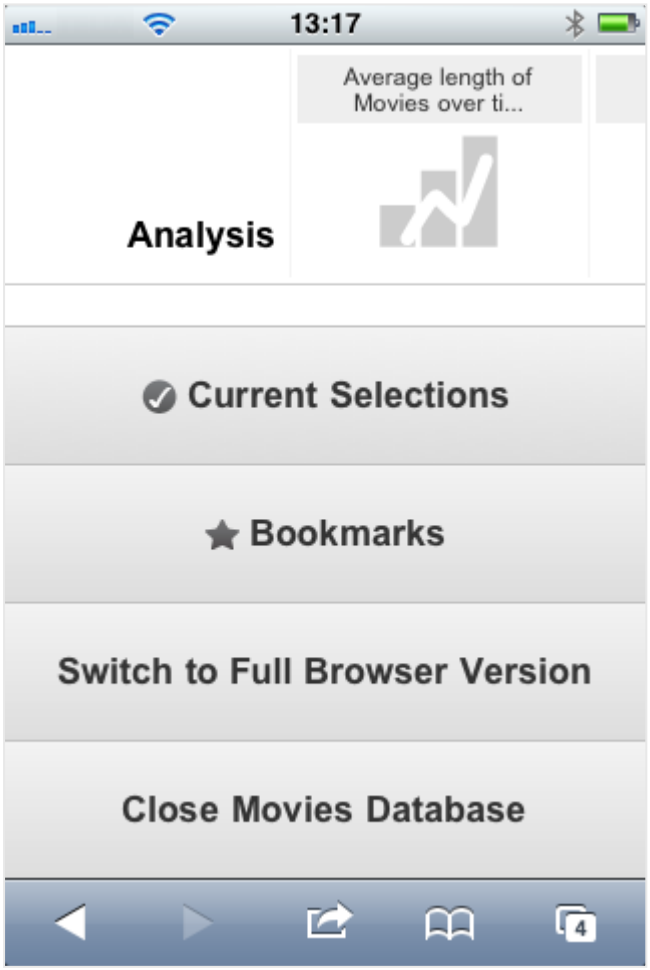
シート間を移動するには、指でシートを上下にドラッグします (垂直方向のスクロール)。

オブジェクト間の移動

ドキュメントのスタート画面から現在のシートのオブジェクト間を移動するには、指でシートを左右にドラッグします (水平方向のスクロール)。オブジェクトを選択するには、オブジェクトを押してください。

オブジェクトを選択した状態でシート上の次のオブジェクトに移動するには、左または右にフリック、または画面下のドット列を左または右方向にタップします。

メイン メニュー



QlikView ドキュメントが開いている場合、画面下のメイン メニューからさまざまな操作を行えます。

現在の選択条件

[現在の選択条件] を押すと現在選択されている条件が表示され、これらを編集または削除することができます。現在の選択条件は QlikView ドキュメント内のすべてのオブジェクトの表示に影響します。右上の矢印を押すと**[現在の選択条件]** メニューが開きます。このメニューでは、次の操作を行えます。

現在の選択条件オプション

オプション	説明
元に戻す	前の選択状態に戻します。
やり直し	**[元に戻す]** 前の選択状態に戻します。**[元に戻す]** と**[やり直し]** コマンドを交互に繰り返すことによって、2 つの状態を切り替えることができます。
すべての項目をロック	選択されている値をすべてロックします。
すべての項目をアンロック	ロックされているすべての値のロックを解除します。
選択をすべてクリアする	ロックされていないすべての選択をクリアします。
アンロックとクリア	すべての選択値のロックを解除し、クリアします。

ブックマーク

[ブックマーク] を押すとドキュメントで定義されたすべてのブックマークが表示されます。現在の選択条件の状態を後で使用するためにブックマークとして保存できます。ブックマークは、QlikView ドキュメントに定義されたすべてのステートの選択条件を記録します。作成されたブックマークを呼び出すと、すべてのステートの選択条件が適用されます。モバイル クライアント用のレイアウトを使用する場合、ブックマークは表示のみとなり、定義することはできません。

Ajax クライアントへの切り替え

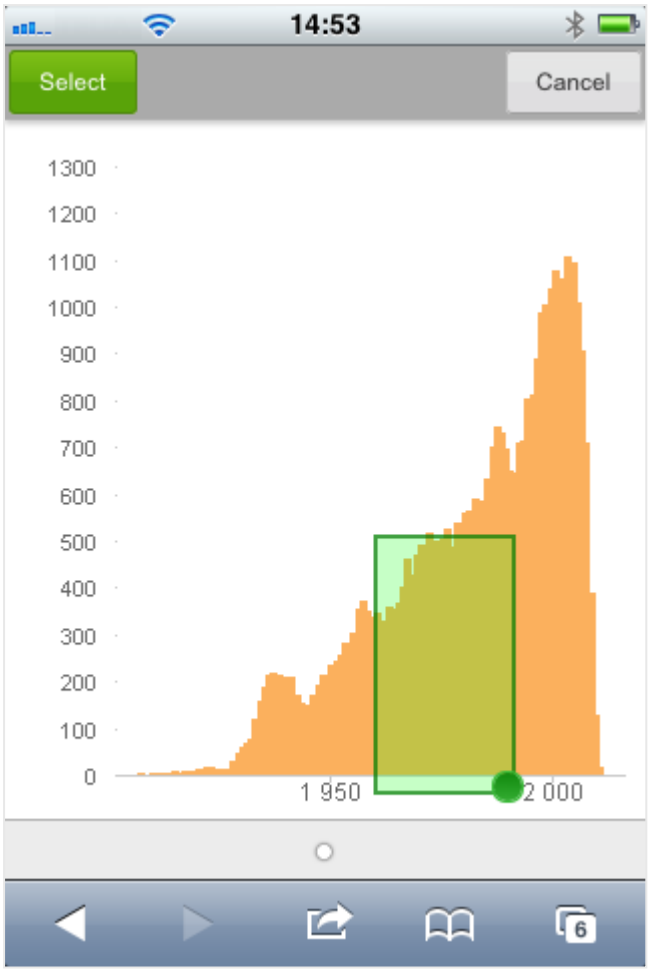
モバイル クライアント用に最適化されたバージョンの QlikView ドキュメントは、**[Ajax クライアントへの切り替え]** オプションを選択して、元のアプリケーション レイアウトに切り替えることができます。

[現在のドキュメント] を閉じる

現在のドキュメントを閉じます。

オブジェクトでの作業

棒グラフなどで表示される一部の値、または折れ線グラフの複数の折れ線を選択するには、サイズ変更可能な選択エリアが表示されるまでオブジェクトを指で触れ続けます。好みに合わせて変更エリアのサイズを変更するには、左上にある**[選択]** ボタンを押します。



選択された値が表示されます。

メニューが利用可能な場合は、右上にある矢印からアクセスできます。オブジェクトが選択されると、メニューに**[現在の選択条件]**と**[ブックマーク]**が含まれます。メニューを閉じるには X-アイコンを押します。

前の画面に戻るには左上にある**[戻る]** アイコンを押します。

リストボックスまたはテーブルの項目を複数選択するには、**[選択]**、**[クリア]**、**[キャンセル]** ボタンが画面上部に表示されるまでアイテムを指で触れ続けます。条件を追加するには **[選択ボタン]** ボタン、条件を削除するには **[クリア]** ボタンを使用します。

方向とズーム機能

モバイル クライアントを90°回転させると、横方向で QlikView ドキュメントの作業を行うことができます。

ドキュメントを Ajax クライアントで開いている場合、モバイル クライアントの通常のズーム機能を使用して QlikView オブジェクトをズームすることができます。

12.7 AccessPoint での優先言語の設定

既定では、QlikView WebView ではインストール時に選択された言語を使用しますが、AJAX では AccessPoint と QlikView ドキュメントの両方で英語を使用します。言語設定は QlikView AccessPoint で別の言語に変更できます。言語の選択は、クッキーに 1 年間保存されます。サポートされている言語の一覧については、「*対応している言語 (page 32)*」を参照してください。

ブラウザのクッキーを消去した場合には、言語を再度設定する必要があります。複数のブラウザを使用している場合は、使用している各ブラウザの AccessPoint で、言語選択を設定する必要があります。

AccessPoint で言語を変更しているときに QlikView ドキュメントが開いていた場合は、これを閉じて再度開かない限り、言語は変更されません。

次の手順を実行します。

1. AccessPoint にログインします。
2. [**お気に入りとプロファイル**] をクリックします。
3. [**プロファイル**] タブをクリックします。
4. [**優先言語**] ドロップダウンから言語を選択します。

AccessPoint が選択した言語で更新されて表示されます。

12.8 NPrinting On-Demand

QlikView WebView インターフェースで使用可能な On-Demand 機能によって、Qlik NPrinting テンプレートに基づいてレポートを作成することができます。On-Demand アドオンのインストールおよび On-Demand レポート作成の詳細については、次のセクションを参照してください。
≤ オンデマンドレポート

QlikView での Qlik NPrinting レポートの作成

1. QlikView WebView インターフェースで、ツールバーの [**On-Demand**] ボタンをクリックします。
   Qlik Nprinting ウィンドウが開きます。
2. [**レポートの作成**] をクリックします。
3. レポートをクリックして、使用する Qlik NPrinting レポートテンプレートを作成します。
4. レポートのエクスポート形式を選択します。
5. [**レポートの生成**] をクリックします。

レポートの状態が [**In queue**] (キュー内) としてリストされます。レポートが完了したら、コンピューターにダウンロードできます。

12.9 シート

QlikView ドキュメントには、シート オブジェクトを配置した 1 つ以上のシートを含められます。各シートには多くのシート オブジェクトを入れることができます。シートはロジックとは無関係です。2 つの項目が論理的に関連しているとして、それらは同じシートにあっても別のシートにあってもかまいません。選択を行った場合の論理的な結果は同じです。



起動しているのが WebView もしくは AJAX によって、これらの設定のうちいくつかは無効となる可能性があります。

シート: オブジェクト メニュー

シート: オブジェクト メニュー プロパティ

Property	[Details] (詳細)
プロパティ	シートの **プロパティ** ダイアログを開きます。
シート オブジェクトの追加	ダイアログが開かれ、そこからシート上にシート オブジェクトをドラッグできます。
リスト ボックスの追加	**[フィールド]** ダイアログを開きます。このページで、現在のシートに表示する項目を選択できます。
クリア	このボタンをクリックすると、QlikView ドキュメントの開始選択条件が適用されます。開始選択条件は設定できます。以下の **[クリア選択状態の設定]** を参照してください。
すべての選択をクリア	ドキュメントのすべての選択値を選択解除します。
クリア選択状態の設定	**クリア選択状態** として現在の選択条件を設定します。
クリア選択状態の解除	[クリア選択状態] に設定されている選択条件を解除します。
元に戻す	QlikView は、過去の選択条件を 100 段階まで記憶します。このボタンをクリックすると、選択条件のリストを 1 つ前に戻すことができます。
やり直し	**[やり直し]** をクリックすると、選択条件のリストを 1 つ次に進めることができます (直前の **[元に戻す]** コマンドを取り消すのと同じです)。
レイアウト変更を元に戻す	直前のレイアウト操作を元に戻します。

Property	[Details] (詳細)
レイアウト変更のやり直し	直前に元に戻したレイアウト操作をやり直します。
選択値をすべてロックする	誤って選択がクリアされることを防ぎます。
すべてをアンロック	前述のロックを解除します。
選択	**[現在の選択条件]** ボックスが開かれ、アクティブな選択条件を確認できます。
シートの追加	ドキュメントに新しいシートを追加します。
シートオブジェクトの貼り付け	**[切り取り]** または **[コピー]** コマンドを使用して前もってクリップボードに格納したシートオブジェクトを QlikView ドキュメント内に貼り付けます。
クイックチャートウィザード	**クイックチャートウィザード**ダイアログが開かれ、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフをごく基本的な設定で作成できます。
リポジトリ	**[リポジトリ]** ダイアログを開きます。
ブックマークの追加	現在の一連の選択条件をブックマークとして保存します。
ブックマークの削除	ドキュメントのすべてのブックマークを表示するドロップダウンリストを開きます。ここで削除するブックマークを選択します。
ブックマークのリンクを電子メールで送信	現在のサーバードキュメントへの URL リンクを含む電子メールを作成します。レイアウトの状態を含む一時的なサーバーブックマークが作成され、URL にエンコードされます。メール受信者は、ドキュメントとそのデータへのアクセス権がある場合、URL リンクを使用してサーバードキュメントを開き、送信者と同じ内容を確認できます。 **制限事項:** • このコマンドが機能するには、電子メールクライアントが設定されている必要があります。 • QlikView Server は、サーバーブックマークを許可する設定になっている必要があります。 • この機能はエクストラネットの展開ではサポートされていません。
削除	選択されているアイテムを削除します。
最新の情報に更新	QlikView ドキュメントを最新の情報に更新します。

12.10 ツールバー

Web ブラウザ ウィンドウ上部のツールバーには次のアイコンが含まれます。

ツールバー アイコン

アイコン	説明
	AccessPoint に戻ります。
	QlikView ドキュメントの開始選択条件を適用します。
	選択条件のリストを 1 つ前に戻します。
	**元に戻す** ボタンを使用した場合に、選択条件のリストを 1 つ次に進めます。
	直前のレイアウト操作を元に戻します。
	直前に元に戻したレイアウト操作をやり直します。
	選択されているセルをすべてロックします。
	ロックされているすべてのセルのロックを解除します。
	選択表示ウィンドウを開きます。
	*ノートを表示できる [ノートとコメント]* ウィンドウを開きます。
	**[リポジトリ]** ダイアログを開きます。
	**[新しいシート オブジェクト]** ダイアログを開きます。シートにドラッグするシート オブジェクトを選択できます。
	**[フィールド]** ダイアログを開きます。
	**[ブックマークの追加]** ダイアログを開きます。共有ブックマークにアクセスするには リポジトリから追加する必要があります。リポジトリから **編集** を選択し、**お気に入りに表示** をオンにします。
	ドキュメントのすべてのブックマークのリストを開きます。ブックマークを選択し、削除します。
	ドロップダウン リストには、ドキュメント内のすべてのブックマークのリストが含まれます。ブックマークは、名前で検索するか、ドロップダウンから選択できます。
	ドロップダウン リストには、ドキュメント内のすべてのレポートのリストが含まれます。レポートは、名前で検索するか、ドロップダウンから選択できます。
	ヘルプを開きます。

12.11 リポジトリ

このダイアログには、ドキュメントに含まれるオブジェクト、軸、数式、およびブックマークのリストが表示されます。オブジェクトやブックマークがある場合、最上部に位置する2つのドロップダウンボックスを使用すると、リストをフィルタリングできます。

フィルター オプション (オブジェクトおよびブックマーク)

フィルター オプション (オブジェクトおよびブックマーク)

オプション	説明
私が作成した項目を表示 (デフォルト)	ユーザー項目としてサーバー上で自ら作成したオブジェクトとブックマークのみが表示されます。
共有項目を表示	他のユーザーにより共有されたオブジェクトとブックマークのみが表示されます。
ドキュメントの項目を表示	QlikView ドキュメントで作成したオブジェクトとブックマークのみが表示されます。 QlikView の WebView Developer モードで作成した項目もドキュメント項目と見なされます。
すべての項目を表示	すべてのオブジェクトとブックマークが表示されます。

ソート オプション (オブジェクトおよびブックマーク)

リストは、名前、種類、所有者、日付別にソートできます。

オブジェクト

ドキュメント内のすべてのシート オブジェクトのリストです。シートオブジェクトのコピーを作成するには、リストからシート オブジェクトをシートにクリック アンド ドラッグします。 をクリックすると、オブジェクトのプロパティダイアログが開きます。ドキュメントからオブジェクトのインスタンスをすべて削除するには、 をクリックします。リスト上部にある疑問符 (?) は、小さなヘルプ ダイアログを開きます。

軸

ドキュメント内で使用されているすべての軸のリストです。ここから既存のオブジェクトに軸をドラッグし、既存の軸を変更する、新しい軸として追加する、数式を変更する、または、新しい数式として追加することができます。

数式

ドキュメント内で使用されているすべての数式のリストです。ここから既存のオブジェクトに軸をドラッグし、既存の軸を変更する、新しい軸として追加する、数式を変更する、または、新しい数式として追加することができます。

ブックマーク

ドキュメント内で使用されているすべてのブックマークのリストです。ブックマークを適用するには、ブックマークをクリックします。 をクリックすると、オブジェクトのプロパティダイアログが開きます。ドキュメントからオブジェクトのインスタンスをすべて削除するには、 をクリックします。リスト上部にある疑問符 (?) は、小さなヘルプダイアログを開きます。共有ブックマークにアクセスするにはリポジトリから追加する必要があります。リポジトリから**[編集]** を選択し、**[表示]** をオンにします。

12.12 リストボックス - AJAX/Webview

これは画面上で最も基本的なオブジェクトです。特定の項目のすべての絞込値のリストが含まれています。リストボックスでは、通常、選択を行ったり、論理的な関連や含意を確認します。

リストボックスには、サイクリックグループやドリルダウングループが含まれていることもあります。ドリルダウングループが使用されている場合は、リストボックスで 1 つの値を選択すると、リストボックスがドリルダウンしてグループ内の基底の項目に切り替わります。ドリルアップして戻るには、リストボックスのキャプションにあるドリルアップアイコンをクリックします。

リストボックスにサイクリックグループが割り当てられている場合は、リストボックスのキャプションに表示されているサイクリックアイコンをクリックすると、グループ内の次の項目を表示できます。また、リストボックスのオブジェクトメニューの **サイクリック** オプションを使用して、グループ内の任意の項目に直接移動することもできます。

リストボックス: オブジェクトメニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツメニューとしてオブジェクトメニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカルクライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

リストボックス: [オブジェクト] メニューコマンド

コマンド	詳細 (Details)
プロパティ	アクティブなシートオブジェクトの **プロパティ** ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
検索	テキスト検索ボックスを開きます。
あいまい検索	テキスト検索を [あいまい検索] モードで開きます。
絞込値の選択	シートオブジェクトの除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	シートオブジェクトの除外値をすべて選択します。

コマンド	詳細 (Details)
すべて選択	シート オブジェクトのすべての値を選択します。
クリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
他項目の選択のクリア	現在アクティブなシート オブジェクトの選択を保持しながら、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。
ロック	アクティブなシート オブジェクトの選択値をロックします。(選択が行われていない場合は利用できません。)
アンロック	アクティブなシート オブジェクトのロックされた値を解除します。(選択がロックされている場合に **[ロック]** の代わりに表示されます。)
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
セルの値をクリップボードにコピー	選択されたセルの値をクリップボードにコピーします。
選択内容をクリップボードにコピー	リスト ボックスで選択されたアイテムをクリップボードにコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

リスト ボックスのプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

項目

ドロップダウンで項目を選択します。

詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

ソート

シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **プライマリソート**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第2ソート**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
  - **数式によるソート**: 入力された数式に従ってフィールド値をソートします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **選択した項目を最前面に保持**: これを有効にすると、選択した項目が最前面に保持されます。

数値

各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、[ドキュメントプロパティ: 数値書式] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- **デフォルト設定のオーバーライド**: アクティブなオブジェクトのデフォルト設定をオーバーライドする場合に選択します。数値形式以下の選択肢から数値形式を選択します。
  - **混在**: 数字とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
  - **数値**: **精度** フィールドで設定された桁数で数値を表示します。
  - **整数**: 数値を整数として表示します。
  - **固定**: **小数** フィールドで設定された小数点以下の桁数で、数値を小数値として表示します。
  - **通貨**: **書式パターン** フィールドで設定された書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
  - **日付**: **フォーマットパターン** フィールドで設定された形式で、日付として解釈できる値を表示します。
  - **時刻**: **フォーマット パターン** フィールドで設定された形式で、時刻として解釈できる値を表示します。
  - **タイムスタンプ**: **フォーマットパターン** フィールドで設定された形式で、日付 + 時刻として解釈できる値を表示します。

    - **インターバル**: 時間を連続した時間の増分として表示します(例: format = mm の場合、カレンダー開始日時 (1899:12:30:24:00) からの経過分数として値を表示します) 。
- **書式パターン**: フィールドの表示形式をさらに詳細に指定する書式コードです。**[ISO]** は、書式をISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
- **精度**: 表示される桁数。
- **小数点以下の桁数**: 含める小数点以下の桁数を設定します。
- **小数点記号**: 小数点の区切り記号を設定します。
- **桁区切り記号**: 桁区切りに使用する記号を設定します。
- **パーセント**: 絶対値ではなくパーセントで書式設定を表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上記で指定した数値書式のプレビューを表示します。

除外値を隠す

項目の除外値を表示するかどうかを切り替えます。除外値は選択もできなくなります。

ロック項目の上書き

このチェックボックスをオンにすると、ロックされているシートオブジェクトで選択ができるようになります。選択がドキュメントの他の場所で行われると、シートオブジェクトはロック状態のままです。

レコード数の表示

項目値の頻度を表示するかどうかについてのステータスを切り替えます。レコード数は、選択可能な値の組合わせの数を意味します。このオプションは計算項目には使用できません。

パーセント表示
レコード数を絶対数で表示するか、合計入力数に対するパーセンテージで表示するかについてのステータスを切り替えます。

数式

数式を追加するには  をクリックし、リストから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。  をクリックして **[数式の設定]** ダイアログを開きます。

有効化

このチェックボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。

条件付き表示

列は、シートオブジェクトが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。値は、計算式として入力できます。

数式

表示する式を入力してください。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

データ(数値)

数値データの配置を **左揃え** または **中央揃え**、**右揃え** に設定します。

データ(テキスト)

テキストデータの配置を **左揃え** または **中央揃え**、**右揃え** に設定します。

意味

ドロップダウン リストでプレゼンテーションを選択します。選択したプレゼンテーションによって、表示される設定は異なります。

- **テキスト**: その他の設定はありません。
- **画像**:
- **ストレッチなし**: **画像** が選択されている場合、**画像のストレッチ**を設定できます:
    - **ストレッチなし**: 画像を引き伸ばさずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
    - **フィル**: 画像のアスペクト比を維持せずに、オブジェクト領域に合わせて画像が引き伸ばされます。
    - **アスペクト比を保持**: 画像は、アスペクト比を維持しながら、オブジェクト領域を埋めるように可能な限り引き伸ばされます。
    - **アスペクト比を維持して全体表示**: アスペクト比を維持しながら、オブジェクト領域全体を両方向に満たすように画像が引き伸ばされます。
- **ゲージ**: さまざまなゲージスタイルを利用できます。ゲージ チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。異なるゲージを設定します。
    - **最小値**: ゲージの最小値を指定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - **最大値**: ゲージの最大値を指定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - **ミニ チャート**このオプションを選択した場合、QlikView は追加軸で集計された数式の値をミニ チャートで表示します。チャートは使用可能なテーブル セルに内接して表示されます。ミニ チャートの軸はビジュアル設定でも定義できます。ミニ チャートの設定:
        - **項目**: 数式を描画するための項目を選択します。
        - **モード**: ミニ チャートをスパークライン、線、ドット、棒、またはウィスカーに設定します。

    > *Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。*

リスト ボックスのプロパティ: プレゼンテーション

プレゼンテーション

選択スタイル ドキュメントの選択スタイルを設定します。ドロップダウン メニューにある使用可能な選択肢から選択してください。**<初期設定>** を選択すると、ドキュメントは、常に、ドキュメントが開かれているコンピュータ上でユーザーが**ユーザー プロパティ**で指定したスタイルで開かれます。

- **意味**: このセクションでは、**[意味]** オプションを説明します。
  - **テキスト**: このオプションを選択すると、項目値は常にテキストとして解釈および表示されます。
  - **画像**: このオプションを選択すると、QlikView は各項目値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\Mypic.png) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が項目値を有効な画像参照として解釈できない場合は、値自体が表示されます。 をクリックして **画像の設定** ポップアップを開きます。
    - **画像の設定 ポップアップ**:
      - **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
      - **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
      - **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
      - **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
      - **画像がない場合にテキストを隠す**: QlikView が画像参照として解釈できない場合は、テキストは表示されません。
    - **画像としての Info**: このオプションを選択すると、QlikView は、項目値にリンクした画像情報を info load/select を介してしてスクリプトに表示します。項目値に対する有効な画像がない時は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンの場合を除いて、値自体が表示されます。

リスト ボックス プロパティ

このセクションでは、**リスト ボックス**のプロパティについて説明します。

テキストの配置

リスト ボックスのテキスト項目値の配置を設定します。

数値の配置

リスト ボックスの数値項目値の配置を設定します。

列の自動調節 (Auto Columns)

列の数は自動的に選択されます。

固定列数

複数列がオンの場合に、入力項目で列数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

- **画像ポップアップ**:
  - **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
  - **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
  - **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
  - **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
  - **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
  - **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
  - **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

- **基本設定**:
  - **ツリービューとして表示**: リストボックスをツリービューとして表示します。この機能は、項目に階層構造におけるノードのパスが含まれる場合にのみ有効です。そういった項目は、**Path** パラメータ (**Hierarchy** プレフィックス) を使用して生成することができます。
  - **区切り文字あり**: **ツリービュー**で使用されるパス内で、区切り文字として解釈される文字を設定します。
  - **検索モード**:
    - **検索モードの設定**

      ここで、テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードとして、**ワイルドカード検索**、**あいまい検索**、**標準検索** または **連想検索** を指定します。

      > *検索モードに **連想検索** を使用できるのは、リストボックスの場合のみです。*
  - **除外された値を検索に含める**: ドロップダウンリストでは、**はい**、**いいえ**、または **ユーザー環境設定**、**全般** で指定されているデフォルト設定を適用する **<デフォルトを使用>** のいずれかを選択できます。

- **水平スクロール バーを非表示**: フィールド値がリスト ボックスの指定された幅に対して広すぎる場合に通常表示される水平スクロール バーを非表示にするには、このオプションをオンにします。代わりに、項目値は必要に応じて省略されます。
- **列で並べ替え**: シート オブジェクトが 2 列以上のとき、値は行型に指定されたソート順で表示されます。**列でソート**はそれを列型の表示に切替えます。
- **セルの罫線**: 項目値は、テーブルの行のように水平の線で区切られます。**セルの枠線** は、**セルを折り返して表示** チェックボックスをオンにすると自動的にオンになりますが、後で選択を解除できます。
- **セルのテキストを折り返す**: このオプションを選択すると、セルの内容が複数行で表示されます。
- **セル行**: セルの行数を設定します。
- **すべての値を印刷**: リスト ボックスの通常の印刷動作では、選択可能な値のみが印刷されます。このチェック ボックスをオンにすると、すべての値が (除外値も) 印刷されます。
- **レイアウト依存印刷**: このチェックボックスをオンにすると、複数列やセルの選択色分けなど、リスト ボックスが画面に表示されているとおりに印刷されます。これは、リスト ボックスをレポートに含む場合などに便利です。
- **Null シンボル**: ここに入力されたマークは、オブジェクトで Null 値を表示する際に使用されます。
- **見つからないシンボル**: ここに入力されたマークは、オブジェクトで欠損値を表示する際に使用されます。

- *スタイル*
  - **テキスト**: フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
  - **キャプション フォント**: キャプション フォントを設定するには、Aa をクリックします。
  - **アクティブ キャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
  - **非アクティブなキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
  - **境界線を使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
  - **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
  - **角丸**:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

    > *[角を丸くする]* を使用できるのは、*[詳細設定]*、*[スタイルのモード] ([ドキュメント プロパティ: 基本設定]* 内*)* が選択されている場合のみです。

    - **角丸ポップアップ**:
      - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。
      - 値を入力して **[鋭度]** の値を設定します。

- **スクロールバーの幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

リスト ボックスのプロパティ: キャプション

このセクションは、[キャプション] プロパティについて説明しています。

- **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

詳細.../簡易... には **キャプションのアイコン** が含まれます。このセクションでは、**アイコン キャプション**のいくつかの要素について説明します。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。

- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

リスト ボックスのプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計ボックス、マルチ ボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ、オブジェクト** ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。

- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.13 統計ボックス - AJAX/Webview

統計ボックスは、項目の絞込値の合計、平均、最小値など、ほとんどの種類の統計対象を表示できます。計算は動的に行われます。つまり、シートオブジェクトで選択すると表示が直ちに変化します。

統計量ボックス: オブジェクトメニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー プロパティ

プロパティ	説明
プロパティ	アクティブなシートオブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
絞込値の選択	シートオブジェクトの除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	シートオブジェクトの除外値をすべて選択します。
すべて選択	シートオブジェクトのすべての値を選択します。

プロパティ	説明
クリア	アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
他項目の選択のクリア	現在アクティブなシートオブジェクトの選択を保持しながら、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。
ロック	アクティブなシートオブジェクトの選択値をロックします。(選択が行われていない場合は利用できません。)
アンロック	アクティブなシートオブジェクトのロックされた値を解除します。(選択がロックされている場合に **[ロック]** の代わりに表示されます。)
コピー	選択したシートオブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シートオブジェクトのみをコピーします。
セルの値をクリップボードにコピー	選択されたセルの値をクリップボードにコピーします。
印刷	選択したシートオブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

統計ボックスのプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

項目

ドロップダウンで統計を表示する項目を選択します。

表示関数

下のリストで、関数を使用するチェックボックスをオンにします。右側のフィールドに代替値ラベルを入力します。

数値カウント
サンプルサイズ、つまり取り得る値に含まれる数値の個数。

Null の個数
絞込値の中の空の項目値の数です。

テキスト数
取り得る値のうち、英数字の値の数。

合計数
絞込値の合計数です。これは、リストボックスに表示できる頻度と同じ数です。

欠損数
取り得る値のうち、数値以外の値の数。

合計
サンプル合計。

平均
標本算術平均。

標準偏差
標本標準偏差。

歪度
標本歪度。

尖度
標本尖度。

最小
標本最小値。

最大
サンプル最大値。

値のみ
唯一の絞込数値です。

統計ボックスのプロパティ: プレゼンテーション
このセクションでは、**統計ボックス**のプロパティについて説明します。

標準誤差の表示
平均値と標準偏差の標準誤差が表示されます。

セルの枠線

シートオブジェクトのセルの間に枠線を表示します。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

縮小/拡大なし: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。**全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。**縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。**縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。**水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。**垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。**透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

このセクションは、**[詳細/簡略]** プロパティについて説明しています。

スタイル

- **テキスト**: フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **キャプションフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ キャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブなキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線を使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。

- **角丸**:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]* *を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。*

  - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロールバーの幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

統計量ボックスのプロパティ: キャプション

このセクションでは、**統計ボックス**のプロパティについて説明します。

- **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションは、**[詳細/簡略]** プロパティについて説明しています。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シートオブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定 ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

統計量ボックスのプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.14 マルチ ボックス - AJAX/Webview

マルチ ボックスは、複数の項目を同時に表示するシート オブジェクトです。

マルチ ボックス内の各項目には、選択インジケータも入っています。これは、マルチ ボックスの内容に関する情報を提供する小さいビーコンです。緑色の選択インジケータは選択値があることを示し、白色は連結値があることを示し、灰色はドロップダウン リストに絞込値がないことを示します。

マルチボックス: オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

マルチ ボックス: [オブジェクト] メニュー コマンド

コマンド	詳細 (Details)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ** ダイアログが開きます。

コマンド	詳細 (Details)
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
すべての選択をクリア	アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
選択値をすべてロックする	アクティブなシートオブジェクトの選択値をロックします。(選択が行われていない場合は利用できません。)
すべてをアンロック	アクティブなシートオブジェクトのロックされた値を解除します。(選択がロックされている場合に**[ロック]**の代わりに表示されます。)
コピー	選択したシートオブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シートオブジェクトのみをコピーします。
セルの値をクリップボードにコピー	選択されたセルの値をクリップボードにコピーします。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

マルチボックスのプロパティ

プロパティダイアログを開くには、**オブジェクト**メニューから**プロパティ**を選択します。**プロパティ**コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うための権限がない可能性があります。

項目

アイテムを追加するには をクリックします。ドロップダウンで項目を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。オブジェクトには、選択項目の値が含まれます。

詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

ラベル

ラベル名を入力してください。値は、計算式として入力できます。 をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。

意味

このセクションでは、**表現**のオプションについて説明します。

テキスト

このオプションを選択すると、項目値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションを選択すると、QlikView は各項目値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス(例:*C:\Mypic.png*) or inside the QlikView document (e.g. *qmem://<Name>/<Peter>*). QlikView が項目値を有効な画像参照として解釈できない場合は、値自体が表示されます。 をクリックして **画像の設定** ポップアップを開きます。

- **画像設定ポップアップ**:
  - **画像拡大/縮小**
    - **ストレッチなし**: 画像を引き伸ばさずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
    - **塗りつぶし**: 画像のアスペクト比を維持せずに、オブジェクト領域に合わせて画像を引き伸ばします。
    - **アスペクト比を維持**: 画像は、アスペクト比を維持しながら、オブジェクト領域を埋めるように可能な限り引き伸ばされます。
    - **アスペクト比を維持して全体表示**: 画像は、アスペクト比を維持しながら、オブジェクト領域全体を埋めるように縦横両方向に引き伸ばされます。
    - **画像がないときはテキストを非表示**: QlikView が画像参照を解釈できない場合、テキストは表示されません。
    - **画像として情報表示**: このオプションを選択すると、QlikView はスクリプト内の info load/select を介して項目値にリンクされた画像情報を表示します。項目値に対する有効な画像がない場合、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

検索モード

ここで、テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードとして、**ワイルドカード検索**、**あいまい検索**、**標準検索** または **連想検索** を指定します。

> *検索モードに **連想検索** を使用できるのは、リストボックスの場合のみです。*

検索対象に除外値を含める

ドロップダウンリストで **はい**、**いいえ** もしくは **ユーザープロパティ: 基本設定** ページで指定された初期設定が適用される **<初期設定を使用する>** を選択します。

ドロップダウンリスト設定

ポップアップを開くには  をクリックします。

- **ドロップダウン選択設定ポップアップ**:
  - **Null を無視**: 特定のフィールドの取り得る値を表示する際、NULL 値は考慮されません。
  - **除外対象を非表示**: 項目の除外値を表示するかどうかを切り替えます。除外値は選択もできなくなります。
  - **表示頻度**: 項目値の頻度を表示するかどうかについてのステータスを切り替えます。レコード数は、選択可能な値の組合わせの数を意味します。このオプションは計算項目には使用できません。
    パーセント表示
    レコード数を絶対数で表示するか、合計入力数に対するパーセンテージで表示するかについてのステータスを切り替えます。

- **ロックされたフィールドの上書き**: このチェックボックスをオンにすると、ロックされているシートオブジェクトで選択ができるようになります。選択がドキュメントの他の場所で行われると、シートオブジェクトはロック状態のままです。
- **読み取り専用**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトで選択を行えなくなります。ですが、ドキュメントの他の場所での選択は反映されます。
- **ドロップダウン選択の配置**: をクリックしてポップアップを開きます。
    - **ドロップダウン選択の配置ポップアップ**:
        - **数値の配置**: ここでは、リストボックス内の数値フィールド値の配置を設定します。
        - **テキストの配置**: ここでは、リストボックス内のテキストフィールド値の配置を設定します。
        - **行と列**: をクリックしてポップアップを開きます。
            - **行と列のポップアップ**: このセクションでは、行と列のポップアップの要素について概説します。
                - **1 列**: このオプションをオンにすると、リストボックスフィールドの値は常に 1 列で表示されます。
                - **水平スクロール棒を表示**: 水平スクロール棒を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
                - **複数列**: このオプションをオンにすると、リストボックスフィールドの値が 2 列以上で表示されます。
                - **複数行セル**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
                    - 入力項目で表示列数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
                - **列で並べ替え**: シートオブジェクトが 2 列以上のとき、値は行型に指定されたソート順で表示されます。**列でソート**はそれを列型の表示に切替えます。
                - **セルの境界線**: フィールド値が水平線で区切られ、表の行のように表示されます。**テキストの折り返し**オプションをオンにすると、セルの罫線は自動的に有効になりますが、その結果として無効になる場合があります。

ソート

シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

第 1 ソート順

Y 軸値: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。

第 2 ソート順

レコード数: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
数値: 項目値を数値順にソートします。
テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。

数式によるソート

入力された式に従ってフィールド値を並べ替えます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

選択値を上部に配置

選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

数値形式

各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、[ドキュメントプロパティ: 数値書式] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。

このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- **デフォルト設定の上書き**: アクティブなオブジェクトのデフォルト設定を上書きする場合に選択します。
- **数値形式**: 以下の選択肢から数値形式を選択します。
- **混在**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
- **数値**: **精度** フィールドで設定された桁数で数値を表示します。
- **整数**: 数値を整数として表示します。
- **固定**: **小数桁** フィールドで設定した小数点以下の桁数の小数値として数値を表示します。
- **通貨**: **書式パターン** フィールドで設定された形式で値を表示します。
    - デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **フォーマットパターン** フィールドで設定された形式で、日付として解釈できる値を表示します。
- **時刻**: **書式パターン** フィールドで設定された形式で、時刻として解釈できる値を表示します。
- **タイムスタンプ**: **フォーマットパターン** フィールドで設定された形式で、日付 + 時刻として解釈できる値を表示します。
- **インターバル**: 時間を連続した時間の増分として表示します (例: format = mm では、カレンダーの開始 (1899:12:30:24:00) からの分数として値を表示します)。
- **書式パターン**: フィールドの表示形式をさらに詳細に指定する書式コードです。
- **[ISO]**: 書式を ISO 標準に設定します。

    > *[日付]*、*[時刻]*、*[日時]*、*[時間間隔]* *でのみ有効です。*

- **[Sys]**: 書式をシステム設定に設定します。
- **精度**: 表示される桁数。
- **小数点以下の桁数**: 含まれる小数点以下の桁数を設定します。

- **小数点の記号**: 小数点の区切り文字に使用する記号を設定します。
- **桁区切り記号**: 桁区切りに使用する記号を設定します。
- **パーセント**: 絶対値ではなくパーセンテージで書式を表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上記で指定した数値書式のプレビューを表示します。

マルチボックス プロパティ: プレゼンテーション

スタイル

VBScript および **JScript** から選択できます。

テキストの配置

リスト ボックスのテキスト項目値の配置を設定します。

数値の配置

リスト ボックスの数値項目値の配置を設定します。

ソート順に絞込値の有無を適用する

項目の絞込値を含むかどうかに基づいて、マルチ ボックス内の項目をソートします。このチェック ボックスをオンにすると、絞込値がない項目は動的に下に移動されます。

グリッドのスタイル

マルチ ボックスの外観をグリッド スタイルにする場合は、チェック ボックスをオンにします。

> *このオプションは Ajax/WebView では使用できません。*

ドロップダウン リスト表示行数

このチェック ボックスをオンにすると、マルチ ボックスに表示されるドロップダウン リスト ボックスの長さを制限できます。編集ボックスに表示する値の最大数を入力、またはスライダを使用して目的の値を設定します。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。

- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

このセクションでは、**詳細.../簡易...**の**スタイル**オプションについて説明します。

テキスト

フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

キャプションのフォント

キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

アクティブ時のキャプション

アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。

非アクティブ時のキャプション

非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。

枠線の幅

入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。

角を丸くする

をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

> *[角を丸くする]* を使用できるのは、*[詳細設定]*、*[スタイルのモード]* (*[ドキュメントプロパティ: 基本設定]* 内) が選択されている場合のみです。

- **角丸ポップアップ**: 固定または相対の丸みを選択します
    - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロールバーの幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

マルチボックス プロパティ: キャプション

キャプション

- **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**キャプション内のアイコン**とそのプロパティについて説明します。**キャプション内のアイコン**は、**詳細.../簡易...**内に存在します。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化 アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化 アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

マルチボックスのプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。

- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある をクリックします。

12.15 テーブル ボックス - AJAX/Webview

テーブル ボックスは、複数の項目を同時に表示するシート オブジェクトです。すべての行の内容は、論理的に結合されます。行は、異なる内部テーブルから取得することも可能性で、項目の可能な組み合わせでテーブルを作成します。

オブジェクトを右クリックすると、**オブジェクト メニュー** が表示されます。

テーブル ボックス: オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー プロパティ

プロパティ	説明
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

プロパティ	説明
すべての選択をクリア	アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシートオブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シートオブジェクトのみをコピーします。
セルの値をクリップボードにコピー	選択されたセルの値をクリップボードにコピーします。
印刷	選択したシートオブジェクトを別のブラウザウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。 Ajax クライアントを使用している場合、テーブルボックスの画像は印刷されません。
Excel 出力	絞込値(選択値を含む)を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。 *製品の制限により、AJAX モードで大規模なデータセットを使用すると、Excel へのエクスポートが失敗する場合があります。*
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

テーブル ボックス プロパティ:

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

列項目

ドロップダウンで項目を選択します。

アイテムを追加するには  をクリックします。ドロップダウンで項目を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。オブジェクトには、選択項目の値が含まれます。

詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

項目

- **フィールド**: 現在編集中のフィールド。
- **ラベル**: ラベル名を入力します。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **ラベルの配置**: テーブルボックス内のラベルの配置を設定します。
- **意味**: このセクションでは、**[意味]** オプションを説明します。
  - **テキスト**: このオプションを選択すると、項目値は常にテキストとして解釈および表示されます。
  - **画像**: このオプションを選択すると、QlikView は各項目値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\Mypic.png) または QlikView ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が項目値を有効な画像参照として解釈できない場合は、値自体が表示されます。  をクリックして **画像の設定** ポップアップを開きます。
    - **画像の設定ポップアップ**:
      - **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
      - **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
      - **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
      - **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
      - **画像がない場合にテキストを隠す**: QlikView が画像参照として解釈できない場合は、テキストは表示されません。
    - **画像としての Info**: このオプションを選択すると、QlikView は、項目値にリンクした画像情報を info load/select を介してしてスクリプトに表示します。項目値に対する有効な画像がない時は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンの場合を除いて、値自体が表示されます。

- **数値の配置**: テーブル ボックス内の数値フィールド値の配置を設定します。
- **テキスト配置**: テーブルボックス内のテキストフィールドの値の配置を設定します。
- **Null を無視**: 特定のフィールドの選択可能な値を表示する際、NULL 値は考慮されません。
- **ドロップダウン選択**: フィールド列でこのチェックボックスが選択されている場合、列ヘッダーの左側にドロップダウンアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、項目のすべての項目値を表示するリストボックスがテーブル上に開かれます。これで、項目がマルチ ボックスの行であるように選択と検索を行うことができます。
- **検索モード**:
    - **検索モードの設定**

      ここで、テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードとして、**ワイルドカード検索**、**あいまい検索**、**標準検索** または **連想検索** を指定します。

      > *検索モードに **連想検索** を使用できるのは、リストボックスの場合のみです。*

    - **除外された値を検索に含める**: ドロップダウン リストから、**はい**、**いいえ**、または **ユーザー環境設定**、**全般** で指定された既定の設定を適用する **<既定値を使用>** のいずれかを選択できます。

ソート

シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **最優先の並べ替え**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **セカンダリソート**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式でソート**: 入力された数式に従ってフィールド値を並べ替えます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

数値書式

各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、[ドキュメントプロパティ: 数値書式] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。初期設定を上書きする アクティブなオブジェクトの初期設定を上書きするために選択します。数値書式 以下のオプションから数値書式を選択します。

- **混在**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
- **数値**: **精度** フィールドで設定された桁数で数値を表示します。
- **整数**: 数値を整数として表示します。
- **固定**: **小数点以下の桁数** フィールドで設定された桁数の小数値として数値を表示します。

- **通貨**: **書式パターン**フィールドで設定された形式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **書式パターン**フィールドで設定された形式で、日付として解釈できる値を表示します。
- **時刻**: **フォーマット パターン** フィールドで設定された形式で、時刻として解釈できる値を表示します。
- **タイムスタンプ**: **書式パターン**フィールドで設定された形式で、日付 + 時刻として解釈できる値を表示します。
- **間隔**: 時間を連続的な時間増分として表示します(例: format = mm の場合、カレンダーの開始 (1899:12:30:24:00) からの分数として値を表示します) 。書式パターンフィールドの表示形式をさらに詳細に指定する書式コードです。
- **[ISO]**: 書式を ISO 標準に設定します。**Date**、**Time**、**Timestamp**、およびIntervalにのみ有効です。
- **[Sys]**: 書式をシステム設定に設定します。
- **精度**: 表示される桁数。
- **小数点以下の桁数**: 含まれる小数点以下の桁数を設定します。
- **小数区切り記号**: 小数点として使用する記号を設定します。
- **桁区切り記号**: 桁区切りに使用する記号を設定します。
- **パーセント**: 絶対数ではなくパーセンテージで書式を表示します。この設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上記で指定した数値書式のプレビューを表示します。

テーブル ボックスのプロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**テーブルボックス**のプロパティについて説明します。

ヘッダー行を隠す

ヘッダー行 (ラベル) のないテーブルを表示します。

ソートアイコンを表示する

列のヘッダーにソートアイコン (矢印) を表示します。アイコンの向きは、列のソートが昇順か降順かを示します。

選択アイコンの表示

選択されている項目を含むテーブルの列に選択アイコン (ビーコン) を表示します。

列の移動を許可する

このチェック ボックスをオフにすると、列の移動が無効になります。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

このセクションは、**[詳細/簡略]** プロパティについて説明しています。

基本設定

- **スタイル**: ドロップダウンリストから適切なスタイルを選択します。
- **_ 行ごとのストライプ**: 網掛けのストライプを表示するかどうか、および何行の間隔で表示するかを指定します。
- **垂直ラベル**: 列タイトルを縦向きに表示します。
- **ヘッダーの折り返し**: ヘッダーの内容が2行以上に折り返されます。
- **セルのテキストを折り返す**: データセルの内容が2行以上に折り返されます。

スタイル

- **フォント**: フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ キャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブなキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定するには をクリックします。
- **スクロール ボタン**: スクロール バーのボタンの色を設定するには をクリックします。
- **スクロールバーの幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **枠線を使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。

- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角丸**:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  - **[角を丸くする] ポップアップ**: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。値を入力して **[鋭度]** を選択します。

テーブルボックスのプロパティ: キャプション

キャプション

このセクションは、**[キャプション]** プロパティについて説明しています。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションは、**[詳細/簡略]** プロパティについて説明しています。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクトメニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シートオブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

テーブル ボックスのプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が

縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。

- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.16 入力ボックス - AJAX/Webview

入力ボックスは、QlikView 変数にデータを入力したり、それらの値を表示するために使用するシートオブジェクトです。

オブジェクトを右クリックすると、**オブジェクト メニュー** が表示されます。

入力ボックス: オブジェクト メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

入力ボックス: オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

入力ボックス プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

アイテムを追加するには をクリックします。ドロップダウンから変数を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。オブジェクトには、選択した変数の値が含まれます。

詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

[入力ボックス] の [変数] には、次の項目があります。

- **変数**: 有効な変数がドロップダウンにリストされます。
- **ラベル**: ここには、表示される変数の別名を入力できます。これは、入力ボックス内の変数タイトルとして使用されます。動的に更新する計算式としてラベルを指定することもできます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **配置**: 配置は、**左**、**中央** または **右** から選択します。
- **行の色**: 行の色を設定するには  をクリックし、テキストの色を設定するには  をクリックします。

入力ボックスプロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**[プレゼンテーション]** にある複数のプロパティを説明します。

イコールサイン (=) の表示

入力ボックスにイコールサイン (=) を表示します。設定は、すべての変数に適用されます。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** にある **[スタイル]** 設定を説明します。

テキスト

フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

キャプションのフォント

キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

アクティブ時のキャプション

アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。

非アクティブ時のキャプション

非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。

枠線の幅

入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。

角を丸くする

をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

> *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

角を丸くするポップアップ:

- 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロールバーの幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。このコントロールは、スクロールバーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

入力ボックスプロパティ: キャプション

このセクションでは、**[キャプション]** プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。

値は、計算式として入力できます。

fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、複数の **[アイコン キャプション]** プロパティを含んでいる、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

- **メニュー**: オブジェクトメニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シートオブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シートオブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプテキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプテキストを入力できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式**

の編集] ダイアログを開きます。
シートオブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウキャプションにヘルプアイコンが追加されます。マウスポインターをアイコンに移動させると、ポップアップウィンドウにテキストが表示されます。

- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

入力ボックスプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブルシートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロールバーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザープロパティ、オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブルオブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。

- **ユーザー (Domain\UserID):[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

  ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.17 選択表示ボックス - AJAX/Webview

選択表示ボックスは、項目の選択とそれらの論理ステータスを表示するシートオブジェクトです。選択表示ボックスは、フリーフロート [選択表示ウィンドウ] と同じデータを表示しますが、他のシートオブジェクトと同様にシートに配置できます。

オブジェクトを右クリックすると、**オブジェクト メニュー** が表示されます。

現在の選択肢ボックス: オブジェクト メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

選択表示ボックス: [オブジェクト] メニュー コマンド

コマンド	詳細 (Details)
プロパティ	アクティブなシートオブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
すべての選択をクリア	アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
選択値をすべてロックする	アクティブなシートオブジェクトの選択値をロックします。(選択が行われていない場合は利用できません。)
すべてをアンロック	アクティブなシートオブジェクトのロックされた値を解除します。(選択がロックされている場合に **[ロック]** の代わりに表示されます。)
コピー	選択したシートオブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シートオブジェクトのみをコピーします。

コマンド	詳細 (Details)
セルの値をクリップボードにコピー	選択されたセルの値をクリップボードにコピーします。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
印刷	選択したシートオブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

選択表示ボックスプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

値の表示

項目の選択値を表示する **値** 列を表示します。

選択状態の表示

項目の選択の現在の論理状態を色で示すビーコンで **状態** 列を表示します。

クリア アイコンの表示

各項目の行に小さなクリア アイコンを表示します。クリア アイコンをクリックすると、項目内の選択がクリアされます。ロック項目には、クリア アイコンは表示されません。

ロック/アンロック アイコンの表示

各項目の行に小さなロックまたはアンロック アイコンを表示します。アイコンをクリックすると、項目内の選択がロックまたはアンロックされます。

現在の選択ボックスのプロパティ: プレゼンテーション

このセクションは、[プレゼンテーション] プロパティについて説明しています。

列ラベルの表示

ヘッダー行を表示します。以下のグループでは、ラベルを編集できます。

項目

項目 列上部のヘッダー行に表示するラベルを指定します。

値

値 列上部のヘッダー行に表示するラベルを指定します。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: [左]、[中央]、または [右] 揃え。
- **垂直**: [上]、[中央]、または [下] 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

詳細.../簡易...では、**スタイル**に関する次のオプションが提供されます:

- **テキスト**: テキストの色を設定するには、 をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **ラベル**: ラベルの背景色を設定するには、 をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **キャプションフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ キャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブなキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線を使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角丸**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]**(**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]**内)が選択されている場合のみです。*

  - **角丸ポップアップ**:
    - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。
    - 値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロールバーの幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

現在の選択ボックスのプロパティ: キャプション

このセクションは、[キャプション]プロパティについて説明しています。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル**を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。

- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

アイコンのキャプション

Icon Caption は、1 つのプロパティである **More.../Less...** で構成されており、これにはこのセクションで説明するいくつかのオプションが含まれています。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

現在の選択ボックスのプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブルシートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロールバーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザープロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブルオブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.18 ボタン - AJAX/Webview

QlikView では、ボタンを使用してコマンドやアクションを実行できます。たとえば、ファイルへのデータのエクスポートや、他のアプリケーションの起動、マクロの実行を行うことができます。

オブジェクトを右クリックすると、**オブジェクト メニュー** が表示されます。

ボタン: オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

ボタン: オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

ボタン プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

ボタンの表示テキスト

ボタンに表示されるテキストを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

アクション

アクションを追加するには  をクリックします。新しいアクション用の **アクションの設定** ポップアップが開きます。ドロップダウンでアクションを選択し、クリックして  編集することができます。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。

[アクションの設定] ポップアップ

- **種類**: ドロップダウン リストで **種類** を選択します。
- **下位の種類**: ドロップダウン リストで **形式** を選択します。使用できる形式は選択した **アクションの種類** によって異なります。

アクションの種類とアクション

- **項目選択**
  - **項目値の選択**: 指定された項目の指定された値を選択します。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
  - **除外値の選択**: 指定された項目の除外値を選択します。
  - **絞込値の選択**: 指定された項目の絞込値を選択します。
  - **選択の切り替え**: 現在の選択値と指定した **項目** と **検索文字列** で選択を切り替えます。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
  - **やり直し**: 選択条件のリストを 1 つ次に進めます。
  - **戻る**: 選択条件のリストを 1 つ前に戻します。
  - **パレート選択**: 数式とパーセントを基準に指定した項目でパレートの選択を行います。この種類の選択は、一般的に 80/20 ルール上での評価基準で主要な要因を選択するために使用されます。たとえば、売上高の 80% に貢献したトップの顧客を見つけるためには、顧客を項目として使用して sum(売上高) を数式と使用し、また 80 をパーセントとして使用します。
  - **項目のロック**: 指定した項目の選択をロックします。
  - **すべてロック**: すべての項目のすべての値をロックします。
  - **項目のアンロック**: 指定した項目の選択のロックを解除します。
  - **すべてアンロック**: すべての項目のすべての値のロックを解除します。
  - **すべてをアンロックしてクリア**: すべての項目のすべての選択のロックと選択を解除します。
  - **他項目のクリア**: 指定した項目以外のすべての関連項目の選択を解除します。
  - **すべての選択をクリア**: ロックされていないすべての選択を解除します。
  - **項目のクリア**: 特定の項目をクリアします。
- **レイアウト**
  - **オブジェクトをアクティブにする**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトをアクティブにします。この機能は Ajax クライアントでは利用できません。
  - **シートをアクティブにする**: 指定した **シートID** のシートをアクティブにします。
  - **次のシートをアクティブにする**: ドキュメントの次のシートを開きます。
  - **前のシートをアクティブにする**: ドキュメントの前のシートを開きます。
  - **オブジェクトを最小化する**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトを最小化します。
  - **オブジェクトを最大化する**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトを最大化します。
  - **オブジェクトを元のサイズに戻す**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトを元のサイズに戻します。
- **ブックマーク**
  - **ブックマークの適用**: 指定した **ブックマークID** のブックマークを適用します。2 つのブックマークが同じ ID を持つ場合、ドキュメントブックマークが適用されます。サーバーブックマークを適用するには、サーバー\ブックマーク ID を指定します。

  - **ブックマークの作成**: 現在の選択でブックマークを作成します。**ブックマークID** と**ブックマーク名** を指定します。選択 **非表示** 非表示のブックマークを作成します。
  - **ブックマークの上書き**: 指定した**ブックマークID** のブックマークを現在の選択に置き換えます。
- **(印刷)**
  - **オブジェクトの印刷**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でオブジェクトを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **シートの印刷**: 指定した **シートID** のシートを印刷します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です。) この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
  - **レポートの印刷**: 指定した **レポートID** のレポートを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でレポートを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。ウィンドウズの [印刷] ダイアログを表示する場合、**[印刷] ダイアログを表示する** チェックボックスをオンにします。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
- **外部**: この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **エクスポート**: 特定の項目セットを含むテーブルをエクスポートします。選択条件に当てはまるレコードのみがエクスポートされます。**設定** ボタンを **アクション** ページでクリックすると、**エクスポートアクションの設定** ダイアログが開きます。ドキュメントトリガーまたはシートトリガーとしては使用できません。

  この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **起動**: 外部プログラムを起動します。以下の設定は、**[アクション]** ダイアログで設定できます。
  - **アプリケーション**: **[参照]** をクリックして、起動するアプリケーションを探します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **ファイル名**: 上で指定したアプリケーションで開くファイルへのパスを入力します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **パラメータ**: アプリケーションを起動するコマンドラインのパラメータを指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **作業ディレクトリ**: 起動するアプリケーションの作業ディレクトリを設定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **QlikView 終了時にアプリケーションを終了する**: QlikView 終了時にアプリケーションを強制的に終了します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

    この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **URL から開く** [**URL から開く**] を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントへの URL を開くことができます (ドキュメントチェーン)。この設定により既定の WEB ブラウザで URL が開きます。この機能をドキュメントおよびシートのトリガーとして使用することはできません。[**URL から開く**] を使用する場合は、ドキュメント名を必ず小文字でアクション文字列に入力してください。
  可能であれば、[**URL から開く**] ではなく[**QlikView ドキュメントを開く**] を使用してください。

> *既定では、URL で Javascript を使用できないようになっています。*
> *custom.config ファイルで `PreventJavascriptInObjectActions` パラメーターを変更することにより、URL で JavaScript を使用できるようになります。*

- **QlikView ドキュメントを開く[QlikView ドキュメントを開く]**を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントを開くことができます (ドキュメント チェーン)。この機能は、ドキュメント トリガーまたはシート トリガーとしては使用できません。詳細については、「*ドキュメント チェーンの例 (page 1615)*」を参照してください。
- **マクロの実行**: 実行するマクロのパスとマクロ名を入力します。任意の名前を入力して後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成する、もしくは動的に更新される**計算式**を入力できます。
- **変数の設定**: 指定した変数に値を適用します。
- **情報の表示**: 指定された**項目**に関連付けられたテキストファイルや画像といった情報を表示します。この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **このドキュメントを閉じる**: QlikView ドキュメントを閉じます
- **リロード**: 現在のドキュメントのリロードを行います。この機能は AJAX クライアントと IE プラグインでは利用できません。
- **ダイナミック更新**: 現在ロードされているドキュメントでデータを動的に更新します。ダイナミック更新へのステートメントは**ステートメント**フィールドに入力してください。
  ダイナミック更新の用途では、QlikView 管理者はドキュメントのリロードを実行しなくても、単一のソースから限定的な量のデータを QlikView ドキュメントにフィードすることができます。その後、QlikView Server に接続している複数のクライアントが分析を実行できます。

  > *アップロードされた情報は RAM のみで保存されるため、ドキュメントのリロードを行うと、ダイナミック更新を使用して追加または更新されたデータは失われます。*

  以下の規則は、ダイナミック更新機能で使用できるステートメントとそのコンポーネントについて説明したものです。
  - statements ::= statement { “;” statement } { “;” statement }
  - statement ::= insert_statement | update_statement | delete_statement | begin_transaction_statement | commit_transaction_statement
  - insert_statement ::= "INSERT" "INTO" ("*" | table_name) field_list "VALUES" value_list {"," value_list} ["KEY" ["AUTO" | (" (" field_list ")")] ["REPLACE" (["WITH" "ONE"] | "EACH")]]
  - update_statement ::= "UPDATE" ("*" | table_name) set_clause {"," | set_clause} "WHERE" condition ["AUTO" "INSERT"]
  - delete_statement ::= "DELETE" "FROM" ("*" | table_name] "WHERE" condition
  - begin_transaction_statement ::= "BEGIN" ("TRANSACTION" | "TRAN") [trans_name]
  - commit_transaction_statement ::= "COMMIT" ["TRANSACTION" | "TRAN"] [trans_name]
  - table_name ::= identifier | quoted_name
  - field_list ::= "(" field_name {"," field_name} ")"
  - value_list ::= "("value {"," value} ")"
  - set_clause ::= "SET" field_name "=" any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
  - field_name ::= identifier | quoted string

- value ::= identifier | any_qlikview_number | quoted string
- condition ::= any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- identifier ::= any_qlikview_identifier
- quoted_string ::= "[" [^]]+ "]"

```
UPDATE AbcTable SET Discount = 123 WHERE AbcField=1
```



この機能を使用するには、ドキュメントとサーバーの双方でダイナミック更新を許可しておかなくてはなりません。

ドキュメントチェーンの例

[QlikView ドキュメントを開く]を使用して、ドキュメントチェーンを作成できます。

次の設定を適用できます。

- **ステートの転送**: 元のドキュメントから転送先のドキュメントに選択内容を転送します。転送先ドキュメントでは、まず選択内容がクリアされます。
- **現在の選択条件にステートを追加**: 転送先ドキュメントの選択内容を維持し、元のドキュメントの選択内容を追加適用します。



[現在の選択条件を追加適用する]を使用すると、2つのドキュメントでの選択内容が競合している場合に予期せぬ結果が返されることがあります。

- **同じウィンドウで開く**AJAX ZFC クライアントを使用している場合に、同じブラウザタブで新しいドキュメントを開きます。



QlikView Plug-In を使用している場合、ドメインユーザー以外のユーザーは [QlikView ドキュメントを開く]アクションを使用できません。

QlikView ドキュメント: 対象ファイルの拡張子を入力する必要があります。1 つの QlikView ドキュメントから別のドキュメントに移動するための相対パスは、連結されたドキュメントが同じフォルダー構造 (マウント) 内に保存されている限り、すべてのクライアントでサポートされます。

次の例は、対象ファイルへのファイルパスを書き込む方法を示しています。

例: 同じフォルダー構造 (同じマウント) 内に格納されたファイル。

- 対象ファイルが同じフォルダー内に格納されている場合:
  DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルがサブフォルダー内に格納されている場合:
  SubFolder/DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが上位フォルダー内に格納されている場合:
  ../DestinationDoc.qvw

- 対象ファイルが上位の並列フォルダーに格納されている場合:
  ../ParallelFolder/DestinationDoc.qvw

例: 別のフォルダー構造 (別のマウント) 内に格納されているファイル。異なるマウント間の相対パスに対応しているのは Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが別のマウント内に格納されている場合:
  ../DifferentMount/DestinationDoc.qvw

例: QlikView ドキュメントを指すマウントパスの使用。マウントされたフォルダーへのパスの設定に対応しているのは、Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが同じマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \Mount\DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが別のマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \DifferentMount\DestinationDoc.qvw

> *マウントされたフォルダーでのドキュメントチェーンは、QlikView Plug-In では機能しません。*

例: QlikView ドキュメントを指す絶対パスの使用。ドキュメントチェーンでの絶対パスの使用に対応しているのは Ajax クライアントと QlikView Desktop のみです。

- Local Root フォルダーまたはマウントへの絶対パス:
  C:\...\DestinationDoc.qvw
- ネットワーク共有への絶対パス:
  \\SharedStorage\...\DestinationDoc.qvw

Qlik Sense Cloud ハブ内での QlikView アプリ: パスではなく、アプリID が必要です。アプリは QlikView Desktop 内で準備し、更新する必要があります。アプリID は、アプリがハブ内で開かれる時の URL にあります。

例

URL が *https://qcs.us.qlikcloud.com/qv/opendoc.htm?document=1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* の場合、アプリID は、*1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* です。

有効条件

ボタンの状態を決定する数式を入力します。数式が 0 を返す場合、ボタンは無効にされます。数式が 1 を返す場合、ボタンは有効にされます。数式が入力されない場合は、1 が使用されます。基底の状態のために無効にされているボタンは、条件を使用して有効にすることはできません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

ボタンプロパティ: プレゼンテーション

背景のスタイル

アクア

新しいボタンの初期設定です。透き通った3軸の丸いボタンを生成します。 をクリックして色を設定します。

無地

従来の無地の QlikView ボタンを生成します。 をクリックして色を設定します。

システムの既定

オペレーティング システムでボタン用に定義されている単色の背景を提供します。

単一画像

ボタンに画像を使用します。 アイコンをクリックして画像を参照します。

結合された画像

ボタンの状態 (アクティブ、非アクティブ、くぼみ状態) を示す3つの部分で構成される画像のボタンが生成されます。 アイコンをクリックして画像を参照します。この画像ファイルは、横並びの3つの画像で構成される必要があります。最初の画像はアクティブ ボタン、2番目の画像はくぼみボタン、3番目の画像は淡色 (非アクティブ) ボタンになります。

透過性

値の入力、またはスライダーをドラッグしてオブジェクトの背景の透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

テキストの配置

ボタンのテキストの配置は、**左**、**中央** または **右** です。

詳細/簡略

スタイル

- **ボタンのテキスト**: テキストの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。

- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

ボタンプロパティ: キャプション

キャプション

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル**を設定しない場合、**キャプションの表示**が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは2行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

キャプションアイコン

- **メニュー**: オブジェクトメニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

ボタン プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。

- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある をクリックします。

12.19 テキストオブジェクト - AJAX/Webview

テキストオブジェクトは、レイアウトにテキスト情報や画像を表示するために使用できます。

テキストオブジェクト: オブジェクト メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	説明
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

テキスト オブジェクト プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

テキスト

テキスト オブジェクトに表示されるテキストを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

アクション

アクションを追加するには  をクリックします。新しいアクション用の **アクションの設定** ポップアップが開きます。ドロップダウンでアクションを選択し、クリックして  編集することができます。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。

[アクションの設定] ポップアップ

次のオプションを使用できます。

- **種類**: ドロップダウン リストで **[種類]** を選択します。
- **下位の種類**: ドロップダウン リストで **形式** を選択します。使用できる形式は選択した **アクションの種類** によって異なります。

アクションの種類とアクション

選択:

- **項目値の選択**: 指定された項目の指定された値を選択します。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
- **除外値の選択**: 指定された項目の除外値を選択します。
- **絞込値の選択**: 指定された項目の絞込値を選択します。
- **選択の切り替え**: 現在の選択値と指定した **項目** と **検索文字列** で選択を切り替えます。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
- **やり直し**: 選択条件のリストを 1 つ次に進めます。

- **戻る**: 選択条件のリストを1つ前に戻します。
- **パレート選択**: 数式とパーセントを基準に指定した項目でパレートの選択を行います。この種類の選択は、一般的に80/20ルール上での評価基準で主要な要因を選択するために使用されます。たとえば、売上高の80%に貢献したトップの顧客を見つけるためには、顧客を項目として使用してsum(売上高)を数式と使用し、また80をパーセントとして使用します。
- **項目のロック**: 指定した項目の選択をロックします。
- **すべてロック**: すべての項目のすべての値をロックします。
- **項目のアンロック**: 指定した項目の選択のロックを解除します。
- **すべてアンロック**: すべての項目のすべての値のロックを解除します。
- **すべてをアンロックしてクリア**: すべての項目のすべての選択のロックと選択を解除します。
- **他項目のクリア**: 指定した項目以外のすべての関連項目の選択を解除します。
- **すべての選択をクリア**: ロックされていないすべての選択を解除します。
- **項目のクリア**: 特定の項目をクリアします。

レイアウト

- **オブジェクトをアクティブにする**: 指定した**オブジェクトID**のオブジェクトをアクティブにします。この機能はAjaxクライアントでは利用できません。
- **シートをアクティブにする**: 指定した**シートID**のシートをアクティブにします。
- **次のシートをアクティブにする**: ドキュメントの次のシートを開きます。
- **前のシートをアクティブにする**: ドキュメントの前のシートを開きます。
- **オブジェクトを最小化する**: 指定した**オブジェクトID**のオブジェクトを最小化します。
- **オブジェクトを最大化する**: 指定した**オブジェクトID**のオブジェクトを最大化します。
- **オブジェクトを元のサイズに戻す**: 指定した**オブジェクトID**のオブジェクトを元のサイズに戻します。

ブックマーク

- **ブックマークの適用**: 指定した**ブックマークID**のブックマークを適用します。2つのブックマークが同じIDを持つ場合、ドキュメントブックマークが適用されます。サーバーブックマークを適用するには、サーバー\ブックマークIDを指定します。
- **ブックマークの作成**: 現在の選択でブックマークを作成します。**ブックマークID**と**ブックマーク名**を指定します。選択**非表示**非表示のブックマークを作成します。
- **ブックマークの上書き**: 指定した**ブックマークID**のブックマークを現在の選択に置き換えます。

印刷

- **オブジェクトの印刷**: 指定した**オブジェクトID**のオブジェクトを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でオブジェクトを印刷する場合、**プリンタ名**を指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
- **シートの印刷**: 指定した**シートID**のシートを印刷します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です。) この機能はAJAXクライアントでは利用できません。
- **レポートの印刷**: 指定した**レポートID**のレポートを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でレポートを印刷する場合、**プリンタ名**を指定します。ウィンドウズの[印刷]ダイアログを表示する場合、**[印刷]ダイアログを表示する**チェックボックスをオンにします。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

その他

この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **エクスポート**: 特定の項目セットを含むテーブルをエクスポートします。選択条件に当てはまるレコードのみがエクスポートされます。**設定** ボタンを **アクション** ページでクリックすると、**エクスポート アクションの設定** ダイアログが開きます。ドキュメント トリガーまたはシート トリガーとしては使用できません。

  > *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

- **起動**: 外部プログラムを起動します。以下の設定は、**[アクション]** ダイアログで設定できます。
  - **アプリケーション**: **[参照]** をクリックして、起動するアプリケーションを探します。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です)
  - **ファイル名**: 上で指定したアプリケーションで開くファイルへのパスを入力します。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です)
  - **パラメータ**: アプリケーションを起動するコマンド ラインのパラメータを指定します。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です)
  - **作業ディレクトリ**: 起動するアプリケーションの作業ディレクトリを設定します。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です)
  - **QlikView 終了時にアプリケーションを終了する**: QlikView 終了時にアプリケーションを強制的に終了します。(ドキュメント トリガーとシート トリガーでは無効です)

    > *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

- **URL から開く**: **[URL から開く]** を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントへの URL を開くことができます (ドキュメント チェーン)。この設定により既定の WEB ブラウザで URL が開きます。この機能をドキュメントおよびシートのトリガーとして使用することはできません。**[URL から開く]** を使用する場合は、ドキュメント名を必ず小文字でアクション文字列に入力してください。
  可能であれば、**[URL から開く]** ではなく **[QlikView ドキュメントを開く]** を使用してください。

  > *既定では、URL で Javascript を使用できないようになっています。*
  > *custom.config ファイルで `PreventJavascriptInObjectActions` パラメーターを変更することにより、URL で JavaScript を使用できるようになります。*

- **QlikView ドキュメントを開く**: **[QlikView ドキュメントを開く]** を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントを開くことができます (ドキュメント チェーン)。この機能は、ドキュメント トリガーまたはシート トリガーとしては使用できません。詳細については、「*ドキュメント チェーンの例 (page 1624)*」を参照してください。
- **マクロの実行**: 実行するマクロのパスとマクロ名を入力します。任意の名前を入力して後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成する、もしくは動的に更新される **計算式** を入力できます。
- **変数の設定**: 指定した変数に値を適用します。
- **情報の表示**: 指定された **項目** に関連付けられたテキストファイルや画像といった情報を表示します。この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **このドキュメントを閉じる**: QlikView ドキュメントを閉じます
- **リロード**: 現在のドキュメントのリロードを行います。この機能は AJAX クライアントと IE プラグインでは利用できません。

- **ダイナミック更新**: 現在ロードされているドキュメントでデータを動的に更新します。ダイナミック更新へのステートメントは**ステートメント**フィールドに入力してください。
  ダイナミック更新の用途では、QlikView 管理者はドキュメントのリロードを実行しなくても、単一のソースから限定的な量のデータを QlikView ドキュメントにフィードすることができます。その後、QlikView Server に接続している複数のクライアントが分析を実行できます。

  > *アップロードされた情報は RAM のみで保存されるため、ドキュメントのリロードを行うと、ダイナミック更新を使用して追加または更新されたデータは失われます。*

  以下の規則は、ダイナミック更新機能で使用できるステートメントとそのコンポーネントについて説明したものです。
  - statements ::= statement { “;” statement } { “;” statement }
  - statement ::= insert_statement | update_statement | delete_statement | begin_transaction_statement | commit_transaction_statement
  - insert_statement ::= "INSERT" "INTO" ("*" | table_name) field_list "VALUES" value_list {"," value_list} ["KEY" ["AUTO" | (" (" field_list ")")] ["REPLACE" (["WITH" "ONE"] | "EACH")]]
  - update_statement ::= "UPDATE" ("*" | table_name) set_clause {"," | set_clause} "WHERE" condition ["AUTO" "INSERT"]
  - delete_statement ::= "DELETE" "FROM" ("*" | table_name] "WHERE" condition
  - begin_transaction_statement ::= "BEGIN" ("TRANSACTION" | "TRAN") [trans_name]
  - commit_transaction_statement ::= "COMMIT" ["TRANSACTION" | "TRAN"] [trans_name]
  - table_name ::= identifier | quoted_name
  - field_list ::= "(" field_name {"," field_name} ")"
  - value_list ::= "("value {"," value} ")"
  - set_clause ::= "SET" field_name "=" any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
  - field_name ::= identifier | quoted string
  - value ::= identifier | any_qlikview_number | quoted string
  - condition ::= any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
  - identifier ::= any_qlikview_identifier
  - quoted_string ::= "[" [^]]+ "]"

```
UPDATE AbcTable SET Discount = 123 WHERE AbcField=1
```

  > *この機能を使用するには、ドキュメントとサーバーの双方でダイナミック更新を許可しておかなくてはなりません。*

ドキュメントチェーンの例

[**QlikView ドキュメントを開く**]を使用して、ドキュメントチェーンを作成できます。

次の設定を適用できます。

- **ステートの転送**: 元のドキュメントから転送先のドキュメントに選択内容を転送します。転送先ドキュメントでは、まず選択内容がクリアされます。
- **現在の選択条件にステートを追加**: 転送先ドキュメントの選択内容を維持し、元のドキュメントの選択内容を追加適用します。

> *[現在の選択条件を追加適用する]を使用すると、2つのドキュメントでの選択内容が競合している場合に予期せぬ結果が返されることがあります。*

- **同じウィンドウで開く**AJAX ZFC クライアントを使用している場合に、同じブラウザ タブで新しいドキュメントを開きます。

> *QlikView Plug-In を使用している場合、ドメイン ユーザー以外のユーザーは [QlikView ドキュメントを開く] アクションを使用できません。*

QlikView ドキュメント: 対象ファイルの拡張子を入力する必要があります。1 つの QlikView ドキュメントから別のドキュメントに移動するための相対パスは、連結されたドキュメントが同じフォルダー構造 (マウント) 内に保存されている限り、すべてのクライアントでサポートされます。

次の例は、対象ファイルへのファイル パスを書き込む方法を示しています。

例: 同じフォルダー構造 (同じマウント) 内に格納されたファイル。

- 対象ファイルが同じフォルダー内に格納されている場合:
  DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルがサブ フォルダー内に格納されている場合:
  SubFolder/DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが上位フォルダー内に格納されている場合:
  ../DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが上位の並列フォルダーに格納されている場合:
  ../ParallelFolder/DestinationDoc.qvw

例: 別のフォルダー構造 (別のマウント) 内に格納されているファイル。異なるマウント間の相対パスに対応しているのは Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが別のマウント内に格納されている場合:
  ../DifferentMount/DestinationDoc.qvw

例: QlikView ドキュメントを指すマウント パスの使用。マウントされたフォルダーへのパスの設定に対応しているのは、Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが同じマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \Mount\DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが別のマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \DifferentMount\DestinationDoc.qvw

> *マウントされたフォルダーでのドキュメント チェーンは、QlikView Plug-In では機能しません。*

例: QlikView ドキュメントを指す絶対パスの使用。ドキュメントチェーンでの絶対パスの使用に対応しているのは Ajax クライアントとQlikView Desktop のみです。

- Local Root フォルダーまたはマウントへの絶対パス:
  C:\...\DestinationDoc.qvw
- ネットワーク共有への絶対パス:
  \\SharedStorage\...\DestinationDoc.qvw

Qlik Sense Cloud ハブ内での QlikView アプリ: パスではなく、アプリID が必要です。アプリは QlikView Desktop 内で準備し、更新する必要があります。アプリID は、アプリがハブ内で開かれる時の URL にあります。

例

URL が *https://qcs.us.qlikcloud.com/qv/opendoc.htm?document=1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* の場合、アプリID は、*1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* です。

テキストオブジェクトプロパティ: プレゼンテーション

意味

テキストオブジェクト内のテキストは、メモリ内またはディスク上の画像への参照として解釈される場合があります。**テキスト**を選択すると、テキストオブジェクトの内容は常にテキストとして解釈されて表示されます。**画像** を選択すると、QlikView はテキストの内容を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス、または qvw ドキュメント内の画像ファイルへのパスになります。また、画像情報を含む項目にリンクされた info 関数を使用することもできます。QlikView がテキストの内容を有効な画像への参照として解釈できない場合は、テキスト自体が表示されます。ポップアップを開くには  をクリックします。

書式設定

次の書式設定オプションが使用できます。

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。

水平

テキストまたは画像の配置は、**左**、**中央** または **右** です。

垂直

テキストまたは画像の配置は、**上**、**中央** または **下** です。

テキストマージン

テキストオブジェクトの外枠とテキスト自体の間の余白を設定します。

水平スクロール バーの表示

このチェック ボックスをオンにすると、テキストの内容が横に長すぎて指定された領域内に表示できない場合に、水平スクロール バーがテキスト オブジェクトに追加されます。

垂直スクロール バーの表示

このチェック ボックスをオンにすると、テキストの内容が縦に長すぎて指定された領域内に表示できない場合に、垂直スクロール バーがテキスト オブジェクトに追加されます。

背景のスタイル

色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

背景の透過性

テキスト オブジェクトの背景の透過性を設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。

スタイル

プレゼンテーション スタイル

オプション	説明
テキスト	テキストの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

オプション	説明
キャプションのフォント	キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
アクティブ時のキャプション	アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
非アクティブ時のキャプション	非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
枠線の使用	シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
枠線の幅	入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
角を丸くする	をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。 *[角を丸くする]を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]**(**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]**内)が選択されている場合のみです。* 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

テキストオブジェクトプロパティ: キャプション

キャプション

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル**を設定しない場合、**キャプションの表示**が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは2行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値

までドラッグします。

- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

テキスト オブジェクト プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.20 線/矢印オブジェクト - AJAX/Webview

線/矢印 オブジェクトは、レイアウトに線または矢印を描画するシートオブジェクトです。線は、例えば、ドキュメントをセクションに分けてレイアウトを明確にするのに使用できます。

線/矢印：オブジェクト メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

線/矢印オブジェクト - AJAX/Webview コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

線/矢印 プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: ALT+ENTER。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

線の方向

線/矢印の方向を水平、垂直、または 2 つの斜線モードのいずれかに設定します。

矢印の種類

描画する矢印を選択します。

アクション

アクションを追加するには をクリックします。新しいアクション用の **アクションの設定** ポップアップが開きます。ドロップダウンでアクションを選択し、クリックして 編集することができます。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。

[アクションの設定] ポップアップ

- **種類**: ドロップダウン リストで **種類** を選択します。
- **下位の種類**: ドロップダウン リストで **形式** を選択します。使用できる形式は選択した **アクションの種類** によって異なります。

アクションの種類とアクション

- **選択**:
  - **項目値の選択**: 指定された項目の指定された値を選択します。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
  - **除外値の選択**: 指定された項目の除外値を選択します。
  - **絞込値の選択**: 指定された項目の絞込値を選択します。
  - **選択の切り替え**: 現在の選択値と指定した **項目** と **検索文字列** で選択を切り替えます。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
  - **やり直し**: 選択条件のリストを 1 つ次に進めます。
  - **戻る**: 選択条件のリストを 1 つ前に戻します。
  - **パレート選択**: 数式とパーセントを基準に指定した項目でパレートの選択を行います。この種類の選択は、一般的に 80/20 ルール上での評価基準で主要な要因を選択するために使用されます。たとえば、売上高の 80% に貢献したトップの顧客を見つけるためには、顧客を項目として使用して sum(売上高) を数式と使用し、また 80 をパーセントとして使用します。
  - **項目のロック**: 指定した項目の選択をロックします。
  - **すべてロック**: すべての項目のすべての値をロックします。
  - **項目のアンロック**: 指定した項目の選択のロックを解除します。
  - **すべてアンロック**: すべての項目のすべての値のロックを解除します。
  - **すべてをアンロックしてクリア**: すべての項目のすべての選択のロックと選択を解除します。
  - **他項目のクリア**: 指定した項目以外のすべての関連項目の選択を解除します。
  - **すべての選択をクリア**: ロックされていないすべての選択を解除します。
  - **項目のクリア**: 特定の項目をクリアします。
- **レイアウト**:
  - **オブジェクトをアクティブにする**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトをアクティブにします。この機能は Ajax クライアントでは利用できません。
  - **シートをアクティブにする**: 指定した **シートID** のシートをアクティブにします。
  - **次のシートをアクティブにする**: ドキュメントの次のシートを開きます。
  - **前のシートをアクティブにする**: ドキュメントの前のシートを開きます。
  - **オブジェクトを最小化する**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトを最小化します。
  - **オブジェクトを最大化する**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトを最大化します。
  - **オブジェクトを元のサイズに戻す**: 指定した **オブジェクトID** のオブジェクトを元のサイズに戻します。
- **ブックマーク**:
  - **ブックマークの適用**: 指定した **ブックマークID** のブックマークを適用します。2 つのブックマークが同じ ID を持つ場合、ドキュメントブックマークが適用されます。サーバーブックマークを適用するに

は、サーバー\ブックマークIDを指定します。

- **ブックマークの作成**: 現在の選択でブックマークを作成します。**ブックマークID** と**ブックマーク名** を指定します。選択 **非表示** 非表示のブックマークを作成します。
- **ブックマークの上書き**: 指定した**ブックマークID** のブックマークを現在の選択に置き換えます。

- **印刷**:
  - **オブジェクトの印刷**: 指定した**オブジェクトID** のオブジェクトを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でオブジェクトを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **シートの印刷**: 指定した**シートID** のシートを印刷します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です。) この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
  - **レポートの印刷**: 指定した**レポートID** のレポートを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でレポートを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。ウィンドウズの [印刷] ダイアログを表示する場合、**[印刷] ダイアログを表示する** チェックボックスをオンにします。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

- **外部**: この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
  - **エクスポート**: 特定の項目セットを含むテーブルをエクスポートします。選択条件に当てはまるレコードのみがエクスポートされます。**設定** ボタンを**アクション** ページでクリックすると、**エクスポートアクションの設定** ダイアログが開きます。ドキュメントトリガーまたはシートトリガーとしては使用できません。

    > *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

  - **起動**: 外部プログラムを起動します。以下の設定は、**[アクション]** ダイアログで設定できます。
    - **アプリケーション**: **[参照]** をクリックして、起動するアプリケーションを探します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
    - **ファイル名**: 上で指定したアプリケーションで開くファイルへのパスを入力します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
    - **パラメータ**: アプリケーションを起動するコマンドラインのパラメータを指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
    - **作業ディレクトリ**: 起動するアプリケーションの作業ディレクトリを設定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
    - **QlikView 終了時にアプリケーションを終了する**: QlikView 終了時にアプリケーションを強制的に終了します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

      > *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

  - **URL から開く** [**URL から開く**] を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントへの URL を開くことができます (ドキュメントチェーン)。この設定により既定の WEB ブラウザで URL が開きます。この機能をドキュメントおよびシートのトリガーとして使用することはできません。[**URL から開く**] を使用する場合は、ドキュメント名を必ず小文字でアクション文字列に入力してください。
    可能であれば、[**URL から開く**] ではなく[**QlikView ドキュメントを開く**] を使用してください。

> *既定では、URL で Javascript を使用できないようになっています。custom.config ファイルで `PreventJavascriptInObjectActions` パラメーターを変更することにより、URL で JavaScript を使用できるようになります。*

- **QlikView ドキュメントを開く**:[**QlikView ドキュメントを開く**]を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントを開くことができます (ドキュメント チェーン)。この機能は、ドキュメント トリガーまたはシート トリガーとしては使用できません。詳細については、「*ドキュメント チェーンの例 (page 1635)*」を参照してください。
- **マクロの実行**: 実行するマクロのパスとマクロ名を入力します。任意の名前を入力して後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成する、もしくは動的に更新される **計算式** を入力できます。
- **変数の設定**: 指定した変数に値を適用します。
- **情報の表示**: 指定された **項目** に関連付けられたテキストファイルや画像といった情報を表示します。この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **このドキュメントを閉じる**: QlikView ドキュメントを閉じます
- **リロード**: 現在のドキュメントのリロードを行います。この機能は AJAX クライアントと IE プラグインでは利用できません。
- **ダイナミック更新**: 現在ロードされているドキュメントでデータを動的に更新します。ダイナミック更新へのステートメントは **ステートメント** フィールドに入力してください。
  ダイナミック更新の用途では、QlikView 管理者はドキュメントのリロードを実行しなくても、単一のソースから限定的な量のデータを QlikView ドキュメントにフィードすることができます。その後、QlikView Server に接続している複数のクライアントが分析を実行できます。

  > *アップロードされた情報は RAM のみで保存されるため、ドキュメントのリロードを行うと、ダイナミック更新を使用して追加または更新されたデータは失われます。*

  以下の規則は、ダイナミック更新機能で使用できるステートメントとそのコンポーネントについて説明したものです。
  - statements ::= statement { “;” statement } { “;” statement }
  - statement ::= insert_statement | update_statement | delete_statement | begin_transaction_statement | commit_transaction_statement
  - insert_statement ::= "INSERT" "INTO" ("*" | table_name) field_list "VALUES" value_list {"," value_list} ["KEY" ["AUTO" | (" (" field_list ")")] ["REPLACE" (["WITH" "ONE"] | "EACH")]]
  - update_statement ::= "UPDATE" ("*" | table_name) set_clause {"," | set_clause} "WHERE" condition ["AUTO" "INSERT"]
  - delete_statement ::= "DELETE" "FROM" ("*" | table_name] "WHERE" condition
  - begin_transaction_statement ::= "BEGIN" ("TRANSACTION" | "TRAN") [trans_name]
  - commit_transaction_statement ::= "COMMIT" ["TRANSACTION" | "TRAN"] [trans_name]
  - table_name ::= identifier | quoted_name
  - field_list ::= "(" field_name {"," field_name} ")"

- value_list ::= "("value {"," value} ")"
- set_clause ::= "SET" field_name "=" any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- field_name ::= identifier | quoted string
- value ::= identifier | any_qlikview_number | quoted string
- condition ::= any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- identifier ::= any_qlikview_identifier
- quoted_string ::= "[" [^]]+ "]"

```
UPDATE AbcTable SET Discount = 123 WHERE AbcField=1
```



この機能を使用するには、ドキュメントとサーバーの双方でダイナミック更新を許可しておかなくてはなりません。

ドキュメントチェーンの例

[QlikView ドキュメントを開く] を使用して、ドキュメントチェーンを作成できます。

次の設定を適用できます。

- **ステートの転送**: 元のドキュメントから転送先のドキュメントに選択内容を転送します。転送先ドキュメントでは、まず選択内容がクリアされます。
- **現在の選択条件にステートを追加**: 転送先ドキュメントの選択内容を維持し、元のドキュメントの選択内容を追加適用します。



[現在の選択条件を追加適用する] を使用すると、2 つのドキュメントでの選択内容が競合している場合に予期せぬ結果が返されることがあります。

- **同じウィンドウで開く**AJAX ZFC クライアントを使用している場合に、同じブラウザ タブで新しいドキュメントを開きます。



QlikView Plug-In を使用している場合、ドメイン ユーザー以外のユーザーは [QlikView ドキュメントを開く] アクションを使用できません。

QlikView ドキュメント: 対象ファイルの拡張子を入力する必要があります。1 つの QlikView ドキュメントから別のドキュメントに移動するための相対パスは、連結されたドキュメントが同じフォルダー構造 (マウント) 内に保存されている限り、すべてのクライアントでサポートされます。

次の例は、対象ファイルへのファイル パスを書き込む方法を示しています。

例: 同じフォルダー構造 (同じマウント) 内に格納されたファイル。

- 対象ファイルが同じフォルダー内に格納されている場合:
  DestinationDoc.qvw

- 対象ファイルがサブフォルダー内に格納されている場合:
  SubFolder/DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが上位フォルダー内に格納されている場合:
  ../DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが上位の並列フォルダーに格納されている場合:
  ../ParallelFolder/DestinationDoc.qvw

例: 別のフォルダー構造 (別のマウント) 内に格納されているファイル。異なるマウント間の相対パスに対応しているのは Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが別のマウント内に格納されている場合:
  ../DifferentMount/DestinationDoc.qvw

例: QlikView ドキュメントを指すマウントパスの使用。マウントされたフォルダーへのパスの設定に対応しているのは、Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが同じマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \Mount\DestinationDoc.qvw
- 対象ファイルが別のマウントされたフォルダー内に格納されている場合:
  \DifferentMount\DestinationDoc.qvw

> *マウントされたフォルダーでのドキュメントチェーンは、QlikView Plug-In では機能しません。*

例: QlikView ドキュメントを指す絶対パスの使用。ドキュメントチェーンでの絶対パスの使用に対応しているのは Ajax クライアントと QlikView Desktop のみです。

- Local Root フォルダーまたはマウントへの絶対パス:
  C:\...\DestinationDoc.qvw
- ネットワーク共有への絶対パス:
  \\SharedStorage\...\DestinationDoc.qvw

Qlik Sense Cloud ハブ内での QlikView アプリ: パスではなく、アプリ ID が必要です。アプリは QlikView Desktop 内で準備し、更新する必要があります。アプリ ID は、アプリがハブ内で開かれる時の URL にあります。

例

URL が *https://qcs.us.qlikcloud.com/qv/opendoc.htm?document=1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* の場合、アプリ ID は、*1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* です。

線/矢印 プロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**[プレゼンテーション]** プロパティを説明します。

線のスタイル

線のスタイルを **実線**、**破線** または **点線** に設定します。

線の太さ

線の太さを設定します。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** にある **[スタイル]** を説明します。

スタイル

スタイル:

- **線の色**: 線の色を設定するには をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。

- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]**(**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]**内)が選択されている場合のみです。*

  [角を丸くする] ポップアップ
  角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

線/矢印 プロパティ: キャプション

このセクションでは、**[キャプション]** プロパティを説明します。

キャプション プロパティ

このセクションでは、**[キャプション]** プロパティのオプションを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

アイコン キャプション プロパティ

このセクションでは、**[アイコン キャプション]** プロパティを説明します。

詳細/簡略

- キャプション内のアイコン:
  - **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
  - **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
  - **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定 ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

線/矢印 プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。

- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある をクリックします。

12.21 カレンダー オブジェクト - AJAX/Webview

カレンダー オブジェクトは、QlikViw 項目の値を選択したり、QlikView 変数に値を入力するための代替方法を提供します。カレンダー オブジェクトには、2 つ異なるモードがあります。

カレンダー オブジェクトの **[プロパティ]** メニューで **[複数値]** オプションをオンにすると、複数の日付を選択できます。複数の日付を選択するには、それぞれの日付をクリックしてハイライトします。日付の選択を解除するには、ハイライトされた日付のうち不要なものをクリックします。

カレンダー: オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

カレンダー: オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

カレンダー プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

項目

ドロップダウンからカレンダーに含めたい項目を選択します。**[項目]** または **[変数]** のどちらにオブジェクトを接続するかを選択します。

変数

ドロップダウン メニューで変数を選択します。**[項目]** または **[変数]** のどちらにオブジェクトを接続するかを選択します。

カレンダー モード

- **1 つの値**: 1 つの値の選択用。
- **複数値 (範囲指定)**: 複数値の選択用。Ajax クライアントでは、複数値は選択できません。

詳細/簡略

このセクションでは、詳細/簡略の中で利用できるタブについて説明します

[基本設定] タブ

[項目] を選択すると**[最小値]** と**[最大値]** が無効になり、**[変数]** を選択すると**[ロック項目の上書き]** が無効になります。

- **最小値**: オブジェクトの最小値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: オブジェクトの最大値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **固定項目の上書き**: 項目がロックされている場合でも、カレンダー オブジェクトからその項目内の選択を行うことができます。その項目は、他の項目での選択による論理的な変更に対してはロックされます。

[数値書式] タブ

各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、[ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。初期設定を上書きする: アクティブなオブジェクトの初期設定を上書きできます。数値書式: 後続のオプションから数値書式を選択できます。

- **混合**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
- **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
- **整数**: 数値を整数で表示します。
- **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
- **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
- **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
- **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
- **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例 : 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
  書式パターン: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。
  - **ISO**: 書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。
  - **Sys**: 書式をシステム設定に設定します。

- **有効桁数**: 表示される桁数です。
- **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
- **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
- **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
- **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

カレンダープロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、カレンダーのプレゼンテーションプロパティを説明します。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

画像のポップアップには、複数の書式設定オプションが含まれています。

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

詳細/簡略には、次のスタイルが含まれています。

- テキスト: テキストの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- キャプションのフォント: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

- アクティブ時のキャプション: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- 非アクティブ時のキャプション: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- 枠線の使用: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- 枠線の幅: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- 角を丸くする: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  - **角を丸くするポップアップ**: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

カレンダープロパティ: キャプション

このセクションでは、カレンダーのキャプションプロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

アイコンキャプション

アイコンキャプションには、**[詳細/簡略]** という1 つのプロパティがあり、このセクションで概要が説明された複数のオプションを含んでいます。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

カレンダー プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。

- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.22 スライダー オブジェクト - AJAX/Webview

スライダー オブジェクトは、QlikViw 項目の値を選択したり、QlikView 変数に値を入力するための代替方法を提供します。スライダー オブジェクトには、2 つ異なるモードがあります。

スライダー: オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右 クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー プロパティ

Property	説明
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

スライダー プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

項目

ドロップダウンのスライダーに表示させたい項目を選択します。**[項目]** または **[変数]** のどちらにオブジェクトを接続するかを選択します。

変数

ドロップダウン メニューで変数を選択します。**[項目]** または **[変数]** のどちらにオブジェクトを接続するかを選択します。

スライダー モード

- **1 つの値**: 1 つの値の選択用。
- **複数値 (範囲指定)**: 複数値の選択用。

値のモード

- **不連続値**: 不連続値の選択用。
- **連続値/数値**: 連続値/数値の選択用 (項目値で [ひとつの値] モードを設定している場合には使用できません)。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。

基本設定

項目 を選択すると**最小値**、**最大値** および **目盛間隔** は無効となりますが、**変数** を選択すると有効になります。

- **最小値**: オブジェクトの最小値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: オブジェクトの最大値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **選択とともに移動**: [スライダー] モードでのみ有効です。ロック項目の上書き項目がロックされている場合でも、スライダー オブジェクトからその項目内の選択を行うことができます。その項目は、他の項目での選択による論理的な変更に対してはロックされます。
- **数値**: 各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、[ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
  - 初期設定を上書きする: アクティブなオブジェクトの初期設定を上書きするために選択します。
- **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
- **混合**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
- **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
- **整数**: 数値を整数で表示します。
- **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
- **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** 項目に表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** 項目に表示されます。
- **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** 項目に表示されます。

- **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。この書式のサンプルは、**プレビュー** 項目に表示されます。
- **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例:書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。書式パターン項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。
- **ISO**: 書式をISO標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日付と時刻]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。
- **Sys**: 書式をシステム設定に設定します。
    - **有効桁数**: 表示される桁数です。
    - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
    - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
    - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
    - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[桁数固定]** でのみ使用できます。
    - **プレビュー**: 上の書式コードに基づいてプレビューを表示します。

スライダープロパティ:プレゼンテーション

このセクションでは、**[スライダー]** プロパティを説明します。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

縮小/拡大なし: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。**全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。**縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。**縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。**水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。**垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。**透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

スタイル

- **テキスト**: テキストの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

> *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  - **角を丸くするポップアップ**: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

スライダープロパティ: キャプション

このセクションでは、**[スライダー]** プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには をクリックします。
- **クイック切替の設定 ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

スライダー プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.23 ブックマーク オブジェクト - AJAX/Webview

このオブジェクトは、選択条件ブックマークを表示および選択するために使用されます。ブックマークは、名前で検索するか、ドロップダウンから選択できます。設定によっては、新しいブックマークを追加したり、古いブックマークを削除するために使用することもできます。基本的に [ブックマーク] メニューと同じオプションを提供しますが、シート上にシートオブジェクトとして配置できます。

ブックマーク: オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右 クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

ブックマーク: オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
ブックマークの追加	現在の選択条件をブックマークとして保存します。
ブックマークの削除	現在のブックマークを削除します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▬ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブル クリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▢ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

ブックマーク プロパティ (Bookmark Properties)

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

ボタンの追加

ブックマークの追加 ボタンに表示されるテキストを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

ボタンの削除

ブックマークの削除 ボタンに表示されるテキストを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

ブックマークプロパティ(Bookmark Properties): プレゼンテーション

プレゼンテーション

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

- スタイル:
  - **テキスト**: フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
  - **ボタンの追加**: 追加ボタンの色を設定するには A をクリックします。
  - **ボタンの削除**: 削除ボタンの色を設定するには A をクリックします。
  - **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  角の丸みには **固定** または **相対値表示** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **鋭度** を選択します。

ブックマークプロパティ(Bookmark Properties): キャプション

キャプション

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは2行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

ブックマーク プロパティ(Bookmark Properties): オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.24 検索オブジェクト - AJAX/Webview

検索オブジェクトはドキュメント内にあるあらゆる情報の検索に使用できます。

検索オブジェクト: オブジェクト メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー プロパティ

Property	説明
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

検索オブジェクトプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

ソート順に絞込値の有無を適用する

項目の絞込値を含むかどうかに基づいて項目をソートします。このチェック ボックスをオンにすると、絞込値がない項目は動的に下に移動されます。

ファイル済みソート

オブジェクトのソート順を設定します。

Mode

検索対象となる項目を設定します。

検索オブジェクトプロパティ:プレゼンテーション

このセクションでは、**[検索オブジェクト]** プロパティを説明します。

除外値を含める

このチェックボックスをオンにすると、選択によって除外された値が検索に含められます。

従属文字列の強調

合致する検索文字列が強調表示されます。

検索結果が指定数を超えたら折りたたむ

各項目での合致する値を表示する数を制限します。

検索オブジェクトの表示テキスト

検索文字列を入力する前に検索オブジェクトに表示するテキストを入力します。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

スタイル

- スタイル: フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- キャプションのフォント: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- アクティブ時のキャプション: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- 非アクティブ時のキャプション: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- 枠線の使用: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- 枠線の幅: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- 角を丸くする: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

- 角を丸くするポップアップ: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

> *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

検索オブジェクトプロパティ: キャプション

このセクションでは、**[検索オブジェクト]** プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクトメニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シートオブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シートオブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値(選択値を含む)を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化 アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化 アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

検索オブジェクト プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。

- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.25 コンテナ オブジェクト - AJAX/Webview

コンテナ オブジェクトには、他のすべてのシート オブジェクトを含めることができます。オブジェクトはグループ化され、フォントとレイアウト、キャプションの設定を共有します。

コンテナ : オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

コンテナ : オブジェクト メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。

コマンド	[Details] (詳細)
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

コンテナ プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

をクリックして、コンテナにオブジェクトを追加します。ドロップダウンからオブジェクトを選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。

コンテナ プロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、コンテナ プロパティで利用できるプロパティを説明します。プレゼンテーション。

コンテナの種類

[シングル オブジェクト] あるいは **[グリッド]** を選択します。グリッドにより、コンテナ オブジェクト内に一度に複数のオブジェクトを表示して情報を確認することができます。

> *選択した **[コンテナの種類]** に応じて、次のセクションで説明されたプロパティが異なります。*

スタイル

表示プロパティには、コンテナにあるオブジェクトの場所をカスタマイズするために次のオプションがあります。

- **見出しタブ位置: 上**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナ オブジェクトの最上部にタブ表示されます。
- **見出しタブ位置: 左**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナ オブジェクトの左端にタブ表示されます。
- **見出しタブ位置: 下**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの最下部にタブ表示されます。

- **見出しタブ位置: 右**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナ オブジェクトの右端にタブ表示されます。
- **ドロップダウン見出し: 上**: コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナ オブジェクトの最上部にドロップダウン メニュー表示されます。
- **タブを非表示**: すべてのタブを非表示にし、オブジェクト リストの最初のオブジェクトを表示するか、表示条件が TRUE を返す最初のオブジェクトのみを表示します。

チャートの種類をアイコンで表示する

この設定を有効にすると、コンテナ オブジェクトのタブに異なるシート オブジェクトを示すアイコンが表示されます。

列

コンテナ オブジェクト内の列数。

行

コンテナ オブジェクト内の行数。

段落後の行間

コンテナ オブジェクト内の列と行の間のスペース

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

- **画像ポップアップ**: **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。**全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。**縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。**縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。**水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。**垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。**透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

構成で利用できるスタイルは以下のとおりです。

- **テキスト**: 背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。

- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。 をクリックして、枠線の色を設定します。
- **枠線の幅**: 入力項目で枠線の幅を指定するか、スライダーを希望する数値までドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  - **角を丸くするポップアップ**: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。値を入力して **[鋭度]** を選択します。

コンテナプロパティ: キャプション

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル**を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは2行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

アイコンキャプション

アイコンキャプションは、詳細/簡略という1つのプロパティで構成されており、このセクションで概要が説明される複数のオプションを含んでいます。

- **メニュー**: オブジェクトメニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。

- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

コンテナ プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。

- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.26 棒グラフ - AJAX/Webview

最も基本的なチャートの種類。値をさまざまな高さの棒で表示します。

棒グラフ: [オブジェクト] メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▾ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で » アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。

コマンド	[Details] (詳細)
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

棒グラフプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

- **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **NULL 値を抑える**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグ

します。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。

- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェックボックスをオンにすると、トレリスチャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリスチャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリスチャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリスチャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

ソート

シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **第 1 ソート順**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**:
    - **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
    - **数値**: 項目値を数値順にソートします。
    - **テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。
    - **ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。数式によるソート入力された数式によって項目値をソートします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択値を上部に配置選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

最初の数式を使った表示値の制限。

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

- **表示のみ**:
  このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。
    - **[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。

- **[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
- **[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
- 表示する値の数を入力します。

値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示**: このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。

  値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**:このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードの使用**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **第 1 軸 ラベル**: 第 1 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **第 2 軸 ラベル**: 第 2 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。

- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **段組みラベル**: x- 軸ラベルが多くて横並びにできない場合に段組みにするには、このオプションをオンにします。
- **段組み表示の反転**: 通常、x- 軸ラベルは下から上、左から右に段組みにされます。このチェックボックスをオンにすると、段組が上から下に反転します。
- **数値目盛の X- 軸**: x- 軸を数値目盛表示に設定します。つまり、x- 軸は数値と解釈され、数値的に適切な間隔で表示されます。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **バックキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの左に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。バックキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **フォーキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの右に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。フォーキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

数式

数式を追加するには  をクリックし、リストから数式を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。各軸をクリックし、**[詳細]** ボタンを使用して追加の設定を行うことができます。

数式

- **有効化**: このチェックボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **累積**:

  累積を使用するにはこのチェックボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **累計ポップアップ**: オプションの 1 つを選択し、シートオブジェクトの値を累積するかどうかを決定します。
    - **累計**: 累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。
    - **累計なし**: 選択したチャート式の y 値は累積されません。
    - **全累計**: 各 y 値は、数式の前のすべての y 値を累積します。トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。
    - **累積手順**: このボックスに数値を入力するかスライダーをドラッグして、数式の y 値の累積される回数を設定します。
- **すう勢線の使用**:

  すう勢線を使用するにはこのチェックボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  すう勢線ポップアップ: 次のすう勢線のオプションを 1 つ選択します。
  - **平均**: 平均が直線で描画されます。
  - **線形**: 直線回帰線が描画されます。
  - **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
    各オプションでは、**[方程式の表示]** チェックボックスと **[R^2 を表示]** チェックボックスをオンにできます。
    - **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
    - **R^2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

- **凡例に表示**: 複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。
- **統計的分布**:

  統計的分布を使用するにはこのチェックボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **統計的分布 ポップアップ**: メインの数式のデータ ポイントに加えて描画されるバー用の補助数式として、選択した数式に続く数式を 1 つまたは 2 つ使用するには、**[正方向]**、**[負方向]** および **[両方向]** のチェック ボックスをオンにします。
  - **[両方向]** を選択する場合は、補助数式が 1 つだけ使用され、データ ポイントの周囲に対称にプロットされます。
  - **[正方向]** または **[負方向]** を選択する場合は、補助数式が 2 つ使用され、それぞれデータ ポイントの上側と下側にプロットされます。
  - エラー バー数式は、正の数を返します。
  - 補助数式はエラー バーに使用され、[数式] リストでは補助数式の前にアイコン (両方向)、(正方向)、または (負方向) が置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。
  - 選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。
- **棒の枠線設定 ポップアップ**: 棒グラフとコンボ チャートの棒の周囲の枠線の幅を指定します。
- **値表示の設定**:
  - **データ ポイントの値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
  - **ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。
  - **軸上のテキスト**: 数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットします。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**:データ ポイントの基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **棒補正**:補正値を計算する属性式を定義します。
  - **値の表示**: メイン数式で **[データ ポイントの値]** をオンにしていない場合に、データ ポイントのプロットを「データ ポイント値の数値」で補足するかどうかを計算する属性式を定義します。メイン数式で **[データ ポイントの値]** をオンにした場合、属性式は無視されます。
- **数式の編集**ダイアログ: 値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数値書式タブ**:
  - **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、**[]** ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
    - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
    - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
    - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。

- **整数**: 数値を整数で表示します。
- **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
- **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
- **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
- **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
- **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例:書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
- **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式をISO標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
- **有効桁数**: 表示される桁数です。
- **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
- **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
- **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
- **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **軸の分割**: このボックスをチェックすると、y-軸が 2 か所に分けられ、x-軸を共有する 2 つのチャートを作成します。
- **位置**: **左** または **右** の位置を選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **Log スケール**: このボックスをオンにすると、目盛が対数になります。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **中間値**:その位置がプロットエリアの中心になる目盛線の値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

棒グラフプロパティ: プレゼンテーション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

種類

ポップアップを開くには  をクリックします。

- **回転角度(縦)**: 3 次元ビューの縦の角度を定義します。値は 0 ~ 30 の整数です。
- **回転角度(横)**: 3 次元ビューの横の角度を定義します。値は 0 ~ 45 の整数です。

方向

チャートの方向を設定します。

色のスタイル

チャートのすべてのプロットの色に、色のスタイルを定義できます。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **固定色**: 選択によってデータポイントの総数が減る場合でも、各データポイントに割り当てられた色をロックします。このモードでは、各データポイントの色表現は変更されませんが、2 つの近接した棒やスライスで、異なるデータポイントに同じ色が使用される恐れがあります。
- **最後の色を繰り返す**: 18 番目以降にロードされた項目値に最後 (18 番目) の色を割り当てるには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、19 番目の値 (元のロード順に基づく) は最初の色になり、20 番目の値は 2 番目の色などとなります。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **スタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
- **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。

- **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
- **ソート順を反転する**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
- **セルを折り返して表示**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

積み上げ

このオプションをオンにすると、棒がグループ表示ではなく積み上げ表示されます。

要素の間隔

クラスターの棒と棒の間の距離を設定するには、数値を入力するかスライダーをドラッグします。

グループの間隔

チャートのクラスターとクラスターの間の距離を設定するには、数値を入力するかスライダーをドラッグします。

背景

チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**:  をクリックして色を選択します。
- **画像**: 画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロット エリアの背景

プロット エリアの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**: プロット エリアに背景色を付けます。 をクリックして色を選択します。
- **画像**: プロット エリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロット エリアのスタイル

このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。次のオプションを使用できます。

- **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
- **影付き**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
- **最小限**: プロット エリアの背景は削除されます。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。

General (基本設定)

- **反転**: このチェックボックスがオンの場合、チャートに表示される値が反転されます。10 の最高値を表示するチャートの場合、このチェックボックスをオンにすると10 の最低値を表示します。
- **最大表示数**: このボックスでは、チャートに値を表示するデータポイントの数の上限値を指定します。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
- **0 値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **棒に 0 値を表示**: この設定は、**[0 値を隠す]** がオフの場合にのみ適用できます。このチェックボックスと **データ点の値** チェックボックスがオンの場合、データ点の上にテキストで 0 値が表示されます。その他の場合は、ゼロ値が隠されます。
- **欠損値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- **数式の目盛線を 0 レベルに揃える**: 2 つの Y- 軸の 0 レベルに合わせます (左/右 または上/下)。
- **マーカー セットを使用する**: このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。
- **細い棒を許可する**: 不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。棒の幅を 1 ピクセルにまで細くすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。
- **すべての棒を表示**: 不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。すべての棒をプロットするには、このチェックボックスをオンにします。棒が圧縮されるので、一部のデータポイントが他のデータポイントによって見づらくなることがあります。
- **値を縦書きにする**: 値を縦に表示します。
- **要素の中に数値を表示**: このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
- **ポップアップ ラベル**: このチェックボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **ハイライト**: このオプションは、AJAX/Webview でサポートされていません。

チャートのスクロール

ポップアップを開くには  をクリックします。

- **[チャートのスクロール] ポップアップ**: 棒の表示数が定義済みの数値を超えている場合、X- 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。
- **計算条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **凡例**: 凡例の色を設定するには  をクリックします。凡例のフォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
- **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、  をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]* *を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** ([ドキュメントプロパティ: **基本設定**] 内) が選択されている場合のみです。*

  - [角を丸くする] ポップアップ: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定するには  をクリックします。
- **スクロール ボタン**: スクロール バーのボタンの色を設定するには  をクリックします。
- **スクロール バーの幅**: スクロール バーの幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **すう勢線の幅**: すう勢線の幅を指定します。
- **エラー バー**: エラー バー スライダーの色を設定するには  をクリックします。
- **エラー バーの幅**: エラー バーの幅を指定します。
- **エラー バーの厚さ**: エラー バーの厚さを指定します。

- **基準線**:
  - **基準線**: 基準線を追加するには  をクリックします。
  - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
  - **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **X- 軸**: 基準線の起源を x- 軸にする場合は、このオプションを選択します。
  - **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
  - **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
  - **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
  - **線の色**: 基準線の色を指定します。
  - **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が FALSE を返す場合にのみ非表示となります。
  - **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **テキスト**:
  - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
  - **テキスト:チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
  - **角度**: テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。
  - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
  - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
  - **テキストのスタイル**:
    - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
    - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
  - **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

棒グラフプロパティ: キャプション

キャプション

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

キャプションにある以下のアイコンが利用できます。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

棒グラフプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザープロパティ、オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.27 折れ線グラフ - AJAX/Webview

折れ線グラフは、値ポイント間の線、値ポイントのみ、または線と値ポイントの両方でデータを表します。折れ線グラフは、変更や傾向を表示する場合に便利です。

折れ線グラフ: [オブジェクト] メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシートオブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。

コマンド	[Details] (詳細)
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

折れ線グラフプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

このセクションでは、**軸**の要素について説明しています。

- **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **NULL 値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値を表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルを表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェックボックスをオンにすると、トレリスチャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリスチャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリスチャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリスチャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

ソート

このセクションでは、**ソート**の要素について説明しています。

- シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
  複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。
- **第 1 ソート順**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式によるソート**: 入力された数式によって項目値をソートします。値は、計算式として入力できます。

fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **選択値を上部に配置**: 選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

このセクションでは、**制限** の要素について説明しています。

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。
- **表示のみ**:
- このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。
    - **[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。
    - **[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
    - **[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
    - 表示する値の数を入力します。
    - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - **[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示** このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **「その他」の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。

- **「合計」の表示**: このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードの使用**:
- このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

目盛線

このセクションでは、**目盛線** の要素について説明しています。

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **第 1 軸 ラベル**: 第 1 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **第 2 軸 ラベル**: 第 2 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **段組み ラベル**: x- 軸ラベルが多くて横並びにできない場合に段組みにするには、このオプションをオンにします。
- **段組み表示の反転**: 通常、x- 軸ラベルは下から上、左から右に段組みにされます。このチェックボックスをオンにすると、段組が上から下に反転します。
- **数値目盛の X- 軸**: x- 軸を数値目盛表示に設定します。つまり、x- 軸は数値と解釈され、数値的に適切な間隔で表示されます。
- **目盛りの 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **バックキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの左に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。バックキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **フォーキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの右に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。フォーキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

数式

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

このセクションでは、**数式**の要素について説明しています。

- **有効化**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェック ボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **累積**:

  累積を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **累計ポップアップ**: オプションの 1 つを選択し、シート オブジェクトの値を累積するかどうかを決定します。
    - **累計**: 累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。
    - **累計なし**: 選択したチャート式の y 値は累積されません。
    - **全累計**: 各 y 値は、数式の前のすべての y 値を累積します。トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。
    - **累積手順**: このボックスに数値を入力するかスライダーをドラッグして、数式の y 値の累積される回数を設定します。
- **すう勢線の使用**:

  すう勢線を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  すう勢線ポップアップ: 次のすう勢線のオプションを 1 つ選択します。

- **平均**: 平均が直線で描画されます。
- **線形**: 直線回帰線が描画されます。
- **2番目の角度の多項式近似**: 2次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **3番目の角度の多項式近似**: 3次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **4番目の角度の多項式近似**: 4次元多項式のすう勢線が描画されます。
- **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
  各オプションでは、**[方程式の表示]** チェックボックスと**[R^2 を表示]** チェックボックスをオンにできます。
  - **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
  - **R^2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

- **凡例の表示**: 複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。
- **線記号の設定**: このボックスをチェックすると、棒や線記号のレイアウト設定ができます。ポップアップを開くには  をクリックします。
  - **[線記号の設定] ポップアップ**:
    - **線**: 線のレイアウトを設定します。
    - **マーカー**: マーカーのレイアウトを設定します。
- **値表示の設定**:
  - **データポイントの値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェックボックスをオンにします。
  - **ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバルーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。
  - **軸上のテキスト**: 数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットします。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: データ点の基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャートカラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **線のスタイル**: 属性式を入力して、データ点に関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボチャート、およびレーダーチャートにのみ有効です。

- 線の相対的な幅は、<Wn> タグを含めることで制御できます。ここで、n はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。n は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません (例: <W2.5>)。線のスタイルは、<Sn> タグを含めることで制御できます。ここで、n は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<Wn> および <Sn> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

- **値の表示**:
  - メイン数式で **[データ ポイントの値]** をオンにしていない場合に、データポイントのプロットを「データポイント値の数値」で補足するかどうかを計算する属性式を定義します。メイン数式で **データポイントの値** をオンにした場合、属性式は無視されます。
    - **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
      - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
      - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
      - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
      - **整数**: 数値を整数で表示します。
      - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
      - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
      - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
      - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
      - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
      - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例 : 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
      - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
      - **有効桁数**: 表示される桁数です。
      - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
      - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
      - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
      - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
      - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

目盛線

このセクションでは、**目盛線**の要素について説明しています。

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **軸の分割**: このボックスをチェックすると、y-軸が 2 か所に分けられ、x-軸を共有する 2 つのチャートを作成します。
- **位置**: **左**または**右**の位置を選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル**と**グリッド色**設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル**と**グリッド色**設定を使用して書式設定できます。
- **Log スケール**: このボックスをオンにすると、目盛が対数になります。
- **目盛りの 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **中間値**: その位置がプロットエリアの中心になる目盛線の値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

線グラフプロパティ: プレゼンテーション

このセクションは、**[プレゼンテーション]** プロパティについて説明しています。

プレゼンテーションのオプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

種類

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。

ポップアップを開くには  をクリックします。

- **[3D 棒グラフの設定] ポップアップ**:
  - **回転角度(縦)**: 3 次元ビューの縦の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。
  - **回転角度(横)**: 3 次元ビューの横の角度を定義します。値は 5 ~ 45 の整数です。

方向

チャートの方向を設定します。

色のスタイル

チャートのすべてのプロットの色に、色のスタイルを定義できます。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **[カラープロパティ] ポップアップ**:
  - **固定色**: 選択によってデータポイントの総数が減る場合でも、各データポイントに割り当てられた色をロックします。このモードでは、各データポイントの色表現は変更されませんが、2 つの近接した棒やスライスで、異なるデータポイントに同じ色が使用される恐れがあります。
  - **最後の色を繰り返す**: 18 番目以降にロードされた項目値に最後 (18 番目) の色を割り当てるには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、19 番目の値 (元のロード順に基づく) は最初の色になり、20 番目の値は 2 番目の色などとなります。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **[凡例の書式] ポップアップ**:
  - **スタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
  - **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。
  - **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
  - **ソート順を反転する**: このチェックボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
  - **セルを折り返して表示**: このチェックボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

積み上げ

このオプションをオンにすると、棒がグループ表示ではなく積み上げ表示されます。

要素の間隔

クラスターの棒と棒の間の距離を設定するには、数値を入力するかスライダーをドラッグします。

グループの間隔

チャートのクラスターとクラスターの間の距離を設定するには、数値を入力するかスライダーをドラッグします。

背景

チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**:  をクリックして色を選択します。
- **画像**: 画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロットエリアの背景

プロットエリアの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**: プロットエリアに背景色を付けます。 をクリックして色を選択します。
- **画像**: プロットエリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロットエリアのスタイル

このコントロールは、プロットエリアの背景の表示を変更するのに使用できます。次のオプションを使用できます。

- **フレーム**: フレームがプロットエリアの周囲に描かれます。
- **影付き**: このオプションは、プロットエリアの背景に影の効果を追加します。
- **最小限**: プロットエリアの背景は削除されます。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

- **基本設定**:
  - **反転**: このチェックボックスがオンの場合、チャートに表示される値が反転されます。10 の最高値を表示するチャートの場合、このチェックボックスをオンにすると10 の最低値を表示します。
  - **最大表示数**: このボックスでは、チャートに値を表示するデータポイントの数の上限値を指定します。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
  - **0 値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
  - **欠損値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
  - **数式の目盛線を 0 レベルに揃える**: 2 つの Y- 軸の 0 レベルに合わせます (左/右または上/下)。
  - **マーカー セットを使用する**: このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。
  - **半透明**: 線を半透明に表示したい場合は、このボックスをチェックします。
  - **値を縦書きにする**: 値を縦に表示します。

- **要素の中に数値を表示**: このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
- **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **ハイライト**: このオプションは、AJAX/Webview でサポートされていません。
- **チャートのスクロール**: ポップアップを開くには  をクリックします。
  - [チャートのスクロール] ポップアップ: 棒の表示数が定義済みの数値を超えている場合、X-軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。
- **計算条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- スタイル:
  - **凡例**: 凡例の色を設定するには  をクリックします。凡例のフォントの色を設定するには  をクリックします。フォントのタイプを設定するには  をクリックします。
  - **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
  - **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには  をクリックします。
  - **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
  - **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
  - **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
  - **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
  - **角を丸くする**:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

    > *[角を丸くする]* を使用できるのは、*[詳細設定]*、*[スタイルのモード]* (*[ドキュメント プロパティ: 基本設定]* 内) が選択されている場合のみです。

    - **[角を丸くする] ポップアップ**: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。値を入力して **[鋭度]** を選択します。

- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定するには  をクリックします。
- **スクロール ボタン**: スクロール バーのボタンの色を設定するには  をクリックします。
- **スクロール バーの幅**: スクロール バーの幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **すう勢線の幅**: すう勢線の幅を指定します。
  - **基準線**:
    - **基準線**: 基準線を追加するには  をクリックします。
    - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
    - **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - **X- 軸**: 基準線の起源を x- 軸にする場合は、このオプションを選択します。
    - **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
    - **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
    - **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
    - **線の色**: 基準線の色を指定します。
    - **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が FALSE を返す場合にのみ非表示となります。
    - **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **テキスト**:
    - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
    - **テキスト**:**チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
    - **角度**: テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。
    - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
    - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
    - **テキストのスタイル**:
      - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
      - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
    - **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

線グラフプロパティ: キャプション

このセクションは、**[キャプション]** プロパティについて説明しています。

- **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。

- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。

- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

キャプション アイコン

このセクションは、**[詳細/簡略]** プロパティの要素について説明しています。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。

- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

線グラフプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ、オブジェクト** ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。

- **共有先:[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
- **ユーザー (Domain\UserID):[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

  ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.28 コンボ チャート - AJAX/Webview

コンボ チャートを使用すると、棒グラフの機能と折れ線グラフの機能を組み合わせることができます。つまり、1 つ目の数式の値を棒で表示しながら、2 つ目の数式の値を線またはマーカーで表示できます。

コンボ チャート: [オブジェクト] メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▾ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。

コマンド	[Details] (詳細)
すべての選択をクリア	アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシートオブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シートオブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシートオブジェクトを別のブラウザウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

コンボ チャートプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

- **有効条件**: このチェック ボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **NULL 値を抑える**: このチェック ボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **軸ラベルの表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **軸ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェック ボックスをオンにすると、トレリス チャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリス チャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリス チャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリス チャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

ソート

シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **第 1 ソート順**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。

- **数式によるソート**: 入力された数式によって項目値をソートします。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **選択値を上部に配置**: 選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。
- **表示のみ**: このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示**: このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**: このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **グローバル グループ化 モードの使用**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **第 1 軸 ラベル**: 第 1 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **第 2 軸 ラベル**: 第 2 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **段組み ラベル**: x- 軸ラベルが多くて横並びにできない場合に段組みにするには、このオプションをオンにします。
- **段組み表示の反転**: 通常、x- 軸ラベルは下から上、左から右に段組みにされます。このチェックボックスをオンにすると、段組が上から下に反転します。
- **数値目盛の X- 軸**: x- 軸を数値目盛表示に設定します。つまり、x- 軸は数値と解釈され、数値的に適切な間隔で表示されます。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **バックキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの左に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。バックキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **フォーキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの右に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。フォーキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

[数式]

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効化**: このチェックボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **累積**:

  累積を使用するにはこのチェックボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **累計ポップアップ**: オプションの 1 つを選択し、シートオブジェクトの値を累積するかどうかを決定します。
    - **累計**: 累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。
    - **累計なし**: 選択したチャート式の y 値は累積されません。
    - **全累計**: 各 y 値は、数式の前のすべての y 値を累積します。トレリスチャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。
    - **累積手順**: このボックスに数値を入力するかスライダーをドラッグして、数式の y 値の累積される回数を設定します。
- **すう勢線の使用**:

  すう勢線を使用するにはこのチェックボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  すう勢線ポップアップ: 次のすう勢線のオプションを 1 つ選択します。
  - **平均**: 平均が直線で描画されます。
  - **線形**: 直線回帰線が描画されます。
  - **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。

    各オプションでは、**[方程式の表示]** チェックボックスと **[R^2 を表示]** チェックボックスをオンにできます。
    - **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
    - **R^2 を表示**: 特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

- **凡例に表示**: 複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。
- **統計的分布**:

  統計的分布を使用するにはこのチェックボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **統計的分布ポップアップ**: メインの数式のデータポイントに加えて描画されるバー用の補助数式として、選択した数式に続く数式を1つまたは2つ使用するには、**[正方向]**、**[負方向]** および **[両方向]** のチェックボックスをオンにします。
    - **[両方向]** を選択する場合は、補助数式が1つだけ使用され、データポイントの周囲に対称にプロットされます。
    - **[正方向]** または **[負方向]** を選択する場合は、補助数式が2つ使用され、それぞれデータポイントの上側と下側にプロットされます。
    - エラーバー数式は、正の数を返します。
    - 補助数式はエラーバーに使用され、[数式] リストでは補助数式の前にアイコン(両方向)、(正方向)、または(負方向)が置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。
    - 選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。
- **棒、線、記号の設定**:

  このボックスをチェックすると、棒や線記号のレイアウト設定ができます。ポップアップを開くには  をクリックします。

  [棒、線、記号の設定] ポップアップ

  棒

  値を入力、またはスライダーをドラッグして、棒グラフとコンボチャートで棒の周囲の枠線の幅を指定します。

  線

  線のレイアウトを設定します。

  シンボル

  マーカーのレイアウトを設定します。

- **値表示の設定**:
  - **データポイントの値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェックボックスをオンにします。
  - **ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバルーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。
  - **軸上のテキスト**: 数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットします。
- **属性式のスタイル**:

- **背景色**:データポイントの基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャートカラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
- **棒補正**:補正値を計算する属性式を定義します。
- **線のスタイル**:線のスタイルを計算する属性式を定義します。
- **値の表示**: メイン数式で **[データポイントの値]** をオンにしていない場合に、データポイントのプロットを「データポイント値の数値」で補足するかどうかを計算する属性式を定義します。メイン数式で **[データポイントの値]** をオンにした場合、属性式は無視されます。

- **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、**[]** ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
  - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
  - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
  - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
  - **整数**: 数値を整数で表示します。
  - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
  - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
  - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
  - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
  - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
  - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例:書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
  - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
  - **有効桁数**: 表示される桁数です。
  - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
  - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
  - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
  - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
  - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **軸の分割**: このボックスをチェックすると、y-軸が 2 か所に分けられ、x-軸を共有する 2 つのチャートを作成します。
- **位置**: **左**または**右**の位置を選択します。

- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **Log スケール**: このボックスをオンにすると、目盛が対数になります。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **中間値**: その位置がプロットエリアの中心になる目盛線の値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

コンボ チャートプロパティ: プレゼンテーション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

種類

ポップアップを開くには  をクリックします。

- **回転角度(縦)**: 3 次元ビューの縦の角度を定義します。値は 0 ~ 30 の整数です。
- **回転角度(横)**: 3 次元ビューの横の角度を定義します。値は 0 ~ 45 の整数です。

方向

チャートの方向を設定します。

色のスタイル

チャートのすべてのプロットの色に、色のスタイルを定義できます。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **固定色**: 選択によってデータポイントの総数が減る場合でも、各データポイントに割り当てられた色をロックします。このモードでは、各データポイントの色表現は変更されませんが、2 つの近接した棒やスライスで、異なるデータポイントに同じ色が使用される恐れがあります。
- **最後の色を繰り返す**: 18 番目以降にロードされた項目値に最後 (18 番目) の色を割り当てるには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、19 番目の値 (元のロード順に基づく) は最初の色になり、20 番目の値は 2 番目の色などとなります。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **スタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
- **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。
- **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
- **ソート順を反転する**: このチェックボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
- **セルを折り返して表示**: このチェックボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

積み上げ

このオプションをオンにすると、棒がグループ表示ではなく積み上げ表示されます。

要素の間隔

クラスターの棒と棒の間の距離を設定するには、数値を入力するかスライダーをドラッグします。

グループの間隔

チャートのクラスターとクラスターの間の距離を設定するには、数値を入力するかスライダーをドラッグします。

背景

チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**:  をクリックして色を選択します。
- **画像**: 画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロットエリアの背景

プロットエリアの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**: プロットエリアに背景色を付けます。 をクリックして色を選択します。
- **画像**: プロットエリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロットエリアのスタイル

このコントロールは、プロットエリアの背景の表示を変更するのに使用できます。次のオプションを使用できます。

- **フレーム**: フレームがプロットエリアの周囲に描かれます。
- **影付き**: このオプションは、プロットエリアの背景に影の効果を追加します。
- **最小限**: プロットエリアの背景は削除されます。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。

General (基本設定)

- **反転**: このチェックボックスがオンの場合、チャートに表示される値が反転されます。10 の最高値を表示するチャートの場合、このチェックボックスをオンにすると10 の最低値を表示します。
- **最大表示数**: このボックスでは、チャートに値を表示するデータポイントの数の上限値を指定します。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
- **0 値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **棒に 0 値を表示**: この設定は、**[0 値を隠す]** がオフの場合にのみ適用できます。このチェックボックスと **データ点の値** チェックボックスがオンの場合、データ点の上にテキストで 0 値が表示されます。その他の場合は、ゼロ値が隠されます。
- **欠損値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- **数式の目盛線を 0 レベルに揃える**: 2 つの Y- 軸の 0 レベルに合わせます (左/右 または上/下)。
- **マーカー セットを使用する**: このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。
- **細い棒を許可する**: 不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。棒の幅を 1 ピクセルにまで細くすることを許可するには、このチェックボックスをオンにします。
- **すべての棒を表示**: 不連続 X 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。すべての棒をプロットするには、このチェックボックスをオンにします。棒が圧縮されるので、一部のデータポイントが他のデータポイントによって見づらくなることがあります。
- **値を縦書きにする**: 値を縦に表示します。
- **要素の中に数値を表示**: このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。
- **ポップアップ ラベル**: このチェックボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **ハイライト**: このオプションは、AJAX/Webview でサポートされていません。

チャートのスクロール

ポップアップを開くには をクリックします。

- **[チャートのスクロール] ポップアップ**: 棒の表示数が定義済みの数値を超えている場合、X-軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示されたX-軸値の選択をスクロールできます。
- **計算条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **凡例**: 凡例の色を設定するには をクリックします。凡例のフォントの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
- **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  - [角を丸くする] ポップアップ: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロールの背景**: スクロール バーの背景色を設定するには をクリックします。
- **スクロール ボタン**: スクロール バーのボタンの色を設定するには をクリックします。

- **スクロール バーの幅**: スクロール バーの幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
- **すう勢線の幅**: すう勢線の幅を指定します。
- **エラー バー**: エラー バー スライダーの色を設定するには  をクリックします。
- **エラー バーの幅**: エラー バーの幅を指定します。
- **エラー バーの厚さ**: エラー バーの厚さを指定します。
- **基準線**:
  - **基準線**: 基準線を追加するには  をクリックします。
  - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
  - **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **X- 軸**: 基準線の起源を x- 軸にする場合は、このオプションを選択します。
  - **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
  - **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
  - **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
  - **線の色**: 基準線の色を指定します。
  - **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が FALSE を返す場合にのみ非表示となります。
  - **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **テキスト**:
  - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
  - **テキスト**:**チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
  - **角度**: テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。
  - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
  - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
  - **テキストのスタイル**:
    - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
    - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
  - **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

コンボ チャートプロパティ: キャプション

キャプション

- **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化 アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

コンボ チャート プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。

- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.29 レーダー チャート - AJAX/Webview

レーダー チャートは、x 軸が 360 度を一周するように配置され、x 値ごとに 1 つの y 軸がある折れ線グラフです。結果は、くもの巣やレーダー画面に似ています。

レーダーチャート: [オブジェクト] メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。

コマンド	[Details] (詳細)
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

コマンド	[Details] (詳細)
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ☐ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

レーダー チャートプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

- **有効条件**: このチェック ボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **NULL 値を抑える**: このチェック ボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **軸 ラベルの表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **軸 ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェック ボックスをオンにすると、トレリス チャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリス チャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリス チャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリス チャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

ソート

シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **第 1 ソート順**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式によるソート**: 入力された数式によって項目値をソートします。
- **選択値を上部に配置**: 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。
- **表示のみ**:
  このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。
  - **[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。
  - **[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
  - **[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
  - 表示する値の数を入力します。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **次に累積する値のみ表示**: このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**: このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードの使用**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **第 1 軸 ラベル**: 第 1 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **第 2 軸 ラベル**: 第 2 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **段組み ラベル**: x- 軸ラベルが多くて横並びにできない場合に段組みにするには、このオプションをオンにします。
- **段組み表示の反転**: 通常、x- 軸ラベルは下から上、左から右に段組みにされます。このチェックボックスをオンにすると、段組が上から下に反転します。
- **数値目盛の X- 軸**: x- 軸を数値目盛表示に設定します。つまり、x- 軸は数値と解釈され、数値的に適切な間隔で表示されます。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **バックキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの左に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。バックキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **フォーキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの右に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。フォーキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

[数式]

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効化**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェック ボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **累積**:

  累積を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **累計 ポップアップ**: オプションの 1 つを選択し、シート オブジェクトの値を累積するかどうかを決定します。
    - **累計**: 累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。
    - **累計なし**: 選択したチャート式の y 値は累積されません。
    - **全累計**: 各 y 値は、数式の前のすべての y 値を累積します。トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。

    - **累積手順**: このボックスに数値を入力するかスライダーをドラッグして、数式の y 値の累積される回数を設定します。
- **凡例に表示**: 複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。
- **線記号の設定**: このボックスをオンにすると、線記号のレイアウト設定ができます。ポップアップを開くには  をクリックします。
    - **線記号の設定ポップアップ**:
        - 線: 線のレイアウトを設定します。
        - シンボル: マーカーのレイアウトを設定します。
- **値表示の設定**:
    - **データポイントの値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェックボックスをオンにします。
    - **ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバルーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。
    - **軸上のテキスト**: 数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットします。

属性式のスタイル

- **背景色**: データポイントの基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャートカラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
- **線のスタイル**: データポイントに関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算する属性式を定義します。線の相対的な幅は、<Wn> タグを含めることで制御できます。ここで、n はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。n は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません (例: <W2.5>)。線のスタイルは、<Sn> タグを含めることで制御できます。ここで、n は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例 : <S3>。<Wn> および <Sn> タグは自由に組み合わせることができますが、それぞれ最初に出現するもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。
    - **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
        - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
        - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
        - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
        - **整数**: 数値を整数で表示します。
        - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。

- **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
- **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
- **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
- **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例 : 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
- **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
- **有効桁数**: 表示される桁数です。
- **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
- **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
- **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
- **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **軸の分割**: このボックスをチェックすると、y-軸が 2 か所に分けられ、x-軸を共有する 2 つのチャートを作成します。
- **位置**:**左** または **右** の位置を選択します。**[軸の分割]** を選択している場合、**[最上部]** あるいは **[最下部]** の位置を選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッドスタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッドスタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **Log スケール**: このボックスをオンにすると、目盛が対数になります。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **中間値**: その位置がプロットエリアの中心になる目盛線の値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

レーダーチャートプロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**[レーダーチャート]** プロパティを説明します。

種類

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

[凡例の書式] ポップアップ

- **凡例のスタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
- **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。
- **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
- **ソート順を反転する**: このチェックボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
- **セルのテキストを折り返して表示**: このチェックボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

積み上げ

このオプションをオンにすると、データポイントが積み上げ表示されます。

線の幅

線の幅を設定します。

マーカーのサイズ

マーカーのサイズを設定します (マーカーが使用される場合)。

背景

チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**:  をクリックして色を選択します。
- **画像**: 画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**:  をクリックして動的画像を設定します。
  - 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

背景の透過性

 をクリックして背景の透過性を設定します。透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

このセクションでは、**[基本設定]** プロパティを説明します。

(基本設定)

- **反転**: このチェックボックスがオンの場合、チャートに表示される値が反転されます。10 の最高値を表示するチャートの場合、このチェックボックスをオンにすると10 の最低値を表示します。
- **表示最大値**: このボックスでは、チャートに値を表示するデータポイントの数の上限値を指定します。制限を指定しない場合は、すべてのデータポイントの値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
- **0 値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **欠損値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- **数式の目盛線を 0 レベルに揃える**: 2 つの Y- 軸の 0 レベルに合わせます (左/右 または 上/下)。
- **マーカー セットを使用する**: このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。
- **半透明**: 線を半透明に表示したい場合は、このボックスをチェックします。
- **値を縦書きにする**: 値を縦に表示します。
- **要素の中に数値を表示**: このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータポイントの値を表示します。
- **ポップアップ ラベル**: このチェックボックスをオンにすると、チャートのデータポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **ハイライト**: このチェックボックスをオンにすると、マウス ポインタを線またはマーカー上に置いたときに、線またはマーカーが強調表示され、全体像を把握しやすくなります。強調表示は、凡例にも適用されます (適用可能な場合)。
- **演算実行条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **凡例**: 凡例の色を設定するには をクリックします。フォントの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**:
  - をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

    > *[角を丸くする]* を使用できるのは、*[詳細設定]*、*[スタイルのモード]* (*[ドキュメント プロパティ: 基本設定]* 内) が選択されている場合のみです。

  - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロール バーの背景**: スクロール バーの背景色を設定するには をクリックします。
- **スクロール バー スライダー**: スクロール バーのボタンの色を設定するには
- **スクロール バーの幅**: スクロール バーの幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。
  - **基準線**:
    - **基準線**: 基準線を追加するには をクリックします。
    - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
    - **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使

用されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。

- **X- 軸**: 基準線の起源を x- 軸にする場合は、このオプションを選択します。
- **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
- **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
- **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
- **線の色**: 基準線の色を指定します。
- **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が FALSE を返す場合にのみ非表示となります。
- **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。

- **テキスト**:
  - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
  - **テキスト:チャートのテキスト**に追加されたテキストはここに表示されます。
  - **角度**: テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。
  - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
  - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
  - **テキストのスタイル**:
    - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
    - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
  - **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

レーダー チャートプロパティ: キャプション

このセクションでは、**[レーダー チャート]**プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル**を設定しない場合、**キャプションの表示**が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。

- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。

- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

レーダーチャートプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブルシートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロールバーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザープロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブルオブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.30 ゲージ チャート - AJAX/Webview

ゲージ チャートは、軸のない単一の数式の値を表示するために使用されます。

ゲージ チャート: [オブジェクト] メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。

コマンド	[Details] (詳細)
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で » アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

ゲージ チャート プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

数式

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効化**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。

- **条件付き表示**: このチェック ボックスをオンにすると、編集 ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**:
  - 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  - 値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。
  - **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、**[]** ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
    - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
    - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
    - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
    - **整数**: 数値を整数で表示します。
    - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
    - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
    - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
    - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
    - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
    - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例 : 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
    - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
    - **有効桁数**: 表示される桁数です。
    - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
    - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
    - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
    - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
    - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

アクション

ドロップダウン リストからアクションを選択します。アクションを追加するには  をクリックします。ドロップダウン リストからアクションを選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。  をクリックして **[アクションの設定]** ポップアップを開きます。

- **アクションの設定 ポップアップ**: アクションの **[種類]** と**[下位の種類]** をドロップダウン リストから選択します。
  - **選択**:
    - **項目値の選択**: 指定された項目の指定された値を選択します。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
    - **除外値の選択**: 指定された項目の除外値を選択します。
    - **絞込値の選択**: 指定された項目の絞込値を選択します。
    - **選択の切り替え**: 現在の選択値と指定した **項目** と**検索文字列** で選択を切り替えます。**検索文字列** では、検索マスクを指定できます。例 : (A|B) は A とB の両方を選択します。
    - **やり直し**: 選択条件のリストを 1 つ次に進めます。
    - **戻る**: 選択条件のリストを 1 つ前に戻します。
    - **パレート選択**: 数式とパーセントを基準に指定した項目でパレートの選択を行います。この種類の選択は、一般的に 80/20 ルール上での評価基準で主要な要因を選択するために使用されます。たとえば、売上高の 80% に貢献したトップの顧客を見つけるためには、顧客を項目として使用して sum(売上高) を数式と使用し、また 80 をパーセントとして使用します。
    - **項目のロック**: 指定した項目の選択をロックします。
    - **すべてロック**: すべての項目のすべての値をロックします。
    - **項目のアンロック**: 指定した項目の選択のロックを解除します。
    - **すべてアンロック**: すべての項目のすべての値のロックを解除します。
    - **すべてをアンロックしてクリア**: すべての項目のすべての選択のロックと選択を解除します。
    - **他項目のクリア**: 指定した項目以外のすべての関連項目の選択を解除します。
    - **すべての選択をクリア**: ロックされていないすべての選択を解除します。
    - **項目のクリア**: 特定の項目をクリアします。
  - **レイアウト**:
    - **オブジェクトをアクティブにする**: 指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトをアクティブにします。この機能は Ajax クライアントでは利用できません。
    - **シートをアクティブにする**: 指定した **シート ID** のシートをアクティブにします。
    - **次のシートをアクティブにする**: ドキュメントの次のシートを開きます。
    - **前のシートをアクティブにする**: ドキュメントの前のシートを開きます。
    - **オブジェクトを最小化する**: 指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを最小化します。
    - **オブジェクトを最大化する**: 指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを最大化します。
    - **オブジェクトを元のサイズに戻す**: 指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを元のサイズに戻します。

- **ブックマーク**:
  - **ブックマークの適用**: 指定した**ブックマークID** のブックマークを適用します。2 つのブックマークが同じ ID を持つ場合、ドキュメントブックマークが適用されます。サーバーブックマークを適用するには、サーバー\ブックマークID を指定します。
  - **ブックマークの作成**: 現在の選択でブックマークを作成します。**ブックマークID** と**ブックマーク名** を指定します。選択 **非表示** 非表示のブックマークを作成します。
  - **ブックマークの上書き**: 指定した**ブックマークID** のブックマークを現在の選択に置き換えます。
- **印刷**:
  - **オブジェクトの印刷**: 指定した**オブジェクトID** のオブジェクトを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でオブジェクトを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
  - **シートの印刷**: 指定した**シートID** のシートを印刷します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です。) この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
  - **レポートの印刷**: 指定した**レポートID** のレポートを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でレポートを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。ウィンドウズの [印刷] ダイアログを表示する場合、**[印刷] ダイアログを表示する** チェックボックスをオンにします。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
- **外部**:
  - この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
    - **エクスポート**: 特定の項目セットを含むテーブルをエクスポートします。選択条件に当てはまるレコードのみがエクスポートされます。**設定** ボタンを**アクション** ページでクリックすると、**エクスポートアクションの設定** ダイアログが開きます。ドキュメントトリガーまたはシートトリガーとしては使用できません。

      > *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

    - **起動**: 外部プログラムを起動します。以下の設定は、**[アクション]** ダイアログで設定できます。
      - **アプリケーション**: **[参照]** をクリックして、起動するアプリケーションを探します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
      - **ファイル名**: 上で指定したアプリケーションで開くファイルへのパスを入力します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
      - **パラメータ**: アプリケーションを起動するコマンドラインのパラメータを指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
      - **作業ディレクトリ**: 起動するアプリケーションの作業ディレクトリを設定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
      - **QlikView 終了時にアプリケーションを終了する**: QlikView 終了時にアプリケーションを強制的に終了します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

        > *この機能は AJAX クライアントでは利用できません。*

- **URL から開く**:[**URL から開く**] を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントへの URL を開くことができます (ドキュメント チェーン)。この設定により既定の WEB ブラウザで URL が開きます。この機能をドキュメントおよびシートのトリガーとして使用することはできません。[**URL から開く**] を使用する場合は、ドキュメント名を必ず小文字でアクション文字列に入力してください。
可能であれば、[**URL から開く**] ではなく [**QlikView ドキュメントを開く**] を使用してください。

  > *既定では、URL で Javascript を使用できないようになっています。custom.config ファイルで `PreventJavascriptInObjectActions` パラメーターを変更することにより、URL で JavaScript を使用できるようになります。*

- **QlikView ドキュメントを開く**:[**QlikView ドキュメントを開く**] を使用して、別の QlikView ドキュメント内から QlikView ドキュメントを開くことができます (ドキュメント チェーン)。この機能は、ドキュメント トリガーまたはシート トリガーとしては使用できません。詳細については、「*ドキュメント チェーンの例 (page 1733)*」を参照してください。
- **マクロの実行**: 実行するマクロのパスとマクロ名を入力します。任意の名前を入力して後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成する、もしくは動的に更新される **計算式** を入力できます。
- **変数の設定**: 指定した変数に値を適用します。
- **情報の表示**: 指定された **項目** に関連付けられたテキストファイルや画像といった情報を表示します。この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
- **このドキュメントを閉じる**: QlikView ドキュメントを閉じます
- **リロード**: 現在のドキュメントのリロードを行います。この機能は AJAX クライアントと IE プラグインでは利用できません。
- **ダイナミック更新**: 現在ロードされているドキュメントでデータを動的に更新します。ダイナミック更新へのステートメントは **ステートメント** フィールドに入力してください。ダイナミック更新の用途では、QlikView 管理者はドキュメントのリロードを実行しなくても、単一のソースから限定的な量のデータを QlikView ドキュメントにフィードすることができます。その後、QlikView Server に接続している複数のクライアントが分析を実行できます。

  > *アップロードされた情報は RAM のみで保存されるため、ドキュメントのリロードを行うと、ダイナミック更新を使用して追加または更新されたデータは失われます。*

  以下の規則は、ダイナミック更新機能で使用できるステートメントとそのコンポーネントについて説明したものです。

  - statements ::= statement { “;” statement } { “;” statement }
  - statement ::= insert_statement | update_statement | delete_statement | begin_transaction_statement | commit_transaction_statement

- insert_statement ::= "INSERT" "INTO" ("*" | table_name) field_list "VALUES" value_list {"," value_list} ["KEY" ["AUTO" | (" (" field_list ")")] ["REPLACE" (["WITH" "ONE"] | "EACH")]]
- update_statement ::= "UPDATE" ("*" | table_name) set_clause {"," | set_clause} "WHERE" condition ["AUTO" "INSERT"]
- delete_statement ::= "DELETE" "FROM" ("*" | table_name] "WHERE" condition
- begin_transaction_statement ::= "BEGIN" ("TRANSACTION" | "TRAN") [trans_name]
- commit_transaction_statement ::= "COMMIT" ["TRANSACTION" | "TRAN"] [trans_name]
- table_name ::= identifier | quoted_name
- field_list ::= "(" field_name {"," field_name} ")"
- value_list ::= "("value {"," value} ")"
- set_clause ::= "SET" field_name "=" any_valid_non_aggregated_ qlikview_expression
- field_name ::= identifier | quoted string
- value ::= identifier | any_qlikview_number | quoted string
- condition ::= any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- identifier ::= any_qlikview_identifier
- quoted_string ::= "[" [^]]+ "]"

```
UPDATE AbcTable SET Discount = 123 WHERE AbcField=1
```

> *この機能を使用するには、ドキュメントとサーバーの双方でダイナミック更新を許可しておかなくてはなりません。*

ドキュメントチェーンの例

[QlikView ドキュメントを開く]を使用して、ドキュメントチェーンを作成できます。
次の設定を適用できます。

- **ステートの転送**: 元のドキュメントから転送先のドキュメントに選択内容を転送します。転送先ドキュメントでは、まず選択内容がクリアされます。
- **現在の選択条件にステートを追加**: 転送先ドキュメントの選択内容を維持し、元のドキュメントの選択内容を追加適用します。

  > ***[現在の選択条件を追加適用する]**を使用すると、2 つのドキュメントでの選択内容が競合している場合に予期せぬ結果が返されることがあります。*

- **同じウィンドウで開く**AJAX ZFC クライアントを使用している場合に、同じブラウザタブで新しいドキュメントを開きます。

> *QlikView Plug-In を使用している場合、ドメイン ユーザー以外のユーザーは [QlikView ドキュメントを開く] アクションを使用できません。*

QlikView ドキュメント: 対象ファイルの拡張子を入力する必要があります。1 つの QlikView ドキュメントから別のドキュメントに移動するための相対パスは、連結されたドキュメントが同じフォルダー構造 (マウント) 内に保存されている限り、すべてのクライアントでサポートされます。
次の例は、対象ファイルへのファイル パスを書き込む方法を示しています。
例: 同じフォルダー構造 (同じマウント) 内に格納されたファイル。

- 対象ファイルが同じフォルダー内に格納されている場合: *DestinationDoc.qvw*
- 対象ファイルがサブ フォルダー内に格納されている場合: *SubFolder/DestinationDoc.qvw*
- 対象ファイルが上位フォルダー内に格納されている場合: *../DestinationDoc.qvw*
- 対象ファイルが上位の並列フォルダーに格納されている場合: *../ParallelFolder/DestinationDoc.qvw*

例: 別のフォルダー構造 (別のマウント) 内に格納されているファイル。異なるマウント間の相対パスに対応しているのは Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが別のマウント内に格納されている場合: *../DifferentMount/DestinationDoc.qvw*

例: QlikView ドキュメントを指すマウント パスの使用。マウントされたフォルダーへのパスの設定に対応しているのは、Ajax クライアントのみです。

- 対象ファイルが同じマウントされたフォルダー内に格納されている場合: *\Mount\DestinationDoc.qvw*
- 対象ファイルが別のマウントされたフォルダー内に格納されている場合: *\DifferentMount\DestinationDoc.qvw*

> *マウントされたフォルダーでのドキュメント チェーンは、QlikView Plug-In では機能しません。*

例: QlikView ドキュメントを指す絶対パスの使用。ドキュメント チェーンでの絶対パスの使用に対応しているのは Ajax クライアントと QlikView Desktop のみです。

- Local Root フォルダーまたはマウントへの絶対パス: *C:\...\DestinationDoc.qvw*
- ネットワーク共有への絶対パス: *\\SharedStorage\...\DestinationDoc.qvw*

Qlik Sense Cloud ハブ内での QlikView アプリ: パスではなく、アプリ ID が必要です。アプリは QlikView Desktop 内で準備し、更新する必要があります。アプリ ID は、アプリがハブ内で開かれる時の URL にあります。
例

URL が *https://qcs.us.qlikcloud.com/qv/opendoc.htm?document=1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* の場合、アプリID は、*1cc71b323f172f93a8121ce1456cdg* です。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャート タイトルとして設定されます。チャート タイトルを表示しない場合は、チェック ボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。

ゲージ チャート プロパティ: プレゼンテーション

プレゼンテーション

- **スタイル**: ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。
- **ゲージの最小値**: ゲージの最小値を指定します。この値は、ゲージのインジケータの最下部の位置に対応します。
- **ゲージの最大値**: ゲージの最大値を指定します。この値は、ゲージのインジケータの最上部の位置に対応します。
- **ゲージ セグメントの設定**: このグループでは、ゲージを構成するセグメントを定義します。LED スタイルのゲージを除くすべてのゲージには、セグメントが少なくとも 1 つ必要です。円形および線形ゲージでは、セグメントは背景の色が異なる領域を構成します。信号機ゲージでは、各セグメントは 1 つのライトに対応します。表示されているセグメントのリストで、プロパティを変更するセグメントを 1 つ選択します。ドロップダウンでセグメントを選択し、 をクリックしてセグメントを追加します。領域の色を選択するには、 をクリックします。 をクリックして、リストから項目を削除します。ポップアップを開くには をクリックします。
- **セグメント領域の自動調整**: このチェック ボックスをオンにすると、ゲージの [最小値]、[最大値]、および定義されているセグメント数に基づいてセグメントの領域が自動的に計算されます。
- **Log スケール**: このチェック ボックスをオンにすると、ゲージの目盛が対数になります。
- **セグメント領域の相対表示**: このオプションをオンにすると、セグメント領域を 0 ~ 1 の数値で入力できます。この数値は、最小値から最大値までの値の範囲全体に対する割合を示します。
- **セグメントの輪郭の表示**: ゲージのセグメントの輪郭を表示します。
- **セグメントの境界の表示**: このチェック ボックスをオンにすると、円形および線形ゲージのセグメントの境界で輪郭を描画します。
- **セグメント**: ゲージにセグメントを追加するには をクリックします。
  - **背景**: チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。
  - **色**: をクリックして色を選択します。
  - **画像**: 画像を変更するには をクリックします。

- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。
- **背景の透過性**: チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

- **基本設定**: 基本設定タブ スピードメーターと円形スタイル。
- **ゲージ インジケータの表示**: ゲージ値を針のインジケータで表示します。
- **インジケータの種類**: ハリのスタイルを指定します。
- **値のみゲージ塗りつぶし**: 定義されたセグメントの色でゲージ背景を現在の値まで塗りつぶして、ゲージ値を示します。残りの [最大値] までの部分は、空白のままになります。
- **ゲージの目盛の表示**: 目盛を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- **目盛**: ゲージの目盛の数を定義します。
- **補助目盛**: ゲージの目盛間の補助目盛の数を定義します。
- **ゲージのラベル**: ゲージの目盛にテキスト ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **ラベルの頻度**: 編集ボックスには、ラベルの間隔を入力します。
- **円筒の厚さ**: 円形ゲージは、通常、塗りつぶされた円または円のセグメントとして描画されます。大きい番号ほど円筒が太くなります。穴でくり抜かれる領域の半径のパーセンテージを示す値を、0 ~ 99 の範囲で指定します。
- **角度の範囲**: ゲージの [最小値] から [最大値] までの角度。45 ~ 360 の値を指定します。
- **中心の角度**: ゲージの中央値を時計に当てはめたときの角度。0 ~ 360 の値を指定します。0 はゲージの上部の中心 (12 時) を示します。
- **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ ポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **基本設定 タブ直線ゲージ スタイル**:
    - **ゲージ インジケータの表示**: ゲージ値を針のインジケータで表示します。
    - **インジケータの種類**: 針のスタイルを指定します。
    - **値のみゲージ塗りつぶし**: 定義されたセグメントの色でゲージ背景を現在の値まで塗りつぶして、ゲージ値を示します。残りの [最大値] までの部分は、空白のままになります。
    - **ゲージの目盛の表示**: 目盛を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
    - **目盛**: ゲージの目盛の数を定義します。
    - **補助目盛**: ゲージの目盛間の補助目盛の数を定義します。
    - **ゲージのラベル**: ゲージの目盛にテキスト ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
    - **ラベルの頻度**: 編集ボックスには、ラベルの間隔を入力します。
    - **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ ポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **基本設定 タブ信号機ゲージ スタイル**:
    - **ライトひとつ**: このボックスをオンにすると、ライトがひとつだけ表示されます。
    - **インジケータの種類**: ライト周囲の領域のスタイルを指定します。
    - **値のみゲージ塗りつぶし**: 定義されたセグメントの色でゲージ背景を現在の値まで塗りつぶして、ゲージ値を示します。残りの [最大値] までの部分は、空白のままになります。

- **反転**: このボックスをオンにすると、ライトがソート順を反転した状態で表示されます。
- **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ ポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。

- **基本設定 タブLED スタイル**:
  - **桁**: 何桁表示するを選択します。
  - **数字の色**: 色を設定するには  をクリックします。
  - **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ ポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **基本設定 タブ試験管 スタイル**:
  - **試験管の色**: 色を設定するには  をクリックします。
  - **ゲージの目盛の表示**: 目盛を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
  - **目盛**: ゲージの目盛の数を定義します。
  - **補助目盛**: ゲージの目盛間の補助目盛の数を定義します。
  - **ゲージのラベル**: ゲージの目盛にテキスト ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
  - **ラベルの頻度**: 編集ボックスには、ラベルの間隔を入力します。
  - **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **基本設定 タブ影付きチューブ**:
  - **ゲージの目盛の表示**: 目盛を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
  - **目盛**: ゲージの目盛の数を定義します。
  - **補助目盛**: ゲージの目盛間の補助目盛の数を定義します。
  - **ゲージのラベル**: ゲージの目盛にテキスト ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
  - **ラベルの頻度**: 編集ボックスには、ラベルの間隔を入力します。
  - **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。

- **スタイル**:
  - **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
  - **目盛 ラベル**: フォントの種類を設定するには をクリックします。
  - **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには  をクリックします。
  - **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。

- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。
- **[角を丸くする]** を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。
- **角を丸くするポップアップ**: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

- **基準線**:
  - **基準線**: 基準線を追加するには をクリックします。
  - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
  - **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **X-軸**: 基準線の起源をx-軸にする場合は、このオプションを選択します。
  - **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
  - **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
  - **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
  - **線の色**: 基準線の色を指定します。
  - **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式がFALSEを返す場合にのみ非表示となります。
  - **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **テキスト**:
  - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには をクリックします。
  - **テキスト:チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
  - **角度**: テキストの角度を0 ~ 360度に指定できます。デフォルトは0です。
  - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
  - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。

- **テキストのスタイル**:
  - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
  - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

キャプション

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

   をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** の **[アイコン キャプション]** プロパティを説明します。

- **メニュー**: オブジェクトメニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シートオブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シートオブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化 アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化 アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

ゲージ チャート プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。

- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.31 散布図 - AJAX/Webview

散布図は、2 つの数式の値の組み合わせを表示します。これは、各例に 2 つの数値がある場合に便利です (国の人口と人口増加など)。

散布図 : [オブジェクト] メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。

コマンド	[Details] (詳細)
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。

コマンド	[Details] (詳細)
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

散布図 プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

- **有効化**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した軸が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、軸を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェック ボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **NULL 値を抑える**: このチェック ボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **軸の凡例の表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **軸ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェック ボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェック ボックスをオンにすると、トレリス チャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。

- **固定列数**: トレリス チャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリス チャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリス チャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

ソート

シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **第 1 ソート順**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式によるソート**: 入力された数式によって項目値をソートします。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **選択値を上部に配置**: 選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。
- **表示のみ**: このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  [境界値を含める] を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対

モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **次に累積する値のみ表示**: このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - 選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**: このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ モード**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **第 1 軸 ラベル**: 第 1 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **第 2 軸 ラベル**: 第 2 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **段組み ラベル**: x- 軸ラベルが多くて横並びにできない場合に段組みにするには、このオプションをオンにします。
- **段組み表示の反転**: 通常、x- 軸ラベルは下から上、左から右に段組みにされます。このチェックボックスをオンにすると、段組が上から下に反転します。
- **数値目盛の X- 軸**: x- 軸を数値目盛表示に設定します。つまり、x- 軸は数値と解釈され、数値的に適切な間隔で表示されます。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **軸 ラベル**: x- 軸ラベルの位置を変更するには、このボックスをチェックします。

- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **バックキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの左に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。バックキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **フォーキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの右に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。フォーキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

[数式]

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効化**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェック ボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **累積**:

  累積を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **累計 ポップアップ**: オプションの 1 つを選択し、シート オブジェクトの値を累積するかどうかを決定します。
    - **累計**: 累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。
    - **累計なし**: 選択したチャート式の y 値は累積されません。

- **全累計**: 各 y 値は、数式の前のすべての y 値を累積します。トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。
- **累積手順**: このボックスに数値を入力するかスライダーをドラッグして、数式の y 値の累積される回数を設定します。

- **すう勢線の使用**:

  すう勢線を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  すう勢線ポップアップ: 次のすう勢線のオプションを 1 つ選択します。

  - **平均**: 平均が直線で描画されます。
  - **線形**: 直線回帰線が描画されます。
  - **2 番目の角度の多項式近似**: 2 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **3 番目の角度の多項式近似**: 3 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **4 番目の角度の多項式近似**: 4 次元多項式のすう勢線が描画されます。
  - **指数**: 指数関数のすう勢線が描画されます。
    各オプションでは、**[方程式の表示]** チェック ボックスと**[R^2 を表示]** チェック ボックスをオンにできます。
    - **方程式の表示**: 特定の数式でこのチェック ボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。
    - **R^2 を表示**: 特定の数式でこのチェック ボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

- **凡例に表示**: 複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。
- **値表示の設定**:
  - **データ ポイントの値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
  - **ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。
  - **軸上のテキスト**: 数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットします。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: データポイントの基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数 のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。

- **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
  - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
  - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
  - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
  - **整数**: 数値を整数で表示します。
  - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
  - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
  - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
  - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
  - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
  - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例:書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
  - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
  - **有効桁数**: 表示される桁数です。
  - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
  - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
  - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
  - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
  - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **位置**:**左** または **右** の位置を選択します。**[軸の分割]** を選択している場合、**[最上部]** あるいは **[最下部]** の位置を選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッドスタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッドスタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **Log スケール**: このボックスをオンにすると、目盛が対数になります。

- **目盛の0設定**: チャートの下端をy-軸の0に固定します。このオプションは、Logスケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが100個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **中間値**: その位置がプロットエリアの中心になる目盛線の値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

散布図プロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**[散布図]** プロパティを説明します。

種類

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。

マーカーのサイズ

マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。

最大バブル サイズ

チャートで使用する、最大のバブルのサイズを設定します。これはすべてのチャートで使用できるわけではなく、**[マーカーの自動サイズ調節]** を選択している場合にのみ使用可能です。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

[凡例の書式] ポップアップ

- **凡例のスタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
- **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。
- **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。

- **ソート順を反転する**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
- **セルのテキストを折り返して表示**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

背景

チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**:  をクリックして色を選択します。
- **画像**: 画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロット エリアの背景

プロット エリアの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**: プロット エリアに背景色を付けます。 をクリックして色を選択します。
- **画像**: プロット エリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロット エリアのスタイル

このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。次のオプションを使用できます。

- **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
  影: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
  最小: プロット エリアの背景は削除されます。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

(基本設定)

- データポイントのラベル: ラベルを表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- ラベルの最大表示数: このボックスでは、チャートに値を表示するデータポイントの数の上限値を指定します。制限を指定しない場合は、すべてのデータポイントの値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
- 水平位置: データポイント上のラベルの水平位置は、**[左]**、**[中央]** または **[右]** から選択します。
- 垂直位置: データポイント上のラベルの垂直位置は、**[上]**、**[中央]** または **[下]** から選択します。
- X- 軸ラベルの表示: x- 軸の端にラベルを表示します。
- Y- 軸ラベルの表示: y- 軸の端にラベルを表示します。

- 0 値を隠す: このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- 欠損値を隠す: このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- ポップアップ ラベル: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ ポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- ハイライト: このチェック ボックスをオンにすると、マウス ポインタを線またはマーカー上に置いたときに、線またはマーカーが強調表示され、全体像を把握しやすくなります。強調表示は、凡例にも適用されます (適用可能な場合)。
- 矢印の表示: 接続線に矢印の表示オプションを設定します。矢印は、第 2 軸のソート順で定義された順序で、次の散布点の方向を向きます。チェックボックスをオンにすると、接続線に矢印を表示します。
- 矢印のサイズ: 矢印の大きさを設定します。
- 矢印のスタイル: ドロップダウン リストにあるスタイルから選択します。
- 演算実行条件: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値の最大数を入力します。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- 凡例: 凡例の色を設定するには  をクリックします。フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
- チャート タイトルのスタイル: チャート タイトルの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- キャプションのフォント: キャプションのフォントの種類を設定するには  をクリックします。
- アクティブ時のキャプション: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
- 非アクティブ時のキャプション: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
- 枠線の使用: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、  をクリックします。
- 枠線の幅: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。

- 角を丸くする:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。
  - 角を丸くするポップアップ: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

    [角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ:基本設定]内)が選択されている場合のみです。

- すう勢線の幅: すう勢線の幅を指定します。
  - **基準線**:
    - **基準線**: 基準線を追加するには  をクリックします。
    - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
    - **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - **X-軸**: 基準線の起源をx-軸にする場合は、このオプションを選択します。
    - **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
    - **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
    - **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
    - **線の色**: 基準線の色を指定します。
    - **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式がFALSEを返す場合にのみ非表示となります。
    - **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **テキスト**:
    - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
    - **テキスト:チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
    - **角度**: テキストの角度を0 ~ 360度に指定できます。デフォルトは0です。
    - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
    - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
    - **テキストのスタイル**:
      - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
      - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
    - **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

散布図プロパティ: キャプション

このセクションでは、**[散布図]** プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シートオブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シートオブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動

的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。

- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シートオブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定 ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

散布図プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。

- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの**左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.32 グリッドチャート - AJAX/Webview

グリッドチャートは散布図に似ていますが、軸に軸の値をプロットし、プロットマーカーを決定する数式を使用します。特別なモードでは、第 3 軸をプロットマーカーとして小さい円グラフ形式で表示できます。

グリッドチャート: [オブジェクト] メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシートオブジェクトの**プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。

コマンド	[Details] (詳細)
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

コマンド	[Details] (詳細)
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ☐ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

グリッドチャートプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

グリッドチャートプロパティ

このセクションでは、**[グリッドチャートのプロパティ]** を説明します。

軸

ドロップダウンリストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

[軸] タブ

- **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **NULL 値を抑える**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェックボックスをオンにすると、トレリスチャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリスチャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリスチャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。

- **第 2 軸**: トレリス チャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

[ソート] タブ

シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **第 1 ソート順**:
  - **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。
  - **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  - **数値**: 項目値を数値順にソートします。
  - **テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。
  - **ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**:
  - **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  - **数値**: 項目値を数値順にソートします。
  - **テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。
  - **ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式によるソート**:
  - 入力された数式によって項目値をソートします。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **選択値を上部に配置**: 選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。
- **表示のみ**:
  このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。
  - **[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。
  - **[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
  - **[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレート テーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序

が変更されると、軸の値も変更されます(変更される可能性があります)。

- 表示する値の数を入力します。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。
  - 合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。
  - **[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示**: このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。
  - **[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。

  値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**: このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードの使用**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

[数式]

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

このセクションでは、**[数式]** プロパティを説明します。

有効化

このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。

条件付き表示

このチェック ボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。

ラベル

数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

数式

現在選択されている式を削除します。

コメント

数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

表示しない

式を非表示にします。

パーセント表示 (相対)

チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。

凡例の表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

値表示の設定

値の表示形式を定義するには、このチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

[値の表示設定] ポップアップ

- **ポップアップとしてのテキスト**レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: データ点の基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。

- **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
  - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
  - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
  - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
  - **整数**: 数値を整数で表示します。
  - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
  - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
  - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
  - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
  - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
  - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例 : 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
  - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
  - **有効桁数**: 表示される桁数です。
  - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
  - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
  - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
  - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
  - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

グリッドチャートプロパティ: プレゼンテーション

プレゼンテーションプロパティ

このセクションでは、**[プレゼンテーション]** プロパティを説明します。

種類
ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。

マーカーの自動サイズ調節
チャートの値の数にあわせて最大バブル サイズを調節します。

マーカーのサイズ
マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。

最大バブル サイズ
チャートで使用する、最大のバブルのサイズを設定します。これはすべてのチャートで使用できるわけではなく、**[マーカーの自動サイズ調節]** を選択している場合にのみ使用可能です。

凡例の表示
チャートに凡例を表示します。

ポップアップを開くには  をクリックします。

- **凡例の書式ポップアップ**:
  - **凡例のスタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
  - **垂直の配置**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。
  - **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
  - **ソート順を反転する**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
  - **セルのテキストを折り返して表示**: 凡例の項目のテキストを2行以上に折り返します。

背景
- チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。
  - **色**:  をクリックして色を選択します。
  - **画像**: 画像を変更するには  をクリックします。
-  をクリックして背景の透過性を設定します。チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします
- **動的画像**:  をクリックして背景の透過性と動的画像を設定します。
  - チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。
  - 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロット エリアの背景
プロット エリアの背景を設定します。

次のオプションを使用できます。

- **色**: プロットエリアに背景色を付けます。 をクリックして、プロットエリアのスタイルと背景の透過性を設定します。 をクリックして色を選択します。
- **画像**: プロットエリアの背景に画像を表示します。 をクリックして背景の透過性を設定します。画像を変更するには をクリックします。
- **動的画像**: をクリックして背景の透過性と動的画像を設定します。チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロットエリアのスタイル

このコントロールは、プロットエリアの背景の表示を変更するのに使用できます。

- 次のオプションを使用できます。
- **フレーム**: フレームがプロットエリアの周囲に描かれます。
- **影**: このオプションは、プロットエリアの背景に影の効果を追加します。
- **最小**: プロットエリアの背景は削除されます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティにある複数の要素を説明します。

- **基本設定**:
  - **データポイントのラベル**: ラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。
  - **表示最大値**: このボックスでは、チャートに値を表示するデータポイントの数の上限値を指定します。制限を指定しない場合は、すべてのデータポイントの値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
  - **水平位置**: データポイント上のラベルの水平位置は、**[左]**、**[中央]** または **[右]** から選択します。
  - **垂直位置**: データポイント上のラベルの垂直位置は、**[上]**、**[中央]** または **[下]** から選択します。
  - **X- 軸ラベルの表示**: x- 軸の端にラベルを表示します。
  - **Y- 軸ラベルの表示**: y- 軸の端にラベルを表示します。
  - **0 値を隠す**:
    - このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。
    - このオプションは、デフォルトでオンになっています。
  - **欠損値を隠す**:
    - このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。
    - このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
  - **ポップアップ ラベル**: このチェックボックスをオンにすると、チャートのデータポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。

- **ハイライト**: このチェック ボックスをオンにすると、マウス ポインタを線 または マーカー上 に置いたとき に、線 または マーカーが強調表示 され、全体像 を把握しやすくなります。強調表示 は、凡例にも 適用 されます (適用可能な場合)。
- **矢印の表示**: 接続線 に矢印の表示 オプション を設定します。矢印は、第 2 軸のソート順で定義 された順序で、次の散布点の方向 を向きます。チェックボックスをオンにすると、接続線 に矢印 を 表示します。
- **矢印のサイズ**: 矢印の大きさを設定します。
- **矢印のスタイル**: ドロップダウン リストにあるスタイルから選択します。
- **演算実行条件**: ここに入力 された数式には、チャートが計算 されるために満たす必要 がある条 件 を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテ キストがチャートに表示 されます。値の最大数を入力します。値は、計算式として入力できま す。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- *スタイル*:
  - 凡例: 凡例の色を設定するには をクリックします。フォントの色を設定するには をクリック します。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
  - チャート タイトルのスタイル: チャート タイトルの色を設定するには をクリックします。フォントの 種類を設定するには Aa をクリックします。
  - キャプション のフォント: キャプション のフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
  - アクティブ時 のキャプション: アクティブ時 のキャプション の背景色を設定するには をクリックしま す。テキストの色を設定するには をクリックします。
  - 非アクティブ時 のキャプション: 非アクティブ時 のキャプション の背景色を設定するには をクリッ クします。テキストの色を設定するには をクリックします。
  - 枠線の使用: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにしま す。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
  - 枠線の幅: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル 単位で指定します。
  - 角を丸くする:
    - をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

      > *[角を丸くする] を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード] ([ドキュメント プロパティ: 基本設定] 内) が選択されている場合のみです。*

    - 角を丸くするポップアップ:
      - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。
      - 値を入力して **[鋭度]** を選択します。

- **基準線**:
  - **基準線**: 基準線を追加するには  をクリックします。
  - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
  - **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **X- 軸**: 基準線の起源を x- 軸にする場合は、このオプションを選択します。
  - **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
  - **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
  - **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
  - **線の色**: 基準線の色を指定します。
  - **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が FALSE を返す場合にのみ非表示となります。
  - **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **テキスト**:
  - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
  - **テキスト:チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
  - **角度**: テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。
  - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
  - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
  - **テキストのスタイル**:
    - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
    - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
  - **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

グリッドチャートプロパティ: キャプション

このセクションでは、**[キャプション]** プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[キャプション]** プロパティにあるアイコンを説明します。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追

加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

グリッド チャート プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.33 円グラフ- AJAX/Webview

通常、円グラフは 1 つの軸と1 つの数式の間の関係を表示しますが、2 つの軸を使用することもあります。

円グラフ: [オブジェクト] メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▾ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。

コマンド	[Details] (詳細)
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

円グラフプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。

- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザープロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

円グラフプロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**[プレゼンテーション]** にある **[円グラフ]** プロパティを説明します。

種類

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

[凡例の書式] ポップアップ

- **凡例のスタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
- **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。

- **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
- **ソート順を反転する**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
- **セルのテキストを折り返して表示**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

背景

チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

色

プロット エリアに背景色を付けます。 をクリックして色を選択します。

画像

プロット エリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには をクリックします。

動的画像

計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。 をクリックして透過性を選択してください。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** にある複数のプロパティを説明します。

(基本設定)

- **0 値を隠す**: このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式から 0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **欠損値を隠す**: このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- **ポップアップ ラベル**: このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **ハイライト**: このオプションは、Ajax/Webview には対応していません。
- **演算実行条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **凡例**: 凡例の色を設定するには をクリックします。フォントの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルのフォントの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

  - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

テキスト

このセクションでは、**[テキスト]** にあるプロパティを説明します。

チャートのテキスト

チャートにテキストを追加するには をクリックします。

テキスト

チャートのテキスト に追加されたテキストはここに表示されます。

角度

テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。

水平位置

水平方向の配置を設定します。

常に手前に表示

チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。

テキストのスタイル

テキストの背景色を設定するには  をクリックします。

フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。

サイズと位置

オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

円グラフプロパティ: キャプション

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

   をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

キャプション内のアイコンプロパティ

このセクションでは、**[キャプション内のアイコン]** プロパティにある **[詳細/簡略]** を説明します。

メニュー

オブジェクトメニューを開きます

クリア

アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。

印刷

選択したシートオブジェクトを別のブラウザウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

データ コピー

シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

画像をクリップボードにコピー

シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

Excel 出力

絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

最小化を許可する

このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。

自動最小化

このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。

最大化を許可する

このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。

ヘルプ テキスト

ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

キャプションのクイック切替

キャプションのクイック切替を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。

- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

円グラフプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザープロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.34 ファネル チャート - AJAX/Webview

ファネル チャートは通常、データをフローおよびプロセスで表示するために使用します。表示の観点から見ると、このチャートは円グラフと関連しています。チャートは、データに比例したセグメントの高さ/幅またはセグメントの領域で表示されます。また、データ点を無視して、セグメントの高さ/幅が均一なチャートを描画することもできます。

ファネル チャート: [オブジェクト] メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。

コマンド	[Details] (詳細)
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で » アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

ファネル チャート プロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

このセクションでは、**[軸]** プロパティと要素を説明します。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

- **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **NULL 値を抑える**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェックボックスをオンにすると、トレリスチャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリスチャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリスチャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリスチャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

ソート

シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **第 1 ソート順**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式によるソート**: 入力された数式によって項目値をソートします。
- **選択値を上部に配置**: 選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

- **表示のみ**:
    - このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。**[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。**[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。**[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。表示する値の数を入力します。
    - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - **[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**:
    - このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。
    - 合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。
    - **[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。
    - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示**:
    - このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。
    - **[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、最初の値または最大値、最小値に基づく累積値と全体の合計値を比較します。
    - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
    - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - 選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**:
    - このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。 **ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキスト

に設定されます。

- 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードの使用**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

[数式]

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式タブ

- **有効化**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェック ボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**:
  - 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**:
  - 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **値表示の設定**: 値の表示形式を定義するには、このチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。
  - **値の表示設定 ポップアップ**:
    - **データ点の値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
    - **ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。

属性式のスタイル

- **背景色**: データポイントの基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通

常、特別なチャートカラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。

- **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
  - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
  - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
  - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
  - **整数**: 数値を整数で表示します。
  - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
  - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
  - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
  - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
  - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
  - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例:書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
  - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
  - **有効桁数**: 表示される桁数です。
  - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
  - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
  - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
  - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
  - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。*fx* をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

ファネルチャートプロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**[プレゼンテーション]** プロパティを説明します。

色のスタイル

チャートの色のスタイルを設定します。

方向

チャートの方向を設定します。

先端の幅 (%)

ファネルの先端の幅を入り口の幅に対するパーセンテージで定義します。

方向の反転

ファネルの先端を左または上向きにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

[凡例の書式] ポップアップ

- **凡例のスタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
- **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。
- **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
- **ソート順を反転する**: このチェックボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
- **セルのテキストを折り返して表示**: このチェックボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

背景

チャートの背景を設定します。

次のセクションでは、利用できるオプションを説明します。

色

プロットエリアに背景色を付けます。  をクリックして色を選択します。

画像

プロットエリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには  をクリックします。

動的画像

計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティを設定します。

ポップアップ ラベル

このチェック ボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。

データの均整表示

この設定は、基底のデータにセグメントが比例する程度を制御します。

- **セグメントの高さを同じにする**: データの均整表示を行いません。各セグメントは、他のすべてのセグメントと同じ高さ(水平のファネルの場合は、同じ幅) で描画されます。通常、チャートに数値が表示される場合のみ意味があります。
- **セグメントの高さをデータに比例させる**: 各セグメントは、基底のデータに比例した高さ(水平のファネルの場合は、幅) で描画されます。
- **セグメントの領域をデータに比例させる**: 各セグメントは、基底のデータに比例した合計面積で描画されます。

演算実行条件

ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。

値は、計算式として入力できます。

fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **凡例**: 凡例の色を設定するには  をクリックします。フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
- **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、  をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。

- **角を丸くする:**  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする]* *を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。*

  - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。
  - 値を入力して **[鋭度]** を選択します。

テキスト

- **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
- **テキスト:チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
- **角度**: テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。
- **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
- **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
- **テキストのスタイル**:
  - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
  - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **テキストの位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

ファネル チャートプロパティ: キャプション

このセクションでは、**[キャプション]** プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

   をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[キャプション内のアイコン]** 用に複数のオプションを含んでいる、**[詳細/簡略]** プロパティを説明します。

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

ファネル チャートプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.35 メッコ チャート - AJAX/Webview

メッコ チャートでは、さまざまな幅の棒を使用してデータを表します。2 軸のチャートでは、データを最大 3 レベルまで表示できます。メッコ チャートは、マーケット分析などの領域で有効です。

メッコ チャート: [オブジェクト] メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。

コマンド	[Details] (詳細)
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で » アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

メッコ チャートプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

- **有効条件**: このチェック ボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。

- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **NULL 値を抑える**: このチェックボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- **軸ラベルの文字制限**: 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。入力項目で文字数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。このオプションは、このグループの他のオプションに関係なく使用できます。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェックボックスをオンにすると、トレリスチャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリスチャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリスチャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリスチャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

ソート

シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **第 1 ソート順**: **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **第 2 ソート順**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式によるソート**: 入力された数式によって項目値をソートします。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **選択値を上部に配置**: 選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

制限

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

- **表示のみ**:
  このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。
  - **[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。
  - **[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
  - **[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
  - 表示する値の数を入力します。

  値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示**: このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**: このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードの使用**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **第 1 軸ラベル**: 第 1 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **第 2 軸ラベル**: 第 2 軸ラベルの表示を**水平**、**垂直**、**斜め**から選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と**グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **段組みラベル**: x- 軸ラベルが多くて横並びにできない場合に段組みにするには、このオプションをオンにします。
- **段組み表示の反転**: 通常、x- 軸ラベルは下から上、左から右に段組みにされます。このチェックボックスをオンにすると、段組が上から下に反転します。
- **数値目盛の X- 軸**: x- 軸を数値目盛表示に設定します。つまり、x- 軸は数値と解釈され、数値的に適切な間隔で表示されます。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **バックキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの左に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。バックキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **フォーキャスト**: 編集項目に整数を入力すると、x- 軸が、プロットされている実際のデータポイントの右に拡張されます。これは、すう勢線を使用する場合に便利です。フォーキャスト線は点線で表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

[数式]

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効化**: このチェックボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。

- **条件付き表示**: このチェック ボックスをオンにすると、編集 ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **累積**:

  累積を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **累計 ポップアップ**: オプションの 1 つを選択し、シート オブジェクトの値を累積するかどうかを決定します。
    - **累計**: 累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。
    - **累計なし**: 選択したチャート式の y 値は累積されません。
    - **全累計**: 各 y 値は、数式の前のすべての y 値を累積します。トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。
    - **累積手順**: このボックスに数値を入力するかスライダーをドラッグして、数式の y 値の累積される回数を設定します。
- **凡例に表示**: 複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。
- **値表示の設定**:
  - **データ ポイントの値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
  - **ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。
  - **軸上のテキスト**: 数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットします。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: データポイントの基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
    - **数値書式 タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメント プロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
- **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
- **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
- **整数**: 数値を整数で表示します。
- **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
- **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
- **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
- **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
- **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例:書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
- **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
- **有効桁数**: 表示される桁数です。
- **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
- **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
- **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
- **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

目盛線

- **目盛線の表示**: 目盛線を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。
- **目盛線の幅**: 目盛および目盛マークの幅を入力、またはスライダを希望する値までドラッグします。
- **軸の分割**: このボックスをチェックすると、y-軸が 2 か所に分けられ、x-軸を共有する 2 つのチャートを作成します。
- **位置**: **左** または **右** の位置を選択します。
- **グリッドの表示**: x- 軸の目盛マークから始まるグリッドをチャートに表示するにはこのボックスをオンにします。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **補助グリッドの表示**: グリッド線の間に補助線を表示するには、このボックスをオンにします。**[グリッドの表示]** がオンの場合にのみ有効です。グリッド線は、**グリッド スタイル** と **グリッド色** 設定を使用して書式設定できます。
- **Log スケール**: このボックスをオンにすると、目盛が対数になります。
- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を y- 軸の 0 に固定します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。

- **最小値**: 目盛線の最小値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **最大値**: 目盛線の最大値を固定値として設定できます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **目盛間隔**: 目盛線の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。この設定によって目盛マークが 100 個より多くなる場合は、使用される値が変更されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **中間値**: その位置がプロットエリアの中心になる目盛線の値を固定値として設定します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

メッコ チャートプロパティ: プレゼンテーション

種類

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。

方向

チャートの方向を設定します。

色のスタイル

チャートのすべてのプロットの色に、色のスタイルを定義できます。ポップアップを開くには  をクリックします。

[カラープロパティ] ポップアップ

- **固定色**: 選択によってデータポイントの総数が減る場合でも、各データポイントに割り当てられた色をロックします。このモードでは、各データポイントの色表現は変更されませんが、2 つの近接した棒やスライスで、異なるデータポイントに同じ色が使用される恐れがあります。
- **最後の色を繰り返す**: 18 番目以降にロードされた項目値に最後 (18 番目) の色を割り当てるには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、19 番目の値 (元のロード順に基づく) は最初の色になり、20 番目の値は 2 番目の色などとなります。

凡例の表示

チャートに凡例を表示します。ポップアップを開くには  をクリックします。

[凡例の書式] ポップアップ

- **凡例のスタイル**: 凡例のスタイルを設定します。
- **垂直**: 凡例のテキストの垂直方向の配置を設定します。
- **線の間隔**: 凡例内の項目の間の距離を指定します。
- **ソート順を反転する**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例のソート順が反転されます。
- **セルのテキストを折り返して表示**: このチェック ボックスをオンにすると、凡例項目のテキストは 2 行以上に折り返されます。

背景

チャートの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**:  をクリックして色を選択します。
- **画像**: 画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロット エリアの背景

プロット エリアの背景を設定します。次のオプションを使用できます。

- **色**: プロット エリアに背景色を付けます。 をクリックして色を選択します。
- **画像**: プロット エリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには  をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

プロット エリアのスタイル

このコントロールは、プロット エリアの背景の表示を変更するのに使用できます。次のオプションを使用できます。

- **フレーム**: フレームがプロット エリアの周囲に描かれます。
- **影**: このオプションは、プロット エリアの背景に影の効果を追加します。
- **最小**: プロット エリアの背景は削除されます。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** にある要素を説明します。

(基本設定)

- **反転**: このチェックボックスがオンの場合、チャートに表示される値が反転されます。10 の最高値を表示するチャートの場合、このチェックボックスをオンにすると10 の最低値を表示します。

- **表示最大値**: このボックスでは、チャートに値を表示するデータポイントの数の上限値を指定します。制限を指定しない場合は、すべてのデータポイントの値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。
- **0 値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **欠損値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- **数式の目盛線を 0 レベルに揃える**: 2 つの Y- 軸の 0 レベルに合わせます (左/右 または 上/下)。
- **値を縦書きにする**: 値を縦に表示します。
- **要素の中に数値を表示**: このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータポイントの値を表示します。
- **ポップアップ ラベル**: このチェックボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **演算実行条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **凡例**: 凡例のフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **チャート タイトルのスタイル**: チャート タイトルの色を設定するには A をクリックします。フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには □ をクリックします。テキストの色を設定するには A をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには □ をクリックします。テキストの色を設定するには A をクリックします。
- **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、□ をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: ⚙ をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

> *[角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。*

- **角を丸くするポップアップ**:
  - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。
  - 値を入力して**[鋭度]**の値を選択します。
    - **基準線**:
      - **基準線**: 基準線を追加するには  をクリックします。
      - **チャートにラベルを表示**: 基準線の隣にラベルを表示します。
      - **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル**を設定しない場合、**キャプションの表示**が選択されていると、項目の名前が使用されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。
      - **X-軸**: 基準線の起源を**x-**軸にする場合は、このオプションを選択します。
      - **数式**: 基準線を引く対象の値です。開始点として使用する数式を入力します。
      - **線の太さ**: 基準線の太さを指定します。
      - **線のスタイル**: 基準線のスタイルを指定します。
      - **線の色**: 基準線の色を指定します。
      - **条件付き表示の使用**: 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式がFALSEを返す場合にのみ非表示となります。
      - **条件**: 条件式を入力します。値は、計算式として入力できます。 をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。
    - **テキスト**:
      - **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには  をクリックします。
      - **テキスト:チャートのテキスト**に追加されたテキストはここに表示されます。
      - **角度**: テキストの角度を0 ~ 360度に指定できます。デフォルトは0です。
      - **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
      - **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。
      - **テキストのスタイル**:
        - テキストの背景色を設定するには  をクリックします。
        - フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
      - **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

メッコ チャートプロパティ: キャプション

このセクションでは、**[キャプション]** プロパティを説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションでは、**[詳細/簡略]** プロパティと**[キャプション内のアイコン]** の要素にある要素を説明します。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシートオブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シートオブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シートオブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシートオブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動

的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。

- **最小化を許可する**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シートオブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定 ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

メッコ チャートプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。

- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの**左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
  - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
  - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
  - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
  - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

    ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.36 ブロックチャート - AJAX/Webview

ブロックチャートは、数式の値と値の関係を大きさが異なる領域ブロックで表示します。表示の観点から見ると、このチャートは円グラフと関連しています。チャートは、データに比例したセグメントの高さ/幅またはセグメントの領域で表示されます。また、データ点を無視して、セグメントの高さ/幅が均一なチャートを描画することもできます。

ブロックチャート: [オブジェクト] メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▾ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

メニュー コマンド

コマンド	[Details] (詳細)
プロパティ	アクティブなシートオブジェクトの**プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。

コマンド	[Details] (詳細)
参照設定	このオプションは、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロットなど) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの上にプロットされます。参照プロットの一部が、現在のデータセットで覆われる可能性があります。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、散布図、グリッド チャート、および針を使用するゲージ チャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリック グループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。**[参照設定]** オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロット モードに戻ります。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクト プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

コマンド	[Details] (詳細)
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ☐ アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

ブロック チャートプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

- **有効条件**: このチェック ボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベルの表示**: x- 軸に軸ラベル (項目名) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **NULL 値を抑える**: このチェック ボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値の表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **軸 ラベルの表示**: 選択した軸項目の x- 軸に凡例 (項目値の名前) を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **トレリス設定の第 1 軸**: このチェック ボックスをオンにすると、トレリス チャートが有効になり、第 1 軸を基準にチャートが配列表示されます。
- **固定列数**: トレリス チャートに表示する列数を入力します。入力フィールドで列数を指定するか、スライダを希望する数値までドラッグします。
- **固定行数**: トレリス チャートに表示する行数を入力します。入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **第 2 軸**: トレリス チャートの第 2 軸を有効にします。第 2 軸を使用する場合、第 1 軸の値はマトリックス内の列として表示され、第 2 軸はマトリックス内の行として表示されます。

制限

- **最初の数式を使った表示値の制限**: これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

- **表示のみ**:
  このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。
  - **[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。
  - **[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
  - **[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
  - 表示する値の数を入力します。

  値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

  [境界値を含める] を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の値のみ表示**: このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計に対する相対値]** オプションは、プロパティダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示**: このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計に対する相対値]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **その他の表示**: このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。

  値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **合計の表示**: このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードの使用**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

[数式]

ドロップダウン リストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効化**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き表示**: このチェック ボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **数式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **表示しない**: 式を非表示にします。
- **パーセント表示 (相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **凡例に表示**: 複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。
- **値表示の設定**: **データ ポイントの値の表示**: 数式の結果をデータ点の上側にテキストとして表示するには、このチェック ボックスをオンにします。**ポップアップとしてのテキスト**: レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップ バルーン メッセージに数式の結果を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。**軸上のテキスト**: 数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットします。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: データポイントの基本的な描画色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **テキストの色**:データ ポイントに関連付けられたテキストの色を計算する属性式を入力します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
- **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
- **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
- **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
- **整数**: 数値を整数で表示します。
- **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
- **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
- **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
- **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
- **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
- **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例: 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
- **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
- **有効桁数**: 表示される桁数です。
- **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
- **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
- **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
- **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
- **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

タイトルの表示

デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。動的に更新する計算式としてタイトルを指定することもできます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

ブロックチャートプロパティ: プレゼンテーション

種類

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。

色のスタイル

チャートのすべてのプロットの色に、色のスタイルを定義できます。ポップアップを開くには  をクリックします。

[カラープロパティ] ポップアップ

- **固定色**: 選択によってデータポイントの総数が減る場合でも、各データポイントに割り当てられた色をロックします。このモードでは、各データポイントの色表現は変更されませんが、2 つの近接した棒やスライスで、異なるデータポイントに同じ色が使用される恐れがあります。
- **最後の色を繰り返す**: 18 番目以降にロードされた項目値に最後 (18 番目) の色を割り当てるには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、19 番目の値 (元のロード順に基づく) は最初の色になり、20 番目の値は 2 番目の色などとなります。

表示レベル

ブロックチャートは、最高 3 レベルのブロック(軸を 3 つ設定するのと同じ) で表示できます。**1**、**2** または **3** を選択し、実際に表示するレベル数を設定します。

中間レベル キャプション

3 軸のブロックチャートで中間軸レベルのキャプションを描画する場合は、このチェックボックスを選択します。

軸ラベルの表示

チャートにラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

背景

プロットエリアの背景を設定します。設定可能なオプションは次のとおりです。

- **色**: プロットエリアに背景色を付けます。 をクリックして色を選択します。
- **画像**: プロットエリアの背景に画像を表示します。画像を変更するには をクリックします。
- **動的画像**: 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。

背景の透過性

チャートの透過性を設定するには、ボックスに値を入力するかスライダーをドラッグします。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。

(基本設定)

- **ポップアップ ラベル**: このチェックボックスをオンにすると、チャートのデータポイント上にカーソルを置いたときに、軸の値と数式がポップアップ バルーンとして表示されます。
- **第 1 軸の比率値**: 指定された第 1 軸の値を合計と比較したパーセンテージをポップアップに表示します。
- **第 2 軸の比率値**: 指定された第 1 軸の値を定義したように、指定された第 2 軸の値を合計と比較したパーセンテージ。
- **第 3 軸の比率値**: 第 3 軸のレベルで上記と同じ。
- **第 1 軸の実数値**: 指定されたブロックを指定された第 1 軸の値の合計と比較したパーセンテージ。
- **第 2 軸の実数値**: 指定されたブロックを指定された第 2 軸の値の合計と比較したパーセンテージ。

- **演算実行条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **軸ラベル**: フォントの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
- **ブロックキャプション**: ブロックキャプションの背景色を設定するには をクリックします。フォントの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
- **チャートタイトルのスタイル**: フォントの色を設定するには をクリックします。フォントの種類を設定するには をクリックします。
- **キャプションのフォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには をクリックします。
- **アクティブ時のキャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。フォントの色を設定するには をクリックします。
- **非アクティブ時のキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。フォントの色を設定するには をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
- **枠線の幅**: 入力フィールドの枠線の幅を指定します。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角を丸くする**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。
  [角を丸くする] を使用できるのは、**[詳細設定]**、**[スタイルのモード]** (**[ドキュメントプロパティ: 基本設定]** 内) が選択されている場合のみです。
- **角を丸くするポップアップ**: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。

テキスト

- **チャートのテキスト**: チャートにテキストを追加するには をクリックします。
- **テキスト**:**チャートのテキスト** に追加されたテキストはここに表示されます。
- **角度**: テキストの角度を 0 ~ 360 度に指定できます。デフォルトは 0 です。
- **水平位置**: 水平方向の配置を設定します。
- **常に手前に表示**: チャートの描画時に、リストで現在選択されているテキストが前面に表示されます。

- **テキストのスタイル**: テキストの背景色を設定するには  をクリックします。フォントの色を設定するには  をクリックします。フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **サイズと位置**: オブジェクト上のテキストのサイズと位置を設定します。

ブロック チャート プロパティ: キャプション

このセクションでは、**[ブロック チャート]** プロパティを説明します。

キャプション

このセクションでは、**[キャプション]** 設定を説明します。

- **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

   をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション (文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。

- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化 アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化 アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と**[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

ブロック チャート プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェック ボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェック ボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リスト ボックス、統計 ボックス、マルチ ボックス、入力 ボックスでのみ利用できます。

- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト**ダイアログにある付随するチェック ボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シート オブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシート オブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ**を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザー ID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.37 ピボット テーブル - AJAX/Webview

ピボット テーブルは、最も強力なデータ分析ツールの 1 つです。多くの機能が備えられていますが、簡単に使用できます。ピボット テーブルは、クロス テーブルのように、軸と数式を行と列に表示します。ピボット テーブルのデータは、グループ化できます。ピボット テーブルでは小計を表示できます。



リロードすると、ピボット テーブルで展開されていた列は折りたたまれます。

ピボットテーブル: オブジェクト メニュー

シート オブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▼ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

ピボット テーブル: [オブジェクト] メニュー コマンド

コマンド	詳細 (Details)
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。

コマンド	詳細 (Details)
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
すべてを展開する	展開できるセルをすべて展開します。
すべてを折りたたむ	折りたためるセルをすべて折りたたみます。
軸 (行) を折りたたむ	すべての軸(行)を折りたたみます。
軸 (列) を折りたたむ	すべての軸(列)を折りたたみます。
すべての選択をクリア	アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシートオブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シートオブジェクトのみをコピーします。
セルの値をクリップボードにコピー	選択されたセルの値をクリップボードにコピーします。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **[オブジェクトプロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

ピボット テーブルのプロパティ

[プロパティ] ダイアログを開くには、**[プロパティ]** を **[オブジェクト]** メニューから選択します。**[プロパティ]** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウン リストで軸を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**[詳細]** ボタンをクリックしてください。

軸

- **条件付きを有効にする**: このチェック ボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **ディメンション**: 現在選択されている軸を削除します。
- **ラベル**: 軸のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストが入力されていない場合、ラベルは自動的に式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **Null 値の抑制**: このチェック ボックスをオンにすると、上の **[軸]** で選択した項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。
- **すべての値を表示**: すべての軸項目値 (論理的な除外値も含む) をチャートに表示するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **ドロップダウン選択**: フィールド列でこのチェックボックスを選択すると、列ヘッダーの左側にドロップダウンアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、項目のすべての項目値を表示するリスト ボックスがテーブル上に開かれます。これで、項目がマルチ ボックスの行であるように選択と検索を行うことができます。
- **小計の表示**: シート オブジェクトに小計を表示します。
- **列の配置**:  をクリックしてポップアップを開きます。
  - **列の配置 ポップアップ**:
    - **ラベル**: ラベルの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**に設定します。
    - **データ(数値)**: 水平ラベルの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**に設定します。
    - **データ(テキスト)**: テキストデータの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**に設定します。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: 軸項目のセルの背景色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **テキストの色**: 軸項目のセルのテキストの色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。

色表現は、通常、特別なチャートカラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。

- **テキスト書式**: 各軸セルについて、テーブルセル内のテキストのフォントスタイルを計算するための属性数式を定義します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す'<B>'、斜体を表す'<I>'、下線付きテキストを表す'<U>'を含む文字列を返します。

ソート

シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **優先並べ替え**: **Y軸値**: Y-軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。**レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。**数値**: 項目値を数値順にソートします。**テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。**ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **セカンダリ並べ替え**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **式で並べ替え**: 入力された数式によって項目値をソートします。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。
- **選択項目を最前面に維持**: 選択値を上部に配置するには、これを有効にします。

数式

ドロップダウンリストから数式を選択します。数式を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。  アイコンでリスト内の項目を移動します。  アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効**: このチェックボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き**: このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。
- **式**: 現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。
- **意味**

ドロップダウン リストでプレゼンテーションを選択します。選択したプレゼンテーションによって、表示される設定は異なります。

- **テキスト**: その他の設定はありません
- **画像**: ポップアップを開くには  をクリックします。
  - **画像の設定ポップアップ**:
    - **画像拡大/縮小**:**縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
      全体を覆う: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
      縦横比を固定する: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
      縦横比を固定して全体を覆う: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
      画像がない場合にテキストを隠す: QlikView が画像参照として解釈できない場合は、テキストは表示されません。
    - **ゲージ**: ゲージの異なる代替値を設定します。
      - **ゲージの最小値**: ゲージの最小値を指定します。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
      - **ゲージの最大値**: ゲージの最大値を指定します。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
    - **ミニチャート項目**: 数式を描画するための項目を選択します。ポップアップを開くには  をクリックします。
    - **ミニチャートのモード設定ポップアップ**: ミニチャートのモード設定ポップアップには、変更できるいくつかの設定があります。
    - **モード**: スパークライン、線、点、棒、またはひげ図としてミニチャートを設定します。
    - **色**: [色] ダイアログを開きます。ここから、ミニチャートを描画する色を設定できます。
    - **最大値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェックボックスをオンにし、  をクリックします。最大値のための色を設定できます。
    - **最小値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェックボックスをオンにし、  をクリックします。最小値のための色を設定できます。

      この設定は、[モード] が [折れ線] に設定されている場合にのみ有効です。
    - **開始値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェックボックスをオンにし、  をクリックします。開始値のための色を設定できます。

> *この設定は、[棒] と[ひげ図] モードでは無効です。*

- **終了値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェック ボックスをオンにし、 をクリックします。終了値のための色を設定できます。

  > *この設定は、[棒] と[ひげ図] モードでは無効です。*

- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を軸の 0 に固定します。

  > *勝敗モードでは無効となります。*

- **共有 Y- 軸目盛**: 列の全てのセルに同じ Y 軸目盛を使用します。
- **リンク**: その他の設定はありません。

- **列の配置**: をクリックしてポップアップを開きます。
  - ポップアップには次の項目が含まれます:
    - ラベル: ラベルの配置を**左**、**中央** 、または**右**に設定します。
    - データ(数値): 水平ラベルの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**に設定します。
    - データ(テキスト): テキストデータの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え** に設定します。
- **ビジュアルキュー**: をクリックしてポップアップを開きます。
  - **ビジュアル キュー ポップアップ**:
    - **上限値**: 数値区間の上限値カテゴリに関する設定です。数値の上区間が始まる位置になる数値を編集ボックスに指定します。このボックスを空白のままにすると、上区間は定義されません。
    - **通常**: 通常の数値間隔値カテゴリの設定です。この区間は、上下の境界値にはさまれたすべての値として定義されます。デフォルトでは、すべての数値は標準区間内に含まれます。
    - **下限**: 数値区間の下限値カテゴリの設定です。数値の下区間が始まる位置になる数値を編集ボックスに指定します。このボックスを空白のままにすると、下区間は定義されません。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: 軸項目のセルの背景色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **テキストの色**: 軸項目のセルのテキストの色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別なチャート カラー関数のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。

- **テキスト書式**: 各軸セルについて、テーブル セル内のテキストのフォント スタイルを計算するための属性数式を定義します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。
    - **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
        - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
        - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
        - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
        - **整数**: 数値を整数で表示します。
        - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
        - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
        - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
        - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
        - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
        - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例 : 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
        - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
        - **有効桁数**: 表示される桁数です。
        - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
        - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
        - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
        - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
        - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。
- **詳細.../簡易...**: 隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

ピボット テーブルのプロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**ピボットテーブル**のプロパティについて説明します。

インデント モード

このチェック ボックスをオンにすると、ピボット テーブルの左の軸 (列) がインデント モードで表示されます。つまり、"Total (合計)" ラベルが軸の値に置き換わるため、軸と軸の間のインデントを小さいコンパクトな表示にできます。

第 1 軸のラベルのみを使用

この設定は、ピボット テーブルがインデント モードの場合のみ意味があります。このチェック ボックスをオンにすると、第 1 軸の軸ラベルがラベル行全体に表示されます。後続の軸の軸ラベルは表示されません。

常にすべて展開

このチェック ボックスをオンにすると、すべての軸が常に完全に展開され、展開/折りたたみ機能がオフになります。

グループ化アイコンを印刷しない

ピボット テーブルを印刷する際に、部分的に展開または折りたたみを行うための [+] アイコンと [-] アイコンが印刷されないようにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。

選択アイコンの表示

選択されている項目を含むテーブルの列に選択アイコン (ビーコン) を表示します。

欠損値セルを表示する

このチェック ボックスをオンにすると、クロス テーブルで、軸の組み合わせが見つからないことを示すセルが通常の null 値にマップされます。これにより、null 値があるかどうか、または適用される属性式やスタイル書式に関して、数式をテストできます。

合計の表示位置

ピボット テーブルで合計を表示するための設定です。

列の移動とピボットを許可する

このチェック ボックスをオフにすると、ドラッグ アンド ドロップによるピボットが無効になります。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

縮小/拡大なし: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。**全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。**縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。**縦横比を固定して全体**

を覆う: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。**水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。**垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。**透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

このセクションでは、**General** プロパティを含む **More.../Less...** プロパティについて説明します。

基本設定

このセクションでは、**全般** のプロパティについて説明します。

- スタイル: ドロップダウン リストから適切なスタイルを選択します。
- セルの罫線:  をクリックしてポップアップを開きます。
    - [セルの枠線の設定] ポップアップ
        - **垂直軸セルの罫線**: このチェック・ボックスの選択を解除すると、現在のスタイルの軸セルにあるすべての垂直セル罫線が削除されます。
        - **間隔の上の罫線**: このチェックボックスをオンにすると、軸の間隔行の前に、下部と同じ水平罫線が引かれます。さらに、間隔領域内のすべての垂直境界線が削除されます。
        - **数式セルの垂直境界線**: このチェックボックスをオフにすると、現在のスタイルの数式セルにあるすべての垂直境界線が削除されます。
- **0 値を隠す**: このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式から 0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **欠損値を隠す**: このチェック ボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- **選択インジケーター**: 選択項目を含むテーブル列に選択インジケーター (ビーコン) を表示します。
- **垂直ラベル**: 列タイトルを縦向きに表示します。
- **Null 記号**: ここに入力した記号は、テーブル内で NULL 値を表示するために使用されます。
- **欠損値記号**: ここに入力した記号は、テーブル内の欠損値を表示するために使用されます。
- **ヘッダーの折り返し**: ヘッダーの内容が2行以上に折り返されます。
- **セルのテキストを折り返す**: データセルの内容が 2行以上に折り返されます。
- **計算条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合、チャートに「計算条件が満たされていません」というテキストが表示されます。値は、計算式として入力できます。  をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **フォント**: フォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **キャプション フォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには  をクリックします。
- **アクティブ キャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。

- **非アクティブなキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには  をクリックします。テキストの色を設定するには  をクリックします。
- **枠線の使用**: シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角丸**:  をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  [角を丸くする]を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード]([ドキュメントプロパティ: 基本設定]内)が選択されている場合のみです。

  - **角丸ポップアップ**:
    - 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。
    - 値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロールバーの幅**: スクロールバーの幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。このコントロールは、スクロールバーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

ピボットテーブルのプロパティ: キャプション

このセクションでは、**ピボットテーブル**のプロパティについて説明します。

- **ラベル**: テキストボックスで、シートオブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル**を設定しない場合、**キャプションの表示**が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **キャプションの表示**: このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リストボックスなどの「ボックスオブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキストオブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは2行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

More.../Less... には、1つのプロパティ**Icons in Caption** があります。

Icon in Caption プロパティ

このセクションでは、**Icons in Caption** のプロパティについて説明します。

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。
- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェック ボックスをオンにします。

ピボット テーブルのプロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ**、**オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

12.38 ストレートテーブル - AJAX/Webview

ピボットテーブルとは異なり、ストレートテーブルは、小計を表示したり、クロステーブルとして動作することができません。しかし、列をソートしたり、各行に軸と数式の組み合わせを含めることができます。

ストレートテーブル: オブジェクト メニュー

シートオブジェクト上で右クリックするか、オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で ▾ アイコンをクリックすると、コンテンツ メニューとしてオブジェクト メニューが開きます。

メニューに含まれるコマンドは、QlikView ローカル クライアントで WebView を開いているか、Web ブラウザでドキュメントにアクセスして開いているかによって異なります。メニューには以下のコマンドがあります。

オブジェクト メニュー プロパティ

プロパティ	説明
プロパティ	アクティブなシート オブジェクトの **プロパティ**ダイアログが開きます。
ノート	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
すべての選択をクリア	アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
コピー	選択したシート オブジェクトをクリップボードにコピーします。この関数はデータや画像ではなく、シート オブジェクトのみをコピーします。
セルの値をクリップボードにコピー	選択されたセルの値をクリップボードにコピーします。
印刷	選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。
エクスポート	**名前を付けて保存** ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クイック切替	現在のチャートを別の種類のチャートに変更することができます。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  アイコンをクリックしても同じ結果になります。**[チャートのクイック切替]** が **[プロパティ]** ダイアログの **[キャプション]** タブで有効になっている場合にのみ利用できます。

プロパティ	説明
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で アイコンをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**[オブジェクトプロパティ]**ダイアログの**[キャプション]**ページで許可されている場合にのみ使用できます。
削除	選択されたオブジェクトをシートから削除します。

ストレートテーブルのプロパティ

[プロパティ]ダイアログを開くには、**[プロパティ]**を**[オブジェクト]**メニューから選択します。**[プロパティ]**コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がない可能性があります。

軸

ドロップダウンリストで軸を選択します。軸を追加するには をクリックします。ドロップダウンで軸を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

軸

- **有効条件**: このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの fx ボタンをクリックします。
- **軸**: 現在選択されている軸を表示します。
- **ラベル**: 軸のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
    - 値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして**[数式の編集]**ダイアログを開きます。
- **Null値の抑制**: このチェックボックスをオンにすると、値がNULLである場合、上記の**使用中の軸**で選択された項目はチャートに表示されません。
- **すべての値を表示**: 論理的に除外された値を含め、チャート内のすべての軸項目値を表示するには、このボックスを選択します。
- **ドロップダウン選択**: フィールド列でこのチェックボックスを選択すると、列ヘッダーの左側にドロップダウンアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、項目のすべての項目値を表示するリストボックスがテーブル上に開かれます。これで、項目がマルチボックスの行であるように選択と検索を行うことができます。
- **列の表示**: チェックボックスを有効にすると、列が表示されます。

- **条件付き**: チェックボックスをオンにすると、テーブルが描画されるたびに評価される条件式に基づいて、列を表示または非表示にします。条件が偽の場合にのみ、列が非表示になります。下のボックスに条件式を入力してください。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **列の配置**:  をクリックしてポップアップを開きます。
  - **列の配置ポップアップ**:
    - **ラベル**: ラベルの配置を**左**、**中央**、または**右**に設定します。
    - **データ(数値)**: 水平ラベルの配置を**左**、**中央**、または**右**に設定します。
    - **データ(テキスト)**: テキストデータの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**に設定します。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: 軸項目のセルの背景色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別な チャート カラー関数 のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **テキストの色**: 軸項目のセルのテキストの色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別な チャート カラー関数 のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **テキスト書式**: 各軸セルのテーブル セル内にあるテキストのフォント スタイルを計算するための属性数式を定義します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。

ソート

ここでは、シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。

複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。

- **最優先の並べ替え**:
  - **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。
  - **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  - **数値**: 項目値を数値順にソートします。
  - **テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。
  - **ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **セカンダリ ソート**: **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。

- **数式でソート**: 入力された数式に従って項目値をソートします。
    - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **選択項目を最前面に維持**: これを有効にすると、選択した項目が最前面に維持されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

- **表示のみ**:
  このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、[その他] セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。
    - **[最初]** オプションは、プロパティダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。つまり、列見出しをダブルクリックしてその列を第 1 軸ソートにすると、値の表示を変更できます。
    - **[最大]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
    - **[最小]** オプションは、チャートの最初の数式に基づいて昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。
    - 表示する値の数を入力します。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - **[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。
- **次の条件を満たす値のみを表示**:
    - このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。
    - 合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。
    - **[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。
        - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **次に累積する値のみ表示**
    - このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。
    - **[合計と比較]** オプションは、[プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。
    - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **「その他」の表示**:
  - このオプションを有効にすると、チャートに **[その他]** セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて **[その他]** セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。**[ラベル]** 項目で、チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  - 選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]** によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。
- **「合計」の表示**:
  - このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は [プロパティ] ダイアログの **[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。**ラベル**: チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
  - 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **グローバル グループ化 モードを使用する**: このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

数式

ドロップダウン リストから数式を選択します。軸を追加するには  をクリックします。ドロップダウンから数式を選択します。 アイコンでリスト内の項目を移動します。 アイコンでリストから項目を削除します。詳細については、**詳細** ボタンをクリックしてください。

数式

- **有効**: このチェック ボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
- **条件付き**: このチェック ボックスをオンにすると、編集ボックスの下にある fx ボタンをクリックして入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。
- **ラベル**: 数式のラベル。チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。
- **式**: 値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。現在選択されている式を削除します。
- **コメント**: 数式の目的と機能を説明するコメントを入力します。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **列を表示**: チェックボックスを選択すると、列が表示されます。
- **条件付き**: チェックボックスをオンにすると、テーブルが描画されるたびに評価される条件式に基づいて、列を表示または非表示にします。条件が偽の場合にのみ、列が非表示になります。下のボックスに条件式を入力してください。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **非表示**: 式を非表示にします。
- **パーセントで表示(相対)**: チャートの結果表示を絶対数ではなくパーセントにします。
- **意味**
  ドロップダウン リストでプレゼンテーションを選択します。選択したプレゼンテーションによって、表示される設定は異なります。
  - **テキスト**: その他の設定はありません
  - **画像**: ポップアップを開くには  をクリックします。
    - **画像の設定ポップアップ**:
      - **画像拡大/縮小**:**縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
        全体を覆う: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。
        縦横比を固定する: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
        縦横比を固定して全体を覆う: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
        画像がない場合にテキストを隠す: QlikView が画像参照として解釈できない場合は、テキストは表示されません。
      - **ゲージ**: ゲージの異なる代替値を設定します。
        - **ゲージの最小値**: ゲージの最小値を指定します。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
        - **ゲージの最大値**: ゲージの最大値を指定します。値は、計算式として入力できます。 をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
      - **ミニ チャート項目**: 数式を描画するための項目を選択します。ポップアップを開くには  をクリックします。
      - **ミニ チャートのモード設定ポップアップ**: ミニ チャートのモード設定ポップアップには、変更できるいくつかの設定があります。
      - **モード**: スパークライン、線、点、棒、またはひげ図としてミニ チャートを設定します。
      - **色**: [色] ダイアログを開きます。ここから、ミニ チャートを描画する色を設定できます。
      - **最大値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェック ボックスをオンにし、  をクリックします。最大値のための色を設定できます。
      - **最小値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェック ボックスをオンにし、  をクリックします。最小値のための色を設定できます。

        この設定は、[モード] が [折れ線] に設定されている場合にのみ有効です。

- **開始値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェックボックスをオンにし、 をクリックします。開始値のための色を設定できます。

  > *この設定は、[棒] と[ひげ図] モードでは無効です。*

- **終了値の色**: [色] ダイアログを開くには、このチェックボックスをオンにし、 をクリックします。終了値のための色を設定できます。

  > *この設定は、[棒] と[ひげ図] モードでは無効です。*

- **目盛の 0 設定**: チャートの下端を軸の 0 に固定します。

  > *勝敗モードでは無効となります。*

- **共有 Y- 軸目盛**: 列の全てのセルに同じ Y 軸目盛を使用します。
- **リンク**: その他の設定はありません。

- **列の配置**: をクリックしてポップアップを開きます。
  - 列の配置ポップアップ: **ラベル**は、ラベルの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**に設定します。
  - データ(数値): 水平ラベルの配置を**左**、**中央**、または**右**に設定します。
  - データ(テキスト): テキストデータの配置を**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**に設定します。
- **ビジュアルキュー**: をクリックしてポップアップを開きます。
  - [条件付き書式] ポップアップ
    - 上限: 数値区間値カテゴリの上限の設定。数値の上区間が始まる位置になる数値を編集ボックスに指定します。このボックスを空白のままにすると、上区間は定義されません。
    - 標準: 標準数値区間値カテゴリの設定です。この区間は、上下の境界値にはさまれたすべての値として定義されます。デフォルトでは、すべての数値は標準区間内に含まれます。
    - 下限: 数値間隔値カテゴリの下限の設定。数値の下区間が始まる位置になる数値を編集ボックスに指定します。このボックスを空白のままにすると、下区間は定義されません。
- **式の合計を使用**:

  数式の合計を使用するにはこのチェックボックスをオンにします。ポップアップを開くには をクリックします。

  [合計] ポップアップ

  合計モード

  ドロップダウンリストのオプションの 1 つを選択して、選択した数式の計算方法を決定します。

  合計なし

  数式の合計は計算されません。

数式の合計
項目のすべての値を使用して数式の合計が計算されます。たとえば、選択した列にビジネス カテゴリごとの平均給与が含まれる場合に、**[数式の合計]** オプションを選択すると、すべてのビジネス カテゴリの平均給与になります。

行の集計
選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレート テーブルの各行など) が、選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。編集ボックスに集計関数を入力します。

- **累積**:

  累積を使用するにはこのチェック ボックスをオンにします。ポップアップを開くには  をクリックします。

  - **累計ポップアップ**: オプションの 1 つを選択し、シート オブジェクトの値を累積するかどうかを決定します。
    - **累計**: 累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。
    - **累計なし**: 選択したチャート式の y 値は累積されません。
    - **全累計**: 各 y 値は、数式の前のすべての y 値を累積します。トレリス チャートを有効にした場合、すべて累積表示は機能しません。
    - **累積手順**: このボックスに数値を入力するかスライダーをドラッグして、数式の y 値の累積される回数を設定します。
- **属性式のスタイル**:
  - **背景色**: 軸項目のセルの背景色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別な チャート カラー関数 のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **テキストの色**: 軸項目のセルのテキストの色を計算する属性式を定義します。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。色表現は、通常、特別な チャート カラー関数 のいずれかを使用して作成します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、黒が使用されます。
  - **テキスト書式**: 各軸セルのテーブル セル内にあるテキストのフォント スタイルを計算するための属性数式を定義します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す '<B>'、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。

ソート

シート オブジェクトの値のソート順を設定します。シート オブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。
複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。**ステート**は論理状態 (選択値、連結値、または除外値) を参照します。

- **最優先の並べ替え**:
  - **Y 軸値**: Y- 軸の数値に基づいて軸の値をソートするかどうかを設定します。このオプションは計算軸には使用できません。
  - **レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  - **数値**: 項目値を数値順にソートします。

    - **テキスト**: 項目値をアルファベット順にソートします。
    - **ロード順** : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **セカンダリソート: レコード数**: 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる同時レコード数) でソートします。
  数値: 項目値を数値順にソートします。
  テキスト: 項目値をアルファベット順にソートします。
  ロード順 : 項目値を最初のロード順でソートします。
- **数式によるソート**:

数式によるソート
:
入力された数式によって項目値をソートします。
値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
選択項目を最前面に維持: これを有効にすると、選択した項目が最前面に維持されます。

- **数値書式タブ**: 各項目には、デフォルトの数値書式があり、[] ドキュメントプロパティ: 数値] ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。
    - **数値書式**: 以下のオプションから数値書式を選択します。
    - **既定**: 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
    - **数値**:**有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
    - **整数**: 数値を整数で表示します。
    - **桁数固定**:**小数点以下の桁数** ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
    - **通貨**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
    - **日付**: **[書式パターン]** 項目で設定した書式で日付として変換された値を表示します。
    - **時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で時刻として変換された値を表示します。
    - **日付と時刻**:**書式パターン** ボックスで設定した書式で日付+時刻として変換された値を表示します。
    - **時間間隔**: シーケンシャルな時間増分で時間を表示します。例 : 書式 = mm では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。
    - **書式パターン**: 項目の表示書式を詳細に指定する書式コード。**[ISO]** は、書式を ISO 標準に設定します。**[日付]**、**[時刻]**、**[日時]**、**[時間間隔]** でのみ有効です。**[Sys]** は、書式をシステム設定に設定します。
    - **有効桁数**: 表示される桁数です。
    - **小数点以下の桁数**: 表示される小数点以下の桁数を設定します。
    - **小数点の記号**: 小数点を示す記号を設定します。
    - **桁区切り**: 桁区切りを示す記号を設定します。
    - **パーセント表示**: 実数の代わりにパーセント形式で表示します。設定は、**[数値]**、**[整数]**、および **[実数]** でのみ使用できます。
    - **プレビュー**: 上で指定した数値書式に基づいてプレビューを表示します。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。アクティブな項目が **[軸]** または **[数式]** かによって表示されるタブは異なります。

ストレートテーブルのプロパティ: プレゼンテーション

このセクションでは、**ストレートテーブル**のプロパティについて説明します。

相互並べ替えを許可する

このチェックボックスをオフにすると、オブジェクトメニューの **[ソート]** コマンドが無効になります。

最大値

数値を入力するか、スライダをドラッグして表示する最大行数を設定します。合計を表示する行はカウントされませんが、合計はテーブルのすべての行を使用して計算されます。

ヘッダー行を隠す

このチェックボックスをオンにすると、ヘッダー(ラベル)行がないテーブルが表示されます。

ソートアイコンを表示する

このチェックボックスをオンにすると、現在の列のソート順の最上部にある列のヘッダーにソート表示灯アイコン(矢印)が表示されます。アイコンの向きは、列のソートが昇順か降順かを示します。

選択アイコンの表示

選択されている項目を含むテーブルの列に選択アイコン(ビーコン)を表示します。

合計の表示位置

ストレートテーブルで合計を表示するための設定です。

列の移動を許可する

このチェックボックスをオフにすると、列の移動が無効になります。

背景色

背景色を単色、またはグラデーションに設定します。 をクリックして色を選択してください。

背景画像

背景として画像を設定します。 アイコンをクリックして画像を参照します。 をクリックして **[画像の設定]** ポップアップを開きます。

[画像] ポップアップ

- **縮小/拡大なし**: 画像を縮小/拡大せずに表示します。画像を縮小/拡大せずに表示します。したがって、画像の一部が表示されない場合や、オブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。
- **全体を覆う**: 画像を、画像の縦横比を考慮せずに、オブジェクト領域全体を覆うように拡大します。

- **縦横比を固定する**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体をできるだけ広く覆うように拡大します。
- **縦横比を固定して全体を覆う**: 画像を、縦横比を維持したまま、オブジェクト領域全体を両方向とも覆うように拡大します。
- **水平**: **[左]**、**[中央]**、または **[右]** 揃え。
- **垂直**: **[上]**、**[中央]**、または **[下]** 揃え。
- **透過性**: 値を入力、またはスライダーをドラッグして透過性レベルを設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。

詳細/簡略

隠された補助タブを展開/折りたたみするには、このボタンをクリックします。

基本設定

- **スタイル**: ドロップダウンリストから適切なスタイルを選択します。
- **ストライプの間隔**: 行に網掛けのストライプを表示するかどうか、および何行間隔で表示するかを指定します。
- **セルの罫線**: をクリックしてポップアップを開きます。
    - **セル罫線設定ポップアップ**:
        - **垂直軸セルの境界線**: このチェックボックスの選択を解除すると、現在のスタイルの軸セルにあるすべての垂直セル境界線が削除されます。
        - **数式セルの垂直境界線**: このチェックボックスの選択を解除すると、現在のスタイルの数式セルにあるすべての垂直セル境界線が削除されます。
        - 間隔の上の罫線: このチェックボックスをオンにすると、軸の間隔行の前に、下の行と同じ水平罫線が表示されます。また、行間の領域内では、すべての縦の罫線は削除されます。
- **0 値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から0 または NULL を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **欠損値を隠す**: このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで NULL 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- **水平ラベル**: このチェックボックスをオンにすると、ストレートテーブルが 90 度転置して表示され、ラベルが左側の列になり、各テーブルレコードがデータの列になります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **縦向きラベル**: 列のタイトルを縦向きに表示します。
- **NULL記号**: ここに入力した記号は、テーブル内でNULL値を表示するために使用されます。
- **欠損値記号**: ここに入力した記号は、テーブル内の欠損値を表示するために使用されます。
- **ヘッダーの折り返し**: ヘッダーの内容が2行以上に折り返されます。
- **セルのテキストを折り返す**: このチェックボックスをオンにすると、データセルの内容が2行以上に折り返されます。

- **計算条件**: ここに入力された数式には、チャートが計算されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合、テキスト「計算条件が満たされていません」がチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。 fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

スタイル

- **フォント**: フォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **キャプション フォント**: キャプションのフォントの種類を設定するには Aa をクリックします。
- **アクティブ キャプション**: アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには A をクリックします。
- **非アクティブなキャプション**: 非アクティブ時のキャプションの背景色を設定するには をクリックします。テキストの色を設定するには A をクリックします。
- **枠線の使用**: シート オブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。枠線の色を設定するには、 をクリックします。
- **枠線の幅**: 枠線の幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。幅は、ピクセル単位で指定します。
- **角丸**: をクリックして **[角を丸くする]** ポップアップを開きます。

  > *[角を丸くする] を使用できるのは、[詳細設定]、[スタイルのモード] ([ドキュメント プロパティ: 基本設定] 内) が選択されている場合のみです。*

  - [角を丸くする] ポップアップ: 角の丸みには **[固定]** または **[相対値]** を選択し、丸くしたい角を選択します。また、値を入力して **[鋭度]** を選択します。
- **スクロール バーの幅**: スクロール バーの幅を設定するには、値を指定するかスライダーをドラッグします。このコントロールは、スクロール バーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。

ストレート テーブルのプロパティ: キャプション

このセクションでは、**ストレート テーブル**のプロパティについて説明します。

- **ラベル**: テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。**ラベル** を設定しない場合、**キャプションの表示** が選択されていると、項目の名前が使用されます。
  値は、計算式として入力できます。

  fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

- **キャプションの表示**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印 オブジェクトはオフになっています。
- **キャプションの配置**: 左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。

- **複数行のキャプション(文章の折り返し)**: このオプションを選択した場合、テキストは 2 行以上で表示されます。
- **行数**: キャプションで複数行がオンの場合に、入力項目で行数を指定、またはスライダを希望する数値までドラッグします。
- **キャプションの配置**: 上揃え、中央揃え、または下揃えに配置できます。

詳細/簡略

このセクションは、**[詳細/簡略]** プロパティについて説明しています。

キャプション アイコン

- **メニュー**: オブジェクト メニューを開きます。
- **クリア**: アクティブなリスト ボックスの現在の選択をすべてクリアします。
- **印刷**: 選択したシート オブジェクトを別のブラウザ ウィンドウに表形式で開きます。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **データのコピー**: シート オブジェクトの項目値をコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **画像をクリップボードにコピー**: シート オブジェクトを画像としてクリップボードにコピーします。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **Excel にエクスポート**: 絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピューターに Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。この設定はすべてのクライアントに有効という訳ではありませんのでご注意ください。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。
- **自動最小化**: このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1 つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。
- **最小化を許可する**: このチェック ボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブル クリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブル クリックするとオブジェクトは最小化されます。
- **ヘルプ テキスト**: ここには、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。このオプションはドキュメント レベルでは使用できません。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
  シート オブジェクトの説明などを入力できます。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。
- **クイック切替**: ここではチャートの種類の切り替えを有効にできます。チャートの種類によっては、このオプションは無効です。ポップアップを開くには  をクリックします。

- **クイック切替の設定ポップアップ**: クイック切替を使用して切り替えたいチャートの種類のチェックボックスをオンにします。

ストレートテーブル プロパティ: オプション

オプション

オプションはすべてのオブジェクトで使用できるわけではありません。

- **読み取り専用**: チャートを読み取り専用にします。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。
- **移動/サイズ変更を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。
- **コピー/複製を許可する**: このチェックボックスをオフにすると、シートオブジェクトのコピーを作成できなくなります。すべてのクライアントでこの設定を処理できるとは限りません。
- **オブジェクトのサイズをデータに合わせる**: 通常、選択によってテーブルのサイズがシートオブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブル シートオブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。
- **INFO アイコンをキャプションに表示する**: Info 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に INFO アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、入力ボックスでのみ利用できます。
- **スクロール バーの位置を保持する**: このチェックボックスおよび **ユーザー プロパティ、オブジェクト** ダイアログにある付随するチェックボックスをオンにすると、テーブル オブジェクトで選択されたときに、QlikView が垂直スクロールの位置を保持します。
- **条件付き表示の使用**: シートオブジェクトは、選択などで断続的に評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。シートオブジェクトは、その条件が **false** を返す場合にのみ非表示になります。値は、計算式として入力できます。fx をクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。
- **標準**: シートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **最小化**: 最小化されたシートオブジェクトの **左**、**上**、**幅**、**高さ** を設定し、その位置を指定します。
- **詳細/簡略**: 次のオプションを使用できます。
    - **所有者**: 所有者のドメインとユーザーID。
    - **オブジェクトの共有**: 他のユーザーとのオブジェクトの共有を有効にします。この選択を有効にすると、以下の設定が有効になります。
    - **共有先**:**[共有する]** か **[ユーザーを指定して共有する]** のいずれかを選択します。
    - **ユーザー (Domain\UserID)**:**[ユーザーを指定して共有する]** を選択すると、追加されたユーザーのリストが表示されます。

      ユーザーを追加するには  をクリックします。行が追加されますのでその行を強調表示してロックを解除し、ユーザー情報を編集します。ユーザーを削除するには、削除する各ユーザーの後ろにある  をクリックします。

13 よくある質問

13.1 インストール

Q: QlikView をインストールするために必要なものは何ですか?

詳細については、QlikView のオンライン ヘルプを参照してください。

13.2 QlikView ドキュメント

Q: 必要な RAM はどれくらいですか? 必要な RAM をデータ容量から見積もる簡単な方法はありますか?

A: いいえ。必要な RAM はデータ構造とデータの種類によって異なります。データ行が増え、各レコードが大きくなると(項目の数が増えると)、必要な RAM も増えます。項目にユニーク値の数が増えると、ユニーク値の数が少ない場合より必要な RAM は増えます。計算時に RAM を多く必要とするチャートもあります。

Q: QlikView ではドキュメント サイズに論理的な制限がありますか?

A: この制限をレコード数に換算することはできません (上の質問を参照)。通常、スクリプトの実行時には、レイアウトの作業時と比較して 3 ~ 4 倍のメモリを使用します。

Q: 2 GB の RAM がありますが、1 GB のドキュメントを開こうとすると、"メモリ不足" というエラー メッセージが表示されます。何がいけないですか?

A: QlikView ドキュメント内の各テーブルには、連続したメモリを割り当てる必要があります。ロードされた dll などによってメモリが断片化すると、メモリの割り当てに失敗し、修正を求めるエラー メッセージが表示されます。この動作は、コンピュータによって異なります。

Q: QlikView で実際のユーザーはどれくらいの大きさのドキュメントを実行できますか?

A: 512 MB 程度の RAM を備えた標準的な PC で実行される場合、QlikView は標準的なトランザクション データを数百万行処理できます。このマニュアルの作成時点 (この情報は 7 年前の 2008 年 5 月のものです) では、QlikView を数ギガバイトの RAM を搭載した大型サーバーで実行する場合、最大 10 億行 (集計なしの完全なトランザクション明細レベル) をカスタマ アプリケーションで処理できます。

13.3 スクリプトとデータのロード

Q: QlikView スクリプトで複数の Binary ステートメントを使用できますか?

A: いいえ、残念ですが使用できません。バイナリロードは、非常に特殊なロジックを使用して既に一度処理されてQlikViewに格納されているデータを他のQlikViewドキュメントに読み取ります。使用される"解凍"では、メモリを"白紙に戻す"必要があるため、Binaryステートメントはスクリプト内の最初のステートメントでなくてはなりません。そのため、スクリプトで2回以上Binaryを使用することはできません。ただし、QVDファイルを使用して、Binaryと同じ速度で複数のQlikViewドキュメントからデータを取得して統合できます。

Q: 自動結合の必要条件は、項目名が同じであることだけですか?

A: はい。このような結合を関連付けと言います。

Q: 項目名が異なる2つの項目を自動結合できますか?

A: はい。ただし、スクリプト内でALIASステートメントまたはAS句を使用して、いずれかの項目を名前変更する必要があります。

項目名の変更 (page 171)

Q: テキストファイルで、Where句、Group by句などのSQL風の構文を使用できますか?

A: QlikViewは、SQL構文の大部分と他の機能を含む豊富なスクリプト言語をテキストファイルに提供します。

Q: バイナリのQlikViewファイルで、Where句、Group by句などのSQL風の構文を使用できますか?

A: いいえ。

Q: 内部テーブル間の関連付けと、join修飾子が前に置かれたloadまたはselectステートメントと、selectステートメント内のjoinの違いは何ですか?

A: 関連付けは、ドキュメント内の項目値をクリックした場合に評価される内部テーブル間の結合です。QlikViewは、異なるテーブルに共通する項目があった場合に自動的にこの関連付けを作成します。残りの2つの結合は、スクリプトの実行中に作成され、新しい論理テーブルが作成されます。このような場合、元のテーブルは論理テーブルとしてロードされません。

さらに、selectステートメント内のjoinでは、通常はキー項目が両方のテーブルにあるレコードのみ (内部結合) をロードします。前の2つでは、いずれかのテーブルにキー項目があるレコードも含まれます (完全なouter join)。

Q: 固定レコードのテキストファイルからデータをロードするにはどうすればよいですか?

A: QlikViewのテーブル ファイル ウィザードを使用します。

ファイル ウイザード: タイプ (page 101) また、*ファイル ウイザード: 種類 - 固定長レコード (page 102)*

Q: 変更されたデータのみをロードして QlikView ドキュメントを更新できますか?

A: はい。増分リロードを使用します。

QVD ファイル (page 185)

Q: ウェブページから QlikView にテーブルを読み取れますか?

A: はい。HTML でテーブルとしてコーディングされている場合は、テーブル ファイル ウィザードでテーブルを抽出できます。HTML ページに正確な書式のテーブル タグがない場合でも、通常は subfield および textbetween スクリプト関数を使用してデータを抽出できます。

ファイル ウイザード: タイプ: HTML (page 104)

13.4 QlikView ロジック

Q: 特定のリスト ボックスでレコード数を表示できないのはなぜですか?

A: このような問題が発生するリスト ボックスには、複数の内部テーブルに共通する項目が含まれます。そのため、QlikView には、項目のレコード数などの統計対象を計算する方法がわかりません。この問題を解決するには、メインのテーブルから新しい名前で項目をもう一度ロードし (レコード数を表示するため)、リスト ボックス内に項目のレコード数を表示します。ラベル機能を使用すると、エンド ユーザーにはこの仕組みがわかりません。

Q: 統計ボックスに n/a だけがたくさん表示されるのはなぜですか?

A: A: その統計ボックスには、複数の内部テーブルに共通する項目が含まれます。前の質問の回答を参考にしてください。

Q: チャート内の数式の特定の項目を使用できないのはなぜですか?

A: その項目は複数の内部テーブルに共通しています。前の 2 つの質問の回答を参照してください。

Q: 統計ボックスにユニーク値の数を表示するにはどうすればよいですか?

A: load / select ステートメントで distinct 句を使用します。

Q: [リスト ボックス プロパティ] ダイアログの AND モード オプションは、どのような場合に有効になりますか?

A: AND モード オプションは、QlikView ロジックの理論に従った非常に厳密な条件下でのみ使用できます。AND モードを有効にするには、項目が次の条件を満たす必要があります。

- 1 つの内部テーブルにのみ存在する
- 2 つの項目のみを持つテーブルの 2 つ目の項目である

- 重複したレコードが存在しない。
- distinct 修飾子で始まる必要がある。

Q: リスト ボックス内の値の選択に AND とOR のロジックを混在できますか?

A: いいえ。QlikView ロジックでは禁止されています。

Q: リスト ボックス間で OR ロジックを使用できますか?

A: 間接的にのみ使用できます。高度な代替案は、セマンティック リンクを使用してリスト ボックス内の選択を他の項目に変換することです。次に、元のボックスの選択を変更し、Ctrl を押しながらセマンティック リンクをクリックして、2 つの選択間の OR を実現します。最終的な結果は、セマンティック リンクを逆にすると変換できます。

Q: 複数の info ファイルを画像やテキスト ファイルなどの 1 つの値にリンクできますか?

A: はい。ただし、項目の重複が使用される場合のみです。QlikView の各項目は、1 つの info ファイルにのみリンクできます。

Q: たとえば、"002"、"02"、"2" が同じ値として解釈される場合があるのはなぜですか?

A: QlikView ではこの例のすべての値は同じ数値となります。原則として、QlikView はすべてのデータを数値変換します。数値変換が可能な場合は、その数値が関連付けに使用されます。ただし、スクリプト内で項目に変換関数 text() を使用すると、値は厳密なテキスト値として扱われます。その場合、上の例の値は、異なる 3 つの値に変換されます。

Q: "ループ" または循環テーブル構造とは何ですか?

A: 項目の関連付けがテーブル構造間で永遠に終わらない循環になる場合は、ループと呼ばれます。この現象を説明するもう1 つの方法は、2 つの項目間に、テーブル構造を経由する複数の異なるルートがあるということです。データの解釈方法があいまいになるため、可能な限りループを避ける必要があります。ほとんどの場合、ループはデータベース設計が適切でなかった結果として生じますが、避けられない場合もあります。QlikView は、スクリプトの実行中にループが発見された場合は警告を表示し、疎結合テーブルを使用して問題を解決するように求めます。

循環参照の把握 (page 167)

13.5 レイアウト

Q: キャプションがないシート オブジェクトを上端でサイズ変更できないのはなぜですか?

A: シート オブジェクトのキャプションをオフにした場合、上枠線はシート オブジェクトの移動に使用されます。シート オブジェクトの上端角を代わりに使用してサイズ変更を行います。

Q: 枠線をドラッグしようとしてもテーブルを右に広げられないのはなぜですか?

A: テーブルの右枠線では、2 つの操作が行えます。テーブルの枠線をドラッグする場合は、テーブル内に表示できる外側の境界がサイズ変更されます。ただし、テーブル内のすべての列の幅の合計より外側フレームを大きくすることはできません。一番右の列をサイズ変更するには、外側の枠線のすぐ左にカーソルを置きます。外側フレームが列の中間に位置しないようにしてください。その場合は、スクロール バーを使用して、列の右枠線を外側フレーム上に置きます。シート オブジェクトの実際の外側フレームを確認するには、デザイン グリッドを使用します。

Q: QlikView ドキュメントのシート オブジェクト内の項目の名前を変更できますか?

A: はい。各シート オブジェクト内の各項目のラベルを設定できます。

Q: 最小化できるシート オブジェクトはどれですか?

A: すべての種類のシート オブジェクトを最小化できます。ただし、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトなどのシート オブジェクトは、このオプションがデフォルトでオフになっています。

Q: シート上で最小化されたオブジェクトを移動できますか?

A: い。シート上の任意の場所に自由に移動でき、一定の制限内でサイズ変更もできます。

13.6 他のユーザーとの QlikView ドキュメントの共有

Q: Q: 自分の QlikView ドキュメントをサーバーに置き、他のユーザーと共有できますか?

A: はい。登録されている QlikView ライセンスを所有する受信者がそのサーバー ディレクトリにアクセスする場合は可能です。

Q: QlikView を実際のクライアント/サーバー モードで使用できますか?

A: はい。QlikView Server が必要です。

Q: 自分のドキュメントへのリンクをウェブ ページに置き、他のユーザーにネットからアクセスしてもらうことはできますか?

A: はい。登録されている QlikView ライセンスを所有する受信者がそのウェブ ページにアクセスする場合は可能です。

Q: 自分のドキュメントを他のユーザーにメールで送信できますか?

A: はい。受信者が登録されている QlikView ライセンスを所有している場合は可能です。

Q: 自分のドキュメントを特定のユーザーが使用できないようにすることはできますか?

A: [セクション アクセス] を使用して、ドキュメントを使用できるユーザーを定義できます。

Section (page 943) また、*アクセス制限 テーブル ウィザード (page 99)*

Q: 他のユーザーがスクリプトを表示や変更できないようにすることはできますか?

A: はい。"セクション アクセス" では、一部のユーザーに ADMIN アクセス レベルを与え、他のユーザーには USER アクセス レベルを与えてスクリプトを隠すことができます。

セキュリティ (page 1549)

Q: アクセス権の情報はどこに保存するのですか?

A: 情報は保護されている装置上にテキスト ファイルとして、または、データベースのテーブルとして保存されます。ロード スクリプトに inline ステートメントとして保存することも可能です。

インライン データ ウィザード (page 98)

Q: 多人数のユーザー グループ向けに各個人用のコピーを自動的に作成できますか?

A: はい。QlikView Server の拡張モジュール機能である QlikView Publisher が必要です。